

IBM z/VSE
バージョン 6 リリース 2



メッセージおよびコード
第 1 巻

IBM z/VSE
バージョン 6 リリース 2



メッセージおよびコード
第 1 巻

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、663 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM z/Virtual Storage Extended (z/VSE) バージョン 6 リリース 2 (プログラム番号 5686-VS6) および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本書は、SC43-2940-00 の改訂版です。

資料のご注文方法については、<http://www.ibm.com/jp/manuals> の「ご注文について」をご覧ください。(URL は、変更になる場合があります)

また、FAX により、またはインターネット経由で送付することもできます。

Internet: s390id@de.ibm.com

FAX (Germany): 07031-16-3456

FAX (other countries): (+49)+7031-16-3456

なお、お寄せいただいたご意見は、弊社にて随時利用させていただきますので、ご承諾のうえご記入くださいますようお願い申し上げます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC34-2682-01

IBM z/VSE

Version 6 Release 2

Messages and Codes

Volume 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1984, 2017.

目次

本書について	vii
本書の編成	vii
関連資料	vii
メッセージの形式	viii
処置標識	ix
タイプ/オペレーター処置コード	ix
メッセージ・テキスト構文	x
メッセージを受け取った場合	xi
オンライン・メッセージ記述	xi
変更の要約	xiii
第 1 章 接頭部 0 の z/VSE メッセージ . 1	
03xx=アクセス制御 - ログイン・メッセージ	1
0Cxx=チェックポイント・メッセージ	1
0Dxx=DOC メッセージ	4
0Exx=緊急メッセージ	10
0Exx メッセージに関するオペレーターの応答	10
0Ixx および 0Jxx=IPL メッセージ	12
0Pxx=PIOCS メッセージ	41
0Pxxx オペレーターおよびシステム情報	41
0Rxx= 再始動メッセージ	62
0Sxx=EOJ メッセージ	66
0Txx=MCAR/CCH メッセージ	102
0Vxx=EOJ メッセージ	108
0Wxx= サービス・プロセッサ関連メッセージ	110
第 2 章 接頭部 1 の z/VSE メッセージ 113	
エラー・フィールド標識のフィールド・カウント	113
1Axx= 割り当てルーチン・メッセージ	113
1Bxx= バッファオーバーロード・メッセージ	118
1Cxx= ジョブ開始および終了メッセージ	122
1Dxx および 1Exx= ライブラリー定義メッセージ	124
1Fxx= 条件付きジョブ制御メッセージ	128
1Hxx= CACHE メッセージ	131
1Ixx= アテンション・ルーチン・メッセージ	133
1Jxx ハードウェア暗号メッセージ	142
1Kxx= 並列アクセス・ボリュームのメッセージ	148
1Lxx= ラベル・エラー・メッセージ	148
1Mxx および 1Nxx= カタログ式プロシージャ・メッセージ	151
1Pxx= アテンション・ルーチン・メッセージ	155
1Qxx=VSE/POWER メッセージ	157
1Rxx=VSE/POWER メッセージ	244
1Sxx, 1Txx, および 1Uxx = ジョブ制御メッセージ	292
1Vxx=VSE/POWER メッセージ	306
1Yxx= 一般 JCL/ アテンション・ルーチン・メッセージ	312

第 3 章 接頭部 2 の z/VSE メッセージ 335	
21xx メッセージに関する一般的な説明	335
21xx= リンケージ・エディター・メッセージ	335
第 4 章 接頭部 3 の z/VSE メッセージ 349	
第 5 章 接頭部 4 の z/VSE メッセージ 351	
40xx= 再試行メッセージ	351
41xx= テープ処理メッセージ	351
42xx/49xx= アクセス方式メッセージ	360
4nxx メッセージの概説	360
4Axx= VSE/VSAM メッセージ	384
4Cxx=SDAID メッセージ	389
4Dxx=PARSER メッセージ	396
4Exx= テープ・エラー統計メッセージ	399
4Fxx= ハードコピー・ファイル検索メッセージ	400
4Gxx = DOSVSDMP、独立型ダンプ、 IJBXDEBUG、および IJBXSDA メッセージ	401
4Hxxx= 印刷装置入出力メッセージ	408
4Ixxx= 対話式トレース・プログラム・メッセージ	409
4Jxy=IJBPCPYEX メッセージ (TS7700 COPY EXPORT 機能向けのユーティリティ)	413
4Vxx=VTOC 表示/ダンプ・メッセージ	414
第 6 章 接頭部 8 のシステム・ユーテ ィリティー・メッセージ 417	
86xx= テープの初期設定メッセージ	417
8Cxx= トレーン・クリーニング・メッセージ	417
8Fxx = 高速ディスク・コピーと VSE/ 高速デー タ・セット・コピー・メッセージ	418
8Mxx = ファイル・コピーおよびオブジェクト・モ ジュール保守メッセージ	426
8Vxx=VTOC 表示メッセージ	431
8Xxx= 共通ユーティリティ・メッセージ	432
第 7 章 接頭部 A の ESERV メッセー ジ 439	
第 8 章 AOM - 非同期オペレーター・ メッセージ 441	
AOMAPxxI = テープ・ライブラリーのオペレータ ー・メッセージ	441
AOMCRxxI = テープ・ライブラリー関連のコマン ド・リジェクト・メッセージ	443
AOMDRxxI = テープ・ライブラリー・サポート - 遅延応答メッセージ	445
AOMDRxxI = DASD (FlashCopy) 遅延応答メッセ ージ	448
AOMFIxxI = テープ・ライブラリー関連の機能非 互換メッセージ	450

AOMIOxxI = テープ・ライブラリー入出力コマンドの入出力関連エラー・メッセージ	452
AOMOSxxI = DASD (FlashCopy) スペース不足メッセージ	452
AOMUCxxI = テープ・ライブラリー関連のエラー・コード - 装置チェック	453
AOMUSxxI = テープ・ライブラリー LBSERV インターフェースのユーザー指定エラー	456
AOMWRxxI = テープ・ライブラリー LBSERV インターフェースの警告メッセージ	457

第 9 章 接頭部 ARX の z/VSE 用 REXX メッセージ 459

第 10 章 接頭部 ASMA の高水準アセンブラー・メッセージ 487

メッセージ・コード形式	487
メッセージ記述	488
メッセージ番号とテキスト	488
メッセージの説明	489
補足情報	489
システムの処置	489
プログラマーの応答	489
重大度コード	489
アセンブリ・エラー診断メッセージ	490
不明のメッセージ	491
メッセージ	491
異常アセンブリ終了メッセージ	525

第 11 章 接頭部 BLN の情報分析メッセージ 531

BLNxxxx= 情報分析メッセージ 531

第 12 章 接頭部 BLX の情報分析メッセージ 545

BLXxxxxx= 情報分析メッセージ 545

BLX 異常終了完了コード 549

323 (10 進数 803)	549
324 (10 進数 804)	550
325 (10 進数 805)	550
328 (10 進数 808)	550
32D (10 進数 813)	551
32D (10 進数 821)	551
348 (10 進数 840)	551
34F (10 進数 847)	552
350 (10 進数 848)	552
352 (10 進数 850)	552
353 (10 進数 851)	553
358 (10 進数 856)	553
35C (10 進数 860)	553
378 (10 進数 888)	553
379 (10 進数 889)	554
37A (10 進数 890)	555
37D (10 進数 893)	555
37F (10 進数 895)	555

380 (10 進数 896)	556
381 (10 進数 897)	556
382 (10 進数 898)	556
383 (10 進数 899)	557
3E8 (10 進数 1000)	558

第 13 章 接頭部 BSS の共通セキュリティ機能メッセージ 559

第 14 章 接頭部 BSSD の BSSDCERT メッセージ 563

第 15 章 接頭部 BSST のユーザー認証 - TCP/IP 用のアクセス制御 567

第 16 章 接頭部 BST の基本セキュリティ・マネージャー・メッセージ . . . 571

第 17 章 VSE 拡張機能コードおよび SVC エラー 587

VSE 拡張機能待ちコード 587

現 PSW のアドレス部にある待ちコード	587
SDAID 装置エラー・コード	595
VSE 拡張機能取り消しコード	595
OS/390 API 異常終了コード	597
フィールド SVUABINF に入れて AB 出口に渡されるエラー情報 (マクロ MAPSAVAR を参照)	618
VSE 拡張機能戻りコード	619
システム機能戻りコード	619
共通 VTOC ハンドラー (CVH) 戻りコード	633
アクセス制御戻りコード	635
OS/390 API 戻りコード	636
基本セキュリティ・マネージャー (BSM) 戻りコード	639
RACROUTE REQUEST=AUDIT	639
RACROUTE REQUEST=AUTH	639
RACROUTE REQUEST=DEFINE	640
RACROUTE REQUEST=DIRAUTH	641
RACROUTE REQUEST=EXTRACT	641
RACROUTE REQUEST=FASTAUTH	642
RACROUTE REQUEST=LIST	643
RACROUTE REQUEST=SIGNON	644
RACROUTE REQUEST=STAT	644
RACROUTE REQUEST=TOKENBLD	645
RACROUTE REQUEST=TOKENMAP	645
RACROUTE REQUEST=TOKENXTR	646
RACROUTE REQUEST=VERIFY	646
RACROUTE REQUEST=VERIFYX	647
SVC エラー	648

第 18 章 z/VSE 対話式インターフェースのコード 653

異常終了コード 653

エラー・コード 655

特記事項 **663**
プログラミング・インターフェース情報 665
商標 665
製品資料に関するご使用条件 665

アクセシビリティ **667**
支援機能の使用 667
資料の形式 667

本書について

本書は、IBM® z/VSE パッケージとそのコンポーネント・ライセンス・プログラムから発行されるメッセージ (およびコード) を解説したものです。本書では、受け取ったメッセージ (コード) に応答するときに処置が必要であるとする、どのような処置をとるべきかについて解説しています。

メッセージおよびコードの解説は、接頭部ごとにトピックに分かれています。各トピックは、接頭部の数字およびアルファベット順に構成されています。

本書の編成

本書は 3 巻で構成され、以下のように分類されています。

表 1. z/VSE メッセージおよびコード

ボリューム	接頭部
IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻	接頭部 0- から 8- および A- から BSTxxxx のメッセージ、VSE/ 拡張機能コードと SVC エラー、z/VSE 対話式インターフェース・コード
IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻	接頭部 DIT- から VMCF- のメッセージ、VSE/VSAM 戻りコードとエラー・コード
IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 3 巻	DFHxxxxnnn メッセージ (CICS® Transaction Server メッセージ)、CICS Transaction Server 異常終了コード

本書に使用できるバインダーは 3 つあります。これらのバインダーは、引き続き資料番号 SX33-9020 を使用してご注文いただけます。

関連資料

本書では、必要に応じて他の資料を参照しています。

z/VSE ホーム・ページ

z/VSE は、WWW 上にホーム・ページがあります。ホーム・ページでは、VSE 関連プロダクトやサービス、z/VSE の新機能、およびその他の VSE ユーザーにとって興味深い項目に関する最新情報が記載されています。

z/VSE ホーム・ページは、次のアドレスで見ることができます。

<http://www.ibm.com/systems/z/os/zvse/>

次のサイトで VSE ユーザーの例 (ZIP 形式) を検索することもできます。

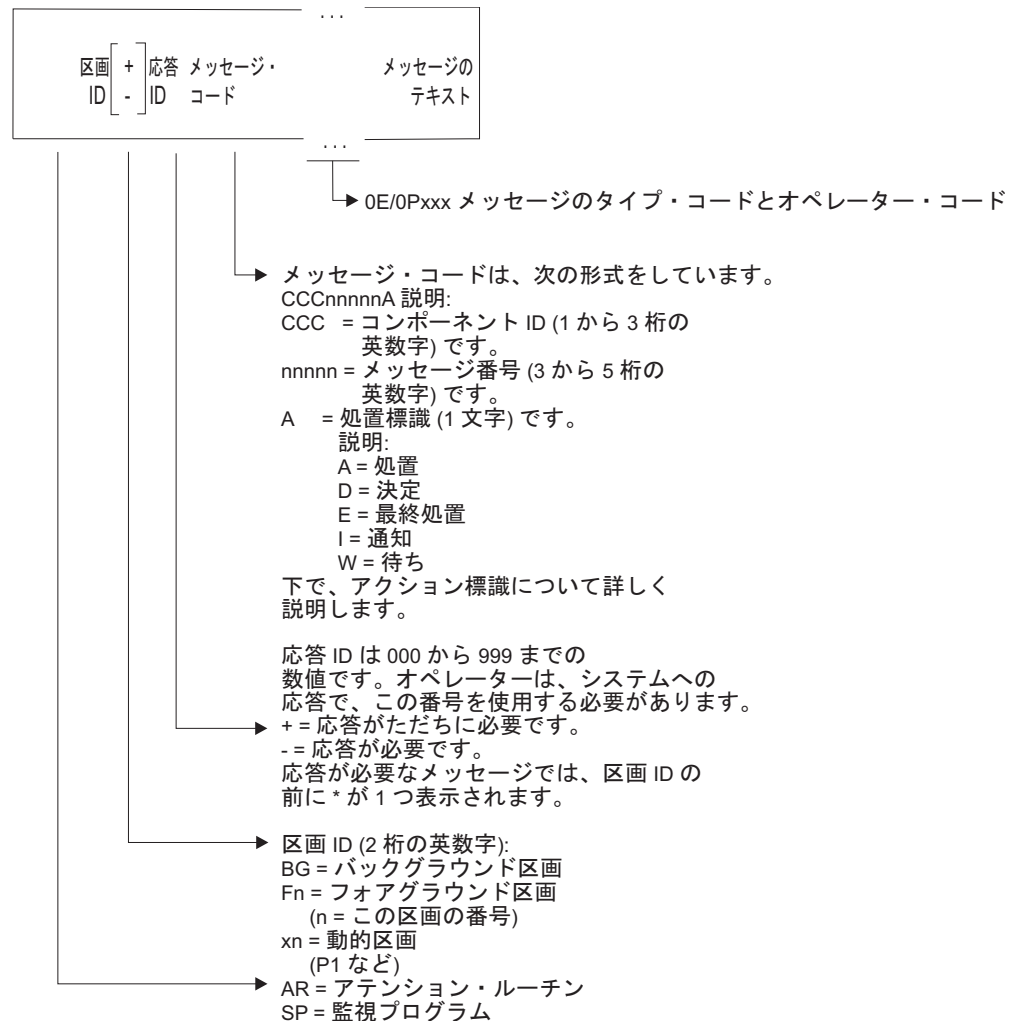
<http://www.ibm.com/systems/z/os/zvse/downloads/samples.html>

z/VSE Knowledge Center

IBM Knowledge Center は IBM の技術情報の新しいホーム・ページです。z/VSE の資料も IBM Knowledge Center に含まれており、http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSB27H/zvse_welcome.html から見つけることができます。

メッセージの形式

各メッセージは、区画 ID、応答 ID、メッセージ・コード、およびメッセージ・テキストから成っています。一般形式を以下に示します。



例えば、次のようなメッセージが出されたとします。

F1 010 1V17A LST2 SUSPENDED FOR FORMS MOUNT

これは、次のように解釈できます。

F1 前景 **1** の区画で実行されているプログラムがこのメッセージを出したことを示します。

010 オペレーターの応答の応答 ID です。

1V **VSE/POWER** がこのメッセージを出したことを示します。

- 17 メッセージ番号です。
A オペレーターの応答が必要なことを示します。

LST2 SUSPENDED FOR FORMS MOUNT

メッセージ・テキストです。

上記の例では、オペレーターはリスト書き込み機能 LST2 を再始動するか、あるいは終了することで応答できます。

処置標識

処置標識は、必要な処置のタイプを指定するもので、以下のいずれかです。

処置標識

意味

A = 処置 :

オペレーターは続行する前に、例えば、磁気テープを取り付けたり、入出力装置の用意をするなどの処置を行う必要があります。

D = 決定 :

オペレーターは続行する前に、論理決定を行う必要があります。

E = 最終処置 :

オペレーターは即時に何かを行う必要はありませんが、最終的には行う必要があります。

I = 通知 :

このようなメッセージは、(即時の) 応答を必要としません。これは、例えば、検出された条件あるいはジョブの完了についてオペレーターに通知します。しかし、ある特定の条件は、ジョブを正常に実行するため、あるいはシステムを再度完全に使用できるようにするために、訂正または除去する必要があります。多くの場合、それはオペレーターの仕事ではなく、システム・プログラマーまたはジョブの担当者の仕事です。

W = 待機 :

ハードウェアまたはシステムの誤動作のため、システムは待ち状態に入っています。例えば、ハードウェア障害が生じた場合、IPL を介してシステムを再始動する前に、オペレーターはハードウェア・スイッチを設定するか、またはエラー・リカバリー・プログラムを実行する (あるいはその両方を行う) 必要がある場合もあります。

処置標識 A および D の場合、メッセージを出したプログラムは、通常は、オペレーターが応答を入力するまで、あるいは装置を作動可能にするなどの処置を行うまで待機します。

タイプ/オペレーター処置コード

一部のカテゴリーの監視プログラム・メッセージには、『t』 (タイプ) と『o』 (オペレーター処置コード) が示されます。次のような形式のメッセージの場合 :

cccc t o (メッセージ・テキスト)

そのようなメッセージの「t」および「o」の意味については、「cccc」メッセージ・セクションの最初の部分を参照してください。

メッセージ・テキスト構文

一部のメッセージ・テキストには、大括弧([])、中括弧({ })、または垂直バー(|)などのメタ・タグが含まれています。

これらのメタ・タグは以下のように読み取ります。

[] (大括弧)

大括弧はオプション・テキストを囲みます。テキストを 1 回選択できます。または選択しないこともできます。

{ } (中括弧)

中括弧は、垂直バーで区切られたオプションを囲みます。1 つのオプションを選択する必要があります。

| (垂直バー)

垂直バーは異なるオプションを区切ります。

例えば、次のようなメッセージ・テキストが出されたとします。

**PAGEABLE AREA [nnnK] TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE'
COMMAND/OPERAND [{(JOB-|OUT-|NET-|XMT-|J+O-|N+X-)EXIT
INCLUDED}]**

これは以下を意味します。

- PAGEABLE AREA TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND または
- PAGEABLE AREA TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (JOB-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (OUT-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (NET-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (XMT-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (J+O-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (N+X-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA nnnK TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND または
- PAGEABLE AREA nnnK TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (JOB-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA nnnK TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (OUT-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA nnnK TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (NET-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA nnnK TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (XMT-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA nnnK TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (J+O-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA nnnK TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (N+X-EXIT INCLUDED)

メッセージを受け取った場合

正しい応答がはっきり分からない場合には、必ずメッセージを調べてください。メッセージに示されている状況に以前に遭遇したことがない場合や、異なる処置が必要な場合があります。必ず、完全なメッセージの説明を読んでください。

その説明自体が完全ではないように思われる場合、メッセージが属する (サブ) コンポーネント・グループの冒頭を調べてください。一部のグループのメッセージは特定の規則に従っています。

例えば、コンポーネント **1** のメッセージは、4 番目の文字位置に変数数字 **n** を持つことがあります。これは、ジョブ制御ステートメントのエラー・フィールドを示すものです。

OPxx の一部のメッセージには、さらに補足情報が含まれています。その補足情報については、コンポーネント **0** のサブコンポーネント **P** を扱っているセクションの最初の部分で説明されています。

メッセージが繰り返し表示され、通常ของการ操作を続けることができない場合には、「*z/VSE Guide for Solving Problems*」も参照してください。その情報には、問題の状況および実行可能な解決方法が示されています。

オンライン・メッセージ記述

z/VSE コンソールを使用しているときには、次のいずれかを行うと、z/VSE メッセージおよびコードの資料に示されているメッセージ記述をオンラインで表示することができます。

1. コンソール表示画面上のメッセージ番号の下にカーソルを移動して、EXPLAIN キーを押す。あるいは、
2. コマンド・フィールド (==>) にメッセージ番号を入力してから、EXPLAIN キーを押す。

重要：

コマンド・フィールドにメッセージ番号を入力する場合、メッセージ記述で勧められている処置を行う前に、必ず 有効なメッセージ記述を入力したことを確認してください。入力した番号が有効でない場合、z/VSE は最も近い番号の説明を示す場合があります。そのメッセージに関する推奨された処置は、ユーザーの作業には正しくないことがあります。

メッセージ記述が別のメッセージを参照している場合には、最初の記述の中にあるそのメッセージ番号にメッセージを移動してから EXPLAIN キーを押すと、そのメッセージの記述を表示することができます。コマンド行に以下の適切な処置のいずれかを入力してから EXPLAIN キーを押せば、オンラインで VSE/VSAM 戻りコードを見ることもできます。

- VSAMOPEN
- VSAMCLOS
- VSAMREQU
- VSAMXXCB

VSE/ESA 2.4 では、メッセージの説明でハードコピー資料を以前に参照していたようなメッセージには、いくつかのダミー・メッセージがそのメッセージ内に含まれていました。そのようなダミー・メッセージには、接頭部 VSE とその後に 5 桁の数字が付いています (例えば、VSE00001)。それらは、他のテキストを参照するためにメッセージの説明の中で使用されているものです。接頭部 VSE の付いたメッセージは、「IBM VSE/ESA メッセージとコード 第 1 巻」には記載されていません。

変更の要約

この資料は、z/VSE バージョン 6 リリース 2 で実装された機能拡張および変更を反映するように更新されました。また、用語、細かな修正、および編集上の変更も含まれています。

- z/VSE 6.2 には IBM System z10 以上が必要です。
- 高速サービス・アップグレード (FSU):
 - 初期インストールまたは FSU を使用すれば、z/VSE 6.2 へのアップグレードを行うことができます。
 - FSU は、z/VSE 6.1 システムからのアップグレード時にのみ使用できます。
 - z/VSE V5 から z/VSE V6 への FSU は実行できません。

z/VSE 6.1 以降、z/VSE は英語版としてのみ出荷されます。

z/VSE 6.1 ではアーキテクチャー・レベル・セット (ALS) が導入されました。IBM System z10 以上が必要となります。

第 1 章 接頭部 0 の z/VSE メッセージ

03xx=アクセス制御 - ロギング・メッセージ

0300A **LOGGER ABNORMALLY TERMINATED; ACCEPT BY ENTERING THE REPLY-ID**

説明: VSE システムの指示により、ロガーが異常終了しました。

システムの処置: ロガーによるサービスを待機しているすべての VSE タスクに通知され、ロガーが処理を終了します。

オペレーターの応答: プログラマーに提供するために SYSLOG の出力を保存し、何か応答を行ってロガー・タスクを終了してください。

プログラマーの応答: このメッセージの前に出されたすべてのメッセージを分析して、問題を訂正してください。問題の原因を判別できない場合は、プログラミング・サポートを弊社に依頼してください。

0301A **BOTH LOGGER DATASETS FULL, START REPORTING**

説明: ログ・データ・セットの両方のファイルが、ロガーによる記録でいっぱいになりました。このあとにメッセージ DSP063 が出ます。

システムの処置: ロガーは、報告機能プログラムが処理を終了するまで待機します。

オペレーターの応答: 報告機能プログラムを実行して、ログ・

データ・セットをログ記録で使用できるようにしてください。報告機能プログラムが終了した後、強調表示されたメッセージを手操作で削除してください。

プログラマーの応答: なし。

0302A **LOGGER DATASETS FULL OR INCORRECT AT INITIALIZATION TIME, START REPORTING**

説明: ロガーが初期化されているとき、ログ・データ・セットの両方のファイルがいっぱいになっていました。ロガー・レコードは、オペレーターが報告機能プログラムを実行するまでは 24 ビット・システム GETVIS に保管されています。すべての 24 ビット・システム GETVIS 記憶域がロガー・レコードによって使用されている場合は、ソフト待ちが発生する可能性があります。

システムの処置: ロガーは、報告機能プログラムが処理を終了するまで待機します。

オペレーターの応答: 報告機能プログラムを実行して、ログ・データ・セットのファイルをログ記録で使用できるようにしてください。報告機能プログラムが終了した後、強調表示されたメッセージを手操作で削除してください。

プログラマーの応答: なし。

0Cxx=チェックポイント・メッセージ

0C00I **CHKPT NO. nmmn WAS TAKEN ON SYSxxx=cuu**

説明: 示されたチェックポイントが完了しました。nmmn は、このチェックポイント・レコードに割り当てられた番号です(この番号は、各チェックポイントを過ぎるたびに 1 ずつ増えます)。SYSxxx=cuu は、チェックポイント情報が保管されている論理装置および物理装置を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 再始動時に上記の情報を使用してください。

プログラマーの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0C02I **CHKPT UNIT NOT A VALID TAPE SYSxxx=cuu CHECKPOINT IGNORED**

説明: チェックポイント要求でテープが指定されていますが、チェックポイント再始動で使える磁気テープ装置に SYSxxx が割り当てられていません。

システムの処置: チェックポイントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: チェックポイントを取る必要がある場合は、以下を行ってください。

1. ジョブを取り消す。
2. 使用可能テープ装置を該当論理装置に割り当てる。

0C03I **I/O REQUEST PENDING ON TP DEVICE CHECKPOINT IGNORED**

説明: 通信アプリケーション・プログラムの入出力要求が通信装置で保留中です。チェックポイント・ルーチンは、この保留中の入出力要求の完了を待つことはできません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

プログラマーの応答: チェックポイントを取る必要がある場合には、チェックポイント要求が入出力操作と入出力操作の間で出されるように、プログラムを変更してください。

0C04I **INVALID END ADDRESS SPECIFIED CHECKPOINT IGNORED**

説明: CHKPT マクロでユーザーが指定した終了アドレスは、割り振られた区画の境界内にありません。実モード実行では、上限区画境界は割り振り区画に等しくなくてもかまいません。EXEC ステートメントに SIZE を指定した場合には、上限境界は以下のものの合計です。

下限区画境界

SIZE に指定された値

GETVIS で得られたスペース

システムの処置: チェックポイントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムの次回の実行のために

CHKPT マクロの終了アドレスの指定を訂正してください。

0C05I CHKPT DTFPH IS NOT OPEN

FILE=filename

CHECKPOINT IGNORED

説明: ユーザーは、CHKPT マクロで指定されている特定 DTFPH ファイルをオープンしていません。

システムの処置: チェックポイントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムの再実行前に、プログラムを変更して、最初の CHKPT マクロを実行する前に DTFPH ファイルをオープンしてください。

0C06I CHKPT DTFPH MOUNTED=ALL

FILE=filename

CHECKPOINT IGNORED

説明: プログラム中、チェックポイント・ファイルに関する DTFPH マクロに MOUNTED=SINGLE が指定されていません。

システムの処置: チェックポイントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムの再実行前に、間違った DTFPH マクロを変更し、MOUNTED=SINGLE を指定してください。

0C07I CHKPT DTFPH NOT OUTPUT

FILE=filename

CHECKPOINT IGNORED

説明: チェックポイント・ファイルに関する DTFPH マクロにオペランド TYPEFLE=OUTPUT が指定されていません。

システムの処置: システムはこのチェックポイントを無視して処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムの再実行前に、チェックポイント・ファイルに関する DTFPH マクロを、TYPEFLE=OUTPUT を指定するよう訂正してください。

0C08I CHKPT UNIT NOT A VALID DISK

SYSxxx=cuu

CHECKPOINT IGNORED

説明: CHKPT マクロにディスクが指定されていますが、この名前の論理装置が、チェックポイント再始動でサポートされるディスク装置に割り当てられていません。

システムの処置: チェックポイントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムの再実行前に、論理装置の割り当てか、またはプログラム中の CHKPT マクロのいずれか適切な方を訂正してください。

0C09I INSUFF. SPACE ALLOCATION

FILE=filename

CHECKPOINT IGNORED

説明: チェックポイント・ファイルに割り振られたディスク・スペースが十分ではありません。

システムの処置: チェックポイントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムの再実行前に、チェックポイント・ファイルのエクステンツ、区画に割り振られた境界、および CHKPT マクロで与えられた終了アドレス・パラメーターを調べてください。必要に応じて訂正を行ってください。

0C10I SUBTASK ISSUED CHKPT

CHECKPOINT IGNORED

説明: CHKPT マクロは、プログラム内のメインタスクからのみ出すことができます。

システムの処置: チェックポイントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムの再実行前に、該当するサブタスクから CHKPT マクロを取り除いてください。

0C11I SUBTASKS ATTACHED

CHECKPOINT IGNORED

説明: 区画内のサブタスクがまだ存在している間に、メインタスクが CHKPT マクロを出しました。

システムの処置: チェックポイントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムの再実行前に、プログラムを変更し、CHKPT マクロの実行時にサブタスクが消去されるようにしてください。問題が再発する場合には、SVC をトレースする SDAID プログラムと一緒にジョブを再実行し、すべての ATTACH SVC (SVC 38) に対して DETACH SVC (SVC 39) が出されているかどうかを出力で調べてください。

SDAID プログラムの用法については、「z/VSE Diagnosis Tools」を参照してください。プログラムに必要な訂正を行ってください。

0C12I TRACKS HELD

CHECKPOINT IGNORED

説明: プログラムは、トラックがこのプログラムにより保護されている間に、チェックポイントを実行するよう要求しています。

システムの処置: チェックポイントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムの再実行前に、プログラムが

CHKPT マクロを出すときにトラックを保護していないことを確認してください。必要ならば、SVC をトレースする SDAID プログラムと共にジョブを実行し、出力を確認してください。HOLD SVC (SVC 35) に対しては、すべて FREE SVC (SVC 36) が必要です。SDAID プログラムの用法については、「z/VSE *Diagnosis Tools*」を参照してください。プログラムに必要な訂正を行ってください。

0C13I **INSUFF. SPACE FOR CHKPT ON
SYSxxx=cuu
CHECKPOINT IGNORED**

説明: チェックポイントの完了前にテープの終わりに達しました。

システムの処置: チェックポイントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムの再実行前に、オペレーターに対し、チェックポイントを取るための十分なフリー・スペースをもつテープ・リールの取り付けを依頼してください。出力ファイル中にチェックポイントが組み込まれている場合には、ファイルを再配置してください。チェックポイント・ルーチンは代替磁気テープをサポートしません。

0C14I **CHKPT DEVICE NOT ASSIGNED SYSxxx
CHECKPOINT IGNORED**

説明: CHKPT マクロに指定された論理装置が割り当てられていないか、または IGNORE として割り当てられています。

システムの処置: チェックポイントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムの再実行時、必要な ASSGN ステートメントを指定してください。

0C15I **CHKPT LOGICAL UNIT INVALID SYSxxx
CHECKPOINT IGNORED**

説明: CHKPT マクロに指定された論理装置が使用区画のプログラマー装置の範囲内にありません。

システムの処置: チェックポイントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムの再実行前に、CHKPT マクロまたは DTFPH マクロの論理装置指定を調べてください。必要に応じて訂正を行ってください。問題が再発する場合には、システム・ダンプを取ってください (「z/VSE *Diagnosis Tools*」を参照してください)。既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE *Guide for Solving Problems*」を参照してください。

0C16I **QSETPRT FAILED RC=X'nnnnnnnn'
SSSxxx=cuu
CHECKPOINT IGNORED**

説明: CHKPT で 3800 印刷装置の情報を保管しようとしたときに、QSETPRT が失敗しました。

システムの処置: チェックポイントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムを再実行する際にこのメッセージが出ないようにするには、戻りコードが示すエラー状況を訂正してください。これらのコードの解説については、

「DOS/VS IBM 3800 *Printing Subsystem Programmer's Guide*」を参照してください。

0C17I **INTERNAL CHKPT ERROR IN *phase-name*
macroname FAILED RC=X'nn'**

説明: この名前のマクロが、予期しない戻りコードを戻しました。問題を容易に判別できるように、可能性のあるマクロ戻りコード (RC) の簡単な説明が、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』に記載されています。

システムの処置: システムはダンプをとり、ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE *Guide for Solving Problems*」を参照してください。

0C18I **ERRORS DETECTED IN REPOSITIONING
TABLE**

説明: 論理ファイルについてユーザー指定の再配置テーブルをスキャンしているときに、CHKPT が誤ったテーブル項目を検出しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムの再実行時にこのメッセージが出されないようにするためには、テーブル内の DTFMT 項目が正しいこと、さらに、その項目が、指定された論理装置およびその割り当てに合致しているかを確認してください。

0C19I **CHKPT DEVICE ERROR SYSxxx=cuu
CHECKPOINT IGNORED**

説明: CHKPT は必要な装置特性を検索できませんでした。

このメッセージの前に、メッセージ 0P31 またはメッセージ 0P08 が表示される場合もあります。

システムの処置: チェックポイントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0C20I **PFX OUTSIDE ALLOCR AREA
CHECKPOINT IGNORED**

説明: CHKPT マクロは、ALLOCR 域でないところに PFX された PFX ページをサポートしません。

システムの処置: チェックポイントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーザー・プログラムが ALLOCR 域外の実記憶にページを PFX していないか確認してください。これを確認する最も簡単な方法は、ユーザー・プログラムの実

行中に PFIIX 限界を設定しない (JCL SETPFIIX ステートメントを使用して) ことです。

0Dxx=DOC メッセージ

0D01I REPLY TO SECURITY WTOR SUPPRESSED

説明: セキュリティー WTOR (ROUTCDE=9) への応答が入力されました。セキュリティのため、この応答は上記のメッセージでマスクされました。
システムの処置: 実際の応答テキストは WTOR を出したアプリケーションに渡されます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

0D10I COMMAND/REPLY NOT AUTHORIZED

説明: コンソールに、指定されたコマンドや応答 ID に対する権限がありません (MGCRE 戻りコード 08、理由コード 03)。
システムの処置: コマンドは無視されます。
オペレーターの応答: 該当するならば、システム管理者に連絡して、主コンソール権限を取得してください。
プログラマーの応答: なし。

0D11I INVALID REPLY-ID

説明: 指定された応答 ID に対応するメッセージが保留されていないか、または保留メッセージに回答する権限がコンソールにありません (MGCRE 戻りコード 08、理由コード 02)。
システムの処置: 入力は無視します。
オペレーターの応答: 有効な応答 ID を使って回答を入力し直してください。必要ならば、REPLID コマンドや REDISPLAY コマンドを使用して、そのコンソールから回答することのできる未解決の回答をリストしてください。
プログラマーの応答: なし。

0D14I COMMAND IGNORED

説明: 同じコンソールから同じコマンド・プロセッサに対して出した前のコマンドが完了していないので、コマンドが拒否されました (MGCRE 戻りコード 08、理由コード 01)。
システムの処置: コマンドは無視されます。
オペレーターの応答: 保留中のコマンドの完了を待つか、RC を入力して、その保留中のコマンドを取り消してから、新しいコマンドを入力し直してください。
プログラマーの応答: なし。

0D18I INVALID INPUT

説明: コンソール入力がすべてブランクであるか、126 文字を超えているか、または、数字で始まっているが応答 ID として解釈される、1 から 4 文字の数字の先行トークンがありません (MGCRE 戻りコード 0C、理由コード 00 から 02)。
システムの処置: 入力は無視します。
オペレーターの応答: 訂正して、入力し直してください。
プログラマーの応答: なし。

0D19I ATTENTION ROUTINE NOT ACTIVE

説明: アテンション・コマンド・プロセッサがアクティブではありません (MGCRE 戻りコード 08、理由コード 04)。IPL

が完了した後でこのメッセージが表示された場合、システム・エラーが原因です。

システムの処置: コマンドは無視されます。
オペレーターの応答: IPL の実行中にこのメッセージが表示された場合、IPL が完了するのを待ってから、コマンドを出し直してください。そうでない場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: IPL が完了した後でこのメッセージが表示された場合、システム・エラーの報告と解決のためのプロシージャを実行してください。

0D20E HARD COPY FILE SHOULD BE PRINTED

説明: ハードコピー・ファイルには約 20 パーセントのスペースが残っています。このスペースが使い果たされると、システムは、前に記録された行に上書きします。
システムの処置: 処理を続行します。ハードコピー・ファイルの内容を印刷しないでいると、循環の原因となります。システムはメッセージ 0D25E を表示した直後に、ファイルの上書きを開始します。
オペレーターの応答: このメッセージの表示後、早急にオプション NEW を指定してユーティリティー PRINTLOG を実行してください。
プログラマーの応答: なし。

0D21I INPUT REJECTED BY EXTERNAL EXIT

説明: 外部出口ルーチン (例えば、取引先製品に関連するもの) が原因で、システムは、渡されたコンソール入力を拒否しました (MGCRE 戻りコード 08、理由コード 08)。
システムの処置: 入力は無視します。
オペレーターの応答: 入力为正しいと思われる場合、該当するならば、システム・プログラマーに連絡して、障害のある出口ルーチンの処理の判別と訂正を依頼してください。
プログラマーの応答: 該当するならば、障害のある出口ルーチンの処理を検査し、訂正してください。または、この出口ルーチンの担当者 (例えば取引先) にこの問題を報告してください。

0D22I INSUFFICIENT GETVIS FOR REQUESTED FUNCTION

説明: コマンドを処理できるだけの 24 ビット・システム GETVIS ストレージがありません。
システムの処置: 入力は無視します。
オペレーターの応答: 24 ビット・システム GETVIS スペースが他のアプリケーションによって解放されたときに、再度試みてください。
プログラマーの応答: 問題が頻繁に起こるようであれば、24 ビット・システム GETVIS スペースの割り振りを増やしてください。

0D24I REDISPLAY PROCESSOR NOT ACTIVE

説明: REDISPLAY コマンド・プロセッサがアクティブではありません (MGCRE 戻りコード 08、理由コード 05)。IPL が

完了した後でこのメッセージが表示された場合、システム・エラーが原因です。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: IPL の実行中にこのメッセージが表示された場合、IPL が完了するのを待ってから、コマンドを出し直してください。そうでない場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: IPL が完了した後でこのメッセージが表示された場合、システム・エラーの報告と解決のためのプロシージャを実行してください。

0D25E HARD COPY FILE IN OVERLAY MODE

説明: ハードコピー・ファイルがいっぱいです。

システムの処置: システムは、ハードコピー・ファイル中の最も古い情報への上書きを開始します。

オペレーターの応答: 現在処理中のジョブを終了した後、オプション NEW を指定し、PRINTLOG ユーティリティを実行して、ハードコピー・ファイルに残っているものを印刷してください。

プログラマーの応答: なし。

0D26E I/O ERROR ON HARD COPY FILE

説明: ハードコピー・ファイルに対する読み取りまたは書き込みの実行中に、リカバリー不能なディスク入出力エラーが生じました。

システムの処置: 再表示時にこの入出力エラーが生じた場合には、再表示は終了し、処理が続行されます。通常のシステム操作時にこのエラーが生じた場合には、システムはハードコピー・ファイルをクローズし、コンソール連絡情報を記録せずに処理を続行します。

オペレーターの応答: コンソール連絡情報の記録を再開するために、早急に新たにシステム・スタートアップを実行してください。問題が再発する場合には、プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: メッセージの最初の発生時には、なし。問題が再発する場合には、該当する ASI IPL プロシージャを変更し、ハードコピー・ファイルに別のディスク・エクステンを定義してください。関係するディスク・ボリュームのディスク記録面分析に、装置サポート機能プログラムの実行を検討してください。

0D28A INTERVENTION REQD FOR HARD COPY DISK DEVICE

説明: ハードコピー・ファイルのディスク装置が作動可能になっていません。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 装置を操作可能にし、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: なし。

0D29E INCORRECT LENGTH DURING I/O FOR HARD COPY FILE

説明: ハードコピー・ファイルに対する読み取り/書き込み操作時に、長さの間違いが検出されました。間違ったパックを取り付けたものと思われます。

システムの処置: 再表示時にこの入出力エラーが生じた場合には、再表示は終了し、処理が続行されます。通常のシステム操作時にこのエラーが生じた場合には、システムはハードコピ

ー・ファイルをクローズし、コンソール連絡情報を記録せずに処理を続行します。

オペレーターの応答: ハードコピー・ファイルをもつディスク・ボリュームが取り付けられていることを確認してください。次に、コンソール連絡情報の記録を再開するために、早急に新たなシステム・スタートアップを実行してください。問題が再発する場合には、プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: なし。

0D36E SCREEN I/O ERROR. SNS=xxx

説明: 画面入出力操作の後、装置チェックが検出されました。システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: エラーの結果、何らかの重要な情報が失われた場合には、コマンドを再入力するか、プログラムを再実行してください。エラーが再発する場合には、プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: メッセージの最初の発生時には、なし。エラーが再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0D37E HC-FILE NOT OPENED. NO REDISPLAY POSSIBLE

説明: 次のいずれかを行ってください。

- 再表示 (D) コマンドが入力されましたが、ハードコピー・ファイルが作成されていませんでした。
- ハードコピー・ファイルをオープンする JOB ステートメントが処理されていません。
- 再表示のためのハードコピー・ファイルのオープン時に、エラーが生じました。

システムの処置: 再表示コマンドは無視され、処理を続行します。

オペレーターの応答: JOB ステートメントが処理されないためにこのメッセージが表示された場合には、ダミーの JOB ステートメントを渡してください。それ以外は、システムの再 IPL を行い、SET コマンドを使ってハードコピー・ファイルを再作成してください。

プログラマーの応答: なし。

0D38E HCF TASK HAS TERMINATED

説明: HCF システム・タスクは、重大なシステム障害のために終了しました。コンソール通信を記録する作業は非活動化されています。REDISPLAY コマンド・プロセッサも非活動化されています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: コンソール連絡情報の記録を再開するために、早急に新たにシステム・スタートアップを実行してください。

プログラマーの応答: なし。

0D39E LOGGING FAILURE - action

説明: *action* の内容に従い、以下のいずれかの状態です。

RETRY SUCCESSFUL:

データは失われませんが、エラーの発生場所によっては、同一行が 2 度ハードコピー・ファイル上に記録されてしまう場合があります。

DATA LOST:

ハードコピー・ファイル上に、レコードをひとつ書き込むことができませんでした。

LOGGING SUSPENDED:

コンソール通信を記録する作業は非活動化されています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: コンソール連絡情報の記録を再開するために、早急に新たにシステム・スタートアップを実行してください。

プログラマーの応答: なし。

0D40E REDISPLAY FAILURE - action

説明: *action* の内容に従い、以下のいずれかの状態です。

COMMAND(S) CANCELLED:

現在処理されているすべての REDISPLAY コマンドは取り消されます。

REDISPLAY SUSPENDED:

REDISPLAY コマンド・プロセッサは非活動化されています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: *action* の内容に従い、以下のいずれかを行ってください。

COMMAND(S) CANCELLED:

なし。

REDISPLAY SUSPENDED:

REDISPLAY コマンド・プロセッサを再活動化するために、早急に新たにシステム・スタートアップを実行してください。

プログラマーの応答: なし。

0D50I HARD COPY FILE NOT OPEN

説明: 次のいずれかが発生しました。

- ハードコピー・ファイルが作成されませんでした。
- 最後のシステム・スタートアップ以来、JOB ステートメントが処理されていません。
- LISTLOG または PRINTLOG プログラムが出した OPEN コマンドが失敗しました。

システムの処置: 該当する区画での処理は終了します。

オペレーターの応答: JOB ステートメントを出してハードコピー・ファイルをオープンするか、再 IPL を行い、SET コマンドを使ってハードコピー・ファイルを作成してください。

プログラマーの応答: なし。

0D51I EXTENT FAILED

説明: 再表示の際、あるいは、PRINTLOG または LISTLOG の実行時に、EXTENT マクロの実行が失敗しました。

システムの処置: 該当する機能の処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 表示された戻りコードがユーザー・プログラミング・エラーを示している場合には、そのエラー条件を訂正してください。エラーが再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0D52I GETVIS FAILED

説明: ハードコピー・ファイルのアクセスのためにストレージを入手しようとしたのですが、失敗しました。

システムの処置: 該当する機能の処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかを行ってください。

- SIZE パラメーターのサイズを減らしてください。
- // EXEC ...,REAL の SIZE オペランドを指定してください。
- 区画割り振りを増やしてください。
- 要求がシステム・タスクから出された場合、システム GETVIS 域のサイズを増やしてください。

0D53I NO JOB STATEMENT PROCESSED IN THIS PARTITION

説明: LISTLOG プログラムが開始された区画で JOB ステートメントが処理されていません (メッセージ 0D54I の注も参照してください)。

システムの処置: 該当する区画での処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブの先頭に JOB ステートメントを組み込んだ後、そのジョブを再サブミットしてください。

0D54I JOB INFORMATION MIGHT BE INCOMPLETE

説明: ハードコピー・ファイルの中の保管されたアドレスにジョブ・ステートメントがありません。理由は、以下のいずれかです。

- ハードコピー・ファイルの中で記録を循環させる。
- これが、この区画内の IPL 後に処理される最初のジョブである。

注: このジョブが IPL 後の最初のジョブだった場合、このジョブ・ステートメントは、ハードコピー・ファイルをオープンするためのダミーの JOB ステートメントとして扱われています (ハードコピー・ファイルのオープンについて詳しくは、

「z/VSE System Control Statements」を参照してください)。

システムの処置: ジョブに依存する他のレコードはハードコピー・ファイルから取り出されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0D55I PRINTLOG ALREADY ACTIVE OR ENDED ABNORMALLY, RC=X'nn'

説明: PRINTLOG ユーティリティが、他の少なくとも 1 つの区画ですでにアクティブです。LOCK マクロからの戻りコードについて、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。

システムの処置: 最後の PRINTLOG 実行要求は取り消されず。

オペレーターの応答: 要求がオペレーター制御下の入力装置からサブミットされた場合は、その前の PRINTLOG のサブミットが終了した後、この要求を再びサブミットしてください。

プログラマーの応答: 要求がオペレーター制御下でない入力源からサブミットされた場合、その前の PRINTLOG のサブミットが終了した後、この要求を再びサブミットしてください。

0D56E INCONSISTENT STATE DURING HC-FILE PROCESSING

説明: ハードコピー・ファイルの処理要求が間違っているか、内部エラーが起っています。

システムの処置: 次のいずれかを行ってください。

- 書き込み時にエラーが生じた場合には、ハードコピー・ファイルはクローズされ、コンソール連絡情報を記録せずに処理が続行されます。
- 再表示時にエラーが生じた場合には、再表示は終了し、処理が続行されます。
- 上記以外はすべて、該当する区画での処理は終了します。

オペレーターの応答: コンソール連絡情報の記録を再開するために、早急に新たなシステム・スタートアップを行ってください。問題が再発する場合には、プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: メッセージの最初の発生時には、なし。エラーが再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0D57A ENTER OPTIONS FOR PRINTLOG OR ? FOR A LIST OF OPTIONS

説明: PARM パラメーターで印刷オプションを与えずに PRINTLOG を実行しました。? を入力すると、以下の説明が表示されます。

VALID OPTIONS:	(CHOOSE MAX ONE OF EACH LINE)
ALL OR NEW	TOTAL FILE OR ONLY NEW RECORDS
CMD, IPL, AR, BG, F1...	COMMANDS, IPL-MSGS OR PARTITION ID
A, S OR N	ACTION, SUPPRESSED OR 'NETVIEW' RECORDS
JOBNAME=NAME	ONLY RECORDS OF THAT JOB
MM/DD/YYYY	ONLY RECORDS OF THAT DATE

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 1 つあるいは複数の印刷選択オプションを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

0D58I THE FOLLOWING OPTIONS ARE INCORRECT: option - PLEASE REENTER

説明: 表示された 1 つまたは複数の選択オプションが正しくありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待つか、あるいは、オプションが PARM パラメーターで提供されていれば、PRINTLOG を終了します。

オペレーターの応答: 正しい印刷選択オプションを再入力するか、対応する PARM パラメーターを入力し、ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

0D59I PARAMETER SPECIFICATION TOO LONG

説明: PARM ステートメントで指定されたオプションの長さが 50 文字を超えています。

システムの処置: PRINTLOG は終了します。

オペレーターの応答: PARM ステートメントの長さを訂正し、ジョブを再サブミットします。

プログラマーの応答: なし。

0D60I hcfmacro FAILED. RETURN CODE=X'xxxxxxxx'

説明: LISTLOG ユーティリティ・プログラムが、上に示したハードコピー・ファイル・マクロを出しました。hcfmacro は POINTHCF、MODHCF、READHCF、または CLOSEHCF です。ハードコピー・ファイルの状況が間違っています。

RETURN CODE は、ハードコピー・ファイル・マクロからの戻りコードです。

システムの処置: LISTLOG 処理は終了します。ハードコピー・ファイル・メッセージは表示されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0D61I PRESS CONTINUE TO RESUME

説明: 送達待ちのメッセージが多すぎて、システムの動きがとれなくなってしまうので、コンソールが中断されました。

システムの処置: システムはコンソールが保留メッセージを受け取るまで待たず、コンソールは中断されます。

オペレーターの応答: CONTINUE を押すと、コンソールは再び活動化されます。

プログラマーの応答: なし。

0D62I SCREEN IS FULL WITH HOLD MESSAGES (SET ACT_MSG TO NOHOLD)

説明: メッセージ領域全体が HOLD メッセージでいっぱいになりました。ACT_MSG が HOLD にセットされているため、画面外にスクロールできません。その他のメッセージは表示できません。保留状態のメッセージが多くなると、コンソールは中断されます。

システムの処置: これ以上のメッセージは表示されません。

オペレーターの応答: 保留されていたメッセージを削除するか、または、Hold キー (HLD) を押すか、ローカル・コマン

ド %CHANGE HOLD を使って、ACT_MSG を NOHOLD に設定してください。

プログラマーの応答: なし。

0D63I PF/PA KEY NOT DEFINED

説明: 押されたキーは、現在使用中のモードには定義されていません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 最終行にある PF キー定義を参照し、使用できるキーであるかどうかを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

0D64I COMMAND NOT ALLOWED IN THIS MODE

説明: 現行モードでは、ローカル・コマンドは使用できません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0D65I COMMAND NOT ALLOWED FROM THE INPUT LINE

説明: ローカル・コマンドは PF キー (例えば %DELAY) に割り当てられた場合のみに処理できますが、入力行から入力されました。

システムの処置: 入力は無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0D66I INVALID CURSOR POSITION/LINE NUMBER FOR THIS COMMAND

説明: カーソルまたは行番号が、ローカル・コマンドの処理時に必要な、適切なメッセージ領域に位置していません。

システムの処置: ローカル・コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: カーソルを正しいメッセージ行に置き、またはコマンドの行番号を訂正して、操作を再試行してください。また、メッセージ番号をコマンド行に入力し、PF9 を押すこともできます。

プログラマーの応答: なし。

0D67I COMMAND INVALID

説明: 入力文字列は、% で始まっていますが、有効なローカル・コマンドとして認識されていません。

システムの処置: 入力は無視されます。

オペレーターの応答: 入力を訂正し、再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

0D68I OPERAND INVALID

説明: カーソルが指示しているローカル・コマンドのオペランドが無効です。

システムの処置: ローカル・コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 入力を訂正し、再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

0D69I PRESS END TO RESUME

説明: コンソールは、多くのメッセージが送達待ち状態になっているため、中断しました。

システムの処置: システムはコンソールが保留メッセージを受け取るまで待たず、コンソールは中断されます。

オペレーターの応答: END を押してコンソール・モードに戻ると、コンソールは再活動化されます。

プログラマーの応答: なし。

0D70I NO MORE EXPLAIN/HELP DATA AVAILABLE

説明: 説明モードまたはヘルプ・モードで、前進または後退キーが押されましたが、対象となるデータはこれ以上ありません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0D71I NO EXPLAIN/HELP DATA FOUND

説明: EXPLAIN で指定されたか、またはヘルプで暗黙に指定されたキーワードと一致するものはありません。EXPLAIN に対して正しくないキーワードが指定されたか、キーワードの説明がまったくないかのどちらかです。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 要求が説明された場合、キーワードを訂正して再試行してください。説明が必要である場合は、この問題をシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 説明ファイルの状況を調べてください。

0D72I TRY AGAIN LATER

説明: システム・リソース不足のため、EXPLAIN 要求が失敗しました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: あとで再度実行してください。

プログラマーの応答: なし。

0D73I CONSOLE DEACTIVATED, HIT ENTER TO RESUME

説明: コンソールは、コンソール・モードで END キーまたはリターン・キーが押されたため、非活動化されました。

システムの処置: システム・コンソールは非活動化されます。

オペレーターの応答: 実行キーを押して、通常の操作を再開してください。

プログラマーの応答: なし。

0D74I EXPLAIN FILE ACCESS FAILURE

説明: 説明ファイルへのアクセスで障害が起きました。

システムの処置: EXPLAIN 要求は無視されます。

オペレーターの応答: 問題をシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 多くの場合、これはシステム・エラーです。このエラーを弊社に報告してください。

0D75I EXPLAIN SUPPORT NOT ACTIVE

説明: EXPLAIN サポートは現在アクティブではありません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: コマンド EXPLAIN ON を使用して EXPLAIN サポートを活動化してください。

プログラマーの応答: なし。

0D76I EXPANSION FAILURE

説明: EXPLAIN データを拡張しようとしたのですが、失敗しました。

システムの処置: EXPLAIN 要求は終了します。

オペレーターの応答: 問題をシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: ディクショナリー・フェーズ \$IJBxDCT (x は言語 ID) が破壊されているかもしれません。除外すべきものであれば、問題を IBM に報告してください。

0D77I DICTIONARY COULD NOT BE LOADED

説明: ディクショナリー・フェーズ \$IJBxDCT (x は言語 ID) をロードできません。

システムの処置: EXPLAIN 要求は終了します。

オペレーターの応答: システム管理者に連絡してください。

プログラマーの応答: ディクショナリー・フェーズが IJSYSRS サブライブラリーの中で使用可能であることを確認してください。

0D80I INVALID REDISPLAY COMMAND

説明: コンソールで、無効なオペランドを指定した再表示 (RED) コマンドが入力されました。

システムの処置: コマンドが誤っているため、コマンドは拒否されます。

オペレーターの応答: 無効なオペランドを訂正するか、別の RED コマンドを出してください。

プログラマーの応答: なし。

0D81I A TRAILING COMMA IS NOT VALID

説明: 末尾に非ブランクの文字であるコンマを付けた、再表示 (RED) コマンドが入力されました。

システムの処置: コマンドが誤っているため、コマンドは拒否されます。

オペレーターの応答: オペランドが忘れられている可能性があります。オペランドを追加するか、末尾のコンマを削除してください。

プログラマーの応答: なし。

0D82I FUNCTION HOLD AND A SUBFILTER ARE NOT COMPATIBLE

説明: 機能オペランドが HOLD で、サブフィルター・オペランドもある再表示 (RED) コマンドが入力されました。

システムの処置: コマンドが誤っているため、コマンドは拒否されます。

オペレーターの応答: 機能オペランドとサブフィルター・オペランドのいずれかを削除してください。

プログラマーの応答: なし。

0D83I REDISPLAY COMMAND IS CANCELLED

説明: 他の RED コマンドの処理中に、処置オペランドで

CANCEL を指定した再表示 (RED) コマンドを入力しました。システムの処置: 現在アクティブな RED コマンドは終了します。この時点までに見つかった結果はコンソールに表示されません。コンソールは再表示モードのままです。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0D84I REDISPLAY MODE IS TERMINATED

説明: コンソールが再表示モードであるときに、END を指定している処置オペランドを使用した再表示 (RED) コマンドを入力しました。

システムの処置: 現在アクティブな再表示モードは終了します。コンソールは再表示モードのままではありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0D85I ACTION CANCEL DOES NOT ALLOW OTHER OPERANDS

説明: 他のオペランドと共に CANCEL を指定している処置オペランドを使用して、再表示 (RED) コマンドを入力しました。

システムの処置: コマンドが誤っているため、コマンドは拒否されます。

オペレーターの応答: オペランドとして CANCEL だけを使用するか、または処置オペランド CANCEL なしで RED コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

0D86I NO REDISPLAY COMMAND/MODE IS ACTIVE, COMMAND IGNORED

説明: 以下のいずれかの状況下で、再表示 (RED) コマンドを入力しました。

- 他の RED コマンドがアクティブではないのに、処置オペランドで CANCEL を指定。
- コンソールが再表示モードにないときに、処置オペランドで END を指定。

システムの処置: コマンドが誤っているため、コマンドは拒否されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0D91I INPUT NOT ACCEPTED DUE TO REMOTE OPERATING MODE

説明: システムが操作モード REMOTE で稼働しているため、システム・コンソール入力は禁じられています (MGCRC 戻りコード 08、理由コード 06)。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 操作モードを変更するには、現在システムを制御しているリモート・コンソールから OPERATE コマンドを出してください。

プログラマーの応答: なし。

**0D92I REDISPLAY MODE ALREADY ACTIVE
FOR ANOTHER USER**

説明: 同じコンソール・インターフェースの他のユーザー (例えば他の CMS ユーザー) が再表示モードに入っています。

(MGCRC 戻りコード 08、理由コード 07)

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 後でもう一度やり直してください。

CMS をご使用になる場合、このような矛盾を最小限にするには、VSECMD インターフェースを通して入力するすべての REDISPLAY コマンドに、E オプションを指定することをお勧めします。

プログラマーの応答: なし。

ールに出されました。元のメッセージの最後の行が、このメッセージ 0D60I で上書きされました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: スクリーンに表示されたテキストから、上書きされた文字が重要であることが明らかであれば、メッセージを出したジョブを取り消してください。このメッセージと、切り捨てられたメッセージとを、プログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: メッセージを再構成してください。

0D96I PREVIOUS MESSAGE TRUNCATED

説明: 13 行以上または 701 文字以上のメッセージが、コンソ

0D97D REQUEST IGNORED

説明: システムが再表示モードにある間に REQ キーが押されました。

システムの処置: システムは再表示 (D) コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: 次の D コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

0Exx=緊急メッセージ

0Exx メッセージに関するオペレーターの応答

この図は、0Exxx メッセージの可能なタイプ・コードとオペレーター・コードをリストしたもので、適用される場合には、追加の説明を参照しています。タイプ・コードはメッセージ番号の後に続き (「t」で示されます)、オペレーター・コードはメッセージ・テキストの前に示されます (「o」で示されます)。0Exxx メッセージは、ハードコピー・ファイルには記録されません。

			対象のオペレーターの応答			
タイプ・コード	オペレーター・コード		RETRY	IGNORE	CANCEL	END/ ENTER
A	W	注 1				
D	C		無効	処置 1	処置 2	処置 1
D	I		無効	処置 1	処置 4	処置 1
D	P		無効	処置 1	処置 5	処置 1
D	R		処置 3	処置 1	処置 6	処置 1
I	C	注 2				
I	I	注 3				
I	P	注 4				
I	R	注 5				

注:

1. システムは READY 割り込みを待ちます。装置を作動可能にしてください。もし作動可能にできない場合には、CANCEL cuu コマンドによって入出力要求を取り消してください。このコマンドは、「z/VSE System Control Statements」で説明されています。待ち状態になったときは、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。
2. メッセージを出したタスクが取り消されました。

3. 入出力操作の完了に関する情報を示すために要求タスクが通知された後で、エラーが起きました。リカバリー処置は開始されません。
4. エラー条件は要求元 (CCB または IORB) に通知されています。リカバリー処置を開始するのは要求プログラムの責任です。
5. ディスク・アクセスに関する入出力要求であり、チャンネル・プログラムが再試行されました。

結果としてのシステムの処置:

処置 1:

システムはリカバリー処置を開始せず、代わりに入出力割り込みを待ちます。

処置 2:

システムは入出力操作を異常終了させ、要求タスクを取り消します。

処置 3:

保留入出力操作は異常終了しますが、システムはこの操作を再び開始します。

処置 4:

保留入出力操作が異常終了します。

処置 5:

保留入出力操作が異常終了し、システムは要求タスクの CCB または IORB に入れてエラー情報を渡します。

処置 6:

保留入出力操作が異常終了し、システムは関連タスクを取り消すか、CCB または IORB を通知することによってそのタスクにエラー情報を渡します。

注: 入出力操作によっては、定義された時間間隔を超えることがあります。テープ消去やテープ制御コマンドなどがそうです。この場合は、END/ENTER を押して応答してください。

0E00t UNKNOWN STATUS

説明: システムは与えられた装置状況を解釈できません。

システムの処置: 10 ページの『0Exx メッセージに関するオペレーターの応答』を参照してください。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブが失敗した場合には、再実行してください。エラーが解決されない場合は、弊社に連絡してください。

0E01t INVALID REPLY

説明: 前の 0ExxD メッセージに対するオペレーターの応答が無効です。

システムの処置: システムは、正しい応答を待ちます。

オペレーターの応答: 正しい応答については、10 ページの『0Exx メッセージに関するオペレーターの応答』を参照してください。前に出されたメッセージ 0ExxD に再応答してください。

プログラマーの応答: なし。

0E02t DEVICE cuu LOST CHAN+DEV END

説明: 入出力操作が正しく開始された後、装置 *cuu* が 3 分から 6 分の間に応答しませんでした。

システムの処置: 10 ページの『0Exx メッセージに関するオペレーターの応答』を参照してください。

オペレーターの応答』を参照してください。

オペレーターの応答: 10 ページの『0Exx メッセージに関するオペレーターの応答』を参照してください。メッセージ 0E04 の「注」も参照してください。問題が再発する場合には、いったん装置を作動不能にしてからもう一度作動可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

0E03t DEVICE cuu LOST CHANNEL END

説明: 入出力操作が正しく開始された後、最初の状態を示さずに装置 *cuu* は終了状態 (装置終了) を示しました。

システムの処置: 10 ページの『0Exx メッセージに関するオペレーターの応答』を参照してください。

オペレーターの応答: 10 ページの『0Exx メッセージに関するオペレーターの応答』を参照してください。問題が再発する場合は、弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

0E04t DEVICE cuu LOST DEVICE END

説明: 入出力操作が正しく開始された後、装置 *cuu* が 3 分から 6 分の間に応答しませんでした。

システムの処置: 10 ページの『0Exx メッセージに関するオペレーターの応答』を参照してください。

オペレーターの応答: 10 ページの『0Exx メッセージに関する

0E05t • 0I03D

るオペレーターの応答』および対応する「注」を参照してください。

問題が引き続き発生する場合、装置をまず作動不能状態にしてからもう一度作動可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

0E05t DEVICE *cuu* IS NOT READY

説明: 作動可能になっていない装置に対して、タスクが入出力要求を出したか、または書き込み抑止スイッチが READ にセットされています。

システムの処置: タスクはオペレーターが装置を作動可能にするのを待ちます。

オペレーターの応答: 装置を作動可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

0E06t DEVICE *cuu* AWAITING READY

説明: 作動可能でない装置に対してシステム・タスクが入出力要求を出しました。

システムの処置: タスクはオペレーターが装置を作動可能にするのを待ちます。

オペレーターの応答: 装置を作動可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

0E07t DEVICE *cuu* NOT OPERATIONAL

説明: 示された装置に対して、入出力操作が正しく開始されましたが、その装置が終了状態を示さないうちに、操作不能になりました。

0Ixx および 0Jxx=IPL メッセージ

0I00A REAL STORAGE TOO SMALL. IPL TERMINATED

説明: 監視プログラムおよび IPL ルーチンを入れておくプロセッサ・ストレージが小さすぎます。ストレージの障害が原因で、VSE システムが使用する実記憶が減少しました。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 正しいディスク・ボリュームで IPL したことを確認してください。IPL をやり直してください。

プログラマーの応答: VM 環境で VSE システムを使用している場合、DEF STOR コマンドに指定した値が小さすぎたものと思われます。

0I01A INCORRECT SYSRES FORMAT

説明: 所定のレイアウトになっていないディスクから IPL を行おうとしました。IPL フェーズ \$\$A\$PLBK (それぞれに \$\$A\$PLBF) のハード・ディスク・アドレスへの書き込みが不完全であるか、システム・ライブラリーがそのディスク・アドレスから始まっていません。以前の VSE リリースを使って新しい VSE システムを作成したことが原因と思われます。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 問題をシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 新しい VSE システムの独立型リストア・プログラムを使ってシステムをリストアしてください。

0I02I *name* SUPVR NOT FOUND

説明: IPL ルーチンが、この名前の監視プログラムをシステ

システムの処置: 10 ページの『0E_{xx} メッセージに関するオペレーターの応答』を参照してください。

オペレーターの応答: 装置を操作可能にしてください。次に実行すべき処置については、10 ページの『0E_{xx} メッセージに関するオペレーターの応答』を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

0E08t DEVICE *cuu* ERR. ON RECOVERY

説明: システムに予期しない操作状況が生まれました。

システムの処置: 10 ページの『0E_{xx} メッセージに関するオペレーターの応答』を参照してください。

オペレーターの応答: 10 ページの『0E_{xx} メッセージに関するオペレーターの応答』を参照してください。問題が引き続き発生する場合、装置を一度作動不能にしてから再度作動可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

0E09t DEVICE *cuu* ERR. ON RECOVERY

説明: システムに予期しない操作状況が生まれました。

システムの処置: 10 ページの『0E_{xx} メッセージに関するオペレーターの応答』を参照してください。

オペレーターの応答: 10 ページの『0E_{xx} メッセージに関するオペレーターの応答』を参照してください。問題が引き続き発生する場合、装置を一度作動不能にしてから再度作動可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

ム・ライブラリー中に見つけることができませんでした。監視プログラム名の入力エラーが原因と思われます。

システムの処置: システムはメッセージ 0I03D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: オペレーターがメッセージ 0I03D に応答することによってこの状態を解消できなければ、次のいずれかを行ってください。

- ASI プロシージャに誤った監視プログラム名が含まれている場合には、それを訂正してください。
- システム常駐ファイルを再作成し、この名前の監視プログラムを組み込んでください。

0I03D ENTER SUPERVISOR PARAMETERS [OR ASI PARAMETERS]

説明: 初期プログラム・ロード処理を続けるためには、システムは制御情報が必要です。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: このメッセージ (0I03D) の原因に関する情報を与える、別の 0I_{xx}I または 0J_{xx}I のメッセージが先に出ることもあります。メッセージの要求に応じて、次のいずれかを行ってください。

- メッセージが監視プログラムのパラメーターを要求する場合、以下のように入力してください。

```
supvr-name[,VSIZE=value][,VPOOL=value,  
VIO=value],(LOG|NOLOG)
```

ここで、VSIZE の値は M または G 単位で指定し、VPOOL と VIO の値は K または M 単位で指定してください。

注:

1. VPOOL の場合、仮想入出力作業域のサイズを指定します。
2. VIO の場合、仮想入出力作業域の割り振りに使用できる合計ワークスペースのサイズを指定します。

LOG = IPL コマンドをリストします。

NOLOG

= IPL コマンドをリストしません。

NOPDS

= システムにページ・データ・セットを指定しません。

メッセージに応答して END/ENTER を押し、デフォルト監視プログラムをロードし、最小サイズの仮想アドレス・スペースを定義することができます。その場合、IPL コマンドがリストされます。

- メッセージが監視プログラムまたは ASI のパラメーターを要求する場合。

対話式 IPL を実行したいときは、上記のようにメッセージに回答してください。システムを自動化システム初期設定 (ASI) にしたければ、以下のパラメーターを入力してください。

```
[IPL=ipl-procedure-name]
[,JCL=jcl-procedure-name]
[,STOP=(ipl-command-name, ... )]
[,TYPE=(NORMAL|SENSE)]
```

上記のオペランドは、すべてオプションです。実行キーを押しただけの場合は、システムはデフォルトを使用します。上記プロシージャの詳細については、「z/VSE Guide to System Functions」を参照してください。

指定するプロシージャ名およびコマンド名は、システムによって異なります。これらは、IPL に関する指示でプログラマーが与えているはずです。

プログラマーの応答: なし。

0104I **IPLDEV=X'cuu',VOLSER=number,**
CPUID=number
[FCP=X'cuu', WWPN=number, LUN=number]

説明: IPL を行うとき、システムは使用する SYSRES および CPU を自動的にリストします。SCSI の SYSRES の場合、SCSI デバイスのパス (FCP および WWPN) および論理装置番号 (LUN) がリストされます。

IPLDEV='cuu' は、IPL の初期段階に使用される cuu を示しています。これは SYSRES LUN の DEF SCSI で変更される可能性があります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0105A **PROCESSOR NOT SUPPORTED**

説明: z/VSE システムでサポートされていないプロセッサで IPL を実行しようとした。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 問題をシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: システムがサポート対象プロセッサで始動されていることを確認してください。適切なハードウェアについては、お近くの IBM サポートに連絡してください。

0106A **UNSUPPORTED SYSRES DEVICE TYPE**

説明: z/VSE[®] システムでサポートされていない装置から IPL を実行しようとした。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 問題をシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 当該システムを、z/VSE システムでサポートされている DASD に復元するか、またはサポート対象の磁気テープ装置をインストールに使用してください。

0107A **IPL PHASE *phasename* NOT FOUND. IPL TERMINATED**

説明: IPL ルーチンが、この名前前のフェーズをシステム・ライブラリーで検出できませんでした。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 装置に正しいディスク・ボリュームが取り付けられているかどうかを確認してください。正しいボリュームが取り付けられている場合には、このメッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 可能であれば、別の VSE システムを使って、欠落フェーズをカタログしてください。それが不可能であれば、システム・ライブラリーのバックアップをリストアしてください。

0108I **STORAGE DEFECTIVE - REAL STORAGE REDUCED TO xxxxxxK**

説明: システムが、メッセージに示されたアドレス xxxxxxK でストレージ障害を検出しました。このメッセージは、システムが使用できる実記憶の大きさをキロバイト数で示します。障害のあるストレージが修復されるまでは、上記より上のすべてのストレージをシステムで使用することはできません。

システムの処置: システムは減少したストレージ量で処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題をシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: IBM 担当員に連絡して、ストレージを修復してください。

0109D **PUB FOR DEVICE TYPE CONS ALREADY EXISTS: cuu**

説明: 前に出された ADD コマンドはタイプ CONS の装置を定義していますが、すでに処理された ADD コマンドによって CONS 装置は定義されています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: ENTER キーを押して ADD コマンドを無視するか、示している *cuu* に DEL コマンドを入力し、拒否された ADD コマンドを入力し直してください。メッセージをシステム・プログラマーに報告し、訂正処置を依頼してください。

プログラマーの応答: 該当する IPL プロシーチャーを訂正して、このメッセージが再び出ないようにしてください。

0110D GIVE IPL CONTROL COMMAND

説明: システムは IPL コマンドが入力されるのを待っています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 要求どおりに IPL コマンドを入力してください。最後のコマンドとして SVA コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

0111D PREVIOUS COMMAND INVALID

説明: このメッセージの原因として、以下のような例が考えられます。

- コマンドの構文が間違っている。
- DPD コマンドが VM=YES の指定付きで、監視プログラムに対して入力されている。
- ADD コマンドに無効な指定がある。
- SET XPCC コマンドが入力されたが、システムは VM ゲスト・システムではない。

システムの処置: システムはコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 正しい監視プログラムによって初期プログラム・ロードを実行したかどうかを調べてください。必要なら、訂正したコマンドまたは追加のコマンドを入力してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシーチャー) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: IPL ASI プロシーチャーを訂正してください。

0112D *cuu* DOES NOT EXIST

説明: 先行する DEL コマンドに指定された、表示されている *cuu* がシステムに認識されていません。

システムの処置: システムはコマンドの処理を終了し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 正しい監視プログラムによって初期プログラム・ロードを実行したかどうかを調べてください。必要なら、訂正したコマンドまたは追加のコマンドを入力してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシーチャー) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシーチャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0113D *cuu* CANNOT BE ADDED - MAXIMUM NUMBER OF DEVICES EXCEEDED.

説明: z/VSE がサポートする数よりも多い入出力装置をシステムに追加しようとした。TYPE=SENSE でシステムを IPL した場合、すべての装置、つまり電源オン (ネイティブ) の装置、または接続されている (VM 環境) 装置、および追加されたダミー装置の合計がシステムの最大値を超えています。
システムの処置: システムはコマンドの処理を終了し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: DEL コマンドを使用して、IPL が行われたシステムで実行時に必要のない装置を解放してください。必要であれば、ADD コマンドを入力し直してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシーチャー) から IPL コマンドの処理を続行するには、END/ENTER を押してください。
プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシーチャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0114A SERVICE CALL EXCEPTIONAL CONDITION

説明: IPL されたプロセッサのハードウェア処理モード (例えば、LPAR モード) を検査するためのサービス呼び出しが失敗しました。

システムの処置: システムはハードウェア・ウェイト状態に入ります。

オペレーターの応答: IML プロシーチャーと IPL プロシーチャーを繰り返してください。問題が再発する場合には、プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: IBM サポートに連絡してください。

0115D *cuu* ALREADY EXISTS

説明: 前の ADD コマンドが、すでにシステムに定義されている装置を指定しています。

システムの処置: システムはコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: ADD コマンドを調べてください。別の装置を定義しなかった、または他の IPL コマンドを入力しなかった場合には、訂正した ADD コマンドを入力し直してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシーチャー) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシーチャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0116I INCORRECT DEVICE TYPE SPECIFIED FOR *cuu*. ADD COMMAND IGNORED

説明: 無視された ADD コマンドに指定されている装置タイプが、指定された装置アドレスの装置のタイプと一致していません。

システムの処置: システムは誤りのある ADD コマンドを無視して処理を続行し、メッセージ 0J49D を出します。

オペレーターの応答: 対話式 IPL の実行時にこのエラーが出た場合には、入力エラーが原因と思われます。必要なら別の ADD コマンドを入力するか、他の IPL コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正して、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0117A {AUTOMATIC IDENTIFYING OF I/O DEVICES FAILED - MAXIMUM NUMBER OF DEVICES EXCEEDED! AUTOMATIC IDENTIFYING OF I/O DEVICES FAILED - DEVICE SENSING ERROR}

説明: 示された理由により、入出力装置の自動識別に失敗しました。メッセージ・テキストが **MAXIMUM NUMBER OF DEVICES EXCEEDED** であれば、z/VSE がサポートする数よりも多い入出力装置が、電源オン (ネイティブ) であるか、または接続されて (VM 環境) います。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 不要な入出力装置を識別して、その電源を切り、再 IPL してください。VM ゲストとして実行しているときは、不要な入出力装置を切り離し、再 IPL してください。

プログラマーの応答: **DEVICE SENSING ERROR** というメッセージが表示される場合は、弊社サービス・センターに連絡してください。

0118D ENTER SET CMD
THE DATE VALUE FORMAT IS
MM/DD/YY

説明: 刻時機構が非設定の状況にあります。刻時機構を設定するには SET コマンドが必要です。

システムの処置: システムは現在処理中のコマンドをバッファーに入れ、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: システムがその前に、0130I、0131I、または 0132I のメッセージのうちの 1 つまたは複数を出しているかどうかを判別してください。このメッセージに対応する応答として、必要な値を指定する SET コマンドを入力してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行するには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0119A ENABLE SETTING OF TOD CLOCK

説明: オペレーターが有効な SET コマンドを入力したので、システムの刻時機構を設定する必要があります。

システムの処置: システムは、オペレーターが刻時機構の設定を使用可能にするまでループします。

オペレーターの応答: ENABLE TOD スイッチまたはハードウ

ェア選択メニューを使って刻時機構を使用可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

0120I IPL COMPLETE FOR *system identification*
SUPVR USERID IS: *system-identifier*

説明: IPL プロシージャーが完了します。

システムの処置: 制御はジョブ制御に渡されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0121A READY READER *cuu*

説明: 示された読取装置で装置チェックが起り、装置が作動可能でないため、介入が必要です。

システムの処置: システムは装置が作動可能になるのを待ちます。

オペレーターの応答: 示された装置を作動可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

0122I CHANQ SPECIFICATION INVALID.
CHANQ = *number* ASSUMED

説明: IPL コマンド SYS の CHANQ= *number* に指定された値が無効です。

システムの処置: システムはメッセージに表示された値を使用し、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 以降このメッセージが表示されないようにするには、該当する IPL ASI プロシージャーを訂正してください。

0123I DASD ON *cuu* NOT PHYSICALLY
SHARABLE

説明: 示されたアドレスのディスク・ボリュームに SHR オプション付きの ADD コマンドが出されました。このディスク・ボリュームは、RESERVE/RELEASE コマンドをサポートしていないコントロール・ユニットに接続されています。

システムの処置: データの整合性のために、SHR オプションはリセットされません。システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0124A *cuu* INTERV. REQ'D OR I/O ERROR. IPL
TERMINATED

説明: 示された装置で、リカバリー不能入出力エラーまたは介入要求状態が生じています。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 装置を作動可能にし、システム・スタートアップをやり直してください (ASI または対話式 IPL により)。

プログラマーの応答: なし。

0125I **SUBLIB SPECIFICATION INVALID.**
SUBLIB = xxxx ASSUMED

説明: 指定されたサブライブラリーの数システムの下限を下回っているか、上限を上回っています。

システムの処置: システムは SUBLIB に対して示された値を想定し、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0126I *phase-name* [AND *phase-name*] **LOADED**
CUU=*cuu*

説明: 示されたアドレスの印刷装置で、システムが、用紙制御バッファ (FCB) または汎用制御バッファ (UCB) あるいはその両方のロードを正しく行いました。バッファのロードが失敗した場合には、システムは該当のバッファ・イメージ・フェーズの名前かわりにダッシュ記号を印刷し、メッセージ 0127I の直後にこのメッセージを出します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0127I **{FCB|UCB} LOAD FAILURE CUU=*cuu***

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 生成された装置以外の装置が、物理的に接続された。
- \$\$BFCBxx 下でカタログされている FCB イメージ・フェーズが停止文字を含んでいない。
- フェーズが、5203 または 3203 に関してチャンネル 1 表示を含んでいない。
- ハードウェア・エラーのためにバッファのロード中に障害が発生した。

システムの処置: システムは IPL 時のバッファのロード処理を続行します。

オペレーターの応答: IPL が完了した後、SYSBUFLD プログラムを使用して、指定のバッファのロードを試みてください。この試みが不成功に終わった場合は、EREP を実行してください。ジョブの例については、図 1 を参照してください。メッセージをプログラマーに報告し、必要に応じて EREP 出力テープを利用できるようにしてください。

下記の例では、以下のことを想定しています。

1. システム記録ファイル (SYSREC) のラベル情報は、システムのラベル情報域に保管されます。
2. システム記録ファイルはシステム・スタートアップ時にオープンされています。

```
// JOB      jobname
(1) // TLBL  HISTOT
(1) // ASSGN  SYS009, cuu
      // EXEC  IFCEREP1
(2) DATE=(yyddd,yyddd)
(3) DEV=(nnnn)
/*
/&
```

注:

1. この 2 つのステートメントは、テープ上の (EREP) ヒストリー出力ファイルを定義します。
2. 1 週間を超えないような範囲を指定します。次の例は、3 日の範囲を指定しています。

DATE=(83135,83137)。

3. 問題の原因となる装置のタイプ・コードを指定します。

影響を受けた装置がテープまたはディスク・ドライブである場合は、装置コードの代わりにボリューム ID を指定することができます。これは、使用しているディスク装置のボリュームが取り外し不能な場合に特に有用です。

図 1. EREP を実行するのに必要な制御ステートメントのサンプル

プログラマーの応答: FCB 障害の場合は、エラーのない FCB イメージ・フェーズが \$\$BFCBxx 下でカタログされていることをチェックしてください。標準 FCB/UCB ロード・フェーズの名前については、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。UCB 障害の場合は、メッセージに示されている装置に関して、UCB イメージ・フェーズ長を指定の長さに等しくしなければなりません。フェーズを訂正して、再度カタログしてください。フェーズが正しくても印刷バッファを依然としてロードできない場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0128D **PRINTER NOT READY, TYPE 'I' OR 'D'**
IF NOT POSSIBLE TO READY CUU=*cuu*

説明: メッセージに示された印刷装置が、作動可能になっていません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 印刷装置を作動可能にして

END/ENTER を押し、システムにバッファのロード要求の処理を続行させてください。

印刷装置を作動可能にできない場合には、I または D で応答して、バッファ・ロード要求を無視させてください。D を指定すれば、さらに、該当する印刷装置が DVCDN (装置遮断)

に設定され、システムでアクセスできないようになります。

プログラマーの応答: なし。

**0I29A DYNAMIC ALLOCATION EXCEEDS
AVAILABLE SPACE BY *nK***

説明: 必要なテーブルにストレージを割り振ったら、IPL コードおよび監視プログラム・コードのためのスペースが足りなくなりました。監視プログラム・コードおよび IPL コードは *nK* バイト単位でオーバーラップします。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: ASI を使ってシステムをスタートアップさせるときは、このメッセージをプログラマーに報告してください。対話式に IPL を実行するときには、SYS コマンドのオペランド BUFSIZE の指定を調べてください。小さい方の監視プログラム、またはこれと同じ監視プログラムを使って IPL し直し、その際には、追加あるいは削除されていない未使用の装置を使ってください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。このプロシージャには、過度に大きな BUFSIZE 値の SYS コマンドが含まれている可能性があります。

**0I30I DATE=*mm/dd/yyyy*, CLOCK=*hh/mm/ss*,
ZONE=*zone/hh/mm*
THE DATE VALUE FORMAT IS
MM/DD/YYYY**

説明: 刻時機構がセット状態にある場合には、システムは初期プログラム・ロード時にこれらの値を印字します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージ中の値でよければ、なし。

メッセージ 0I18D に対する応答として、SET コマンドを以下のように入力してください。

- 日付または時刻を変更したい場合、DATE と CLOCK を指定したコマンドを入力し、TOD CLK を押してください。
- ゾーンを変更したい場合、正しいゾーン値を指定した SET コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

**0I31I DATE REQUIRED, CLOCK REQUIRED,
ZONE=*zone/hh/mm*
THE DATE VALUE FORMAT IS
MM/DD/YYYY**

説明: 刻時機構が設定されていないか、エラー状態にある場合に、システムはこのメッセージを表示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: この時点では、なし。ただし、メッセージ 0I18D に対して必要な値を指定した SET コマンドを入力し、TOD CLK を押してください。

プログラマーの応答: なし。

**0I32I TOD CLOCK INOPERATIVE. IPL
TERMINATED**

説明: このメッセージは、初期プログラム・ロード時に、刻時機構が操作可能でない場合に出されます。

システムの処置: 処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: オペレーターが時刻機構を起動可能にできなかった場合は、弊社に連絡してください。

**0I33I TOO MANY SCSI DEFINITIONS -
COMMAND IGNORED**

説明: すでに 256 個の DEF SCSI コマンドが出されています。システム初期化中のスペース制限のため、これ以上の DEF SCSI コマンドを出すことはできません。

システムの処置: コマンドは無視され、システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: プログラマーに問題を報告してください。

プログラマーの応答: すべての DEF SCSI コマンドを確認して、IPL プロシージャで実際に必要なもののみを残してください。

**0I34A *xxx=cuu*: INVALID DEVICE TYPE OR
STATUS**

説明: *xxx* が FBA の場合、DEF SCSI コマンドの FBA オペランドに、以下のいずれかである装置番号 *cuu* が指定されています。

- FBA として追加されていない
- オペランド DVCDN を持つ FBA として追加されている
- IOCDS に定義されている

FBA-SCSI ディスクを実装置として定義してはなりません。

xxx が FCP の場合、DEF SCSI コマンドの FCP オペランドに、FCP 装置として ADD コマンドで追加されていない装置番号 *cuu* が指定されています。また、IOCDS 内で FCP ではない装置に装置番号が定義されている可能性があります。

システムの処置: コマンドは拒否され、システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: エラーの内容に応じて、以下のいずれかの処置を行ってください。

- Enter を押して DEF SCSI コマンドを無視します。
- DEF SCSI コマンドの *cuu* 指定のつづりが誤っている場合は、正しいつづりに訂正して再実行します。
- 装置が ADD コマンドで正しく追加されていなかった場合は、コンソールで再 IPL して、*cuu* を DEL で削除し、ADD コマンドで正しい装置タイプを指定して装置を追加します。

プログラマーに問題を報告してください。

プログラマーの応答: IPL プロシージャ内の ADD コマンドまたは DEF SCSI コマンド、あるいはその両方のコマンドを更新して、正しい FBA または FCP の *cuu* を指定してください。

**0I35I PROCESSOR STORAGE LARGER THAN
VIRTUAL STORAGE - DPD COMMAND
IGNORED**

説明: システムはページ・データ・セットにアクセスできません。ページ・データ・セットはフォーマットされていません。

以下の項目を収容するには、プロセッサ・ストレージのサイズが十分です。

- オペランド VSIZE および VIO で指定される仮想記憶
 - 実記憶内に割り振られているシステム・スペース
- システムの処置: システムは処理を続行します。
- オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。
- プログラマーの応答: 監視プログラム・パラメーター・コマンドで NOPDS オプションを指定して、DPD コマンドを削除することによって、IPL プロシージャを変更してください。この処理を行う場合、ページ・データ・セットに割り振られたディスク・スペースを再利用する可能性もあります。

0I36D PREVIOUS COMMAND NO LONGER ACCEPTED

説明: 次のいずれかを行ってください。

- DEF、DLF、または DPD コマンドのあとに DEL または ADD コマンドが実行されました。
- 仮想記憶全体がすでにページ・データ・セット・エクステンツに対してマップされたあとに、DPD コマンドが実行されました。
- ロック・ファイルが前の DLF コマンドによってすでに割り振られたあとに、DLF コマンドが実行されました。
- SVA コマンドの処理中に SYS コマンドが実行されました (例えばエラー・メッセージに対する応答として)。
- SET DATE または SET ZONE コマンドのあとに SET ZONEDEF または SET ZONEBY コマンドが実行されました。

システムの処置: システムはコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 有効な IPL コマンドを入力してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャ) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押ししてください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャを訂正して、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0I37t *system-file* ON *cuu*: OVERLAP ON UNEXPIRED FILE *file-identifier*

説明: 指定された装置上で、指定されたシステム・ファイルのエクステンツ (ページ・データ・セットのエクステンツ、ラベル域、またはロック・ファイル) が、指定された期限未了のファイルのエクステンツとオーバーラップします。間違ったディスク・ボリュームを取り付けたものと思われる。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 正しいボリュームが取り付けられていることを確認してください。正しければ、次のいずれかを入力してください。

- DELETE (ファイルをスクラッチする)
- オーバーラップを避ける新しい定義コマンド (DPD、または DLF)

入力しない場合は、プログラマーにメッセージを報告してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャ) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押ししてください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャを訂正して、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0I38A *system-file* ON *cuu*: OVERLAP ON VTOC

説明: 名前付きシステム・ファイル (ページ・データ・セット・エクステンツ、ラベル域、またはロック・ファイル) のエクステンツ限界が、指定された装置の VTOC とオーバーラップします。間違ったディスク・ボリュームを取り付けたものと思われる。

システムの処置: システムはコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 正しいボリュームが取り付けられているかどうかを調べてください。正しければ、このメッセージをプログラマーに報告するか、このオーバーラップを避ける指定をもつ新しいコマンド (DPD、または DLF) を入力してください。

元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャ) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押ししてください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャを訂正して、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0I39D INVALID RESPONSE

説明: システムがメッセージ 0I37D または 0I80D に対する無効な応答を受け取りました。

システムの処置: システムは、前に表示されたメッセージに対する有効な応答を待ちます。

オペレーターの応答: メッセージ 0I37D または 0I80D のどちらか該当する方の説明を探し、有効な応答または有効なコマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

0I40A READY SYSREC = *cuu*

説明: 示されたディスク装置に SYSREC が定義されていますが、その装置が作動可能ではありません。

システムの処置: システムは、名前を示された装置が作動可能になるのを待ちます。

オペレーターの応答: 装置を作動可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

0I41t *system-file* ON *cuu*: NO VALID DASD

説明: *cuu* で指定された装置が次の要件のうち少なくとも 1 つを満たしていません。

1. 目的的操作でサポート対象となっているディスク装置
2. 作動可能な装置

3. 共用可能または切り替え可能 (ロック・ファイルを検索する際) であり、正しく切り替えられた装置
4. システム・スタートアップ時に定義されていた装置
5. 正しいディスク・ファイルが取り付けられている装置
6. DVCDN オペランドで追加されていないこと。

システムの処置: タイプ・コード A の場合 - システムは現在処理されているコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。タイプ・コード I の場合 - システムはメッセージ 0J31A を出し、待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 正しいボリュームが取り付けられているかどうかを調べ、正しければ、該当する IPL コマンド

(DPD、DLF、または DEF) の CUU 指定を調べてください。

正しいボリュームを取り付けるか、または訂正されたコマンドをサブミットするかの、どちらか該当するほうを行ってください。エラーを検出できない場合は、このメッセージをプログラマーに報告してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行するには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0I42D *system-file ON cuu: INVALID {CYL# cyl-no. | BLK# block-no.}*

説明: 示されたシリンダー番号またはブロック番号は、メッセージの中で参照されている装置には無効です。間違ったディスク・ボリュームを取り付けたものと思われる。

システムの処置: システムはコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 正しいボリュームが取り付けられているかどうかを調べ、正しければ、正しい CYL/NCYL または BLK/NBLK の指定を持つ新しい適切なコマンド (DPD または DLF) を入力してください。ASI を使ってシステム・スタートアップを実行している場合には、プログラマーにこのメッセージを報告してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0I43D *system-file ON cuu: DASD EXCEEDED IF {CYL# cyl-no. | BLK# block-no.}*

説明: 示されたシリンダーまたはブロックで始まるエクステントは、定義されたシステム・ファイル (ページ・データ・セット・エクステント、ラベル域、またはロック・ファイル) を取るには小さすぎます。間違ったディスク・ボリュームを取り付けたものと思われる。

システムの処置: システムはコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 正しいボリュームが取り付けられているかどうかを調べ、正しければ、正しい CYL/NCYL または BLK/NBLK の指定を持つ新しい適切なコマンド (DPD または

DLF) を入力してください。ASI を使ってシステム・スタートアップを実行している場合には、プログラマーにこのメッセージを報告してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0I44t *system-file ON cuu: NO CORRECT VOL1 LABEL*

説明: 選択された装置の VOL1 ラベルが標準でないか、またはこのラベルの検索中に該当レコードなしの状態が起きました。間違ったディスク・ボリュームを取り付けたものと思われる。

システムの処置:

タイプ・コード I の場合 - システムはメッセージ 0J31A を出し、待ち状態に入ります。

タイプ・コード A の場合 - システムはコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード A の場合 - 正しいディスク・ボリュームが取り付けられているかどうかを調べ、正しければ、DPD コマンドの指定を調べてください。正しいボリュームを取り付けて初期プログラム・ロードをやり直すか、正しい DPD コマンドをサブミットするか、どちらか適切なほうを行ってください。エラーを判別できない場合、プログラマーにこのメッセージを報告してください。

新規のコマンドをサブミットしてエラーを訂正し、システムに元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行させる場合には、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0I45t *system-file ON cuu: NO CORRECT F4 LABEL*

説明: 示された装置のボリュームの VTOC が形式 4 ラベルをもっていません。間違ったディスク・ボリュームを取り付けたものと思われる。

システムの処置:

タイプ・コード I の場合 - システムはメッセージ 0J31A を出し、待ち状態に入ります。

タイプ・コード A の場合 - システムはコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード A の場合 - 正しいディスク・ボリュームが取り付けられているかどうかを調べ、正しければ、DPD コマンドの指定を調べてください。正しいボリュームを取り付けて初期プログラム・ロードをやり直すか、正しい DPD

コマンドをサブミットするか、どちらか適切なほうを行ってください。エラーを判別できない場合、プログラマーにこのメッセージを報告してください。

新規のコマンドをサブミットしてエラーを訂正し、システムに元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行させるためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0146A **VOLID *volume-id* DOES NOT MATCH WITH VOLID *volume-id* ON *cuu***

説明: DPD コマンドに指定されたボリューム ID が、示された装置に取り付けられたディスク・ボリュームのボリューム ID と同じではありません。間違ったディスク・ボリュームを取り付けたものと思われる。

システムの処置: システムは現在処理されているコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 正しいディスク・ボリュームが取り付けられているかどうかを調べ、正しければ DPD コマンドの指定を調べてください。正しいボリュームを取り付けて初期プログラム・ロードをやり直すか、正しい DPD コマンドをサブミットするか、どちらか適切なほうを行ってください。エラーを判別できない場合、プログラマーにこのメッセージを報告してください。新しいコマンドを入力してエラーを訂正し、システムに元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行させるためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0147A **VOLUME *volume-id* NOT ACCESSIBLE**

説明: 示された ID をもつディスク・ボリュームは、ADD コマンドで定義された装置に取り付けられていないか、または DVCDN オペランドで追加されています。

システムの処置: システムはコマンドを拒否し、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: ADD コマンドで定義された装置にボリュームを再度取り付けるか、またはシステムのスタートアップを繰り返して、正しい ADD コマンドでボリューム装置を定義してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正してください。

0148D ***nnn* EXISTS AS VOLID AND UNIT ADDRESS. USE QUOTES FOR VOLID, ELSE HIT ENTER**

説明: DEF コマンドに指定された値 (SYSREC=*nnn* または SYSCAT=*nnn*) がボリューム ID と装置アドレスの両方に該当しています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: *nnn* が装置アドレスである場合、END/ENTER を押してください。それ以外の場合は、以下のように引用符を使って DEF コマンドを再サブミットしてください。

```
SYSREC='nnn'
SYSCAT='nnn'
```

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、以下の「オペレーターの応答」に示されるように、ボリューム ID の指定に引用符を使用するか、両者を明確に区別することによって、以後このメッセージが出されないようにしてください。

0149I **LABEL AREA ON VDISK - DLA COMMAND IGNORED**

説明: 現在、ラベル域が IPL に割り振られなくなっており、物理ディスクにラベル域がなくなります。ラベル情報が保持されるのは、仮想ディスクだけになります。

システムの処置: DLA コマンドは無視され、システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告し、今後同じ問題が発生しないようにしてください。

プログラマーの応答: IPL プロシージャーから DLA コマンドを除去してください。

0150D **ENTER DPD COMMAND**

説明: SVA コマンドが入力されましたが、その前に正しい DPD コマンドがありません。

システムの処置: システムは現在処理中のコマンドをバッファーに入れ、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: SYSLOG 装置から DPD コマンドを入力してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正して、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0151A ***system-file* ON *cuu*: VTOC FULL**

説明: 示された装置のディスク・ボリュームの VTOC がいっぱいです。間違ったディスク・ボリュームを取り付けたものと思われる。

システムの処置: システムは現在処理されているコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 正しいディスク・ボリュームが取り付け

られているかどうかを調べてください。正しければ、プログラマーにメッセージを報告するか、新しい DPD、または DLF コマンドを入力して別のボリュームのファイルまたはエクステンツを定義してください。ボリュームが間違っている場合には、正しいボリュームを取り付けて、システム・スタートアップをやり直してください。

新規のコマンドをサブミットして元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行するには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0152I *system-file* **ON cuu: LOW HIGH**
{CC HH | BLOCK}: xxxxxxxx xxxxxxxx
[PAGE NUMBER: xxxxxxxx xxxxxxxx]
[VIO START PAGE NUMBER: xxxxxxxx
]

説明: 名前付きシステム・ファイルの形式設定後、システムはファイルの上限と下限を表示します。またシステム・ファイルがページ・データ・セットである場合は、最後のページ (仮想入出力プールでもあります) の番号を表示します。VAE システム環境では、表示されるのはページ番号ではなくページ・データのレコード番号です。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0153A **SERVICE CALL ABNORMAL COMPLETION**

説明: システム初期化ルーチンはサービス呼び出し論理プロセッサからハードウェア・プロパティ情報を要求しましたが、要求が正常に完了しませんでした。SCLP 機能が正常に作動していない可能性があります。

システムの処置: システムは終了します。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: IBM サポートに連絡してください。

0154A **PHASE *phasename* COULD NOT BE LOADED. IPL TERMINATED. LOAD RC = X'*nn*'**

説明: IPL 時に *phasename* で指定されたフェーズをロードしようとしたのですが、示されている戻りコード *nn* を LOAD 操作から受け取りました。

IPL した装置がテープであれば、テープは読み取り不可能 (*nn* は 8) であるか、無効なデータを含んでいます (*nn* は 28 か 2C)。

その他の場合はすべてシステム・エラーです。

システムの処置: IPL は終了します。

オペレーターの応答: この問題が独立型リストアの間に発生した場合は、正しいテープが取り付けられていること、およびテープが読み取り可能であることを確認してください。

システム・エラーの場合は、システムに独立型ダンプをとらせ、メッセージを報告する場合は、ダンプの結果をシステム・プログラマーに渡してください。システムに独立型ダンプをとらせる方法については、「z/VSE *Diagnosis Tools*」を参照してください。

プログラマーの応答: 既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE *Guide for Solving Problems*」を参照してください。

0155A **SERVICE CALL PROCESSOR NOT INSTALLED**

説明: 基本的なサービス呼び出し論理プロセッサ機能がインストールされていないハードウェアで、システムが初期化されています。

システムの処置: システムは終了します。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: IBM サポートに連絡して、ハードウェアをアップグレードしてください。

0156A **SERVICE CALL PROCESSOR NOT OPERATIONAL**

説明: システム初期化ルーチンがサービス呼び出し論理プロセッサと通信しようとしたが、応答がありませんでした。

システムの処置: システムは終了します。

オペレーターの応答: サービス呼び出し論理プロセッサが作動可能であることを確認してから、システムを IPL してください。問題が再発する場合には、プログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: IBM サポートに連絡してください。

0157A **UNSUPPORTED PROCESSOR - EXTENDED S/390 INSTRUCTION FACILITY REQUIRED**

説明: *immediate-and-relative-instruction* 機能または *compare-and-move-extended-instruction* 機能として拡張 390 アーキテクチャーをサポートしていないハードウェアで、システムが初期化されています。

システムの処置: システムは終了します。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: IBM サポートに連絡して、ハードウェアをアップグレードしてください。

0158D **VSAM SUPPORTED BUT SYSCAT NOT ASSIGNED**

説明: 論理装置 SYSCAT が割り当てられていません。

VSE/VSAM を使用する場合は、SYSCAT を割り当てる必要があります。

システムの処置: IPL は新しいコマンドを待ちます。

オペレーターの応答: SYSCAT が必要な場合、SYSCAT を DEF コマンドで定義してください。不要な場合、ヌル行か別の IPL コマンドか、どちらか適切な方を入力してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマ

ンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。SYSCAT の割り当てが不要である場合は、SYSCAT=UA をプロシージャーに含めてください。

0159I INTERVAL TIMER SUPPORT NOT ACTIVE

説明: 時刻比較機構をセットできません。

システムの処置: インターバル・タイマー・サポートは抑止されたまま、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0160D ENTER DEL COMMAND

説明: 独立型の処理の間に、作動可能状態の装置が多すぎるものが検出されました。監視プログラム中に、装置制御情報用のスペースが十分にありません。

必要がないすべての装置を DEL コマンドで削除してください。先に出されたメッセージ 0J74D に、削除する装置の数が示されています。

システムの処置: システムはシステム・コンソールから DEL コマンドが入力されるのを待ちます。他のコマンドは受け付けられません。

オペレーターの応答: システム・コンソールから DEL コマンドを入力してください。コマンドにより不必要な装置が削除されると、システムは処理を続行します。それでもシステムが入力を待つ場合、さらに DEL コマンドを入力するか、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: なし。

0161A xxx=cuu: DEVICE NUMBER DOES NOT EXIST

説明: xxx=cuu で示された FBA 装置または FCP 装置の ADD コマンドがありません。

システムの処置: コマンドは拒否され、システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: エラーの内容に応じて、以下のいずれかの処置を行ってください。

- Enter を押して DEF SCSI コマンドを無視します。
- DEF SCSI コマンドの cuu 指定のつづりが誤っている場合は、正しいつづりに訂正して再実行します。
- 装置が ADD コマンドで追加されていない場合は、コンソールで再 IPL して FBA 装置または FCP 装置を ADD コマンドで追加します。

プログラマーに問題を報告してください。

プログラマーの応答: FBA 装置または FCP 装置の ADD コマンドを IPL プロシージャーに追加してください。

0162D DUPLICATE DEF SCSI COMMAND

説明: DEF SCSI コマンドが、先に出された DEF SCSI コマンドのうちの 1 つと同じです。

システムの処置: コマンドは無視され、システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: Enter を押して重複しているコマンドを無視するか、コマンドのつづりが誤っている場合は正しいつづりに訂正して再実行してください。

プログラマーに問題を報告してください。

プログラマーの応答: IPL プロシージャーを調べて、DEF SCSI コマンドを除去または訂正してください。

0163D ASSIGN SYSREC VIA DEF COMMAND

説明: SYSREC の割り当てがありません。

システムの処置: システムは、DEF コマンドによる SYSREC の割り当てを受け取るまで、オペレーターにこの指示 (プロンプト) を出し続けます。

オペレーターの応答: SYSREC について DEF コマンドを入力してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0164D INPUT FILE EXHAUSTED. ENTER MISSING IPL COMMANDS FROM THIS CONSOLE

説明: データ終了状態に達しました。

システムの処置: システムは SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- 欠落している IPL コマンドを入力して、初期プログラム・ロードを完了してください。
- 別の IPL コマンドのセットを使って、初めからシステム・スタートアップをやり直してください。

メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0167D SPECIFIED PARAMETERS INCONSISTENT WITH PREVIOUS DEF COMMANDS

説明: DEF SCSI コマンドに指定された FBA 値または LUN 値が、以下のいずれかの理由で無効です。

- 先にある DEF SCSI コマンドに、異なる LUN で同じ FBA 装置番号が指定されています。
- 先にある DEF SCSI コマンドに、異なる FBA 装置番号で同じ LUN が指定されています。

システムの処置: コマンドは拒否され、システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: Enter を押して無効なコマンドを無視するか、コマンドのつづりが誤っている場合は正しいつづりに訂正して再実行してください。プログラマーに問題を報告してください。

プログラマーの応答: FCP ネットワークが正しく構成されていることを確認して、すべての DEF SCSI コマンドで構成データが正しく指定されているかどうかを調べてください。

0168A *supervisor-name* INCOMP. CODE=*nm*

説明: ハードウェア環境またはロードされた監視プログラムが不適当です。 *nm* には、次のようなコードを表示します。

- 00 = 監視プログラムおよび IPL ルーチンをロードするにはストレージが足りません。ストレージに欠陥があるために、実記憶が少なくなっている可能性があります。
- 01 = 間違った監視プログラムがロードされました。ESA ハードウェアにとって、ロードされた監視プログラムは無効とみなされます。
- 02 = ハードウェアが不適切です。プロセッサは ESA モードでは作動しません。
- 03 = SYSRES の中で IPL ブートストラップ・フェーズが置き換えられていません。
- 04 = 間違った監視プログラムがロードされました。監視プログラムのリリースまたはサービス・レベルが正しくありません。ユーザー専用の監視プログラムを再コンパイルしていなかったか、または正しいマクロ・ライブラリーを使用しなかったことが考えられます。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 正しいディスク・ボリュームで IPL したことを確認してください。IPL をやり直してください。

プログラマーの応答: VM 環境で VSE システムを使用している場合は、DEF STOR コマンドに小さすぎる値を定義したか、または誤った仮想マシン・モードの設定を行った可能性があります。

0169I INIT. OF 3800 PRINTER IN PROCESS CUU=*cuu*

説明: 表示されたアドレスの IBM 3800 印刷サブシステムが初期設定中です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0170I INIT. OF 3800 PRT FAILURE CUU=*cuu*

説明: 3800 印刷サブシステムのハードウェア障害 (装置チェック) が起こりました。

システムの処置: 処理を続行します。ただし、印刷装置の初期設定で障害が起こると、以降のジョブに対するセットアップはエラーになり、予測できません。

オペレーターの応答: この前に出された OPxxt メッセージを見て、障害の原因を究明してください。そうしたメッセージ OPxxt が出されていない場合には、いったん電源をオフにしてからもう一度オンにし、印刷装置を再度初期設定してください。

い。それでも問題が解決されない場合には、このメッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 最初の発生時には、なし。問題が解決しない場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0171I ACTUAL DEVICE TYPE AND STANDARD OPTIONS SET FOR CUU=*cuu*

説明: ADD コマンドで指定された装置タイプが、示された装置アドレスにある装置のタイプと一致していません。

システムの処置: システムは、そのアドレスにある装置の (内部) 装置タイプ・コードを記録し、指定された ADD オプションが標準オプションにリセットされます。装置が DASD の場合、データの保全性のために、SHR オプションはリセットされません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: このメッセージが再び出されないようにするには、該当する ASI IPL プロシーチャーを訂正してください。

0172I CUU=*cuu* DEVICE RECOGNITION FAILED

説明: 指定された装置では、入出力操作が 15 秒を超えて進行中です。

システムの処置: システムは、次の装置のセンシングを続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 装置にハードウェア関連の問題がないか検査してください。

0173A *system-file* ON *cuu*: READY DEVICE

説明: 示されたディスク装置は DPD、または DLF コマンドにより定義されましたが、作動可能にされていません。

システムの処置: システムは装置が作動可能になるのを待ちます。

オペレーターの応答: 装置を作動可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

0174A SYSTEM GETVIS FAILURE. IPL TERMINATED WITH CANCEL CODE = *nm*

説明: IPL で、システム GETVIS 域に受け取ったスペースが十分ではありません。取り消しコードは要求の種類を示します。

- 02 JPL GETVIS
- 03 \$INITSYS GETVIS
- 05 GETVIS INITIALIZATION FAILED

これはシステム・エラーです。

システムの処置: IPL は終了します。

オペレーターの応答: 独立型ダンプ・プログラムを実行し、問題判別に利用できる以下のものを準備してください。

- ダンプ出力
- 監視プログラム・リスト
- 経過記録用紙 (ログ・シート)

- システム・ヒストリー・リスト

プログラマーの応答: 既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

0I75D *system-file ON cuu: CYL/BLK SPEC.*
INVALID

説明: 現在処理中のコマンドの CYL/BLK 指定が、指定された装置のタイプに合っていません。

システムの処置: システムはコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: UNIT オペランドに指定された装置に適合する CYL/BLK 指定を持つ、新規の正しいコマンドを入力してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行するためには、

END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0I76t *system-file ON cuu: I/O ERROR READING*
VOL1 LABEL

説明: システムが VOL1 ラベルを読み取っている際に入出力エラーが発生したか、このラベルの検索中に該当レコードなしの状態が起きました。間違ったディスク・ボリュームを取り付けたものと思われます。

システムの処置:

タイプ・コード I の場合 - システムはメッセージ 0J31A を出します。

タイプ・コード A の場合 - システムは現在処理されているコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード A の場合、DPD コマンドの指定を確認してください。正しい DPD コマンドをサブミットしてください。エラーを判別できない場合、プログラマーにこのメッセージを報告してください。

新規のコマンドをサブミットしてエラーを訂正し、システムに元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行させるためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: オペレーターがエラー状態を解消できない場合には、装置サポート機能プログラムの INSPECT 機能を使用して、該当するディスク・ボリュームの記録面分析を行い、必要ならば代替トラックを割り当ててください。最新のバックアップを使って、ボリューム・ラベルおよび VTOC も含め、ボリューム上のデータを再作成してください。

0I77t *system-file ON cuu: I/O ERROR READING*
THE VTOC

説明: システムが形式 4 ラベルを読み取っていた際に、入出力エラーが発生しました。

システムの処置:

タイプ・コード I の場合 - システムはメッセージ 0J31A を出します。

タイプ・コード A の場合 - システムは現在処理されているコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コードが A の場合に適用されます。DPD、または DLF コマンドの指定を調べ、エラー状態のコマンドを訂正し、再サブミットしてください。エラーを判別できない場合、プログラマーにこのメッセージを報告してください。新たにコマンドを入力し、システムに元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行させるためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: オペレーターがエラー状態を解消できない場合には、装置サポート機能プログラムの INSPECT 機能を使用して、該当するディスク・ボリュームの記録面分析を行い、必要ならば代替トラックを割り当ててください。最新のバックアップを使って、ボリューム・ラベルおよび VTOC も含め、ボリューム上のデータを再作成してください。

0I78t *system-file ON cuu: COMMON VTOC*
HANDLER WORK AREA TOO SMALL

説明: 使用できるプロセッサ・ストレージが小さすぎるため、IPL ルーチンおよび監視プログラムを収容できず、必要なラベル処理を行うことができません。

システムの処置:

タイプ・コード I の場合 - システムはメッセージ 0J31A を出し、待ち状態に入ります。

タイプ・コード A の場合 - システムは現在処理されているコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答:

タイプ・コード I の場合 - なし。

タイプ・コード A の場合 - 正しいボリュームが取り付けられているかどうか検査してください。ボリュームが間違っていない場合には、プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: 不要なオプションを削除して、監視プログラムを再アSEMBルすることを検討してください。オペレーターに、より小さな監視プログラムを使用してシステム・スタートアップを行うように依頼してください。

ページ・データ・セットまたはラベル域を FBA ディスクに割り振る場合には、より小さな CI サイズを指定するか、かわりに CKD 装置を使用することもできます。前に使用したレベルの VSE システムを使用する必要がある場合もあります。

0I79t *system-file ON cuu: COMMON VTOC*
HANDLER RETURN CODE = nn

説明: VSE システムのコンポーネントである共通 VTOC 処理ルーチンから、予期しない戻りコードが戻されました。このコードについては、633 ページの『共通 VTOC ハンドラー (CVH) 戻りコード』を参照してください。

システムの処置:

タイプ・コード I の場合 - システムはメッセージ 0J31A を出し、待ち状態に入ります。

タイプ・コード A の場合 - システムは現在処理されているコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード A の場合 - 別の UNIT=*cuu* 指定を持つ適切な IPL コマンド (DPD、または DLF) を入力してください。前に使用したレベルの VSE システムを使用する必要がある場合もあります。

エラーが再発する場合には、システムで独立型ダンプを取ってください。システム・スタートアップをやり直し、プログラマーにこのメッセージの発生を報告してください。独立型ダンプをとる方法については、「z/VSE *Diagnosis Tools*」を参照してください。

プログラマーの応答: IPL プロシージャを変更して、該当する IPL コマンド (ページ・データ・セットの場合は DPD、ロック・ファイルの場合は DLF) に別の UNIT=*cuu* を指定してください。

0180D *system-file* ON *cuu*: DUPLICATE NAME ON VOLUME *file-identifier*

説明: 名前を示された装置のボリュームの VTOC には、メッセージに表示されたファイル ID を持つ形式 1 ラベルがすでにあります。ファイル ID の形式は、「DOS.LOCK.FILE」です。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 以下のコマンドのうち、適切なものを入力してください。

- DELETE (古いファイルをスクラッチする場合)
- IGNORE (古いファイルを使用する場合)
- DLF コマンド (新規のロック・ファイルの場合)

元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャ) から IPL コマンドの処理を続行するには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0181I RECORDER FILE OPEN FAILED. RF=CREATE FORCED

説明: システムは、レコーダー・ファイルが前もって (初期プログラム・ロードの後の最初の JOB ステートメントに先行する SET RF=CREATE により) 作成されていなかったため、このレコーダー・ファイルをオープンすることができませんでした。

システムの処置: システムはレコーダー・ファイルを形式設定してオープンし、処理を実行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0182A INSUFFICIENT STORAGE. MINIMUM REQUIRED IS *xxxxxK*

説明: 次の区域間のスペース、すなわち

- 24 ビット共用域と 31 ビット共用域、または
- 24 ビット共用域とアドレス・スペースの終止点

は、以下の項目で必要とされるスペースとしては不十分です。

最低限度の専用区域の割り振り、または
必要なサイズの専用区域の割り振り

システムは、共用区域および私用区域を割り振るのに必要な仮想記憶の量を、KB および MB 単位で表示します。小さめの値を使えば IPL は成功しますが、この場合は、PASIZE が減らされるか、または PASIZE 全体および最終 SPSIZE は割り振られません。

VSIZE が最大アドレス・スペース (ESA: 2048 MB) よりも小さいときは、それより大きい VSIZE を指定してください。

VSIZE が最大アドレス・スペースより大きいか等しい場合は、SVA または SPSIZE を減らしてください。ページ・データ・セットなしの環境では、プロセッサ・ストレージには、最小限度の専用区域、指定された大きさの共用区域、および VIO スペースを組み込めるだけの大きさがなければなりません。プロセッサ・ストレージの大きさが不十分だと、このメッセージを受信します。したがって、より小さい値の SVA か SPSIZE を指定して共用区域を減らすか、またいずれかの VIO の指定を減らしてください。VM で実行している場合、仮想マシンのストレージを増やしてください。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: メッセージが表示されたことをシステム・プログラマーに報告し、用意されていれば、操作可能バックアップ・システムをスタートアップしてください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャを訂正して、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0183A PHASE \$\$A\$SVA IS NOT IN SYSTEM LIBRARY. IPL TERMINATED

説明: SVA ロード・リストのフェーズ \$\$A\$SVA がシステム・ライブラリー中に見つかりません。間違ったディスク・ボリュームを取り付けたものと思われます。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 正しいディスク・ボリュームが取り付けられているかどうかを調べ、必要なら、正しいボリュームを取り付けてください。誤ったディスク・ボリュームの取り付けがエラーの原因でない場合は、プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: 可能であれば、別の VSE システム (例えば、バックアップ・システム) を使ってフェーズ \$\$A\$SVA をシステム・ライブラリー中にカタログしてください。それが不可能であれば、システム・ライブラリーのバックアップをリストアしてください。

0184I FOLLOWING LOADLISTS FOR SVA-LOAD WERE NOT FOUND: *name [,name, ...]*

説明: 示されたロード・リストは、システム・ライブラリーに含まれていません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 示されたロード・リストの影響を受けるフェーズが操作に必要な場合は、ロード・リストをシステム・ライブラリーにカタログしてください。

0185I SVA LOAD FAILURE FOR: name [,name, ...]

説明: 指定されたフェーズがシステム・ライブラリーにカタログされていません。名前がロード・リストに組み込まれていても、SVA 適格ではありません。間違ったディスク・ボリュームを取り付けたものと思われます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 指定されたフェーズが必要な場合、フェーズをシステム・ライブラリーにカタログするか、SVA 適格で再リンクしてください。どちらでもかまいません。

前に使用された VSE システムを使用する必要がある場合もあります。

0186D INVALID KEYWORD *keyword*

説明: 現在処理中のコマンドには、メッセージで指摘されたキーワードを指定することができません。

システムの処置: システムはコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: コマンドを入力し直すか、END/ENTER を押してシステムにコマンドを無視させてください。ASI によるシステム・スタートアップ時に出された場合、このメッセージをプログラマーに報告してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正して、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0187D INVALID SPECIFICATION FOR KEYWORD *keyword*

説明: 名前を示されたキーワードに指定された値が正しくありません。

システムの処置: システムは現在処理されているコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: コマンドを入力し直すか、END/ENTER を押してシステムにコマンドを無視させてください。ASI によるシステム・スタートアップ時に出された場合、このメッセージをプログラマーに報告してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正して、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0188D DUPLICATE KEYWORD *keyword*

説明: 表示されたキーワードが、現在処理されているコマンドで 2 回以上現れています。

システムの処置: システムはコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: コマンドを入力し直すか、END/ENTER を押してシステムにコマンドを無視させてください。ASI によるシステム・スタートアップ時に出された場合、このメッセージをプログラマーに報告してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正して、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0189D MISSING KEYWORD(S)

説明: 現在処理されているコマンドで、1 つまたは複数のキーワードが欠落しています。

システムの処置: システムはコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: コマンドを入力し直すか、END/ENTER を押してシステムにコマンドを無視させてください。ASI によるシステム・スタートアップ時に出された場合、このメッセージをプログラマーに報告してください。SET コマンドが、ADD コマンドの後にある最初のコマンドであることも確認する必要があります。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正して、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0190A TOO MANY SDL SYSTEM ENTRIES. IPL TERMINATED

説明: システム・フェーズを共用仮想記憶域 (SVA) にロードするためには、1022 個以上のシステム・ディレクトリー項目を作成する必要があります。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 独立ダンプを取得し、このメッセージを報告する時にプログラマーが使用できるようにしてください。独立型ダンプをとる方法については、「z/VSE *Diagnosis Tools*」を参照してください。

プログラマーの応答: 既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE *Guide for Solving Problems*」を参照してください。前に使用された VSE システムを使用する必要がある場合もあります。

**01911 TOO MANY SDL ENTRIES SPECIFIED.
 ONLY *number* RESERVED**

説明: システムの SDL 項目数と SVA コマンドに指定された数の合計が 1021 を超えています。メッセージは、非システム用に予約された項目の数を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

01921 FCP=*cuu* NOT OPERATIONAL

説明: 接続されている FCP アダプター *cuu* が作動していないため、FBA-SCSI ディスクへの接続をオープンできません。このメッセージは、ターゲット FBA *cuu* および接続されている FCP アダプターの構成データを表示するメッセージ 0S40I の後に出力されます。接続構成が正しく指定されている場合、FBA-SCSI ディスクは FCP アダプターがオンラインになるとすぐにアクセスできるようになります。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: DEF SCSI コマンドで、接続構成が正しく指定されているかどうかを確認してください。

**01931 UNATTENDED NODE DEFAULT IPL
 DISK *xxxxxx* NOT AVAILABLE**

説明: 基本または代替の IPL 装置 (SYS PRIM IPL=..., ALTIPL=...) の指定を行わずに不在ノード・システムを初期設定したためにシステム・エラーが起きた場合には、システムは再 IPL を実行できなくなります。システムは、デフォルト・ボリューム *xxxxxx* を想定しますが、このボリュームがオンラインになっていません。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題をシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 該当する ASI プロシージャを訂正するか、またはこのメッセージに示されるボリュームがオンラインであるかどうか確認してください。

**0194A PHASE *phase-name* NOT FOUND. IPL
 TERMINATED**

説明: 名前を示されたフェーズがシステム・ライブラリー中にあるか、または、システム・ディレクトリー・リストに項目がありません。間違ったディスク・ボリュームを取り付けたものと思われる。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 正しいディスク・ボリュームが取り付けられているかどうかを調べ、必要なら、正しいボリュームを取り付けてください。誤ったディスク・ボリュームの取り付けがエラーの原因でない場合は、プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: 可能であれば、別の VSE システムを使って欠落フェーズをカタログしてください。それが不可能であ

れば、システム常駐ボリュームをリストアしてください。前に使用された VSE システムを使用する必要がある場合もあります。

**0195A NOT ENOUGH STORAGE FOR SDL. IPL
 TERMINATED**

説明: システム・ライブラリーのディレクトリーの項目を読み取るための、利用可能なストレージが十分にありません。

システムの処置: IPL は終了します。

オペレーターの応答: 表示されたメッセージをシステム・プログラマーに報告し、訂正処置を依頼してください。

プログラマーの応答: VM 仮想マシンを使用している場合には、DEF STOR コマンドに指定した値が小さすぎると思われます。オペレーターからこのメッセージが報告された場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。前に使用された VSE システムを使用する必要がある場合もあります。

0196I INVALID SPECIFICATION

説明: メッセージ 0I03D に対する応答が無効であるか、または ASI IPL プロシージャの最初のステートメントの情報が正しく指定されていません。

システムの処置: システムはメッセージ 0I03D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**0197A *system-file* ON *cuu*: FILE NOT FOUND
 *file-identifier***

説明: 名前を示された装置のディスク・ボリュームの VTOC が、示されたファイル ID を持つ形式 1 ラベルを含んでいません。間違ったディスク・ボリュームを取り付けたものと思われる。ファイル ID の形式は、「DOS.LOCK.FILE」です。システムの処置: システムは現在処理されているコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 正しいディスク・ボリュームが取り付けられているか、また対話式 IPL の場合に DLF コマンドの指定が正しいかを調べてください。必要に応じて訂正処置を取ってください。このメッセージの発生原因がコマンドの指定でも、ディスク・ボリュームでもない場合には、システム・プログラマーにこのメッセージが出たことを報告してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャ) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押ししてください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

01981 FBA=cuu1,FCP=cuu2: I/O ERROR

説明: 接続されている FCP アダプター *cuu2* で入出力問題が発生したため、FBA-SCSI 装置 *cuu1* にアクセスできません。このメッセージは、エラーの原因の詳細情報を示すメッセージ 0S40I の後に出されます。FCP アダプターが再び作動するようになったときに、FBA-SCSI ディスクもアクセスできるようになります。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: プログラマーに問題を報告してください。

プログラマーの応答: ネットワーク管理者に連絡してください。

0199t system-file ON cuu: OVERLAP ON**UNEXPIRED SECURED FILE *file-identifier***

説明: 名前付きシステム・ファイル (ページ・データ・セット・エクステント、ラベル域、またはロック・ファイル) のエクステント限界が、示された装置のエクステント限界と重なっています。間違ったディスク・ボリュームを取り付けたものと思われます。

システムの処置:

- タイプ・コード D の場合
 - システムはオペレーターの応答を待ちます。
- タイプ・コード A の場合
 - システムは現在処理されているコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

システムは現在処理されているコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 正しいディスク・ボリュームが取り付けられていることを確認してください。正しければ、次のいずれかを入力してください。

- タイプ・コード D の場合
 - DELETE (ファイルをスクラッチする)
 - オーバーラップを避ける新しい定義コマンド (DPD)
- タイプ・コード A の場合
 - オーバーラップを避ける新しい定義コマンド (DPD、または DLF)

誤ったディスク・ボリュームの取り付けがエラーの原因でない場合は、プログラマーにこのメッセージを報告してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行するには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0J01I IPL=procname, JCL=procname,

説明: ASI は、使用される IPL および JCL プロシージャーをリストします。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0J02D cuu-SYSLOG NOT IN CDL. HIT REQUEST/ENTER

説明: 示された SYSLOG 装置アドレス (*cuu*) が、カタログされた通信装置リスト (CDL) に含まれていません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: SYSLOG で END/ENTER を押し、通常の処理を続行してください。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: CDL 中か、ASI IPL プロシージャー内の、どちらか該当する方の SYSLOG 装置アドレスを訂正してください。

0J03D cuu-INVALID SYSLOG ADDRESS. HIT REQUEST/ENTER

説明: 示された SYSLOG 装置アドレスが、有効な入出力装置アドレスではありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: SYSLOG で END/ENTER を押し、通常の処理を続行してください。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ASI IPL プロシージャーの SYSLOG 装置アドレスを訂正して、以後このメッセージが表示されないようにしてください。

0J04I procedure-name PROCEDURE NOT FOUND

説明: 指定された ASI プロシージャーをシステム・ライブラリー中に見つけることができません。入力エラーが原因と思われる。

システムの処置: システムはメッセージ 0I03D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 入力エラーが原因ではない場合、指摘されたプロシージャーをインストールし、以降このメッセージが表示されないようにしてください。

0J05D ASI STOP. ENTER COMMANDS, HIT END/ENTER TO CONTINUE

説明: 上記のメッセージに先立つコマンドの処理の前に、ASI IPL の停止が要求されています。

システムの処置: システムは SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 要求に従って、更新済みまたは新しいコマンドを入力してください。システムに ASI 処理を続けさせるには、END/ENTER キーを押してください。システムは、ASI 停止を起こしたコマンドの処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

0J06I UNATTENDED NODE FUNCTION SOFTWARE RE-IPL RESET. CODE=*n*

説明: システム・エラーの場合には、再 IPL を実行できなくなります。理由は値 *n* によって示されます。

- 1 主 IPL 装置として指定された装置が原因で、GETVCE サービスが失敗しました。これは、SYS PRIM IPL=... オペランドが正しく指定されていないために起きることがあります。

- 2 主 IPL 装置と代替 IPL 装置はどちらも、現在 IPL されている装置ではありません。SYS PRIM IPL=... オペランドまたは SYS ALTIPL=... オペランドが正しく指定されていません。
- 3 刻時機構がセットされていないか、作動不能であるか、または刻時機構にエラーがあります。
- 4 再 IPL 制御レコードの更新中に入出力エラーが起きました。ディスクが壊れている可能性があります。

システムの処置: システムは処理を続行します。システム・エラーの場合は、再 IPL は実行されません。

オペレーターの応答: 問題をシステム・プログラマーに報告し、訂正処置を依頼してください。

プログラマーの応答: 必要なら、ASI プロシージャを訂正してください。オペレーターが刻時機構を作動可能にできなかった場合は、弊社に連絡してください。

0J07I *procedure-name* END OF DATA

説明: この名前の ASI プロシージャには、制御ステートメントも制御コマンドも含まれていません。

システムの処置: システムはメッセージ 0I03D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 名前を示された ASI プロシージャをカタログして、今後このメッセージが表示されないようにしてください。

0J08I VPOOL SIZE LARGER THAN *xxM*

説明: VPOOL の指定は、指定可能な最大値を超えています。

システムの処置: システムはメッセージ 0I03D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0J09I VIO SIZE NOT WITHIN *xxxxxK* AND *xxxM*

説明: VIO サイズに指定された値が許容最小値 *xxxxxK* に満たないか、または許容最大値 *xxxM* を超えています。 *xxxxxK* に入る値は VPOOL の指定によって異なります。 *xxxM* にはシステムによって指定される一定の値が入ります。

システムの処置: システムはメッセージ 0I03D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0J10I IPL RESTART POINT BYPASSED

説明: IPL により、その ASI 再始動機能が非活動化されました。外部割り込みは、IPL からは処理されなくなります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。ただし、必要な場合は、最初からシステム・スタートアップをやり直すことができます。

プログラマーの応答: なし。

0J11D PDS EXT *nn* ON *cuu*: OVERLAP WITH PDS EXTENT

説明: 名前を示されたページ・データ・セット・エクステントが、前にシステムに定義したページ・データ・セット・エクステントと重なり合います。

システムの処置: システムは現在処理されているコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 新しい DPD コマンドを入力して、この重なり合いを防止してください。ASI によるシステム・スタートアップ時に出された場合、このメッセージをプログラマーに報告してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャ) から IPL コマンドの処理を続行するには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0J12D PDS EXT *nn* ON *cuu*: TOO MANY EXTENTS ON VOLUME. ONLY 3 ALLOWED

説明: 示されたボリュームにすでに 3 つのエクステントが割り振られているため、示されたページ・データ・セット・エクステントを割り振ることができません。

システムの処置: システムはコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: UNIT オペランドに別の装置アドレスを指定して、新しい DPD コマンドを入力してください。ASI によるシステム・スタートアップ時に出された場合、このメッセージをプログラマーに報告してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャ) から IPL コマンドの処理を続行するには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0J13D PAGE DATA SET EXTENT(S) TOO SMALL

説明: 定義されたデータ・ページ・セットが、(ESA および 370 モードでは VSIZE と VIO によって) 定義された全仮想記憶をマップするには小さすぎます。

システムの処置: システムは現在処理されているコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: NBLK または NCYL オペランドにより大きい値を指定しているか、またはこのオペランドを除外している、新しい DPD コマンドを入力してください。ASI によるシステム・スタートアップ時に出された場合、このメッセージをプログラマーに報告してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャ) から IPL コマンドの処理を続行するには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステムのスタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシ

ジャーを訂正し、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0J14D ENTER NEXT DPD EXTENT DEFINITION

説明: 仮想記憶を完全にマップするには、別のページ・データ・セット・エクステントが必要です。

システムの処置: システムは SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: DPD コマンドを入力してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャ) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャを訂正して、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0J16D PDS EXT nm ON cuu: NBLK SPECIFICATION TOO SMALL

説明: 指定されたブロック数が、指定されたページ・データ・セット上に、少なくとも 1 ブロック分のページをマップするには不十分です。

システムの処置: システムは現在処理されているコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: NBLK オペランドにより大きい値を指定して、DPD コマンドを入力してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャ) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャを訂正して、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0J17A TOO MANY DEVICES DEFINED IN THE IOCDs

説明: 統合コンソールが、システム・コンソールとして選択されました。しかし、IOCDs に指定された装置の数と統合コンソールの数の合計が、VSE のサポートできる装置の最大数を超えているために、システムは統合コンソールを使用できません。

システムの処置: システムは終了し、低コアのハードウェア・ウェイト・コードを返します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 該当する IOCDs を訂正してください。

0J18D NECESSARY SECURITY PHASES NOT FOUND. SEC=NO ASSUMED DO YOU WANT TO CONTINUE? REPLY 'YES' OR 'NO'

説明: アクセス制御機能を活動化するために、SYS コマンドに SEC=YES が指定されていますが、フェーズのカタログができなかったか、またはロード・リスト \$SVASEC がダミー・フェーズ

であるため、必要なフェーズをシステムの SVA にロードすることができません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: アクセス制御機能なしにシステムをスタートアップしたくない場合、'NO' と入力して IPL を終了させてください。アクセス制御機能を非活動化しておいてシステムに処理を続行させる場合は、'YES' と入力してください。

無人ノードの場合、'YES' と応答したものとみなされます (SEC=NO で続行します)。

このメッセージをプログラマーに報告してください。メッセージ 0I85I が出された場合には、表示されたフェーズ名のリストを、必要に応じて使用できるようにしておいてください。

プログラマーの応答: フェーズ (\$SVASEC がダミー・フェーズでない場合にメッセージ 0I85t で名前を示されるもの) をカタログするか、ロード・リスト \$SVASEC をシステム・ライブラリー中にカタログしてください。このためには、IPL コマンドの SYS に SEC=NO を指定してシステムをスタートアップしてください。必要に応じて、弊社に連絡してサポートを受けてください。

0J19A LIBRARY CONCATENATION INITIALIZATION FAILURE. RETURN CODE=X'nn'

説明: システムは、ライブラリー検索順序チェーンの制御を設定できません。フェーズ \$INITCON は、問題判別を行うために最初に設定されたコード nm を IPL に渡します。

戻りコード nm の意味は次のとおりです。

- 20 \$INITCON 呼び出しが失敗しました。
- 21 GETVCE 要求が失敗しました。
- 22 フェーズ \$IJB LBR が見つかりません。
- 23 GETVIS 要求が失敗しました。
- 24 DTSECTAB の形式が正しくありません。
- 25 IPL 装置の VTOC に、システム・ライブラリーの形式 1 ラベルがありません。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: システムに強制的に独立型ダンプを実行させ、その結果をこのメッセージと共にシステム・プログラマーに報告してください。システムに独立型ダンプをとらせる方法については、「z/VSE Diagnosis Tools」を参照してください。

プログラマーの応答: 既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。以前使用した VSE システムの版が必要になることもあります。

0J20I DEVICE RECOGNITION IN PROGRESS

説明: システムは、装置のタイプとコントロール・ユニット・タイプを判別するために、各装置に対して入出力を出します。これには、ある程度の時間がかかります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0J21D CONFIGURATION ERROR

説明: FBA-SCSI ディスクへの接続をオープンしようとしたときに、構成の問題が検出されました。このメッセージは、ターゲット FBA cuu および接続されている FCP アダプターの構成データを表示するメッセージ 0S40I の後に出されます。このメッセージの理由コードでエラーの詳細について調べてください。

システムの処置: コマンドは拒否され、システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: Enter を押して無効なコマンドを無視するか、コマンドのつづりが誤っている場合は正しいつづりに訂正して再実行してください。プログラマーおよびネットワーク管理者に問題を報告してください。

プログラマーの応答: FCP ネットワークが正しく構成されていることを確認して、すべての DEF SCSI コマンドで構成データが正しく指定されているかどうかを調べてください。

0J22D NO SHARING SUPPORT FOR THAT DEVICE TYPE

説明: 現在処理中の ADD コマンドに、ハードウェア共用サポートを使用できない装置に対する共用が指定されています。システムの処置: システムはコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: ADD コマンドの装置指定を調べ、必要ならコマンドを再サブミットしてください。ASI によるシステム・スタートアップ時に出された場合、このメッセージをプログラマーに報告してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシーチャー) から IPL コマンドの処理を続行するには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシーチャーを訂正して、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0J23D ENTER DLF COMMAND

説明: 少なくとも 1 台のディスク装置が、適切な ADD コマンドに共用可能として定義されていますが、現在処理中のコマンド (DEF、DPD、および SVA のいずれか) の前に DLF コマンドがありません。

システムの処置: システムはコマンドをバッファーに入れ、SYSLOG から適正な DLF コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 有効な DLF コマンドを入力してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシーチャー) から IPL コマンドの処理を続行するためには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: なし。

0J24I DASD SHARING SUPPORT RESET

説明: 共用可能な装置が定義されていません。

システムの処置: システムは DASD 共用のソフトウェア・サポートをリセットし、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0J25A FBA=cuu1,FCP=cuu2: CONTROL BLOCK ALLOCATION ERROR

説明: FCP アダプター cuu2 の制御ブロックを割り振ることができなかったため、FBA-SCSI 装置 cuu1 にはアクセスできません。通常、このメッセージは、GETVIS ストレージの容量が使いきられたことを示しています。このメッセージは、エラーの原因の詳細情報を示すメッセージ 0S40I の後に出されることがあります。

メッセージ 0S40I がこのメッセージの前に出されない場合は、エラーの原因が rrrrrrrr として表示されます。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: プログラマーに問題を報告してください。

プログラマーの応答: 31 ビット・システム GETVIS のサイズを増やしてください。問題が解決しない場合は、弊社に連絡してください。

0J25D OPERAND FCP MISSING OR INCORRECT - PLEASE READ DOCUMENTATION

説明: ロック・ファイルを SCSI DASD に割り振ろうとしていますが、オペラント FCP=cuu が指定されていないか、指定された cuu が正しい FCP 装置番号ではありません。このオペラントは SCSI ディスクへのアクセスを提供する FCP アダプターが正しくインストールされているかを確認するために必要です。

ロック・ファイルを SCSI ディスク上に割り振りたい場合は、ロック・ファイルを共用するそれぞれの CPU に固有の FCP アダプターを接続する必要があります。ロック・ファイルには、この固有の FCP を介してアクセスしなければなりません。

これは、ハードウェアが、SCSI ディスクごとのアクセスではなく、接続ごとのアクセスの予約 (RESERVE コマンド) のみをサポートしているためです。また、ロック・ファイルを共用している CPU が、SCSI ディスクへのアクセスに同じ FCP アダプターを使用している場合は、保護しなければならないロック・ファイルとデータが破壊される可能性があります。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 以下のいずれかの処置を行ってください。

- ロック・ファイルのためのハードウェア前提条件が正しいことを確認します。
- ハードウェアが接続されていて正しく構成されている場合は、正しい FCP を指定して DLF コマンドを再実行します。
- ハードウェアが接続されていない場合、または正しく構成されていない場合は、非 SCSI 装置タイプに DLF ファイルを割り振り、適切な DLF コマンドを実行します。

プログラマーに問題を報告してください。

プログラマーの応答: ロック・ファイルのための FCP アダプターが接続されていて、正しく構成されていることを確認してください。IPL プロシーチャー内の DLF コマンドを更新してください。

0J26D DLF COMMAND INVALID

説明: DLF コマンドが入力されましたが、共用可能として (ADD コマンドにより) 定義されたディスク装置がありません。

システムの処置: システムは次の IPL コマンドを待ちます。
オペレーターの応答: 次の IPL コマンドを入力してください。ASI によるシステム・スタートアップ時に出された場合、このメッセージをプログラマーに報告してください。元のコマンド・ソース (例えば、プロシージャー) から IPL コマンドの処理を続行するには、END/ENTER を押してください。
プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシージャーを訂正して、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0J27D LOCK FILE ON cuu: NCPU SPECIFICATION DOES NOT MATCH

説明: DLF コマンド内の NCPU パラメーターの指定が、示された装置上のロック・ファイル・ヘッダー内の NCPU 項目と一致しません。

システムの処置: システムは訂正された DLF コマンドまたは別の IPL コマンドが SYSLOG から入力されるのを待ちます。
オペレーターの応答: 適正な NCPU を指定した、新規の DLF コマンドを入力してください。
プログラマーの応答: 必要なら、ASI プロシージャーを訂正してください。

0J28I LOCK FILE ON cuu: NUMBER OF SHARING CPUS EXCEEDED

説明: ロック・ファイル・ヘッダー中の CPU フィールドが別の処理装置で使用されています。

システムの処置: システムはメッセージ 0J31A を出します。
オペレーターの応答: ロック・ファイルの CPU フィールドを消去できたならば、システム・スタートアップをやり直してください。
プログラマーの応答: 別の共用システムから UNLOCK コマンドをサブミットして、ロック・ファイルの CPU フィールド 1 つを消去してください。

0J29I LOCK FILE ON cuu: EXTERNAL FILE DAMAGED

説明: システムは、既存のロック・ファイルの形式が壊されると判断しました。

システムの処置: システムはメッセージ 0J31A を出します。
オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。
プログラマーの応答: 同じロック・ファイルを別のシステムが使用していないかどうかを確認してください。ファイルを別のシステムが使用している場合は、そのシステムのオペレーターに遮断手順を実行してから以下の処置をとるように依頼してください。

1. オペレーターに、同じまたは別の共用可能なディスク・ボリュームの、異なるエクステンツとして (DLF コマンドに

- よって) 定義されているロック・ファイルを使って、システム・スタートアップをやり直してもらってください。
2. 次に、シャットダウンされた他のシステムを、新規に定義したロック・ファイルを使用して、操作を行うために再始動してください。

0J30I LOCK FILE ON cuu: IRRECOVERABLE I/O ERROR

説明: システムで、この CPU ID に対してロックされているすべてのリソースをアンロックするときに、リカバリー不能な入出力エラーを検出しました。

システムの処置: システムはメッセージ 0J31A を出します。
オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。
プログラマーの応答: メッセージ 0J29I と同じです。

0J31A NO SHARING CAPABILITY. IPL TERMINATED

説明: システムは新しいロック・ファイルを作成することも、既存のロック・ファイルを使用することもできません。この理由は、この前にシステムが表示したメッセージに示されます。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。
オペレーターの応答: この前に表示されたメッセージについて、トピックの説明を参照してください。
プログラマーの応答: この前に表示されたメッセージについて、トピックの説明を参照してください。

0J32I VSIZE=numberK FOR supervisor-name NOT IN numberK - numberK

説明: 指定された VSIZE が、示された監視プログラムの有効範囲 (「IN numberK - numberK」で表示) ではありません。この値は、キロバイト、メガバイト、またはギガバイトで指定します。

システムの処置: システムはメッセージ 0I03D を出します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

0J33D LOCK FILE ON cuu: NUMBER OF DATA BLOCKS TOO SMALL

説明: NBLK|NCYL パラメーターに指定された通信ロック・ファイルのデータ・ブロック数が小さすぎます。最小の値は 29 です (これにヘッダー・ブロックが 1 つ加わります)。

システムの処置: システムは訂正された DLF コマンドまたは別の DLF コマンドが SYSLOG から入力されるのを待ちます。
オペレーターの応答: NBLK|NCYL の指定値を大きくした新しい DLF コマンドを入力してください。
プログラマーの応答: 必要なら、ASI プロシージャーを訂正してください。

0J34I VSIZE AND NOPDS OPTIONS MAY NOT BE SPECIFIED TOGETHER

説明: ページ・データ・セットのない環境では VSIZE を指定できません。このサイズはプロセッサ・ストレージのサイズによって、システムが算出します。そのため、ページ・データ・セットのあるシステムに VSIZE を指定するか、ページ・データ・セットのないシステムに NOPDS を指定してください。

システムの処置: システムはメッセージ 0I03D を出します。
オペレーターの応答: 訂正した監視プログラムのパラメーター・コマンドをシステム・コンソールに入力してください。メッセージをシステム・プログラマーに報告し、訂正処置を依頼してください。

プログラマーの応答: 該当する IPL プロシーチャーを訂正して、このメッセージが再び出ないようにしてください。

0J35I OPERAND FCP NOT APPLICABLE - SPECIFICATION IGNORED

説明: ロック・ファイルが FBA-SCSI ではなく ECKD™ または FBA DASD に割り振られています。オペランドは、FBA-SCSI ディスクのロック・ファイルにのみ適用されるため、無視されます。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告し、今後同じ問題が発生しないようにしてください。

プログラマーの応答: IPL プロシーチャー内の DLF コマンドからオペランドを除去してください。

0J36I LOCK FILE ON cuu: LOCK FILE BUFFER PROVIDED TOO SMALL

説明: バッファ・スペース割り振り時にロック・ファイル装置が作動可能でなかったため、システムが設定したロック・ファイル・バッファが小さすぎました。

システムの処置: システムはメッセージ 0J31A を出し、待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: ロック・ファイル装置が作動可能であることを確認してから、システムをスタートアップしてください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、該当する IPL プロシーチャーを訂正して、以後このメッセージが出ないようにしてください。

0J37I BUFSIZE VALUE TOO SMALL. MINIMUM VALUE n ASSUMED

説明: SYS コマンドに指定された BUFSIZE 値が、システムの要求する最小値より下回っています。

システムの処置: システムは、IPL された監視プログラムに対して最小 BUFSIZE 値が指定されたものとして処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0J38I NOT ENOUGH STORAGE FOR ALLOCATING CONTROL BLOCKS

説明: 接続されている FCP アダプターが必要とするすべての制御ブロックを割り振ることができなかつたため、FBA-SCSI ディスクへの接続をオープンできませんでした。このメッセージは、ターゲット FBA cuu および接続されている FCP アダプターの構成データを表示するメッセージ 0S40I の後に出力されます。

一般的な理由としては、システム GETVIS のストレージの容量が使いきられたことが考えられます。先に出されるメッセージ 0S40I の理由コードでエラーの詳細について調べてください。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: プログラマーに問題を報告してください。

プログラマーの応答: 31 ビット・システム GETVIS のサイズを増やしてください。問題が解決しない場合は、弊社に連絡してください。

0J39I ACTUAL BUFSIZE IS n

説明: 監視プログラム・テーブルの動的割り振りの後、必要な境界合わせのために未使用となっているスペースが、コピー・バッファ領域に割り振られています。メッセージ中、 n はコピー・ブロックの数、または作業ブロックの数です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0J40D LOCK FILE ON xxx: MULTIPATH CONNECTION NOT PERMITTED

説明: ロック・ファイルを、装置番号 xxx で FBA-SCSI に割り振ろうとしています。この装置には、複数の接続パスが定義されています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 接続パスが 1 つのみ定義されているか、異なる装置タイプが定義されている、異なるボリュームを指定して DLF コマンドを再実行し、システムを起動してください。IPL プロシーチャーを訂正し、正しいロック・ファイルで再 IPL してください。

以下の方法でもシステムを一時的に起動できます。

- ロード・パラメーター `..P` で IPL を実行します
- メッセージ 0I03D の後に応答します。例えば、STOP=DEF。(ADD コマンドの後に最初の IPL コマンドを指定してください)
- メッセージ 0J05D の後に、すべての共用装置を削除します
- 削除した装置を、属性 SHR を指定せずにもう一度 ADD コマンドで追加します
- DLF メッセージの後に Enter を押して DLF コマンドを無視します

プログラマーの応答: IPL プロシーチャーで、このボリュームの DEF SCSI コマンドを 1 つにして、残りを除去してください。

0J41D LOCK FILE ON xxx: INVALID VOLUME
 説明: ロック・ファイルを、装置番号 xxx で FBA-SCSI に割り振ろうとしています。この装置は、ロック・ファイルに使用してはならない DOSRES または SYSWK1 ボリュームです。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: DOSRES ボリュームでも SYSWK1 ボリュームでもない、異なるボリュームを指定して DLF コマンドを再実行してください。 IPL プロシーチャーを訂正してください。
 プログラマーの応答: IPL プロシーチャー内の DLF コマンドに別のボリュームを指定してください。

0J42I INVALID SPECIFICATION VMCF=YES, IGNORED
 説明: VSE は VM 仮想マシンで実行されていません。このため、CMS - VSE コンソール・インターフェースが使用不能です。
 システムの処置: システムはオペランドを無視して処理を続行します。
 オペレーターの応答: メッセージをシステム・プログラマーに報告し、訂正処置を依頼してください。
 プログラマーの応答: 該当する IPL プロシーチャーを訂正して、このメッセージが再び出ないようにしてください。

0J43I SDSIZE SPECIFICATION INVALID. ASSUMED SDSIZE=xxxxK SPSIZE SPECIFICATION INVALID. ASSUMED SPSIZE=xxxxK PASIZE SPECIFICATION INVALID. ASSUMED PASIZE=xxxxK RSIZE SPECIFICATION INVALID. ASSUMED RSIZE=xxxxK
 説明: 許可されている最小値より小さいか、または最大値よりも大きいオペランドが指定されています。システムが想定した値が、キロバイトまたはメガバイトで示されます。
 システムの処置: システムは、表示された値を想定して処理を続行します。
 オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。
 プログラマーの応答: 該当する ASI プロシーチャーの SYS コマンドを調べて訂正してください。

0J44A INSUFFICIENT REAL STORAGE. MINIMUM IS xxxxxK
 説明: このメッセージは、実記憶が小さすぎて VSE 監視プログラムおよび SDAID 域を収めることができず、最小システム要件を満たすことができない場合に表示されます。
 システムの処置: システムは待ち状態に入ります。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: より小さな監視プログラムをカタログし、また動的監視プログラム域のサイズを決定する指定を調べてください。必要なら SDSIZE の指定を減らしてください。

0J45I 24-BIT SYSTEM GETVIS AREA HAS BEEN ROUNDED BY xxK 31-BIT SYSTEM GETVIS AREA HAS BEEN ROUNDED BY yyyyK
 説明: このアーキテクチャーでは、共用区域と専用区域がセグメントの倍数の単位で割り振られていなければなりません。したがって、システムによって累積される SVA 値、およびユーザーによって指定される SVA 値は、システムによって 1 MB の倍数に丸められます。

SVA コマンドで値の指定を変更しても、割り振られる SVA スペースは変更されないかもしれないので、チューニングの目的のために、システムの丸めのアルゴリズムと値を知っておくとよいかもしれません。

24 ビット・システムでは、GETVIS 域は、最初に、共用区画の下のスペースが 64 KB の倍数になるように丸められます。次に、共用区画域が 1 MB 境界に丸められます。共用域のサイズは、MAP コマンドで検査できます。上記のメッセージは、24 ビット・システム GETVIS 丸め値 xxK (1KB - 63KB の範囲内の値) を示しています。

31 ビット共用域では、1 MB の倍数にするための丸め値が 31 ビット GETVIS 域に追加されます。この値 yyyyK が上記メッセージで表示されており、1KB - 1023KB の範囲内の値です。
 システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 24 ビット SVA または 31 ビット SVA の増減を行いたい場合、SVA の指定を変更するときに、この丸め値を考慮に入れてください。システム・レイアウトの境界変更後の大きな丸めを避けるため、ゼロの丸め値はお勧めしません。

GETVIS 指定を変更すると、システムの GETVIS 制御情報内のサイズ(これも SVA の一部です)も変更されることに注意してください。したがって、上記の値を正確に GETVIS 指定に追加しても、ほとんどの場合に、ゼロの丸めは行われません。

0J46D DEVICE cuu: DEVICE TYPE COULD NOT BE IDENTIFIED. ENTER ADD COMMAND FOR cuu, TO CONTINUE HIT END/ENTER

説明: メッセージ・テキストに表示された装置タイプが、装置センシングによって識別されませんでした。ADD コマンドが入力されていない場合には、システムは装置をサポートしません(装置タイプ X'FF')。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 装置を指定するには、ADD コマンドを入力してください。装置をサポートしない場合は、END/ENTER を押してください。
 プログラマーの応答: なし。

OJ47I CHANNEL SUBSYSTEM: mnnnn DEVICES FOUND OPERATIONAL

説明: システムが自動装置識別を実行しました。この処理の結果が表示されます。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

OJ48D DEVICE cuu FOUND OPERATIONAL. DEL COMMAND IGNORED

説明: 現在処理中の DEL コマンドに、システムがシステム・スタートアップ時に接続すべきものと判断した装置が指定されています。DEL コマンドを使用して別の ADD コマンドで装置オプションを変更できるようにした場合、このメッセージへの応答として、必要な ADD コマンドを入力してください。指定された (または省略された) オプションが、この装置に対して前に入力された ADD コマンドのオプションを指定変更します。

システムの処置: システムは SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: コマンドを入力し、処理を続行してください。SYSLOG において END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: 必要なら、ASI プロシーチャーを訂正してください。

OJ49D ENTER CORRECT ADD COMMAND, ELSE HIT ENTER FOR AUTOMATIC ADD

説明: 無視された ADD コマンドに指定された装置タイプが、指定された装置アドレスの装置のタイプと一致していません。

システムの処置: システムは SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: オプション (SHR など) を定義したい場合は、正しい ADD コマンドを入力してください。そうでない場合は、END/ENTER を押してください。システムは、標準オプションを指定して正しい装置を追加します。

プログラマーの応答: 必要なら、ASI プロシーチャーを訂正してください。

OJ50A UNSUPPORTED SYSLOG DEVICE TYPE

説明: SYSLOG の装置タイプが識別できません。このメッセージは低位バイト 0 - 4 に置かれます。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: z/VSE によりサポートされるコンソール・キーボードで、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: なし。

OJ51I OPERAND DVCDN INVALID FOR SYSRES cuu, OPERAND IGNORED

説明: オペランド DVCDN (装置遮断) が装置 cuu の ADD コマンドに指定されました。装置 cuu は SYSRES であり、遮断状況に設定することはできません。装置遮断標識なしで、装置が追加されました。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題をシステム・プログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 該当する ASI プロシーチャーを訂正してください。

OJ52A ERROR ON SCSI SYSRES - RC=X'xxxx' ERROR ON SCSI SYSWK1 - RC=X'xxxx'

説明: SYSRES SCSI ボリュームへの IPL 接続をリカバリーできなかったか、SCSI SYSWK1 ボリュームに接続できなかったか、または SCSI SYSRES への入出力要求が失敗しました。

値 xxxx は、システム初期化のどの時点でエラーが発生したかについての情報を提供する理由コードを示します。

- REASON=X'0001'
- REASON=X'0002'
- REASON=X'0003'
- SCSI SYSRES ボリュームが正しく構築されていないか、SCSI SYSRES LUN への IPL 接続が安定していない可能性があります。
- REASON=X'0004'
- システムがインストール中で、SYSWK1 SCSI 装置構成が REIPL レコードに正しく渡されていません。
- REASON=X'0005'
- REASON=X'0006'
- REASON=X'0007'
- REASON=X'0008'
- REASON=X'0009'
- REASON=X'000A'
- REASON=X'000B'
- 装置認識の後、SCSI SYSRES への再接続が失敗しました。SYSRES LUN への IPL 接続が安定していない可能性があります。
- REASON=X'000C'
- 基本インストール中に、SCSI SYSWK1 への再接続が失敗しました。SYSWK1 LUN へのインストール接続が安定していない可能性があります。
- REASON=X'000D'
- REASON=X'000E'
- DEF SCSI コマンドの処理中に、SCSI SYSRES への再接続が失敗しました。SYSRES LUN への IPL 接続が安定していない可能性があります。

このメッセージの前に、失敗の原因に応じてメッセージ 0S40I または 0S46I が出されます。

IPL の初期段階でオペレーター・コンソールがまだ使用できないときに、低コアの位置 20 にメッセージ OJ52A が置かれます。メッセージ 0S40I または 0S46I によって表示される戻りコードおよび理由コードも低コアに置かれます。

位置 0 からの低コアには、以下の情報が含まれています。

0 - 1	x'07E6'	入出力エラーのハードウェア・ウェイト・コード
-------	---------	------------------------

2 - 3	cuu	問題が発生している SCSI 装置の装置番号
4 - 7	FCP	0S40I に示されている戻りコードまたは理由コード
	SCSI	0S46I に示されている戻りコードまたは理由コード
8 - 11	x'rrrrrrrr'	FCP または SCSI からの戻りコード
12 - 15	x'nnnnnnnn'	FCP または SCSI からの理由コード
16 - 19	x'aaaaaaaa'	SCSI エラーの場合の入出力ルーチン呼び出し元のアドレス
20 -	0J52A	メッセージ・テキスト 0J52A

システムの処置: システムは処理を終了します。
 オペレーターの応答: LOAD パネルまたは VM コマンド SET LOADDEV で接続構成が正しく指定されているかどうかを確認してください。システムを再 IPL してください。

問題が解決しない場合は、システム・プログラマーまたはネットワーク管理者に通知してください。
 プログラマーの応答: SYSRES LUN および SYSWK1 LUN の接続が正しく構成されていて、オペレーターと通信可能になっているかどうかを確認してください。

**0J53D INVALID PHASE NAME
 ENTER CORRECT PHASE NAME OR HIT
 ENTER FOR DEFAULT**

説明: 直前のコマンドでセキュリティー・マネージャーのフェーズ名が指定されましたが、フェーズ名に無効な文字があります。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 正しいセキュリティー・マネージャー・フェーズ名を指定したコマンドを再入力するか、ENTER を押して基本システム・セキュリティーを活動化させてください。
 プログラマーの応答: セキュリティー製品が正しくインストールされているかを確認してください。正しいつづりのセキュリティー・マネージャー・フェーズ名を指定することにより、ASI 機能を訂正してください。

**0J55I VM DOES NOT SUPPORT THE
 REQUESTED APPCVM FUNCTION**

説明: VM ホスト・システムは、APPCVM または要求した APPCVM 機能をサポートしないため、SET XPCC コマンドは無効です。APPCVM は、VM/SP 5 より古い VM リリースでは使用できません。SNA ネットワークでの APPCVM 機能

には VM/SP 6 以上が必要です。VM/XA は APPCVM をサポートしません。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: このメッセージが出たことをシステム・プログラマーに報告し、訂正処置を依頼してください。
 プログラマーの応答: なし。

**0J56D INVALID SPECIFICATION FOR XPCC
 TARGET
 INVALID SPECIFICATION FOR
 APPCVM TARGET**

説明: 現在処理されている APPC/VM SET コマンドで、XPCC TARGET または APPCVM TARGET に対して指定された値が無効です。
 システムの処置: システムは現在処理されているコマンドを拒否し、SYSLOG から IPL コマンドが入力されるのを待ちます。
 オペレーターの応答: コマンドを入力し直すか、ENTER を押してシステムにコマンドを無視させてください。ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、メッセージが再び出ないように該当 IPL プロシーチャーを訂正してもらってください。
 プログラマーの応答: なし。

**0J57I XPCC TARGET NOT UNIQUE -
 CURRENT COMMAND REPLACES
 DUPLICATE
 APPCVM TARGET NOT UNIQUE -
 CURRENT COMMAND REPLACES
 DUPLICATE**

説明: このコマンドの前に出された APPC/VM SET コマンドは、同じ XPCC TARGET または APPCVM TARGET resid を指定していました。現在のコマンドで指定されたものが、重複名を持つ前のコマンドで指定されたものを指定変更します。以下は、命名規則の例です。

```
SET XPCC TARGET subsystem1 TO
  APPCVM TARGET resid1
SET XPCC TARGET subsystem2 TO
  APPCVM TARGET resid2
SET APPCVM TARGET (resid3,g3,tlu3,mode3)
SET APPCVM TARGET (resid4,g4,tlu4,mode4)
```

- subsystem1、subsystem2、resid3、resid4 は固有の名前でなければなりません。
- resid1 と resid2 は固有名である必要はありません。つまり、例えば、resid1 は resid2 や resid3 と同じ名前にすることができます。

システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: このメッセージが出たことをシステム・プログラマーに報告してください。ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、メッセージが再び出ないように該当 IPL プロシーチャーを訂正してもらってください。
 プログラマーの応答: なし。

**0J58I MAXIMUM NUMBER OF APPC/VM SET
COMMANDS EXCEEDED - COMMAND
IGNORED**

説明: APPC/VM SET コマンドが 11 個以上指定されました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: このメッセージが出たことをシステム・プログラマーに報告してください。ASI によるシステム・スタートアップ時にこのメッセージが表示された場合、メッセージが再び出ないように該当 IPL プロシーチャーを訂正してもらってください。

プログラマーの応答: なし。

**0J59I APPC/VM COMMUNICATION NOT
ACTIVATED**

説明: APPC/VM の外部割り込みが活動化されなかったか、あるいは内部 XPCC/APPC/VM 制御テーブルを割り振るだけの SVA スペースが十分にありませんでした。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: このメッセージが出たことをシステム・プログラマーに報告し、訂正処置を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

**0J61I NPARTS SPECIFICATION NOT BETWEEN
xx and yy. NPARTS=zzz ASSUMED**

説明: 現在処理されている SYS コマンドは、システムの最小値 (xx) より小さいか、またはシステムの最大値 (yy) より大きい NPARTS 値を指定しています。現在の最小値は 12 です。

システムの処置: システムは表示されている NPARTS=zzz の値を想定し、処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージが表示されたことをシステム・プログラマーに報告し、訂正処置を依頼してください。

プログラマーの応答: 該当する ASI プロシーチャーの SYS コマンドを調べて訂正してください。

0J62I ACTUAL CHANQ IS xxxx

説明: システムは、割り振られたチャンネル・キュー項目数を表示します。この数は、指定された値よりも大きい可能性があります。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**0J64I SYS JA=YES ASSUMED BECAUSE OF
TURBO DISPATCHER ACTIVATION**

説明: システムがこのメッセージを出すのは、ターボ・ディスパッチャーが活動化されたため、システムが IPL SYS コマンドを (JA=NO であったので) JA=YES に設定しなければならなかった場合です。ターボ・ディスパッチャーでは、JA (ジョブ・アカウンティング) を YES に設定する必要があります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 今後このメッセージが出されないように

するには、IPL スタートアップ・プロシーチャーに IPL コマンド SYS JA=YES を含めてください。

0J65I TURBO DISPATCHER ACTIVATED

説明: ターボ・ディスパッチャーが正常に活動化された場合に、システムはこのメッセージを出します。ターボ・ディスパッチャーは、IPL ロード・パラメーターに該当文字を指定することによって、活動化することができます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**0J66I OPERAND SHARED OBSOLETE,
IGNORED OPERAND N OR P
OBSOLETE,
IGNORED**

説明: 24 ビット SVA は、常に監視プログラムに隣接して割り振られるため、SHARED オペランドは意味がありません。

31 ビット SVA は、常にアドレス・スペースの最高位に割り振られます。

監視プログラムにはページング可能セクションがないため、オペランド N または P は意味がありません。

システムの処置: オペランドは無視され、システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**0J67A 24-BIT SHARED AREA TOO LARGE. SIZE
IS xxxxxxK**

説明: 監視プログラム域、SDAID 域、24 ビット SVA、および共用区画にスペースを割り振ると、16 M バイトより下に最小限必要な 1 M バイト・サイズの専用区域が確保できなくなります。システムは、24 ビット共用区域の現行サイズを KB または MB で表示します。以下の指定を減らしてください。

監視プログラム・パラメーター・コマンドの VPOOL

SYS コマンドの SDSIZE または SPSIZE

SVA コマンドの SDL、PSIZE、または GETVIS

ページ・データ・セットの指定がない環境では、プロセッサ・ストレージは VIO スペースも含めるだけの大きさがなければなりません。そのため、上にリストされた指定を減らすか、いずれかの VIO の指定を減らしてください。VM で実行している場合、仮想マシンのストレージを増やしてください。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 問題をシステム・プログラマーに報告し、訂正処置を依頼してください。作動可能なバックアップ・システムがあれば、これをスタートアップしてください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にメッセージが出た場合は、該当する IPL プロシーチャーを訂正して、今後このメッセージが表示されないようにしてください。

0J68I RSIZE CHANGED TO xxxxxK

説明: 監視プログラム域、SDAID 域、24 ビット SVA、共用区画、および実区画に割り振られた区画の合計が 16 M バイトより大きいか、または実記憶が 16 M バイトより小さい場合は、実記憶の大きさを超過しています。実区画割り当ての区画サイズは減らされました。値は、キロバイトまたはメガバイトで表示されます。

システムの処置: システムは実区画域としてこの値を想定し、処理を続行します。

オペレーターの応答: このメッセージが出たことをシステム・プログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時にメッセージが出た場合は、該当する IPL プロシージャーを訂正して、今後このメッセージが表示されないようにしてください。

**0J69I ACTUAL SIZE OF PRIVATE AREA IS
 xxxxxxxK**

説明: システムは、共用区域がすべて割り振られた後に、アドレス・スペースに残された専用区域のサイズを KB または MB で表示します。

指定された PASIZE 値が増加または減少された可能性があります。これは監視プログラム、SDAID 域、共用区画、SVA、および専用区域の合計が 16 M バイトより小さいか、または 2048 M バイトより大きい場合に、内部システム要求によって行われます。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**0J70A SYSTEM ERROR DURING
 INITIALIZATION OF VIRTUAL SYSTEM.
 RETURN CODE - X'yy'**

説明: これはシステム・エラーです。戻りコード X'yy' は、システム障害のタイプを示します。

システムの処置: IPL は終了します。

オペレーターの応答: 問題判別のために、次のものを使用できるようにしてください。

- ダンプ出力

プログラマーの応答: 既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

**0J71I cuu CANNOT BE ADDED - 128 DEVICES
 OF THE TYPE FBAV ALREADY EXIST**

説明: 128 を超える FBAV タイプの装置を追加することはできません。

システムの処置: システムはコマンドの処理を終了し、オペレーター・コンソールから IPL コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 問題をシステム・プログラマーに報告し、訂正処置を依頼してください。次の IPL コマンドを入力するか、または END/ENTER を押して、もとのコマンド・リソースから IPL コマンドの処理を続行します。

プログラマーの応答: ASI によるシステム・スタートアップ時

にメッセージが出た場合は、該当する IPL プロシージャーを訂正して、今後このメッセージが表示されないようにしてください。

**0J72I FORMATTING OF PAGE DATA SET IN
 PROGRESS**

説明: ページ・データ・セットのフォーマット中です。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**0J73I ACTUAL NUMBER OF USER SDL
 ENTRIES IS xxx**

説明: 内部システム要件のため、SVA コマンドの SDL オペランドで指定されたよりも多くのユーザー SDL 項目が、常に割り振られています。このため、より多くの SDL 項目が必要な場合は、このメッセージで示された 10 進数 xxx を参照して SDL 指定を適切な数に増やしてください。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**0J74D SUPERVISOR GENERATED FOR xxxx
 DEVICES - yyyyyy DEVICES PRESENT
 DEVICES ADDED AND/OR SENSED:
 CUU RANGE DEVICE TYPE**

cuu device_type

cuu:cuu device_type

...

**ENTER DEL COMMAND FOR DEVICES
NOT NEEDED**

説明: 監視プログラム入出力テーブルが小さすぎるため、作動可能でかつシステムに追加された装置、またはそのいずれかに該当する装置をすべて収容することができません。メッセージには、実際の装置数 yyyyyy と許可された最大装置数 xxxx が示されます。

装置数 yyyyyy は、前に出された可能性のあるメッセージ 0J47I で表示された装置数と異なる場合があります。追加された装置や削除された装置がすべて含まれています。独立型環境では、システムは、印刷装置および端末が初期インストール・ステップに不要になると、それらの装置を内部的に削除します。

セッションに不要となり、削除可能になった装置を識別しやすくするように、すべての装置がリストされています。装置番号は、単一の装置番号 *cuu* または連続する装置番号の範囲 *cuu:cuu* のいずれかとして表示されます。装置タイプ *device_type* は、ADD コマンドで指定されたものが表示されます。装置に対する ADD コマンドが出されていない場合には、感知されたときに装置によって戻された装置タイプが、表示されます。システムの処置: システムは装置数を減らすための DEL コマンドを待ちます。システムに定義された装置の数が、監視プログラムでサポートされる数以下になるまで、メッセージが繰り返し出されます。

オペレーターの応答: このセッションで不要な装置を判別してください。システムに定義された装置の数が xxxx 以下になる

まで、DEL コマンドを使用して装置を削除してください。

システムは通常、操作可能な装置の DEL コマンドを拒否します。ただし、現在の状況では、装置が SYSRES、システム・コンソールのいずれでもない限り、システムは DEL コマンドを受け入れます。現行セッションに必要な装置を削除しないように注意してください。同一のコントロール・ユニットを共用する、作動可能な装置をすべて削除するか、またはセッションに必要な装置をいくつか確保する必要があるときは、同一のコントロール・ユニットを共用する装置のいずれも、削除しないことをお勧めします。削除した装置で割り込みが起きると、同一のコントロール・ユニットの下にある他の装置に問題が起きることがあります。

問題をシステム・プログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 該当する ASI プロシーチャーを訂正するか、または入出力装置を十分にサポートできる監視プログラムを作成してください。

0J75A SYSTEM ERROR DURING VTAPE START PROCESSING

説明: DVD/インストール・ディスクからシステムをインストールするには、仮想テープが必要です。このメッセージは、内部の VTAPE START コマンドからエラーが返された場合に発行されます。このエラーは、先行メッセージとともに記録されます。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 独立型ダンプをとって、問題判別のために以下の情報を提供してください。

- ダンプ出力
- コンソール出力

プログラマーの応答: 弊社に既知問題データベースの検索を依頼してください。

0J76I HARDWARE COMPRESSION INITIALIZED SOFTWARE COMPRESSION INITIALIZED

説明: どのタイプのデータ圧縮サービスが使用可能かを、システムが通知します。プロセッサがデータ圧縮をサポートする場合、システムはハードウェア圧縮サービスを初期設定します。サポートしない場合は、ソフトウェアがデータ圧縮をシミュレートし、適切なソフトウェア・サービスが初期設定されません。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0J77I INVALID IPL LOAD PARAMETER - 'xxxxxxx'. ASSUMED VALUE - 'yyyyyyyyy'

説明: IPL ロード・パラメーターの文字の、少なくとも 1 つが無効です。システムに想定されるロード・パラメーター 'xxxxxxx' および値 'yyyyyyyyy' がメッセージに表示されます。指定された値が誤っている場合、システムはデフォルトを想定します。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: 次の IPL 時にロード・パラメーター・

フィールドを検査し、各位置に必要な値を指定してください。

プログラマーの応答: なし。

0J78D PUB MISSING FOR INTEGRATED CONSOLE - SPECIFY ADD COMMAND FOR DEVICE TYPE CONS

説明: システムが統合コンソールを使用するには PUB が必要ですが、この装置には ADD コマンドが実行されていません。システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 要求された ADD コマンドをシステム・コンソールに入力します。メッセージをシステム・プログラマーに報告し、訂正処置を依頼してください。

プログラマーの応答: 該当する IPL プロシーチャーを訂正して、このメッセージが再び出ないようにしてください。

0J79D INVALID DEVICE NUMBER FOR DEVICE TYPE CONS: cuu

説明: 示された装置番号を持つ実装置が、存在しています。システムには CONS 装置に使用する装置番号が必要ですが、物理装置には定義されません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: システム・コンソールに、訂正した ADD コマンドを入力します。メッセージをシステム・プログラマーに報告し、訂正処置を依頼してください。

プログラマーの応答: 該当する IPL プロシーチャーを訂正して、このメッセージが再び出ないようにしてください。

0J80I MAXIMUM NUMBER OF SET ZONEDEF COMMANDS EXCEEDED - COMMAND IGNORED MAXIMUM NUMBER OF SET ZONEBDY COMMANDS EXCEEDED - COMMAND IGNORED

説明: SET ZONEDEF コマンドを 11 個以上、または SET ZONEBDY コマンドを 21 個以上指定しているかもしれせん。余分なコマンドは無視されます。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 今後、このメッセージが出されないようにするために、該当する IPL ASI プロシーチャーを訂正してください。

0J81I ZONE=EAST/hh/mm PREVIOUSLY SPECIFIED - LAST COMMAND REPLACES EARLIER SPECIFICATION ZONE=WEST/hh/mm PREVIOUSLY SPECIFIED - LAST COMMAND REPLACES EARLIER SPECIFICATION ZONE=ID'zone_id' PREVIOUSLY SPECIFIED - LAST COMMAND REPLACES EARLIER SPECIFICATION

**DATE=mm/dd/yyyy, CLOCK=hh/mm/ss
PREVIOUSLY SPECIFIED -
LAST COMMAND REPLACES EARLIER
SPECIFICATION**

説明: 現行 SET コマンドは、以前の SET ZONEDEF コマンドで指定されたゾーン値 (ZONE=) またはゾーン ID (zone_id) を指定しています。あるいは、現行 SET コマンドは、以前の SET ZONEBDY コマンドで指定された時刻の値 (DATE=,CLOCK=) を指定しています。

最新の指定は以前の指定を指定変更します。時間帯の定義と時間帯の境界は、システムが時間帯の値を無作為に選択しないようにするために固有でなければなりません。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IPL ASI プロシーチャーを更新して、時間帯の定義と時間の境界の定義が固有になるようにしてください。

OJ82D ZONE ID zone_id NOT DEFINED

説明: 最後の SET コマンドは、システムにまだ定義されていないゾーン ID を指定しています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 拒否されたコマンドが SET DATE の場合、ZONE= オペランドでゾーン値を明示指定することにより、コマンドを再度出してください。SET ZONEBDY コマンドの場合、この時間帯境界定義が次の IPL の前に必要でないならば、単に ENTER を押してください。そのコマンドは無視されます。システムが、今、この定義を必要としている場合、最初に SET ZONEDEF を入力して時間帯を定義し、次に SET ZONEBDY を繰り返してゾーン境界を定義してください。いずれの場合にも、システム・プログラマーに、IPL ASI プロシーチャーの更新を依頼してください。

プログラマーの応答: IPL ASI プロシーチャーを訂正して、SET ZONEBDY または SET DATE コマンドでゾーン ID が参照される前に、SET ZONEDEF コマンドでゾーン ID を定義してください。

**OJ83I ACTUAL SYSTEM TIME
 ZONE=EAST/hh/mm
 ACTUAL SYSTEM TIME
 ZONE=WEST/hh/mm**

説明: システムは、シャットダウンされるまで、またはオペレーターによって明示的に変更されるまで、現在、アクティブな時間帯を表示します。

システムは、ゾーン値を、以下の入手先から以下の順に検索します。

- SET DATE コマンドの ZONE 指定
- SET ZONEDEF および SET ZONEBDY コマンドで指定された、時間帯境界定義からのゾーン
- システムが VM で作動している場合、VM から取り出されたゾーン

ゾーン指定が見つからない場合、現地時間として GMT が使われます。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: システムの時間帯が期待された値でない場合、IPL ASI プロシーチャーの中の SET ZONEDEF および SET ZONEBDY コマンドの組み合わせと SET DATE コマンド (あれば) を検査してください。必要に応じて、これらを訂正してください。

OJ84I IPL TERMINATED AS REQUESTED

説明: オペレーターはメッセージ OJ18D に対して 'no' と応答しました。

システムの処置: システムは終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: アクセス制御機能に必要なすべてのセキュリティ・フェーズをシステム・ライブラリーにカタログを作成してあるかを確認してください。

**OJ85D LOCK FILE ON *cuu*: NUMBER OF DATA
 BLOCKS TOO HIGH.**

説明: NBLK|NCYL パラメーターに指定された通信ロック・ファイルのデータ・ブロック数が大きすぎます。データ・ブロックの最大数は 32768 です。

システムの処置: システムは訂正された DLF コマンドまたは別の DLF コマンドが SYSLOG から入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: NBLK|NCYL の指定値を小さくして新たに DLF コマンドを入力しなおしてください。

プログラマーの応答: 必要なら、ASI プロシーチャーを訂正してください。

**OJ86I WARNING: VM RELEASE NOT
 SUPPORTED BY VSE 4.1 - Z/VM 5.2 OR
 LATER REQUIRED**

説明: IPL が、z/VM[®] バージョン 4 または z/VM 5.1 のゲスト・システムで開始されました。これらの VM リリースは、z/VSE 4.1 によってサポートされていません。旧リリースの VM は z/VSE 4.1 に対応していますが、重大なパフォーマンス上の問題が発生する可能性があります。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題をシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: VM システムを z/VM 5.2 以降のリリースにアップグレードしてください。

**OJ94I TRACKHOLD VALUE INVALID.
 DEFAULT VALUE *xx* ASSUMED**

説明: IPL SYS コマンドの TRKHLD パラメーターが無効です。

システムの処置: システムは表示された値 *xx* を想定し、処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージが表示されたことをシステム・プログラマーに報告し、訂正処置を依頼してください。

プログラマーの応答: 該当するプロシーチャーの SYS コマンドを調べて訂正してください。

OJ95I QUIESCE Value invalid. Default value NO assumed

説明: IPL SYS コマンドの QUIESCE パラメーターが無効です。

システムの処置: システムは QUIESCE=NO であると仮定し、処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージが表示されたことをシステム・プログラマーに報告し、訂正処置を依頼してください。

プログラマーの応答: 該当するプロシーチャーの SYS コマンドを調べて訂正してください。

イプで実行している場合は、IOCP 構成ファイルを参照することで SYSRES ベース装置を知ることができます。

- IPL TYPE=SENSE を実行してシステムの IPL を実行してください。これにより、SYSRES ベース装置が自動感知され、切り替えられて IPL 装置になります。SYSRES ベース装置の *cuu* を表示するメッセージ OJ98I が出されます。TYPE=SENSE でシステムの IPL を実行する方法についての詳細は、「z/VSE Guide to System Functions」を参照してください。

プログラマーの応答: IPL プロシーチャーを変更して、SYSRES ベース装置の ADD ステートメントを含めます。

OJ96I CUU=cuu IS AN ALIAS DEVICE; DEVICE IGNORED

説明: 別名装置に対する ADD ステートメントが検出されました。別名装置について詳しくは、PAV オプション機能の資料を参照してください。

システムの処置: ADD ステートメントは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IPL プロシーチャーを変更して、別名装置が追加されないようにしてください。

OJ98I IPL FROM ALIAS DEVICE - SYSRES SWITCHED TO cuu

説明: このメッセージは、IPL 装置が別名装置である場合に出示されます。これは許可されていません。IPL 装置はベース装置である必要があります。システムでは、現在、SYSRES ベース装置を自動識別しており、これを IPL 装置として使用します。別名装置およびベース装置について詳しくは、PAV オプション機能の資料を参照してください。

システムの処置: システムは、新しい *cuu* を SYSRES ポリュームとして処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。ただし、次回の IPL では、別名装置でなくベース装置を使用してください。

プログラマーの応答: なし。

OJ97W SYSRES IS AN ALIAS DEVICE - BASE DEVICE NOT FOUND

説明: このメッセージは、別名装置から IPL が実行されたときに、別名装置のベースをシステムが識別できなかった場合に出示されます。

システムの処置: システムはハードウェア・ウェイトに入ります。

オペレーターの応答:

- SYSRES ベース装置からシステムの IPL を実行してください。VM 配下で実行している場合は、QUERY PAV コマンドを使用するか IOCP 構成ファイルを参照することで SYSRES ベース装置の *cuu* を知ることができます。ネイテ

OJ99I Device Address VSE Address assigned

説明: 装置のリストが表示されます。各装置の物理装置アドレス、および IPL により各装置に割り当てられた VSE アドレスを示します。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0Pxx=PIOCS メッセージ**0Pxxx オペレーターおよびシステム情報**

この項で、『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照するように言及しているメッセージ記述には、「システムの処置」の記述はありません。この図では、メッセージに含まれているタイプ・コード (「t」) とオペレーター・コード (「o」) に応じて、オペレーターおよびシステムの処置を定義しています。

以下のテーブルでは、0Pxxt メッセージについての、タイプ・コード (「t」) とオペレーター・コード (「o」) の可能な組み合わせをリストしています。テーブル項目は、適用される場合には、説明の注を参照しています。

		対象のオペレーターの応答				
タイプ・コード(t)	オペレーター・コード(o)		RETRY	IGNORE	CANCEL	END/ ENTER
A	-	注 1	無効	無効	無効	無効

			対象のオペレーターの応答			
I	P	注 2	無効	無効	無効	無効
I	C	注 3	無効	無効	無効	無効
I	I	注 4	無効	無効	無効	無効
I	R	注 5	無効	無効	無効	無効
D	I		無効	注 6	注 6	無効
D	IR		注 6、7	注 6	注 6	注 7
D	R	注 4	注 6、7	無効	注 6	注 7

注:

1. エラー条件に応じて適切なリカバリー手順を実行し、装置を作動可能にしてください。これに失敗した場合は、「IBM z/VSE 操作」で説明されているように、CANCEL *cuu* を使用してください。
2. エラーがプログラムに通知され、処理が続行されます。通知されたエラーによっては、タスクが CANCEL を要求することもあります。
3. ジョブは取り消されます。
4. 要求タスクが通知された後にエラーが起こったため、タスクにはこのエラー情報はなりません。リカバリー処置は開始されません。
5. エラーの原因となった操作が再試行されます。
6. システムの処置は、CCB (または IORB) に設定されたタスクおよび処理オプションによって異なります。IGNORE と応答すると、エラーは無視されます。エラー・データがプログラムに通知され、処理が続行されます。IGNORE の場合、破壊されたデータが残される可能性があります。CANCEL と応答すると、タスクが取り消されるか、または災害時エラーがタスクに通知されます。
7. RETRY または END/ENTER と応答すると、操作が再試行されます。

追加のマシン情報: ほとんどの 0Pxxt メッセージの場合は、以下の直後にさらにマシン情報が印刷されます。以下にこの情報の例を示し、情報フィールドをリストし、説明しています。

**Example: BG 0P15D R SEEK CHECK SYS011=132
CCSW=3110007A100E000005 CCB=0079C0 SK=0000015C000E
SNS=00080040**

このメッセージは、シリンダー X'015C' (10 進数の 348)、ヘッド X'000E' (10 進数の 14) で発生しました。

SYSxxx=nnn

xxx は論理装置、nnn は、関連する入出力装置の *cuu* アドレスです。
CCB (または IORB) にアクセスできない場合、システムは SYSXXX を印刷します。システムが入出力コマンドを実行するために論理装置を動的に割り当てるか、または物理アドレスを使用する場合は、システムは SYSCTL または SYSLIB を印刷します。

CCSW=チャンネル状況ワード

16 進文字ストリングで、この最初の 2 文字が、失敗した CCW のコマンド・コードです。CCW アドレスにもはやアクセスできない場合、これらの文字は 00 になります。CSW 内の CCW アドレスが 0 で、CCB アド

レスが 0 でない場合には、監視プログラムによってユーザーのチャンネル・プログラムに事前連鎖されていた CCW でエラーが発生しました。

バイト 0:

失敗 CCW のコマンド・コード

バイト 1:

ストレージ・キー

バイト 2 から 4 まで:

CCW アドレス + 8

バイト 5:

装置状況

バイト 6:

サブチャンネル状況

バイト 7 から 8 まで:

バイト・カウント

CCB=コマンド制御ブロック・アドレス

影響を受けたプログラム内の影響を受けた CCB または IORB の 16 進アドレス。タスクが通知されたためにアドレスが使用できないと、この値はゼロになります。

SK=シーク・アドレス

CKD ディスク装置が関連していた場合に、エラーが発生したトラックの、0000CCCCHHHH 形式の 16 進シーク・アドレス。CCB (または IORB) が使用できないときは、この値は予測できません。シーク・アドレスにおいて、CCCC はシリンダー番号を表し、HHHH はヘッド番号を表します。

SNS=センス・バイト

装置チェックが起こった場合に、エラーの装置によって戻される (16 進数の) センス情報。エラー発生時にセンス情報が存在していなかった場合には、バイトは示されません。示されるセンス・バイトの数は、装置タイプによって異なります。

仮想ディスクの場合、バイト 22 および 23 は、障害のある徴候コードを示す可能性があります。これらのコードについては、「IBM z/VSE 拡張アドレッシング・サポート」を参照してください。

PAGE=ページ・カウント

IBM 3800 ページ・バックアップ・カウントで、センス・バイト 20 および 21 にある値の 10 進数等価です。これは、ページ・バッファ、ドラム、および転送機構と融着機構の間の用紙ラインで、すべてのページをリカバリするためにシステムがバックアップしなければならないページ数を示しています。システムからのそれぞれの全ページは、このカウントに 1 加えた値です。ページの最後のコピーが融着機構を通過するとき、カウントが 1 だけ減ります。このカウントを、リカバリすべきページ数 (例えば、ホット・ロールを循環するページ数) だけ増やしてください。

PBN=物理ブロック番号

FBA ディスク装置でエラーを引き起こしているブロックの 4 バイトの 16 進数を与えます。ブロック番号を取り出すことができないと、この値はゼロになります。

OP02I INVALID ATTH

説明: ESCON ディレクターへの接続が無効であるリンクが検出されました。

- センス・バイト 11 および 12 は無効な接続があるポートを示します。
- 無効な接続は ESCON ディレクター・エラー状態ではありません。

OP03I • OP08t

- この原因は、ケーブルの配線の誤り、または専用接続が失われたことが考えられます。
- 詳しくは、ESCON ディレクターの資料を参照してください。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

OP03I o DEV IN USE

説明: VSE は、現在他のホストで使用中のテープ装置をアクセスしようとしていました。装置が他のホストに割り当てられているため、その装置に対するこれ以外のホストによるアクセスの多くは許されません。このため、VSE の入出力は失敗しました。

オペレーターの応答: 他のシステムがその装置を切り離すまで待ちます。装置が完了したとき、システムは自動的に装置を切り離しますが、そうでない場合は、他のシステムのオペレーターがその装置に対してオペレーター・コマンドを出さなければなりません。例えば、他のシステムが VM の場合、そのオペレーターは DETACH または VARY OFF コマンドを出さなければなりません。他のシステムが MVS™ の場合、そのオペレーターは VARY OFF コマンドを出さなければなりません。他のシステムが VSE の場合は、そのオペレーターは、その VSE システムで OFFLINE アテンション・ルーチン・コマンドを出して、装置を割り当て解除しなければなりません。

他のシステムがこのようにして装置を切り離れたあと、VSE で失敗した機能を繰り返してください。

ONLINE アテンション・ルーチン・コマンドを使用して、VSE に装置を割り当てることができます。ONLINE コマンドが正常に実行された場合 (他に装置が割り当てられているホストがないことを意味する)、VSE は VSE 自体に装置を割り当てするため、以降の入出力は、他のホストからの干渉を受けずに続けられます。ONLINE コマンドを出さない場合には、VSE は自動的に最初のユーザーの EXCP 試行で装置を割り当てます。

古いテープ装置は、割り当て/切り離しの機能を持たないため、複数のシステムが同時に 1 つの装置を使用しようとしていないことを、手作業で確かめなければならないことに注意してください。

プログラマーの応答: なし。

OP04I o PATH FENCE

説明: テープまたはディスク・サブシステムの内部データ転送パスの 1 つを、内部エラーのため、サービスから除去する (分離する) 必要がありました。そうすることで、これから先、エラーを避けることはできますが、機能は低下し、データの一部が利用できなくなるかもしれません。

これは単なる通知メッセージです。入出力の失敗はなく、失われたデータはありません。

オペレーターの応答: 可能であれば、保守されるまで、メッセージに示されたサブシステムの使用を減らしてください。

プログラマーの応答: メッセージに示されたサブシステムの保守をスケジュールしてください。

OP05t o OPER INFO

説明: このメッセージは、示された装置の異常な操作状態をオペレーターに知らせます。

オペレーターの応答: 41 ページの『OPxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。問題とその影響の詳細については、センス・バイトと共に、関連の装置システム解説書を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

OP06t o IML REQD

説明: 影響を受けた装置でマイクロコードのエラーが起きました。

オペレーターの応答: 影響を受けた装置に初期マイクロコードをロードして、装置を作動可能にしてください。

装置が印刷装置の場合には、最後の数ページが正しく印刷されているかどうか調べてください。

もし印刷装置が VSE/POWER の出力スプールを印刷するために使われている場合、PRESTART コマンドを使ってください。

プログラマーの応答: なし。

OP07t o OPER VERIFY

説明: 影響を受けた装置で内部エラーが起きました。

オペレーターの応答: システムから表示されたセンス・データを記録してください。

装置が印刷装置の場合には、出力された最後の数行が正しく印刷されているかどうか調べてください。取るべき処置については、該当装置の操作手順書を参照してください。

もし印刷装置が VSE/POWER の出力スプールを印刷するために使われている場合、PRESTART コマンドを使ってください。

プログラマーの応答: なし。

OP08t o INTERV REQ

説明: 追加情報で示された装置が作動可能状態にありません。

オペレーターの応答: 場合によっては、ONLINE オペレーター・コマンドを出して、装置を作動可能にしてください。

介入の必要な装置タイプに応じて、以下のそれぞれから選択してください。

- カード読取装置 - カード読取装置のホッパーが空であることが原因の場合は、新しいカードをホッパーに入れ、装置の準備をしてください。
- 印刷装置 - (IBM 3800 以外の) 印刷装置の用紙チェックが原因である場合は、印刷装置を準備する前に、用紙を送ってください。これによって上重ね印刷が防止されます。

注: VM で制御された印刷装置の場合、スプール・ファイルがいっぱいであることもあります。

さらに、IBM 3800 のときは、センス (SNS=...) 情報を調べてください。バイト 2 のビット 7 がオンの場合、3800 は状況

コード X'72' (センス・バイト 4) を表示し、これは行オーバーランが起きていることを示します。以下を行ってください。

1. ジョブを取り消す。
2. 印刷装置から CANCEL を押して、バッファを消去する。
3. RESET を押す。
4. PRINTER READY を押す。

バイト 3 のビット 4 がオンならば、紙詰まりが起きている可能性があります。ページ・バッファ中のデータはリセットされます。以下を行ってください。

1. ジャム (紙詰まり) を取り除き、印刷装置を作動可能にする。
2. 以下のいずれかで応答してください。
 - IGNORE を出し、エラーがどこで起こったのか、出力データに印を付けておく。
 - CANCEL を出して、ジョブを取り消す。

VSE/POWER で 3800 が動作している場合は、ジョブを続行する前にバックアップすべきページ数を指定できるようにするメッセージも出されます。

状況コードが X'72' 以外のときは、その状態を除くために適切な処置をとったあとで、以下を行ってください。

- 状況コードが 00 から 0F のときは、PRINTER READY を押す。
- 状況コードが 0F 以上のときは、RESET を押し、次に PRINTER READY を押す。

プログラマーの応答: メッセージが IBM 3800 に対するもので、センス・バイト 2 のビット 7 がオンの場合、行のオーバーランが起きています。

0P09I o BUSOUT CHK

説明: 装置が、チャンネル上でのホストと装置との間の通信中に、リカバリー不能エラーを検出しました。これは、単なるパリティー・エラー、それ以上の複合エラー、または通信プロトコルの違反の可能性があります。

オペレーターの応答: 取り消されたジョブを正常に再実行することができます。その装置は修復する必要があると思われる。

プログラマーの応答: なし。

0P10t o EQUIP CHK

説明: 装置チェックが起きました。装置は、内部障害またはテープの破損などの環境に関する問題のいずれかによって、正常に作動していないことを検出しました。そのため、装置は要求された入出力操作を実行できません。

仮想ディスクの場合、このメッセージは、この仮想ディスクのデータ・スペースが常駐するページ・データ・セットでの入出力エラーを示します。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。補足情報が、センス・バイト 3 が X'04' に設定されているテープに言及している場合は、RETRY または END/ENTER キーによる応答を行わないでください。代わりに、テープ装置の電源を切り、テープを

手で巻き戻して、テープに格納されたデータを保存します。テープ障害によって中断されたジョブを再始動するには、『リセット』または『巻き戻し』ボタンを押してください。プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、それを再実行してください。エラーが解決されない場合は、弊社に連絡してください。

0P11t o DATA CHECK

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. データ・チェック。
2. モード設定されているテープが操作不能です。
3. PRT1 印刷装置での用紙スキップで、システムが FCB 中に適切なチャンネル文字を見つけることができません。この状態は、センス・バイト 0 と 1 の X'0810' によって示されます。
4. 装置は DUCT テーブルを使用する PRT1 印刷装置ですが、このテーブルが正しくありません。
5. UCS 印刷装置での印刷で印刷不能文字が見つかり、バッファが BLOCK または NOCHK オペランドの指定なしにロードされました。
6. SYSIN がテープに割り当てられており、EOF に達したときに、オペレーターが処理続行の END/ENTER を誤って押しました。
7. 装置が 3800 印刷装置であり、しかも以下のいずれかになっています。
 - システムが印刷装置に印刷不能文字を送ったか、(1 つの印刷位置に) 複数文字を送りましたが、データ・チェックのブロッキングが指定されていません。
 - 要求されたチャンネル・コードが FCB 中のチャンネル・コードに一致していません。
 - 使用可能な変換テーブルがありません。
8. RSTRT ステートメントの後に、システムが、そのステートメントに指定されたチェックポイントを見つける前に、テープの終わりを検出しました。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。上記の各原因について、下記の処置を行ってください。

- 1: 装置が取り外し可能なボリュームをもつディスクである場合に適用 - ボリュームを交換することによって、エラーの原因がボリュームにあるのか、装置にあるのかを判断できます。

注意:

ただし、ヘッドに破損がある場合、問題のボリュームを良好なドライブで、または良好なボリュームを問題のあるドライブで使用すると、エラーが広がる恐れがあります。

装置がテープの場合に適用 - 問題のあるテープ・リールを別のドライブに、あるいは問題のあるドライブに別のテープ・リールを取り付けることによって問題を究明できます。EREP を実行し、その出力をボリューム統計分析に使用できるようにしておいてください。

2 または 3:

ジョブを取り消し、プログラマーにメッセージを報告してください。

5:

なし。システムはエラーを無視します。直前に印刷された行に問題があると思われます。

6:

IGNORE を入力し、次に CLOSE SYSIN *cuu* を入力して、SYSIN ファイルをクローズしてください。次に指示された手順に従って SYSIN を別のシステム入力装置に割り当て直してください。

7:

次のいずれかで対応します。

- センス・バイト 1 のビット 2 またはビット 3 が 1 の場合には、CANCEL。メッセージをプログラマーに報告してください。

- センス・バイトの 1 のビット 0 が 1 (印刷不能文字または複数文字) の場合、IGNORE または CANCEL で応答します。IGNORE で応答した場合には、印刷された用紙の 1 つにマスクを置いてください。印刷が用紙になじんでいないと汚れますから注意してください。CANCEL で応答した場合には、プログラマーにこのメッセージを報告してください。

8:

以下をチェックするか、ジョブを取り消してプログラマーにこのメッセージを報告してください。

- SYSxxx が正しく割り当てられているか。

- テープが正しく位置付けられているか (チェックポイント・ファイルの先頭またはチェックポイントを含むデータ・ファイルの先頭)。

- SYSxxx に割り当てられた装置に、正しいボリュームが取り付けられているか。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、それを再実行してください。エラーが解決されない場合は、弊社に連絡してください。

原因が上記の「説明」に示されたものである場合の処置:

1:

エラー状態の装置がディスクの場合だけ適用 - 一時的な書き込みエラーが原因と思われる永続読み取りエラーが起っています。トラック (またはブロック) にデータの再書き込みをし、それを読み直してください。これが失敗した場合には、代替トラックを割り当てて、処理を続行してください。影響を受けたディスク・ボリュームのデータを、新しいボリュームまたは別のエクステンツにコピーすることを検討してください。

2:

7 トラック・テープの場合のみテープの読み取りモードの設定が、テープ作成時に用いられたモード設定と一致しているかどうかを調べてください。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

3:

FCB のロードに正しい FCB イメージ・フェーズ名が使用されているかどうかを調べてください。例えば、PRT1 印刷装置の FCB イメージ・フェーズにはチャンネル 1 文字が含まれていなければなりません。

4 または 5:

印刷装置の汎用文字セット・バッファ (UCB) にロードされたバッファ・イメージを調べてください。必要に応じて訂正を行ってください。

7:

ジョブが取り消された場合、センス・バイト 1 を調べてください。

ビット 0 = 1 の場合、印刷不能文字が検出されています。つまり、印刷用に転送されたデータが間違っているか、文字配列テーブルがそのデータの EBCDIC 値に X'FF' を指定しています。データまたはテーブルを変更するか、データ・チェックのブロッキングを指定してください。

ビット 2 = 1 の場合、変換テーブルが使用可能ではありません。CHARS オペランドによってどの文字配列テーブルが要求されているか、データに対してどの変換テーブルが要求されているかを判別してください。

ビット 3 = 1 の場合、要求されたチャンネル・コードが FCB のチャンネル・コードと不一致です。FCB イメージ・フェーズを調べてください。

ビット 4 = 1 の場合、システムが 1 つの印刷位置での印刷に複数の文字を転送しました。データを変更するか、データ・チェックのブロッキングを指定してください。データ・チェックのブロッキングを指定した場合、このような文字がブランクとして印刷されます。

注: 直前の印刷行は、バッファ中で最後にアセンブルされた行であり、エラー行ではありません。このエラーは、数ページが印刷されるまで明らかにならない場合もあります。その数は、バッファ中のページのサイズおよびバッファのサイズにより左右されます。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

8:

オペレーターがこの状況を処理することができなかった場合には、以下を調べてください。

- RSTRT ステートメントのチェックポイント番号が正しいか。

- ジョブ名が、チェックポイントが取られた時に使用されたものと同じであること。

- チェックポイント・レコードを含むファイルが正しくクローズされていること。

0P12t

o VERIFY CHK

説明: システムが検査操作を実行している時にデータ・チェックが起りました。これは、おそらくハードウェア・エラーです。(メッセージ 0P11t も参照してください)。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。問題が再発する場合には、以下を行ってください。

1. ROD コマンドを出してください。

2. EREP を実行してください。16 ページの図 1 を参照してください。

3. プログラマーにこのメッセージを報告し、EREP の出力テープを必要に応じて使用できるようにしておいてください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、それを再実行してください。エラーが解決されない場合は、弊社に連絡してください。

0P13I o END OF VOL

説明: 磁気テープ処理中に、プログラムはメディアの物理的な終わりに達しました。これが起こるのは、ボリュームがいっばいにもかかわらず書き込むときや、記録されたデータの終わりを越えて読み取りやスペーシングを行うときです。こうした場合、VSE がいつもこのメッセージを出すとは限りません。装置とメディアに記録されたデータによっては、他のメッセージを代わりに出すこともあります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 書き込み時にこの問題を避けるためには、初期の警告表示 (書き込み操作のための、CCB に返される装置例外) を受けたときに、書き込みを中止するか、できるだけすぐ中止してください。

読み取り中にこの問題を避けるためには、テープを作成するとき、テープを読み取るプログラム用の、記録されたデータの終わりをマークするテープ・マークあるいはその他の指標が、適切に与えられていることを確かめてください。

0P14t o OVERRUN

説明: 装置オーバーランが起こっています。これは、おそらくハードウェア・エラーです。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。

プログラマーの応答: チャンネル・プログラムを検査し、データ・チェーンがないかどうか調べてください。影響を受ける装置については、特に検討する必要があります。CKD 装置上のレコード内のデータ・チェーンは、オーバーランを起こすことがよくあります。したがって、このようなプログラムは書き直す必要があります。問題が再発生する場合には、IBM サポート担当員に連絡してください。

0P15t o SEEK CHECK

説明: 以下のいずれかです。

- アクセス機構が、正しくセットされませんでした。
- マルチトラック操作で自動ヘッド切り替えの後、ホーム・アドレスの比較が失敗しました。

おそらく装置エラーがあったと思われます。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。ジョブを再実行する必要がある場合には、該当するボリュームを取り外し、別のドライブを使用してください。

問題が再発する場合は、ROD コマンドを出し、EREP (16 ページの図 1 を参照) を実行し、その出力を保管してください。メッセージ (他に気付いた点も) を担当プログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: EREP の出力を調べ、必要ならば、IBM サポート担当員に連絡してください。

0P17t o FILE PROT

説明: 次のいずれかが発生しました。

- TPA テープ装置の場合、このエラー条件は、監視プログラム・チャンネル・コマンドを使用しているユーザー・プログラム、またはコントロール・ユニット内の保護された装置制御フィールドを変更しようとしているユーザー・プログラムによって引き起こされた可能性があります。
- テープ装置の場合、VSE が、ボリュームの物理書き込み保護装置、またはプログラムされた (論理的な) 書き込み保護のいずれかによって、書き込み保護されているテープ・ボリュームに書き込みを行おうとしました。半インチ・リールでは、書き込み保護装置は書き込みリングであり、カートリッジでは、書き込み保護スイッチです。ユーザー・プログラムがボリュームの書き込み保護を行うために EXCP 入出力を出した場合のみ、ボリュームは論理的に書き込み保護が行われ、これはボリュームが取り付けられている間のみ持続します。

メッセージが 0P17A の場合には、VSE はボリュームをアンロードしているので、オペレーターは問題を訂正し、装置を再度取り付け、処理を継続することができます。メッセージが 0P17I の場合には、装置を新しく取り付けても、VSE はジョブの正しい続行を保証できないため、処理を継続することはできません。

- ディスク装置の場合、以下のいずれかが原因と思われます。
 - 無効な SET FILE MASK または DEFINE EXTENT コマンド。
 - 無効なシークまたは位置指定操作。
 - システムが DASD ファイル保護を使用して稼働している場合は、システム常駐ファイルへの書き込みの試行。
- 仮想ディスクの場合、無効な DEFINE EXTENT または LOCATE コマンドが原因と思われます。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。メッセージがテープ装置を示している場合には、正しいボリュームが取り付けられているか、書き込み保護が想定されているボリュームかどうかを調べてください。リングを付けた、または書き込み保護スイッチがアクティブである、正しいボリュームを取り付けてください。メッセージが 0P17A の場合には、装置を作動可能にすると、ジョブが続行します。メッセージが 0P17I の場合には、ジョブを再始動するか、または操作を繰り返してください。

プログラマーの応答: 以下のようなプログラミング・エラーについて調べてください。

- ファイル・マスク設定に違反するチャンネル動作 (例えば、書き込みまたはシーク) が要求されている。
- チャンネル・プログラム内に無効な CCW コマンドまたはコマンド・シーケンスがある。

これらの状況を調べるために、ダンプを取得する // OPTION DUMP を付けてジョブを再実行してください。障害が起きた場合は、影響を受けたチャンネル・プログラムを検査してください。CCW チェーンのアドレスは、メッセージ中で参照された CCB (または IORB) のバイト 9 - 11 に入っています。障害の多くはプログラミング・エラーによるものと思われます。

0P18t **o COMM REJCT**

説明: 装置は処理できないコマンド・コードを受け取りました。

- メッセージが出た原因の例として以下のものがあげられます。
- CCW に、この装置には無効なコマンド・コードが含まれていました。(UR 装置に対して無効な制御文字が使用されました。)
 - この装置に対しては、コマンドの順序が無効でした。
 - テープ装置について、この装置では使用できないモードまたは記録形式を MODESET コマンドが要求しました。
 - FBA ディスクの場合、エクステント定義 CCW および検索 CCW の指定が一致していないか、次の操作を実行できるようになっていません。
 - 書き込み禁止ディスク・ボリュームに書き込みが試みられました。
 - マスクがオフのときにホーム・アドレスまたはデータに対する書き込みが試みられました。
 - おそらく出力エクステントが小さすぎるため、試みられたシーク操作が無効になったと思われる。
 - システムが順次ディスク・ファイルに書き込みを行っているときに、このファイルの最終エクステントの終わりになりました。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ソース・プログラム中のコマンドの順序を調べてください。順序が正しかった場合には、影響を受けたチャンネル・プログラムの命令コードを調べてください。このチャンネル・プログラムは、メッセージに指示されている CCB (または IORB) のバイト 9 - 11 により示されます。以下に、起こり得るプログラミング・エラーのいくつかを示しています。

- ファイル保護テープ・ボリュームに対する書き込みコマンドがあります。
- ディスク装置に対する書き込みコマンドがありますが、その前に検索コマンドがありません。
- IBM 2540 に対する 2 つの連続した読み取りがあり、その間にフィード要求がありません。

IPL 時に、装置が正しく追加されたかどうか、確認してください。

0P19t **o UNDET ERR**

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 無効なセンス・バイトにより装置チェックが起きました。
- 影響を受ける装置がディスクであり、センス・バイト 2 のビット 3 がオンである場合には、カウンター・オーバーフローと共にリカバリー不能な入出力エラーが起っています。

これは、おそらくハードウェア・エラーです。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。RETRY の入力が可能であればこれを行い、メッセージが再度出るかどうか調べてください。ジョブが取り消され、ディスク・ドライブに取り外し可能ボリュームが取り付けられている場合には、ボリュームを

交換することによって、エラーの原因がドライブにあるのか、ボリュームにあるのかを判断できます。

注意:

ただし、ヘッドに破損がある場合、問題のボリュームを良好なドライブで、または良好なボリュームを問題のあるドライブで使用すると、エラーが広がる恐れがあります。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、それを再実行してください。影響を受けた装置が UCS 機構をもつ 1403 印刷装置である場合に、その装置が 1403U 以外の 1403 として (ADD コマンドによって) 定義されていると思われる。エラーがなお続く場合には、オペレーターに ROD コマンドを出して EREP プログラムを実行し、その出力を必要に応じて使用できるように保管することを指示した上で IBM にお問い合わせください。一時的な解決策として、別の装置か、別のボリュームか、どちらか適切な方を使ってエラー状態を回避してください。

0P20t **o RECOVY ERR**

説明: VSE は通常のエラー・リカバリー処理を実行できませんでした。システムは、装置リカバリーの時にこのエラー状態を検出しました。以下の原因が考えられます。

- エラー・リカバリーに必要なプログラム・ページがストレージにありません。
- エラー・リカバリー・ルーチンによって開始された操作の時に入出力エラーが起きました。

テープ・エラー・リカバリーの時 (OPEN 処理の時ではありません) にこのメッセージが出された場合には、状況情報とセンス情報に、テープ・エラー・リカバリー手順を開始させる原因となったエラーが示されます。OPEN 処理にテープ・リカバリーが必要である時にこのメッセージが出された場合には、状況情報とセンス情報に第 2 の障害が示されることがあります。おそらく装置エラーがあったと思われる。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。影響を受けた装置が取り外し可能なボリュームをもつディスク・ドライブである場合には、ボリュームを交換することによって、原因が装置にあるのか、ボリュームにあるのかを判断してください。

注意:

ただし、ヘッドに破損がある場合、問題のボリュームを良好なドライブで、または良好なボリュームを問題のあるドライブで使用すると、エラーが広がる恐れがあります。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: システムによる CCW 変換なしに EXCP を使用している場合に、PFREE マクロを出すのが早すぎないかプログラムを調べてください。このメッセージが再び表示される場合は、弊社に連絡してください。

0P22t **o TRACK FMT**

説明: CKD 装置の場合、VSE が無効な形式でトラックに書き込みを行おうとしたか、または装置がトラックのアクセス中に無効なトラック形式を検出しました。これは以下のいずれかが原因です。

- ユーザー・プログラムが、すでにいっぱいになったトラックにレコードを追加しようとした。
- 検索キー操作で、トラックの終わりに未完のレコードが見つかりましたが、これは、以前に、ユーザー・プログラムが、すでにいっぱいになっていたトラックにレコードを追加しようとして、作成されたものです。
- ユーザー・プログラムが既存のレコードのキー域またはデータ域を更新しようとして、その領域に入れられる以上のデータを与えました。
- キャッシュ装置の場合、装置がキャッシュに置いたトラックを VSE が以前に書き込んでおり、後でトラックがメディアに適合しないことが装置でわかりました。この場合、メッセージ中の CCB および CCSW フィールドは、問題が起きた入出力には適用されませんが、装置が状況を報告したときに実行中であった入出力には適用されます。

キャッシュ・トラックの場合を除いて、ユーザー・プログラムは CCB を介してこのエラーの通知を受け、入出力は完了したと解釈されます。その場合、VSE は、この通知を出した入出力を再実行したため、この通知は影響力を持ちません。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。

プログラマーの応答: トラックの終わりに未完のレコードがある場合、消去 CCW を使用してレコードを消去してください。

0P23t o UNSUP FUNC

説明: VSE システムがサポートしていないモードの機能が装置に使用されたか、または、VSE がサポートしていないモードで装置が使用されました。例えば、次のことが考えられます。

- VSE システムと同時に別のシステムも、3480 テープ装置を使用している。
- ユーザー・プログラムが VSE によりサポートされていない機能を使用した。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 必要に応じてプログラムを修正してください。システム・プログラムが関係している場合は、このメッセージを弊社に報告してください。

0P24t o PROG CHECK

説明: チャンネル・プログラム・チェックです。チャンネルによりプログラミング・エラーが検出されました。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。

プログラマーの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。以下に示すプログラミング・エラーのいずれかがないか、調べてください。

- 最初の CCW がダブルワード境界にありません。
- TIC (転送チャンネル) 内にアドレス指定された CCW がダブルワード境界にありません。
- 最初の CCW アドレス (または TIC 内の CCW アドレス) が無効です。
- 失敗した CCW コマンド・コードは X'00' です。ユニット・レコードの入出力に対して制御文字を指定しているプロ

グラムの場合、無効な制御文字が原因である可能性もあります。この場合、表示された CCSW フィールドの先頭バイトに X'00' が入ります。

- TIC 以外の CCW データ・カウントはゼロです。
- データ・アドレス、またはカウントを加えたデータ・アドレスがプロセッサ・ストレージの領域外であるか、または TFREED が早すぎました。
- TIC 以外の CCW のビット 38 と 39 がゼロではありません。
- チェーン内の最初の CCW が TIC であるか、1 つの TIC が別の TIC を指しています。

プログラム・チェックの詳細なリストについては、「z/Architecture® 解説書」(SA88-8773)を参照してください。必要な訂正を行って、ジョブを再実行してください。

0P25t o PROT CHECK

説明: チャンネル保護チェックです。ユーザー指定の読み取りコマンドが、ユーザー域外のアドレス・スペースの読み取りを行おうとしました。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。MAP コマンドを実行してください。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答:

1. // OPTION DUMP を指定してジョブを再実行して、エラー発生時のシステム・ダンプを取得してください。
2. このメッセージの、CCSW= チャンネル状況ワードに与えられているアドレスから 8 を引いて、CCW アドレスを算出してください。
3. CCW のバイト 1-3 からデータ・アドレスを取り出し、そのアドレスにカウント (CCW のバイト 6-7) を加えてください。
4. 前のステップ (3) で得た値から残余カウント (チャンネル状況ワードに表示された最後の 4 桁) を引いてください。
5. 開始アドレスおよび終了アドレスを、ストレージ・マップにリストされている区画割り振りと比較してください。

アドレスが区画境界外の場合、以下のいずれかを行ってください。

- 区画にストレージを再割り振りしてください。
- 既存の境界と区画が合うようにプログラムを変更してください。

0P26t o INVALID SEEK

説明: 次のいずれかを行ってください。

- 指定されたシーク・アドレスが、該当する装置タイプに対して無効です。
- クローズされたファイルに対するアクセスが試みられました。
- 該当のプログラムがメッセージ 4440t で取り消されました。AB ルーチンが制御を受け取り、未満ファイルに対する書き込みが試みられました。この書き込み操作は通常、クローズ・ルーチンによって生成されるファイルの終わりに

マークの書き込みです。未満ファイルを保護するために、ファイル・マークは書き込まれず、結果としてファイルはクローズされません。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: 以下のうちの該当するものをチェックしてください。

- プログラムの実行のための割り当てが正しいか。影響を受けた装置の割り当てが正しかった場合には、// OPTION DUMP を指定したジョブを再実行し、障害発生時のシステム・ダンプを得てください。アクセスされている装置のタイプを調べてください。
- アクセス・ルーチン内でプロセッサ・ストレージ・オーバーレイがあるか。
- DASD シーク・ルーチンで使われた区画の上限と下限が無効か。
- 無効なシーク・アドレスが生成されたか。
- 影響を受けたファイルの CLOSE 後、入出力が要求されたか。
- エクステント定義が正しいか。LVTOC プログラムを実行し(あるいはオペレーターが実行し)、定義済みエクステントをリストしてください。
- プログラムがファイルのオープン後に、このファイルのクローズも行うか。クローズされていないファイルは、EOF (ファイルの終わり) マークをもちません。エクステントを大きくしてファイルを再作成してください。

必要な訂正を行って、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0P27t o UNKNWN DEV

説明: このメッセージは、サブシステム (VTAM / BTAM-ES) によって排他的に管理されている装置に対して装置チェックが起きると必ず出されます。このサブシステムは、これまででも、これからも、そのエラーを処理することはできません。

次のいずれかが発生しました。

1. メッセージが BTAM-ES または VTAM の制御下でアクセスされる装置を指す場合 - 通信アクセス方式が、その装置に対する入出力要求を現在処理することができません。例えば、このメッセージが VTAM のスタートアップ直後に出され、アクセス方式が実行されている区画に影響している場合には、このメッセージは、VTAM スタートアップ処理が正常に行われていることを示します。
2. 装置チェックに続く場合 - サポートされない装置でエラー・リカバリーが試みられました。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。

プログラマーの応答:

原因 1 の場合 - ジョブ取り消しの理由を判別してください。適切な訂正処置をとり、ジョブを再実行してください。

原因 2 の場合 - LIOCS と PIOCS でユーザー出口オプションを使って、サポートされない装置でのエラーを受け入れてください。

0P28t CHAN DTCHK

説明: チャンネル・データ・チェック。これは、おそらくハードウェア・エラーです。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。問題が引き続き発生する場合は、ご使用のコンピューター・システムの「問題分析の手引き」、またはご使用のプロセッサのそれと同等の資料の記述に従い、ログ情報検索機能を実行してください。収集した情報を使用できるように準備したうえで、プログラマーにこのメッセージを報告してください。ログ分析表示を実行する方法については、「z/VSE Diagnosis Tools」を参照してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、それを再実行してください。エラーが解決されない場合は、弊社に連絡してください。

0P29t o AT LOADPT

説明: テープがロード開始点に位置付けられていますが、テープを巻き戻す操作要求が受け取られませんでした。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。

プログラマーの応答: テープがロード開始点にある時に巻き戻しを起こすようなコマンド順序があるかどうかを調べてください。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。エラーが再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

0P30t o CONVRT CHK

説明: テープでのデータ変換機構チェック。例えば、テープがデータ変換機構がオン状態で読み取られましたが、データ作成の時にはデータ変換機構がオフであった場合に起こるエラーです。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。

プログラマーの応答: モード設定コマンドまたは ASSGN ステートメントのモード設定を訂正し、ジョブを再実行してください。

0P31t o DVC NOT OP

説明: 示された入出力装置が、操作可能ではありません。これは、CSW (位置 X'45') 中のチャンネル状況バイトの X'FE' で示されます。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。以下を調べてください。

- 該当する装置がオンラインであり、作動可能であるか。
- 装置および関連コントロール・ユニットのメーター・スイッチがオンであるか。

作動可能になったならば、ONLINE コマンドを入力して、システムが入出力操作を再試行するようにしてください。IPL 時にこのメッセージが出された場合には、再 IPL が必要で

す。装置を操作可能にできない場合には、CANCEL *cuu* コマンドによってその入出力操作を取り消さなければなりません。
プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、それを再実行してください。エラーが解決されない場合は、弊社に連絡してください。

0P32I o NON COMPAT

説明: ジョブが次のいずれかを試みました。

- 磁気テープを読み取ろうとしましたが、それが取り付けられている装置が読み取ることができる形式で書き込まれていなかったか、または
- 装置が書き込むことができない形式で磁気テープを書き込もうとしたか、または
- 取り付けられている装置ではサポートされない磁気テープにアクセスしようとした。

以下に、このメッセージが現れる原因となるエラーの例を示します。

- ジョブが、TPA テープ装置に取り付けられたボリュームにアクセスしようとしたが、メディアがその装置ではサポートされません。
- ジョブが、TPA テープ装置に取り付けられたボリュームにアクセスしようとしたが、ボリュームが形式設定されていないか、形式が不明またはサポートされないものです。
- ジョブが 3480 形式で記録されたボリュームに、ブロックを追加しようとしている場合。装置は、3480 形式を読み取ることができますが、そのブロックは 3490 形式でのみ書き込むことができるため、これをボリュームに追加することはできません。
- ジョブがブランクのテープを読み取ろうとしている場合。
- おそらくテープ・マークが欠落しているために、ジョブが(ある装置上で)テープ上のデータに続くブランクの部分を読み取ろうとしている場合。
- ジョブが PE (1600 BPI) だけを読み取れる装置で GCR (6250 BPI) 形式で書き込まれているテープを読み取ろうとしている場合。
- ジョブが、3480 短縮形式の 3480 カートリッジでブロックを読み取ろうとしているが、装置が IDRC (改良データ記録機能) を備えていない場合。
- ジョブが、装置が読み取れる最大ブロック・サイズ (例えば、9348 は 64K バイトが最大ブロック・サイズ) を超えるブロック・サイズを読み取ろうとしている場合。
- ジョブが、装置が書き込める最大ブロック・サイズ (例えば、9348 は 64K バイトが最大ブロック・サイズ) を超えるブロック・サイズを書き込もうとしている場合。
- ジョブが処理しようとしているボリュームが含むテープが多すぎる場合。ボリュームまたは装置が壊される可能性があるため、ある種の装置はこのようなボリュームを処理しようとしません。
- ジョブが、現在取り付けられているメディアで可能なブロックよりも短いまたは長いブロックを TPA 装置に書き込もうとしている場合。
- 3420 で、メディアの先頭の部分の品質が良くないために、装置が形式識別情報を読み取ったり、テープの残りを読み取るために増幅器をセットすることができない場合。

注: このメッセージは、実際の読み取りまたは書き込みの失敗を示すものです。場合によっては、ジョブが以降の読み取りまたは書き込みの形式を選択するときにもエラーが起き、そのエラーに関するメッセージは異なったものとなります。

システムの処置: 入出力は失敗し、テープは作動しません。テープには、何も書き込まれず、ストレージにはなにも読み込まれません。メッセージ・タイプが 'A' の場合には、システムはボリュームをアンロードし、装置を要介入状態に置きます。

オペレーターの応答:

- 正しいテープ・ボリュームが取り付けられていることを確かめてください。
- システムがボリュームをアンロードし、またジョブにその装置で利用できる他のボリュームがある場合は、代わりにボリュームを取り付けてください。システムは新たなボリュームの処理を再試行します。代わりにボリュームがない場合は、CANCEL コマンドを使用して要介入状態を取り消してください。
- ジョブが必要とする形式の読み取り機能または書き込み機能を備えている装置にテープを取り付けて、やり直してください。
- そのような装置が使用可能でない場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: メッセージに示された装置が TPA テープ装置で、かつボリュームが形式設定されていない場合は、INITTAPE を実行して、ボリュームを形式設定してください。

これ以外のすべてのケースで、エラーが解決されない場合は、弊社に連絡してください。

0P33t o UCB PARITY

説明: 示された装置の印刷バッファのいずれかで、パリティ・エラーが起きました。装置が PRT1 印刷装置である場合には、以下のいずれかになっています。

- SNS= センス情報のバイト 1 が X'80' である場合、UCB がエラーとなっています。
- SNS= センス情報のバイト 1 が X'10' である場合、FCB がエラーとなっています。
- SNS= センス情報のバイト 1 が X'90' である場合、両方のバッファがエラーとなっています。

おそらく装置エラーがあったと思われます。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。印刷装置がシステムで使用される前に、該当する印刷バッファを再ロードしてください。装置が PRT1 印刷装置であり、センス情報のバイト 1 に上記以外の値が含まれている場合には、印刷装置の印刷速度は遅くなる場合があります。ジョブを取り消さなければならぬ場合には、プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、それを再実行してください。エラーが解決されない場合は、弊社に連絡してください。

0P36I o NO REC FND

説明: ディスク装置の場合。

トラック上のレコードをアクセスする入出力要求を出しましたが、必要とするキーまたはレコード ID をもつレコードが、トラック上にありません。入出力を要求したプログラムにとってトラックの形式が正しくないか、プログラムが間違った ID またはキーを検索した可能性があります。そのプログラムは、間違ったトラックをアクセスしている可能性があります。

テープ装置の場合。

- ボリューム上に記録されているデータの終わりを越えて読み取る、またはボリューム上に存在する指定済み論理ブロック番号の付いているブロック、およびそれが付いていないブロックに直接位置指定を実行する、入出力要求が出されました。

テープの終わりに、テープ・マークが欠落している可能性があります。2 つのテープ・マークは、通常、記録されているデータの終わりを表し、これ以上読み取ることができないことをプログラムに知らせます。

間違ったボリュームが取り付けられている可能性があります。

オペレーターの応答: 装置がテープ装置の場合。

正しいボリュームが取り付けられているかを確認してください。

正しいボリュームが取り付けられていない場合は、正しいボリュームを取り付けてから、ジョブを再実行してください。

装置がディスク装置の場合は、オペレーターの応答は必要ありません。

プログラマーの応答: 装置がディスク装置の場合。

- LSERV プログラムを実行して、拡張情報、または入出力を要求したジョブの DLBL および EXTENT ステートメントをチェックしてください。メッセージに表示されているシーク・アドレスは、ファイルのエクステンツ数の範囲内のはずです。

DITTO は、トラック上にあるものを判別する場合に使用できます。メッセージのシーク・アドレスは、レコードが位置付けられていると予想されるトラックを識別します。

装置がテープ装置の場合。

プログラムが、これ以上ボリュームにデータがないことを正しく判別していること、およびボリュームを作成したプログラムが、記録されたデータの終わりを正しく示していることを検査してください。

0P38t o INVAL FONT

説明: 書式制御ワードのバイト 4 のビット 2 から 5 が無効な字体を指定しています。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。

それ以外は、このメッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 書式制御ワードのバイト 4 が有効な字

体を指定しているかを調べてください。必要な訂正を加え、ジョブを再実行してください。

0P39t o BAD VOLUME

説明: VSE は、テープ上の最初のブロックを読み取れませんでした。VSE は、テープをアンロードし、オペレーターが新しいテープを取り付けるのを待っています。その後 VSE は続行します。

オペレーターの応答: テープの書き込み中である場合は (出力または作業用テープ)、別のボリュームを取り付けてください。テープが入力テープの場合は、別の装置にリールを取り付けて、現在のジョブが取り消されてからジョブを再実行してください。41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。

0P40t o BROKN TAPE

説明: 示されたテープ装置のテープが緩んでいます。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。問題が続く場合には、このメッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: この問題がオペレーターから報告された場合は、弊社に連絡してください。

0P41t o LOAD CHECK

説明: PRT1 印刷装置の FCB または UCB あるいは IBM 3800 印刷バッファをロードしようとした時に、エラーが生じました。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。PRT1 印刷装置の場合、バッファを再ロードしてください。その際、正常な状態のバッファ・イメージ・フェーズを使用してください。この方法で解決されない場合には、ハードウェア・エラーの恐れがあるためメッセージを報告してください。この印刷装置に対しては DVCDN コマンドを出し、システムが動作を続行できるようにしてください。再試行が成功した場合、ソフトウェア・エラーとしてこのメッセージを報告してください。

3800 印刷装置の場合、コンソールからロードした FCB イメージにエラーがあるなら、正しい FCB イメージ・フェーズを指定したかを調べてください。指定した名前が正しい場合、あるいはエラーが FCB 関連のエラーでない場合、プログラマーにメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: ハードウェア・エラーの可能性を示唆するメッセージが報告された場合は、弊社に連絡してください。ソフトウェア・エラーとして報告された場合は、以下を行ってください。

- PRT1 印刷装置の場合 - 該当するバッファ・イメージ・フェーズにエラーがないかを調べてください。FCB の長さは用紙の長さとも一致させる必要があります。
- IBM 3800 の場合 - FCB にエラーがある場合、指定された FCB 名が正しいかを調べてください。センス・バイト 1 と 2 を調べてください。これらは、FCB にエラーがない場合にはロード・チェック状態を示します (バイト 22 と 23 は、ロード・データの始めから、正しくないと思われるデータまでのオフセットを含みます)。

必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

0P42t *o* DSE FAILED

説明: 要求されたデータ保護解除 (DSE) 操作が失敗しました。反射テープ・マークの読み取り前に DSE が終了しました。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。このデータ保護解除操作を再試行するには、ファイルをこの操作が開始された位置にリストアし、もう一度コマンドを出してください。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

0P43I *o* TAPEVOL CH

説明: このメッセージが適用されるテープ装置のタイプごとに、メッセージは、以下のいずれかが起こったことを示します。

- ファイルが装置上でオープンされたとき、装置は作動可能になっています (ボリュームがオペレーターによって変更された、または位置変更されたことを示す)。
- 装置が手動制御により、アンロード、または巻き戻されました。ボリュームはその時、テープの先頭 (BOT) に位置付けられませんでした。同時に、装置上でオープンされているファイルがあります。

しかし、上記のいずれかが起こった場合に、VSE がこのメッセージを出すことは保証されません。装置のタイプおよびいくつかの条件によって、VSE がこのメッセージを出すかどうかが決められます。

VSE は、ファイルをオープンしたジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 現在取り付けられているボリュームが、正しいものであるかどうか検査してください。ジョブが取り消された場合は、実行し直してください。

今後このようなエラー状況を回避するために、必要のない限り、この装置のボリュームを手動でアンロードしないでください。

プログラマーの応答: ファイルがすでにオープンされているときにオペレーターが手動でテープをアンロードしたため、ジョブを実行し直す必要がある場合には、標準操作手順の一部である手動アンロードを行うより、むしろ (プログラム制御下で) ファイルをクローズするときテープをアンロードすることによって、このようなことが再び起こるリスクを阻止できます。

0P44t *o* ID CHK

説明: テープ上でテープ・ロード開始点に欠陥スポットがあります。

システムの処置: システムは、この欠陥スポットのために失敗した書き込み操作を再試行します。再試行が 15 回失敗した場合、システムはテープをアンロードします。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。次のいずれかを行ってください。

- テープ・ヘッドを清掃して、テープを再ロードしてください。

- 別のテープを取り付けてください。この場合、欠陥のあるテープのボリューム・ラベルが、新しく取り付けられたテープのボリューム・ラベルとして書かれます。

- テープ上のロード開始点を示す反射スポットを、十数センチ分前方にずらしてください。

プログラマーの応答: なし。

0P45t *o* WR INHIBIT

説明: ディスク・ボリュームへの書き込みが試みられましたが、ドライブの禁止スイッチが READ ONLY の位置にセットされています。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。このボリュームへの書き込みが必要なら、次のいずれかを実行してください。

- 上記スイッチを ENABL WRITE にセットし、RETRY を入力するか END/ENTER を押してください。必要なければ CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- 装置の禁止スイッチがソフトウェアで制御されている場合は、コントロール・ユニットを再度 IML するか、診断制御 CCW を介入してアプリケーション・プログラムによってスイッチをリセットしてください。必要なければ、CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。

プログラマーの応答: なし。

0P46I *o* LOST POS'G

説明: メッセージに示された装置が TPA テープ装置の場合は、位置指定が失われたためにボリュームにアクセスすることができません。他の装置の場合は、要求側に通知された後、前の入出力操作でエラーが起きました。そのエラーが、現在の入出力要求に対して正しくない位置設定の原因かもしれず、また正しくないジョブ結果の原因かもしれないので、VSE は装置で入出力要求を試みずに、その要求を失敗させました。

表示されたセンス情報と CSW の情報ビットは、前回の入出力 (エラーあり) のものですが、その他の情報は現在の入出力 (VSE が失敗させた) によるものです。装置からのすべてのセンス・データが表示されるわけではありません。

オペレーターの応答: 装置が TPA テープ装置の場合は、ジョブを再実行してください。それ以外の場合は、センス・データを調べ、前の入出力エラーからエラーを診断してください。

41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。エラーが再発する場合には、プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: エラーが解決されない場合は、弊社に連絡してください。

0P47t *o* UNX INTERV

説明: 装置がバッファのないテープ装置である場合は、このメッセージは、ファイルを装置上でオープンするときに装置が作動可能状態でなかったことを示します。

装置がバッファのあるテープ装置である場合は、このメッセージは、装置が手動制御でアンロードまたは巻き戻され、そのときに以下のような状態になっていたことを示します。

- ボリュームがテープ開始点 (BOT) に位置付けられていなかった。

0P48t • 0P50t

- オープン状態のファイルが装置上になかった。
- コントロール・ユニットに保持されている、バッファーに入れられた書き込みデータがあった (装置に送信されたが、まだ物理的にメディアに書き込まれていないデータ)。

バッファーのあるテープ装置の場合、メッセージは通知を与えるだけのものであり、入出力処理は失敗していません。しかし、以前にこの装置に書き込まれたデータは、意図したテープに物理的に書き込まれていません。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。

タイプ・コードが 'A' の場合は、装置を作動可能状態にすることによってジョブを続行できます。しかし、装置が作動可能状態であっても、テープが正しく位置付けられていない場合は、間違った結果を受け取ってしまいます。それ以外の場合は、介入必要状況を取り消します (CANCEL アテンション・ルーチン・コマンドを使用して)。これにより VSE がそのジョブを取り消します。ジョブを実行し直し、ファイルがオープンされているときは、その装置に介入しないでください。

タイプ・コードが 'I' で、ジョブが取り消された場合は、ジョブを実行し直し、ファイルがオープンされているときは、その装置に介入しないでください。

タイプ・コードが 'I' で、ジョブが取り消されなかった場合は、現在の装置または以前の装置を使用したジョブによる、以前の書き込み操作は、正常に終了していません。テープを再作成するか、テープが破壊されている可能性があることを、プログラマーに通知しなければなりません。

プログラマーの応答: バッファーにある書き込みデータが失われた場合、同期化入出力を追加することによって、今後このようなことが起こるのを防止することができます (例えば、テープ・マークを書き込む、または同期化チャンネル・コマンドを出す)。

通常の操作手順の一部として手動でアンロードするのではなく、適切なときにプログラム制御を経由してテープをアンロードすることによって、バッファーにある書き込みデータを失う、およびジョブを取り消す、といったリスクを抑制することができます。

0P48t o FORMAT RST

説明: 様式指定 (読み取り専用、読み取り、用紙送り、選択のいずれかのコマンド) を要求する CCW にそのような指定がありません。可能なモード (DTFCD マクロの MODE=x オペランドに指定します) は、以下に示すとおりです。

- E (EBCDIC の場合)
- C (カラム・バイナリーの場合)
- O (光学式マーク読み取りの場合)
- R (読取抑制の場合)

オペレーターの応答: フォーマット・ジョブが装置のリセット前に終了した場合、以下を行ってください。

- NPRO プロシージャーを実行してください。
- ホッパー中の 2 つのカードを取り換えてください。
- 装置を再始動してください。

そうでなければ、カード装置の永続エラー・キーを探し、装置を再始動してください。

プログラマーの応答: 独自のチャンネル・プログラムをコーディングした場合、このプログラムにコーディング・エラーがないかを調べ、ジョブを再サブミットしてください。プログラムが DTFCD マクロを使用する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

0P49I o PERM ERROR

説明: メッセージがテープ装置に関連するものである場合は、複数の異常なエラーのうちのいずれかが起こりました。その装置に関する資料を使用して、センス・データから正確なエラーを確定することができます。このメッセージを出すエラーは次のとおりです。

- 装置が、それ以上の操作を不可能にするエラーを内部的に検出しました。このため、装置はポリュームを防御 (フェンス) したか、入出力サブシステムが示された装置を防御しました。ポリュームが防御された場合、装置は、そのポリューム (取り付けられたままですが) にそれ以上アクセスすることはできません。
- ユーザー・プログラムは、装置を (この指定がなければ、装置を制御するために使用するコントロール・ユニットの選択権をもっているサブシステムの) コントロール・ユニットに固定するために、EXCP I/O を出しました。指定されたコントロール・ユニットはインストールされておらず、オンラインになっていません。

メッセージがカード操作に関連するものである場合は、オペレーターはリカバリー手順を実行する代わりに、その装置の永続的エラー・キーを押しました。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。フェンスされたテープ・ポリュームの場合は、ポリュームを再度取り付けて、ジョブを再始動するか、または操作を繰り返してください。カード・マシンの場合は、誤って永続的エラー・キーを押した場合には、ジョブを実行し直してください。

プログラマーの応答: 装置が TPA テープ装置の場合は、弊社に連絡してください。「装置固定」入出力に問題がある場合は、それを訂正してください。

0P50t o NO CHN FND

説明: 次のいずれかを行ってください。

- 書き込みスキップ・コマンドまたはスキップ即時コマンドが、示された印刷装置の FCB に、指定位置に用紙を前進させるチャンネル・コードを見つかることができませんでした。
- FCB ロード・コマンドが実行されていますが、チャンネル 1 または用紙の終わり標識がありません。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: SYSBUFLD プログラムを使い、正しい FCB イメージ・フェーズをロードしてください。そのプログラムの使用方法については、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。

OP51t **o MARK CHECK**

説明: 読取不能行指示機構で、タイミング・マーク・チェックが起きました。

オペレーターの応答: 41 ページの『OPxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。スタッカー A または B の標識がオンの場合には、そのスタッカーから文書を取り出し、それを再処理のために保管してください。(読取機構または分離機構の文書は、そのままにしてもかまいません。) START を押して処理を継続してください。読取不能行指示機構以外で用紙ジャムがあった場合には、以下を行ってください。

1. スタッカー標識を無視してください。
2. ジャム文書を取りだし、それを特殊処理のために保管してください。
3. START を押して処理を継続してください。

プログラマーの応答: プログラムの COREXIT ルーチンでこの状況を処理し、処理を続行できるようにしてください。

OP54t **o NOT ICPL'D**

説明: この装置に対して初期制御プログラム・ロード (ICPL) が行われていないか、ハードウェア・エラーが起っています。

オペレーターの応答: 41 ページの『OPxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。START を押して、認識制御プログラムを再初期設定してください。ジョブを再始動してください。メッセージが繰り返し表示される場合は、担当のプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: この永続エラーは、プログラムの COREXIT ルーチンで処理してください。問題が再発する場合には、おそらくエラーはハードウェア・エラーと思われます。

OP56t **ALT EXHSTD**

説明: FBA ディスクの代替域が使い果たされました。

オペレーターの応答: 41 ページの『OPxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。メッセージが再発した場合には、CANCEL で応答し、プログラマーにこの問題を報告してください。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合には、装置サポート機能プログラムの以下の機能を使用してください。

1. INIT によるボリュームの初期設定。
2. INSPECT による、必要に応じたトラック/ブロックの割り当て/再使用。

次に最新のバックアップを使って、ボリュームの元のデータをリストアしてください。問題が解決されない場合は、弊社に連絡してサポートを受けてください。

OP57t **o INTF DSBLD**

説明: 代替コントロール・ユニット (IBM 3880) で、永続装置障害が起っています。

オペレーターの応答: 41 ページの『OPxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。プログラマーに問題を報告してください。

プログラマーの応答: この問題が報告される場合は、弊社に連絡してください。

OP58t **o PCH DTCHK**

説明: 6 ビット装置である IBM 5424-A1 または A2 型で、8 ビット・コード穿孔要求が出されたため、穿孔装置データ・チェックが起っています。

オペレーターの応答: 41 ページの『OPxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、それを再実行してください。エラーが解決されない場合は、弊社に連絡してください。

OP59I **BLKSZE ERR**

説明: メッセージが示す装置がディスク装置の場合は、次のとおりです。

- プログラムは、DEFINE EXTENT コマンドで、無効なブロック・サイズをバイト 2 とバイト 3 に指定しました。

メッセージが示す装置がテープ装置の場合は、次のとおりです。

- プログラムは、装置が書き込み可能な大きさを超えるブロックを書き込もうとしました。テープにはこのブロックについて何も書き込まれていません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: DEFINE EXTENT コマンドを訂正するか、必要に応じてブロック・サイズを減らしてください。

OP60I **PATH ERROR**

説明: 参照された装置へのアクセス時に、経路エラーが発生しました。

オペレーターの応答: 41 ページの『OPxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。センス・バイト 7 が X'75' である場合、3380 コントローラーのデータ経路スイッチが正しい位置にあるかを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

OP61I **I/O ERROR DURING FETCH OF phasename**

説明: システムが FETCH 操作を実行して、示されたエラー・リカバリー・フェーズをロードするときに、入出力エラーが起きました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: オペレーターからコンソール・ログの適切な印刷出力を受け取り、メッセージの表示までに至った状況を判別してください。

- メッセージが出る直前に、該当のサブライブラリーを収めるディスク・ボリュームがオフラインになった場合には、ジョブを再実行してください。実行中、このボリュームがオンラインのままになっているかを確認してください。
- 原因がハードウェア・エラーと思われる場合には、該当のボリュームを別のドライブに取り付けて、ジョブを再実行してください。

注意:

ただし、ヘッドに破損がある場合、問題のボリュームを良好なドライブで使用すると、このエラーが広がる恐れがあります。

0P62I • 0P65I

問題が再発する場合には、装置サポート機能プログラムの以下の機能を使用してください。

1. INIT によるボリュームの初期設定。
2. INSPECT による、必要に応じたトラック/ブロックの割り当て/再使用。

次に最新バックアップを使って、該当するライブラリーを再作成してください。

0P62I PHASE phase-name NOT FOUND

説明: システムは、エラー・リカバリーを実行しているときに、示されたフェーズをどのチェーン・サブライブラリーの中でも見つけることができませんでした。

オペレーターの応答: 問題が再発する場合は、システム・ダンブを取り (// OPTION DUMP を指定して失敗ジョブを再実行しなければならない場合があります)、その上で既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

プログラマーの応答: LISTDIR を該当のサブライブラリーに対して実行してください。フェーズがカタログされているかを調べてください。フェーズがカタログされていない場合、そのフェーズが誤って削除されていることもあり、影響を受けたライブラリーの最新バックアップをリストアする必要があります。

0P63t 0 UNRECV ERR

説明: 影響を受けた装置のチャンネル接続のハードウェアか、そのマイクロプロセッサで内部エラーが起きました。

オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。問題が続く場合、1 日 (シフト) の終わりに次のことを行ってください。

1. ROD コマンドを出してください。
2. EREP を実行してください。ジョブの例については、16 ページの図 1 を参照してください。

3. 出力を保管して、プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: IBM にお問い合わせください。必要な情報の出し方については、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0P64I 0 MAINT REQD

説明: 装置、または装置を含むサブシステムに、保守が必要であることが検出されました。装置は作動を続けますが、パフォーマンスや信頼性は減少する可能性があります。この問題は、サブシステムの複数の装置またはすべての装置に影響するかもしれません。メッセージに示された装置が TPA テープまたはディスク装置である場合、サービス情報メッセージ (SIM) 装置チェックを介してこの問題が報告されました。

オペレーターの応答: 装置が IBM 3480 または IBM 3424 の場合、詳細については、センス・バイト 3 の中のエラー・リカバリー処置コードを検査してください。そのコードについては、関連装置参照情報を参照してください。

プログラマーの応答: 影響を受けたサブシステムに保守をスケジューリングしてください。EREP 報告書を利用できるようにしてください。装置が TPA テープまたはディスク装置である

場合は、サービス情報メッセージ報告書に、この問題に関する必要な情報が含まれています。

0P65I 0 MEDIA ERR

説明: メッセージが示す装置がディスク装置の場合は、次のとおりです。

- このメッセージはメディア警告メッセージです。メディア警告メッセージは、メディア保守のための SIM 警告メッセージです。

メディアにはこの先、パフォーマンスと信頼性の減少を避けるために、保守が必要であると DASD サブシステムが判別しました。ICKDSF で、このメディアの保守を実行することができます。

メッセージが示す装置がテープ装置の場合は、以下のいずれかが起こります。

- メッセージに示された装置が TPA テープの場合は、メディア情報メッセージ (MIM) がコントロール・ユニットから提示されます。MIM は、特定のメディア保守手順を実行する必要があることを示すために使用されます。
- 装置は、アンロードされたばかりのボリュームに、欠陥のあるメディアを検出しました。これは、この先、パフォーマンスと信頼性の減少につながる場合があります。データを他のボリュームにコピーすることで問題を解決できます。この状態について詳しくは、センス・データと関連装置参照情報を参照してください。
- ロードされたばかりのボリュームが大きすぎる、または小さすぎるテープを含んでいるため、そのボリュームは安全に使用できません。ボリュームが小さすぎるテープを含んでいる場合は、装置はテープをハブから外して壊してしまう可能性があります。ボリュームが大きすぎるテープを含んでいる場合は、装置のテープ巻取機構はテープのすべてを保留状態にしないので、ボリュームまたは装置に損傷は与えませんが、装置はこのテープへの書き込みを許しませんが、ユーザーの責任での読み取りを許します。

このメッセージは単に情報を与えるにすぎません。失敗した入出力はありません。

オペレーターの応答: なし。影響を受けたジョブはありません。

プログラマーの応答: メッセージが示す装置がディスク装置の場合は、次のとおりです。

- EREP を実行してサービス情報メッセージ報告書を入手してください。この報告書と ICKDSF を使用して、「Maintaining IBM Storage Subsystem Media」に記述されているように、必要なメディアの保守を行ってください。

メッセージが示す装置がテープ装置の場合は、次のとおりです。

- 装置が TPA テープ装置の場合は、EREP 報告書を用意してください。メディア情報メッセージ報告書に、この問題に関する必要な情報が含まれています。
- 別のテープ装置の場合は、ロードまたはアンロードしたばかりのボリューム上のデータを別のボリュームにコピーし、エラーが発生したボリュームを廃棄することができます。詳しくは、装置情報単位を参照してください。

OP66I SUBSYS INF

説明: TPA テープまたはディスク・サブシステムで、気付いておく必要のあるイベントが起こりました。これには、以下の状況が含まれます。

- ディスク・キャッシュ機能に、今後のキャッシュを中止しかねない障害があります。
- 他のユーザーがサブシステムとのリモート・セッションを確立しました (保守活動の場合)。これは、サービス情報メッセージ (SIM) を経由して VSE に報告されます。
- 保守手順を実行する必要があることを示すために、入出力サブシステム・サービス情報メッセージ (SIM) が TPA テープ装置によって提示されました。

詳しくは、このメッセージで提供されるセンス・データを使用して、関連サブシステム資料を参照してください。

オペレーターの応答: 41 ページの『OPxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。

プログラマーの応答: SIM が報告された場合は、EREP 報告書を用意してください。サービス情報メッセージ報告書に、この問題に関する必要な情報が含まれています。

これ以外のすべてのケースで、エラーが解決されない場合は、弊社に連絡してください。

OP67I PPRC INFO

説明: 対等通信リモート・コピーが中断しました。

オペレーターの応答: 41 ページの『OPxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。中断した装置またはサブシステムの状況を検査または訂正してください。AR コマンド CACHE UNIT=*cuu*,DUPLICATE を使用して、PPRC ペアを再設定してください。

プログラマーの応答: なし。

OP68I KEYXCHG ER

説明: Key Manager による暗号鍵の折衝が失敗しました。

オペレーターの応答: 41 ページの『OPxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。折衝に使用された暗号鍵を検査または修正し、磁気テープ・コントロール・ユニットと Key Manager の間の接続がアクティブになっていることを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

OP69t INTERV REQ *partition-id cuu*

説明: 表示された装置に対して要介入状態が存在していますが、アテンション・ルーチンが活動化されています。

オペレーターの応答: 通常の介入操作で問題を解消できなかった場合には、AR コマンドの CANCEL *cuu* を出し、保留中 (エラー状態) の入出力要求を終了させてください。その結果、この要求を出したタスクが取り消されることになります。問題が再発する場合は、ROD コマンドを出し、EREP (16 ページの図 1 を参照) を実行して、その出力を保管してください。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集し

て利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

OP70I UNDEFINED LOGICAL UNIT

説明: 次のいずれかを行ってください。

- プログラムが論理装置ブロック (LUB) のない論理装置に対して入出力を要求しました。
 - CCB (または IORB) あるいは DTF テーブルが正しい論理装置によって初期設定されていません。
 - ファイルがオープンされていませんでした。
 - 空の ISAM ファイルがアクセスされました。
 - 処理中のファイルの DTFIS マクロにある CYLOFL オペランドの指定が間違っています。これは、関連の CCB (または IORB) の X'FF' によって示されます。
 - プログラムが、前回の実行でクローズされていない ISAM ADD または ADDRTR に対して OPEN を出しました。
- システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。
オペレーターの応答: なし。

表 2. 取り消しメッセージの説明

xxx	名前	解説
JOB	現行ジョブの名前。	1 つのジョブが取り消される場合は、同じ区画で活動中のすべてのサブタスクも取り消されます。その結果、1 つのジョブ取り消しメッセージとともに、1 つまたは複数の 0S12I メッセージが出されることがあります。
SUB	区画内のサブタスクの名前。	示されたサブタスクがエラーを引き起こしたため、取り消されます。通常、この取り消しは影響を受けたタスクにだけ限定され、区画内のジョブの終了までには及びません。サブタスク取り消しメッセージに対するプログラマーの応答が与えられていない場合でも、プログラマーは、取り消し状況からリカバリーするか、または区画内の他のすべてのタスクも同様に取り消すかのいずれかを行わなければなりません。 このような処置がとられないか、エラーになると、デッドロック状態が生じ、最終的にはオペレーターがジョブを取り消す必要がでてきます。 取り消されたサブタスクの名前が ACCT であると、ジョブ・アカウントは活動中であったため、現在処理されているジョブ・ステップで提供されたアカウント情報 は信頼できないものになります。

表 2. 取り消しメッセージの説明 (続き)

xxx	名前	解説
AR	エラーの アテンシ ョン・フ ューズの 名前。	アテンション・ルーチンの処理は取り消されます。アテンション・ルーチンを再活動化するためには、もう一度アテンション・キーを押してください。

プログラマーの応答: 以下のいずれかです。

- 影響を受けた区画に使用できるプログラマー論理装置の数 (ジョブ制御コマンド NPGR に指定) を判別してください。さらに多くのプログラマー論理装置が必要な場合、以下の区画でジョブを再実行してください。
 - この種の装置をより多く使用できる別の区画
 - この種の装置をより多く割り振った後の同じ区画
- システム・ダンプを取得し、取り消されたジョブまたはタスクに関連した DTF テーブル (CCB または IORB) が、実行時に上書きされているかを調べてください。上書きされている場合には、SDAID によりジョブを実行して、ストレージ変更トレースを行うことを検討してください。(このトレースの設定方法については、「z/VSE Diagnosis Tools」を参照。)

問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0P71I SYSnnn NOT ASSIGNED

説明: 示された論理装置にプログラムが入出力要求を出しましたが、この論理装置は既存の入出力装置に割り当てられていません。メッセージでは、実際の名前がすでに使用できない場合、システムは、影響を受ける論理装置の名前として SYSnnn を表示します。汎用レジスター 1 に、関連する CCB (または IORB) のアドレスが入っています。SYSnnn が SYSLUB の場合、(LIBDEF、ACCESS、または CONNECT のうち、該当するいずれかによって) サブライブラリーが定義されていないかもしれません。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージ中の SYSnnn が SYSLUB 以外であって、示された論理装置がもう必要ない場合は、プログラム・リストで以下を調べてください。

- 影響を受ける CCB (または IORB) の不適切な変更がないか、または
- ソース・プログラム中に指定のエラーがないか。

必要な訂正を行って、ジョブを再実行してください。ジョブの実行に際して、装置の割り当てが正しいことを確認してください。必要ならば、EXEC ステートメントの前に LISTIO UNITS ステートメントを指定してジョブを再実行してください。

0P72I READING PAST /& STATEMENT

説明: プログラムが、「/&」を読み取った後で、SYSIPT または SYSRDR 上のファイルの読み取り要求を出しました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のようなエラーがないかチェックしてください。

- 最後のデータ・レコードの後に /* レコードがない。
- 問題プログラム中にファイルの終わりルーチンがない。
- EOF ルーチンに入った後、追加の読み取りコマンドが出された。

必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

0P73I I/O ERROR

説明: リカバリー不能な入出力エラーが発生しました。これは、おそらくハードウェア・エラーです。このエラーが VSE/POWER のもとでユニット・レコードのスプーリング用に使われる装置上で起きた場合、次のようなエラーが考えられます。

- コマンド・リジェクト
- EXCP 要求に REAL が指定されている
- データ域アドレスが無効
- 間接的なデータ・アドレッシング
- CCW がダブルワード境界上でない

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: このメッセージの前にメッセージ 0P24 または 0P25 が出されている場合は、そのメッセージどおりにプログラムを検査してください。装置がユニット・レコード・スプーリング用に使用されていた場合は、チャンネル・プログラムに上記の「説明」で述べられたエラーがないか検査してください。

**0P74I THE OPERATOR ISSUED A CANCEL
AFTER AN I/O ERROR**

説明: 入出力エラー・メッセージへの応答として、キーボードから CANCEL が入力されました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 示されたジョブまたはタスクを取り消す理由を調べてください。必要に応じて訂正処置を行い、必要ならば、ジョブを再実行してください。

0P76I INVALID DASD ADDRESS

説明: 次のいずれかを行ってください。

- DASD ファイルの保護限界を超えました。
- 影響を受けたプログラムが要求したレコードが、論理装置 SYSIN、SYSLNK、SYSPCH、または SYSLST のいずれかに割り当てられた装置のシステム・ファイル内で、次の順番のレコードではありません。
- シーク引数が無効です。
- オープンされていない順次ディスク・ファイルに対して入出力操作が出されました。

- SYSPCH または SYSLST がディスクに割り当てられており、DTFDI の RECSIZE で指定されたレコード長が、それぞれ 81 または 121 ではありません。
- SYSIN、SYSIPT、または SYSRDR の物理的なファイルの終わりの後で、READ が出されました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: DASD ファイル保護がアクティブの場合は、影響を受けるファイルがオープンされていること、およびプログラム内のシークの範囲に対してエクステントが正しいことを確認してください。プログラムが LIOCS を使用している場合、入力ファイルのシークの範囲は、通常、そのファイルの作成時に VTOC に保管されたエクステント限界に基づいて設定されます。この範囲は、入力ファイルの対応する EXTENT ステートメントで定義しなければなりません。

DASD ファイル保護は、これらのステートメントで定義される区域を超えて読み取りを行うことを許可しません。システムがシステム論理装置のレコードを順番に処理できなかった場合は、ソース・コードのエラーがないか調べてください。ディスク上のシステム・ファイルを再割り当てする前に、そのシステム・ファイルに CLOSE が出されていることを確認してください。必要な訂正を行って、ジョブを再実行してください。

OP771 INVALID STORAGE ADDRESS

説明: 次のいずれかを行ってください。

- 影響を受けたプログラムによって提供されたアドレス指定が、要求側区画の外側にあるアドレスを参照しています。
- 障害のあるプログラムには、そのプログラムの区画に現在割り振られているよりも多くのストレージが必要です。
- 非同期オペレーター通信が使用されている場合は、SYSLOG の CCW チェーンが 31 個の CCW よりも長い可能性があります。
- レジスター 1 内のバッファ・アドレス、応答域アドレス、または区画間連絡制御ブロック (XPCCB) へのポインターが無効です。
- EXCP REAL マクロが呼び出されましたが、指定された実アドレスが無効です。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージ 0S07I で示された PSW の命令アドレスは、取り消しの原因となった SVC の後の命令を指しています。プログラム内の対応するマクロを突き止め、このマクロによって渡されるアドレスが区画内にあるかどうかを調べてください。マクロおよびオペランドの仕様の説明については、「z/VSE System Macros Reference」を参照してください。必要があれば、// OPTION DUMP を指定してジョブを再実行し、MAP コマンド出力を入手してください。LISTDIR 実行の出力を使用して、プログラムに必要な仮想記憶量を調べてください。必要な訂正を行って、ジョブを再サブミットしてください。

OP781 UNKNOWN CANCEL CODE *nn*

説明: システム制御コンポーネントが失敗し、システムには不明の取り消しコード *nn* が出されました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: システム制御モジュールに IBM 提供以外のコーディング変更または追加がないか調べてください。そのような変更または追加がある場合、それが正しいか確認してください。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

OP791 INVALID FIRST CCW IN A DASD CHANNEL PROGRAM

説明: 次のいずれかが起こります。

- ディスク装置にアクセスするためのチャンネル・プログラムが、コマンド・コード X'07' (CKD の場合) または X'63' (FBA の場合) で始まっていません。
- FBA ディスクへのアクセスの場合は、EXTENT 情報内のファイル・マスクが正しくありません。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

プログラマーの応答: 次の手順に従ってください。

1. 失敗した実行についてのシステム・ダンプを入手します。必要であれば、// OPTION DUMP を指定してジョブを再実行してください。
2. ダンプで、レジスター 1 で示されたアドレスを持つ CCB (または IORB) を見つけます。
3. 影響を受けたチャンネル・プログラムの最初の CCW を見つけます。そのアドレスは、CCB (IORB) のバイト 9 - 11 に保管されています。
4. 必要に応じて訂正を行います。最初の CCW の命令コードが正しく (上記の「説明」を参照)、FBA ディスクへのアクセスであれば、ファイル・マスク (EXTENT 情報のバイト 0) を調べてください。次のことを確認してください。
ビット 0 および 1 = 01 - 書き込みすべて禁止 - ディスクがシステム常駐ボリュームの場合。
ビット 6 および 7 = 00。

ジョブを再実行してください。

OP801 INVALID READ FROM OR WRITE TO SYSTEM FILE ON FBA

説明: 次のいずれかが発生しました。

- プログラムが、エクステント終了が検出された後で、FBA 上のシステム・ファイルからの読み取り要求 (または書き込み要求) を出しました。
- プログラムが、「/&」を読み取った後で、SYSIPT または SYSRDR 上のファイルからの読み取り要求を出しました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のようなエラーがないか調べてください。

0P81I • 0P86I

- プログラムが、エクステント終了条件が起こった後で、入出力要求を出している。
- SYSIN データの終わりに /* ステートメントがない。
- プログラムが、影響を受けたファイルについてのファイルの終わりルーチンを含んでいない。
- プログラムが、影響を受けたファイルのファイルの終わりルーチンが制御を受け取った後で、そのファイルの読み取り要求を出した。

0P81I CPU FAILURE

説明: リカバリー不能なマシン・チェック割り込みが発生しました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。
オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。ジョブを再実行してください。出力を保管して、このエラーをプログラマーに知らせてください。

プログラマーの応答: なし。

0P82I CHANNEL FAILURE

説明: チャンネル・チェックが発生したか、または入出力割り込みが原因でエラー情報のログアウトが起きました。これは、おそらくハードウェア・エラーです。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。
オペレーターの応答: 41 ページの『0Pxxx オペレーターおよびシステム情報』を参照してください。ジョブを再実行してください。出力を保管して、このエラーをプログラマーに知らせてください。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

0P84I I/O ERROR DURING FETCH SUBLIBRARY=libname.sublibname PHASE=phasename

説明: システムが示されたフェーズを要求どおりにロードしようとしたときに、入出力エラーが発生しました。メッセージの原因として次のことが考えられます。

- ハードウェア・エラー (最も可能性が高い)。
- チェーン・サブライブラリーがジョブ相互間で除去されましたが、除去される前にそのサブライブラリーに対する LIBDROP が与えられていません。
- 影響を受けたライブラリーに関して提供されたエクステント情報が、ディスクに保管されているエクステント情報と一致していません。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。
オペレーターの応答: ハードコピー・ファイルを印刷出力し、プログラマーに知らせてください。

プログラマーの応答: ハードコピー・ファイルを使用して、このメッセージが出された原因を判別してください。

- このメッセージが出される直前に、関連サブライブラリーが LIBDROP なしにオフラインにされた場合は、影響を受けるボリュームが存在し、実行の間中オンラインでかつ定義されたままであることを確かめ、ジョブを再実行してください。サブライブラリーが含まれたボリュームを何らかの理由で除

去しなければならない場合は、適切な LIBDROP を出すようオペレーターに依頼してください。

- 原因がハードウェア・エラーと思われる場合には、該当のボリュームを別のドライブに取り付けて、ジョブを再実行してください。

注意:

ただし、ヘッドに破損がある場合、問題のボリュームを良好なドライブで使用すると、このエラーが広がる恐れがあります。

問題が再発する場合には、装置サポート機能プログラムの以下の機能を使用してください。

1. INIT によるボリュームの初期設定。
2. INSPECT による、必要に応じたトラック/ブロックの割り当て/再使用。

次に最新バックアップを使って、該当するライブラリーを再作成してください。

0P85I SYSTEM UNABLE TO OPEN SYSTEM FILE

説明: SYSPCH または SYSLST はディスクに割り当てられる予定ですが、システムがこの論理装置をオープンする前に、オペレーターが CANCEL を出しました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出し、SYSLST または SYSPCH は未割り当てになります。このメッセージが出される前に行われた他の永続入出力割り当ては、有効なままです。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。

0P86I REQUEST FOR I/O BEYOND EXTENT LIMITS

説明: 取り消されたプログラムが、保護限界外の位置からの読み取りまたは書き込みを試みました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次の手順に従ってください。

1. 失敗したジョブのシステム・ダンプを入手します。必要であれば、// OPTION DUMP を指定して失敗したジョブを再実行してください。
2. ダンプから、影響を受けたタスクの保管域のレジスター 1 の内容としてアドレスが示された制御ブロックを突き止めます。
3. そのブロックのバイト 8 - 11 に、最初の CCW のアドレスが含まれています。これは、CKD ディスクの場合はシーク (命令コード X'07') であり、FBA ディスクの場合は定義エクステント (命令コード X'63') です。
4. プログラムを調べ、そのファイルがオープンされているかどうかを確かめてください。
5. エクステントが、(CKD ディスクがアクセスされる場合) プログラム内のシークの範囲に関して正しいか、または (FBA ディスクがアクセスされる場合) エクステント定義コマンドで指示されたとおりであるかを調べます。チャンネル・プログラムが上書きされたように思われる場合は、

SDAID を指定してプログラムを再実行し、ストレージ変更をトレースすることを検討してください。このトレースをセットアップする方法については、「z/VSE Diagnosis Tools」を参照してください。

必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

OP88I STORAGE ERROR - PROGRAM CANNOT BE EXECUTED

説明: システムがストレージ・エラーを検出しました。
 システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。エラーが再発する場合は、このメッセージを弊社に報告してください。

OP89I CANCEL IGNORED

説明: 以下のいずれかです。
 • オペレーターが CANCEL *cuu* コマンドを入力しましたが、指定された装置に要介入条件は存在しません。
 • メッセージ I155 への応答として、オペレーターが END/ENTER を押したか、または NO と応答しました。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

OP90I TERMINATOR TIMEOUT, UNIT=xxxx

説明: 装置 *xxxx* が、20 秒以内に、入出力停止 (Halt I/O) または使用不可 (Disable) コマンドを応答しませんでした。これは、ハードウェア障害またはエミュレーター・プログラム障害のいずれかです。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: その装置および関連するコントローラーとモデムの設定を検査してください。それらの設定が正しいと思われる場合は、追加の処置についてシステム管理者に相談するか、またはサービス技術員に連絡してください。
 プログラマーの応答: なし。

OP91I TERMINATOR ROUTINE CANCELED, CANCEL CODE=*nm*

説明: 取り消されようとしているタスクの 2 番目の取り消し条件の結果として、システム終了プログラム (ダンプ) ルーチンが取り消されました。
 システムの処置: システムは処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 次のいずれかを行ってください。
 • 取り消しコードが以下の場合、応答は不要です。
 24 = CANCEL コマンドが出された。
 1A = 障害のあるタスクからの要求を実行中に、入出力エラーが起こった。
 • 24 および 1A 以外の取り消しコードの場合は、終了プログラム・ルーチン自体でエラーが起こった可能性があります。この場合は、次の処置をとってください。

1. 失敗した実行のシステム・ダンプを入手します (// OPTION DUMP を指定してジョブを再サブミットする必要があるかもしれません)。
2. 既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

取り消しコードの簡単な説明については、595 ページの『VSE 拡張機能取り消しコード』を参照してください。

**OP92I INVALID LIBRARY STRUCTURE
 SUBLIBRARY=*xxx.xxx* PHASE=*phasename***

説明: サブライブラリー内のフェーズ *phasename* が矛盾した状態にあります。
 システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。
 オペレーターの応答: 原因が 3 の場合は、ライブラリアン・コマンド 'TEST LIB=*xxx* AREA=SPACE を実行して、CPU 内部ライブラリー制御テーブルを更新してから、ジョブを再実行してください。メッセージが繰り返し表示される場合は、ライブラリアンを実行する前に、一時 LIBDEF PHASE,SEARCH=IJSYSRS.SYSLIB を入力してください。
 プログラマーの応答: 次のいずれかを行ってください。
 1. フェーズをカタログし直してください。必要があれば、サブライブラリーを再確立してください。
 2. ユーザー・ディレクトリー項目または SDL 項目を介してフェーズがアクセスされ、フェーズがディスク上ですでに削除されている (スペース・レクラメーション処理が行われた) 場合にも、このメッセージが出されることがあります。
 3. VSAM 管理スペースの共用ライブラリーが、他の共用 CPU の 1 つから拡張され、ロードすべきディレクトリー情報またはフェーズが新しいエクステンツに位置する場合にも、このメッセージが出されることがあります。

OP93I SYSTEM GETVIS SPACE CURRENTLY EXHAUSTED - PROGRAM CANNOT BE EXECUTED

説明: 指定されたプログラムを実行するには、システムが GETVIS スペースを割り振る必要がありますが、そのようなストレージ・スペースは当分の間使用できません。
 システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: あとで、コンピューター・システムで実行中の他のプログラムに必要な GETVIS スペースが少なくなったときに、ジョブを再実行してください。

OP94I INVALID FOR RUN IN DYNAMIC PARTITION

説明: 指定されたジョブは、動的区画では実行できないため、取り消されました。
 システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。動的区画が割り振り解除され、処理が続行されます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 静的区画でジョブを再始動してください。

0P95I PFI REQUEST FAILED FOR
PHASE=*phasename*

説明: SVAPFI で指定された、SVA フェーズについての PFI 要求が、使用できるシステム実記憶が不十分なため、失敗しました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出し、処理が続行されます。

オペレーターの応答: 実記憶の割り振りを検査してください。

プログラマーの応答: ジョブを再始動してください。

0P96I BUFFERED DATA FOR UNIT=*cuu* HAS
BEEN LOST

説明: 指定された仮想テープ装置 (*cuu*) のために、バッファーに入れられたデータを VTAPE 関連 VSAM または TCP/IP ファイルに書き込もうとしましたが失敗しました。その結果、バッファーに入れられたデータの一部またはすべてが失われました。

システムの処置: 関連したジョブは取り消されました。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: 十分な大きさの VTAPE 関連ファイルが指定されているか確認し、さらに、このファイルに正しいファイル属性 (REUSABLE) があるかどうか、および仮想テープが正しく位置付けられているか確認してください。または上記のいずれかを確認してください。

0P97I INCONSISTENT ENCRYPTION KEYS

説明: 前の読み取りまたは磁気テープ動作コマンドが原因で、すでにコントロール・ユニットが無効とした暗号鍵で暗号化されたデータを磁気テープに書き込もうとしました。

システムの処置: 関連したジョブは取り消されました。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: BOV で暗号鍵を指定後、磁気テープ動作および読み取り ccw がないことを確認し、磁気テープが適切に BOV に配置されていることを確認してください。

0P99I \$IJBSEOT ROUTINE CANCELED, CANCEL
CODE=*nn*

説明: 取り消されようとしているタスクの 2 番目の取り消し条件の結果として、システム終了プログラム・ルーチンが取り消されました。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

メッセージ 0P91I も参照してください。

取り消しコードの簡単な説明については、595 ページの『VSE 拡張機能取り消しコード』を参照してください。

0Rxx= 再始動メッセージ

0R00I RESTART UNIT INVALID SYSxxx=*cuu*

説明: RSTRT ステートメントに指定された論理装置が、正しい装置タイプに割り当てられていません。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: RSTRT ステートメントを調べて、正しい論理装置を指定しているかどうかを確認してください。必要ならステートメントを訂正してください。ジョブを再実行し、正しい論理装置割り当てを要求するようにしてください。問題が再発する場合には、システム・ダンプをとってください (// OPTION DUMP を指定してジョブを再実行してください)。既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

- SYSxxx が正しく割り当てられているか。
- SYSxxx に割り当てられた装置に、正しいボリュームが取り付けられているか。
- 装置がディスクの場合、そのエクステンツが正しいか。
- 装置がテープの場合、テープが正しく位置付けられているか。
- ジョブ名がチェックポイントを取った時のものと同じか。
- RSTRT ステートメントのチェックポイント番号が正しいか。

必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0R01I CHKPT NO. *number* NOT FOUND ON
SYSxxx = *cuu* [*tape-serial-no.*]

説明: 以下のいずれかです。

- RSTRT に指定されたチェックポイントが、2 つの連続テープ・マークの読み取り前 (チェックポイントがテープに記録されている場合) あるいは最終エクステンツの終わりに達する前に (チェックポイントがディスクに記録されている場合) 見つかりませんでした。
- 再始動に指定されたジョブ名が、チェックポイント・レコード中のジョブ名と一致していません。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 以下を調べてください。

0R03I SUPERVISOR WITHOUT DASD FILE
PROTECT

説明: 保管された EXTENT 情報をもつプログラムを再始動しようとしたが、システムの監視プログラムに DASD ファイル保護サポートが組み込まれていません。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: コンピューター・システムが、DASD ファイル保護をサポートする監視プログラムと共に実行される際に、再始動ジョブを再実行してください。

**OR04I DIFFERENT SYSTEM MODE FOR
CHKPT/RSTRT**

説明: 370 モードで作動中のシステムでチェックポイントが取られましたが、再始動システムが ECPS :VSE モードで作動しています。あるいはこの逆のモードです。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: チェックポイントが取られた時の処理モードでこの VSE システムが作動している時に、再始動ジョブを再実行してください。

**OR05I PARTITION BOUNDARIES DON'T
MATCH CHKPT PARTITION
ALLOCATION REAL START K-REAL
VIRT. START K-VIRT.**

nnnnnn nnnnn nnnnnn nnnnn

説明: チェックポイントが取られた時に、プログラムが現在持っているより大きな区画、またはより多くのプロセッサ・ストレージ、あるいはその両方を必要としています。ジョブが実モードで実行される場合、VIRT. START (区画の下限境界) および K-VIRT (区画のサイズ) に指定された値が、適用されないものになっています。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 実モード実行に合わせて区画を十分な大きさにし、十分なプロセッサ・ストレージを割り振る必要があれば、それを行って、ジョブを再実行してください。必要に応じ、オペレーターに MAP コマンドを入力してもらい、指示に従ってストレージを再び割り振るよう依頼してください。

OR06I LOGICAL UNIT NOT ASSIGNED SYSxxx

説明: チェックポイントがとられた時に、示された論理装置が割り当てられましたが、その装置は再始動時に、割り当てられていないか、IGNORE として割り当てられています。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 再始動実行のための装置割り当てが、元のチェックポイント実行の時と同じであるかどうかを確認後、ジョブを再実行してください。

OR07I UNIT NOT 3800-PRINTER SYSxxx=cuu

説明: 選択したチェックポイントは、名前を示された論理装置が IBM 3800 印刷サブシステムに割り当てられることを示しています。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 再始動ジョブのための割り当てを調べ、訂正した後、ジョブを再実行してください。

**OR08I SETPRT FAILED RC=X'nnnnnnnn'
SYSxxx=cuu**

説明: システムが再始動のため 3800 印刷装置の制御情報をリストアしようとした際に、SETPRT マクロの実行が失敗しました。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 戻りコードの意味については、

「DOS/VS IBM 3800 Printing Subsystem Programmer's Guide」を参照してください。必要に応じて訂正を行ってください。元のチェックポイント・ジョブを初めから再実行するか、再始動ジョブを再実行してください。

**OR09I INTERNAL RSTRT ERROR IN phasename
SETLIMIT FAILED RC=X'xx' SIZE=yyyyyK**

説明: 再始動ルーチンにより出された SETLIMIT マクロが失敗し、表示された戻りコードが戻されました。マクロ戻りコードについては、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。

システムの処置: システムはダンプをとり、ジョブを取り消します。必要に応じて訂正を行ってください。元のチェックポイント・ジョブを初めから再実行するか、再始動ジョブを再実行してください。必要ならオペレーターに MAP コマンドを出してもらい、ストレージのマップを作成してもらってください。

問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

オペレーターの応答: なし。

**OR10I NO MATCHING DEVICE TYPE
SYSxxx=cuu**

説明: 名前を示された論理装置に現在割り当てられている装置のタイプが、チェックポイントが取られた時点で割り当てられていた装置のタイプと異なります。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 再始動ジョブを再実行し、装置割り当てが元のチェックポイント実行時に使用されたものと一致するようにしてください。

OR11I SYSTEM EXTENT AREA FULL

説明: システムが、ファイル保護エクステントをリストアしようとしたが、システム・エクステント域に十分なスペースがありません。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブを構成するプログラムで使用する、エクステントの数が少なくなった時に、このジョブを再実行してください。

問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0R12I RSTRT DTFPH NOT OPEN. FILE=filename

説明: 指示されたファイル名をもつ DTFPH に対し、再始動ルーチンで出された OPEN が失敗しました。このメッセージの前に、OPEN エラー・メッセージが出されているはずですが、システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ASSGN、DLBL、EXTENT、および RSTRT の各ステートメントに、エラーの可能性または矛盾がないかを調べてください。必要な訂正を加え、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合には、元のチェックポイント・ジョブを初めから再実行してください。既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0R13I INTERNAL RSTRT ERROR IN phasename EXPECTED RECORD NOT FOUND

説明: 名前を示されたフェーズで、エクステント、3800、または PFIx タイプのチェックポイント・レコードが必要とされていますが、そのようなレコードが見つからなかったか、システムが該当レコードをさらに見つけようとする時、エクステントの上限に至りました。

システムの処置: システムはダンプを実行し、ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0R15I INTERNAL RSTRT ERROR IN phasename macroname FAILED RC=X'nm'

説明: この名前のマクロが、予期しない戻りコードを戻しました。おそらくシステム・エラーと思われます。

システムの処置: システムはダンプを実行し、ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 元のチェックポイント・ジョブを初めから再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0R16A R DEVICE NOT READY SYSxxx=cuu

説明: 再始動のために必要な装置特性を得ようとした時に、示された装置が作動可能ではないことを、システムが判別しました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 装置を作動可能にし、RETRY を入力してください。他の応答では、ジョブが取り消されます。

プログラマーの応答: なし。

0R17I DIFFERENT VOLSER volume-id FOR SYSCAT=cuu

説明: SYSCAT に取り付けられている (または割り当てられている) ボリュームが、示されたボリューム、つまりチェックポイントが記録された時点で使用されたボリュームと異なりま

す。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 正しいボリュームを取り付けて、再始動

ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

0R20A RIC TAPE REPO: SER volume-id SEQ sequence-no. SYSxxx=cuu

説明: システムは、オペレーター検査のために以下のものを与えます。

SYSxxx 上のテープ・リールの標準ラベル

ボリューム ID

ラベルの順序番号

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかで応答してください。

- 表示されたボリューム設定情報が正しい場合、END/ENTER を押してください。これにより、システムは処理を続行します。
- 上記情報が正しくない場合、正しいボリュームを取り付けることができなければ、CANCEL を入力してください。
- 上記情報が正しくない場合、正しいボリュームを取り付けることができれば、これを行い、RETRY を入力してください。

プログラマーの応答: オペレーターがこのメッセージに対する応答としてジョブを取り消した場合には、割り当ておよびボリューム取り付けの条件を明らかにして、再始動ジョブを再実行してください。

0R21D IC TAPE REPO: TAPE MARK IN DATA SYSxxx=cuu

説明: SYSxxx テープを位置変更している時に、予期しないテープ・マークが検出されました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 正しいボリュームが取り付けられているかどうかを調べたのち、次のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押し、システムに次の位置変更項目を処理させてください。
- 間違ったボリュームが取り付けられているか、テープの位置設定が正しくない場合は、CANCEL を入力してください。可能であれば、正しいボリュームを取り付けるか、テープを正しく位置付けるか、どちらか適切なほうを行って再始動ジョブを再実行してください。それ以外は、プログラマーにこのメッセージを報告してください。システムは、テープが以下のように位置付けられることを期待しています。

望ましいテープ位置:

- 標準ラベル付きテープ - ロード開始点、または複数ファイル・ボリュームの場合は、最初のヘッダー・ラベル・レコードの先頭か、データ・レコードの先頭。

- 標準外ラベル付きテープ - データ・レコードの先頭。テープがこの位置にセットされていない場合、システムはその前にある標準外ラベルをデータ・レコードとして数えます。
- ラベルなしテープ - ファイルの先頭。先行テープ・マークは、あっても無視されます。

プログラマーの応答: オペレーターがジョブを取り消し、エラーをリカバリーできなかった場合には、オペレーターにボリューム取り付けの指示を確認してください。チェックポイント・ジョブを初めから実行するか、再始動ジョブを再実行してください。

0R22D IC TAPE REPO: DEVICE NOT A TAPE=SYSxxx=cuu

説明: 位置変更テーブルの現在処理中の項目では、名前を示された論理装置がテープに割り当てられていません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- END/ENTER を押すか、IGNORE を入力し、システムに次の位置変更項目を処理させてください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。

プログラマーの応答: 再始動ジョブのための割り当てを調べ、訂正した後、ジョブを再実行してください。

0R23D IC TAPE REPO: DTFTYPE X'*nm*' INVALID *filename*

説明: 論理位置変更テーブル X'*nm*' で示された DTF ブロックが DTFTMT ではありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- END/ENTER を押し、システムに次の位置変更項目を処理させてください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。

プログラマーの応答: テープ位置変更テーブルを調べて、訂正してください。元のチェックポイント・ジョブを初めから再実行するか、再始動ジョブを再実行してください。

0R24D IC TAPE/DASD: UNIT NOT ASSIGNED SYSxxx

説明: テープ位置変更テーブルまたは DASD 検査テーブルに示された論理装置が、割り当てられていません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- END/ENTER を押し、システムに次のテープ位置変更項目または DASD 検査項目を処理させてください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。

プログラマーの応答: オペレーターがジョブを取り消した場合には、割り当てを調べて訂正してください。元のチェックポイント・ジョブを初めから再実行するか、再始動ジョブを再実行してください。

0R25A RIC DASD VERI: SER *volume-id* ASSIGNED SYSxxx=cuu

説明: SYSxxx に割り当てられたディスク装置のボリューム ID が、オペレーター検査のために与えられています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかで応答してください。

- 表示されたボリューム設定情報が正しい場合、END/ENTER を押してください。これにより、システムは処理を続行します。
- 表示された情報が正しくない場合、正しいボリュームを取り付けることができなければ、CANCEL を入力してください。
- 表示された情報が正しくない場合、正しいボリュームを取り付けることができれば、これを行い、RETRY を入力してください。

プログラマーの応答: オペレーターがこのメッセージに対する応答としてジョブを取り消した場合には、割り当ておよびボリューム取り付けの条件を明らかにして、再始動ジョブを再実行してください。

0R26A RIC DASD VERI: VOL. SER. NO. INVALID SYSxxx=cuu

説明: 示された論理装置のボリューム ID が見つからないか、正しくありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 正しいディスクが取り付けられているかを調べ、以下のいずれかで応答してください。

- END/ENTER を押し、システムに DASD の検査を続行させてください。
- 別のボリュームを取り付けることによってもエラー状態を解消できない場合、CANCEL を入力してください。
- 別のボリュームを取り付けることによってエラー状態を解消できる場合、それを行い、RETRY を入力してください。

プログラマーの応答: オペレーターがこのメッセージに対する応答としてジョブを取り消した場合には、ボリューム取り付け条件を明確にしたうえで、再始動ジョブを再実行してください。

0R27D IC DASD VERI: DEVICE NOT A DISK SYSxxx=cuu

説明: DASD 検査テーブルに指定された装置が、ディスクに割り当てられていません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかで応答してください。

- END/ENTER を押し、システムに DASD の検査を続行させてください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。

プログラマーの応答: オペレーターがこのメッセージに対する応答としてジョブを取り消した場合には、割り当て条件を明確にしたうえで、再始動ジョブを再実行してください。

0R28A RIC DASD VERI: DEVICE IS NOT READY SYSxxx=cuu

説明: DASD 検査テーブル中に示された装置が作動可能になっていません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 名前を示された装置を作動可能にして RETRY を入力し、システムにこの装置の検査を再試行させてください。
- END/ENTER を押すか IGNORE を入力し、DASD 検査を続行させてください。
- エラー状態を解消できない場合、CANCEL を入力してください。

プログラマーの応答: オペレーターがエラー状態を解消できなかった場合は、別の適切な論理装置割り当てを使って、ジョブを再実行してください。あるいは、元のチェックポイント・ジョブの再実行を検討してください。

0R29D IC DASD VERI: LOG. UNIT INVALID SYSxxx

説明: 指名された論理装置が、DASD 検査テーブルに記憶されていますが、再始動ジョブに使用される区画によってサポートされていません。

0Sxx=EOJ メッセージ**0S00I xxx name CANCELED**

説明: プログラム中のエラーが原因で、名前を示されたジョブまたはタスクが取り消されました。メッセージの前には、取り消しの理由を示す別のメッセージが出されます。xxx および name の説明については、57 ページの表 2 を参照してください。この表には、問題に関連する追加情報があります。

システムの処置: 示されたジョブまたはタスクは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 取り消しの理由を示すメッセージの説明を参照してください。

0S01I THE OPERATOR CANCELED THE JOB

説明: オペレーターが CANCEL を入力し、示されたジョブの取り消しをシステムに要求しました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 取り消しの理由を判別してください。必要な場合、ジョブを再実行してください。

0S02I A CANCEL OR CANCEL ALL MACRO WAS ISSUED

説明: プログラムまたはプログラム要求サービス・ルーチンが、取り消しタイプの SVC を出しました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーザー作成プログラムによって SVC が出されていない場合には、SYSLOG または SYSLST 上で先行するメッセージが問題を示しています。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討して

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかで応答してください。

- END/ENTER を押し、システムに DASD の検査を続行させてください。
 - CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- プログラマーの応答: 入力正しいかどうかについて DASD 検査テーブルを調べるか、名前を示された区画に許される論理装置の範囲について、監視プログラムを調べてください。必要に応じて訂正を行ってください。元のチェックポイント・ジョブを初めから再実行するか、再始動ジョブを再実行してください。

0R30D INVALID RESPONSE, TRY AGAIN

説明: 先の 0Rnnt メッセージに対する応答が正しくありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: システムがこのメッセージを表示する前にユーザーが応答した 0Rnnt メッセージの説明を調べてください。前に表示された 0Rnnt メッセージに対して有効な応答を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

ください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0S03I PROGRAM CHECK INTERRUPTION - HEX LOCATION nnnnnnnn INTERRUPTION CODE nm - interruption-cause

説明: 示された位置でプログラム・チェック割り込みが起きました。プログラム割り込みコードは、プログラム・チェックの原因を示します。例えば、割り込みコード 0B は 10 進除算例外を示します。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムを訂正して、ジョブを再実行してください。条件コードの意味および割り込みの原因については、使用処理装置用の「Principles of Operation (解説書)」を参照してください。MICR プログラムのスタッカー選択ルーチンでプログラム・チェックが起こった場合には、示された 16 進によるロケーションのアドレスは無効と思われる。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0S04I ILLEGAL SVC - HEX LOCATION nnnnnnnn - SVC CODE HEX nn

説明: SVC が無効であるか、または SVC 命令で渡されたパラメーターが無効であるか矛盾しています。以下に、起きたと思われるエラーの例を示します。

- 監視プログラムが生成されていますが、指定された SVC のサービスに必要なサポートが組み込まれていません。

- ユーザー作成プログラムがシステム用に予約された SVC を出しました。

ユーザーが指定した SVC に対するサポートが監視プログラムに含まれている場合は、648 ページの『SVC エラー』に示されているようなエラーが発生した可能性があります。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 修正処理を行ったあとで、ジョブを再実行してください。

- 監視プログラム機能が存在しないため問題が発生した場合は、その機能を組み込んだ新しい監視プログラムをアセンブルするか、問題のプログラムからその機能を取り除いてください。
- 問題の原因が上記の付録に示されたコーディング・エラーのいずれかである場合は、プログラムを訂正し、ジョブを再実行してください。

SVC の中には、サブタスクが出してはならないものがあります(例えば、14 または 26)。問題が再発する場合は、システム・ダンプをとり (// OPTION DUMP を指定して失敗ジョブを再実行しなければならない場合があります)、その上で既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0S05I PHASE *phase-name* NOT FOUND

説明: システムがロード要求の実行中に、名前を示されたフェーズを見つけることができません。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 以下のいずれかの処置を講じたあと、ジョブを再実行してください。

- ロード要求中のフェーズ名を調べてください。必要ならその名前を訂正し、プログラムをコンパイルし直してください。
- 原因がフェーズ名の間違いではない場合は、該当のサブライブラリー (またはサブライブラリーのチェーン) に対して LISTDIR を実行してください。フェーズがカタログされているかどうかを調べ、カタログされていなければカタログしてください。
- サブライブラリーが正しく (LIBDEF、ACCESS、または CONNECT によって) 定義されているかどうかを調べてください。

問題が再発する場合は、システム・ダンプをとり (// OPTION DUMP を指定して失敗ジョブを再実行しなければならない場合があります)、その上で既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0S06I A DUMP MACRO WAS ISSUED

説明: DUMP SVC がプログラムまたはプログラム要求サービス・ルーチンによって出されました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーザー作成プログラムによって SVC が出されていない場合には、SYSLOG または SYSLSST 上で先行するメッセージが問題を示しています。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0S07I routine PSW *program-status-word*

説明: このメッセージは、プログラムに障害があることを示すプログラム状況ワードです。このメッセージは、記述取り消しメッセージが出される時、必ず一緒に出されます。routine は、取り消し時にアクティブであるルーチンを示します。以下のいずれかの可能性があります。

PROBLEM PROGRAM

ユーザー区画内のプログラムが取り消されました。

LOG.TRANS.AREA

論理一時域内のルーチンが取り消されました。

SUPERVISOR

監視プログラム・ルーチンが取り消されました。

DUMP PROGRAM

ダンプ・プログラムがアクティブのときにエラーが発生しました。

TRACE PROGRAM

トレース・プログラムがアクティブのときにエラーが発生しました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 与えられた PSW を使って問題を判別してください。PSW の説明については、「z/Architecture 解説書」を参照してください。

0S08I LOG. TRANS. AREA CANCELED, PHASE=*phase-name*

説明: 該当の区画で、現在処理中のジョブが取り消された時に、論理一時域が実行中であったことを示します。このメッセージは、SYSLOG で表示された取り消し理由を示すメッセージと共に SYSLSST に書き込まれます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 関連した取り消しメッセージの説明を参照してください。

0S09I AN IDUMP MACRO WAS ISSUED

説明: プログラム、プログラム要求サービス・ルーチン、または出口ルーチンが内部ダンプ・マクロを出しました。IDUMP マクロは、SYSLSST またはダンプ・ライブラリーにストレージ・ダンプを書き込みます。通常このメッセージは、他の終了メッセージの前または後に出されます。

システムの処置: VSE ダンプ・ルーチンは呼び出し側プログラムに制御を戻します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 終了メッセージに関連する説明を参照してください。

0S10I GETVIS FAILURE IN DUMP ROUTINE.
FUNC=n

説明: ターミネーター・ルーチンには、要求されたダンプを書き込むだけの十分な GETVIS スペースがありませんでした。GETVIS は動的スペース GETVIS 域 (動的区画) またはシステム GETVIS 域 (静的区画) から要求されます。GETVIS 障害は、以下のいずれかに発生したと思われれます。

モジュール IJBSDUMP (機能 1 および 2)

モジュール IJBXMAIN (機能 3)

モジュール IJBXLBIO (機能 4)

システムの処置: ダンプ・ルーチンはダンプを SYSLST (機能 1 または 4) に書き込むか、ダンプを抑止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ASI IPL プロシージャ (SVA コマンド内の GETVIS パラメーター) を変更してシステム GETVIS スペースのサイズを増やすか、動的クラス・テーブルを変更して、動的スペース GETVIS 域のサイズを増やしてください。

0S11I ABEND OCCURRED, REASON=xxxxxxx,
ID=aaaaaaaa

説明: タスクが異常終了しました。失敗した機能は、パラメーター ID で記述されます。パラメーター REASON で、理由コードまたは戻りコードが示されます。

• ID=SA-FCH:

ロード・マクロが以下の理由で失敗しました (理由コードの完全な説明については、「z/VSE System Macros Reference」を参照してください)。

- REASON=X'47010004'

フェーズが見つかりません。

- REASON=X'47010008'

入出力エラーがリカバリー不能。

- REASON=X'4701000C'

ライブラリーまたはサブライブラリーの構造が無効。

- REASON=X'47010010'

区画またはフェーズの外側のローカル・ディレクトリー項目が区画の外側の区画またはロード開始点に適合しない。

- REASON=X'47010014'

セキュリティ違反。

- REASON=X'47010018'

ユーザー・ディレクトリー状態が不整合。

- REASON=X'4701001C'

区画が小さすぎる。

- REASON=X'47010024'

ロード開始点と RMODE の指定が不一致。

- REASON=X'47010028'

無効なテープ・ブロックが検出された。

- REASON=X'4701002C'

予期しないテープ・マークが読み取られた。

• ID=NUCLEUS:

- REASON=X'47020002'

AB-EXIT ルーチンがアクティブのときに PR 命令が出されたが、AB-EXIT ルーチンの中で対応する PC/BAKR が出されていない。

- REASON=X'47020003'

PC 命令で、サポートされていない PC 番号が出された。

- REASON=X'47020004'

AB-EXIT を定義するために 'STXIT AB' マクロが出されたが、リンケージ・スタックが空でなかった。

- REASON=X'47020006'

システム制御ブロックを作成するために使用できるシステム GETVIS がない。レジスター 15 に SGETVIS 戻りコードが戻された。

- REASON=X'47020008'

いずれかの AB-TYPE EXIT ルーチンの中で、定義用の 'STXIT AB' が拒否された。

- REASON=X'4702000A'

ESPIE-EXIT が存在しているので、'STXIT PC' が拒否された。

- REASON=X'4702000B'

PC-TYPE EXIT の中で 'STXIT AB' が拒否された。

- REASON=X'4702000C'

OC-TYPE EXIT の中で 'STXIT AB' が拒否された。

- REASON=X'4702000D'

IT-TYPE EXIT の中で 'STXIT AB' が拒否された。

- REASON=X'4702000E'

POSTI-ETXR EXIT の中で 'STXIT AB' が拒否された。

- REASON=X'47020010'

リンケージ・スタックを作成または拡張するために使用できるシステム Getvis がない。

- REASON=X'47020011'

リカバリー・リンケージ・スタックを作成または拡張するために使用できるシステム Getvis がない。

- REASON=X'47020012'

リンケージ・スタックが満杯になった。

- REASON=X'47020013'

リカバリー・リンケージ・スタックが満杯になった。

- REASON=X'47020014'

二重に作成するための SGETVIS がない。

- REASON=X'47020020'

要求された機能 (SVC または PC に基づく) は X-MEMORY 環境ではサポートされない。

- REASON=X'47020030'

取引先 EXIT ルーチンでは ESTAEX は許可されていない。

- REASON=X'47020031'

ESTAEX が拒否された。内部エラー。

- REASON=X'47020032'
TERMINATOR または終結処理サービスがアクティブのとき、ESTAEX は許可されていない。
 - REASON=X'47020033'
ESTAEX TYPE EXIT が存在しているので、'STXIT AB' が拒否された。
 - REASON=X'47020035'
ESTAEX は終了した。呼び出し元が許可されていない (サブシステムでない、取引先でない、監視プログラム状態でない、または PKM がキー 0 を許可していない)。
 - REASON=X'47020036'
ETXR EXIT ルーチンでは ESTAEX は許可されていない。
 - REASON=X'47020037'
POST EXIT ルーチンでは ESTAEX は許可されていない。
 - REASON=X'47020038'
ESTAEX は終了した。パラメーター域 ADDR が無効。
 - REASON=X'47020040'
SVC 79 が無効な機能コードで呼び出された。
 - REASON=X'47020041'
SVC 79 が機能コード 0 で呼び出されたが、アクティブな ESTAEX タイプの出口がない。
 - REASON=X'47020050'
POST EXIT または EXTR EXIT がアクティブのとき、EXIT AB (SVC95) は許可されていない。
 - REASON=X'47020051'
オペレーター取り消しの後、EXIT AB は許可されていない。
 - REASON=X'47020052'
現行 RB が EXIT 活動化の RB でないため、EXIT IT|OC|PC が拒否された。
 - ID=VENDIF:
 - REASON=X'47030002'
セキュリティ違反。
 - REASON=X'47030003'
2 番目の取引先 EXIT 呼び出しが無効。ESTAEX タイプの出口がアクティブ。
 - ID=XMS:
 - REASON=X'47040001'
x メモリーの環境が無効。
- システムの処置: システムは影響を受けた区画を取り消します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

0S12I MAIN TASK TERMINATION

説明: 示されたサブタスクがまだ存在したまま、メインタスクが終了しました。取り消されるサブタスクの名前が ACCT であれば、現在処理中のジョブ・ステップのジョブ・アカウント情報は正確ではありません。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: プログラム中のエラーを訂正し、プログラムのメインタスクが EOJ に進む前に、サブタスクが消去されるようにしてください。

0S13I ERROR DURING I/O FOR LOCK FILE ON DASD

説明: プログラムが FAIL=WAITC でロック要求を出しましたが、ロック・ファイルにエラーがあります。
システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。
オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。
プログラマーの応答: 操作上の都合がつき次第、以降のジョブが処理のためにスケジュールされないようにした上で、オペレーターに以下を指示してください。

1. DASD 共用サポートに依存しない保留中のジョブを、ロック・ファイルを共用しているシステム上で実行を終了できるようにする。
2. システムをシャットダウンする。
3. 上記の 2 で遮断したシステムに対して、新たなシステム・スタートアップを実行する。

オペレーターがシステムを新たに始動した後で、問題のあるジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0S14I A CANCEL ALL MACRO WAS ISSUED

説明: サブタスクが CANCEL ALL マクロを出しました。
システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

0S15I AN INVALID OR NOT AUTHORIZED {DSPSERV|ALESERV} MACRO WAS ISSUED. REASON CODE = xxxx. [DATA SPACE NAME = xxxxxxxx.]

説明: 次のいずれかを行ってください。

- マクロ呼び出しで作成されたパラメーター・リストが無効。これはおそらく、ユーザーが誤って変更したものと思われる。
- ハードウェアもしくは個別のインストール・システムは、指定されたパラメーターをもつマクロを許可しません。

次の理由コードは、ALESERV マクロの取り消しを示します。

- 一般の妥当性検査の場合、xxxx は次の状況を示します。
 - FE01 渡されたパラメーター・リストのアドレスが無効です。
 - FE02 システムの GETVIS ストレージがありません。
 - FE05 AR モードで実行中ですが、アクセス・レジスター 1 が 0 ではありません。
 - FE07 ALESERV マクロの呼び出し側を ICCF 対話区画で実行してはなりません。

- FE08 ALESERV マクロの呼び出し側を REAL モードで実行してはなりません。
 - FE09 システム・タスクまたはアテンション・ルーチンで ALESERV サービスが呼び出されました。
 - FE10 渡されたパラメーター・リストの予約フィールドすべてが 16 進数の 0 ではありません。
 - FE11 有効なサービスが指定されていません (有効なサービスは ADD、DELETE、EXTRACT、および SEARCH です)。
 - FE13 呼び出し側は、入出力または外部割り込みを行うことができません。
 - ADD と SEARCH サービスの場合、xxxx は次のとおりです。
 - FE30 アクセス・オペランドが共用ではない。
- 以下の理由コードは、DSPSERV マクロの取り消しを示します。
- 一般の妥当性検査の場合、xxxx は次の状況を示します。
 - FF01 渡されたパラメーター・リストのアドレスが無効です。
 - FF02 システムの GETVIS ストレージがありません。
 - FF03 AR モードで実行中ですが、アクセス・レジスター 1 が 0 ではありません。
 - FF04 DSPSERV マクロの呼び出し側は、31 ビット・アドレッシング・モードになっていません。
 - FF07 DSPSERV マクロの呼び出し側を ICCF 対話区画で実行してはなりません。
 - FF08 DSPSERV マクロの呼び出し側を REAL モードで実行してはなりません。
 - FF09 システム・タスクまたはアテンション・ルーチンで DSPSERV サービスが呼び出されました。
 - FF10 渡されたパラメーター・リストの予約フィールドすべてが 16 進数の 0 ではありません。
 - FF11 有効なサービスが指定されていません (有効なサービスは CREATE、DELETE、RELEASE、および EXTEND です)。
 - FF12 プログラム呼び出し番号が無効です。DISABLED=YES が指定されていると思われる。
 - FF13 呼び出し側は、入出力または外部割り込みを行うことができません。
 - CREATE サービスの場合、xxxx は次のとおりです。
 - 0001 呼び出し側は PSW キー 0 を持たず、また SCOPE=ALL または SCOPE=COMMON です。
 - 0006 最大値 (ブロック) が 0 から 524,288 までの範囲にありません。
 - 0007 初期値 (ブロック) が 0 から 524,288 までの範囲にありません。
 - 0008 データ・スペース名が左寄せされていません。
 - 0009 名前フィールドには、組み込みブランクが含まれています。
 - 000A 文字、数値、@、#、\$ のみ使用できます。
 - 000B GENNAME=YES と GENNAME=COND のフラグがオンです。
 - 000C 名前は数字で始まっていますが、GENNAME が 'YES' ではありません。
 - 000D PSW キーは 0 でなく、DSNAME が 'SYS' で始まっています。
 - 000E 名前は 'SYSDS' で始まっています。
 - 000F 名前は 'SYSIV' で始まっています。この名前は、仮想ディスクの定義で使用するために、ジョブ制御 (VDISK コマンド) で予約されます。
 - 0011 1 つの SCOPE ビットだけがオンになっている可能性があります (SINGLE、ALL、または COMMON)。
 - 0020 タイプが 'BASIC' ではありません。
 - 0022 DREF=YES が指定されています。
 - DELETE サービスの場合、xxxx は次のとおりです。
 - 0105 指定された STOKEN は、有効なデータ・スペースを表していないか、または呼び出し側にデータ・スペースを削除する権限が与えられていません。
 - 010A PSW キー が 0 のプログラムのみが、SCOPE=ALL または SCOPE=COMMON データ・スペースを削除します。
 - 010B 呼び出し側プログラムの PSW キーは、データ・スペースのストレージ・キーと一致しませんが、PSW キーが 0 ではありません。
 - RELEASE サービスの場合、xxxx は次のとおりです。
 - 0201 指定された STOKEN が有効なデータ・スペースを表していないか、または呼び出し側にデータ・スペースを解放する権限が与えられていません。
 - 0202 始動アドレスがページ境界にありません。
 - 0204 ブロックの数が無効です。
 - 0205 ブロックの要求された範囲が、データ・スペースの範囲にありません。
 - 0206 PSW キー 0 を持たない呼び出し側が、SCOPE=ALL または SCOPE=COMMON データ・スペースを解放しようとしてしました。
 - 0209 呼び出し側プログラムの PSW キーは、データ・スペースのストレージ・キーと一致しません。
 - EXTEND サービスの場合、xxxx は次のとおりです。
 - 0501 入力 STOKEN が、有効なデータ・スペースを表していないか、または呼び出し側に権限の与えられていないデータ・スペースを表しています。
 - 0503 データ・スペースの新しい現行サイズは、その最大サイズを超えてはいけません。
 - 0506 呼び出し側プログラムの PSW キーが 0 でなく、データ・スペースの SCOPE が SINGLE ではありません。
 - 0520 VAR=YES はサポートされていません。
- システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出し、ジョブを取り消します。
- オペレーターの応答: なし。
- プログラマーの応答: マクロ呼び出しのパラメーター・リストを作成するプログラムを訂正するか、または必要な機能がインストールされたシステムで、ジョブを実行してください。

0S16I LOCK REQUEST MAY CAUSE A DEADLOCK

説明: システムがリソースを LOCK しようとしたが、示されたそのリソースのプールが使いきられています。リソース待ちは、デッドロック状況の原因となります。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: システム・ダンプを取ってください。

(必要ならば // OPTION DUMP を指定してジョブを再実行してください。) LOCK マクロの戻りコードについて、レジスター 15 を調べてください。必要な訂正を行って、ジョブを再実行してください。LOCK マクロの戻りコードの説明については、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。システムが出した戻りコードで、GETVIS 域が小さすぎる事が示され、かつ問題が再発した場合は、ASI IPL プロシージャを変更し、SVA コマンドの GETVIS により大きい値を指定してください。

0S17I EXECUTION MODE VIOLATION, SVC CODE HEX *mm*

説明: 関連するサービスが、実行モード違反を検出しました。この違反は以下のいずれかであると思われます。

- プログラムがアドレッシング・モード 31 で実行されたが、呼び出されたサービスでは AMODE 24 のみが許されている。もしくは、
- プログラムが常駐モード 31 (16 MB 境界より上) で実行されたが、呼び出されたサービスでは RMODE 24 のみが許されている。
- プログラムがアドレッシング・モード 64 で実行されたが、呼び出されたサービスではこれが許可されていない。もしくは、
- プログラムがアクセス・レジスターの ASC モードで実行されたが、呼び出されたサービスでは基本 ASC モードのみが許されている。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: アプリケーションを訂正して、許可されたモードでサービスを呼び出すようにしてください。

0S18I CCW CHAIN CROSSES THE 16MB BOUNDARY

説明: アドレスまたは次の CCW が 16 MB またはそれ以上です。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムを訂正して、ジョブを再実行してください。

0S19I OPERATOR/ICCF SYSTEM REQUEST

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: VSE/ICCF 端末に表示されたメッセージを参照してください。そのメッセージに応答してください。

0S20I UNAUTHORIZED ACCESS REQUEST FOR *yyyyyyyyy.zzzzzzzz*

説明: 指定のタスクまたはジョブは、アクセスが制限されたリソース *yyyyyyyyy.zzzzzzzz* をアクセス権限なしでアクセスしようとした。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

VSE/ アクセス制御プログラム - ログング報告機能がアクティブであれば、システムは違反をログ・データ・セットに記録します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 上記のプログラムがアクティブであれば、そのプログラムを実行して、アクセス制御違反が起きた原因を調べてください。システムのアクセス制御機能によってジョブやタスクが取り消されるべきでなかった場合は、システム・ダンプをとり (// OPTION DUMP を指定して当該ジョブを再実行しなければならない場合があります)、その上で既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0S21I ACCESS-CONTROL FUNCTION PROCESSING ERROR

説明: 以下のいずれかです。

- システムのアクセス制御テーブルにエラーがあります。
- 無効な制御ブロックのため、VSE システムのアクセス制御機能に処理エラーが起きました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: システム・ライブラリー中に SVA 適格として正しいアクセス制御テーブル (DTSECTAB) をカタログしてください。次に、// ID ステートメントを指定してジョブを再実行し、新しくカタログされたアクセス制御テーブルを、アクセス制御機能に対して指定してください。問題が再発する場合は、システム・ダンプをとり (// OPTION DUMP を指定して当該ジョブを再実行しなければならない場合があります)、その上で既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0S22I SECURITY MANAGER INTERNAL ERROR: *yyyyyyyyy*

説明: 示されたタスクまたはジョブが、VSE/AF セキュリティー・サービスの 1 つを実行しようとした。VSE セキュリティー・マネージャーは、内部処理エラーのため取り消されました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: 後でストレージ・ダンプ情報を検索するために、補足情報 *yyyyyyyyy* を書き留めておいてください。

プログラマーの応答: システム・ダンプをとり (// OPTION DUMP を指定して当該ジョブを再実行しなければならない場合があります)、その上で既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

**0S23I DUMP ROUTINE CANCELED. CANCEL
 CODE=mm**

説明: ダンプ・ルーチンが異常終了しました。取り消しコードには、取り消しの原因が示されます。これについては、595 ページの『VSE 拡張機能取り消しコード』を参照してください。終了の原因として一番に考えられるのは、PFLUSH または CANCEL のようなオペレーター・コマンドが出されたためと思われる。

システムの処置: ダンプ・ルーチンは処理を終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**0S24I AN SDUMP OR SDUMPX MACRO WAS
 ISSUED**

説明: プログラム、プログラム要求サービス・ルーチン、出口ルーチンのいずれかで、SDUMP マクロまたは SDUMPX マクロが出されました。このマクロは、ストレージ・ダンプまたはデータ・スペース・ダンプが SYSLST またはダンプ・ライブラリーに書き込まれる原因になります。

システムの処置: VSE ダンプ・ルーチンは呼び出し側プログラムに制御を戻します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**0S25I TRACE ROUTINE CANCELED. CANCEL
 CODE=nn**

説明: 対話式トレース・ルーチンが異常終了しました。取り消しコードには、取り消しの原因が示されます。これについては、595 ページの『VSE 拡張機能取り消しコード』を参照してください。終了の原因として一番に考えられるのは、PFLUSH または CANCEL のようなオペレーター・コマンドが出されたためと思われる。

システムの処置: 対話式トレース・ルーチンは処理を終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0S26I DUMP HAS BEEN TRUNCATED

説明: ダンプ・ライブラリーに入力されるダンプが、ライブラリー・メンバーの最大サイズを超えています。

システムの処置: 切り捨てられたダンプがダンプ・ライブラリーに入れられました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**0S27I OS/390 MACRO FAILED. SYSTEM ABEND
 CODE=mmmm,
 REASON CODE=mmmmmmmmmm,
 SUB REASON CODE=xx,
 MACRO=macro name**

説明: マクロ *macro name* がプログラムまたはプログラム要求サービス・ルーチンによって出されました。そのマクロが異常終了コード *mmmm*、理由コード *mmmmmmmmmm*、および副理由コード *xx* で示される理由でシステムから拒否されました。

システムの処置: システムは影響を受けた区画を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムを訂正して、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

異常終了コード、理由コード、および副理由コードの説明については、該当のマクロのエラー記述を参照するか、または 597 ページの『OS/390 API 異常終了コード』を参照してください。

0S28I ABEND ISSUED. USER ABEND

CODE=nnnn, REASON CODE=mmmmmmmmmm

説明: 異常終了コードがプログラムまたはプログラム要求サービス・ルーチンによって出されました。異常終了コード *nnnn*、理由コード *mmmmmmmmmm* がプログラムから提供されます。

z/OS はユーザー完了コード (デフォルト) を 10 進表記表示し、システム完了コードを 16 進表記で表示します。z/OS とは異なり、z/VSE は常に 16 進表記を使用します。

対応する (CICS) ユーザー異常終了コードを取得するには、*nnnn* を 10 進数に変換します。

システムの処置: システムは影響を受けた区画を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 必要に応じてプログラムを修正し、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

0S29I DUMP STARTED

説明: z/VSE 終了ルーチンがストレージ・ダンプを SYSLST に書き込みます。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**0S30I DUMP STARTED. MEMBER=name. DUMP
 IN SUBLIB=sublibrary-name**

説明: 名前を示されたシステム・ダンプの、示されたサブライブラリーへの書き込みが始まりました。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: メンバー名とサブライブラリー名を、後のストレージ・ダンプ情報の検索のために記録しておいてください。

プログラマーの応答: なし。

OS31I THE LIBRARY DUMP HAS BEEN CANCELED. CANCEL CODE=*nm*

説明: オペレーターが PFLUSH コマンドまたは CANCEL コマンドを使用してダンプ・ルーチンを終了しました。取り消しコードが取り消しの原因を示しています。取り消しコードについては、595 ページの『VSE 拡張機能取り消しコード』を参照してください。

システムの処置: ダンプ・ルーチンは処理を終了します。最初のダンプ・メンバーは、ダンプ・ライブラリーから消去されています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

OS32I THE LIBRARY DUMP TERMINATED ABNORMALLY

説明: ダンプ・ルーチン IJBXL BIO が異常終了しました。

システムの処置: ダンプ・ルーチンは処理を終了します。最初のダンプ・メンバーは、ダンプ・ライブラリーから消去されています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

OS33I LIBDEF STATEMENT IS MISSING FOR THE DUMP LIBRARY

説明: JCL オプション SYSDUMP が指定されましたが、ダンプ・サブライブラリーが、区画に対して指定されていません。ダンプ・ライブラリーの LIBDEF ステートメントが欠落しています。

システムの処置: ダンプ・ルーチンは、ダンプを SYSLST に書き込もうとします。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

OS34I DUMP LIBRARY ERROR. FUNCTION = *f* FEEDBACK CODE=*X'nn'*

説明: ダンプ・ルーチンがダンプ・ライブラリーにダンプを書き込んでいるときに、予期しないエラーが発生しました。番号 *f* は失敗したライブラリアン機能を示します。

```
f=1: error during LOCK macro
f=2: error during CONNECT
f=3: error during PUT
f=4: error during STOW
f=5: error during DISCONNECT
f=6: error during GET
f=7: error during OPEN
f=8: housekeeping member (HSKMEM) is locked
```

フィードバック・コード *nm* は、ライブラリアン戻りコードを指定します。それは主に、サービス担当員が後で問題解決のために使用するためです。

システムの処置: SYSLST が割り当てられている場合、ダンプ・ルーチンは SYSLST へダンプを書き込みます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示されるフィードバック・コードを報告してください。

OS35I PHASE *phase-name* DOES NOT FIT IN LTA OR PARTITION

説明: ロードされるフェーズが、論理一時域 (LTA) か、影響を受けた区画か、どちらか該当するほうに対して、適合しません。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: フェーズを LTA で実行しようとした場合、コードを 2 つ以上のフェーズとして書き直し、それらをリンクし、その区域で順次に実行されるようにしてください。その上で、ジョブを再実行してください。フェーズを区画で実行しようとした場合は、より大きな区画、あるいはより大きな SIZE (プログラム域) 値が指定されている区画で、ジョブを再実行してください。

OS36I DSP SYSTEM TASK CANCELED

説明: ディスパッチャー・システム・タスク・プロセス中に、取り消し条件が起きました。

システムの処置: システム・タスクが非活動化され、区画平衡は停止します。

オペレーターの応答: 平衡グループの区画を PRTY コマンドに指定して、そのシステム・タスクを再始動してみてください。再始動できない場合や、エラーが再発する場合は、弊社に連絡してサポートを受けてください。

プログラマーの応答: なし。

OS37I PROGRAM CANCELED. SERVICE PROVIDER *jobname* IN PARTITION *syslog id* TERMINATED.

説明: サービス提供者区画 *syslog* の中で PC-ss によってプログラムが実行中でした。サービス提供者 *jobname* が終了したので、プログラムが取り消され、したがって終了中の区画を離れます。

システムの処置: システムはメッセージ OS37I の後にメッセージ OS00I を出します。

オペレーターの応答: サービス提供者とユーザーを再始動してください。

プログラマーの応答: なし。

OS38I KEY VALIDATION FAILED, REASON=*xxxx* [,KEYWORD=*yyyy*][RC=*rc*]

説明: プログラム IVALPKEY の実行中にエラーが検出されました。指定されたプロダクトをキーで使用可能にすることができません。パラメーター REASON がエラーを説明しています。パラメーター KEYWORD は、エラーのあるキーワードを表します。該当する場合は、パラメーター RC に詳しいエラー説明があります。

REASON = 0001

必須キーワード PRODUCT、KEY、および CUSTINFO の少なくとも 1 つが指定されていません。

REASON = 0002

無効なキーワードが指定されています。yyyy は、無効なキーワードを表します。

OS39I

REASON = 0003

あるキーワードが複数回指定されました。 *yyyy* は、そのキーワードを表します。

REASON = 0004

KEYWORD=*yyyy* に無効な値が指定されました。

REASON = 0005

KEY および CUSTINFO の指定が、有効なプロダクト・キーではありません。 キー検査ルーチンは、RC=*rc* で失敗しました。

REASON = 0006

モジュール IJBTVAl が SVA にロードされていません。

REASON = 0007

キー処理を試みている間のエラー。

システムの処置: IVALPKEY プログラムは終了し、戻りコード 8 を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: RC = 4 であれば、ファイル処理中にエラーが起きました。弊社に連絡してください。

RC = 8 であれば、ユーザーが試用用のキー・バージョンを使用可能にしようとしたのですが、試用用キー期間が終了しました。

**OS39I ERROR DURING OSA EXPRESS PROCESSING, REASON=xxxx
CUU=*yyyy*,DEV/CHAN STATUS=*zzzz*
SNS=*ww..ww*
RETCODE=*vvvv*.**

説明: タイプ OSAX の TCP/IP リンクはエラーを検出しました。値 *xxxx* は理由コードを示します。表示された場合、値 *yyyy* は *cuu* の失敗を示し、値 *zzzz* は 16 進文字ストリングで、最初の 2 文字は失敗した CCW のコマンド・コードです。残りの文字は、チャンネル状況ワードで、値 *ww..ww* はセンス・データを示します。値 *vvvv* は、特定の機能によって提供される戻りコードです。

REASON = X'0001'

OSAX リンクは無効な入力を受け取りました。機能コードが無効でした。

REASON = X'0002'

OSAX リンクは無効な入力を受け取りました。区画内にこれ以上の OSAX リンクは許可されていません。10 が最大数です。

REASON = X'0003'

制御ブロックを割り振るために使用可能な区画 Getvis が不足しています。

REASON = X'0004'

Freevis に失敗しました。

REASON = X'0005'

使用可能な PFIX ストレージが不足しています。

REASON = X'0006'

Pfree に失敗しました。

REASON = X'0008'

OSAX リンクは無効な入力を受け取りました。無効なルーティング・タイプが指定されました。

REASON = X'0009'

OSAX リンクは無効な入力を受け取りました。優先キューはサポートされていません。

REASON = X'000A'

OSAX リンクは無効な入力を受け取りました。無効なデフォルト・キューが指定されました。

REASON = X'000B'

OSAX リンクは無効な入力を受け取りました。無効なチェックサム・タイプが指定されました。

REASON = X'000C'

装置がシステムに定義されていません。ADD ステートメント、あるいは DEFINE LINK ステートメント上の DEV または DATAPATH パラメーター (あるいはその両方) が欠落している可能性があります。

REASON = X'000D'

システムは装置情報を検索することができませんでした。

REASON = X'000E'

装置が OSAX 装置ではありません。

REASON = X'000F'

装置仕様内に不一致があります。

REASON = X'0010'

サポートされない装置です。

REASON = X'0011'

DEFINE LINK ステートメントの DEV パラメーター内の装置番号は、偶数/奇数の対である必要があります。VM 下で実行している場合は、IOCP に生成される実際の装置番号も、偶数/奇数の対で生成されるようにしてください。

REASON = X'0012'

装置は既に割り当てられています。別の DEFINE LINK ステートメントですでに使用されているか、同じ DEFINE LINK ステートメント内で 2 回指定されている可能性があります。

REASON = X'0013'

装置はプロトコル・エラーを報告しました。

REASON = X'0014'

装置はプロトコル・エラーを報告しました。

REASON = X'0015'

装置はプロトコル・エラーを報告しました。これが CHPID OSX 装置で、RETCODE=131E または 1320 の場合、その装置は (LPAR 内の、または z/VM で専用装置を使用した) OSA ポートへのアクセスが許可されていません。

REASON = X'0016'

OSAX リンクは無効な入力を受け取りました。無効なトークンが渡されました。

REASON = X'0017'

現在使用可能なコピー・ブロックがありません。

REASON = X'0019'

入出力操作が妥当な時間枠に完了しませんでした。

REASON = X'001A'

OSA Express® アダプターは装置のエラーを報告しました。

REASON = X'001B'

OSA Express アダプターは装置のエラーを報告しました。

REASON = X'001C'

IP データグラムを受け取るためのバッファが小さすぎます。

REASON = X'001D'

リンクが矛盾した長さの IP データグラムを受け取りました。

REASON = X'001E'

入出力操作はエラーを返して完了しました。

REASON = X'001F'

OSA Express アダプターは予期しない STARTLAN を返しました。

REASON = X'0020'

OSA Express アダプターは予期しない STOPLAN を返しました。

REASON = X'0021'

OSA Express アダプターはエラーを返しました。

REASON = X'0022'

入出力操作に失敗しました。

REASON = X'0023'

入出力操作に失敗しました。

REASON = X'0024'

入出力操作に失敗しました。

REASON = X'0025'

アダプターはエラーを報告しました。

REASON = X'0026'

装置は使用中です。これは単に一時的な状態です。

REASON = X'0027'

OSAX リンクは無効な入力を受け取りました。IP データグラムが長すぎます。

REASON = X'0028'

装置はプロトコル・エラーを報告しました。

REASON = X'0029'

入出力操作に失敗しました。

REASON = X'002A'

入出力操作に失敗しました。

REASON = X'002B'

入出力操作に失敗しました。

REASON = X'002C'

アダプターは IP アドレスを拒否しました。これは、RETICODE=E005 または E00A によって示されることが多いコードです。DEFINE LINK ステートメントに使用された IP アドレスが、すでにネットワークで使用されています。ネットワークでも OSA Express アダプターでも使用されていない IP アドレスを指定してください。

REASON = X'002D'

OSA Express アダプターは予期しない戻りコードを返しました。

REASON = X'002E'

OSAX リンクは無効な入力を受け取りました。

REASON = X'002F'

OSAX リンクは無効な入力を受け取りました。

REASON = X'0030'

装置が操作可能ではありません。

REASON = X'0031'

PORTNAME が指定されていません。PORTNAME は必須パラメーターです。

REASON = X'0032'

無効な PORTNAME を指定したと思われます。OSA Express アダプターの最初のユーザーが PORTNAME を設定します。その他のユーザーは全員同じ PORTNAME を使用します。

REASON = X'0033'

HiperSockets™ 装置は HiperSockets 機能をサポートしていません。これは、おそらくハードウェア・エラーです。

REASON = X'0034'

装置を使用可能にできませんでした。これは、おそらくハードウェア・エラーです。

REASON = X'0035'

Startlan 関数が失敗しました。これは、RETICODE=E080 によって示されるものです。

REASON = X'0036'

OSA Express アダプターの Assist 関数が失敗しました。

REASON = X'0037'

ARP 処理を OSA Express アダプターで使用可能にすることができませんでした。

REASON = X'0039'

入出力操作に失敗しました。

REASON = X'0040'

HiperSockets 装置が問題を報告しました。

REASON = X'0041'

1 次ルーターはすでに定義されています。これは、RETICODE=E008 または E010 によって示されません。

REASON = X'0042'

2 次ルーターはすでに定義されています。これは、RETICODE=E009 または E011 によって示されません。

REASON = X'0043'

ルーティング機能を使用可能にすることができませんでした。これは、RETICODE=E007 または E012 によって示されます。ルーティングを許可されていない HiperSockets 装置に対してルーティングを使用可能にしようとした可能性があります。

REASON = X'0044'

ルーティング機能を使用可能にすることができませんでした。

REASON = X'0045'

HiperSockets 装置が問題 (予期しない SBALF15) を報告しました。

REASON = X'0046'

HiperSockets 装置がパッケージを送信できませんでした (ターゲット・バッファがビジー状態)。

REASON = X'0047'

入出力操作に失敗しました。

REASON = X'0048'

入出力操作に失敗しました。

REASON = X'004A'

OSA Express アダプターでは、この OSAPORT 指定をサポートしません。 RETCODE 内の最初の値は OSAPORT 値、2 番目の値は OSA Express がサポートするポートの数です。

REASON = X'004C'

TCP/IP が矛盾する IPv6 入力を IJBOSA に渡しました。

REASON = X'004D'

このハードウェアは IPv6 をサポートしません。

REASON = X'004E'

このハードウェアは IPv6 をサポートしません。

REASON = X'0050'

このハードウェアは IPv6 をサポートしません。

REASON = X'0051'

DEFINE LINK の間に IP アドレスが IJBOSA に渡されませんでした。

REASON = X'0052'

このハードウェアは IPv6 をサポートしません。

REASON = X'0053'

デバイス・ドライバが MAC サイズを処理できません。

REASON = X'0055'

装置がシステムに定義されていません。 ADD ステートメント、あるいは DEFINE LINK ステートメント上の DEV または DATAPATH パラメーター (あるいはその両方) が欠落している可能性があります。

REASON = X'0056'

DEFINE LINK ステートメントで指定された装置は、(マップされた) VSE cuu ではありません。

REASON = X'0057'

QEBSM 機能が失敗しました。

REASON = X'0059'

装置は既に割り当てられています。この装置は LFP インスタンスによってすでに使用されている可能性があります。

REASON = X'0060'

現行バージョンの TCPIP スタックと現行バージョンの IJBOSA モジュールとの間に互換性がありません。

REASON = X'0100'

構成パラメーターを保管するために IJBOSA モジュールが使用するメモリー域がいっぱいです。この領域のサイズは、あらゆる種類のネットワーク・セットアップに十分な 4 KB であることに注意してください。

REASON = X'0101'

IJBOSA モジュールは、構成ファイル IJBOCONF をロードできませんでした。

REASON = X'0102'

標準 VLAN とグローバル VLAN の両方が、TCPIP スタックの構成または構成ファイル IJBOCONF、あ

るいはその両方に定義されています。1 つのサブチャネルにつき 1 つのタイプの VLAN メカニズムのみ使用できます。

REASON = X'0104'

無効な VLAN 優先順位値がパラメーター VLAN_PRIO に対して指定されました。有効な値は 0 から 7 までです。

REASON = X'0201'

VLAN またはグローバル VLAN が、TCPIP スタックの構成または構成ファイル IJBOCONF、あるいはその両方に指定されていますが、現在のサブチャネルは VLAN をサポートしていません。

REASON = X'0202'

標準 VLAN が TCPIP スタックの構成に定義されていますが、構成ファイル IJBOCONF にグローバル VLAN が既に指定されています。同じサブチャネル上で標準 VLAN とグローバル VLAN を同時に使用することはできません。

REASON = X'0203'

グローバル VLAN が構成ファイル IJBOCONF に指定されていますが、現在のサブチャネルはグローバル VLAN をサポートしていません。

REASON = X'0204'

TCPIP スタックが正しくないパラメーターを IJBOSA モジュールに指定しました。

REASON = X'0205'

現在のサブチャネルでのネットワーク接続はレイヤー 2 データ・リンク・モードで確立されていますが、TCPIP スタックはこのサブチャネルのグローバル VLAN ID を登録しようとした。グローバル VLAN は、レイヤー 3 データ・リンク・モードのネットワーク接続でのみサポートされています。

REASON = X'0206'

TCPIP スタックが、以前に登録されていない VLAN ID の登録抹消を試みました。

REASON = X'0207'

IJBOSA モジュールが VLAN ID を登録しようとしたときにエラーが発生しました。

REASON = X'0208'

IJBOSA モジュールが VLAN ID を登録抹消しようとしたときにエラーが発生しました。

REASON = X'0209'

IJBOSA モジュールがグローバル VLAN ID を登録しようとしたときにエラーが発生しました。

REASON = X'0401'

グループ MAC アドレスまたは仮想 MAC アドレス、またはその両方が、TCPIP スタックの構成または構成ファイル IJBOCONF、あるいはその両方に定義されていますが、現在のサブチャネルはこれらのタイプの MAC アドレスの登録をサポートしていません。

REASON = X'0402'

TCPIP スタックが、以前に登録されていないグループ MAC アドレスまたは仮想 MAC アドレスの登録抹消を試みました。

REASON = X'0403'

IJBOSA モジュールがグループ MAC アドレスまたは仮想 MAC アドレスを登録しようとしたときにエラーが発生しました。

RETCODE = 2005 (MAC アドレスの重複)、200A (レイヤー 3 MAC アドレスとの重複)。

レイヤー 2 リンクで使用された MAC アドレスを訂正してください。

REASON = X'0404'

IJBOSA モジュールがグループ MAC アドレスまたは仮想 MAC アドレスを登録抹消しようとしたときにエラーが発生しました。

REASON = X'0501'

無効な値が入力キュー・バッファの数 (パラメーター IQBUF) に対して指定されました。有効な値は 8、16、32、および 64 です。

REASON = X'0502'

無効な値が出力キュー・バッファの数 (パラメーター OQBUF) に対して指定されました。有効な値は 8、16、32、および 64 です。

システムの処置:

REASON = X'0001'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0002'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0003'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0004'

なし。

REASON = X'0005'

なし。

REASON = X'0006'

なし。

REASON = X'0008'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0009'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'000A'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'000B'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'000C'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'000D'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'000E'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'000F'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0010'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0011'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0012'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0013'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0014'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0015'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0016'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0017'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0019'

LINK は終了後、再始動されます。

REASON = X'001A'

なし。

REASON = X'001B'

なし。

REASON = X'001C'

なし。

REASON = X'001D'

なし。

REASON = X'001E'

LINK は終了後、再始動されます。

REASON = X'001F'

LINK は終了後、再始動されます。

REASON = X'0020'

LINK は終了後、再始動されます。

REASON = X'0021'

LINK は終了後、再始動されます。

REASON = X'0022'

なし。

REASON = X'0023'

なし。

REASON = X'0024'

なし。

REASON = X'0025'

なし。

REASON = X'0026'

なし。

REASON = X'0027'

なし。

REASON = X'0028'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0029'

なし。

REASON = X'002A'

なし。

REASON = X'002B'

なし。

REASON = X'002C'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'002D'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'002E'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'002F'

DEFINE LINK に失敗します。

0S39I

REASON = X'0030'

LINK は終了します。

REASON = X'0031'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0032'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0033'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0034'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0035'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0036'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0037'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0039'

なし。

REASON = X'0040'

なし。

REASON = X'0041'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0042'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0043'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0044'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0045'

なし。

REASON = X'0046'

パッケージが再送されます。

REASON = X'0047'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0048'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'004A'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'004C'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'004D'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'004E'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0050'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0051'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0052'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0053'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0055'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0056'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0057'

LINK は終了後、再始動されます。

REASON = X'0059'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0060'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0100'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0101'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0102'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0104'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0201'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0202'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0203'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0204'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0205'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0206'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0207'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0208'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0209'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0401'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0402'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0403'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0404'

LINK を確立できませんでした。

REASON = X'0501'

DEFINE LINK に失敗します。

REASON = X'0502'

DEFINE LINK に失敗します。

オペレーターの応答:

REASON = X'0001'

なし。

REASON = X'0002'

DEFINE LINK を訂正してください。

REASON = X'0003'

TCP/IP 区画の区画 Getvis 域を増やしてください。

REASON = X'0004'

なし。

REASON = X'0005'	TCP/IP スタートアップ・プロシージャの SETPFIX コマンドの ABOVE 値を増やしてくだ さい。	REASON = X'001C'	なし。
REASON = X'0006'	なし。	REASON = X'001D'	なし。
REASON = X'0008'	なし。	REASON = X'001E'	OSA Express アダプターが操作可能かどうか、また は問題の原因がハードウェアの障害によるものかどう かを検査してください。
REASON = X'0009'	なし。	REASON = X'001F'	なし。
REASON = X'000A'	なし。	REASON = X'0020'	なし。
REASON = X'000B'	なし。	REASON = X'0021'	なし。
REASON = X'000C'	ADD ステートメントまたは DEFINE LINK ステ ートメントを訂正してください。	REASON = X'0022'	OSA Express アダプターが操作可能かどうか検査し てください。
REASON = X'000D'	ADD ステートメントを検査してください。	REASON = X'0023'	OSA Express アダプターが操作可能かどうか検査し てください。
REASON = X'000E'	ADD ステートメントを訂正してください。	REASON = X'0024'	OSA Express アダプターが操作可能かどうか検査し てください。
REASON = X'000F'	なし。	REASON = X'0025'	なし。
REASON = X'0010'	ADD または DEFINE LINK () ステートメント (あ るいはその両方) を訂正してください。	REASON = X'0026'	OSA Express アダプターが操作可能かどうか検査し てください。
REASON = X'0011'	DEFINE LINK ステートメントを訂正してくださ い。	REASON = X'0027'	なし。
REASON = X'0012'	DEFINE LINK ステートメントを訂正してくださ い。	REASON = X'0028'	装置をリセットしてください。
REASON = X'0013'	装置をリセットしてください。	REASON = X'0029'	なし。
REASON = X'0014'	装置をリセットしてください。	REASON = X'002A'	なし。
REASON = X'0015'	次のいずれかを行ってください。 • RETCODE=131E または 1320 の場合、適切な権 限を取得してください。 • 装置をリセットしてください。	REASON = X'002B'	なし。
REASON = X'0016'	なし。	REASON = X'002C'	DEFINE LINK ステートメントの IP アドレスを訂 正してください。
REASON = X'0017'	後で試行してください。問題が解決されない場合は、 IPL SYS コマンドの BUFSIZE パラメーターの値を 増やしてください。	REASON = X'002D'	なし。
REASON = X'0019'	OSA Express アダプターが操作可能かどうか検査し てください。	REASON = X'002E'	DEFINE LINK を再試行してください。
REASON = X'001A'	OSA Express アダプターが操作可能かどうか検査し てください。	REASON = X'002F'	なし。
REASON = X'001B'	OSA Express アダプターが操作可能かどうか検査し てください。	REASON = X'0030'	装置がオンラインで作動可能かどうかを調べてくださ い。装置を作動可能にしてから DEFINE LINK をサ ブミットしてください。
		REASON = X'0031'	なし。
		REASON = X'0032'	なし。

REASON = X'0033'

なし。

REASON = X'0034'

なし。

REASON = X'0035'

OSA Express アダプターがケーブルで LAN に接続されていることを確認してください。ポートが OSA Express CHPID で使用可能になっていることを確認してください。これはサービス・エレメントで実行する必要があります。

REASON = X'0036'

OSA Express アダプターが正しく構成されていることを確認してください。

REASON = X'0037'

これは、おそらくハードウェア・エラーです。

REASON = X'0039'

OSA Express アダプターが操作可能かどうか検査してください。

REASON = X'0040'

HiperSockets リンクを再始動してください。

REASON = X'0041'

DEFINE LINK ステートメントを訂正してください。

REASON = X'0042'

DEFINE LINK ステートメントを訂正してください。

REASON = X'0043'

DEFINE LINK ステートメントを訂正してください。

REASON = X'0044'

なし。

REASON = X'0045'

HiperSockets リンクを再始動してください。

REASON = X'0046'

なし。

REASON = X'0047'

OSA Express アダプターがアクティブであることを確認してください。

REASON = X'0048'

OSA Express アダプターが操作可能かどうか確かめてください。

REASON = X'004A'

OSAPORT 指定を訂正してください。

REASON = X'004C'

なし。

REASON = X'004D'

IPv4 リンクを指定してください。

REASON = X'004E'

IPv4 リンクを指定してください。

REASON = X'0050'

IPv4 リンクを指定してください。

REASON = X'0051'

IP アドレスを指定し、DEFINE LINK を繰り返してください。

REASON = X'0052'

IPv4 リンクを指定してください。

REASON = X'0053'

IPv4 リンクを指定してください。

REASON = X'0055'

ADD ステートメントまたは DEFINE LINK ステートメントを訂正してください。

REASON = X'0056'

QUERY cuu を使用して、物理 cuu と VSE cuu の関係を表示し、DEFINE LINK ステートメントを訂正してください。

REASON = X'0057'

装置に対して NOQIOASSIST を設定し、リンクを再始動してください。

REASON = X'0059'

DEFINE LINK ステートメントを訂正してください。

REASON = X'0060'

TCPIP スタックの構成パラメーター、および (使用されている場合は) 構成ファイル IJBOCONF の構成パラメーターを確認してください。

REASON = X'0100'

TCPIP スタックの構成パラメーター、および (使用されている場合は) 構成ファイル IJBOCONF の構成パラメーターを確認してください。

REASON = X'0101'

TCPIP スタックの構成パラメーター、および (使用されている場合は) 構成ファイル IJBOCONF の構成パラメーターを確認してください。

REASON = X'0102'

TCPIP スタックの構成パラメーター、および (使用されている場合は) 構成ファイル IJBOCONF の構成パラメーターを確認してください。

REASON = X'0104'

リンクを再始動してください。

REASON = X'0201'

VLAN をサポートしている別のサブチャンネルを選択してください。

REASON = X'0202'

TCPIP スタックの構成パラメーター、および (使用されている場合は) 構成ファイル IJBOCONF の構成パラメーターを確認してください。

REASON = X'0203'

グローバル VLAN をサポートしている別のサブチャンネルを選択してください。

REASON = X'0204'

現在のサブチャンネルの VLAN 構成を確認してください。

REASON = X'0205'

現在のサブチャンネルの VLAN 構成を確認してください。

REASON = X'0206'

現在のサブチャンネルの VLAN 構成を確認してください。

REASON = X'0207'

現在のサブチャンネルの VLAN 構成を確認してください。

REASON = X'0208'	現在のサブチャネルの VLAN 構成を確認してください。	REASON = X'0010'	なし。
REASON = X'0209'	現在のサブチャネルの VLAN 構成を確認してください。	REASON = X'0011'	なし。
REASON = X'0401'	グループ MAC アドレスおよび仮想 MAC アドレスの登録をサポートしている別のサブチャネルを選択してください。	REASON = X'0012'	なし。
REASON = X'0402'	現在のサブチャネルの構成を確認してください。	REASON = X'0013'	なし。
REASON = X'0403'	現在のサブチャネルの構成を確認してください。	REASON = X'0014'	なし。
REASON = X'0404'	現在のサブチャネルの構成を確認してください。	REASON = X'0015'	なし。
REASON = X'0501'	リンクを再始動してください。	REASON = X'0016'	IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示された理由コードを報告してください。
REASON = X'0502'	リンクを再始動してください。	REASON = X'0017'	なし。
プログラマーの応答:		REASON = X'0019'	なし。
REASON = X'0001'	IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示された理由コードを報告してください。	REASON = X'001A'	なし。
REASON = X'0002'	なし。	REASON = X'001B'	なし。
REASON = X'0003'	なし。	REASON = X'001C'	IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示された理由コードを報告してください。
REASON = X'0004'	なし。	REASON = X'001D'	IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示された理由コードを報告してください。
REASON = X'0005'	なし。	REASON = X'001E'	なし。
REASON = X'0006'	なし。	REASON = X'001F'	なし。
REASON = X'0008'	IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示された理由コードを報告してください。	REASON = X'0020'	なし。
REASON = X'0009'	IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示された理由コードを報告してください。	REASON = X'0021'	なし。
REASON = X'000A'	IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示された理由コードを報告してください。	REASON = X'0022'	なし。
REASON = X'000B'	IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示された理由コードを報告してください。	REASON = X'0023'	なし。
REASON = X'000C'	なし。	REASON = X'0024'	なし。
REASON = X'000D'	なし。	REASON = X'0025'	なし。
REASON = X'000E'	なし。	REASON = X'0026'	なし。
REASON = X'000F'	DEFINE LINK 内のすべての装置が同じ装置仕様であり、同じ CHPID 上にあることを確認してください。	REASON = X'0027'	IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示された理由コードを報告してください。
		REASON = X'0028'	なし。
		REASON = X'0029'	IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示された理由コードを報告してください。

0S39I

REASON = X'002A'

IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示された理由コード、装置アドレス、および CCSW を報告してください。

REASON = X'002B'

IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示された理由コード、装置アドレス、CCSW、およびセンス・バイトを報告してください。

REASON = X'002C'

なし。

REASON = X'002D'

IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示された理由コードを報告してください。

REASON = X'002E'

なし。

REASON = X'002F'

IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示された理由コードを報告してください。

REASON = X'0030'

なし。

REASON = X'0031'

DEFINE LINK ステートメント内の PORTNAME を指定してください。

REASON = X'0032'

適切な PORTNAME を指定してください。

REASON = X'0033'

なし。

REASON = X'0034'

なし。

REASON = X'0035'

なし。

REASON = X'0036'

なし。

REASON = X'0037'

なし。

REASON = X'0039'

なし。

REASON = X'0040'

なし。

REASON = X'0041'

なし。

REASON = X'0042'

なし。

REASON = X'0043'

なし。

REASON = X'0044'

IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示される RETCODE を報告してください。

REASON = X'0045'

なし。

REASON = X'0046'

なし。

REASON = X'0047'

なし。

REASON = X'0048'

なし。

REASON = X'004A'

なし。

REASON = X'004C'

TCP/IP 製品所有者に連絡してください。

REASON = X'004D'

なし。

REASON = X'004E'

なし。

REASON = X'0050'

なし。

REASON = X'0051'

なし。

REASON = X'0052'

なし。

REASON = X'0053'

IBM にお問い合わせください。

REASON = X'0055'

なし。

REASON = X'0056'

なし。

REASON = X'0057'

IBM サポートに連絡して、このメッセージによって表示されるデータをすべて報告してください。

REASON = X'0059'

なし。

REASON = X'0060'

なし。

REASON = X'0100'

なし。

REASON = X'0101'

なし。

REASON = X'0102'

なし。

REASON = X'0104'

VLAN_PRIO 値を訂正して、訂正されたフェーズ IJBOCONF をカタログしてください。

REASON = X'0201'

なし。

REASON = X'0202'

なし。

REASON = X'0203'

なし。

REASON = X'0204'

なし。

REASON = X'0205'

なし。

REASON = X'0206'

なし。

REASON = X'0207'

なし。

REASON = X'0208'

なし。

REASON = X'0209'

なし。

REASON = X'0401'

なし。

REASON = X'0402'

なし。

REASON = X'0403'

なし。

REASON = X'0404'

なし。

REASON = X'0501'

IQBUF 値を訂正して、訂正されたフェーズ
IJBOCONF をカタログしてください。

REASON = X'0502'

OQBUF 値を訂正して、訂正されたフェーズ
IJBOCONF をカタログしてください。

0S40I SCSI PROCESSING EVENT: REASON=xxxx

説明: SCSI 処理中にイベントが発生しました。これは、通知メッセージまたはエラー・メッセージです。値 xxxx は理由コードを示します。また、このメッセージには、以下の追加情報が含まれています。

FUNCTION=

イベントを検出した関数

FCP= FCP cuu

FBA= SCSI cuu

CCSW=

9 バイト拡張 CSW

SNS= 32 SENSE バイト

WWPN=

ポートの 8 バイト WWPN

LUN= SCSI 装置の 8 バイト LUN 名

FSFCMD=

イベントの処理を担当する FSF コマンド

PROTSTAT=

20 バイトのプロトコル状況

FSFSTAT=

20 バイトの FSF 状況

RESPONSE=

ネーム・サーバーが返す情報

UNSOLICITED_STATUS=

FCP 装置が非送信請求状況を示したときの 4 バイト
の状況タイプ

PAYLOAD=

FCP 装置が着信 ELS を示したときのペイロードの
最初の 16 バイト

ERW=

プログラム・チェックが発生したときの 4 バイトの
ERW。これは、関連する CCSW# のチャンネル状況で
X'20' によって示されます。

理由コードは次のとおりです。

REASON=X'0001', X'0002', X'0003'

FCP 装置が追加されていません。

REASON=X'0004'

FCP 装置がタイプ 'FCP' で追加されていません。

REASON=X'0005'

制御ブロックを割り振るために使用可能なシステム
Getvis が不足しています。

REASON=X'0006'

prefix 制御ブロックに使用できる実記憶が十分にあり
ません。

REASON=X'0007'

使用可能なコピー制御ブロックが十分にありません。

REASON=X'0008', X'0009', X'000A', X'000B', X'000C',
X'0073', X'0074', X'0080'-X'0086'

FCP 装置が入出力エラーを示しました。

REASON=X'000D' - X'0014'

FCP コマンドが失敗しました。

REASON=X'0017'

WWPN がネーム・サーバーによって解決されません
でした。

REASON=X'0018'

WWPN によって指定されたポートをオープンできま
せんでした。

- FCP アダプターが、WWPN へのアクセスを許可
されていない可能性があります。
- アクセス制御がアクティブになっている場合、ポ
ートへのアクセスが拒否されている可能性があ
ります。これは、FSFSTAT=000000AD 00000007 に
よって示されます。

REASON=X'001A' - X'001C'

FCP コマンドが時間内に完了しませんでした。

REASON=X'001D'

WWPN によって指定されたポートが応答しなくな
りました。ディスク・コントローラーのポートがスイ
ッチでオフラインになったか、ディスク・コントロー
ラーとスイッチの間のケーブルが接続されていない可
能性があります。

REASON=X'001F'

FCP コマンドが時間内に完了しませんでした。

REASON=X'0020', X'0022', X'0024', X'0026', X'0027',
X'002D', X'002E', X'0072'

FCP 装置が入出力エラーを示しました。

REASON=X'0023'

スイッチのネーム・サーバーが WWPN を解決でき
ませんでした。WWPN がスイッチに認識されてい
ません (応答フィールドの最後のワードの
X'00090200' によって示されます)。または、FCP ア
ダプターが WWPN へのアクセスを許可されていま
せん (応答フィールドの最後のワードの X'00090100'
によって示されます)。

REASON=X'0025'

WWPN によって指定されたポートをオープンできま
せんでした。オープンしているポートが多すぎるた
め、FCP アダプターが要求を拒否しました。

REASON=X'0028'

無効なネットワーク・トポロジーが検出されました。
スイッチが Open-FCP スイッチではないか、FCP
アダプターが直接スイッチに接続されていません。

REASON=X'0029', X'0071', X'0045'

リンクダウン状態が発生しました。FCP アダプター
とスイッチの間のケーブルが接続されていないか、
FCP アダプターのポートがスイッチでオフラインに

設定されています。

X'0045' の場合、クロックをリカバリー時に使用できませんでした。

REASON=X'002A'

- LUN がすでにこの FCP アダプターでオープンされています。LUN は、FCP アダプター CHPID ごとに一度のみオープンできます。
- アクセス制御がアクティブになっている場合、LUN へのアクセスは拒否されます。これは、FSFSTAT=00000012

aaaaaaaaaaaaaaaaxxxxxyyy00000000xxxx によって示されます。xxxx: 拒否を引き起こした ACT サブテーブルで、内容は次のとおりです。

- 0000: アクセス規則が確立されたが、この LUN に対しては確立されていない。
- 0001: オペレーション・システム・サブテーブル
- 0002: Port-WWPN サブテーブル
- 0003: Port-DID サブテーブル
- 0004: LUN サブテーブル

yyyy: 拒否を引き起こしたルールの番号 (ゼロから始まる)。規則が確立されていない場合、FFFFFFF となります。

REASON=X'002B'

LUN をオープンすることができませんでした。オープンしている LUN が多すぎるため、FCP アダプターが要求を拒否しました。

REASON=X'002C'

LUN はすでにオープンされています。

REASON=X'002F'

LUN がすでにこの FCP アダプター (CHPID) でオープンされています。LUN は、FCP アダプター CHPID ごとに一度のみオープンできます。

REASON=X'0030'

FCP アダプターは使用中です。

REASON=X'0031' - X'0032'

FCP アダプターのリカバリー中にエラーが起きました。

REASON=X'0040'

WWPN が無効になっています。WWPN によって示されたポートは、再構成する必要があります。

REASON=X'0046'

サブチャネルが NPIV モードで構成されています。NPIV に関する問題が原因で開始できませんでした。

REASON=X'0050'

LUN の指定が無効です。周辺装置アドレッシングが使用されていて、必要なフィールドがゼロではありません。

REASON=X'0051'

LUN の指定が無効です。フラット・スペース・アドレッシングが使用されていて、必要なフィールドがゼロではありません。

REASON=X'0052'

LUN の指定が無効です。無効なアドレッシング・モードが使用されています。

REASON=X'0055'

SCSI 装置 (LUN) にはロック・ファイルが含まれていて、異なる接続パスを使用してすでにオープンされています。ロック・ファイル装置に複数のパスを指定することはできません。

REASON=X'0060'

FCP 装置が作動していないか、VM で実行されている場合は切り離されています。

REASON=X'0061'

この FCP 装置は装置タイプ FCP で追加されていますが、FCP 装置ではありません。

REASON=X'0062'

FCP の指定には FCP 装置の VSE アドレスではなく物理アドレスが入っています。

REASON=X'0065', X'0066'

システムはアダプターの割り込みを可能にすることができませんでした。

REASON=X'0070'

許可されている FCP 装置の最大数 (10) を超えています。

REASON=X'0077'

Point-to-Point 接続の場合、指定された WWPN はディスク・コントローラーのポート名と一致しません。

REASON=X'0093'

FCP 装置に対する SSCH が条件コードで終了しました (IPL または SADUMP 処理)。

REASON=X'0100'

FCP コマンドがプロトコル・エラーで失敗しました。

REASON=X'0101', X'0108'

リンクダウン状態が発生しました。FCP アダプターとスイッチの間のケーブルが接続されていないか、FCP アダプターのポートがスイッチでオフラインに設定されています。

REASON=X'0102'

FCP コマンドが FSF 状況で失敗しました。

REASON=X'0103', X'0106'

このポートは、アクセス不可になりました。

REASON=X'0104'

FCP 装置が入出力エラーを示しました。

REASON=X'0105'

アクセス制御がアクティブになっている場合、アクセス制御テーブルは LUN へのアクセス権を付与しません。

REASON=X'0107'

FCP アダプターが、ビット・エラーしきい値の例外を報告しました。

REASON=X'0109'

リンクアップ状態が発生しました。FCP アダプターとスイッチの間のケーブルが接続されていないか、FCP アダプターの CHPID がスイッチでオフラインに設定されています。

REASON=X'010A'

少なくとも 1 つのポートが、アクセス不可になりました。

REASON=X'010B', X'010C', X'010E'

FCP 装置が入出力エラーを示しました。

REASON=X'010D'

AR OFFLINE コマンドが FCP 装置に対して発行されました。

REASON=X'010F'

システムでリソースの問題が見つかりました。

REASON=X'0110'

マシン・チェックの結果、FCP 装置が再び使用可能になったことが示されました。

REASON=X'0111'

FCP 装置が、予期しない FSF 状況を示しました。

REASON=X'0112'

FCP 装置が、予期しない非送信請求状況を示しました。

REASON=X'0113'

FCP 装置が、VSE によって処理されない、予期しない ELS タイプを示しました。

REASON=X'0114'

LUN へのアクセスが拒否されます。アクセス権が変更されたか、アクセス制御がアクティブになっている可能性があります。

システムの処置:

REASON=X'0001', X'0002', X'0003', X'0004', X'0005', X'0006', X'0007', X'0017', X'0018', X'0023', X'0025', X'0028', X'0029', X'0071', X'002A', X'002B', X'002C', X'0030', X'0050', X'0051', X'0052', X'0060', X'0061', X'0070' DEF または SYSDEF SCSI コマンドが、SCSI 装置への接続を確立できませんでした。

REASON=X'0008', X'0009', X'000A', X'000B', X'000C', X'0046', X'0073', X'0074', X'0080'- X'0086'

FCP 装置が作動していないため、DEF または SYSDEF SCSI コマンドが SCSI 装置への接続を確立できませんでした。FCP 装置が作動可能になったときに、接続は自動的に確立されます。

REASON=X'000D' - X'0014'

DEF または SYSDEF SCSI コマンドが、SCSI 装置への接続を確立できませんでした。システムは接続のリカバリーを試みます。

REASON=X'001A' - X'001C'

システムは情報を無視して処理を続行します。

REASON=X'001D'

システムは、ポートへの接続のリカバリーを試みます。リカバリーできない場合、このポートを介して接続されているすべての SCSI 装置がオフラインになります。

REASON=X'001F', X'0020', X'0022', X'0024', X'0026', X'0027', X'002D', X'002E', X'0072', X'0100', X'0102', X'0104', X'0109', X'010B', X'010C', X'010E', X'0110', X'0111' システムが、FCP 装置に対する FCP アダプターのリカバリーを開始します。

REASON=X'002F'

システムは DEF/SYSDEF SCSI コマンドを拒否します。

REASON=X'0031' - X'0032'

処理を続行します。

REASON=X'0040'

システムが、このポートを介してアクセスできる SCSI 装置への接続の再オープンを試みます。

REASON=X'0055', X'0062'

システムは DEF/SYSDEF SCSI コマンドを拒否します。

REASON=X'0065', X'0066'

システムは処理を続行して、PCI 割り込みを使用します。

REASON=X'0065', X'0066'

システムは処理を続行して、PCI 割り込みを使用します。

REASON=X'0077'

DEF / SYSDEF SCSI コマンドは失敗します。

REASON=X'0093'

システムが SCSI 装置への接続を確立できませんでした。FCP 装置が作動していません。

REASON=X'0103', X'0106'

ポートおよび接続されているすべての LUN でポートのリカバリーが開始されます。

REASON=X'0105'

LUN が作動不可になっています。

REASON=X'0107'

なし。

REASON=X'0108', X'010D', X'010F'

FCP 装置および接続されているすべての LUN が作動不可に設定されています。

REASON=X'010A'

接続が作動していない場合は、ポート・リカバリーが開始されます。

REASON=X'0112', X'0113'

なし。

REASON=X'0114'

システムは LUN のリカバリーを試みます。

オペレーターの応答:

REASON=X'0018', X'001D', X'0023'

以下のことを確認してください。

- スイッチのポートが使用可能になっている
- スイッチとディスク・コントローラーの間のケーブルが接続されている
- FCP アダプターの WWPN がポートへのアクセスを許可されている
- アクセス制御がアクティブになっている場合は、アクセス制御テーブルが適切なアクセス権を付与していることを確認する

REASON=X'0028'

以下のことを確認してください。

- スイッチが正しく構成されている
- FCP アダプターが直接スイッチに接続されている

REASON=X'0029', X'0071', X'0101', X'0108'

以下のことを確認してください。

- FCP アダプターとスイッチの間のケーブルが接続されている
- FCP アダプターのポートがスイッチでオンラインになっている

REASON = X'0040', X'010A'
 ディスク・コントローラーのポートがスイッチで再構成されているかどうかを確認してください。

REASON = X'0046'
 リカバリーが失敗した場合、後から DEF(SYSDEF) SCSI ステートメントを再試行してください。

REASON = X'0062'
 DEF/SYSDEF SCSI コマンドの FCP 指定を訂正して、VSE アドレスを使用してください。

REASON = X'0077'
 DEF / SYSDEF SCSI ステートメントの WWPN を訂正してください。

REASON = X'0093'
 FCP 装置が作動しているかどうかを調べてください。

REASON = X'0102'
 FSFCMD が 00000005 で、FSFSTAT がワード 3 で 00BADDEF を示している場合は、WWPN で示されるポートが「Open FCP」および「Switched Fabric」として構成されていません。
 • ESS コントローラーのポートの構成を訂正してください。

REASON = X'010F'
 AR コマンド ONLINE *cuu* (FCP 装置の *cuu*) を使用して、FCP 装置および関連するすべての LUN を再始動してください。

その他の理由コード

なし。

プログラマーの応答:

REASON=X'0001', X'0002', X'0003'
 IPL プロシージャーで ADD コマンドを使用して FCP 装置を追加してください。

REASON=X'0004'
 IPL プロシージャーで、装置タイプ FCP を指定して ADD コマンドで FCP 装置を追加してください。

REASON=X'0005'
 IPL プロシージャーで指定されている 31 ビット SVA GETVIS を増やしてください。

REASON=X'0006'
 システムの SETPFIX 要件を減らすか、実記憶を増やしてください。

REASON=X'0007'
 IPL プロシージャーで指定されている SYS BUFSIZE を増やしてください。

REASON=X'0008', X'0009', X'000A', X'000B', X'000C', X'0073', X'0074', X'0080'-X'0086'
 なし。

REASON=X'000D' - X'0014'
 なし。

REASON=X'0017', X'0018', X'0023'
 DEF/SYSDEF コマンドの WWPN 指定を訂正してください。アクセス制御がアクティブになっている場合は、アクセス制御テーブルを訂正してください。

REASON=X'001A' - X'001D', X'001F'
X'0020', X'0022', X'0024' - X'002A', X'002C', X'002D', X'002E', X'0030'-

X'0032', X'0040', X'0046, X'0071', X'0072'
 なし。

REASON=X'002B'
 システムで FCP CHPID の使用量を確認し、接続の数を減らしてください。

REASON=X'002F'
 DEF/SYSDEF SCSI コマンドの LUN または FCP、あるいはその両方の指定を訂正してください。

REASON=X'0050', X'0051', X'0052'
 DEF/SYSDEF SCSI コマンドの LUN 指定を訂正してください。

REASON=X'0055'
 IPL プロシージャーから DEF SCSI コマンドを除去してください。

REASON=X'0060'
 FCP 装置を作動可能にするか、VM で実行している場合は FCP 装置を VSE ゲストに接続してください。

REASON=X'0061'
 DEF/SYSDEF SCSI ステートメントを訂正してください。

REASON=X'0062'
 DEF/SYSDEF SCSI コマンドの FCP 指定を訂正して、VSE アドレスを使用してください。

REASON=X'0065' - X'0066'
 なし。

REASON=X'0077'
 DEF / SYSDEF SCSI ステートメントの WWPN を訂正してください。

REASON=X'0093'
 なし。

REASON=X'0100' - X'0104', X'0106' - X'0113'
 なし。

REASON=X'0105'
 アクセス制御テーブルを訂正してください。

REASON=X'0114'
 アクセス制御テーブルを訂正してください。

**0S41I SCSI DEVICE *cuu* NOT USABLE
 BECAUSE OF UNSUPPORTED SCSI
 VERSION (X'*v*'), SUPPORTED ARE
 VERSION 3 AND HIGHER**

説明: SCSI 装置 *cuu* が定義されていますが、この装置は ANSI SCSI バージョン *v* をサポートするものです。
 システムの処置: SCSI 装置 *cuu* は使用できません。
 オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。
 プログラマーの応答: ANSI SCSI バージョン 3 以上をサポートする SCSI 装置を定義してください。

**0S42I SCSI DEVICE *cuu* NOT USABLE
 BECAUSE OF UNSUPPORTED
 BLOCKSIZE (*nnnnnn*), BLOCKSIZE MUST
 BE 512**

説明: SCSI 装置 *cuu* が、サポートされないブロック・サイズ *nnnnnn* で定義されています。

システムの処置: SCSI 装置 *cuu* は使用できません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: SCSI 装置をブロック・サイズ 512 で定義してください。

**0S43I SCSI DEVICE *cuu* NOT USABLE
BECAUSE SIZE BELOW MINIMUM (*nnnn*
BLOCKS), AT LEAST 15,962 BLOCKS
MUST BE DEFINED**

説明: SCSI 装置 *cuu* が定義されていますが、サイズが小さすぎます。

システムの処置: SCSI 装置 *cuu* は使用できません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: SCSI 装置を、少なくとも 15,962 ブロック (約 8 MB) で定義してください。z/VSE は最初の 8,192 ブロックを内部サービスに使用するため、7,770 ブロック (約 4 MB) のみを汎用目的で使用できます。

**0S44I SCSI DEVICE *cuu* EXCEEDS MAXIMUM
(DEFINED ARE *nnnnnnnnnnnnnnnnnn* BLOCKS),
nnnnnnnnnnnn BLOCKS ARE UNUSED**

説明: SCSI 装置 *cuu* が *nnnnnnnnnnnnnnnnnn* ブロックで定義されていますが、すべてのブロックを使用できるわけではありません。SCSI 装置はタイプ 9336-20 の FBA 装置としてエミュレートされているため、FBA 装置のレイアウトは、アドレス可能なブロック数を 50,920,695 (約 24 GB) に制限しています。さらに、z/VSE は SCSI 装置の最初の 8,192 ブロック (4 MB) を内部サービスのために予約しています。したがって、SCSI 装置の 50,928,887 ブロックまでは z/VSE によって使用されます。

システムの処置: SCSI 装置 *cuu* がアクセス可能になり、50,920,695 ブロックが使用可能になります。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: SCSI 装置を再定義して SCSI 装置の未使用ブロックの割り振りを避けることができます。50,928,887 ブロック (約 24 GB + 4 MB)。z/VSE が使用する 4 MB を含む) までのサイズにして SCSI 装置を定義してください。

**0S45I SCSI DEVICE *cuu* CONSISTS OF
nnnnnnnnnnnnnnnnnn BLOCKS, *nnnnnnnnnn* BLOCKS
ARE AVAILABLE, *lll* BLOCKS ARE
UNUSED**

説明: SCSI 装置 *cuu* に *nnnnnnnnnnnnnnnnnn* ブロックが定義されています。z/VSE は、最初の 8,192 ブロックを内部使用のために予約しています。SCSI 装置はタイプ 9336-20 の FBA 装置としてエミュレートされているため、残りのブロック (*nnnnnnnnnnnnnnnnnn* - 8,192) が、最も近い 777 の倍数まで切り捨てられ、*nnnnnnnnnn* ブロックになります。これが汎用目的で使用可能になります。SCSI 装置の *lll* ブロックが未使用です。

システムの処置: SCSI 装置 *cuu* がアクセス可能になり、

nnnnnnnnnn ブロックが使用可能になります。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: SCSI 装置を再定義して SCSI 装置の未使用ブロックの割り振りを避けることができます。

**0S46I I/O ERROR ON FBA=*cuu* FCP=*cuu1*
RC=*return code* REASON=*reason code***

説明: FCP アダプター *cuu1* を介した SCSI 装置 *cuu* への入出力要求を処理しているときに入出力エラーが発生しました。

- RC=01 (SENSE DATA REPORTED) の場合、*reason code* は SCSI 装置によって報告されたセンス・データを *kkccqq* という形式で示します。
 - *kk* はセンス・キーです。
 - *cc* はセンス・コードです。
 - *qq* はセンス・コード修飾子です。

共通センス・データ 052500/0B2500 の場合

- *cuu* によって参照される LUN が存在しません。
- または、FCP アダプターが LUN へのアクセスを許可されていません。
- RC=02 (FCP ERROR REPORTED) の場合、*reason code* は報告されたエラーについての情報を 0000*rr* という形式で示します。
 - *rr* は RSP_CODE です。
- RC=03 (PERSISTENT CONDITION) の場合、*reason code* は検出された永続状態の種類についての情報を 0000*cc* という形式で示します。
 - *cc=01* は永続の RESERVED
 - *cc=02* は永続の BUSY
 - *cc=03* は永続の CONTINGENT ALLEGIANCE
 - *cc=04* は永続の QUEUE FULL
- RC=04 (INCOMPLETE I/O OPERATION) は、IPL で入出力操作によってチャネルのクリアと装置の終了が行われなかった場合にのみ設定されます。理由コード: *n. a.*
- RC=05 (I/O ERROR ENCOUNTERED BY FCP DEVICE DRIVER) は、IPL で FCP アダプターとの通信中に FCP 装置ドライバーで問題が見つかった場合にのみ設定されます。理由コード: *n. a.*
- RC=06 (UNKNOWN FCP PAYLOAD) は、IPL 中に FCP アダプターで無効な FCP ペイロードが見つかった場合にのみ設定されます。理由コード: *n. a.*
- RC=07 (UNKNOWN SCSI STATUS) は、IPL で SCSI 装置が不明な SCSI 状況コードで応答した場合にのみ設定されます。理由コード: 0000*ss - ss* は SCSI 状況コードです。

システムの処置: 入出力要求を終了しました。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答:

- RC=01: センス情報の詳細については、ハードウェア解説書 (ESS SCSI Command Reference) を参照してください。共通センス・データ 052500/0B2500 の場合
 - LUN 番号を訂正してください。
 - ディスク・コントローラー構成が正しいことを確認してください。

0S47I • 0S48A

- RC=02: RSP_CODE の詳細については、ハードウェア解説書 (ESS SCSI Command Reference) を参照してください。
- RC=03:
 - Reason=000001 の場合は、共用装置が他の開始プログラムによって使用中でないことを確認します。
 - Reason=000002 の場合は、他の開始プログラムが応答義務を保持していないことを確認します。
 - Reason=000003 の場合は、他の開始プログラムが応答義務を保持していないことを確認します。
 - Reason=000004 の場合は、ターゲット・リソースが他のコマンドに割り振られていないことを確認します。
- RC=04: システム・プログラマーに連絡してください。IPL ブートストラップ・レイアウトが正しいことを確認してください。
- RC=05: システム・プログラマーに連絡して、IBM 担当員に問い合わせてください。
- RC=06: システム・プログラマーに連絡して、IBM 担当員に問い合わせてください。
- RC=07: システム・プログラマーに連絡して、IBM 担当員に問い合わせてください。

0S47I SCSI DEVICE *cuu* NOT USABLE BECAUSE INFORMATION ABOUT CAPACITY NOT AVAILABLE

説明: SCSI 装置 *cuu* の容量についての情報を取得するために SCSI コマンドが発行されました。情報が取得されなかったか、不完全な情報が取得されました。
システムの処置: SCSI 装置 *cuu* は使用できません。
オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。
プログラマーの応答: SCSI 装置を再構成してください。

0S48A ERROR DURING CMT/[QVS] PROCESSING,REASON=xxxx, SUBREASON=yyyy[,FILE=zzzzzz]

説明: CMT (容量測定ツール) または QVS (仮想サーバーの照会) の処理中にエラーが発生しました。値 *xxxx* は、4 桁の 16 進数の理由コードを指定する値です。値 *yyyy* は、特定の機能から返される 4 桁の 16 進数の戻りコードです。該当する場合は、*zzzzzz* は、エラー発生時に処理中になっていたファイル・ラベル名を示します。

REASON=X'0001'
フェーズ IJBCMT0 が SVA にありません。

REASON=X'0002'
フェーズ IJBCMT1 が SVA にありません。

REASON=X'0003'
LABEL マクロが失敗しました。フィールド SUBREASON に LABEL マクロから出された戻りコードが表示されます。

REASON=X'0004'
GETVCE マクロが失敗しました。フィールド SUBREASON に GETVCE マクロから出された戻りコードが表示されます。

REASON=X'0005'
ASSGN マクロ (動的割り当て) が失敗しました。フ

ィールド SUBREASON に ASSGN マクロから出された戻りコードが表示されます。

REASON=X'0006'
OPEN マクロが失敗しました。

REASON=X'0007'
ファイル *zzzzzz* のラベルが、システム標準ラベル・グループにありません。

REASON=X'0008'
CMT 制御ファイル IJSYSCC が初期設定されていません。

REASON=X'0009'
CMT 処理に必要なファイルの 1 つの大きさが不十分です。*zzzzzz* は、当該ファイルを示しています。

REASON=X'000A'
CMT 制御ファイル IJSYSCC の大きさが不十分です (ヘッダー・レコードのスペースが不足しています)。

REASON=X'000B'
CMT 制御ファイル IJSYSCC が上書きされていません。

REASON=X'000C'
CMT はこのプロセッサでは稼働しません。プロセッサは *z9*[®] またはその後継タイプでなければなりません。

REASON=X'000D'
EXEC IJBCMT ステートメントに PARM パラメーターが欠落しています。

REASON=X'000E'
EXEC IJBCMT,PARM= ステートメントに PARM 値が欠落しています。

REASON=X'000F'
EXEC IJBCMT,PARM= ステートメントに指定された PARM 値が無効です。

REASON=X'0010'
CMT システム・タスク (CMT 処理) を開始できませんでした。

REASON=X'0011'
この番号は使用されません。

REASON=X'0012'
この番号は使用されません。

REASON=X'0013'
QVS (仮想サーバーの照会) の処理中にエラーが発生しました。
SUBREASON=X'0001'
(S)GETVIS を使用してストレージを割り振ることができませんでした。

SUBREASON=X'0002'
(S)FREEVIS を使用してストレージを解放できませんでした。

REASON=X'0014'
LABEL マクロ、FUNCT=REPLBL が失敗しました。SUBREASON に LABEL マクロから出された戻りコードが表示されます。

REASON=X'0015'
CMT はすでにアクティブになっているため、EXEC IJBCMT,PARM='START...' は拒否されました。

REASON=X'0016'

EXEC IJBCMT,PARM='INITDS' が拒否されました。ステートメントが 2 度開始されたか、または CMT がアクティブになっています。

REASON=X'0017'

この番号は使用されません。

REASON=X'0018'

この番号は使用されません。

REASON=X'0019'

この番号は使用されません。

REASON=X'001A'

この番号は使用されません。

REASON=X'001B'

この番号は使用されません。

REASON=X'001C'

ASSIGN マクロ、機能 UNASSIGN が失敗しました。SUBREASON に ASSIGN の戻りコードが表示されます。

REASON=X'001D'

異常終了条件が発生しました。システム・タスク CMT の AB 出口が初めてコントロールを取得しました。

REASON=X'001E'

異常終了条件が発生しました。システム・タスク CMT の AB 出口が 2 度目のコントロールを取得しました。

REASON=X'001F'

CMT 処理がアクティブでないため、EXEC IJBCMT,PARM='STOP' が拒否されました。

REASON=X'0020'

MODESET マクロが失敗しました。フィールド SUBREASON に戻りコードが表示されます。

REASON=X'0021'

システムが停止標識を設定できなかったため、EXEC IJBCMT,PARM='STOP' が拒否されました。

REASON=X'0022'

ファイル zzzzzzz のラベル情報が見つかりませんでした。DLBL ステートメントが欠落しています。

REASON=X'0023'

ファイル zzzzzzz に複数の EXTENT ステートメントが見つかりました。システム・ファイルに指定できる EXTENT は 1 つだけです。

REASON=X'0024'

ファイル zzzzzzz に論理装置が割り当てられていません。GETVCE マクロが失敗しました。

SUBREASON=X'0204'

ASSGN が行われていないわけではないか、または同じボリューム通し番号のディスクがシステムに複数あります。

REASON=X'0025'

EXTENT ステートメントまたは EXTENT 限度が欠落しています。

REASON=X'0026'

DLBL ステートメントのファイル・タイプが無効です。ファイル・タイプは SD でなければなりません。

ん。VSAM、または VSAM 管理の SAM ファイルが指定された可能性があります。

REASON=X'0027'

システムがファイル zzzzzzz を OPEN できませんでした (ファイルの終わり、またはエクステント終了になりました)。

REASON=X'0028'

この番号は使用されません。

REASON=X'0029'

CMT が、z/VM V4 または z/VM 5.1 のゲスト・システムで開始されました。これらの VM リリースは、CMT によってサポートされていません。

REASON=X'002A'

GETVIS SVA が失敗しました。SUBREASON に要求された GETVIS サイズが表示されます。

REASON=X'002B'

異常終了が発生しました。SUBREASON に取り消しコードがあります。

REASON=X'002C'

FREEVIS SVA が失敗しました。SUBREASON に FREEVIS の戻りコードが表示されます。

REASON=X'002D'

ファイル zzzzzzz のサイズが、CMT が前回開始された時点より小さくなっています。

REASON=X'002E'

FREEVIS SVA が失敗しました。SUBREASON に FREEVIS の戻りコードが表示されます。

REASON=X'0032'

この番号は使用されません。

REASON=X'0033'

この番号は使用されません。

REASON=X'0034'

この番号は使用されません。

REASON=X'0035'

この番号は使用されません。

REASON=X'0036'

この番号は使用されません。

REASON=X'0037'

この番号は使用されません。

REASON=X'0038'

この番号は使用されません。

REASON=X'0039'

この番号は使用されません。

REASON=X'003A'

この番号は使用されません。

REASON=X'003B'

この番号は使用されません。

REASON=X'003D'

STSI 命令が失敗しました。これは予期しないエラーです。

REASON=X'003E'

CHSC 命令が失敗しました。これは予期しないエラーです。

REASON=X'003F'

CHSC 命令が失敗しました。これは予期しないエラーです。

REASON=X'0040'

CHSC 命令が失敗しました。これは予期しないエラーです。

REASON=X'0041'

PFIX マクロが失敗しました。SUBREASON に PFIX マクロから出された戻りコードが表示されます。

REASON=X'0050'

31 ビット・システム GETVIS ストレージに対する GETVIS マクロが失敗しました。SUBREASON に GETVIS マクロから出された戻りコードが表示されます。

REASON=X'0051'

31 ビット・システム GETVIS ストレージに対する GETVIS マクロが失敗しました。SUBREASON に GETVIS マクロから出された戻りコードが表示されます。

REASON=X'0052'

31 ビット・システム GETVIS ストレージに対する GETVIS マクロが失敗しました。SUBREASON に GETVIS マクロから出された戻りコードが表示されます。

REASON=X'0053'

システム GETVIS ストレージに対する FREEVIS マクロが失敗しました。SUBREASON に FREEVIS マクロから出された戻りコードが表示されます。

REASON=X'0054'

システム GETVIS ストレージに対する FREEVIS マクロが失敗しました。SUBREASON に FREEVIS マクロから出された戻りコードが表示されます。

REASON=X'0055'

システム GETVIS ストレージに対する FREEVIS マクロが失敗しました。SUBREASON に FREEVIS マクロから出された戻りコードが表示されます。

REASON=X'0056'

システム GETVIS ストレージに対する FREEVIS マクロが失敗しました。SUBREASON に FREEVIS マクロから出された戻りコードが表示されます。

REASON=X'0057'

システム GETVIS ストレージに対する FREEVIS マクロが失敗しました。SUBREASON に FREEVIS マクロから出された戻りコードが表示されます。

REASON=X'0058'

31 ビット・システム GETVIS ストレージに対する GETVIS マクロが失敗しました。SUBREASON に GETVIS マクロから出された戻りコードが表示されます。

REASON=X'0059'

31 ビット・システム GETVIS ストレージに対する GETVIS マクロが失敗しました。SUBREASON に GETVIS マクロから出された戻りコードが表示されます。

REASON=X'005A'

DIAGNOSE 命令が失敗しました。これは、予期しない内部エラーです。

REASON=X'005B'

DIAGNOSE 命令が失敗しました。これは、予期しない内部エラーです。

REASON=X'005C'

DIAGNOSE 命令が失敗しました。これは、予期しない内部エラーです。

REASON=X'005D'

DIAGNOSE 命令が失敗しました。これは、予期しない内部エラーです。

REASON=X'005E'

DIAGNOSE 命令が失敗しました。これは、予期しない内部エラーです。

REASON=X'005F'

DIAGNOSE 命令が失敗しました。これは、予期しない内部エラーです。

REASON=X'0060'

DIAGNOSE 命令が失敗しました。これは、予期しない内部エラーです。

REASON=X'0064'

STSI 命令が失敗しました。これは、予期しない内部エラーです。

REASON=X'0065'

STSI 命令が失敗しました。これは、予期しない内部エラーです。

REASON=X'0066'

STSI 命令が失敗しました。これは、予期しない内部エラーです。

REASON=X'0067'

STSI 命令が失敗しました。これは、予期しない内部エラーです。

REASON=X'0068'

STSI が失敗しました。CEC が z9 またはその後継タイプになっていません。

REASON=X'006E'

内部マクロが失敗しました。これは、予期しないエラーです。

REASON=X'006F'

指定された CPU が多すぎます。許可されるのは 10 CPU までです。

REASON=X'0070'

CEC に 2048 を超える CPU が設定されています。

REASON=X'0073'

予期しない内部エラーが発生しました。

REASON=X'0074'

予期しない内部エラーが発生しました。

REASON=X'0075'

予期しない内部エラーが発生しました。

REASON=X'0076'

予期しない内部エラーが発生しました。

REASON=X'0077'

予期しない内部エラーが発生しました。

REASON=X'0078'

内部エラー。

システムの処置:

REASON=X'0001'

容量測定が開始されませんでした。

REASON=X'0002'	容量測定が開始されませんでした。	REASON=X'001D'	システムが CMT 処理を内部的に再開します。
REASON=X'0003'	要求された機能が失敗しました。	REASON=X'001E'	システムが CMT 処理を停止します。
REASON=X'0004'	要求された機能が失敗しました。	REASON=X'001F'	要求された機能が実行されませんでした。
REASON=X'0005'	要求された機能が失敗しました。	REASON=X'0020'	EXEC IJBCMT,PARM='STOP' が実行されませんでした。
REASON=X'0006'	要求された機能が失敗しました。	REASON=X'0021'	EXEC IJBCMT,PARM='STOP' が実行されませんでした。
REASON=X'0007'	CMT 処理が停止しました。	REASON=X'0022'	要求された機能が実行されませんでした。
REASON=X'0008'	容量測定が開始されませんでした。	REASON=X'0023'	要求された機能が実行されませんでした。
REASON=X'0009'	要求された機能が失敗しました。	REASON=X'0024'	要求された機能が実行されませんでした。
REASON=X'000A'	ファイル IJSYSCC が初期設定されていません。	REASON=X'0025'	要求された機能が実行されませんでした。
REASON=X'000B'	容量測定が開始されませんでした。	REASON=X'0026'	要求された機能が実行されませんでした。
REASON=X'000C'	容量測定が開始されませんでした。	REASON=X'0027'	要求された機能が実行されませんでした。
REASON=X'000D'	IJBCMT が処理を行わずに終了しました。	REASON=X'0028'	要求された機能が実行されませんでした。
REASON=X'000E'	IJBCMT が処理を行わずに終了しました。	REASON=X'0029'	CMT が開始されませんでした。
REASON=X'000F'	IJBCMT が処理を行わずに終了しました。	REASON=X'002A'	容量測定が停止されました。
REASON=X'0010'	容量測定が開始されませんでした。	REASON=X'002B'	システムはジョブを終了します。
REASON=X'0011'	なし。	REASON=X'002C'	要求された機能が失敗しました。
REASON=X'0012'	なし。	REASON=X'002D'	要求された機能が失敗しました。
REASON=X'0013'	要求された機能が失敗しました。	REASON=X'002E'	要求された機能が失敗しました。
REASON=X'0014'	要求された機能が失敗しました。	REASON=X'0032'	なし。
REASON=X'0015'	要求された機能が失敗しました。	REASON=X'0033'	なし。
REASON=X'0016'	要求された機能が実行されませんでした。	REASON=X'0034'	なし。
REASON=X'0017'	CMT 処理が停止しました。	REASON=X'0035'	なし。
REASON=X'0018'	CMT 処理が停止しました。	REASON=X'0036'	なし。
REASON=X'0019'	CMT 処理が停止しました。	REASON=X'0037'	なし。
REASON=X'001A'	CMT 処理が停止しました。	REASON=X'0038'	なし。
REASON=X'001B'	なし。	REASON=X'0039'	なし。
REASON=X'001C'	CMT 処理の開始または再開が実行されませんでした。	REASON=X'003A'	なし。

0S48A

REASON=X'003B'

なし。

REASON=X'003D'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'003E'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'003F'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0040'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0041'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0050'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0051'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0052'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0053'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0054'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0055'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0056'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0057'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0058'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0059'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'005A'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'005B'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'005C'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'005D'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'005E'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'005F'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0060'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0064'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0065'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0066'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0067'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0068'

容量測定が強制終了されました。

REASON=X'006E'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'006F'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0070'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0071'

容量測定が強制終了されました。

REASON=X'0073'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0074'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0075'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0076'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0077'

要求された機能が失敗しました。

REASON=X'0078'

要求された機能が失敗しました。

オペレーターの応答:

REASON=X'0001'

SET SDL によってフェーズ IJBCMT0 を SVA にロードし、CMT を再始動してください。

REASON=X'0002'

SET SDL によってフェーズ IJBCMT1 を SVA にロードし、CMT を再始動してください。

REASON=X'0003'

失敗したジョブを再始動してください。

REASON=X'0004'

失敗したジョブを再始動してください。

REASON=X'0005'

失敗したジョブを再始動してください。

REASON=X'0006'

失敗したジョブを再始動してください。

REASON=X'0007'

OPTION STDLABEL=ADD などによりファイル zzzzzzz のラベルをシステム標準ラベル・グループに追加してから、ジョブを再実行してください。

REASON=X'0008'

制御ファイル IJSYSCC の初期設定を行ってください (EXEC IJBCMT,PARM='INITDS')。

REASON=X'0009'

ファイル zzzzzzz の EXTENT ステートメント指定を修正してから、ジョブを再実行してください。

REASON=X'000A'

EXTENT ステートメントを修正して、ファイル IJSYSCC の初期設定を行ってください (EXEC IJBCMT,PARM='INITDS')。

REASON=X'000B'

ファイル IJSYSCC が損傷しています。EXEC IJBCMT,PARM='INITDS' によって再度ファイルの初期設定を行う前に、ファイル IJSYSC1 と IJSYSC2 のコピーを作成しておいてください。さもないと、収集された CMT データが失われます。

REASON=X'000C'

なし。

REASON=X'000D'

正しい PARM 値で IJBCMT を実行してください。

REASON=X'000E'

正しい PARM 値で IJBCMT を実行してください。

REASON=X'000F'

正しい PARM 値で IJBCMT を実行してください。

REASON=X'0010'

CMT を再始動してください (EXEC IJBCMT,PARM='START ID=aaaa')。

REASON=X'0011'

なし。

REASON=X'0012'

なし。

REASON=X'0013'

なし。

REASON=X'0014'

失敗したジョブを再始動してください。

REASON=X'0015'

なし。

REASON=X'0016'

なし。

REASON=X'0017'

なし。

REASON=X'0018'

なし。

REASON=X'0019'

なし。

REASON=X'001A'

なし。

REASON=X'001B'

なし。

REASON=X'001C'

CMT 処理を再開してください (EXEC IJBCMT,PARM='START....')。

REASON=X'001D'

なし。

REASON=X'001E'

監視プログラムのダンプをとって (DUMP SUP)、弊社に送ってください。CMT 処理を再開してください (EXEC IJBCMT,PARM='START....')。

REASON=X'001F'

なし。

REASON=X'0020'

失敗したジョブを再始動してください。

REASON=X'0021'

失敗したジョブを再始動してください。

REASON=X'0022'

正しいラベルを指定して失敗したジョブを再始動してください。

REASON=X'0023'

修正した EXTENT ステートメントを指定して失敗したジョブを再始動してください。

REASON=X'0024'

ASSGN ステートメントを指定して失敗したジョブを再始動してください。

SUBREASON=X'0204'

同じボリューム通し番号のディスクが複数ある場合、コマンド DVCDN (device down) を実行して装置のいずれかを停止してください。

REASON=X'0025'

修正した EXTENT ステートメントを指定して失敗したジョブを再始動してください。

REASON=X'0026'

修正した DLBL ステートメントを指定して失敗したジョブを再始動してください。

REASON=X'0027'

ファイル zzzzzzz の初期設定が正しく行われたか確認してください。正しく行われていない場合は、EXEC IJBCMT,PARM='INITDS' を実行してください。この時、ファイル IJSYSC1 と IJSYSC2 のコピーを作成しておいてください。さもないと、収集された CMT データが失われます。

REASON=X'0028'

なし。

REASON=X'0029'

問題をシステム・プログラマーに連絡してください。

REASON=X'002A'

システム・レイアウトに問題があります。24 ビット・システム GETVIS 域を使い果たしました。

REASON=X'002B'

ジョブを再実行してください。

REASON=X'002C'

ダンプを取って (監視プログラム/SVA)、ジョブを再始動してください。

REASON=X'002D'

なし。

REASON=X'002E'

ダンプを取って (監視プログラム/SVA)、ジョブを再始動してください。

REASON=X'0032'

なし。

REASON=X'0033'

なし。

REASON=X'0034'

なし。

REASON=X'0035'

なし。

REASON=X'0036'

なし。

REASON=X'0037'

なし。

REASON=X'0038'

なし。

REASON=X'0039'

なし。

REASON=X'003A'

なし。

0S48A

REASON=X'003B'

なし。

REASON=X'003D'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'003E'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'003F'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0040'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0041'

CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0050'

GETVIS の戻りコードを検査してください。必要に応じて、31 ビット・システム GETVIS 域のサイズを増やしてください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0051'

GETVIS の戻りコードを検査してください。必要に応じて、31 ビット・システム GETVIS 域のサイズを増やしてください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0052'

GETVIS の戻りコードを検査してください。必要に応じて、31 ビット・システム GETVIS 域のサイズを増やしてください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0053'

FREEVIS の戻りコードを検査してください。IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0054'

FREEVIS の戻りコードを検査してください。IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0055'

FREEVIS の戻りコードを検査してください。IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0056'

FREEVIS の戻りコードを検査してください。IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0057'

FREEVIS の戻りコードを検査してください。IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0058'

GETVIS の戻りコードを検査してください。必要に応じて、31 ビット・システム GETVIS 域のサイズを増やしてください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0059'

GETVIS の戻りコードを検査してください。必要に応じて、31 ビット・システム GETVIS 域のサイズを増やしてください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'005A'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'005B'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'005C'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'005D'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'005E'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'005F'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0060'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0064'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0065'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0066'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0067'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0068'

なし。

REASON=X'006E'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'006F'

CPU の数を減らしてください (LPAR または VM ゲスト)。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0070'

なし。

REASON=X'0071'

なし。

REASON=X'0073'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0074'

IBM お問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0075'

IBM にお問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0076'

IBM にお問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0077'

IBM にお問い合わせください。CMT 処理を再開してください。

REASON=X'0078'

IBM にお問い合わせください。

プログラマーの応答:

REASON=X'0001'

フェーズ IJBCMT0 を SETSDL プロシージャに追加してください。

REASON=X'0002'

フェーズ IJBCMT1 を SETSDL プロシージャに追加してください。

REASON=X'0003'

ファイル zzzzzzz のラベル (DLBL) を修正してください。

REASON=X'0004'

GETVCE 戻りコードを確認し、DLBL/ASSGN ステートメントを修正してください。

REASON=X'0005'

なし。

REASON=X'0006'

なし。

REASON=X'0007'

提供された SKUSERBG に従ってシステムをカスタマイズしてください。

REASON=X'0008'

なし。

REASON=X'0009'

ファイル zzzzzzz の EXTENT ステートメントを修正してください。

REASON=X'000A'

ファイル zzzzzzz の EXTENT ステートメントを修正してください。

REASON=X'000B'

なし。

REASON=X'000C'

なし。

REASON=X'000D'

ジョブの EXEC IJBCMT ステートメントを修正してください。

REASON=X'000E'

ジョブの EXEC IJBCMT ステートメントを修正してください。

REASON=X'000F'

ジョブの EXEC IJBCMT ステートメントを修正してください。

REASON=X'0010'

なし。

REASON=X'0011'

なし。

REASON=X'0012'

なし。

REASON=X'0013'

SUBREASON=X'0001'

31 ビット・システム GETVIS 域のサイズを増やしてください。

他の **SUBREASON** 値の場合は、弊社に連絡してください。

REASON=X'0014'

LABEL 戻りコードを確認し、ファイル zzzzzzz を記述する DLBL/EXTENT/ASSGN を修正してください。

REASON=X'0015'

なし。

REASON=X'0016'

なし。

REASON=X'0017'

なし。

REASON=X'0018'

なし。

REASON=X'0019'

なし。

REASON=X'001A'

なし。

REASON=X'001B'

なし。

REASON=X'001C'

なし。

REASON=X'001D'

なし。

REASON=X'001E'

なし。

REASON=X'001F'

なし。

REASON=X'0020'

なし。

REASON=X'0021'

なし。

REASON=X'0022'

ファイル zzzzzzz にラベルを設定してください (DLBL/EXTENT ステートメント)。

REASON=X'0023'

ファイル zzzzzzz に対する EXTENT ステートメントの指定を 1 つだけにしてください。

REASON=X'0024'

ファイル zzzzzzz に ASSGN ステートメントを指定してください。

REASON=X'0025'

ファイル zzzzzzz に正しい EXTENT ステートメントを指定してください。

REASON=X'0026'

ファイル zzzzzzz のファイル・タイプ 'SD' を DLBL ステートメントに指定してください。

REASON=X'0027'

ファイル zzzzzzz の指定 (DLBL/EXTENT) が正しいか確認してください。

0S48A

REASON=X'0028'	なし。	REASON=X'0056'	なし。
REASON=X'0029'	VM システムを z/VM 5.2 以降にアップグレードしてください。	REASON=X'0057'	なし。
REASON=X'002B'	なし。	REASON=X'0058'	なし。
REASON=X'002C'	なし。	REASON=X'0059'	なし。
REASON=X'002D'	正しい DLBL/EXTENT ステートメントを指定してください。	REASON=X'005A'	なし。
REASON=X'002E'	なし。	REASON=X'005B'	なし。
REASON=X'0032'	なし。	REASON=X'005C'	なし。
REASON=X'0033'	なし。	REASON=X'005D'	なし。
REASON=X'0034'	なし。	REASON=X'005E'	なし。
REASON=X'0035'	なし。	REASON=X'005F'	なし。
REASON=X'0036'	なし。	REASON=X'0060'	なし。
REASON=X'0037'	なし。	REASON=X'0064'	なし。
REASON=X'0038'	なし。	REASON=X'0065'	なし。
REASON=X'0039'	なし。	REASON=X'0066'	なし。
REASON=X'003A'	なし。	REASON=X'0067'	なし。
REASON=X'003B'	なし。	REASON=X'0068'	なし。
REASON=X'003D'	なし。	REASON=X'006E'	なし。
REASON=X'003E'	なし。	REASON=X'006F'	なし。
REASON=X'003F'	なし。	REASON=X'0070'	なし。
REASON=X'0040'	なし。	REASON=X'0071'	なし。
REASON=X'0041'	SETPFIX ステートメントを訂正してください。	REASON=X'0073'	なし。
REASON=X'0050'	なし。	REASON=X'0074'	なし。
REASON=X'0051'	なし。	REASON=X'0075'	なし。
REASON=X'0052'	なし。	REASON=X'0076'	なし。
REASON=X'0053'	なし。	REASON=X'0077'	なし。
REASON=X'0054'	なし。	REASON=X'0078'	なし。
REASON=X'0055'	なし。		

**0S49A CMT COULD NOT BE STARTED. z/VM
5.2 OR HIGHER IS REQUIRED**

説明: CMT が、z/VM V4 または z/VM 5.1 のゲスト・システムで開始されました。これらの VM リリースは、CMT によってサポートされていません。

システムの処置: CMT が開始されませんでした。

オペレーターの応答: 問題をシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: VM システムを z/VM 5.2 以降にアップグレードしてください。

**0S50I HS DEVICE DRIVER REPORTED A
PROBLEM, REASON=xxxx
CUU=yyyy,DEV/CHAN STATUS=zzzz
SNS=ww..ww RETCODE=vvvv**

説明: LFP インスタンスによって起動された HS (HiperSockets) デバイス・ドライバでエラーが検出されました。値 xxxx は理由コードを示します。表示された場合、値 yyyy は cuu の失敗を示し、値 zzzz は 16 進文字ストリングで、最初の 2 文字は失敗した CCW のコマンド・コードです。残りの文字は、チャンネル状況ワードで、値 ww..ww はセンス・データを示します。値 vvvv は、特定の機能によって提供される戻りコードです。このメッセージは、LFP インスタンスの開始時または終了時に HS デバイス・ドライバから発行されます (HS 装置の指定)。LFP インスタンスの開始後にエラーが検出された場合、メッセージは発行されませんが、そのエラーが LFP インスタンスに報告されます。このため、ここで説明している多くの理由コードに関して、メッセージは発行されません。これらの理由コードは、弊社で問題を判別するためにリストされています。

REASON = X'0003'

制御ブロックを割り振るために使用できるシステム Getvis-31 が不足しています。

REASON = X'0004'

Freevis に失敗しました。

REASON = X'000C'

装置がシステムに定義されていません。ADD ステートメントがないか、または LFP 構成での HS 装置の指定が不完全です。

REASON = X'000D'

システムは装置情報を検索することができませんでした。

REASON = X'000E'

装置が HS 装置ではありません。

REASON = X'000F'

HS 装置の指定において不一致があります。

REASON = X'0012'

装置が TCP/IP スタックによってすでに使用されています。

REASON = X'0013'

装置はプロトコル・エラーを報告しました。

REASON = X'0014'

装置はプロトコル・エラーを報告しました。

REASON = X'0015'

装置はプロトコル・エラーを報告しました。

REASON = X'0016'

無効な入力によって LFP から HS デバイス・ドライバが呼び出されました。

REASON = X'0017'

現在、使用可能なコピー・ブロックはありません。

REASON = X'0018'

HS 装置が問題を報告しました。

REASON = X'0019'

入出力操作が妥当な時間枠に完了しませんでした。

REASON = X'001A'

HS 装置が問題を報告しました。

REASON = X'001B'

HS 装置が問題を報告しました。

REASON = X'001D'

HS 装置が、矛盾した長さの IP データグラムを受け取りました。

REASON = X'001E'

入出力操作はエラーを返して完了しました。

REASON = X'001F'

HS 装置が、予期しない STARTLAN を示しました。

REASON = X'0020'

HS 装置が、予期しない STOPLAN を示しました。

REASON = X'0021'

HS 装置がエラーを示しました。

REASON = X'0027'

HS デバイス・ドライバが、無効な入力を受け取りました。IP データグラムが長すぎます。

REASON = X'0028'

HS 装置はプロトコル・エラーを報告しました。

REASON = X'002A'

入出力操作に失敗しました。

REASON = X'002B'

入出力操作に失敗しました。

REASON = X'002C'

HS 装置が IP アドレスを拒否しました。これは、RETCODE=E005 または E00A によって示されることが多いコードです。LFP 構成に使用された IP アドレスは、すでにネットワークで使用されています。まだ使用されていない IP アドレスを指定してください。

REASON = X'002D'

HS 装置が、予期しない戻りコードを示しました。

REASON = X'0030'

装置が操作可能ではありません。

REASON = X'0033'

HiperSockets 装置は HiperSockets 機能をサポートしていません。これは、おそらくハードウェア・エラーです。

REASON = X'0034'

HS 装置を使用可能にできませんでした。これは、おそらくハードウェア・エラーです。

REASON = X'0035'

Startlan 関数が失敗しました。これは、RETCODE=E080 によって示されるものです。

- REASON = X'0036'**
HS 装置の Assist 関数が失敗しました。
- REASON = X'0039'**
入出力操作に失敗しました。
- REASON = X'0040'**
HS 装置が、予期しないデータを示しました。
- REASON = X'0045'**
HS 装置が、予期しないデータを示しました。
- REASON = X'0046'**
HS 装置が、データを送達できませんでした。ターゲットが使用中です。
- REASON = X'0047'**
入出力操作に失敗しました。
- REASON = X'0048'**
入出力操作に失敗しました。
- REASON = X'0049'**
入出力操作に失敗しました。
- REASON = X'004D'**
この HS 装置は IPv6 をサポートしません。
- REASON = X'004E'**
この HS 装置は IPv6 をサポートしません。
- REASON = X'004F'**
この HS 装置は IPv6 をサポートしません。
- REASON = X'0052'**
このハードウェアは IPv6 をサポートしません。
- REASON = X'0055'**
装置がシステムに定義されていません。ADD ステートメントまたは HS 装置の指定がない可能性があります。
- REASON = X'0056'**
HS 装置の指定における装置が、(マップされた) VSE *cuu* ではありません。
- REASON = X'0057'**
QEBSM 機能が失敗しました。
- REASON = X'0059'**
HS 装置の指定における装置が、他の LFP インスタンスですすでに使用されています。
- REASON = X'005A'**
予期しない入出力コマンドです。
- REASON = X'005B'**
HS 装置が、予期しないデータを示しました。
- REASON = X'005C'**
HS 装置はすでに終了されました。
- REASON = X'005D'**
HS 装置が、予期しないデータを示しました。
- REASON = X'005E'**
HS 装置が、予期しないデータを示しました。
- REASON = X'0061'**
HS 装置が、予期しないデータを示しました。
- REASON = X'0062'**
HS 装置が、予期しないデータを示しました。
- REASON = X'0801'**
LFP スタックと HiperSockets 装置ドライバーとで API が一致しません。
- REASON = X'0802'**
HiperSockets 装置が完了キュー 機能をサポートしていません。
- REASON = X'0803'**
指定された装置が HiperSockets ではありません。
- REASON = X'0804'**
構成済み *HsMsgLimit* パラメーターが無効です。
- REASON = X'0805'**
HiperSockets 装置ドライバーによって、誤った形式の LFP データが検出されました。
- REASON = X'0806'**
HiperSockets 装置が QEBSM モードをサポートしていません。
- REASON = X'0807'**
HiperSockets 装置で QEBSM モードを有効にするときに障害が発生しました。
- REASON = X'0808'**
必要な機能が HiperSockets 装置にありません。
- REASON = X'0809'**
HiperSockets 装置構成を照会するときに障害が発生しました。
- REASON = X'080A'**
HiperSockets 装置が、サポートされないタイプとして (例えば、外部ブリッジ として) 構成されています。
システムの処置:
- REASON = X'0003'**
LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。
- REASON = X'0004'**
なし。
- REASON = X'000C'**
LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。
- REASON = X'000D'**
LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。
- REASON = X'000E'**
DEFINE LINK に失敗します。
- REASON = X'000F'**
LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。
- REASON = X'0012'**
LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。
- REASON = X'0013'**
LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。
- REASON = X'0014'**
LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。
- REASON = X'0015'**
LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。
- REASON = X'0016'**
HS デバイス・ドライバーが LFP 要求を拒否します。
- REASON = X'0017'**
LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。
- REASON = X'0018'**
LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。
- REASON = X'0019'**
LFP インスタンスは終了します。

REASON = X'001A'

HS 装置ドライバーは、もはや要求を受け入れません。

REASON = X'001B'

HS 装置ドライバーは、もはや要求を受け入れません。

REASON = X'001D'

HS デバイス・ドライバーは、もはやデータの送受信を行いません。

REASON = X'001E'

HS デバイス・ドライバーは、もはやデータの送受信を行いません。

REASON = X'001F'

HS デバイス・ドライバーは、もはやデータの送受信を行いません。

REASON = X'0020'

HS デバイス・ドライバーは、もはやデータの送受信を行いません。

REASON = X'0021'

HS デバイス・ドライバーは、もはやデータの送受信を行いません。

REASON = X'0027'

HS デバイス・ドライバーが LFP 要求を拒否します。

REASON = X'0028'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。

REASON = X'002A'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。

REASON = X'002B'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。

REASON = X'002C'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。

REASON = X'002D'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。

REASON = X'0030'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。または、このインスタンスは、もはや送受信要求を受け入れません。

REASON = X'0033'

LFP インスタンスを開始できません。

REASON = X'0034'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。

REASON = X'0035'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。

REASON = X'0036'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。

REASON = X'0039'

HS デバイス・ドライバーは、もはや送受信要求を受け入れません。

REASON = X'0040'

HS デバイス・ドライバーは、もはや送受信要求を受け入れません。

REASON = X'0045'

HS デバイス・ドライバーは、もはや送受信要求を受け入れません。

REASON = X'0046'

LFP インスタンスは、もはや要求を受け入れません。

REASON = X'0047'

HS デバイス・ドライバーは、もはや送受信要求を受け入れません。

REASON = X'0048'

HS デバイス・ドライバーは、もはや送受信要求を受け入れません。

REASON = X'0049'

HS デバイス・ドライバーは、もはや送受信要求を受け入れません。

REASON = X'004D'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。

REASON = X'004E'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。

REASON = X'004F'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。

REASON = X'0052'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。

REASON = X'0055'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。

REASON = X'0056'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。

REASON = X'0057'

LFP インスタンスは終了します。

REASON = X'0059'

LFP インスタンス (HS 装置) を開始できません。

REASON = X'005A'

HS デバイス・ドライバーは、もはや送受信要求を受け入れません。

REASON = X'005B'

HS デバイス・ドライバーは、もはや送受信要求を受け入れません。

REASON = X'005C'

HS デバイス・ドライバーは、もはや送受信要求を受け入れません。

REASON = X'005D'

HS デバイス・ドライバーは、もはや送受信要求を受け入れません。

REASON = X'005E'

HS デバイス・ドライバーは、もはや送受信要求を受け入れません。

REASON = X'0061'

HS デバイス・ドライバーは、もはや送受信要求を受け入れません。

REASON = X'0062'

HS デバイス・ドライバーは、もはや送受信要求を受け入れません。

REASON = X'0801'

LFP インスタンスを開始できません。

REASON = X'0802'

LFP インスタンスを開始できません。

REASON = X'0803'

LFP インスタンスを開始できません。

0S50I

REASON = X'0804'

LFP インスタンスを開始できません。

REASON = X'0805'

LFP インスタンスは終了します。

REASON = X'0806'

LFP インスタンスを開始できません。

REASON = X'0807'

LFP インスタンスを開始できません。

REASON = X'0808'

LFP インスタンスを開始できません。

REASON = X'0809'

LFP インスタンスを開始できません。

REASON = X'080A'

LFP インスタンスを開始できません。

オペレーターの応答:

REASON = X'0003'

ストレージを固定できなかった場合は、システム
Getvis-31 域または実ストレージを増やしてくださ
い。

REASON = X'0004'

なし。

REASON = X'000C'

ADD ステートメントまたは HS DEVICES 指定を訂
正してください。

REASON = X'000D'

ADD ステートメントを検査してください。

REASON = X'000E'

ADD ステートメントを訂正してください。

REASON = X'000F'

ADD ステートメントまたは HS DEVICES 指定を訂
正してください。

REASON = X'0012'

HS DEVICES 指定を訂正してください。

REASON = X'0013'

なし。

REASON = X'0014'

なし。

REASON = X'0015'

なし。

REASON = X'0016'

なし。

REASON = X'0017'

IPL SYS コマンドの BUFSIZE パラメーターの値を
増やしてください。

REASON = X'0018'

なし。

REASON = X'0019'

HiperSockets 装置が作動可能であるかどうかを確認
してください。

REASON = X'001A'

なし。

REASON = X'001B'

なし。

REASON = X'001D'

なし。

REASON = X'001E'

なし。

REASON = X'001F'

なし。

REASON = X'0020'

なし。

REASON = X'0021'

なし。

REASON = X'0027'

なし。

REASON = X'0028'

なし。

REASON = X'002A'

なし。

REASON = X'002B'

なし。

REASON = X'002C'

なし。

REASON = X'002D'

なし。

REASON = X'0030'

装置がオンラインで作動可能かどうかを調べてくださ
い。装置が作動可能になったら、再び LFP インスタ
ンスを開始します。

REASON = X'0033'

なし。

REASON = X'0034'

なし。

REASON = X'0035'

なし。

REASON = X'0036'

なし。

REASON = X'0039'

なし。

REASON = X'0040'

なし。

REASON = X'0045'

なし。

REASON = X'0046'

なし。

REASON = X'0047'

なし。

REASON = X'0048'

なし。

REASON = X'0049'

なし。

REASON = X'004D'

なし。

REASON = X'004E'

なし。

REASON = X'004F'

なし。

REASON = X'0052'

なし。

REASON = X'0055'

ADD ステートメントまたは HS DEVICES 指定を訂正してください。

REASON = X'0056'

QUERY *cuu* を使用して、物理 *cuu* と VSE *cuu* の関係を表示し、HS 装置の指定を修正してください。

REASON = X'0057'

IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示されるデータをすべて報告してください。

REASON = X'0059'

HS 装置の指定に別の装置を使用してください。

REASON = X'005A'

なし。

REASON = X'005B'

なし。

REASON = X'005C'

なし。

REASON = X'005D'

なし。

REASON = X'005E'

なし。

REASON = X'0061'

なし。

REASON = X'0062'

なし。

REASON = X'0801'

弊社に連絡してください。

REASON = X'0802'

z/VM ゲストとして実行しているときに、z/VM バージョン 6 リリース 3 以降を使用していることを確認してください。

REASON = X'0803'

HiperSockets 装置の定義を確認してください。

REASON = X'0804'

LFP 構成で有効な *HsMsgLimit* パラメーターを指定してください。

REASON = X'0805'

弊社に連絡してください。

REASON = X'0806'

HiperSockets 装置の QIOASSIST 状況が DISABLED の場合は、その装置の ATTACH / DEDICATE 定義から NOQIOASSIST オペランドを削除してください。

REASON = X'0807'

なし。

REASON = X'0808'

HiperSockets 装置の定義を確認してください。

REASON = X'0809'

HiperSockets 装置の定義を確認してください。

REASON = X'080A'

HiperSockets CHPID の CHPARM 定義を確認してください。

プログラマーの応答:

REASON = X'0003'

ストレージを固定できなかった場合は、システム Getvis-31 域または実ストレージを増やしてください。

REASON = X'0004'

なし。

REASON = X'000C'

ADD ステートメントまたは HS DEVICES 指定を訂正してください。

REASON = X'000D'

ADD ステートメントを検査してください。

REASON = X'000E'

ADD ステートメントを訂正してください。

REASON = X'000F'

ADD ステートメントまたは HS DEVICES 指定を訂正してください。

REASON = X'0012'

HS DEVICES 指定を訂正してください。

REASON = X'0013'

なし。

REASON = X'0014'

なし。

REASON = X'0015'

なし。

REASON = X'0016'

なし。

REASON = X'0017'

IPL SYS コマンドの BUFSIZE パラメーターの値を増やしてください。

REASON = X'0018'

なし。

REASON = X'0019'

なし。

REASON = X'001A'

なし。

REASON = X'001B'

なし。

REASON = X'001D'

なし。

REASON = X'001E'

なし。

REASON = X'001F'

なし。

REASON = X'0020'

なし。

REASON = X'0021'

なし。

REASON = X'0027'

なし。

REASON = X'0028'

なし。

REASON = X'002A'

なし。

REASON = X'002B'

なし。

0T00I

REASON = X'002C'

なし。

REASON = X'002D'

なし。

REASON = X'0030'

装置がオンラインで作動可能かどうかを調べてください。装置が作動可能になったら、再び LFP インスタンスを開始します。

REASON = X'0033'

なし。

REASON = X'0034'

なし。

REASON = X'0035'

なし。

REASON = X'0036'

なし。

REASON = X'0039'

なし。

REASON = X'0040'

なし。

REASON = X'0045'

なし。

REASON = X'0046'

なし。

REASON = X'0047'

なし。

REASON = X'0048'

なし。

REASON = X'0049'

なし。

REASON = X'004D'

なし。

REASON = X'004E'

なし。

REASON = X'004F'

なし。

REASON = X'0052'

なし。

REASON = X'0055'

ADD ステートメントまたは HS DEVICES 指定を訂正してください。

REASON = X'0056'

QUERY *cuu* を使用して、物理 *cuu* と VSE *cuu* の関係を表示し、HS 装置の指定を修正してください。

REASON = X'0057'

なし。

REASON = X'0059'

HS 装置の指定に別の装置を使用してください。

REASON = X'005A'

なし。

REASON = X'005B'

なし。

REASON = X'005C'

なし。

REASON = X'005D'

なし。

REASON = X'005E'

なし。

REASON = X'0061'

なし。

REASON = X'0062'

なし。

REASON = X'0801'

なし。

REASON = X'0802'

なし。

REASON = X'0803'

なし。

REASON = X'0804'

なし。

REASON = X'0805'

なし。

REASON = X'0806'

なし。

REASON = X'0807'

なし。

REASON = X'0808'

なし。

REASON = X'0809'

なし。

REASON = X'080A'

なし。

0Txx=MCAR/CCH メッセージ

0T00I THRESHOLD ON RECORDER FILE
REACHED

説明: レコーダー・ファイルが、ほとんどいっぱいです。
システムの処置: なし。ただし、このファイルがいっぱいになると、環境記録は終了します。
オペレーターの応答: 早急に ROD コマンドを出して、レコーダー・ファイルがいっぱいである状況について EREP を実行してください。これにより、環境情報の消失が最小限で済みます。プログラムの出力を、必要に応じて使用できるよう保存しておいてください。

EREP をサブミットするには、103 ページの図 2 に示されて

いるように、制御情報を渡してください。

```
// JOB    jobname
(1) // TLBL HISTOT
(1) // ASSGN SYS009,cuu
// EXEC  IFCOFFLD
/*
/ &
```

(1) この 2 つのステートメントは、テープ上の (EREP) ヒストリー出力ファイルを定義します。

図 2. レコーダー・ファイルがいっぱいである場合の EREP 実行に対する制御情報

プログラマーの応答: なし。

OT01E ERROR ON LOCK FILE

説明: 次のいずれかを行ってください。

- リカバリー不能な入出力エラーが、外部ロック・ファイルに起きました (ハードウェア誤動作)。
- フォーマット・エラーが、外部ロック・ファイルに起きました (ロック・ファイルは削除されたか、または破壊されました)。
- 論理エラーが、ロック・ファイルに起きました (例えば、同じ処理装置識別を共用する二つの VM システムの場合です)。
- ロック・ファイルがシリンダー 0 において開始されるよう定義され、その結果、完全な 1 シリンダーよりも少ないスペースが、システムにより予約されました。
- 影響されたボリュームは、読取専用アクセス属性を持ちます。

システムの処置: システムは次の処置を行います。

1. DASD 共用サポートをリセットします。
2. 要求者が FAIL=RETURN または FAIL=WAIT を指定したすべての外部ロック要求を、拒否 (36 の戻りコード) します。
3. FAIL=WAIT でロック要求を出したタスクを取り消します。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 操作要件が満たされ次第、これ以上は処理するジョブをスケジュールしないで、オペレーターに次のことを指示してください。

1. DASD 共用サポートに依存しない保留中のジョブを、ロック・ファイルを共用しているシステム上で実行を終了できるようにする。
2. システムをシャットダウンする。
3. ステップ 2 でシャットダウンされたシステムについて新たにシステムをスタートアップする。ただし、メッセージがファイルの誤定義によって出された場合、再定義されたロック・ファイルを使用します。

オペレーターがシステムを新たに始動した後で、問題のあるジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

OT02E ERROR IN RECORDER FILE HEADER

説明: 記録ファイル・ヘッダー・レコードの書き込み中にリカバリー不能な入出力エラーが起きました。これは、おそらくハードウェア・エラーです。

システムの処置: 入出力要求は無視されます。環境記録は停止します。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 操作上の要件が整い次第、オペレーターに以下のことを行わせてください。

1. システムをシャットダウンすること。
2. IPL コマンドのセットに SET RF=CREATE コマンド (システム記録ファイルの再作成用) を組み込んで、新しくシステムをスタートアップすること。

OT03I ERROR ON RECORDER FILE AT

[cchthr | block-no.]

説明: 示されたレコードのアクセス中にレコーダー・ファイルにリカバリー不能な入出力エラーが起きました。(CKD の場合、cc = シリンダー、hh = ヘッド、r = レコード。FBA の場合、block-no. = ブロックの番号。) これはハードウェア・エラーであると考えられます。

システムの処置: レコードに対する入出力要求は無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: このエラー・メッセージが繰り返して出される場合、レコーダー・ファイルがいっぱいである状況について EREP プログラムを実行し、担当のプログラマーにメッセージを報告してください。提出する制御情報については、図 2 を参照してください。

プログラマーの応答: メッセージが再発する場合には、システムの再始動時にレコーダー・ファイルを再作成するようにしてください。装置サポート機能プログラムの、以下の機能を使用する必要がある場合もあります。

1. INIT によるボリュームの初期設定。
2. INSPECT による、必要に応じたトラック/ブロックの割り当て/再使用。

その後、ディスク・ボリュームの最新のバックアップを使って、ボリュームに保管されていた元のデータをリストアしてください。

OT04I RESOURCE (resourcename) IS IN USE BY SYSTEM (cpuid_system)

説明: メッセージ番号の左側の接頭部で (画面に) 示された VSE タスクが、他の VSE システムが永続的に保持しているリソースをロックしようとしています。他のシステムは cpuid_system で示されています。タスクを所有するリソースがソフト待ち状態にあるか、またはタスクが存在する VSE システムが、ハードウェア・ウェイトまたはソフト待ち状態にある可能性があります。このメッセージは、そのリソースのロックが 20 秒間再試行され、その後 5 分ごとに再試行されるときに outされます。cpuid の長さは 12 文字で、system は 4 文字です。

システムの処置: なし。このメッセージはオペレーターへの通知のために出されます。

オペレーターの応答: タスクを所有する VSE システムが、ハードウェアまたはソフトウェア待ち状態にあるかどうかを調べてください。そのシステムが待ち状態にある場合は、AR コマンド UNLOCK system=cpuid を出して、そのシステムのすべてのリソースを解放することができます。

プログラマーの応答: なし。

OT05E RECORDER FILE FULL. RUN EREP

説明: レコーダー・ファイルがいっぱいになっています。このメッセージが最初に出された場合は、作動標識が「E」であることに注意してください。

これは、EREP の実行が終了するまでに I に変わります。

システムの処置: 処理は続行されますが、環境記録は、EREP がレコーダー・ファイルを除去するまで延期されます。

オペレーターの応答: レコーダー・ファイルがいっぱいである状況に対して EREP を実行してください。提出する制御情報については、103 ページの図 2を参照してください。強調表示されたメッセージを画面から削除して、システムが再びレコーダー・ファイルに書き込めるようにしてください。

プログラマーの応答: なし。

OT06I ECC MCI DISABLED

説明: ECC (エラー訂正コード) のエラー発生回数の限界を超えています。

システムの処置: ECC 機能は静止モードになり、処理が続行されます。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: このメッセージが再び表示される場合は、このメッセージを弊社に報告してください。

OT07I ALL SOFT MCI DISABLED

説明: HIR (ハードウェア命令再試行) および ECC (エラー訂正コード) の両方でエラー発生回数の限界を超えています。

システムの処置: HIR および ECC は静止モードになり、処理が続行されます。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: このメッセージが再び表示される場合は、このメッセージを弊社に報告してください。

OT08I C40 BUFFER PAGES DELETED = mnn

説明: 制御ストレージ中で、示された数 (mnn) のページ・フレームを使用することができません。

システムの処置: 処理を続行します。ただし、パフォーマンスは著しく低下します。バッファ・ページが削除されたために低下が起こることがあります。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: このメッセージを弊社に報告してください。

OT09I SUCCESSFUL RECOVERY FROM MACHINE CHECK

説明: 障害が訂正されたことにより、マシン・チェック割り込みが発生しました。

システムの処置: システムは SYSREC にエラーを記録し、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

OT10I CHANNEL ERROR RECOVERED ON cuu [, CHPID = xx]

説明: 失敗した入出力操作の再試行が成功しました。CHPID xx (表示された場合) は、失敗した入出力操作に使用されたチャネル・パスを示します。

システムの処置: システムは SYSREC にエラーを記録し、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

OT11A HARD WAIT CODE = n RECORDING recording-status

説明: システム障害です。表示されたハードウェア・ウェイト状態コードで示されている原因により、リカバリー不能待ち状態になっています。これは、おそらくハードウェア・エラーです。n は、ストレージの低位バイト 0 から 3 にある待ち状態コードの先頭バイトです。待ち状態コードのリストについては、587 ページの『VSE 拡張機能待ちコード』の 591 ページの『ストレージ・バイト 0 から 3 に入っているコード』を参照してください。待ち状態コードの意味を調べる前に、待ち状態コードを EBCDIC の 16 進数に変換してください。待ち状態コードはすべて 16 進表記で示されています。

システムの処置: システムはリカバリー不能待ち状態になります。

オペレーターの応答: もう一度システムをスタートアップしてください。さらに、以下の記録状況の場合は、それぞれの指示に従ってください。

SUCCESSFUL. RUN EREP -

プログラムを実行し、出力を使用可能にしてください。EREP の実行については、16 ページの図 1を参照してください。

INCOMPLETE または UNSUCCESSFUL -

メッセージが最初に出されたときには、処置は特に必要ありません。問題が繰り返される場合は、ご使用のコンピューター・システムの「問題分析の手引き」またはご使用のプロセッサのそれと同等の資料に記述されているとおりに、ログ情報検索機能を実行してログ情報を検索してください。

プログラマーの応答: 問題をシステム・サポート担当者に連絡してください。

0T12I **IRRECOVERABLE CHANNEL ERROR ON**
cuu [, **CHPID = xx**]

説明: 示されたアドレスの装置に対する入出力操作が失敗しました。再試行に失敗したか、操作の再試行をまったく行うことができませんでした。これは、おそらくハードウェア・エラーです。CHPID *xx* (表示された場合) は、失敗した入出力操作に使用されたチャンネル・パスを示します。

システムの処置: システムは SYSREC にエラーを記録し、処理を続行します。ただし、以下の場合には、影響を受けたジョブまたはサブタスクが取り消されます。

- 示されたアドレスの装置がディスク・ドライブである。
- 関連の CCB または IORB が、リカバリー不能入出力エラーの通知を受け入れるようにプログラミングされていない。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、このメッセージを弊社に報告してください。

0T13t **CHANNEL ERROR ON** *cuu* [, **CHPID =**
xx]

説明: システムが、示されたアドレスの装置に入出力操作を実行している時に、チャンネル・エラーが起きました。これは、おそらくハードウェア・エラーです。CHPID *xx* (表示された場合) は、失敗した入出力操作に使用されたチャンネル・パスを示します。

システムの処置: システムは SYSREC にエラーを記録します。

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。さらに、

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - コンソールのキーボードで END/ENTER を押し、システムに処理を続行させてください。CANCEL を入力し、該当ジョブまたはサブタスクを取り消してください。通常システム処理が続行されます。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、このメッセージを弊社に報告してください。

0T14E **CLOCK DAMAGE. ALL MODES QUIET**

説明: 刻時機構に障害があります。これはハードウェア・エラーであると考えられます。

システムの処置: 処理は続行されますが、HIR および ECC タイプのエラーの記録は停止します。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告してください。PDISPLAY ALL コマンドを出して印刷装置に出力を作成して、その印刷出力を必要に応じて使用できるようにしておいてください。ECC および HIR タイプのエラーの記録を再開するための MODE コマンドを出さないでください。

プログラマーの応答: オペレーターに、すべての時間依存ジョブを、システムのジョブ入力から取り除くための指示を与えた上で、システムに他のジョブの処理を続けさせてください。このためには、オペレーターに POWER[®] キュー中のジョブのリストを作成する (PDISPLAY ALL *cuu* を使用) ように要求す

る必要があります。このメッセージを弊社に報告してください。

0T15E **MCAR REPAIR FAILED**

説明: 障害のある区画を、再度使用できるようにする試みが失敗しました。これは、おそらくハードウェア・エラーです。システムの処置: システムは影響を受けた区画を取り消します。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告してください。PDISPLAY ALL コマンドを出して印刷装置に出力を作成して、その印刷出力を必要に応じて使用できるようにしておいてください。ハードウェアの問題が解消するまで、影響を受けた区画の使用を避けてください。

プログラマーの応答: 障害のある区画でのジョブの実行を、スケジュールしないでください (予期しないシステム停止を起こすことがあります)。オペレーターに、システムの入力キューのジョブ実行クラスを変更する指示を与えてください。このためには、オペレーターから、POWER キュー中のジョブのリストを受け取る必要がある場合もあります (PDISPLAY ALL *cuu* により)。このメッセージを弊社サービス・センターに報告してください。

0T16I **EFL OVERFLOW**

説明: リカバリー可能なストレージ障害に関するハードウェア・エラー発生回数 (EFL) の限界に達しています。

システムの処置: このエラーは SYSREC に記録され、ECC タイプのエラーの記録は静止モードにセットされます。処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: このメッセージが再び表示される場合は、このメッセージを弊社に報告してください。

0T17I **CONTROL STORAGE ECC IN QUIET**
MODE

説明: 制御ストレージが論理限界 (制御方式記録) モードにある時に、ソフト・マシン・チェック割り込みが起きました。ハードウェア・エラーが起っています。

システムの処置: 制御ストレージの ECC タイプのエラーの記録は停止します。処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: このメッセージが再び表示される場合は、このメッセージを弊社に報告してください。

0T18E **TIMER DAMAGED**

説明: インターバル・タイマーが、マシン・チェックにより誤って変更されました。記録された時間は無効です。これはハードウェア・エラーであると考えられます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 刻時機構のスイッチを OFF の位置にセットした上で、プログラマーにこのメッセージを報告してください。PDISPLAY ALL コマンドを出して印刷装置に出力を作成して、その印刷出力を必要に応じて使用できるようにしてお

いてください。 次回のシステム・スタートアップ時に、適切な SET コマンドをサブミットすることにより、刻時機構を訂正してみてください。 問題が再発する場合には、以下を行ってください。

1. ROD コマンドを出してください。
2. EREP を実行してください。 16 ページの図 1 を参照してください。
3. EREP の出力テープを利用可能にしてください。

プログラマーの応答: オペレーターに、すべての時間依存ジョブを、システムのジョブ入力から取り除くための指示を与えた上で、システムに他のジョブの処理を続けさせてください。 このためには、オペレーターから、POWER キュー中のジョブのリストを受け取る必要がある場合もあります (PDISPLAY ALL cuu により)。 このメッセージが再び表示される場合は、このメッセージを弊社に報告してください。

OT19E ALLOCATION OF *mn*R HAS BECOME INVALID. FAILING STORAGE ADDRESS *address*

説明: これはハードウェア・エラーであると考えられます。 システムの処置: システムは影響を受けた区画を取り消します。

オペレーターの応答: このメッセージをプログラマーに報告し、その指示に従ってください。
 プログラマーの応答: オペレーターがリカバリーできない場合には、プログラムを仮想モードで実行することによって、このメッセージが出ないようにしてください。 実モードで実行するしかない場合には、この目的のためにプロセッサ・ストレージの別の領域を割り振った区画で、実モード・ジョブを実行してください。 このメッセージが再び表示される場合は、このメッセージを弊社サービス・センターに報告してください。

OT20E {SYS-24|SYS-31|*mn*} {PFI(X)BELOW}|PFI(X)ABOVE} LIMIT REDUCED BY ONE PAGE

説明: 監視プログラムが、欠陥のあるページ・フレームを検出し、そのページ・フレームが無効であるとマークしました。 さらに、PFI(X)BELOW 域内または PFI(X)ABOVE 域内において、システムまたは区画の PFI(X) 限界が 1 ページ分減らされています。

システムの処置: なし。
 オペレーターの応答: MAP REAL コマンドを出し、プログラマーにメッセージを報告する時にその出力を利用できるようにしておいてください。
 プログラマーの応答: MAP REAL コマンドの出力を調べて、新規の PFI(X) 限界を参照してください。

OT21I SYSTEM PERFORMANCE DEGRADATION

説明: ハードウェアは、マシン・チェック・コード内の低下ビットを設定しました。これは、ハードウェア内部リカバリー処置のため、実行命令の速度が通常より下回っていることを示します。 低下の理由および程度はプロセッサにより異なり、ハードウェア問題が技術員 (CE) によって解決されるまで続きます。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: このメッセージを弊社に報告してください。

OT22E CLOCK AND/OR TIMER DAMAGE

説明: 以下のいずれかまたは両方です。
 • 刻時機構に障害があります。
 • 内部刻時機構によって記録された時刻が無効です。

これはハードウェア・エラーであると考えられます。

システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: 刻時機構のスイッチを OFF の位置にセットした上で、プログラマーにこのメッセージを報告してください。 PDISPLAY ALL コマンドを出して印刷装置に出力を作成して、その印刷出力を必要に応じて使用できるようにしておいてください。 次回のシステム・スタートアップ時に、適切な SET コマンドをサブミットすることにより、刻時機構を訂正してみてください。 問題が再発する場合には、以下を行ってください。

1. ROD コマンドを出してください。
2. EREP を実行してください。 16 ページの図 1 を参照してください。
3. EREP の出力テープを利用可能にしてください。

プログラマーの応答: オペレーターに、すべての時間依存ジョブを、システムのジョブ入力から取り除くための指示を与えた上で、システムに他のジョブの処理を続けさせてください。 このためには、オペレーターから、POWER キュー中のジョブのリストを受け取る必要がある場合もあります (PDISPLAY ALL cuu により)。 このメッセージが再び表示される場合は、このメッセージを弊社に報告してください。

OT23A INVALID RESPONSE

説明: システムが、無効な応答を受け取りました。
 システムの処置: システムは、前に表示されたメッセージに対する有効な応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 前に出されたメッセージの説明およびオペレーターの応答を参照してください。
 プログラマーの応答: なし。

OT25I SYSTEM RUNNING ON UPS

説明: 通常電源が失われました。現在、システムは UPS (汎用電源システム) で稼働しています。
 システムの処置: UPS で可能な限り、処理が続行されます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

OT26I UTILITY POWER RESTORED

説明: 通常電源が失われていましたが、リストアしました。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

0T27E VSIZE REDUCED BY ONE PAGE

説明: 監視プログラムが非 PDS 環境で欠陥のあるページを検出しました。これは、おそらくハードウェア・エラーです。仮想記憶の合計サイズが 1 ページ分だけ減っています。

システムの処置: システムは影響を受けた区画を取り消します。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: なし。

0T30I CHANNEL REPORT WORD LOST DUE TO OVERFLOW CONDITION

説明: CRW オーバーフロー状態を示すチャンネル報告ワード (CRW) が受け取られました。1 つ以上のチャンネル報告ワードが失われ、システムには報告されません。

システムの処置: システムは検索された CRW を SYSREC に記録し、処理を続行します。システム操作は、失われたチャンネル報告ワードの性質に応じて影響を受ける可能性があります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0T31I CHPID xx ALERT, UNSOLICITED MALFUNCTION INTERRUPT

説明: チャンネル・パス xx での一時エラーを示すチャンネル報告ワード (CRW) が受け取られました。装置からの要求をサービしている間、装置の ID を判別する前に、チャンネル・サブシステムが作動不能になりました。報告チャンネル・パス xx は、チャンネル・サブシステムによる使用のために、使用可能のままになっています。

システムの処置: システムは SYSREC に CRW を記録し、処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題が再発する場合は、障害のあるチャンネル・パスを切断し、問題を弊社に報告してください。

プログラマーの応答: なし。

0T32I CHPID xx ALERT, NO ASSOCIATED SUBCHANNEL FOR DEVICE

説明: 構成警報一時エラーを示すチャンネル報告ワード (CRW) が受け取られました。チャンネル・サブシステムは、有効なサブチャンネルまたはコントロール・ユニットを、識別された装置に関連付けられませんでした。

システムの処置: システムは SYSREC に CRW を記録し、処理を続行します。

オペレーターの応答: 生成されるチャンネル報告の原因となった装置のリカバリーは、プログラムによって行うことはできません。装置を有効なサブチャンネルに関連付けるためには、外部処置が必要です。IOCDS をこれに応じて更新してください。

プログラマーの応答: なし。

0T33I CHPID xx ALERT, CHANNEL PATH PERMANENT ERROR

説明: チャンネル・パス xx での永続エラーを示す、チャンネル報告ワード (CRW) が受け取られました。このチャンネル・パスはリカバリーできません。

システムの処置: システムは SYSREC に CRW を記録します。障害のあるパスが唯一の構成されたパスである場合は、チャンネル・パス xx は強制的にオフラインにされ、DEVICE NOT OPERATIONAL 状態になります。

オペレーターの応答: チャンネル・パスのリカバリーは、プログラムによって行うことはできません。障害を訂正するには外部処置 (INL) が必要です。

プログラマーの応答: なし。

0T34I CHPID xx ALERT, CHANNEL PATH TERMINAL

説明: チャンネル・パス終了条件を示すチャンネル報告ワード (CRW) が受け取られました。チャンネル・パス xx は終了状態にあり、チャンネル・サブシステムで使用できません。

システムの処置: システムは SYSREC に CRW を記録し、リカバリーのためにチャンネル・パスのリセットを行います。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0T35I EVENT INFORMATION LOST DUE TO OVERFLOW CONDITION

説明: イベント情報の保留を示すチャンネル報告ワード (CRW) が受け取られました。検索されたイベント情報はオーバーフロー条件を示しました。これは、いくつかのイベント情報が失われ、システムに報告されないことを意味します。

システムの処置: システムは SYSREC に検索されたイベント情報を記録し、処理を続行します。システムの操作は、失われたイベント情報の性質に応じて影響を受ける可能性があります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0T36I SUBCHANNEL INFORMATION LOST DUE TO OVERFLOW CONDITION

説明: システムが、前のメッセージ 0T12I/0T13A で示された装置に入出力操作を実行している時に、チャンネル・エラーが起こりました。システムはリカバリーおよび記録に必要な情報を保管することができません。

システムの処置: SYSREC にエラーは記録されません。影響を受けたジョブまたはサブタスクは取り消されます。

オペレーターの応答: このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、このメッセージを弊社に報告してください。

0T37I CHANNEL ERROR ON cuu. NO RECOVERY / NO RECORDING DONE.

説明: 示されたアドレスの装置に対する入出力操作が失敗しました。これは、おそらくハードウェア・エラーです。独立型環境において IPL 時に、SVA のロードが完了する前に障害が発生しました。

システムの処置: チャンネル・エラーは SYSREC には記録されません。

オペレーターの応答: メッセージに示された装置のハードウェア

ア状況を調べてください。ご使用の独立型環境に当該装置が不要な場合は、その装置を入出力構成から除去して、再 IPL を行ってください。

プログラマーの応答: なし。

0Vxx=EOJ メッセージ

0V02I PAGE FAULT IN DISABLED PROGRAM

説明: 使用不能のプログラムは、MICR スタッカー選別ルーチンまたは PHO 付加と思われます。

システムの処置: 示されたジョブまたはタスクは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: PFIx を使用するか、プログラムを実モードで実行することによって、ページ・フォルトを防止してください。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブを実モードで再実行してください。

0V03I MORE THAN MAX PFIx REQUESTS MADE FOR ONE PAGE

説明: 1 ページに対して許される最大数 (32, 767) を超えた PFIx 要求が出されました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: PFIx マクロで固定されたページに対して PFREE マクロを出してプログラムを訂正し、ジョブを再実行してください。

0V08I PROGRAM CHECK OR PAGE FAULT IN I/O APPENDAGE

説明: 入出力付加ルーチン中の、プログラム・チェック割り込みまたはページ・フォルトが原因で、ジョブが終了しました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: PFIx を使ってページ・フォルトを防止するか、実モードでプログラムを実行してください。

0V04I PAGE POOL TOO SMALL

説明: 1 つの特定の入出力要求によって固定されたページの数、ページ・プール中のページ・フレームの数を超過しています。これは、同じシステムで前にプログラムの実行が成功していても起こります。ページ・プールは、PFIx 要求によって、あるいはプログラムを実モードで実行することによって、動的に減少させることができます。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブを、仮想モードで実行するプログラムと一緒に再実行するか、発行する PFIx 要求を少なくしてください。

0V09I PARAMETER PASSED BY THE PHO ROUTINE IS INVALID

説明: PHO (ページ・フォルト処理オーバーラップ) ルーチンが無効なパラメーターを監視プログラムに渡しました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: PHO ルーチンを訂正してください (PHO ルーチンのコーディング方法については、「z/VSE System Macros User's Guide」を参照してください)。

0V10I I/O ERROR ON PAGE DATA SET

説明: システムがページ・フォルトの処理中に、リカバリー不能な入出力エラーが起きました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ページ・データ・セットを別のディスク域に指定して、オペレーターにシステムの再スタートアップを依頼してください。該当すれば、ASI IPL プロシーチャーを訂正してください。

0V06I NOT ENOUGH BUFFERS FOR CHANNEL PROGRAM TRANSLATION

説明: チャンネル・プログラム変換のために生成されるバッファの数が、特定の入出力要求に関するすべての情報を収めるのには、充分ではありません。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 適切な ASI IPL プロシーチャーを変換し、SYS コマンドの BUFSIZE オペランドに、より大きい値を定義してください。次のシステム・スタートアップ時に、この変更したプロシーチャーを使ってジョブを再実行してください。

0V11I ERROR IN CCW TRANSLATED BY THE APPLICATION

説明: CCB/IORB 中の最初の CCW のアドレスが正しい実アドレスでないか、または、チャンネル・プログラムが一時的に置かれていた区域に対して、PFREE が出されています。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムを訂正して、影響を受けた CCB (または IORB) に有効な CCW アドレスが含まれるようにしてください。

0V07I NO CHANN. PROG. TRANSLATION FOR UNSUPPORTED DEVICE

説明: チャンネル・プログラム変更時に、システムは、入出力装置に割り当てられたサポートされていない装置タイプを見つけました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

0V12I ERROR IN SYSLOG CHANNEL PROGRAM

説明: 次のいずれかを行ってください。

- チャンネル・プログラム中の CCW が 32 個を超えています。
- チャンネル・プログラムが無効なデータ・アドレスを指定しています。
- CCW がダブル・ワード境界にありません。

- チャンネル・プログラムが TIC を指す TIC を含んでいません。
- CCW の長さカウントがゼロまたは負です。
- チャンネル・プログラムが無効なフラグ・バイト設定を含んでいます。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: チャンネル・プログラムを訂正して、ジョブを再実行してください。

0V13I PROGRAM CHECK IN SUBSYSTEM OR APPENDAGE

説明: サブシステムまたは付加ルーチンでプログラム・チェックが起きました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムを訂正して、ジョブを再実行してください。

0V14I PAGE FAULT IN SUBSYSTEM OR APPENDAGE

説明: サブシステムまたは付加ルーチンでページ・フォルトが起きました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正して、ジョブを再実行してください。

0V15I REQUEST FROM SYSTEM SERVICE ROUTINE

説明: プログラム要求のシステム・サービス・ルーチンによって、取り消しマクロが出されました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを判別するには、システム・サービス・ルーチンによって与えられた診断メッセージの指示に従ってください。エラーを訂正して、ジョブを再実行してください。ただし、エラーは以下のいずれかの原因によって LIOCS で生じる場合があります。

- ファイルのエクステント上限を超えてファイルにアクセスしようとした。
- 命令マクロ (例えば、WRITE または PUT) がファイルに対して出されたが、要求されたアクセス・サービスはそのファイルに対して使用可能でない。
- 印刷装置に無効な ASA 制御文字が使用された。
- 多機能カード・マシンまたは 3525 カード穿孔装置で関連ファイルを使用するプログラムで、マクロ・シーケンス・エラーが発生した (読み取り/穿孔の関連ファイルが使用されるときは、GET-PUT シーケンスが維持される必要がある)。
- WAITF マクロに複数のファイル名が指定された。
- FBA ディスク上のファイルの場合に、OPEN ルーチンが事前割り振りの作業域を超えているため、スペースが足りずメッセージを出せない。
- CI 形式のアクセス方式に適用 :

- ファイル用のユーザー作成エラー出口ルーチンの処理中に、ERET 以外の命令マクロが同じファイルに対して出された。
- VSE/VSAM の OPEN または CLOSE ルーチンが、サポートされていないメッセージを出そうとした。
- VSE/VSAM の OPEN または CLOSE ルーチンが、使用可能な動的保管域スペースを十分に持っていない。
- FEOD または OPEN の直後に PUT が入力ファイルに対して出された。
- 誤長レコード・ユーザー・エラー出口から ERET RETRY が出された。
- 可変出力ファイルの場合に、BLKSIZE=value に指定された値より長い論理レコードに対して PUT が出された。
- PWRITE=YES が指定され、プログラムが POINT を出した。
- DTFSD システム・ファイルの場合に、ユーザー・エラー出口から ERET RETRY が出された。
- DTFSD 作業ファイルの場合に、CI 内の 255 番目の論理ブロックを超えた論理ブロックにあるレコードに対して NOTE が出された (これは、アクセスされているファイルが DTFSD TYPEFLE=WORK 以外の指定により作成または変更された場合にのみ発生します)。
- ユーザー作成プログラムが OPEN 処理後に DTF ブロックを変更し、その結果、アクセス方式に対して不適切なファイル記述が生じた。
- オブジェクト・プログラムの中で誤長レコードが検出された。または、オープンされていないファイルに対して入出力要求が出された。
- DTFSD 作業ファイルの場合に、無効な検索指数を指定した POINTR または POINTW が出された。

0V16I REQUEST FROM VSE/POWER

説明: 関係する区画に PFLUSH コマンドが入力されたか、POWER が区画中でエラーを検出しました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

0V17I SPOOL REQUEST OUT OF SEQUENCE.

説明: 出力のスプール要求が POWER によって検出されましたが、関連区画が作業待ちです。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 区画を MT 区画として始動することを検討してください。

0V18I REQUEST FROM VSE/OCCF

説明: VSE/OCCF がエラー状況を検出しました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: このメッセージの発生をシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**OV19I CANCEL REQUESTED BY VSE/OCCF
SUBTASK**

説明: VSE/OCCF サブタスクの 1 つでエラーが発生しました。サブタスクは VSE/OCCF 区画の取り消しを要求しました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

OV95I TERMINATION OF VTAM

説明: VTAM の終了時に未解決の OPEN ACB 要求があったため、示されたジョブまたはタスクが取り消されました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: VTAM のスタートアップ手順については、「IBM z/VSE 操作」を参照してください。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: VTAM の再始動後にジョブを再実行してください。メッセージ 5J95I (VTAM によって出される) の説明も参照してください。

OV96I INVALID VTAM CONDITION

説明: ある条件が発生し、その結果として VTAM が取り消されました。

システムの処置: システムはメッセージ 0S00I を出します。

オペレーターの応答: 「IBM z/VSE 管理」に、VTAM のスタートアップ・スケルトンが示されており、「IBM z/VSE 操作」に、VTAM スタートアップ手順に関する説明が記載されています。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: VTAM の再始動後にジョブを再実行してください。メッセージ IST997I (VTAM によって出される) の説明も参照してください。

OWxx= サービス・プロセッサ関連メッセージ

**OW01D DO YOU WANT TO CONTINUE SYSTEM
SHUTDOWN (WILL BE FORCED AFTER
TIMEOUT)? REPLY 'YES' TO ENTER
HARD WAIT STATE OR 'NO'**

説明: 中断の操作 (IML、IPL など) が SE/HMC 上で実行されたか、SIGNAL SHUTDOWN が z/VM のこのゲストに対して出されました。システム処理は停止される必要があります。

注: このメッセージは SYS QUIESCE パラメーターが IPL 時に使用可能になっている場合にのみ出されます。

システムの処置: システムは、タイムアウトが即時のシステム・シャットダウンを強制するまでオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: すべてのサブシステム

(CICS、VTAM、POWER など) およびジョブが、処理を終了したかシステムを停止できると定義されている状態になっている、またはこの両方を満たすことを確認してから「YES」と応答してください。「YES」と応答すると、システムは割り込み禁止待ち状態になるように強制され、処理が停止したことを信号で送ります。

注: メッセージ OW01D には適切なタイミングで応答する必要があります。そうしないと、SE/HMC または z/VM 処理が遅延します。メッセージ OW01D に対する応答として「NO」を指定するか、まったく応答を指定しなかった場合でも、定義された期間 (SE/HMC の場合 5 分程度) が経過すると SE/HMC または z/VM 処理のシャットダウンが続行されます。

プログラマーの応答: なし。

システムの処置: CPU 構成が更新されています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**OW03I 1 STANDBY CPUS HAVE BEEN ADDED
TO THE CONFIGURATION**

説明: スタンバイ CPU が構成に追加されました。数字 1 は、構成に追加されたスタンバイ CPU の数を示しています。

システムの処置: CPU 構成が更新されています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**OW04I STARTSBY OF CPU WITH ADDRESS
cpuaddr FAILED**

説明: STARTSBY オペランドを指定して SYSDEF TD コマンドが出されましたが、*cpuaddr* で識別される CPU が開始できませんでした。

システムの処置: STARTSBY 要求は無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**OW05I STOPSBY OF CPU WITH ADDRESS
cpuaddr FAILED**

説明: STOPSBY オペランドを指定して SYSDEF TD コマンドが出されましたが、*cpuaddr* で識別される CPU がスタンバイに設定できませんでした。

システムの処置: CPU が非アクティブに設定されています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**OW02I 1 STANDBY CPUS HAVE BEEN
REMOVED FROM THE CONFIGURATION**

説明: スタンバイ CPU が構成から削除されました。数字 1 は、構成から削除されたスタンバイ CPU の数を示しています。

**OW10I PROCESSOR SPEED CHANGE
text**

説明: このメッセージは、z/VSE にプロセッサ速度の変更が通知されると必ず出されます。またメッセージ OW10I は、システムが減速して IPL された場合にも出されます。

メッセージ・テキストの *text* はプロセッサ速度の変更理由を示します。次の理由が考えられます。

- THE SYSTEM IS RUNNING AT NOMINAL CAPACITY.
例えば、冷却問題が解決済みで、システムが再び公称容量で実行されています。
- THE SYSTEM IS RUNNING AT NOMINAL CAPACITY;
MODEL CONVERSION OCCURRED.
例えば、ユーザーが容量をアップグレードまたはダウングレードした可能性があり、システムが新しい公称容量で実行されています。
- THE SYSTEM IS RUNNING WITH REDUCED
CAPACITY BECAUSE OF A MANUAL CONTROL
SETTING.
例えば、ユーザーが静的省電力モードを開始している可能性があります。
- THE SYSTEM IS RUNNING WITH REDUCED
CAPACITY BECAUSE OF A MACHINE EXCEPTION
CONDITION.
例えば、冷却問題が存在している可能性があります。
- THE SYSTEM IS RUNNING WITH REDUCED
CAPACITY BECAUSE OF A NON-EXCEPTION
MACHINE CONDITION.
例えば、ファームウェア更新が行われた可能性があります。
- THE SYSTEM IS RUNNING WITH REDUCED
CAPACITY BECAUSE OF AN EXCEPTION CONDITION
EXTERNAL TO THE MACHINE.
例えば、周辺温度が最大値を超えている可能性があります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

第 2 章 接頭部 1 の z/VSE メッセージ

エラー・フィールド標識のフィールド・カウント

接頭部が 1 のメッセージの 4 桁目が n (例えば、1A1 n D) として示された場合、この桁は、システムがエラーを検出したときに処理中であったコマンドまたはステートメントのフィールドを指します。実際に、このフィールドがエラーの原因であることがほとんどです。しかし、このフィールドが、コマンドまたはステートメントの以前の 1 つまたは複数のフィールドに対応しない場合もあります。その場合は、メッセージで示されたフィールドではなく、以前のフィールドの 1 つがエラーの原因である可能性があります。値 n は、1 から 9 の範囲で、フィールド 10 から 35 の場合は、A から Z の範囲です。35 を超えるフィールドの場合は、アスタリスク (*) が印刷されます。エラーのコマンドまたはステートメントは、エラー・メッセージの直前に印刷されたものです。次の例は、フィールドのカウント方法を示しています。

ステートメントのフィールドのカウント方法:

```
Field-No  -1--2-----3-4-----5-----6-----7-----8
           ↓ ↓         ↓ ↓         ↓         ↓         ↓         ↓
           // LIBDEF *,SEARCH=(ALIB,BLIB),CATALOG=CATLIB,TEMP
```

コマンドのフィールドのカウント方法:

```
Field-No  -1-----2-3-----4-----5-----6-----7
           ↓         ↓ ↓         ↓         ↓         ↓         ↓
           LIBDEF *,SEARCH=(ALIB,BLIB),CATALOG=CATLIB,TEMP
```

フィールドのカウント規則の要約:

- 最初のフィールドはフィールド 1 としてカウントされます。これは、ステートメントの場合は //、コマンドの場合はコマンド verb です。
- システムは、以下の文字をフィールド区切り文字と見なします。
 - // の後、および命令コード (例えば LIBDEF) の後の、ブランク。
 - コンマ (,)
 - 等号 (=)
- アポストロフィで囲まれた項目 (例えば、// DLBL ステートメント内のファイル ID としての 'PAYDATA.MAY99') は、1 つのフィールドとして扱われます。

図 3. エラー・フィールド標識のフィールド・カウント

1Axx= 割り当てルーチン・メッセージ

1A0nD INVALID I/O ASSIGNMENT

説明: メッセージ ID 内の n については、『エラー・フィー

ルド標識のフィールド・カウント』を参照してください。このメッセージが出される原因は、次のいずれかが考えられます。

1A1nD • 1A4nt

- 前の // CLOSE ステートメントで、ディスクに割り当てられたシステム論理装置をクローズしようとした。
- 前の ASSGN ステートメントまたはコマンドで
 - SYSRDR, SYSIPT, または SYSIN に対して IGN を割り当てようとした。
 - すでに SYSOUT に割り当てられているのに、あるいは必ず SYSOUT を使用しなければならないのに、SYSPCH か SYSLST に一時割り当てを行おうとした。
 - 現在未割り当ての論理装置に対して、代替割り当てを行おうとした。
 - SYSOUT を割り当てることができないのに、SYSOUT に対して代替割り当てを行おうとした (詳細については、「z/VSE Guide to System Functions」を参照してください)。
 - 無効な代替割り当てを行おうとした (詳細については、「z/VSE System Control Statements」を参照してください)。
 - 無効な論理装置または物理装置を割り当てようとした。
 - SYSLOG の一時割り当てを行おうとした。
- 前の ASSGN ステートメントまたはコマンドで、無効な論理装置または物理装置を指定しています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答:

1. エラーの原因となった割り当てが参照している、物理装置と論理装置の両方に、LISTIO コマンドを出してください。
2. コマンドの出力を調べて、上記の「説明」の項にリストしてある指定のエラーがないかどうか確かめてください。
3. 次のいずれかを行ってください。
 - 訂正した新しい ASSGN コマンドを入力します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
 - END/ENTER キーを押す。これにより、システムは要求された割り当てを無視して処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

1A1nD CONFLICTING I/O ASSIGNMENT

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。すでに、ある論理装置を割り当てられている物理装置に対し、それとは矛盾する機能をもつ別の論理装置を割り当てようとした。例えば、同じ物理装置に SYSOUT と SYSIN の両方を割り当てることはできません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムは割り当ての要求を無視して処理を続行します。
- 訂正した新しい割り当てを入力する (これには、LISTIO コマンドを出して、現在の割り当てのリストを求めることが必要な場合もあります)。
- LISTIO コマンドを出して、その出力を必要に応じ使用できるようにしてから、CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: オペレーターがジョブを取り消した場合は、ジョブを再実行して割り当てが正しいかどうか確認してく

ださい。必要があれば、LISTIO の出力を参照してください。

1A2nt INVALID DEVICE TYPE

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。指定の論理装置は、割り当てられた装置のタイプと矛盾しています。例えば、次のことが考えられます。

- SYSRDR を印刷装置に割り当てようとした。
- CLOSE を、割り当てられていないファイルに対して出しました。
- SYSLNK をディスク以外の装置に割り当てようとした。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER キーを押す。これにより、システムは割り当ての要求を無視して処理を続行します。
 - 訂正した新しい割り当てを入力する (これには、LISTIO コマンドを出して、現在の割り当てのリストを求めることが必要な場合もあります)。
 - LISTIO コマンドを出して、その出力を必要に応じ使用できるようにしてから、CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、ジョブを再実行して割り当てが正しいかどうか確認してください。必要があれば、LISTIO の出力を参照してください。

1A4nt INVALID LOGICAL UNIT SPECIFICATION

説明: メッセージ ID 中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。前のステートメントに無効な論理装置がありました。原因には次のものがあります。

- 形式が誤っています。
 - 装置番号が、そのクラスに含まれている LUB の数より大きくなっています。例えば、プログラマー論理装置 25 台分のスペースしか割り振られていないのに、SYS050 を指定している場合などです。
 - フォアグラウンド区画で SYSLOG を割り当てようとした。
 - SYSRES を割り当てようとした。
- システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 以下のいずれかを行ってください。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムは割り当ての要求を無視して処理を続行します。
 - 訂正した新しい割り当てを入力する (これには、LISTIO コマンドを出して、現在の割り当てのリストを求めることが必要な場合もあります)。

- LISTIO コマンドを出して、その出力を必要に応じ使用できるようにしてから、CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、プログラム中の論理装置の指定を変更するか、LUB 項目を追加して監視プログラムを再アSEMBルしてください。ジョブを再実行してください。

1A5nt DEVICE NOT DEFINED

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。このメッセージは次の場合に出されます。

- 前のステートメントで指定されている物理装置が、システム・スタートアップ時に (ADD によって) 定義されませんでした。
- 影響を受ける装置を定義した ADD コマンドで、誤ったモードが指定されました (その結果、定義された装置は指定のモードと一致していません)。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。
 - END/ENTER キーを押す。これにより、システムは割り当ての要求を無視して処理を続行します。
 - 別の物理装置を指定したコマンドを再入力する (これには、LISTIO コマンドを出して現在の割り当てのリストを求める必要がある場合もあります)。
 - LISTIO コマンドを出して、その出力を必要に応じ使用できるようにしてから、CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 次のシステム・スタートアップ時に装置を追加し、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。保管しておく必要のあるデータについては、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

1A60t UNIT CURRENTLY UNASSIGNABLE

説明: このメッセージは、前の ASSGN が以下の装置を割り当てようとした場合に出されます。

- フォアグラウンド・プログラムがシステムでアクティブであるときの SYSLOG。
- 別の区画ですでに所有されている装置に接続された論理装置。
- MOUNT コマンドが実行された物理装置、または RESERV コマンドかスペース管理機能で予約された物理装置。
- 使用不能なタイプの装置。
- 作動不能な装置またはオフラインの装置。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: SYSLOG を割り当てようとしたときは、MAP コマンドを出して、それぞれのフォアグラウンド区画でどのプログラムがアクティブかを調べてください。以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムは割り当ての要求を無視して処理を続行します。
- ジョブの実行が終了するのを待ち、拒否されたコマンドを再入力する。
- 影響を受けた区画に CANCEL を入力してジョブを取り消す。拒否されたコマンドを再入力する。
- 装置が作動可能およびオンラインであることを確かめる。

SYSLOG 割り当てが原因ではなかったときは、別の適切な装置を入力するか、必要なタイプの装置が使用できるまで待ってください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消されたときは、指定の装置がジョブの再実行時に使用できることを確かめてください。

1A70D INVALID DEVICE STATUS

説明: このメッセージが出される原因は、次のいずれかが考えられます。

- 前の ASSGN で、DVCDN コマンドが出されている装置に論理装置を割り当てようとした。
- VSE/POWER または VTAM が所有している装置に対して DVCDN コマンドが出されました。
- 前のコマンドが、システム・スタートアップ時に作動可能状態になっていなかったディスク装置を指定しました。したがって、IPL によって 'DOWN' 状況に置かれています。
- DVCUP コマンドに指定された装置に対して、この装置を 'DOWN' 状況にする DVCDN コマンドが前もって出されていません。
- DVCUP コマンドに指定された仮想ディスク装置に対して、この装置を定義するための VDISK コマンドが前もって出されていません。
- 前の MTC コマンドで、別の区画に割り当てられた物理装置が指定されました。
- ASSGN カードで参照している装置が、'DOWN' 状況 (例えば、CMS データが入っている) にあります。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: LISTIO コマンドを出し、その出力を使用してメッセージの原因を調べてください。以下のいずれかを行ってください。

- ファイルで保護されているテープに SYSPCH または SYSLST を割り当てようとした場合、新しいテープを取り付けるか、取り付けられているテープにファイル保護リングを挿入してから、もう一度 ASSGN コマンドを出す。
- 影響を受けているディスク装置がシステム・スタートアップ時に 'DOWN' の状況に置かれていた場合は、DVCUP コマンドを出し、拒否された ASSGN コマンドをもう一度入力する。
- 元の割り当てにエラーがある場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 新しい ASSGN コマンドを入力する。

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムは割り当ての要求を無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
 - 仮想ディスク装置が定義されていない場合、ディスクを定義するために BG 区画で VDISK コマンドを出してください。DVCUP コマンドを二度出す必要はありません。
- プログラマーの応答: オペレーターがジョブを取り消す場合は、ジョブを再実行して必要な装置が使用可能かどうかを確認してください。装置がディスクの場合には、ディスク・ボリュームの形式が壊されるおそれがあります。壊された場合は、そのボリュームに対して装置サポート機能プログラムの INIT 機能を実行し、そのデータの最新のバックアップから、そのボリュームに保管されていた元のデータをリストアする必要があります。

1A80t SYSTEM FILE OPEN FAILURE

説明: 前の割り当てで割り当てられたファイルを、次のいずれかの理由でオープンすることができません。

- 影響を受けているファイルについて得られるラベル情報は、VTOC に入っている情報と一致していません。
- ASSGN ステートメント中の論理装置が EXTENT ステートメント中の論理装置と異なっています。
- システム・ファイル (例えば SYSIPT, SYSRDR, SYSIN) の場合は、OPEN 中にエラーが検出され、次のいずれかが起こりました。
 - タイプ・コード A または D の OPEN メッセージに対して、オペレーターが END/ENTER を押すか CANCEL または CANCELV を入力して応答しました。
 - タイプ・コード I の OPEN メッセージが出されました。

システムの処置: システムは論理装置の割り当てを解除します。SYSLOG がキーボードに割り当てられている場合は、システムはオペレーターの応答を待ちます。それ以外の場合は、無効な割り当ては無視されます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER キーを押す。これにより、システムは割り当ての要求を無視して処理を続行します。
 - 正しいボリュームが取り付けられているかどうか、また割り当ての指定が正しいかどうかを確認する。必要であるなら、新しい正しい割り当てを入力する。
 - LVTOC と LSERV を実行して、その出力を必要に応じ使用できるようにしてから、CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: LVTOC の出力を使って、プログラムで与えられているラベル情報が VTOC の項目と一致するかどうか調べてください。恒久的に保管されているラベル情報を使っている場合には、LSERV の出力として得られる情報を LVTOC の出力と比較してください。誤りを訂正するために、必要に応じて新しい情報を渡してください。ジョブを再実行してください。

1A82D INCORRECT RECORD LENGTH ON SYSTEM FILE

説明: 前の割り当てで、80 または 81 バイト以外の長さのレコードを持つファイルに SYSRDR, SYSIPT, または SYSIN を割り当てようとしてしました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 正しいテープまたはディスク・ボリュームが取り付けられているか、また正しい割り当てが行われたかどうかを確認する。必要があれば、新しい割り当てを入力する。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムは割り当ての要求を無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、入力ファイルのレコード長を 80 または 81 バイトに変更するか、または新しい ASSGN ステートメントを指定してジョブを再実行してください。

1A83t volume-id IN USE OR NOT FOUND ON NONREMOVABLE VOLUME(S)

説明: 前の ASSGN で取り外し不可のディスク装置を割り当てようとしてしましたが、

1. VOL オペランドに指定されているボリューム ID が、既存のボリューム上には見つかりませんでした。
2. 要求されたボリュームがある装置はすでに割り当てられており、ASSGN ステートメントには SHR オペランドが指定されていませんでした。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - 前の ASSGN ステートメントは無視され、処理が続行されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - 取り外し不可の装置がすべて作動可能な状態になっているかどうか、また VOL オペランドで正しいボリューム ID が指定されているかどうかを調べる。原因が 2 の場合は、SHR オペランドを指定した ASSGN ステートメントを再入力する。
 - END/ENTER キーを押す。これにより、システムは割り当ての要求を無視して処理を続行します。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 関連するジョブが最終的に取り消された場合は、ジョブを再実行して割り当てが正しいかどうか確認してください。

1A84D DEVICE RESERVED

説明: 前の RESERV コマンドによって確保されたディスク装置に DVCDN コマンドが出されました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- FREE コマンドを使用して装置を解放してから、DVCDN コマンドをもう一度出す。

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムは DVCDN コマンドを無視して処理を続行します。メッセージをプログラマーに報告してください。
- プログラマーの応答: なし。

1A85I UNASSIGN OF SYSTEM FILE WAS FORCED

説明: 動的区画の終了時に、SYSIPT、SYSPCH、または SYSLST が非ユニット・レコード装置に割り振られたことが検出されました。CLOSE ステートメントまたは ASSGN SYS...UA ステートメントが欠落しています。作成したシステム・ファイルが正しくクローズされていないか、またはテープ・ドライブがアンロードされていません。

システムの処置: 動的区画は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: CLOSE または ASSGN ステートメントをジョブ・ストリームに追加します。

1A86I FOLLOWING ASSIGNMENTS ARE RELEASED

説明: このメッセージは、システムの使用が終わって、使用可能な論理装置名のプールに戻されたばかりの論理装置のリストの、ヘッダ行です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1A87D ASSGN SYSCLB/RLB/SLB NO LONGER SUPPORTED. USE LIBDEF COMMAND

説明: 前の ASSGN ステートメントが、論理装置 SYSCLB、SYSRLB、または SYSSLB のいずれかを割り当てようとした。VSE/AF 2.1 以降は、これらの論理装置はもはやサポートされていません。LIBDEF コマンドまたはステートメントは、私用ライブラリーまたは私用サブライブラリーへのアクセスを定義するのに使用されます。

システムの処置: オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- プログラマーの応答に応じて、LIBDEF コマンドを使用する。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 古い ASSGN ステートメントを LIBDEF PHASE、LIBDEF OBJ、または LIBDEF SOURCE で置き換えてください。ジョブが取り消された場合は、ジョブを再実行してください。

1A88D NO DEVICE WITH THAT MODE FOUND

説明: テープへの単一割り当ての場合: 指定されたモードがこの *cuu* では許されないか、またはモード・バイトで指定された機能を *cuu* がもっていません。

テープへの総称割り当ての場合: 指定されたモードがこの装置クラス/タイプでは許されていないか、またはモード・バイトで指定された機能をそのクラス/タイプの接続された装置がもっていません。

注: 代替割り当ての場合は、モードは元の装置から取られます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントを再サブミットする。
- END/ENTER を押して、SYSRDR からの読み取りを続行する。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、該当するステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

1A89D DIFFERENT MEDIA WITH SAME MODE; NOT ALLOWED

説明: *cuu* リストへのモード付きテープ割り当てが指定されましたが、*cuu* リストには、このモードを処理できるカートリッジおよび非カートリッジ装置が記載されています。この場合には、1 つのタイプの *cuu* のみ指定する必要があります。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントを再サブミットする。
- END/ENTER を押して、SYSRDR からの読み取りを続行する。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、該当するステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

1A9nt SYSTEM FILE NOT CLOSED OR NOT UNASSIGNED

説明: メッセージ ID 中の *n* の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。このメッセージは、以下のいずれかの理由により表示されます。

- 前の ASSGN で、まだクローズしていないシステム装置を再度割り当てようとした。
- UNBATCH コマンドが出されましたが、ディスク上またはテープ上のシステム・ファイルが区画に割り当てられています。
- 次にリストするシステム (論理) 装置のいずれかが割り当てられている装置に、DVCDN コマンドが出されました。

SYS CAT SYSRES
SYS LOG Page data set
SYS RES An internal system logical unit

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - 割り当てが拒否された場合には、割り当ての要求が正しいかどうか確かめる。おそらく、影響を受けているシス

テム論理装置に対し、CLOSE コマンドを出す前に割り当てを行ったものと思われます。次のいずれかの操作を行うことができます。

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムは割り当ての要求を無視して処理を続行します。
- CLOSE コマンドを出し、該当するシステム論理装置をクローズすると共に割り当てを解除する。その後、ASSGN コマンドを再入力する。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- UNBATCH または DVCDN コマンドが拒否された場合には、
 - CLOSE コマンドを使って論理装置をクローズし、割り当てを解除してから、拒否されたコマンドを再入力する。拒否されたコマンドがディスクに対する DVCDN だった場合は、上記のシステム装置のどれも割り当てられていない装置を選ぶようにしてください。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、メッセージが出された原因を調べ、必要に応じてジョブ制御ステートメントを訂正してから、ジョブを再実行してください。

1AA0t DEVICE NOT SUPPORTED - cuu

説明: タイプ・コード ESCD (ESCON ディレクター) の装置に DVCUP コマンドが出されました。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

1Bxx= バッファ・ロード・メッセージ

1B00I INVALID CONTROL CARD

説明: 制御カード (またはイメージ) に次の項目しか入っていません。

- ブランク
- 命令コード (UCB/FCB)

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

1B01D INVALID TYPE SPECIFICATION

説明: SYSBUFLD 制御ステートメントで指定されたバッファ・タイプが、以下のいずれかの理由により無効です。

- 指定された操作は、以下のいずれにも該当しません。

- FCB** 用紙制御バッファの場合
- UCB** 汎用文字セット・バッファの場合
- BANDID**

バンド ID の場合

- この印刷装置は、SYSBUFLD 制御ステートメントで指定する制御バッファのタイプをもっていません。
- システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前の DVCUP ステートメントを無視します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。

プログラマーの応答: なし。

1AA1D DVCUP NOT ALLOWED FOR SECONDARY OR PRIMARY&FLCOPY TARGET DEVICE

説明: 先の DVCUP コマンドが、装置 (キャッシュ・コマンドで確立された) の二重ペアの 2 次装置、または (まだ進行中の FlashCopy 関係のターゲットである) 二重ペアの基本装置に与えられました。これは許可されていません。その他の入出力要求は拒否され、そのため、システムまたはプログラマー論理装置に割り当てのために (DVCUP によって) この装置を使用可能にすることはできません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - ENTER キーを押してステートメントを無視するか、CANCEL コマンドを入力してジョブを取り消してください。あるいは、FlashCopy 関係が終了したときはコマンドを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- 正しい SYSBUFLD 制御ステートメントを入力する。
- END/ENTER を押して、ジョブを取り消す。担当のプログラマーにメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: オペレーターがジョブを取り消し、後続ジョブが無意味なリストを出力したときに、適用されます。まず SYSBUFLD プログラム (正しい制御ステートメントを使用) を、続いて、役に立たないリスト出力を出したジョブを再実行してください。

1B02D INVALID SYS-UNIT SPECIFIED

説明: SYSBUFLD 制御ステートメントの SYSxxx の指定が、欠落しているか、または SYSLOG、SYSLST、SYS000 から SYS255 以外のものになっています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 正しい論理装置 (SYSxxx) を入力する。
- END/ENTER を押してジョブを取り消してください。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、正しい論理装置を指定してジョブを再実行してください。

1B03I (PHASE | BANDID) INVALID

説明: メッセージの中に表示されているのが PHASE か BANDID によって異なります。

- PHASE が表示される場合
 - FCB または UCB のロードを要求するステートメントで、フェーズが指定されていないか、指定されているフェーズ名が 8 文字より長くなっています。
 - UCB のロードを要求するステートメントで、バッファ・イメージ・フェーズが、下に示す長さ (バイト数) より短くなっています。
 - 512 PRT1 印刷装置の場合。
 - 240 それ以外の UCB の印刷装置の場合。
 - FCB のロードを要求するステートメントで、バッファ・イメージ・フェーズの長さ (バイト数) が次のいずれにも該当しません。

192	335		
260	336	*	* 指標付けがオンの
261	*	340	PRT1 印刷装置の場合
272			
 - カード・イメージ・ロードの手法を用いた SYSBUFLD の実行で、次に示す最初の文字位置の中に停止文字が見つかりませんでした。
 - IBM 3203 印刷装置では、最初の 192 桁
 - 指標付けのない PRT1 印刷装置では、最初の 255 桁
 - 指標付けのある PRT1 印刷装置では、最初の 256 桁
 - カード・イメージ・ロードの手法を用いた SYSBUFLD の実行がすべてのカード・イメージ・レコードを読み取る前に、SYSIPT 装置でファイルの終わりとなりました。
- BANDID が表示される場合

バンド ID が指定されていないか、指定された ID が 4 文字を超えています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 後続ジョブが使用不可能なリスト出力を生成した場合、

1. SYSBUFLD 制御ステートメント (FCB、UCB、または BANDID) が使われているときはそれを、あるいはエラーのあるカード・レコードを訂正してください。
2. SYSBUFLD プログラムを再実行し、その直後にリスト出力が使用不可能であったジョブを実行してください。

もし、原因がフェーズ名やバンド ID の誤りでないならば、必要なバッファ・イメージ・フェーズが指定の名前でカタログされているかどうかを調べてください。必要があれば、ライブラリアン LISTDIR を実行して出力を使用してください。

1B0nI INVALID OPTIONAL OPERAND

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。SYSBUFLD ステートメントのオプション・オペランドの 1 つ (FOLD、NOCHK、または NULMSG) を誤って指定しています。

システムの処置: 無効なオペランドは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: SYSBUFLD をコンソールから開始している場合は、上記の「プログラマーの応答」の項にリストした処置に従ってください。それ以外の場合は、担当プログラマーにメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: 使用しているオペランドのつづりが正しいか、またオペランドが要求のバッファ・ロード操作に対して有効かどうかを調べてください。これらのオプション・オペランドの使用法については、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。ジョブを再実行してください。

1B08I UCS IGNORED FOR 3800 PRINTER

説明: UCS コマンドが IBM 3800 印刷サブシステムに対して出されています。

システムの処置: 無効なコマンドは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: この装置の出力を制御するには、SETPRT コマンドを使用してください。

プログラマーの応答: なし。

1B09I THE FCB OF AN IBM 4248 MUST BE LOADED USING A PHASE

説明: 影響を受ける印刷装置の FCB をカード・イメージの入力でロードしようとしたのですが、FCB のロードが可能なのは、サブライブラリーからだけです。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 後続ジョブが無意味な出力リストを出した場合、以下のものを再実行してください。

1. SYSBUFLD ステートメントで適切な FCB イメージ・フェーズ名を指定した SYSBUFLD プログラム。
2. SYSBUFLD 実行直後に、使用不可能な出力リストを生成したジョブを実行する。

1B10I operation: INVALID FOR THE SELECTED PRINTER

説明: 印刷装置制御バッファへのロードが、SYSBUFLD の実行あるいは LFCB、LUCB、BANDID コマンドのいずれかによって要求されました。

この要求は、選択した印刷装置には制御バッファがないので無効です。例: BANDID コマンドは IBM 4248 以外の印刷装置を指定します。

システムの処置: ジョブ (SYSBUFLD の実行の場合) またはコマンドの処理 (コンソールからの要求の場合) が取り消されます。

オペレーターの応答: コンソールからのロード要求が取り消されたときに、適用されます。命令コードを訂正して再度要求を出してください。次のような例があります。

- 1403U 印刷装置に対する LFCB コマンドには、適切な紙送り制御テープを挿入してください。
- IBM 4248 に対する LFCB コマンドには、BANDID コマンド経由で要求を再サブミットしてください。

プログラマーの応答: SYSBUFLD が取り消されたときに、適用されます。後続のジョブが不要な出力リストを出す可能性が

1B11D • 1B16I

あります。その場合、次のものを再実行してください。

1. SYSBUFLD ステートメントで適切な FCB イメージ・フェーズ名を指定した SYSBUFLD プログラム。
2. SYSBUFLD 実行直後に、使用不可能な出力リストを生成したジョブを実行する。

1B11D INVALID PHYSICAL UNIT

説明: 指定された論理装置が割り当てられている装置には、現在処理中のロード要求に合った制御バッファがありません。システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 正しい論理装置 (SYSxxx) を入力する。
- END/ENTER を押してジョブを取り消してください。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、ジョブを再実行して、指定の論理装置が正しく割り当てられているかどうかを確認してください。

1B12D *op-code* OPERAND *n* 'erroneous operand' explanation

説明: システムは現在処理中のコマンドの *n* 番目のオペランドまたはオペランドの区切り文字にエラーを見つけました。このオペランド (または区切り文字) はメッセージ中に表示され、エラーに関する簡単な説明が出されます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 誤ったオペランドを訂正して、コマンドを再入力する。または、
- END/ENTER を押す。これにより、システムはコマンドを無視して処理を続行します。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: なし。

1B13A X'cuu' [NEEDS FORMS=*form-number*] [, SET LPI=*n*] STOP PRINTER IF NECESSARY AND PRESS END

説明: メッセージ中のそれぞれの意味は、以下のとおりです。

form-number =

LFCB コマンドまたは LFCB マクロで指定されている用紙番号。

n = 指定した 1 インチ当たりの行数 (6 または 8)。

このメッセージは、FORMS=xxxx、LPI=n、またはその両方を指定する LFCB コマンドまたは LFCB マクロへのシステムの応答です。

システムの処置: システムはオペレーターの END/ENTER を押すのを待ちます。

オペレーターの応答: 次の手順に従ってください。

1. 印刷装置を停止させる。
2. 1 インチ当たりの行数を変更する必要がある場合は、紙送り機構クラッチを新しい位置にセットする。
3. END/ENTER を押す。

4. 用紙を交換するには、新しい用紙を印刷装置に取り付けて、位置を合わせる。(新しい用紙の最初のページの上端を、旧用紙の印刷行を通過した最初の折り目の上に正しく重ねてください)。

5. 印刷装置を作動可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

1B14A X'cuu' NEEDS FORMS *form-number* STOP PRINTER AND PRESS END

説明: メッセージ中のそれぞれの意味は、以下のとおりです。

form-number =

LFCB コマンドまたは LFCB マクロで指定されている用紙番号。

このメッセージは、FORMS=*form-number* を指定する LFCB コマンドまたは LFCB マクロに対するシステムの応答です。

システムの処置: システムはオペレーターの END/ENTER を押すのを待ちます。

オペレーターの応答:

1. 印刷装置を停止させる。
2. END/ENTER を押す。
3. 新しい用紙を印刷装置に取り付けて位置を合わせる。(新しい用紙の最初のページの上端を、旧用紙の印刷行を通過した最後の折り目の上に正しく重ねてください)。
4. 印刷装置を作動可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

1B15I PHASE *phase-name* NOT FOUND

説明: 以下のいずれかです。

- 前の LFCB または LUCB コマンドで指定されている名前のフェーズが、システム・ライブラリー中にカタログされていません。
- コマンド中にフェーズ名のオペランドが抜けています。(この場合には、システムはメッセージ・テキスト中のフェーズ名の位置に疑問符を印刷します)

システムの処置: システムはコマンドを無視し、次のコマンドを受け入れる準備ができています。おそらく、表示コンソールにメッセージ 0D07D が出されます。

オペレーターの応答: タイプミスが原因の場合は、正しいフェーズ名を指定して LFCB または LUCB コマンドを再入力してください。それ以外の場合は他の有効なコマンドを入力し、担当のプログラマーにメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: オペレーターのメッセージを報告してきたら、次の点を確認してください。

- 指定するフェーズ名のつづりが正しい。
- イメージ・フェーズがシステム・ライブラリー中に実際に格納されているか。

1B16I (FCB|UCB) LOAD INVALID FOR SPECIFIED PRINTER

説明: FCB ロード (バッファ・イメージ) が無効な場合、次のいずれかの状態になっています。

- 前の LFCB コマンドのフェーズ名として指定した FCB イメージが、その装置に特有な長さにもなっていません。

- FCB イメージが、影響を受けている印刷装置の FCB ロードの規則に合っていない。

UCB ロード (バッファ・イメージ) が無効の場合、前の LUCB コマンドのフェーズ名として指定した UCB イメージが、その装置に特有な長さになっていません。

システムの処置: システムはコマンドを無視し、次のコマンドを受け入れる準備ができています。おそらく、表示コンソールにメッセージ 0D07 が表示されます。

オペレーターの応答: タイプミスが原因の場合は、正しいフェーズ名を指定して LFCB または LUCB コマンドを再入力してください。それ以外の場合は他の有効なコマンドを入力し、担当のプログラマーにメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: オペレーターがメッセージを報告してきたら、指定するフェーズ名のつづりが正しいかどうか確認してください。正しいければ、必要に応じた訂正を行って、影響を受けているバッファ・イメージ・フェーズを再カタログしてください。バッファ・イメージ・フェーズの形式とコーディング規則については、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。

1B17I LPI=*n* AND PRINTER BUFFER LOAD DISAGREE

説明: LFCB コマンドで LPI=*n* を指定していますが、数値は PRT1 または 4248 印刷装置に対して出されています。*n* に与えた数字は、現在ロードされている FCB イメージのコードとは一致していません。入力エラーが原因と思われます。

システムの処置: システムはコマンドを無視します。メッセージ 0D07D が出される場合があります。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- LFCB コマンドを再入力し、フェーズ名のつづりが正しいことを確認する。LPI=*n* 指定は省略可能となります。
- 他の有効なコマンドを入力し、エラーのあったコマンドとメッセージをプログラマーに報告する。

プログラマーの応答: オペレーターがメッセージを報告してきた場合、後続のジョブが使用不可能な出力リストを生成した可能性があります。その場合、以下のことを検討してください。

1. 正しい制御ステートメントを指定して SYSBUFLD プログラムを実行する。
2. SYSBUFLD 実行直後に、使用不可能な出力リストを生成したジョブを実行する。

オペレーターから渡されたフェーズ名と LPI=*n* の値を調べてください。影響を受けたバッファ・イメージ・フェーズを訂正して、再カタログする必要があるかもしれません。

1B18A X'cuu' PRINTER NEEDS TRAIN=*number*. STOP PRINTER AND PRESS END

説明: LUCB コマンドが出されましたが、このコマンドでメッセージに表示されている印刷トレーン (チェーンまたはベルト) 番号を指定しています。

システムの処置: システムはオペレーターが END/ENTER を押すのを待ちます。

オペレーターの応答:

1. 印刷装置を停止させる。
2. コンソールで END/ENTER を押す。

3. 必要な印刷トレーン (チェーンまたはベルト) を取り付ける。

4. 印刷装置を再び作動可能状態にしてください。

プログラマーの応答: なし。

1B19I X'cuu' LFCB WITH PHASE *phase-name* EXECUTED

説明: プログラマーがプログラム中で LFCB マクロを出し、そのマクロは正しく実行されました。システムは、メッセージ中に示されている名前の FCB イメージ・フェーズをロードしました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1B20A INVALID RESPONSE

説明: 前出の印刷バッファ・ロードのメッセージに対する応答が有効ではありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

1. 誤って応答したメッセージが用紙準備を要求しており、用紙準備がまだ行われていない場合には、次のことを確認してください。
 - a. 印刷装置を停止させる。
 - b. END/ENTER を押す。
2. もし 1 の場合で、上記の事項に該当しない場合には、以下のいずれかを行ってください。
 - 誤って応答したメッセージの記録を調べ、別の応答を試してみる。
 - 現在実行中の印刷制御バッファ・ロードの操作を取り消すために CANCEL を入力する。

プログラマーの応答: なし。

1B21A X'cuu' CHANGE FORMS, IF NECESSARY, AND PRESS END

説明: 指定の印刷装置の FCB を再ロードするために、SYSBUFLD プログラムを実行中です。

システムの処置: システムはオペレーターが END/ENTER を押すのを待ちます。

オペレーターの応答: 印刷装置の FCB バッファ・イメージ (コンソールの表示装置に表示されている SYSBUFLD プログラムの制御ステートメントを参照してください) に新しい用紙が必要であれば、

1. 印刷装置を停止させて、END/ENTER を押してください。
2. 用紙を変更してください (用紙の位置合わせの方法については、メッセージ 1B13A (PRT1 以外の印刷装置) またはメッセージ 1B14A (PRT1 印刷装置) を参照してください)。
3. PRT1 以外の印刷装置の場合、後続のジョブで用紙送り機構クラッチの異なった設定が必要となるなら、この時点で設定を変更してください。
4. 印刷装置を再び作動可能状態にしてください。

プログラマーの応答: なし。

1B22t X'cuu' NEEDS BAND xxxx, FOUND yyyy

説明: 指定したバンド ID は、現在取り付けられている印刷バンドのバンド ID と一致しません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。もし、タイプ・コードが A であるならば、システムは次の追加処置を取ります。

1. 印刷装置を強制的に作動不能状態にする。
 2. 印刷装置表示パネル上に 'BAND RQ xxxx' を表示する。
- オペレーターの応答: タイプ・コードが A (ユーザーが BANDID コマンドを入力した) の場合は、必要な印刷バンドを取り付けて、印刷装置を作動可能にしてください。

タイプ・コードが D (新しい印刷バンドが SYSBUFLD によって要求された) の場合は、次のいずれかです。

- 後続のジョブが、現在取り付けられている印刷バンドで実行可能であれば、そのバンド ID を入力してください。これにより、システムは処理を続行します。
- 指定した印刷バンドが使用できることを示すために、END/ENTER を押してください。システムは次のことを行います。
 1. 印刷装置を作動不能にする。
 2. 印刷装置表示パネル上に 'BAND RQ xxxx' と表示する。

必要な印刷バンドを取り付けて、再び印刷装置を作動可能にしてください。

- 適切な他のバンド ID を入力してください。システムの応答とこれからとるべき処置は、END/ENTER を押した場合と同じです。
 - SYSBUFLD ジョブを取り消すために CANCEL を入力し、メッセージをプログラマーに報告してください。
- プログラマーの応答: オペレーターからこのメッセージの報告があった場合、必要な印刷バンドが取り付けられていることを確認して、ジョブを再実行してください。

1B23I FOUND BAND xxxx

説明: このメッセージは、印刷バンド ID の指定のない BANDID コマンドに対するシステムの応答です。このメッセージは、現在取り付けられている印刷バンドの ID を表示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1Cxx= ジョブ開始および終了メッセージ**1C00A** ATTN. cuu

説明: 指定のチャンネルと装置で、装置例外が検出されました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- 装置がカード読取装置の場合、次のいずれかを行ってください。

- 読取装置にカードを補充し、END/ENTER を押してシステムに処理を続行させてください。
- 論理装置が不要であれば、その割り当てを解除してください。
- 装置を、テープ、ディスク、または別のカード読取装置に再割り当てしてください。

- 装置がテープ、またはディスクの場合、次のいずれかの操作を行ってください。

- END/ENTER を押して、次のレコードを読み取らせてください。
- CLOSE SYSxxx を入力してください (ここで、SYSxxx は、表示されている装置に割り当てられているシステム論理装置です)。
- 新しいテープまたはディスクを取り付けて、同じ装置を再割り当てしてください。
- 別の装置を割り当ててください。

プログラマーの応答: なし。

- システムは、オペランドのないリンクージ・エディター INCLUDE ステートメントを読み取ろうとしましたが、SYSIPT が割り当てられていません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 必要であれば、SYSRDR または SYSIPT のいずれか該当する方の割り当てを入力して (下記の注参照)、END/ENTER を押す。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

SYSRDR を必要としない場合には、任意の有効なステートメントまたはコマンドを入力することができます。

プログラマーの応答: オペレーターがジョブを取り消した場合は、必要な割り当てが行われていることを確認した後で、そのジョブを再実行してください。

1C30t UCS PHASE NOT FOUND: phase-name

説明: 先行の UCS コマンドに名前が指定されているフェーズは、システム・ライブラリーにカタログされていません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。システムは前の UCS ステートメントを無視します。

1C10D PLEASE ASSIGN (SYSRDR|SYSIPT)

説明: 以下のいずれかです。

- システムは SYSRDR から読み取ろうとしましたが、SYSRDR が割り当てられていません。

- タイプミスが原因であれば、正しいつづりのフェーズ名を指定して、UCS コマンドを入力し直す。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: オペレーターがメッセージを報告してきたら、次の点を確認してください。

- 指定するフェーズ名のつづりが正しい。
- 実際にフェーズがシステム・ライブラリーに保管されている。

1C39I COMMAND PASSED TO *subsystem*

説明: 最後のアテンション・コマンドが VSE/ICCF、VTAM、または VSE/POWER に渡され、アテンション・ルーチンは次のアテンション・コマンドを処理できる状態になっています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1C40I SUBSYSTEM *subsystem-name* NOT ACTIVE

説明: VSE サブシステムに使用するコマンドが入力されましたが、サブシステムがまだアクティブではないか、またはまったくアクティブになりません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1C5nI PROCESSING ROUTINE ACTIVE

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。このメッセージが出される原因は、次のいずれかが考えられます。

- MSG コマンドが出されましたが、区画の OC 出口ルーチンがアクティブです。
- 前にサブミットされた VSE/ICCF または VSE/POWER コマンドの処理中に、VSE/ICCF または VSE/POWER コマンドが入力されました。

システムの処置: システムはメッセージの原因となったコマンドを無視し、処理を続行します。

オペレーターの応答: MSG コマンドを出した場合は、このコマンドが正しい区画に出されているかどうか調べてください。キュー項目の削除、変更、解放のために VSE/POWER コマンドを出した場合は、メッセージ 1R88I の表示を待ってから、次のコマンドを入力してください。その他の VSE/POWER コマンドまたは VSE/ICCF コマンドを出した場合は、後でそのコマンドを再試行してください。これが VSE/POWER コマンドであった場合には、担当のプログラマーにメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: オペレーターがメッセージを報告してきたら、VSE/POWER 区画に (ALLOC R コマンドを用いて) 追加の処理ストレージを割り振ることを検討してください。

1C60D NO ASI ACTIVE

説明: すでに ASI プロシーチャーを完了した区画に対して START JCC コマンドが出され、その区画に対して UNBATCH コマンドが出されたものと思われます。

システムの処置: START JCC コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: このメッセージが起こったことをシステム・プログラマーに連絡してください。アテンション・ルーチンを経由して区画を始動することができません。

プログラマーの応答: 繰り返して発生しないようにするために、ASI プロシーチャーの区画がバッチ解除された理由、および START JCC コマンドが許可されていない区画から出された理由を見つけてください。「z/VSE System Control Statements」の START コマンドの説明を参照してください。

1C70D *number* RECORDS REMAINING ON (SYSPCH|SYSLST)

説明: 前のジョブの実行中に、ディスク上の名前付きシステム・ファイルに残っているレコードの数が、規定の最小数に達したか、それを超えました。メッセージには、残っているレコード・スペースの数が示されています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 新しいエクステントを入力してください。
- ファイルをクローズし、設定されている手順に従いそのファイルを別の装置に再割り当てしてください。
- END/ENTER を押して処理を続行する。

メッセージが繰り返し表示される場合は、担当のプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: このメッセージが繰り返し表示される場合は、エクステントを大きくする必要があります。

1C80D END OF EXTENT ON SYSxxx

説明: このメッセージが表示される原因は次のいずれかです。

- 指定の論理装置が割り当てられている装置で、エクステントの終わりまたはファイルの終わりマークに達しました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 一時的にリカバリーを行うには、論理装置をクローズしてから、示されているシステム・ファイル SYSxxx を別のディスクまたはテープ装置に再割り当てしてください。リカバリーできない場合には、プログラマーに報告してください。

注: SYSRDR または SYSIPT が SYSIN に割り当てられている場合、CLOSE は、SYSRDR や SYSIPT ではなく SYSIN に対して出さなければなりません。

メッセージが繰り返し表示される場合は、指定のファイルが入っているボリュームに対して LVTOC を実行し、標準ラベルまたは永続ラベルが使用されている場合は、LSERV を実行してください。担当のプログラマーにメッセージを報告し、必要に応じて LVTOC と LSERV の出力を使用できる状態に用意してください。

プログラマーの応答: オペレーターがメッセージを報告してきたら、新しいエクステントを入力し、論理装置をクローズし、ファイルを新しいエクステントに再割り当てしてください。

**1C90I SYSRDR IS NOT PERMANENTLY
ASSIGNED IN THE ASI PROCEDURE**

説明: 動的区画に対して、SYSRDR を ASI プロシージャに永続的に割り当てる必要があります。

システムの処置: 動的区画は始動されません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 動的区画のために、適切な ASSGN ステートメントを、ASI プロシージャ (プロファイル) に追加してください。

**1C91I ASI PROCEDURE *procname* IS NOT
FOUND**

説明: 動的区画に対して、ASI プロシージャが見つかりませんでした。

システムの処置: 動的区画は始動されません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: サブライブラリー IJSYSRS.SYSLIB に、このメッセージにリストされているプロシージャが含まれているかどうか検査してください。これは、対話インターフェース対話機能内の、動的区画の保守画面でプロファイルとして指定したライブラリー・メンバーの名前です。

**1C92D ASSGN SYSRDR/IN ONLY TO A POWER
CONTROLLED DEVICE**

説明: 動的区画の場合、SYSRDR、SYSIPT、SYSPCH、および SYSLST は、ASI プロシージャ内の VSE/POWER コントロール・ユニットにのみ割り当てることができます。

システムの処置: 動的区画は始動されません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: ASI プロシージャ内の ASSGN ステートメントを、該当のシステム論理装置が VSE/POWER コントロール・ユニットになるように変更してください。

**1C93D IN A DYNAMIC PARTITION MICR/OCR
DEVICES ARE NOT SUPPORTED**

説明: 適用外。

システムの処置: システムは ASSGN ステートメントを無視し、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。ジョブを取り消すか、または有効な ASSGN ステートメントを入力して、実行キーを押して続行してください。

プログラマーの応答: 静的区画にジョブをサブミットしてください。

**1C94D ASSIGNMENT OF SYSRDR/IPT/PCH/LST
TO DISK NOT ALLOWED.**

説明: 動的区画では、このような割り当てはサポートされません。

システムの処置: システムは ASSGN ステートメントを無視し、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。ジョブを取り消すか、または有効な ASSGN ステートメントを入力して、実行キーを押して続行してください。

プログラマーの応答: 静的区画にジョブをサブミットしてください。

1Dxx および 1Exx= ライブラリー定義メッセージ**1D01t INVALID CONTINUATION**

説明: 現在処理中のジョブ制御ステートメントの継続が、標準の規則に従っていません。詳しくは、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- 訂正したステートメントを入力する。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- 訂正したステートメントを入力する。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

**1D02t INVALID STATEMENT. KEYWORD
MISSING**

説明: 現在処理中のステートメントが有効であるためには、少なくとももう 1 つのキーワードが必要です。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消

**1D03t SEARCH CHAIN LONGER THAN
ALLOWED MAXIMUM**

説明: 現在処理中の LIBDEF ステートメントで、32 個を超えるサブライブラリー名を指定しています。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- 訂正したステートメントを入力する。

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、LIBDEF ステートメント中の SEARCH チェーンを再定義し、ジョブを再実行してください。

1D04t **SUBLIBRARY MISSING FOR (SEARCH CHAIN|keyword ENTRY)**

説明: キーワード SEARCH CHAIN、またはメッセージに示されているキーワードのいずれかに対して、サブライブラリーが指定されませんでした。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- 訂正したステートメントを入力し、システムに処理を続行させる。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: メッセージの原因となった LIBDEF ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

1D06i **SEARCH LIBRARIES lib1, lib2 ARE IDENTICAL. DUPLICATE OMITTED**

システムの処置: 検索順序チェーン内の 2 番目の参照は無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1D07t **ACCESS CONTROLLED LIBRARY DEFINED AS PERMANENT--REJECTED**

説明: 現在処理中の LIBDEF ステートメントが、アクセス管理ライブラリーを永続アクセス可能に定義しようとしています。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- 該当のサブライブラリー (またはライブラリー) に一時的 (現行ジョブの続行期間の) 指定を行って、拒否された LIBDEF ステートメントを再サブミットする。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: アクセス制御ライブラリーを、該当するジョブの続行中のみアクセス可能として定義してください。

1D09t **COMMAND NOT ALLOWED IN A PROCEDURE RESIDING IN PRIVATE SUBLIBRARY**

説明: 私用サブライブラリーから検索したプロシージャに、メンバー・タイプを「プロシージャ」に指定した LIBDEF、または LIBDROP ステートメントがあります。これは許可されていません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- END/ENTER を押す。これにより、システムはコマンドを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、プロシージャを訂正してジョブを再実行してください。

1D10t **COMMAND NOT ALLOWED IN A NESTED PROCEDURE**

説明: ネストされたプロシージャに、メンバー・タイプを「プロシージャ」に指定した LIBDEF または LIBDROP ステートメントがあります。これは許可されていません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- END/ENTER を押す。これにより、システムはコマンドを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、プロシージャを訂正してジョブを再実行してください。

1D12t **SUBLIBRARY libname.sublibname DOES NOT EXIST**

説明: 現在実行中の LIBDEF ステートメント中で指定されているサブライブラリーが、システムに定義されていません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- 拒否されたステートメントに指定してあるライブラリー名とサブライブラリー名を調べてください。タイプミスがあれば、その名前を訂正してステートメントを再入力してください。
- END/ENTER を押す。これにより、システムはコマンドを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、指定の

サブライブラリーが存在するのを確かめてからジョブを再実行してください。

1D13t CONVERSION FOR *library-name* FAILED

説明: 現在処理中の LIBDEF ステートメントは、VSE/AF のバージョン 1 で有効な形式ですが、次のいずれかの状態になっています。

- ライブラリー移行テーブルが存在しません。または、
- 既存のライブラリー移行テーブルに、指定されたライブラリーの項目が入っていません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- END/ENTER を押す。これにより、システムはコマンドを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、以下のどちらかの方法で実行し直してください。

- VSE/AF のバージョン 2 に対して有効なフォーマットで要求された LIBDEF ステートメントで実行し直してください。
- システムにライブラリー移行テーブルがあること、該当するライブラリーの項目がそのテーブルに含まれていることを確認してから、ジョブを再実行してください。

**1D14t CONVERSION FOR *library-name* FAILED.
NO ENTRY FOUND IN MIGRATION
TABLE**

説明: 現在処理された LIBDEF ステートメントは、VSE/AF のバージョン 1 に有効なフォーマットですが、既存のライブラリー移行テーブルには、指定されたライブラリーの項目がありません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- END/ENTER を押す。これにより、システムはコマンドを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、以下のどちらかの方法で実行し直してください。

- VSE/AF のバージョン 2 に対して有効なフォーマットで要求された LIBDEF ステートメントで実行し直してください。
- 移行テーブルに該当ライブラリーの項目が入っていることを確認してから、実行し直してください。

1D3nt INVALID KEYWORD: *keyword*

説明: メッセージ ID の n は、エラーが検出された時に処理中のフィールドを示しています。113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』も参照してください。現在処理中のステートメント (LIBDEF、LIBDROP、LIBLIST) に無効なキーワードが入っているか、または必要なキーワードが欠落しています。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- 訂正したステートメントを入力する。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、エラーのあるステートメントを訂正してジョブを再実行してください。

**1D4nt LIBRARY SPECIFIED AS NEW OCCURS
IN SOME OTHER *keyword* ENTRY**

説明: メッセージ ID の n は、エラーが検出された時に処理中のフィールドを示しています。113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』も参照してください。前の LIBDEF ステートメントで、NEW として指定されているファイル名が、FROM、TO、または SEARCH オペランドにもファイル名として指定されています。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: NEW オペランドに固有のライブラリーを定義して、ジョブを再実行してください。

1D5nt DUPLICATE *specification*

説明: メッセージ ID の n は、エラーが検出された時に処理中のフィールドを示しています。113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』も参照してください。現在処理中のステートメント (LIBDEF、LIBDROP、LIBLIST) にライブラリー・タイプ、区画、または出力装置の指定が重複しています。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- 訂正したステートメントを入力する。

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、ステートメントが 1 つの指定のみを含むように訂正して、ジョブを再実行してください。

1D6nt **KEYWORD *keyword* SPECIFIED TWICE OR NOT ALLOWED**

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。現在処理中の LIBDEF または LIBDROP ステートメントに、メッセージに示されたようなエラーがありません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。

タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- 訂正したステートメントを入力する。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、エラーのあるステートメントを訂正してからジョブを再実行してください。

1D7nt **INVALID SEARCH NAME-LIST SPECIFICATION**

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。LIBDEF ステートメントの SEARCH オペランドで名前リストに構文上のエラーがありました (例えば、右小括弧が抜けている、リストが空白になっている、ライブラリーまたはサブライブラリーの名前が誤っている、または継続行が多すぎる、などです)。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- 訂正したステートメントを入力する。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、エラーのあるステートメントを訂正してからジョブを再実行してください。

1D8nI **DUPLICATE FILENAME FOR SEARCH CHAIN IGNORED**

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。現在処理中の LIBDEF ステートメントの SEARCH リスト中に、同じファイル名が 2 回以上出ています (このメッセージは、重複した名前が出てくるたびに出力されます)。

システムの処置: 2 回目以降に出てきたファイル名はすべて無視されます。処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1E1nt **INCORRECT *keyword* LIBRARY SPECIFICATION**

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。このメッセージが出力される原因は、次のいずれかが考えられます。

- 無効なライブラリー名またはサブライブラリー名 (長さの誤りや不当な文字) が指定されました。
- 予約済みキーワードの SDL がライブラリー名として使われました。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- 訂正したステートメントを入力する。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 指定されたファイル名を訂正してから、ジョブを再実行してください。

1E4nt **INCORRECT DELIMITER: =**

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。システムは区切り文字を読み取ろうとしましたが、検出した文字は有効な区切り文字ではありませんでした。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- 訂正したステートメントを入力する。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: コマンドを訂正し (有効な区切り文字 - 多くの場合コンマ - をステートメント中に入れて)、ジョブを再実行してください。

1Fxx= 条件付きジョブ制御メッセージ

1F00I LABEL *label-statement* NOT FOUND. EOJ REACHED

説明: GOTO または ON-条件ステートメントがありましたが、システムは GOTO または ON-条件ステートメントで参照されているラベル・ステートメントを見つけることができません。このメッセージが出される原因は次のいずれかです。

- ラベル・ステートメントが、欠落しているか、またはこのラベル・ステートメントを参照しているステートメントより前にあります。
- ラベル・ステートメント中、またはそのステートメントの参照中にタイプミスがあります。
- オペレーターが VSE/POWER のコマンドを入力しました。すなわち、区画の PFLUSH またはジョブの PCANCEL です。VSE/POWER が AUTOCANCEL を出しました。

オペレーターの応答: メッセージの理由が PFLUSH または PCANCEL の場合には、これをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブ制御ステートメントを調べ、必要な訂正を行ってください。その後ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

1F01I LABEL *label-statement* NOT FOUND. SKIP TO EOJ

説明: GOTO または ON-条件ステートメントがありましたが、システムは GOTO または ON-条件ステートメントで参照されているラベル・ステートメントを見つけることができません。このメッセージが出される原因は次のいずれかです。

- ラベル・ステートメントが、欠落しているか、またはこのラベル・ステートメントを参照しているステートメントより前にあります。
- ラベル・ステートメント中、またはそのステートメントの参照中にタイプミスがあります。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブ制御ステートメントを調べ、必要な訂正を行ってください。その後ジョブを再実行してください。

1F03D PARAMETER LIST BUFFER OVERFLOW

説明: SETPARM または EXEC PROC ステートメントで指定するパラメーター値は、バッファーの中に収集されます。このバッファーがいっぱいになっています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかです。

- 処理されなかったステートメントを、次の方法で再サブミットする。
 - SETPARM ステートメントの処理では、そのステートメントを 2 つに分割する。
 - EXEC PROC ステートメントの処理では、一部のパラメーターの割り当てをプロシージャー中の実際の値で置き換える。

• END/ENTER を押して、システムに SYSRDR 装置からの読み取りを続行させる。

• CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: なし。

1F04D DUPLICATE PARAMETER NAME

説明: 同じパラメーター名が、同一の SETPARM、EXEC PROC、または PROC ステートメント中に 2 回出てきます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかです。

- 処理されなかったステートメントを訂正し、再サブミットする。
- END/ENTER を押して、システムに SYSRDR 装置からの読み取りを続行させる。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: なし。

1F05I STATEMENT REJECTED. JOB IS CANCELED

説明: オペランド GO をもつ EXEC ステートメントの処理中ですが、該当のジョブがすでに取り消されています。

システムの処置: システムは他のジョブの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1F02D STATEMENT REJECTED. NO JOB ACTIVE

説明: PWR または SETPARM JOB ステートメントが読み取られましたが、区画にはアクティブなジョブがありません。

PWR または SETPARM JOB は、1 つのジョブの JOB ステートメントの後で、かつ /& ステートメントの前になければなりません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかです。

- PWR または SETPARM JOB ステートメントを使用する前に、JOB ステートメントをサブミットして、ジョブを定義する。
- END/ENTER を押して、システムに SYSRDR 装置からの読み取りを続行させる。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

1F06I STATEMENT REJECTED. ALREADY SKIPPING TO LABEL *label-statement*

説明: システムがラベル・ステートメントへのスキップをサブミット中に、コンソールから GOTO ステートメントが入力されました。

システムの処置: システムはこのステートメントを無視して処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1F07D VSE/POWER NOT ACTIVE OR CONNECTION WAS STOPPED

説明:

- VSE/POWER コマンドが入力されましたが、このプログラムはどのシステム区画でもサブミットされていません。または、
- VSE/POWER によって、VSE/POWER コマンドを出したプログラムとの接続が切られました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。
- END/ENTER を入力して、システムに SYSRDR からの読み取りを続行させる。
- VSE/POWER が現在アクティブであるか、アクティブになる場合、コンソールから VSE/POWER コマンドを入力し、終了したら END/ENTER を入力する。

プログラマーの応答: なし。

1F08D VSE/POWER NOT ABLE TO HANDLE COMMAND. - COMMAND NOT PROCESSED

説明: VSE/POWER が使用中であるか、内部に問題を抱えているときに (例えば、会計ファイルがいっぱいであるなど)、VSE/POWER コマンドがサブミットされました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。
- END/ENTER を入力して、システムに SYSRDR からの読み取りを続行させる。
- コンソールから VSE/POWER コマンドを入力し、終了したら END/ENTER を入力する。

プログラマーの応答: なし。

1F09D WRONG VSE/POWER COMMAND IN PWR STATEMENT

説明: 処理中の PWR ステートメントで、PRELEASE または PHOLD 以外の VSE/POWER コマンドがサブミットされています。また、ALL や 1 つのクラスを、解放したり保持したりすることはできません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントを再サブミットする。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、該当するステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

1F1nD APOSTROPHE NOT ALLOWED IN PARAMETER VALUE

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントを再サブミットする。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、該当するステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

1F2nD INVALID PARAMETER NAME

parameter-name

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。システムが無効なシンボル・パラメーターを検出したか、または無効なパラメーター名を検出しました (例えば、SETPARM、IF、PROC、または EXEC PROC ステートメントの中で)。これは、以下のいずれかの理由によって無効です。

- 最初の文字が英字ではありません。
- 残りの文字の 1 個またはそれ以上が英数字ではありません。
- 名前の長さが 7 文字より長くなっています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントを再サブミットする。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、該当するステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

1F3nD PARAMETER *parameter-name* NOT DEFINED

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。システムは、IF ステートメントの条件式において、未定義のシンボル・パラメーターを検出したか、または未定義のパラメーター名を検出しました。原因はタイプミスが考えられます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- SETPARM ステートメントをサブミットしてパラメーターを定義し、拒否されたステートメントを再サブミットする。
- タイプミスが原因の場合は、訂正したステートメントを再サブミットする。

1F4nD • 1F8nD

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、該当するステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

1F4nD INCORRECT VALUE SPECIFIED

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。処理中のステートメントに、次のいずれかの理由で無効なパラメーター値が含まれています。

- 長さが 50 文字より長くなっています。
- 1 個以上の特殊文字が入っていますが、特殊文字を引用符で囲んでいません。
- \$SRC または \$MRC に指定されていますが、4095 より大きいか、数字以外の文字が入っています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントを再サブミットする。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、該当するステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

1F5nD INVALID LABEL NAME *label-name*

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。GOTO または ON ステートメント中で、システムは次のいずれかの理由で無効なラベル名を見つけました。

- 最初の文字が英字ではありません。
- 残りの文字が英数字ではありません。
- 指定の名前の長さが 8 文字より長くなっています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントを再サブミットする。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、該当するステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

1F6nD INVALID ON CONDITION

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。現在処理中の ON ステートメントは、次のいずれかの理由で無効です。

- \$ABEND または \$CANCEL が 2 回指定されています。

- 条件の \$ABEND および \$CANCEL に AND を使っています (例えば、\$ABEND & \$CANCEL)。
- \$ABEND または \$CANCEL が、条件 CONTINUE と共に指定されています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントを再サブミットする。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、該当するステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

1F7nD INVALID IF CONDITION

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。現在処理中の IF ステートメントで 2 個の文字列の比較を指定しています。それらのうち少なくとも 1 個がヌル・ストリングであり、次のいずれかの比較演算子が使われていません。

- > (より大)
- < (より小)
- >= (より大または等しい)
- <= (より小または等しい)

上記の比較演算子はこの場合には使用できません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントを再サブミットする。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、該当するステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

1F8nD INVALID PASSED PARAMETER

parameter-name

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。 *parameter-name* が、EXEC PROC または EXEC REXX の追加オペランドとして指定され、システム・レベルまたは POWER ジョブ・レベルで定義されています。しかし、下位のプロシージャーに渡すために、これは現在アクティブなプロシージャー・レベルで定義する必要があります。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- SETPARM *parameter-name*='&*parameter-name*' をサブミットし、拒否された EXEC ステートメントを再サブミットする。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- プログラマーの応答: 失敗した EXEC PROC または EXEC

1Hxx= CACHE メッセージ

1H01I CACHE OPERATION FAILED

説明: コントロール・ユニットが、一時的にコマンドを扱えなくなっています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 装置およびサブシステムの状況を調べてください。

プログラマーの応答: なし。

1H02I NON-CACHED CONTROL UNIT

説明: このコントロール・ユニットのモデルは、コマンドを扱えません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1H03I ERROR IN IJBAR WHEN PROCESSING CACHE COMMAND

説明: CACHE コマンドが無効です。パラメーターの組み合わせが無効であるか、またはアテンション・ルーチンのストレージが壊れています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: IJBAR フェーズを SVA に再ロードしてください。

プログラマーの応答: なし。

1H04I CACHE STORAGE IS NOT AVAILABLE

説明: REPORT コマンドが出されましたが、コントロール・ユニットが「キャッシュが使用不可能」状況になっています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: この CUU のキャッシュを切り換え、REPORT コマンドを再発行してください。

プログラマーの応答: なし。

1H05I OPERATION REJECTED BY CONTROL UNIT

説明: コントロール・ユニットがコマンドを扱えません。この原因は、コントロール・ユニットの実際の状況にあるか、またはコントロール・ユニット・モデルがコマンドをまったく解釈できないことにあると思われます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: コントロール・ユニット・モデルまたはサブシステム状況を調べてください。

プログラマーの応答: なし。

1H06I OPERATION SUCCESSFULLY INITIATED

説明: 操作は非同期的に完了します。非同期操作の終了後に、状況変更メッセージが出されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: この操作は引き続き保留中であることに注意してください。

プログラマーの応答: なし。

REXX ステートメントの前に SETPARM *parameter-name*'&*parameter-name*' を挿入し、失敗したジョブを再サブミットしてください。

1H07I WRONG DUPLEX PAIR STATUS

説明: 基本装置の 2 重ペアの状況のために、DUAL COPY コマンドが実行できません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 装置およびサブシステムの状況を調べてください。

プログラマーの応答: なし。

1H08I COMMAND REJECT: SET SECONDARY DEVICE DOWN

説明: 直前に出した CACHE コマンドで、シンプレックス状態から基本装置 UNIT と 2 次装置 DUPLEX の二重コピーを設定しようとしたのですが、2 次装置がまだ割り当てられている状態で、ダウンもしていないので、コマンドは拒否されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: DVCND コマンドを使用して、2 次装置をダウンさせてください。

プログラマーの応答: なし。

1H09I OPER INFO SYSXXX=*cuu area* STATUS CHANGE: *action*

説明: サブシステムが、指定された CUU (*cuu*) についての SUBSYSTEM または DEVICE 状況変更を、ホストに通知しました。この状況変更は、VSE システムからの処置によって、CUU に接続しているその他のホスト・システムからの処置によって、またはハードウェアに障害がある場合はコントロール・ユニットによって、開始できます。

SUBSYSTEM STATUS CHANGE のメッセージは、以下のとおりです。

- CACHE=ON または CACHE=OFF
- NVS=ON または NVS=OFF
- CACHE-FAST-WRITE=ON または CACHE-FAST-WRITE=OFF
- BACKGROUND-COPY ONGOING または BACKGROUND COPY COMPLETED
- FL-COPY RELATION ESTABLISHED
- FL-COPY RELATION TERMINATED
- FL-NOCOPY RELATION EXISTS
- FL-NOCOPY RELATION WITHDRAWN

これらのメッセージは、このサブシステムに接続されているすべての CUU に適用されます。

DEVICE STATUS CHANGE のメッセージは、以下のとおりです。

- CACHE=ON または CACHE=OFF
- DASD-FAST-WRITE=ON または DASD-FAST-WRITE=OFF

これらのメッセージは指定された CUU にだけ適用されます。

DUAL-COPY STATUS CHANGE のメッセージは、以下のとおりです。

- ENTERED DUPLEX MODE
- SUSPENDED PRIMARY
- SUSPENDED SECONDARY
- DUPLEX PENDING
- ENTERED SIMPLEX MODE

DEVICE 状況変更に関連する他のメッセージには、次のものがあります。

- PPRC PAIR SUSPENDED
- MIRRORING OPERATIONAL
- MIRRORING SUSPENDED
- MIRRORING PENDING
- MIRRORING FAILED
- NO MORE PREFERRED PATH ACCESS
- PREFERRED PATH ACCESS RESUMED

これらのメッセージは、二重ベアの基本装置および 2 次装置に適用されます。

システムの処置: なし。このメッセージはオペレーターへの通知のために出されます。

オペレーターの応答: 状況変化が実際の操作に影響を与えているかどうかをよく検査してください。必要であれば、AR CACHE コマンドで状況を変更するか、または装置に欠陥がないか検査してください。

プログラマーの応答: なし。

1H20I PRIMARY DEVICE cuu WAS SET TO SUSPENDED DUPLEX STATE

説明: 二重ベアの基本装置で永続エラーが発生し、これにより「ディスク・エラー・リカバリー」は、基本装置を中断二重状態に設定しました。すぐに、1 次アドレスにアクセスし、次に元のアドレスに戻ってください。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: EREP の出力を調べ、必要ならば、IBM サポート担当員に連絡してください。

1H40I QRES REQUEST RECEIVED FROM CUU xxxx PATH xx DATA x...xx

説明: メッセージに示された CUU およびパスから再構成要求レコードが受信されました。要求の内容は、メッセージの DATA 部に表示されます。

システムの処置: 処理がこの要求に基づいて続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1H47I QUIESCED PATH xx TO CUU xxxx

説明: システムはパス休止要求を正常に処理しました。

システムの処置: システムは現在の要求の処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1H48I PATH xx TO CUU xxxx NOT QUIESCED , IS LAST PATH TO CUU

説明: パス休止要求で、最後に装置に設定したパスの休止を要求しています。これは許可されていません。

システムの処置: 再構成要求は拒否されます。

オペレーターの応答: この処理を行うには、装置への他のパスをオンラインに設定してください。設定しない場合、装置を休止しなければなりません。

プログラマーの応答: なし。

1H49I RESUMED PATH xx TO CUU xxxx

説明: パス再開要求が正常に処理されました。

システムの処置: 再構成要求の処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1H50I PATH xx TO CUU xxxx IS RESUMED ALREADY

説明: システムは、再開されるパスが休止状態ではないことを検出しました。

システムの処置: 再構成要求の処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1H51I PATH xx TO CUU xxxx RESUMED , BUT STILL OFFLINE

説明: システムが CUU へのパスの静止指示をリセットしたが、別の理由でそのパスが依然としてオフラインのままです。

システムの処置: 再構成要求の処理が続行されます。

オペレーターの応答: より詳細な情報を検出するために

STATUS コマンドを発行するか、パスを再度オンラインに設定するために ONLINE CHPID コマンドを発行してください。

プログラマーの応答: なし。

1H53I QRES REQUEST FORMAT UNKNOWN

説明: システムは、コントロール・ユニットから受信した再構成要求の形式を確認していません。これは、コントロール・ユニットのタイプが VSE ではサポートされない種類であるためだと思われます。

システムの処置: 再構成要求の処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1H54I QRES RESPONSE x...xx SENT TO CUU xxxx PATH xx

説明: システムは再構成要求を完了し、メッセージに示されている応答を、指定された CUU とパスでコントロール・ユニットに送信しました。この処理が成功したかどうか、上記のメッセージで示されています。

システムの処置: 再構成要求の処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1H55I QRES RESPONSE *x...xx* REJECT DATA
*x...xx***

説明: 制御装置に応答を送り返そうとしていたところ、システムにおいて対象の入出力に災害エラーが発生しました。DATAの後に表示されるデータは、弊社サービス担当員が詳細にエラーを診断するために必要となります。

システムの処置: 再構成要求の処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1H56I ERROR READING ATTENTION
MESSAGE. DATA *x...xx***

説明: コントロール・ユニットから再構成要求を読み取ろうとしていた時に、システムに入出力エラーが発生しました。

DATAの後に表示されるデータは、弊社サービス担当員が詳細にエラーを診断するために必要となります。

システムの処置: 再構成要求は処理されませんでした。システムは他の作業を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1H57I ATTENTION RECEIVED FROM
DISABLED PATH MASK *xx* CUU *xxxx*
DATA *x...xx***

説明: システム・サービスのタスク入出力には使用できないパスで、アテンション割り込みを受け取りました。このため、このインターフェースから出される再構成要求は読み取れませんでした。

システムの処置: 再構成要求は処理されませんでした。システムは他の作業を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1lxx= アテンション・ルーチン・メッセージ

1I00D READY FOR COMMUNICATIONS

説明: 次の状況のいずれかを示します。

- PAUSE コマンドが出された。
- 最後の EXEC ステートメントが処理されたとき、通信装置として SYSLOG が使用されていた。
- CANCEL コマンドが出された。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 正しいコマンドまたはステートメントを実行依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

1I01I INVALID COMMAND

説明: 最後に入力されたコマンドは、有効なアテンション・コマンドでも、VSE/ICCF、VTAM、または VSE/POWER コマンドでもありません。

システムの処置: システムはコマンドを無視し、処理を続行します。

オペレーターの応答: 有効なコマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

**1H58I INVALID CONFIG. DATA RECORD
FROM PATH MASK *xx* CUU *xxxx* DATA
*x...xx***

説明: 再構成要求の処理中に、システムはコントロール・ユニットから構成データ・レコードを読み取って評価しなければなりません。これらのレコードは、装置の自己記述アーキテクチャーに定義された規則に従って記述されているはずですが、そうになっていない場合、システムはレコードの処理を続行せず、このメッセージを出します。

システムの処置: 現在の要求の処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1H59I QRES PROCESSING STOPPED ,
INSUFFICIENT GETVIS**

説明: システムは GETVIS スペースを要求しましたが、獲得できませんでした。

システムの処置: システムがすでに要求を読み取っている場合、要求の処理は終了します。

オペレーターの応答: 使用できるシステム GETVIS をもう少し作成してみてください。

プログラマーの応答: なし。

1H60I INTERNAL PROCESSING ERROR *xx*

説明: システムは、自身の処理ルーチンに論理エラーがあることを検出しました。エラーの種類は、メッセージの後の番号で示されます。このメッセージはまず表示されなければなりません。

システムの処置: 現在の要求の処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1I0nI INVALID COMMAND

説明: メッセージ番号の中の *n* の定義については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。

システムの処置: システムはコマンドを無視し、処理を続行します。

オペレーターの応答: 正しいコマンドを入力し直してください。

プログラマーの応答: なし。

**1I20I JOB *jobname* CANCELED DUE TO
OPERATOR INTERVENTION**

説明: ジョブ制御に対して CANCEL コマンドが出されました。

システムの処置: システムは、/& または JOB ステートメントが検出されるまで、SYSRDR からの入力を無視します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: オペレーターがジョブを取り消した理由

を調べてください。必要に応じて訂正を行い、ジョブを再実行してください。

11211 **JOB *jobname* CANCELLED DUE TO
CANCEL COMMAND**

説明: ジョブ制御により、CANCEL コマンドが処理されました。

システムの処置: システムは、/& または JOB ステートメントが検出されるまで、SYSRDR からの入力を無視します。
オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。
プログラマーの応答: メッセージの通りです。

11221 **DEVICE=*cuu* IN USE BY ANOTHER
SYSTEM**

説明: ONLINE コマンドの処理中に、システムはコマンドを出しているホストに装置を割り当てようとした。装置はすでに他のシステムに割り当てられているため、その割り当ては失敗しました。

システムの処置: 割り当ては失敗しました。装置はアクセスできません。
オペレーターの応答: 他のシステムがその装置を切り離すまで待つ、それから ONLINE コマンドを再び出してください。
プログラマーの応答: なし。

11231 **COMMAND REJECTED, DEVICE/CHPID
IS IN QUIESCED MODE**

説明: コントロール・ユニットは、他の装置または CHPID の休止を要求しました。オペレーターが、FORCE オペランドを指定せずに ONLINE *cuu* コマンドを使用したためです。システムは、コントロール・ユニットの変更を拒否します。

システムの処置: システムは処理を続行します。
オペレーターの応答: 装置が確かに再開可能であることを確認し、ONLINE *cuu*, FORCE コマンドを使用して再開するか、コントロール・ユニットで再開要求を開始してください。
プログラマーの応答: なし。

11241 **COMMAND AUTHORIZATION
INSUFFICIENT**

説明: ユーザー・コンソールのユーザーが z/VSE コマンドを出そうとしたが、そのユーザーはこのコマンドの使用権限をもっていません。指定されたコマンド、または指定されたオプションの、少なくともいずれか 1 つを出すには、主コンソール権限がなければなりません。

システムの処置: コマンドは無視されます。
オペレーターの応答: システム管理者に、正しいプロファイル権限の割り当てを依頼してください。
プログラマーの応答: なし。

11251 **EXPLAIN SUPPORT NOW ACTIVE**

説明: オンライン解説ファイルが正常にオープンされたか、またはすでにオープンされていて、EXPLAIN サポートが利用可能となるか、または EXPLAIN サポートが利用可能のままになっています。

システムの処置: EXPLAIN サポートの状況は ON に設定されます。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

11261 **EXPLAIN FILE OPEN ERROR RC=*rc* EC=*ec***

説明: オンライン解説ファイルをオープンしようとしたが、VSAM 戻りコード *rc* とエラー・コード *ec* で障害が起きました。

システムの処置: EXPLAIN サポートの状況は OFF のままです。
オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。
プログラマーの応答: メッセージに示されている戻りコードとエラー・コードについては、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻」の『VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』にある説明を参照してください。

11271 **EXPLAIN SUPPORT NOW INACTIVE**

説明: オンライン解説ファイルが正常にクローズしたか、またはすでにクローズされていて、EXPLAIN サポートが利用可能になることが、または、利用可能のままになっていることが、できません。

システムの処置: EXPLAIN サポートの状況は OFF に設定されます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

11281 **EXPLAIN FILE CLOSE ERROR RC=*rc*
EC=*ec***

説明: オンライン解説ファイルをクローズしようとしたが、VSAM 戻りコード *rc* とエラー・コード *ec* で障害が起きました。

システムの処置: EXPLAIN サポートの状況は ON のままです。
オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。
プログラマーの応答: メッセージに示されている戻りコードとエラー・コードについては、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻」の『VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』にある説明を参照してください。

11291 **COMMAND INVALID IN
SA-ENVIRONMENT**

説明: 独立型環境を実行している z/VSE システム・オペレーターが、独立型処理を実行している間は使用できないコマンドを出そうとしたか、そのようなコマンド・オプションを使用しています。

システムの処置: コマンドは無視されます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

1130I CANCEL ALREADY PENDING

説明: システムが、前に渡された取り消し要求を処理している最中に、オペレーターがジョブ取り消し要求を渡しました。

システムの処置: システムは取り消し要求を無視して処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1131I INSUFFICIENT SVA STORAGE

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: システムの共用仮想記憶域が十分な大きさになるよう、使用可能な仮想記憶を割り振りし直してください。この操作は、次のシステム・スタートアップ時まで行えない場合がありますが、次のシステム・スタートアップ時にはより大きい仮想記憶のサイズを (VSIZE の指定によって) 定義することができます。

1132I AREA NOT ACTIVE

説明: 非アクティブ区画に対して、CANCEL コマンドが出されました。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: 区画の指定を確認し、必要があれば、

CANCEL コマンドを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

1133I cuu CANNOT BE RESERVED

説明: RESERV コマンドが入力されましたが、メッセージに示されている装置が次のいずれかの状態になっています。

- すでに予約済みです。
- すでに割り当て済みです。
- 故障中です。
- 操作不能です。

システムの処置: システムは RESERV コマンドを無視して処理を続行します。

オペレーターの応答:

1. オペランドのない VOLUME コマンドを出してください。
2. このコマンドの出力を調べて、どのディスク装置について RESERV コマンドをサブミットできるかを確かめてください。
3. 必要であれば、新たに RESERV コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1134I cuu CANNOT BE FREED

説明: FREE コマンドが入力されましたが、メッセージに示されている装置が次のいずれかの状態になっています。

- すでに解放済みです。
- 故障中です。
- 操作不能です。

システムの処置: システムは FREE コマンドを無視して処理を続行します。

オペレーターの応答:

1. オペランドのない VOLUME コマンドを出してください。

2. このコマンドの出力を調べて、どのディスク装置について FREE コマンドをサブミットしようとしたかを確かめてください。

3. 必要であれば、新たに FREE コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1135I COMMAND IGNORED DUE TO ERROR

説明: コマンドがサブミットされましたが、アテンション・ルーチンがそれを、このメッセージの直前のアテンション・ルーチンによって報告されている状況のために、サブミットできませんでした。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 可能ならば、あとでコマンドを再度出して、コマンドを正常に実行するために必要となるリソースが使用可能であるかどうかを確かめてください。

プログラマーの応答: なし。

1136I CONS DEVICE IN USE BY OTHER PARTITION

説明: CONS 装置 (IPL 時に定義された) がすでに使用中であるため、システム・オペレーター・コンソールを切断する試みが失敗しました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 装置が区画から解放されていることを確かめてください。または、DVCDN *cuu* コマンドを出して、装置に DOWN をセットしたあと、コマンドを再度出してください。

プログラマーの応答: なし。

1138I SPACE NOT ACTIVE

説明: 現在処理されているステートメント (またはコマンド) で指定された仮想記憶のスペースは、定義はされていますが、このスペースには区画が割り振られていません。

システムの処置: システムはステートメント (コマンド) を無視して処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 該当するコマンドが ASI JCL プロシージャ中にある場合には、今後このメッセージが出ないようにプロシージャを訂正してください。

1139t INVALID SPACE ID OR PARTITION ID

説明: 現在処理中のコマンド中で指定されている区画 ID が無効か、またはスペース ID が次のいずれでもありません。R、S、0 - 9、A、B (ESA または 370 モードの場合) または 0、R (VM または VMESA モードの場合)。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはコマンドを無視して処理を続行します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 無効なスペース ID を指定して、コマンドをサブミットした場合は、正しいスペース ID を指定し、コマンドを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: 該当するコマンドが ASI JCL プロシージャ中にある場合には、今後このメッセージが出ないように

プロシージャールを訂正してください。

1140I READY

説明: 最新のアテンション・コマンドの処理が終了しました。アテンション・ルーチンは次のアテンション・コマンドを受け入れます。
 システムの処置: なし。
 オペレーターの応答: 次のアテンション・コマンドを入力してください。
 プログラマーの応答: なし。

1141t INVALID ADDRESS

説明: 以下のいずれかです。

- コマンドに指定された 16 進アドレスに無効な文字が含まれているか、またはそのアドレスの桁が小さすぎるか大きすぎます。
- コマンドに指定されたアドレスは、以下に表した領域を示しています。
 - 仮想記憶の終了点を越えた区域。
 - ページ・プール内。
 - 実モードでプログラムを実行する場合の、区画の仮想アドレス域内。
 - 仮想モードでプログラムを実行する場合の、区画の実アドレス域内。
 - 実モードでの実行に対する区画 GETVIS 域の、割り振られていない部分。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはコマンドを無視して処理を続行します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 正しいアドレスを指定して、コマンド全体を再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1142D ADDRESS WITHIN SUPERVISOR OR SVA [INVALID RESPONSE]

説明: ALTER コマンドに対して指定された 16 進アドレスが、監視プログラムまたは SVA 中にあります。メッセージに INVALID RESPONSE の文がある場合は、このメッセージが最初に出たときには、IGNORE か END/ENTER 以外の応答をしたことを示します。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: END/ENTER を押して、ALTER 機能を終了させてください。

プログラマーの応答: 処置は不要ですが、次の「注」を参照してください。

注: システムは、監視プログラムのオンラインでの変更を必要とする状況に対応するため、コンソールからの IGNORE の応答を受け入れます。

1143I SDAID BUFFER NOT AVAILABLE

説明: SDAID バッファに DUMP コマンドが出されましたが、アクティブな SDAID バッファはありません。
 システムの処置: DUMP コマンドは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: SDAID バッファに DUMP コマンドを出す場合、SDAID が活動化されたことを確認し、必要に応じてコマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1144I SYSLOG-ID OR SPACE-ID *id* NOT AVAILABLE

説明: 指定したパラメーターが、有効な SYSLOG-ID でも SPACE-ID でもありません。このエラーは、指定した区画またはスペースが、1) 割り振られていない 2) アクティブでない、のいずれかの場合に発生します。

システムの処置: コマンドは無視され、処理が続行されます。オペレーターの応答: 区画またはスペースに対してコマンドを出す場合は、正しい ID を指定したかどうか検査してください。必要であれば、コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1145D INVALID ENTRY

説明: ALTER コマンドの後で入力された文字のうち少なくとも 1 個が、16 進数 (0 から 9 または A から F) ではありません。入力する文字の各組が、16 進表記で 1 バイトのデータを表していなければなりません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 正しいデータを再入力するか、END/ENTER を押して ALTER 機能を終了させてください。

プログラマーの応答: なし。

1146I INVALID DUMP DEVICE

説明: 次のいずれかを行ってください。

- 出力オペランドで指定された装置が、
 - 存在しません。または、
 - DVCDN (故障中) の状態です。または、
 - 現在 SDAID に対して予約されています。
- 指定された装置が、テープでも印刷装置でもありません。
- SDAID バッファを印刷装置にダンプしようとした。

システムの処置: ダンプ・コマンドは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: 出力コマンドが正しいことを確認し、必要があれば DUMP コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1147I *nm* BYTES ONLY CAN BE ALTERED

説明: 旧データの示されたバイト数の表示または変更後に、システムが無効なアドレスを検出しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1148I *nn* **BYTES ONLY CAN BE DISPLAYED**

説明: システムはメッセージに示されているバイト数を表示した後、無効なアドレスを検出しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1149I **DUMP LIBRARY FULL**

システムの処置: 障害のあるコンポーネントがダンプの抑止を要求しない限り、システムは SYSLST にダンプを書き込みます。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 次のいずれかを行ってください。

- ライブラリーと関連するラベル情報を再定義して、より大きいダンプ・サブライブラリーを使用可能にする。
- いっぱいであるサブライブラリーに現在格納されていて、すでに必要なくなった 1 つ以上のダンプを削除する。これを行う前に、次のいずれかを実行する必要があります。
 - 削除されるダンプ・メンバーのリストを得るために、ライブラリアン LISTDIR を実行する。
 - 後で再カタログする場合、SYSPCH に 1 つ以上のダンプ・メンバーを書き込むために、ライブラリアン PUNCH を実行する。

続いて、システム・ダンプを開始するためにジョブを再実行してください。

114XI **THE GIVEN ID IS NON-UNIQUE**

説明: コマンドに入力されたジョブ名がシステムで固有ではありません。

システムの処置: 処理は終了しました。

オペレーターの応答: ジョブ名の代わりに区画 ID を指定してください。または、固有のジョブ名が使用されていることを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

1150I *JOB name* **CANCELED DUE TO END OF EXTENT ON SYSLNK**

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SYSLNK に対してより大きいエクステントを与えて、ジョブを再実行してください。必要があれば LVTOC および LSERV を実行し、これらのプログラムの出力を使用してラベル情報を準備してください。

1151I **DUMP COMPLETE**

説明: ダンプ・データの書き込みを正しく完了しました。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1152I **DUMP COMMAND CANCELED BY OPERATOR**

説明: オペレーターが、以下のいずれかを行いました。

- システムが DUMP コマンドを処理中に、RC アテンション・コマンドを出しました。
- システムがダンプをとっている間に、CANCEL コマンドを出しました。
- PF3 END または PF4 RETURN を押して、ダンプを取り消しました。

システムの処置: システムは DUMP コマンドの処理を終了し、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1153D *cuu* **ASSIGNED TO partition-id. TO USE TAPE REPLY YES**

説明: DUMP コマンドで指定されたテープ装置は、現在メッセージに示されている区画に割り当てられています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- DUMP コマンドが、取り付けてあるテープ・リールに保管してあるデータを消してそこに書き込んでよい場合は、YES と入力してください。
- このコマンドが、このデータを消して書き込みを行ってほしくない場合は、
 1. 現在取り付けてあるテープ・リールの使用を妨げないなら、指定の装置にスクラッチ・テープを取り付けてください。
 2. 装置を作動可能にしてください。
 3. YES と入力してください。

• このテープ装置を使用できないならば、END/ENTER を押してください。その後、別の AR コマンドを入力できます。

プログラマーの応答: なし。

1154I **END-OF-VOLUME ON DUMP TAPE**

説明: DUMP コマンドで指定されたテープ装置で、リール終わり状態が起きました。

システムの処置: ダンプ・ルーチンはテープ・ファイルを閉じ、そのとき (途中までの) テープ・ファイルの終わりに 2 個のテープ・マークを書きます。

オペレーターの応答: もっと大きなテープ・リールを取り付けて、DUMP コマンドをもう一度出してください。

プログラマーの応答: なし。

1155D *CANCEL program-name.* **REPLY YES OR NO**

説明: メッセージに示されているプログラム (VSE サブシステム) がアクティブである区画に対して、CANCEL が出されました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: CANCEL 要求を無視するには END/ENTER を押すか NO と応答し、プログラムを取り消すには YES と応答してください。

プログラマーの応答: なし。

**1156I END-OF-VOLUME WHILE DUMPING TO
 SYSLST**

説明: ABEND ダンプを処理している途中で、ボリューム終わり状態が SYSLST で起こりました。SYSLST は、テープまたはディスク装置に割り当てられていました。

オペレーターの応答: SYSLST を別の出力装置に割り当ててください。

プログラマーの応答: なし。

**1157D POWER-OFF THE CPU? REPLY YES OR
 NO**

説明: オペレーターが CPU の電源オフを行うために、コマンドを入力しました。これは、確認メッセージです。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: YES または NO を応答してください。

プログラマーの応答: なし。

1158I PHASE \$IJBHDUP NOT FOUND

説明: フェーズ \$IJBHDUP が SVA ディレクトリー内に見つかりません。

システムの処置: ダンプ・ルーチンはダンプ処理を終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: フェーズ \$IJBHDUP が、誤ってシステム・ライブラリー IJSYSRS.SYSLIB から除去されていないかを調べてください。

**1159D ENTER PHASE NAME, SVA24, GETVIS24,
 SVA31, GETVIS31 OR ALL**

説明: オペレーターが、共用仮想記憶域 (SVA) または SVA 内の単一フェーズをダンプするために、アテンション・コマンドを入力しました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 単一フェーズをダンプする場合はフェーズ名を入力し、SVA 全体をダンプする場合は ALL を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

**1160I SPECIFIED DUMP INTERVAL IS NOT IN
 SHARED SPACE**

説明: 指定されたダンプのアドレスが固有ではありません。ユーザー区画内の間隔には、有効なスペース ID を指定してください。

システムの処置: DUMP コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 以下の形式で DUMP コマンドを入力してください。

DUMP nn,xxxxxxxx-xxxxxxxx,cuu

ここで、nn は有効な SYSLOG ID またはスペース ID です。

プログラマーの応答: なし。

1161I PHASE NOT FOUND IN SVA

説明: オペレーターが、共用仮想記憶域 (SVA) 内のフェーズをダンプする DUMP コマンドを入力しました。指定されたフェーズが SVA 内に見つかりません。

システムの処置: DUMP コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1162I INVALID DUMP INTERVAL

説明: オペレーターが、アドレス範囲をダンプする DUMP コマンドを入力しました。指定されたアドレス対は、仮想記憶の終わりまたはデータ・スペースのサイズを超えた領域を参照しています。

システムの処置: DUMP コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1163I DATA SPACE NOT FOUND

説明: オペレーターが、データ・スペースをダンプするために DUMP コマンドを入力しました。指定されたデータ・スペースは、システムで定義されていません。

システムの処置: DUMP コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1164I SPECIFIED AREA NOT AVAILABLE

説明: オペレーターが、DUMP コマンドを入力し、メッセージ 1159I が表示された後で SVA31 または GETVIS31 を入力しました。指定された区域はこのシステムでは使用できません。

システムの処置: DUMP コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1165I TAPE UNL=REW HAS BEEN ACTIVATED.
 SYSTEM PREVENTS UNLOAD
 OPERATIONS AND REWINDS TAPES
 ONLY.**

説明: AR コマンド TAPE UNL=REW が実行されました。

システムの処置: オプション UNL=REW が指定された場合、テープをアンロードする操作は実行できません。システムではテープの巻き戻しのみが行われます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1170I JOB *name* CANCELED DUE TO CONTROL
 STATEMENT ERROR**

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SYSLST に書き込まれたメッセージに示されているエラーを訂正してください。

**1181I RECORDER FILE OPEN FAILED,
RF=CREATE FORCED**

説明: システムは、レコーダー・ファイルを入力用にオープンしようとしたが、OPEN が失敗しました。

システムの処置: システムは出力用にオープンを試みます。

1182t RECORDING COMPLETE

説明: システムは ROD コマンドの処理を正常に完了しました。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - 処理が続行されます。タイプ・コード A の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: システムをシャットダウンするか、または END/ENTER を押してシステムに処理を続行させてください。

プログラマーの応答: なし。

1183A RECORDER FILE TOO SMALL

説明: レコーダー・ファイルの作成に使用できる区域の大きさが、CKD ディスクで 10 トラックより小さいか、FBA ディスクで 72 ブロックより小さくなっています。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。担当のプログラマーからの指示に従ってください。

プログラマーの応答: 次のシステム・スタートアップ時に、より大きいレコーダー・ファイルを用意してください。回避するために、オペレーターがバックアップ・システムをスタートアップしなければならないことがあります。

1184A RECORDER FILE OPEN FAILURE

説明: 次のいずれかを行ってください。

- SYSREC が定義されていません。
- システム記録ファイルが作成されませんでした。
- ファイルのラベル情報とエクステンション情報がありません。
- WRITE INHIBIT スイッチがオンのままになっています。
- FBA ディスク上のレコーダー・ファイルの場合は、DTF ブロックに指定された CISIZE 値が VTOC 内のこの値と異なります (これは、DLBL BUFSP=N が指定された場合に起こることがあります)。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 正しいボリュームが取り付けられているかどうかを確認してください。誤ったボリュームを取り付けてあったことが原因なら、システムを改めてスタートアップしてください。
- 最新のバックアップを使ってシステムをスタートアップし、担当のプログラマーにメッセージを報告してください。SYSREC について LVTOC を実行し、LISTIO コマンドを出してください。これら 2 つのプログラムの出力を、必要に応じて使用できるようにしておいてください。

プログラマーの応答: LVTOC の出力を使って、ラベル情報域に入っているラベル情報を調べてください。LISTIO の出力を使って SYSREC の割り当てを調べてください。必要に応じて訂正を行ってください。例えば、BG の ASI JCL スタートアップ・プロシージャにジョブ制御 SET コマンドを挿入する

など。ジョブ・ストリームを再サブミットしてください。

問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。保管しておく必要のあるデータについては、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

1185A CONFLICTING DEVICE TYPES FOR cuu

説明: PUB テーブル中の装置タイプが、レコーダー・ファイルから取り出したレコード中の装置タイプと一致していません。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 正しいディスク・ボリュームを取り付けてあるか確認してください。必要に応じてボリュームを取り付け直し、システムを改めてスタートアップしてください。問題が繰り返し発生するようなら、担当のプログラマーにメッセージを報告し、最新のバックアップでシステムをスタートアップしてください。

プログラマーの応答: ASI プロシージャを調べて、システム記録ファイルの定義と割り当てが正しいことを確認してください。必要に応じて訂正を行ってください。問題が解決しない場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。保管しておく必要のあるデータについては、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

**1186A ERROR ON RECORDER FILE AT
disk-address**

説明: 次のいずれかを行ってください。

- メッセージに示されているディスク・アドレスのレコードにアクセス中、リカバリー不能な入出力エラーがレコーダー・ファイルで発生しました。このアドレスは、CKD ディスクでは *cchhr* (*cc* = シリンダー、*hh* = ヘッド、*r* = レコード) の形式で、FBA ディスクではブロック番号です。
- 利用可能なエクステンションが使い尽くされる前に、ファイルの終わりが検出されました。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 担当のプログラマーにメッセージを報告し、その指示に従ってください。

プログラマーの応答: ジョブ制御 SET コマンドで

RF=CREATE が指定されていた場合は、別の位置でレコーダー・ファイルを作成するために、適切な命令を使ってシステムをスタートアップするようにオペレーターに指示してください。コマンドで RF=YES が指定されていた場合は、オペレーターに次のような操作を指示してください。

1. もう一度システムをスタートアップする。
2. EREP プログラムを実行して、これまでファイルに記録されていた情報を取り出す。渡すべき制御情報については、103 ページの図 2 を参照してください。

次に、別の位置にレコーダー・ファイルを再作成してください。

11871 REPLY TO: reply-identifier(s)

説明: このメッセージが出される原因は次のいずれかです。

- REPLID コマンドが出されました。
- + 符号をもつ応答 ID がまだ応答済みでないのに、応答またはコマンドが入力されました。
- 取り消される予定のタスクが応答を待っています。

応答 ID は次の例に示すような形式で表示されます。

Partition identifier

Reply required at once (+)
Reply required eventually (-)

Reply identifier

F1 + 001 ...
F2 - 001 ...
BG - 001 ...

オペレーターの応答: メッセージに示されている応答 ID を使用して、1 つまたはそれ以上のメッセージに回答してください。 + 符号をもつ応答 ID があれば、それに対応するメッセージに最初に回答してください。

プログラマーの応答: なし。

11881 NO REPLIES OUTSTANDING

説明: REPLID コマンドが出されましたが、応答済みでないメッセージはありません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1190D END OF DAY =

説明: ROD コマンドが出されました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- END/ENTER を押して処理を続行する。
- システムをシャットダウンする場合は、Y を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1192I INVALID CODE

説明: システムは、メッセージ 1190D に対して無効な応答を受け取りました。

システムの処置: システムはメッセージを再表示し、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1193t RECORDER FILE IS nm% FULL [RUN EREP]

説明: レコーダー・ファイル (SYSREC) が nm パーセントいっぱいを使用されています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード E の場合 - EREP プログラムを実行してください。必要な制御情報については、103 ページの図 2 を参照し

てください。このメッセージが繰り返し表示されるようであれば、プログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: オペレーターがメッセージを報告してきたら、システム記録ファイルを大きくすることを検討してください。IBM 3031 または 3033 の場合、記録フレームの転送用に割り振られているスペースが小さすぎるかもしれません。

1194I HARD COPY OPEN FAILED, RF=CREATE FORCED

説明: システムが、ハードコピー・ファイルを入力用にオープンしようとしたが、OPEN が失敗しました。

システムの処置: システムは出力用にオープンを試みます。

1195A HARD COPY FILE OPEN FAILURE
[macro-name FAILED, RC=X'nm']

説明: このメッセージは、次のような状態が原因で出されます。

1. SYSREC が定義されていません。
2. ハードコピー・ファイルが作成されませんでした。
3. ラベルおよびエクステント情報が与えられませんでした。
4. WRITE INHIBIT スイッチがオンのままになっています。
5. モジュール \$IJBHSHCF が SVA 中にありません。
6. GETVIS あるいは GETVCE が失敗しました。メッセージに示されるコードについては、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 正しい SYSREC ボリュームを取り付けてあることを確認し、またディスク装置の書き込み禁止スイッチが OFF の位置になっているかどうかを調べてください。必要に応じて、バックアップ・システムを使って、システム・スタートアップを行ってください。SYSREC ボリューム (またはドライブ) が原因でなかったら、SYSREC に対して LSERV プログラムおよび LVTOC プログラムを実行してください。担当のプログラマーにメッセージを報告し、2 つのプログラムの出力を必要に応じて使えるようにしてください。

プログラマーの応答: LVTOC 出力を使って SYSREC 上のラベル情報を調べてください。該当する ASI IPL プロシージャで、システム記録ファイルの正しい定義を調べてください。必要に応じて訂正を行ってください。上記の各原因について、下記の処置を行ってください。

1. SYSREC を割り当ててください (IPL コマンド DEF SYSREC=CUU を用いて)。
2. ハードコピー・ファイルを作成してください (ジョブ制御 SET HC=CREATE コマンドで必要なラベル情報を使って)。
3. 次のシステム・スタートアップの前に、システムが最初のジョブを読み取る時に必要なラベル情報が、使用できるようにしておいてください。
4. なし。下記の「オペレーターの処置」を参照してください。
5. 次のシステム・スタートアップ時に、モジュール \$IJBHSHCF を必ず SVA 中に移動してください。または、弊社サービス技術員に連絡して支援を依頼してください。
6. 障害の原因については、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。

**1196A ERROR ON HARD COPY FILE AT
disk-address**

説明: 次のいずれかを行ってください。

- メッセージに示されているアドレスのレコードにアクセス中、ハードコピー・ファイルでリカバリー不能な入出力エラーが発生しました。このアドレスは、CKD ディスクでは *cchlr* (*cc* = シリンダー、*hh* = ヘッド、*r* = レコード) の形式で、FBA ディスクでは相対ブロック番号です。
- エクステントが使い尽くされる前に、ファイルの終わりが検出されました。
- ハードコピー・ファイル・レコードの検索中、誤った長さがありました。これはハードコピー・ファイルが、現在使用中の行と異なった長さの行をもつ SYSLOG 装置で生成されたような場合です。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: システムを改めてスタートアップしてください。コンソール印刷装置が接続している場合には、ジョブ制御ステートメント SET HC=NO を渡して、ハードコピー・ファイルへの記録を抑止してください。コンソール印刷装置が使用できなければ、PRINTLOG プログラムをサブミットして、すでに記録された情報が保管されるようにしてください。メッセージが繰り返し発生するようであれば、バックアップ・システムを使ってシステム・スタートアップを行ってください。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: システムに、同じまたは別のディスク・ボリュームの別の位置にファイルを作成させ、該当の ASI JCL プロシージャーに訂正を加えてください。

**1197E HARD COPY ON DISK NOT
SUPPORTED DUE TO OPEN ERROR
[macro-name FAILED, RC=X'nn']**

説明: メッセージ 1195A と同じです。

システムの処置: 処理が続行されます (接続している印刷装置でハードコピーを得ることができます)。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: さらにディスク上の記録も必要であれば、メッセージ 1195A で説明されている処置をとってください。

1198I HC=NO IGNORED. YES ASSUMED

説明: SET HC=NO コマンドが出されましたが、SYSLOG が表示コンソールに割り当てられていて、コンソール印刷装置が接続されていないと、コンソール通信の記録を抑止することはできません。

システムの処置: ハードコピー機能は使用可能であり、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1199A HARD COPY FILE TOO SMALL

説明: ハードコピー・ファイルを作成しようとしたのですが、与えられたエクステントが小さすぎてファイルが入りません。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: 必要があれば、バックアップ・システムを使って、システムを改めてスタートアップしてください。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: システムがより大きいハードコピー・ファイルを作成するよう、該当の ASI JCL プロシージャーに訂正を加えてください。

**119AI IJSYSCN EXTENT CARD DOES NOT
POINT TO SYSREC DEVICE**

説明: IPL ステートメント 'DEF SYSREC=...' で定義された装置と、IJSYSCN (ハードコピー) ファイルの EXTENT カードの論理装置指定で指し示された装置が、一致していません。

システムの処置: このメッセージのあとにメッセージ 1195A が出されてから、待ち状態になります。

オペレーターの応答: 以下のいずれかを行ってください。

- 'DEF SYSREC=...' が間違っている場合は、正しい 'DEF SYSREC=...'
- EXTENT カードが間違っている場合は、最初の JOB カードが処理される前に、ファイル IJSYSCN に正しい DLBL/EXTENT 情報を与えてください。

このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 'DEF SYSREC=...' ステートメントと IJSYSCN (ハードコピー) の EXTENT カードの論理装置が同じ装置を指すようにしてください。

11XXI INPUT DATA TOO LONG

説明: MSGDATA オプションでオペレーター通信 (OC) 出口が定義されましたが、MSG コマンドの DATA オペランドに指定された入力データが、65 バイト以上あります。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1Jxx ハードウェア暗号メッセージ

1J001E COULD NOT GET VIRTUAL STORAGE

説明: 31 ビット GETVIS ストレージを得られませんでした。
 システムの処置: 機能は終了します。ハードウェア暗号サポートは使用できません。
 オペレーターの応答: GETVIS 問題の原因を解決してください。
 プログラマーの応答: システム管理者に連絡してください。

1J002E MORE THAN ONE AP QUEUE DEFINED TO THIS LPAR OR VM USER.

説明: これは、VM または LPAR でのハードウェア暗号セットアップ問題です。割り当てられる AP キューは 1 つだけです。
 システムの処置: 機能は終了します。ハードウェア暗号サポートは使用できません。
 オペレーターの応答: VM または LPAR の暗号定義を調べてください。詳しくは、1J009E を参照してください。
 プログラマーの応答: システム管理者に報告してください。

1J003E HARDWARE CRYPTO DEVICE DRIVER NOT AVAILABLE.

説明: ハードウェア暗号機能が呼び出されましたが、暗号装置ドライバに到達できませんでした。ただし、暗号装置ドライバとの接点を得ようと試みる前に、ハードウェア暗号環境が初期化されていることが確認されました。通常、この状態は起こり得ません。
 システムの処置: 機能は戻ります。
 オペレーターの応答: セキュリティー・サーバー区画 (デフォルトでは FB) でジョブ SECSERV を再始動してください。

```
msg fb,data=stop
BST226W DO YOU REALLY WANT TO STOP THE SECURITY SERVER?
      (Y/N)
0D01I REPLY TO SECURITY WTOR SUPPRESSED
BST212I STOP COMMAND ACCEPTED.
// PAUSE TO RESTART THE SECURITY SERVER ENTER
      '// EXEC PROC=RESTASEC'
// exec proc=restasec
```

問題が解決しない場合は、弊社に連絡してください。
 プログラマーの応答: システム管理者に報告してください。

1J004E FAILED TO INITIALIZE HARDWARE CRYPTO DEVICE DRIVER.

説明: このマシンには暗号ハードウェアがインストールされていないか、インストールされている暗号カードが VSE によってサポートされていない可能性があります。ハードウェア暗号サポートは z800、z900、およびそれ以上のマシンでのみ可能です。このメッセージは 1J002E および 1J003E の後に続きます。

このマシンにサポートされている暗号ハードウェアが確実にインストールされている場合、VM または LPAR における暗号定義に問題があると考えられます。VM で作業している場合、VSE システムの USER ステートメントを調べてください。次のコマンドが入っていない限りなりません。

```
CRYPTO APVIRT
```

システムの処置: 機能は終了します。ハードウェア暗号サポートは使用できません。

オペレーターの応答: VM または LPAR のハードウェア暗号定義を調べてください。詳しくは、1J009E を参照してください。

プログラマーの応答: システム管理者に報告してください。

1J005I HARDWARE CRYPTO DEVICE DRIVER INITIALIZED SUCCESSFULLY.

説明: このメッセージは、1J013I または 1J014I の後に出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J006I USING AP QUEUE *nn*

説明: このメッセージの次に 1J005I が出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J007E FATAL ERROR IN HARDWARE CRYPTO ENVIRONMENT. TERMINATING...

説明: ハードウェア暗号サポートで重大エラーが発生しました。

システムの処置: ハードウェア暗号サポートは使用できません。

オペレーターの応答: VM または LPAR のハードウェア暗号定義を調べてください。詳しくは、1J009E を参照してください。

プログラマーの応答: システム管理者に報告してください。

1J008E ERROR WHILE SENSING CRYPTO DEVICES.

説明: 暗号ハードウェアのセンス中にエラーが発生しました。
 システムの処置: ハードウェア暗号サポートは使用できません。

オペレーターの応答: VM または LPAR の暗号定義を調べてください。詳しくは、下の 1J009E を参照してください。

プログラマーの応答: システム管理者に報告してください。

1J009E CANNOT DETERMINE AP QUEUE.

説明: LPAR または VM によってこの VSE システムに割り当てられている AP キューを判別しようとしたときに、ハードウェア・エラーが発生しました。

システムの処置: ハードウェア暗号サポートは使用できません。

オペレーターの応答: 以下のように、VM または LPAR の暗号定義を調べてください。

ハードウェア暗号設定を照会するには、下の *q crypto* CP コマンドを使用してください。

```
q crypto
00: Processor 00 Crypto Unit 0 usable
00: Processor 01 Crypto Unit 1 usable
00: There is no user enabled for PKSC Modify
00: All users with directory authorization are enabled
    for key entry
00: Crypto Adjunct Processor is installed
```

この例では、2 つの暗号装置がマシンにインストールされています。

VSE ユーザーのハードウェア暗号設定を照会するには、下の *q virtual crypto* CP コマンドを使用してください。

```
* cp q virtual crypto
AR 0015 No CAM or DAC Crypto Facilities defined
AR 0015 AP 0E Queue 13 shared
AR 0015 1140I  READY
```

この例では、この特定の VSE システムで AP キュー 13 によって AP 番号 0E (14) が使用可能になっています。

例えば、下のコマンドによって、ドメインを特定の VM ゲスト専用にすることができます。

```
CRYPTO DOMAIN 5
```

適切な権限があれば、下のコマンドによって、CMS で設定を照会および更新することができます。

```
DIRM CRYPTO
```

VM は AP キュー番号を無作為に割り当てるため、VSE ゲストは通常、IPL するたびに異なるキュー番号を見ることがになります。

プログラマーの応答: システム管理者に報告してください。

1J010E ERROR DURING RESET OF AP *nm*

説明: 暗号装置 *nm* をリセットしようとしているときに、ハードウェア・エラーが発生しました。

システムの処置: 処理は続行しますが、この特定の装置は、使用可能でないものとしてマークされます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J011E ERROR DURING ENQUEUE TO AP *nm*

説明: いくつかのデータを暗号装置 *nm* にエンキューしようとしているときに、ハードウェア・エラーが発生しました。

システムの処置: 処理は終了します。ハードウェア暗号サポートは使用できません。

オペレーターの応答: VM / LPAR のハードウェア暗号定義を調べてください。

プログラマーの応答: システム管理者に報告してください。

1J012E ERROR DURING DEQUEUE FROM AP *nm*

説明: いくつかのデータを暗号装置 *nm* からデキューしようとしているときに、ハードウェア・エラーが発生しました。これは、すでにエンキューされたデータが失われていることを意味します。

システムの処置: 処理は終了します。ハードウェア暗号サポートは使用できません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J013I FOUND A PCICC CARD AT AP *nm*

説明: PCICC 暗号装置が、AP 番号 *nm* で検出されました。ただし、PCICC カードは VSE によってサポートされています。ハードウェア暗号サポートのためには、

PCICA、PCIXCC、または Crypto Express2 カードが少なくとも 1 つインストールされていなければなりません。メッセージ 1J014I を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J014I FOUND A PCICA CARD AT AP *nm*

説明: PCICA 暗号装置が、AP 番号 *nm* で検出されました。この番号は、CP コマンド「*q virtual crypto*」の出力に一致していなければなりません。サンプル出力:

```
* cp q virtual crypto
AR 0015 No CAM or DAC Crypto Facilities defined
AR 0015 AP 0E Queue 13 shared
AR 0015 1140I  READY
```

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J015I HARDWARE CRYPTO DEVICE DRIVER NOT INITIALIZED, USING SOFTWARE ENCRYPTION.

説明: 暗号装置ドライバーが呼び出されても、そのグローバル・データ構造が初期化されていない場合、このメッセージが出されます。次の理由が考えられます。

- このマシンには、暗号ハードウェアがインストールされていません。ハードウェア暗号サポートは z800、z900、およびそれ以上のマシンでのみ可能です。
- セキュリティ・サーバー区画 (デフォルトでは FB) で、暗号タスク IJBCRYPT が SECSERV ジョブのサブタスクとして実行されていないか、別の区画にあります。詳細については、「IBM z/VSE 計画」を参照してください。

この場合、SSL はハードウェア暗号サポートをバイパスし、代わりにソフトウェア暗号化を使用します。

システムの処置: ハードウェア暗号サポートは使用できません。

オペレーターの応答: 該当する場合は、セキュリティ・サーバー区画 (デフォルトでは FB) でジョブ SECSERV を再始動してください。

プログラマーの応答: システム管理者に報告してください。

**1J016I HARDWARE CRYPTO DEVICE DRIVER
TERMINATED.**

説明: 不明な原因で暗号装置ドライバが取り消されたとき、このメッセージが出されます。

システムの処置: ハードウェア暗号サポートは使用できません。

オペレーターの応答: 暗号タスクを再開する方法については、1J003E を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

**1J017I CRYPTO HARDWARE NOT INSTALLED
OR NOT DEFINED.**

説明: 暗号ハードウェアがインストールまたは定義されていないために暗号タスクが取り消されたとき、このメッセージが出されます。暗号ハードウェアは z800、z900、およびそれ以上のマシンでのみ使用可能です。

システムの処置: ハードウェア暗号サポートは使用できません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1J018I HARDWARE CRYPTO DEVICE DRIVER
CANCELLED BY OPERATOR.**

説明: オペレーターによって暗号タスクが取り消されたとき、このメッセージが出されます。

システムの処置: ハードウェア暗号サポートは使用できません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1J019I HARDWARE CRYPTO DEVICE DRIVER
ALREADY RUNNING.**

説明: 暗号タスクを開始しようと試みても、そのタスクがすでに実行されていたとき、このメッセージが出されます。暗号タスクを開始できるのは一度だけです。

システムの処置: ジョブ/タスクは終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J020I NO SUPPORTED CRYPTO CARD FOUND.

説明: 暗号装置ドライバを正しく初期化できても、サポートされている暗号装置が見つからなかったとき、このメッセージが出されます。この場合、ハードウェア暗号サポートは使用できません。

システムの処置: 暗号タスクは実行されたままです。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1J021I FOUND UNKNOWN CRYPTO DEVICE AT
AP *nn*.**

説明: このメッセージは、基本セキュリティ・マネージャー (BSM) のスタートアップ時に、システムが AP *nn* に不明な暗号装置を検出した場合に出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1J022I CPU CRYPTOGRAPHIC ASSIST FEATURE
AVAILABLE.**

説明: このメッセージは、CPU 暗号援助機能 (CPACF) が使用可能になったときに出されます。CPACF は、DES、TDES、SHA-1 などの対称暗号機能のハードウェア・サポートを提供します。CPACF は、z890、z990 以上の zSeries プロセッサで使用できます。SSL 接続を使用しているときに、CPACF は TCP/IP for z/VSE によって透過的に使用されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1J023I FOUND A CRYPTO EXPRESS2 CARD AT
AP *nn***

説明: Crypto Express2 カードが AP 番号 *nn* で検出されました。この番号は、CP コマンド「q virtual crypto」の出力に一致していなければなりません。サンプル出力:

```
* cp q virtual crypto
AR 0015 No CAM or DAC Crypto Facilities defined
AR 0015 AP 20 CEX2C Queue 11 shared
AR 0015 1140I  READY
```

複数の暗号カードが特定の VM ユーザーに割り当てられているときは、このメッセージが通常一度のみ出されます。VM は通常、1 つの AP キューにのみアクセス権を付与するためです。VM ゲストは常にこのキューを使用し、VM がゲスト・システムのための負荷平衡を行います。1 つの Crypto Express2 カードが検出されたときに VSE によって出されるメッセージと、使用可能なカードの実数を確認するための関連する CP コマンドの出力例を以下に示します。

```
1J023I FOUND A CRYPTO EXPRESS2 CARD AT AP 03
1J023I FOUND A CRYPTO EXPRESS2 CARD AT AP 04
1J005I HARDWARE CRYPTO ENVIRONMENT INITIALIZED
          SUCCESSFULLY.
1J006I USING AP QUEUE 15
* cp q crypto ap
AR 0015 AP 03 CEX2C Queue 15 is installed
AR 0015 AP 04 CEX2C Queue 15 is installed
AR 0015 1140I  READY
```

上記の例では、この VM ユーザーが使用できる Crypto Express2 カードが 2 つあり、それぞれに 2 つの AP キューがあることを示しています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J024I FOUND A PCIXCC CARD AT AP *nn*.

説明: PCIXCC カードが AP 番号 *nn* で検出されました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J025I AP *nn* ENABLED SUCCESSFULLY

説明: 示された AP 番号が暗号環境に追加されました。暗号要求の処理に使用できるようになりました。装置は、誤動作またはオペレーター・コマンドによって使用不可になっていました。AP を追加すると、装置のオンライン状況の照会と、内部キューをクリアするためのリセットが行われます。

関連する暗号コマンドを以下に示します。

- APADD AP=*nn* : AP を暗号環境に追加 (有効化) します。
- APREM AP=*nn* : AP を除去 (無効化) します。
- STATUS=CR : 現在の暗号状況を表示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J026I AP *nn* DISABLED SUCCESSFULLY

説明: 示された AP 番号が暗号環境から除去されました。これは、この暗号装置を暗号要求の処理に使用できなくなったことを意味します。物理装置に対する変更は行われていません。コマンド APADD を使用して、この装置を暗号環境に再度追加できます。

関連する暗号コマンドを以下に示します。

- APADD AP=*nn* : AP を暗号環境に追加 (有効化) します。
- APREM AP=*nn* : AP を除去 (無効化) します。
- STATUS=CR : 現在の暗号状況を表示します。
- APQUE : すべての AP の現時点で処理された要求を表示します。

注: 暗号装置を無効化するときはご注意ください。以下の状態になることがあります。

- すべての暗号装置を無効化すると、以降の SSL または他の暗号操作はソフトウェア・モードで実行されます。これは、ハードウェアで加速化された操作に比べずっと低速です。
- SSL セットアップで 2048 ビット RSA 鍵を使用している場合に、すべての Crypto Express2 キュー (CEX2C または CEX2A) を無効化すると、SSL 接続ができなくなります。これは、2048 ビット RSA サポートは、ソフトウェア実装によってはサポートされないためです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J028E INVALID AP NUMBER *nn* ENTERED (VALID: 0 ... 63)

説明: 無効な AP 番号が入力されました。System z9 では、AP の数が 16 個に制限されています。したがって、LPAR 内でネイティブに実行するときに有効な AP 番号の範囲は 0 から 15 までです。VM 下で実行する場合は、仮想化の結果、AP 番号として 0 から 63 までを使用できます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J029E CANNOT DISABLE AP *nn*

説明: 示されている AP を暗号環境から除去しようとしているときに、エラーが発生しました。AP の除去では装置自体へのアクセスが行われるのではなく、装置状態が無効に切り替えられるのみです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題が解決しない場合は、弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

1J030E CANNOT ENABLE AP *nn*

説明: 示されている AP 番号を暗号環境に追加しようとしているときに、エラーが発生しました。AP は、この AP 番号がこの LPAR または VM ユーザーに割り当てられている場合に、暗号環境に追加できます。この機能は、装置を照会できず、初期状態にリセットできないときは失敗します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: プロセッサのサービス・エレメントで装置状況を調べてください。

プログラマーの応答: なし。

1J031I HARDWARE CRYPTO DEVICE DRIVER REFRESHED.

説明: AP 暗号環境は、オペレーター要求の結果、正常にリフレッシュされました。すべての暗号装置および CPACF 機構が再感知されました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J032I HARDWARE CRYPTO DEVICE DRIVER TERMINATED.

説明: AP 暗号環境は、オペレーター要求の結果、終了されました。オペレーター・コマンド APSENSE を使用して暗号環境を再開できます。有効な暗号カードが存在する場合は、暗号環境は引き続きアクティブです。有効な暗号装置が存在しない場合は、環境が終了されます。

関連する暗号コマンドを以下に示します。

- APSENSE : 暗号環境の完全な再感知を開始します。

システムの処置: 処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J033W AP *nn* NOT DEFINED TO THIS LPAR OR VM USER

説明: 示された AP 番号がこの LPAR または VM ユーザーに定義されていません。STATUS コマンドを使用すると、割り当てられている AP のリストを表示できます。VM 下で実行されている場合は、「* CP Q CRYPTO AP」などの CP コマンドを使用して使用可能な AP を表示することもできます。LPAR 内で実行しているときは、プロセッサのサポート・エレメントから暗号装置を確認することができます。

関連する暗号コマンドを以下に示します。

1J034I • 1J041E

- APADD AP=*nn* : AP を暗号環境に追加 (有効化) します。
- APREM AP=*nn* : AP を除去 (無効化) します。
- STATUS=CR : 現在の暗号状況を表示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J034I CRYPTO TRACE LEVEL SET TO *n*

説明: AP 暗号トレース・レベルは、示された値に設定されています。有効な値は以下のとおりです。

0 = 全トレース

1 = エラーおよび警告

2 = エラー

3 = トレース・オフ

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J035E INVALID CRYPTO TRACE LEVEL ENTERED (VALID: 0..3)

説明: 無効な AP 暗号トレース・レベルが入力されました。有効な値については、メッセージ 1J034I を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J036I RETRY COUNT SET TO *nn*

説明: 暗号要求再試行カウントは、示された値に設定されています。この値は、暗号装置の応答が、使用中、リセット進行中、またはキュー・フル状態のときに、特定の要求を処理のために繰り返しエンキューする回数を示します。有効な値は 0 から 99 の範囲です。デフォルト値は 5 です。

関連する暗号コマンドを以下に示します。

- APBUSY=*nn* : 使用中待ち時間パラメーターでは、暗号要求を再キューイングするときの 2 試行間の間隔を 1/300 秒単位で指定します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J037E INVALID RETRY COUNT ENTERED (VALID: 0..99)

説明: 無効な暗号要求再試行カウントが入力されました。有効な値は 0 から 99 の範囲です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J038I POLLING TIME SET TO *nn* * 1/300 SEC

説明: 示された値が暗号ポーリング時間に設定されています。この値の単位は 1/300 秒です。このパラメーターは、要求を暗号装置の内部処理キューにエンキューしてから、応答をデキューする最初の試行までの時間間隔を指定します。値を大きくすると、ジョブの経過時間は増しますが、CPU 時間は減りません。値を小さくすると、ジョブの経過時間は最小化されますが、CPU 時間は大幅に増えます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J039E INVALID POLLING TIME ENTERED (VALID: 0..99)

説明: 無効な暗号ポーリング時間間隔が入力されました。有効な値は 0 から 99 の範囲です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J040I WAIT ON BUSY TIME SET TO *nn* * 1/300 SEC

説明: 示された値が暗号使用中待ち時間に設定されています。この値の単位は 1/300 秒です。このパラメーターは、暗号装置の応答が、使用中、リセット進行中、またはキュー・フル状態だったときに、要求を再キューイングする 2 試行間の時間間隔を示します。有効な値は 0 から 99 の範囲です。再試行カウント・パラメーターと合わせて使用し、暗号要求の最終デキューまでの最大時間間隔を調整できます。このとき、特定の要求の最長完了時間は、次のように計算されます。

再試行回数 * 使用中待ち時間 * 1/300 秒 + 他の要求によるオーバーヘッド

デフォルトの使用中待ち時間は 75/300 秒、つまり 1/4 秒です。デフォルトの再試行回数は 5 回です。従って、許容される最長完了時間は 5 * 1/4 秒 = 1.25 秒です。

関連する暗号コマンドを以下に示します。

- APWAIT=*nn* : AP 暗号ポーリング時間間隔を 1/300 秒単位で設定します。
- APBUSY=*nn* : 使用中待ち時間の時間間隔を 1/300 秒単位で設定します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J041E INVALID WAIT ON BUSY TIME ENTERED (VALID: 0..99)

説明: 無効な使用中待ち時間間隔が入力されました。有効な値は 0 から 99 の範囲です。

関連する暗号コマンドを以下に示します。

- APWAIT=*nn* : AP 暗号ポーリング時間間隔を 1/300 秒単位で設定します。
- APBUSY=*nn* : 使用中待ち時間の時間間隔を 1/300 秒単位で設定します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J042W AP *nn* IS ALREADY DISABLED

説明: AP を無効にしようとしたますが、既に無効にされています。

関連する暗号コマンドを以下に示します。

- APADD AP=*nn* : AP を暗号環境に追加 (有効化) します。
- APREM AP=*nn* : AP を除去 (無効化) します。
- STATUS=CR : 現在の暗号状況を表示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J043W AP *nn* IS ALREADY ENABLED

説明: AP を有効にしようとしたますが、既に有効にされています。

関連する暗号コマンドを以下に示します。

- APADD AP=*nn* : AP を暗号環境に追加 (有効化) します。
- APREM AP=*nn* : AP を除去 (無効化) します。
- STATUS=CR : 現在の暗号状況を表示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J045I NUMBER OF REQUESTS BEING PROCESSED BY AP QUEUE *nn*

説明: このメッセージは、HW 暗号コマンド APQUE を入力したときに出されます。このメッセージに続いて、この LPAR または VM ゲストに割り当てられている AP のリストが表示され、このリストに、現在処理されている要求の数が表示されます。サポート・エレメントを通じて AP をオフに切り替えるには、現在処理されている要求の数がゼロになっている必要があります。オペレーターは、通常は、まず APREM コマンドを使用して AP を無効化し、次に APQUE コマンドを使用して、サポート・エレメントにより AP をオフに切り替えても安全な状態であるかどうかを確認します。

関連する暗号コマンドを以下に示します。

- APADD AP=*nn* : AP を暗号環境に追加 (有効化) します。
- APREM AP=*nn* : AP を除去 (無効化) します。
- STATUS=CR : 現在の暗号状況を表示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: オフに切り替える AP に未処理要求がなくなるまで APQUE コマンドを入力し直します。

プログラマーの応答: なし。

1J046I HISTORY OF AP QUEUE *nn*

説明: このメッセージは、HW 暗号コマンド APHIST を入力したときに出されます。出力には、この LPAR または VM ゲストに割り当てられているすべての AP と、既に処理された暗号要求の詳細リストが表示されます。この出力は、このシステ

ムが処理した暗号要求の数とタイプに関する統計に使用できません。

関連する暗号コマンドを以下に示します。

- STATUS=CR : 現在の暗号状況を表示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J047I FOUND A CRYPTO EXPRESS3 CARD AT AP *nn*

説明: Crypto Express3 カードが AP 番号 *nn* で検出されました。詳細については、メッセージ 1J023I の説明を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J048I AP QUEUE ADAPTER INTERRUPTS ENABLED

説明: このメッセージは、AP キュー・アダプターの割り込みが使用可能な場合にコマンド APEAI を実行すると出されます。AP 割り込みについて詳しくは、「IBM z/VSE 管理」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J049I AP QUEUE ADAPTER INTERRUPTS DISABLED

説明: このメッセージは、AP キュー・アダプターの割り込みが使用不可な場合にコマンド APDAI を実行すると出されます。AP 割り込みについて詳しくは、「IBM z/VSE 管理」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J050I FAILED TO ENABLE/DISABLE AP INTERRUPTS

説明: AP キュー・アダプターの割り込みを使用可能にしようとして失敗した場合、このメッセージが出されます。失敗に関する詳細は、AP トレース機能 (コマンド APTRACE=0) を使用可能にし、AP 割り込みの有効化を再試行することにより取得できます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J054I FOUND A *type* CARD AT AP *nn*

説明: Crypto Express カードが AP 番号 *nn* で検出されました。カードのタイプはメッセージ内に示され、例えば Crypto Express4S と示されます。詳細については、メッセージ 144 ページの『1J023I』の説明を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

1J055I nm AP QUEUES (DOMAINS) ASSIGNED

説明: この LPAR または z/VM ゲストに割り当てられている *nm* AP キュー (暗号ドメイン) が存在します。最小の番号を持つ AP キューが z/VSE 暗号装置ドライバによって使用されます。他のドメイン番号は無視されます。STATUS=CR コマンドを使用して、オペレーター・コンソール上の現在の暗号構成を表示できます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1J057I AP INTERRUPTS NOT AVAILABLE ON THIS SYSTEM

説明: このメッセージが出されるのは、オペレーターが AP 割り込みを使用可能にしようとしたが、AP 割り込み機能をこのシステム上で使用できない場合です。考えられる理由は、この z/VSE システムが z/VM で動作しているか、ハードウェアが AP 割り込みをサポートしていないことです。

システムの処置: この暗号装置ドライバはポーリングの使用を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1Kxx= 並列アクセス・ボリュームのメッセージ**1K01I ALIAS DEVICE cuu FOR BASE cuu ESTABLISHED**

説明: 「並列アクセス・ボリューム」(PAV) 活動化の間に、別名装置、および対応するベース装置が識別されています。システムの処置: 処理は、別名装置を入出力にも使用して続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1K02E ALIAS DEVICE cuu INITIALIZED. ADDED DEVICE FORCED OFFLINE

説明: 「並列アクセス・ボリューム」(PAV) 活動化の間に、IPL 時に既に「追加された」別名装置が識別されています。システムの処置: 処理は、別名装置を入出力にも使用して続行されます。追加された装置はオフラインに設定され、使用不可

[ボックス処理] のマークが付けられます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 別名装置を IPL 追加処理から除去します。

1K03E ALIAS DEVICE cuu FOR BASE cuu IGNORED. MAXIMUM REACHED

説明: 「並列アクセス・ボリューム」(PAV) 活動化の間に、ベースあたりのサポートされる別名装置の最大数に既に到達した後で別名装置が識別されました。

システムの処置: 処理は別名装置を使用しないで続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ハードウェア関連の別名定義を編集して、z/VSE の制限に適合させてください。

1Lxx= ラベル・エラー・メッセージ**1L0nt INVALID LABEL SYNTAX**

説明: メッセージ ID 内の *n* については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。このメッセージが出される原因は次のいずれかです。

- EXTENT ステートメントで次のような指定エラーがあった。
 - 指定のタイプ・オペランドとディスク・ラベルが矛盾している。
 - 指定のタイプと順序番号オペランドが矛盾している。
 - 指定の上限が最大許容限度を超えている。
 - 指定の下限が上限を超えている。
 - 分割シリンダー・エクステント (タイプ 128) で、指定の下位ヘッド番号が上位ヘッド番号を超えている。
 - 順序番号が 255 を超えている。
 - 下位または上位エクステントの限界が 0。
- 影響を受けているファイルで、保管されている満了日が DLBL ステートメントで指定された満了日より早くなっている。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイ

プ・コード D の場合 - 次のいずれかの操作を行ってください。

- 可能であれば、無効なステートメントを訂正してください。
- CANCEL を入力して、ジョブを取り消してください。担当のプログラマーにメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、無効なステートメントを訂正してジョブを再実行してください。

1L1nD LABEL AREA EXHAUSTED

説明: メッセージ ID 内の *n* については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。データ・スペース上 (\$0JCL.PROC の VDISK...USAGE=DLA コマンドを参照) のラベル情報域が小さすぎて、処理に受け渡されたすべてのラベル・セットを入れることができません。このメッセージは、通常最後に処理されたラベル・ステートメントについて示すもので、読み取ったばかりのステートメントについて示しているではありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: CANCEL を入力してシステムにジョブを取り消させ、次に LSERV を実行してプログラム出力を必要に応じて使用できるよう用意してください。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: LSERV 出力を参考にしてラベルのタイプ (STDLABEL、PARSTD、および一時的ラベル) を再配分するか、ラベル・セットの数を減らして、ジョブを再実行してください。ただし、DLBL ステートメントの DSF オペランドで保護されたファイルのラベル・ステートメントは、LSERV 出力に入っていないので注意が必要です。

1L2nt TOO MANY EXTENTS SPECIFIED

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。DLBL ステートメントの後に 256 より多くの EXTENT ステートメントがありました。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- EXTENT ステートメントの数を減らして、可能であれば、DLBL と EXTENT ステートメントのセットを再サブミットする。

プログラマーの応答: 256 以下の EXTENT ステートメントにするようエクステントの定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

1L30D LABEL WITH SAME FILENAME IN SUBAREA

説明: 以前に同じカテゴリーのラベル情報 (例えば同じ区画用の永続的情報など) について定義されたファイルに対し、ラベル情報を追加しようとしてしました。

システムの処置: ラベル情報の 2 回目の定義は無視されません。システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 拒否されたラベル情報ステートメントが、正しいファイル名を指定しているかどうか調べてください。その結果によって、次のいずれかの操作を行ってください。

- END/ENTER を押して、新しく指定されたラベル情報ステートメントをシステムに無視させ、処理を継続してください。
- OPTION STDLABEL=ADD か OPTION PARSTD=ADD または CLASSTD=(class,DELETE) のいずれかの後に、訂正したラベル情報ステートメントをサブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

1L41t LABEL AREA NOT DEFINED

説明: LABEL マクロ要求が発行されました

(STDLABEL.PROC によると思われる) が、BG のスタートアップ・プロシージャーに先行する VDISK...USAGE=DLA ステートメントがありませんでした。ラベル域を定義するには、\$OJCL.PROC に VDISK...USAGE=DLA ステートメントがなければなりません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 -
 - ラベル域を定義する場合は、VDISK UNIT=FDF,BLKS=2880,USAGE=DLA を発行します。FDF は、ラベル域を保持するためのデフォルトの仮想 FBA 装置です。必要に応じて FDF を変更します。
 - STDLABEL プロシージャーを終了する場合は、/+ を発行します。仮想ディスクに標準ラベル情報を書き込む場合は、EXEC PROC=STDLABEL を発行してください。
 - BG スタートアップ処理を続行する場合は、Enter キーを押します。

プログラマーの応答: \$OJCL.PROC を変更し、VDISK...USAGE=DLA ステートメントが EXEC PROC=STDLABEL より前に来るようにしてください。

1L5nD PARAMETER HAS OCCURRED MORE THAN ONCE

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。次のいずれかの DLBL ステートメント・オペランドが 2 回以上指定されています。BLKSIZE、BUFSP、CAT、CISIZE、DISP、RECORDS、RECSIZE

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 可能であれば、エラーのあるステートメントを訂正してください。または CANCEL を入力してジョブを取り消し、担当プログラマーにメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、エラーのあるステートメントを訂正してジョブを再実行してください。

1L60D operand PARAMETER MISSING

説明: RECORDS および RECSIZE のいずれかが指定してありますが、両方を指定してありません。両方共指定するか、両方を省略するかのどちらかにしなければなりません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 可能であれば、エラーのあるステートメントを訂正してください。それができなければ CANCEL を入力してジョブを取り消し、担当プログラマーにメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、エラーのあるステートメントを訂正してジョブを再実行してください。

1L61I DUPLICATE FILENAME IGNORED

説明: オプションの PARSTD=DELETE または STDLABEL=DELETE をもつ OPTION ステートメントの後にある入力ストリームで、重複したファイル名が見つかりました。

システムの処置: 重複したファイル名は無視され、システムは次の制御ステートメントを読み取ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1L62D INVALID FILENAME

説明: OPTION STDLABEL=DELETE か OPTION

PARSTD=DELETE の後の制御ステートメントに無効なファイル名があったか、その後に /* ステートメントがありません。システムの処置: システムは無効なファイル名を無視し、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- 有効なファイル名または /* ステートメントを実行依頼してください。
- システムに次のラベル情報ステートメント・セットを読ませたいときには、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: この無効な指定によって後のジョブに障害があれば、DLBL または TLBL ステートメントに有効なファイル名を指定してジョブを再実行してください。

1L63I LABEL *label system-response*

説明: OPTION PARSTD=DELETE、OPTION

STDLABEL=DELETE、または CLASSTD=(*class*,DELETE) が入力されました。システム応答の表示には次のものがあります。

NOT FOUND = 指定のラベル情報ステートメントが保管されていませんでした。

NOT DELETED = 先行するメッセージ 1L66D に示された理由で、このラベルを削除できませんでした。

DELETED = ラベルは削除され、このメッセージは削除の記録となります。

システムの処置: 各表示で、次の処置をとります。

NOT FOUND

処理を続行します。

NOT DELETED

システムはメッセージ 1L66D に対する応答を待ちます。

DELETED

処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1L64D OPTION PARSTD REJECTED, *Fn* IS ACTIVE

説明: PARSTD=*Fn* で指定されたフォアグラウンド区画がアクティブのときに、OPTION PARSTD=*Fn* が検出されました。

システムの処置: システムはこのオプションを無視し、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

1. 区画に UNBATCH を出してください。
2. 拒否された OPTION ステートメントを、その後のラベル情報ステートメントと共に再入力してください。
3. 区画に START または BATCH を出してください。

プログラマーの応答: なし。

1L65t INVALID OR INCOMPLETE OPERAND(S)

[*invalid-field*]

説明: OPTION ステートメントが誤って指定されました。オペランドが欠落していると、システムは無効なフィールドを表示しません。システムが論理エラーを検出した場合、そのエラーの原因は以下のうちのいずれかです。

- OPTION STDLBL がフォアグラウンド区画で指定された。
- フォアグラウンド区画から、別の区画に対してラベル情報域の更新が要求された。
- 存在しない区画に対して、ラベル情報区域の更新が要求された。
- OPTION ステートメントで、STDLABEL=DELETE、PARSTD=DELETE、または CLASSTD=DELETE の指定のあとにオペランドが続いている。
- OPTION CATAL または LINK がフォアグラウンド区画で指定された。
- 監視プログラムによってサポートされていない区画に関して、永続ラベル情報を保管しようとした。
- OPTION CLASSTD のあとに無効な指定がなされた。

システムの処置: 無効なフィールドとそれ以降のすべてのオペランドは、処理されません。タイプ・コード I の場合 - システムは次のステートメントを読み取ります。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- 処理されなかったオプションを、正しく再入力する。
- END/ENTER を押す。これにより、システムはエラー状態を無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 影響を受けたジョブが最終的に取り消された場合、必要なラベル情報を保管してから、そのジョブを再実行してください。

1L66D INTERMEDIATE STORAGE EXHAUSTED

説明: OPTION STDLABEL=DELETE か OPTION

PARSTD=DELETE がサブミットされました。しかし、ラベル情報域で使用できるワークスペースが不足しているため、削除操作を完了できませんでした。

システムの処置: ラベルは削除されず、メッセージ 1L63I に表示されます。システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押して、システムが処理を続行するようにしてください。メッセージをプログラマーに報告してください。
- // OPTION USRLABEL か // OPTION PARSTD をサブミットし、該当の区画でラベル情報域中の一部のスペースを解放してください。その後削除要求を再入力してください。
- 次の操作で、影響を受ける情報カテゴリーのラベル情報域を再構成してください。
 1. // OPTION STDLABEL または // OPTION PARSTD のいずれか該当する方を出してください。

2. OPTION ステートメントのすぐ後に、必須ラベル情報ステートメント (DLBL、EXTENT、TLBL) を全部出して下さい。
- スタートアップ・プロシージャ \$0JCL.PROC 内の VDISK...USAGE=DLA コマンドの BLKS 値を大きくすることにより、次のシステム・スタートアップのラベル情報域を拡張して下さい。
- プログラマーの応答: 「オペレーターの応答」を参照して下さい。

1L67D ENTER FILENAME OR /*

説明: OPTION PARSTD=DELETE または OPTION STDLABEL=DELETE CLASSTD=(class,DELETE) が指定されました。システムは、ファイル名を指定するように、あるいはもうラベル情報レコードを削除する必要がなければ、終了標識 (/*) を入力するように、指示しています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- ラベル情報レコードを削除したいファイルの名前を入力して下さい。
- /* を入力して、入力を終了して下さい。
- ファイル名を SYSRDR から読み取るのであれば、END/ENTER を押して下さい。

プログラマーの応答: なし。

**1L68D OPTION CLASSTD REJECTED,
PARTITIONS ACTIVE OR CLASS
ENABLED**

説明: // OPTION ステートメントには CLASSTD=class、CLASSTD=(class,ADD)、または CLASSTD=(class,DELETE) が指定されています。このステートメントは、指定したクラス class が使用不可であり、クラス class に属する動的区画の中でどのジョブもアクティブでない場合のみ使用できます。

システムの処置: システムはこのオプションを無視し、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- クラス class に属する動的区画の中でどのジョブもアクティブでないことを確かめる。
- PVARY, DYNC, DISABLE, class を使用して、指定したクラスを使用不可にする。
- 拒否された OPTION CLASSTD ステートメントを、付随するラベル情報ステートメントと共に再入力する。
- PVARY DYNC, ENABLE, class コマンドを出す。

プログラマーの応答: なし。

1Mxx および 1Nxx= カタログ式プロシージャ・メッセージ**1M10D JOB CONTROL FAILURE**

説明: プロシージャの処理中に、ジョブ制御が元の SYSRDR の割り当て、または SYSIPT の割り当て、あるいはその両方の割り当てに関する情報を失いました。おそらくシステム・エラーと思われる。

システムの処置: ジョブは取り消され、システムはオペレーターの応答を待ってからジョブ終了にスキップします。

オペレーターの応答: SYSRDR または SYSIPT (あるいはその両方) をクローズして再割り当てし、可能であればジョブを再

**1L70D OPTION CLASSTD IS ONLY VALID IN
THE BG PARTITION**

説明: 適用外。

システムの処置: システムはこのオプションを無視し、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して下さい。ジョブの実行を取り消すか、正しいオプション・ステートメントを入力し、実行キーを押して処理を続行します。

プログラマーの応答: ジョブを BG 区画にサブミットして下さい。

1L90I INVALID CLASS IS SPECIFIED

説明: LSERV ユーティリティ・プログラムは PARM='CLASSTD=class' の指定で呼び出されています。指定された 'class' は有効な動的クラスではありません。

システムの処置: LSERV プログラムは終了します。

オペレーターの応答: プログラマーの処置を参照して下さい。

プログラマーの応答: 'class' を訂正して、再び LSERV プログラムを実行して下さい。

**1L91I INVALID SYSLOG IDENTIFIER IS
SPECIFIED**

説明: LSERV ユーティリティ・プログラムは PARM='PARSTD=syslogid' の指定で呼び出されています。指定された 'syslogid' は静的区画を示していません。

システムの処置: LSERV プログラムは終了します。

オペレーターの応答: プログラマーの処置を参照して下さい。

プログラマーの応答: 'syslogid' を訂正して、再び LSERV プログラムを実行して下さい。

1L92I INVALID PARAMETER IS SPECIFIED

説明: LSERV ユーティリティ・プログラムは、PARM パラメーターを使用して呼び出されましたが、指定されたパラメーターは有効ではありません。正しい構文については、「z/VSE System Utilities」を参照して下さい。

システムの処置: LSERV プログラムは終了します。

オペレーターの応答: プログラマーの処置を参照して下さい。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正して、再び LSERV プログラムを実行して下さい。

実行して下さい。メッセージが繰り返し表示される場合は、担当のプログラマーに報告して下さい。

プログラマーの応答: ジョブを再実行して下さい。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼して下さい。保管しておく必要のあるデータについては、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照して下さい。

**1M20D INVALID ACTION CODE IN
OVERWRITE STATEMENT**

1M21D • 1M80D

説明: 上書き処理中、ジョブ制御は処置コード「A」を予期していましたが、「A」以外のコードが与えられました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押す。これにより、システムは対応する上書きステートメントを無視して処理を続行します。
- 処置コードを訂正する。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 処置コードまたは上書きステートメントの順序の、いずれか該当する方を訂正し、ジョブを再実行してください。

1M21D EXCESS JOB STATEMENT ENCOUNTERED

説明: ジョブがアクティブのときに、システムはプロシージャの中で JOB ステートメントを見つけました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 該当するプロシージャを調べ、必要に応じて訂正を加えてください。ジョブを再実行してください。

1M3nD VALID ONLY DURING OVERWRITE PROCESSING

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。システムは OVEND ステートメントを見つけましたが、上書きステートメントは処理されていません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、そのステートメントが入力ストリームに属していなければ、ステートメントを取り除いてください。属している場合は、入力を訂正してください。ジョブを再実行してください。

1M4nD INVALID AS OVERWRITE OR INSERT STATEMENT

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。処理中のステートメントにエラーがあります。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、無効なステートメントを取り除くか訂正してください。ジョブを再実行してください。

1M6nt PHASE NAME MISSING

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。現在処理中の EXEC ステートメントまたはコマンドで、オペランド PGM= が指定されていますがフェーズ名がありません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - 訂正したステートメントを入力する。
 - END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、エラーのあるステートメントを訂正してジョブを再実行してください。

1M7nt INVALID KEYWORD

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。現在処理中の EXEC ステートメントまたはコマンドで、PROC= または PGM= 以外のキーワードが先頭に指定されています。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - 訂正したステートメントを入力する。
 - END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、エラーのあるステートメント (またはコマンド) を訂正してジョブを再実行してください。

1M80D NOT ALLOWED IN PROCEDURE WITH OV

説明: 指定変更機能 (...OV) で活動化されたプロシージャの処理中、システムが別の (ネストされた) プロシージャを見つけました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合、
- 指定変更要求のある EXEC ステートメントを、そのような要求のない EXEC ステートメントに置き換えてください。または
 - プロシージャーのネストを避けるように、プロシージャー・セットを書き換えてください。

ジョブを再実行してください。

1M81D PROC STATEMENT OUTSIDE OF A PROCEDURE

説明: システムはプロシージャーの外部で PROC ステートメントを見つけました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、ステートメントをジョブ・ストリームから取り除いて、ジョブを再実行してください。

1M82I PROCEDURE PROCESSING WILL BE TERMINATED

説明: システムが、プロシージャーの処理を異常終了しました。理由は、この前に出されたメッセージに示されています。オペレーターの応答: このシステムの処置を行った理由を示しているメッセージを参照してください。

プログラマーの応答: このシステムの処置を行った理由を示しているメッセージを参照してください。

1M9nt INVALID NAME, PARAMETER OR DELIMITER

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。

説明: 現在処理中の EXEC ステートメント (またはコマンド) に無効な名前、オペランドの指定、または区切り文字がありました。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - 訂正したステートメント (またはコマンド) を入力する。
 - END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、エラーのあるステートメント (またはコマンド) を訂正してジョブを再実行してください。

1N00I INVALID CONSOLE DEVICE FOR OVERWRITE. OVEND FORCED

説明: オペレーターは EXEC PROC=name,OV を入力しましたが、現在処理中のプロシージャーは SYSLOG を UA または印刷装置に割り当てました。

システムの処置: プロシージャーは上書きステートメントなしで実行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プロシージャーの実行によって誤った、または予想と異なる結果が生じた場合には、

1. プロシージャーの処理が終わるまで SYSLOG を有効なコンソール装置に割り当てておくよう、プロシージャーを変更してください。
2. ジョブを再実行してください。

1N10D COMMAND FORMAT VALID ONLY FOR SYSLOG

説明: システムは SYSRDR 装置から EXEC PROC=name コマンドを読み取りましたが、このコマンドを受け入れるのは SYSLOG 装置からだけです。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 拒否されたコマンドを入力する。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、SYSRDR 装置からの入力ストリーム中の EXEC ステートメント (EXEC コマンドではなく) を使用して、そのジョブを再実行してください。

1N11t REXX/VSE NOT FOUND IN SVA

説明: REXX キーワードの指定された EXEC コマンドが出されましたが、REXX プロシージャーを実行しなければならないフェーズが SVA にありません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前の EXEC ステートメントを無視します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: REXX/VSE が正しくインストールされているかどうかを検査してください。正しくインストールされ

ていなかった場合は、REXX インストール・ジョブ ARXINST (サブライブラリー PRD1.BASE 内のメンバー ARXINST.Z) を実行してください (詳細については、「IBM VSE/ESA VSE 中央機能 VSE/REXX 解説書」を参照)。REXX/VSE がインストールされて正常に初期設定されたら、ジョブを再実行してください。

1N2nt PROCEDURE NOT FOUND

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。現在処理中の EXEC ステートメント (またはコマンド) がプロシーチャーを要求していますが、システムはアクセス可能と定義されたサブライブラリーで見つけることができません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - 可能であれば、新たに正しい EXEC コマンドを入力する。
 - IGNORE を入力する。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
 - END/ENTER を押してジョブを取り消してください。アクセス可能として定義されたサブライブラリーに LISTDIR を実行し、その出力を必要に応じて使用できるよう用意してから、担当のプログラマーにメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: 呼び出されるプロシーチャーの名前につづりの誤りがないかどうか調べてください。タイプミスがない場合、LIBR SEARCH procname.PROC LIB=* の出力を調べ、そのプロシーチャーが 1 つまたは複数のサブライブラリーにカタログされているかどうか確認してください。LIBDEF PROC 検索順序チェーンを訂正、またはプロシーチャーをカタログし、ジョブを再実行してください。

1N7nD STATEMENT VALID ONLY DURING PROCEDURE PROCESSING

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。EOP ステートメントが読み取られましたが、処理中のプロシーチャーはありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、ジョブ入力ストリームからステートメントを取り除くか、その他の必要な訂正を行ってください。ジョブを再実行してください。

1N80I EOP OR EOJ DETECTED BEFORE OVEND. OVEND IS FORCED

説明: EOP または EOJ が読み取られましたが、そのステートメントの前に予想される OVEND ステートメントがありません。

システムの処置: システムは、強制的に上書きを終了させて、SYSRDR から入力されるジョブの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 今後このメッセージが出ないように、ジョブを再実行する前に OVEND ステートメントを挿入しておいてください。

1N90I EOP WAS FORCED BY EOJ

説明: システムがプロシーチャーを処理中に、ジョブの終わり状態になりました

システムの処置: システムは該当するプロシーチャーの処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1N91I SYSRDR NOT ASSIGNED FOR OVERWRITE. OVEND FORCED

説明: // EXEC PROC=name,OV ステートメントがコンソールから入力されましたが、SYSRDR が割り当てられていません。

システムの処置: システムが上書きステートメントを受け入れられないまま、プロシーチャーは実行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 上書きなしのプロシーチャー処理で、誤った結果が出る場合は、上書きステートメントを SYSRDR 装置から使用できるようにしてジョブを再実行してください。

1N92D PROCEDURE CANNOT BE EXECUTED. ENTER /& OR JOB STATEMENT

説明: 処理中のジョブが取り消されました。取り消し処理が終了するまで、該当の区画でプロシーチャーを処理することはできません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- /& または JOB ステートメントを入力し、プロシーチャー呼び出しをもう一度出してください。
- END/ENTER を押して、取り消し処理を継続してください。

プログラマーの応答: ジョブ取り消しの理由を調べてください。影響を受けたジョブ・ストリームを必要に応じて訂正し、取り消されたジョブ (1 つまたは複数) を再実行してください。

1Pxx= アテンション・ルーチン・メッセージ

1P01D INVALID ALLOCATION, RC=*nm*

説明: *nm* (ALLOCATE マクロから渡された戻りコード) によって示される理由のために、要求された仮想記憶を割り振ることができませんでした。戻りコードの説明については、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。

システムの処置: システムは割り振り要求を無視し、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 正しい割り振りの値を入力したかどうか確かめてください。誤りがあれば、訂正した ALLOC コマンドを再入力してください。それらが正しく、また、再割り振りせずにシステムがジョブを処理できるようであれば、他の有効なコマンドを入力してください。この状態を処理できない場合には、プログラマーに連絡して支援を依頼してください。

プログラマーの応答: オペレーターがこの状況を処理できない場合には、割り振りの指示を確認し、必要に応じて訂正を行ってください。

1P02D INVALID ALLOCATION, RC=*nm*

説明: *nm* (ALLOCATE マクロから渡された戻りコード) によって示される理由のために、要求されたプロセッサ (実) ストレージを割り振ることができませんでした。戻りコードの説明については、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。

システムの処置: システムは割り振り要求を無視し、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 正しい割り振りの値を入力したかどうか確かめてください。誤りがあれば、訂正した ALLOC コマンドを再入力してください。それらが正しく、また、再割り振りせずにシステムがジョブを処理できるようであれば、他の有効なコマンドを入力してください。

プロセッサ・ストレージの再割り振りを行えなかった場合には、プログラマーに連絡して援助を依頼してください。

プログラマーの応答: オペレーターがこの状況を処理できない場合には、割り振りの指示を確認し、必要に応じて訂正を行ってください。

1P03I ALLOCATION COMPLETED, WARNING, RC=04

説明: 割り振りの間に、区画の PFIX または SIZE 限界が暗黙に変更されたか、または実際の割り振りの場合には、少なくとも一つの区画で、無効なページ・フレーム・テーブル項目が検出されました。

システムの処置: システムは区画を再び割り振り、処理を続行します。

オペレーターの応答: MAP コマンドを出し、新しい区画割り振りをシステムに表示させてください。メッセージをプログラマーに報告し、必要に応じて MAP コマンド出力を利用できるようにしてください。

プログラマーの応答: 新しい割り振りで、システムを無事に操作できる場合は、処置は不要です。そうでなければ、オペレーターに違う割り振り要求を出させてください。必要に応じて、オペレーターからシステムの現在の区画割り振りを入手してください。

1P04D INVALID SIZE VALUE FOR {THIS PARTITION|PARTITION *partition-id* } [RC=*nm*]

説明: 現行の区画、または、指示された区画 *partition-id* に対する SIZE 要求を処理できません。戻りコード *nm* が表示されない場合は、指定された (または計算された) SIZE 値が 16 MB 以上です。戻りコード *nm* が表示されている場合は、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』の (SETLIMIT マクロ) 戻りコード *nm* の説明を参照してください。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- SIZE コマンドでその区画に指定した値を確認する。間違いない場合は、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』の (SETLIMIT マクロ) 戻りコード *nm* の説明を参照してください。適切な処置を行ってください。
- END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: オペレーターがこのメッセージを報告し、オペレーターの応答の結果、1 つ以上のジョブが失敗した場合、SIZE の指定を調整してジョブを再実行してください。

1P05D SYNTAX ERROR IN SIZE COMMAND - *error-field*

説明: 表示されているフィールド (SIZE コマンドのオペランド) にエラーがあります。

システムの処置: 影響を受ける区画の SIZE の値は保管されません。またエラー・フィールドの後で他の区画に指定された SIZE の値も保管されません。それ以前の有効な指定は処理されました。システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- SIZE 指定がまだ処理されていない区画について、有効な SIZE コマンドを入力する。
- 全区画についてまったく新しい SIZE コマンドを入力するか、または他の有効なコマンドを入力する。
- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: オペレーターがこのメッセージを報告し、オペレーターの応答の結果 1 つ以上のジョブが失敗した場合は、SIZE の指定を調整してそれらのジョブを再実行してください。

1P07I SPECIFIED CHANNEL/UNIT/DEVICE NOT DEFINED

説明: VOLUME/QT コマンドが実行されました。渡されたパラメーターを満たす装置は見つかりませんでした。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1P1nD AREA NOT AVAILABLE OR PARTITION ACTIVE

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。このメッセージは、次のいずれかの原因によって出されます。

- アクティブ区画に START または BATCH コマンドが出されました。
- フォアグラウンド域が割り振られていません。
- 割り振られたフォアグラウンド域が小さすぎます。
- 区画は現在非活動化されており、始動することはできません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- MAP コマンドを入力し、影響を受けたフォアグラウンド域に十分な大きさがあるかどうかを調べてください。この区域の大きさは 128 K 以上でなければなりません。小さすぎる場合は、ストレージの再割り振りを入力してください。
- CANCEL、IGNORE、または END/ENTER を入力してください。

問題が繰り返し発生するようであれば、担当のプログラマーにメッセージを報告してください。MAP コマンドの出力を必要に応じて使用できるよう用意しておいてください。

プログラマーの応答: このメッセージが報告されたら、適切な区画の割り振りを行い、それらを該当する ASI JCL プロシージャ中で定義してください。

1P2nt REAL PARTITION SIZE=0. REAL MODE PROGRAM CANNOT BE EXECUTED

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。処理中の EXEC ステートメントに REAL オペランドを指定していますが、該当する区画にプロセッサ (実) ストレージが割り振られていません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- END/ENTER を押してシステムに処理を続行させる (この結果、多くの場合、後でジョブ取り消し状況になります)。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- ALLOCR コマンドを使ってその区画にプロセッサ・ストレージを割り振り、ジョブを再実行する。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、プロセッサ・ストレージが割り振られている区画でジョブを再実行してください。

1P30I UPDATE ON PREFIX PAGE NOT POSSIBLE IN MP ENVIRONMENT

説明: システムはマルチプロセッサ (MP) であるにもかかわらず、ALTER コマンドが入力されました。

マルチプロセッサ環境では、各 CPU は、X'0' から X'FFF' の範囲内のアドレスをストレージの別のページ枠に再配置するために使用するプレフィックス・レジスタをもっています。プレフィックス・レジスタにより、各プロセッサは異なるページ枠を使用することができ、割り込みコード記録のようなアクティビティについて、他のプロセッサとの矛盾を避けることができます。したがって、X'0' から X'FFF' の範囲 (この文脈では、プレフィックス・ページと呼ばれます) は、どの CPU がアドレスを生成するかに応じて、ストレージの異なる区域を表します。

システムの処置: 以下の条件がすべて真であるため、ALTER コマンドは無視されます。

- ターボ・ディスパッチャー がアクティブである。
- 少なくとも 1 つの CPU が開始されている。
- X'1000' より下の 16 進アドレスが、ALTER コマンドのオペランドとして指定されている。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1P44I PREVIOUS command COMMAND IGNORED OR SUSPENDED

説明: 前に入力されたコマンドの処理が終わる前に、オペレーターがアテンション・コマンドを入力しました。あるいは内部エラーのためにアテンション・コマンドが取り消されました。

システムの処置: システムは未処理のコマンドを無視または中断し、メッセージ 1140I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1P45I DEVICE IN USE, TO EXECUTE COMMAND REPLY 'YES'

説明: MTC コマンドに指定された装置は、現在使用中です。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: コマンドの実行が、テープの位置付けまたは他の処理問題を起こさないことを確認し、次に 'YES' を応答してコマンドを実行してください。'YES' 以外のものを応答すると、コマンドは無視されます。

プログラマーの応答: なし。

1P46I COMMAND IGNORED

説明: 内部状態が原因で最後のコマンドは処理されず、単に無視されました。内部状態はまもなく変更されるはずですが。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 次のコマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1P51D UNLOCK COMMAND FOR OWN SYSTEM, NOT ALLOWED

説明: 現在処理中の UNLOCK コマンドは、コマンドが渡されたシステムをアンロックしようとしています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントを入力する。

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: なし。

1P52D **RELEASING ALL SYSTEM *system-name* LOCKS. REPLY 'YES' OR 'NO'**

説明: このメッセージは、メッセージが表示されているコンソールから出された UNLOCK 要求の確認を行うプロンプトです。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のように応答します。

- メッセージに示されているシステムのロックをすべて解放したければ、YES と応答してください。
- UNLOCK コマンドを取り消したければ、NO と応答してください。

プログラマーの応答: なし。

1P54I **UNLOCK COMMAND ABORTED**

説明: メッセージ 1P52D に対して、NO の応答が出されました。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1P55D **INVALID SYSTEM-ID SPECIFIED**

説明: 現在処理中の UNLOCK コマンドに、存在していないシステム ID が指定してあります。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 有効なシステム ID を指定して

UNLOCK コマンドを再入力するか、他の有効なコマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1P56D **SYSTEM ERROR, *macro/module-name* RET.CODE = *nn***

説明: メッセージ・テキストで示されたモジュールまたはシステム内部マクロが、予期しない戻りコードを渡しました。戻りコードの説明については、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 担当プログラマーにメッセージを報告し、次のいずれかの操作を行ってください。

- このメッセージが EXEC PROC=*proc.-name* 制御ステートメントまたはコマンドの直後に出されたときは、ジョブに対して CANCEL を入力してください。(他の区画のジョブは通常影響を受けないため、それらを取り消す必要はありません。)
- システムがマクロ/モジュール名として GETVIS を表示し、戻りコードが 0C の場合には、システムの GETVIS スペース (SVA 中の) を使いきっています。今のところ必要

のないシステム・ファイル (例えば SYSLNK や SYSPCH) のうち、FBA ディスクに割り当てられているものを、割り当て解除してみてください。

プログラマーの応答: 考えられる修正については、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。ジョブを再実行してください。メッセージに弊社提供のマクロまたはモジュールが示されている場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。保管しておく必要のあるデータについては、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

1P60I **NO ROUTINE LINKAGE**

説明: MSG コマンドが出されましたが、現在処理中のプログラムはオペレーター出口ルーチンへのリンケージをもっていません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: プログラムを調べて、STXIT マクロが、オペレーターが MSG コマンドを出す前に出されていることを確かめてください。必要ならば、SDAID を、STXIT マクロの実行を指示するトレース SVC 20 に設定してジョブを再実行してください。必要な訂正をプログラムに加え、ジョブを再実行してください。

1P70I **PROCESSING ROUTINE ACTIVE**

説明: オペレーター通信リンケージがすでにアクティブである区画に対して、MSG コマンドが出されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1P76I **A POWER CONTROLLED PARTITION OR CLASS HAS A HIGHER PRTY THAN POWER**

説明: VSE/POWER 区画には、VSE/POWER 制御区画よりも高い PRTY が必要です (明示的に指定されていない場合でも)。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 正しい PRTY 文字列を指定したコマンドを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

1P77I **TOO MANY BALANCED GROUPS SPECIFIED, ALLOWED ARE *xx***

説明: *xx* には、システムで許可されている平衡型グループの数が表示されます。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 許可されている平衡型グループの数を指定したコマンドを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

1Qxx=VSE/POWER メッセージ

1Qxx メッセージは中央オペレーター端末に出されます。

注: VSE/POWER は、メッセージにおいて、*cuu* (チャンネルおよび装置アドレスを表す) を以下のいずれかが該当するもので置き換えます。

- 関与しているユニット・レコード装置のチャンネルおよび装置番号。
- 関与しているテープ・ドライブまたはディスク・ドライブのチャンネルおよび装置番号。
- GETSPOOL、CTLSPOOL または SAS GET/CTL 機能が関与している場合、GSP。
- PUTSPOOL または SAS PUT 機能が関与している場合、PSP。

1Q01I VSE/POWER CANNOT RUN IN REAL MODE

説明: VSE/POWER の始動に使用される // EXEC ステートメントに REAL パラメーターが含まれています。
 システムの処置: VSE/POWER の開始は終了します。
 オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。
 システム・プログラマーの応答: // EXEC ステートメントから REAL パラメーターを除外してください。

1Q02I VSE/POWER CANNOT RUN AS A SUBTASK

説明: VSE/POWER が、メインタスクのサブタスクとして生成されました。しかし、VSE/POWER はメインタスクとして実行される必要があります。
 システムの処置: VSE/POWER の開始は終了します。
 オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。
 システム・プログラマーの応答: VSE/POWER の環境を変更して、VSE/POWER が、生成された区画の 1 つでメインタスクとして実行されるようにしてください。

1Q03I INSUFFICIENT REAL/PFIXED STORAGE ALLOCATED

説明: VSE/POWER 区画には VSE/POWER を開始するのに必要なだけのプロセッサ (実) ストレージが割り振られていません。
 システムの処置: VSE/POWER の開始は終了します。
 オペレーターの応答: 実区画の適切なサイズについて、担当のシステム・プログラマーに尋ねてください。SETPFIX LIMIT コマンドを使用して、VSE/POWER 区画に対応する実区画のサイズを増やしてください。
 システム・プログラマーの応答: 実記憶として割り振られる必要のあるストレージの必要量を計算してください。これを行うには、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」に記載されている指針に従ってください。VSE/POWER が必要としないページ・フレームは、ページ・プールに使用されます。

1Q04I QUEUE/DATA FILE MISMATCH, RC=nnnn

説明: 初期設定時に VSE/POWER が、受け入れ不可能なキュー・ファイルまたはデータ・ファイルを検出したか、キュー・ファイルとデータ・ファイルの間で、理由コード (RC) で暗黙指定された不一致を検出しました。nnnn は次のいずれかです。

RC=0001:

ディスク上に存在するキュー・ファイルを作成したバ

ージョンとは異なるバージョンの VSE/POWER でウォーム・スタートが試行されました。さらに、以下のいずれかも原因です。

- ディスク上のキュー・ファイルが V6R7 より下のレベルです。
- ディスク上のキュー・ファイルが現在の VSE/POWER のバージョン/リリースよりも上のバージョン/リリースです。
- オペレーターがメッセージ 1Q0HD で「ウォーム・スタート時のリリースの移行」を拒否しました。
- メッセージ 1Q0JA で示されたとおりに、「ウォーム・スタート時のリリースの移行」を延期しなければなりません。
- このウォーム・スタートには、キュー・ファイルの再割り振りも要求されていました。
- このウォーム・スタート中に、データ・ファイルの拡張がまだ進行中だったことが判明しました。

RC=0002:

ウォーム・スタートされたキュー・ファイルのマスター・レコードの DBLK サイズが、ウォーム・スタートされたデータ・ファイルの DBLK サイズと一致しません。すなわち、キュー・ファイルとデータ・ファイルが適合しません。

RC=0003:

ウォーム・スタートされたデータ・ファイルの最初の DBLK GROUP に、有効な SER レコード構造が含まれていません。おそらく、データ・ファイルがディスク上にまったく見つかりませんでした。

RC=0004:

ウォーム・スタートされたキュー・ファイルのマスター・レコードの DBLK サイズが、ウォーム・スタートされたデータ・ファイルの最初の SER レコード内の DBLK サイズと一致しません。すなわち、キュー・ファイルとデータ・ファイルが適合しません。

RC=0005:

ウォーム・スタートされたキュー・ファイルのマスター・レコードの DBLK GROUP サイズが、ウォーム・スタートされたデータ・ファイルの最初の SER レコード内の DBLK GROUP サイズと一致しません。すなわち、キュー・ファイルとデータ・ファイルが適合しません。

システムの処置: VSE/POWER の開始は終了します。

オペレーターの応答: RC=0001 の場合は、ディスク上のキュー・ファイルに一致する VSE/POWER バージョンおよびリリ

ース (先に出されたメッセージ 1Q0HI を参照) でウォーム・スタートを実行してください。

この他の理由コードの場合は、キューとデータ・ファイルの DLBL/EXTENT/ASSGN が正しく指定されているかどうかを確認して、ウォーム・スタートを再試行してください。正しく指定されていない場合は、VSE/POWER のコールド・スタートでキューとデータ・ファイルを再形式設定してください。システム・プログラマーの応答: なし。

**1Q05I PAGEABLE AREA [nnnK] TOO SMALL,
INCREASE VALUE OF 'SIZE'
COMMAND/OPERAND
[[(JOB-|OUT-|NET-|XMT-|J+O-|N+X-)|EXIT
INCLUDED]]**

説明: VSE/POWER 区画内のページング可能域が小さすぎるため、VSE/POWER フェーズおよびオプションのユーザー定義出口をロードできません。J+O は、JOBEXIT および OUTEXIT をロードできなかったことを示しています。N+X は、PNET NETEXIT および PNET XMTEXTIT をロードできなかったことを示しています。nnnK の値は、VSE/POWER フェーズのための不足スペース量と、以前にこのタイプのメッセージですでに示されたすべてのユーザー出口のスペース量を加算した結果の値です。nnnK の値は常に 4K バイト単位で切り上げられています。

システムの処置: VSE/POWER の開始は終了します。しかし、

- 指定されたジョブ、出力出口ルーチン、PNET 読み取り出口ルーチン、または PNET 送信出口ルーチン
- VSE/POWER のネットワーク部分

がこの区画内に適合しない場合のみ、処理が続行されます。指定された PNET 出口ルーチンだけがこの区画に適合しない場合は、ネットワークの初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: 出口ルーチンをロードできなかった場合は、VSE/POWER を立ち上げてから PLOAD コマンドを使用して出口ルーチンをロードしてください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 次のいずれかの指定を拡大して、ページング可能域 (『IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作』の『VSE/POWER 区画のサイズ』も参照) を少なくとも nnnK バイトだけ拡大してください。

1. // EXEC powerphase ステートメントの SIZE オペランド
2. 対応する VSE/POWER 区画の SIZE コマンド

同時に、VSE/POWER 区画の ALLOC 量を増加すれば、区画 GETVIS 域の縮小を防ぐことができます。nnnK を省略すると、区画のサイズが小さくなりすぎるため、最初の初期設定フェーズのロード、および nnn の計算ができなくなります。

**1Q06I xxx SET OR DEFINE STATEMENT(S)
IGNORED**

説明: 誤った SET ステートメントが指定されたか、AUTOSTART プロシージャ内で FORMAT ステートメントのあとに 1 つ以上の SET または DEFINE ステートメントが見つかりました。このようなステートメントは VSE/POWER では無視されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: PDISPLAY AUSTMT を使用して、無視された AUTOSTART ステートメントを表示し、AUTOSTART プロシージャを訂正してください。

1Q07I INVALID LOGICAL UNIT filename, SYSnnn

説明: 以下のいずれかの理由で、示されたファイル名のファイルを正常にオープンすることができませんでした。

- IJAFILE が SYS000 によってアドレス指定されませんでした。
- IJQFILE が SYS001 によってアドレス指定されませんでした。
- IJDFILE が SYS002 によってアドレス指定されませんでした。

システムの処置: VSE/POWER の開始は終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: ファイルを定義している VSE ジョブ制御ステートメントまたはコマンドに、エラーがないかどうか検査してください。

**1Q08I UNABLE TO INITIALIZE support-name,
RC=nnnn**

説明: メッセージに示されたサポートが初期設定できません。理由は、理由コード (RC) で示されています。nnnn は以下のいずれかです。

RC=0001:

TCP/IP 制御ブロック (TDCB) および TCPSSL 制御ブロック (SDCB) を持つ PNET 制御ブロック (PNCB) を初期設定できるだけの固定ストレージ/実記憶がありません。

RC=0002:

必要なフェーズが、VSE/POWER 区画に割り当てられているライブラリー内に見つからなかったか、または SVA 内で見つかりました。フェーズ名は、前に出されたメッセージ 1Q15I に示されています。

RC=0003:

必要なフェーズをすべてロードできるだけのページング可能ストレージがありません。不足量はメッセージ 1Q05I に示されます。

RC=0004:

ネットワーク定義テーブルをロードできません。理由は前に出されたメッセージに示されています。

RC=0005:

以下のために必要な制御ブロックのセットアップに必要な固定ストレージがありません。

- VSE/POWER スプール・アクセス・サポートで使用される区画間インターフェース
- VSE/POWER のスプール・アクセス・サポート
- ジョブ完了メッセージに関する VSE/POWER の検索サポート

RC=0006:

VSE/POWER は、'open' 接続を設定できませんでし

1Q09I • 1Q0CI

た。VSE/POWER との新規接続をセットアップすることは、もうできません。先行するメッセージに、エラーについての詳細な情報が示されています。

RC=0007:

VSE/POWER は、区画間通信のために自分自身を VSE 拡張機能に対して識別することができませんでした。

RC=0008:

VSE/POWER は、VSE/DSNX との接続を設定できませんでした。

RC=0009:

ノード・アクティブ・テーブルに使用できる一時ワークスペースがありません。

システムの処置: VSE/POWER の初期設定が取り消されるか、または該当する機能が初期設定されません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 理由コードを調べて、必要があればストレージを再定義するか、または失われたフェーズをカタログしてください。

1Q09I INVALID DEFINE STATEMENT, RC=nnnn

説明: AUTOSTART プロシーチャーの実行中に、無効な DEFINE ステートメントが出されました。エラー・ステートメントはこの上に印刷されます。エラーの理由は、理由コード (RC) によって示されます。nnnn は次のいずれかです。

RC=0001:

キャリア・タイプが無効または欠落 (「L」または「P」でない)。

RC=0002:

キーワードが無効または欠落。

RC=0003:

キーワードが、このキャリア・タイプに対してすでに定義されています。

RC=0004:

ID が無効または欠落。

RC=0005:

ID が、このキャリア・タイプに対してすでに定義されています。

RC=0006:

繰り返し係数が無効または欠落。

RC=0007:

長さ指定が無効または欠落。

RC=0008:

タイプ指定が無効。

RC=0009:

指定されたタイプに対して、最小値指定または最大値指定が適用されません。

RC=0010:

最小値指定が無効。

RC=0011:

最大値指定が無効。

RC=0012:

最小値指定と最大値指定の関係が不適当 (最大値 < 最小値)。

RC=0013:

指定されたパラメーターが多すぎます。

RC=0014:

ステートメント区切り文字が無効 - 問題となっている DEFINE ステートメントはブランク文字で終わっていません。

RC=0015:

継続表示桁に非ブランク文字がありますが、継続は許されません。

システムの処置: ステートメントは無視されます。後続の PDISPLAY AUSTMT が、「>> ERROR:」接頭部付きのステートメントを表示します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 正しくない DEFINE ステートメントを訂正してください。

1Q0AI

USE PLOAD COMMAND TO LOAD

{JOBEXIT|OUTEXIT|NETEXIT|

XMTEXTIT} phasename [LENGTH=xxxxx

BYTES]

説明: VSE/POWER の初期設定時に、指定された出口ルーチンをロードできませんでした。その理由は、このメッセージの前に表示されるメッセージ 1Q15I または 1Q05I に示されています。

システムの処置: VSE/POWER の初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: VSE/POWER の初期設定が終わったら、PLOAD コマンドを使って該当の出口ルーチンを VSE/POWER 区画の GETVIS 域にロードしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q0BI

DATA FILE TOO LARGE

説明: 各種のデータ・ファイル・エクステンションによって指定されている DBLK の合計数が、2,147,483,647 より大です。

システムの処置: システムは、最大 DBLK 数を使用して処理を続けます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: データ・ファイル (IJDFILE) を小さくするか、DBLK のサイズを増やしてください。

1Q0CI

QUEUE FILE TOO LARGE - nnnnnnnnnn

{TRACKS|BLOCKS} UNUSED

説明: IJQFILE EXTENT ステートメントによって間接的に指定されているキュー・レコードの合計数が、VSE/POWER でサポートされている使用可能なキュー・レコードの最大数 99,998 (つまり、合計 100,000) を超えています。

100,000 キュー・レコードは 12KB のキュー・レコード・ブロック 3,125 個の中に入り、マスター・レコードのためにもう 1 つのブロックが必要です。ディスク・タイプに応じて、3126 個のキュー・レコード・ブロックは以下を使います。

- 75,024 FBA ブロック
- 3380 タイプでは 1,042 CKD トラック (トラックごとに 3 ブロック)

- 3390 タイプでは 782 CKDトラック (トラックごとに 4 ブロック)

nnnnnnnnnn は、VSE/POWER によって使用されていない CKDトラックまたは FBA ブロックの数です。VSE/POWER コールド・スタート時、または再割り振りによるキュー・ファイル拡張のためのウォーム・スタート時のみ、この警告メッセージが出されます。

システムの処置: VSE/POWER は、使用されている 99,998 キュー・レコードの処理を続行します。ただしディスクでは、最後のキュー・レコード (99,999) および最後のキュー・レコード・ブロックとしてエクステントの最後に置かれているマスター・レコードの間で使用されていないスペースで、合計キュー・ファイル・エクステントが占有されています。

VSE/POWER の以降のウォーム・スタート・イベントでは、このメッセージは抑止されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: サイズの大きなキュー・ファイルで続行するか、または以下のいずれかの時点で IJQFILE の EXTENT 仕様を小さくすることができます。

1. 合計キュー・ファイルおよびデータ・ファイルを再フォーマットする、以降のコールド・スタート。
2. キュー・ファイルの再割り振りのための、以降のウォーム・スタート。この場合、IJQFILE EXTENT ステートメントは使用可能な 99,998 キュー・レコードを入れるため、少なくとも 3126 キュー・レコード・ブロックのためのスペースを用意しなければなりません。詳しくは、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」で『VSE/POWER スプール・ファイルのディスク・スペースの見積もり』および『既存の VSE/POWER スプール・ファイルの拡張』を参照してください。

1Q0DI ACCOUNT FILE TOO SMALL, REQUIRED BLOCKS=*nmn*

説明: このメッセージは FBA DASD のみに適用されます。

2 つの制御インターバルが必要とする FBA ブロック数より、提供されたファイル (IJAFILE) 用の EXTENT が小さい値になっています。

システムの処置: VSE/POWER を取り消します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 少なくともメッセージに記述されているものと同数のブロックを割り振ってください。制御インターバル・サイズは 2048 バイトです。これは 4 つの FBA ブロックに相当します。

1Q0EI ACCOUNT SUPPORT NOT AVAILABLE

説明: VSE/POWER の初期設定中に会計ファイルの形式設定が要求されましたが、ACCOUNT=YES が VSE/POWER 生成で指定されていません。

システムの処置: 要求は無視されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER スタートアップ・ジョブを訂正してください。

1Q0FI DATA FILE SPECIFICATION ERROR, RC=*nnnn*

説明: エラーの理由は、理由コード (RC) によって示されます。*nnnn* は次のいずれかです。

RC=0001:

データ・ファイルが小さすぎて、少なくとも 32

DBLK グループを収容することができません。

DBLK グループ・サイズが誤って指定されている

か、データ・ファイル・エクステントが誤って指定されているか、またはその両方です。

RC=0002:

1 つのデータ・ファイル・エクステントが小さすぎ

て、少なくとも 1 つのデータ・ブロック (DBLK) を収容することができません。

システムの処置: VSE/POWER 初期設定を取り消します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: この生成で使用した POWER マクロにある DBLK/DBLKG の指定を検査してください。少なくとも 32 DBLK グループがエクステント内に収まり、各エクステントが少なくとも 1 つの DBLK を含むように、値を減らすか、あるいは、エクステント・サイズを指定し直してください。

1Q0GA CURRENT LEVEL *v0rm* (*v.rm*) OF VSE/POWER INCOMPATIBLE WITH STARTUP PHASE OF LEVEL *v0rm*

説明: VSE/POWER の初期設定に使用されたフェーズのバージョン (*v*)、リリース (*r*)、およびモディフィケーション (*m*) のレベルが、このスタートアップに使用された VSE/POWER フェーズ (POWER.A マクロにアセンブルされたフェーズ) のレベルと異なっています。

システムの処置: スタートアップ・フェーズのバージョン・レベルが 5020 より下であれば、VSE/POWER の初期設定は終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: 初期設定で使用されるフェーズ検索チェーンを検査して、スタートアップ・フェーズが、VSE/POWER 初期設定時にロードされるフェーズと同じバージョン/リリース・レベルの POWER.A マクロを使用して生成されていることを確認してください。

1Q0HD IF SPOOL FILE MIGRATION TO *VvRr* IS INTENDED REPLY 'YES', ELSE 'NO'

説明: メッセージ 1Q0HI で説明されているように、

VSE/POWER は VSE/POWER スプール (Q,D,A) ファイルを上バージョン *v* および *r* に移行することを推奨しています。

システムの処置: 始動中の VSE/POWER は、オペレーターの決定を待ちます。

オペレーターの応答: 次のように応答してください。

YES SYS001 上の IJQFILE のラベルによってアドレス指定されるキュー・ファイルとそれに付随するデータ・ファイル (および会計ファイル) を、現在の

VSE/POWER よりも上のバージョン (*v*) およびリリース (*r*) に移行します。メッセージ 1Q12I で初期化が完了したときに、「ウォーム・スタート時のリリースの移行」が完了します。これは、移行されたキュー・ファイルがディスクにコミットされたことを意味します。

NO VSE/POWER スプール・ファイルのラベルを誤って指定してスタートアップしてしまい、VSE/POWER 初期化を終了しなければならない (メッセージ 1Q04I RC=0001 によって示される) 場合にこれを選択します。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q0HI CURRENT LEVEL *V*_{*v*}*R*_{*r*} OF VSE/POWER DIFFERENT FROM LEVEL *V*_{*w*}*R*_{*s*} OF QUEUE STARTING WARM

説明: 初期化中の VSE/POWER システムのバージョン (*v*) およびリリース (*r*) が、VSE/POWER のバージョン (*w*) およびリリース (*s*) と異なります。このバージョンの VSE/POWER は、ウォーム・スタート用キュー・ファイルとして現在認識されている IJQFILE ファイルを作成しています。

システムの処置: VSE/POWER の現在のレベルが、ウォーム・スタート用のキュー・ファイルのレベル (少なくとも V6R7 でなければならない) よりも上である場合、ウォーム・スタート時に VSE/POWER スプール (Q,D,A) ファイルを上のリリースに移行することをメッセージ 1Q0HD で提案されます。それ以外の場合、VSE/POWER の初期化はメッセージ 1Q04I RC=0001 によって終了されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q0JA SPOOL FILE MIGRATION FAILED DUE TO OTHER SHARING SYSID(S) ACTIVE: *n*₁*n*₂,...

説明: ウォーム・スタートするキュー・ファイルが、SYSID(s)*n*₁*n*₂,... という名前の他の共用 VSE/POWER システムによってまだアドレス指定されています。このシステムは PEND コマンドで正常に終了しませんでした。

システムの処置: VSE/POWER は、メッセージ 1Q04I RC=0001 で初期化を終了します。共用キュー/データ・ファイルの上のレベルへの移行は、他のすべての共用システムがアクティブでないときのみ実行できるためです。

オペレーターの応答: まず、PEND コマンドで、SYSID(s) という名前の他の VSE/POWER 共用システムを終了します。SYSID が異常終了していて正常な PEND 終了のために再始動できない場合は、PRESET sysid1,... コマンドを使用してアクティブ状態をリセットすることができます。次に、独自の共用 SYSID (または非共用システム) を、「ウォーム・スタート時のリリースの移行」のために再始動します。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q0KI

1. DATA FILE EXTENT NO. *mm* AS EXTRACTED FROM IJDFILE DLBL/EXTENT (/ EXTENT SYS*xxx*,*valid*,*1,nnn*,*start,length*)
2. DATA FILE EXTENT NO. *mm* AS PRESERVED FROM PREVIOUS WARM START (/ EXTENT SYS*xxx*,-----*1,nnn*,*start,length*)

説明: VSE/POWER ウォーム・スタートは、先に出されたメッセージによって示されたデータ・ファイルのオープンに失敗しました。

1. IJDFILE DLBL/EXTENT から抽出されたエクステント情報が示されます。
2. 前回の VSE/POWER ウォーム/コールド・スタートで使用されたエクステント情報が示されます。ポリウム ID ('-----') は予約されていません。

システムの処置: VSE/POWER の開始は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q10I SUPERVISOR WITHOUT ACCOUNTING SUPPORT

説明: VSE/POWER の生成中に ACCOUNT=YES が指定されましたが、ジョブ・アカウントング・サポートのない VSE 監視プログラムが使用されています。

システムの処置: VSE/POWER は、アカウントング・サポートのないまま処理を続けます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER アカウントング・サポートが必要な場合は、アカウントング・サポートのある VSE 監視プログラムの IPL を行ってください。

1Q11D FORMAT QUEUES=

説明: このメッセージは、VSE/POWER が、使用中の AUTOSTART プロシージャーによらずに開始される場合か、AUTOSTART プロシージャーによって開始されるが、そのプロシージャー中に FORMAT ステートメントがないか、あっても無効な場合に出されます。

システムの処置: VSE/POWER は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれか 1 つ、または意味のある組み合わせで応答してください。

{d|q}[a]

a

NO

ENTER を押す

各部の説明は、以下のとおりです。

a 会計ファイルを形式設定します。

d|q データ・ファイルとキュー・ファイルを形式設定します。

NO|ENTER を押す

形式設定は不要です (ウォーム・スタート)。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q12I VSE/POWER 9.4 INITIATION COMPLETED [FOR SYSID n]

説明: VSE/POWER が開始されました。SYSID パラメーターが VSE/POWER 生成で指定されていた場合には、SYSID も表示されます。

システムの処置: システムは、オペレーターが次のコマンドを入力するまで待ち状態に入るか、または AUTOSTART プロシージャを通じて入力されたコマンドの処理を続けます。

オペレーターの応答: 次のコマンドを入力してください (AUTOSTART を使用しない場合)。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q13I ERRONEOUS AUTOCARD(S) CARD(S) READ

説明: AUTOSTART プロシージャの実行中に、正しくない FORMAT または SET ステートメントが出されました。

システムの処置: 次のいずれかを行ってください。

1. FORMAT ステートメントの場合には、システムはメッセージ 1Q11D も出して、オペレーターが正しい情報を渡すことができるようにします。
2. SET SYSID ステートメントの場合には、エラーのあるステートメントが表示され、VSE/POWER のスタートアップは取り消されて、メッセージ 1Q2DI が出されます。
3. 他の SET ステートメントの場合には、エラーのあるステートメントが表示され、そのステートメントは無視されます。後続の PDISPLAY AUSTMT が、「>> ERROR:」接頭部付きのステートメントを表示します。

オペレーターの応答: 1 の場合、メッセージ 1Q11D を参照してください。2 または 3 の場合、正しくない SET ステートメントについてシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER スタートアップ・ジョブを訂正してください。

1Q14I NO MATCHING PUB FOR cuu

説明: チャネル番号・装置番号 (cuu) で示された RJE 回線が、VSE/POWER では定義されていますが、VSE 監視プログラムでは定義されていません。あるいは、PUB 装置タイプが、RJE 回線用にサポートされるコントロール・ユニット・タイプと一致していません。

システムの処置: 回線は VSE/POWER から削除されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーの指示に従って、IPL をやり直してその回線を追加するか、またはその回線を使用せずに続行してください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: IPL ステートメントを訂正してください。

1Q15I 1. [commandcode] PHASE phasename NOT FOUND

2. [commandcode] UNABLE TO LOAD {PHASE|JOBEXIT|OUTEXIT|NETEXIT|XMTEXIT} phasename RC=nnnn

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは

以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明:

1. 示された VSE/POWER フェーズまたはユーザー出口が、VSE/POWER 区画に割り当てられたライブラリーに見つかりません。
2. 以下の理由で、示された VSE/POWER フェーズまたはユーザー出口をロードすることができません。

RC=0001:

フェーズまたは出口ルーチンが SVA に常駐しています。これは VSE/POWER 処理では受け入れられません。

システムの処置: 上記の番号に応じて、次のとおりです。

1. *commandcode* がこのメッセージに示されている場合は、メッセージに続いて処理を続行します。 *commandcode* がメッセージに示されておらず、フェーズが VSE/POWER ベース (ユーザー作成出口ルーチンは VSE/POWER ベースには含まれません) のスタートアップに必要な場合には、VSE/POWER はただちに終了します。それ以外の場合は、メッセージに続いて処理を続けます。
2. この手順のリスト項目にあるステップ 1 に対して説明されているものと同じ処置です。 PLOAD コマンドがユーザー出口ルーチンをアドレス指定した場合は、前にロードされた対応するユーザー出口ルーチンは、どれも使用不能になります。

オペレーターの応答: 上記の番号に応じて、次のとおりです。

1. VSE/POWER が終了した場合、正しいライブラリーを割り当てるか、ライブラリーにフェーズをカタログして VSE/POWER を再始動してください。出口ルーチンが見つからない場合は、PLOAD コマンドを使用して VSE/POWER を立ち上げてから、出口ルーチンをロードしてください。
2. システム・プログラマーに連絡してください。すでにロードされた出口ルーチンが VSE/POWER によって使用不能にされた場合は、出口ルーチンを PVAR ENAB で再び使用可能にすることができます。

システム・プログラマーの応答: 上記の番号に応じて、次のとおりです。

1. VSE/POWER が終了した場合、スタートアップ・フェーズの完全ライブラリーを獲得するための手順を実行してください。
2. PHASE ステートメントから SVA オプションを取り除き、SET SDL リストから対象のフェーズを取り除いてください。SVA からフェーズを取り除くには、システムを再 IPL してください。

1Q16I INVALID LST/PUN ROUTING FOR remote identification

説明: あるユーザーを記述するリモート・ブロックが検出されましたが、そのユーザーのリスト出力または穿孔出力は無効なリモート識別に経路指定されることになっています。

システムの処置: このリモート識別に対するリスト出力または穿孔出力のデフォルト宛先が 0 (中央設置場所) にリセットされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: リモート識別を訂正してください。

1Q17I QUEUE FILE TOO SMALL

説明: キュー・ファイルに対して割り振られたスペースが十分にないため、マスター・レコードおよび少なくとも 1 つのキュー・レコード・ブロックを含めることができません。

システムの処置: VSE/POWER の初期設定は終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: キュー・ファイル (IJQFILE) のサイズを大きくしてください。

1Q18I TOO MANY DATA FILE EXTENTS

説明: データ・ファイル (IJDFILE) のために 32 個を超えるエクステントが使用されました。

システムの処置: VSE/POWER の開始は終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: エクステントの数が 32 個以下になるように IJDFILE についての EXTENT ステートメントを変更し、VSE/POWER を再始動してください。エクステントの数が正しいと思われる場合は、複数の ASSGN ステートメントによって割り当てられているディスクがないことを確認してください。複数ステートメントによって割り当てられている場合は、VSE/POWER の OPEN 処理に対して、そのディスク上のエクステントが複数回表示されます。

1Q19I INVALID DATA FILE EXTENT, RC=nnnn

説明: エラーの理由は、理由コード (RC) によって示されます。nnnn は次のいずれかです。

RC=0001:

データ・ファイル (IJDFILE) について、2 つのエクステントが同じボリューム上に指定され、互いに異なるプログラマー論理装置が割り当てられています。

RC=0002:

エクステント数が、次のいずれかと一致していません。

- 直前のコールド・スタート時の値
- 独自 (または、共用、その他) の VSE/POWER システムのウォーム・スタート時のデータ・ファイル拡張子

RC=0003:

エクステントの順序は、VSE/POWER のコールド・スタート時の順序から変更されています。

システムの処置: VSE/POWER の初期設定は終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER にサポートされない F1 区画のデータ・ファイル (IJDFILE) についての EXTENT 情報を訂正し、システムを再始動してください。

1Q1AI INVALID DEVICE SPECIFICATION cuu, RC=nnnn

説明: チャンネル番号および装置番号 (cuu) で示されているアドレスが無効です。理由は、理由コード (RC) で示されています。nnnn は以下のいずれかです。

RC=0004:

無効なアドレスが指定されていました。このアドレスは、16 進数以外の値であったか、あるいは VSE 監視プログラム内に生成された PUB と一致していません。

RC=0008:

装置がすでに使用されています。

RC=000C:

装置が作動可能ではありません。

RC=0010:

アドレスが、サポートされたテープ装置のものではありません。

システムの処置: メッセージ 1Q55A を出して、オペレーターが別のテープ・アドレスを指定するように指示します。

オペレーターの応答: 別のテープ・アドレスを指定してください。

プログラマーの応答: * \$\$ LST/PUN ステートメントが誤りであれば、必要に応じて訂正してください。

1Q1BI GETVIS MACRO CALL FAILED, RC=nm[, AREA mmK TOO SMALL]

説明: ストレージをシステム GETVIS 域から検索中に、GETVIS マクロが失敗しました。その理由は、理由コード (RC) によって示されます。次の理由コードはリソース不足によるものです。

RC=0C: システム GETVIS 域のサイズが小さすぎます。

GETVIS 域に追加する必要のある最大量は、メッセージの 2 番目の部分に表示されます。

RC=20: プロセッサのストレージのサイズが小さすぎます。システムに追加する必要のあるプロセッサ・ストレージの最大量は、メッセージの 2 番目の部分に表示されます。

システムの処置: VSE/POWER の初期設定を打ち切ります。

オペレーターの応答: 戻りコードが X'0C' に等しいときには、SVA コマンドの GETVIS パラメーターに指定する値を増やして、システム GETVIS 域を大きく定義してください。戻りコードが X'20' に等しいときは、ALLOC コマンドで区画のプロセッサ・ストレージに指定する値を減らしてください。他の戻りコードについては、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: システム構成に必要な変更を記録してください。

1Q1CI DBLK SIZE MISMATCH: DATA FILE=xxxxx, POWER MACRO=yyyyyy

説明: VSE/POWER データ・ファイルが、メッセージに示された DBLK サイズでコールド・スタートされました。現在、異なる DBLK サイズを含んでいる VSE/POWER 生成フェーズを使用してウォーム・スタートが行われています。生成フェ

ーズ内の DBLK サイズは使用されません。

注: 生成された DBLK のサイズは、以下ようになる可能性があります。

- POWER マクロの DBLK= オペランドが指定されていないか、DBLK=0 と指定されている場合は、VSE/POWER のデフォルト値になります。
- SET DBLK 自動スタート・ステートメントによって上書きされています。

システムの処置: システム初期設定を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER 生成マクロで指定された DBLK サイズを有効にするためには、VSE/POWER キュー/データ・ファイルのコールド・スタートを行わなければなりません。POFFLOAD を使用して、既存のキュー項目を移行してください。

1Q1DI INSUFFICIENT GETVIS SPACE FOR QUEUE FILE, NEEDED: nnnnnK, AVAILABLE: xxxxxK

説明: VSE/POWER が、xxxxxK の区画 GETVIS サイズで開始されました。このサイズでは、基本的システム機能を常に処理する nnnnnK のキュー・ファイルのストレージ・コピー (追加の 48K の最小区画 GETVIS 域を含む) を保管できません。

システムの処置: メッセージ 1Q1EI が、

- 以前に出されている場合、VSE/POWER の初期設定は終了します。
- 以前に出されていない場合、VSE/POWER は、キュー・ファイルを VIO 域に入れようとしています。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER 区画の ALLOC 量を拡大するか、または区画 SIZE コマンド (または EXEC..,SIZE オペランド) の SIZE 値を減らすか、あるいはその両方を行ってください。推奨値については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」の「区画サイズ」を参照してください。VSE/POWER コールド・スタートの場合、キュー・ファイルのサイズを減らすことも検討してください。詳細については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」の「キュー・ファイルのサイズ」を参照してください。

1Q1EI ATTEMPTING TO PLACE QUEUE FILE INTO PARTITION GETVIS AREA

説明: 以前に出されたメッセージに従って、キュー・ファイルを VIO 領域に置くことができませんでした。

- VIO 域が小さすぎるか、または
- 初期 VIO POINT 要求が失敗したためです。

システムの処置: すべての状況でシステムのスタートアップを円滑に行うためと、スタートアップ・プロシーチャーを訂正して VIO 領域を増やすことができるようにするために、VSE/POWER はキュー・ファイルのストレージ・コピーを区画 GETVIS 領域に置こうと試みます。

警告: 処理に使えるだけの区画 GETVIS スペースが残ってお

らず、メッセージ 1Q85I *task,uuu* WAITING FOR VIRTUAL STORAGE が表示されることがあります。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: メッセージ 1QF1I に従ってシステム・スタートアップ・プロシーチャーを更新し、システムを再スタートアップしてください。

1Q1FI DBLK GROUP MISMATCH: DATA FILE=xxxxx, POWER MACRO=yyyyyy

説明: VSE/POWER データ・ファイルが、メッセージに示された DBLK グループ値でコールド・スタートされました。現在、異なる DBLKGP 値を含んでいる VSE/POWER 生成フェーズを使用してウォーム・スタートが行われています。生成フェーズ内に指定された DBLKGP 値は使用されません。

システムの処置: システム初期設定を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER 生成マクロで指定された DBLKGP 値を有効にするためには、VSE/POWER キュー/データ・ファイルのコールド・スタートを行わなければなりません。POFFLOAD 機能を使用して、既存のキュー項目を移行してください。

1Q20I AUTOSTART IN PROGRESS

説明: VSE/POWER の開始時に AUTOSTART オプションが指定されました。

システムの処置: 区画独立型読み取りおよび書き込みタスクが VSE/POWER により自動的に開始されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q21I VSE/POWER HAS BEEN TERMINATED

説明: PEND コマンドが出されて、すべての VSE/POWER タスクが終了しました。

システムの処置: VSE/POWER 区画は通常の VSE 操作用にリストアされます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q22I VSE/POWER ALREADY ACTIVE

説明: VSE/POWER の開始が試みられましたが、VSE/POWER はすでにアクティブです。

システムの処置: 試みられた開始は終了します。アクティブ VSE/POWER は処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q23I LTA CANCEL IN PHASE=phasename

説明: VSE/POWER が使用中の論理一時域 (LTA) で取り消し条件が発生しました。

システムの処置: 開始時に問題が起きた場合には、開始処理は終了します。その他の場合には、LTA を使用していた VSE/POWER タスクだけが終了します。

1Q24I • 1Q25D

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: IBM にお問い合わせください。

1Q24I ATTEMPTING TO PLACE QUEUE FILE INTO VIO AREA

説明: 以前に出されたメッセージに従って、キュー・ファイルを区画 GETVIS 域に置くことができませんでした。

- GETVIS 域が小さすぎるか、または
- GETVIS 要求が失敗したためです。

システムの処置: すべての状況でシステムのスタートアップを円滑に行うためと、スタートアップ・プロシーチャーを訂正して区画 GETVIS 域を増やすことができるようにするために、VSE/POWER はキュー・ファイルのストレージ・コピーを VPOOL (VM モード) または VIO (/370 または ESA モード) 域に置こうと試みます。

警告: 他のシステム・コンポーネントを VSE/POWER の後に開始するだけの VPOOL または VIO スペースが十分に残っていない可能性があります。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: メッセージ 1Q1DI に従ってシステム・スタートアップ・プロシーチャーを更新し、システムを再スタートアップしてください。

1Q25A *partition-id* IN STOP STATE

説明: PEND コマンドが出され、示された区画が VSE STOP コマンドによって停止されました。

システムの処置: シャットダウンが続行されますが、オペレーターの処置が行われるまで完了しません。

オペレーターの応答: VSE START コマンドで区画を再度始動し、必要なら区画に対して PSTOP コマンドを出してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q25I 1. CLEANUP PENDING FOR PARTITION(S): *Fx*,... 2. CLEANUP PENDING FOR DYN.CLASS(ES): *C*,... 3. HANDLE OUTSTANDING REQUESTS OF SPOOLED PARTITIONS OR RE-IPL 4. RECURSIVE ENTRY OF TERMINATION, UNPREDICTABLE FAILURES MAY OCCUR

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明: VSE/POWER 異常終了処理が完了しませんでした。メッセージ・テキストに応じて、次のとおりです。

1. 示された静的区画 *Fx* に対して、未解決の応答のため内部終結処理が完了しませんでした。

2. 示された動的クラス *C* に対して、未解決の応答のため終結処理が完了しない動的区画があります。

3. メッセージ・テキスト自身が説明になっています。

4. VSE/POWER 異常終了ルーチンそれ自身が失敗し、少なくとも 1 つのスプールされた区画が内部終結処理をまだ完了していないときに、異常処理ルーチンが 2 度目に行われました。

システムの処置: メッセージ・テキストに応じて、次のいずれです。

1. 対象メッセージが約 30 秒ごとに繰り返され、未解決の応答に対して答えるようにオペレーターに指示します。

2. 1. と同じ。

3. 1. と同じ。

4. 「不在」システムでない場合、オペレーターは、メッセージ 1Q25D によって、独立型ダンプを取るよう要求されるか、または (「不在」の場合は必ず) VSE/POWER が区画ダンプを取って即時取り消しを入力するようにしてください。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。メッセージ・テキストに従って対処してください。

1. 指定された静的区画の場合は、アテンション・ルーチン・コマンド「REPLID」または「STATUS」を使用して未解決の応答を識別し、区画要求を完了してください。

2. 指定された動的クラスに属する動的区画の場合は、1) と同じ処置をとってください。

3. 反復試行を行っているにもかかわらず、未解決の要求が完了できない場合は、対応する区画のダンプを取るか、または独立型ダンプを取って障害を文書化してください。すべての場合、再 IPL 要求が必要とされます。スプールされた区画が、予測できない状況で残るためです。

注: VSE/POWER 区画のオペレーター取り消し要求は、この状況では効力をもちません。

4. 分析のために VSE/POWER 区画のダンプを収集してください。システムを再 IPL してください。

システム・プログラマーの応答: 前に出されている異常終了メッセージと合わせて、このメッセージを調べてください。

1Q25D SUGGEST TO TAKE STAND ALONE DUMP NOW OR PRESS ENTER TO TERMINATE

説明: 内部障害のために、終了に再帰的に入ってしまい、VSE/POWER IDUMP が失敗したかもしれません。

システムの処置: VSE/POWER は、失敗した IDUMP の代わりに独立型ダンプを取れるように配慮しています。そうでない場合、ENTER が入力されると区画ダンプを取って終了を続行します。

オペレーターの応答: 「STORE STATUS」を実行し、独立型ダンプを取り、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 独立型ダンプと共にコンソール・ログを用意し、IBM 担当員に連絡してください。

1Q26I GETVIS-24 AREA TOO SMALL

説明: VSE/POWER 仮想区画の GETVIS-24 域のサイズ (/ /EXEC ステートメントの SIZE パラメーターにより、または SIZE コマンドでのデフォルトにより定義される) が小さすぎます。

システムの処置: VSE/POWER の初期設定を打ち切ります。
オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: SIZE パラメーターにより小さい値を指定して、より大きい GETVIS-24 域を定義してください。

1Q27I UNABLE TO INITIALIZE SPOOL MANAGEMENT

説明: VSE/POWER が、ユーザー区画と連絡をとるために必要な XECB を定義することができませんでした。

システムの処置: CTLSPPOOL、GETSPOOL および PUTSPOOL の機能が使用できません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 他の区画のプログラムが、すでに XECB を定義している可能性があります。これは誤りなので訂正しなければなりません。

1Q28I END OF VOLUME ON cuu

説明: テープ入力処理または出力処理中に、ボリュームの終わり (反射点) に達しました。

システムの処置: 処理が続行されます。オペレーターは新しいテープの取り付けを要求されます。

オペレーターの応答: 新しいテープを取り付けてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q29I END OF INPUT ON task-id,cuu

説明: 入力テープの論理的な終わり (2 つのテープ・マーク) に達しました。または、テープ上の新しいファイルが不正にブロック化されているか、80 バイトまたは 81 バイトのレコードで構成されていません。

システムの処置: テープ読み取りタスクは終了し、メッセージ 1Q33I が出力されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q2AI 1. OFFLOADING
{BACKUP|PICKUP|SAVE}
SUCCESSFULLY COMPLETED ON cuu
{JOURNAL LST ENTRY \$OFJaaaa created
(dd/dd/dd tt:tt:tt), TOTAL
ENTRIES=mmmmmmmmmm AND TOTAL
TAPES=ppppp|, TOTAL
ENTRIES=mmmmmmmmmm}

2. OFFLOADING {LOAD|SELECT}
SUCCESSFULLY COMPLETED ON cuu
, TOTAL ENTRIES=mmmmmmmmmm

説明: 指定されたクラスのすべてのキュー項目が、テープ上に

正常に保管されたか、またはテープ装置 *cuu* のテープからリストアされました。PSTOP *cuu*,EOJ コマンドまたは PEND コマンドが POFFLOAD コマンドを未完了で終了させた場合にも、このメッセージが出力されます。その他の情報が示されている場合は、ジャーナリング報告スプール項目が POFFLOAD ...JOURNAL=YES|user_id コマンドによって作成され、ジョブ名 \$OFJaaaa の LST キューにスプールされています。'aaaa' は、VSE/POWER が割り当てたジョブ番号の最後の 4 桁で、dd/dd/dd tt:tt:tt は、ジャーナルが作成された日時です。mmmmmmmmmm は、テープにスプールされたまたはテープからリストアされたスプール項目の総数で、ppppp は、作成されたテープの総数です。

システムの処置: タスクは終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q2BI 1. NOTHING TO
{BACKUP|PICKUP|SAVE} ON cuu,
RC=nnnn
2. NOTHING TO {LOAD|SELECT} ON
cuu, RC=nnnn

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明: 理由コード (RC) に応じて、次のようにします。

RC=0001:

BACKUP/PICKUP/SAVE の場合は、選択されたキューの指定クラスに適切なエントリーがありませんでした。SAVE では DISP=D|K エントリーのみをアドレス指定しています。LOAD/SELECT の場合は、入力テープが空です。

RC=0002:

SELECT の場合、入力テープにエントリーは含まれていますが、指定された選択基準に一致するエントリーが見つかりませんでした。

RC=0003:

PICKUP の場合は、メッセージ 1Q6NI に応じて、適切なエントリーをテープに保管するようにスケジュールされていましたが、エントリーが見つかりませんでした。処理の最中にエントリーが削除された可能性があります。

RC=0004:

BACKUP/PICKUP/SAVE の場合は、直前の理由メッセージによって、最初の適切なエントリーのテープへの書き込みが失敗しました。

システムの処置: タスクは終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q2CI PSW=xxxx ILC=n, CC=yy, pgm chk or cancel
code description[A/T={ON|OFF}|/--
|NP|PA|WN|WP]
{(PHASE|JOBEXIT|OUTEXIT|
NETEXIT|XMTXIT)=phasename(address

[,maintlevel]]
 [SUBTASK=subtask-id][TASK=task-id,uu
 (task-address)]

説明: VSE/POWER またはその VSE サブタスクの 1 つが異常終了しました。以下の情報明細が提供されます。

- PSW** 異常終了の原因となった割り込みの位置 (16 進数) を示す EC モードのプログラム状況ワード。
- ILC** 失敗した命令の長さを $n=1/2/3$ 個のハーフワードで表す BC モードの PSW 命令長カウンター。
- CC** VSE/拡張機能の取り消しコード。各種の取り消しコードの意味については、595 ページの『VSE 拡張機能取り消しコード』を参照してください。「プログラム・チェック」取り消しコード (CC=20) の場合は、メッセージに原因の記述が追加されます。
- A/T** 障害時に **A** (アクセス・レジスター・モード) または **T** (ターボ・ディスパッチャー・モード) がアクティブであったことを意味します。
- A** (アクセス・レジスター・モード) は、**ON** または **OFF** として示されます。
- T** (ターボ・ディスパッチャー・モード) では、次のいずれかとして示されます。
- ターボ・ディスパッチャーが IPL 時に活動化されていなかった場合。
- NP** 失敗したタスクが非並列作業単位を処理しており、VSE/POWER マルチプロセッサ・サポートがスタートアップ時に SET WORKUNIT=PA 自動スタート・ステートメントを使用して活動化されていた場合。
- PA** 失敗したタスクが並列作業単位を処理しており、VSE/POWER マルチプロセッサ・サポートがスタートアップ時に SET WORKUNIT=PA 自動スタート・ステートメントを使用して活動化されていた場合。
- WN** 失敗したタスクが非並列作業単位を処理しており、VSE/POWER マルチプロセッサ・サポートがスタートアップ時に活動化されていなかった場合。
- WP** 失敗したタスクが並列作業単位を処理しており、VSE/POWER マルチプロセッサ・サポートがスタートアップ時に活動化されていなかった場合 (この組み合わせは起こってはならない)。

PHASE

失敗したタスクの処理が異常終了に至った VSE/POWER *phasename* を表します。 *address* は、そのフェーズが置かれているストレージ・ロケーションを示します。特定の理由による意図した異常終了を表すために、人工的なフェーズ名を使用することができます。次に例を示します。

-IPW\$\$11: IPW\$\$NU のタスク・ディスパッチ・トレース (FULL) が、破壊された TCB チェーンを検出し、プログラム・チェックによってレジスター 7

の理由コードでそれ自身を終了した場合。詳細については、PSTART TASKTR オペランド 'FULL' の説明を参照してください。

-IPW\$\$12: IPW\$\$NU のタスク・ディスパッチ・トレース (FULL) が、破壊された実記憶エレメント (BCW) チェーンを検出し、プログラム・チェックによってレジスター 7 の理由コードでそれ自身を終了した場合。詳細については、PSTART TASKTR オペランド 'FULL' の説明を参照してください。

maintlevel は、障害のあるフェーズに適用された最後の保守レベルの APAR 番号を示します。フェーズが、まだ、リリース出荷レベルの場合、'DYxxxxx' ではなく、'BASE' が表示されます。

xxxEXIT

これは、障害がユーザー作成または取引先作成の出口内で起こった場合に示されます。出口タイプは、以下によって識別されます。

JOBEXIT

読み取り出口を表す

OUTEXIT

出力出口を表す

NETEXIT

PNET 受信側出口を表す

XMTEXIT

PNET 送信側出口を表す

phasename は、失敗したタスクが異常終了に至ったユーザー出口または取引先出口の名前を表します。

address は、その出口が VSE/POWER によってロードされたストレージ・ロケーションを示します。

SUBTASK

これは、VSE/POWER の VSE サブタスクが異常終了した場合のみ表示されます。 *subtask-id* は、次のいずれかです。

- AS** 非同期サービス・サブタスク
- DS** ダンプ・サブタスク
- LS** ライブラリー・サービス・サブタスク
- SD** PNET/SSL サブタスク
- SN** RJE/SNA サブタスク
- S1** PNET/SNA サブタスク
- TD** PNET/TCP サブタスク
- TI** 共用スプーリング・タイマー・サブタスク

TASK

これは、VSE/POWER の私用タスク (サブタスク) が異常終了した場合のみ表示されます。(この場合、レジスター 11 は、VSE/POWER タスク制御ブロックを指し示します)。 *taskid,uu* は、PDISPLAY A または PDISPLAY TASKS コマンドによっても表示されるタスク ID に対応しています。

ユーザー出口または取引先出口が異常終了発生時にアクティブであった場合、VSE/POWER は、異常終了する代わりに、リカバリーを実行しようと試みます。

システムの処置: メッセージ 1Q2CI が 'SUBTASK' を識別しない場合、以下のいずれかです。

1. 障害の起きた出口からのリカバリーが実行されると、メッセージ 1Q2KI と 1Q2HI が出力され、割り当てられたサブ

ライブラリーに定様式ダンプが書き込まれ、出口は 'FAILED' 状態になり、「障害のある」出口を使用していたタスクは停止しますが、VSE/POWER は処理を続行します。ダンプをサブライブラリーに書き込むことができない場合、メッセージ 1Q30D は出されません。

2. VSE/POWER は終了を開始し、続いて VSE/POWER 制御のすべての区画を取り消し、定様式ダンプを、割り当てられたダンプ・サブライブラリーに書き込みます。SET 1Q30D=YES 自動スタート・オプションが指定してあれば、オペレーターに対してまずメッセージ 1Q30D を出して、定様式ダンプが必要かどうかを尋ねます。ライブラリーが未定義であったり、いっばいの場合には、ダンプが失敗することがあります。この場合にはメッセージ 1QC5D を出してその後の処置を尋ねます。どの場合も最終的には、VSE/POWER は終了します。

VSE 'SUBTASK' が終了すると、定様式ダンプが、割り当てられたダンプに書き込まれて、システムは処理を続行します。オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: タスクが異常終了した場合には、エラーを調べてください。ユーザー作成出口が原因でタスクが終了したことが判明した場合は、必要な訂正を行うことと、影響を受けたジョブを再実行することをプログラマーに指示してください。

1Q2DI **VSE/POWER CANCELED DUE TO PEND FORCE COMMAND |VSE/POWER CANCELED DUE TO PROGRAM REQUEST IN {PHASE|JOBEXIT|OUTEXIT |NETEXIT|XMTEXIT}= phasename [TASK=task-id, cuu (task-address)]**

説明: VSE/POWER が CANCEL 要求を出したか、またはオペレーターが PEND FORCE を指定しました。PEND FORCE が指定されていない場合、または PHASE= が以下の VSE/POWER フェーズのいずれも指定していない場合、直前のメッセージに CANCEL の原因が示されています。そのような指定がされている場合、追加メッセージは出されません。

- IPW\$\$04: 直前または次のエレメントが TCB でないタスクに対して「IPW\$\$NU のタスク消去」が入力された。TCB チェーンが破棄されるので、VSE/POWER は終了しなればならなかった。
- IPW\$\$06: 「IPW\$\$NU の実記憶予約」が入力されたが、実記憶エレメント・チェーンが実ワークスペース区域を離れた。したがって、VSE/POWER は終了しなればならなかった。

ユーザー作成出口が CANCEL 要求を出した場合、出口タイプは以下のいずれかによって、メッセージで示されます。

JOBEXIT

読み取り出口ルーチンを示す

OUTEXIT

出力出口ルーチンを示す

NETEXIT

PNET 受信側出口ルーチンを示す

XMTEXIT

PNET 送信側出口ルーチンを示す

システムの処置: 定様式ダンプが、割り当てられたダンプ・サブライブラリーに書き込まれています。SET 1Q30D=YES 自動スタート・オプションが指定してあれば、オペレーターに対してまずメッセージ 1Q30D を出して、定様式ダンプが必要かどうかを尋ねます。ライブラリーが未定義であったり、いっばいの場合には、ダンプが失敗することがあります。この場合にはメッセージ 1QC5D を出してその後の処置を尋ねます。その後、すべての VSE/POWER 制御区画は取り消されます。どの場合も最終的には、VSE/POWER は終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: エラーを調べてください。

1Q2ED **{SPECIFY PRINTER OR TAPE FOR VIO STORAGE COPY OF QUEUE FILE (CUU/NO) | INVALID PRINTER/TAPE, RE-ENTER CUU/NO}**

説明: 共用区画に常駐する VSE/POWER が異常終了したか、または PEND FORCE コマンドで終了し、メッセージ 1Q30D にオペレーターが 'YES' と応答しました。

システムの処置: VSE/POWER は、オペレーターの応答を待ちます。オペレーターが正しい印刷装置またはテープ・アドレスで応答すると、キュー・ファイルの VIO ストレージ・コピーが指定の印刷装置で印刷されるか、または SYSLSL 形式でテープに書き込まれます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。キュー・ファイルの VIO ストレージ・コピーを印刷したいときは、印刷装置またはテープのチャンネルと装置番号 (cuu) をそれぞれ指定してください。ダンプが不要な場合は、NO と応答するか、もしくは END キーまたは実行キーを押してください。

誤った印刷装置、テープ・アドレス、あるいは、すでに別の区画で所有されている装置のいずれかを入力したとき、またはリカバリー不能な入出力エラーが起きたときは、次のテキストを持つメッセージ 1Q2ED が再表示されます。

1Q2ED **INVALID PRINTER/TAPE, RE-ENTER CUU/NO**

システム・プログラマーの応答: 前に出されている異常終了メッセージと合わせて、このメッセージを調べてください。

1Q2FI **VIO POINT PROCESSING FAILED, RC=rr**

説明: 内部マクロ呼び出しの失敗です。これは予期しない失敗です。キュー・ファイルの VIO ストレージ・コピーをアドレス指定するために、VSE/POWER 異常終了処理ルーチンが VIO POINT マクロを出しました。rr は、VSE/POWER に渡されたマクロ戻りコードです。

システムの処置: キュー・ファイルの VIO ストレージ・コピーのダンプ処理が取り消されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

1Q2GI **{NORMAL TERMINATION OF QUEUE
FILE DUMP {SEE LIST ENTRY
{SVIO|SQFL}nnnn} | QUEUE FILE DUMP
PROCESSING CANCELED BY
OPERATOR}**

説明: キュー・ファイルの実際の位置によって、以下のようになります。

VIO VIO 域にあります。

QFL 区画 GETVIS 域にあります。

以下が起こりました。

- キュー・ファイルのストレージ・コピーが、指定された装置上に正常にダンプされました。
- オペレーターが、PCANCEL コマンドによってストレージ・ダンプを取り消しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q2HI **{JOBEXIT|NETEXIT|OUTEXIT|XMTEXIT}
=phasename PUT INTO FAILED STATE**

説明: 出口で障害が発生したために、VSE/POWER は対応するユーザー出口ルーチンを 'FAILED' とマークしました。

システムの処置: 以下の処置が取られます。

1. 対応する出口は、PDISPLAY EXIT レポートで 'FAILED' のフラグが付きます。
2. 現在出口を使用しているタスクは停止します (PNET タスクの場合はドレーンされます)。
3. システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。直前のメッセージ 1Q2CI で提供される情報を使用し、PDISPLAY EXIT コマンドを出して、エラーの原因となったコードの位置を識別することもできます。出口ルーチンと呼び出そうとしているタスクは、すべて停止します。停止していないタスクを開始させたい場合、失敗した出口ルーチンを 'DISABLE' 状況にする (DISAB オペランド付きの PVARV コマンドによって) か、失敗していない別の出口ルーチンをロードして (PLOAD コマンドによって) ください。

プログラマーの応答: 提供されている定様式ダンプを使用し、障害のある出口ルーチンを訂正してください。

1Q2JI **IDUMP 'dump-name' FROM X'address1' BY
{PWRTASK='ptask-id' | SUBTASK='stask-id'}
IN phasename{(address2)}**

説明: VSE/POWER 区画のスナップショット IDUMP を生成する要求が、コード位置 address1 に近い場所で、次のいずれかにより出されました。

- *ptask-id* によって識別される VSE/POWER タスク。これは、タスク制御ブロックの最初の 12 バイトを表します。
- *stask-id* によって識別される VSE/POWER の VSE/サブタスク (メッセージ 1Q2CI の記述に説明があります)。

dump-name は、VSE/POWER 区画に対して定義されたダンプ・サブライブラリーに作成された MEMBER.DUMP を示しています。IDUMP 要求が失敗した場合は、*dump-name* は '-----' と表示されます。

phasename= IPW\$\$cc[c] - IDUMP 要求を含む VSE/POWER フェーズを示します。

phasename= IPW\$\$nn - 以下の VSE/POWER フェーズ中の IDUMP 要求を示します。この場合、追加メッセージを出すことはできません。

- IPW\$\$01: 「フェーズ IPW\$\$NU のリソース予約」が無効なロック・バイト (X'00'IX'FF' でない) を検出し、予約が失敗しているかもしれません。
- IPW\$\$02: 「フェーズ IPW\$\$NU のリソース解放」が、リソース 'DMB' が要求側のタスクによって所有されていなかったため、失敗しました。
- IPW\$\$03: 「フェーズ IPW\$\$NU のリソース解放」が、リソース 'DMB' が「予約された」状態になっていないので、失敗しました。
- IPW\$\$05: 「フェーズ IPW\$\$NU のタスク選択」が TCB 内で無効な TCSF アドレスを検出しました。タスクは選択され、失敗するかもしれません。
- IPW\$\$07: 「フェーズ IPW\$\$NU の実記憶解放」が、解放するアドレスとして x'00000000' を指定して入力されました。「解放」は無視されます。
- IPW\$\$08: 「フェーズ IPW\$\$NU の実記憶解放」が、解放するアドレスとして実記憶の外側を指定して入力されました。「解放」は無視されます。
- IPW\$\$09: 「フェーズ IPW\$\$NU の実記憶解放」が、無効な BCW (直前/現行バッファ長ゼロ) を持つアドレスを指定して入力されました。「解放」は無視されます。
- IPW\$\$10: 「フェーズ IPW\$\$NU の実記憶解放」が、無効な BCW チェーン (一致する直前または次の BCW が見つからなかった) を含むアドレスを指定して入力されました。「解放」は無視されます。
- IPW\$\$13: 「フェーズ IPW\$\$NU の QUEUE ファイルのタスク・ディスパッチング・トレース (ラベル FTQG00)」で、クラス・アンカー、または「空き」のキュー・レコードを指示する前または次のクラス・ポインターが検出されました。トレースは続行されますが、その後の IDUMP は抑止されます。
- IPW\$\$14: タスク・ディスパッチング・サイクル時の IPW\$\$NU.TIMV00 検査ルーチンで、'TI00' に固有な VSE/POWER タイマー出口ルーチンが使用不可になっている、または置換されていることが検出されました。1Q2JI の IDUMP が取られ (BY PWRTASK='TASKTR TIMV')、'TI00' のタイマー出口ルーチンが監視プログラムに再設定されて、保留中のタイマー・キュー・エレメントが再開されました。

address2 は、フェーズがロードされた地点のアドレスを表します。ユーザー作成出口ルーチンの場合、このアドレスは表示されないことがあります。

システムの処置: VSE/POWER 処理が順調に続行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 付随する IDUMP に記述されている内部障害を解明するために、メッセージ 1Q2JI の前後のコンソール・メッセージを集めてください。定様式 IDUMP を印刷して、全資料を、IBM 担当員に渡してください。マクロ IPW\$IDM を、ユーザー作成出口ルーチンで使用している場合は、ユーザーがご自分で調査してください。IDUMP の印刷開始の際に、汎用レジスター 0-15 にマクロ IPW\$IDM を呼び出す前に、すべてのタスク・レジスターの現在の内容を検出してください。

1Q2KI VSE/POWER RECOVERING FROM FAILURE OF USER EXIT

説明: ユーザー作成出口が原因で、エラーが発生しました。出口ルーチンは適切なタスクにより、正常に呼び出されました。

システムの処置: 出口ルーチンを呼び出そうとしているタスクは、すべて停止します。現在アクティブであるが「アイドル中」(その時点でキュー項目を処理していないこと)であるタスクは、停止しません。タスクを停止させたくない場合(例えば、ジョブを読み込んで「障害のない」ジョブ出口をカタログする場合)、障害のある出口を 'DISABLE' 状態にしてください(PVARY コマンドに DISAB オペランドを指定して)。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。直前のメッセージ 1Q2CI で提供される情報を使用し、PDISPLAY EXIT コマンドを出して、エラーの原因となったコードの位置を識別することもできます。出口ルーチンを呼び出そうとしているタスクは、すべて停止します。停止していないタスクを開始させたい場合、失敗した出口ルーチンを

'DISABLE' 状況にする (DISAB オペランド付きの PVARY コマンドによって) か、失敗していない別の出口ルーチンをロードして (PLOAD コマンドによって) ください。

プログラマーの応答: 提供されている定様式ダンプを使用し、障害のある出口ルーチンを訂正してください。

1Q2LI POFFLOAD ON *cuu* HAS DETECTED AN INCORRECT SPOOL ENTRY FOR THE *xxx* QUEUE IN CLASS=*y*, QUID=*X'zz'*

説明: POFFLOAD BACKUP または PICKUP コマンドが、現在、CLASS =*y* の *xxx* QUEUE を処理中です。このクラス・チェーンの中で、現在処理中の *xxx* キューと一致しないキュー ID (QID=) *X'zz'* をもつキュー項目が検出されました(つまり、空キュー項目または内部キュー項目がありました)。これは、その特定のキュー・クラス・チェーンの中のチェーン・エラーを表します。

??? QUEUE または CLASS=? が表示された場合、誤った POFFLOAD 論理が RDR/LST/PUN/XMT キューの外側のスプール・キューをアドレス指定しました。

CLASS=* が表示された場合、POFFLOAD は、現在、「内部」クラス *X'FA'* をアドレス指定しています。

XMT QUEUE が表示された場合、クラスは、RDR 項目を表す「R」か、または LST および PUN 項目を表す「O」です。システムの処置: VSE/POWER は内部ダンプを要求しました。POFFLOAD タスクはメッセージ 1Q5LI を出して終了します。テープにすでに保管されたスプール項目(あれば)は、

後で、POFFLOAD LOAD コマンドによって再ロードすることができます。

オペレーターの応答: オペレーターは、システム・プログラマーに相談してください。可能な限り、VSE/POWER のもとで実行されているすべての区画と、すべてのタスク (PNET、RJE など) を遮断して、次に PEND FORCE コマンドを出して IPL を実行し、フル・キュー・ファイル・リカバリーが自動的に行われる時点で、キュー・クラス・チェーンを再構成することにより、VSE/POWER キュー・ファイル・リカバリーは強制されます。次に、オペレーターは、POFFLOAD コマンドの実行を再試行してください。

プログラマーの応答: なし。

1Q2MI PDISPLAY BIGGEST DETECTED QUEUE RECORD *nnnnn* WITH INCORRECT QUID=*X'zz'*

説明: PDISPLAY BIGGEST,LIMIT=*m* コマンドは現在、最大キュー項目 *m* を識別するために合計 VSE/POWER キュー・ファイルのスキャンしていますが、Queue Identification (QUID) が BIFILIP ではなく *X'zz'* である、10 進数 *nnnnn* のキュー・レコードを検出しました。

これは、障害のある VSE/POWER コードまたは OEM コード(多くの場合、こちらが原因)によって、一部あるいは合計キュー・レコードがクリアまたは上書きされていることを意味します。

システムの処置: 最初に見つかった誤りのあるレコードについて、VSE/POWER は内部ダンプを要求しています。誤りのある最初の 16 レコードについてメッセージ 1Q2MI が繰り返されますが、コンソール表示があふれないように抑止されます。最大キュー項目 *m* の識別中、誤ったレコードはバイパスされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 誤ったキュー項目をアドレッシングする VSE/POWER タスクは予期しない結果とともに失敗する場合がありますため、すぐに以下のステップを実行しなければなりません。

1. 実行されているサブシステムを含む、すべての VSE/POWER 制御区画をシャットダウン(ネットワークキングのシャットダウンなど)します。
2. PEND FORCE で VSE/POWER を終了します。
3. システムを再 IPL します。これで、以下の項目を行う VSE/POWER フル・キュー・ファイル・リカバリーが始まります。
 - 誤ったキュー・レコードを 1QZ0I RC=0011 でフラグ
 - すべての誤ったキュー・レコードを分離
 - 正しいレコードからクラス・チェーンおよび空きキュー・レコード・チェーンを再ビルド

1Q2NI **OFFLOADING {BACKUP | SAVE | PICKUP} APPENDING ON *cuu* {TO JOURNAL \$OFJaaaa *dd/dd/dd tt:tt:tt* OFTAP=*ppppp* WITH PREVIOUS TOTAL ENTRIES=*mmmmmmmmmmmm* AND NEW JOURNAL \$OFJbbbb | TO AN EMPTY TAPE}.**

説明: 中央オペレーターが、装置 *cuu* の磁気テープに対して APPEND オプションを指定して POFFLOAD BACKUP|SAVE|PICKUP コマンドを入力しました。このコマンドは以前にオプション JOURNAL=YES で作成された既存の POFFLOAD のテープか、または、空テープ (先頭に 2 つ以上のテープ・マークがある) にスプール項目を追加します。APPEND 機能が開始されて、前の POFFLOAD 出力の (最後の) テープを正常にオープンし、新しいスプール項目が書き込まれる、データの終わりを検出しました。前の POFFLOAD 機能のジャーナル LST ジョブ名は、*dd/dd/dd tt:tt:tt* に作成された \$OFJaaaa で、*ppppp* のテープに *mmmmmmmmmmmm* というスプール項目を生成しました。新規のジャーナル LST ジョブ名は \$OFJbbbb となっています。空テープに追加する場合は、POFFLOAD メッセージだけが表示され、APPEND については何も表示されません。

システムの処置: 「EMPTY TAPE」が表示された場合は、POFFLOAD は通常の POFFLOAD 機能を実行開始します。そうでない場合は、POFFLOAD タスクは POFFLOAD APPEND 機能を実行開始します。

オペレーターの応答: 正しいテープがマウントされなかった場合は、PSTOP *tapeaddr* EOJ コマンドを使用して操作を取り消してください。

プログラマーの応答: 適用外

1Q2PI **OFFLOADING {BACKUP | SAVE | PICKUP} ON *cuu* SUCCESSFULLY APPENDED *nnnnn* NEW ENTRIES TO OLD JOURNAL \$OFJaaaa. NEW JOURNAL LST ENTRY \$OFJbbbb CREATED AND TOTAL TAPES OFTAP=*ppppp***

説明: 中央オペレーターが、テープ装置 *cuu* に対して、APPEND オプションを指定して POFFLOAD {BACKUP | SAVE | PICKUP} コマンドを入力し、既存の POFFLOAD テープ (オプション JOURNAL=YES、および \$OFJaaaa のジャーナル LST ジョブ名を指定して以前に作成したもの) にスプール項目を追加しました。さらに、中央オペレーターは正常に操作を終了して、新しいジャーナルを LST ジョブ名 \$OFJbbbb で作成しました。この機能により、*nnnnn* 個の新規スプール項目を含む *ppppp* 個のテープが作成されました。

システムの処置: POFFLOAD 機能が停止しました (この前の POFFLOAD メッセージを参照してください)。

オペレーターの応答: 今後の APPEND 機能で使用するため、10 進数のシーケンス番号でテープを識別し、新規の APPEND 機能で最後のテープ *ppppp* を正しく取り付けられるようにしてください。

プログラマーの応答: 適用外

1Q2QI **OFFLOADING {BACKUP|SAVE|PICKUP} ON *cuu* PARTIALLY APPENDED *nnnnn* NEW ENTRIES TO OLD JOURNAL \$OFJaaaa. NEW JOURNAL LST ENTRY \$OFJbbbb CREATED AND TOTAL TAPES OFTAP=*ppppp***

説明: 中央オペレーターが、テープ装置 *cuu* に対して、APPEND オプションを指定して POFFLOAD BACKUP|SAVE|PICKUP コマンドを入力し、既存の POFFLOAD テープ (オプション JOURNAL=YES、および \$OFJaaaa のジャーナル LST ジョブ名を指定して以前に作成したもの) にスプール項目を追加しました。中央オペレーターは操作を正常に終了しませんでした、新しいジャーナルを LST ジョブ名 \$OFJbbbb で作成しました。この機能により、*nnnnn* の新規のスプール項目を含む *ppppp* のテープが生成されました。

システムの処置: POFFLOAD 機能が停止しました (この前の POFFLOAD メッセージを参照してください)。

オペレーターの応答: エラー (前の POFFLOAD メッセージを参照) または PSTOP *tapeaddr* コマンドが原因で APPEND 機能が正常に完了せず、テープが適切にクローズされなかった場合、テープを手動で (クローズを表すテープ・マークと、必要に応じてラベルを追加して) クローズするまで APPEND 機能は今後使用できません。今後の APPEND 機能で使用するため、10 進数のシーケンス番号でテープを識別し、新規の APPEND 機能で最後のテープ *ppppp* を正しく取り付けられるようにしてください。

プログラマーの応答: 適用外

1Q2RI **OFFLOADING {BACKUP|SAVE|PICKUP} ON *cuu* SUCCESSFULLY APPENDED *nnnnn* NEW ENTRIES TO OLD JOURNAL \$OFJaaaa. NO NEW JOURNAL LST ENTRY AVAILABLE AND TOTAL TAPES OFTAP=*ppppp***

説明: 中央オペレーターが、テープ装置 *cuu* に対して、APPEND オプションを指定して POFFLOAD BACKUP|SAVE|PICKUP コマンドを入力し、既存の POFFLOAD テープ (オプション JOURNAL=YES、および \$OFJaaaa のジャーナル LST ジョブ名を指定して以前に作成したもの) にスプール項目を追加しました。このコマンドは正常に終了しましたが、中央オペレーターは新しいジャーナルを作成できませんでした (前のエラー・メッセージを参照)。この機能によって、*nnnnn* の新規のスプール項目を含む *ppppp* のテープが生成されました。

システムの処置: POFFLOAD 機能が停止しました (この前の POFFLOAD メッセージを参照してください)。

オペレーターの応答: 新規項目のレポートを作成するには、新規ジャーナル LST ジョブ名に言及している前の 1Q2NI メッセージを調べ、ジョブ名 \$OFJbbbb の最後の 10 進番号 (ジャーナル LST ID 'bbbb') を使用し、次の PDISPLAY コマンドを、

PDISPLAY queue,TAPE=*cuu*,OUT=LST,\$OFJ=*bbbb*,FULL=YES

前回の APPEND 操作で作成された新規テープごとに発行してください。今後の APPEND 機能で使用するため、10 進数のシーケンス番号でテープを識別し、新規の APPEND 機能で最後のテープ *ppppp* を正しく取り付けられるようにしてください。

プログラマーの応答: 適用外

1Q2SI **OFFLOADING {BACKUP|SAVE|PICKUP} ON *cuu* PARTIALLY APPENDED *nnnnn* NEW ENTRIES TO OLD JOURNAL \$OFJ*aaaa*. NO NEW JOURNAL LST ENTRY AVAILABLE AND TOTAL TAPES OFTAP=*ppppp***

説明: 中央オペレーターが、テープ装置 *cuu* に対して、APPEND オプションを指定して POFFLOAD BACKUP|SAVE|PICKUP コマンドを入力し、既存の POFFLOAD テープ (オプション JOURNAL=YES、および \$OFJ*aaaa* のジャーナル LST ジョブ名を指定して以前に作成したもの) にスプール項目を追加しました。中央オペレーターは操作を正常に終了せず、新しいジャーナルを作成できませんでした (前のエラー・メッセージを参照)。この機能によって、*nnnnn* の新規のスプール項目を含む *ppppp* のテープが生成されました。

システムの処置: POFFLOAD 機能が停止しました (この前の POFFLOAD メッセージを参照してください)。

オペレーターの応答: エラー (前の POFFLOAD メッセージを参照) または PSTOP *tapeaddr* コマンドが原因で APPEND 機能が「正常に」完了せず、テープが適切にクローズされなかった場合、テープを手動で (クローズを表すテープ・マークと、必要に応じてラベルを追加して) クローズするまで APPEND 機能は今後使用できません。新規項目のレポートを作成するには、新規ジャーナル LST ジョブ名に言及している前の 1Q2NI メッセージを調べ、ジョブ名 \$OFJ*bbbb* の最後の 10 進番号 (ジャーナル LST ID '*bbbb*') を使用し、次の PDISPLAY コマンドを、

PDISPLAY *queue*,TAPE=*cuu*,OUT=LST,\$OFJ=*bbbb*,FULL=YES

前回の APPEND 操作で作成された新規テープごとに発行してください。オペレーターは、今後の APPEND 機能で使用するため、10 進数のシーケンス番号でテープを識別し、新規の APPEND 機能で最後のテープ *ppppp* を正しく取り付けられるようにしてください。

プログラマーの応答: 適用外

1Q2TI **OFFLOADING *type* ON *cuu* APPEND UNSUCCESSFUL**

説明: 中央オペレーターが、磁気テープ装置 *cuu* に対して APPEND オプションを指定して POFFLOAD BACKUP|SAVE|PICKUP コマンドを入力しました。このコマンドは、以前にオプション JOURNAL=YES、ジャーナル LST のジョブ名 \$OFJ*aaaa* で作成された既存の POFFLOAD テープにスプール項目を追加するものですが、テープに項目は追加されませんでした。

システムの処置: POFFLOAD 機能が停止しました (この前の POFFLOAD メッセージを参照してください)。

オペレーターの応答: この前のエラー・メッセージを調べてください。前回の最終 APPEND テープ (これのみ) を再オープンするときにエラーが発生した場合、または PSTOP *tapeaddr* コマンドが入力された場合、テープのクローズを表すテープ・マークおよび/またはラベルは除去された可能性があります。そのため、テープを手動で (クローズを表すテープ・マークと、必要に応じてラベルを追加して) クローズするまで APPEND 機能は今後使用できません。

プログラマーの応答: 適用外

1Q30D **ABNORMAL VSE/POWER TERMINATION, DUMP REQUIRED? (YES/NO)**

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. VSE/POWER タスクの 1 つが異常終了したか、あるいはオペレーターが PEND FORCE を指定し、VSE/POWER の異常終了処理時にオペレーターとの通信と確認用に SET 1Q30D=YES 自動スタート・ステートメントが要求されています。
2. 上記のメッセージに対する応答で、YES も NO も入力されませんでした。

システムの処置: VSE システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答を確認した後で、VSE/POWER は終了します。

オペレーターの応答: 独立型ダンプ (VSE/POWER がスプールした区画を含めて) を取りたい場合、今、実行してください。VSE/POWER ダンプが必要であれば、YES と応答してください。ダンプが必要でなければ、NO と応答するか、END または ENTER を押してください。ユーザーが指定した、任意のダンプ・オプションが用いられます。VSE/POWER ダンプはダンプ・ライブラリーに書き込まれます。ダンプ・ライブラリーがいっぱいであるか、未定義である場合には、メッセージ 1QC5D が出ます。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 前に出されている異常終了メッセージと合わせて、このメッセージを調べてください。

1Q31I **ACCOUNT FILE (IJAFILE) MORE THAN 80% FULL**

説明: VSE/POWER 会計ファイルの少なくとも 80 パーセントがいっぱいです。

システムの処置: 処理が続行され、メッセージが毎分繰り返して出されます。

オペレーターの応答: 会計ファイルを空にするために、PACCOUNT コマンドを出してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q32A **NO MORE ACCOUNT FILE (IJAFILE) SPACE FOR *task, cuu***

説明: VSE/POWER 会計ファイルがいっぱいです。

システムの処置: タスク (関連する CUU と共にメッセージで示された) は待ち状態にあります。会計ファイルが空になれば、自動的に再活性化されます。

オペレーターの応答: 会計ファイルを空にするために、PACCOUNT コマンドを出してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q33I **STOPPED {task, cuu | partition-id} [DUE TO EXIT FAILURE | DUE TO 'PSTOP cuu2, FORCE' RC=nn]**

説明: 次のいずれかです。

1. PSTOP コマンドが出されて VSE/POWER タスクが終了したか、区画が VSE/POWER の制御から解放されました。
2. PEND コマンドが出されて VSE/POWER が終了しました。
3. テープ・タスクが終了しました。
4. 出力ルーチンがそのタスクを停止させました。
5. ユーザー出力ルーチンまたは読み取り側出力ルーチンで障害が発生し、対応するタスクを停止させなければなりませんでした。

メッセージ・テキストが DUE TO 'PSTOP cuu2, FORCE' RC=nn で終わる場合は、理由コード RC は VSE/POWER タスクが停止する前の状態を表します。戻りコードには以下のものがあります。

1. RC=01 仮想記憶を待っている
2. RC=02 実記憶を待っている
3. RC=03 オペレーターの応答を待っている
4. RC=04 印刷装置、穿孔装置、またはテープ装置の入出力の完了を待っている
5. RC=05 ロックされているリソースを待っている

ほとんどの場合、cuu は cuu2 と同じです。以下のタスクの場合は、同じではありません。

1. テープを入力装置として使用するローカル印刷または穿孔タスク
2. DISP=T が JECL ステートメントにあるためにテープを出力装置として使用する実行書き込みタスク
3. TAPE=cuu2 を指定した PDISPLAY のために開始された印刷状況タスク (PS)

システムの処置: 読み取り/書き込みタスクまたは区画が VSE/POWER から切り離され、またこれらが使用していた実/永続固定ストレージが解放されます。テープ読み取りタスクの場合は、テープがアンロードされ、テープ装置は割り当て解除されます。

オペレーターの応答: なし。

- (3) の場合、装置からテープを取りはずしてください。
- (4) の場合、タスクを再始動する必要があるかもしれません。
- (5) の場合、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q34A **partition-id WAITING FOR INPUT ON cuu**

説明: 区画 partition-id 内のアクティブ・ユーザー・プログラムによって処理される読み取りキューに、ディスパッチ可能なジョブがこれ以上ありません。このメッセージのバージョンは、'MT' (マルチタスキング) タイプの区画によく現れます。システムの処置: 区画はアクティブのままです。この区画の実行クラスによって選択可能なジョブが、ディスパッチ可能になるか、または読み取りキューに入れられると、アクティブ・ユーザー・プログラムは自動的に処理を続けます。

オペレーターの応答: 示された区画の実行クラスに対して、以下のいずれかを実行してください。

- ディスパッチ可能なジョブをさらに読み取りキューに入れる。
- 読み取りキューからジョブをさらに解放する。
- ディスパッチ可能なジョブが PNET、RJE またはスプール・アクセス・サポート・インターフェースからサブミットされるまで待つ。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q34I **1. task WAITING FOR WORK ON cuu**
2. partition-id WAITING FOR WORK

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明: メッセージ・テキストに応じて、次のとおりです。

1. 装置 cuu に関して開始されたローカル読み取り/書き込みタスクのデータが、これ以上ありません。
2. 区画 partition-id 内のジョブ制御プログラムが処理する読み取りキューに、ディスパッチ可能なジョブがこれ以上ありません。

システムの処置: メッセージ・テキストに応じて、次のとおりです。

1. 読み取りタスクまたは書き込みタスクはアクティブのままですが、そのデータ・バッファは解放されます。データが装置 cuu での読み取り、書き込み、または穿孔に使用可能になると、タスクは自動的に続行されます。
2. 区画はアクティブのままです。この区画の実行クラスによって選択可能なジョブがディスパッチ可能になるか、または読み取りキューに入れられると、示された区画は処理を再開します。

オペレーターの応答: メッセージ・テキストに応じて、次のとおりです。

1. ローカル・カード読取装置にさらにジョブを入力するか、リスト/穿孔出力を処理できるようにしてください。これ以上行作業がない場合、PSTOP cuu コマンドを入力して、タスクを停止させてください。
2. 示された区画の実行クラスに対して、以下のいずれかを実行してください。
 - ディスパッチ可能なジョブをさらに読み取りキューに入れる。
 - 読み取りキューからジョブをさらに解放する。
 - ディスパッチ可能なジョブが PNET、RJE またはスプール・アクセス・サポート・インターフェースからサブミットされるまで待つ。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q35A **JOB END INDICATION MISSING ON cuu, SUBMIT EITHER REST OF JOB OR {'/& ' | '* \$\$ EOJ '} STATEMENT**

説明: cuu から最後に読み取られたステートメントが、正しいジョブ区切りステートメントではありません (* \$\$ EOJ または /& ではない)。

システムの処置: メッセージを出した読み取りタスクは待ち状態に置かれます。

オペレーターの応答: 欠落しているステートメントをカード読取装置 (cuu) に入れてください。

PDISPLAY A,LOCAL (for RDR,cuu) が、これまでに読み込まれたステートメントに関して AUTONAME のジョブ名を示している場合は、不用意に受け取ったステートメントを削除するために、読取装置を PSTOP することができます。あるいは、提案された終了ステートメントをサブミットして、AUTONAME ジョブを RDR キューに (後処理 D で) キューイングしてください。このような AUTONAME ジョブの実行を回避したい場合は、自動スタート・ステートメント SET AUTONAME=FLUSH | HOLD を使用してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q36I DISP=X JOB(S) IN VSE/POWER READER QUEUE AFTER ABNORMAL TERMINATION

説明: 異常終了後、VSE/POWER は、自動スタート・プロシージャに含まれている SET NORUN=YES (または =YES,DYN1=PAUSE) ステートメントにより再始動されました。X のディスパッチ不可能な後処理は、システムの障害時にアクティブであった少なくとも 1 つの読み取りキュー項目に対して割り振られています。

システムの処置: 区画の自動スタート中にメッセージ 1Q36I が一度出され、実行に適格であるジョブを検出した静的区画 (および 'max-active-per-class=1' の動的区画) はすべて VSE/AF '// PAUSE' モードに置かれ、後続のジョブは始動されません。

オペレーターの応答: PDISPLAY RDR,CDISP=X コマンドを使って、該当の読み取りキュー項目を識別してください。

PDISPLAY A,PART=X コマンドを使って、該当の実行クラスを識別してください。同じクラスの他のジョブを開始する前に、処理すべきジョブを決めてください。PALTER

RDR,...,DISP=* コマンドによって DISP=X の項目を元の後処理に戻すことができます。このとき、処理順序を再度調べてください。次に、休止モードの区画に対して実行キーを押して処理を継続してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q37I JECL STATEMENT INCORRECT NEAR COLUMN nnn

説明: JECL ステートメントの n 桁目付近のオペランドに、形式上または内容上のエラーがあるか、またはオペランドが正しくありません。

システムの処置: 誤りのある JECL ステートメントが、このメッセージと共にコンソールに表示されます。誤りのある * \$\$ JOB ステートメントに PWD= または SEC= のいずれかのパラメーターが含まれており、ジョブが PNET で受信されなかった場合、そのパラメーター値で始まるそれ以降のすべての文字は抑止されます。ジョブが PNET で受信された場合は、PWD= または SEC= パラメーター値は '**...**' で提示されます。無効なオペランドがすでに指定されたものでなければ、そのオペランドはシステム・デフォルトで置き換えられます。後続のオペランドはすべて無視され、システム・デフォルトが使

用されます。ジョブは、RDR または XMT のいずれかのキューの中で「保留」状況に置かれます。時間イベント・スケジューリング・パラメーターが無効の場合は、どの時間イベント・スケジューリング指定も有効になりません。デフォルトは使用されません。

オペレーターの応答: デフォルト値を受け入れられない場合は、PDELETE コマンドを出してから、JECL ステートメントを訂正して、そのジョブを再実行してください。プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 誤りのあるステートメントを訂正して、必要であればジョブをサブミットし直してください。

1Q38A NO DASD SPACE AVAILABLE FOR task,cuu

説明: 次のいずれかを行ってください。

- 読み取りタスク、SAS タスク、RJE タスク、ネットワーク受信タスク、または実行処理プログラムが、DBLK グループを要求しましたが、空き DBLK グループ・クッション以外に使用できるグループはありません。
- キュー表示タスクが DBLK グループを要求しましたが、空き DBLK グループ・クッションには、これ以上使用できるグループはありません。
- テープからキュー/データ・ファイルに、キュー項目をリストアしようとしたのですが、空き DBLK グループ・クッション以外で使用できるデータ・ファイル・スペースがありません。

システムの処置: このメッセージを出したタスクは待ち状態になります。DBLK グループが使用できるようになったとき、そのタスクは自動的に再び活動化されます。ただし、タスクがアカウント保管タスクまたは状況印刷 (キューの表示) タスクである場合には、タスクは終了し、追加メッセージが出されません。

オペレーターの応答: DASD スペースを使用可能にするため、次のいずれかを行ってください。

- リストまたは穿孔書き込みタスクを開始して、出力キュー内のキュー項目を処理してください。キュー項目からのすべての出力が処理された後、キュー・ファイル・レコードおよび関連する DBLK グループが解放されます。
- POFFLOAD コマンドを使用して、キュー項目を磁気テープに (後で処理できるように) 保管してください。
- キュー・ファイルからキュー項目を削除してください。キュー項目が削除されると、そのキュー・ファイル・レコードおよび関連する DBLK グループが解放されます。
- PDISPLAY A または PDISPLAY CRE コマンドを使用して、実行中の区画によって作成されている大きな出力項目を見つけてください。区画を PFLUSH するか、または作成中の出力を (PALTER...,SEGMENT= または PSEGMENT コマンドを介して) セグメント化することによって、RDR/LST/PUN/XMT キューの中で出力を処理または削除 (またはその両方) できるようにしてください。
- PDISPLAY DEL コマンドを使用して、遅延削除中の、すなわち、まだブラウズ中の大きな出力項目を見つけてください。PDISPLAY A,SAS コマンドを介してこのキュー項目のブラウザーを識別し、PSTOP SAS, nnnnn コマンドを使用して、その SAS 識別トークン nnnnn によってブラウズ・タスクを終了してください。

1Q39I • 1Q3DI

このメッセージが頻繁に出る場合は、システム・プログラマーに通知し、「ウォーム・スタート中のデータ・ファイル拡張」機能を使用して、データ・ファイル (IJDFILE) のサイズを大きくしてもらってください。

システム・プログラマーの応答: データ・ファイルを大きくするか、POWER マクロの DBLKGP オペランドを少なくしてください。

1Q39I {RDR|LST|PUN|XMT} jobname FLUSHED BY OPERATOR, VSE/POWER, OR USER

説明: 示されたキュー内の項目に関して、以下のいずれかです。

- オペレーターが、メッセージに示された VSE/POWER ジョブからの出力の処理を中止するために PFLUSH コマンドを出しました。
- アプリケーション・プログラムが、無効な (またはエラー条件を引き起こすような) SETPRN 要求を出しました。
- スプール・スペースが少ないため、出力スプーリングが中止されました。
- スプール・アクセス・サポート PUT 機能を使用するプログラムが、'QUIT' 要求を出しました。
- ジョブ出口ルーチンがそのジョブを取り消しました。
- 出力出口ルーチンがそのジョブを取り消しました。

エラーの性質についての詳細情報は、この 1Q39I の前に表示または印刷されたメッセージを参照してください。

システムの処置: このメッセージはコンソールに表示されますが、リスト出力がフラッシュされた場合は、さらに印刷装置で印刷されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 必要なら、取り消されたジョブを再実行してください。

1Q3AI ERROR WHILE PROCESSING ACCOUNT RECORD, RC=nnnn

説明: 理由は、以下に示すように、理由コード (RC) によって暗黙に示されます。

RC=0001:

会計レコード長が、1 つの CCW に対する最大データ長を超えています。

RC=0002:

会計レコード長が、VSE/POWER が許可している最大データ長を超えています。

RC=0008:

次のいずれかです。要求したボリュームが取り付けられていません。SYS000 が割り当てられていません。指定された物理装置が、そのシステムにありません。要求された装置が DASD ではありません。

RC=000C:

SYS000 に対して、'IGNORE' が指定されました。

RC=0010:

装置 SYS000 が操作可能状態になっていません。

RC=0018:

論理装置 SYS000 が DASD として定義されていません (下記の注を参照)。

RC=001C:

装置 SYS000 が作動可能状態になっていません。

注: VM/SP の下の仮想マシンで操作するときは、IPL の前に、FBA 装置を作動可能状態にしなければなりません。

システムの処置: 次のいずれかを行ってください。

1. RC=0001 および RC=0002 の場合は、PUTACCT 要求を出したタスクは直ちに停止し、会計レコードは無視されます。
2. 他の理由コードの場合は、VSE/POWER の初期設定は終了します。

オペレーターの応答: 会計ファイルの入っている装置の割り当てをチェックしてください。または、装置を作動可能状態にしてください。システム・プログラマーに連絡してください。

システムの処置: 必要に応じて訂正を加え、システム定義に変更を加えてください。

プログラマーの応答: RC が 0001 または 0002 である場合、そのエラーを調べて、必要に応じてプログラムに訂正を行ってください。

1Q3BI DBLK SIZE SET TO TRACK CAPACITY OF xxxxx BYTES

説明: VSE/POWER の生成時に、データ・ファイルが置かれる装置のトラック容量よりも大きい DBLK サイズが指定されました。

システムの処置: VSE/POWER の初期設定が続行されます (トラック当たりの最大レコード・サイズが DBLK 値として使用されます)。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システムの処置: POWER 生成マクロまたは VSE/POWER スタートアップ値の DBLK の指定を検査してください。

1Q3CI INVALID BLOCKSIZE FOR filename

説明: ディスクに保管しなければならないユーザーの会計ファイルのブロック・サイズが、VSE/POWER の会計ファイルの値と一致していません。

システムの処置: 「会計ファイルをディスクに保管する」機能を実行することができません。

オペレーターの応答: 別のディスクを使用するか、あるいは会計ファイルをテープまたはカードに保管してください。システム・プログラマーに連絡してください。

システムの処置: 必要に応じてシステム・エラーを記録してください。

1Q3DI INVALID CI-SIZE FOR filename

説明: ディスクに保管しなければならないユーザーの会計ファイルの制御インターバル (CI) サイズが、VSE/POWER の会計ファイルの値と一致していません。

システムの処置: 「会計ファイルをディスクに保管する」機能を実行することができません。

オペレーターの応答: 別のディスクまたは一致する CI サイズを使用するか、あるいは会計ファイルをテープまたはカードに

保管してください。 システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 必要に応じてシステム・エラーを記録してください。

1Q3EI DYNAMIC CLASS 'x' WAITING FOR WORK

説明: このメッセージは、処理クラス *x* のディスパッチ可能ジョブが読み取りキューにこれ以上ない場合に表示されます。システムの処置: 動的クラス *x* は、動的区画の割り振りに対して使用可能のままとなります。クラス *x* のジョブを、ディスパッチできるようにするか、読み取りキューに入れると、クラス *x* の動的区画がただちに始動します。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- ディスパッチ可能なジョブをさらに読み取りキューに入れる。
- 読み取りキューからそのクラスのジョブをさらに解放する。
- ディスパッチ可能なジョブが PNET、RJE またはスーパー・アクセス・サポート・インターフェースからサブミットされるまで待つ。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q3FI 1. DYNAMIC CLASS(ES) SUSPENDED - NO ALLOCATION SPACE 2. DYNAMIC CLASS(ES) SUSPENDED - NO MORE PARTITION AT ALL 3. DYNAMIC CLASS(ES) SUSPENDED - NO SYSTEM GETVIS SPACE 4. DYNAMIC CLASS(ES) SUSPENDED - NO VSE/POWER SETPFIX SPACE 5. DYNAMIC CLASS(ES) SUSPENDED - NO VSE/POWER GETVIS-24 SPACE 6. DYNAMIC CLASS(ES) SUSPENDED - NO PFIXED SYSTEM GETVIS SPACE 7. DYNAMIC CLASS(ES) SUSPENDED - VSE/POWER SETPFIX SPACE RUNNING OUT 8. DYNAMIC CLASS(ES) SUSPENDED - VSE/POWER GETVIS-24 SPACE RUNNING OUT

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明: 動的区画の割り振りに失敗しました。メッセージ・テキストに応じて、次のとおりです。

1. VSIZE パラメーターで定義された、システムにより割り振られた仮想域の合計サイズが小さすぎて、これ以上動的区画を割り振ることができません。
2. NPARTS パラメーターで定義された静的区画数と動的区画数の合計に達しているため、これ以上、動的区画を割り振ることはできません。

3. IPL 時にシステムにより割り振られ、IPL SVA コマンドで拡張されたシステム GETVIS スペースの合計量が、すべて使用されているため、これ以上動的区画を割り振ることはできません。
4. VSE/POWER 区画の SETPFIX LIMIT 値で定義された VSE/POWER 実ワークスペースが一時的に使いきられています。
5. VSE/POWER 区画の ALLOC 値と SIZE 値の組み合わせで定義された VSE/POWER 仮想ワークスペース (区画 GETVIS-24 スペース) が一時的に使いきられています。
6. 動的区画に制御ブロックを割り振る目的で、PFIX オプションを使用してシステム GETVIS スペースを獲得することは、現在できません。
7. まもなく、割り振り済みのすべての動的区画が VSE/POWER 実ワークスペースを使い切るおそれがあります。このスペースは、SETPFIX LIMIT コマンドで定義されています。
8. まもなく、割り振り済みのすべての動的区画が VSE/POWER 区画 GETVIS-24 スペースを使いきるおそれがあります。このスペースは、ALLOC コマンドと SIZE 値の組み合わせで定義されます。

システムの処置: メッセージ・テキストに応じて、次のいずれです。

1. 動的クラスが不足すると割り振りが保留されます。次の動的区画が終了すると、あるいは少なくとも 10 秒ごとに、割り振りが再開されます。障害とすべての関連情報が、統計状況報告書に記録されます。「NO MORE ALLOCATION SPACE」を参照してください。このメッセージは、障害時に 10 分おきに繰り返し表示されます。
2. すべての動的クラスは割り振りを保留されます。次の動的区画が終了すると、割り振りが再開されます。障害とすべての関連情報が、統計状況報告書に記録されます。「NO MORE DYN. PARTITION AT ALL」を参照してください。このメッセージは、障害時に 10 分おきに繰り返し表示されます。
3. すべての動的クラスは割り振りを保留されます。次の動的区画の終了時、または少なくとも 10 秒ごとに、割り振りが再試行されます。障害とすべての関連情報が、統計状況報告書に記録されます。「NO MORE SYSTEM GETVIS SPACE」を参照してください。すでに割り振られた区画でのジョブの実行が、スペースの不足により著しく妨害されたため、このメッセージは障害時には 2 分おきに繰り返し表示されます。
4. すべての動的クラスは割り振りを保留されます。次の動的区画の終了時、または少なくとも 10 秒ごとに、割り振りが再試行されます。障害とすべての繰り返し統計状況報告書に記録されます。「NO MORE VSE/POWER SETPFIX」を参照してください。VSE/POWER スプーリングおよびその他の機能が、スペースの不足により著しく妨害されるため、このメッセージは、障害時に 10 分おきに繰り返し表示されます。
5. 4 と同様ですが、統計行「NO MORE VSE/POWER GETVIS-24」を参照してください。
6. 上記 3 と同様ですが、統計行「NO MORE SYSTEM GETVIS SPACE」も使用してください。

7. すべての動的クラスは割り振りを保留され、これにより、既存のタスクは限られたストレージ・リソースを用いて正常に作動します。さらにシステムの処置 4 (上記) がとられます。
8. すべての動的クラスは割り振りを保留され、これにより、既存のタスクは限られたストレージ・リソースを用いて正常に作動します。さらにシステムの処置 4 (上記) がとられます。

オペレーターの応答: ただちに、システム・プログラマーに障害を報告してください。SETPFIX または GETVIS スペースが頻繁に不足するときは、コンソールで VSE/POWER 統計を取り出してください。次に、PEND、PEND IMM、または PEND FORCE コマンドを使用して、より多くの実または仮想ワークスペースで再始動するために VSE/POWER を終了してください。

システム・プログラマーの応答: PDISPLAY DYNC コマンドにより、現在割り振りが保留されているクラスが示されます。PDISPLAY STATUS コマンドを使用して、VSE/POWER 統計報告書を取得し、記録された割り振り失敗発生頻度を判別してください。割り振り失敗が頻繁に起きるときは、メッセージ・テキストに応じてシステム・パラメーターを変更してください。

1. 監視プログラム・コマンドの VSIZE パラメーターを増やし、ページ・データ・セットのスペースの量を変更してください。かわりに、IPL SYS コマンドの NPARTS パラメーターを使用して、同時にアクティブである動的区画の数を減らすか、または 1 動的クラス当たりの最大アクティブ区画数を減らすこともできます。
2. IPL SYS コマンドの NPARTS パラメーターを増やしてください。または動的クラス指定の 1 クラス当たりの最大アクティブ区画数を減らすこともできます。
3. IPL SVA コマンドの GETVIS を増やしてください。
4. 使用された SETPFIX スペースについて統計状況報告書を解釈し、VSE/POWER を次にスタートアップするときに SETPFIX LIMIT の値を増やしてください。
5. 「VIRTUAL STORAGE OCCUPIED BY VSE/POWER PHASES」について統計状況報告書を解釈し、以下のいずれかを行ってください。
 - 区画 GETVIS-24 スペースをさらに提供するために、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」のトピック『Processor- and Virtual-Storage Requirements』に示されたヒントを参考にして、(現行 ALLOC 量はず変えずに) SIZE 値を減らしてみてください。
 - VSE/POWER 区画の ALLOC 値を増やしてください。
6. 静的区画に割り振られた ALLOC R 量または SETPFIX LIMIT 量を減らすか、または仮想マシンの実行時に、DEFSTOR コマンドを使用して仮想記憶をさらに定義してください。
7. プログラマー応答番号 4 (上記) を使用するか、または 1 クラスごとに定義する最大アクティブ区画数を減らしてください。
8. プログラマー応答番号 5 (上記) を使用するか、または 1 クラスごとに定義する最大アクティブ区画数を減らしてください。

1Q3GI RESTRICTED ALLOCATION OF DYN. PART. *cn* - NO SYSTEM GETVIS FOR VENDOR EXITS

説明: 取引先出口ルーチンの活動化のために必要な制御ブロックを割り振るためのシステム GETVIS スペースが不足しているため、示された動的区画は、制限付き機能サポートでのみ開始することができます。

システムの処置: 動的区画は正常に開始されていますが、取引先出口ルーチンは活動化されません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: IPL SVA コマンドの 31 ビット GETVIS 域にある GETVIS 値を大きくしてください。

1Q3HI JOB AUTONAME *jobnumber* {FLUSHED|HELD} DUE TO 'SET AUTONAME', TASK *task,uuu*

説明: ローカルまたはリモート読み取りタスクによって、または他の区画からの受け渡しによって、有効な '* \$\$ JOB' または '// JOB' ステートメントで始まらない一連のステートメントが読み込まれました。

VSE/POWER はこのデータを「AUTONAME」という名前のジョブとして収集しましたが、VSE/POWER スタートアップ・プロシージャの中に 'SET

AUTONAME=FLUSH|HOLD' ステートメントが組み込まれています。

システムの処置: VSE/POWER は AUTONAME ジョブをフラッシュするか、またはそれを DISP=H で読み取りキューに追加します。

オペレーターの応答: この問題をシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 保留されている AUTONAME ジョブの内容およびその送信元を分析してください。

1Q3JA NEW SAS=*xpcc-applid* TASK REJECTED DUE TO MAXSAS=*nnnnn*, INCREASE LIMIT WITH 'PVARV MAXSAS,*nnn*'

説明: 並行スプール・アクセス・サポート

(SAS-GET/PUT/CTL/GCM) タスクが最大数のしきい値 *nnnnn* に達しました。このため、これ以上の SAS 接続を確立することはできません。SAS=*xpcc-applid* アプリケーションが SYSPWR への接続中に誤ってループしているか、システム上の VSE/POWER キューに対して、意図的に大量のスプール・アクセス・トラフィックが発生しています。

システムの処置: 新しい XPCC CONNECT 要求の場合は、PXPRCNOG/PXP10MST と等価の VSE/POWER PXPRETCD/PXPFBKCD = X'10/07' と一緒に、後続の GET/PUT/CTL/GCM-OPEN 要求が XPCC DISCPRG (IJBXRETCD/IJBXREAS = X'19/40') で拒否されます。既存の SAS タスクが終了したときのみ、SYSPWR への新しい接続が許可されます。

オペレーターの応答: PDISPLAY STATUS コマンドを入力して、SAS タスクの現在の最大数を識別します。PDISPLAY

A.SAS コマンドを使用して、VSE/POWER と通信する SAS=*xpcc-applid* アプリケーションを識別します。アプリケーションが CONNECT 中にループしていると思われる場合は、その区画の終了、フラッシュ、または取り消しを行ってください。ただし、システムが意図的に大量のスプール・アクセス・トラフィックを受けている場合は、'PVARY MAXSAS,*nnnn*' コマンドで SAS タスクのしきい値を増やしてください。*nnnn* には 50 から 2000 までの値を指定してください。システム・プログラマーの応答: 250 の SAS タスクの VSE/POWER デフォルトしきい値を目的に合わせて変更するために、PVARY MAXSAS,*nnnn* コマンドを VSE/POWER スタートアップ・ファイルに入れてください。

1Q3KI XEM APPLID *aaaaaaaa* CANNOT BE STARTED RC=*nnnn*

説明: *aaaaaaaa* によって指定された APPLID が GCM-XEM サービスを開始できませんでした。コード *nnnn* は失敗の理由を以下のように示しています。

RC=0001: XEM 制御ブロック用の実 (固定) ストレージが足りないため、XEM サポートは利用できません。

RC=0002: サービスを同時に使用できるアプリケーションの最大数を越えたため、GCM-XEM サービスは開始できません。

RC=0003: GCM-XEM サービスは、同じ ID を持つアプリケーションによってすでに開始されているため開始できません。

RC=0004: アプリケーション・メッセージ・キュー用の仮想ストレージ (16 M 境界より上の GETVIS-31 域内) が足りないため、GCM-XEM サービスを開始できません。

システムの処置: アプリケーションが GCM-XEM サービスを使用できません。VSE/POWER は引き続き動作し、現在実行されている他のすべてのアプリケーション (存在する場合) に対して GCM-XEM サービスを処理します。

オペレーターの応答: アプリケーション・プログラマーに連絡してください。

RC=0001 の場合は、固定域を拡張して、VSE/POWER を再始動してください。

RC=0002 の場合は、実行中のすべての XEM アプリケーションが終了するまで待機してから、失敗したアプリケーションを再始動してください。

RC=0003 の場合は、同じ ID を持つアプリケーションが実行されている間は待機し、その後で、失敗したアプリケーションを再始動してください。

RC=0004 の場合は、実行中のすべての XEM アプリケーションが終了するまで待機してから、失敗したアプリケーションを再始動してください。VSE/POWER 区画の GETVIS-31 域を拡張して、VSE/POWER を再始動してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q40A ON {*cuu*} *task* FORMS *ffff* NEEDED FOR *jobname jobnumber*

説明: 上記のジョブの該当の出力は、指定された装置上に表示された用紙を必要としています。このメッセージがリモート・

ジョブ出力についてのものであれば、装置標識は LST か PUN (場合に応じて) となります。

VSE/POWER は、次の場合にこのメッセージを表示します。

- 制御テーブルの生成で、POWER マクロが PAUSE=YES を含んでいた場合、スプールされた穿孔出力の直前に表示します。
- 印刷装置に対しては、
 - 印刷タスクが PSTART コマンドによって開始されたとき
 - FCB がロードされたとき

システムの処置: 該当の出力を処理するタスクは、オペレーターが用紙を取り替えるのを待ちます。他の VSE/POWER タスクの処理が継続されます。表示パネル付印刷装置への出力に対しては、そのタスクが MSG オペランドにより始動された場合は、タスクはパネル上に FORM RQ *ffff* を表示させます。オペレーターの応答: メッセージ内の *ffff* がブランクの場合には、ユーザーのシステムで定めている標準用紙を使ってください。

穿孔出力 については、FORMS *ffff* のメッセージに示されたカードを、穿孔装置のホッパーに置いてください。

リスト出力 については、応答は出力がただちに必要であるか、あとでよいかによって異なります。

- 出力をただちに必要とする場合
 1. 必要な用紙を印刷装置にかけてください。この方法は、印刷装置の操作手引書をご覧ください。
 2. 用紙の位置をチェックしたい場合は、繰り返しになっても、PSETUP *cuu,nn* コマンドを入力してください。
 3. 最後に、まだ保留中のメッセージ 1Q40A を完了させるために、PGO *cuu* コマンドを入力して、待機中の VSE/POWER タスクを再始動してください。
- 出力があとでよい場合。
 1. 該当出力に対して PFLUSH *cuu,HOLD* コマンドを入力してください。
 2. 出力を印刷するときに、必要な用紙を印刷装置にかけてください。この方法は、印刷装置の操作手引書をご覧ください。
 3. コマンド PRELEASE LST *jobname.jobnumber* を入力してください。
 4. 用紙の位置をチェックしたい場合は、PSETUP *cuu,nn* コマンドを入力してください。
 5. 最後に、まだ保留中のメッセージ 1Q40A を完了させるために、PGO *cuu* コマンドを入力して、待機中の VSE/POWER タスクを再始動してください。

以上の代わりに該当タスクに対して PSTOP (* .. STOP) コマンドを入力することができます。この方法によって、異なったクラスの出力処理に対してその装置を使うことができます。

端末側でのメッセージに対する応答は、よく似ています。セクターのオペレーターのコマンドの代わりに、対応するリモート・オペレーター・コマンドを使ってください。

(* .. for P). Example: * .. SETUP instead of PSETUP.

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q41I **MISMATCHING {PRINTER | PUNCH}**
TYPE FOR *jobname jobnumber ON real-cuu,*
SPOOL-TYPE=X '*spool-dev*' (*spool-cuu*),
REAL-TYPE=X '*real-dev*' (*real-cuu*)

説明: ローカル・リストまたは穿孔タスクに使用可能な実印刷装置または穿孔装置のタイプが、スプーリング時 (すなわち、示された出力項目を作成したジョブの実行時点) に区画に割り当てられたタイプと同じではありません。

spool-dev

スプール装置の装置タイプ・コードを示します。
spool-dev (X'FF') が出されなかった場合、装置タイプは不明です。これが起こる可能性があるのは、出力が非 PNET ノードから受信された場合、または出力用のスプール・アクセス・サポート PUT サービスによって出力が作成された場合です。

spool-cuu

出力が作成されたスプール装置を示します。

real-dev 書き込みタスクが開始された実装置の装置タイプ・コードを示します。

real-cuu 書き込みタスクが開始された実装置を示します。

関連する装置タイプを判別するには、次の表を参照してください。

D/T コード

	装置タイプ
20	2520B2 または 2520B3 カード穿孔装置
21	2540 カード穿孔装置
22	1442 カード穿孔装置
23	3525 穿孔装置
30	1442 または 2596 カード読取/穿孔装置
31	2520B1 カード読取/穿孔装置
32	3525RP 読取/穿孔装置
33	2560 多機能カード・マシン
34	5425 多機能カード装置
40	1403 印刷装置
41	1443 印刷装置
42	1443 印刷装置 (UCB 付き)
43	3211、3203-4/5、3289-E、3262、4245 印刷装置
44	漢字印刷装置
45	3800 印刷装置
46	4248 印刷装置
4A	3203 印刷装置
4C	5203 印刷装置
4D	5203 印刷装置 (UCS 機構付き)
F0	3800 AFP 印刷装置
FF	スプール・アクセス・サポートまたは不明の起点のいずれか

物理的な印刷または穿孔の時点で、VSE/POWER が、実印刷装置または穿孔装置と互換性のない CCW 命令コードを検出することがあります。互換性のないチャンネル・コマンド・コードはすべて、物理装置でのコマンド・リジェクトを避けるために、意図的に無視されます。印刷/穿孔データ (制御タイプのチャンネル・コマンドなし) が失われた可能性がある場合は、メッセージ 1Q4LI が出されます。

システムの処置: 互換性のない CCW 命令コードが検出され

た場合は、物理装置でのコマンド・リジェクトを避けるために無視されます。印刷/穿孔データ (制御タイプのチャンネル・コマンドなし) が失われた場合は、メッセージ 1Q4LI が出されます。

オペレーターの応答: スプーリング時および印刷または穿孔時には、同じ印刷装置または穿孔装置を使用してください。

CCW 命令コードを無視したくない場合は、PFLUSH *cuu*, HOLD コマンドを入力して、適切な印刷装置または穿孔装置で出力を再始動するように準備してください。または、SET 1Q41I=NO 自動スタート・ステートメントによって、メッセージ 1Q41I を意図的に抑止することを検討してください。

システム・プログラマーの応答: メッセージ 1Q4LI の「システム・プログラマーの応答」を参照してください。

1Q42I **PAGE/CARD COUNT EXCEEDS END OF**
QUEUE ENTRY FOR {cuu | task}

説明: PRESTART コマンドまたは * .. RESTART コマンドが入力されましたが、指定された正方向ページ・カウントまたはカード・カウントが大きすぎます。これは、そのタスクで作業を行っている出力出口ルーチンが、出力上では表示されるが、VSE/POWER キューでは表示されないレコードを挿入した場合に、発生する可能性があります。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 正方向ページ・カウントまたはカード・カウントを小さい値にして、コマンドを入力し直してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q43I **END-OF-FILE ON TAPE FOR task,cuu**

説明: 示された出力書き込みタスクで、スプール・テープの論理的な終わりに達しました (すべてのデータが処理されました)。

システムの処置: テープは巻き戻され、アンロードされます。書き込みタスクは失敗します。

オペレーターの応答: 印刷または穿孔すべきテープがまだある場合には、新しい書き込みタスクを始動させてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q44I **INVALID OR INCOMPLETE PARAMETER**
COMBINATION, COL=nnnnn, task-id

説明: このメッセージの前には、以下のいずれかの原因で受け入れられない、フラグ付きの * \$\$ SLI ステートメントがあります。

- 定位置およびキーワード・パラメーターの混合が見つかりました。
- ライブラリアンおよび VSE/ICCF 仕様が混在していました。
- 必須 VSE/ICCF パラメーターのいずれかが指定されませんでした。
- 重複するパラメーターが指定されています。

あるいは、このメッセージの前に、以下の原因で受け入れられない、フラグ付きの * \$\$ LST/PUN ステートメントがあります。

- * \$\$ LST または * \$\$ PUN ステートメント上のオペランドの組み合わせが、TLBL= および LTAPE= と一緒に指定されたオペランド DISP=T または TADDR= に関して、正しくありません。
- * \$\$ PUN MEM ステートメント上のオペランドの組み合わせが正しくありません (必要なオペランドが指定されていない、重複している、または他のステートメントに属していません)。

システムの処置: システムは処理を続行し、メッセージ 1R33D を印刷してから待ち状態に入るか、またはメッセージ 1R33A を印刷してから事前定義処置をとります。
オペレーターの応答: メッセージ 1R33D に応答するか、必要であれば、プログラマーに連絡してください。
プログラマーの応答: メッセージ 1R33D に応答し、必要に応じてステートメントを訂正してください。

1Q45I SLI STATEMENT NOT SUPPORTED *partition-id*

説明: ジョブ中で SLI ステートメントが使用されていますが、VSE/POWER の生成時に SUBLIB または MEMTYPE、または両方のパラメーターが指定されていません。
システムの処置: VSE/POWER ジョブ全体が無条件にフラッシュされます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: 次のいずれかです。

- ジョブを変更して、SLI ステートメントを削除する
- SLI サポートをもつ VSE/POWER の生成をシステム・プログラマーに依頼する。

1Q46I DISPOSITION FORCED TO D FOR *jobname jobnumber*

説明: * \$\$ LST または * \$\$ PUN ステートメントで、後処理 N が指定されましたが、出力の宛先である装置が別の区画に属しています。
システムの処置: 出力はスプールされます。
オペレーターの応答: 直接印刷/穿孔出力が必要な場合:

- アクティブなりスト/穿孔書き込みタスクを停止させてください。
- VSE/POWER 区画でない場合には、所有区画から装置の割り当てを解除してください。

プログラマーの応答: なし。

1Q47I *partition-id jobname jobnumber* FROM {nodeid [(userid)] |(userid)|LOCAL}[U='user-information'], TIME=hh:mm:ss, LOG=NO], TKN=hhhhhhhh]

説明: 新しい VSE/POWER ジョブが実行読み取りプログラムにより始動されました。任意指定の LOG=NO 標識は、対象ジョブの * \$\$ JOB JECL ステートメント内の対応する指定を表します。TKN 値がすべてのスプール済み出力に継承され、すべての出力を 1 つのグループとして一緒に処理するためにこの値を使用できます。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

1Q48I NO MATCHING SPOOL DEVICE *partition-id*

説明: このメッセージの前に印刷された * \$\$ LST または * \$\$ PUN ステートメントは、区画のスタートアップ時に準備されていなかったスプール装置をアドレス指定しています。

注: 継続する * \$\$ LST または * \$\$ PUN ステートメントの場合、最後の継続ステートメントだけが表示されます。そのため、誤りのあるオペランドが前の継続行の中にあれば、それは表示されません。
システムの処置: そのステートメントは無視されます。
オペレーターの応答: プログラマーに連絡してください。
プログラマーの応答: ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。PDISPLAY SPDEV コマンドを使用すると、アクティブ・スプール装置を表示することができます。

1Q49I INVALID DELIMITER *partition-id,* COL=nnnnnn

説明: 次のいずれかを行ってください。

- このメッセージの前に表示されているステートメントのパラメーターに、ブランクまたはコンマが続いていません。
- SLI メンバーで、既存の VSE/POWER サポートのために継続できない、別の * \$\$ SLI JECL ステートメントが見つかりました。
- 書き込み機能専用区画に、継続標識を持つ * \$\$ JOB ステートメントがあります。これは許可されていません。

COL= は、メッセージに示されているエラーが発生した桁の位置を表しています。

注: * \$\$ JOB SEC= パラメーター、PWD= パラメーター、* \$\$ LST/PUN PWD= パラメーターに続くパラメーターと区切り文字、およびパラメーター値そのものはコンソールに表示されません。
システムの処置: システムは処理を続行し、メッセージ 1R33D を印刷してから待ち状態に入るか、またはメッセージ 1R33A を印刷してから事前定義処置をとります。
オペレーターの応答: メッセージ 1R33D に応答するか、必要であれば担当のプログラマーに連絡してください。
プログラマーの応答: メッセージ 1R33D に応答し、必要に応じてステートメントを訂正してください。

1Q4AI MESSAGE DISCARDED, RC=nnmm [*application,userid*]

説明: VSE/ICCF に発行された通知メッセージ、固定形式のジョブ・イベント・メッセージ、または固定形式の拡張イベント・メッセージが廃棄されました。理由は、理由コード (RC) で示されています。nnmm は以下のいずれかです。

RC=0001:

VSE/ICCF 通知メッセージ・キューがいっぱいです。つまり、POWER 生成マクロの NTFYMSG オペランドで指定された限界値、またはデフォルト値に達しました。

1Q4BI • 1Q4DI

RC=0002:

GETVIS ストレージを獲得してメッセージを保管することができませんでした。

RC=0003:

application,userid で識別されたジョブ・イベント・メッセージ・キューがいっぱいです。つまり、デフォルト限界の 50 または SET JCMQ 自動スタート・ステートメントで定義された限界を超えています。共通キューは、単一ユーザー ID キューの 8 倍の容量を持っていることに注意してください。 *userid* が '-COMMON-' であれば、ジョブ・イベント・メッセージは共通キューに宛先指定されました。アプリケーション ID 内の印刷不能文字は、 '?' として読み取られます。

RC=0004:

application で識別された拡張イベント・メッセージ・キューがフルです。つまり、上限である 2048 メッセージを超えました。 VSE/POWER は、廃棄されたメッセージの数をアプリケーションに返します (詳しくは、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER アプリケーション・プログラミング」を参照してください)。

システムの処置: 理由コードに応じて、次のとおりです。

RC=0001:

VSE/ICCF 通知メッセージは廃棄され、消失メッセージ・カウントは PDISPLAY STATUS レポートどおりに増加されます。

RC=0002:

現在の通知メッセージは廃棄されます。

RC=0003:

関連するジョブ・イベント・メッセージの最も古いメッセージが廃棄され、消失メッセージの数は PDISPLAY STATUS レポートどおりに増加されます。

RC=0004:

メッセージに示されたアプリケーション向けの最新拡張イベント・メッセージが廃棄され、このアプリケーションの消失メッセージ数が増やされます (アプリケーションの消失メッセージの最大数は PDISPLAY STATUS レポートに反映されます)。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: 理由コードに応じて、次のとおりです。

RC=0001:

より大きい NTFYMSG 値を指定して VSE/POWER を生成してください。

RC=0002:

VSE/POWER 区画に対して定義する区画 GETVIS 域のサイズを増やしてください。

RC=0003:

RC=0003 が出された場合、

1. VSE/POWER 自動スタート・プロシージャーで SET JCMQ=xxx ステートメントを使用して、ジョブ・イベント・メッセージのスペースを増やします。

2. GCM サポートを使用するアプリケーション・プログラムが開始されたことを確認して、指定されたキューからジョブ・イベント・メッセージを検索する。

3. アプリケーションを検索するメッセージのプログラム論理が正しく作動していることを確認する。

RC=0004:

メッセージ検索プロシージャーのロジックが正しいことを確認してください。

1Q4BI

NOTIFY SUPPORT CANCELED FOR

nnnnnnnn

説明: *nnnnnnnn* で示された VSE/拡張機能コンポーネントにメッセージを渡している間に、VSE/拡張機能 XPCC サポートからエラー戻りコードを受け取りました。

取り消された理由を判別するには、前のメッセージを参照してください。

システムの処置: 示されている VSE/拡張機能コンポーネントに対する NOTIFY サポートが取り消されます。 VSE/拡張機能コンポーネントが VSE/ICCF または VSE/DSNX のいずれかである場合には、キューに入っているメッセージはすべてそのままそこに保持され、その他の場合には、メッセージは削除されます。 VSE/POWER は、VSE/拡張機能コンポーネントから通知メッセージ転送のための新しい接続が行われるのを待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: コンポーネントの再始動を試みてください。 エラーが続くようであれば、エラーの原因を訂正してください。

1Q4CI

UNABLE TO START VSE/POWER - NOT RUNNING IN SHARED ADDRESS SPACE

説明: ESA モードで実行されていないにもかかわらず、専用アドレス・スペース内に割り振られた区画で VSE/POWER を開始しようとした。

システムの処置: VSE/POWER の初期設定は終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 該当する区画を「共用」アドレス・スペースに割り振ってください。

1Q4DI

JOB *jobname* *jobnumber* FINISHED

PROCESSING IN PARTITION *partition-id*

説明: * \$\$ JOB ステートメントで EOJMSG パラメーターが指定されたジョブは、*partition-id* での処理を終了しました。

システムの処置: このノードが最後の宛先であるとき、または最後のノードへの転送がスケジュールされているときは、出力は、VSE/POWER 出力キューに書き込まれます。

PURGE=*nnnn* が有効にならなかった場合は、出力は、出力キューでのみ使用可能になります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q4EI **JOB jobname jobnumber partition-id NOT
AUTHORIZED TO EXECUTE, RC=nnnn**

説明: ジョブ *jobname* には、区画 *partition-id* で実行するために必要なセキュリティ権限がないことが、VSE によって判別されました。戻りコード値 *nnnn* が理由を示します。

RC=0008:

GETVIS エラーが起きました。

RC=000C:

セキュリティ・パスワードが無効です。

RC=0010:

セキュリティ・ユーザー ID が無効です。

注: ログオン要求の場合、ユーザー ID は DTSECTAB に入っておらず、RC=14 または 18 の意味は、RACROUTE 要求が非ゼロの戻りコードで完了したことを表し、戻りコードの意味が無効なユーザー ID またはパスワードと異なります。さらに詳しい問題判別が必要な場合は、IBM サポートに連絡してください。

RC=0014

入力矛盾しています (内部エラー)。

RC=0018

内部エラー。

システムの処置: 現在の読み取り要求は無視され、VSE/POWER ジョブ全体が無条件にフラッシュされます。
オペレーターの応答: セキュリティ違反の場合、必要によってはシステム管理者に連絡してください。GETVIS エラーが生じた場合は、ジョブを再サブミットしてください。
システム・プログラマーの応答: セキュリティ違反であれば、必要に応じて処理を行ってください。
プログラマーの応答: システム GETVIS エラーが起きた場合は、問題を訂正してジョブを再サブミットしてください。セキュリティ値が正しくない場合は、システム管理者に正しい値を尋ねてください。

1Q4FI **JOB jobname jobnumber partition-id FLUSHED
BY * \$\$ FLS' STATEMENT**

説明: VSE/POWER が、*partition-id* で処理中のジョブ内に * \$\$ FLS ステートメントを検出しました。

システムの処置: 示された VSE/POWER ジョブ全体が無条件にフラッシュされます。

オペレーターの応答: プログラマーに通知することを検討してください。

プログラマーの応答: * \$\$ FLS ステートメントが予想したものであったかどうか、ジョブをチェックしてください。

1Q4GI **cuu OUTPUT NOT PURGED FOR jobname
jobnumber IN PARTITION partition-id**

説明: スプール装置 *cuu* の * \$\$ LST/PUN ステートメントが PURGE=*nnnn* オプションを指定していますが、ジョブ取り消し条件が起きたか、または VSE/POWER ジョブの実行で累算された最大ユーザー・プログラム戻りコードが *nnnn* の指定を超えているため、出力の除去は有効ではありません。

システムの処置: 指定の特性を備えたキューで、出力項目が使用可能になります。

オペレーターの応答: このメッセージを担当のプログラマーに知らせてください。

プログラマーの応答: 取り消しと戻りコードの条件のいずれかまたは両方について、使用可能にされた出力を解釈してください。プログラムを訂正して、ジョブを再実行してください。

1Q4HI **JOB jobname jobnumber partition-id
RUNNING IN WRONG SECURITY ZONE,
USERID IGNORED**

説明: 区画 *partition-id* のジョブ *jobname* は、前に、「信頼性のある」または「認証された」として受け入れられたシステムでサブミットされましたが、そのジョブは元のシステムとは異なるセキュリティ・ゾーン (SECNODE) を持つシステムでサブミットするように選択されています。その結果、「信頼性のある」または「認証された」ジョブではなく、セキュリティ・ユーザー ID は無視されます。

システムの処置: ジョブはセキュリティ権限なしで実行を続けます。

オペレーターの応答: セキュリティ違反の場合、必要があれば、システム管理者に知らせてください。

システム・プログラマーの応答: セキュリティ違反であれば、必要に応じて処理を行ってください。

プログラマーの応答: 次のいずれかを行うときは、システム管理者に連絡してください。

- ジョブを正しいシステム上で実行しているかどうかを確かめる。
- システムの SECNODE 値を更新する。
- 明示的なジョブ・セキュリティ・ユーザー ID とパスワード値を使用してジョブをサブミットする。

1Q4JI **JOB jobname jobnumber partition-id
SECURITY USERID ccccccc NOT
AUTHORIZED, USERID IGNORED**

説明: VSE は、区画 *partition-id* の「信頼性のある」または「認証された」ジョブ *jobname* で、認識不能のセキュリティ・ユーザー ID *ccccccc* (II 制御ファイル//DTSECTAB 内のユーザー・プロファイル定義で指定されていない) が指定されたことを検出しました。

システムの処置: ジョブはセキュリティ権限なしで実行を続けます。

オペレーターの応答: セキュリティ違反の場合、必要があれば、システム管理者に知らせてください。

システム・プログラマーの応答: セキュリティ違反であれば、必要に応じて処理を行ってください。

プログラマーの応答: 次のいずれかを行うときは、システム管理者に連絡してください。

- ユーザー ID プロファイルを制御ファイルまたは II 制御ファイル/DTSECTAB に追加する。または
- ジョブを正しいシステム上で実行しているかどうかを確かめる。
- ユーザー ID とパスワードを明示的に指定する

1Q4KI *nnnnn* RECORDS IGNORED FOR *jobname*
jobnumber PROCESSED BY *task-id*, *cuu*
SPOOL=X'*spool-dev'* [LUNAME=*luname*]

説明: VSE/POWER が、ローカル *task-id* で処理されたキュー項目内に、印刷/穿孔データ (制御タイプのチャンネル・コマンドなし) の消失につながるような *nnnnn* 個の「無効」な CCW 命令コードを検出しました。「無効」という意味は、データ・レコード内で検出された CCW 命令コードが、VSE/POWER 内部 CCW 命令コード・テーブルと互換性がないという意味です。CCW 命令コード・テーブルは、RJE,SNA の場合はモジュール IPW\$\$OB (ラベル VALIDAT) に、RJE,BSC の場合は IPW\$\$BW (ラベル TABPRCTL) に入っています。

spool-dev は、スプール装置の装置タイプ・コードを示します。*spool-dev* X'FF' が示された場合、装置タイプは不明です。これが起こる可能性があるのは、出力が非 PNET ノードから受信された場合、または出力用のスプール・アクセス・サポート PUT サービスによって出力が作成された場合です。関連する装置タイプを判別するには、メッセージ 1Q41I が SET 1Q41I=NO 自動スタート・ステートメントによって抑止されていなければ、そのメッセージの説明を参照してください。

さらに、RJE,SNA タスクの場合には、*luname* が表示されます。

特定の数のレコードが無視されたということは、その数のレコードが印刷または穿孔されなかったということです。示されたジョブのすべてのレコードが無視された場合は、出力はまったく印刷または穿孔されません。メッセージに表示される無視レコードの上限は、65,535 です。無視されたレコードがそれ以上見つかったら、それ以上の値が示されることはありません。

このメッセージは、関連タスクが SHOWIGN オプションで開始された場合にも出されます。そして、通常は無視レコードは、データとして印刷または穿孔されます。

システムの処置: SET IGNREC=DISPY 自動スタート・ステートメントが VSE/POWER スタートアップに与えられた場合、メッセージ 1Q4KI でフラグを立てられるキュー項目の後処理は Y (ディスパッチ不能、一時) にセットされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: 無視された CCW 命令コードを調べるには、リストまたは穿孔タスクをオプション SHOWIGN で開始する必要があります。そうすると、無効な CCW 命令コードが 16 進データとして印刷または穿孔され、そのあとに、元のデータ・レコードが最高 25 文字まで続きます。さらに、正当に無視されたすべての制御タイプ・チャンネル・コマンドも印刷または穿孔されます。これによって、IPW\$\$DD ダンプによって提供されるように、元のデータ・ストリーム内の無視されたレコードの識別を試みる際の追加のデバッグ補助手段を提供します。

1Q4LI *nnnnn* RECORDS IGNORED FOR *jobname*
jobnumber PROCESSED BY *task-id*, *cuu*

説明: VSE/POWER が、ローカル *task-id* で処理されたキュー項目内に、印刷/穿孔データ (制御タイプのチャンネル・コマンドなし) の消失につながるような *nnnnn* 個の「無効」な CCW 命令コードを検出しました。「無効」という意味は、リストまたは穿孔タスクに使用可能な印刷装置または穿孔装置タイプが、スプーリング時 (示された出力項目を作成するジョブが実行された時点) に区画に割り当てられた印刷装置または穿孔装置タイプと CCW 命令コード上の互換性がないという意味です。テーブル PLCT および PLST (IPW\$\$PL、リスト) および PPT1 (IPW\$\$PP、穿孔) を使用して、CCW 命令コードが印刷または穿孔時に指定された装置タイプに有効であるかどうかを検査されます。

特定の数のレコードが無視されたということは、その数のレコードが印刷または穿孔されなかったということです。示されたジョブのすべてのレコードが無視された場合は、出力はまったく印刷または穿孔されません。メッセージに表示される無視レコードの上限は、65,535 です。無視されたレコードがそれ以上見つかったら、それ以上の値が示されることはありません。

このメッセージは、関連タスクが SHOWIGN オプションで開始された場合にも出されます。そして、通常は無視レコードは、データとして印刷または穿孔されます。

このメッセージの前に、スプーリング時の出力装置を示すメッセージ 1Q41I が出されることがあります。

システムの処置: SET IGNREC=DISPY 自動スタート・ステートメントが VSE/POWER スタートアップに与えられた場合、メッセージ 1Q4LI でフラグを立てられるキュー項目の後処理は Y (ディスパッチ不能、一時) にセットされます。

オペレーターの応答: スプーリング時および印刷または穿孔時には、同じ装置タイプを使用してください。また、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 無視された CCW 命令コードを調べるには、リストまたは穿孔タスクをオプション SHOWIGN で開始する必要があります。そうすると、無効な CCW 命令コードが 16 進データとして印刷または穿孔され、そのあとに、元のデータ・レコードが最高 25 文字まで続きます。さらに、正当に無視されたすべての制御タイプ・チャンネル・コマンドも印刷または穿孔されます。これによって、IPW\$\$DD ダンプによって提供されるように、元のデータ・ストリーム内の無視されたレコードの識別を試みる際の追加のデバッグ補助手段を提供します。

1Q50I UNKNOWN KEYWORD, COL=*nnnnn*,
partition-id

説明: このメッセージの前に印刷された JECL ステートメントの中に、VSE/POWER が認識できないキーワード・パラメーターが 1 つあります。COL= は、メッセージに示されているエラーが発生した桁の位置を表しています。

システムの処置: システムは処理を続行し、メッセージ 1R33D を印刷してから待ち状態に入るか、またはメッセージ 1R33A を印刷してから事前定義処置をとります。

オペレーターの応答: メッセージ 1R33D に応答するか、必要であれば担当のプログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: メッセージ 1R33D に応答し、必要に応じてステートメントを訂正してください。

1Q51I **INVALID keyword PARAMETER,**
COL=nnnnn, partition-id

説明: メッセージに印刷されたキーワードが、現在処理されている JECL ステートメントでは無効であることが検出されました。COL= は、メッセージに示されているエラーが発生した桁の位置を表しています。キーワードが SYSxxx を指定した LST または PUN を読み取った場合、対応する物理装置が現在割り当てられていない可能性があります。* \$\$ JOB SEC= または PWD= パラメーター、または * \$\$ LST/PUN PWD= パラメーターに続くパラメーターと区切り文字、およびパラメーター値そのものは、コンソールに表示されないことに注意してください。

注: '=' 接続シンボルを用いずに (コンソールで JECL ステートメントに示されたように) キーワード・オペランドが指定されたときは、VSE/POWER はそのオペランドを定位置オペランドとして解釈します。したがって、メッセージ 1Q51I で示されたキーワードは、誤った解釈をされている可能性があります。

システムの処置: システムは処理を続行し、メッセージ 1R33D を印刷してから待ち状態に入るか、またはメッセージ 1R33A を印刷してから事前定義処置をとります。
オペレーターの応答: メッセージ 1R33D に応答するか、必要であれば担当のプログラマーに連絡してください。
プログラマーの応答: メッセージ 1R33D に応答し、必要に応じてステートメントを訂正してください。

1Q52I **OUTPUT LIMIT EXCEEDED FOR jobname**
jobnumber partition-id, cuu WITH
nnnnnnnnnnnn RECORDS

説明: * \$\$ LST または * \$\$ PUN ステートメントの RBM パラメーター (あるいは別の方法として VSE/POWER 生成マクロの STDLIN または STDCARD パラメーター) で定められているリストまたは穿孔レコード数を超えましたが、現在作成中のキュー項目に nnnnnnnnnnnn 個のリストまたは穿孔レコードがあります。

リスト出力のテープ・スプーリングがアクティブであり (* \$\$ LST ステートメントで DISP=T を指定)、ボリュームの終わりになった場合、VSE/POWER は、出力をセグメント化し、別のテープを取り付けるように要求します。この場合、メッセージ 1Q58A も出されます。

システムの処置: このジョブの処理が続行されます。
オペレーターの応答: 必要であれば、PSTOP または PFLUSH を出してください。
プログラマーの応答: なし。

1Q53I **OUTPUT SEGMENTED FOR jobname**
jobnumber jobsuffix partition-id, cuu

説明: 以下のいずれかの理由で、出力のセグメント化が発生しました。

- * \$\$ LST ステートメントまたは * \$\$ PUN ステートメントの RBS オペランドに指定されたレコードの数を超えている。
- コマンド主導のセグメント化が、PSEGMENT F7,FEE または PALTER LST, ..., SEGMENT=... によって要求された。
- 出力がテープにスプールされている場合、EOV に到達した。

システムの処置: このジョブの処理が続行されます。テープのスプーリングの場合は、メッセージ 1Q58A が出されます。
オペレーターの応答: 書き込みタスクを開始してください。
テープ・スプーリングの場合は、別のテープを取り付けて、タスクを再び活動化してください。
プログラマーの応答: なし。

1Q54t **[FCB|UCS] ERROR FOR jobname jobnumber**
task-id,cuu PHASE= pppppppp RC=nnnn

説明: このメッセージ・タイプ・コードは次のいずれかです。
A - FCB エラー
I - UCS エラー

エラーの理由は、理由コード (RC) によって示されます。nnnn は次のいずれかです。

RC=0001:
ライブラリーにフェーズがありません。

RC=0002:
フェーズの長さが無効です。正しい長さについては、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。

RC=0003:
FCB フェーズ名の接頭部が無効です (3800 のみ)。

RC=0004:
無効なチャンネルが指定されました。

RC=0005:
FCB イメージに、有効な終了標識がありません。

RC=0006:
ページの最初または最後の半インチに、誤っている行/ページのフラグがあります (3800 のみ)。

RC=0007:
非 D/T4248 印刷装置に新しい形式の FCB をロードしています。

RC=00FF:
FCB ロード機能が正常に完了しませんでした。このタスクに関係する前のメッセージを調べてください。

RC=F0xx:
FCB のロード・エラーです。xx は LFCB マクロが指定する戻りコードです。619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。

RC=F1xx:
FCB ロード・エラーです。xx は LOAD マクロが指定する戻りコードです。

システムの処置: 以下の時点でエラーが発生しました。

1. * \$\$ LST ステートメントに指定された FCB またはデフォルト FCB の実行時であれば、以下の規則に従って選択された LTAB が使用されます。
 - a. 有効な LTAB が * \$\$ LST ステートメントに指定されていた場合は、この LTAB が使用されます。

1Q55A • 1Q57A

- b. LTAB が指定されていないか、* \$\$ LST ステートメントに指定された LTAB が無効であった場合は、POWER マクロの LTAB が使用されます。

ジョブ実行は続行し、対応するリスト項目は FCB 仕様なしでスプールされます。(実際の印刷時にはデフォルト FCB をロード)

2. 印刷時であれば、タスクは終了します。

印刷時にエラーが起きた場合には、タスクは終了します。オペレーターの応答: 正しいリスト出力が特定の FCB または UCS イメージによって異なる場合、ジョブを PFLUSH (HOLD オプション付き) し、システム・プログラマーにジョブの訂正を依頼した後、そのジョブを再実行してください。

注: LUCB コマンドを出すと、以降の VSE/POWER 出力は、印刷時に間違った UCS イメージを使用する可能性があります。LST タスクに PSTOP コマンドを出してから新規の PSTART コマンドを出すことをお勧めします。プログラマーの応答: 必要に応じて処置を行ってください。

1Q55A **1. SPECIFY TAPE ADDRESS FOR** *jobname*
jobnumber partition-id, cuu - **REPLY: PGO**
partition-id, cuu, tapeaddr...
2. SPECIFY TAPE ADDRESS FOR
task-id, cuu - **REPLY: PGO** *task-id, cuu, tapeaddr*

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明: メッセージ・テキストに応じて、次のとおりです。

1. * \$\$ LST/PUN ステートメントにおいて、後処理が T と指定されていましたが、テープ・アドレスが指定されていなかったか、指定されたテープ・アドレスが無効または既に使用中でした (1Q1AI を参照)。
2. テープ書き込みタスクに対して指定されたテープ装置は、前のメッセージ 1Q1AI に記述された理由で受け入れられませんでした。

システムの処置: PGO コマンドを介してオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: メッセージ・テキストに応じて、次のとおりです。

1.
 - 以下のコマンドを使用してテープ・アドレスを渡します。

```
PGO partition-id, cuu, tuu['X'ss']
```

ここで、*tuu* はテープ・ドライブのチャンネルおよび装置番号であり、*ss* はテープの密度です。

- または、次のコマンドを入力して、ディスクへのスプーリング用に後処理を H に設定します。

```
PGO partition-id, cuu.
```

- 2.

- 以下のコマンドを使用してテープ・アドレスを渡します。

```
PGO task-id, cuu, tuu
```

ここで、*tuu* はテープ・ドライブのチャンネルおよび装置番号です。

- または、次のコマンドを入力して、テープ書き込みタスク入力を停止します。

```
PGO task-id, cuu.
```

プログラマーの応答: なし。

1Q56I INVALID TAPE ADDRESS/MODE SET *task*

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. メッセージ 1Q55A に対する応答が、次のいずれかの理由で無効でした。

- 指定した装置アドレスまたはモードが無効でした。
- 指定した装置アドレスがテープ装置のアドレスではありません。
- 指定したテープ装置が他の区画に属しています。

2. 無効な密度が SETMOD コマンドにセットされていた。

システムの処置: 次のいずれかを行ってください。

- メッセージ 1Q55A が出されます。
- コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 必要であればプログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 必要であれば * \$\$ LST/PUN ステートメントを訂正してください。

1Q57A PLEASE REMOVE WRITE PROTECTION ON *dev* FOR {*task, cuu* | *task*} (REPLY: {*PGOtask, cuu...* | *PGOdev...*})

説明: 装置 *dev* に取り付けられたテープまたはカートリッジが書き込み保護されています。

システムの処置: VSE/POWER はテープ装置 *dev* をアンロードし、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: *task* の処理を続けるには、以下を行います。

1. カートリッジの場合には、装置 *dev* に取り付けられているカートリッジの書き込み保護スイッチを、書き込み保護から書き込み可能に設定してください。

テープの場合には、装置 *dev* に取り付けられたテープにファイル保護リングを付けてください。

2. 次のいずれかの処置を行ってください。

- メッセージに *task, cuu* が示された場合:

task を続行するには、装置を作動可能にして、次のように応答してください。

```
PGO task, cuu
```

ディスク・スプーリング用に後処理を H に設定するには、次のように応答してください。

```
PGO task, cuu, CANCEL
```

- メッセージに *task* のみが示された場合:

task を続行するには、装置を作動可能にして、次のように応答してください。

```
PGO dev
```

task を終了するには、次のように応答してください。

PGO dev,CANCEL

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q58A **MOUNT TAPE ON dev FOR {jobname
jobnumber task,cuu|task} (REPLY: {PGO
task,cuu...|PGOdev...})**

説明: 次のいずれかを行ってください。

- 有効なテープ・アドレスが * \$\$ LST または * \$\$ PUN ステートメントに見つかり、オペレーターはテープの取り付けを要求されています。
- 複数のボリューム・ファイルの処理中に EOV に達したとき、オペレーターは別のテープの取り付け、またはタスクの終了を要求されています。
- SYSIN 読取装置を開始するために、PSTART RDR,cuu が入力されました。
- テープの表示を要求するために、PDISPLAY tape コマンドが入力されました。
- POFFLOAD コマンドが入力されましたが、テープは指定された装置に取り付けられていません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答:

- 必要なテープを装置 dev に取り付けてください。複数ファイル・ボリュームを使用しているときは、正しいテープが取り付けられているかどうかを確かめてください。POFFLOAD BACKUP の実行中にメッセージが出されたときは、完全なバックアップを持つテープ・リール (またはカートリッジ) のレコードを保管してください。これによって、バックアップ・キューのリストア時に、不注意による部分ロードを防ぐことができます。
- 次のいずれかの処置を行ってください。

- メッセージに jobname jobnumber task,cuu が示された場合:

task を続行するには、次のように応答してください。

```
PGO task,cuu
```

task を終了するには、次のように応答してください。

```
PGO task,cuu,CANCEL
```

注: EOV に達したときは、後の 'CANCEL' 要求によってディスクへのスプールが継続されます。

- メッセージが task だけを表示した場合、次のように応答してください。

```
PGO dev or PGO dev,CANCEL
```

プログラマーの応答: なし。

1Q59I **task,cuu WAITING FOR REAL/PFIXED
STORAGE, xxxxxxxx BYTES REQUESTED**

説明: 実行時に使用できる実記憶が不足しています。

システムの処置: 現行タスクが使用できるストレージを別のタスクが解放するまで、現行タスクは待ち状態に置かれます。それ以外は、システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- メッセージが VSE/POWER 開始プログラム・タスクの名前を表示している場合は、以下の手順に従ってください。
- VSE/POWER 区画を取り消す (CANCEL Fn)。

- VSE/POWER 区画に対する SETPFIX LIMIT=mnK コマンドを使用して、より大きな SETPFIX-LIMIT ストレージを区画に割り振る。

- VSE/POWER を再スタートアップする。

- PDISPLAY A コマンドを使用して、どのタスクがアクティブであるかを調べてください。優先順位の高いタスクのために、優先順位の低いタスクを 1 つ以上取り消してプロセッサ・ストレージを解放してください。ネットワークングが複数の送信側および受信側タスクと共にアクティブである場合、どちらかのタスクを取り消してください。
- 次のコマンドを使用して、VSE/POWER 区画 Fx の SETPFIX-LIMIT ストレージ消費量を追跡してください。
 - PDISPLAY STATUS (割り振られている最大または現在の訂正可能なストレージ値)
 - MAP Fx (限界値および実際に PFIX されている値)

このメッセージが頻繁に出される場合は、システム・プログラマーに通知し、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」の「訂正可能なストレージおよび仮想記憶の要件」に従って VSE/POWER の区画を調整してもらってください。
システム・プログラマーの応答: メッセージが頻繁に出される場合は、改めてシステムを始動するときに VSE/POWER 区画に対してより大きなプロセッサ・ストレージを割り振ってください。

1Q5AI **INVALID TAPE MOUNTED ON dev FOR
task,cuu RC=nnnn {, WANT TAPE
NO.=qqqqq BUT INDICATED TAPE
NO.=ppppp }**

説明: 戻りコード RC=nnnn は以下のエラー・タイプを示します。表示されたテキストに "WANT TAPE NO.=qqqqq BUT INDICATED TAPE NO.=ppppp" が含まれている場合、テープの問題の原因として、要求されたテープの 10 進の順序番号 (OFTAP=qqqqq) がテープに保管されている番号 (ppppp) と異なることが考えられます。

RC=0001:

SYSIN テープを検査したところ、ブロック・サイズが 80 バイトまたは 81 バイトのいずれの倍数でもない。

RC=0002:

スプール・テープが、誤った長さのキュー・レコードで始まっている。次のいずれかです。

- テープが空である。
- テープにエラーのレコードがある。

RC=0003:

SYSIN テープを検査したところ、レコード・サイズが正しくない - 偶然にキュー・レコード (おそらくはスプール・テープ) の長さになる。

RC=0004:

無効なキュー・レコードが含まれている。

RC=0008:

SYSIN テープを読み取ったところ、誤ったレコードが読み取られた (長さ =0)。

RC=0009:

メッセージ 1QB9A への応答として、オペレーターが現在テープのアンロードと応答した。

1Q5AI

RC=000C:

ラベル付きテープのテープ・マークのあとにトレーラー・ラベルがない。

RC=000D:

空のラベル付きテープが読み取られた。テープ処理は停止します。

RC=000E:

処理中のテープが、一致するラベルをもっていない。テープ処理は停止します。

RC=000F:

POFFLOAD APPEND コマンドがラベルなしテープに対して発行されたが、取り付けられていたテープは、3つの最終テープ・マークを設定してクローズされていた。これは、このテープが、マルチボリュウム POFFLOAD 出力の最終 POFFLOAD 出力ではないことを示しています。

RC=0010:

POFFLOAD テープが POFFLOAD JOURNAL=YES コマンドで作成されたものではない(ジャーナル・データが欠落)か、テープが上書きされたか、あるいはテープが以前の POFFLOAD 機能で適切にクローズされていなかった。

RC=0011:

取り付けられた POFFLOAD テープが、POFFLOAD コマンドのテープ・シーケンス番号 OFTAP= と一致しなかった。

RC=0012:

すべてのテープのスプール項目を合計した総数が 999,999,999 を超えたため、POFFLOAD APPEND コマンドの実行が中断された。機能を停止するため、内部的に PSTOP *tapeaddr*, EOJ コマンドが実行されました。

RC=0013:

POFFLOAD APPEND が空のテープに対して発行されたが、要求されたテープの10進数シーケンス番号(OFTAP=)が1より大きい。

RC=0014:

要求された磁気テープ・ラベル TLBL= が、VSE/POWER 区画のラベル域に見つからない(LABEL マクロ RC=04)。

RC=0015:

テープの10進の順序番号がテープ上にありません。

RC=0016:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されたが、取り付けられていたテープは、マルチボリュウム出力の最終 POFFLOAD テープではない(EOV1 ラベルで終了しているか、ラベルなしテープが3つのテープ・マークで終了している)。

RC=0017:

指定されたキュー・タイプに対する POFFLOAD BACKUP|SAVE|PICKUP APPEND コマンドが、取り付けられたテープのキュー・タイプに一致しなかった。

RC=0018:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されたが、非

3592 磁気テープ装置でデータの終わりを順方向検索する過程で無効なスプール項目ヘッダー・キュー・レコードが検出された。

RC=0019:

指定されたキュー・タイプに対する POFFLOAD BACKUP|SAVE|PICKUP APPEND コマンドが、テープの最後のキュー項目に対して取り付けられたテープのキュー・タイプに一致しなかった。

RC=0020:

POFFLOAD LOAD|SELECT コマンドが OFTAP=ppppp オペランド付きで発行されましたが、示された値はテープでの値に一致していませんでした。

RC=0021:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されたが、テープの最後のスプール項目に、有効なトレーラーまたはヘッダー・キュー・レコードがなかった。最後のスプール項目は無効で、PSTOP *tapeaddr* コマンドが原因だと考えられます。

RC=0022:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されましたが、無効なテープ終了形式がテープ上に見つかりました。3592 テープのデータの終わりに、最終テープ・マークがありません。

RC=0023:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されましたが、無効なテープ終了形式がテープ上に見つかりました。3592 テープには最終テープ・マークが1つありますが、EOV1 ラベルがありません。

RC=0024:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されましたが、無効なテープ終了形式がテープ上に見つかりました。3592 テープには2つの最終テープ・マークがありますが、これらのテープ・マークの前に、EOF1 ラベル付きのテープ・マークがありません。

RC=0025:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されましたが、無効なテープ終了形式がテープ上に見つかりました。3592 テープに、ラベルなしテープ用の2つの最終テープ・マークがありません。

RC=0026:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されましたが、無効な形式がテープ上に見つかりました。「EOF1 DUMMY - VSE/POWER POFFLOAD FINAL RECORD FOR UNLABELED TAPE」という内容のラベルなしテープのダミー EOF1 ラベルが、データ終了域にないか、または壊れています。

RC=0027:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されましたが、無効な形式がテープ上に見つかりました。3592 テープが、ラベル付きのテープとして処理されていて、最初のスプール項目が空です(最初のテープ・マークの後に2番目のテープ・マークが続いています)。これは、起こるはずのない内部エラーです。

RC=0028:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されましたが、無効な形式がテープ上に見つかりました。3592

テープが、ラベル付きのテープとして処理されていません。その処理中に、テープ・ラベルまたはヘッダー・キュー・レコードが期待される場所で、不明なレコードが読み取られました。

RC=0029:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されたが、テープの形式が無効で、テープがラベルなしで処理されているにもかかわらず、先頭に VOL1 ラベルが検出された。

RC=0030:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されたが、テープの形式が無効で、テープの先頭に VOL1 ラベルまたはテープ・マークがない。

RC=0031:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されたが、テープの数が許容される最大数を越えた。

RC=0032:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されましたが、追加されるテープには、許可されている最大数(999,999,999)の項目がすでに入っています。

RC=0033:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されましたが、無効なテープ終了形式がテープ上に見つかりました。3592 テープが、ラベルなしテープとして、およびダミー EOF1 ラベルで終了する(最終)テープとして処理されています。このテープには、2つのテープ・マークの前に2つのテープ・マークがありません。

RC=0034:

POFFLOAD APPEND コマンドが発行されましたが、無効なテープ終了形式がテープ上に見つかりました。3592 テープには最終テープ・マークが1つありますが、無効な EOF1 ラベルが見つかりました。

RC=0035:

取り付けられていたテープが WORM テープだった(サポートされていません)。

RC=0036:

テープ装置が、テープ製品アーキテクチャー「データ終わりに移動」(SEOD) ハードウェア・コマンドをサポートしていない。

システムの処置: 続いてメッセージ 1Q58A または 1Q60A が出されるか、またはタスクが停止します。テープがアンロードされます。

また、戻りコード RC= に応じて、次のように処理されます。

RC=0015:

テープ処理は続行されます。POFFLOAD APPEND 機能は、POFFLOAD が開始可能なデータの終わりをテープで引き続き検索します。テープがラベル付きである場合、BAM では OFTAP= の値を強制し、スプール項目キュー・レコードに保存されたテープ情報ではそのテープ番号はないにも関わらず、メッセージに示された 10 進数シーケンス番号(テープ・ラベルの値に基づく)のテープの取り付けを要求します。

RC=0018, 0021, 0022, 0023, 0024, 0025, 0026, 0027, 0028, 0033, 0034:

テープ処理は終了し、テープがアンロードされます。IDUMP が行われます。

オペレーターの応答: 無効なレコードまたはテープ形式が検出された場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: SYSIN テープが不正であれば、訂正してサブミットし直してください。

**1Q5BI NO TRAILER LABEL FOUND ON dev
FOR task**

説明: 入力テープに、有効なトレーラー・ラベルがありません。

システムの処置: 次のいずれかです。

1. タスクが通常終了します。
2. マルチボリューム・ファイルを使用している場合は、後続のボリュームが要求され、そのテープがオープンされます。

オペレーターの応答: 次のいずれかです。

1. コンソール・ログ・シートをプログラマーにサブミットしてください。
2. メッセージ 1Q58A に応答してください。

プログラマーの応答: 入力テープの妥当性について検査してください。

**1Q5CI [commandcode] MODE VERIFICATION
FAILED, CURRENT MODE TAKEN [FOR
jobname jobno. part.-id,cuu]**

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. VSE 拡張機能のテープ・モード検査フェーズ \$IJBSSYS が SVA に見つかりません。要求されたコマンドの場合も、テープ・スプーリングの試みの場合も、指定されたモードを検査できません。
2. 項目を \$IJBSSYS に提供する VSE 拡張機能サブタスクが、メッセージ 1Q2CI を出して異常終了しました。そのため、指定されたモードを検査できません。

システムの処置: 要求されたテープ・タスクまたはテープへのスプーリングは、IPL 時に(または後の ASSGN ステートメントにより)設定された現行のモード設定で続行されます。

オペレーターの応答: 上記の説明に応じて、

1. 必要なフェーズをシステム・プログラマーに用意してもらう。
2. ダンプ・サブライブラリーが VSE/POWER 区画用に定義されている場合は、VSE 拡張機能サービス・サブタスクの障害個所が記載された I ダンプがとられているので、そのダンプをシステム・プログラマーに渡す。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正するのに必要なサポートを行ってください。

**1Q5DI EXECUTION COMPLETED FOR jobname
nnnnn [ON node-id], RC=return code,
TIME=hh:mm:ss**

説明: * \$\$ JOB ステートメントで NTFY パラメーターが指定されたジョブが、ノード *node-id* で実行を終了しました。メッセージに示された戻りコードは、VSE ジョブ制御によって与

1Q5EI • 1Q5JI

えられた VSE/POWER ジョブの最大戻りコードです。VSE ジョブから戻りコードが与えられなかったときは、戻りコードとして **** が表示されます。

システムの処置: このノードが出力の最後の宛先であるときは、出力は、VSE/POWER 出力キューに置かれます。または最後の宛先への転送がスケジュールされます。PURGE=nnnn が有効にならなかった場合は、出力は、出力キューでのみ使用可能になります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1Q5EI DTR\$DYNn.Z INTERNAL PLOAD DYNC FAILURE, RC/FB=rrff

説明:

- 以下の理由による障害のため、VSE/AF マクロ DYNCLASS ID=GET の内部呼び出しが、レジスター 15 にコード rr を、レジスター 0 にフィードバック・コード ff を返しました。

RC/FB=0400:

メンバー DTR\$DYNn.Z が IJSYSRS.SYSLIB に見つからないか、メンバー DTR\$DYNn.Z が空であるか、またはメンバー DTR\$DYNn.Z が有効な動的クラス構造をもっていません。

RC/FB=0C00:

現在の VSE/POWER 区画 GETVIS 域は、VSE/AF ライブラリアン GETVIS 要求を行うには小さすぎます。

RC/FB=10ff:

フィードバック・コード X'ff' で VSE/AF ライブラリアン内部エラーが起きました。

RC/FB=1400:

アクセス制御機能は、メンバー DTR\$DYNn.Z への VSE/POWER アクセスで、セキュリティエラーを検出しました。

RC/FB=1800:

VSE/AF ライブラリアン・フェーズ IJBDCTL (動的クラス・テーブル・インターフェース・プログラム) は、SVA に位置指定できません。

- DYNCLASS ID=GET 要求の駆動に使用された VSE/POWER 非同期サービス・サブタスク (AS) が異常終了しました。RC/FB=FF00 で示されます。

システムの処置: PLOAD DYNC コマンドは失敗します。
オペレーターの応答: (「説明」での番号に、処置は対応しています。)

- RC/FB=0C00 の場合は、コマンドを再サブミットして別の動的 GETVIS リソース状況を満たしてください。これ以外の場合には、システム・プログラマーに連絡してください。
- コマンドを再サブミットしてシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: (「説明」での番号に、処置は対応しています。)

- 独自に行える場合は、理由を調べて原因を訂正してください。または、IBM 担当員に報告してください。

- AS サブタスク障害メッセージ 1Q2CI にある印刷ログと、それに続いて生成される IDUMP を収集して、IBM 担当員に知らせてください。

1Q5FI FORMATTED COMMAND PROCESSING NOT SUPPORTED

説明: VSE/POWER による処理のために、定様式コマンドを含むノードル・メッセージ・レコード (NMR) をネットワークから受信しました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 適切な VSE/POWER コマンドを指定してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q5GI INVALID STATEMENT FROM IPWSEGM MACRO, COL=nnnnn RC=nnnn, jobname jobnumb partid

説明: IPWSEGM マクロによって、無効な VSE/POWER JECL ステートメントがサブミットされました。COL= はエラーの発生した桁の位置を示し、RC= はエラーの原因を示します。

RC=0C04:

JECL ステートメントで示されたタイプの装置 (LST または PUN) はスプールされていませんでした (内部エラー、COL= 意味なし)。

RC=0C08:

無効なオペランド区切り文字が使用されました。

RC=0C0C:

無効なステートメント・キーワードが使用されました。

RC=0C10:

無効なキーワード値が使用されました。

RC=0C38:

AF サブライブラリーへの PUN 出力命令のセグメンテーションはサポートされていません。

注: 表示された RC= 値は、戻りレジスター 15 にある IPWSEGM マクロの戻りコード/フィードバック・コードに対応しています。

システムの処置: ジョブはフラッシュされます。

オペレーターの応答: アプリケーション・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

1Q5JI /(50 bytes text)..... /

説明: このメッセージは、"/ " 文字と "/" 文字で囲まれた無効な IPWSEGM ステートメントを示しています。このステートメントに、正しい長さ値をもつ PWD= パラメーターが含まれている場合、値にアスタリスクが付けられます。

システムの処置: このメッセージの後にメッセージ 1Q5GI が出されます。

オペレーターの応答: アプリケーション・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

1Q5KI **TAPE SPOOLING FORCED TO DISK
[DUE TO BLOCKED LTA,
PHASE=aaaaaaaa,] jobname jobnum partid, cuu**

説明: オペレーターがテープからディスク・スプーリングに切り替えることにしたか (1Q55A または 1Q57A を参照)、テープへのスプーリング中にエラーが発生しました。

1. テキスト「DUE TO BLOCKED LTA」が表示された場合、VSE/POWER は、VSE SAM サポートを使用してテープ・スプーリングを実行するために、テープのオープンを準備しました。しかし、論理一時域 (LTA) がユーザー区画 *partid* で所有されているときに、その区画からの入出力が行われたために、デッドロック状態が起こる可能性があります (SAM には LTA が必要です)。「PHASE=」は、そのとき LTA にロードされたフェーズ名を示します。
2. 上記テキストが表示されない場合は、先行する他のエラー・メッセージを参照してください。

システムの処置: テープ・スプーリングは行われず、代わりに、スプーリングは後処理「H」(保留)でディスクに強制されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 問題の原因が、LTA がブロックされることにあり、頻繁に起こる場合には、次のことを検討してください。

- LTA を占有しているプログラムを判別する。これがユーザー・プログラムである場合は、そのプログラムを LTA から除去する (例えば、SVA に入れる) ことを検討してください。
- VSE/POWER 非 SAM テープ・スプーリングを使用する。

1Q5LI **VSE/POWER OFFLOAD
{BACKUP|SAVE|PICKUP} TERMINATED
FOR UNIT *cuu* [JOURNAL LST ENTRY
\$OF]nnnn CREATED (dd/dd/dd tt:tt:tt)**

説明: オペレーターが、VSE/POWER オフロード機能に対して PSTOP *cuu* または PGO *cuu*,CANCEL コマンドを入力したか、または他の条件のためにこの機能が終了しました (テープ装置 *cuu* に関する他のメッセージを参照してください)。この他の情報が示されている場合は、ジャーナリング報告スプール項目が POFFLOAD ...JOURNAL=YES コマンドによって作成され、ジョブ名 \$OF]nnnn の LST キューにスプールされています。「nnnn」は、VSE/POWER が割り当てたジョブ番号の最後の 4 桁です。(dd/dd/dd tt:tt:tt) は、ジャーナルの作成日時です。

システムの処置: タスクは終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1Q5MI **OFFLOAD {BACKUP|SAVE|PICKUP}
JOURNALING ON *tapecuu* TERMINATED,
RC=nnnn,task TRACE=ccccccc**

説明: 装置 *tapecuu* の POFFLOAD ジャーナリングが異常終了しました。タスクによって出された戻りコード RC= が理由を示します。

RC=01xx:

POFFLOAD コマンドが発行されたとき、ジャーナルを作成するためのシステム・ストレージ・リソースがすぐに使用可能になりませんでした。

- **0101=** オフロード *task* が pfixed ストレージで待機していました (JCA、モジュール IPW\$\$CO または TCB、モジュール IPW\$\$OF)
- **0102=** オフロード *task* がジャーナリング・パートナー・タスク (モジュール IPW\$\$PS) 仮想記憶 (モジュール IPW\$\$OF) で待機していました。

RC=0200:

LST キュー項目を作成しているときに、ジャーナリング・パートナー *task* (モジュール IPW\$\$PS) でキュー・ファイルまたはデータ・ファイルの入出力エラーが発生しました。

RC=03xx:

POFFLOAD タスクが LST スプール項目へのジャーナル項目の書き込みを要求したときに、タイムアウトになりました。xx は位置を示します。

- **0301=** モジュール IPW\$\$OF のジャーナリング・トレース・ポイント 0301 でタイムアウトになりました。
- **0302=** ... など。

RC=0400:

ジャーナリング・パートナー *task* モジュール IPW\$\$PS で内部エラーによる異常終了が発生しました (POFFLOAD タスク、モジュール IPW\$\$OF または IPW\$\$TR から不明な要求を受信しました)。

RC=0500:

ジャーナル LST キュー項目を作成しているときに、POFFLOAD ジャーナリング・パートナー・タスク (モジュール IPW\$\$PS) のデータ・ファイルまたはキュー・ファイルのいずれかでスペース不足 (SOS) になりました。

RC=0600:

POFFLOAD テープに何もスプールされませんでした (メッセージ 1Q2BI の後に出されます)。

RC=9999:

不明な失敗により、POFFLOAD ジャーナル・パートナー *task* (モジュール IPW\$\$PS) が終了しました。

TRACE=ccccccc

IBM 保守担当員に提供するための、問題の位置および過去の実行パスを示す内部トレース。

システムの処置:

- RC=01xx, 0200, 0400, 0500, または 9999 の場合、POFFLOAD タスクはジャーナリングなしで通常どおりに続行します。
- RC=03xx の場合、ジャーナル LST スプール項目 (モジュール IPW\$\$PS) を処理するためにパートナー・タスクを使用

して処理を行っている POFFLOAD タスクが、パートナー・タスクの内部タイムアウト・エラーを検出し、強制終了を試みました。強制終了が成功した場合は、POFFLOAD タスクはジャーナリングなしで通常どおりに続行します。ただし、強制終了もタイムアウトになった場合、POFFLOAD タスクは終了処理に移り、テープ装置 *tapecuu* はメッセージ 1Q33I で解放されます。パートナー・タスクがまだ終了していない場合は、メッセージ 1QZ0I RC=0057 が出されます (詳しくは、メッセージ 1QZ0I を参照してください)。

- RC=0600 の場合、POFFLOAD ジャーナル LST は空で、破棄されます。

オペレーターの応答: PDISPLAY ...,TAPE=*cuu*,OUT= コマンドを発行して、テープの内容のリストを取得できます。

プログラマーの応答: 先行メッセージの『システム・プログラマーの処置』を参照してください。

**1Q5NI OFFLOADING ERROR ON *task,cuu*,
JOURNAL LST ENTRY \$OFJ*nnnn*
CREATED (dd/dd/dd tt:tt:tt)**

説明: 装置 *cuu* の POFFLOAD でエラーが発生したか、ジャーナリング中にタスクを取り消す PSTOP *cuu*,FORCE によって POFFLOAD が取り消されました (先行メッセージを参照してください)。ジャーナリング報告スプール項目が POFFLOAD ...JOURNAL=YES コマンドによって作成され、ジョブ名 \$OFJ*nnnn* の LST キューにスプールされています。 *nnnn* は、VSE/POWER が割り当てたジョブ番号の最後の 4 桁で、(dd/dd/dd tt:tt:tt) は、ジャーナルの作成日時です。ジャーナルは、エラー発生時にオフロード・テープのスプール内容を示します。テープが読み取り可能な場合は、内容を再ロードすることができます (POFFLOAD SAVE で重要な役割を果たします)。ただし、項目のロードは、テープが正しくクローズされていないため、エラー・メッセージで終了します。

システムの処置: POFFLOAD 機能は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1Q5OI CARTRIDGE ON *cuu* ALREADY WRITTEN
ONCE - REJECTED FOR {*task,cuu* | *task*}**

説明: *cuu* に取り付けられたカートリッジは WORM (書き込みは一度、読み取りは複数回可能) カートリッジで、ロード・ポイントに配置され、その中にはすでにユーザー・データが含まれています。これらのデータは、ラベルのない POFFLOAD BACKUP/PICKUP/SAVE または DISP=T 処理によって上書きすることはできません。

システムの処置: *cuu* のカートリッジはアンロードされ、VSE/POWER がメッセージ 1Q58A を出します。

オペレーターの応答: メッセージ 1Q58A で応答し、以下を行ってください。

- 新しい空のカートリッジを取り付けます。
- または、POFFLOAD ...NOREW が意図的である場合は、AR コマンド 'MTC EOF,*cuu*' を使用して、最後の POFFLOAD コマンドのデータの後に、再び取り付けられたカートリッジを配置します。

メッセージ 1Q58A でプロンプトが出されたとおりに PGO コマンドでタスクを続行してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1Q5PA LOADING RDR JOB(S) FROM
(OLD)NODE=*nnnnnnnn* - CONSIDER
'POFFLOAD...OLDNODE' TO AVOID
ADDING THEIR OUTPUT TO XMT-Q**

説明: テープからのロード時に、POFFLOAD が以下に該当する 1 つ以上のジョブを検出しました。

- POFFLOAD テープを生成する VSE/POWER PNET システムの RDR キューに常駐し、
- 所有ノード名と異なるノード =*nnnnnnnn* に作成されたジョブ

システムの処置: VSE/POWER は、ジョブを所有 RDR キューに配置しました。しかし、ジョブの実行時にデフォルトの経路指定による出力が XMT キューに追加され、起点、すなわちノード =*nnnnnnnn* に経路を戻します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡し、このテープを再度 'POFFLOAD...,oldnode=*nnnnnnnn*' オペランドを指定してロードし、起点のノード名を所有ノード名に置き換えるようにするか判断してもらってください。詳しくは、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」の POFFLOAD LOAD オペランドを参照してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1Q5QI partition-id FLUSHED, RBF LIMIT *nnnnnn*
EXCEEDED FOR jobname jobnumber
[jobsuffix] ON *cuu***

説明: 指定出力のために指定装置にスプールされたリストまたは穿孔のレコードの数が、SET RBF 自動スタート・ステートメントの RBF オペランド、または JECL ステートメントの RBF オペランドで設定した制限を超えたため、区画がフラッシュされました。このメッセージの後に、必ずメッセージ 0V16I、0S00I および 0S07I が続きます。

システムの処置: VSE/POWER はジョブを取り消します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、ジョブを訂正するようにしてください。

システム・プログラマーの応答: ジョブをフラッシュしてはいけない場合、* \$\$ JOB|LST|PUN ステートメントに RBF=0 を使用することを検討してください。

**1Q5SI RBF LIMIT *nnnnnn* IGNORED FOR
jobname jobnumber [jobsuffix] ON *cuu*,
SUBSYSTEM ACTIVE IN partition-id**

説明: 指定出力のために指定装置にスプールされたリストまたは穿孔のレコードの数が、SET RBF 自動スタート・ステートメントの RBF オペランド、または JECL ステートメントの RBF オペランドで設定した制限を超えました。アクティブなサブシステムが検出されたため、VSE/POWER は区画をフラッシュしませんでした。

システムの処置: システム・プログラマーに連絡して、ジョブに RBF=0 を使用するようにしてください。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、ジョブを訂正するようにしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q60I OPEN FAILURE ON PACCOUNT OUTPUT DEVICE

説明: PACCOUNT コマンドが出されましたが、出力ファイルがオープンできません。たぶん、DLBL または EXTENT 情報が正しくないか (DASD ファイルの場合) または TLBL 情報が正しくありません (標準ラベル付きテープ・ファイルの場合)。または、ディスク出力ファイル用の装置が会計ファイル装置と異なります。

システムの処置: PACCOUNT コマンドは実行されません。
オペレーターの応答: オープン失敗の原因となったエラーを訂正し、PACCOUNT コマンドをサブミットし直してください。ファイル定義の変更が必要な場合、担当のシステム・プログラマーに連絡してください。
システム・プログラマーの応答: 必要であれば、不正な DLBL、または EXTENT ステートメントを訂正してください。

1Q61A UNRECOVERABLE I/O ERROR ON task,cuu - REPLY: PGO cuu, {CANCEL | IGNORE | RESTART | RESTART,N}

説明: メッセージに示された印刷装置/穿孔装置 *cuu* で、リカバリー不能な入出力エラーが発生しました。

システムの処置: システムは応答を待ちます。
オペレーターの応答: 次のいずれかの処置を行ってください。
• タスクを終了するには、次のように応答します。

PGO *cuu*,CANCEL

- タスクを続行するには、次のように応答します。

PGO *cuu*,IGNORE

VSE/POWER は、エラーの原因となった CCW コマンドを無視するか、エラーをバイパスします (どちらか、適用できるほうの処置を行います)。VSE/POWER は別のメッセージを出すこともあります。

- まだ印刷/穿孔されていないページ/カードのためにタスクを再始動するには、次のように応答します。

PGO *cuu*,RESTART

- N ページ前にさかのぼってまだ印刷されていないページのために、リスト (専用) タスクを再始動するには、次のように応答します。

PGO *cuu*,RESTART,N

N には、最高 6 桁までの数字を指定してください。
システム・プログラマーの応答: なし。

1Q61I {UNRECOVERABLE I/O ERROR ON dev-description | {READ | WRITE} I/O ERROR ON dev-description, {CDK=ccchhhrr | FBA=block no} , BLOCK=q-block no | DBLK no}

説明: メッセージに示されたファイル上でリカバリー不能な入出力エラーが起きました。ここでの *dev-description* は次のいずれかになります。

cuu アドレス *cuu* のユニット・レコード (またはテープ) 装置。

ACCOUNT FILE *cuu*

アドレス *cuu* の会計ファイル SYS000。

DFILE *nn cuu*

データ・ファイル SYS0*nn* (*nn* = アドレス *cuu* にある 2 から 33 の任意の数)。

PACCOUNT OUTPUT DEVICE

PACCOUNT コマンドで指定された装置。

QFILE 01 *cuu*

アドレス *cuu* のキュー・ファイル SYS001。

エラーの結果、関連のエラー・メッセージが表示されることがあります。エラーの原因には、次のいずれかが考えられます。

1. チャンネル、コントロール・ユニット、または入出力装置の誤動作。これは、ボリュームを (移動可能であれば) 新しいドライブ、コントロール・ユニット、またはチャンネルに移し、VSE/POWER を再始動してみることで判別できます。
2. 記録面不良。これは CCHHR/FBA ブロック番号情報の特性および分散状況によって示されます。
3. VSE/POWER キュー・ファイルまたはデータ・ファイルが、正しくないデータ・セット割り当ておよび保護手順によって上書きされました。これは誤った長さの標識によって示されます。
4. メッセージ 1Q6KA の「注」で記述された CPU 誤動作 (シーク・アドレスの誤ったレコード番号の計算)。

CDK シーク・アドレスと FBA ブロック番号は 16 進数で表示されますが、キュー・レコード・ブロック番号または DBLK 番号は 10 進数で示されます。

システムの処置: VSE/POWER は、エラーの重大度に応じて追加メッセージを出します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: パフォーマンス全体の低下、または (それ以上の) データの消失を防ぐために必要な手順で応答してください。ディスク入出力エラーが発生した場合は、回避手段として代替りのエクステントの定義を行ってください。

1Q62I QUEUE CONTROL AREA UNACCESSIBLE, RC=nnnn

説明: 次のいずれかを行ってください。

RC=0001

キュー制御域との間の読み込みまたは書き込み中に、リカバリー不能な入出力エラーが起きました。

RC=0002

スロット・マネージャーが無効な DBLK 番号で DBLK の読み取り/書き込みを行おうとしました。データ・ファイル・エクステントには、相対 DBLK 番号の付いていないものがあります。

システムの処置: キュー制御域全体が削除されます。このため、現在、作業待ちの DST タスクによって制御されているすべての装置が再活動化されることはありません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。PINQUIRE ALL を出して、どの DST タスクが作業待ちであるかを判別し、タスクごとに PSTOP を出してください。

い。処理をさらに続けるために、このタスクによって制御された装置が必要な場合は、装置ごとに PSTART を出してください。RC=0002 の場合は、データ・ファイルが破壊されているため、できるだけ早くコールド・スタートを行ってください。システム・プログラマーの応答: パフォーマンス全体の低下、または (それ以上の) データの消失を防ぐために必要な手順で応答してください。ディスク入出力エラーが発生した場合は、回避手段として代替りのエクステントの定義を行ってください。RC=0002 の場合は、弊社に連絡してください。

**1Q63I PERM I/O ERROR WRITING/READING
 QUEUE FILE MASTER RECORD**

説明: マスター・レコードがキュー・ファイルから読み取られたとき、またはキュー・ファイルに書き込まれたとき、リカバリー不能な入出力エラーが起きました。

システムの処置: 次のいずれかを行ってください。

1. VSE/POWER の初期設定中に入出力エラーが起こった場合は、生成テーブルに用意された情報に基づいてマスター・レコードの再構成が試みられます。

注: マスター・レコードの再構成後に、以前は空き DBLK グループ・チェーン内に存在した DBLK グループはすべて失われます。

2. ディスクにマスター・レコードを書き戻しているときに入出力エラーが起こった場合は、VSE/POWER は、キュー・ファイルのディスク・エクステントの再形式化を試みます。
3. その他の場合は、VSE/POWER はメッセージ 1Q76I を出して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。VSE/POWER を再初期設定するには、必要なら、キュー・ファイル (IJQFILE) に対して別のエクステントを割り当て、コールド・スタートを実行してください。また、必要に応じて代替トラック、または代替ブロックを割り当ててください。元のエクステントに割り当てる代替トラック、または代替ブロックの数が多すぎる場合は、別のエクステントを割り当てる方がパフォーマンスがよくなります。

システム・プログラマーの応答: パフォーマンス全体の低下、または (それ以上の) データの消失を防ぐために必要な手順で応答してください。ディスク入出力エラーが発生した場合は、回避手段として代替りのエクステントの定義を行ってください。

**1Q64I JOB jobname number queue ENTRY
 DELETED [- nnnnnnnnnnnn DBLK
 GROUP(S) LOST]**

説明: 入力の読み取り中に PSTOP コマンドが出されたときにリカバリー不能なエラーが起きたか、または、DBLK グループ内の誤ったデータ・レコードが原因のエラーが起きました。

システムの処置: この VSE/POWER ジョブについてのキュー項目全体、またはジョブ・セグメントが削除されます。入出力エラーの場合、VSE/POWER データ・ファイルの関連 DBLK グループは、二度と使用されることはなく、消失します。タスクは終了し、追加メッセージが出されます。

オペレーターの応答: メッセージに示されているジョブを再サ

ブミットしてください (必要なら、ユーザー・マスター・ファイルに対してバックアップ手順を実行したあと)。入出力エラーが原因であれば、担当のシステム・プログラマーに連絡してください。ジョブが削除されている場合は、担当のプログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 入出力エラーが原因であれば、パフォーマンス全体の低下、または (これ以上の) データの消失を防ぐために必要な手順で応答を行ってください。ディスク入出力エラーが発生した場合は、回避手段として代替りのエクステントの定義を行ってください。ジョブが削除されている ("DBLK GROUPS LOST") 場合、ジョブをサブミットし直してください。

**1Q65I JOB jobname number suffix queue
 ERRONEOUS, OPERATOR SHOULD
 DELETE**

説明: POFFLOAD コマンドを処理する際、または POFFLOAD PICKUP コマンドを処理する際に、データ・ファイルにおいて入出力エラーが発生しました。

システムの処置: POFFLOAD BACKUP コマンドは終了します。

オペレーターの応答: プログラマーに連絡してください。プログラマーの同意を得て、メッセージに示されたキュー項目を削除してください。

システム・プログラマーの応答: パフォーマンス全体の低下、または (それ以上の) データの消失を防ぐために必要な手順で応答してください。ディスク入出力エラーが発生した場合は、回避手段として代替りのエクステントの定義を行ってください。

プログラマーの応答: ジョブを再サブミット、または再サブミットして、消失したデータを元に戻してください。

1Q66I ACCOUNT FILE KEPT

説明: PACCOUNT コマンドが出された後に、会計ファイル (IJAFILE) または PACCOUNT 出力装置で、リカバリー不能な入出力エラーが起きました。IJAFILE は、まだ使用可能です。

システムの処置: PACCOUNT タスクは終了し、メッセージ 1Q72I が出されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。PACCOUNT 出力装置で入出力エラーが起こった場合には、別の出力装置を指定して PACCOUNT コマンドを再実行してください。

システム・プログラマーの応答: ディスク入出力エラーが発生した場合は、回避手段として代替りのエクステントの定義を行ってください。

**1Q67I NO EXIT ROUTINE CURRENTLY
 LOADED**

説明: 出口ルーチンの状況を PVARY コマンドで変更しようとしたか、または PDISPLAY EXIT コマンドを出しましたが、現在ロードされている出口ルーチンがありません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: PLOAD コマンドを使って、あるいは VSE/POWER の初期設定によって、該当の出口ルーチンをロードし、コマンドを実行し直してください。

1Q68I **SEGMENTATION FORCED FOR** *jobname*
jobnumber partition-id, cuu

説明: データ・ファイル (IJDFILE) 上で回復不能な入出力エラーが起きました。

システムの処置: メッセージ 1Q69I が出されます。ジョブの処理が続きます。この区画の出力キュー項目で入出力エラーが起こった場合は、その項目は削除されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1Q69I **DEFAULT OPTIONS TAKEN FOR** *jobname*
jobnumber partition-id, cuu

説明: リカバリー不能な入出力エラーが起きました。出力のセグメント化が行われたあとで、JECL コマンドのすべてのオプションがデフォルトにセットされました。

システムの処置: デフォルトに基づいて処理が続行されます。テープ・スプーリングがアクティブの場合、出力はディスクにスプールされます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: デフォルトが適切でない場合は、ジョブを再サブミットしてください。

1Q6AI *pdisplay-response line*

説明: オペレーターが PDISPLAY DYNC コマンドまたは PLOAD DYNC コマンドを出しました。その結果、内部で PDISPLAY DYNC コマンドが出されました。

pdisplay-response lines の説明については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」を参照してください。

システムの処置: 要求された情報が表示されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q6BI **1. DYNAMIC CLASS TABLE LOADED SUCCESSFULLY**
2. DYNAMIC CLASS TABLE LOADED - WITH INVALID CLASSES
3. DYNAMIC CLASS TABLE NOT LOADED
4. DYNAMIC CLASS TABLE VERIFIED
5. DYNAMIC CLASS TABLE DISPLAYED IN LIST ENTRY \$DYDnnnn
6. DYNAMIC CLASS TABLE NOT LOADED - ACTIVE CLASS(ES) MISSING
7. DYNAMIC CLASS TABLE NOT LOADED - NO DYNAMIC PARTITIONS DEFINED

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明: オペレーターが PLOAD DYNC コマンドを出しました。表示される結果は、上にリストされている形式のメッセージのようにそれぞれ異なります。

1. PLOAD DYNC,FORCE または COND が、新しい動的クラス・テーブルのすべてのクラスが正しく指定されていることを検出しました。すべての要求されたクラスで動的区画のスケジューリングを利用可能にして、この動的クラス・テーブルが活性化されました。
 2. PLOAD DYNC,FORCE が少なくとも 1 つの、誤って指定された新しい動的クラス・テーブルのクラスを見つけました。要求された有効なすべてのクラスで動的区画のスケジューリングを利用可能にして、この動的クラス・テーブルが活性化されました。
 3. PLOAD DYNC,COND が少なくとも 1 つの、誤って指定された新しい動的クラス・テーブルのクラスを見つけました。そのためこのクラス・テーブルを活性化しません。
 4. PLOAD DYNC,VERIFY は新しい動的クラス・テーブルが正しい指定かどうかを検査し、このテーブルの状況報告を作成しました。アクティブな動的クラス・テーブルは、変更されないままになっている可能性があります。
 5. PLOAD DYNC または PDISPLAY DYNC コマンドが LST オペランドと共に入力されています。上記のメッセージは、動的クラス・テーブルの表示行を含むリスト・キュー項目の名前を識別します。
 6. 現在アクティブな動的クラス・テーブルで、PLOAD DYNC,FORCE または COND コマンドが、まだアクティブな動的区画をもつ動的クラスを見つけましたが、このクラスはロードされる新しい動的クラス・テーブルに含まれていません。
 7. PLOAD DYNC,FORCE または COND コマンドが入力されていますが、IPL SYS コマンドは「NPARTS=」オペランドによる動的区画のサポートを定義していません。
- システムの処置: 上記のリストのメッセージ番号により異なります。メッセージ 1 および 2 では、新しい動的クラス・テーブルに従って動的区画スケジューリングが続行されます。また、以下の内部変更も行われます。
- PRTY コマンドで定義された優先順位文字列は、動的クラスに関して変更されます。

メッセージ 3、4、6 および 7 では、PLOAD コマンドの前に設定されたとおりに動的区画スケジューリングが続行されません。

オペレーターの応答: 上記のリストのメッセージ番号により異なります。メッセージ 2 で、「INV-SP」とフラグを立てられた無効なクラスが表示された場合、PLOAD DYNC,VERIFY コマンドを使用して、スプールされた装置の詳細なエラー・メッセージを入手することができます。メッセージ 6 では、PDISPLAY DYNC コマンドを使用して、現在アクティブな動的クラス・テーブルの属性表示をすることができます。新しい動的クラス・テーブルに含まれていないアクティブ・クラスを識別してください。欠落しているクラスで新しいテーブルを拡張して、PLOAD コマンドを再入力するか、または、アクティブな動的クラス・テーブル中のアクティブ・クラスを使用不可にしてください。定義された動的区画の終了を待ち、それから PLOAD コマンドを再入力してください。必要であれば、担当のシステム・プログラマーに連絡してください。

1Q6CI • 1Q6FA

システム・プログラマーの応答: 上記のリストのメッセージ番号により異なります。メッセージ 3 では、無効のフラグが付いたクラス指定を訂正して、PLOAD コマンドを再入力してください。メッセージ 7 では、SYS コマンドの NPARTS オペランドに、12 よりも大きい値を指定してください。

1Q6CI *commandcode* NO ACTIVE DYNAMIC CLASS TABLE LOADED

説明: オペレーターが PDISPLAY DYNC または PVAR Y DYNC コマンドをアクティブな動的クラス・テーブルに対して出しましたが、まだこのテーブルは監視プログラム域にロードされていませんでした。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: まず、PLOAD DYNC コマンドを使用して、アクティブな動的クラス・テーブルを監視プログラム域にロードしてください。これにより、PDISPLAY DYNC および PVAR Y DYNC コマンドが使用できるようになります。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q6DA RESERVED GETVIS SUBPOOL-ID IJBP*cn* ALREADY USED, CLASS 'c' DISABLED

説明: 動的区画 *cn* の割り振り中に、監視プログラムが予約した SVA GETVIS SUBPOOL-ID IJBP*cn* が、すでにユーザー・プログラムで使用されていることが検出されました。

システムの処置: 要求された動的区画を割り振ることができません。繰り返し起こる障害を避けるために、VSE/POWER はクラス *c* を動的区画の割り振りに使用できないようにします。オペレーターの応答: ユーザー・プログラムが訂正されていない限り、PVAR Y DYNC コマンドを使用して動的クラス *c* を使用可能にできます。これには、ユーザー・プログラムが処理を終了していることが条件となります。いずれの場合も、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: サブプール ID IJBP*cn* を要求する SVA GETVIS を出したユーザー・プログラムを識別し、使用されたサブプール名を訂正してください。

1Q6EI CLASS 'x' NOT DEFINED IN ACTIVE DYNAMIC CLASS TABLE

説明: A PVAR Y DYNC,*...,class* コマンドが出されましたが、指定された動的クラス *x* がアクティブな動的クラス・テーブル中に見つからないため、使用可能にすることも使用禁止にすることもできません。

システムの処置: 指定したこのクラスに対する PVAR Y 要求は無視されます。指定された他の受け入れ可能なクラスは処理されます。

オペレーターの応答: PDISPLAY DYNC,ALL コマンドを使用して、現在アクティブな動的クラスの全範囲を調べてください。必要があれば、PVAR Y DYNC コマンドを再度出してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q6FA BRING UP OF DYNAMIC PARTITION *cn* HAS FAILED, RC=*nnnn*, CLASS 'c' DISABLED

説明: 動的区画 *cn* の生成フェーズ時に、内部エラーが検出されました。原因は理由コード (RC) で示されています。 *nnnn* には以下のいずれかが入ります。

RC=0001:

PSTART プロセッサによって出された前の VSE/POWER メッセージに示されているように、区画 *cn* について内部で開始された PSTART コマンドが失敗しました。

RC=0002:

動的区画 *cn* の処理を準備しているときに、VSE 監視プログラムまたはジョブ制御が、動的区画の初期設定には許されていないリソース制約または指定エラーを見つけました。この障害は、前のジョブ制御メッセージに示されています。

RC=0003:

動的区画 *cn* の処理を準備しているときに、VSE 監視プログラムが動的区画 *cn* のスペース GETVIS 域内に GETVIS 要求から戻された、障害を示す戻りコードを検出しました。

システムの処置: 動的区画 *cn* での実行のために選択されたジョブは読み取りキューに返されます。再び障害が起きることのないように、動的クラス *c* は、以降のジョブ・スケジューリングの間は使用不可にされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。報告されたエラーは訂正処置を必要としますが、PVAR Y DYNC,ENAB,*c* を使用して、エラーのある動的クラス *c* を再度使用可能にしてみるができます。

システム・プログラマーの応答: コード *nnnn* に応じて、以下の処置をとってください。

RC=0001:

PSTART 障害メッセージを解釈して、クラス *c* の指定を訂正してください。その後、PLOAD DYNC コマンドを使用して動的クラス・テーブルを再ロードしてください。

RC=0002:

ジョブ制御のエラー・メッセージを解釈してください。 PDISPLAY DYNC コマンドを使用して、動的クラス *c* に使用されるプロファイルを識別します。プロファイルの指定を検査して、訂正してください。動的クラス・テーブルを、PLOAD DYNC コマンドを使用して再ロードしてください。

RC=0003:

このエラーは内部の性質によるものですが、メンバー DTR\$DYN*m*.Z のクラス *c* で定義されるスペース GETVIS 域のサイズを増やしてみてください。 *m* は、PDISPLAY DYNC コマンドで示されるアクティブな動的クラス・テーブルの名前で決まります。動的クラス・テーブルを、PLOAD DYNC コマンドを使用して再ロードしてください。

1Q6FI BRING UP OF DYNAMIC PARTITION *cn* HAS FAILED DUE TO OPERATOR CANCEL

説明: 動的区画 *cn* の起動フェーズ時に、オペレーターがその区画を取り消しました。

システムの処置: 動的区画 *cn* で実行するように選択されたジョブは、再選択できるように読み取りキューに返されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q6GA FAILING *r/w-I/O* REQUEST FOR UNDEFINED DBLK=*dblk-no, task, cuu*

説明: データ・ファイルの読み取り (R) 要求または書き込み (W) 要求が、このファイルに定義されていない DBLK 番号 (10 進数) で出されました。障害の原因には、データ・ファイルでの DBLK の上書き、または入出力要求で使用するストレージ域の上書きのいずれかが考えられます。メッセージ 1Q6KA の「理由」も参照してください。以下の VSE/POWER 機能が影響を受ける可能性があります。

1. ALLOC-DBLK-GROUP または FREE-DBLK-GROUP サービス
2. データ管理データ読み取り DBLK
3. データ管理データ書き込み DBLK
4. QCA のスロット・マネージャー読み取り/書き込みデータ DBLK

システムの処置: VSE/POWER は内部ダンプを要求し、上記の機能に応じて処理を続行します。

1. 空き DBLK グループ・サブチェーンまたは削除すべき項目の DBLK グループが削除され、メッセージ 1QF8I が出されます。タスクは続行されます。
2. 読み取られているキュー項目が DISP=L に設定され、メッセージ 1Q6JI が出されます。タスクは終了します。
3. 書き込み中のキュー項目が削除され (その項目がチェックポイントになっていない場合)、メッセージ 1Q64I が出されます。タスクは終了します。
4. キュー制御域 (QCA) 全体が削除され、メッセージ 1Q62I RC=2 が出されます。タスクは続行されます。

VSE/POWER は、オペレーターの処置または応答を待ちません。

オペレーターの応答: 取得したダンプについてシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: これは内部論理エラーまたはストレージの破壊を示しています。IBM 担当員に知らせてください。

メッセージ 1Q6GA、1Q6HA、1Q6KA のいずれかが再表示されたときは、PDISPLAY STATUS 報告の中で 'NUMBER OF DBLK-GROUPS LOST DUE TO I/O OR LOGIC ERROR' によって表示されるように、VSE/POWER データ・ファイルのさらに多くの空き DBLK グループが失われます。

VSE/POWER のコールド・スタートで DBLK グループをすべてリカバリーしてください。

1Q6HA FAILING *r/w-I/O* REQUEST FOR NON SER-DBLK=*dblk-no, task, cuu*

説明: システム環境レコード (SER) を介して DBLK グループをリンクするために、データ・ファイルの読み取り (R) または書き込み (W) 要求が出されました。しかし、DBLK 番号 (10 進数) が「グループ内の最後」ではありませんでした。障害の原因には、データ・ファイルでの DBLK の上書き、または入出力要求で使用するストレージ域の上書きのいずれかが考えられます。メッセージ 1Q6KA の「理由」も参照してください。

システムの処置: VSE/POWER は内部ダンプを要求しました。空き DBLK グループ・サブチェーンまたは削除すべき項目の DBLK グループが削除され、メッセージ 1QF8I が出されます。タスクは続行されます。VSE/POWER は、オペレーターの処置または応答を待ちません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: メッセージ 1Q6GA のプログラマーの応答を参照してください。

1Q6JI JOB *jobname jobno qid* ENTRY KEPT WITH {HOLD | ORIGINAL} DISPOSITION

説明: 次のいずれかです。

1. 入力読み取りの間に、以下のいずれかの理由で入出力要求が失敗しました。
 - DBLK 番号が未定義
 - SER レコードが間違っている
 - DBLK がキュー項目に属していない
 - 実読み取り入出力エラー

バックグラウンド情報については、前に出されたメッセージ 1Q6GA、1Q6KA、1Q6LA、1Q6UA、1Q6VA、または 1Q6II の説明を参照してください。

2. POFFLOAD SAVE 時に、キュー項目が大きすぎて、取り付けられている単一テープには収容できないことが検出されました。

システムの処置: 上記の説明に応じて、次のいずれかです。

1. タスクは終了し、追加メッセージが出されます。データ・ファイルは上書きされないことがあるので、該当のキュー項目に対して、タスクが再び開始されることがあります。そのキュー項目は、DISP=H/L で再びキューイングさせられるか、(SAS BROWSE タスクの場合は) 元の後処理にリセットされるか、(項目がすでに削除キューに入っていて、最後の SAS BROWSE タスクで読み取り入出力エラーが発生した場合は) 最後に削除されます。
2. POFFLOAD 機能は、次のスプール項目があれば、その処理を続けます。

オペレーターの応答: 上記の説明に応じて、次のいずれかです。

1. システム・プログラマーにお問い合わせください。
2. POFFLOAD SAVE コマンドの後で、前のメッセージ 1Q7EI で示された項目を元の後処理へ変更してください。

システム・プログラマーの応答: 上記の説明に応じて、次のいずれかです。

1Q6KA • 1Q6MI

1. キュー項目へのタスクの再始動が同じ症状で失敗する場合、IPW\$\$DD データ・ファイルのダンプ・ツールを使用して、ディスク上の DBLK の内容を検査してください。IBM 担当員に知らせてください。
2. なし。

1Q6KA FAILING r/w-I/O REQUEST: NO SER IN SER-DBLK=dblk-no, task, cuu

説明: 「グループ内の最後」である DBLK 番号 (10 進数) を指定した読み取り (R) または書き込み (W) 要求が出されましたが、DBLK 入出力域が有効なシステム環境レコード (SER) で始まっていません。SER は主に DBLK のチェーニングで使用されます。障害は、(読み取りの場合) データ・ファイルで DBLK が上書きされたか、書き込み入出力要求に使用されるストレージ域が上書きされたために起きたと考えられます。以下の VSE/POWER 機能が影響を受ける可能性があります。

1. ALLOC-DBLK-GROUP または FREE-DBLK-GROUP サービス
2. データ管理データ読み取り DBLK
3. データ管理データ書き込み DBLK
4. QCA のスロット・マネージャー読み取り/書き込みデータ DBLK

DBLK の読み取り要求については、ディスク上のその物理的位置が後続のメッセージ 1Q6II で示されます。

注: メッセージ 1Q6KA、1Q6HA、1Q6GA の別の理由として、オーバーヒートによる CPU レジスター・ボードの誤動作 (除算操作での) である場合があります。これは、IBM 以外のハードウェアで何度か確認されています。他の理由については、メッセージ 1QFAA も参照してください。

システムの処置: VSE/POWER は内部ダンプを要求しました。メッセージ 1Q6GA のシステムの処置を参照してください。VSE/POWER は、オペレーターの処置または応答を待ちません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: メッセージ 1Q6GA のプログラマーの応答を参照してください。

1Q6LA INVALID LOGICAL RECORD LENGTH FOUND IN DBLK, TASK TERMINATED VIA I/O ERROR

説明: 読み取った DBLK の論理レコードで、32767 より大きい、またはゼロの予期しないレコード長が検出されたため、処理を続行できません。この障害は、以下のいずれかが原因で発生したと思われる。

- 対象のキュー項目の入力をスプールしているときに、VSE/POWER 論理エラーが起きました。
- 入出力域が、入力のスプール時または現在の読み取り時に上書きされました。
- 現在の読み取り時に、入力装置からのデータ転送エラーが生じました。
- DBLK レコードが、他のソフトウェアによって、ディスク上のデータ・ファイルに上書きされました。

- 現行のキュー項目に含まれる DBLK が正しくチェーニングされていませんでした。

システムの処置: 内部ダンプがとられ、以下のことを行うために VSE/POWER で見せかけの入出力エラーを起こします。

- メッセージ 1Q6II で示されている、ディスクの DBLK 位置を識別するため。キュー項目がメッセージ 1Q6II で DISP=H に設定されるか、メッセージ 1Q6II でキュー項目が削除され、タスクが終了します。
- メッセージ 1Q6II に示されている、DBLK がテープに存在していることを識別するため。タスクは終了します。

VSE/POWER は、オペレーターの処置または応答を待ちません。

オペレーターの応答: 取得したダンプについてシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 対象のキュー項目のタスクの再始動が、同じ症状で再度失敗したときは、

- IPW\$\$DD データ・ファイル・ダンプ・ツールを使用して、ディスク上のキュー項目の DBLK を検査する。
- DITTO/ESA (VSE 版) のテープ機能を使用して、テープの DBLK を検査する。

IBM 担当員に知らせてください。

1Q6MI task, cuu INVALID LOGICAL RECORD LENGTH IN INTERNAL RECORD, JOB jobname jobnumber queue, RC=nnnn

説明: 示されたキュー項目を処理している時に、示された POFFLOAD タスクが、内部レコードで無効なレコード長を検出しました。jobnumber は、オプション NOJNO が POFFLOAD で指定されていないときに、キュー項目がローカル・システムで取得する番号です。

考えられる原因は、

1. 対象となるキュー項目について出力をスプーリングしているときに VSE/POWER 論理エラーが起きました (実行書き込みタスク)。
2. 出力データのスプーリング時、または現在の読み取り時に、入出力域が上書きされました (POFFLOAD タスク)。
3. テープをオフロードする前に、ディスクのデータ・ファイルの DBLK レコードが、その他のソフトウェアによって上書きされました。

詳しくは、次の戻りコードの説明を参照してください。

RC=0001:

POFFLOAD LOAD/SELECT がレコード接頭部 (LDA) で X'0000' の長さを検出しました。

RC=0002:

POFFLOAD LOAD/SELECT がレコード接頭部 (LDA) で 32767 (32K-1) を超える長さを検出しました。

RC=0003:

POFFLOAD LOAD/SELECT が、ゼロ X'0000' (JHR DSHR..) の内部制御レコード・セクション長を検出しました。

RC=0004:

POFFLOAD LOAD/SELECT が、32767 (32K-1) を超える内部制御レコード・セクション長を検出しました。

RC=0005

POFFLOAD LOAD/SELECT が、内部制御レコード・セクション長のエラーを検出しました。全セクションの長さの累積は、接頭部 (LDA) に含まれる論理レコード長を超えています。

システムの処置: VSE/POWER は内部ダンプを要求しました。獲得されたキュー項目と DBLK がローカル・システムから削除されます。メッセージ 1Q64I が出され、テープ上の次のキュー項目を使用して処理が実行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: PDISPLAY コマンドを使用して、テープ上の対象となるキュー項目を印刷してください (PDISPLAY entry,TAPE=cuu,OUT=CON|LST)。必要があれば、VSE/DITTO を使用してデータを印刷してください。

1Q6NI **POFFLOAD PICKUP HAS SCHEDULED
nnnnn SPOOL ENTRIES FOR
OFFLOADING ON cuu AT mm/dd/yyyy**

説明: テープ装置 *cuu* で、メッセージに示された日付に、POFFLOAD PICKUP コマンドが処理を開始しました。この機能は、*nnnnn* 個の項目をテープにオフロードするスケジュールになっています。

システムの処置: POFFLOAD PICKUP は処理を開始します。オフロードが 3 分以上続くと、このメッセージの後に 1Q6PI が出されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1Q6PI **POFFLOAD PICKUP PROCEEDING WITH
bbbbbb OUT OF ccccc SPOOL ENTRIES
STORED TO TAPE ON cuu**

説明: POFFLOAD PICKUP コマンドが進行中で、オフロードがスケジュールされた *cccc* 個のスパール項目のうち、*bbbbbb* 個のスパール項目がテープに保管されました。

システムの処置: POFFLOAD PICKUP 処理が実行されます。この機能がさらに 3 分以内に処理を終了しなければ、このメッセージが再度出されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1Q6QI **JOB jobname, jobnumber, queue ENTRY KEPT
IN CLASS 'A' WITH THE HOLD
DISPOSITION**

説明: *jobname*, *jobnumber* の「キューへの追加」時に、キュー・レコード・クラス・フィールドに無効な VSE/POWER クラスがありました。直前に出されたメッセージ 1QZ0I も参照してください。

システムの処置: 無効なクラスはデフォルトのクラス 'A' で置き換えられます。内部処理の障害を回避するために、*jobname*, *jobnumber* は DISP=H でキューに入れられます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: *jobname*, *jobnumber* をそれが必要なクラスの中でディスパッチ可能にし、対象になっているキュー項目の処理を観察して、さらに障害が起こらないかを確認してください。いずれの場合も、直前に出された IDUMP およびコンソール・ログを収集し、IBM 担当員に知らせてください。

1Q6RI **task, cuu INVALID LOGICAL RECORD
LENGTH IN INTERNAL RECORD, JOB
jobname jobnumber queue, RC=nnnn**

説明: ディスク上でまたはテープから、示されたキュー項目を処理しているときに、示されたタスクが、内部レコードで無効なレコード長を検出しました。

考えられる原因は、

1. キュー項目のスパール時に、VSE/POWER 論理エラーが発生した。
2. スプーリング時または現在の読み取り時に、入出力域が上書きされた。
3. ディスクのデータ・ファイルの DBLK レコードが上書きされた。

詳しくは、次の戻りコードの説明を参照してください。

RC=0001:

X'0000' の内部制御レコード・セクション長が検出されました (JHR, DSHR)。

RC=0002:

32767 (32K-1) を超える内部制御レコード・セクション長が検出されました。

RC=0003:

内部制御レコード・セクション長のエラーが検出されました。全セクションの長さの累計が、レコード・ヘッダーで定義された合計長を超えています。

システムの処置: 内部ダンプがとられ、以下のことを行うために VSE/POWER で見せかけの入出力エラーを起こします。

- メッセージ 1Q61I で示されている、ディスクの DBLK 位置を識別するため。メッセージ 1Q61I が出され、キュー項目は DISP=H に設定され、タスクは終了します。
- メッセージ 1Q61I に示されている、DBLK がテープに存在していることを識別するため。タスクは終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: 対象のキュー項目のタスクの再始動が、同じ症状で再度失敗したときは、

- IPW\$\$DD データ・ファイル・ダンプ・ツールを使用して、ディスク上のキュー項目の DBLK を検査する。
- DITTO/ESA VSE 版のテープ機能を使用して、テープの DBLK を検査する。

IBM 担当員に知らせてください。

1Q6SA TOO MANY CLASS ENTRIES FOUND - SURPLUS IGNORED

説明: 動的クラス・テーブル・ライブラリー・メンバー DTR\$DYNx.Z (正確なメンバー名は前のテーブル表示の先頭にあります) を、DYNCLASS ID=GET マクロ要求を介してロードしているときに、異なるクラス ID を持つ 24 以上の動的クラス・テーブル項目がそのメンバーに含まれていたため、16 進数の RF 戻りコード = 08、R0 フィードバック・コード = 80 が戻されました。VSE の場合、異なるクラス指定の上限は 23 です。

システムの処置: PLOAD DYNC コマンドは、最初の 23 クラス項目 (重複項目は除外) だけを引き受けます。余分の項目はすべて無視されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: メンバー DTR\$DYNx.Z を調べ、動的クラス項目のうち、意図的に指定したものと余分のものをチェックしてください。このメンバーを訂正し、別の PLOAD DYNC を試みるときにカタログし直してください。

1Q6TA DUPLICATE CLASS ENTRIES - FIRST ACCEPTED, DUPLICATES IGNORED

説明: 動的クラス・テーブル・ライブラリー・メンバー DTR\$DYNx.Z (正確なメンバー名は前のテーブル表示の先頭にあります) を、DYNCLASS ID=GET マクロ要求を介してロードしているときに、1 つまたは複数の重複クラス項目のグループがそのメンバーに含まれていたため、16 進数の RF 戻りコード /R0 フィードバック・コード = 08/40 が戻されました。システムの処置: PLOAD DYNC コマンドは、重複クラスの各グループの最初のクラス項目 (最初の項目が無効であっても) だけを引き受けます。同じクラスに指定されたそれ以降の項目はすべて無視されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: メンバー DTR\$DYNx.Z を調べ、動的クラス項目のうち、意図的に指定したものと誤って指定した可能性のあるものをチェックしてください。このメンバーを訂正し、別の PLOAD DYNC を試みるときにカタログし直してください。

1Q6UA DBLK GROUP OWNERSHIP MISMATCH FOR Q-ENTRY X'xxxxxxx' [TASK TERMINATED VIA I/O ERROR]

説明: 内部 16 進キュー・レコード番号 xxxxxxxx であるキュー・レコードの先頭または次のデータ・ブロック・グループを読み取っているとき、SEH レコード (DBLK グループの最初のレコード) は、SEHOWNE フィールド (オフセット X'10') によって、このキュー・レコードを DBLK グループの所有者として識別しません。この障害は、以下のいずれかが原因で発生したと思われる。

- 対象のキュー項目の入力をスプールしているときに、VSE/POWER 論理エラーが発生しました。
- 入出力域が、入力のスプール時または現在の読み取り時に上書きされました。

- 現在の読み取り時に、入力装置からのデータ転送エラーが生じました。
- DBLK レコードが、OEM ソフトウェアによってディスク上のデータ・ファイルで上書きされました。
- 現行のキュー項目に含まれる DBLK が正しくチェーニングされていませんでした。

システムの処置: 内部ダンプがとられ、後続のメッセージが、フラグ付き SEH レコードの 16 進形式で最初の 32 バイトを示します。

- 動的ノード名変更が進行している場合、キュー項目はメッセージ 1RE9I によってフラグされますが、ノード名変更は続行します。
- その他すべての機能の場合、VSE/POWER によって入出力エラーが出されたと見なされ、メッセージ 1Q61I によってディスク上の DBLK 位置が識別されます。キュー項目はメッセージ 1Q6JI または 1Q65I によってフラグされ、タスクは終了します。

VSE/POWER は、オペレーターの処置または応答を待ちません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: そのキュー項目でのタスクの再始動が同じ症状で再び失敗する場合、IPW\$DD データ・ファイル・ダンプ・ツールを使用し、ディスク上のキュー項目の DBLK を検査してください。

IBM 担当員に知らせてください。

1Q6VA SEH=aaaaaaaa bbbbbbbb ... gggggggg hhhhhhhh

説明: メッセージ 1Q6UA によってフラグされた SEH レコードの最初の 32 バイトが、16 進表記で表示されています。4 バイトの SEHOWNE フィールド (オフセット X'10') は 5 番目のグループ (eeeeeeee) です。

システムの処置: メッセージ 1Q6UA を参照してください。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: メッセージ 1Q6UA を参照してください。

1Q70I TASK FAILURE, STOPPED *partition-id*

説明: 原因は、先行するメッセージによって異なります。

1. 次のいずれかのファイルでリカバリー不能な入出力エラーが起きました。

- メッセージで指定された区画でジョブを読み取り中のデータ・ファイル
- 会計レコードを書き込み中の会計ファイル

2. 論理エラーが見つかりました。

システムの処置: アクティブ・ジョブは HOLD 後処理で再びキューイングされ、区画に対して PSTOP コマンドが強制的に出されます。

オペレーターの応答: UNBATCH/STOP ジョブ制御コマンドを出し、その後 VSE/POWER PSTART コマンドを出してください。区画は、キュー内の次のジョブから続行します。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q711 *task, cuu* **TERMINATED**

説明: データ・ファイル、会計ファイル、または *cuu* で示された装置でリカバリー不能な入出力エラーが起きました。
 システムの処置: 他の装置に関する他のタスクの処理が続行されます。

オペレーターの応答: エラーが起きた装置に対して、適切な訂正処置を行ってください。タスクおよび装置 (または同タイプの別の装置) に対して *PSTART* を出し、処理を続けてください。読み取りタスクが停止した場合には、読み取りが完了していない *VSE/POWER* ジョブを再サブミットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q72I **PACCOUNT TERMINATED**

説明: *PACCOUNT* の処理中に、リカバリー不能な入出力エラーが起きました。

システムの処置: *PACCOUNT* タスクは終了します。

オペレーターの応答: *PACCOUNT* コマンドに指定された出力装置に、入出力エラーが起こった場合には、異なる出力装置で、*PACCOUNT* コマンドを再度出してください。エラーが会計ファイルで起こった場合は、メッセージ *1Q74A* に示されているオペレーターの応答を参照してください。エラーを訂正できない場合には、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: パフォーマンス全体の低下、または (これ以上の) データの消失を防ぐために、必要な手順に従ってください。ディスク入出力エラーが発生した場合は、回避手段として代替りのエクステントの定義を行ってください。

1Q73I **[TAPE] STATUS DISPLAY TERMINATED
 [(INCREASE DEFAULT 32 CONSOLE
 BUFFERS BY AR 'CORCMD
 GVLIMRI=nnnn')]**

説明: データ・ファイル、印刷装置、またはテープ装置でリカバリー不能な入出力エラーが発生したか、スプール・ファイルのスペース不足またはコンソールのバッファ不足のためタスクが取り消されたか、*PSTOP cuu* コマンドが出されました。
 システムの処置: この報告書は続けられません。別のタスクの処理が続行されます。

オペレーターの応答: *PDISPLAY* コマンドを再び出してください。コマンドがコンソール・ルーター・バッファ (項目) 不足で失敗した場合は、*AR* コマンド '*CORCMD STATUS=QUEUE*' を使用して、*VSE/POWER* の値として使用された '*GETVIS for RI:*' (4KB ルーター拡張バッファの数 - 修正可能) および '*Returnable RI:*' (追加のルーター項目バッファ - 修正不可) を識別します。多くのキュー項目が表示されなければならないときに未完のまま表示が終了することを避けるため、*AR* '*CORCMD GVLIMRI=nnnn*' コマンドで、デフォルトの制限 (16 進 *LIM=0020*) から '*GETVIS for RI*' バッファの数を増やしてください。4KB ルーター項目バッファは、約 35 行のコンソール表示行を保持することができることに注意してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q74A **ACCOUNT SUPPORT FUNCTIONS
 TERMINATED**

説明: 会計ファイル (*IJAFILE*) にリカバリー不能な入出力エラーが起きました。*1Q61I* を参照してください。

システムの処置: *VSE/POWER* アカウンティング・サポートはただちに終了し、*PACACCOUNT DEL* だけが受け入れられます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。*VSE/DITTO* を使用して、すでに出されているメッセージで '*in error*' (誤り) というフラグが立てられた会計ファイルの区域をダンプしてください。*PEND* コマンドを出して、現在実行中の *VSE/POWER* ジョブ (アカウンティング・サポートのない) すべての処理を終了してください。アカウンティング・サポートを再開し、*IJAFILE* を保管するには、以下のことを行ってください。

- ウォーム・スタートを実行してください (*FORMAT=NO*)。
- *VSE/POWER* がメッセージ *1Q74A* を出さずに再始動した場合は、*PACCOUNT* コマンドを使用して、現行の会計ファイルをできるだけ保管してください。*J DEL* コマンドを使用して、現行のアカウンティング・ファイルを適切に再形式設定し、アカウンティングを継続させてください。
- *VSE/POWER* がメッセージ *1Q74A* を出して再始動した場合には、*J DEL* コマンドを使用して、現行のアカウンティング・ファイルを適切に再形式設定してください。その後、*VSE/POWER* のウォーム・スタートを実行して、アカウンティング・サポートを取り戻してください。
- その後の再始動も失敗し、メッセージ *1Q74A* が出される場合は、標準ラベルの別のエクステントを新規会計ファイルに与え、その会計ファイルに対してのみコールド・スタートを実行してください (*FORMAT=A*)。これは、キューとデータ・ファイルに対して同時にウォーム・スタートを実行することを意味します。

システム・プログラマーの応答: アカウント・データの消失を防ぐために、必要な手順で応答してください。ディスク入出力エラーが発生した場合は、回避手段として代替りのエクステントの定義を行ってください。

1Q75I **MULTIPLE TERMINATION OF TASK,
task, cuu TERMINATED**

説明: 前のエラーの処理時に、入出力エラーまたは重大な論理エラーが起きました。

システムの処置: タスクは取り消されます。

オペレーターの応答: そのタスクに関係する前のメッセージを調べてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q76I **VSE/POWER CANNOT CONTINUE,
 RC=nnnn**

説明: エラーの理由は、理由コード (*RC*) によって示されています。*nnnn* は次のいずれかです。

RC=0001:

空きキュー・レコード・チェーンまたは空き *DBLK* グループ・チェーンの作成中に、迂回できないリカバリー不能な *I/O* エラーが発生しました。

1Q77I

RC=0002:

キューまたはデータ・ファイルのフォーマット中、または会計ファイルのリカバリーまたはフォーマット中に、リカバリー不能な入出力エラーが発生しました。

RC=0003:

ウォーム・スタートの初期設定時に、VSE/POWER は、キュー・ファイルが「損傷」と宣言されているのを検出しました。

RC=0004:

オペレーターが、メッセージ 1QH1D に対して 'YES' と応答しました。

RC=0005:

ウォーム・スタート時に、SER-DBLK の読み取りができませんでした。

RC=0006:

AUTOSTART ステートメントの処理中に、リカバリー不能な入出力エラーが発生しました。

システムの処置: メッセージ 1Q2DI が出されます。

オペレーターの応答: ハードウェア・エラーが発生した場合、担当のシステム・プログラマーに連絡してください。理由が 1 か 2 の場合は、キュー・ファイルかデータ・ファイル、またはその両方、または会計ファイルのコールド・スタートを実行してください。ファイルをフォーマット化する場合、エラー・ファイルに別のエクステントを割り当てるか、エラー・ファイルを含むボリュームを (それが移動可能なら) 新しいドライブ、コントロール・ユニット、またはチャンネルに移すか、またはその両方を行ってください。エラーのキュー/データ・ファイルのエクステント域についてメッセージ 1Q6II が出ている場合は、そのメッセージを解釈してください。システム・プログラマーに連絡してください。

理由が 3、4、または 5 の場合は、メッセージ 1QF7A による要求があったときのようにして、キュー (およびデータ) ファイルをコールド・スタートしてください。

理由が 6 の場合は、VSE/POWER を再スタートアップしてください。

システム・プログラマーの応答: ディスク入出力エラーが発生した場合は、回避手段として代替りのエクステントの定義を行ってください。

1Q77I **INVALID ENTRY ON SPOOL TAPE ON**
dev FOR task,cuu, (RC=nnnn|RC=0002.
SUGGEST TO USE SELECT)

説明: VSE/POWER がこのテープを拒否した理由が理由コード (RC) に示されます。nnnn は以下のいずれかです。

RC=0001:

スプール・テープが有効な VSE/POWER スプール・テープではないか、または書き込みタスクのタイプとテープが対応していません (リスト書き込み機能は穿孔スプール・テープを使用できず、穿孔書き込み機能はリスト・スプール・テープを使用できません)。

RC=0002:

テープからリストアされるキューのキュー ID (R/L/P) が、POFFLOAD コマンドの LOAD/SELECT オペランドで指定されたキューのオ

ペラントと一致しません。最もありそうな原因は、テープが POFFLOAD BACKUP/PICKUP/SAVE,ALL で作成され、今、リストアしたいキューがテープ上で最初に見つかったキューでないことです。テープ全体をスキャンして一致する項目を見つけるためには、POFFLOAD SELECT,... を指定し、選択基準として「ALL」を指定します。

RC=0003:

VSE/POWER はデータ・ブロック (DBLK) を期待していましたが、テープから読み取られた次のレコードが DBLK ではなかったか、またはファイルの終わりを受け取りました。

RC=0004:

表示されるテープが、有効なスプール・テープまたは POFFLOAD テープでないか、テープが上書きされています。

RC=0005:

予約済み。

RC=0006:

「拡張レコード」標識は付いていますが、FIRST/MIDDLE/LAST セグメント・フラグのないデータ・レコードが検出されました。そのデータの安全性には信頼性がないので、テープ・キュー項目は拒否されます。障害のあるキュー項目は、メッセージ 1Q77I に続くメッセージ 1Q64I に示されます。タスクは IDUMP を取り、テープ上の次の項目に進もうとします。この問題は、以下のいずれかによって発生します。

- テープ装置に欠陥がある
- テープ (カートリッジ) に欠陥がある
- POFFLOAD バックアップ/保管によってテープに書き込まれたキュー項目が壊れている

RC=0007:

ラベル付きスプール・テープが処理されており、データが後書きキュー・レコードで中断されています。すなわち、データを別のテープ・ボリュームに継続しなければなりません、キュー・レコード自体は、データが「継続」されることを示していません。おそらく内部エラーです。テープ処理は停止します。

RC=0008:

ラベル付きスプール・テープが処理されており、データが後書きキュー・レコードで中断されています。すなわち、データを別のテープ・ボリュームに継続しなければなりません、キュー・レコードのあとにテープ・マーカが付いていません。おそらく内部エラーです。テープ処理は停止します。

RC=000A:

オペレーターが、ラベル付きテープ機能を指定せずに POFFLOAD LOAD/SELECT コマンドを出しました (すなわち、オペラント LTAPE=NO が指定されたか、またはオペラント LTAPE=YES または TLBL= (またはその両方) が指定されていません) が、テープはラベル付きです。

RC=000B:

ラベル付きスプール・テープが処理されており、データが後書きキュー・レコードで中断されています。す

なわち、データを別のテープ・ボリュウムに継続しなければなりません。最終テープ・マークのあとに "EOV1" ラベルが付いていません。原因としては、作成時にテープが正しくクローズされなかったこと、または内部エラーが発生したことが考えられます。テープ処理は停止します。

RC=000C:

ラベル付きスプール・テープが完全に処理され、次のテープの処理が開始されました。しかし、次のスプール項目のヘッダー・キュー・レコードは、後続データが前のテープから継続されていることを示しています。正しいテープが取り付けられている場合は、おそらく内部エラーです。テープ処理は停止します。

RC=000E:

スプール・テープが処理されており、誤ったレコード長をもつ DBLK レコードが読み取られました。テープ処理は停止します。

RC=000F:

キュー ID が「R」、「L」、「P」のいずれでもないか、またはキュー・レコードが部分的に壊れています。タスクは IDUMP を取り、テープ上の次の項目に進もうとします。

RC=0010:

テープの 10 進シーケンス番号が、PDISPLAY TAPE コマンドの OFTAP= オペランドに一致していないことを、テープ上の最初のスプール項目が示しています。

システムの処置: テープは巻き戻され、POFFLOAD コマンドに NOREW オペランドが指定されない限り、アンロードされます。書き込みタスクは失敗します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。特に RC=000A の場合、以下のようにしてください。

1. POFFLOAD コマンドでラベル付きテープ機能を指定する (LTAPE=YES または TLBL=)、または
2. ラベルなしテープを処理する場合と同じように処理する。磁気テープ装置のヘッドが、磁気テープ・ラベルおよび最初のテープ・マークの後の位置に来るように調整し (単一テープ・マークの場合は、FSF オペランドを指定した MTC コマンドを出し)、次に NOREW オペランドを指定した POFFLOAD コマンドを出す。テープは、ラベルなしテープとして処理され (すなわち、マルチボリュウム処理は行われず)、EOF ラベルが読み取られたとき、テープの終わりに磁気テープ・ラベルをクローズすると、エラー条件が生じます (メッセージ 1Q77I RC=0007 の後に、IDUMP がとられます) が、これは無視されます。

システム・プログラマーの応答: IBM にお問い合わせください。

1Q78I**1. NO REAL/PFIXED STORAGE**

AVAILABLE FOR *task,cuu*

2. NO REAL/PFIXED STORAGE

AVAILABLE TO COMPLETE *power-command*

注: 左側の数字は実際には画面に表示されません。その数字は便宜的に追加されているにすぎません。

説明:

1. 次のいずれかを行ってください。
 - a. PACCOUNT コマンドが出されましたが、会計ファイル保管タスクの実行に必要なストレージが十分にありません。
 - b. BSC 回線を始動するために PSTART RJE コマンドが出されましたが、必要な制御ブロックの作成に必要なストレージが十分にありません。
 - c. PSTART PNET コマンドが出されましたが、制御ブロックの作成に必要なストレージが十分にありません。
 - d. 内部 POWER タスク ('IT') がコマンドを実行しましたが、必要な制御ブロックを作成するために十分なストレージがありません。
2. {PSTART|PSTOP} {PNETSNA|PNETTCP|PNETSSL} コマンドが発行されました。VSE/POWER は個別のノードに対して内部的に PSTART|PSTOP PNET コマンドを呼び出そうとしましたが、実記憶が十分にないため失敗しました。

システムの処置:

1. a の場合、会計ファイル保管タスクは終了します。

ケース d の場合、期限が切れている出力キュー項目の削除を、(LIST、PUN、および XMT キューごとに) 3 つの異なるコマンドを実行することによってシステムが開始しました。このため、いくつかの項目は削除され、いくつかの項目は削除されていないと考えられます。システムは、これらの項目を次回 (つまり、1 時間ごとに) 削除しようと試みます。

ケース b および c の場合、コマンドは無視されます。

2. VSE/POWER は前のコマンドの処理を終了しました。

オペレーターの応答:

1. 後でコマンドを再実行してください。PACCOUNT コマンドが再び失敗した場合は、次のいずれかを行ってください。
 - 会計ファイルの 80% がいっぱいになった (メッセージ 1Q31I) ために PACCOUNT コマンドを入力した場合は、VSE/POWER の制御下にある区画の 1 つに対して PSTOP コマンドを入力してください。この区画が停止したとき、PACCOUNT コマンドを出し直してください。
 - 会計ファイルが完全にいっぱいになった (メッセージ 1Q32I) ために PACCOUNT コマンドを入力した場合は、1 つまたはそれ以上の VSE/POWER タスク (例えば LST、RDR、PUN タスク) に対して PSTOP コマンドを入力し、PACCOUNT コマンドを出し直してください。
 - PDISPLAY A コマンドを用いてシステム活動を調べ、ストレージを独占しているタスクを見つけ、実/永続固定ストレージを得るために、可能な非アクティブ・タスクを停止してください。指定のタスクを開始するために、最初のコマンドを出し直してください。
 - 実記憶割り振りが適当かどうかを調べるために、システム・プログラマーに連絡してください。
2. 残りの各ノードに対して個別に PSTART|PSTOP コマンドを発行してください。

システム・プログラマーの応答:

1. 実記憶の割り振りが適当かどうかを調べてください。

2. PFIXED 記憶域を増やしてください。

1Q79I ACCOUNT FILE SAVED

説明: システムは、オペレーターが PACCOUNT コマンドで要求したとおり会計ファイルを保管しました。

システムの処置: 会計ファイルに割り振られているすべての DASD スペースが、より多くの会計レコードを記憶するために使用できるようになります。会計レコードの書き込みに失敗したため待ち状態になっていたすべてのタスクは、自動的に再活性化されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q7AI *commandcode* NO GETVIS-24 STORAGE AVAILABLE

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. PLOAD コマンドが出されましたが、この時点で、検査および活動化のために必要なネットワーク定義テーブル、VSE/POWER 処理フェーズ、または動的クラス・テーブルをロードするために使用できる GETVIS-24 のストレージが不足しています。
2. PBRDCST、PFLUSH、PGO、PRESTART、PSETUP、PSTOP、または PXMIT コマンドのいずれかが出されましたが、コマンドをキューに入れるために使用できる GETVIS-24 ストレージが不足しています。
3. PDISPLAY、PSTART PNET、または POFFLOAD コマンドが出されましたが、コマンドを処理するための GETVIS-24 ストレージが不足しています。

システムの処置: PLOAD PNET には、VSE/POWER は「古い」ネットワーク定義テーブルを使用します。PLOAD DYNC には、既存の動的クラス・テーブルが使用できるはずですが、他のすべての場合、コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを後で再発行してください。

システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: メッセージ 1Q85I の詳細な説明に基づいて、仮想記憶の割り振りを検査してください。

1Q7BI *commandcode* NO REAL/PFIXED STORAGE AVAILABLE

説明: PDISPLAY *queue*/DYNC/PNET/STATUS または PLOAD DYNC または PACCOUNT または PSTART CNSLTR,*cuu* コマンドが出されましたが、コマンドを正常に完了できるだけの十分な SETPFIX ワークスペースが現在ありません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 後でコマンドを再入力してください。

問題が続くときは、PEND、PEND IMM、PEND FORCE のいずれかのコマンドを使用して VSE/POWER を終了することを確認してください。システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER 統計報告書を解釈し、次のスタートアップに備えて VSE/POWER 区画の SETPFIX LIMIT 値を増やしてください。

1Q7CI TAPE SPOOLING FORCED TO SKIP "FILE CLOSE" DUE TO BLOCKED LTA, PHASE=aaaaaaaa jobname jobnum partid, cuu

説明: SAM 処理済みテープをクローズしようとしたのですが、システム B 論理一時域 (LTA) がジョブ区画 *partid* で所有されているため、システム・デッドロックの恐れがあります (SAM には LTA が必要です)。「PHASE=」は、そのとき LTA にロードされたフェーズ名を示します。

システムの処置: テープがラベル付きテープの場合、テープは EOF ラベルでクローズされません。VSE/POWER はそれでもテープを処理できますが、処理の終わりに、テープの形式が正しくないことを示すエラー・メッセージが出されます。テープ装置は割り当て解除されない可能性があります。スプーリングは続行しますが、出力は後処理「H」(保留)でディスクにスプールされます。テープがラベルなしであれば、あとでテープを処理したとき、おそらくエラーは起こりません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。テープ装置が割り当て解除されない場合は、コマンド PSTOP *cuu*,UNASSGN を使用して装置を解放することができます。

システム・プログラマーの応答: この問題が頻繁に起こる場合は、以下のことを検討してください。

- LTA を占有しているプログラムを判別する。これがユーザー・プログラムである場合は、そのプログラムを LTA から除去する (例えば、SVA に入れる) ことを検討してください。
- VSE/POWER 非 SAM テープ・スプーリングを使用する。

1Q7DI TAPE BEGINS WITH INCOMPLETE SPOOL ENTRY. SKIPPING TO NEXT ENTRY ON *dev* FOR [*task,cuu*] *task*

説明: SAM ラベル付きテープが処理されていますが、マルチボリューム・セットの第 1 ボリュームで始まっていません。取り付けられたテープが、不完全なスプール項目で始まります (つまり、前のボリュームから継続されています)。

システムの処置: 不完全な項目はスキップされ、次に完全な項目から処理が続行されます。

オペレーターの応答: 正しいボリュームから処理を開始したかどうかを確かめてください。そうでなかった場合は、タスクを停止し、正しいテープを用いて開始してください。

プログラマーの応答: なし。

1Q7EA POFFLOAD SKIPPED ENTRY *jobname jobno queue* DUE TO INSUFFICIENT TAPE CAPACITY ON *cuu*

説明: オペレーターが、ラベルなし処理のために POFFLOAD BACKUP/PICKUP/SAVE コマンドを出しました (すなわち、オペランド LTAPE=NO が指定されたか、またはオペランド LTAPE=YES または TLBL= (またはその両方) が指定されていない) が、"*jobname jobno queue*" で識別されたスプール項目が、取り付けられたテープには大きすぎるため、POFFLOAD 機能によってスキップされました。

システムの処置: POFFLOAD 機能は、次のスプール項目があれば、その処理を続けます。

オペレーターの応答: 容量がもっと大きなテープを使用する

か、テープ密度を増やすか、またはラベル付きテープ機能（スプール項目をマルチボリューム・テープで扱える）を使用してください。POFFLOAD 機能が、可能なすべての項目を予期どおりにテープに書き込まなかったこと、および、POFFLOAD LOAD/SELECT は VSE/POWER キューを予期した状態にリストアできないことに注意してください（例えば、システム障害が原因でスプール・キューのリストアが必要なときに）。

1Q7FI PSTART WRITER TASK REJECTED FOR WORM TAPE ON *cuu*

説明： テープ書き込みタスクの入力装置 *cuu* が WORM（書き込みは一度、読み取りは複数回可能）カートリッジです。テープ・メディアは、POFFLOAD または DISP=T 処理で作成されたもので、「無効な」キュー項目が含まれている可能性があります。つまり、テープの終わりまでに完全に入りきらなかった項目、WORM メディアの性質により削除できず、次のテープに置かれた項目などの、空の項目または不完全な不要情報項目があります。したがって、これらのメディアに対する書き込み/穿孔は、VSE/POWER ではサポートされていません。

システムの処置： コマンドは無視されます。

オペレーターの応答： 回避策として、POFFLOAD

LOAD/SELECT を使用することにより、拒否されたテープ/カートリッジの出力項目を VSE/POWER キューに再ロードして戻すことができます。次に、ローカルまたはリモートのネットワーク機能を使用して、出力項目を印刷または穿孔します。

お客様が使いやすいように、IBM が提供している PSTART コマンドには 4 番目 (buf) のオペランドとして '*' を指定してあります。この場合、印刷/穿孔 WORM メディアが開始しますが、成功の保証はありません。印刷/穿孔の処理中に無効なキュー項目が検出されたときは必ず、メッセージ 1Q77I RC=000E が出力されてタスクが停止します。

プログラマーの応答： なし。

1Q7GA SPECIFY POFFLOAD *type* KEY ENCRYPTON LABEL KEKL1= AND KEM1= OR "CANCEL" FOR *cuu*

説明： オペレーターが POFFLOAD テープ暗号化形式 1 または 2 コマンド *type* BACKUP|SAVE|PICKUP を入力し、テープ装置 *cuu* の必要な最初の暗号化ラベル KEKL1= およびエンコード方式 KEM1= を指定するよう指示されています。

システムの処置： POFFLOAD タスクは正しい PGO 応答を待ちます。

オペレーターの応答： オペレーターの応答は以下のいずれかです。

1. PGO *cuu* コマンド（上を参照）を使用して、最初の暗号化ラベル KEKL1= およびエンコード方式 KEM1=
2. 取り消し応答

PGO *cuu*,CANCEL

これで、POFFLOAD タスクは終了します。

プログラマーの応答： なし。

1Q7HA SPECIFY POFFLOAD *type* KEY ENCRYPTON LABEL KEKL2= AND KEM2= OR "CANCEL" FOR *cuu*

説明： オペレーターが POFFLOAD テープ暗号化形式 1 または 2 コマンド *type* BACKUP|SAVE|PICKUP を入力し、1Q7GA メッセージが出された後、最初の暗号化ラベル KEKL1= とエンコード方式 KEM1= を指定して PGO コマンドで応答しました。このとき、最後のオペランド値の後に継続コンマを付けて PGO コマンドを閉じましたが、これは、オペレーターがテープ装置 *cuu* の 2 番目の暗号化ラベル KEKL2= およびエンコード方式 KEM2= をさらに指定したいことを意味しています。

システムの処置： POFFLOAD タスクは正しい PGO 応答を待ちます。

オペレーターの応答： オペレーターの応答は以下のいずれかです。

1. 2 番目の暗号化ラベル KEKL2= およびエンコード方式 KEM2= コマンド（上を参照）
2. 取り消し応答

PGO *cuu*,CANCEL

これで、POFFLOAD タスクは終了します。

プログラマーの応答： なし。

1Q7JI POFFLOAD *type* TAPE(S) ON *cuu* WILL BE ENCRYPTED

説明： オペレーターが POFFLOAD コマンド *type* BACKUP|SAVE|PICKUP を入力しました。指定された暗号化の値が最終的に Enterprise Key Manager とテープ装置 *cuu* の両方によって受け入れられると、ハードウェア・テープ暗号化が行われます。KEKL= オペランドが指定されないと、デフォルトの KEKL 値が使用されます。

システムの処置： KEKL 値が受け入れられると、POFFLOAD タスクは、暗号化された形式でのテープの書き込みを続行します。

オペレーターの応答： なし。

プログラマーの応答： なし。

1Q80I ACCOUNT FILE ERASED

説明： PACCOUNT DEL コマンドが出され、会計ファイルが削除されました。

システムの処置： 会計ファイルのエクス Tent は再初期設定されます。会計レコードの書き込みに失敗したため待ち状態になっていたすべてのタスクは、自動的に再活動化されます。

オペレーターの応答： なし。

システム・プログラマーの応答： なし。

1Q81I '*filename*' EXTENT TOO SMALL, COMMAND NOT EXECUTED

説明： メッセージ中に示すディスク・エクステント (*filename*) に会計ファイルをコピーするために、PACCOUNT コマンドが出されました。しかし、このエクステントは、すべての会計情報を収められるだけの大きさではありません。

システムの処置： 会計ファイルが 100% いっぱいである場合は、オペレーターが有効な PACCOUNT コマンドを出すま

1Q82I • 1Q8BI

で、システムは待ち状態のままです。会計ファイルがいっぱいでなければ、システムは処理を続けます。

オペレーターの応答: PACCOUNT コマンドを再び出すか (なるべく別のメディアを指定して)、あるいはメッセージで示されたファイルにもっと大きなエクステントを使用してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q82I PACCOUNT PROCESSING CANCELED BY COMMAND

説明: VSE/POWERは、PACCOUNT の処理を取り消す PEND IMM コマンドを受け取りました。

システムの処置: PACCOUNT コマンドの処理は、即時に中止されます。つまり、ディスクまたはテープにすでに書かれている会計レコードは壊されませんが、すべての会計レコードが書かれていたとの保証はありません。PUN オペランドが使用されていれば、どのキュー項目もスプール・ファイルに書かれません。いずれの場合も、会計ファイルは消去されません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q83I ACCOUNT FILE NOTHING TO SAVE

説明: 空の会計ファイル (IJAFILE) に対して、PACCOUNT コマンドが出されました。

システムの処置: PACCOUNT コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q84I ACCOUNTING INCOMPLETE FOR *jobname* *jobnumber*

説明: エラー条件の結果、ユーザー作成ジョブ・アカウントティング・プログラム \$JOBACCT が取り消されました。

システムの処置: VSE/POWER のアカウントティング・サポートは続行されますが、ユーザー作成ジョブ・アカウントティング・プログラムの情報は用いられません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: ジョブ・アカウントティング・プログラムを訂正してください。

1Q85I *task, cuu* WAITING FOR GETVIS-24 STORAGE, *xxxxxxx* BYTES REQUESTED

説明: タスクが 16 MB 境界より下の GETVIS ストレージを求める要求を出しましたが、現在は使用できるストレージがありません。 *cuu* がタスクと関連していない場合、'---' が表示されます。

システムの処置: タスクは、ストレージが使用可能になるまで待機するか、または取り消されます (タスクによって異なります)。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- PDISPLAY A コマンドを使用して、どのタスクがアクティブであるかを調べてください。優先順位の高いタスクのために、優先順位の低いタスクを 1 つ以上取り消して GETVIS ストレージを解放してください。ネットワークキングが複数の送信側および受信側タスクと共にアクティブである場合、送信側タスクまたは受信側タスクの 1 つを PDRAIN してください。また、PVARV DYNC, DISAB コマンドを使って特定の動的クラスを非活動化することも検討してください。

- D STATUS コマンドを使用して、固有の VSE/POWER サービスにより、'TOTAL GETVIS-24 ALLOCATION' および 'CURRENT GETVIS-24 REQUESTED' を判別してください。GETVIS Fx (Fx = VSE/POWER 区画) コマンドを使用して、VSE/POWER の固有および余分なライブラリアンと OEM 取引先の Getvis-24 消費量を判別してください。フラグメント化された Getvis-24 ストレージでも、現在の *xxxxxxx* バイトの要求が本当に満たされないか検査してください。また、このバイト量が妥当なものか、または不合理的な量であるかも検査してください。

- このメッセージが頻発する場合、このことをシステム・プログラマーに通知し、VSE/POWER 区画を使用できるように GETVIS-24 域を拡大してもらってください。

システム・プログラマーの応答: 「オペレーター」が推奨するコマンドを使って GETVIS-24 の割り振りと消費量を検査してください。16 MB 境界を超えてでも VSE/POWER 区画の ALLOC 値を大きくして GETVIS-24 を増やしてください。そうすると、キュー・ファイルのストレージ・コピーを Getvis-31 域に入れることができるので、Getvis-24 域に空きができます。

1Q87I *cuu*, EOJ ADDED FOR *jobname* *jobnumber*

説明: ジョブが区画から VSE/POWER に渡されましたが、最後のレコードが有効なジョブ区切りステートメントではありませんでした (* \$\$ EOJ でもなく /& でもない)。

システムの処置: 欠落しているジョブ区切りが、読み取られた VSE/POWER ジョブに追加され、そのジョブは保留状態にされます。

オペレーターの応答: PRELEASE コマンドを出し、そのジョブを処理できるようにしてください。ジョブを読み取りキューから取り除く必要がある場合には、PDELETE コマンドを出してください。プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: このメッセージが発行されないようにするには、VSE/POWER によってスプールされるすべての SYSIN テープ・ファイルが /& ステートメント (JECL を使用しない場合) または * \$\$ EOJ ステートメント (JECL を使用する場合) で終わるようにしてください。

1Q8AI TASK TRACE NOT YET STARTED

説明: ユーザーが PVARV コマンドを使用してタスク・トレースの状況を変更しようとしたのですが、タスク・トレースは始動されていませんでした。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: まず最初に PSTART TASKTR コマンドを使用して、トレース域を入手して記録のための準備をし、実際のトレースのための初期使用可/使用不可状態をセットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q8BI STATISTICS STATUS REPORT DISPLAYED IN LIST ENTRY \$STAnnnn

説明: LST オペランドを指定した PDISPLAY STATUS コマンドが入力されました。上記のメッセージは、統計状況報告書の表示行が格納されている、リスト・キュー項目の名前を示しています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 処理を進めるために、リスト・キュー項目 \$STAnnnn (ジョブ番号 mnnnn, 後処理 H、およびクラス A) を識別してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q8CI DEFAULT OUPUT VALUES USED FOR jobname jobnumber [ON nodeid], SPOOLED DEVICE cuu

説明: * \$\$ JOB...NTFY= オペランドが指定された VSE/POWER ジョブが出力を作成しましたが、

- VSE/POWER * \$\$ LST/PUN ステートメントが、まったく指定されていません。
- LST/PUN=listaddr オペランドを使用して、スプールされる cuu に対して、* \$\$ LST/PUN ステートメントが明示的に指定されていません。
- * \$\$ LST/PUN ステートメントは LST/PUN=LISTADDR オペランドを指定していないため、VSE/POWER はこれらの出力特性を、最初に指定された (デフォルト) スプール装置に割り当てます。

システムの処置: 出力の作成は続行されますが、その出力はデフォルトの出力特性 (例えば、CLASS=A、DISP=D) を持つようになります。

オペレーターの応答: プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 対象となっているスプール装置にデフォルトの出力特性を与えたくない場合は、

- 明示的に LST/PUN=LISTADDR オペランドを指定して、* \$\$ LST/PUN ステートメントを出してください。
- 最初の (デフォルト) 装置について、VSE/POWER に渡すスプール装置のリストを再配置してください。

1Q8DI INVALID CLASS 'x' NOT ACCESSIBLE TO PVARY COMMAND

説明: PVARY DYNC, ENAB, class コマンドが出されましたが、クラス指定が正しくないため、指定した動的クラス x が、アクティブな動的クラス・テーブルで「無効」であることが検出されました。

注: PVARY DYNC, ENAB, ALL コマンドが無効なクラスを検出した場合は、このメッセージは出されません。

システムの処置: 指定したこのクラスに対する PVARY 要求は無視されます。指定した他のクラス (もしあれば) はアドレス指定されます。

オペレーターの応答: 対象となっているクラスを、動的ジョブの処理のために使用可能とされているクラスから除外すべきでない場合は、PDISPLAY DYNC コマンドを使用して、正しくないクラス指定とアクティブな動的クラス・テーブルの名前 DTR\$DYN n.Z を識別してください。スプール装置に「無効」フラグが立っている場合は、PLOAD DYNC,VERIFY コマンドを使用して、この指定エラーを識別することもできます。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: メンバー DTR\$DYN n を適切に訂正し、PLOAD DYNC コマンドでロードし直してください。

1Q8EI ALL CLASSES FLAGGED INVALID IN ACTIVE DYNAMIC CLASS TABLE

説明: PVARY DYNC, ENAB コマンドまたは PLOAD DYNC, FORCE コマンド (暗黙指定の PVARY を引き起こす) が出されましたが、アクティブな動的クラス・テーブルには、誤って指定されたクラス項目のみがあります。

システムの処置: どの動的クラスも、使用可能にするようには処理されません。

オペレーターの応答: 動的ジョブの処理のために、動的クラスを使用できるようにしておくべき場合は、PDISPLAY DYNC コマンドを使用して、正しくないクラス指定とアクティブな動的クラス・テーブルの名 DTR\$DYN n.Z を識別してください。スプール装置に「無効」フラグが立っている場合は、PLOAD DYNC,VERIFY コマンドを使用して、この指定エラーを識別することもできます。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: メンバー DTR\$DYN n を適切に訂正し、PLOAD DYNC コマンドでロードし直してください。

1Q8FI VSE/SAM TAPE SPOOLING VIA SEGMENT MACRO PROHIBITED, SUGGEST IPWSEGM MACRO. TAPE SPOOL FORCED TO DISK, jobname jobno partid, cuu

説明: 区画 partid で実行中のジョブが SEGMENT マクロを出し、新規のセグメントを VSE/SAM テープにスプールすることを示すスプール・パラメーターを出力 JECL ステートメントで渡しました。これは禁止されています (ロックされた LTA のためにシステムのソフト待ちが起こる可能性があります)。

システムの処置: セグメント化出力は、DISP=H でディスクにスプールされます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

プログラマーの応答: 代わりに IPWSEGM マクロを使用するか、VSE/SAM なしで固有の VSE/POWER テープ・サポートを使用することをお勧めします。

1Q8GI STATUS REPORT DISPLAYED IN LIST ENTRY {\$LSTnnnn | \$TAPnnnn}

説明: LST オペランドが指定された、PDISPLAY ALL コマンドまたは PDISPLAY TOTAL コマンド、あるいは PDISPLAY entry, TAPE=cuu のいずれかが出されました。このメッセージは、状況報告書の表示行が含まれているリスト・キュー項目の名前を識別します。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 処理を進めるために、リスト・キュー項目 \$LSTnnnn | \$TAPnnnn (ジョブ番号 mnnnn, 後処理 D、およびクラス A (または後処理 H および SET HOLDCL= のクラス)) を識別してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

- 1Q8HI
1. MESSAGE *mmmmI* BEEN ENABLED, NOW DISABLED FOR CONSOLE
 2. MESSAGE *mmmmI* STATUS UNCHANGED: DISABLED FOR CONSOLE
 3. MESSAGE *mmmmI* BEEN DISABLED FOR CONSOLE, NOW ENABLED FOR CONSOLE
 4. MESSAGE *mmmmI* BEEN ENABLED, NOW ENABLED FOR CONSOLE
 5. MESSAGE *mmmmI* IS DISABLED
 6. MESSAGE *mmmmI* BEEN ENABLED, NOW DISABLED FOR CONSOLE AND HARDCOPY FILE
 7. MESSAGE *mmmmI* BEEN DISABLED FOR CONSOLE, NOW DISABLED FOR CONSOLE AND HARDCOPY FILE
 8. MESSAGE *mmmmI* STATUS UNCHANGED: DISABLED FOR CONSOLE AND HARDCOPY FILE
 9. MESSAGE *mmmmI* BEEN DISABLED FOR CONSOLE AND HARDCOPY FILE, NOW ENABLED FOR CONSOLE
 10. MESSAGE *mmmmI* BEEN DISABLED FOR CONSOLE AND HARDCOPY FILE, NOW DISABLED FOR CONSOLE 1Q8HI
 11. MESSAGE *mmmmI* IS DISABLED FOR CONSOLE AND HARDCOPY FILE

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明: 状況「ENABLED」は、メッセージがコンソールに表示される一方でハードコピー・ファイルに書き込まれることを意味します。状況「DISABLED FOR CONSOLE」は、メッセージはコンソールに表示されないものの、ハードコピー・ファイルには記録されることを意味します。状況「DISABLED FOR CONSOLE AND HARDCOPY FILE」は、メッセージはコンソールに表示されず、ハードコピー・ファイルにも書き込まれないことを意味します。

メッセージ・テキストに応じて、次のとおりです。

- 1 および 2: 接頭部 *mmmmI* のメッセージは、コンソールにはこれ以上表示されません。ただし、以下のような重要な状況でコンソールに表示されます。
- VSE/POWER の初期化中
 - VSE/POWER コマンド PDISPLAY STATUS への応答として

どのような場合も、メッセージはハードコピー・ファイルに記録されます。

3 および 4: 接頭部 *mmmmI* のメッセージはコンソールに表示されます。

5.: このメッセージは、ALLDISAB および SHOW オペランドが指定されているときに出力されます。このメッセージは、NOCONS オペランドまたは HCONLY オペランドを指定した

PVARY MSG コマンドによってコンソールに表示されないように設定されていたそれぞれのメッセージに対して出力されません。

6.、7.、および 8.: 接頭部 *mmmmI* のメッセージは、コンソールに表示されなくなり、ハードコピー・ファイルにも記録されなくなりました。

9.: 接頭部 *mmmmI* のメッセージがコンソールに表示されません。

10.: 接頭部 *mmmmI* のメッセージは、コンソールにはこれ以上表示されません。ただし、ハードコピー・ファイルには記録されます。

11.: このメッセージは、PVARY MSG コマンドに ALLIGN オペランドおよび SHOW オペランドが指定されているときに出力されます。状況が「コンソールおよびハードコピー・ファイルに対して無効」であるそれぞれのメッセージに対して出力されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

- 1Q8JI
1. MESSAGE *mmmmt* IS NOT A VSE/POWER MESSAGE
 2. MESSAGE *mmmmt* NOT ACCEPTED (ACTION TYPE IS NOT 'I')
 3. MESSAGE *mmmmt* CAN NOT BE PROCESSED

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明: メッセージ・テキストに応じて、次のとおりです。

1. メッセージ接頭語の先頭は、1Q、1R、または 1V ではありません。

2. 処置タイプ *t* が 'I' ではありません。'I' のみが受け入れられます。

3. メッセージ接頭語が、汎用 VSE/POWER メッセージ表示ルーチンによって使用されているメッセージ・モジュール内で見つかりません。原因は、以下のいずれかです。

- VSE/POWER メッセージが不明です。
- VSE/POWER メッセージがローカルで定義されています。または、
- IGN オペランドによりメッセージをコンソールおよびハードコピー・ファイルに対して無効にできません。

システムの処置: PVARY コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 正しい VSE/POWER メッセージ接頭語を指定して、コマンドを入力し直してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1Q8KI **OUTPUT** *jobname jobnumber [jobsuffix]*
PASSED TO PRINTER/PUNCH DEVICE
cuu [FOR VM USER 'userid']

説明: 示された出力キュー項目が、PSTART LST/PUN,*cuu*,...,LOG=YES コマンドによって始動された出力装置 *cuu* に渡されました。このコマンドに 'VM' オプションが含まれているときは、キュー項目がスプールされた VM ユーザー *userid* が示されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。ただし、このメッセージがコンソールに大量に表示される場合は、PVAR Y

MSG,1Q8KI,NOCONS コマンドを使用して、ハードコピー・ファイルに記録するときのみに表示されるよう制限してください。

- *task-id* が "LDR" の場合は、PNET SNA ノードの開始が終了します。
- 'PSTART DUMPTR' が要求され、*task-id* が 『RLM』 または 『LDR』 であるか、または *subtask-id* 『S TD』 または 『S SD』 である場合は、PNET/RJE トレース域のダンプが失敗し、トレース域が上書きされます。
- 他のすべてのタイプのタスクの場合は、VSE 拡張機能サブタスクが利用可能になるまで、メッセージを出したタスクが待ち状態にされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER 区画のサブタスクの使用状況を調べてください。

1Q90I * \$\$ RDR STATEMENT NOT
PROCESSED, JOB FLUSHED

説明: VSE/POWER では 3540 装置はサポートされなくなりました。

システムの処置: 次の VSE/POWER ジョブの先頭まで、入力ストリームはフラッシュされます。2 つの VSE/POWER ジョブの間に誤った * \$\$ RDR ステートメントがあった場合は、VSE/POWER はそのステートメントを無視し、次のカードから入力処理を続けます。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブから * \$\$ RDR ステートメントを除去して、ジョブを再実行依頼してください。

1QA1I **SETPRT ROUTINE NOT FOUND IN SVA**
task, cuu

説明: 次のいずれかです。

1. VSE システムが SVA なしで初期設定されます。
2. SETPRT 論理モジュール (IJVSPRDV) が SVA 内にありません。

システムの処置: リスト・タスクは終了し、処理中の出力ジョブは、同じ後処理 (DISPOSITION) でリスト・キューに残ります。

オペレーターの応答: (1) の場合は、システムを再 IPL し、SET SVA コマンドを出してください。(2) の場合は、SETPRT 論理モジュール (IJVSPRDV) を SVA に入れてください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 必要であれば、オペレーターを援助してください。

1Q9GI **BIGGEST SORTED DISPLAYED IN LIST**
ENTRY \$BIGnnnn

説明: LST オペランドを指定した PDISPLAY BIGGEST コマンドが入力されました。このメッセージは、状況報告書の表示行が含まれているリスト・キュー項目の名前を識別します。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 処理を進めるため、ジョブ番号 *nnnn* (ここで *nnnn* はジョブ番号の最後の 4 桁)、後処理 H、およびクラス A のリスト・キュー項目 \$BIG*nnnn* を識別してください。

プログラマーの応答: なし。

1QA2I **VSE/POWER MULTI-VOLUME TAPE**
COMPLETE FOR *jobname jobno jobsuffix*
queue VOLUME=yyy ON dev FOR task, cuu

説明: VSE/POWER がマルチボリュームのラベル付きスプール・テープを処理中であり、以下のいずれかです。

- 表示されたテキストが VOLUME=*nnn* の場合、メッセージに示されたスプール項目に対してテープがいっぱいになり、そのテープを巻き戻し中であり、取り外し中であることを意味します。
- 表示されたテキストが VOLUME=*nnn*(LAST) の場合、2 つ以上のマルチボリューム・テープにまたがるスプール項目が完全にテープへ書き込まれたことを意味します。別のスプール項目の処理が続行されている可能性があります。

オペレーターは、このメッセージに従って、必要ならば、手作業でテープ・ボリュームにラベルを付けることができます。

VSE/POWER のボリューム通し番号は個々のスプール項目 (VSE/SAM テープ・ラベルではない) を指すので、手作業でテープにラベルを付けておくと、オペレーターは、後の処理でテープを取り付けるときに (メッセージ 1QG0A を参照)、テープを容易に見つけることができます。

システムの処置: 現在のテープはアンロードされており、次のテープの処理が開始されています。

オペレーターの応答: なし。

1QA0I **NO SUBTASK AVAILABLE FOR** *task-id, cuu*

説明: VSE/POWER 区画のために使用できる VSE 拡張機能サブタスクが、すべて予約されているか、または、すべての VSE 拡張機能が使用中です。

システムの処置: タスクのタイプに応じて、次の処置が行われます。

- *task-id* が 「IT」 の場合には、ライブラリアン・サブタスクを生成できなかったため、VSE/POWER の初期設定が終了します。
- *task-id* が 「TI」 の場合には、(共用) タイマー・サブタスクを生成できなかったため、VSE/POWER の初期設定が終了します。

注:

1QA3I

1. テキスト 'VOLUME=nnn' は、処理中のスプール項目 *jobname jobno* のラベル付きテープ・ボリウム番号を指しています。ラベル付きテープ機能が複数のテープを作成することがありますが、与えられたメッセージ・テキストは、示されたスプール項目に関連するボリウムだけを参照します。このボリウム番号は、PDISPLAY TAPE=cuu コマンドを使用すれば、いつでも表示することができます。
 2. テキスト 'VOLUME=***' が表示された場合、実際のボリウム番号は 127 以上であることを意味します。(これは、VSE/POWER が表示できる最大値です。これより多くのテープを使用する場合は、次にどのテープを取り付けるとよいか分かるように、オペレーターは十分に注意してテープをカウントしなければなりません)。
 3. テキスト 'VOLUME=***(LAST)' が表示された場合は、ボリウム通し番号に関係なく、スプール項目の最後のテープ・ボリウムであることを意味します。
- プログラマーの応答: なし。

1QA3I SETPRT ERROR FOR *jobname jobnumber task,uu, RC=X'xxxxxxx'*

説明: LST タスクが 3800-1 型印刷装置に対して開始され、SETPRT マクロ要求を出しましたが、X'04' より大きな戻りコードで完了しました。実際の SETPRT 要求は、非同期サービス SUBTASK によって行われ、SETPRT ルーチン IJVSPRDV によって処理されます。また、IJVSPRDV が OEM レーザー・プリンター・ソフトウェアで置き換えられている場合があります。このエラーは、スプーリング時の無効なプリンター・セットアップ (* \$\$ LST JECL ステートメント、// SETPRT ジョブ制御ステートメントまたは SETPRT マクロ) によって、または印刷装置自体の問題が原因で起こった可能性があります。

"- " が *jobname jobnumber* に代わって表示された場合、このメッセージは特定のキュー項目に属していません。

注: メッセージ記述に 1 バイトの戻りコードが示された場合は、それは、4 バイト戻りコード (バイト番号 0 から 3) の右端のバイトです。

以下は、SETPRT マクロ要求からの全 4 バイト戻りコードの説明です。

-08 装置タイプが無効。出力装置は、3800、3211、または 3203-4 型でなければなりません。
-0C パラメーター・リストが無効。リスト内の長さ値が無効であるか、論理装置が指定されていないか、リストがワード境界にないか、または予約フィールドにゼロが含まれていません。

ggcctt10

フェーズがコア・イメージ・ライブラリーに見つからないか、フェーズ・ヘッダーの形式が無効。ヘッダーは最初の 8 バイトです。レジスター 15 のバイト 2 に、見つからなかったか無効な形式をもつフェーズのタイプが示されています。

バイト 2 (tt)

フェーズ・タイプ

- 04 用紙制御バッファ (FCB) フェーズ。

- 08 コピー変更フェーズ。
- 0C 文字配列表フェーズ。
- 10 図形文字変更フェーズ。

フェーズ・タイプ・コードが 0C または 10 のときは、バイト 0 と 1 (ggcc) が、文字配列表 (CAT) フェーズまたは図形文字変更 (GCM) フェーズのいずれが必要であったかを示します。CAT フェーズが必要であった場合は、バイト 0 (gg) がゼロで、バイト 1 (cc) が、文字配列表フェーズを示します (すなわち、最初の CAT の場合は 01 とした場合です)。必要であった CAT が、CHARS キーワードではなく MODIFY キーワードに指定されていた場合、(cc) は 05 にセットされます。

図形文字変更フェーズが必要であった場合は、バイト 1 (cc) が、GCM フェーズがコア・イメージ・ライブラリーからロードされる CAT を示し、バイト 0 (gg) が、4 つの可能な GCM フェーズのいずれが必要であったかを示します。

ggccop14

印刷装置での永続入出力エラー。レジスター 15 のバイト 2 (op) には、失敗した CCW のチャンネル・コマンド・コードが入っています。例えば、印刷装置がコピー変更ロード・チャンネル・コマンドでエラーを戻した場合、バイト 2 (op) には X'35' が入れられます。バイト 2 (op) が、X'83' または X'25' のときは、バイト 0 と 1 は、X'10' 戻りコードの場合と同じ意味をもちます。

-18 手操作によるセットアップを実行できないため、オペレーターが SETPRT 要求を取り消した。

-1C 予約済み。起こってはなりません。

.....ccnn20 印刷装置で使用できるよりも多くの文字生成ストレージが要求された。cc は、エラーの原因となった文字配列表を示します (すなわち、最初の CAT の場合は 01、といった具合です)。このテーブルが、CHARS キーワードではなく MODIFY キーワードに指定されていた場合は、cc は 05 です。nn は 2 または 4 のいずれかであり、装置で使用可能な WCGM の数を表します。

.....cc..24 文字配列表のバイトが、表で識別されない文字生成モジュール (CGM) を参照している。これは、IEBIMAGE ユーティリティーで作成された文字配列表では起こってはなりません。cc は、エラーの原因となった文字配列表を示します (すなわち、最初の CAT の場合は 01、といった具合です)。このテーブルが、CHARS キーワードではなく MODIFY キーワードに指定されていた場合は、cc は 05 です。

.....ss28 プリンター・セットアップを実行するのに十分な区画 GETVIS ストレージが使用可能でない。ss は、初期 512 バイト作業域を入手できない場合は 00 であり、2 次 11776 バイト作業域を入手できない場合は 04 です。POWER 区画のストレージ割り振りを増やしてください。

-uu2C 記号装置が無効であるか、割り当てられていない。

- uu は、記号装置が無効な場合は 04 であり、記号装置が割り当てられていない場合は 08 です。
-cc30 SETPRT または QSETPRT ルーチンが、システム仮想域に入っていないか、私用またはシステム・コア・イメージ・ライブラリーからロードできない。バイト 2 は、CDLOAD マクロからの非ゼロの戻りコードです。
- ..yyzz34 内部マクロの障害です。これは予期しないエラーです。yy は、内部マクロからの戻りコードです。zz は、失敗したマクロを示します (04 であれば EXTRACT マクロ、08 であれば MODCTB マクロ、OC であれば CDLOAD マクロです)。EXTRACT および MODCTB 戻りコードについては、IBM 担当者に連絡してください。
-38 ユーザー提供作業域が、ダブルワード境界にない。
-rr3C PRT1 初期設定が失敗した。出力装置が 3211 または 3202-4 型であり、FCB パラメーターが指定されていたために、SETPRT が LFCB マクロを出しました。LFCB ルーチンから、非ゼロの戻りコード rr が戻されました。LFCB 戻りコードの説明については、「z/VSE System Macros Reference」を参照してください。

システムの処置: 戻りコード 08、0C、18、1C、2C、34、38、および 3C の場合: SETPRT エラーの原因となったリスト・キュー項目は、元の後処理のままキューに戻され、LST タスクは停止します。

戻りコード 10、20、および 24 の場合: メッセージ 1QA4I が出されます。SETPRT エラーの原因となったリスト・キュー項目は、後処理 DISP=H (元の後処理が DISP=D であった場合) または DISP=L (元の後処理が DISP=K であった場合) でキューに戻されます。処理は、次に使用できるリスト・キュー項目を使って続行されます。詳細については、1QA4I の説明を参照してください。

戻りコード 14 の場合: SETPRT エラーの原因となったリスト・キュー項目は、元の後処理のままキューに戻され、LST タスクは終了します。

戻りコード 28 の場合: メッセージ 1QA6I が出されます。SETPRT エラーの原因となったリスト・キュー項目は、元の後処理のままキューに戻され、LST タスクは停止します。詳細については、1QA6I の説明を参照してください。

戻りコード 30 の場合: メッセージ 1QA1I が出されます。SETPRT エラーの原因となったリスト・キュー項目は、元の後処理のままキューに戻され、LST タスクは停止します。詳細については、1QA1I の説明を参照してください。

オペレーターの応答: 担当のシステム・プログラマーとプログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: SETPRT 機能自体に関して前に表示されたメッセージを調べてください。おそらくシステム・エラーと思われる。既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

プログラマーの応答: RC が 10、20、または 24 の場合は、* \$\$ LST ステートメント、// SETPRT 制御ステートメント、または SETPRT マクロ内の 3800 (IBM 3200) のプリンター・セットアップ指定を訂正することを検討してください。実行お

よびリスト出力のスプーリングのために、ジョブを再サブミットしてください。

リスト出力がスプール・アクセス・サポート・アプリケーションによって作成された場合は、PWRSPPL の 3800 セクションを訂正することを検討してください。

リスト出力が PNET を介して受信された場合は、それを起点ノードで訂正し、再送信する必要があります。

1QA4I OUTPUT PROCESSING STOPPED for *jobname jobnumber task,uuu*

説明: このメッセージに続いて 1QA3I が出されます。このメッセージは、3800-1 型印刷装置に対して開始された LST タスクにより出された SETPRT 要求が、メッセージ 1QA3I で示された 10、20、または 24 の戻りコードで失敗した場合に出されます。

システムの処置: 示されたりスト・キュー項目は、後処理 DISP=H でリスト・キューに保持され、次に使用可能なキュー項目を用いて処理が続行されます。

オペレーターの応答: 担当のシステム・プログラマーとプログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: SETPRT 機能自体に関して前に表示されたメッセージを調べてください。おそらくシステム・エラーと思われる。既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

プログラマーの応答: * \$\$ LST ステートメント、// SETPRT 制御ステートメント、または SETPRT マクロ内の 3800 (IBM 3200) のプリンター・セットアップ指定を訂正することを検討してください。実行およびリスト出力のスプーリングのために、ジョブを再サブミットしてください。

リスト出力がスプール・アクセス・サポート・アプリケーションによって作成された場合は、PWRSPPL の 3800 セクションを訂正することを検討してください。

リスト出力が PNET を介して受信された場合は、それを起点ノードで訂正し、再送信する必要があります。

1QA5A *uuu* SETUP REQUIRED *jobname* FORMS=ffff FLASH=hhhh THREAD=xxx

説明: アドレス *uuu* の 3800 プリンターで特殊な用紙、用紙オーバーレイ、または用紙を機構に通すよう、プログラマーによって要求されました。

システムの処置: 出力を処理するタスクは、オペレーターが適切な処置を行うまで待ちます。他の VSE/POWER タスクの処理が続行されます。

オペレーターの応答: メッセージの指示どおりに、用紙または書式オーバーレイ枠 (フラッシュ ID)、あるいはその両方を、印刷装置に入れてください。ffff または hhhh がブランクの場合、そのインストール・システムで定義されている用紙または書式オーバーレイが (あるいはその両方が) 使用されます。THREAD=BTS が指定されている場合、BTS (用紙切り離し・縁取り・スタッカー機構) を通して、用紙を装てんしてください。THREAD=CFS が指定されている場合は、CFS (連続用紙スタッカー) を通して、用紙を装てんしてください。

1QA6I • 1QAAI

現在の処理における必要性、および目的のシステム処置に応じて異なります。

- 処理を続行するには、次のように応答します。

PGO cuu

- 用紙位置決めを検査するには、次のように応答します。

PSETUP cuu,n

- 現在のキュー項目の印刷/パンチを遅らせる (要求された用紙を使用できない場合) には、次のように応答してください。

PFLUSH cuu,HOLD

- 装置 cuu での印刷/パンチを停止するには、次のように応答してください。

PSTOP cuu

システム・プログラマーの応答: なし。

1QA6I NO GETVIS-24 STORAGE AVAILABLE FOR task,cuu

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. VSE/POWER 区画内のストレージが不十分なため、物理リスト・タスク (task=LST) は SETPRN 要求を処理することができません。

2. ストレージが不十分なため、VSE/POWER スタートアップ・アカウント・レコードを作成することができません。

システムの処置: 1 の場合、タスクは終了し、処理中の出力ジョブは同じ後処理でキューに保持されます。2 の場合、VSE/POWER の初期設定は終了します。

オペレーターの応答: 1 の場合、PSTART コマンドを入力することによって、物理リスト・タスク (書き込みタスク) の再始動を試みてください。失敗した場合は、システム・プログラマーに連絡してください。2 の場合、システム・プログラマーに連絡し、VSE/POWER の GETVIS サイズを大きくしてもらってください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER の仮想記憶所要量を調べてください (メッセージ 1Q85I を参照してください)。必要に応じて、ストレージの割り振り量を増やしてください。

1QA7A MOUNT TRAIN FOR UCS=uuuuuuuu jobname jobnumber task,cuu

説明: * \$\$ LST ステートメントで、プログラマーが UCS バッファをロードすることを要求しました。

システムの処置: 出力を処理しているタスクは、オペレーターが適切な印刷トレーンを取り付けるのを待ちます。他の VSE/POWER タスクの処理が続行されます。

オペレーターの応答: メッセージで指示された、UCS バッファに対応する適切な印刷トレーンを取り付けてください。または、ロードしてあるトレーンが UCS バッファに一致していることを確かめてください。PGO コマンドを出して、そのジョブを再活動化してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QA8I ON cuu BAND xxxx NEEDED FOR JOB jobname jobnumber

説明: 指定された名前のジョブの出力が、メッセージの中で xxxx と示された印刷バンドを必要としています。現在、示されたアドレスの出力装置上には、異なった印刷バンドが取り付けられています。

システムの処置: メッセージを出したリスト・タスクは待ち状態となり、印刷装置を作動不可能の状態にします。他の VSE/POWER タスクの処理が続行されます。このリスト・タスクは、印刷装置の表示パネルに BAND RQ xxxx という表示を出します。

オペレーターの応答: このメッセージに続くシステム・メッセージ 0P08A に応答してください。

1. 印刷装置の表示パネルで要求された印刷バンドを取り付ける (取り付けてある印刷バンドを、要求されたものの代わりに使用できる場合を除きます)。

2. 印刷装置を作動可能にしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QA9A ttt, cuu WAITING FOR OPERATOR REACTIVATION

説明: オペレーター指定の PSETUP が処理された後、タスクは、再活動化されるのを待っています。

システムの処置: 出力処理タスクは適切なオペレーターの処置を待ちます。それ以外のすべての VSE/POWER タスクについては、処理が続行されます。

オペレーターの応答: PGO コマンドを出して、処理を再活動化してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QAAI USERID userid UNKNOWN BY VM, jobname jobnumber [jobsuffix] REQUEUED TO queue QUEUE

説明: LST または PUN キュー項目が、VM オペランドで開始された LST や PUN タスクによって処理されました。しかし、このキュー項目の宛先は、VM システムが認識していないユーザー ID でした。

システムの処置: このキュー項目の処理は停止しますが、後続のキュー項目を使って (使用可能であれば) タスク処理が続行されます。認識されていないユーザー ID をもつキュー項目は、元の後処理が K の場合は後処理 L で、また元の後処理が D の場合は後処理 H で、VSE/POWER スプール・ファイルに再キューイングされます。認識されていないユーザー ID をもつキュー項目がテープにあれば、このキュー項目は省略され、テープでの後続のキュー項目を使って (使用可能であれば) 処理が続行されます。

オペレーターの応答: 認識されていないユーザー ID について、担当のシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 誤っていると思われるキュー項目が、認識されていないユーザー ID をどのようにして宛先にしたのかを調べてください。

**1QABI TASK taskid,tcuu ACTIVE USING cuu,
COMMAND IGNORED**

説明: PSTOP, cuu, UNASSGN が出されましたが、cuu を使用しているアクティブなローカル印刷、穿孔、またはテープ・タスクがあります。taskid,tcuu は、タスクを識別するのに使用されます。tcuu は cuu とは別のもので、例えば、リスト・タスクの場合はテープを使用します。装置が VSE/POWER アクティブ・タスクによって使用されている場合は、PSTOP のコマンドの UNASSGN オペランドは適用できません。

システムの処置: VSE/POWER は処理を続行します。

オペレーターの応答: コマンド LISTIO cuu で、cuu が VSE/POWER に割り当てられていることを確認してください。また、コマンド PDISPLAY A,LOCAL で、装置 cuu がアクティブ VSE/POWER タスクによって使用されていることを確認してください。PSTOP コマンドに UNASSGN オペランドを付けないか、または FORCE オペランドを付けて使用してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1QACI cuu IS NOT ASSIGNED TO VSE/POWER,
COMMAND IGNORED**

説明: PSTOP cuu, UNASSGN が出されましたが、cuu が VSE/POWER に割り当てられていません。

システムの処置: VSE/POWER は処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1QADI cuu IS NEITHER A PRINT NOR A
PUNCH NOR A TAPE DEVICE,
COMMAND IGNORED**

説明: オペランド UNASSGN または FORCE を指定した PSTOP cuu が出されましたが、これらのオペランドは cuu の装置タイプには適用できません。

システムの処置: VSE/POWER は処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1QAEI TASK taskid, cuu USING cuu2 IN STATE
WHERE IT CANNOT BE STOPPED,
COMMAND IGNORED**

説明: PSTOP cuu2, FORCE が出されましたが、タスクが印刷、穿孔、またはテープ・タスクではなく、以下のいずれかの状態の印刷、穿孔、またはテープ・タスクでもありません。

1. 仮想記憶を待っている
2. 実記憶を待っている
3. オペレーターの応答を待っている
4. 入出力の完了を待っている
5. ロックされているリソースを待っている

ほとんどの場合、cuu は cuu2 と同じです。以下のタスクの場合は、同じではありません。

1. テープを入力装置として使用するローカル印刷または穿孔タスク

2. DISP=T が JECL ステートメントにあるためにテープを出力装置として使用する実行書き込みタスク
3. TAPE=cuu2 を指定した PDISPLAY のために開始された印刷状況タスク (PS)

システムの処置: VSE/POWER は処理を続行します。

オペレーターの応答: FORCE オペランドを指定せずに PSTOP コマンドを使用してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1QAFD ENSURE SYSID=n IS INACTIVE ON
CPU-ID xxxxxxxxxxxxxxxx, THEN ALLOW
WARM START BY 'YES', ELSE 'NO'**

説明: メッセージ 1QAFI の説明を参照してください。

VSE/POWER は、SYSID=n を使用してアクティブと示された、CPU-id xxxxxxxxxxxxxxxx とは異なる実際の CPU-id で、共有 SYSID=n のウォーム・スタートを実行します。

システムの処置: 開始中の SYSID=n は、オペレーターが次の操作を実行するかどうかの応答を待機しています:

同じ SYSID を使用する他のどの共有システムもアクティブでないときは、ウォーム・スタートを続行できます。ただし、SYSID=n が既に別の CPU-id xxxxxxxxxxxxxxxx でアクティブになっているときは、キュー・ファイルとデータ・ファイルが破損しないよう開始要求を拒否しなければなりません。その場合、VSE/POWER はダンプを出力して即時に終了します。

オペレーターの応答: すべてのアクティブ共有システムで PDISPLAY T コマンドを使用して、どの SYSID が現在実行中であるかを確認してください。次のように応答します。

YES SYSID=n である他の共有システムがアクティブでない場合

NO SYSID=n である他の共有システムがアクティブである場合

システム・プログラマーの応答: 別の共有 CPU-id の VSE/POWER 開始プロシーチャーを検査して、基本 POWER マクロ生成の SYSID= オペランドについて、および、上書き SET SYSID= 自動開始ステートメントについて、ロードされた VSE/POWER フェーズを確認してください。同じ SYSID が別の CPU で 2 回使用されていないことを確かめてください。

**1QAFI SHARING SYSTEM SYSID=n INDICATED
AS ACTIVE ON CPU-ID xxxxxxxxxxxxxxxx
BUT REQUESTING WARM START ON
ACTUAL CPU-ID yyyyyyyyyyyyyyyyyy**

説明: VSE/POWER に、CPU-id yyyyyyyyyyyyyyyyyy で SYSID=n の共有システムのウォーム・スタートを要求しましたが、この SYSID は以下の状況のいずれかです。

1. CPU-id xxxxxxxxxxxxxxxx で既に異常終了しました (この場合、ウォーム・スタートは受け入れられます)。または
2. CPU-id xxxxxxxxxxxxxxxx で既にアクティブです (この場合、キュー/データ・ファイルの破壊を防ぐために、ウォーム・スタートを拒否しなければなりません)。

VSE/POWER は、このいずれであるかを見分けるために、オペレーターの援助を必要とします。

システムの処置: CPU-id xxxxxxxxxxxxxxxx で SYSID=n が非アクティブまたは実行中のどちらであるかをオペレーターに

1QAGI • 1QB2D

問い合わせるために、メッセージ 1QAFD が出されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QAGI 'PSTOP DBLKTR' OBSOLETE " NO LONGER NEEDED

説明: DBLK グループがサブチェーンを解放するために返されるときに進行中のスプールが影響を受けないように、PSTOP DBLKTR コマンドが、多くのキュー項目または大きいキュー項目の削除を早急に行うよう要求しました。

システムの処置: VSE/POWER はこのコマンドを無視します。これは、キュー項目を削除キューに入れて解放を遅らせ、その後のタスクの初期化/終了処理で最終的に解放するという削除方法に改善されたためです。この改善により、スプールするリソースをロックすることがなくなり、Pdelete コマンドにも適切に反応するようになりました。したがって、キュー/データ・ファイル RAS のため、また、スプール・パフォーマンスに影響を与えずに最初の失敗を取り込むため、デフォルトの内部 DBLK グループ・トレースが活動状態のままになります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QAHD OLD SORTFNNOFF=classes1 , NEW SORTFNNOFF=classes2. APPLY?(YES/NO)

説明: SORTFNNOFF/SORTFNNOFF 自動スタート値 (classes2) が、前回の初期化時に指定された SORTFNNOFF/SORTFNNOFF 値 (classes1) と異なります。

システムの処置: 始動中の VSE/POWER では、SORTFNNOFF/SORTFNNOFF オペランドの古い値を新しい値で置換するかどうかを示すオペレーター応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のように応答してください。

YES 新しい SORTFNNOFF/SORTFNNOFF 自動スタート値を適用します。

NO 新しい SORTFNNOFF/SORTFNNOFF 自動スタート値を適用しません。

その他の応答をすると、このメッセージが再表示されます。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QAIH UNABLE TO APPLY PARAMETER: operand. SINCE FOLLOWING SYSID(S) STILL ACTIVE: sysid(s)

説明: operand に示される可能性があるのは SORTFNNOFF オペランドまたは SORTFNNOFF オペランドのいずれかです。SORTFNNOFF/SORTFNNOFF オペランドの値が、VSE/POWER を前回始動したときに指定された SORTFNNOFF/SORTFNNOFF オペランドの値と異なります。このメッセージは、システムが共用スプリーング・モードで稼働しており、別に稼働中のシステムが 1 つ以上存在する場合に出されます。sysid(s) には、共用スプリーング環境のアクティブ・システムの ID が示されます。メッセージは情報文字を 1 文字含みます。

システムの処置: 指定した値は無視されます。VSE/POWER 初期設定が実行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QAJI FNO GROUPING NOT PERFORMED FOR FOLLOWING CLASSES: class(es)

説明: このメッセージは、コールド・スタート時に出されます。自動スタート・ステートメントに SORTFNNOFF オペランドまたは SORTFNNOFF オペランドが指定されましたが、デフォルト値 (SORTFNNOFF=ALL) と異なります。示された class(es) のすべての LST 項目および PUN 項目は、FNO の値を無視して、それらがシステムに入った時刻に従ってキューに入れられます。SORTFNNOFF を指定しなかった場合は、同じ FNO 値のキュー項目が、1 つのグループとしてまとめてキューに入れられます。

システムの処置: VSE/POWER 初期設定が実行されます。新しい設定が適用されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QB0I SUPERVISOR WITHOUT DASD SHARING FEATURE

説明: VSE 拡張機能監視プログラムが、共用 DASD サポート付きで生成されなかったか、あるいは IPL 時に DLF コマンドが出されなかったかのいずれかです。

システムの処置: VSE/POWER の初期設定を打ち切ります。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知して、共用 DASD サポート付きで生成された監視プログラムを使い、VSE IPL を繰り返してください。

システム・プログラマーの応答: 必要ならば、FOPT マクロに共用 DASD 機構を指定して新しい監視プログラムを生成するか、あるいはシステムの IPL 時に DLF コマンドを指定してください。

1QB1I filename IS NOT ON SHARED DEVICE

説明: ユーザーが自身のキュー、データ、または会計ファイル (あるいはそのすべて) に割り当てた物理装置が、VSE 監視プログラムにおいて共用装置として定義されていません。

システムの処置: VSE/POWER の初期設定を打ち切ります。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 装置を「共用可能」として追加し、IPL し直してください。

1QB2D IS ANY OTHER VSE/POWER SYSTEM ALREADY INITIALIZED? (REPLY: YES/NO)

説明: オペレーターが共用スプール環境で COLD START を要求しました。VSE/POWER は、別のシステムがすでに作動可能状態にあるかどうかを判別できませんでした。

システムの処置: VSE/POWER は、オペレーターの応答を待ちます。いずれかの VSE/POWER システムが、割り当てられたキュー・ファイル上で同時に作動している場合、スタートアップ要求は撤回され、VSE/POWER は即時に終了します。

オペレーターの応答: 次のように応答してください。

NO キュー・ファイルを共有している他のシステムが、初期設定されていない場合。

YES 他のシステムがすでに初期設定されている場合。

その他の応答をすると、このメッセージが再表示されます。
システム・プログラマーの応答: なし。

1QB3D **1. IF SWITCH FROM NON SHARED TO SHARED PROCESSING IS REALLY INTENDED, REPLY 'YES', ELSE 'NO'**
2. IF SWITCH FROM SHARED TO NON SHARED PROCESSING IS REALLY INTENDED, REPLY 'YES', ELSE 'NO'

説明: メッセージ 1QB3A の説明を受けて、VSE/POWER は、割り当てられたキュー・ファイルで、非共有操作から共有操作 (またはその反対) への切り替えを検出しました。
システムの処置: スタートアップ中の VSE/POWER は、このスイッチが本当に意図されたものなのかどうか、予期しないスタートアップ・フェーズが VSE/POWER 区画用を選択されていないかどうかを示すオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のように応答してください。

YES VSE/POWER 処理モードのこのスイッチが本当に意図されたものである場合は、これを選択します。

NO このスタートアップが意図されたものではなく、メッセージ 1Q2DI を出してすぐに VSE/POWER を終了する場合に、これを選択します。

その他の応答をすると、このメッセージが再表示されます。
システム・プログラマーの応答: なし。

1QB3A **1. SHARED PHASE=*pp.pp* REQUESTING WARM START FOR NON SHARED VSE/POWER SPOOL FILES**
2. NON SHARED PHASE=*pp.pp* REQUESTING WARM START FOR SHARED VSE/POWER SPOOL FILES

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明: VSE/POWER が、メッセージに示されているスタートアップ・フェーズ *pp.pp* によって既存のキュー・ファイルをウォーム・スタートしようとしています。メッセージ・テキストによれば、以下のようなことになっています。

1. 開始 VSE/POWER は、SHARED=Q のオプションで生成されました。しかし、アドレス指定されたキュー・ファイルは、SHARED=NO 生成オプションを指定した VSE/POWER システムによって使用されていたか、または現在使用されています。
2. 開始 VSE/POWER は、SHARED=NO (デフォルト) のオプションで生成されました。しかし、アドレス指定されたキュー・ファイルは、SHARED=Q 生成オプションの VSE/POWER システムによって使用されていたか、または現在使用されています。

どちらの場合も、開始 VSE/POWER は、意識的に共有処理から非共有処理 (またはその反対) に切り替えようとしているのか、または不注意でキュー・ファイルの健全性を破壊するようなスタートアップをしようとしているのか、判別できません。
システムの処置: 本当にスタートアップしてよいかをオペレーターに確認するメッセージ 1QB3D が出されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QB4I **LOCK TABLE SPACE EXHAUSTED**

説明: ロック・ファイル内の項目すべてがすでに使用され、VSE/POWER は空き項目を得ることができません。VSE システムは、GETVIS の不足のためにロック・ファイルを拡張できません。

システムの処置: VSE/POWER は 3 分たってから LOCK 要求を再試行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QB5I **INTERNAL MACRO CALL FAILED IN PHASE=*xxxxxxx*, RC=*rrmm taskid,uu***

説明: 内部マクロの障害です。これは予期しない障害です。戻りコードは、IBM による問題判別のために使用されます。*rr* は、VSE/POWER に渡されたマクロ戻りコード (16 進数表記) です。*mm* (および対応する障害マクロ) は、以下のいずれかです。

<i>mm</i>	Macro	
01	LOCK	
02	UNLOCK	
03	EXTRACT	
04	GETVCE	
05	SUBSID	
08	MSAT	
09	FREEVIS	
0B	REALAD (for macro REALAD <i>rr</i> =00 in case of failure)	
0C	VIO	
10	GETFLD PUB	
11	GETFLD DIBPTR	
12	GETFLD LUB	
13	GETFLD LUBTAB	
14	GETFLD NUMLUB	
15	ALLOCATE (dynamic partition allocation)	
16	ALLOCATE (dynamic partition de-allocation)	
17	DYNCLASS ID=ENABLE	
18	DYNCLASS ID=DISABLE	
19	DYNCLASS ID=LOAD	
1A	GETVIS	
1B	SECHECK	
1C	WTO (label WTOLS)	(module IPW\$MS)
1D	WTO (label WTOLSC)	(module IPW\$MS)
1E	WTO (label WTOLSS)	(module IPW\$MS)
1F	WTO (label WTOLSSC)	(module IPW\$MS)
20	WTO (label WTOLCHC)	(module IPW\$MS)
21	WTO (label WTOLCHSC)	(module IPW\$MS)
22	WTO (label WTOLCHEC)	(module IPW\$MS)
23	WTO (label WTOLRC)	(module IPW\$MS)
24	WTO (label WTOLRS)	(module IPW\$MS)
25	WTO (label WTOLRCE)	(module IPW\$MS)
26	WTO	(module IPW\$AT)
27	WTO	(module IPW\$IP)
28	WTO	(module IPW\$CM)
29	WTO (label WTOLSCM)	(module IPW\$MS)
2A	WTO (label WTOLSSCM)	(module IPW\$MS)
30	GETFLD PUB (label LU20)	(module IPW\$LU)

1QB6I • 1QB8I

31	GETFLD PUB	(label LU74)	(module IPW\$\$LU)
32	GETFLD DIBPTR	(label LU25)	(module IPW\$\$LU)
33	GETFLD LUBTAB	(label LU54)	(module IPW\$\$LU)
34	GETFLD NUMLUB	(label LU54)	(module IPW\$\$LU)
35	GETFLD NUMLUB	(label LU5A)	(module IPW\$\$LU)
36	MSAT	(label LU20)	(module IPW\$\$LU)
37	MSAT	(label LU26)	(module IPW\$\$LU)
38	MSAT	(label LU27)	(module IPW\$\$LU)
39	MSAT	(label LU44)	(module IPW\$\$LU)
3A	MSAT	(label LU55B)	(module IPW\$\$LU)
3B	MSAT	(label LU55B)	(module IPW\$\$LU)
3C	MSAT	(label LU5E)	(module IPW\$\$LU)
3D	MSAT	(label LU94)	(module IPW\$\$LU)
3E	MSAT	(label LU96)	(module IPW\$\$LU)
3F	MSAT	(label LU104)	(module IPW\$\$LU)
40	MSAT	(label LU110)	(module IPW\$\$LU)
41	MSAT	(label LU120)	(module IPW\$\$LU)
42	GETVCE		(module IPW\$\$AS)
43	WTO		(module IPW\$\$TS)
44	WTO		(module IPW\$\$TS)
45	WTO		(module IPW\$\$SS)
46	WTO		(module IPW\$\$SS)
47	OPENR		
48	CLOSER		
49	LABEL	(label OT80A10K)	(module IPW\$\$OT)
50	LABEL	(label OT80)	(module IPW\$\$OT)
51	WTO	(label WTOKSS3)	(module IPW\$\$MS)
52	MODCTB	(label OT73CD)	(module IPW\$\$OT)

システムの処置: VSE/POWER は内部ダンプを要求しました。内部マクロのタイプによって、要求が無視されるか、タスクまたは VSE/POWER (あるいはその両方) が終了します。

オペレーターの応答: 戻りコードについては、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。問題を解決できない場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードについては、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。既知問題データベースの検索を弊社に依頼しなければならない場合があります。

1QB6I QUEUE FILE LOCKED BY ANOTHER SYSTEM

説明: VSE/POWER はキュー・ファイルを LOCK しようとしたのですが、3 分以内でその要求を完了することができませんでした。この要求により、VSE/POWER は、'IJQFL.xxxxxx' という名前の論理リソースをロックします。この xxxxxx は、共用キュー・ファイルが置かれているディスク・パックの VOLID です。(10 分を超えてもロックが失敗すると、このリソースと所有システム CPUID がメッセージ 0T04I にも表示されます。) 考えられる理由は以下の通りです。

1. ロックされたキュー・ファイルのあるシステムに、ハードウェア上の故障があります。
2. 別のシステムが現在、キュー・ファイルのリカバリーを実行中です。
3. 別のシステムが現在、会計ファイルの SAVE (保管) 機能を実行中です。
4. 別のシステムが、ループ中の VSE/POWER よりも高位の優先順位の区画でプログラムを実行しており、VSE/POWER は、キュー・ファイルをアンロックするための制御を取得することができません。
5. キューを所有する別のシステムが、停止状態にあります。
6. 別のシステムは現在、POFFLOAD BACKUP 機能を実行中です。

7. 別のシステムが、キュー・ファイルの入出力エラーを検出してその結果、オペレーターが処理に区切りを付け、終了させるのを待っています。
8. 別の共用システムが、現在、POFFLOAD PICKUP コマンドを出しており、すでにアクティブであるキュー項目を処理中であって、DMB をロックする必要があります。
9. 現在、別のシステムがキュー/データ・ファイルをフォーマット中です。これは、(上記の全ケース 1 から 8 と共に) 例えば、(共用システムの) グループ A と (共用システムの) グループ B が同じディスク・パック上の異なるキュー・ファイル A と B を使用している場合に起こります。この場合、物理的に別々のものであるにもかかわらず、両方のファイルが、共通の DLF ロック・ファイル内の同じ 'IJQFL.xxxxxx' リソース名によってロック制御されます。この場合には、グループ A と B のキュー・ファイルを異なるディスク・パック上に置くようにお勧めします。
10. いくつかの障害/待機タスクによって、DMB (LOCATE 区画 'DMB' を使用) が VSE/POWER 区画でロックされたままなので (オフセット X'1C' の DMB で TCB ポインターを検索)、別のシステムがキュー・ファイルをアンロックしません。
11. 現在、別のシステムがノード名の変更を実行しています。システムの処置: VSE/POWER は、LOCK の取得を試み続けて、3 分ごとにメッセージ 1QB6I を繰り返します。オペレーターの応答: 他の共用システムのすべてが、正しく実行中であるかどうかを確認してください。ハードウェアの故障が起こった場合には、AR UNLOCK コマンドを使って (メッセージ 0T04I で提案されているように)、共用装置を障害のあるプロセッサから解放してください。システム・プログラマーに連絡してください。システム・プログラマーの応答: オペレーターが原因を判別するのを援助してください。

1QB7I {PARTIAL | FULL} QUEUE FILE RECOVERY IN PROGRESS [FOR SYSID (* | n1,n2,..n8)]

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. 初期設定中の VSE/POWER システムが、リカバリー・ウォーム・スタートが必要であることを検出しました。
2. スプール・ファイルを共用しているシステムの 1 つが、前にキュー・ファイルを所有していたシステムが異常終了していたことを検知しました。n1、n2、...n8 は、リカバリーが進行中のシステムの SYSID です。リカバリーが非共用システムに対して行われている場合、n1 は '*' です。

システムの処置: VSE/POWER は処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QB8I QUEUE FILE RECOVERY COMPLETED

説明: VSE/POWER システムは、キュー・ファイルのリカバリーを行っていましたが、それが完了しました。これ以前に、リカバリーが進行中であることが、メッセージ 1QB7I またはメッセージ 1QB8I によってオペレーターに通知されています。

システムの処置: VSE/POWER は処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QB9A *tapeaddr, HEADER: filelabel creation date,*
 {task-id\ task-id, cuu} (REPLY: {PGO
 tapeaddr... | PGO task-id, cuu... | PGO cuu...})

説明: テープ入力ファイルまたはテープ出力ファイルのオープン時には、取り付けられたテープにラベルがあるかどうかを検査されます。HDR1 ラベルが見つかったら、オペレーターは、操作の種類 (入力または出力) に応じてテープを拒否するか、または処理を続行するかを、尋ねられます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 現行の処理と、必要なシステムの処置によって異なります。実際には 'REPLY: PGO...' というプロンプトが出されます。

- POFFLOAD SAVE/BACKUP/PICKUP を処理している場合 (*task-id=L-OFF* を指定して)、
 - タスクを終了するには、次のように応答します。

PGO *tapeaddr, CANCEL*

- テープをアンロードして、新しいテープを取り付けるには、次のように応答します。

PGO *tapeaddr, UNLOAD*

- 処理を続行するには、次のように応答します (この場合、ラベルは上書きされます)。

PGO *tapeaddr, IGNORE*

- POFFLOAD LOAD/SELECT を処理している場合 (*task-id=R-off* を指定)、
 - タスクを終了するには、次のように応答します。

PGO *tapeaddr, CANCEL*

- テープをアンロードして、新しいテープを取り付けるには、次のように応答します。

PGO *tapeaddr, UNLOAD*

- 取り付けられた (ラベル付けされた) テープを使用して、(ラベルなしの) 処理を続行するには、次のように応答します。

PGO *tapeaddr, IGNORE*

- メッセージ 1Q77I, RC=000A によるコマンドおよびテープの拒否を続行するには、次のように応答します。

PGO *tapeaddr*

- スプール・テープの SYSIN または PDISPLAY を処理している場合 (*task-id=RDR* または *PS* を指定して)、
 - 処理を続行するには、次のように応答します。

PGO *tapeaddr*

- タスクを終了するには、次のように応答します。

PGO *tapeaddr, CANCEL*

- テープをアンロードして、新しいテープを取り付けるには、次のように応答します。

PGO *tapeaddr, UNLOAD*

- 出力をテープにスプールしている場合 (*task-id, cuu=partition, spooled-device* を指定して)、
 - 処理を続行するには、次のように応答します。

PGO *partition, cuu, IGNORE*

- タスクを終了するには、次のように応答します。

PGO *partition, cuu, CANCEL*

- テープをアンロードして、新しいテープを取り付けるには、次のように応答します。

PGO *partition, cuu, UNLOAD*

- 印刷装置/穿孔へのスプール・テープを処理している場合 (*task-id, cuu=LST/PUN, printer/punch device* を指定)、次のように応答してください。

- タスクを終了するには、次のように応答します。

PGO *cuu, CANCEL*

- テープをアンロードして、新しいテープを取り付けるには、次のように応答します。

PGO *cuu, UNLOAD*

- 処理を続行するには、次のように応答します (この場合は、VSE/POWER が終了テープ・ラベルを読み取ると、エラー・メッセージ 1Q77I が出されます)。

PGO *cuu, IGNORE*

システム・プログラマーの応答: なし。

1QBAI **QUEUE FILE RECOVERY IN PROGRESS FOR FREE QUEUE RECORD CHAIN**

説明: メッセージ 1QF4I が発生したか、またはメッセージ 1QZ0I RC=0003 が出されました。空きチェーンの先頭にある、誤った非「空き」キュー・レコードの次のチェーン・ポインターの信頼性がないため、メッセージ 1QZ0I RC=003 は、空きキュー・レコード・チェーン全体が消失していると通知しています。

システムの処置: VSE/POWER は、「空き」とマークされたキュー・レコードをすべて再収集し、未完了の空きキュー・レコード・チェーンを再作成します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。また、他の共用 VSE/POWER システムが、メッセージ 1QB6I を出して、対象のリカバリーが完了するのを待つ場合もあることに注意してください。

システム・プログラマーの応答: これは内部論理エラーまたはストレージの破壊を示しています。IBM 担当員に知らせてください。

1QBBI **RESTART/SETUP OF SPOOL TAPE PROCESSING REQUESTED AT *jobname*** *jobno VOLUME=nnn ON dev FOR task, cuu*

説明: PRESTART または PSETUP コマンドが出されたか、スプール・テープをスプール項目の先頭に巻き戻さなければならない何らかの内部条件が起きました。スプール項目がマルチボリュームの場合は、最初のボリュームが必要です (後続メッセージを参照)。VOLUME=nnn は、そのとき処理されていたスプール項目のボリュームを示します (スプール項目がマルチボリュームでない場合は、VOLUME=001 が表示されます)。

注: テキスト 'VOLUME=nnn' は、処理中のスプール項目 *jobname jobno* のラベル付きテープ・ボリューム番号を指します。ラベル付きテープ機能が複数のテープを作成することがありますが、与えられたメッセージ・テキストは、示されたスプ

1QBCI • 1QBGD

ール項目に関連するボリュームだけを参照します。このボリューム数は、PDISPLAY コマンドを使用することで常に表示できます。

システムの処置: スプール項目の先頭が、すでに取り付けられているテープに含まれている場合は、そのテープは項目の先頭まで巻き戻されます。それ以外の場合は、続いてメッセージ 1QG0A が出されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1QBCI QUEUE FILE RECOVERY DETECTED NEW DISP=X JOB(S) IN READER QUEUE

説明: 異常終了後、自動スタート・プロシージャーに含まれている SET NORUN=YES ステートメントにより、VSE/POWER が再始動されました。メッセージ 1Q36I とは異なり、このメッセージは VSE/POWER の初期設定時に出されます。この時点で、キュー・ファイルのリカバリーが必要であり、また、システム障害時にアクティブであった少なくとも 1 つの読み取りキュー項目に、X のディスパッチ不能後処理が割り当てられています。

システムの処置: VSE/POWER の初期設定を継続します。オペレーターの応答: VSE/POWER の初期設定が完了したら、コマンド PDISPLAY RDR,CDISP=X を使用して、影響を受けた読み取りキュー項目を識別してください。SET NORUN=YES ステートメントの詳細については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

1QBDI PREVIOUS CONSOLE DISPLAY MESSAGE(S) HAS BEEN LOST, CONSOLE NAME=cccccccc time

説明: コンソール 'cccccccc' から VSE/POWER にコマンドが出されました。それに対する応答メッセージを表示するための処理をしようとしていたところ、最後のメッセージをコンソールに渡して表示するときに、または、表示の終わりにメッセージ・バッファをクローズして、累積しているメッセージをコンソールに渡すときに、エラーが発生しました。前の応答メッセージの一部または全部が、「接続された」メッセージ・バッファから失われました。

システムの処置: 直前のメッセージ 1QB5I が、表示エラーの原因となったマクロを報告します。表示処理が終了した時点で、メッセージ・バッファを空にするために使用される「ダミー」の場合以外は、表示される最後のメッセージが続いて出されます。消失したメッセージは、システムが終了しない限り、表示される最後のストレージ内に保持されます。

オペレーターの応答: エラーの発生したコンソールを使用しているプログラマーに通知してください。システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: エラーの原因究明を弊社に依頼してください。可能であれば、コマンドを入力し直すか、システム・コンソールのハードコピーを参照してください。

1QBEI INTERNAL MACRO CALL "CPCOM" FAILED IN PHASE=xxxxxxx, RC=rrrrr FOR jobname jobnumber [jobsuffix] ON taskid,cuu

説明: LST または PUN キュー項目が、リストまたは穿孔タスク (VM オペランドで開始) によって処理されました。キュー項目情報を VSE/POWER から VM/CP に渡すときに、内部マクロ呼び出し CPCOM が、戻りコード rrrrr (10 進表記) で失敗しました。

注: jobname jobnumber が '-- --' として表示された場合、書き込みタスクによって現在アクセスされているキュー項目はありません。

システムの処置: ほとんどの場合、VSE/POWER は、問題分析のために内部ダンプを要求しています。現在行われている処理に応じて、次のようになります。

1. 'SPOOL' コマンドを VM/CP に渡している場合、アドレス指定されたキュー項目は変更されず、リスト/穿孔タスクは終了します。
2. 'CLOSE' コマンドを VM/CP に渡している場合、アドレス指定されたキュー項目は保持され (disp D'H, K'L)、リスト/穿孔タスク処理は次のキュー項目を使用して続けられます。

オペレーターの応答: エラーの戻りコードをシステム・プログラマーに連絡してください。必要があれば、VM/CP インターフェースの訂正後、リスト/穿孔タスクを再始動してください。

システム・プログラマーの応答: 「VM/ESA システム・メッセージおよびコード」を使用して、対応する 'HCPrrrx' メッセージを探し出し、詳しい説明を入手してください。

1QBEI \$IJBXPCA ERROR FOR PARTITION pp, RC='00rr', XECBTAB ADDRESS=aaaaaaa, ttt

説明: VSE/POWER は、区画 pp に対して PUTSPOOL 要求 (ttt は PSP) または GETSPOOL/CTLSPOOL 要求 (ttt は GSP) を処理しているときに、システム・モジュール \$IJBXPCA からエラー戻りコードを受け取りました。内部システム・テーブル XECBTAB のアドレス aaaaaaa が \$IJBXPCA に渡されました。戻りコード rr の値は、次のいずれかです。

- 80 = 無効な機能コード
- 81 = 使用可能な XECBTAB アドレスがない
- 82 = 呼び出し元が VSE/POWER でない
- 83 = 有効な区画がない

システムの処置: VSE/POWER はメッセージ 1QZ0I RC=43 を出します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: システム内部エラーが発生したことをシステム・プログラマーに連絡してください。

1QBGD 1. NON SHARED VSE/POWER SYSTEM FOUND - IF STILL ACTIVE REPLY 'YES', ELSE 'NO' 2. SHARED VSE/POWER SYSID(S)=n1,n2,.. FOUND - IF STILL ACTIVE REPLY 'YES', ELSE 'NO'

説明: VSE/POWER が、共用処理モードと非共用処理モードを切り替えようとしたのですが、メッセージ・テキストが以下の内容を示しています。

1. ウォーム・スタートされた VSE/POWER キュー・ファイル上で非共用システムがまだ活動状態であることが、共用スタートアップで検出されました。
2. ウォーム・スタートされた VSE/POWER キュー上で 1 つ以上の共用 SYSID *n1,n2,..* がまだ活動状態であることが、非共用スタートアップで検出されました。

システムの処置: 共用システムと非共用システムの並行処理は、VSE/POWER スプール・ファイルを破壊します。並行処理は行わないようにしてください。ただし、VSE/POWER は、検出されたシステムについて以下の内容を識別することはできません。

- まだ活動状態で、切り替えを正常に行うために終了すべきかどうか。
- 異常終了させ、再始動されないようにするかどうか。これを決定するには、オペレーターの応答が必要です。

オペレーターの応答: 次のように応答してください。

YES 示されたシステムが、ウォーム・スタートされたキュー・ファイルの処理を現在行っていて、スプール・ファイルが破壊されないようにメッセージ 1Q2DI を出してすぐに VSE/POWER を終了しなければならない場合は、これを選択します。

NO 示されたシステムが異常終了している (ウォーム・スタートされたキュー・ファイルへの影響が復活する可能性がある) 場合は、これを選択します。

注: 正しくない応答が示された場合、並行した非共用操作を検出した活動状態の共用システムは、メッセージ 1QH2I

RC=0004 および 1Q2DI を出して終了します。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QC0I SLI STATEMENT REJECTED, JOB *jobname* nnnnn FLUSHED, RC=nnnn

説明: VSE/ICCF SLI ステートメントがジョブで使用されましたが、VSE/POWER はサポートを初期設定することができませんでした。理由は、以下の理由コードにより示されます。

RC=0004:

VSE/ICCF ワークスペースの GETVIS 領域が不十分でした。

RC=0008:

VSE/ICCF ライブラリー (DTSFILE) が、VSE/POWER 区画に割り当てられていなかったか、ラベルの指定が誤っていました。

RC=000C:

VSE/ICCF ライブラリー (DTSFILE) が、オープンに失敗しました。

RC=0010:

フェーズ DTSIGEN または DTSIPWRS が見つかりませんでした。

RC=0020:

VSE/ICCF インターフェース・モジュール DTSIPWR が SVA の中に見つかりませんでした。

RC=0030:

JECL SLI ステートメントが DATA モードで検出さ

れました。SLI カードが、ジョブ・ストリーム中の JECL DATA カードの後で、しかも挿入されるデータが終わる前に、読み込まれました。これは許可されないので、ジョブはフラッシュされます。

RC=0031:

JECL DATA ステートメントが DATA モードで検出されました。DATA カードが、ジョブ・ストリーム中の JECL DATA カードの後で、しかも挿入されるデータが終わる前に、読み込まれました。これは許可されないので、ジョブはフラッシュされます。

RC=0032:

JECL SLI ステートメントが \$SLIXnnn として検出されました。- 更新ステートメントジョブの実行中に、SLI メンバーが処理されました。このメンバーのステートメントは、順序番号が \$SLIXnnn の更新ステートメントによって動的に変更されています。更新ステートメント自体は、* \$\$ SLI ステートメントです。これは許可されないので、ジョブはフラッシュされます。

RC=0100:

VSE/ICCF ライブラリー (DTSFILE) が、このアクセス方式でオープンすることができませんでした。(前にアクセス方式で出されたメッセージを参照してください。)

RC=0200:

VSE/ICCF ライブラリー (DTSFILE) が、オープンできませんでした。VSE/POWER、VSE/ICCF、またはアクセス方式のいずれかに問題が発生しました。問題を解決できない場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

システムの処置: VSE/POWER ジョブ全体が無条件にフラッシュされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーとプログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: ジョブ・エラーでなければ、理由コードを検査して、問題訂正の手順に従ってください。

プログラマーの応答: 理由コードを検査して、問題訂正の手順に従ってください。

1QC1I UNABLE TO PROCESS MEMBER *member.type*, JOB *jobname* nnnnn FLUSHED, RC=nnnn

説明: VSE/POWER は、VSE/AF または VSE/ICCF ライブラリーから *member.type* のメンバーを読み取るように要求した * \$\$ SLI ステートメントを受信しましたが、VSE/POWER はその要求を実行することができません。理由は、理由コード (RC) で示されます。nnnn は、次のいずれかです。

RC=0001:

VSE/ICCF ライブラリーのリカバリー中です。

RC=0002:

VSE/ICCF ライブラリーのアクセス中に、入出力エラーが発生しました。

RC=0003:

メンバーの VSE/ICCF を更新中です。

1QC2I • 1QC4I

RC=0004:

VSE/AF または VSE/ICCF のセキュリティ違反がありました。

RC=0005:

1. VSE/AF メンバーまたは VSE/ICCF メンバーの読み取り中に、内部エラーが発生しました。例えば、VSE/POWER の現行セッション中に ICCF DTS ファイルの特性を変更したこと、または VSE/POWER のライブラリアン・サブタスクが失敗したことが原因です。
2. VSE/POWER ジョブに対して PFLUSH または PCANCEL が出されましたが、そのジョブが、現在、SLI 処理中でした。

RC=xx06:

SECHECK マクロのエラーが発生しました。値 xx は、SECHECK 戻りコードです。

RC=0007:

指定された VSE/AF サブライブラリーが存在しません。

RC=0008:

指定した VSE/AF サブライブラリー・メンバーは、レコード形式が「string」であるため、組み込むことができません。ジョブ全体がフラッシュされます。

システムの処置: SLI 処理は終了し、VSE/POWER ジョブ全体が無条件にフラッシュされます。

オペレーターの応答: 内部エラーまたはセキュリティ違反が発生した場合は、担当のシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: ジョブ・エラーでなければ、理由コードを検査して、問題訂正の手順に従ってください。

プログラマーの応答: 理由を調べて、可能ならば原因を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

RC=0004 については、VSE/ICCF セキュリティ違反が発生した場合には、* \$\$ JOB ステートメントの FROM= オペランドを使用して、一致するユーザー ID を定義してください。VSE/AF セキュリティ違反については、// ID ステートメントと DTSECTAB/II 制御ファイルを調べてください。詳しくは、「z/VSE Guide to System Functions」を参照してください。ジョブまたは親ジョブの VSE/POWER に指定された VSE ジョブ・セキュリティの値も (例えば、* \$\$ JOB ステートメントの SEC= オペランドを使用して) 検査してください。詳しくは、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」のトピック『Data Security Considerations』を参照してください。

1QC2I SLI NESTING ERROR FOR MEMBER member.type, JOB jobname nnnnn FLUSHED

説明: 次のいずれかを行ってください。

- 指定された member.type は、すでに挿入中です。つまり、現在使用中です (再度組み込むとループの原因になります)。
- ユーザーが、S= パラメーターを持つ、ネストされた * \$\$ SLI ステートメントを含んでいる SLI メンバーを指定しました。

- ユーザーが、S= パラメーターを使用して SLI メンバーを指定しましたが、このパラメーターには、ネストされた * \$\$ SLI ステートメントが含まれています。

システムの処置: SLI 処理は終了し、VSE/POWER ジョブ全体が無条件にフラッシュされます。

オペレーターの応答: プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: ジョブ・ストリームを訂正してください。ジョブおよび SLI メンバー内で使用している * \$\$ SLI ステートメントの順序を調べてください。

1QC3I {MEMBER member.type NOT FOUND, JOB jobname nnnnn FLUSHED |MEMBER member.type NOT FOUND IN lib1.sublib1 lib2.sublib2 lib3.sublib3,JOB jobname,nnnnn FLUSHED}

説明: プログラマーが要求した member.type が、VSE/POWER 区画に割り当てられたライブラリーの中で見つからなかった、またはプログラマーが要求した member.type が、指定されたサブライブラリー lib(n).sublib(n) の中で見つかりませんでした。

システムの処置: VSE/POWER ジョブ全体が無条件にフラッシュされます。

オペレーターの応答: プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: * \$\$ SLI ステートメントのメンバーを訂正して、ジョブを再サブミットするか、あるいは、次の実行に備えて VSE/POWER 区画に割り当てられたライブラリーにメンバーがカタログされているかどうかを確かめてください。

1QC4I macroname MACRO FAILED FOR MEMBER member.type, RC/FBK=nn,nn JOB jobname nnnnn FLUSHED

説明: サブライブラリー・メンバー member.type のライブラリアン・マクロ macroname で、エラーが発生しました。このエラーの結果として、メッセージ・テキストに示された 16 進表記の戻りコード (RC) とフィードバック・コード (FBK) が戻されました。固有のフィードバック・コードの説明については、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻」の『Librarian Feedback Codes』を参照してください。ライブラリアンが内部エラー・メッセージを作成した場合は、このライブラリアン・メッセージがメッセージ 1QC4I の前に出され、問題判別しやすくなっています。表示された macroname (マクロ名) は、次のように解釈する必要があります。

MACRONAME Actual Macro

LBRACCE1 LBRACCES マクロ No.1
(モジュール IPW\$\$AS を参照)
LBRACCE2 LBRACCES マクロ No.2
(モジュール IPW\$\$AS を参照)
INLMFIN1 INLMFIND マクロ No.1
(モジュール IPW\$\$AS を参照)
INLMFIN2 INLMFIND マクロ No.2
(モジュール IPW\$\$AS を参照)

注: フィードバック・コード X'64' は、VSE/POWER 区画 GETVIS が使い尽くされたことを意味します。

システムの処置: VSE/POWER ジョブ全体が無条件にフラッシュされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードとフィードバック・コードを調べてください。既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

フィードバック・コード X'64' の場合、区画 GETVIS を大きくしてください。

1QC5D {TO DUMP TO PRINTER OR TAPE,
SPECIFY (CUU/NO) | PRINTER/TAPE
TYPE INVALID OR NOT FREE,
RE-ENTER CUU/NO}

説明: DUMP サブライブラリーにダンプを書き込む要求が失敗しました。

システムの処置: 指定の装置にダンプを直接書き込めるように、オペレーターは印刷装置またはテープ装置のアドレスを入力するように指示されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。ダンプが必要な場合は、印刷装置またはテープのチャネルと装置番号 (cuu) を指定してください。ダンプが必要でなければ、NO と応答するか、END または ENTER を押してください。

注: ユーザー指定のダンプ・オプションが使用されます。無効な印刷装置/テープ装置のアドレス、またはすでに別の区画で所有されている装置を指定すると、次のテキストを持つメッセージ 1QC5D が再表示されます。PRINTER/TAPE TYPE INVALID OR NOT FREE,RE-ENTER CUU/NO

システム・プログラマーの応答: 問題判別のために、ダンプが必要かどうか決定してください。

1QC5I DUMP PROCESSING FAILED, RC=xx

説明: 要求されたダンプを DUMP ライブラリーに書き込むときに、エラーが起きました。この戻りコードは、次のいずれかです。

RC=0004:

DUMP ライブラリーがいっぱいか、または定義されていません。

RC=0008:

ダンプ処理中にエラーが起きました。

RC=000C:

生成されたダンプ要求にエラーがあります。

システムの処置: メッセージ 1Q2CI または 1Q2DI を伴う異常終了が原因でダンプが要求されたときは、次の処理が行われます。

1. VSE/POWER モジュールまたはユーザー出口ルーチンで失敗した VSE/POWER タスクの後にメッセージ 1QC5D が表示されます。
2. VSE/サブタスクが停止し、サブタスクが終了します。VSE/POWER 処理を続行します。

処理中にスナップショット・ダンプを取得するためにダンプが要求されたときは、後続のメッセージ 1Q2JI が IPW\$IDM マクロ呼び出しの位置を示します。VSE/POWER 処理を続行します。

オペレーターの応答: デバッグのためにスナップショット・ダンプをさらに取得できるように、上記のメッセージの戻りコードに従って対応してください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 必要に応じて、エラーを訂正するための手順に従ってください。

1QC6I LIBRARY *libname* NOT FOUND, JOB
jobname nnnnn FLUSHED

説明: プログラマーが、DLBL/EXTENT が VSE/POWER 区画に認識されていない (つまり、ユーザー・ラベル域、区画標準ラベル域、システム標準ラベル域にない) ライブラリー *libname* からの VSE/POWER ソース・メンバーを要求しました。

システムの処置: VSE/POWER ジョブ全体が無条件にフラッシュされます。

オペレーターの応答: プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: * \$\$ SLI ステートメントを訂正するか、システムへのライブラリー定義の追加をシステム管理者に要求してください。

1QC7I *partition-id jobname jobnumber* FROM
{*nodeid*[(*userid*)]|(*userid*)| LOCAL},
TIME=*hh:mm:ss* COMPLETE

説明: * \$\$ JOB ステートメントに LOG=NO の指定を持つ VSE/POWER ジョブが処理を完了しました。

システムの処置: ディスパッチ可能なクラス・チェーンの次のジョブの処理が実行されるか、または VSE/POWER は、次のジョブがこの実行クラスに入るのを待ちます。

オペレーターの応答: なし。同じジョブの対応するジョブ始動ロギング・メッセージ 1Q47I を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

1QC8I PUN MEM=... STATEMENT REJECTED,
JOB *jobname nnnnn* FLUSHED, RC=*mmmm*

説明:パンチ・タイプ項目が削除されました。* \$\$ PUN ステートメントがジョブで使用されましたが、VSE/POWER はサポートを初期設定することができませんでした。理由は戻りコードによって示されています。戻りコードは 10 進数です。戻りコードの意味は、前のメッセージのいずれかで定義されません。

システムの処置: ジョブ処理は終了し、VSE/POWER ジョブ全体が無条件にフラッシュされます。システムは実行を続けます。

オペレーターの応答: プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: ジョブ・ストリームを訂正してください。ジョブで使用されている * \$\$ PUN ステートメントのオペランド、および z/VSE AF ライブラリーの存在を確認してください。

1QC9I **MACRO LIBRM 'xxxxxxxxxxxxxxxxxxx'**
FAILED, RC=nnnn, REASON=mmmm,
yyyyyyyyyy

説明: LIBRM マクロが出されましたが失敗し、戻りコード *nnnn* および理由コード *mmmm* が戻されました。コードは 10 進数です。LIBRM マクロ名、戻りコードおよび理由コードは、「z/VSE System Macros Reference」に記述されているとおりに表示されます。*xxxxxxxxxxxxxxxxxxx* は、LIBRM 要求を識別するものです。*yyyyyyyyyy* には、失敗した LIBRM 要求に応じて、メンバー名、ライブラリー名、サブライブラリー名などの追加情報が表示されます。

システムの処置: ジョブ処理は終了し、VSE/POWER ジョブ全体が無条件にフラッシュされます。システムは実行を続けます。

オペレーターの応答: プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: ジョブ・ストリームを訂正してください。ジョブ内で使用している * \$\$ PUN ステートメントのライブラリアン関連のオペランドを調べてください。

1QCAI **RECORD WITH nnnnn BYTES**
TRUNCATED TO 80 BYTES,
MEMBER=member.type,
SUBLIB=library.sublibrary

説明: VSE/POWER は、* \$\$ PUN MEM=... で定義されているとおり、指定された VSE/AF ライブラリー・メンバーにスプールされているデータ内に 80 バイトを超えるレコード長を検出しました。その結果、レコードは 80 バイトのみに切り捨てられて、残りのバイトは無視されました。このメッセージは長さが 80 バイトを超えるものとして検出された最初のレコードについて 1 回だけ出されます。長さに誤りのある追加レコードがスプールされた場合、メッセージ 1QCDI は切り捨てられているレコードの総数を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: VSE/AF ライブラリー・メンバーを穿孔するプログラムが正しいかどうか調べてください。

1QCCI **MEMBER=member.type,**
SUBLIB=library.sublibrary WRITE MODE
LOCKED BY JOB jobname jobnumber ON
cuu

説明: VSE/POWER は * \$\$ PUN MEM=... を使用して、指定された VSE/AF ライブラリー・メンバーに穿孔出力を送信しようとしたのですが、このメンバーは VSE/POWER によりすでに書き込みモードでオープンされていました。*jobname jobnumber* はメンバーをロックしたジョブを示します。*cuu* はジョブが使用している穿孔装置を示します。*jobname jobnumber ON cuu* に「-- ON --」が表示されている場合、VSE/POWER はロックをしているジョブを特定できませんでした。

システムの処置: ジョブ処理は終了し、VSE/POWER ジョブ全体が無条件にフラッシュされます。メッセージ 1QC9I および 1QC8I が出されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: VSE/POWER ジョブ・シーケンスが正しいかどうかを調べてください。* \$\$ PUN MEM=... で指定した最初の VSE/POWER ジョブが完了すると、フラッシュされた VSE/POWER ジョブを再サブミットできます。

1QCDI **nnnnn RECORD(S) TRUNCATED TO 80**
BYTES, MEMBER=member.type,
SUBLIB=library.sublibrary

説明: VSE/POWER は、* \$\$ PUN MEM=... で定義したとおり、指定された VSE/AF ライブラリー・メンバーにスプールされている 80 バイトを超える *nnnnn* 件のデータ・レコードを検出しました。その結果、各レコードは 80 バイトに切り捨てられ、各レコードの 80 バイトを超える部分は無視されました。このメッセージは、1QCAI メッセージの後に続きます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: VSE/AF ライブラリー・メンバーを穿孔するプログラムが正しいかどうか調べてください。

1QCEI **member.type {CREATED | REPLACED |**
DELETED} IN library.sublibrary

説明:

- VSE/POWER は * \$\$ PUN MEM=*member.type*,*S=lib.sublib*,REPLACE=YES を正常に処理し、指定された VSE/AF ライブラリー・メンバーを作成 (個別に置換) しました。
- VSE/POWER は * \$\$ SLI MEM=*member.type*,*S=lib.sublib*,DEL=YES を正常に処理し、指定の VSE/AF ライブラリー・メンバーを組み込み後に削除しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1QCFI **SLI PROCESSOR COULD NOT FIND**
member.type FOR DELETION

説明: VSE/POWER は、SLI 組み込み後に削除対象の *member.type* を検出ませんでした。このようなことが発生する可能性があるのは、SLI 組み込み時に別のタスクによってメンバーが削除された場合などです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1QD1A **TOO MANY ADDITIONAL EXTENTS**
(mm) FOR DATA FILE EXTENSION, RC =
nnnn

説明: ラベル域で、VSE/POWER がウォーム・スタート時に、最後のセッションで使用されたデータ・ファイル・エクステントよりも *mm* 個多くのデータ・ファイル・エクステントを検出しました。データ・ファイル拡張が想定されますが、理

由コード (RC) によって実行することができません。mmm は次のいずれかです。

RC=0001:

予約済み

RC=0002:

データ・ファイル拡張の IJDFILE DLBL/EXTENT 内の、すでに存在しているエクステントおよび追加エクステントが、データ・ファイル・エクステントの最大数 (32) を超えています。

RC=0003:

既存のデータ・ファイルには、既に最大数の 2,147,483,647 DBLK が含まれています。

RC=0004:

ウォーム・スタート中のデータ・ファイルの拡張が無視され、直前の拡張は正常に完了しませんでした。

システムの処置: VSE/POWER は、IJDFILE DLBL & EXTENT を最後のセッションで使用されたエクステント数に切り捨てることによって、追加エクステントを無視し、ウォーム・スタートを続行します。

RC=0004 の場合、VSE/POWER は直前に追加された、まだフォーマットされていないエクステントのフォーマットを再開します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: ASI プロシージャ内の

DLBL/EXTENT 仕様を調べて、訂正してください。エクステントの実際の数とフィールド mm に示される数を比較するには、PDISPLAY Q を使用します。

RC=0004 の場合、フォーマットが正常に完了するまで待つ (1QD6I (2))、PEND コマンドで VSE/POWER を終了し、その後再始動して新しいエクステントをフォーマットします。

1QD2D DATA FILE EXTENT NO. mm - FOR FORMATTING REPLY 'YES' ELSE 'NO' (// EXTENT SYSxxx,volid,1,mm,start,length)

説明: 先行メッセージ 1QD7A での指示に従って、VSE/POWER はウォーム・スタート時にデータ・ファイル拡張を行います。正しいかどうかを確かめずにラベル域に指定されたこの追加 (新しい) EXTENT 番号 mm について、確認を求められます。

システムの処置: VSE/POWER は応答を待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。データ・ファイル拡張を実行する場合はすべてのメッセージに対して YES、実行しない場合は NO で応答してください。

YES

VSE/POWER は追加エクステントをフォーマットし、空き DBLKGP を空き DBLKGP の全体のチェーンに追加します。

NO VSE/POWER は通常のウォーム・スタートを続行し、このエクステントとすでに 1QD2D で承認されたすべてのエクステントを無視します。

プログラマーの応答: データ・ファイル拡張を実行しない場合は、ASI プロシージャ内の DLBL/EXTENT 仕様を調べて、訂正してください。

1QD2I EXISTING DATA FILE EXTENT NO. mm FOUND IN IJDFILE DLBL/EXTENT (// EXTENT SYSxxx,volid,1,mm,start,length)

説明: 先行メッセージ 1QD7A での指示に従って、VSE/POWER はウォーム・スタート時にデータ・ファイル拡張を行います。IJDFILE DLBL/EXTENT ステートメントから抽出される情報として、既存のエクステント番号 mm のエクステント情報が参考のために示されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1QD3A DATA FILE EXTENSION FAILED FOR EXTENT NO. mm, RC = nmm, WARM START CONTINUED

説明: データ・ファイルの拡張のため、VSE/POWER は、すでに存在しているデータ・ファイル・エクステントと追加エクステントの // EXTENT ステートメントを検査する必要があります。この処理で、報告された // EXTENT ステートメント番号 mm について仕様の誤りが検出されました。したがって (またはオペレーターの決定によって)、データ・ファイル拡張を停止しなければなりません。仕様の誤りまたは拒否のタイプは、理由コード (RC) によって示されています。

mmm は次のいずれかです。

RC=0001:

VSE/POWER でサポートされるのはプログラマー論理装置番号のみですが、システム論理装置番号が IJDFILE DLBL/EXTENT ステートメントに指定されています。

RC=0002:

IJDFILE DLBL/EXTENT ステートメントの論理装置番号が連続した昇順で並んでいません。

RC=0003:

IJDFILE DLBL/EXTENT ステートメントの複数の論理装置番号が同じ装置に割り当てられています。

RC=0004:

IJDFILE DLBL/EXTENT ステートメントのすべてのエクステントが同じ装置タイプ上にありません。

RC=0005:

示されたデータ・ファイル EXTENT ステートメントの様子が、最後の VSE/POWER の始動で保管された仕様と一致しません。

RC=0006:

報告されたエクステントは現在割り当てられていません。

RC=0007:

IJDTEST をオープンして、追加エクステントの位置を確認するのに失敗しました。最も大きいエクステント番号が示されています。失敗したエクステントを判別するには、先行の VSE/AF メッセージを調べてください。

RC=0008:

VSE/POWER の実行が共用され、同時に他のシステムがアクティブであることが検出されました。または、直前のセッションが正しく終了されませんでした。

RC=0009:

VSE/POWER の実行が共用されていますが、IJDFILE

1QD4I • 1QD6I

DLBL/EXTENT ステートメントの少なくとも 1 つのエクステントが共用ディスク上にありません。

RC=000A:

オペレーターがメッセージ 1QD2D の応答として 'NO' を選択したため、データ・ファイル拡張は拒否されました。

RC=000B:

新しいエクステントが FBA ディスク上にあり、小さすぎて DBLK を 1 つも入れることができません。

システムの処置: VSE/POWER は、IJDFILE DLBL & EXTENT を最後のセッションで使用されたエクステント数に切り捨てることによって、追加エクステントを無視し、ウォーム・スタートを続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

RC=0008 の場合、データ・ファイルを拡張する前に、他の共用システムをすべてシャットダウンしてください。その他すべてのシステムが既に終了されていても VSE/POWER PDISPLAY STATUS レポートにアクティブなシステムが示される場合は、PRESET sysid1,sysid2,... を使用して、それらのアクティブ状態をリセットしてください。通常のシャットダウンおよび再 IPL を実行した後に、データ・ファイル拡張を実行することができます。

プログラマーの応答: ASI プロシージャー内の

DLBL/EXTENT 仕様を、PDISPLAY Q コマンドで示される既存のエクステントの仕様と比較して、訂正してください。

1QD4I VERIFYING LOCATION OF ADDITIONAL DATA FILE EXTENT(S) BY OPEN FOR 'IJDTEST'

説明: VSE/POWER は、データ・ファイル拡張を実行中で、計画された追加エクステントの位置が使用可能かどうかを確認します。これは、テスト・ファイル IJDTEST に対する VSE/AF BAM OPEN で確認できます。このコマンドは、IJDFILE の追加 EXTENT ステートメントで定義されているものと同じ EXTENT を使用しています。

システムの処置: 計画された EXTENT が既存のファイルと重複する場合は、メッセージ 4744D OVERLAP ON UNEXPRD FILE IJDTEST が続きます。計画された EXTENT 同士が重複する場合は、メッセージ 4740D EXTENT OVERLAPS ANOTHER IJDTEST SYS0xy=cuu volume が続きます。

BAM が OPEN 障害を検出しない場合、VSE/POWER はメッセージ 1QD5I を出します。

オペレーターの応答: メッセージ 4744D が出されたときは、期限切れしていない古いファイルが削除されたかどうかを調べ、DELETE を入力します。この古いファイルを保存しておかなければならない場合、ENTER を押して、VSE/POWER スイッチを追加エクステントなしの通常のウォーム・スタートに切り替えます。

メッセージ 4740D が出されるときは、ENTER を押して VSE/POWER スイッチを追加エクステントなしの通常のウォーム・スタートに切り替えます。

VSE/POWER は、追加エクステントの確認が失敗したこと

を、メッセージ 1QD3A を RC=0007 付きで表示してオペレーターに通知します。

プログラマーの応答: なし。

1QD5I LOCATION OF ADDITIONAL DATA FILE EXTENT(S) VERIFIED SUCCESSFULLY

説明: VSE/POWER は、データ・ファイル拡張を実行中で、計画された追加エクステントの位置が使用可能で正しいことを確認しました。

システムの処置: 拡張ウォーム・スタートは続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1QD6I

1. FORMATTING OF NEW DATA FILE EXTENT NO. *mm* STARTED
2. FORMATTING OF NEW DATA FILE EXTENT NO. *mm* COMPLETED, *nnnnnn* FREE DBLKGPS ADDED
3. FORMATTING OF NEW DATA FILE EXTENT NO. *mm* DETECTED ON SYSID *sysid*
4. FORMATTING OF NEW DATA FILE EXTENT NO. *mm* FAILED, RC=*nnnn*
5. FORMATTING OF NEW DATA FILE EXTENT NO. *mm* POSTPONED UNTIL NEXT WARM START

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明:

1. VSE/POWER は、メッセージ 1QD2D での 'YES' の応答に従って、データ・ファイル・エクステント番号 *mm* のフォーマットを開始しました。
2. VSE/POWER は、データ・ファイル・エクステント番号 *mm* のフォーマットを完了し、*nnnnnn* 個の空き DBLKGP がスプーリングに使用できるようになりました。
3. VSE/POWER のスタートアップ中に、別の共用システムが、追加データ・ファイル・エクステントのフォーマットを行うために占有されていることが検出されました。データ・ファイル・エクステント番号 *mm* が現在フォーマットされています。これは通知メッセージです。
4. VSE/POWER は、データ・ファイル・エクステント番号 *mm* のフォーマットに失敗しました。失敗のタイプは、理由コード (RC) によって示されます。*nnnn* は次のいずれかです。

RC=0001:

フォーマットは、オペレーター・コマンド PEND IMM によって途中で終了されました。

RC=0002:

フォーマットは、区画 GETVIS の不足のために開始できませんでした。

RC=0003:

フォーマットは、データ・ファイル・エクステント番号 *mm* での入出力エラーのために異常終了しました。

RC=0004:

フォーマットは、マスター・レコードの書き込み時のキュー・ファイルの入出力エラーのために異常終了しました。

RC=0005:

データ・ファイル・エクステント番号 *mm* が無効なパラメーターで呼び出されました。

5. データ・ファイル拡張が、残りのエクステントのフォーマットよりも優先度の高い PENDING コマンドにより中断されました。次のウォーム・スタートの後、VSE/POWER は、示されたエクステント番号 *mm* でデータ・ファイル拡張を再開します。

システムの処置:

1. VSE/POWER は処理を続行します。
2. VSE/POWER は処理を続行します。
3. VSE/POWER は処理を続行します。
4. VSE/POWER は、理由コード (RC) に応じて以下のアクションを実行します。

RC=0001:

VSE/POWER はデータ・ファイル拡張を終了して、次のウォーム・スタート時に残りのエクステントで再開できるようにします。これまでにフォーマットされたエクステントは、すでにデータ・ファイルの一部となっていて、スプーリングに使用されています。

RC=0002:

VSE/POWER はデータ・ファイル拡張を終了して、次のウォーム・スタート時に残りのエクステントで再開できるようにします。これまでにフォーマットされたエクステントは、すでにデータ・ファイルの一部となっていて、スプーリングに使用されています。

RC=0003:

VSE/POWER はデータ・ファイル拡張を終了します。これまでにフォーマットされたエクステントは、すでにスプーリングに使用されていて、データ・ファイルの一部となっています。 IJDFILE DLBL/EXTENT ステートメントを変更せずに次のウォーム・スタートを実行すると、VSE/POWER は、まだフォーマットされていないエクステントを検出し、オペレーターにデータ・ファイル拡張を求めるプロンプトを出します。

RC=0004:

VSE/POWER はデータ・ファイル拡張を終了します。マスター・レコード入出力エラーの該当するリカバリーは、続くタスクによって実行されます。これまでにフォーマットされたエクステントは、すでにデータ・ファイルの一部となっていて、スプーリングに使用されています。次のウォーム・スタートで、VSE/POWER は、フォーマットが完了していないことを検出し、データ・ファイル拡張を再開します。

RC=0005:

VSE/POWER は内部ダンプをとり、データ・ファイル拡張を終了します。これまでにフォーマットされた

エクステントは、すでにデータ・ファイルの一部となっていて、スプーリングに使用されています。

5. VSE/POWER は、次のウォーム・スタートの後、新しいエクステント番号 *mm* とその後に続くすべてのエクステントのフォーマットを再開します。

オペレーターの応答:

1. なし。
2. なし。
3. SYSID *sysid* によって名前の付けられたシステムがまだ活動中であることを確認します。活動中の場合、処置は不要です。システムが異常終了し、再始動してフォーマットを完了できない場合は、PRESET *sysid* コマンドを使用してフォーマットをシステム自体に渡します。
4. システム・プログラマーにお問い合わせください。
5. VSE/POWER をウォーム・スタートして、まだフォーマットされていない新しいデータ・ファイル・エクステントのフォーマットを再開します。

プログラマーの応答:

1. なし。
2. なし。
3. なし。
4. データ・ファイルを正常に拡張するには、以下の理由コード (RC) に対応するアクションを実行する必要があります。

RC=0001:

直前のセッションと同じ IJDFILE の DLBL/EXTENT を使用して、システムを再 IPL します。ウォーム・スタート時に、VSE/POWER は、追加エクステントのフォーマットが不完全であることを検出し、残りのエクステントのフォーマットを再開します。共用システムが再 IPL できない場合は、別のシステム上に障害システムのコマンド PRESET を発行して、追加エクステントのフォーマットを、使用中のシステムに転送します。

RC=0002:

区画 GETVIS の割り当てを VSE/POWER 区画用に増やし、直前のセッションと同じ IJDFILE の DLBL/EXTENT を使用して、システムを再 IPL します。ウォーム・スタート時に、VSE/POWER は、追加エクステントのフォーマットが不完全であることを検出し、残りのエクステントのフォーマットを再開します。共用システムが再 IPL できない場合は、別のシステム上に障害システムのコマンド PRESET を発行して、追加エクステントのフォーマットを、使用中のシステムに転送します。

RC=0003:

次の VSE/POWER ウォーム・スタートでデータ・ファイル拡張を続行するには、示された障害エクステント (未フォーマット) を別の位置に変更して、誤ったディスク域を除外してください。次に、変更された DLBL/EXTENT を使用してシステムを再 IPL します。次のウォーム・スタート時に、VSE/POWER は追加エクステントを検出し (拡張がリセットされたため)、変更されたエクステントと後続のエクステントについて新たにデータ・ファイル拡張が開始されます。または、データ・ファイル拡張を休止させるには、す

1QD7A • 1QE2A

でフォーマットされている IJDFILE の DLBL/EXTENT を使用してシステムを再 IPL してください。つまり、障害エクステントとそれに続くすべての EXTENT ステートメント (およびすべての割り当て) を撤回する必要があります。

RC=0004:

データ・ファイル拡張を再開または再始動する前に、続いて表示されるキュー・ファイル入出力エラー・メッセージを確認してください。キュー・ファイルの再割り当てを使用して、次の VSE/POWER ウォーム・スタートでキュー・ファイルを別の位置に移動させることができます。

RC=0005:

ダンプをとって、IBM 担当員に知らせてください。

5. なし。

1QD7A *mm* ADDITIONAL EXTENT(S) FOUND FOR EXTENSION OF EXISTING DATA FILE WITH *nn* EXTENT(S)

説明: ラベル域で、VSE/POWER が、最後のセッションで使用された *nn* 個のエクステントの他に *mm* 個のデータ・ファイル・エクステントを検出しました。データ・ファイル拡張の実行が想定されます。

システムの処置: それぞれの既存エクステントについてメッセージ 1QD2I にエクステント情報が示され、それぞれの追加エクステントについてメッセージ 1QD2D にエクステント情報と要求確認が示されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: データ・ファイル拡張を実行しない場合は、メッセージ 1QD2D に NO で応答し、ASI プロシージャ内の DLBL/EXTENT 仕様を調べて訂正してください。DLBL/EXTENT 仕様を、実際に使用されたデータ・ファイル・エクステントと比較するには、VSE/POWER の開始が完了したときに PDISPLAY Q を実行してください。

1QE1I RE-ALLOCATION PROCESS STARTED FOR VSE/POWER QUEUE FILE

説明: VSE/POWER が、そのウォーム・スタートの間に、論理装置 SYS001 にキュー・ファイルが存在していないことを検出しました。

システムの処置: VSE/POWER は、前に使用されたキュー・ファイルがファイル名 IJQFOLD で SYS034 に割り当てられ、そのキュー・ファイルが SYS001 で IJQFILE に再割り振りされなければならないことを前提とします。ウォーム・スタートは続行されます。メッセージ 1QE3D が、また障害があった場合、1QE2A も後に続きます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QE2A 1. RE-ALLOCATION OF QUEUE FILE FAILED, RC=*nnnn*. WARM START CONTINUED FOR IJQFOLD ON SYS034 2. RE-ALLOCATION OF QUEUE FILE FAILED, RC=*nnnn*. WARM START

TERMINATED

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明: メッセージ・テキストに応じて、次のとおりです。

1. 理由コード (RC) で説明されている不十分な要件または誤った定義のため、VSE/POWER がキュー・ファイル再割り振り処理を停止しました。*nnnn* は次のいずれかです。

RC=0001:

その他の共用スプーリング・システムがすでに開始され、既存の (古い) IJQFOLD キュー・ファイルを専用で使用できません。

RC=0002:

新しい IJQFILE エクステントは、既存の (古い) IJQFOLD エクステントのすべてのキュー・レコードを保持できません。

RC=0003:

新しい IJQFILE エクステントが既存の (古い) IJQFOLD エクステントとオーバーラップしています。これは許可されていません。

RC=0004:

SYS001 は新しい IJQFILE エクステントを共用ディスクに割り当てていません。VSE/POWER キューおよびデータ・ファイルは共用されていなければなりません。

RC=0005:

DLBL に指定されている古い IJQFOLD エクステントが、VTOC に一致していません。

RC=0006:

新しい IJQFILE エクステントを定義できませんでした。その計画された場所が期限切れになっていないファイルによって使用されているか、またはエクステントがディスク境界を越えています。

RC=0007:

新しい IJQFILE を区画 Getvis または VIO に置くためのストレージが不十分です。

RC=0008:

入出力エラーのため、新しい IJQFILE エクステントのフォーマット設定に失敗しました。

RC=0009:

オペレーターが、既存の (古い) IJQFOLD エクステントから新しい IJQFILE エクステントへの再割り振りを拒否しました。

RC=000A:

VSE/POWER が、*cuu* が異なっても VOLID が同じディスクに SYS001 (IJQFILE) および SYS034 (IJQFOLD) が割り当てられていることを検出しました。

RC=000B:

IJQFILE に DLBL/EXTENT が定義されていません。

RC=000C:

内部制御ブロック用の PFIxed ストレージがありません。

RC=000D:

一時 VSE/POWER キュー・ファイルをクローズできませんでした。

RC=000E:

永続 VSE/POWER キュー・ファイルを OPEN マクロ呼び出しで作成できませんでした。

RC=000F:

再割り振りされた VSE/POWER キュー・ファイルその新しい位置に書き込むことができませんでした。

RC=0010:

再割り振りされた VSE/POWER キュー・ファイルのマスター・レコードをディスクに書き込むことができませんでした。

RC=0011:

新しい IJQFILE を区画 Getvis に置いた後、パッチ区画を開始するために十分なストレージが残っていません。

2. 理由コード (RC) で説明されている、前に指定された IJQFOLD の見つからない定義のため、VSE/POWER がキュー・ファイル再割り振り処理を停止しました。 *mmnn* は次のいずれかです。

RC=0020:

IJQFOLD に DLBL/EXTENT が定義されていません。

RC=0021:

IJQFOLD の EXTENT ステートメントが論理装置として SYS034 を指定していないか、IJQFOLD がないディスクに SYS034 が割り当てられています。

システムの処置:

1. VSE/POWER は新しい IJQFILE を無視し、SYS034 に割り当てられている古いキュー・ファイル IJQFOLD のウォーム・スタートを続行します。
2. VSE/POWER は、取り消しによって終了します。
オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: ASI プロシージャ内の DLBL/EXTENT 仕様を調べて、訂正してください。

RC=0001 の場合、その他すべてのシステム (PDISPLAY STATUS レポートの「ACTIVE SYSIDs FOUND」を参照) をシャットダウンしなければ、キュー・ファイルを再割り振りすることはできません。その他のシステムを正しく終了できない場合、PRESET sysid1,sysid2,... を使用すると、そのアクティブ状態をリセットすることができます。

RC=0002 の場合、IJQFILE エクステントを大きくしなければなりません。

RC=0003 の場合、IJQFILE エクステントを別のディスク位置に移動しなければなりません。

RC=0004 の場合、新しい IJQFILE エクステントを共用ディスクに割り当てなければなりません。\$IPLESA プロシージャで、ディスクがオプション 'SHR' で追加されているかどうか調べてください。

RC=0005 の場合、VTOC 情報に従って IJQFOLD EXTENT ステートメントを訂正し、もう一度 VSE/POWER をウォーム・スタートしてください。

RC=0006 の場合、新しい IJQFILE のために別のディスク・エ

クステントを選択し、もう一度 VSE/POWER をウォーム・スタートしてください。

RC=0007 の場合、このメッセージの前に出されたメッセージ 1Q1DI または 1QF1I に示されている区画 Getvis または VIO を大きくしなければなりません。

RC=0008 の場合、新しい IJQFILE のために別のディスク・エクステントを選択し、もう一度 VSE/POWER をウォーム・スタートしてください。

RC=000A の場合、新しい IJQFILE 用の DLBL/EXTENT/ASSGN が異なるディスクに置かれるよう (異なるディスク・アドレスに重複する VOLID がないように) 変更してください。

RC=000B の場合、新しい IJQFILE 用の DLBL/EXTENT/ASSGN を与えてください。

RC=000C の場合、VSE/POWER スタートアップ・プロシージャでの SETPFIX 制限を大きくしてください。

RC=000D、000E、000F、および 0010 の場合、ダンプがとられています。既知問題データベースの調査を IBM に依頼してください。

RC=0011 の場合、VSE/POWER 区画 Getvis を大きくしなければなりません。

RC=0020 および RC=0021 の場合、前に使用されたキュー・ファイルをアドレッシングしている SYS034 に割り当てられた IJQFOLD DLBL/EXTENT を定義しなければなりません。

**1QE3D CONFIRM QUEUE FILE RE-ALLOCATION
FROM IJQFOLD TO IJQFILE BY 'YES'
ELSE 'NO'**

説明: VSE/POWER はウォーム・スタートを実行し、前に出されたメッセージ 1QE1I で示されている、IJQFILE 用に定義されていないキュー・ファイル・エクステントを検出しました。その代わりに、前に使用されたキュー・ファイル IJQFOLD がオープンされ、オペレーターは、古いキュー・ファイル IJQFOLD から新しいキュー・ファイル IJQFILE へのすべてのキュー項目の再割り振りを確認するよう要求されます。古い、および新しいキュー・ファイルのエクステント情報は、前に出されたメッセージ 1QE3I で表示されています。

システムの処置: VSE/POWER は応答を待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。キュー・ファイルの再割り振りが必要であれば、YES と応答し、その他の場合は NO と応答してください。

YES

VSE/POWER は新しいキュー・ファイルをフォーマットし、すべてのキュー項目を古いキュー・ファイルから新しいキュー・ファイルに移動します。再割り振りが完了した後、古いキュー・ファイルは削除されます。

NO VSE/POWER は、SYS034 にある古いキュー・ファイル IJQFOLD にアクセスすることによって、そのウォーム・スタートを続行します。

システム・プログラマーの応答: キュー・ファイルの再割り振りが必要ない場合、以下を行うことによって、ASI プロシージャ

1QE3I • 1QE8A

ャーの DLBL/EXTENT/ASSGN 仕様を検査および訂正してください。

1. IJQFILE DLBL および EXTENT を STDLABEL.PROC から除去
2. IJQFILE ASSGN を DTRPOWR.PROC から除去
3. STDLABEL.PROC で、IJQFOLD DLBL を IJQFILE に名前変更
4. STDLABEL.PROC で、IJQFOLD EXTENT を SYS034 から SYS001 に変更
5. DTRPOWR.PROC で、IJQFOLD ASSGN を SYS034 から SYS001 に変更

1QE3I

1. IJQFOLD: // EXTENT

SYS034,*valid,1,n,start,length*

2. IJQFILE: // EXTENT

SYS001,*valid,1,n,start,length*

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明: VSE/POWER は、SYS034 に割り当てられている前に使用されたキュー・ファイル IJQFOLD のエクステント、および SYS001 に割り当てられる新しい (まだ存在しない) キュー・ファイルのエクステントを表示します。

システムの処置: メッセージ 1QE3D が続きます。

オペレーターの応答: 1QE3D を参照してください。

システム・プログラマーの応答: 1QE3D を参照してください。

1QE4I

VERIFYING LOCATION OF NEW QUEUE FILE IJQFILE BY OPEN FOR 'IJQTEST'

説明: VSE/POWER はキュー・ファイルの再割り振りを実行し、新しいキュー・ファイルの計画された位置が他のファイルによって占有されていないことを確認します。このテストは、IJQFILE DLBL/EXTENT ステートメントのエクステント情報が入っているテスト・ファイル IJQTEST をオープンすることで、VSE/AF BAM によって処理されます。

システムの処置: 計画された EXTENT が既存のファイルとオーバーラップしている場合、下のメッセージが続きます。

4744D OVERLAP ON UNEXPRD FILE IJQTEST
SYS001=cuu valid 'file-id'

ここで 'file-id' は、IJQTEST によってオーバーラップされる、期限が切れていないファイルを示しています。

オペレーターの応答: メッセージ 4744D が続く場合、示されている期限の切れていないファイルを 'DELETE' で削除できるかどうか調べてください。示されているファイルを保存しておかなければならない場合、Enter を押して、VSE/POWER がキュー・ファイル IJQFOLD でのウォーム・スタートに切り替えられるようにしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QE5I

LOCATION OF NEW QUEUE FILE IJQFILE VERIFIED SUCCESSFULLY

説明: VSE/POWER はキュー・ファイルの再割り振りを実行し、新しい IJQFILE の計画されたディスク位置が使用可能であることを確認しました。

システムの処置: キュー・ファイルの再割り振りウォーム・スタートは続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QE6A

RE-ALLOCATION FOR IJQFILE COMPLETED, *nnnnn* FREE QUEUE RECORDS ADDED

説明: VSE/POWER は SYS034 の IJQFOLD から SYS001 の IJQFILE へのキュー・ファイルの再割り振りを完了し、*nnnnn* 空きキュー・レコードが、古いキュー・ファイルで前に割り振られた (使用済みおよび空き) キュー・レコードに加えて使用可能になっています。古いキュー・ファイル IJQFOLD は削除されます。

システムの処置: VSE/POWER は、SYS001 の新しいキュー・ファイル IJQFILE を使用して処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 次の VSE/POWER スタートアップのため、IJQFOLD DLBL/EXTENT/ASSGN 仕様を ASI プロシージャから除去してください。

1QE7I

DELETION OF IJQFOLD FAILED, REMOVE FILE-ID *file-id* ON *valid* MANUALLY

説明: VSE/POWER は再割り振りを完了しましたが、必要のない古いキュー・ファイル IJQFOLD を削除できませんでした。

システムの処置: VSE/POWER は、SYS001 の新しいキュー・ファイル IJQFILE を使用して処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 示されている IJQFOLD 用の VTOC エントリーを、示されているディスクから除去してください。

1QE8A

IJQFILE (// EXTENT **SYS001**,*valid,1,n,start,length*) MISMATCH WITH *file-id* ON *cuu*

説明: VSE/POWER は、IJQFILE DLBL の (このメッセージに示されている) EXTENT 定義、および DLBL ステートメントで指定されている既存の VTOC エントリー (ディスク *cuu*, *file-id*) との間の不一致を検出しました。この

VSE/POWER ウォーム・スタートで IJQFILE ラベルが誤って変更されたか、ウォーム・スタートの間に VSE/POWER キュー・ファイル (既存の IJQFOLD キュー・ファイルと) 同じディスク上の新しいエクステントに再割り振りするよう試みられましたが、どちらにも同じ *file-id* が指定されています。

システムの処置: VSE/POWER は、VTOC に見つかった

file-id の位置でキュー・ファイルを開始することによって、ウォーム・スタートを続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 目的の VSE/POWER ウォーム・スタートのタイプに従って IJQFILE DLBL を訂正してください。既存のキュー・ファイルが存在する同じディスクに VSE/POWER キュー・ファイルを再割り振りする必要がある場合、異なる *file-id* を使用しなければならないことに注意してください。

1QF01 DATA FILE *nnn*% FULL - QUEUE FILE *mmm*% FULL

説明: VSE/POWER が、スプール・ファイル使用パーセンテージが過度の値に達したことを検出しました。

システムの処置: 処理を続行します。スプール・ファイル使用率が、指定されたパーセンテージを超えている限り、60 秒ごとにこのメッセージが繰り返し表示されます。

注: スプール使用率が 100% に達することは、操作上の重大問題と考えられます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。以下のようにして、データ/キュー・ファイルの内容を減らしてください。

- 不必要なキュー項目を削除する
- POFFLOAD コマンドを使用して、キュー項目をテープに保管する

システム・プログラマーの応答: 以下の項目を行って、既存の VSE/POWER スプール・ファイルの拡張を計画することによって、システム・パフォーマンスの低下を避けるために必要なステップを実行してください。

- ウォーム・スタート中のデータ・ファイルの拡張
- ウォーム・スタート中のキュー・ファイルの再割り振り
- コールド・スタート中のキューおよびデータ・ファイルの拡張

1QF11 UNABLE TO PLACE ENTIRE QUEUE FILE IN STORAGE, *nnnnn*K REQUIRED IN VIO

説明: VSE/POWER は、キュー・ファイルを保管するのに十分なストレージを割り振ることができませんでした。

システムの処置: メッセージ 1Q24I の状況に応じて異なります。

- 以前に出されている場合、VSE/POWER の初期設定は終了します。
- 以前に出されていない場合、VSE/POWER は、キュー・ファイルを区画 GETVIS 域に入れようとしています。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 次の IPL 時に mode=VM の VIO サイズまたは VPOOL サイズを拡大するか、または VSE/POWER キュー・ファイルのサイズを縮小してください。VSE/POWER に必要なストレージ容量は、VM モードでは次の 32K 境界に、370 または ESA モードでは 64K 境界に切り上げられることに注意してください。

1QF2A PEND FORCE REQUIRED TO TERMINATE VSE/POWER

説明: VSE/POWER は、VSE/POWER の終了時にキュー・ファイルのストレージ・コピーをディスクに書き戻しているときに起こったキュー・ファイル入出力エラーを訂正することができませんでした。

システムの処置: VSE/POWER の終了処理は停止します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。PEND FORCE コマンドを使用して VSE/POWER を終了させる前に、必要なら、キューの POFFLOAD を実行してください。

システム・プログラマーの応答: キュー・ファイルを別のディスクに移してください。

1QF3I VSE/POWER CONTINUES WITH SUBSET OF QUEUE FILE - QUEUE ENTRIES MAY BE LOST

説明: VSE/POWER のスタートアップ時に、ディスクからすべてのキュー・レコード・ブロックを読み取っているとき、キュー・ファイル入出力エラーが起きました。VSE/POWER は、入出力エラーを訂正することができませんでした。各種のクラス・チェーンを修復するために、キュー・ファイル・リカバリーが行われます。

システムの処置: システムは元のキュー・ファイルのサブセットを使って処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。PDISPLAY Q コマンドを実行し、キューの残りの空きレコードの数を判別してください。その際、「フル」パーセンテージは、実際に使用されたキュー・レコードと入出力エラーのために失われたキュー・レコードとの和から算定されることに注意してください。

システム・プログラマーの応答: キュー・ファイルを別のディスク・エクステンツに置くことを検討してください。

1QF4A NO FREE QUEUE RECORD AVAILABLE FOR *task,cuu*

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. VSE/POWER タスクが空きキュー・レコードを要求しましたが、
 - キュー表示要求のための空きキュー・レコード・クッションのほかには、空きがありません。
 - その、キュー表示要求のための空きキュー・レコード・クッションですら、すでに使い果たされています。
2. VSE/POWER が「空きキュー・レコードの数」と「次のキュー・レコード・ポインター」の状況が一致していないことを検出しました。

システムの処置: 上記の説明の理由に応じて、次のいずれかです。

1. メッセージを出すタスクが待ち状態に置かれます。キュー・レコードが使用可能になったとき、タスクは自動的に再活動化されます。ただし、タスクがアカウント保管タスクまたは状況印刷 (キューの表示) タスクである場合には、タスクは終了し、追加メッセージが出されません。

1QF5I • 1QF8I

2. VSE/POWER は内部ダンプを要求し、メッセージ 1QBAI を出し、空きキュー・レコード・チェーンの未完了リカバリ状態に入ります。

オペレーターの応答: 上記の説明の理由に応じて、次のいずれかです。

1. キュー・レコードを使用可能にするには、次のいずれかを行ってください。
 - a. 後で処理できるように POFFLOAD コマンドを使用して、キュー項目をいくつか、テープに保管します。
 - b. 1 つ以上のキュー項目を処理 (印刷、穿孔、転送) して、キュー・ファイルを空にします。
 - c. 1 つ以上のキュー項目を、キュー・ファイルから削除してください。

メッセージが頻繁に出るときは、システム・プログラマーに知らせて、必要があればキュー・ファイルのサイズを拡大するよう依頼してください。

2. 取得したダンプについてシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 上記の説明の理由に応じて、次のいずれかです。

1. キュー・ファイルのサイズを調べ、それを (必要であれば、ウォーム・スタート中のキュー・ファイルの再割り振りによって) 大きくしてください。
2. これは内部論理エラーまたはストレージの破壊を示します。IBM 担当員に知らせてください。

1QF5I QUEUE FILE IS BEING RE-BUILT

説明: キュー・ファイルへの書き込み時に、VSE/POWER によって重大な入出力エラーが検出されました。VSE/POWER はキュー・ファイルを再び組み立てようとしています。

システムの処置: キュー・ファイルが正しく再形式化された後 (これは CKD 装置の場合だけです)、キュー・ファイルのストレージ・コピーがディスクに書き戻されます。VSE/POWER がキュー・ファイルの再形式化やコピーの書き戻しに失敗すると、メッセージ 1QF7A が出力されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QF6I QUEUE FILE SUCCESSFULLY RE-BUILT

説明: VSE/POWER は、キュー・ファイルを再形式化し (これは CKD 装置の場合だけです)、キュー・ファイルの最新のストレージ・コピーをディスクに書き戻しました。このメッセージは、再組み立てが始まったことを示すメッセージ 1QF5I に続いて出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QF7A QUEUE FILE DAMAGED - COLD START REQUIRED AFTER SAVING SPOOL FILE

説明: VSE/POWER は、キュー・ファイルを再形式化することができませんでした。リカバリ不能入出力エラーが起きました。

システムの処置: キュー・ファイルのストレージ・コピーだけ

を用いて処理が続けられます。ジョブ終了時に、すべての VSE/POWER 制御区画が強制的に停止されます。しかし、オペレーターは、必要なら、手動で区画を始動させることができます。区画がまだ始動 (AUTOSTART) していない場合、区画の開始後、読み取りキュー項目が実行可能になったときに、区画はジョブ制御 "// PAUSE" モードになります。

キュー・ファイルのすべての更新は、キュー・ファイルのストレージ・コピー内でのみ行われます。次に VSE/POWER が再始動されるときは、キュー・ファイルのコールド・スタートを起こす重要なフェーズに入ります。

実行が共用されていれば、システムは、VSE/POWER が終了するまで、キュー・ファイルのロックを続けます。

オペレーターの応答: キューをできるだけ多く空にしてください。POFFLOAD BACKUP コマンドを使用して、ジョブを後で処理できるように保管してください。VSE/POWER を終了してください。VSE/POWER を再始動する前に、キュー・ファイル (IJQFILE) のために、別の同サイズのディスク・エクステンを選択してください。新しい DLBL および EXTENT ステートメントをコンソールからキー入力し、VSE/POWER を再始動してください。キュー・ファイルをコールド・スタートしてください。VSE/POWER が初期設定されるときに、バックアップ・テープからキューを再ロードしてください。処理を続け、まず、新しいキュー・ファイル・ディスク・エクステンが反映されるように、ASIPROC を更新してください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: パフォーマンスの低下を防ぐための手順に従ってください。回避手段として代わりのファイル・エクステンットの定義を行ってください。

1QF8I nnnnnnnnnnnnnn FREE DBLK GROUP(S) [OF A SUBCHAIN] (ABOUT mmm%) LOST

説明: 以下の操作を行っているときに、リカバリ不能入出力エラーまたは論理エラーが起きました。

1. VSE/POWER が空き DBLK グループ・サブチェーンの 1 つにアクセスしていたとき。以後、空きチェーンのこの部分は、使用できません。
2. VSE/POWER が空き DBLK グループを空き DBLK グループ・サブチェーンの 1 つに補充していたとき。

システムの処置:

- 1 の場合、他のサブチェーンに残っている空き DBLK グループを使用して処理が続行されます。
- 2 の場合、補充される DBLK グループは失われたものとみなされ、処理が続行されます。

nnnnnnnn は、失われた DBLK グループの数を示します。

mmm は、入出力エラーまたは論理エラーが原因で、現在、失われている DBLK グループのパーセンテージです。

オペレーターの応答: PDISPLAY STATUS コマンドを使用して、まだ使用できる空き DBLK グループの数と入出力エラーまたは論理エラーにより失われた空き DBLK グループの数を調べてください。システム・プログラマーに連絡してください。

次に以下を行うために、システムをシャットダウンすることをお勧めします。

a) 既存のデータ・ファイル (IJDFILE) に別のエクステントを追加した後、ウォーム・スタートする

b) POFFLOAD BACKUP/PICKUP コマンドを使用してテープに重要なキュー項目を保管した後、キューとデータ・ファイルをコールド・スタートする

システム・プログラマーの応答: スペース・パフォーマンスの低下を防ぐための手順に従ってください。次のいずれかです。

a) 「ウォーム・スタート時にデータ・ファイルを拡張する」を使用して別のエクステントによってデータ・ファイルを増やしてください。

b) 対処として、代替データ・ファイル・エクステントを定義することを考慮してください。

1QF9D ANY OTHER VSE/POWER SYSTEM STILL RUNNING ? (REPLY: YES/NO)

説明: 共用ウォーム・スタートの初期設定の試みが、キュー・レコード・ブロックまたはマスター・レコードの読み取り入出力エラーにより失敗しました。キュー・ファイルを変更するリカバリー処置ができるのは、キュー・ファイルにアクセスしているシステムがほかがないときだけです。

システムの処置: VSE/POWER は、オペレーターの応答を待ちます。他のシステムがまだ実行中であることをオペレーターが応答で示した場合には、VSE/POWER の初期設定がただちに終了し、メッセージ 1QHOI が出されます。その他の場合には、VSE/POWER はキュー・ファイルのリカバリーを行います。

オペレーターの応答: 次のように応答してください。

NO 同じキュー/データ・ファイルを共用して実行中のシステムがほかがない場合。

YES 同じキュー/データ・ファイルを共用して実行中のシステムがほかにある場合。

その他の応答をすると、このメッセージが再表示されます。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QFAA USED DBLK GROUP FOUND IN A FREE DBLK GROUP SUBCHAIN

説明: 空き DBLKGP サブチェーンの先頭で、データ・ブロック割り振りルーチンが「空き」ではない、既存のキュー項目に割り振られたグループを検出しました。

メッセージ 1QFAA または 1QFBA の理由は、次のいずれかです。

1. VSE/POWER プログラム・ロジックの誤動作。
2. 非公式インターフェースを使用して、VSE/POWER キュー・レコードまたは DBLK データにアクセスする、OEM プログラムの誤動作。
3. VSE/POWER キュー・ファイルおよびデータ・ファイルを持つディスク・パックが、「オンライン」高速コピー・ステップ (独立型高速コピーではなく) で作成されたテープからリストアされました。
4. 共用スプーリングの場合のみ - ロック・マネージャーの誤動作または VM 下のゲスト定義が正しくないために、キュー・ファイルのロックが失敗しました (メッセージ 1QB6I も参照)。

他の理由については、メッセージ 1Q6KA も参照してください。

システムの処置: チェーン・ポインターが信頼できないため、内部ダンプが取られ、メッセージ 1QF8I が出されて、空き DBLK グループ・サブチェーン全体の消失が示されます。

VSE/POWER は、オペレーターの処置または応答を待ちません。

オペレーターの応答: 取得したダンプについてシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: これは、内部論理エラーまたはストレージの破壊を示します。IBM 担当員に知らせてください。

メッセージ 1QFAA、1QFBA、1QFCA、1QFDA のいずれかが再表示されたときは、PDISPLAY STATUS 報告の中で 'NUMBER OF DBLK-GROUPS LOST DUE TO I/O OR LOGIC ERROR' によって表示されるように、VSE/POWER データ・ファイルのさらに多くの空き DBLK グループが失われます。VSE/POWER のコールド・スタートで DBLK グループをすべてリカバリーしてください。

1QFBA FREE DBLK GROUP FOUND IN RETURNED QUEUE ENTRY

説明: 空き DBLK サブチェーンに返されているキュー項目の DBLK グループ内で、すでに「空き」とマークされているグループが見つかりましたが、これは「使用中」とマークされていなければなりません。理由については、メッセージ 1QFAA を参照してください。

システムの処置: 内部ダンプが取られ、メッセージ 1QF8I が出されて、キュー項目に含まれる DBLK グループすべての消失が示されます。VSE/POWER は、オペレーターの処置または応答を待ちません。

オペレーターの応答: 取得したダンプについてシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: メッセージ 1QFAA のプログラマーの応答を参照してください。

1QFCA MISMATCH OF GROUP COUNT AND ACTUAL NUMBER OF DBLK GROUPS

説明: DBLK グループのカウント値がデータ・ブロック割り振り解除ルーチンに渡されましたが、チェーン DBLK グループの実際の値が同じではありません。これは、DBLK グループ・チェーニング・エラーが原因であると思われます。

システムの処置: 内部ダンプが取られ、メッセージ 1QF8I が出されて、現在の要求で返されたすべての DBLK グループの消失が示されます。VSE/POWER は、オペレーターの処置または応答を待ちません。

オペレーターの応答: 取得したダンプについてシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: メッセージ 1QFAA のプログラマーの応答を参照してください。

1QFDA MISMATCH OF SUBCHAIN COUNT AND ACTUAL NUMBER OF FREE GROUPS

説明: 空き DBLK グループ・サブチェーンのカウンタ値と、このサブチェーン内のチェーニングされた空き DBLK グループの数が一致しません。

システムの処置: チェーン・ポインターが信頼できないため、内部ダンプが取られ、メッセージ 1QF8I が出されて、空き DBLK グループ・サブチェーン全体の消失が示されます。VSE/POWER は、オペレーターの処置または応答を待ちません。

オペレーターの応答: 取得したダンプについてシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: メッセージ 1QFAA のプログラマーの応答を参照してください。

1QFED VSE/POWER GENERATION SECNODE VALUE 'xxxxxxx' DOESN'T MATCH WARMSTART VALUE 'yyyyyyyy'. CONTINUE? (YES/NO)

説明: VSE/POWER は現在ウォーム・スタート中で、VSE アクセス制御機能が活動化されましたが、以下のいずれかの状態になっています。

1. VSE/POWER スタートアップ生成 SECNODE パラメーター値が、前のシステム・スタートアップ値 'yyyyyyyy' と異なっている。
2. VSE/POWER キュー・ファイルは、以前に共用スプーリング・モードで実行されていたが、共用スプーリングなしでウォーム・スタートされ、VSE/POWER スタートアップ生成 SECNODE パラメーターが、前の共用システムの SECNODE 値と異なっている。最初に見つかった値の異なる SECNODE は 'yyyyyyyy' です。

これは、古い SECNODE を持つ共用システム SYSID で実行することを認証されたジョブを、現在のシステムで実行すると、実行を認証されなくなる可能性があることを意味します。システムの処置: VSE/POWER は、オペレーターの応答を待ちます。応答が 'NO' の場合は、初期設定は終了します。応答が 'YES' の場合は、新しい SECNODE 値がアクティブになります。

オペレーターの応答: システム管理者が許可したときのみ、'YES' を応答してください。それ以外の場合は、'NO' と応答してください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER 生成で間違った SECNODE 値が指定された場合、生成を訂正するか、SET SECNODE= 制御ステートメントを使用して値を訂正してください。

1QFFD VSE/POWER WARMSTART AND VSE ACCESS CONTROL NOT ACTIVATED(SEC=NO). DO YOU WISH TO CONTINUE? (YES/NO)

説明: 非共用 VSE/POWER システムがキュー・ファイルをウォーム・スタート中で、VSE アクセス制御機能が活動化されていませんが、このキュー・ファイルは以前、非共用または共用 VSE/POWER システムにおいて、アクセス制御が活動化され

ている状態で実行されていました。ジョブが以前は保護されていたリソースにアクセスできる可能性があることを意味します。これは、特定のセキュリティー・ゾーンでのみ実行されるはずの「許可された」ジョブが、非共有システムまたは共有システムにおいてセキュリティー検査なしで実行されることをシステムが許可することになるためです。

システムの処置: VSE/POWER は、オペレーターの応答を待ちます。応答が 'NO' の場合は、初期設定は終了します。応答が 'YES' の場合は、初期設定は続行されます。

オペレーターの応答: システム管理者が許可したときのみ、'YES' を応答してください。それ以外の場合は、'NO' と応答してください。

システム・プログラマーの応答: システム・アクセス制御活動化 (IPL: SYS SEC=...) が正しく指定されているかどうかを確認してください。

1QFGD VSE/POWER STARTUP SPOOL ACCESS PROTECTION MODE "aaaaaaaa" DOESN'T MATCH WARMSTART "bbbbbbbb". CONTINUE? (YES/NO)

説明: VSE/POWER がスタートアップを開始しましたが、明示指定またはデフォルト指定による (スタートアップ・ステートメント SET SECAC= を参照) スプール・アクセス保護モード aaaaaaaaa が、以前に実行されていたシステム値 bbbbbbbb と異なります。これは、このシステムでのスプール項目のアクセス権および操作権が変更されることを意味します。これが実際に意図するものであるかどうかを確認するプロンプトがオペレーターに出されます。

システムの処置: VSE/POWER は、オペレーターの応答を待ちます。応答が 'NO' の場合は、初期設定は終了します。応答が 'YES' であれば、初期設定が続行し、指定どおりに、新しいスプール・アクセス保護モード aaaaaaaaa が実施されます。オペレーターの応答: システム管理者が許可したときのみ、'YES' を応答してください。そうでない場合、'NO' と応答してください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER スタートアップ・デッキで不適切な SET SECAC= 値が指定されている (またはデフォルト解釈されている) 場合、それを訂正しなければなりません。

プログラマーの応答: なし。

1QG0A WRONG SPOOL TAPE MOUNTED [VOLUME=xxx|RC=nnn]. PLEASE MOUNT THE TAPE CONTAINING jobname jobno VOLUME=yyyy ON dev FOR task,uuu

説明: VSE/POWER はマルチボリュームのラベル付きスプール・テープを処理しており、新しいテープを取り付ける必要があります。原因は次のいずれかです。

- テープの順序が正しくない。正しくないボリューム番号は "VOLUME=xxx" として表示され、必要なボリューム番号は "VOLUME=yyyy" として表示されます。PRESTART または PRESET コマンドが入力された場合は、このメッセージの前にメッセージ 1QBB1 が出されます。
- 戻りコード RC=nnnn で示された他の問題が起こっている。このコードと意味は、次のとおりです。

RC=0001:

テープが空である。

RC=0002:

テープがスプール・テープでない。

RC=0003:

このテープが最後のマルチボリュームであり、別のテープを取り付けなければならない。

RC=0004:

テープ上のスプール項目が、処理中の項目と一致しない。

RC=0005:

テープが正しい順序になっていないか、内部エラーが発生した。

注:

1. テキスト "VOLUME=*nnn*" は、処理中のスプール項目 *jobname jobno* のラベル付きテープ・ボリューム番号を表します。ラベル付きテープ機能が複数のテープを作成することがありますが、与えられたメッセージ・テキストは、示されたスプール項目に関連するボリュームだけを参照します。このボリューム数は、PDISPLAY コマンドを使用することで常に表示できます。

2. テキスト VOLUME=*** が表示された場合は、実際のボリューム番号が 127 以上であることを意味します (127 は、VSE/POWER が表示できる最大値です。これより多くのテープを使用する場合は、次にどのテープを取り付けるとよいか分かるように、オペレーターは十分注意してテープをカウントしなければなりません)。テキスト VOLUME=*** (LAST) が表示された場合は、ボリューム通し番号に関係なく、スプール項目の最後のテープ・ボリュームであることを意味します。

システムの処置: 現在のテープはアンロードされます。システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

1. 新しいテープを取り付けて、次のように応答して続行を指示してください。

PGO cuu

2. タスクを終了するには、次のように入力します。

PGO cuu,CANCEL

プログラマーの応答: なし。

1QH01 RE-ATTEMPT WARMSTART WHEN NO FURTHER VSE/POWER SYSTEM UP

説明: 共用ウォーム・スタートの初期設定の試みが、キュー・レコード・ブロックまたはマスター・レコードの読み取り入出力エラーにより失敗しました。メッセージ 1QF9D が出された結果、少なくともさらに 1 つの共用システムが正しく実行中であることを確認する応答が、オペレーターからありました。

システムの処置: VSE/POWER の初期設定は終了します。

オペレーターの応答: 別の共用システムをリカバリーすることができなければ、共用スプーリングを使用しているすべてのシステムが終了した時点で、VSE/POWER を新しくウォーム・スタートしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QH1D COLDSTART REQUESTED BY ANY SHARED SYSTEM ? (REPLY: YES/NO)

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. VSE/POWER は、初期設定時にマスター・レコードを読み取ることができないため、ディスク上のキュー・ファイルが、その最新ストレージ・コピーを保存した他の共用システムによって「破損している」と宣言されているかどうかを判別することができません。

2. 初期設定時に、キュー・レコード・ブロックの読み取り入出力エラーが起りましたが、VSE/POWER はマスター・レコード上の情報を信頼することができません。

システムの処置: VSE/POWER は、オペレーターの応答を待ちます。コールド・スタートが要求されたことを示す応答がオペレーターからあると、VSE/POWER の初期設定がただちに終了し、メッセージ 1Q76I が出されます。その他の場合には、VSE/POWER の初期設定が続けられ、メッセージ 1QF9D が出されます。

オペレーターの応答: 次のように応答してください。

NO メッセージ 1QF7A を出したシステムが (それ自身も含めて) ほかにない場合。

YES いずれかのシステムが、キュー・ファイルのコールド・スタートを要求するメッセージ 1QF7A を出した場合。

その他の応答をすると、このメッセージが再表示されます。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QH2I IMMEDIATE TERMINATION ENTERED FOR SYSID x, RC=nnnn

説明: 次のいずれかの理由により、この VSE/POWER システムは、強制的に即時終了しました。理由コード NNNN は、次のいずれかです。

RC=0001:

別の共用システムがキュー・ファイルの書き込み入出力エラーを検出しましたが、その訂正ができませんでした。他のシステムは、メッセージ 1QF7A によってキュー/データ・ファイルのコールド・スタートを要求し、このシステムに処理を終了するように指示しました。

RC=0002:

共用処理中に、VSE/POWER マスター・レコードが読み取れませんでした。

RC=0003:

最新化すべきキュー・レコード・ブロックの 1 つが、T1 時間間隔の初めに読み取れず、他のシステムは、修理フェーズ中にキュー・ファイルの入出力エラーを訂正することができませんでした。

RC=0004:

非共用 VSE/POWER システムが、共用システム (SYSID x で識別される) と並行して稼働していることが検出されました。非共用システムで、メッセージ 1QBGD に対して誤って 'NO' で応答した可能性があります。スプール・ファイルが破壊される危険性があります。

1. システムは処理を続行し、メッセージ 1R33D を印刷してから待ち状態に入るか、またはメッセージ 1R33A を印刷してから事前定義処置をとりまします。
2. 重複する出力項目が作成されている場合、この後のメッセージ 1R33A に記載されているように、ジョブが無条件でフラッシュされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 必要に応じて、指摘された JECL ステートメントを訂正してください。

1QK2I INVALID DUPLICATION OF OUTPUT QUEUE ENTRIES, part-id, RC=nnnn

説明: このメッセージの前に印刷された * \$\$ LSTDUP または * \$\$ PUNDUP ステートメントを拒否しなければなりません。理由コード (RC=nnnn) は、次のいずれかになります。

RC=0001:

計画されたマスター・キュー項目の先頭が、接頭部 * \$\$ LST または * \$\$ PUN JECL になっていません。

RC=0002:

計画されたマスター・キュー項目が、接頭部 * \$\$ LST または * \$\$ PUN JECL が設定された定位置オペランドを使用しています。

RC=0003:

表記の区画 part-id は、マルチタスキング区画 (先頭が PSTART 区画コマンドの 'MT' オプション) になっています。

RC=0004:

表記の区画 part-id は、書き込み専用区画 ('READER TO BE SPOOLED' の先頭が 'READER=NO') になっています。

RC=0005:

計画されたマスター・キュー項目はテーブ・スプール用で、* \$\$ LST または * \$\$ PUN JECL ステートメントで DISP=T が指定されています。

RC=0006:

計画されたマスター・キュー項目は VSE/POWER によるスプール用ではなく、* \$\$ LST または * \$\$ PUN JECL ステートメントで DISP=N が指定されています。

RC=0007:

計画されたマスター・キュー項目は、出力を読み取りキューに返すためのもので、* \$\$ PUN JECL ステートメントで DISP=I が指定されています。

RC=0008:

計画されたマスター・キュー項目はチェックポイント用で、* \$\$ LST または * \$\$ PUN JECL ステートメントで RBC=n が指定されています。

RC=0009:

計画されたマスター・キュー項目は、カウント主導の出力セグメント化用です。つまり、* \$\$ LST または * \$\$ PUN JECL ステートメントで RBS=n が指定されているか、VSE/POWER 生成マクロが RBS=(n,m) で指定されました。

RC=0010:

計画されたマスター・キュー項目の先頭が接頭部 * \$\$ LST JECL になっていますが、その複製項目が * \$\$ PUNDUP を要求しています。

RC=0011:

計画されたマスター・キュー項目の先頭が接頭部 * \$\$ PUN JECL になっていますが、その複製項目が * \$\$ LSTDUP を要求しています。

RC=0012:

接頭部 * \$\$ LST または * \$\$ PUN JECL が設定された計画マスター・キュー項目が 100 回以上続きました。

RC=0013:

計画された複製キュー項目はテーブ・スプール用で、* \$\$ LSTDUP または * \$\$ PUNDUP JECL ステートメントで DISP=T が指定されています。

RC=0014:

計画された複製キュー項目は VSE/POWER によるスプール用ではなく、* \$\$ LSTDUP または * \$\$ PUNDUP JECL ステートメントで DISP=N が指定されています。

RC=0015:

計画された複製キュー項目は、出力を読み取りキューに返すためのもので、* \$\$ PUNDUP JECL ステートメントで DISP=I が指定されています。

RC=0016:

計画された複製キュー項目が、* \$\$ LSTDUP または * \$\$ PUNDUP JECL ステートメントでキーワード・オペランドを指定していますが、許容範囲内のオペランドになっていません。許容オペランドは、次のとおりです。

- JNM=
- CLASS=
- DISP=
- PRI=
- COPY=
- DEST=
- TDISP=
- REMOTE=
- DIST=
- SYSID=
- UINF=
- EXPDAYS=
- EXPHRS=
- EXPMOM=NULL

システムの処置: システムは処理を続行し、メッセージ 1R33A を印刷し、指定されたジョブを無条件でフラッシュしませす。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 理由コードに従って、指摘された JECL ステートメントを訂正してください。

1QK3I **JOB** *jobname jobnumber qid,*
Q-REC-NO=X'nnnnnn', EXCLUDED FROM
THE QUEUE FILE

説明: キュー・ファイル・リカバリー中に、キュー *qid* の複製キュー・レコード *jobname jobnumber* にマスター・キュー・レコードに対する正しくないリンクが設定されていることが検出されました。これは、先行するメッセージ 1QZ0I RC=0063 - 0066 で指摘されます。

'Q-REC-NO' は、除外されたキュー・レコードの 16 進番号を示しています。VSE/POWER 区画 Getvis のキュー・ファイルの内容を表示するには、この数に X'180' (q-rec コンパートメント・サイズ) を掛けて、結果のオフセットをキュー・ファイル開始位置 (ポインター QCAPART、'DMB' の X'54' による) に加えます。

システムの処置: 複製キュー・レコードがキュー・ファイルから除外され (フラグ QRMDUE='E' による)、'LOST DUE TO I/O OR LOGIC ERROR' カウント (D STATUS を参照) の値が増やされました。対応するマスター・キュー・レコードの複製数カウント (QRMDUP) が調整されました。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: この前の 1Q2JI Idump を回収し、IBM 担当員に連絡して分析を依頼してください。

1QK4I **PCOPY ATTEMPT REJECTED, RC=nnnn**

説明: PCOPY コマンドを拒否しなければなりませんでした。理由コード (RC=nnnn) は、次のいずれかになります。

RC=0001

新規のキュー・レコードに使用可能な VSE/POWER 区画 Getvis ストレージがありません。

RC=0002

CQNUM= によって指定されたキュー・レコードは 'FREE' キュー・レコードです。

RC=0003

CQNUM= によって指定されたキュー・レコードは 'BAD' キュー・レコードです。

RC=0004

CQNUM= によって指定されたキュー・レコードは、「除外された」キュー・レコードです。

RC=0005

CQNUM= によって指定されたキュー・レコードは、「読み取り」タイプのキュー・レコードです。

RC=0006

CQNUM= によって指定されたキュー・レコードが、PCOPY コマンドによって選択された 'XMT' キューにありません。

RC=0007

CQNUM= によって指定されたキュー・レコードが、PCOPY コマンドによって選択された 'DEL' キューにありません。

RC=0008

CQNUM= で指定されたキュー・レコードは、PCOPY コマンドで選択された 'LST' キューにありません。

RC=0009

CQNUM= で指定されたキュー・レコードは、PCOPY コマンドで選択された 'PUN' キューにありません。

RC=0010

CQNUM= によって指定されたキュー・レコードに、PCOPY コマンドによって選択されたものと異なるジョブ名があります。

RC=0011

CQNUM= によって指定されたキュー・レコードに、PCOPY コマンドによって選択されたものと異なるジョブ番号があります。

RC=0012

CQNUM= によって指定されたキュー・レコードが、最大数 99 の複製があるマスター・キュー・レコードです。

RC=0013

CQNUM= によって指定されたキュー・レコードは複製キュー・レコードですが、そのマスターには、すでに最大複製数 99 の複製キュー・レコードがあります。

RC=0014

CQNUM= によって指定されたキュー・レコードは、接尾部番号が設定された出力セグメントです。

RC=0015

新規コピーのキュー・レコードに使用可能な VSE/POWER キュー・レコード (番号) がなくなりました。

RC=0016

CQNUM= によって指定されたキュー・レコードは、複製キュー・レコードですが、そのマスターを示すポインターがキュー・ファイル外、すなわち、この前の 1Q2JI Idump に記載されているようにゼロ未満か、MRQ#MAX より大きくなっています。

RC=0017

CQNUM= によって指定されたキュー・レコードは、複製キュー・レコードですが、この前の 1Q2JI Idump に記載されているようにそのマスターの複製数カウントがゼロに等しくなっています。この値は、1 以上でなければなりません。

RC=0018

CQNUM= によって指定されたキュー・レコードは複製キュー・レコードですが、この前の 1Q2JI Idump に記載されているようにそのマスターに同じスプール値 (QRNB、QRDF、または QRLDF) がありません。

RC=0019

CQNUM= によって指定されたキュー・レコードに、追加可能な後処理 (DISP=A) があります。

RC=0020

オペレーターまたはプログラム・インターフェースには、PCOPY 操作 (PALTER 変更と似た操作) で CQNUM= によって指定されたキュー項目にアクセスする権限がありません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して再発行するか、シス

テム不足の場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QK5I **JOB** *jobname jobnumber* **IN** {LST|PUN|XMT}
QUEUE SUCCESSFULLY CREATED BY
PCOPY

説明: 上記のメッセージはキュー項目を示していますが、これは、PCOPY コマンドに指定された元のキュー項目のコピー (PCOPY ...,CQNUM=nnnnn) として作成されています。このコピーは、「複製」キュー・レコード (キュー表示の U 列の「-」を参照) で、そのマスター・キュー・レコード (キュー表示の U 列の「+」を参照) のスプール・データを指示しています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: コピーされた複製表示に FULL=YES オプションを使用すると、MQNUM=nnnnn を確認することができます。これは、マスターのキュー・レコード番号を示しています。PDISPLAY TOTAL,CMQNUM=nnnnn コマンドを使用すると、このマスター・キュー項目およびそのすべての複製を表示することができます。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QX1I **XPCC FUNC=***function* **FAILED IN**
PHASE=*phasename*, **RC=***nnnn*, **RETC=***xx*
task-id

説明: VSE/POWER が XPCC サービスから 0 以外の戻りコードを受信しました。RC は XPCC レジスター 15 戻りコードで、RETC は XPCC IJBXRETC コードです。

nnnn および *xx* の意味については、「z/VSE System Macros Reference」にある MAPXPCCB マクロの記述を参照してください。

システムの処置: これは現在実行されている機能と、戻りコードの重大度によって異なります。関連する通信パスに関しては、VSE/POWER は以下のいずれかの処置を取ります。

現在受けているサービスを停止させる。

経路を切断する。

タスクを終了する。

FUNC=CONNECT, RC=08, RETC=0E の場合、'OPEN' 接続を設定するために使用できるシステム GETVIS ストレージがありませんでした (メッセージ 1QX2I の説明を参照)。

CONNECT 要求が定期的に再実行され、メッセージ 1QX1I が毎分繰り返し出される可能性があります。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: エラーを訂正するための手順に従ってください。

1QX2I **UNABLE TO CONTINUE CROSS**
PARTITION SUPPORT

説明: VSE/POWER は、'open' 接続を設定できませんでした。VSE/POWER との新規接続を作成することは、もうできません。前のコンソール・メッセージに、エラーの原因に関する詳細が示されています。

システムの処置: 既存の区画間タスクすべての実行が続行されます。タスクが新たに生成されることはありません。

オペレーターの応答: 例えば、VSE/ICCF の SUBMIT 機能をサポートするために、区画間サポートを続行する必要がある場合には、PEND を使用して VSE/POWER を終了させ、再度初期設定しなければなりません。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: エラーを訂正するための手順に従ってください。

1QX3I **CROSS PARTITION TASK** *connect-ID*
SERVING SAS= *application-id* **STOPPED**
[DUE TO EXIT FAILURE]

説明: スプール・アクセス・タスク *task-id* を終了させるために PSTOP コマンドが出されたか、またはユーザー読み取り出口に障害があったので、対応するタスクを停止させなければなりませんでした。

システムの処置: VSE/POWER は、タスクのサービスを受ける通信パスを切断します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: 必要であれば、失敗した出口を調べて訂正してください。

1QY0I **START-UP FOR DEVICE** *devname*
UNSUCCESSFUL, DDS=*ddsname*

説明: VSE/POWER は、装置駆動システム (DDS) を制御する装置への接続を試みましたが、接続完了の応答を受け取っていません。おそらく、DDS がまだ開始されていません。

システムの処置: 装置サービス・タスクは、DDS が接続するのを待ち続けます。

オペレーターの応答: DDS の状況を調べてください。DDS がまだ開始されていない場合は、DDS を開始させてください。DDS を活動化できない場合は、次のコマンドを出してください。

PSTOP DEV,*devname*

このコマンドにより、装置サービス・タスクが終了します。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QY1I **DEVICE** *devname* **UNAVAILABLE,**
DDS=*ddsname*, **RC=***xxxx*

説明: 装置サービス・タスクは、DDS によって制御される装置 '*devname*' を開始させようとしたましたが、できませんでした。理由は、理由コード (RC) で示されています。*xxxx* は以下のいずれかです。

RC=0801:

パラメーター・ストリングがないか、あるいは正しくありません。

RC=0802:

DDS が受け入れない装置が開始されました。

RC=0803:

装置が定義されていません。

RC=0804:

装置が使用中です。

**1QY9I UNABLE TO START DEVICE *devname*,
DDS=*ddsname* IN SHUTDOWN**

説明: DDS は、自分が終了することを VSE/POWER に伝えました。

システムの処置: 装置は使用可能にされず、装置サービス・タスクは終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1QZ0I SEVERE LOGIC ERROR OCCURRED IN
PHASE=*phasename*, RC=*xxxx*
task-id[Q-REC-NO=X'*nnnnnn*']**

説明: VSE/POWER 処理で内部エラーが検出されました。エラーの重大度により、VSE/POWER が終了するか、エラーの原因となったタスクのみが異常終了するか、または、RC=0057 の場合はタスクが無期限に待機する可能性があります。理由は、理由コード (RC) で示されます。xxxx は以下のいずれかです。

RC=0001:

VSE/POWER 中核 (IPW\$\$NU) にあるディスク・サービス・ルーチンが、次のために呼び出されました。

- キュー・ファイル入出力のため。しかし、渡された入出力要求ワードが、ディスクの最大キュー・レコード・ブロックを超えています。
- VSE/POWER 初期設定時のデータ・ファイル入出力のため。しかし、渡された入出力要求ワードでアドレス指定された DBLK 番号が、負であるか、またはディスクの最大 DBLK を超えています。

RC=0002:

PUT データ・レコード出力機能が呼び出されましたが、要求が無効でした。タスクは取り消されます。

RC=0003:

キュー・レコードが「空きキュー・レコード」チェーンから得られましたが、このレコードには「空き」のマークが付いていませんでした。

RC=0004:

「キュー・セットの追加」機能が呼び出されましたが、キュー項目を表すキュー・レコードに「空き」のマークが付いています。

RC=0005:

「キュー・レコードの解放」機能が呼び出されましたが、事前にキュー項目が削除されていません。

RC=0006:

区切り文字の検査時のエラー。

RC=0007:

VSE/POWER のシャットダウン時に、共用スプーリング・タイマー・タスクが見つかりませんでした。

RC=0008:

VSE/POWER のシャットダウン時に、'SYSID' パケットに 'SYSID' が見つかりませんでした。

RC=0009:

データ管理再始動ルーチンの呼び出し時に、誤った再始動番号が指定されました。

RC=0010:

空き DBLK グループの総数が、サブチェーンのすべての空き DBLK グループ・カウントの合計と異なります。

RC=0011:

キュー・ファイルのリカバリー時、不明な識別子 (R/L/P/B/F ではない) のキュー・レコード、または有効な識別子 (R/L/P) で作成日の中にスラッシュがないキュー・レコードが検出されました。レコードはバイパスされ、D STATUS レポートのキュー・レコードおよび DBLK グループに対する "LOST DUE TO I/O" カウントが増加されます。(1QZ0I RC=0015 が続きます。)'Q-REC-NO' は、不正キュー・レコードの 16 進数を示します。VSE/POWER 区画 Getvis のキュー・ファイルの内容を表示するには、この数に X'180' (q-rec コンパートメント) を掛けて、結果のオフセットをキュー・ファイル開始位置 (ポインター QCAPART、'DMB' の X'54') に足します。

RC=0012:

マスター・レコードが、空き DBLK グループが使用可能であることを示しているにもかかわらず、空き DBLK グループがサブチェーンのどこにもありません。

RC=0013:

使用できるキュー・レコードの数が、キュー・ファイルのリカバリー中に設定された数と異なります。

RC=0014:

マスター・レコード DBLK グループの総数から、リカバリーで収集された使用済み DBLK グループの数とマスター・レコードの空き DBLK グループの数を減算した結果、負の値になりました。したがって、少なくとも 1 つの DBLK グループが 2 度使用されています。

RC=0015:

失われたキュー・レコードの数が、以前のキュー・ファイル・リカバリー中に設定されたものと異なります。

RC=0016:

無効な機能タイプによって IPW\$\$LO が呼び出されました。

RC=0017:

テープ・モード検査フェーズ \$IJBSSYS が「cuu no tape」または「cuu not in PUB」の表示を返しました。これは以前の VSE/POWER の検査と矛盾しています。

RC=0018:

'wait for run' サブキューの項目を削除しようとしたのですが、見つけることができません。「wait for run」サブキューおよびローカル読み取りキューを表示してください。

RC=0019:

IPW\$\$NU チェーン解除ルーチン VSU0 が、与えられた仮想記憶チェーンからエレメントを除去するために \$RLV または \$UNV のいずれかによって呼び出

1QZ0I

されましたが、エレメントはこのチェーンのメンバーではありません。このチェーンは変更されません。

RC=0020:

内部的に組み立てられたスプール・パラメーター・リストの内容が予期しないものであったために IPW\$\$PC の呼び出しが失敗しました。リスト・キュー項目はこの呼び出しでは作成されていません。

RC=0021:

VIO/GETVIS-MOVE ルーチン (IPW\$\$NU) が呼び出されましたが、渡された VIO 入出力要求ワードは、VSE/POWER によって使用される VIO 域外の相対バイト・アドレスを定義しています。

RC=0022:

直前に出されたメッセージ 1QB5I によると、動的区画のサポート時に行われる VSE/POWER および VSE 監視プログラムの処理に矛盾があることが、失敗したマクロの戻りコードで示されています。

RC=0023:

VIO/GETVIS-MOVE ルーチン (IPW\$\$NU) が呼び出されましたが、渡された GETVIS 入出力要求ワードは、ディスク上にキュー・ファイルのストレージ・コピーを保管するために使用される、区画 GETVIS 域外の相対バイト・アドレスが定義されています。

RC=0024:

最新の内部キュー・レコードがキュー・ファイルのストレージ内コピーで上書きされたか、またはマスター・レコードの「使用可能キュー・レコード」最大カウントが壊れています。VSE/POWER は、このような矛盾のある状況下でも実行を続けようとしています。このため、キューの POFFLOAD を行い、VSE/POWER を終了させて、後でスプール・ファイルを COLD スタートさせるように強くお勧めします。

RC=0025:

キュー・ファイルのストレージ内コピーから、キュー・レコードを再生している間に、キュー・レコードがすでに空きレコード・チェーン内にあることが検出されました。このメッセージに続いて、メッセージ 1QZ0I RC=0004 または 1QZ0I RC=0005 が出されることもあります。キュー・レコードはどのクラス・チェーンにもチェーニングされません。

RC=0026:

示されたモジュールは、ジョブ・ヘッダー・レコードで VSE/POWER セクションを見つけられませんでした。

RC=0027:

モジュール IPW\$\$PC が、内部矛盾を検出しました。

RC=0028:

スプール・アクセス・サポート BROWSE 要求がキュー項目を返しましたが、ブラウザのマルチアクセス・カウントがゼロでした。これは、「所有」タスクを識別するために、少なくとも 1 でなければなりません。

RC=0029:

スプールされている出力をセグメント化するために、

ユーザー区画によって IPWSEGM マクロが出され、KEEP=NO オプションが指定されましたが、モジュール IPW\$\$XWE は、IPW\$\$XJ によってセグメンテーションが行われなかったことを検出しました。

RC=0030:

再始動している間に、「DBLK グループの検索」ルーチンは、後方走査によって再始動ターゲットを見つけることができませんでした。内部ダンプがとられない代わりに、VSE/POWER は、キュー項目の最初から順方向走査を行います。このエラーが頻発する場合は、弊社に連絡してください。

RC=0031:

回線ドライバー LDR が NCB を解放しようとしたのですが、その NCB と作業中のアクティブな伝送プログラム/受信プログラム/コンソール・タスクが見つかりました。ストレージ・オーバーレイが原因と思われる。LDR は、そのタスクと回線またはセッションを終了します。もっと重大なエラーを回避するために、できるだけ早く VSE/POWER を再始動しなければなりません。

RC=0032:

回線ドライバー LDR が、IPW\$\$SR の SEND/RECEIVE 機能呼び出しましたが、NCB の SSCB アドレスがゼロであることが検出されました。セッションは終了します。もっと重大なエラーを回避するために、VSE/POWER を再始動しなければなりません。メッセージ 1QZ0I が出される前に、IDUMP がとられ、このダンプの GREG4 に、ゼロの SSCB アドレスを検出したコード域のアドレスが入っています。

RC=0033:

IPW\$\$S1 サブタスクが、IPW\$\$SR の SEND/RECEIVE 機能呼び出しましたが、NCB の SSCB アドレスがゼロであることが検出されました。セッションは終了します。もっと重大なエラーを回避するために、VSE/POWER を再始動しなければなりません。メッセージ 1QZ0I が出される前に、IDUMP がとられ、このダンプの GREG4 に、ゼロの SSCB アドレスを検出したコード域のアドレスが入っています。

RC=0034:

IPW\$\$S1 サブタスク SEND/RECEIVE RPL-EXIT が、NCB 内にゼロの SSCB アドレスを検出しました。セッションは終了します。もっと重大なエラーを回避するために、VSE/POWER を再始動しなければなりません。メッセージ 1QZ0I が出される前に、IDUMP がとられ、このダンプの GREG4 に、ゼロの SSCB アドレスを検出したコード域のアドレスが入っています。

RC=0035:

LST タスクが、印刷装置への入出力を開始するために、CCB 内の無効な FIRST CCW (CBCA +X'09) を用いて、SVC 0 を出そうとしました。このタスクは MSG1Q61I で終了し、IDUMP がとられます。印刷装置にハードウェア障害がない場合は、LST タ

スクを再始動してみてください。問題が繰り返される場合は、IBM サポートに連絡してください。

RC=0036:

印刷装置への入出力の完了後、LST タスクが制御を獲得しつつあります。チャンネル・コマンドが実行され、その回線が印刷されたあと、その入出力は、装置チェック、装置例外、またはチャンネル 9 オーバーフローで完了しました。CBCS に、最後に実行された CCW アドレスに 8 を加えたものが入っています。VSE/POWER は、CBCS でアドレス指定された次の CCW を用いて入出力を再始動しようと試みます。この場合、CBCS 内のアドレスは無効とみなされ、LST タスクは MSG1Q61I で終了し、IDUMP がとられます。印刷装置にハードウェア障害がない場合は、LST タスクを再始動してみてください。問題が繰り返される場合は、IBM サポートに連絡してください。

RC=0037:

処理済みの入力バッファを空き入力バッファ・キューに戻そうとしましたが、関連の NCB がこのバッファと一致しませんでした。このバッファは除外されて無視されます。受信中のジョブ出力項目についてデータは失われていません。この問題が初めて発生したときに IDUMP がとられました。タスクは受信を続行します。

RC=0038:

空き出力バッファのチェーンから空の出力バッファが要求されましたが、関連の NCB がこのバッファと一致しませんでした。このバッファは除外されて無視されます。受信中のジョブ出力項目についてデータは失われていません。この問題が初めて発生したときに IDUMP がとられました。タスクは送信を続行します。

RC=0039:

キュー・ファイルのリカバリー時に、キュー・レコード番号 0 (内部) に 'I' キュー・レコード識別子が含まれませんでした。リカバリーで、'I' 識別子が再度提供されました。

RC=0040:

「キューへの追加」機能にキュー・レコードが提示されましたが、フィールド QRCL に、有効な VSE/POWER クラス値 (X'FA', 0'9, A-Z 以外) が含まれていませんでした。障害の発生ごとに IDUMP が取られ、キュー・レコードにデフォルトのクラス 'A' が割り当てられ、そのレコードは、メッセージ 1Q6QI で述べたとおりの HOLD 後処理が与えられて保管されます。

RC=0041:

モジュール IPW\$\$SM が (IPW\$\$AS を介して) モジュール \$IJBXPCA の呼び出しを要求しましたが、\$IJPXPCA への使用可能な入り口点がありません。

RC=0042:

非同期の VSE サービス・サブタスクによってモジュール IPW\$\$SM が (IPW\$\$AS を介して) モジュール

\$IJBXPCA の呼び出しを要求しましたが、このサブタスクは取り消され、メッセージ 1Q2CI が出されました。

RC=0043:

モジュール IPW\$\$SM は、(IPW\$\$AS を介して) モジュール \$IJBXPCA の呼び出しを要求しましたが、直前のメッセージ 1QBFI で述べられた \$IJBXPCA エラーを受け取りました。

RC=0044:

IPW\$\$NU のチェーン解除ルーチン VSU0 または仮想記憶解放ルーチン VS51 が呼び出されましたが、順方向/逆方向チェーン・ポインターが破壊されたため、またはエレメント・アドレスが VSE/POWER 区画 GETVIS の外側にあるため、仮想記憶チェーンのエレメントをアドレス指定できませんでした。IDUMP がとられ、ストレージ・エレメントは解放またはチェーン解除されません。VSE/POWER は、すべて消去されたストレージ・チェーンのヘッドおよびテール・ポインターを使用して処理を続けます。このため、このチェーンのエレメントをそれ以上戻したりチェーン解除したりすると、エラーとなり、メッセージ 1QZ0I RC=19 (エレメントがチェーンに見つからない) が出される可能性があります。

RC=0045:

IPW\$\$NU のチェーン解除ルーチン VSU0 が \$RLV (単一エレメントの場合)、または \$UNV 要求のいずれかによって呼び出されましたが、そのアドレスが VSE/POWER 区画 GETVIS 域に属していないため、仮想記憶チェーンのエレメントをチェーンから除去 (および解放) できませんでした。IDUMP がとられ、VSE/POWER は処理を続行します。

RC=0046:

モジュール IPW\$\$TD が IPW\$ITP PARM= マクロを使用してモジュール IPW\$\$TS を呼び出しましたが、呼び出し側の制御ブロック内の PARM= 値が正しくありませんでした。呼び出し側に内部エラー・コードが渡され、PNET/TCPIP 接続がクローズされます。

RC=0047:

モジュール IPW\$\$TD が IPW\$ITP CKRC=YES マクロを使用してモジュール IPW\$\$TS を呼び出し、EZASMI マクロ ERRNO= 戻りコードが分析された結果、呼び出し側の制御ブロック内の EZASMI マクロ・タイプが正しくありませんでした。呼び出し側に内部エラー・コードが渡され、PNET/TCPIP 接続がクローズされます。

RC=0048:

モジュール IPW\$\$TD が IPW\$TTM TIME=nnn,TQE=(reg) マクロを使用してモジュール IPW\$\$TS を呼び出しましたが、指定された TQE エレメントは前の IPW\$TTM 呼び出しによってまだキューイングされています (IPW\$TTM CANCEL=YES が前に呼び出されていません)。この IPW\$TTM 要求は無視されます。

RC=0049:

モジュール IPW\$\$SD が IPW\$ITS PARM= マクロ

を使用してモジュール IPW\$\$\$SS を呼び出しましたが、呼び出し側の制御ブロック内の PARM= 値が正しくありませんでした。呼び出し側に内部エラー・コードが渡され、PNET/TCPIP 接続がクローズされます。

RC=0050:

モジュール IPW\$\$\$SS が IPW\$ITS CKRC=YES マクロを使用してモジュール IPW\$\$\$SD を呼び出し、EZASMI マクロ ERRNO= 戻りコードが分析された結果、呼び出し側の制御ブロック内の EZASMI マクロ・タイプが正しくありませんでした。呼び出し側に内部エラー・コードが渡され、PNET/TCPIP 接続がクローズされます。

RC=0051:

モジュール IPW\$\$\$SS が IPW\$TTS TIME=nnn,TQE=(reg) マクロを使用してモジュール IPW\$\$\$SD を呼び出しましたが、指定された TQE エレメントは前の IPW\$TTS 呼び出しによってまだキューイングされています (IPW\$TTS CANCEL=YES が前に呼び出されていません)。この IPW\$TTS 要求は無視されます。

RC=0052:

IPW\$TTS が、EZASMI マクロ呼び出しに続く RETCODE で、予期されているものとは異なる ('-1' ではない) 負の値を検出しました。

RC=0053:

IPW\$\$\$SS が、EZASMI マクロ呼び出しに続く RETCODE で、予期されているものとは異なる ('-1' ではない) 負の値を検出しました。

RC=0054:

IPW\$PC は SAS 機能要求時に、VSE/POWER セクションがなかったことが原因で発生したジョブ・ヘッダー・レコード・エラーまたはデータ・セット・ヘッダー・エラーを検出しました。このエラーは、データが破壊されているために発生した可能性があります。

RC=0055:

IPW\$PC は SAS 機能要求時に、データが破壊されている (ゼロまたは x'7fff' より大きい長さフィールドがある) ことが原因で発生したジョブ・ヘッダー・レコード・エラーまたはデータ・セット・ヘッダー・レコード・エラーを検出しました。

RC=0056:

POFFLOAD タスク (*task-id*= 'L-OFF'、モジュール IPW\$OF) が、ジャーナル LST スプール項目を処理するために、パートナー・タスク (*task-id*= 'P PS'、モジュール IPW\$PS) を使用してジャーナリングを行っています。示されたタスクで、メッセージ 1Q2JI (IDUMP) によって示された場所でタスク内部エラーが発生しました。

RC=0057:

POFFLOAD タスク *task-id* (モジュール IPW\$OF) が、ジャーナル LST スプール項目を処理するために、パートナー・タスク (モジュール IPW\$PS) を使用してジャーナリングを行っています。POFFLOAD タスクは、パートナー・タスクの内部タ

スクを強制終了しようとしたのですが、この強制終了もタイムアウトしたため、POFFLOAD タスクが終了状態に入り、まだこのパートナー・タスクが終了するのを待っている状態です。

RC=0058:

キュー・ファイルのリカバリー時に、最後の (ダミー) キュー・レコードに 'D' レコード識別子が含まれていませんでした。リカバリーで、'D' 識別子が再度提供されました。

RC=0059:

コマンド (OFTAP=) に指定されているテープ順序番号を使用して、マウントするテープに対して POFFLOAD BACKUP|SAVE|PICKUP コマンドを処理するため、VSE/POWER が処理を BAM に渡しました。コマンド中に TLBL= で指定された //TLBL を、指定されたテープ・シーケンス番号に変更し、BAM OPEN WRITE 要求を発行することによって行われます。しかし、BAM OPEN 要求の後に、別のテープが取り付けられていることが検出されました (キュー・レコードの QRJCTP が OFTAP= に一致しませんでした)。

RC=0060:

IPW\$FQ.FQ80 が最終的に複製キュー項目を解放しようとしていますが、そのマスター・キュー項目に対するポインターが、キュー・ファイルの範囲外になっています ((0 < QRMNUM <= MRQ#MAX) になっていません)。この原因としては、VSE/POWER 自体の論理エラーか、VSE/POWER または OEM コードによるストレージ・オーバーレイが考えられます。複製キュー・レコードは解放されましたが、DBLKGP は変更されないまま、マスターの複製数カウントは減らされていません。

RC=0061:

IPW\$FQ.FQ80 が最終的に複製キュー項目を解放しようとしていますが、そのマスター・キュー・レコードの複製数カウントがゼロになっています (これは複製が存在しないことを示しています)。この原因としては、VSE/POWER 自体の論理エラーか、VSE/POWER または OEM コードによるストレージ・オーバーレイが考えられます。複製キュー・レコードは解放されましたが、DBLKGP は変更されないまま、マスターの複製数カウントは変更されていません。VSE/POWER の完全リカバリー時に一般的に複製キュー項目とそのマスターを再結合するには、VSE/POWER がまだ稼働している間にシステムを PEND FORCE VSE/POWER または再 IPL (非共用の場合のみ) することを推奨します。

RC=0062:

IPW\$FQ.FQ80 が最終的に複製キュー項目を解放しようとしていますが、最初/最後の DBLKGP および DBLKGP 数が複製キュー項目とそのマスター・キュー項目で同じになっていません。この原因としては、VSE/POWER 自体の論理エラーか、VSE/POWER または OEM コードによるストレージ・オーバーレイが考えられます。複製キュー・レコードは解放され

ましたが、DBLKGP は変更されないままで、マスターの複製数カウントは減らされていません。VSE/POWER の完全リカバリー時に一般的に複製キュー項目とそのマスターを再結合するには、VSE/POWER がまだ稼働している間にシステムを PEND FORCE VSE/POWER または再 IPL (非共用の場合のみ) することを推奨します。

RC=0063:

IPW\$\$RY.VD00 が、完全リカバリー時に複製キュー項目のセットを検査しようとしています、複製キュー・レコードが「作成中」であることが検出されました。「作成中」の複製は、まだキュー・レコードとなっていないので、このようなことはありえません。この原因としては、VSE/POWER 自体の論理エラーか、VSE/POWER または OEM コードによるストレージ・オーバーレイが考えられます。複製キュー・レコードがキュー・ファイルから除外され (フラグ QRMDUE='E' による)、'LOST DUE TO I/O' キュー・レコード・カウント (D STATUS を参照) の値が増やされました。回復されていない共用システムの未実行のタスクが、この「除外された」項目にアクセスし続ける可能性があります。1QZ0I RC=0015 による 1Q2JI Idump がこの後に実行されますが、これは無視してかまいません。

RC=0064:

IPW\$\$RY.VD00 が、完全リカバリー時に複製キュー項目のセットを検査しようとしています、複製キュー・レコードにキュー・ファイルの範囲外を指す (0 < QRMNUM <= MRQ#MAX になっていない) マスター・ポインターが含まれています。この原因としては、VSE/POWER 自体の論理エラーか、VSE/POWER または OEM コードによるストレージ・オーバーレイが考えられます。複製キュー・レコードがキュー・ファイルから除外され (フラグ QRMDUE='E' による)、'LOST DUE TO I/O' キュー・レコード・カウント (D STATUS を参照) の値が増やされました。回復されていない共用システムの未実行のタスクが、この「除外された」項目にアクセスし続ける可能性があります。1QZ0I RC=0015 による 1Q2JI Idump がこの後に実行されますが、これは無視してかまいません。

RC=0065:

IPW\$\$RY.VD00 が、完全リカバリー時に複製キュー項目のセットを検査しようとしています、複製キュー・レコードに「作成中」のマスターを指すポインターが含まれています。これは、複製キュー項目ではありえないことです。この原因としては、VSE/POWER 自体の論理エラーか、VSE/POWER または OEM コードからのストレージ・オーバーレイが考えられます。複製キュー・レコードがキュー・ファイルから除外され (フラグ QRMDUE='E' による)、'LOST DUE TO I/O' キュー・レコード・カウント (D STATUS を参照) の値が増やされました。回復されていない共用システムの未実行のタスクが、この「除外された」項目にアクセスし続ける可

性があります。1QZ0I RC=0015 による 1Q2JI Idump がこの後に実行されますが、これは無視してかまいません。

RC=0066:

IPW\$\$RY.VD00 が、完全リカバリー時に複製キュー項目のセットを検査しようとしています、複製キュー・レコードに、QRMNUM によって指示されているマスターと異なる最初/最後の DBLKGP 値、および DBLKGP 値の数が含まれています。この原因としては、VSE/POWER 自体の論理エラーか、VSE/POWER または OEM コードによるストレージ・オーバーレイが考えられます。複製キュー・レコードがキュー・ファイルから除外され (フラグ QRMDUE='E' による)、'LOST DUE TO I/O' キュー・レコード・カウント (D STATUS を参照) の値が増やされました。回復されていない共用システムの未実行のタスクが、この「除外された」項目にアクセスし続ける可能性があります。1QZ0I RC=0015 による 1Q2JI Idump がこの後に実行されますが、これは無視してかまいません。

RC=0067:

VSE/POWER が、POFFLOAD BACKUP|LOAD|PICKUP APPEND コマンドに対して LABEL マクロを実行するサブタスク要求を発行しましたが、サブタスクが失敗しているか、あるいは LABEL マクロが要求が未知であることを示しています。

RC=0068:

PDISPLAY CRE モジュールの間に、IPW\$\$PS が作成中であるとマークを付けられているもののタスクによって所有されていない無効なキュー項目を検出しました。

RC=0069:

アクティブな共用システムの数と等しくない、無効な共用システム内部アップ・カウント値が検出されました。

RC=0070:

VSE/POWER のサブタスクに渡されたテーブ要求が、POFFLOAD コマンドの処理時に失敗しました。

RC=0071:

最終削除の対象としてマークを付けられたキュー・レコードが不整合状態です。最終削除は中断状態です。

RC=0072:

最終削除の対象としてマークを付けられたキュー・レコードが不整合状態です。最終削除は中断状態です。

RC=0073:

最終削除の対象としてマークを付けられたキュー・レコードが不整合状態です。最終削除は中断状態です。

RC=0074:

この共用スプーリング SYSID 上のキュー項目に対する最終削除で、他の共用システムが平行してこのキュー項目を更新したことが検出されました。これは、この SYSID に対する PRESET が、この共用スプーリング複合システムの別のシステムで出されたことが原因で起こった可能性があります。VSE/POWER では、この SYSID に対する最終削除を延期します。

1QZ1D • 1R03I

システムの処置: RC=0001、0021、または 0023 の場合、VSE/POWER は異常終了します。それ以外の理由コードの場合、VSE/POWER は内部ダンプを要求しており、実行を続けます。

1. RC=0017 の場合は、PACCOUNT コマンドまたは POFFLOAD コマンドはただちに停止します。そのコマンドは、別のテープ装置に対して、またはモードを指定せずに、再度出すことができます。ジョブまたは出力はスプール・アクセス保護なしで続行されます。
2. RC=0056 の場合、メッセージ 1Q5MI が先に出され、ジャーナリング・パートナー・タスク (モジュール IPW\$SPS) が終了し、POFFLOAD が実行を続けます。
3. RC=0057 の場合、メッセージ 1Q5MI が先に出され、テープ装置がメッセージ 1Q33I で解放されます。POFFLOAD タスクはジャーナリング・パートナー・タスク (モジュール IPW\$SPS) が終了するまで待機するタイマー・ループに入ります。ジャーナリング・パートナー・タスクが終了すると、POFFLOAD タスクも終了します。

オペレーターの応答: RC=68 の場合は、システムをシャットダウンするときに PEND FORCE コマンドを使用して、システムが次回始動されるときにリカバリーが強制されるようにしてください。他のすべての理由コードの場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: RC=68 の場合は、メッセージに含まれる情報 (Q-REC-NO および BLOCK 番号) を使用して、失われたデータの一部を回復することを考慮する余地があります。支援が必要なときは、IBM にお問い合わせください。それ以外の理由コードの場合は、既知問題データベースの調査を IBM に依頼してください。

1QZ1D SUBSYSTEM *ssystem* RUNNING IN PARTITION *xx* - REPLY 'YES' TO FLUSH PARTITION

説明: サブシステムが実行されている区画に対して PFLUSH コマンドが入力されました。システム・オペレーターは、フラッシュを確認するように要求されます。

システムの処置: VSE/POWER は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: サブシステムを実際に取り消す場合には 'YES' と応答してください。その他の場合には、'NO' と応答するか、または ENTER を押すだけにしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QZt

説明: このメッセージは、DDS (例えば、PSF または CICS

1Rxx=VSE/POWER メッセージ

1R02I LINE *cuu* STOPPED, TIME=*hh:mm:ss*

説明: 通信回線 *cuu* を停止させる PSTOP コマンドが出されたか、リカバリー不能な通信回線エラーのため通信回線が停止しました。

システムの処置: 回線 *cuu* は停止し、VSE/POWER は処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

レポート・コントローラー) から「send message order」を介して出されるメッセージに先立って出されます。t は A または I です。

システムの処置: 1QZ2A の場合 (7 番目の位置の「A」標識とともに PSF メッセージ、CICS メッセージ DFH5478/9、または CICS/TS メッセージ DFHRC5478/9 に対して出されます)。出力を処理中のタスクは、オペレーターの応答を待ちます。応答については、DDS を処理するためのメッセージの説明を参照してください。1QZ2I の場合 (PSF メッセージ・ヘッダーの 7 番目の位置の「A」標識のない PSF メッセージに対して出されます)、VSE/POWER は情報メッセージを受信し、正常通り処理を続行します。

オペレーターの応答: DDS を処理するためのメッセージの説明を参照してください。 応答としては、PGO....、PFLUSH....、または PSTOP..... が考えられます。

注:

1. 1QZ2A メッセージ接頭語は、SET 1QZ2A=OFF 自動スタート・ステートメントにより、抑止される可能性があります。
2. 期待どおりのオペレーター処置がとられたときに、1QZ2A のコンソール・メッセージ ID が CICS または PSF に渡され、DOM サポートを介して画面からメッセージが除去されます。それ以外の場合、メッセージは手操作で削除する必要があります。

システム・プログラマーの応答: なし。

1QZ3D PROCESS 'power-command'? CONFIRM WITH 'YES', ELSE 'NO'

説明: ローカル・オペレーターが VSE/POWER コマンドを出しました。以下により、確認が要求されます。

- AUTOSTART ステートメント SET CONFIRM=power-command
- 選択されたキューのすべての項目の削除が誤って実行されたときのための VSE/POWER のデフォルト保護機能

システムの処置: VSE/POWER は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のように応答してください。

YES VSE/POWER がコマンドを処理する必要がある場合。

NO コマンドが間違えて出された場合。

その他の応答をすると、このメッセージが再表示されます。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R03I TRANSM *number*, TIMEOUTS *number*, ERRORS *number*

説明: 次のいずれかです。

1. リモート・ユーザーがサインオフしたか、強制的な通信回線のサインオフが行われたか、または PSTOP コマンドが出された結果、通信回線が停止しました。
2. 別のノードでセッションが終了しました。

メッセージには、セッションの期間中に送受信されたバッファの数が示されます。

このメッセージによって表示された統計は、該当する回線/ノード会計レコードにも含まれます。

システムの処置: VSE/POWER は処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R04I **LINE *cuu* FORCED TO STOP BY PSTOP
FORCE OR PEND IMM COMMAND,
TIME=*hh:mm:ss***

説明: FORCE オペランドを指定したコマンド PSTOP lineaddr が出されたか、または PEND IMM コマンドが出されました。

システムの処置: 回線に対する (およびサインオンした場合は、そのリモート ID に対する) すべての活動が終了します。オペレーターの応答: FORCE オペランドを指定した PSTOP lineaddr を出すことにした状態のことを、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: ハードウェアの障害が原因で、オペレーターが PSTOP を出したものと考えられます。PSTART または SDAID (あるいはその両方) の TRACE オプションを使用して、問題を突き止めてください。

1R05I **SENT *number* RECEIVED *number***

説明: セッションが次のいずれかによって終了しました。すなわち、リモート・ノードによって、または PSTOP コマンドの結果として、またはセッション中のリカバリー不能なエラーの結果として終了しました。終了した理由は、このメッセージの前に出されたメッセージ 1RBOI に示されています。

NUMBER は、セッションがアクティブであったときに送信および受信されたバッファの数を示しています。

システムの処置: 他のセッションの処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R06I **LINE *cuu* NOT TRANSPARENT**

説明: PLINE マクロで透過性として定義されていない回線を使用するノードに対して PSTART が出されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: プログラマーに通知してください。訂正が行われた後、PSTART コマンドを出し直してください。

システム・プログラマーの応答: この回線に対する PLINE 生成を訂正し、VSE/POWER の生成をアセンブルし直してカタログしてください。

1R07I **TIMEOUT LIMIT IS EXCEEDED FOR
{SWITCHED|LEASED} LINE *cuu*, RC=*nnnn***

説明: 回線がアイドル状態でいられる時間を超過しました。理由コード (RC) は次のとおりです。

RC=0001:

「サインオン完了」後、データ転送が行われていない

とき (制御モード) に、端末が、PLINE マクロの TIMEOUT=*n* で指定された *n* 分間、応答しませんでした。

RC=0002:

「サインオン完了」前、約 1 分 (20 タイムアウト) 以内に初期コンタクトに進んでいません。

RC=0003:

「サインオン完了」後、データ転送中 (受信/送信モード) に、端末が、約 1.5 分間 (30 タイムアウト) 応答しませんでした。

理由の詳しい説明については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」の PLINE 生成マクロの TIMEOUT オペランドも参照してください。

システムの処置: 回線上の活動が終了します。VSE/POWER は、メッセージ 1R18I で示されたリモート ID に対して SIGNOFF を強制します。回線はサインオンまたはダイヤルインが行える状態にリセットされます。

オペレーターの応答: 回線 *cuu* に頻繁にこのメッセージが起る場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 理由コードに応じて、次のとおりです。

RC=0001:

PLINE 生成マクロの TIMEOUT オペランドの *n* に指定した値を増やすことを検討してください。交換回線の場合は、*n* を増やすと、回線料金が増すことがあります。

RC=0002:

回線 *cuu* が実際に次のいずれの回線であるかを検査してください (PLINE の定義はメッセージ・テキストに示されています)。

1. 専用回線であるか。また、それが PLINE マクロで誤って 交換回線として定義されたものであるかを検査してください。そのため、初期 CCW シーケンス (DISABLE、SETMODE、ENABLE、NOP、READ) は 'ENABLE' に留まることなく、PSTART RJE*cuu* の直後に 'READ' になります。
2. 交換回線であるか。また、それが誤って 専用回線として定義されたものであるかを検査してください。そのため、初期 CCW シーケンス (DISABLE、SETMODE、ENABLE、PREPARE、READ) は、エラー・リカバリー・ルーチンを混同して、介入要求を使用して 'PREPARE' で失敗するため、不正なステップが実行されます。

いずれの場合も 'READ' 要求の繰り返しの結果、

「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」の PLINE マクロの TIMEOUT オペランドで説明されているように、「サインオン完了」の前に限界を超えるタイムアウトが起ります。実際の回線タイプが PLINE マクロで生成されたタイプに一致することを確認してから、RJE 通信を再実行してください。PLINE 定義が正しい場合は、PSTART 回線コマンドの TRACE オプションまたは SDAID 回線トレ

1R08I • 1R09I

ースを使用して、端末が約 1 分以内にそのサインオン要求を完了しなかった理由を詳しく調べてください。

RC=0003:

問題が繰り返り起こる場合は、PSTART 回線コマンドの TRACE オプションまたは SDAID 回線トレースを使用して、端末がデータ転送のどの時点でそれ以上の応答を拒否したかを詳しく調べてください。

1R08I LINE cuu WAITING FOR SIGNON, TIME=hh:mm:ss

説明: 回線が始動しました。または、通信が終了しました。
システムの処置: システムは、リモート端末装置からのダイヤルインまたは SIGNON を待ちます。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

1R09I LINE ERROR OCCURRED ON LINE cuu, RC=qqnn

説明: RJE/BSC エラー・リカバリー・ルーチンでリカバリーさせることのできない永続的な回線エラーが、回線 cuu に発生しました。RC= の qq は、VSE/POWER から出された先行する回線要求を識別し、RC= の nn は、結果の応答を識別します。

- qq = 要求タイプ
- 01 専用回線のための初期準備シーケンス
 - 02 交換回線のための初期準備シーケンス
 - 10 短い NOP シーケンス
 - 11 照会シーケンス
 - 12 テキストの終わり
 - 20 NAK シーケンス
 - 21 WACK シーケンス
 - 22 DLE ACK0 シーケンス
 - 23 RVI シーケンス
 - 30 再試行シーケンス
 - 31 再始動シーケンス
 - 32 切断シーケンス
 - 33 使用不可シーケンス
 - 34 EOT 使用不可シーケンス
 - 40 ETB 書き込みシーケンス
 - 41 書き込みトランスポート・シーケンス

要求タイプについてさらに詳しくは、モジュール IPW\$\$BM または IPW\$\$LM で説明されています。

nn = 結果の応答: 固有なコード位置と簡単な説明

- 01 (CHCENG/IPW\$\$LM)
前に送られた ENQ による「回線の送信権要求」に対する応答として ENQ を受け取った (レーシング)。
- 02 (CHEC70/IPW\$\$LM)
「ユニット・チェック」が発生し、センス・データによって「装置チェック」が通知された (モデムとコントローラーのハードウェアに誤動作がないか検査してください)。
- 03 (CHECK704/IPW\$\$LM)

- 04 (CHECK706/IPW\$\$LM)
「ユニット・チェック」が発生し、センス・データによって「バスアウト・チェック」が送られた。
- 05 (CHECKLDAT/IPW\$\$LM)
「ユニット・チェック」が発生し、センス・データによって「コマンド・リジェクト」が通知された。無効なコマンドが指定されたか、または回線がこのコマンドを実行できない状態にあります。
- 06 (CHECL10/IPW\$\$LM)
「ユニット・チェック」が発生し、センス・データによって「データ脱落」または「データ・チェック」または「オーバーラン」が送られ、内部再試行の限界を超えている。
- 07 (CHECINT/IPW\$\$LM)
「ユニット・チェック」が発生し、センス・データによって「データ脱落」または「データ・チェック」または「オーバーラン」が送られたが、最後の CCW が 'Prepare' でも 'Read' でもない。
- 08 (CHECINT1/IPW\$\$LM)
「ユニット・チェック」と、交換回線に関する「介入要求」が発生した。通常、ダイヤルした電話接続が切れています。
- 09 (CHECI10/IPW\$\$LM)
書き込み要求の進行中に、「ユニット・チェック」と、専用回線に関する「介入要求」が発生した。通常は、モデムの誤動作です。
- 0B (EXPAN496/IPW\$\$BR)
「ユニット・チェック」と、専用回線に関する「介入要求」が発生し、読み取り、制御、または進行していない書き込み要求が内部再試行の限界を超えた。
- 11 (CH09A/IPW\$\$LM)
受信したバッファから物理レコードをブロック解除していたときに、区切り文字として有効な BCS 制御文字が見つからなかった。
- 12 (CHCENQ0310/IPW\$\$LM)
チャネル状況の中に破滅的なエラーが示されている。
- 13 (CHCERR/IPW\$\$LM)
オペレーターによって 3741 用に出された PSTOP が終了し、サインアウト・メッセージが端末で受け入れられなかった。
- 14 (ST7241X/IPW\$\$LM)
制御モードで予期しない ACK0 があつたか、または ENQ/ACK0/WACK がない場合で、交換回線に関して再試行の限界 (8 回) を超えている。
- 15 (CHRECV20/IPW\$\$LM)
3741 端末に関して、不明の状況メッセージ (「D」または「V」) を受け取った。
- 16 (CHRECV30/IPW\$\$LM)
3741 状況メッセージを受け取ったが、再試行後であっても、ETX で終了していない。
- 17 (CHRECV40/IPW\$\$LM)
ユーザー・データを受け取ったが、STX または DLE/STX で始まっていない。
- 17 (CHRECV40/IPW\$\$LM)
ユーザー・データを受け取ったが、ETB または ETX で終わっていない。

- 18 (CHRERR/IPW\$\$LM)
端末から予期しない NAK を受け取った。
- 19 (CH08/IPW\$\$LM)
「ユニット・チェック」が発生したが、「タイムアウト」は起きていない。
- 1A (CH08A/IPW\$\$LM)
「ユニット・チェック」が発生したが、センス・データが「タイムアウト」である。
- 1B (CHECT10A/IPW\$\$LM)
受信/送信モードで「ユニット・チェック」と「タイムアウト」が発生したが、最後の要求が「読み取り」でも「書き込み」でもなかった。おそらく、内部エラーと考えられます。
- 1C (CHER05/IPW\$\$LM)
非読み取り操作に対して「装置例外」(書き込みの衝突)が発生した場合で、内部書き込み限界の 7 回を超えた。
- 1D (CHCERR3/IPW\$\$LM)
制御モードにあるときに、予期しない ACK0 があったか、または ENQ/ACK0/WACK がなかった場合で、再試行の限界の 7 回には達していないが、LCB 停止コードがある。
- 1E (CHCERR4/IPW\$\$LM)
制御モードにあるときに、予期しない ACK0 があったか、または ENQ/ACK0/WACK がなかった場合で、再試行の限界の 8 回に達していて、LCB 停止コードがある。
- 1F (CHCERR5/IPW\$\$LM)
制御モードにあるときに、予期しない ACK0 があったか、または ENQ/ACK0/WACK がなかった場合で、再試行の限界の 7 回に達していて、LCB 停止コードがある。

システムの処置: 回線上の活動が終了します。VSE/POWER は、メッセージ 1R18I で示されたリモート ID に対して SIGNOFF を強制します。回線は、リモート端末がサインオンまたはダイヤルインできるようにリセットされます。

オペレーターの応答: 回線 *cuu* に関してこのメッセージが頻繁に発生する場合は、レコーダー・ファイルの印刷出力を作成して、システム・プログラマーに連絡してください。しばしば、ハードウェア・エラーが回線エラーの原因である場合があります。接続プラグをいったん引き抜き、正しく接触しているかどうかを確かめ、もう一度差し込んでみてください。

システム・プログラマーの応答: システム記録ファイルの印刷出力、PSTART コマンドの TRACE オプション、または SDAID (トレース SSCH および OUTPUT=(CCWD=256) を指定した入出力) を使用して、問題を突き止めてください。初期準備シーケンスが失敗する場合 (*qq*=01/02) は、PLINE マクロの中の該当の BSC 回線定義、エミュレーション・プログラム定義および VM 定義を検査してください。起こり得る原因の 1 つとしては、回線がネットワーク内で SDLC 回線として定義されていることが考えられます。

別の原因 (ESA バージョン 1 から 2 への移行で、RC=0102、0202、0111 または 0211 の場合) としては、専用回線アダプターの VM/CP 定義が正しくない場合があります。'SET RDEVICE *rdev* TYPE BSC_ADAPTER' が示されるはずですが、

1R10I INVALID SETUP COMMAND

説明: SETUP (または * .. SETUP) コマンドで、正しくないパラメーターが使用されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: パラメーターを訂正してコマンドを再サブミットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R11I INVALID STOP COMMAND

説明: * .. STOP コマンドで、正しくないパラメーターが指定されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して再サブミットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R12I INVALID {CLASS|OPTION} SPECIFICATION

説明: * .. START コマンドで指定されたクラスまたはオプションが、いずれかの理由で無効です。

- オプションが SKIP でも NOSKIP でもありません。

- 5 文字以上が指定されています。

- 同じ文字が 2 回指定されています。

- A から Z または 0 から 9 以外の文字が指定されています。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して再サブミットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R13I INVALID TASK SPECIFICATION

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. * .. START、* .. STOP、または * .. GO コマンドで指定されたタスクが、LST でも PUN でも MSG でもありません。

2. * .. SETUP コマンドで指定されたタスクが、LST ではありません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して再サブミットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R14I EOF ON THE READER

説明: 端末読取装置で、EOJ より先にファイルの終わり条件が起きました。

システムの処置: RJE 読み取りタスクは待ち状態になります。

n 分 (n は VSE/POWER 生成時に TIMEOUT パラメーターで指定されます) 内にオペレーターの応答がなければ、端末はサインオフされ、現在の入力フラッシュされます。

オペレーターの応答: 端末読取装置にジョブ入力の残りを入れ、その読取装置を作動可能にして処理を続けてください。

注: VSE/POWER RJE コマンドにキー入力エラーがある場合、VSE/POWER はそれをコマンドとして認識しません。

1R15I • 1R21I

VSE/POWER はエラーのあるコマンドをデータとして扱い、このメッセージを出します。このような場合は、/ & と * ..DELETE RDR, AUTONAME コマンドを入力し、次に RJE コマンドを訂正して再サブミットしてください。
システム・プログラマーの応答: なし。

1R15I REMOTE *remid* SIGNED-ON ON LINE *cuu*, TIME=*hh:mm:ss*

説明: あるリモート・ユーザー (リモート ID で示される) が有効な SIGNON コマンドを入力しました。
システムの処置: 端末は中央システムに論理的に接続されます。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

1R16I REMOTE *remid* SIGNED OFF, TIME=*hh:mm:ss*

説明: あるリモート・ユーザーが有効な * ..SIGNOFF コマンドを入力しました。
システムの処置: 端末は中央システムから論理的に切り離されます。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

1R17I LINE *cuu* IS IN SHUTDOWN, TIME=*hh:mm:ss*, STOP CODE B'*xxxxxxxx*'

説明: このメッセージには、回線制御ブロック停止コード (LCBSCOD) が 2 進 (B) 表記で示されています。このコードにより、シャットダウンの原因が詳しく説明されます。

1. 中央オペレーターが回線を停止させました。

B'*x1xxxxxx*':

コマンド 'PSTOP *cuu*,FORCE' または 'PEND IMM' のため停止

B'*xxx1xxxx*':

コマンド 'PSTOP *cuu*,EOJ' または 'PEND' のため停止

B'*xxxxxx1x*':

コマンド 'PSTOP *cuu*' のため停止

2. 回線エラーまたは他の何らかのエラー条件のために、回線を停止させ、処置を実行中です。

B'*1xxxxxxx*':

入出力消失のため停止

B'*xx1xxxxx*':

タスク作成に使用できる実スペースがないため停止

B'*xxxx1xxx*':

回線エラーのため停止 (1R09I の理由コードも参照)

B'*xxxxx1xx*':

タイムアウトのため停止 (1R07I の理由コードも参照)

B'*xxxxxxx1*':

リモート端末によるサインオフのため停止

システムの処置: 端末は切り離され、すべてのストレージが解放されます。入力中にこのメッセージが出された場合は、それ

以上の入力の送信は停止されます。出力中にこのメッセージが出された場合は、現在のジョブ出力は保持されます。
オペレーターの応答: 回線が再始動されるまで待つてから、再びサインオンしてください。または、中央のオペレーターに問い合わせてください。
システム・プログラマーの応答: なし。

1R18I REMOTE *remid* FORCED TO SIGN OFF, TIME=*hh:mm:ss*

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. 中央のオペレーターが回線を停止させました。
2. VSE/POWER が、リカバリー不能な回線エラーまたはユーザー生成 TIMEOUT 条件を検出し、回線を停止させました。その理由は、回線 CUU で前に出されたメッセージによって与えられます。
3. DISCONNECT 要求 DLE-EOT を受信しました。その要求で REMOTE REMID がサインオフを強制され、回線が使用不能になります。

システムの処置: 端末は非アクティブになります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R19I FIRST CARD MUST BE SIGNON CARD, READER FLUSHED

説明: 現在サインオンされていない端末からの入力ストリームで、最初のカードが SIGNON コマンドではないか、または SIGNON コマンド構文が正しくありません。

システムの処置: 入力ストリームはフラッシュされます。

オペレーターの応答: 最初のカードとして * ..SIGNON コマンドを用いて、入力ストリームを再サブミットしてください。

「*」と「..」の間にブランク文字を 1 つ入れることに注意してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R20I *nmm* MESSAGES DELETED

説明: メッセージ・キュー内に、すべてのメッセージを入れるスペースが十分にありません (おそらく、端末の印刷装置が作動可能状態になっていないからです)。

システムの処置: キューを独占しているリモート ID 宛てのメッセージは削除されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R21I SIGNON IGNORED, INVALID REMOTE-ID

説明: * ..SIGNON コマンドで指定されているリモート ID は、VSE/POWER では認識できません。

システムの処置: 入力ストリームはフラッシュされます。

オペレーターの応答: 有効な * ..SIGNON コマンドを挿入して、入力ストリームを再サブミットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1R22I SIGNON IGNORED, INVALID
PASSWORD**

説明: SIGNON コマンドで指定されたパスワードが、中央オペレーターがこの回線に定義したパスワードと一致しません。または、中央オペレーターがパスワードを定義していない場合には、VSE/POWER 生成時に指定されたデフォルト・パスワードと一致しません。

システムの処置: 入力ストリームはフラッシュされます。

オペレーターの応答: 有効な * .. SIGNON コマンドを挿入して、入力ストリームを再サブミットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R23I REMOTE *remid* ALREADY SIGNED ON

説明: * .. SIGNON コマンドがサブミットされましたが、リモート作業端末はすでにサインオンされています。

システムの処置: 入力ストリームはフラッシュされます。

オペレーターの応答: * .. SIGNON コマンドを入力ストリームから除去してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1R24I *commandcode* COMMAND OUT OF
SEQUENCE**

**where *commandcode* is one of the
following:**

**START, STOP, GO, SETUP, or SIGNON
on an already signed on terminal.**

説明: コマンドの入力時点が正しくありません。例えば、*..START コマンドがアクティブ・タスクに対して出されたか、あるいは別のタスク管理コマンドが非アクティブ・タスクに対して出されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: コマンドの順序を訂正してください。

順序が疑わしい場合は、「VSE/POWER Remote Job Entry」を参照してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1R25I REMOTE *remid* RECORD FORMAT
ERROR ON LINE *cuu***

説明: 回線エラーまたは端末エラーで生じた無効なデータ・レコードが、リモート端末装置から受信されました。これは、おそらくハードウェア・エラーです。

システムの処置: 入力ストリームはフラッシュされ、回線は強制停止されます。

オペレーターの応答: 最後に受信されたブロック/レコードを検査して、担当のシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: エラーの原因を調べて、訂正してください。

**1R26I FOR *jobname jobnumber* RECORD EXCEEDS
SPECIFIED LIST/PUN VALUE OF
REMOTE=*remid***

説明: キュー項目 *jobname jobnumber* の印刷行または穿孔レコードの実際の文字数が、リモート端末 *remid* の PRMT マクロ

の LIST または PUN オペランドによって指定された値 (または端末のデフォルト値) を超えました。

システムの処置: このメッセージは、端末 *remid* と中央オペレーター・コンソールの両方に送信されます。出力エントリー *jobname jobnumber* の伝送は、途中で終了します。エントリーは、保留状況のキュー (DISP=D -> H, K -> L) に返されません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: リモートの印刷行サイズまたは穿孔レコード・サイズを、リストあるいは穿孔出力を作成するアプリケーション・プログラムの印刷行指定と比べて、調べてください。

**1R27I REMOTE *nnn* COMPONENT SELECT
ERROR ON *cuu***

説明: 端末装置が、VSE/POWER から送信されたコンポーネント選択文字を拒否しています。

システムの処置: 書き込みタスクは強制停止されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: 関連の PRMT マクロのコンポーネント選択文字指定を調べるか、または、この端末装置機構が存在していないので、コンポーネントの選択を抑制してください。

**1R28I DISABLE FOR LINE *cuu* FAILED, POWER
OFF MODEM MANUALLY**

説明: 回線のモデムに対して最終使用不可コマンドが出され、数回再試行されましたが、正常に完了しませんでした。

システムの処置: 回線は停止します。

オペレーターの応答: 電話接続はまだ確立したままです。回線料金を節約するためにモデムの電源を手動で切ってください。モデムが仕様どおりに作動するかどうか、ハードウェアを調べてください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 適切なモデム操作であることを確認するための手順に従ってください。

**1R30I 1. INVALID CCW - CCB ADDR=X'aaaaaa'
jobname jobnumber, X'*cuu*' RC=*nnnn*,
PARTITION *partition-id*
2. [CCB=ccccccc *ddddddd* *eeeeeee* *fffffff*
ADDR=*aaaaaaaa*, *partition-id*]
3. [CCW=*gggggggg* *hhhhhhhh*,
ADDR=*bbbbbbb*, *partition-id*]**

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明: VSE/POWER は、16 進アドレス *aaaaaaaa* の CCB で、または CCB アドレスで示された 16 進アドレス *bbbbbbbb* の CCW で、CCW 形式に関するエラーを検出しました。アドレスは、それぞれの場合の実際のアドレスです。理由は理由コード (RC) で示されます。*nnnn* の意味は次のとおりです。

1R31I • 1R33A

RC=0001:

IDAL フラグまたはデータ・チェーンをサポートする CCW が検出されました。

RC=0002:

無効なコマンド・コードが検出されました。

RC=0003:

CCW がユーザーの区画、LTA、SVA のいずれにもありません。

RC=0004:

データ域がユーザーの区画、LTA、SVA (書き込み操作のみ) のいずれにもありません。

RC=0005:

CCW 内のデータ・レコード長がゼロ (TIC CCW 以外) か、または 32K-8 を超えています。

RC=0006:

CCW がダブル・ワード境界で開始していません。

RC=0008:

印刷装置操作でチャンネルが参照されましたが、そのチャンネルについて現在使用中の FCB では何も指定されていないか、VSE/POWER 生成または * \$\$ LST ステートメントの LTAB オペランドでチャンネルが指定されていません。

RC=0009:

FCB ロード CCW によって渡される FCB イメージが無効です。

RC=0010:

無効な JECL ステートメントが SEGMENT マクロによって渡されました。

RC=0011:

TIC 数が 255 を超えています。

RC=0012:

CCB が形式 1 CCW を示していますが、形式 1 CCW は VSE/POWER でサポートされていません。

RC=0013:

EXCP REAL をサポートする CCB が検出されました。

RC=0014:

入出力の開始後に CCW が変更され、データ域またはデータ・レコード長のいずれかが変更されました。元の値は後続メッセージ 1R38I に示されています。

システムの処置: この VSE ジョブ (VSE/POWER ジョブ内の) は取り消されます。

オペレーターの応答: プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: CCB または CCB アドレスで示された障害のある CCW を調べて、訂正してください。

1R31I UNABLE TO LOG TRACE AREA, RC=nnnn

説明: この戻りコードは、次のいずれかです。

RC=0004:

ダンプ・ライブラリーがいっぱいか、またはダンプ・ライブラリーが定義されていない。

RC=0008:

ライブラリー・エラー (入出力エラーまたは OPEN/CLOSE エラー)。

RC=000C:

無効なパラメーター・リストまたは無効な症状レコード。

システムの処置: トレース域が、次に続くトレース項目で上書きされ、最初の部分が失われます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: ダンプ・ライブラリーがいっぱいの場合は、いくつかのダンプを印刷または削除してください。

1R32I OUTPUT EXIT INTERFACE INCORRECT, RC=nnnn, PROCESSING jobname jobnumber, TASK task-id, cuu STOPPED.

説明: 理由は戻りコード (RC) によって示されます。nnnn は以下のいずれかです。

0001: 出力出口ルーチンから無効な戻りコードが返された。

0002: 挿入されるレコードのレコード・アドレスまたはレコード長がゼロである。

0003: レコード・アドレスまたはレコード長が変更されたが、通常のレコード処理が戻りコードに示されている。

0004: 削除戻りコードはこのレコードのタイプでは許されていない。

0005: 挿入戻りコードはこのレコードのタイプでは許されていない。

システムの処置: アクセス中のキュー項目は、元の後処理のままスプールに残っています。タスクは停止します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 出口ルーチンを訂正して、これを再カタログしてください。新しいバージョンの出口ルーチンを PLOAD コマンドでロードするか、あるいは VSE/POWER を停止させ、新しいバージョンの出口ルーチンを指定して再始動してください。

1R33A

1. WRONG JECL FROM

{SPOOL|SLI-MEMB|SEGMENT} , JOB
jobname jobnumber partition FLUSHED DUE
TO 'SET 1R33D'

2. WRONG JECL FROM

{SPOOL|SLI-MEMB|SEGMENT} IGNORED
FOR JOB jobname jobnumber partition DUE
TO 'SET 1R33D'

3. WRONG JECL FROM

{SPOOL|SLI-MEMB}, JOB jobname jobnumber
partition FLUSHED

注: 左側の数字は、画面上に実際

には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明: VSE/POWER が誤った JECL ステートメントを検出したか、またはその継続がスプール (RDR キュー) か SLI メンバー (VSE/AF または VSE/ICCF ライブラリー) のいずれかから読み取られたか、あるいは実行中のジョブから SEGMENT

マクロによって渡されました。それぞれのメッセージは、次のようになっています。

- メッセージ 1 および 2 の場合、自動スタート・ステートメント 'SET 1R33D=FLUSH|IGNORE' によって 1R33A が表示されました。
- メッセージ 3 の場合、誤って作成された複製キュー項目が無条件にフラッシュされます。

システムの処置: システムは、コンソール上に誤った JECL ステートメントまたは誤った継続を表示し、その後メッセージ 1Q44I、1Q49I、1Q50I、1Q51I、1QK1I、または 1QK2I を表示します。

表示されたステートメントに PWD= または SEC= パラメーターが含まれている場合は、そのパラメーター値で始まるすべての文字とそれ以降の文字は抑止されます。

上記のメッセージ形式に応じて、次のとおりです。

1. VSE/POWER は、ジョブを「内部的」にフラッシュし、DISP=H|L で読み取りキューに保持します。
2. VSE/POWER は誤りのある JECL を無視し、ジョブが実行されます。
3. VSE/POWER は、ジョブを「内部的」にフラッシュし、DISP=H|L で読み取りキューに保持します。

注: 書き込み専用区画の場合、フラッシュは無視され、FLUSH は IGNORE として扱われます。

オペレーターの応答: この問題をシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 1R33A で、誤った JECL がスプール (RDR キュー) から読み取られたことが示された場合は、JECL を訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

メッセージ 1R33A で、誤った JECL ステートメントが SEGMENT マクロ呼び出しによって渡されたことが示された場合は、SEGMENT マクロ要求を含んでいる特定のフェーズから渡された JECL ステートメントに関して、そのジョブを分析し、訂正してください。

注: VSE/POWER の「内部」フラッシュを条件付きジョブ制御 'ON \$CANCEL' 処理によって識別する必要がある場合は、VSE/POWER スタートアップ・プロシージャに 'SET INTFLUSH=OPER' ステートメントを組み込むことを検討してください。

1R33D CORRECT FULL STATEMENT *task-id*

説明: 次のいずれかを行ってください。

- 誤りのある JECL ステートメントが読み取られたか、または SEGMENT マクロ呼び出しによって渡されました。
- JECL 継続カードに誤りがあります。

注: 表示された誤りのある JECL が継続ステートメントだけを示している場合は、ステートメント全体が 1 つのコンソール入力行に収まる場合のみ、訂正が可能です。

システムの処置: システムは、誤りのある JECL ステートメントまたは継続ステートメントをメッセージ 1R33D の前にコンソールに表示し、オペレーターの応答を待ちます。表示されたステートメントに PWD= または SEC= パラメーターが含まれている場合は、そのパラメーター値で始まるすべての文字と

それ以降の文字は抑止されます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 正しい JECL ステートメント全体を入力してください。そのとき、すべてのパラメーターを指定し、継続カードがある場合は、そのパラメーターも指定してください。すべてのパラメーターが 1 入力行に収まらなくてはなりません。
- EOB キーを押して、JECL ステートメントを無視してください。
- FLUSH を入力して、VSE/POWER ジョブ全体を無条件でフラッシュしてください。

注: 書き込み専用区画の場合、フラッシュは無視され (メッセージ 1R61I も参照)、FLUSH は EOB として扱われます。

担当のプログラマーおよびシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: オペレーターがメッセージ 1R33D に応答するまで VSE/POWER のメッセージ処理がロックされないようにするためには、事前定義の障害決定に 'SET 1R33D=FLUSH|IGNORE' 自動スタート・ステートメントを使用することを検討してください。

プログラマーの応答: ジョブ実行後に JECL ステートメントを訂正してください。

1R33I NO VALID CORRECTION *task-id*

説明: オペレーターが入力した訂正済み JECL ステートメント (e. g. * \$\$ JOB、* \$\$ LST、* \$\$ PUN) が、誤った JECL ヘッダー文字で始まっています。

システムの処置: このメッセージに続いて 1R33D が出されません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1R34I *commandcode* OPERAND *nm* NOT MEANINGFUL FOR LST OR PUN QUEUE

説明: VSE/POWER コマンドが出され、LST または PUN キューが指定されていました。さらに、CDUE オペランドが、そのコマンドで指定されているか、または POFFLOAD コマンドの選択基準メッセージ 1R41D に対する応答として指定されていました。LST または PUN キューのキュー項目が、予定日付オペランドをもっていることはあり得ないので、どのジョブも表示できません。

システムの処置: コマンドは無視され、選択基準メッセージ 1R41D がもう一度出されます。

オペレーターの応答: 別の VSE/POWER コマンドを入力するか、POFFLOAD コマンドの選択基準メッセージに新たに応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R35I WRUN NOT APPLICABLE FOR TAPE DISPLAY

説明: PDISPLAY コマンドが出され、TAPE と WRUN オペランドが指定されていました。'wait for run' サブキューは、稼働中の VSE/POWER システムにだけ存在し、テープにはありません。このため、どのキュー項目も表示できません。

1R36I • 1R41t

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 別の VSE/POWER コマンドを入力してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R36I *jobname jobnumber* WITH INCOMPLETE OR CONFLICTING TIME EVENT SCHEDULING PARAMETERS, RC=*nnnn*

説明: VSE/POWER が * \$\$ JOB ステートメントを受け取りましたが、DUE DATE オペランドが矛盾しています。理由は、戻りコード (RC) に示されており、次のいずれかです。

- 0001: DUETIME が欠落しているが、DUE DAY、DUE MONTH、DUE DATE、DUE FRQ または RERUN オペランドのうちのいずれか 1 つが指定されていた。
- 0002: DUE MONTH が指定されたが、DUE DAY が欠落している。
- 0003: DUE MONTH が指定されたが、DUE DAY には曜日の省略形が使用されている。
- 0004: DUE DATE と DUE DAY が指定されたが、これらは同時には使用できない。
- 0005: DUE DATE と DUE MONTH が指定されたが、これらは同時には使用できない。
- 0006: DUE MONTH と DUE DAY=DAILY が指定されたが、これらは同時には使用できない。
- 0007: DUE FRQ と DUE MONTH、または DUE FRQ と DUE DAY の day-list が指定されたが、これらは同時には使用できない。
- 0008: DUE FRQ が指定されたが、DUE DAY が欠落している (DAILY または DUE DAY の weekday-list のいずれかを指定する)。
- 0009: DUE FRQ と RERUN=YES が指定されたが、これらは同時には使用できない。
- 0010: DUE FRQ に含まれている最後のスケジューリング時刻の値が、DUETIME オペランドに指定された最初のスケジューリング時刻より小さいかまたは等しい。
- 0011: DUE DATE、DUE DAY、DUE MONTH または DUE FRQ、および DUETIME が正符号を付けて指定されたが、この指定は互いに排他的になっている。

システムの処置: ジョブは「保留」状況で RDR または XMT キューに置かれます。期限を指定するすべてのオペランドは無視され、他のオペランドは未変更のままですが、後処理だけは H に変わります。

オペレーターの応答: プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: * \$\$ JOB ステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

1R37I *jobname jobnumber* WITH IMPROBABLE YEAR SPECIFICATION

説明: VSE/POWER は、* \$\$ JOB ステートメントを受け取りましたが、そこに指定されている年が、可能な範囲を超えています。その年は、現行年に 3 を加えたものより大きく、現行年から 10 を引いたものより小さくなっています。

システムの処置: ジョブは「保留」状況で RDR または XMT キューに置かれます。due date オペランドはすべて無視さ

れ、他のオペランドは未変更のままですが、後処理だけは H に変わります。

オペレーターの応答: 年に問題がなければ、ジョブをディスパッチ可能にしてください。プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 年を訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

1R38I CCW=*..aaaaaabbbb*, CONTENTS AT I/O START

説明: 表示された CCW は、スプール入出力要求の開始時に VSE/POWER によって検査されて受け入れられた、CCW データ域および CCW データ・レコード長を示しています。CCW が、入出力の開始後 (まだ VSE/POWER によって完了される前) に変更され、データ域またはデータ・レコード長のいずれかが変更されました。このメッセージには、元の値が示されています。変更された値は、先行メッセージ 1R30I に示されています。

システムの処置: 1R30I を参照してください。

オペレーターの応答: 1R30I を参照してください。

プログラマーの応答: 1R30I を参照してください。

1R40D POFFLOAD WITH 'NOJNO' SPECIFIED FOR OLDNODE - INTENDED? (REPLY: NO/YES)

説明: パラメーター oldnode に 'NOJNO' を指定した POFFLOAD LOAD/SELECT コマンドが出されました。VSE/POWER は、oldnode オペランドとして 'NOJNO' が誤って指定されたものとみなします。オペレーターは、指定されたオペランドの確認を求められます。

システムの処置: VSE/POWER は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 元のジョブ番号を保持するつもりであるのに、POFFLOAD oldnode オペランドとして誤って 'NOJNO' を指定した場合は、'NO' と応答してください。そうすると、VSE/POWER はこのコマンドを拒否し、メッセージ 1R52I を出します。

oldnode オペランドとして風変わりなノード名 'NOJNO' を意図的に使用した場合は、'YES' と応答してください。そうすると、VSE/POWER は、指定されたとおりにこのパラメーターを受け入れます。その他の応答をすると、このメッセージが再表示されます。

プログラマーの応答: なし。

1R41t {SPECIFY TAPE SELECT CRITERIA OR PRESS ENTER TO QUIT | *display line* | queue NOTHING TO DISPLAY | TAPE STATUS REPORT CANCELLED BY OPERATOR}

説明: システム・オペレーターから POFFLOAD SELECT コマンドが出されたか、または PDISPLAY テープ・コマンドが出されたか、または前に要求したテープ表示を終了するために PCANCEL コマンドが出されました。「t」は D または I です。

システムの処置: POFFLOAD SELECT コマンドが出されたと

きは、システムはオペレーターの応答を待ちます。それ以外の場合は、システムは要求されたテープからの情報を表示しません。

オペレーターの応答: POFFLOAD SELECT コマンドを出す場合は、選択基準を指定してください。それ以外の場合は、処置は不要です。選択基準の詳細については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」の POFFLOAD SELECT コマンドを参照してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R43I SHARED SPOOLING NOT ACTIVE

説明: PRESET コマンドが出されましたが、VSE/POWER 生成で VSE/POWER 共用スプーリング機能のサポートは生成されていませんでした。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R44I SYSID *n* IS OWN SYSID OR UNKNOWN

説明: SYSID = *n* を指定した PRESET コマンドが出されましたが、*n* が以下のいずれかの理由で正しくありません。

1. *n* が、コマンドを出している VSE/POWER システムの SYSID です。
2. *n* が、この VSE/POWER システムで認識されていません。つまり、SYSID *n* は異常終了したわけでもアイドルしているわけでもなく、PEND によって正常に終了したか、この共用複合システム内に一度も存在しなかったこととなります。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: リカバリーさせたいシステムの SYSID が実際には何であるかを調べてください。障害の発生したシステムの SYSID は、PDISPLAY ALL コマンドで、システム障害時にシステムでアクティブであったことが分かっているジョブに対して、示されます。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R46I {*display line* | *queue* NOTHING TO DISPLAY | STATUS REPORT CANCELLED BY OPERATOR}

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- PDISPLAY (または * .. DISPLAY) コマンドが出され、その結果、状況報告書が表示されました。または、
- cuu を指定した PEND コマンドが出され、その結果、状況報告書が表示されました。または、
- PCANCEL コマンドが出され、その結果、状況報告書が取り消されました。

システムの処置: システムは、以下のいずれか 1 つ (該当するもの) を表示します。

- 要求された状況情報が使用可能である場合は、当該の状況報告書。
- 表示するものがないこと。
- はじめに要求された状況報告書がオペレーターによって取り消されたこと。

PDISPLAY (または * .. DISPLAY) 応答 (VSE/POWER による) については、IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作 を参照してください。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R47I *task, cuu message* NO MESSAGES PENDING

説明: オペランド M を指定した PDISPLAY コマンドが出されました。

システムの処置: システムは、ローカル、または装置駆動システム (DEV) オペレーターからの応答が据え置かれているメッセージのうち、まだ応答を必要とするものをすべてリストします。または、保留されているメッセージがないことを示します。

オペレーターの応答: なし。ただし、リスト全体が表示されるまでは、コマンドを入力することはできません。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R48I 1. *pdisplay-response line* 2. NO READER OR WRITER TASK CURRENTLY ACTIVE 3. NO COMMAND PASSED VIA MSG INTERFACE 4. COMMAND *cccccccc* NOT SUPPORTED VIA MSG INTERFACE

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明: メッセージ・テキストに応じて、次のとおりです。

1. オペレーターが、オペランド A を指定した PDISPLAY (または * .. DISPLAY) コマンドを出しました。このコマンドへの応答として VSE/POWER によって与えられる状況表示の説明については、IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作 を参照してください。
2. 1 と同じ原因。- ただし、選択可能なタスクが見つかりません。
3. オペレーターが、OC 通信機能 MSG part,DATA= を使用しました。しかし、DATA= オペランドにコマンドが指定されていません。
4. オペレーターが、OC 通信機能 MSG part,DATA=cccccccc を使用しました。しかし、渡されたコマンド ccccccc は、VSE/POWER では、このインターフェースでは受け入れられません。OC 機能の詳細については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」の「診断と保守」も参照してください。

システムの処置:

1. システムは要求されたとおりに状況情報を表示し、処理を続行します。
2. システムは処理を続行します。
3. システムは処理を続行します。
4. システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R49I {QUEUE FILE *ppp*% FULL - *nnnnn* FREE
 QUEUE RECORDS | USED QUEUE
 RECORDS: *nnnnn*, CRE-Q *nnnnn*, DEL-Q:
nnnnn, RDR-Q: *nnnnn*, LST-Q: *nnnnn*,
 PUN-Q: *nnnnn*, XMT-Q: *nnnnn* | QUEUE
 FILE EXTENT ON {CKD-|FBA-}*cuu*,
 SYS*xxx*,*start,length* | DATA FILE *ppp*%
 FULL - *nnnnnnnnn* FREE DBLK GROUPS |
 CURRENT DBLK SIZE=*nnnnn*, DBLK
 GROUP SIZE=*nnnnn* | DATA FILE
 EXTENT *mm* ON {CKD-|FBA-}*cuu*,
 SYS*xxx*,*start,length* | ACCOUNT FILE *ppp* %
 FULL | ACCOUNT FILE EXTENT ON
 {CKD-|FBA-}*cuu*, SYS*xxx*,*start,length* | NO
 ACCOUNTING SUPPORT}

説明: PDISPLAY Q コマンドが出されました。メッセージ中のそれぞれの意味は、以下のとおりです。

nnnnn

メッセージ・テキストで示されているエレメントの数を表します。

ppp

埋め込み状態のパーセンテージを表します。

mm 1 から 32 までの範囲のエクステント番号を表します。

xxx

エクステントの論理装置番号です。

start

ディスク・タイプに応じて、CKD トラックまたは FBA ブロックのいずれかにあるエクステントの開始点です。

length

ディスク・タイプに応じて、CKD トラックまたは FBA ブロックのいずれかにあるエクステントの長さです。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R4AI *display line*

説明: PDISPLAY EXIT コマンドが出され、出口状況報告書が作成されました。このコマンドへの応答として VSE/POWER によって与えられる状況表示の説明については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」を参照してください。

システムの処置: システムは、現在ロードされている出口についての状況情報を表示します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R4BI <*display line*>

説明: PDISPLAY CRE、PDISPLAY DEL、または PDISPLAY BIGGEST コマンドが出され、状況報告書が表示されました。システムの処置: システムは、以下のいずれか 1 つ (該当するもの) を表示します。

- 要求された状況情報が使用可能である場合は、当該の状況報告書。
- 表示するものがないこと。

- はじめに要求された状況報告書がオペレーターによって取り消されたこと。

VSE/POWER による PDISPLAY CRE、PDISPLAY DEL、または PDISPLAY BIGGEST 応答の詳細については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」を参照してください。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1R4CI

1. POFFLOAD JOURNAL BEGIN
2. JOURNAL LST ID= \$OFJ*nnnnn nnnnn*
3. INPUT COMMAND=*cccccccccccccccccccc...*
4. TAPE VOL1
 LABEL=*cccccccccccccccccccc...*
5. TAPE HDR1
 LABEL=*cccccccccccccccccccc...*
6. TAPE KEY ENCRYPTION KEY LABEL
 KEKL(1)= *cccccccc...*
7. TAPE KEY ENCRYPTION KEY
 ENCODING KEM(1)=*c*
8. TAPE KEY ENCRYPTION KEY LABEL
 KEKL(2)= *cccccccc...*
9. TAPE KEY ENCRYPTION KEY
 ENCODING KEM(2)=*c*
10. DATE BEGIN=*aa/bb/cc*,TIME
 BEGIN=*hh:mm:ss*,TIME NOW=*hh:mm:ss*,
 VOL=*nnnn*[(TOTAL)]
11. POFFLOAD JOURNAL END

説明: メッセージは、以下の POFFLOAD ジャーナリング情報項目行を示しています。

1. POFFLOAD ジャーナルの最初の行
2. ジャーナル LST 項目のジョブ名とジョブ番号
3. ジャーナル作成を呼び出した POFFLOAD コマンド
4. *cc...* がある場合は POFFLOAD テープ VOL1 のラベル
5. *cc...* がある場合は POFFLOAD テープ HDR1 のラベル
6. POFFLOAD テープ暗号鍵ラベル KEKL1 (存在する場合)
7. POFFLOAD テープ暗号鍵ラベル・エンコード方式 KEM1 (KEKL1 が指定されている場合)
8. POFFLOAD テープ暗号鍵ラベル KEKL2 (存在する場合)
9. POFFLOAD テープ暗号鍵ラベル・エンコード方式 KEM2 (KEKL2 が指定されている場合)
10. それぞれの新しい POFFLOAD 出力テープの先頭でシーケンス番号 *nnnn* を使用して作成されるタイム・スタンプ
11. POFFLOAD ジャーナルの最後の行

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1R4DI {LST|PUN|XMT} QUEUE ENTRY *jobname*
jobnumber {*jobsuffix*} AUTO-DELETED AT
 AGE {=*l>*} *mmn* {DAY(S)|HOUR(S)}

説明: 有効期限が、現在日時より前であったため、リストまたはパンチ・タイプ項目が削除されました。有効期限の判断は、以下の理由により行われました。

- オペランド EXPDAYS および EXPHRS が、* \$\$ LST または * \$\$ PUN ステートメントで使用された。
- オペランド EXPDAYS および EXPHRS が、PALTER コマンドで使用された。
- SPL (スプール・アクセス・サポートの PUT 出力サービスで使用される) のフィールド SPLXEXPD および SPLXEXPH に有意の値が含まれていた。

nnm は、完了時と削除時の間の日数または時間数を示しています。経過時間が 24 時間未満の場合は、**HOURL(S)** が表示され、そうでない場合は **DAY(S)** が表示されます。*nnm* の表示は、時間数の表示の場合、分単位は無視され、同様に日数表示の場合、時間数は無視されます。キュー項目の有効期間を (繰り返し) **PALTER EXPDAYS=** コマンドで延長すると、日数が 999 を超える場合があります、その場合、「**AT AGE > 999 DAYS**」と示されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。このメッセージがコンソールに大量に表示される場合は、**PVARY MSG,1R4DI,NOCONS** コマンドを使用して、ハードコピー・ファイルに記録するときのみ表示されるよう制限してください。

プログラマーの応答: なし。

1R4EI *commandcode* OPERAND *nn* WITH INCONSISTENT COMPARISON OPERATOR

説明: オペランド *nn* に対して比較演算子を使用したコマンドが発行されましたが、この比較演算子は、例えば、2 つのオペランド **CXPHRS** と **CXPDAYS** を使用する場合など、同じ関数に対して使用された以前のオペランドに使用されたものと同じではありません。

システムの処置: コマンドは処理されていません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1R50D *partition id*{**READER=** | **PRINTERS=** | **PUNCHES=**}

説明: このメッセージは、メッセージ 1R86I に続いて出されます。オペレーターにスプール装置を定義するように要求します。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: メッセージに示された区画でスプールしたい装置を、**CUU** 形式で指定してください。

READER に対しては、**CUU** を 1 つだけ、または **NO** を (**NO** は書き込み機能専用区画を定義します) 指定できます。

印刷装置または穿孔装置を 2 台以上スプールさせる場合は、個々の装置アドレスをコマンドで区切ってください。最大 14 個の装置アドレスを指定できます。

印刷装置と穿孔装置の両方を **NO** と指定すれば、読取専用区画が定義されます。**NO** は 1 項目または 2 項目に対して指定できますが、3 項目全部を **NO** とすることはできません。**VSE/POWER** ジョブに対する * \$\$ LST または * \$\$ PUN ステートメントで印刷装置アドレスまたは穿孔装置アドレスが指定されていない場合、**VSE/POWER** は、指定されている

LST/PUN 属性を、このメッセージへの応答として指定された最初の装置に適用します。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R51I *commandcode* {OPERAND *nn* DESIGNATES NON-EXISTING TASK | NO STATUS REPORT IN PROGRESS}

説明: 最初のメッセージは、処理中のコマンドで指定したタスクが存在しないことを示します。*nn* は、タスクを指定するオペランドの番号です。

2 番目のメッセージは、状況報告書の印刷を停止させるために **PCANCEL** コマンドが出されましたが、そのような印刷は進行中でなかったことを示します。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 最初のメッセージの場合は、正しいオペランドを指定して、コマンドを入力し直してください。2 番目のメッセージの場合は、処置は不要です。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R52I *commandcode* *syntaxerror*

説明: オペレーター・コマンドに構文エラーがありました。*syntaxerror* は次のいずれかです。

注: 左側の数字は、画面上に実際

には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

1. LAST OPERAND INVALID
2. OPERAND *nn* INVALID
3. OPERAND *nn* MISSING OR INVALID
4. OPERAND *nn* NO VALID QUEUE
5. INVALID SPECIFICATION FOR KEYWORD....
6. OPERAND *nn* NOT SPECIFIED AS VALID KEYWORD
7. INVALID BUFFER SPECIFICATION
8. OPERAND *nn* NO DEVICE ADDRESS
9. INVALID DESTINATION SPECIFIED
10. OPERANDS ARE INCONSISTENT
11. OPERAND *nn* INVALID OR NON EXISTING PARTITION
12. PALTER NO SEARCH TYPE OPERAND SPECIFIED
13. OPERAND *op1*(, *op3*, *op4*, *op5*) AND *op2* MUTUALLY EXCLUSIVE
14. OPERAND *nn* INVALID KEYWORD FOR *qqq* QUEUE
15. ccccccc INVALID KEKL(N)= AND KEM(N) SPECIFICATION

エラー記述中の *nn* は、エラーのあるオペランドの順序番号を表します。

15. の場合、中央オペレーターがテープ暗号化のために **POFFLOAD** コマンドを入力し、そのあと、メッセージ **1Q7GA** または **1Q7HA** への応答として **PGO** コマンドを入力しましたが、有効な **KEKL1=** および **KEM1=** オペランドとオペランド値をメッセージ **1Q7GA** に対して応答しなかったか、

あるいは有効な KEKL2= および KEM2= オペランドとオペランド値でメッセージ 1Q7HA に対して応答しませんでした。
システムの処置: 上記のメッセージ形式に応じて、次のとおりです。

1. - 14. コマンドは無視されます。

15. POFFLOAD タスクは正しい PGO 応答を待ちます。

オペレーターの応答: 上記のメッセージ形式に応じて、応答は次のとおりです。

1. - 14. 訂正したコマンドを出し直してください。

15. オペレーターの応答は以下のいずれかです。

- 正しい PGO コマンド
- 取り消し応答

PGO *cuu*,CANCEL

これで、POFFLOAD タスクは終了します。

1R53I *commandcode* INVALID DENSITY OR MODE

説明: PACCOUNT または POFFLOAD コマンドで指定されたテープ密度またはモードが無効です。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 正しいテープ密度またはモードを指定して、PACCOUNT または POFFLOAD コマンドを出し直してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R54I *command* CLASS *class* INVALID

説明: PSTART、POFFLOAD、PALTER コマンドのいずれかで無効なクラスが指定されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: コマンドのクラス指定を訂正してください。有効なクラスは次のとおりです。

- 読み取りタスクに「uraddr」を指定する時: A から Z および 0 から n。「n」は区画 ID です。
- 書き込みタスクに「uraddr」を指定する時: A から Z および 0 から 9 (1 から 4 文字の英数字)。
- 区画を指定する時: A から Z および 0 から n (1 から 4 文字の英数字)。「n」は始動している区画の区画 ID です。

デフォルトは A です。ただし、デフォルトが区画と対応している (BG の場合は 0、F1 の場合は 1 など) 読み取りタスクを除きます。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R55I *commandcode* INVALID FILENAME

説明: PACCOUNT コマンドで指定されたファイル名は無効です。

システムの処置: PACCOUNT コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 訂正した PACCOUNT コマンドを出し直してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R56I *pinquire-display-line*

説明: オペレーターが PINQUIRE コマンドを出しました。このコマンドへの応答として VSE/POWER によって与えられる応答の説明については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R57I { *commandcode* COMMAND IGNORED, TASK IS AT JOB BOUNDARY | JOBEXIT FLUSH IGNORED, TASK IS AT JOB BOUNDARY | JOBEXIT RETURN CODE INCORRECT, TASK *task-id*, *cuu* FLUSHED }

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. すでにジョブの終わりに達しているタスクに対して、PFLUSH または PRESTART コマンド (端末では * .. FLUSH または * .. RESTART コマンド) が出されました。
2. VSE/POWER ジョブの最初のカードを処理中に、VSE/POWER ジョブ出口ルーチンからの「フラッシュ」戻りコードが見つかりました。
3. VSE/POWER ジョブ出口ルーチンから無効な戻りコードを受け取りました。

システムの処置: 現在処理中のジョブはフラッシュされます。

オペレーターの応答: ジョブ出口ルーチンを変更した場合、新しい出口ルーチンを取得するために VSE/POWER を再初期設定することもできますし、あるいは PLOAD コマンドを使用することもできます。出口ルーチンにエラーがある場合、担当のシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出口ルーチンでエラーが起きた場合、ルーチンを訂正して、出口ルーチンをカタログし直してください。

1R58I *commandcode* DEVICE *cuu* IS {NOT KNOWN | DOWN | IN USE}

説明: コマンドの中で指定された装置が、DOS/VSE 監視プログラム内の PUB テーブルにないか、すでに使用中であるか、または使用不能状態です。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 指定した装置アドレスを調べ、必要なら、そのコマンドを訂正して出し直してください。

VSE/POWER がその装置を使用する前に、装置が割り当て解除されているかどうかを確かめてください。その装置が存在し、かつ使用可能であれば、IPL し直し、その装置をハードウェア構成に追加してください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 必要であれば、装置を追加してください。

**1R59I FOR [node-id](username), EXECUTING
COMMAND: command operand**

説明: リモート・ノードまたはワークステーション・オペレーターのいずれかから、コマンドを受け取りました。

システムの処置: コマンドを出したユーザーが正しい権限を与えられていれば、コマンドはこのノードでサブミットされません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1R5AI FLUSH IGNORED, TASK IS IN STOP
STATE**

説明: ある区画に対して PFLUSH コマンドが出されましたが、対応する読み取りまたは書き込みタスクがすでに停止状態になっています。

システムの処置: PFLUSH コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1R5BI commandcode COMMAND IGNORED,
RC=nnnn**

説明: コマンドが、理由コード (RC) の示す理由で拒否されました。nnnn は次のいずれかです。

RC=0001:

オペレーターがメッセージ 1R41D に対する応答で EOB を入力しました。

RC=0002:

メッセージ 1R60D に対して誤った応答が出されました。

RC=0003:

オペレーターがメッセージ 1QZ1D に対して、NO と応答したか、誤った応答または回答を出しました。

RC=0004:

PALTER/PDELETE/PRESET/PHOLD/
PRELEASE/PSEGMENT、PDISPLAY
Q、POFFLOAD PICKUP、または他の POFFLOAD
BACKUP コマンドが、POFFLOAD BACKUP がアクティブのときに出されました。

RC=0005:

POFFLOAD PICKUP コマンドがアクティブのときに、POFFLOAD PICKUP または POFFLOAD
BACKUP コマンドが出されました。

RC=0006:

PALTER/PDELETE/PRESET/PHOLD/
PRELEASE/PSEGMENT または PDISPLAY Q コマ
ンドが、POFFLOAD PICKUP がアクティブな
(DISP=*) 項目を処理しているときに出されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: POFFLOAD BACKUP または
POFFLOAD PICKUP の終了後に、または該当する場合は、訂
正したコマンドを出し直してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1R5CI PHASE TO BE LOADED UNSUITABLE
FOR CURRENT ENVIRONMENT**

説明: PLOAD PHASE コマンドで以下のロードが要求されました。

1. CKD アカウンティング・フェーズ IPW\$\$PA、-GA、-SA
のいずれか。ただし、アクティブ・システムには、対応す
る FBA アカウンティング・ルーチン IPW\$\$PF、-GF、-SF
が必要です。
2. FBA アカウンティング・フェーズ IPW\$\$PF、-GF、-SF の
いずれか。ただし、アクティブ・システムには、対応する
CKD アカウンティング・ルーチン IPW\$\$PA、-GA、-SA
が必要です。

システムの処置: PLOAD コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: PLOAD コマンドを正しく指定するた
めに説明を参照し、対応する適切なフェーズを用いてコマ
ンドを再試行してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1R5DI commandcode COMMAND IGNORED,
TRACING COULD NOT BE
INTERRUPTED AFTER 10 ATTEMPTS,
RETRY COMMAND**

説明: PSTOP CNSLTR コマンドが出されましたが、前に
PSTART CNSLTR,uuu コマンドが出されており、10 回試み
られましたが、示された SYSLST 印刷装置がまだ使用中
であることが判明しました。コンソール・トレースは停
止されましたが、SYSLST 印刷装置を割り当て解除す
ることができませんでした。

システムの処置: SYSLST 印刷装置は VSE/POWER 区画に
割り当てられたままですが、コンソール・トレースは停
止されました。

オペレーターの応答: PSTOP CNSLTR コマンドを出し直
して、SYSLST を割り当て解除してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1R5EI 1. commandcode INVALID, UNIT cuu DOES
NOT SUPPORT ENCRYPTION
2. 1R5EI commandcode INVALID, TAPE
CARTRIDGE ON UNIT cuu NOT
ALREADY ENCRYPTED
3. 1R5EI commandcode INVALID ON UNIT
cuu, TAPE CARTRIDGE IS ALREADY
ENCRYPTED**

注: 左側の数字は、画面上に実際
には表示されません。これらは
以下の説明文と対応させるために
便宜的に追加されています。

説明: メッセージ・テキストに応じて、次のとおりです。

1. 中央オペレーターが POFFLOAD
BACKUP|SAVE|PICKUP コマンドを入力するときに、
KEKL= オペランドまたは装置モード/密度 (指定するか、
あるいは VSE/POWER 区画 PERMANENT テープ装置割
り当てモードにデフォルトで設定) で、暗号化が実行さ
れるよう指示しましたが、装置 cuu は暗号化をサポート
していません。

2. 中央オペレーターが POFFLOAD
BACKUP|SAVE|PICKUP コマンドを入力するときに、KEKL= オペランドまたは装置モード/密度 (指定するか、あるいは VSE/POWER 区画 PERManent テープ装置割り当てモードにデフォルトで設定) で、暗号化が実行されるよう指示しましたが、テープ装置 *cuu* のカートリッジは暗号化されていません。

3. 中央オペレーターが POFFLOAD
BACKUP|SAVE|PICKUP コマンドを入力するときに、装置モード/密度を指定して、暗号化が実行されないよう指示しましたが、テープ装置 *cuu* のカートリッジは暗号化されていて、テープは先頭位置にないため、暗号化されたままです。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: どの場合でも、エラーの原因を訂正するか、またはシステム管理者に連絡してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R60D CONFIRM PRESET COMMAND FOR SYSID *n1,n2,...* BY 'YES', ELSE 'NO'

説明: PRESET コマンドが SYSID *n1, n2,...* に対して出されました。オペレーターは、正しい SYSID が指定されていること、および処置が必要であることを確認するために、このコマンドを確認するように要求されます。

システムの処置: タスクはオペレーターが応答するのを待ちます。

オペレーターの応答: 処置が必要であり、SYSID が正しいければ、'YES' と応答してください。これ以外で応答すると、コマンドは無視され、メッセージ 1R5BI が出されます。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R61I *commandcode* INVALID FOR WRITER ONLY PARTITION

説明: READER=NO によって開始された区画に対して PFLUSH コマンドが出されました。

システムの処置: PFLUSH コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R62I *commandcode* INVALID RJE PASSWORD

説明: RJE/BSC 回線に対する PSTART コマンドのパスワードが 8 文字を超えています。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 正しいパスワードを指定して PSTART コマンドを入力し直してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R63I *commandcode partition-id* PRIORITY TOO HIGH

説明: VSE/POWER 区画の優先順位と同じか、またはそれより高い優先順位をもつ区画に対して、PSTART コマンドが出されました。

システムの処置: PSTART コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: PRTY アテンション・コマンドを用いて

区画の優先順位を変更し、PSTART コマンドを出し直してください。区画が典型的なバッチ区画でなければ、PSTART コマンドの NPC パラメーターを使うことを検討してください。

システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 必要であれば、区画の優先順位に行われた変更を記録しておいてください。

1R64I *{commandcode}* {NO FREE LUB AVAILABLE | SYSLST LUB NOT AVAILABLE} | SYSLST LUB NOT AVAILABLE *task, cuu* | NO LUB AVAILABLE, DISPOSITION FORCED TO D *jobname jobnumber.part.-id*

説明: 物理装置に対して必要な LUB が使用できません。

システムの処置: コマンドは無視されます。* \$\$ LST/PUN ステートメント、およびテープ・スプールのためのパラメーターを持つ実行書き込みタスクの場合には、パラメーターは無視され、ディスクのスプーリングが強制的に行われます。

オペレーターの応答: 読み取りタスクまたは書き込みタスクが停止して、LUB が使用できるようになるまで待ってください。または、読み取りタスクか書き込みタスク (どちらか必要な方) の装置アドレスを指定して PSTOP コマンドを出してください。次に、元のコマンドを出し直してください。DISP

FORCED TO D の場合には、印刷/穿孔がディスクにスプールされてジョブが続けられます。

プログラマーの応答: なし。

1R65I *{commandcode}* RJE,{SNA NOT {SUPPORTED | STARTED} | SNA ALREADY STARTED | BSC NOT SUPPORTED}| *commandcode* RJE [OR PNET] NOT SUPPORTED | *commandcode* DYNAMIC PARTITION SCHEDULING NOT SUPPORTED}

説明: 次のいずれかを行ってください。

- 非 RJE,SNA 環境で RJE,SNA コマンドが出されました。
- 非 RJE,BSC 環境で RJE,BSC コマンドが出されました。
- 非アクティブ SNA 環境で PSTOP RJE,SNA コマンドが出されました。
- アクティブ SNA 環境で PSTART RJE,SNA コマンドが出されました。
- 非 PNET 環境で PNET コマンドが出されました。
- MODE=370 または MODE=ESA を指定せずに監視プログラムの下で実行される PLOAD DYNC または PVAR Y DYNC または PDISPLAY DYNC コマンドが出されました。
- 非 RJE 環境で PDISPLAY MSG コマンドが出されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R66I *commandcode cuu* {LIST WRITER TASK DOES NOT EXIST | NO WRITER TASK SPECIFIED}

説明: PSETUP (または * .. SETUP) または PRESTART (または * .. RESTART) コマンドが、リスト書き込みタスク以外

のタスクのアドレス (cuu) を指定しました。または、書き込みタスクの指定がありません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを訂正し、再サブミットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R67I *commandcode* **OPERAND nm REDUCED TO 99**

説明: PSETUP コマンドに 99 よりも大きいページ数が指定されています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1R68I *commandcode* *partition-id* **{PARTITION NOT AVAILABLE | IS VSE/POWER PARTITION}**

説明: すでにアクティブである区画に対して PSTART コマンドが出されました。あるいは VSE/POWER 区画を開始しようとしていました。

システムの処置: コマンドは無視されます。オペレーター不在システムの実行中に PARTITION NOT AVAILABLE メッセージが出された場合、VSE/POWER は終了し、システムは、全区画を使用可能にして VSE/POWER を再始動するよう VSE/OCCF に指令を出します。

オペレーターの応答: (メッセージ PARTITION NOT AVAILABLE が出された場合) PDISPLAY A,PART,*partition-id* コマンドを使用して、その区画が VSE/POWER の制御下にあるかどうかを調べてください。その区画が VSE/POWER の制御下になれば、次のコマンドを出してください。

- PAUSE *partition-id*,EOJ
- STOP

次に PSTART コマンドを出し直してください。クラス指定を変更する必要がある場合、必要なクラス指定をしてから PALTER コマンドを出してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R69I *commandcode* **{NO ACCOUNTING SUPPORT | COMMAND REJECTED, SAVE ACCOUNT ALREADY ACTIVE}**

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. PACCOUNT コマンドが入力されたが、
 - VSE/POWER が ACCOUNT=NO で生成されているか、または
 - アカウンティング機能が前にメッセージ 1Q74A によって終了させられているか、または
 - VSE/POWER が ACCOUNT=YES で生成されたが、IPL SYS コマンドが JA=NO を指定している。
2. PACCOUNT コマンドが入力されたが、会計タスク (FBA 装置の場合) がアクティブである。

システムの処置: PACCOUNT コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 「説明」の「2」の場合は、PACCOUNT コマンドを再入力してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R70I *commandcode* **NO DEVICE ADDRESS SPECIFIED**

説明: PRESTART コマンドの最初のオペランドが、装置アドレスではありません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 訂正したコマンドを出し直してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R71I *commandcode* **OPERAND nm IS NOT A VALID device type**

説明: メッセージ 1R50D に対するオペレーターの応答が無効です。応答は、NO または適切な装置アドレスでなければなりません。

システムの処置: システムは正しい応答を受け取るまで、メッセージ 1R50D を出して応答を要求します。

オペレーターの応答: 適切なアドレスを指定してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R72I *commandcode* **VIRTUAL STORAGE FOR partition-id SMALLER THAN 128K**

説明: 仮想区画が、許可されている最小値 128 K バイトよりも小さくなっています。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: ALLOC コマンドを用いて区画サイズを変更し、PSTART コマンドを出し直してください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 区画サイズに行われた変更を記録してください。

1R73I *commandcode* **INVALID DEVICE TYPE FOR task**

説明: メッセージに示されたコマンドは装置アドレスを指定していますが、これは、装置タイプとしてシステムに追加されており、このコマンドに指定することはできません。例えば、PSTART コマンドのオペランド 1 と 2 が矛盾しています (印刷装置から読み取ることはできません。またはカード読取装置で書き込むことはできません)。「task」は、LST、PUN、RDR、RJE、LINE、TAPE のいずれかです。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 適切な装置アドレスを指定してコマンドを再度出してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R74I *commandcode* **{INVALID {DEVICE SPECIFICATION | LINE ADDRESS} | NO PRINTER ADDRESS SPECIFIED}**

説明: コマンドにおいて、メッセージに示されているとおり、無効な装置アドレスが指定されています (または装置アドレスが指定されていません)。

システムの処置: コマンドは無視されます。

1R75I • 1R81I

オペレーターの応答: 訂正したコマンドを出し直してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R75I *partition-id* AUTOSTARTED

説明: 指定された区画に対する PSTART 制御カードが SYSIPT から入力され、処理されました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R76I *commandcode* NUMBER OF PAGES NOT DECIMAL

説明: PSETUP コマンドで指定されたページ数が 10 進数表記で指定されていません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 訂正したコマンドを出し直してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R77I *commandcode* TASK NOT WAITING FOR OPERATOR

説明: オペレーターの応答を待っていないタスクに対して、PSETUP または PGO コマンドが出されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R78I {*DEVICE devname status information*} CLASSES: *class* [QUEUE: {*L|P*}] [STATUS: HALTING] | DESTINATION: *destination* *list*}

説明: 外部装置の状況を表示するために PINQUIRE コマンドが出されました。表示された状況情報の説明については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R79I *commandcode* ERRONEOUS AUTOSTART CARD(S) READ

説明: AUTOSTART プロシーチャーの実行中に無効な PSTART コマンドが検出されたか、または、始動したい区画に対して無効なスプール装置が指定されました。

システムの処置: 区画を始動できない場合は、コマンドは無視されます。無効なスプール装置が指定されていた場合は、スプールされる装置を正しく指定するようオペレーターに要求するメッセージ 1R86D が出されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 誤りのあるステートメントを訂正してください。

1R7AI PSTART {READER|PRINTERS|PUNCHES} EXPECTED BUT NOT FOUND IN AUTOSTART

説明: AUTOSTART プロシーチャーの間、PSTART 区画コマンドの処理において、READER/PRINTERS/PUNCHES の予期された VSE/POWER シーケンスでスプール済み装置が指定されていないことがわかりました。

システムの処置: VSE/POWER はメッセージ 1R79I によって自動スタート処理に割り込み、1R86I および 1R50D によって、指定された区画で予期されたスプール済み装置を指定するようオペレーターに指示します。

オペレーターの応答: スプール済み区画が正しく開始されるよう、メッセージ 1R50D に応答してください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 自動スタート・プロシーチャーにおいて指定された区画 (1R50D を参照) で失敗した PSTART コマンドを調べ、スプール済み装置のシーケンスを訂正してください。

1R80I *commandcode* OPTIONAL OPERANDS OF COMMAND IGNORED

説明: オプショナル・オペランドを指定した PSTART コマンドが、すでに VSE/POWER の制御下にある区画に対して出されましたが、その区画は、VSE の STOP コマンドにより停止されていました。

システムの処置: PSTART コマンドは、VSE の START コマンドに相当します。すなわち、区画は活動化されます。しかし、PSTART コマンドのすべてのオプショナル・オペランドは引き続き適用可能です。

オペレーターの応答: クラスが不適當でない限り、処置は不要です。クラスが不適當ならば、必要なクラスを指定した PALTER コマンドを出してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R81I *commandcode* error-information

説明: エラー情報が、

1. MESSAGE/OPERAND DOES NOT START WITH QUOTE の場合

開始引用符が以下の先頭にコーディングされていません。

- PBRDCST (* .. BRDCST) コマンドで指示するメッセージ・テキスト

- PSTART (* .. START) コマンドのファイル ID

2. MESSAGE TEXT WILL BE TRUNCATED の場合

コマンド PBRDCST (* .. BRDCST)(メッセージ・テキストを含む) が長すぎます。

3. OPERAND TOO LONG OR NO CLOSING QUOTE の場合

次のいずれかを行ってください。

- PBRDCST (* .. BRDCST) コマンドのメッセージ・テキストが以下のいずれかを超過しています。

- ALLUSERS タイプのメッセージでは 46

- ALLUSERS タイプ以外のワークステーションへのメッセージでは 60

- ネットワークの他のノードに送られるメッセージでは 132
- 終了引用符が次のものから欠落しています (いずれか適用されるもの)。
 - - メッセージ・テキスト
 - PSTART (* .. START) コマンドのファイル ID
 - PARM オペランドの指定

システムの処置: 1 および 2 の場合は、コマンドは無視されます。3 の場合は、メッセージ (またはオペランド) は最大長までに切り捨てられます。

オペレーターの応答: 訂正したコマンドを再サブミットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R82I *commandcode* 'PSETUP' OR 'PRESTART' IN PROGRESS

説明: PRESTART コマンドが出されましたが、PSETUP または PRESTART コマンドが実行中です。このメッセージが端末印刷装置に表示された場合は、「* .. RESTART コマンドが出されたが、再始動操作がすでに進行中である」ことを意味します。

システムの処置: PRESTART コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 再度 PRESTART コマンドを出してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R83I PINQUIRE OPERAND NEITHER 'ALL' NOR LINE ADDRESS

説明: PINQUIRE コマンドで指定されたオペランドが正しくありません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 正しいコマンドを出し直してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R84I *commandcode* DELETION NOT ALLOWED OR IMPOSSIBLE

説明: 削除すべき ALLUSER メッセージが、存在しないか、または PDELETE コマンド (端末からの * .. DELETE コマンド) の発行者から送信されていません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: そのコマンドが誤りであったのなら、コマンドを出し直してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R85I *commandcode first-operand* COMMAND NOT ALLOWED FOR {REMOTE OPERATOR | X-PARTITION USER OR USER CONSOLE}

説明: リモート・オペレーターまたはスプール・アクセス・サポートを使用するアプリケーション・プログラムに、コマンドまたはオペランドのいずれかを使用する権限がありません。(USER CONSOLE からコマンドを出すことも許可されていません。)

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

プログラマーの応答: 許可コマンドについては、

「VSE/POWER Remote Job Entry」または「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」(どちらか、該当するもの)を参照してください。

1R86I PLEASE SPECIFY DEVICES TO BE SPOOLED

説明: ある区画に対して PSTART コマンドが出されました。

システムの処置: このメッセージの直後にメッセージ 1R50D が出されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R87I *commandcode* TOO MANY CLASSES, FIRST *n* PROCESSED

説明: PSTART または POFFLOAD コマンドの中で、読み取りタスクまたは POFFLOAD タスクに 2 つ以上のクラスが、あるいは書き込みタスクまたは実行読み取りタスクに 5 つ以上のクラスが、指定されています。

システムの処置: 余分なクラスは無視されます。

オペレーターの応答: VSE/POWER が受け入れたクラスが正しければ、処置は不要です。正しくなければ、PSTOP コマンドと、これに続けて正しいクラスを指定した新しい PSTART コマンドを出してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

- 1R88I
1. NOTHING TO operation
 2. JOB *jobname jobnumber* CANNOT BE ALTERED
 3. OK
 4. OK : *nnnnn* {ENTRY|ENTRIES} PROCESSED BY *power-command*
 5. OK : WORK AREA SHOULD BE VERIFIED IN {JOB|OUT|NET|XMT}EXIT
 6. START OF *nnn* NODE(S) INITIATED BY *power-command*
 7. STOP OF *nnn* NODE(S) INITIATED BY *power-command*
 8. NO NODES TO START|STOP BY *power-command*
- 注: 左側の数字は実際には画面に表示されません。その数字は便宜的に追加されているにすぎません。

説明:

1. メッセージが以下の場合、
NOTHING TO operation

関連コマンドで参照されたジョブが、指定されたキューに存在しないか、または処理中です。

2. メッセージが以下の場合、
JOB *jobname jobnumber* CANNOT BE ALTERED

示されたジョブは処理中であり、COPY= より多い変更オペランドが指定されています。

3. メッセージが以下の場合、

OK ,

4. または次の例のような場合、

OK : 6 ENTRIES PROCESSED BY A LST,SSL*,DISP=K

VSE/POWER が先行するコマンドを処理したことを示します。キュー操作コマンド (PALTER、PDELETE、PHOLD、PRELEASE) の場合、変更されたキュー項目の数は *nnnnn* で表示され、先行するコマンドは *power-command* (最大長 62 バイトで表示) で識別されません。

5. メッセージが以下の場合、

OK : WORK AREA SHOULD BE VERIFIED IN JOBEEXIT

PLOAD コマンドによって、ユーザー出口がロードされ、使用可能になっています。

6. PSTART {PNETSNA|PNETTCP|PNETSSL} コマンドが入力されました。指定タイプ (SNA、TCP/IP、または TCP/IP SSL) のノードが、ロードされたネットワーク定義テーブル (NDT) で *nnn* 個検出されました。検出されたノードの始動準備が開始されました (VSE/POWER からこれらのノードへの接続プロセスが開始されました)。

始動準備が開始されたノードは、以下の場合、実際には始動されません。

- そのノードが既に始動されている (メッセージ 1RDII も表示される)
- そのノードの始動を完了するだけの十分な記憶域がない (メッセージ 1Q78I も表示される)。

7. PSTOP {PNETSNA|PNETTCP|PNETSSL} コマンドが入力されました。指定タイプ (SNA、TCP/IP、または TCP/IP SSL) のノードがアクティブ・ノードとして *nnn* 個検出されました。検出されたノードの停止準備が開始されました。

そのノードの停止を完了するだけの十分な記憶域がない (メッセージ 1Q78I も表示される) 場合、停止準備が開始されたノードは実際には停止されません。

8. {PSTART|PSTOP} {PNETSNA|PNETTCP|PNETSSL} コマンドが入力されましたが、始動/停止対象となる指定タイプ (SNA、TCP/IP、または TCP/IP SSL) のノードはありませんでした。

システムの処置: 説明のリストに応じて、次のとおりです。

1. コマンドは無視されます。
2. 示された VSE/POWER ジョブが実行中であり、コピー数を超える変更が要求されているため、このジョブについては PALTER コマンドは有効になりません。
3. VSE/POWER は前のコマンドの処理を終了しました。
4. VSE/POWER は前のコマンドの処理を終了しました。
5. PLOAD は、次のレコードが処理されるときに制御を新しい出口に渡し、既存の (すでにロードされた出口の) 出口作業域は次のキュー項目境界 (OUT/NET/XMT) または次のタスク停止/開始要求 (JOB) までアクティブのままです。
6. VSE/POWER が、検出されたノードごとに内部 PSTART PNET コマンドを発行し、処理を継続します。ノードの始動を完了するだけの十分な記憶域がない場合、VSE/POWER はコマンド処理を終了します。

7. VSE/POWER が、検出されたノードごとに内部 PSTOP PNET コマンドを発行し、処理を継続します。ノードの停止を完了するだけの十分な記憶域がない場合、VSE/POWER はコマンド処理を終了します。

8. VSE/POWER は前のコマンドの処理を終了しました。

オペレーターの応答: 説明のリストに応じて、次のとおりです。

1. PDISPLAY コマンドを使用して、指定されたキューにジョブが存在しているかどうか、またはジョブは処理中であり、現在、属性の変更を受け入れていないかどうかを調べてください。
2. COPY= 変更パラメーターを唯一のパラメーターとして、PALTER コマンドを再実行依頼してください。
3. なし。
4. なし。
5. システム・プログラマーに連絡してください。
6. なし。
7. なし。
8. なし。

システム・プログラマーの応答:

1. なし。
2. なし。
3. なし。
4. なし。
5. 終了コードを調べ、必要な作業域と実際の渡された作業域の大きさを確認してください。- VSE/POWER サンプル終了コード JOBEXAMP、OUTEXAMP、NETEXAMP、または XMTEXAMP を参照してください。
6. なし。
7. なし。
8. なし。

1R89I PENDING VSE/POWER INITIATION NOT COMPLETE

説明: VSE/POWER 初期設定が完了する前に、PEND コマンドが出されました。

システムの処置: PEND コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 初期設定が完了するまで待つから、PEND を再実行依頼してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R90I *commandcode* INVALID TASK SPECIFICATION *operand*

説明: PSTART コマンドの第 1 オペランドが、RDR、LST、PUN、RJE、BG、Fn、PNET、DEV、CNSLTR、DUMPTR、または TASKTR のいずれでもありませんでした。無効なオペランドがメッセージに示されています。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 正しいコマンドを出し直してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R91I *commandcode* **TOO MANY OPERANDS,
[FIRST *n* PROCESSED | COMMAND
REJECTED]**

説明: コマンドが出されましたが、指定されたオペランドが多すぎます。メッセージ中の *n* は、VSE/POWER が受け入れたオペランドの数です。

システムの処置: VSE/POWER は、コマンドまたは余分なオペランドのいずれかが該当する方を無視します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R92I *commandcode* **ALLUSERS MESSAGE QUEUE
IS FULL**

説明: PBRDCST コマンド (端末からの * .. BRDCST) が出力され、メッセージを ALLUSERS メッセージ・キューに保管する試みが行われましたが、キューがいっぱいなので、拒否されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: PDISPLAY (または * .. DISPLAY)

MSG コマンドを用いてキューの内容をチェックし、PDELETE MSG コマンド (端末からの * .. DELETE) を用いてそのキューにスペースを作り、PBRDCST (* .. BRDCST) コマンドで指示するメッセージ・テキスト

システム・プログラマーの応答: なし。

1R93I *commandcode* **{REMOTE *remid* CURRENTLY
NOT SIGNED ON | NO SESSION
ESTABLISHED FOR *luname*}**

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. PBRDCST コマンドが入力されましたが、指定されたリモート ID はサインオンされていません。
2. 中央オペレーターが 3770 端末に対して 'PSTOP RJE, SNA, LUNAME' コマンドを出しましたが、その 3770 端末はログオンされていません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: PINQUIRE コマンドを入力して、どの端末がサインオンされているかを調べてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R94I **INVALID DEVICE DUPLICATION**

説明: スタートアップ手順において、スプールすべき装置の 1 つが 2 回以上指定されています。VSE/POWER のもとでは、1 つの装置は、たとえそれが読み取りと書き込みの両方のできるものであっても、1 つの目的にしか使用できません。

システムの処置: システムはメッセージ 1R86I と 1R50D を出します。AUTOSTART の場合は、メッセージ 1R86I と 1R50D を出す前に、メッセージ 1R79I を出します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: スタートアップ手順を調べて、訂正してください。

1R95I **LINE *cuu* NOT SUPPORTED**

説明: PSTART または PINQUIRE コマンドで指定された回線アドレス (*cuu*) は、VSE 監視プログラムには認識されていますが、VSE/POWER には認識されていません。

システムの処置: PSTART または PINQUIRE コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: この回線に対する PLINE マクロを指定して VSE/POWER をアSEMBルし直してください。または、有効なチャンネルと装置アドレスを指定して PSTART または PINQUIRE を入力してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R96I *commandcode* **INCORRECT OPERAND *nn*
OF COMMAND IGNORED**

説明: コマンド *commandcode* のオペランド *nn* の入力時にエラーが発生しました。

システムの処置: 不正なオペランドに指定された値は無視され、デフォルト値が設定されます。例えば、次の通りです。

1. PSTART CNSLTR の 3 番目のオペランドが不正な場合、すべての BSC、CTC、および TCP タイプ・ノードがトレースされます。
2. すべてのノードに対してトレースしない場合は、先に PSTOP CNSLTR コマンドが出されてから、正しい PSTART CNSLTR コマンドが出されます。

オペレーターの応答: デフォルト値を使用しない場合は、訂正されたコマンドが再発行されます。場合によっては、先に別のコマンドを出してからデフォルト値を再設定する必要があります。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R97I *commandcode* **COMMAND INVALID
DURING SHUTDOWN**

説明: 遮断時に、中央オペレーター用コマンド PSTART、PACT、PLOAD、PRELEASE、および PRESET のいずれか、または端末オペレーター用コマンド * .. START、* .. RELEASE のいずれかが出されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R98I *commandcode* **INVALID VSE/POWER
COMMAND**

説明: 次のいずれかを行ってください。

- VSE/POWER が認識できないコマンドが出されました。または
- VSE/POWER が認識できるコマンドが出されましたが、初期設定されていない VSE/POWER 機能が必要です。または
- VSE/POWER が認識できるコマンドが出されましたが、この端末からは許されていません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 正しいコマンドをサブミットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1R99I **VSE/POWER {IS IN SHUTDOWN | HAS BEEN TERMINATED}**

説明: PEND コマンド (cuu, FORCE、または IMM オペレーターの指定あり、または指定なし) が出されました。
 システムの処置: SHUTDOWN 処理を続行します。| なし。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

1R9AI **SHORT COMMAND 'commandcode' UNSUPPORTED DUE TO 'SET LONGCMD'**

説明: 自動スタート・ステートメント 'SET LONGCMD=power-command' が指定されているため、短形式のコマンド *commandcode* の使用は拒否されます。
 システムの処置: コマンドは無視されます。
 オペレーターの応答: 長形式のコマンド *verb* を使用してコマンドを出し直してください。長形式で使用するよう制限されている VSE/POWER コマンドをチェックするには、'PDISPLAY AUSTMT' コマンドを出して、すべての自動スタート・ステートメントを表示してください。
 システム・プログラマーの応答: なし。

1R9BI *commandcode* **SEGMENT REQUEST IGNORED {FOR DISP=T|FOR DISP=I|DUE TO EMPTY DBLKGP CUSHION|FOR MASTER QUEUE RECORD| DUE TO PUN INTO AF-LIBRARY IS ACTIVE}**

説明: コマンド (例えば、PSEGMENT F7,FEE または PALTER LST, ...,SEGMENT=...) が出されましたが、選択された出力はテープにスプールされているか、後処理 'I' でスプールされているか (PUN 出力でなければならない)、DBLK グループ・クッションが空か、複製セットのマスター・キュー・レコードがそのコマンドによってアドレス指定されているか、あるいは指定装置の穿孔出力が AF ライブラリー・メンバーに送信されています。
 システムの処置: システムは実行を続けます。
 オペレーターの応答: PDISPLAY STATUS コマンドを使用して、まだ少なくとも 1 つの空き DBLK グループを使用できるかどうかをチェックしてください。クッションのための 20 DBLK を含め、すべての DBLK グループが占有されている場合は、1 つまたは複数のキュー項目を削除するか、または POFFLOAD BACKUP|PICKUP|SAVE コマンドを使用して、キュー項目をテープへ移動し、後で POWER キュー上でそれらを削除してください。空き DBLK グループが再び使用可能になったら、コマンドを再試行してください。アクティブな AF ライブラリーに穿孔出力が送信されていてセグメンテーションの無視がある場合、DBLK グループを検査しないでください。
 プログラマーの応答: アクティブな AF への穿孔のためにセグメンテーションの無視がある場合、JECL ステートメントが正しいかどうかを調べてください。

1R9CI **{RDR|LST|PUN|XMT} jobname jobnumber {jobsuffix} ALTERED BY cmd {FROM (userid) | nodeid({sysid},{userid})}**

説明: 示されたキューに初期配置された *jobname jobnumber {jobsuffix}* 項目は、コマンドの発信元を示す文字 FROM に続き *cmd*、*nodeid*、*userid* および *sysid* として示されているローカルまたはリモートのユーザーが入力した PALTER コマンドによって変更されています (*sysid* は、共用スプーリング・サポートを備えたシステムのシステム ID です)。メッセージに文字列 FROM が表示されていない場合は、コマンドはローカル・オペレーターが出しました。*cmd* サブストリング内の文字は、72 バイト以下です。メッセージの「テール」(「*cmd* FROM ...」) の長さは 86 バイトに制限されています。メッセージ・テールがこの領域に収まらない場合は、*cmd* サブストリングが切り捨てられて「..」で終了されます。「FROM ...」サブストリングは切り捨てられません。
 システムの処置: VSE/POWER は PALTER コマンドの処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

1R9DI **{RDR|LST|PUN|XMT} jobname jobnumber {jobsuffix} DELETED BY cmd {FROM (userid) | nodeid({sysid},{userid})}**

説明: 示されたキューに配置された *jobname jobnumber {jobsuffix}* 項目は、コマンドの発信元を示す文字 FROM に続き *cmd*、*nodeid*、*userid* および *sysid* として示されているローカルまたはリモートのユーザーが入力した PDELETE コマンドによって削除されています (*sysid* は、共用スプーリング・サポートを備えたシステムのシステム ID です)。メッセージに文字列 FROM が表示されていない場合は、コマンドはローカル・オペレーターが出しました。*cmd* サブストリング内の文字は、72 バイト以下です。メッセージの「テール」(「*cmd* FROM ...」) の長さは 86 バイトに制限されています。メッセージ・テールがこの領域に収まらない場合は、*cmd* サブストリングが切り捨てられて「..」で終了されます。「FROM ...」サブストリングは切り捨てられません。
 システムの処置: VSE/POWER は PDELETE コマンドの処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

1R9EI **{RDR|LST|PUN|XMT} jobname jobnumber {jobsuffix} HELD BY cmd {FROM (userid) | nodeid({sysid},{userid})}**

説明: 示されたキューに配置された *jobname jobnumber {jobsuffix}* 項目は、コマンドの発信元を示す文字 FROM に続き *cmd*、*nodeid*、*userid* および *sysid* として示されているローカルまたはリモートのユーザーが入力した PHOLD コマンドによって保留されています (*sysid* は、共用スプーリング・サポートを備えたシステムのシステム ID です)。メッセージに文字列 FROM が表示されていない場合は、コマンドはローカル・オペレーターが出しました。*cmd* サブストリング内の文字は、72 バイト以下です。メッセージの「テール」(「*cmd* FROM ...」) の長さは 86 バイトに制限されています。メッセージ・テール

がこの領域に収まらない場合は、*cmd* サブストリングが切り捨てられて「..」で終了されます。「FROM ...」サブストリングは切り捨てられません。

システムの処置: VSE/POWER は PHOLD コマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1R9FI {RDR|LST|PUN|XMT} *jobname jobnumber*
{*jobsuffix*} **RELEASED BY** *cmd* {**FROM**
(*userid*) | *nodeid*{(*sysid*),(*userid*)}}

説明: 示されたキューに配置された *jobname jobnumber* {*jobsuffix*} 項目は、コマンドの発信元を示す文字 FROM に続き *cmd*、*nodeid*、*userid* および *sysid* として示されているローカルまたはリモートのユーザーが入力した PRELEASE コマンドによって解放されています (*sysid* は、共用スプーリング・サポートを備えたシステムのシステム ID です)。メッセージに文字列 FROM が表示されていないければ、コマンドはローカル・オペレーターが出しました。*cmd* サブストリング内の文字は、72 バイト以下です。メッセージの「テール」(「*cmd* FROM ...」)の長さは 86 バイトに制限されています。メッセージ・テールがこの領域に収まらない場合は、*cmd* サブストリングが切り捨てられて「..」で終了されます。「FROM ...」サブストリングは切り捨てられません。

システムの処置: VSE/POWER は PRELEASE コマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1RA0I [JOB|OUTPUT] *jobname nnnn(oooo)*
TRANSMITTED TO *node1 FOR node2*
task-id

説明: *node 1* への、ジョブまたは出力の送信が完了しました。最終的な宛先は *node2* です。*nnnn* は、VSE/POWER が割り振ったジョブ番号を表し、*oooo* は、元のジョブ番号を表します。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。このメッセージがコンソールに大量に表示される場合は、PVARY MSG,1RA0I,NOCONS コマンドを使用して、ハードコピー・ファイルに記録するときのみ表示されるよう制限してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RA1I [JOB|OUTPUT] *jobname nnnn(oooo)* **NODE**
node1 UNKNOWN

説明: 送信すべきジョブまたは出力データ・セットの宛先 (*node1*) が、このノードには定義されていません。宛先は、メッセージを出す開始ノードの場合もありますし、ネットワーク上のどこかで蓄積交換ノードとして働いているノードの場合もあります。

元のジョブ番号は *oooo* で、VSE/POWER システムで割り振られたジョブ番号は *nnnn* です。

システムの処置: ノードの SYSLOG にメッセージが出されます。このメッセージは発信元にも送られます。オペレーターが

PALTER、PRELEASE、または PHOLD コマンドによってキュー項目を訂正した場合を除いて、JOB または SYSOUT データ・セットは、オペレーターの処置を待って (XMT キュー内で) HOLD 状態に置かれます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: ネットワーク定義テーブルを調べて、ノードが正しいかどうかを検査してください。ノードが正しくない場合は、ジョブのサブミッターに通知してください。

1RA2I {**COMMAND FOR NODE** *node1 IGNORED*,
NODE *node2 NOT CONNECTED* |**NODE**
node1 UNKNOWN}

説明: *node2* が接続されていないため、ノード *node1* に達することができません。しかし、*node2* を使用してコマンドをその最終的な宛先に送る必要があります。あるいは、ネットワークを介して宛先ノード *node1* へ送られるコマンドが受信されましたが、*node1* が定義されていません。

システムの処置: コマンドは無視され、このメッセージがコマンドの発信元に送信されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RA3I *commandcode* **VSE/POWER NETWORKING**
NOT SUPPORTED

説明: ネットワーキングに関連する VSE/POWER コマンドが出されましたが、VSE/POWER ネットワーキング機能が生成されていませんでした。

- POWER マクロ生成で PNET が指定されていないか、または
- VSE/POWER 初期設定時にネットワーキング・サポートを使用可能にしようとして、失敗した (コンソール・ログにメッセージがないか検査してください)。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RA4I *commandcode* **INVALID NODEID** *node-id*
RC=nnnn

説明: 理由は、以下の理由コード (RC) で示されます。

RC=0001:

ネットワーク定義テーブルで定義されていない *node-id* に対して、PDISPLAY、PALTER、または PCOPY コマンドが入力されました。

RC=0003:

接続されていないか、あるいはセッションが存在しない *node-id* に対して、PSTOP コマンドが出されました。

RC=0004:

ネットワーク定義テーブルに指定されていない *node-id* に対して、PSTART PNET コマンドが出されました。

1RA5I

RC=0005:

ローカル *node-id* に対して、PSTART PNET コマンドが出されました。

RC=0006:

他のノードを介してしか達することのできない *node-id* に対して、PSTART PNET コマンドが出されました。

RC=0007:

SNA、TCP、または SSL *node-id* に対して PSTART PNET コマンドが出されましたが、BSC/CTC 回線アドレスまたは回線パスワードも指定されました。

RC=0008:

BSC/CTC *node-id* に対して PSTART PNET コマンドが出されましたが、回線アドレスが指定されませんでした。

RC=0010:

PLOAD PNET コマンドが出されましたが、示された *node-id* に指定された ROUTE1 または ROUTE2 ノード名が、ロードされるネットワーク定義テーブル内に定義されていません。

RC=0011:

PLOAD PNET コマンドが出されましたが、示された *node-id* に指定された ROUTE1 または ROUTE2 ノード名が、ロードされるネットワーク定義テーブル内で隣接ノード (直接にリンクされたノード) として定義されていません。

RC=0012:

SNA *node-id* に対して PSTART PNET コマンドが出されましたが、指定された *node-id* の APPLID が無効です。アクティブ・ネットワーク定義テーブルのロード時に、この APPLID は、別のノードの APPLID と重複していることが分かり、メッセージ 1RE3I で無効にされました。

RC=0013:

TCP または SSL *node-id* に対して PSTART PNET コマンドが出されましたが、指定された *node-id* の IP アドレスが無効です。アクティブ・ネットワーク定義テーブルのロード時に、この *node-id* の IP アドレスおよび IP ポート番号が、別のノードの属性と重複していることが検出されました。このため、この *node-id* がメッセージ 1RE4I で無効にされました。

RC=0014:

TCP *node-id* に対して PSTART PNET コマンドが出されましたが、TCP/IP インターフェースが、異常終了しているか、または PSTOP TCPIP コマンドによって終了させられたために、現在 TD サブタスクによって設定されていません。

RC=0015:

SSL *node-id* に対して PSTART PNET コマンドが出されましたが、TCP/IP SSL インターフェースが、異常終了しているか、または PSTOP TCPSSL コマンドによって終了させられたために、現在 SD サブタスクによって設定されていません。

システムの処置: 理由コードに応じて、次のとおりです。

0010 または 0011:

ノード *node-id* のフラグを立てられた ROUTE1 また

は ROUTE2 指定は、PNET ルーティングに対して無効にされます。PDISPLAY PNET コマンドは、無効にされた ROUTE 指定を '*INVALID' と表します。

0010 および 0011 以外:

コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: RC=0014 または 0015 の場合は、PLOAD PNET,*ndtname* を使用して現行のネットワーク定義テーブルを再ロードし、TCP/IP (SSL) インターフェースを再設定してから、拒否された PSTART PNET コマンドを出し直してください。

それ以外の場合は、拒否されたコマンドを訂正し、出し直してください。このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: ネットワーク定義テーブルを調べて、正しいノードが生成されているかどうかを確かめてください。

1RA5I

commandcode INVALID NETWORK

DEFINITION TABLE *ndtname*, RC=*nnnn*

説明: オペレーターが PLOAD コマンドを入力したか、または内部で生成された PLOAD コマンドが初期設定時に出されましたが、ネットワーク定義テーブルに指定されたフェーズ名は、以下のいずれかの理由で無効です。

RC=0001:

指定されたフェーズは、PNODE マクロを使用して作成されたネットワーク定義テーブルではない。

RC=0002:

ネットワーク定義テーブルのリリース・レベルが現行のリリース・レベルと一致しない。

RC=0003:

ネットワーク定義テーブルが、ローカル・ノードとして指定されたノードなしで作成された。

RC=0004:

ネットワーク定義テーブル *ndtname* が、PLOAD コマンドまたは自動スタート PLOAD コマンドに指定されています。ネットワーク定義テーブル *ndtname* に指定されているローカル・ノードは、現在使用中のネットワーク定義テーブルのローカル・ノードの名前またはキュー・ファイル・マスター・レコードに含まれている名前と一致しません。

RC=0005:

ネットワーク定義テーブル (NDT) *ndtname* (TCP ノードの指定の有無にかかわらず) のローカル・ノード項目に含まれている IP ポート番号 (PNODE PORT= を参照) が、現在ロードされている NDT (それに対する TCP/IP インターフェースがすでにオープンされている) のローカル・ポート番号と異なります。

RC=0006:

ネットワーク定義テーブル (NDT) *ndtname* (SSL ノードの指定の有無にかかわらず) のローカル・ノード項目に含まれている IP ポート番号 (TCP/IP SSL 接続の場合は PNODE PORT= を参照) が、現在ロードされている NDT (それに対する TCP/IP インタ

ーフェースがすでにオープンされている)のローカル・セキュア・ポート番号と異なります。

RC=0007:

ネットワーク定義テーブル (NDT) *ndtname* (SSL ノードの指定の有無にかかわらず) のローカル・ノード項目が指定するセキュリティー・プロトコルのタイプ (PNET SSL 接続の場合は PNODE SECTYPE= を参照) が、現在ロードされている NDT (それに対する TCP/IP SSL インターフェースがすでにオープンされている) のセキュリティー・プロトコルと異なります。

RC=0008:

ネットワーク定義テーブル (NDT) *ndtname* (SSL ノードの指定の有無にかかわらず) のローカル・ノード項目が指定するキー・データベース・サブライブラリー (PNET SSL 接続の場合は PNODE KEYRING= を参照) が、現在ロードされている NDT (それに対する TCP/IP SSL インターフェースがすでにオープンされている) のキー・サブライブラリーと異なります。

RC=0009:

ネットワーク定義テーブル (NDT) *ndtname* のローカル・ノード項目が指定するキー・サブライブラリー・メンバー (PNET SSL 接続の場合は PNODE DNAME= を参照) が、現在ロードされている NDT (それに対する TCP/IP SSL インターフェースがすでにオープンされている) のキー・サブライブラリー・メンバーと異なります。

RC=0010:

VSE/POWER はウォーム・スタートを実行し、ネットワーク定義テーブル *ndtname* に指定されているローカル・ノード名が、前に開始されても VSE/POWER の異常終了によって完了していないノード名変更処理で使用された新しいローカル・ノード名に一致していません。

RC=0011:

ネットワーク定義テーブル *ndtname* に指定されているローカル・ノード名が、現在のローカル・ノード名に一致していません。ノード名変更を確認するメッセージ 1RE6D に対し、オペレーターが 'NO' と応答しました。

RC=0012:

VSE/POWER は共用複合システムで稼働していて、ウォーム・スタートを実行します。ネットワーク定義テーブル *ndtname* に指定されているローカル・ノード名が現在のローカル・ノード名に一致していないため、VSE/POWER はローカル・ノード名を変更しようと試みています。その他のシステムがアクティブであるため、ノード名変更は拒否されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。このメッセージが VSE/POWER の初期化の間に出される場合、ネットワーク機能は使用可能になっておらず、メッセージ 1Q08I が出力されます。

RC=0010 が表示される場合、VSE/POWER はローカル・ノード名の変更を再開します。

オペレーターの応答: RC=0010 の場合、ウォーム・スタート

が完了するまで待機すると、ノード名変更は完了 (メッセージ 1RE7I-2 を参照) します。システム・プログラマーがローカル・ノード名の変更を確認する場合、VSE/POWER を通常停止し、もう一度ウォーム・スタートを実行してください。

RC=0011 の場合、システム・プログラマーがローカル・ノード名の変更を確認するのであれば、VSE/POWER を通常停止し、もう一度ウォーム・スタートを実行してください。システム・プログラマーがローカル・ノード名の変更を確認しない場合、VSE/POWER を通常停止し、現在のローカル・ノード名によるネットワーク定義テーブルでもう一度ウォーム・スタートを実行してください。

RC=0012 の場合、ネットワーク機能をノード名変更なしで使用可能にしなければならないのであれば、現在のローカル・ノード名によるネットワーク定義テーブルで VSE/POWER を再始動してください。直前のメッセージ 1RE8I が、現在および新しいローカル・ノード名を示しています。

新しいノード名によるネットワーク定義テーブルでネットワーク機能を使用可能にしなければならない場合、その他すべてのシステムをシャットダウンし、VSE/POWER を再始動する必要があります。その他すべてのシステムがすでに終了されていても、メッセージ 1RE8I または VSE/POWER PDISPLAY STATUS レポートでアクティブであると示されている場合、PRESET *sysid1,sysid2,...* を使用して、そのアクティブ状態をリセットすることができます。

システム・プログラマーの応答: *ndtname* に指定されているネットワーク定義テーブルを調べ、正しくアセンブルされ、カタログされていることを確かめてください。新しいローカル・ノード名を使用したい場合、VSE/POWER コールド・スタートまたはウォーム・スタート (推奨) を実行し、POWER マクロの PNET オペランド、あるいは自動スタート・ステートメント SET PNET のいずれかに、新しいローカル・ノード名でネットワーク定義テーブルを指定してください。

1RA6I UNABLE TO ESTABLISH CONNECTION TO NODE *node-id* RC=*nmmn*

説明: VSE/POWER が、ノード *node-id* との接続を設定することができませんでした。理由は、以下に示すように、理由コード (RC) によって暗黙に示されます。

RC=0001:

PNET 制御ブロックのために、十分な GETVIS ストレージを使用することができません。

RC=0002:

PNET 制御ブロック用に十分な実記憶を入手できませんでした。

システムの処置: この処置を開始した PSTART は実行されません。

オペレーターの応答: 接続を確立するように後で再度試みてください。問題が再発する場合は、担当のシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 必要ならば、より多くのストレージを定義してください。

1RA7I *commandcode* **COMMAND NOT ALLOWED**
ON NODE *node-id*

説明: *node-id* のネットワーク定義テーブルのコマンド権限によると、出されたコマンドそれ自身または許可オペランドのどれかが許可されていません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: ノード *node-id* で許可の変更が必要な場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 必要ならば、(ネットワーク定義テーブルの) 許可を調べてください。

1RA8I *task-id* **HAS BEEN DRAINED FOR NODE**
node-id **[DUE TO EXIT FAILURE]**

説明: タスク *task-id* がドレインされました。考えられる原因は、以下のいずれかです。

1. オペレーターが PDRAIN または PSTOP コマンドを出した。
2. 機能開始要求 (RIF) で、否定許可付与 (NPGR) を受け取った。
3. VSE/POWER スプール・ファイルでリカバリー不能な入出力エラーが起きた。
4. 重大な回線エラーが発生した。
5. PNET 受信側出口ルーチンまたは PNET 送信側出口ルーチンで障害が発生し、対応するタスクもドレインしなければならなかった。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: とるべき処置は、原因によって異なります (上記の説明を参照してください)。

- (1) の場合、タスクが再び必要となるので、PACT コマンドを出してください。
- (2)、(3)、および (4) の場合、システム・プログラマーに連絡してください。
- (5) の場合、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: エラーを検査して、訂正を試みてください。

1RA9I **TRANSMISSION OF [JOB]OUTPUT]**
jobname jnum(ojnum) **FOR NODE** *node-id*
CANCELLED, RC=nnnn *task-id*

説明: ジョブまたは出力の伝送が異常終了しました。

元のジョブ番号は *ojnum* で、VSE/POWER システムで割り振られたジョブ番号は *jnum* です。理由は、理由コード (RC) で示されています。nnnn は以下のいずれかです。

RC=0001:

PDRAIN コマンドが出されたか、または VSE/POWER スプール・ファイルか会計ファイルで入出力エラーが起きたために、停止コードが設定されました。

RC=0002:

受信システムが、ローカル・ノードからの伝送 (否定許可付与 (NPGR) が送信された) を受け入れませんでした。

RC=0003:

回線エラーが起きたか、SIGNOFF レコードが送受信されたか、またはセッションが終了しました。

RC=0004:

圧縮ルーチン・エラーです。

RC=0005:

受信側取り消しが送信側で受信されました。

これはおそらく、受信システムのオペレーターが受信側に PDRAIN または PFLUSH を出したか、または受信システムの PNET 読み取り出口ルーチンがデータの受信を取り消したことが原因であると思われる。

これはまた、受信システムの PNET 受信側出口ルーチンが異常終了したために 'FAILED' 状態になったことも原因であると思われる。これは、受信システムの PNET 受信側出口ルーチンが、以前に異常終了したために 'FAILED' 状態になっていることが原因であると思われる。

RC=0006:

ジョブ/出力がフラッシュされました。

RC=0007:

無効な戻りコードが送信側出口ルーチンから返されました。

RC=0008:

レコード・アドレスまたはレコード長が、送信側出口ルーチンによって変更されました。

RC=0009:

送信側出口ルーチンでは、ジョブ・ヘッダー、ジョブ後書き、データ・セット・ヘッダー・レコードを削除できません。

RC=000A:

送信側出口ルーチンで、ジョブ・ヘッダー、ジョブ後書き、またはデータ・セット・ヘッダー・レコードの挿入が許可されないか、または無効なレコード指定が検出されました。

RC=000B:

レコード・アドレス X'00'、レコード長 X'00'、または使用可能な最大長 (キュー・レコードに定義) を超えた長さを指定して、送信側出口ルーチンでレコードを挿入することはできません。

RC=000C:

レコード変更が送信側出口ルーチンに示されましたが、変更されたレコードはネットワーク制御レコードではありませんでした。

RC=000D:

データ・レコードは、ジョブ・ヘッダー・レコードの前に、送信側出口ルーチンで挿入されるべきでした。これでは伝送プロトコルが破壊されてしまうので無効です。

RC=000F:

ユーザー PNET 送信側出口ルーチンが異常終了しました。

RC=0010:

長さや内部構造が一致しないネットワーク制御レコードを VSE/POWER が検出しました。

システムの処置:

- RC=0001、0002、または 0004 の場合、送信側は停止します。
- RC=0003 の場合、ノードが停止します。
- RC=0005 の場合、これが障害のある受信システムの PNET 受信側出口ルーチンが原因である場合、キュー項目は、対応する「保留」後処理で、再びキューイングされます。受信システムの PNET 受信側出口ルーチンは 'FAILED' 状態になり、対応する受信システムの受信側出口ルーチンはドレーンされます。送信システムの送信側はドレーンされませんが、(可能な場合は) 次のキュー項目を使用して続行します。この場合は、対応する受信側はドレーンされた状態になるので、送信側は RC=0002 (上記参照) が出されて取り消されません。
- RC=0006 の場合、送信側はノード *node-id* に対して使用でき、送信に適切な次のキュー項目を待機します。
- RC=0007、...、000F の場合、キュー項目の送信は停止し、キュー項目は、対応する「保留」後処理で再びキューイングされます。送信側は、次の適切なキュー項目を使って処理を続行します。
- RC=0010 の場合、送信側が停止され、キュー項目の後処理が H から L に設定されました。

オペレーターの応答:

- RC=0001、...、0006、または 0010 の場合、回線に PSTART を出し直してください。
 - RC=0005 で、受信システムの障害のある PNET 受信側出口ルーチンがその原因である場合、受信側システムのシステム・プログラマーに連絡して、システム・プログラマーの受信側出口ルーチンを訂正してもらってください。ユーザーは、この段階ではまだ、PBROADCAST と PXMIT コマンドを使用して他のシステムにメッセージとコマンドを送信することが可能です。例えば、以下のコマンドを出して受信側出口に障害があるかどうかを調べることができます。すなわち、PXMIT *node-id*, PDISPLAY EXIT コマンドを出します。
- RC=0005 で、障害のある受信システムの PNET 受信側出口ルーチンがその原因であり、また受信側が現在 'FAILED' 状態ではない場合、キュー項目の後処理を元の状態に変更して、転送を再び開始することができます。
- RC=0007、...、000F の場合、送信側出口ルーチンを訂正しなければならぬことをシステム・プログラマーに連絡してください。
 - RC=000F で、出口を使用せずに続行したい場合は、DISAB オペランドを指定した PVARV コマンドを使用して、出口を「使用不能」状態に設定することができます。

システム・プログラマーの応答:

- RC=0001、...、0006、または 0010 の場合、処置は必要ありません。
- RC=0007、...、000F の場合、送信側出口ルーチンを訂正してください。

1RB0I **NODE** *node-id* {**SIGNED-OFF ON LINK** *cuu* | **STOPPED**}, **RC=nnnn**, **TIME=hh:mm:ss**

説明: このメッセージは、リモート・ノードでのサインオンが停止状態時に完了した場合にだけ、SIGNED-OFF 標識と共に表示されます。理由は、以下の理由コード (RC) で示されません。

RC=0000:

ローカル・オペレーターがノード *node-id* に対して PSTOP コマンドを出したか、または PEND を出しました。

RC=0001:

リモート・ノードの終了要求が出されました。これは、内部的に、あるいはオペレーターによって出されたものです。

RC=0002:

VTAM オペレーターがローカルで Z NET を出して VTAM を停止させたので、このノードは終了しました。

RC=0003:

サインオンが完了した後にノード (BSC リンク) の内部タイムアウト限界が満了したか (この限界は、VSE/POWER によって 90 秒に設定されています)、または、PLINE 指定の、PSTART 処理のための BSC 回線のタイムアウト限界が満了しました。CTC の場合: 入出力はある時間間隔 (90 秒にセット) で完了しませんでした。

RC=0004:

BSC または CTC の場合: 回線エラーのエラー限界値に達しているか、重大な回線エラーが起こったか、あるいは介入が必要であるかのいずれかです。SNA の場合: このノードを使用するセッションがローカルまたはリモート・オペレーターにより、または内部的に終了させられました。TCP または SSL の場合: 直前に出された 1RTxx メッセージで表示された TCP/IP 要求に失敗したため (「回線エラー」に類似)、ノードの接続が終了しました。

RC=0005:

ノードは次の理由で VSE/POWER によって停止されました。

1. リモート・ノードからのパスワード違反。
2. 重大な内部エラー

このエラーの理由は、前に出されたメッセージ (1RC1I、1RB2I、または 1QZ0I) に示されています。

RC=0006:

ノードは次の理由で停止されました。

1. VTAM が異常終了しました。
2. Z NET QUICK の入力で VTAM が終了しました。
3. PNET と VTAM の間のインターフェースが確立できません。

RC=0007:

CTC の場合のみ: VSE/POWER が、従属 CTC コマンド命令コードの衝突 (例えば、READ <--> READ または WRITE <--> WRITE) を検出したために、ノードが停止しました。

RC=0008:

TCP または SSL ノード *node-id* のリモート・システムからの TCP/IP 接続要求が受信されましたが、ローカル・ノードは、TCP または SSL ノード *node-id* がサインオンしていることを前提としており、エラーは検出されませんでした。これは、TCP または SSL ノード *node-id* のリモート・システムが TCP/IP 接続を停止せずに (IPL を介して) 再始動された場合などに発生します。

RC=0009:

TCP/IP 接続が TCP/IP エラーのために停止されました。

システムの処置: ノードが停止します。このノードが自動再始動オプションによって開始されており、かつ理由コードが 0001、0003、0004 (SNA の場合)、0007、0008、または 0009 である場合、このノードへの接続は自動的に再始動されます。オペレーターの応答:

- RC=0001 で BSC/CTC 回線の場合には、パスワード (ある場合) を正しく入力したかどうかを調べてください。
- RC=0004 および SNA の場合:
 - パスワード (ある場合) を正しく入力したかどうかを調べてください。
 - 「要介入」の状態が存在するかどうか (例えば、変復調装置に電源が入っており、それが接続されているか、ケーブルが正しく接続されているかどうか) を調べてください。

エラーを訂正後 (再始動が自動的に行われなかった場合には)、ノードに対し必要に応じて PSTART を出すことができます。内部、VTAM®、回線指定、またはハードウェア・エラーが発生した場合、担当のシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: なし。ただし、

- サインオンが完了する前に RC=0003 の状態が起きた場合は、(メッセージ 1RB3I) PLINE 生成マクロ中の TIMEOUT の指定を調べ、必要であれば指定値を大きくしてください。
- サインオンが完了する前に、RC=0001 または RC=0004 の状態が起きた場合は、パスワードが、他のノードで拒否されなかったかどうかを調べてください。
- サインオンが完了する前に RC=0006 の状態が起きた場合は、ローカル NDT および VTAM の対応する APPL-ID を調べてください。

**1RB1I NODE UNKNOWN OR NO PATH
ESTABLISHED TO NODE *node-id***

説明: PACT、PDRAIN、PBRDCST、PFLUSH、または PXMIT コマンドが出されましたが、指定された宛先ノード *node-id* は次のいずれかでした。

- ローカル・ノードに対して定義されていません。
- ノード *node-id* に達する経路がまだ確立されていません。
- 所有 (ローカル) ノード名が正しく指定されていません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: PDISPLAY PNET, ALL を出し、*node-id* が定義されているかどうか調べてください。定義されているなら、PINQUIRE ALL を出して、その *node-id* への経路が確立されているかどうかを調べてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1RB2I INVALID SIGNON RECEIVED FROM
NODE *node-id1*, RC=*nmmn* [FLAGGED
node-id2]**

説明: PSTART PNET,*node-id1* 要求が失敗しました。理由は、以下の理由コード (RC) で示されます。

RC=0001:

開始された他方の *node-id1* から受信した SIGNON レコードに、他方のノードの独自名として *node-id2* が含まれていますが、*node-id1* と *node-id2* が一致しません。

RC=0002:

無効なノード・パスワードを受け取りました。

RC=0003:

無効な回線パスワードを受け取りました。

RC=0004:

受け取ったバッファ・サイズが、許可される範囲で最小の 300 バイトよりも小さくなっています。

RC=0005:

開始された他方の *node-id1* から初期 (I) SIGNON レコードの受信を予期していましたが、その他方のノードから応答 (J) SIGNON を受信しました (あるいはその逆)。受信した SIGNON レコードでは、その他方のノードの名前自体が *node-id2* となっています。

注: *node-id1* は *node-id2* に一致する必要があります。一致しない場合、PNET/SNA で予期しない I/J SIGNON レコードが送られることとなります。これは、アルファベット順で名前の順位が上のノードが I レコードを送信し、アルファベット順で低い順位のノードから J レコードを要求することになるためです。

RC=0006:

このノードではサポートされない機構フラグが応答 SIGNON に含まれています。

システムの処置: サインオンは拒否されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 理由を調べ、使用中のネットワーク定義テーブルを調べてください。

**1RB3I NODE *node-id* SIGNED-ON ON LINK *cuu*,
BSIZE=*bbbb*, TIME=*hh:mm:ss***

説明: ローカル・ノードとノード *node-id* との間の接続が確立されています。このメッセージを受け取った後、ジョブ/出力の伝送を開始することができます。伝送に使用されるバッファ・サイズは *bbbb* で表示され、接続が確立された時刻は *hh:mm:ss* で表示されます。伝送に使用されるバッファ・サイズは、使用中のネットワーク定義テーブルに定義されたバッファ・サイズと異なる場合があります。(PDISPLAY PNET, ALL コマンドを用いてテーブルを表示することができます。) リンクのタイプに応じて、このメッセージは以下のように表示されます。

- SNA の場合、*cuu* は SNA
 - TCP の場合、*cuu* は TCP
 - SSL の場合、*cuu* は SSL
- システムの処置: 伝送の準備ができています。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

1RB4I *commandcode* NETWORK DEFINITION
TABLE xxxxxxxx LOADED

説明: PLOAD コマンドが実行されて、新しいネットワーク定義テーブル xxxxxxxx がロードされました。このテーブルは正常にロードされ、使用可能になりました。この PLOAD は、オペレーターが出したのか、または VSE/POWER の初期設定段階で内部的に出されたものです。

システムの処置: システムはこの新しいネットワーク定義テーブルを使用します。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを通知してください。

システム・プログラマーの応答: ネットワーク定義テーブルが永続的な変更を受けた結果として新しいネットワーク定義テーブルがロードされた場合、VSE/POWER 生成または AUTOSTART パラメーターを、ネットワーク定義テーブルの新しい名前を反映するように変更しなければなりません。VSE/POWER 生成のネットワーク定義テーブル・パラメーター (PNET) が新しいテーブルの名前を反映するように変更されているかどうかを確認するか、あるいは AUTOSTART デックを更新して、SET PNET = ステートメント上のフェーズ名を変更してください。

1RB5I **[JOB|OUTPUT] jobname nnnn(oooo)**
RECEIVED FROM node1 FOR node2 task-id

説明: PNET 受信装置がノード *node1* からのデータを受け取りました。このデータは、JOB、LST、PUN 出力のいずれかで、ローカル・キューまたは XMT キューに置かれて、さらに転送されます。最終宛先は *node2* で示されています。

元のジョブ番号は *oooo* で、VSE/POWER システムで割り振られたジョブ番号は *nnnn* です。

システムの処置: システムはデータを該当するキューに入れます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RB6I **{[JOB|OUTPUT]jobname jnum(ojnum) FROM**
| CONSOLE DATA FROM | RECEIVER
FOR NODE} node-id CANCELED,
RC=nnnn [task-id]

説明: *task-id* で示された PNET 受信側が、ノード *node-id* からのジョブまたは出力データを拒否しました。元のジョブ番号は *ojnum* に示され、VSE/POWER によって割り当てられたジョブ番号は *jnum* に示されます。これは表示されるジョブ ID の一部です。

2 番目の形式のメッセージは、メッセージまたはコマンドがコンソール受信側で拒否されたことを意味します。

3 番目の形式のメッセージは、多くの量の送信を処理しないう

ちに受信側が取り消されてしまったために、ジョブ名とジョブ番号が判別できなかったことを意味します。

送信が拒否された理由は、以下の理由コード (RC) で示されません。

注: 理由コードの説明は、内部 VSE/POWER マクロ IPW\$DWP によって定義された RC#xxxx 定数で見つけることができます。参照は、モジュール IPW\$\$NR、-NR2、および -NP の中で見つけることができます。

RC=0004 から RC=0014:

受信システムで STOP 状況が発生しました。これは受信ノードのオペレーターが PSTOP、PFLUSH、または PDRAIN を入力したことか、または送信ノードで PSTOP を入力したことが原因と思われる。また、システムが、他のシステムへの接続を失ったことが原因でこの状況が発生した可能性もあります。

RC=0018 から RC=0024:

GETVIS ストレージの要求が失敗しました。

RC=0028:

データ・ファイルで入出力エラーが発生したか、または、受信データのスプーリング中に、論理エラーが発生しました。

RC=002C から RC=0068:

さまざまな内部シーケンス・エラー、または無効な制御レコードを受け取りました。

RC=006C:

長さや内部構造が一致しないネットワーク制御レコードを VSE/POWER が検出しました。受信側がドレインされました。

RC=0070:

送信ノードでジョブが異常終了しました。これは PFLUSH、PDRAIN、または PNET 内部エラーが原因と思われる。

RC=0090:

PNET 出口ルーチンにより、送信がフラッシュされました。

RC=0094 から RC=00A0:

ユーザー PNET 出口ルーチンは、与えられたデータに対して無効な戻りコードを返しました。

RC=00A4:

ユーザー PNET 受信側出口ルーチンが異常終了しました。

RC=00C0 から RC=00CB:

圧縮解除ルーチンは、受信されたデータ・バッファでエラーを検出しました。IDUMP が要求されていますが、これは、このメッセージの前に出されているメッセージ 1Q2JI によって示されています。

さまざまな理由コードが後の問題判別のために提供されており、オプション資料で完全に記述されています。

システムの処置: VSE/POWER は処理を続行します。

オペレーターの応答: RC が 0094 から 00A4、0018 から 0024、0028 から 006C、または 00C0 から 00CB のいずれかの場合、このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。RC が A4 で、出口ルーチンを使用せずに続行したい場合、DISAB オペランドを指定した PVARY コマンドを使用して、出口ルーチンを「使用不能」状態にしてください。

システム・プログラマーの応答: RC の範囲に応じて、次のようにしてください。

1RB7I • 1RBAA

0018-0024

既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

002C-006C

または

00C0-00CB

PNET/SNA 接続の場合、// EXEC POWER phase,DSPACE=nM ステートメントの DSPACE 量の増加を検討してください。DSPACE について詳しくは、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」を参照してください。それ以外の場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

0094-00A4

ユーザーの PNET 受信側出口ルーチンを検査して、訂正してください。

1RB7I {*pdisplay-response line | commandcode* NOTHING TO DISPLAY}

説明: PDISPLAY PNET コマンドが出されました。
'*pdisplay-response lines*' の説明は、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」を参照してください。
システムの処置: 要求された情報が表示されます。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

1RB8I {NODE *node-id* HAS RESTARTED | AUTOMATIC RESTART OF CONNECTION TO NODE *node-id* IN PROGRESS}

説明: VSE/POWER は 2 つのテキストを次のように表示します。

- システムが接続されたノード *node-id* が、回線上のすべての活動を再始動しなければならなかった場合は、最初のテキスト。
- ユーザー自身のノードが、ノード *node-id* との接続を再始動している場合は、2 番目のテキスト。

このメッセージが繰り返し発生する場合は、おそらく、ノード *node-id* に重大な内部問題があることを意味します。

システムの処置: 現在のジョブ/出力のローカル・ノードへの伝送および受信が異常終了し、ノードのサインオン手順が自動的に活動化されます。

最初のメッセージ・テキストが表示された場合は、VSE/POWER は、非活動化 (PDRAIN による) されていないすべての送信側を自動的に再始動します。さらに、再始動処理の前に状況に応じて、受信側を非活動化するか、非アクティブ状態にします。

2 番目のメッセージ・テキストが表示された場合は、VSE/POWER は、自動的に 1 つのジョブ送信側、1 つの出力送信側、およびすべての受信側を活動化します。
オペレーターの応答: なし。ただし、メッセージが繰り返し発生する場合は、PSTOP PNET, *node-id* コマンドを出し、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: ノード *node-id* に内部エラーがあれば、調べてください。

1RB9I NODE ATTACHED TABLE FULL OR CONTAINS ERROR ENTRIES, NODE=*node-id*, RC=*returncode*

説明: 共用スプール環境では、ネットワークにログオンしているノードはすべて、他の共用システムと通信可能でなければなりません。これはノード接続テーブル (NAT) を使用して内部的に行われますが、エラーが起きることもあります。エラーの理由は、以下の理由コード (RC) で示されます。

RC=0001:

一時 NAT がいっぱいです。

RC=0002:

一時 NAT に正しくない項目が含まれています。

RC=0003:

永続 NAT に重複する項目があります。(これは予期しないエラーです)。

RC=0004:

永続 NAT がいっぱいです。

RC=0005:

一致する項目が NAT にありません。ノードとの接続が停止されましたが、NAT は該当ノードとの接続が行われていなかったことを示しました。

システムの処置: 理由コードに応じて、次のとおりです。

0001、0002、または 0004:

新しいノード ID は NAT に入力されません。したがって、このノードは、どの共用プロセッサにおいても認識されないことになります。システムは通常の処理を続けます。

0003:

2 番目の項目は無視されます。

0005:

システムは何の処置もとりません。

注: 理由コード 0002、0003、0005 では、VSE/POWER は上記のシステムの処置に加えて、内部ダンプを要求します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: これは、調べなければならない内部エラーだと思われます。IBM にお問い合わせください。

1RBAA UNACCEPTABLE PARALLEL SESSION REQUEST OCCURED FOR NODE *nodename*

説明: PNET, SNA とパートナー・ノード *nodename* の両方がセッションを開始するために BIND 要求を出しました。両方の BIND 要求が完了して、この 2 つのノード間に並列セッションが確立されます。両方のアプリケーションが、それぞれの VTAM アプリケーション大ノードの中で、PARSESS=YES の指定付きで定義されています。

システムの処置: VSE/POWER は並列セッションを使用することができないので、1 つのセッションだけを使用します。

VSE/POWER では 2 番目のセッションは無視され、したがって、2 番目のセッションは無用です。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: VTAM アプリケーション大ノードを変更し、VSE/POWER PNET アプリケーション用に PARSESS=NO を定義してください。

1RC0I BUFFER(S) LOST ON LINK WITH NODE *node-id*, RC=*nmmn*

説明: エラーの理由は、以下の理由コード (RC) で示されます。

RC=0001:

バッファの消失がローカル・ノードによって検出されました (BSC リンク)。

RC=0002:

バッファの消失がノード *node-id* によって検出されました (BSC リンク)。

RC=0003:

VTAM 戻りコードが、要求に対して例外条件が起きたことを示しています。

RC=0004:

VTAM 戻りコードが、応答に対して例外条件が起きたことを示しています。

システムの処置: RC=0001 および RC=0002 の場合には、伝送中のすべてのジョブおよび出力が異常終了します。メッセージが出されたときにアクティブであったすべての送信側は、自動的に再始動されます。サインオンが完了しないうちにメッセージ (1RB3I) が出された場合は、処置はなにもとられません。

RC=0003 および RC=0004 の場合には、ノード *node-id* のセッションが終了して、伝送中のジョブまたは出力 (あるいはその両方) が異常終了します。

オペレーターの応答: RC=0003 および RC=0004 の場合は、再度セッションを開始することができます。エラーが再発する場合には、システム・プログラマーに連絡してください。サインオンが完了しないうちにメッセージが繰り返される場合は (メッセージ 1RB3I はまだ出されていない)、ノードを一度停止させてから再始動してください。

システム・プログラマーの応答: 回線エラーが再発する場合は、調べてください。

1RC1I NETWORK PROTOCOL ERROR FOR NODE *node-id*, RC=*nmmn*

説明: 自身の (ローカル) ノードでエラーが起り、検出されました。一般に、このメッセージの後には、エラーのあるバッファに関係するキー・データが表示されます。エラーの理由は、以下の理由コード (RC) で示されます。

RC=0001:

このノードがノード *node-id* から送られたデータ・バッファを一時的に受信できなかった (バッファ・スペース不足) ため、データが失われました (BSC/CTC リンク)。

RC=0002:

ノード *node-id* から、次のような、予期せぬバッファを受け取りました (BSC/CTC および SNA リンク)。

- 受信できない受信側に対するデータ

- ストリーム制御 (許可付与/非付与、伝送要求、伝送完了) を持つ非送信請求バッファまたは重複バッファ

RC=0003:

識別されない送信側または受信側に対するバッファ (BSC または SNA リンク)。

RC=0004:

ノード *node-id* からの最初のデータ・バッファにサインオン・レコードが含まれていません (BSC/CTC および SNA リンク)。

RC=0005:

許可されている回線制御文字セットにない、見出しまたは後書き BSC/CTC 文字を受け取りました。

注: コンソール・トレース項目の後には、見出し BSC 文字だけが示されます。

RC=000A:

バッファがノード *node-id* のセッションに属していません (SNA リンク)。下記の「注」を参照してください。

RC=000B:

バッファに非送信請求肯定応答が含まれています (SNA リンク)。

RC=000C:

バッファにシャットダウン要求 (RSHUTD) 以外の非同期データ・フロー (DFASY) が含まれています (SNA リンク)。

RC=000D:

バッファにデータ以外の同期的なデータ・フロー (DFSYN) が含まれています (SNA リンク)。

RC=000E:

バッファのサイズが、ローカル・ノードに適用される TP バッファ・サイズを超えています。

RC=000F:

バッファの圧縮解除中のエラー (SNA リンク)。IDUMP が要求されていますが、これは、このメッセージの前に出されているメッセージ 1Q2JI によって示されています。下記の「注」を参照してください。

RC=0010:

バッファの圧縮中のエラー (SNA リンク)。下記の「注」を参照してください。

RC=0011:

予期しない機能管理ヘッダー (FMH) を受け取りました (SNA リンク)。

RC=0012:

機能管理ヘッダー (FMH) を予期したときに、他のレコードを受け取りました。

RC=0013:

正しくない機能管理ヘッダー (FMH) を受け取りました。

RC=0015:

CTC 回線で予期しない装置例外を検出しました。

RC=0016:

CTC 回線で予期しない NAK を受け取りました。

RC=0017:

BSC 専用の場合、装置例外が読み取りコマンドで検出されました。許可されていない EOT を受け取ったためと思われます。

RC=0018:

ノード *node-id* から受信しているときに、RECEIVE 同期が失われました (SNA リンク)。下記の「注」を参照してください。

RC=0019:

ノード *node-id* に送信しているときに、SEND 同期が失われました。下記の「注」を参照してください。

注: 原因はローカル・ノードでの内部的な問題と考えられます。

システムの処置: 理由コードに応じて、次のとおりです。

0001, 0004:

ノード *node-id* との接続は終了し、ノード *node-id* との間で送受信されたすべてのジョブ/出力が異常終了します。

0002, 0003:

エラーのあるバッファは無視されます。メッセージ 1RA9I も出された場合は、受信側または送信側も終了します。

0005, 0017:

システムはエラーのリカバリーを試みます。

0010: VSE/POWER は異常終了します。

0018 および 0019:

VSE/POWER は IDUMP を取り、接続を終了します。

000B: 応答は無視され、処理が続行されます。(診断用のみ出されます)。

000A, 000C から 000F, 0011 から 0013, 0015, 0016:

ノード *node-id* は終了し、ノード *node-id* との間で送受信されたすべてのジョブ/出力が異常終了します。

オペレーターの応答: システムがエラーをリカバリーできない場合は、システムがそのノードを停止させました。問題が再発するときは、このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

1RC2I *commandcode* TRANSMITTER CANNOT BE ACTIVATED

説明: 対応する JOB/OUTPUT 送信側がすでに始動しています。最大 8 個までの送信側だけを同時に活動化することができます。送信側の組み合わせのうち、いくつかは許可されていません。例えば、ジョブ送信側 2 を、出力送信側 7 と平行して実行することはできません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 送信側が必要な場合は、対応する送信側をまず PDRAIN コマンドでドレーンし、次に PACT コマンドを繰り返してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RC3I *commandcode* COMMAND REJECTED, NODE *node-id* IN SHUTDOWN

説明: シャットダウンが進行中のノードに対して PACT コマンドが入力されました。シャットダウンは、PSTOP PNET,*node-id* がそのノードに対して出されたためか、または、VSE/POWER の別の形式のコマンドによって強制的に、あるいは回線エラーが生じたことによって起きました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RC4I UNABLE TO SHUTDOWN SESSION WITH NODE *node-id*

説明: VTAM が「ストレージ不足」状態になっているため、セッションをシャットダウンできませんでした。

システムの処置: セッションは確立されたままになります。

オペレーターの応答: PSTOP PNET, *node-id* を再度入力してください。同じメッセージが再び出されたら、VTAM コマンド (VARY NET,INACT,ID=*applid*) によりセッションの APPLID を非活動化しなければなりません。APPLID を表示するには、PDISPLAY PNET, *node-id* コマンドを出してください。このときの *node-id* は、このメッセージに示されたものです。システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: VTAM ストレージの状況を調べてください。

1RC6I CONNECTION PENDING FOR NODE *node-id*, TIME=*hh:mm:ss* [,RC/FDB2=*xx/yy* SENSE=*zzzzzzzz*]

説明: オペレーターが PSTART PNET,*node-id* を出しましたが、接続を完全に確立することができません。

SNA 接続ノードの場合には、RPL 情報も表示されます。表示される RPL の情報は次のとおりです。

xx = RPLRTNCD

yy = RPLFDB2

zzzzzzzz = RPLSSEI, RPLSSMI, RPLESR1, RPLESR2

RC/FDB2 について詳しくは、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻」の『RPL に基づくマクロ命令』を参照してください。センス・データについては、『センス・コード』を参照してください。一般的に現れる障害について、RC/FDB2 およびセンス・データの要約 (すべて 16 進表示) を以下に示します。

RC/FDB2=10/02

OPNDST 要求から返されるものであり、*node-id* の APPLID がまだ VTAM で使用不能であることを示します。

SENSE=0809zzzz

ノード *node-id* の SNA ネットワーキングがまだアクティブではありません。

SENSE=080Fzzzz

ローカル・ノードの APPLID がノード *node-id* で認識されません。

SENSE=0812zzzz

ノード *node-id* がセッション要求を受け入れることが

できません。これは、リソース (通常はストレージ) の不足のためセッションを続行できないか、または他方の z/VSE システムで、対応する PSTART PNET コマンドがまだ出されていないためです。

SENSE=0821zzzz

セッションを確立するためにノード *node-id* と交換された情報 (BIND) について、2 つのノードが合意に達しません。

システムの処置: 接続に必要な処理が完了し、SIGNON が相互に出されるまで、接続は保留されたままです。回線またはセッションの相手側が、PSTART PNET... をこちら側のノードに出した時点で、ただちにこの状態になります。

オペレーターの応答: BSC/CTC/TCP/SSL ノードの場合、なし。RC/FDB2=10/02 および SENSE=0809zzzz の場合、処置は必要ありません。他のすべての場合、ノード *node-id* へのセッションを終了させ、再始動してください。SENSE=080Fzzzz の場合、担当のシステム・プログラマーに連絡してください。システム・プログラマーの応答: BSC/CTC/TCP/SSL ノードの場合、なし。SENSE=080Fzzzz の場合、2 つのノードのネットワーク定義が一致していないので、訂正しなければなりません。

1RC7I NODE *node-id* AWAITING CONNECTION, TIME=hh:mm:ss

説明: ノード *node-id* がローカル・ノードとの接続を確立しようとしたが、こちら側のノードで、ノード *node-id* に対する PSTART PNET,*node-id*... がまだ入力されていません。

システムの処置: ノード *node-id* からのセッション要求は拒否されます。

オペレーターの応答: ノード *node-id* と通信したい場合は、PSTART PNET, *node-id* を出してください。そうでない場合は、メッセージを無視してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RC8I PSTART COMMAND IGNORED, INVALID CTCA SPECIFIED

説明: VSE/POWERでサポートされていない実 CTCA に対して PSTART コマンドが出されました。

システムの処置: 回線は始動できず、コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: VM のもとで仮想チャンネル間アダプターを指定するか、または VTAM の実 CTCA サポートを使用する PNET/SNA に切り替えてください。

「VSE/POWER Networking」の『CTCA 要件』を参照してください。

1RD0I PSTART COMMAND IGNORED, VTAM TERMINATING

説明: SNA ノードに対して PSTART PNET,*node-id*... が出されましたが、VTAM が終了しつつあります。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 必要であれば、VTAM を開始して、PNET ノードを活動化させてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RD1I commandcode NODE *node-id* ALREADY STARTED

説明: PSTART コマンドがすでに出されているノードに対して、そのノードを停止させずに再度 PSTART コマンドが出されました。また、装置が作動可能状態になっていなかったために VSE が入出力要求を取り消して、このメッセージが出されるという場合もあります。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RD2I VTAM OPEN FAILED, RC=*nnnn*

説明: VTAM OPEN マクロが PNET 用の VTAM - VSE/POWER 間インターフェースに対して出されましたが、エラーが起きました。VTAM からの 16 進戻りコードがメッセージに示されています。エラーの原因については、「VTAM Programming」を参照してください。

システムの処置: オペレーターまたは AUTOSTART プロシージャによって SNA ノードに対して出された PSTART PNET,*node ID* コマンドはすべて取り消されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。エラーが訂正された後、PSTART PNET, *node-id*... コマンドを出し直してください。

システム・プログラマーの応答: VTAM 戻りコードを調べて、エラーを訂正してください。戻りコードが「ACB はすでに別のセッション用にオープンされています」を示しているときは、同じアプリケーション ID が RJE/SNA サポートと PNET サポートの両方で使用されている可能性があります。この場合、アプリケーション ID (POWER マクロの SNA オペランドまたは PNODE マクロの APPLID オペランド) のいずれかを変更してください。

注: エラーを訂正した後、すべての SNA の PSTART コマンドを再度入力してください。

1RD3I VTAM SETLOGON FAILED, RC/FDB2=*nn,nn*

説明: VSE/POWER PNET インターフェースを初期設定するために VTAM SETLOGON マクロが VTAM に出されましたが、エラーが発生しました。このエラーの原因は、メッセージ内の VTAM 戻りコードとフィードバック・コードによって示されています。エラーの原因については、「VTAM Programming」を参照してください。

システムの処置: オペレーターまたは AUTOSTART プロシージャによって SNA ノードに対して出された PSTART PNET,*node ID* コマンドはすべて無視されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。エラーが訂正された後、PSTART PNET, *node-id*... コマンドを出し直してください。

システム・プログラマーの応答: VTAM 戻りコードとフィードバック・コードを調べて、エラーを訂正してください。

1RD4I VTAM SETLOGON QUIESCE FAILED, RC/FDB2=nn,nn

説明: VSE/POWER PNET インターフェースを静止させるために VTAM SETLOGON QUIESCE マクロが VTAM に出されましたが、エラーが発生しました。このエラーの原因は、メッセージ内の VTAM 戻りコードとフィードバック・コードによって示されています。

システムの処置: 接続されているノードでのすべての活動が停止し、VTAM インターフェースをクローズする試みが行われます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: エラーの原因については、「VTAM Programming」を参照してください。

1RD5I VTAM CLOSE FAILED, RC=nnnn

説明: VSE/POWER PNET インターフェースをクローズするために VTAM CLOSE マクロが VTAM に出されましたが、エラーが発生しました。このエラーの原因は、メッセージ内の VTAM 戻りコードによって示されています。

システムの処置: インターフェースは正しくクローズされていません。

オペレーターの応答: 適正な VTAM コマンドを出し、すべてのアクティブ APPLID を表示してから、該当する VTAM コマンド (VARY NET,INACT,ID=applid) を出して、インターフェースをクローズしてください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: エラーの原因については、「VTAM Programming」を参照してください。

1RD6I APPLID aaaaaaaa NOT DEFINED IN NETWORK DEFINITION TABLE

説明: aaaaaaaa で指定される APPLID に対するセッションを確立するための要求が受け取られましたが、この APPLID は、VSE/POWER PNET システムで現在アクティブであるネットワーク定義テーブルに定義されていません。

システムの処置: 要求はリジェクトされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: APPLID を調べて、このノードとの通信が必要であれば、ノードの定義と APPLID を含むように、そのネットワーク定義テーブルを訂正してください。

1RD7I LOSTERM EXIT SCHEDULED FOR NODE node-id, REASON LOST CODE=36

説明: ノード *node-id* と通信している間に、VTAM バッファ一限界を超えました。

システムの処置: ノード *node-id* とのセッションが終了します。

オペレーターの応答: 必要であれば、セッションを再始動してください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: // EXEC *powerphase* ステートメントの DSPACE オペランドを使用して、VTAM バッファ一限界を大きくすることを検討してください。

1RD8I VTAM macroname FAILED, RC/FDB2=xx/yy, SENSE=zzzzzzzz

説明: メッセージで示された VTAM マクロが、正しく完了していないことを示す戻りコードで終了しました。エラーの原因については、「VTAM Programming」を参照してください。このメッセージは、以下の VTAM マクロのいずれかを表しません。

1. OPNDST
2. OPNSEC
3. SESSIONC
4. SEND
5. RECEIVE
6. TERMSESS
7. CLSDST
8. RESETSR

システムの処置: マクロが 1、2、または 3 の場合、セッションは確立されていません。

マクロが 4 または 5 の場合、既存のセッションは終了します。

マクロが 6 または 7 の場合、セッションはまだアクティブである可能性があるため、適切な VTAM コマンドを使用してセッションを終了させなければなりません。

オペレーターの応答: 必要であれば、PSTART コマンドを再入力する (1 から 3 の場合) か、適切な VTAM コマンドを入力してセッションを終了させてください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードとフィードバック・コードを調べて、エラーを訂正してください。RC/FDB2 について詳しくは、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻」の『RPL に基づくマクロ命令』を参照してください。センス・データについては、『センス・コード』を参照してください。

1RE0I VTAM NOT STARTED OR INACTIVE

説明: SNA ノードに対して最初の PSTART PNET, node-id が出されましたが、次のいずれかです。

1. VTAM インターフェースがアクティブでないか、または開始されていません。
2. VTAM はアクティブであるが、対応する VTAM サブライブラリーが VSE/POWER 区画の検索チェーンに含まれていません。
3. VTAM はアクティブであるが、ローカル PNET ノードの APPLID が VTAM で認識されていません。

システムの処置: VTAM インターフェースのオープンが再度試みられます。

オペレーターの応答: 上記の理由に応じて、次のとおりです。

1. VTAM がまだ初期設定されていない場合は、初期設定してください。
2. VSE/POWER コマンド PEND を使用して VTAM サブライブラリーを VSE/POWER 区画のフェーズ検索チェーンに組み込んだ後、VSE/POWER を再始動してください。
3. VSE/POWER コマンド PDISPLAY PNET および VTAM コマンド D NET,APPLS を使用して、ローカル PNODE NDT 項目の APPLID オペランドを、すべてのアクティブ

VTAM アプリケーションと比較してください。一致しない場合は、対応する定義を訂正してください。

システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER 区画の検索チェーンに行われた変更を記録してください。

1RE1I VTAM INTERFACE CLOSED FOR NETWORKING

説明: 最後の SNA タイプのノードが、ネットワークから、正常にあるいは異常状態で切断されました。ネットワーク用の VTAM インターフェースは、一度クローズされ、次に、SNA タイプのノードに対して PSTART PNET,node-id が出された時点で自動的に再オープンされます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RE2I SESSION REQUEST FROM NODE *node-id* REJECTED, RC=*nmmn*

説明: 理由は、理由コード (RC) で示されています。*nmmn* は以下のいずれかです。

RC=0001:

リモート・ノードとのセッションを確立するために GETVIS ストレージが必要ですが、現在は十分なストレージがありません。*node-id* は、リモート・ノードの APPLID です。

RC=0002:

無効な BIND を受け取りました。

システムの処置: リモート・ノードからのセッション要求は拒否されます。

オペレーターの応答: PSTART PNET,*node-id* コマンドを出して、ノード *node-id* とのセッションの確立を試みてください。

システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 必要ならば、区画 GETVIS ストレージの量を増やしてください。無効な BIND を調べてください。

1RE3I APPLID FOR NODE *node-id* ALREADY DEFINED IN NDT

説明: ネットワーク定義テーブル (NDT) のロード時に、同じ APPLID が複数のノードに対して定義されていることが検出されました。

システムの処置: 固有の APPLID を提供するために、システムは、ノード *node-id* の APPLID を '*1RE3I*' に設定することによって、それを無効にします。*node-id* のノード項目全体にフラグが立てられます。その結果、後続の PSTART PNET, *node-id* コマンドは失敗し、メッセージ 1RA4I RC=0012 が出力されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: ネットワーク定義テーブルを調べ、正しいノードが正しい APPLID で生成されていることを確かめてください。

1RE4I IP-ADDRESS WITH PORT FOR NODE *node-id* ALREADY DEFINED IN NDT

説明: ネットワーク定義テーブル (NDT) のロード時に、同じ IP アドレス (小数点付き 10 進数) および IP ポート番号が複数の SSL または TCP ノードに対して指定されていることが検出されました。

システムの処置: 固有のアドレッシングを行うために、システムは、ノード *node-id* の IP アドレスを '*1RE4I' に設定することによって、それを無効にします。*node-id* のノード項目全体にフラグが立てられます。その結果、後続の PSTART PNET, *node-id* コマンドは失敗し、メッセージ 1RA4I RC=0013 が出力されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: ネットワーク定義テーブルを調べ、ノードが固有の IP アドレスおよび IP ポート番号で定義されていることを確かめてください。

1RE5I NETWORK DEFINITION TABLE *ndtname* FOUND WITH NEW LOCAL NODE NAME *nodeid*

説明: VSE/POWER はウォーム・スタートを実行し、POWER マクロの PNET オペランドまたは自動スタート・ステートメント SET PNET に指定されているネットワーク定義テーブル (NDT) *ndtname* にローカル・ノード名 *nodeid* を見つけました。*nodeid* は現在のローカル・ノード名とは異なるもので、後続のメッセージ 1RE6D に表示されています。

システムの処置: 処理を続行し、メッセージ 1RE6D を出します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RE6D CONFIRM CHANGE OF LOCAL NODE NAME FROM *nodeid1* TO *nodeid2* BY 'YES', ELSE 'NO'

説明: VSE/POWER はウォーム・スタートを実行し、POWER マクロの PNET オペランドまたは自動スタート・ステートメント SET PNET に指定されているネットワーク定義テーブルに新しいローカル・ノード名 *nodeid2* を見つけました。ネットワーク定義テーブルの名前は、前のメッセージ 1RE5I で示されています。*nodeid2* が現在のローカル・ノード名 *nodeid1* と異なっています。ノード名変更の確認が必要です。

システムの処置: VSE/POWER は応答を待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。ノード名変更が必要であれば、YES と応答し、その他の場合は NO と応答してください。

YES

ネットワーク定義テーブルがロードされ、ネットワーク機能は使用可能になります。VSE/POWER は、ローカル・ノード名およびキュー項目のすべてで見つかった名前を変更します。

NO ノード名変更を無視し、VSE/POWER は通常のウォー

ム・スタートを続行します。ネットワーク定義テーブルはロードされないため、ネットワーク機能は使用可能になりません。

システム・プログラマーの応答: ノード名変更が必要ない場合、ネットワーク定義テーブルを検査および訂正し、VSE/POWER を再始動してください。

1RE7I

1. CHANGE OF LOCAL NODE NAME FROM *nodeid1* TO *nodeid2* IN PROGRESS
2. CHANGE OF LOCAL NODE NAME FROM *nodeid1* TO *nodeid2* COMPLETED
3. CHANGE OF LOCAL NODE NAME FROM *nodeid1* TO *nodeid2* RE-INITIATED
4. CHANGE OF LOCAL NODE NAME FROM *nodeid1* TO *nodeid2* INTERRUPTED

注: 左側の数字は、画面上に実際には表示されません。これらは以下の説明文と対応させるために便宜的に追加されています。

説明: メッセージ・テキストに応じて、次のとおりです。

1. VSE/POWER は、新しいローカル・ノード名 *nodeid2* でキュー項目を更新します。このメッセージは 30 秒ごとに出力されます。
2. VSE/POWER は、すべてのキュー項目を正常に処理しました。
3. ローカル・ノード名の変更中に異常終了した後、VSE/POWER が再始動されます。VSE/POWER はローカル・ノード名の変更を再開します。
4. ローカル・ノード名の変更中に 2 度異常終了した後、VSE/POWER が再始動されます。VSE/POWER はローカル・ノード名の変更を終了します。

システムの処置: メッセージ・テキストに応じて、次のとおりです。

1. VSE/POWER は、マスター・レコード内のローカル・ノード名、およびキュー・レコード、またジョブ・ヘッダーおよびデータ・セット・ヘッダー・レコードで見つかった名前を新しいローカル・ノード名 *nodeid2* で更新します。伝送キューにあるキュー項目の古いローカル・ノード名が新しいノード名と同じものである場合、そのキュー項目は伝送キューからデキューされ、再びローカル RDR、LST、または PUN キューに入れられます。すべてのキュー・レコード、ジョブ・ヘッダーおよびデータ・セット・ヘッダー・レコードが読み取られ、すべての更新済みレコードが書き込まなければならないため、このメッセージは 30 秒ごとに出力されます。
2. VSE/POWER は、マスター・レコード内のローカル・ノード名、およびキュー・レコード、またジョブ・ヘッダーおよびデータ・セット・ヘッダー・レコードで見つかった名前を新しいローカル・ノード名 *nodeid2* で更新しました。ウォーム・スタートは続行します。
3. VSE/POWER はキュー・ファイル・リカバリーを続行します。キュー・ファイル・リカバリーが完了した後、ローカル・ノード名の変更が実行され、メッセージ 1RE7I-1 および 1RE7I-2 が出力されます。

4. VSE/POWER はキュー・ファイル・リカバリーを続行します。キュー・ファイル・リカバリーが完了した後、メッセージ 1REAI が出力されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RE8I

- CHANGE OF LOCAL NODE NAME FROM *nodeid1* TO *nodeid2* FAILED - ACTIVE SYSID(S) FOUND: *sysid1,sysid2,....*

説明: 他に稼働しているシステムがない場合のみ、ローカル・ノード名を変更できるため、ローカル・ノード名の変更は拒否されました。 *sysid1* および *sysid2* は、アクティブなシステムのシステム識別名を示しています。最大 8 のシステム識別名が表示されます。

システムの処置: ノード名変更を無視し、VSE/POWER は通常のウォーム・スタートを続行します。ネットワーク定義テーブルはロードされないため、ネットワーク機能は使用可能になりません。

オペレーターの応答: ネットワーキング機能をノード名変更なしで使用可能にしなければならない場合、*nodeid1* によるネットワーク定義テーブルで VSE/POWER を再始動してください。 *nodeid2* によるネットワーク定義テーブルでネットワーク機能を使用可能にしなければならない場合、アクティブなシステムをすべてシャットダウンし、*nodeid2* によるネットワーク定義テーブルで VSE/POWER を再始動する必要があります。システムがすでに終了されていても、アクティブであると示されている場合、PRESET *sysid1, sysid2* を使用して、そのアクティブ状態をリセットすることができます。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RE9I

- queue-id* QUEUE ENTRY *jobname number* *suffix* KEPT WITH HOLD DISPOSITION, RC=*mmmm*

説明: VSE/POWER 初期化の間にノード名変更が行われると、すべてのキュー項目が処理され、古いローカル・ノード名が新しいローカル・ノード名で更新されます。そのため、2 つの内部制御レコード (ジョブ・ヘッダーおよびデータ・セット・ヘッダー・レコード) が読み取られ、更新され、再びディスクに書き込まれます。この処理の間にエラーが発生しました。原因は理由コード (RC) で示されています。 *mmmm* には以下のいずれかが入ります。

RC=0001:

データの終わりに達しましたが、ジョブ・ヘッダー・レコードが見つかりませんでした。

RC=0002:

最初の 5 レコードにジョブ・ヘッダー・レコードが見つかりませんでした。

RC=0003:

ジョブ・ヘッダー・レコードの長さの合計が 32767 を超えています。

RC=0004:

ジョブ・ヘッダー・レコードの長さの合計が 0 です。

RC=0005:
ジョブ・ヘッダー・サブセクションの長さが 32767 を超えています。

RC=0006:
ジョブ・ヘッダー・サブセクションの長さが 0 です。

RC=0007:
ジョブ・ヘッダー・サブセクションの合計が、長さの合計を超えています。

RC=0008:
ジョブ・ヘッダー・レコードに VSE/POWER サブセクションが見つかりませんでした。

RC=0009:
データの終わりに達しましたが、データ・セット・ヘッダー・レコードが見つかりませんでした。

RC=0010:
リストまたはパンチ・キュー項目の最初の 6 レコードに、データ・セット・ヘッダー・レコードが見つかりませんでした。

RC=0011:
ジョブ・ヘッダー・レコードを読み取っているときに入出力エラーが発生しました。

RC=0012:
データ・セット・ヘッダー・レコードを読み取っているときに入出力エラーが発生しました。

RC=0013:
ジョブ・ヘッダー・レコードを書き込んでいるときに入出力エラーが発生しました。

RC=0014:
データ・セット・ヘッダー・レコードを書き込んでいるときに入出力エラーが発生しました。

RC=0015:
ジョブ・ヘッダー・レコードを読み取っているときに無効な論理レコード長が見つかりました。

RC=0016:
データ・セット・ヘッダー・レコードを読み取っているときに無効な論理レコード長が見つかりました。

RC=0017:
ジョブ・ヘッダー・レコードを書き込んでいるときに無効な論理レコード長が見つかりました。

RC=0018:
データ・セット・ヘッダー・レコードを書き込んでいるときに無効な論理レコード長が見つかりました。

RC=0019:
ジョブ・ヘッダーまたはデータ・セット・ヘッダー・レコードを検索しているときに、先行するメッセージ 1Q6UA に示されているキュー項目に属していない DBLK グループが見つかりました。

システムの処置: 理由コードによっては、表示されているキュー項目のジョブ・ヘッダーまたはデータ・セット・ヘッダー・レコード、あるいはその両方は更新されません。VSE/POWER は、その他のキュー項目のノード名変更を続行します。内部処理の障害を避けるため、キュー項目 *jobname number suffix* は後処理 'HOLD' でキューに入れられます。

理由コードが 0015 から 0019 までの場合、内部ダンプがとられています。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: 理由コードが 0001 から 0010、0015 から 0019 までの場合:

キュー項目 *jobname number suffix* が処理に必要なければ、そのキュー項目を削除してください。キュー項目 *jobname jobnumber jobsuffix* が処理に必要であれば、IPW\$\$\$DD データ・ファイル・ダンプ・ツールを使用してディスク上のキュー項目の DBLK を調べ、IBM 担当員に報告してください。

理由コードが 0011 から 0014 までの場合:

ディスク入出力エラーが発生しています。対処として、代替データ・ファイル・エクステンツを定義することを考慮してください。

**1REAI CHANGE OF LOCAL NODE NAME
FROM nodeid1 TO nodeid2 INCOMPLETE,
NOT ALL QUEUE ENTRIES PROCESSED**

説明: ローカル・ノード名の変更中、前に 2 度異常終了した後、VSE/POWER が再始動されます。ノード名変更は前回の実行で開始されたため、すべてのキュー項目が新しいノード名で更新されているわけではありません。

システムの処置: VSE/POWER は新しいノード名によるキュー項目の更新をドロップしますが、新しいローカル・ノード名を受け入れ、新しいネットワーク定義テーブル (NDT) をロードすることによって初期化を完了します。

オペレーターの応答: 異常終了時にすでに示されているメッセージ 1REBI に、正常に処理された最後のキュー項目が示されています。POFFLOAD BACKUP コマンド、およびオペランド *oldnode* を指定して POFFLOAD LOAD コマンドを使用することによって、まだ処理されていないキュー項目のノード名変更を完了してください。まだ処理されていないキュー項目とは、ノード名変更が開始される前に VSE/POWER によって作成された状況報告書 \$LSTnnnn (メッセージ 1RECI および 1Q8GI を参照) に、キュー項目が正常に処理された後で表示されているすべてのキュー項目です。詳しくは、「VSE/POWER Networking」のトピック『Using PNET』にある『Changing the Name of the Local Node』という段落を参照してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1REBI LAST QUEUE ENTRY PROCESSED
SUCCESSFULLY BY NODE NAME
CHANGE: queue jobname jobnumber priority
disposition class [sysid|original queue
][S=jobsuffix].**

説明: ローカル・ノード名の変更中に VSE/POWER が異常終了しました。メッセージには、正常に処理された最後のキュー項目が示されています。queue に伝送キューを表す XMT が入っている場合、original queue は以下の文字のいずれかになります。

1. R (RDR キュー)
2. L (LST キュー)
3. P (PUN キュー)

1RECI • 1RSZI

キュー項目に SYSID が指定されていない場合、*sysid* はブランクです。XMT キュー項目の場合、*sysid* は表示されません。

LST または PUN キュー項目がセグメント化されていて、そのキュー項目に接尾部番号が割り当てられている場合、*S=jobsuffix* が表示されます。

注: 少なくとも 1 つのキュー項目が正常に処理される前に VSE/POWER が異常終了すると、S= はブランクになり、その他のキュー項目の属性もブランクになります。

システムの処置: VSE/POWER は異常終了したままです。オペレーターの応答: 新しいネットワーク定義テーブルをもう一度使用してシステムを再 IPL し、ノード名変更を完了してください。その後でもう一度メッセージ 1REBI が出される場合、さらにシステムを再 IPL してください。その後、VSE/POWER はノード名変更に関わり込み、メッセージ 1REAI を出して初期化を完了します。POFFLOAD コマンドによってノード名変更を完了する方法については、メッセージ 1REAI を参照してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RECI STATUS REPORT \$LSTNNNN BEING CREATED DUE TO NODE NAME CHANGE

説明: VSE/POWER は内部 PDISPLAY ALL,LST コマンドを出して、ノード名変更によって処理されるキュー項目の状況報告書を作成します。ノード名変更を完了できない(メッセージ 1REAI を参照) 場合、この状況報告書を使用することができません。ノード名変更が正常に完了した(メッセージ 1RE7I を参照) 場合、状況報告書を削除しても構いません。

システムの処置: VSE/POWER はノード名変更を続行します。状況報告書が完了すると、状況報告書 \$LSTnnnn (nnnn は割り当てられている jobnumber の最後の 4 桁) の名前が示されているメッセージ 1Q8GI が出されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RF0I *commandcode* OPERAND *nm* CURRENT DBLK SIZE *nnnnn* TOO BIG, MAXIMUM ALLOWED DBLK SIZE FOR PREVIOUS RELEASE IS *mmmmmm*

説明: POFFLOAD BACKUPxx/SAVExx コマンド (xx は VSE/POWER リリース) が出されました。nnnnn は、現行システムで定義された DBLK サイズです。mmmmmm は、指定された以前の VSE/POWER リリースで許可される最大 DBLK サイズです。

システムの処置: コマンドは拒否されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 以前のリリースで許可される最大 DBLK サイズ *mmmmmm* を指定して、現行 VSE/POWER を生成してください。POFFLOAD 機能を使用してキューをバックアップした上で、キューをフォーマットし直し、キューを再ロードしてください。次に、POFFLOAD BACKUPxx/SAVExx コマンドを再試行してください。

1RF1A *task,uuu* EITHER ENCOUNTERED A PROBLEM WITH THE P390 DEVICE MANAGER OR HAS BEEN INVALIDLY STARTED WITH SUFFIX P390

説明: PSTART LSTP390 コマンドが出され、ジョブ名およびジョブ番号に関する情報を P390 デバイス・マネージャーに渡していたところ、問題が起きました。この問題には次の 2 つの理由があります。

1. デバイス・マネージャーが、ジョブ名とジョブ番号に関する情報を渡すために使用されるチャンネル・コマンド X'FF' をもつ特殊な CCW を処理することができません。
2. アドレス *uuu* をもつ実装置に対するリスト・タスクを開始するために、LSTP390 オペランドが間違っ出て出されました。

システムの処置: タスクは終了し、失敗したリスト・キュー項目は元の後処理のままキューに残されます。

オペレーターの応答: PSTART LSTP390 オペランドを使用するのは、P390 デバイス・マネージャーが不明のチャンネル・コマンド X'FF' をもつ CCW を処理できる場合に限定してください。

PSTART LSTP390 コマンドが誤って実装置に使用された場合は、P390 接尾部を使用せずに LST タスクを再始動してください。

注: 穿孔タスクについても同じメッセージが出されることがあります。

システム・プログラマーの応答: P390 デバイス・マネージャーの提供者に連絡をとり、X'FF' チャンネル・コマンドを処理できるデバイス・マネージャーのバージョンを入手してください。

1RF2A REQUEST 'DEBUG ON,250K' TO SUPPORT TASK TRACE WITH OPTION 'FULL'

説明: VSE/POWER タスク・トレースが、オプション FULL で開始されました。トレースの全機能を使用するためには、VSE/AF DEBUG を ON にする必要があります。このメッセージは、オペレーターに VSE/AF DEBUG トレースを開始するのを忘れないように気付かせるものです。

システムの処置: タスク・トレースは正常に開始されました。

オペレーターの応答: アテンション・ルーチン・コマンド 'DEBUG ON,250K' を使用して、DEBUG トレースを開始してください (まだ開始されていない場合)。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RSZI PASSIVE CONNECTION ALREADY STARTED OR IN RECOVERY

説明: パッシブ接続を再始動するため PSTART TCP/IP,PASSIVE コマンドが入力されましたが、パッシブ接続はすでに始動されているか、エラーが原因で起きたリカバリーの処理中です。

システムの処置: VSE/POWER はそのコマンドを無視し、処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RT1I **UNABLE TO ATTACH TCP/IP SUBTASK,**
RC=nnnn

説明: PLOAD PNET コマンドが出されましたが、部分的に失敗しました。理由は、以下の理由コード (RC) で示されます。

RC=0001:

SETPFIX LIMIT ストレージが不足しているため、内部 'PSTART TCPIP' タスクを呼び出すことができませんでした。

RC=0002:

内部 'PSTART TCPIP' タスクが、TCP/IP ドライバー (TD) サブタスクのタスク生成で、同じタイプのタスク (前の PLOAD 試行からの) がまだ保留中であることを検出しました。

RC=0003:

内部 'PSTART TCPIP' タスクが、TDCBACT1/STA1 コードのために終了状態のドライバー・サブタスクを検出しました。まだ再度タスク生成を行うことができません。

RC=0004:

VSE/POWER 区画または全 VSE システムのいずれかに使用可能な数の VSE サブタスクが使い尽くされたため、内部 'PSTART TCPIP' タスクは、TCP/IP ドライバー (TD) サブタスクを生成できませんでした。

システムの処置: ネットワーク定義テーブルのロードおよび活性化は、表示される理由コードに応じて、PNET TCP/IP インターフェースに上で継続されます。

RC=0001:

PNET TCP/IP インターフェースは開始されません。

RC=0002:

内部で呼び出された 'PSTART TCPIP' タスクは中止されます。

RC=0003:

再びタスク生成できるように、3 秒ごとに、TCP/IP ドライバー (TD) サブタスクが VSE DETACH 処理を完了したかどうかを検査します。メッセージ 1RT1I RC=0003 は一度だけしか出されません。

RC=0004:

3 秒ごとに、TCP/IP ドライバー (TD) サブタスクを正常に生成するための試みが行われます。メッセージ 1RT1I RC=0004 は一度だけしか出されません。

オペレーターの応答: 表示された理由コードに応じて、次のとおりです。

RC=0001:

後で、PLOAD PNET コマンドを出し直してください。

RC=0002:

PSTOP TCPIP コマンドを使用して保留中の PSTART TCPIP タスクを終了させ、PLOAD PNET コマンドを再サブミットしてください。

RC=0003:

3 秒ごとの内部再試行で TCP/IP インターフェースを正常にオープンできない場合は、PSTOP TCPIP コマンドを使用して、TD サブタスクの DETACH を起動してください。そのあと、PLOAD PNET コマンドを再サブミットしてください。

RC=0004:

3 秒ごとの内部再試行で TD サブタスクを ATTACH できない場合は、PSTOP TCPIP コマンドを使用して、内部 PSTART TCPIP タスクを終了してください。そのあと、PLOAD PNET コマンドを再サブミットしてください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 表示された理由コードに応じて、次のとおりです。

RC=0001:

SETPFIX LIMIT 不足への対処方法については、メッセージ 1Q59I のオペレーターの応答を参照してください。

RC=0002:

なし。

RC=0003:

なし。

RC=0004:

STATUS F1 コマンドを使用して、VSE/POWER 区画 (例えば、F1) の OEM プロダクトによる VSE サブタスクの使用量を調べてください。

1RT2I **{TCP/IP:|TCP SSL:} EZASMI**
MACRO-REQUEST req-type FAILED,
RC=rcno, ERRNO=errno, {TS|SS=rr} [FOR
NODE node-id {(SERVER)|(CLIENT)} | FOR
IP-ADDRESS=ip-address][{(ACT)|(PAS)}],
RS=sssss]

説明: 要求 req-type を指定した EZASMI マクロを出したところ、エラーが発生しました。この要求の結果、10 進数の戻りコード rcno および 10 進数のエラー番号 errno が戻されました。req-type が「SSL-」で始まる場合、要求は SSL 機能に適用されます。エラー番号 errno は、一部のエラー状態にのみ有効です。req-type が「SSL-SOCK-INIT」の場合、戻りコード rcno には接続の SSL 機能を初期化するソケット呼び出しの理由コードが含まれます。

SSL (GSKxxxx) 呼び出しの戻りコードは、ライブラリー・メンバー SSLVSE.A および Connectivity Systems による「SSL for VSE User's Guide」で説明されています。「IBM z/VSE TCP/IP サポート」には両方のソースが指し示されています。要求が出される対象となった接続の状況に応じて、以下の追加情報がメッセージに表示されます。

- TS|SS - 内部モジュール通信コード
- node-id が手に入る場合、FOR NODE node-id。初期コンタクトが完了している場合、所有ノードの役割も表示されます。ノード node-id との通信を行っている場合、SERVER または CLIENT として機能します。
- node-id は手に入らないが、ip-address が手に入る場合は、FOR IP-ADDRESS=ip-address。

1RT3I • 1RT5I

- node-id も ip-address も手に入らない場合 (例えば、インターフェイスが初期設定または終了される場合 - req-type が INITAPI または TERMAPI の場合) は、追加情報はありません。
- (PAS) - リモート・ノードからの CONNECT 要求が受信され、初期コンタクトがまだ完了していない場合。
(ACT) - その他すべての状態の場合。
- RS=ssss は 10 進の理由コードで、一部の SSL 要求用に表示されます。例えば、req-type の場合は "SSL-SOCK-INIT" です。

システムの処置: 接続は停止されます。場合によっては、VSE/POWER は問題分析のための内部ダンプを要求することがあります。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: rcno、ssss、および errno で示された問題を解決してください。必要に応じて、エラーの原因究明を弊社に依頼してください。

1RT3I {TCP/IP:|TCP SSL:} CONNECT REQUEST RECEIVED FROM UNKNOWN NODE WITH IP-ADDRESS=*ip-address*

説明: メッセージ・テキストに示された *ip-address* から、TCP/IP を介して CONNECT 要求を受け取りました。*ip-address* が、ネットワーク定義テーブル (NDT) に見つかりません。*ip-address* のシンボリック・ホスト名が TCP/IP で定義されていれば、メッセージ 1RT3I の後にメッセージ 1RTBI が出されます。

システムの処置: CONNECT 要求は受け入れられ、システムは OPEN 制御レコードを待ちます。後でメッセージ 1RTEI または 1RTGI が出されることがあります。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER NDT の IP アドレスをチェックしてください。矛盾がある場合は、NDT を訂正し、更新した NDT を再ロードしてから、*ip-address* に接続されているノードに対して PSTART コマンドを出してください。*ip-address* が不明な場合は、*ip-address* の所有者に連絡をとり、このエラーを報告してください。

1RT4I {TCP/IP:|TCP SSL:} NO OPEN CONTROL RECORD RECEIVED FROM {NODE *node-id* | IP-ADDRESS=*ip-address*}, FOUND='data'

説明: 2 つのノード間の初期コンタクト時、TCP NJE 制御レコードが交換されたときにエラーが発生しました。リモート・ノードの CONNECT 要求は、ローカル・ノードによって受け入れられました。そのあと、ローカル・ノードが、予期された OPEN 制御レコードを受け取りませんでした。*data* は、文字形式で受け取られたデータで、印刷不能文字はブランクで置き換えられます。*data* は、後で、メッセージ 1RTFI で 16 進形式で表示されます。ノードがネットワーク定義テーブル (NDT) に定義されており、その *ip-address* または対応する IP ホスト名が使用されていれば、*node-id* が表示されます。NDT の中で *ip-address* または対応する IP ホスト名がどのノードについても使用されていないければ、*ip-address* が表示されます。

システムの処置: システムはこの接続を終了しますが、他の接続の処理を続けます。新規の接続を開始することができます。さらに、メッセージ 1RTFI が出され、受信データが 16 進形式で表示されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: リモート・ノードのアプリケーションが、NJE プロトコルをサポートするアプリケーション (例えば、VSE/POWER または RSCS) かどうかを確認してください。

1RT5I {TCP/IP:|TCP SSL:} {OPEN | ACK | NAK} CONTROL RECORD RECEIVED FROM NODE *node-id* WITH INVALID {LOCAL NODE-ID=*node-id* | REMOTE NODE-ID=*node-id* | REASON CODE=*rrrr*} [(IPEXTRAD USED)]

説明: 2 つのノードの初期コンタクト時に交換された TCP NJE 制御レコード (OPEN、ACK、または NAK 制御レコード) に、次のいずれかが含まれています。

- ローカル・ノードまたはリモート・ノードのネットワーク定義テーブル (NDT) で指定されたデータと矛盾するデータ。
- 不明の NAK 理由コード (*rrrr*)。

(IPEXTRAD USED) が表示されている場合、リモート・ノード *node-id* 用の PNODE マクロのオペランド IPEXTRAD に指定された IP アドレスが、TCP/IP ステートメント SET IPADDR に指定された IP アドレスの代わりにローカル・ホストの IP アドレスとして検査に使用されています。

システムの処置: OPEN 制御レコードを受け取った場合、システムはリモート・ノードに NAK 制御レコードを送信し、接続を終了します。ACK 制御レコードまたは NAK 制御レコードを受け取った場合には、システムは TCP/IP 接続をクローズし、12 分後に TCP/IP 接続の開始を再試行します。いずれの場合も、システムは他の接続の処理を続けることができ、新規の接続を開始することができます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 表示されたデータを NDT 内に指定されたデータと比較してください。矛盾がある場合は、NDT を訂正し、更新した NDT を再ロードしてから、停止されたノードに対して PSTART コマンドを出してください。矛盾がない場合は、リモート・ノードの所有者に連絡をとり、リモート・ノードでの定義をチェックしてください。REASON CODE が表示された場合は、リモート・ノードの所有者に連絡をとり、そこにある NJI ソフトウェア・コンポーネントをチェックしてください。

注: オペランド IPEXTRAD が使用されているときは複数のローカル IP アドレスが存在する可能性があるため、OPEN 制御レコードの受信ノードは、ローカル・ノードの NDT またはリモート・ノードの NDT に、ローカル IP アドレスが誤って指定されていないかどうかを認識する必要はありません。したがって、NAK 制御レコードには、リモート・ノードから受信された OPEN 制御レコードのローカル IP アドレスが含まれています。

1RT6I {TCP/IP:|TCP SSL:} NAK CONTROL
RECORD RECEIVED FROM NODE *node-id*
WITH REASON CODE=rrrr

説明: 2つのノードの初期コンタクト時に、表示された理由コード (RC) を含む TCP NJE NAK 制御レコードを受け取りました。RC は、次のいずれかです。

RC=0001:

リモート・ノード *node-id* が、ローカル・ノードからの OPEN 制御レコードのデータを解釈して、リモート・ノードのネットワークの定義と比較したところ、不一致を検出しました。以下のいずれかのものが一致していないと思われます。

- ローカル・ノード ID
- ローカル IP アドレス
- リモート・ノード ID
- リモート IP アドレス
- ノード・タイプ (例: TCP と SSL)

RC=0002:

リモート・ノードで、ローカル・ノードへのリンクがまだアクティブです。以前にこれら2つのノードは正常に接続されていたため、リモート・ノードは引き続き接続されていると認識していますが、ローカル・ノードはすでに接続は終了していると認識しています。

RC=0003:

両方のノードが同時に接続を開始しようとしたため、リモート・ノードが競合問題を検出しました。

RC=0004:

JES が接続を停止した場合、JES が終結処理を実行する前にリモート PNET システムは再接続を試みます。JES は否定応答 (NAK) を新しい戻りコード (RC=4) とともに送信し、リモート・システムにしばらく待つように信号を送ります。

システムの処置: 表示された理由コードに応じて、次のとおりです。

RC=0001:

ローカル・システムは TCP/IP 接続をクローズし、12 分後に TCP/IP 接続の開始を再試行します。

RC=0002:

ローカル・ノードは、接続を開始する試みを停止し、リモート・ノードが接続を開始するまで待ちます。リモート・ノードからの CONNECT 要求が 2 分以内に受信されない場合は、ローカル・ノードは TCP/IP 接続の開始を再試行して、CONNECT 要求をリモート・ノードに送信します。

RC=0003:

ローカル・ノードは、接続を開始する試みを停止し、リモート・ノードからの CONNECT 要求を待ちます。該当する時間内に CONNECT 要求を受け取らないと、ローカル・ノードは接続の再始動を試みます。

RC=0004:

ローカル PNET ノードは、接続を開始する試みを停止し、リモート JES ノードが接続を開始するまで待ちます。リモート JES ノードからの CONNECT 要

求が 2 分以内に受信されない場合は、ローカル PNET ノードは TCP/IP 接続の開始を再試行して、CONNECT 要求をリモート JES ノードに再送信します。

オペレーターの応答: 表示された理由コードに応じて、次のとおりです。

RC=0001:

システム・プログラマーに連絡してください。

RC=0002:

接続を自動的に設定できない場合は、リモート・ノードの所有者に連絡をとり、リモート・ノードの所有者がローカル・ノードへのリンクを再始動するか (例えば、z/VSE システムで PSTART PNET,node-id コマンドを出して)、またはシステム・プログラマーに連絡してください。

RC=0003:

適切な時間内に接続を設定できない場合は、リモート・ノードの所有者に連絡をとり、リモート・ノードの所有者がローカル・ノードへのリンクを再始動するようにしてください (例えば、z/VSE システムで PSTOP PNET,node-id および PSTART PNET,node-id コマンドを出して)。

RC=0004:

接続を自動的に設定できない場合は、リモート JES ノードの所有者に連絡をとり、リモート JES ノードの所有者が PNET ノードへのリンクを再始動するようにするか、またはシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 表示された理由コードに応じて、次のとおりです。

RC=0001:

リモート・ノードの所有者に連絡をとり、このエラーを報告してください。ローカル・ノードとリモート・ノードのネットワーク定義が適合するよう変更してください。

RC=0002:

なし。

RC=0003:

なし。

RC=0004:

なし。

1RT7I {TCP/IP:|TCP SSL:} INTERFACE
STARTING, SOCKET CALL *socket call*
ISSUED

説明: TCP/IP とのインターフェースが開始され、表示された *socket call* が次のいずれかのサブタスクによって出されました。

1. メッセージの前に「TCP/IP:」が表示されている場合は、SSL 機能なしで TCP/IP プロトコルを使用してすべての TCP ノードを処理する TD サブタスクが、その TCP/IP インターフェースを開始しました。
2. メッセージの前に「TCP SSL:」が表示されている場合は、SSL 機能つきで TCP/IP プロトコルを使用してすべての SSL ノードを処理する SD サブタスクが、その TCP/IP インターフェースを開始しました。

1RT8I • 1RTAI

各ソケット呼び出しは次の順序で出されます。

INITAPI

インターフェースを初期設定する

SSL-INIT

SSL インターフェースを初期設定する (SD サブタスクによってのみ発行される)

SOCKET

ソケット記述子を入力する

GETHOSTID

ローカル・ノードの IP アドレスを入力する

BIND

リモート・ノードからの接続要求で使用されるポート番号を指定することによって、新規のソケット作成プロセスを完了する

LISTEN

リモート・ノードからの接続要求を受信する準備を行う

上記のソケット呼び出しの 1 つが失敗すると、以下のソケット呼び出しが表示されることがあります。

CLOSE 接続をクローズする

SSL-UNINIT

SSL 機能を終了する

(SD サブタスクによって出されます)

TERMAPI

インターフェースを終了する

システムの処置: システムは処理を継続します。メッセージ 1RT7I は各サブタスクによって表示されます。最初の LISTEN までの各ソケット呼び出しにつき 1 つが正常に出されました。オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

1RT8I {TCP/IP:|TCP SSL:} INTERFACE NOT AVAILABLE

説明: TCP/IP とのインターフェースが、以下のいずれかのサブタスクで使用可能でないか、部分的にしか使用できません。

1. メッセージの前に「TCP/IP:」が表示されている場合は、SSL 機能なしで TCP/IP プロトコルを使用してすべての TCP ノードを処理する TD サブタスクが、その TCP/IP へのインターフェースの初期設定を試行しました。
2. メッセージの前に「TCP SSL:」が表示されている場合は、SSL 機能つきで TCP/IP プロトコルを使用してすべての SSL ノードを処理する SD サブタスクが、その TCP/IP へのインターフェースの初期設定を試行しました。

TCP/IP の一部が VSE/POWER 区画で実行されており、他の部分はそれ自身の TCP/IP 区画で実行されています。これらの部分のいくつかが使用可能ではありません。前にメッセージが出され、どの部分に障害があるかが示されています。

システムの処置: TCP/IP とのインターフェースは終了しました。TCP または SSL ノードへのすべての接続が終了しました。

オペレーターの応答: TCP/IP が開始されているかどうか、また、TCP/IP のさまざまな部分および VSE/POWER によって出されたメッセージを調べてください。TCP/IP を再始動し、TCP または SSL ノードが少なくとも 1 つ含まれたネットワーク定義テーブル (NDT) を指定して、PLOAD PNET コマン

ドを出してください。問題を解決できない場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: TCP/IP のさまざまな部分および VSE/POWER によって出されたメッセージを調べ、これらのメッセージに従って問題を解決してください。

1RT9I *commandcode* TCP/IP INTERFACE NOT STARTED AT ALL

説明: PSTOP TCPIP コマンドが出されましたが、内部 PSTART TCPIP タスクが保留中であることが検出されず、また TCP/IP インターフェースのサポートのために TD サブタスクがアクティブであることも検出されませんでした。

システムの処置: その PSTOP コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: まず、少なくとも 1 つの TCP ノードを含むネットワーク定義テーブルに対する PLOAD PNET,ndtname コマンドを出して、これによって TCP/IP インターフェースを開始してから、PSTOP を出し直してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RTAI *commandcode* TCP/IP INTERFACE NOTIFIED FOR TERMINATION, RC=*nnnn*

説明: PSTOP TCPIP コマンドが正常に処理され、次のように戻りコード (RC) に応じて TCP/IP インターフェースを識別しました。

RC=0001:

内部 PSTART TCPIP タスクは、TD サブタスクの生成を試みて「保留中」でした。

RC=0002:

TCP/IP インターフェースを表す TD サブタスクがアクティブであることが検出されました。

RC=0003:

内部 PSTART TCPIP タスクと TD サブタスクの両方がアクティブであることが検出されました。

システムの処置: 識別されたタスクが通知され、メッセージ 1RTSI (メッセージ 1RTAI よりも前にコンソールに表示される可能性があります) で示されたように、終了状態に入ります。

RC=0001:

即時に。追加メッセージは出されません。

RC=0002:

すべての TCP ノードが停止されるとすぐに (PSTOP EOJ の場合)、または即時に (PSTOP FORCE の場合)。

RC=0003:

0001 および 0002 に従って。

オペレーターの応答: PSTOP EOJ のために RC=0002 が出された場合は、PINQUIRE NODE=local-node コマンドを使用して終了処理を推し進めたり、まだアクティブである TCP ノードには PSTOP PNET,node-id コマンドを使用することができます。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RTBI **{TCP/IP:|TCP SSL:} ERROR FOR
HOSTNAME *ip-name***

説明: TCP/IP ホスト名が使用された TCP/IP 接続の初期設定で、エラーが起きました。このエラーは、前に出されたメッセージ (例えば、1RT3I) で説明されています。関連する TCP/IP ホスト名が、メッセージ 1RTBI で示されています。TCP/IP ホスト名が 60 バイトを超える場合は、最初の 55 バイトの後に '...' が付けられて表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 前に出されたメッセージを参照してください。

システム・プログラマーの応答: 前に出されたメッセージを参照してください。

1RTCA **{TCP/IP:|TCP SSL:} NODE *node-id* WITH
UNKNOWN HOSTNAME *ip-name***

説明: ある TCP または SSL ノードに対する PSTART コマンドが出され、シンボリック・ホスト名は指定されましたが、TCP/IP アドレスが指定されていませんでした。そのホスト名は TCP/IP に認識されていません。ホスト名が 60 バイトを超える場合は、最初の 55 バイトの後に '...' が付けられて表示されます。コマンド D PNET,*node-id* を出せば、全体のホスト名を表示することができます。

システムの処置: ノードが停止します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: TCP/IP 定義および VSE/POWER ネットワーク定義テーブルをチェックしてください。矛盾がある場合は、それらを訂正し、ネットワーク定義テーブルを再ロードしてから、ノードに対して新たに PSTART コマンドを出してください。

1RTDI **{TCP/IP:|TCP SSL:} NO ACK/NAK
CONTROL RECORD RECEIVED FROM
{NODE *node-id* | IP-ADDRESS=*ip-address*},
FOUND='data'**

説明: 2 つのノード間の初期コンタクト時、TCP NJE 制御レコードが交換されたときにエラーが発生しました。ローカル・ノードの CONNECT 要求は、リモート・ノードによって受け入れられました。その後、ローカル・ノードは OPEN 制御レコードを送信しましたが、ACK 制御レコードも NAK 制御レコードも受け取っていません。data は、文字形式で受け取られたデータで、印刷不能文字はブランクで置き換えられます。data は、後で、メッセージ 1RTFI で 16 進形式で表示されます。ノードがネットワーク定義テーブル (NDT) に定義されており、その *ip-address* または対応するシンボリック・ホスト名が使用されていれば、*node-id* が表示されます。

システムの処置: システムはこの接続を終了し、12 分後に TCP/IP 接続の開始を再試行します。新規の接続を開始することができます。さらに、メッセージ 1RTFI が出され、受信データが 16 進形式で表示されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: リモート・ノードのアプリケーションが、NJE プロトコルをサポートするアプリケーション

(例えば、VSE/POWER または RSCS) かどうかを確認してください。

1RTEI **{TCP/IP:|TCP SSL:} CONNECTION
CLOSED FOR UNKNOWN IP-ADDRESS=
*ip-address***

説明: *ip-address* から TCP NJE OPEN 制御レコードを受け取りました。しかし、ノードの *ip-address* または対応する IP ホスト名がネットワーク定義テーブル (NDT) に指定されていなかったため、*ip-address* との TCP/IP 接続は停止されます。

システムの処置: NAK 制御レコード (理由コード 01) がリモート・ノードに送信され、TCP/IP 接続がクローズします。その他の TCP/IP 接続は実行を続けることができます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: TCP/IP 定義および VSE/POWER NDT をチェックしてください。矛盾がある場合は、矛盾を訂正し、訂正した NDT を再ロードしてから、表示された *ip-address* を持つノードに対して PSTART コマンドを出してください。 *ip-address* がシステム・プログラマーにとって不明のものである場合は、*ip-address* の所有者に連絡をとり、このエラーを報告してください。

1RTFI **{TCP/IP:|TCP SSL:} DATA FROM {NODE
node-id | IP-ADDRESS=*ip-address*}: 'data'**

説明: 2 つのノード間の初期コンタクト時、制御レコードが交換されたときにエラーが発生しました。このエラーは、前に出されたメッセージ (例えば、1RT4I) で説明されています。メッセージ 1RTFI は、受信した data を 16 進形式で表示します。データをどれだけ受信したかに応じて、最大 33 の受信文字が表示されます。ノードがネットワーク定義テーブル (NDT) に定義されており、その *ip-address* または対応する IP ホスト名が使用されていれば、*node-id* が表示されます。NDT の中で *ip-address* または対応する IP ホスト名がどのノードについても使用されていなければ、*ip-address* が表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 前に出されたメッセージを調べ、表示されたデータを使用して、問題を解決してください。

1RTGI **{TCP/IP:|TCP SSL:} NO OPEN CONTROL
RECORD RECEIVED IN TIME FROM
{NODE *node-id* | IP-ADDRESS=*ip-address*}**

説明: 適切な時間内に OPEN 制御レコードが受信されなかったため、*node-id* または *ip-address* からの TCP/IP 接続スタートアップ要求はもう続行されません。他のノードがローカル・ノードに接続できるように、この接続のスタートアップ要求は停止されます。ノードがネットワーク定義テーブル (NDT) に定義されており、その *ip-address* または対応する IP ホスト名が使用されていれば、*node-id* が表示されます。NDT の中で *ip-address* または対応する IP ホスト名がどのノードについても使用されていなければ、*ip-address* が表示されます。

システムの処置: 受け取った OPEN 制御レコードが不完全なものであれば、メッセージ 1RTFI が出されます。TCP/IP 接

1RTHI • 1RTMI

続は終了され、システムは他のリモート・ノードからの新規接続要求を待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: TCP/IP アプリケーションは VSE/POWER TCP/IP NJE ポートに接続されているが、適切な時間内に NJE OPEN プロトコルに従わなかったリモート・ノードのオペレーターに連絡してチェックしてください。

ip-address が不明な場合は、*ip-address* の所有者に連絡をとり、このエラーを報告してください。

1RTHI {TCP/IP:|TCP SSL:} NODE *node-id* AWAITING CONNECTION

説明: ノード *node-id* がローカル・ノードとの接続を設定しようとしたが、ノード *node-id* に対する PSTART PNET,*node-id* が、まだローカル・ノードで入力されていません。

システムの処置: ノード *node-id* からの接続要求は拒否されます。

オペレーターの応答: ノード *node-id* と通信したい場合は、コマンド PSTART PNET,*node-id* を出してください。それ以外の場合は、このメッセージを無視してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RTJA {TCP/IP:|TCP SSL:} INITIALIZATION OF INTERFACE UNSUCCESSFUL, RETRY GOING ON

説明: VSE/POWER 区画で実行中のサブタスクが TCP/IP インターフェースを初期設定しようとしたが、失敗しました。TCP/IP のいくつかの部分が VSE/POWER 区画で実行されており、障害に関してもっと詳しい情報を与えるメッセージを出しています。

メッセージの前に「TCP/IP:」が表示されている場合は、SSL 機能なしで TCP/IP プロトコルを使用してすべての TCP ノードを処理する TD サブタスクが、その TCP/IP へのインターフェースの初期設定を試行しました。

メッセージの前に「TCP SSL:」が表示されている場合は、SSL 機能つきで TCP/IP プロトコルを使用してすべての SSL ノードを処理する SD サブタスクが、その TCP/IP へのインターフェースの初期設定を試行しました。

システムの処置: システムは、20 秒ごとに TCP/IP インターフェースとのインターフェースを初期設定しようとしています。

オペレーターの応答: TCP/IP メッセージをチェックしてください。TCP/IP メッセージは、VSE/POWER 区画で実行中の TCP/IP によって出されるか、それ自身の区画で実行中の TCP/IP によって出されます。これらのメッセージに従って問題を解決してください。問題を解決できず、システムがこれ以上 TCP/IP インターフェースの初期設定を試みないようにする場合は、VSE/POWER コマンド PSTOP TCP/IP または PSTOP TCPSSL を使用してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RTKI {TCP/IP:|TCP SSL:} INTERNAL ERROR FOR NODE *node-id*, CCW=*data*

説明: 内部制御ブロックの内容のため、ノード *node-id* の内部処理が失敗しました。これは予期しないエラーです。*data* は、エラーの制御ブロックの内容です。CCW は、チャンネル・コマンド・ワードとなる制御ブロックを識別します。

システムの処置: TCP/IP 接続は停止されます。ダンプが作成されます (このダンプを IBM 担当員に渡してください)。このダンプは、前に出されたメッセージ 1Q2JI に従って提供されません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。ノード *node-id* と通信したい場合は、例えば、z/VSE システムで VSE/POWER コマンド PSTART PNET,*node-id* を出して、*node-id* とのリンクを再始動してください。

システム・プログラマーの応答: ダンプ処理のために、メッセージ 1RTKI とその前後に出されたコンソール・メッセージを集め、IBM 担当員に連絡してください。

1RTL I {TCP/IP:|TCP SSL:} INTERNAL POSTING FOR NODE *node-id* FAILED

説明: TCP/IP サブタスクが、情報を配達するようにメインタスクに通知しましたが、メインタスクはすでにその情報を処理済みです。これは予期しないエラーです。処理は続行され、TCP/IP 接続を介して送信されるデータの損失はありません。

システムの処置: 前に出されたメッセージ 1Q2JI に従ってダンプが提供されます。

TCP ノードの場合:

接続は停止後、再始動されます。

SSL 機能を備えた TCP ノードの場合:

接続は停止後、再始動されません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: ダンプ処理のために、メッセージ 1RTL I とその前後に出されたコンソール・メッセージを集め、IBM 担当員に連絡してください。

1RTMI TCP/IP SUBTASK [ALREADY] ATTACHED

説明: PLOAD PNET コマンドが、ロードされたネットワーク定義テーブル内に少なくとも 1 つの TCP ノードを検出しましたが、次のいずれかを行いました。

- TCP/IP インターフェースを開始するために、TCP/IP ドライバー (TD) サブタスクを生成した。
- このタスクが前の PLOAD 要求によってすでにタスク生成されていたことを検出した。

システムの処置: 状況に応じて、次のいずれか。

- TD サブタスクは、コンソール上のメッセージ 1RT7I で示されたように TCP/IP インターフェースを開始します。
- 既存の TD サブタスクは、開始済み TCP/IP インターフェースを引き続き保持します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RTNI {TCP/IP:|TCP SSL:} CONNECTION
CLOSED FOR NODE *node-id* DUE TO
STOP COMMAND ({SIGNOFF SENT |
SIGNOFF RECEIVED | DURING INITIAL
CONTACT})

説明: 通常の停止処理 (例えば、PSTOP PNET,*node-id*、PSTOP TCPIP か PSTOP TCPSSL、または PEND コマンドが z/VSE システムで入力された) のために、*node-id* の TCP/IP 接続が停止されました。 *node-id* が正常サインオンしていなかった場合には、文字 'DURING INITIAL CONTACT' が表示されます。 *node-id* が正常にサインオンしていた場合には、接続を停止するために受け取る SIGNOFF レコードがそれぞれに送信されます。

システムの処置: TD- または SD サブタスクは、*node-id* の処理を停止しました。VSE/POWER メインタスクも同様に、*node-id* の処理を停止しようとしていますが、その後で、例えば、SIGNOFF レコードが受信され、かつ PSTART PNET オプションで再始動が許可される場合は、再始動を試みる可能性があります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RTOI {TCP/IP:|TCP SSL:} CONNECTION
ATTEMPT REJECTED BY NODE *node-id*,
{RETRY GOING ON | WAITING FOR
ATTEMPT BY REMOTE}

説明: リモート・ノードの応答によって、*node-id* の TCP/IP 接続が停止しました。

1. リモート・ノード *node-id* が、リモート・ノードがローカル・ノードとの TCP/IP 接続をまさに開始しようとしていることを意味する、理由コードが 3 のタイプ NAK の TCP NJE 制御レコードを送信した場合は、RETRY GOING ON が表示されます。
2. リモート・ノード *node-id* が、リモート・ノードがノードとのアクティブな TCP/IP 接続を検出したことを意味する、理由コードが 2 のタイプ NAK の TCP NJE 制御レコードを送信した場合は、WAITING FOR ATTEMPT BY REMOTE が表示されます。

TCP NJE NAK 制御レコードの理由コードは、メッセージ 1RT6I に表示されています。

システムの処置: システムは、リモート・ノードからの TCP/IP 接続要求を待ちます。理由コード 3 の場合、それまでにリモート・ノードからの TCP/IP 接続要求が受信されなければ、別の TCP/IP 接続要求を送信する前に、システムは短期間のランダム時間枠 (0.5 から 50 秒) を選択します。理由コード 2 の場合、システムは 2 分後に接続要求を送信します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RTPI {TCP/IP:|TCP SSL:} CONNECTION
CLOSED FOR NODE *node-id* DUE TO
INVALID DEFINITIONS

説明: 定義が無効なため、*node-id* の TCP/IP 接続が停止しました。障害に関する詳しい情報は、前のメッセージ (例えば、

1RT5I、1RT6I、1RV5I、または 1RV6I) で示されています。システムの処置: ローカル・システムは TCP/IP 接続をクローズし、12 分後に TCP/IP 接続の開始を再試行します。オペレーターの応答: 前のメッセージで、理由に関する詳しい情報を調べてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RTQI {TCP/IP:|TCP SSL:} CONNECTION
CLOSED FOR NODE *node-id* DUE TO
FAILING TCP/IP REQUEST

説明: TCP/IP 要求が失敗したため、*node-id* の TCP/IP 接続が停止しました。障害に関する詳しい情報は、前のメッセージ (例えば、1RT2I) で示されています。メッセージ 1RTQI は、各ノードごとに表示されますが、この前に出される 1RT2I のようなメッセージは一度現れるだけで、エラー・コードの重大度に応じて各ノードごとに繰り返されることはありません。

システムの処置: *node-id* の TCP/IP 接続は停止します。

オペレーターの応答: 前のメッセージで、理由に関する詳しい情報を調べてください。TCP/IP が起動され、実行中であるかどうか調べてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RTRI {TCP/IP:|TCP SSL:} CONNECTION
CLOSED FOR NODE *node-id* DUE TO
INTERNAL ERROR

説明: 内部エラーのため、*node-id* の TCP/IP 接続が停止しました。障害に関する詳しい情報は、同時に出されるメッセージ (例えば、1RTKI) で示されています。

システムの処置: *node-id* の TCP/IP 接続は停止しますが、PSTART PNET で再始動が許可されていれば、再始動されます。

このエラー・タイプが再始動を許可した場合、接続は再始動されます。エラーが 2 分以内に再び発生した場合、接続は再始動されません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RTSI {TCP/IP:|TCP SSL:} INTERFACE TO
TCP/IP TERMINATED DUE TO {PEND |
PSTOP } COMMAND

説明: 以下のいずれかのサブタスクによって表示されたコマンドが原因で、TCP/IP とのインターフェースは終了しました。

1. メッセージの前に「TCP/IP:」が表示されている場合は、SSL 機能なしで TCP/IP プロトコルを使用してすべての TCP ノードを処理する TD サブタスクが、その TCP/IP インターフェースを終了しました。
2. メッセージの前に「TCP SSL:」が表示されている場合は、SSL 機能つきで TCP/IP プロトコルを使用してすべての SSL ノードを処理する SD サブタスクが、その TCP/IP インターフェースを終了しました。

システムの処置: TCP/IP とのインターフェースは終了しました。TCP または SSL ノードへのすべての接続が終了しました。TCP ノードへの接続が終了している場合でも、SSL ノードへの接続には影響ありません。逆に、SSL ノードへの接続が

1RTTI • 1RTXI

終了している場合でも、TCP ノードへの接続には影響ありません。

オペレーターの応答: まだ PEND コマンドを出していなければ、TCP または SSL ノードが少なくとも 1 つ含まれたネットワーク定義テーブル (NDT) を指定した PLOAD PNET コマンドを出すことによって、TCP/IP とのインターフェースを再始動することができます。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RTTI (PNET console trace information)

説明: このメッセージは、後続行に PNET コンソール・トレース情報が含まれていることを示しています。説明については、「VSE/POWER Networking」を参照してください。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RTUI TCP/IP INTERFACE QUESTIONABLE DUE TO FAILURE IN TIDY-UP ROUTINE

説明: TD サブタスクによって表された TCP/IP とのインターフェースが、最初の 1Q2CI メッセージで示されたとおりに失敗し、続いて IDUMP マクロ要求が出されました。そのあと、すべての TCP ノードを停止するため、および 'TERMAPI' 要求によって TCP/IP インターフェースをクローズするために、TCP/IP タイディアップ・ルーチンが呼び出されました。しかし、2 番目の 1Q2CI メッセージで示されたように、このタイディアップ・ルーチンも失敗し、続いて別の IDUMP マクロ要求が出されました。

システムの処置: タイディアップ・ルーチンがもう一度呼び出されることはありません。代わりに TD サブタスクが即時に終了し、TCP/IP インターフェースがクローズされない可能性があります。

オペレーターの応答: TCP/IP 接続が終了しない場合は、PSTOP PNET,node-id,FORCE コマンドを使用してください。そのあと、現行のネットワーク定義テーブル (NDT) を再ロードして、TCP/IP インターフェースを再設定してください。インターフェースが 1RT7I-LISTEN 状態に入らない場合は、PSTOP TCP/IP,FORCE を使用して再び停止してください。NDT を再ロードする前に、TCP/IP 区画を循環することを検討してください。これが失敗する場合、TCP/IP インターフェースは、再 IPL によってしか再設定できなくなります。

システム・プログラマーの応答: 障害の状況を示すコンソール・ログを集め、示された IDUMP を用意して、IBM 担当員に連絡してください。

1RTVI {TCP/IP:|TCP SSL:} NEW CONNECTION REQUEST REJECTED FOR NODE node-id, {WHICH IS ALREADY CONNECTED | FOR WHICH A CONNECTION IS BEING STARTED}

説明: node-id からの TCP/IP 接続要求が受信されましたが、node-id に NAK 制御レコードを送信することによって、この要求は拒否されました。

システムの処置: ノード node-id がすでに接続されている場合は、次のことが起こります。

1. RC=2 の NAK 制御レコードが node-id に送信されます。
2. node-id とのアクティブ接続が停止されます (メッセージ 1RTWI が出されます)。
3. PSTART PNET オプションで再始動が許可されている場合には、node-id との新規接続が開始されます。
4. z/VSE オペレーティング・システムがリモート・ノード node-id で実行されている場合には、メッセージ 1RT6I がリモート・ノードで出されます。
5. リモート・ノード node-id は、ローカル・ノードからの新規接続要求を待ちます。

ノード node-id に関して接続が開始されたばかりで、まだ開始処理が完了していない場合は、次のことが起こります。

1. RC=3 の NAK 制御レコードが node-id に送信されます。
2. ローカル・ノードは接続要求の開始処理を続けます。
3. z/VSE オペレーティング・システムがリモート・ノード node-id で実行されている場合には、メッセージ 1RT6I がリモート・ノードで出されます。
4. リモート・ノードは、接続の開始処理を停止し、ローカル・ノードからの CONNECT 要求を待ちます。該当する時間内に CONNECT 要求を受け取らないと、リモート・ノードは改めて接続の開始を試みます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RTWI {TCP/IP:|TCP SSL:} CONNECTION CLOSED FOR NODE node-id DUE TO NEW CONNECT REQUEST

説明: リモート・ノードから新規の接続要求を受け取ったため、node-id の TCP/IP 接続が停止しました。これは、リモート・ノード node-id が停止され、そのことがローカル・ノードに通知されなかった場合に起こります。リモート・ノード node-id が再始動されたため、ローカル・ノードは、リモート・ノード node-id とのアクティブ接続を停止して、新規の接続を再始動します。前にメッセージ 1RTVI が出されており、RC=2 の NAK 制御レコードが node-id に送信されました。

システムの処置: node-id の TCP/IP 接続は停止しますが、PSTART PNET で再始動が許可されていれば、再始動されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RTXI {TCP/IP:|TCP SSL:} DATA FROM {NODE node-id | IP-ADDRESS=ip-address}: 'data'

説明: イベントが発生し、それに対応するトレース情報がメッセージに表示されています。エラーが発生したのであれば、追加のメッセージが表示され、上記の情報が問題の解決に役立ちます。

トレース情報が属するノードが判明した場合は、node-id が表示されます。

トレース情報が属するノードは判明しなかったが、トレース情報が属する IP アドレスが判明した場合は、ip-address が表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: コンソール・ログにほかのメッセージがないか調べ、表示されたデータを使用して問題を解決してください。

1RTYI {TCP/IP:|TCP SSL:} NEW CONNECTION
REQUESTS FROM REMOTE NODES CAN
NO LONGER BE PROCESSED

説明: VSE/POWER の TCP/IP 初期設定プロセス時に保管された制御情報を使用して、受動モードのリモート・ノードから接続要求を受信することができなくなりました。すでにサインオンされているノードは処理を続けます。まだサインオンしていないノードは、サインオン・プロセスの状態によっては、サインオン・プロセスを完了できない場合があります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 新規接続を開始する必要がある場合は、以下のステップを行って、VSE/POWER の TCP/IP インターフェースを再始動してください。

1. TCP/IP インターフェースのシャットダウンを引き起こす (PSTOP TCP/IP,EOJ または PSTOP TCPSSL,EOJ を使用して)。
2. ノードの終了を引き起こす (PSTOP PNET,...,EOJ を使用して)。
3. その後、TCP/IP インターフェースを再始動して (PLOAD PNET,... を使用して)、現行のネットワーク定義テーブルを再ロードする。

TCP/IP インターフェース (TD サブタスク) の場合、PSTART TCP/IP,PASSIVE コマンドは、TCP/IP インターフェースを停止し再始動する代わりに、バッチ接続を再始動するために使用できます。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RTZI {TCP/IP:|TCP SSL:} CONNECTION
CLOSED FOR NODE *node-id* DUE TO
CLOSE BY REMOTE NODE

説明: SIGNOFF レコードを送信せずにリモート・ノードが CLOSE ソケット呼び出しを発行したため、*node-id* の TCP/IP 接続が停止されました。これは、リモート・ノード *node-id* で、CLOSE を発行するリモート・ノードが原因でエラーが発生した場合に起こります。

システムの処置: *node-id* の TCP/IP 接続は停止しますが、PSTART PNET で再始動が許可されていれば、再始動されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RV1I UNABLE TO ATTACH TCP SSL
SUBTASK, RC = *nnnn*

説明: PLOAD PNET コマンドが出されましたが、部分的に失敗しました。理由は、以下の理由コード (RC) で示されます。

RC=0001:

SETPFIX LIMIT ストレージが不足しているため、内部 'PSTART TCPSSL' タスクを呼び出すことができませんでした。

RC=0002:

内部 'PSTART TCPSSL' タスクが、TCP/IP SSL ドライバー (SD) サブタスクのタスク生成で、同じタイプのタスク (前の PLOAD 試行からの) がまだ保留中であることを検出しました。

RC=0003:

内部 'PSTART TCPSSL' タスクが、TDCBACT1/STA1 コードのために終了状態の SSL ドライバー・サブタスクを検出しました。まだ再度タスク生成を行うことができません。

RC=0004:

VSE/POWER 区画または全 VSE システムのいずれかに使用可能な数の VSE サブタスクが使い尽くされたため、内部 'PSTART TCPSSL' タスクは、TCP/IP SSL ドライバー (SD) サブタスクを生成できませんでした。

システムの処置: ネットワーク定義テーブルのロードおよび活性化は、表示される理由コードに応じて、PNET SSL インターフェースに上で継続されます。

RC=0001:

PNET SSL インターフェースは開始されません。

RC=0002:

内部で呼び出された 'PSTART TCPSSL' タスクは中止されます。

RC=0003:

再びタスク生成できるように、3 秒ごとに、TCP/IP SSL ドライバー (SD) サブタスクが VSE DETACH 処理を完了したかどうかを検査します。メッセージ 1RV1I RC=0003 は一度だけしか出されません。

RC=0004:

3 秒ごとに、TCP/IP SSL ドライバー (SD) サブタスクを正常に生成するための試みが行われます。メッセージ 1RV1I RC=0004 は一度だけしか出されません。

オペレーターの応答: 表示された理由コードに応じて、次のとおりです。

RC=0001:

後で、PLOAD PNET コマンドを出し直してください。

RC=0002:

PSSTOP TCPSSL コマンドを使用して保留中の PSTART TCPSSL タスクを終了させ、PLOAD PNET コマンドを再サブミットしてください。

RC=0003:

3 秒ごとの内部再試行で TCP/IP SSL インターフェースを正常にオープンできない場合は、PSSTOP TCPSSL コマンドを使用して、SD サブタスクの DETACH を起動してください。そのあと、PLOAD PNET コマンドを再サブミットしてください。

RC=0004:

3 秒ごとの内部再試行で SD サブタスクを ATTACH できない場合は、PSSTOP TCPSSL コマン

ドを使用して、内部 PSTART TCPSSL タスクを終了してください。そのあと、PLOAD PNET コマンドを再サブミットしてください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 表示された理由コードに応じて、次のとおりです。

RC=0001:

SETPFIX LIMIT 不足への対処方法については、メッセージ 1Q59I のオペレーターの応答とプログラマーの応答を参照してください。

RC=0002:

なし。

RC=0003:

なし。

RC=0004:

STATUS F1 コマンドを使用して、VSE/POWER 区画 (例えば、F1) の OEM プロダクトによる VSE サブタスクの使用量を調べてください。

1RV2I TCP SSL: TOO MANY SOCKETS IN USE (sockno, {ACT|PAS})

説明: 番号 *sockno* のソケットは、SSL 機能を使用して新しい接続に割り振られています。VSE/POWER PNET SSL は 160 までのソケット番号しかサポートしないため、接続はクローズされます。ACT が表示された場合は、PSTART PNET,nodeid コマンドによって接続が開始されています。PAS が表示された場合は、リモート・ノードからの接続要求によって接続が開始されています。

システムの処置: 接続はクローズされます。ACT が表示された場合は、接続が再開してから 12 分後に新しいソケットが検索されます。PAS が表示された場合は、リモート・ノードからの受信接続要求の処理が 12 分遅延されます。

オペレーターの応答: ソケットの数を減らすには、ノードが SSL 機能を使用しているかどうかにかかわらず、TCP/IP プロトコルを使用するノードの 1 つを停止します。TCP ノード (SSL 機能を使用しないノード) のソケット数には制限がないため、優先順位によって TCP ノードを停止し、SSL ノード (SSL 機能を使用したノード) を始動した後で、停止されている TCP ノードを再始動します。

sockno-5 未満のノードが開始されている場合 (ソケット数の開放は遅れる場合があるため、5 を差し引く)、IBM 担当員に連絡してください。

システム・プログラマーの応答: TCP ノード (SSL 機能を使用しないノード) のソケット数には制限がないため、自動スタート・ステートメントを使用している場合は特に、SSL ノード (SSL 機能を使用したノード) を始動した後で TCP ノードを始動します。

1RV3I TCP SSL: RECEIVED CONNECT REQUEST REJECTED, SINCE NODE *node-id* (*ip-address*) IS NOT USING THE SSL FEATURE ON PORT *sport*

説明: メッセージ・テキストに示された *ip-address* を持つ *node-id* から CONNECT 要求を受け取りました。OPEN 制御レコードは、使用ポート *sport* が SSL 機能を使用するノード

を処理するため、SSL 機能が使用されないことを示します。システムの処置: NAK 制御レコードは *node-id* に送信され、接続はクローズされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: *node-id* (*ip-address*) の所有者に連絡を取り、このエラーを報告してください。 *node-id* で SSL 機能を使用するか、SSL 機能をサポートしないノードのポート番号を使用する必要があります。

1RV4I TCP/IP: RECEIVED CONNECT REQUEST REJECTED, SINCE NODE *node-id* (*ip-address*) IS USING THE SSL FEATURE ON PORT *port*

説明: メッセージ・テキストに示された *ip-address* を持つ *node-id* から CONNECT 要求を受け取りました。OPEN 制御レコードは、使用ポート *port* が SSL 機能を使用しないノードを処理するため、SSL 機能が使用されることを示します。

システムの処置: NAK 制御レコードは *node-id* に送信され、接続はクローズされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: *node-id* (*ip-address*) の所有者に連絡を取り、このエラーを報告してください。 *node-id* で SSL 機能を使用しないか、SSL 機能を使用するノードのポート番号を使用する必要があります。

1RV5I TCP SSL: CONNECT REQUEST REJECTED BY NODE *node-id* (*ip-address*) WHICH IS NOT USING THE SSL FEATURE ON PORT *sport*

説明: メッセージ・テキストに示された *ip-address* を持つ *node-id* に CONNECT 要求が送信されました。 *node-id* は、SSL 機能がメッセージに示されたポート番号 *sport* で使用されないことを示す NAK 制御レコードを返しました。

システムの処置: 接続はクローズされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 次のいずれかを実行する必要があります。

1. ノード *node-id* の SSL 機能を使用して (例えば、IPHOSTAD の代わりに ISHOSTAD を使用して) ローカル NDT を訂正し、停止されたノード *node-id* に対して PSTART コマンドを出してください。
2. *node-id* (*ip-address*) の所有者に連絡を取り、定義を訂正させてください。 *node-id* で SSL 機能を使用するか、SSL 機能をサポートしないノードのポート番号を使用する必要があります。

1RV6I TCP/IP: CONNECT REQUEST REJECTED BY NODE *node-id* (*ip-address*) WHICH IS USING THE SSL FEATURE ON PORT *port*

説明: メッセージ・テキストに示された *ip-address* を持つ *node-id* に CONNECT 要求が送信されました。 *node-id* は、SSL 機能がメッセージに示されたポート番号 *port* で使用する

ことを示す NAK 制御レコードを返しました。

システムの処置: 接続はクローズされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 次のいずれかを実行する必要があります。

1. ノード *node-id* の SSL 機能を使用せずに (例えば、ISHOSTAD の代わりに IPHOSTAD を使用して) ローカル NDT を訂正し、停止されたノード *node-id* に対して PSTART コマンドを出してください。
2. *node-id* (*ip-address*) の所有者に連絡をとり、定義を訂正させてください。 *node-id* で SSL 機能を使用しないか、SSL 機能をサポートするノードのポート番号を使用する必要があります。

1RV7I {TCP/IP: | TCP SSL:} WRONG NODE TYPE, REMOTE NODE *node-id* ISSUED CONNECT REQUEST AS *node-type-1* NODE, BUT *node-id* STARTED LOCALLY AS *node-type-2* NODE

説明: CONNECT 要求が、ノード・タイプ *node-type-1* を示すノード *node-id* から受信されましたが、*node-id* の接続はタイプ *node-type-2* を使用して開始されています。 *node-type-2* が TCP、SSL、BSC、CTC、または SNA である場合、*node-type-1* は TCP または SSL です。

システムの処置: 戻りコード 1 の NAK 制御レコードは、新しい接続要求をクローズするリモート・ノード *node-id* に送信されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 次のいずれかを実行する必要があります。

1. *node-id* の所有者に連絡をとり、定義を訂正させてください。
2. 開始されたノード *node-id* を停止し、ローカル NDT を訂正して、更新された NDT を再ロードし、停止されたノード *node-id* に対して PSTART コマンドを出してください。

1RV9I *commandcode* TCP SSL INTERFACE NOT STARTED AT ALL

説明: PSTOP TCPSSL コマンドが出されましたが、内部 PSTART TCPSSL タスクが保留中であることが検出されず、また TCP/IP SSL インターフェースのサポートのために SD サブタスクがアクティブであることも検出されませんでした。

システムの処置: その PSTOP コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: まず、少なくとも 1 つの SSL ノードを含むネットワーク定義テーブルに対する PLOAD

PNET,*ndtname* コマンドを出して、これによって TCP/IP SSL インターフェースを開始してから、PSTOP を出し直してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RVAI *commandcode* TCP SSL INTERFACE NOTIFIED FOR TERMINATION, RC = *mmmm*

説明: PSTOP TCPSSL コマンドが正常に処理され、次のように戻りコード (RC) に応じて TCP/IP SSL インターフェースを識別しました。

RC=0001:

内部 PSTART TCPSSL タスクは、SD サブタスクの生成を試みて「保留中」でした。

RC=0002:

TCP/IP SSL インターフェースを表す SD サブタスクがアクティブであることが検出されました。

RC=0003:

内部 PSTART TCPSSL タスクと SD サブタスクの両方がアクティブであることが検出されました。

システムの処置: 識別されたタスクが通知され、次のように、終了状態に入ります。

RC=0001:

即時に。追加メッセージは出されません。

RC=0002:

すべての SSL ノードが停止されるとすぐに (PSTOP EOJ の場合)、または即時に (PSTOP FORCE の場合)。

RC=0003:

0001 および 0002 に従って。

オペレーターの応答: RC=0002 が出された場合は、PINQUIRE NODE=*local-node* コマンドを使用して終了処理を推し進めたり、まだアクティブである SSL ノードには PSTOP PNET,*node-id* コマンドを使用することができます。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RVBI TCP SSL: CONNECTION CLOSED FOR NODE *node-id* DUE TO WRONG CIPHER X'*cc* FOR ENCRYPTION *eeee* (SERVER|CLIENT)

説明: SSL フィーチャーがノード *node-id* で初期化されていません。 TCP/IP インターフェースは、PNODE マクロの ENCRYPT オペランドに指定されている暗号化レベル *eeee* に対応していない暗号 '*cc*' を返しました。以下の表に、どの暗号化レベル (WEAK,...) がどの暗号を使用するかが示されています。

WEAK 080102

NORMAL 09 (ENCRYPT が指定されていない場合、デフォルト)

STRONG 0A62

システムの処置: 2 つのノードのクライアントおよびサーバー役割が変更されると、この問題を解決できる場合があるため、サーバーとして機能するノードは、クライアントとして機能するための接続要求をすぐに出すのに対し、クライアントとして機能するノードは、サーバーとして処理を開始するための接続要求を待ちます。それでも問題を解決できない場合、接続はクローズされます。

1RVM1 • 1S0nt

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: PINQUIRE

NODE=local-nodeid を出して、どの暗号がどの暗号化レベルに使用されているかを調べてください。次のいずれかを実行する必要があります。

1. 表示されている暗号に応じて、暗号化 (PNODE マクロの ENCRYPT オペランド) に別の値を使用してください。
Recompile your network definition table ネットワーク定義テーブル (NDT) を再コンパイルし、その更新された NDT を再ロードしてから、停止しているノード *node-id* に対して PSTART コマンドを出してください。
2. *node-id* の所有者に連絡し、そのシステムで暗号化の値を変更するよう依頼してください。

どちらのノードでも暗号化の定義が同じ場合、キーの定義 (PNODE マクロのオペランド DNAME) を調べてください。暗号化によっては、キーの長さが 512 でなければならない場合も、1024 でなければならない場合もあります。指定された暗号化に対応していない暗号が、使用可能なキーに従って選択されていると思われる。定義が正しくても問題が再び発生する場合、SSL フィチャーを初期化するために VSE/POWER によって起動された製品に問題があります。

TCP/IP インターフェースをサポートしている製品の所有者に連絡してください。

1RVM1 TCP SSL SUBTASK [ALREADY] ATTACHED

説明: PLOAD PNET コマンドが、ロードされたネットワーク定義テーブル内に少なくとも 1 つの SSL ノードを検出しましたが、次のいずれかを行いました。

1. TCP/IP SSL インターフェースを開始するために、TCP/IP SSL ドライバー (SD) サブタスクを生成した。
2. このタスクが前の PLOAD 要求によってすでにタスク生成されていたことを検出した。

システムの処置: 状況に応じて、次のいずれか。

1. SD サブタスクは、コンソール上のメッセージ 1RT7I で示されたように TCP/IP SSL インターフェースを開始します。
2. 既存の SD サブタスクは、開始済み TCP/IP SSL インターフェースを引き続き保持します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1RVUI TCP SSL INTERFACE QUESTIONABLE DUE TO FAILURE IN TIDY-UP ROUTINE

説明: SD サブタスクによって表された TCP/IP SSL とのインターフェースが、最初の 1Q2CI メッセージで示されたとおりに失敗し、続いて IDUMP マクロ要求が出されました。そのあと、すべての SSL ノードを停止するため、および 'TERMAPI' 要求によって TCP/IP インターフェースをクローズするために、TCPSSL タイディアップ・ルーチンが呼び出されました。しかし、2 番目の 1Q2CI メッセージで示されたように、このタイディアップ・ルーチンも失敗し、続いて別の IDUMP マクロ要求が出されました。

システムの処置: タイディアップ・ルーチンがもう一度呼び出されることはありません。代わりに SD サブタスクが即時に終了し、TCP/IP SSL インターフェースがクローズされない可能性があります。

オペレーターの応答: SSL 接続が終了しない場合は、PSTOP PNET,node-id,FORCE コマンドを使用してください。そのあと、現行のネットワーク定義テーブル (NDT) を再ロードして、TCP/IP SSL インターフェースを再設定してください。インターフェースが LISTEN 状態に入らない場合は、PSTOP TCPSSL,FORCE を使用して再び停止してください。NDT を再ロードする前に、TCP/IP 区画を循環することを検討してください。これが失敗した場合、TCP/IP SSL インターフェースは、再 IPL によってしか設定し直すことができません。

システム・プログラマーの応答: 障害の状況を示すコンソール・ログを集め、示された IDUMP を用意して、IBM 担当員に連絡してください。

1Sxx、1Txx、および 1Uxx = ジョブ制御メッセージ

1S0nt INVALID STATEMENT

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。このメッセージが出される原因となったステートメントまたはコマンド、さらに考えられるエラー条件が下にリストされています。

Any 処理されているステートメントまたはコマンドに構文エラー (多くの場合、タイプミス) があります。コマンドまたはメッセージ応答が、区画 ID (BG には 0、F1 には 1 など) が先頭に付けられないまま入力されました。メッセージ ID で、n で示されているフィールドが無効 (例えば長さが正しくないか、タイプミスがあるか、または数値フィールドに非数値文字がある) です。ボリューム ID が、テープ装置でもディスク装置でもない装置に指定されました。コマンドが正しくない時点で (例えばアテンション・ルーチンがアクティブであるときに ASSGN が出されたか、最初の JOB カードが処理された後で SET コマンドに RF が指定されている) 出されました。

ASSGN オペランド VOL=volume-id がブランクまたは無効です。SHR が、ディスク・ドライブではない装置に指定されました。テープ・モードが、テープ装置ではない装置に指定されました。

ALLOCRC 存在しない区画が指定されています。

BATCH 存在しない区画が指定されています。

CATALR 無効なバージョン/修正レベル・オペランドが指定されています。

CLOSE テープ・モードが、テープ装置ではない装置に指定されました。

DLBL ステートメントの定位置オペランドのいずれかがキーワード・オペランドに続いています。CAT および BUFSP オペランドに、以下のいずれかの問題があります。

- キーワードのタイプミス。
- 正しくない指定 (例えば CAT オペランドでファイル名が長すぎるか、BUFSP オペランドの値が 6 桁を超えている)。

ステートメントに 1 つまたは複数の VSAM 特定オペランドがありますが、VSAM ファイルを参照していません。BLKSIZE オペランドに指定されている値が無効です (例えば、省略されていたり、1 から 32768 までの数値でなかったり、VSAM ファイルに対して指定されていたりします)。CISIZE オペランドに指定されている値が無効です (1 から 32768 までの数値ではありません)。

EXEC 再配置不可プログラムが実モードで稼働するよう指定されましたが、そのプログラムの境界は区画の外にあります。SIZE として、0K または適用可能な区画を超える値が指定されています。SIZE=(AUTO,nk) を指定すると、その結果 (プログラムの大きさプラス nk) が区画のサイズを超えることがあります。

ID ステートメントが与えられていますが、システム・スタートアップの間にアクセス制御機能がアクティブになっていません (IPL SYS コマンドで、SEC=NO を指定したか、あるいは SEC=code オペランドを省略しました)。

NEWVOL メッセージ 1T50A への応答において、無効な区画 ID (BG がデフォルト) が指定されました。

PRTY VSE/POWER 区画において、VSE/POWER によって制御されている区画よりも低い優先順位を要求しています。

ROD コマンドが出されましたが、レコーダー・ファイル (SYSREC) はオープンされていません。

SET HC=CREATE VMCF が使用されていれば、すでにハードコピー・ファイルがオープンされている可能性もあるため、このメッセージを無視できる場合があります。

START 存在しない区画が指定されています。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - エラーのあるステートメントまたはコマンドを訂正し、再入力してください。
 - END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。ジョブは、後で取り消すことができます。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

注: 無効な EXTENT ステートメントが置換された場合、有効なエントリが、前の EXTENT ステートメントによって指定されたデフォルト値を上書きすることに注意してください。
プログラマーの応答: ジョブが取り消されている場合、このメッセージが表示される原因となったエラーを見つけ、エラーのあるステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

1S1nt STATEMENT OUT OF SEQUENCE

説明: メッセージ ID 中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。

以下はシーケンス・エラーの例です。

- ラベル情報 (DLBL、EXT、TLBL ステートメント) が誤った順序で渡されました。
- ディスク上のファイルのラベル情報 (DLBL、EXT) が不完全です。
- エクステント順序番号の順序が正しくありません。
- IJSYSxx という名前のファイルに対して、複数のエクステントが渡されました。
- 継続ステートメントでプロシーチャーのオーバーライドが使用されました。
- CATAL オプション指定が、LINK オプション指定より前にあります。
- リンケージ・エディター制御ステートメント (PHASE、ENTRY、ACTION、INCLUDE) または EXEC LNKEDT の前に、LINK または CATAL オプション指定がありません。
- LINK または CATAL オプションが、コンパイル用の制御ステートメント・セットにある CATALR ステートメントの直前に指定されています。
- SYSLINK が、このメッセージを出した区画に割り当てられていない可能性があります。
- LNKEDT 以外のプログラム名を持つ EXEC ステートメント (実行ステートメント) の後に、名前を持たない EXEC ステートメントがあります。
- コンパイルまたはアセンブルの実行時に、重大エラーが検出され、システムは要求されたリンク・エディット・ステップを取り消します。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - 可能であれば、エラーのあるステートメントを訂正するか、または必要なステートメントの順序を訂正する。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはエラー状況を無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラーのあるステートメントを調べるか、またはステートメントの順序が正しいかを調べてください (どちらか該当する方)。ジョブを再実行してください。

1S2nl INVALID PHASE INFORMATION [- RC=r]

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。SET SDL ステートメントの後で入力として与えられたフェーズ名が誤っています。ロード・リストが指定された場合には、理由コード r が下記の特別なエラーを示します。

1. ロード・リストが検索チェーンのどのライブラリー内にも見つかりませんでした。
2. 指定したロード・リストが、有効なヘッダー (SVAL) で含まれていません。
3. ロード・リストに、LIST=xxx という形式のフェーズ名が含まれています。ロード・リストには他のロード・リスト名を含めることはできません。

システムの処置: システムは誤っているフェーズ名を無視します。メッセージが、ロード・リスト中のフェーズ名を処理している間に出された場合、ロード・リストの残りもシステムがメッセージ 1S51D を出す前に処理されます。その他の場合は、メッセージ 1S51D はメッセージ 1S2nI のすぐ後に出されません。

オペレーターの応答: メッセージ 1S51D が出された後に、可能であれば、フェーズ名を訂正して再入力してください (メッセージの原因はつづりの誤りであると考えられます)。メッセージ 1S51D で記述されているように行ってください。

プログラマーの応答: ASI JCL プロシージャの処理中にこのメッセージが出された場合には、できるだけ早くこのプロシージャを訂正してください。このエラーの結果、取り消されたと思われるジョブを再実行依頼してください。

1S3nt HIGHEST PHASE ADDRESS EXCEEDS PARTITION SIZE

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。SIZE=AUTO が指定され、これは複数フェーズ・プログラムが実行されようとしていることを暗黙のうちに表します。次のようなフェーズが検出されました。

1. EXEC ステートメントで指定されている総称名と同じ総称名をもっている (最初の 4 文字が同じ)。および、
2. 区画内の、プログラム実行に使用できるスペースの大きさを超えている。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- セットアップされているプロシージャーで可能であれば、SIZE に有効な指定を行って EXEC ステートメントを再入力する。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。

プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: 指定を次のいずれか (自分のジョブの要件に合った方) に変更してください。

SIZE=nK

システムは指定されたスペース量をプログラム実行用に提供します。

SIZE=phasename[nK]

システムは要求されたプログラム (またはフェーズ) に必要なスペースを提供します。これにより、システムは、同じ総称名をもつ他のフェーズのサイズを無視します。

あるいは、より大きい区画でジョブを再実行したり、メッセージの原因になったフェーズの名前を変更してからジョブを再実行したりすることができます。

1S40t SYSTEM ERROR, macro/module-name - RET.CODE=nn [REASON CODE=mmmm]

説明: メッセージ・テキストで示されたモジュールまたはシステム内部マクロが、予期しない戻りコードを渡しました。戻りコードと理由コードの説明については、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。

タイプ・コード D の場合 - メッセージをプログラマーに報告して、次のいずれかを行ってください。

- このメッセージが EXEC PROC=proc-name 制御ステートメントまたはコマンドの直後に出されたときは、ジョブに対して CANCEL を入力してください。(他の区画のジョブは通常影響を受けないため、それらを取り消す必要はありません。)
- システムがマクロ/モジュール名として GETVIS を表示し、戻りコードが 0C の場合には、システムの GETVIS スペース (SVA 中の) を使いきっています。今のところ必要のないシステム・ファイル (例えば SYSLNK や SYSPCH) のうち、FBA ディスクに割り当てられているものを、割り当て解除してみてください。

プログラマーの応答: 可能な訂正については、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。ジョブを再実行してください。

1S41t SYSTEM ERROR, PROG. CHECK IN LTA

説明: 監視プログラム中の区域である論理一時域 (LTA) での処理中に、プログラム・チェックが発生しました。

システムの処置: システムは、現在のジョブ制御ステートメントまたはコマンドの処理を停止させます。処理を続行します。

オペレーターの応答: このメッセージが発生したことをプログラマーに報告し、「z/VSE Guide for Solving Problems」で記述されているように補足情報を提供してください。

プログラマーの応答: オペレーターによって提供された情報を検討して、必要であれば既存問題データベースを検索するように IBM に求めてください。

1S42A INTERVENTION REQUIRED FOR SYSLNK

説明: システムは、SYSLNK に割り当てられている装置に、INCLUDE または PHASE ステートメントを書き込むことができません。装置は作動不能または操作不能のいずれかです。

システムの処置: システムは現在処理中のステートメントを無視し、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- SYSLNK 装置を作動可能にし、拒否された (INCLUDE または PHASE) ステートメントを再入力する。

• CANCEL を入力してジョブを取り消す。
プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、SYSLNK が操作可能なディスク装置に割り当てられていることを確認してからジョブを再実行してください。

1S43I PARM= PARAMETER IN EXEC STATEMENT REJECTED

説明: EXEC REAL が指定されていますが、SIZE オペランドが省略されています。システムのプロセッサ・ストレージで区画 GETVIS 域がセットアップされていません。この区画は、指定のデータをプログラムに渡すために必要不可欠なものです。

システムの処置: システムは PARM='data' オペランドを無視し、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムの次の実行のために、次のいずれかを行ってください。

- EXEC ステートメント中で SIZE の値を指定してください。
- プログラムを仮想モードで実行させてください (オペランド REAL を省略して)。

1S44t PARM VALUE LONGER THAN 100 CHARACTERS

説明: EXEC ステートメントの処理中、システムは一對の単一引用符の間に 100 を超える文字位置を持つ PARM='data' 指定を見つけました。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- EXEC ステートメントで 100 文字以下の PARM 値を指定して、EXEC ステートメントを再入力する。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、EXEC ステートメントで 100 文字以下の PARM 値を指定して、ジョブを再実行してください。101 文字以上をプログラムに渡したい場合は、PARM='data' オペランドを最大で 3 回指定することができ、したがって、最大で 300 文字 (100 の 3 倍) を渡すことができます。

1S45D INVALID NPGR SPECIFICATION. RC=*nn*

説明: システムは、NPGR コマンドで要求されたとおりに 1 つまたは複数の区画のプログラマー論理装置の数を変更することができません。理由は、メッセージ・テキスト中の理由コード (*nn*) で示されています。戻りコードについては、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 正しい NPGR コマンドを入力する。拒否されたステートメントが内部記憶式プロシージャの一部であれば、担当のプログラマーにメッセージを報告してください。
- END/ENTER を押す。これにより、システムはコマンドを無視して処理を続行します。

プログラマーの応答: 拒否されたステートメントがプロシージャの一部であれば、このプロシージャを訂正して、今後このメッセージが出ないようにしてください。

1S46I ONE STATEMENT SKIPPED DUE TO IF CONDITION

説明: 現在処理中の IF コマンドの比較で、「偽」の結果が生じました。

システムの処置: システムは、次のステートメントが // JOB、/&、または /* である場合を除いて、次のステートメントをスキップします。// JOB、/&、および /* は必ず処理されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1S47I (PHOLD|PRELEASE) *command-operands*

説明: システムは、示された VSE/POWER コマンド (*command-operands* が指定された PHOLD または PRELEASE) を VSE/POWER に渡す PWR ステートメントを処理していません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1S48D PROCEDURE NESTING AFTER LIBDEF PROC

説明: 現在処理中のプロシージャに、タイプ PROC のメンバーに対する LIBDEF ステートメント、または LIBDEF * ステートメントが含まれています。これらのステートメントの後にプロシージャのネストがあってはなりません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- END/ENTER を押す。これにより、システムはプロシージャの呼び出しを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 今後このメッセージが出ないように、該当するプロシージャを訂正してください。

1S49I ONE STATEMENT WILL BE SKIPPED DUE TO IF CONDITION

説明: 現在処理中の IF コマンドの比較で、「偽」の結果が生じました。この IF ステートメントまたはコマンドは、SYSLOG を通して入力されました。

システムの処置: システムは次のステートメントをスキップします。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1S50D STATEMENT/COMMAND IS NOT SUPPORTED IN A DYNAMIC PARTITION

説明: 使用されたコマンドまたはステートメントは、動的区画内ではサポートされません。

1S51D • 1S57D

システムの処置: ステートメントまたはコマンドは無視され、システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 次のコマンドまたはステートメントを入力してください。
プログラマーの応答: なし。

1S51D ENTER PHASE NAME OR /* LIST=LOADLIST NAME

説明: システムが SYSLOG 上の SET SDL コマンドに対する入力を要求しています。
システムの処置: システムは 1 行ずつ読み取って、フェーズ名またはロード・リスト名を解釈します。これを /* または /& が指定されるまで続けます。/* または /& があると、システムはプロンプトを出すのをやめて、システム・ディレクトリーを更新します。
オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 次の形式でフェーズ名を入力してください。
- phasename [SVA|MOVE|INACT]。または LIST=loadlistname を使用して、システムがロード・リスト /* からフェーズ名を取り出すようにするか、 /& を使用して、ユーザー入力の終わりであることを示してください。
- END/ENTER を押すことにより、システムが SYSRDR 装置からフェーズ名またはロード・リスト名を読み取るようにしてください。

プログラマーの応答: なし。

1S52D ENTER /*

説明: システムは、オペレーターが渡したフェーズ名を、システム・ディレクトリー・リストがいっぱいになるまで処理しました。今、システム・ディレクトリー・リストに入れるためのフェーズ名の読み取りを終わらせるよう、/* または /& の入力を指示しています。
システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- /* または /& を指定してフェーズ名の入力を終了させる。
- END/ENTER を押す。これにより、システムは SYSRDR 装置から次のステートメントを読み取ります。このステートメントは /* または /& であっても、そうでなくてもかまいません。

メッセージをプログラマーに報告してください。
プログラマーの応答: 必要な SET SDL 入力を ASI JCL プロシージャーに入れるよう検討してください。こうしておく、渡されるフェーズ名の数が、IPL SVA コマンドの中の SDL=nnn の指定で割り振られたスペースを超えることはありません。

1S53D PASSED PARAMETER IN PROC STATEMENT

説明: パラメーター値は、PROC ステートメントではなく EXEC PROC ステートメントによって (プロシージャーに) 渡されなければなりません。
システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 該当するステートメントを訂正し、再サブミットする。

- END/ENTER を押す。これにより、システムは該当のステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、該当するプロシージャーを次のいずれかの方法で訂正した後で、それを再実行依頼してください。
 - 渡すパラメーター値を EXEC PROC ステートメント中で指定してください。
 - 影響を受けたプロシージャーの最初のステートメントである PROC ステートメントの該当するパラメーターに、デフォルト値を割り当ててください。

1S54I PHASE phasename { IS TO BE FETCHED FROM libname.sublibname|RESIDES IN THE SVA}

説明: フェーズ phasename の実行前に、システムは、phasename が SVA に存在しているかどうか、または LIBDEF 検索チェーンに組み込まれているサブライブラリー libname.sublibname から取り出されるかどうかを報告します。
システムの処置: EXEC PGM=phasename 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

1S55I LAST RETURN CODE WAS code

説明: ジョブ・ステップが戻りコードを渡すと、このメッセージがこのコードを表示します。このコードは、プログラム言語のようなコンポーネントから VSE に渡されることがあります。この場合、戻りコードの説明については、このコンポーネントの文書を参照してください。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

1S56D PROC STATEMENT IS NOT FIRST IN PROCEDURE

説明: PROC ステートメントを使用する場合、それはプロシージャー中の最初のステートメントでなければなりません。
システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- END/ENTER を押す。これにより、システムはプロシージャーの呼び出しを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
プログラマーの応答: PROC ステートメントをプロシージャーの最初のステートメントとして使用してください。

1S57D DUPLICATE PROCEDURE NAME DURING NESTING

説明: プロシージャーを別のプロシージャーから呼び出すことができるのは、このプロシージャーが次の条件に合う場合だけです。

- 名前が異なっている場合。

2. 呼び出されるプロシージャー中にネストされていない場合。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- END/ENTER を押す。これにより、システムは拒否されたプロシージャー呼び出しを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、該当するプロシージャーを訂正してから、ジョブを再実行してください。

1S58D NESTING LEVEL OF PROCEDURES EXCEEDS 15

説明: ジョブ制御 EXEC ステートメントによって呼び出されたプロシージャーはネスト・レベル 1 とみなされ、ネスト・レベル 1 のプロシージャー内から呼び出されたプロシージャーはネスト・レベル 2 とみなされます (以下同様)。システムはネスト・レベル 16 のプロシージャーのプロシージャー呼び出しを検出しました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- END/ENTER を押す。これにより、システムは拒否されたプロシージャー呼び出しを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、ネスト・レベルが 15 を超えないようにプロシージャーのセットを訂正してから、ジョブを再実行してください。

1S59D CONFLICTING DATA=YES/NO OPTION

説明: 同一の「ネストされたプロシージャーのセット」に属するすべてのカタログ式プロシージャーは、同一のタイプのものでなければなりません。例えば、DATA=YES または DATA=NO。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- END/ENTER を押す。これにより、システムは前の EXEC PROC ステートメントを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、プロシージャーのセットを訂正してからジョブを再実行してください。

1S6nt SIZE VALUE EXCEEDS PARTITION SIZE

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。EXEC ステートメントの SIZE オペランドで指定された値が、使用中の区画のサイズを超えています。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。

タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。
- MAP コマンドで区画の現行サイズを調べ、SIZE オペランドの値を小さくした EXEC ステートメントを再入力するか、または区画のサイズを大きくする。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、次のいずれかを再実行してください。

- 必要な区画 GETVIS スペースを提供できる十分に大きい区画で実行する。
- SIZE オペランドの指定値を小さくした EXEC ステートメントを使って実行する。

1S70D INVALID FILE NAME

説明: 無効なファイル名を持つ DLBL、TLBL、または VTAPE ステートメントが入力されました。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- END/ENTER を押す。これにより、システムは前の DLBL/TLBL ステートメントを無視して処理を続行します。
- DLBL/TLBL ステートメントを訂正し、END/ENTER を押して処理を続行する。CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 問題のあるステートメントを訂正してください。VTAPE ステートメントの場合、問題の原因は次のいずれかです。

- ファイル名が 7 文字を超えている (LOC=VSAM の場合)
- ファイル名に A-Z、0-9、@、\$、および # 以外の文字が含まれている (LOC=VSAM の場合)
- 先頭文字が数値でない (LOC=VSAM の場合)
- 最初の 3 文字を SYS にすることはできない (LOC=VSAM の場合)
- ファイル名が引用符で囲まれていない
- 末尾の引用符の後にコンマでもブランクでもない
- ファイル名が 17 文字を超えている (LOC=TAPE の場合)

1S71D STOP REJECTED. SYSTEM LABELS ARE UPDATED

説明: システムがシステム標準ラベル情報レコード (オプション STDLABEL) を更新しているときに、ジョブ制御がバックグラウンド区画に対する STOP コマンドを受信しました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: オプション USRLABEL を入力して、システム・ラベルの更新をクローズして、次に再度 STOP を入力してください。または、END/ENTER を押して、前の STOP コマンドを無視して処理を継続してください。

プログラマーの応答: なし。

1S72D IDENTIFICATION FAILED - NO JOB ACTIVE

説明: すぐ前に JOB ステートメントがないのに、ID ステートメントが入力されました。

システムの処置: システムは ID ステートメントを拒否して、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- JOB ステートメントを入力し、拒否された ID ステートメントをもう一度指定する。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。

メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: なし。

1S73t IDENTIFICATION FAILED - INVALID (PASSWORD|USERID)

説明: 現行ジョブに ID ステートメントがありますが、ユーザー ID、またはユーザー ID 用に定義されたパスワードが、制御ファイルまたは DTSECTAB 内のユーザー・プロファイル定義と矛盾しています。

無効なパスワードとは、パスワードが許可されていないか、有効期限切れであるか、または無効であることを意味します。

無効なユーザー ID とは、ユーザーが定義されていないか、またはユーザー ID が取り消されていることを意味します。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- 可能であれば、正しいユーザー ID とパスワードを指定した ID ステートメントを入力して、ジョブを続行させる。
- ENTER キーを押して、ユーザー情報なしでジョブを続行させる。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。

プログラマーの応答: ジョブ・ストリームから ID ステートメントを除去できるかどうか調べてください。例えば、ジョブが IUI/ICCF を介して渡された場合は、ユーザーについての情報が自動的にシステムによってジョブに渡されるため、ジョブ・ストリームから ID ステートメントを除去することができます。

ジョブが取り消され、ID ステートメントが必要である場合は、ID ステートメントで定義された正しいユーザー ID とパスワードを使ってジョブを再実行してください。そうでない場合は、ID ステートメントを除去して、ジョブを再サブミットしてください。

1S74I INSUFFICIENT VIRTUAL STORAGE TO PERFORM OPEN ACCESS CONTROL VALIDATION

説明: アクセス制御妥当性検査のための作業用ストレージを取得するための GETVIS 要求が失敗しました。この状況は、アクセス制御機能がアクティブであるシステムで、次の場合に起こることがあります。

- ファイルまたはライブラリーがオープンされようとしていません。
- ASSGN または EXEC ステートメントが処理中です。システムの処置: システムはジョブを取り消します。オペレーターの応答: なし。プログラマーの応答: 次のいずれかを行ってください。
 - EXEC ステートメントの SIZE オペランドで指定する値を小さくして、ジョブを再実行してください。
 - より大きな区画でジョブを再実行する。

どちらの方法でも、プログラムに使用できる区画 GETVIS スペースのサイズは広がります。

1S75I JC PRTY COMMAND REJECTED - ONLY ALLOWED DURING BG ASI

説明: オペランド付きジョブ制御 PRTY コマンドは、システム・スタートアップ中、バックグラウンド区画で、ジョブ制御 ASI プロシージャの中でだけ使用することができます。

システムの処置: コマンドは無視され、処理が続行されます。オペレーターの応答: エラーの発生をプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ステートメントを取り除いてください。

1S76I JC MSECS COMMAND REJECTED. ASI NOT ACTIVE

説明: ジョブ制御 MSECS コマンドは、システム・スタートアップ中、ジョブ制御 ASI プロシージャの中でだけ使用することができます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを取り除いてください。

1S77I OPERAND N OF MSECS COMMAND MISSING OR INVALID

説明: ジョブ制御 ASI プロシージャ内で使用される MSECS コマンドでは、時間をミリ秒単位で指定しなければなりません。100 から 10000 の範囲内の任意の値を指定できます。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- オペランドに有効な値を指定した MSECS コマンドを入力する。
- END/ENTER を押す。これにより、システムはコマンドを無視して処理を続行します。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: なし。

1S78I JOB TERMINATED (ABNORMALLY|DUE TO reason)

説明: ジョブが異常終了したか、またはある理由で終了しました。『DUE TO』が示された場合、理由は次のいずれかです。

'GOTO \$EOJ'

戻りコード

CANCEL COMMAND
PROGRAM ABEND

システムの処置: ジョブの終了へのスキップ条件が発生し、ジョブの終了処理が行われました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 必要な場合には、メッセージの理由に応じて、JCL を訂正してください。「ABNORMALLY」が示された場合は、前のメッセージを参照してください。

1S79D SYSLST HAS BEEN UNASSIGNED DUE TO I/O ERROR

説明: SYSLST が割り当てられている装置で、リカバリー不能な入出力エラーが起きました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 操作可能な印刷装置に SYSLST を割り当ててください。

1S8nt INVALID SYNTAX IN ID STATEMENT

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。ID ステートメントのオペランドが欠落しているか、または誤っています。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- 正しいユーザー ID とパスワードを指定して、ID ステートメントを再入力する。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。

メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、ID ステートメント中の指定を検査して訂正してから、ジョブを再実行してください。

1S9nD STATEMENT TOO LONG

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。

処理中のステートメント行の長さが 100 文字を超えています。右側のアポストロフィが欠落しているために、ステートメントに継続行またはシンボル・パラメーター (またはその両方) が含まれてしまっていることがあります。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントを再サブミットする。
- END/ENTER を押す。これにより、システムはコマンドを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、拒否されたステートメントを訂正してから、ジョブを再実行してください。

1SA0t COMMAND NOT ALLOWED, INSUFFICIENT AUTHORITY

説明: 次のいずれかが発生しました。

- マスター権限を必要とするジョブ制御コマンドがユーザー・コンソールから入力された。
- アクセス制御検査がアクティブであるシステム (保護システム) で、マスター権限を必要とするジョブ制御コマンドが SYSRDR を通して入力されたが、先行する ID コマンドまたはステートメントは、ユーザーを管理者またはマスター・コンソール権限と同一とは示していない。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前のジョブ制御コマンドを無視します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ユーザーを管理者またはマスター・コンソール権限と同一と示す ID ステートメントを与えてください。

1SB0t command AND operand NOT ALLOWED, INSUFFICIENT AUTHORIZATION

説明: ジョブ制御のコマンドまたはステートメントが、許可ユーザーのみが出すことができるオペランドを指定して出されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前のジョブ制御コマンドを無視します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 十分な権限を備えたユーザーを識別する ID ステートメントを与えてください。詳しくは、このメッセージの前に示されるメッセージ BST120I の詳細を参照してください。

注: サード・パーティー・ベンダーのセキュリティ管理ソフトウェアがシステムにインストールされている場合は、詳細については該当する資料をご覧ください。

1T10I SYSTEM DIRECTORY LIST IS FULL [- LAST PHASE *phasename*]

説明: SET SDL 処理時に、SDL がいっぱいであることが検出されました。「最後に受け入れられた」フェーズ名は、少なくとも 1 つのフェーズ名がシステム・ディレクトリー・リストに追加された場合だけ印刷されます。

システムの処置: フェーズ名と一緒に指定された属性によって、処置が異なります。

属性 **INACT**:

すべてのフェーズ名が非活動状態になります。

INACT 以外の属性:

メッセージに表示されているフェーズ名よりも後で渡されたフェーズ名は、すべて無視されます。表示されているフェーズ名および、それより前のフェーズ名はすべて、システム・ディレクトリー・リストに追加されています。メッセージにフェーズ名が表示されない場合は、すべてのフェーズ名が無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: すぐに処置を行う必要はありません。フェーズを実行しようとしたときにその名前がディレクトリーにない場合、システムは該当するサブライブラリーからそのフェーズをロードします。

より多くのスペースがシステム・ディレクトリー・リスト用に割り振られるようにするために、該当する ASI IPL プロシージャの変更を検討してください。このようにするには、SVA コマンドの SDL=nnn により大きい値を指定します。

1T1nD PROTECTED LIBRARY IN CHAIN - library-name

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。SET SDL コマンドが出されましたが、タイプ PHASE のライブラリー・メンバーに定義されていた検索チェーンに、アクセス制御機能で保護されているライブラリーが入っています。SET SDL が正しく処理されるためには、チェーン内のサブライブラリーがすべて保護されていないものでなければなりません。

システムの処置: SET SDL コマンドの処理は拒否され、システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- END/ENTER を押す。これにより、システムはコマンドを無視して処理を続行します。
- 該当のサブライブラリーの定義を訂正して、新規の LIBDEF ステートメントを入力する。

メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 正しい検索チェーンを指定した新しい LIBDEF ステートメントを用意して、SET SDL 要求を再サブミットしてください。

1T20I SY5xxx HAS BEEN ASSIGNED TO devaddr [AS ALTERNATE] (PERM | TEMP)

説明: このメッセージにおいて、devaddr は装置アドレスです (X'cuu', UA, IGN のいずれか)。このメッセージは、示された論理装置をシステムが割り当てたことを知らせます。

- PERM - 永続割り当て
- TEMP - 一時割り当て

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1T40D MOUNT REQUEST CANCELLED. GIVE NEW ASSIGNMENT OR ENTER NEXT COMMAND

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- オペレーターが、取り付け要求 (1T50A または 1T60A) への応答として、IGNORE オプションを指定した NEWVOL コマンドを入力しました。
 - 前の取り付け要求 (1T50A または 1T60A) に指定された cuu が、NEWVOL コマンドを待っている間に、OFFLINE アテンション・ルーチン・コマンドまたは別の区画の DVCDN コマンドによってダウン状態に設定されました。
- システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
- オペレーターの応答: 新しい割り当てを与えるか、ジョブを取り消すか、または他の有効なコマンドを入力してください。
- プログラマーの応答: なし。

1T50A MOUNT volume-id ON X'cuu'

説明: 以下のいずれかです。

1. 必要なタイプの装置に、表示されている ID をもつボリュームが現在入っていません。
2. 要求されたボリュームは、この区画または別の区画によってすでに割り当てられた装置に取り付けられており、SHR の指定のない総称 ASSGN が出されました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 原因が 1 の場合 -

1. 要求されたボリュームを、メッセージに示されている装置に取り付けてください。
2. 装置を作動可能にしてください。
3. NEWVOL アテンション・コマンドで応答してください。コマンドがフォアグラウンド区画に割り当てられている装置を参照する場合には、該当する区画 ID を指定してください。

取り付け要求を満足させる応答ができなければ、IGNORE を指定した NEWVOL コマンドを入力してください。原因が 2 の場合 - SHR を指定して割り当てを再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1T60A WRONG VOLUME, MOUNT volume-id

説明: オペレーターが、メッセージ 1T50A に対する応答として、ボリュームを取り付けました。しかし、そのボリュームの ID は、メッセージ 1T50A に表示されたボリューム ID と一致していません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 該当する装置に、メッセージ 1T50A に表示された ID をもつボリュームを取り付けてください。上記のメッセージ 1T50A で説明されている手順に従ってください。

プログラマーの応答: なし。

1T70A **NEED FILE PROTECT RING.**

SYSxxx=X'cuu'

説明: システム出力ファイルがテープ装置に割り当てられましたが、その装置に取り付けてあるボリュームにはファイル保護リングがありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- 該当するテープ・ボリュームにファイル保護リングを付け、そのボリュームをもう一度取り付け、装置を作動可能にする。

- IGNORE を入力して処理を続行させる。

プログラマーの応答: なし。

1T71t **OS390 OPERAND NOT VALID FOR THIS ENVIRONMENT**

説明: 以下の特性の 1 つを持つ区画の中で、OS390 オペランドを指定した EXEC ステートメントまたはコマンドが出されました。

- ALLOC space_id で割り振られた区画。
- ALLOC R で割り振られた区画。
- ALLOC S で割り振られた区画。

これは、MAP コマンドを使って検証することができます。

MAP コマンドの表示の SPACE と AREA 欄の間にアスタリスクが示された区画では、OS390 オペランドの指定があつてはなりません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前の EXEC コマンドまたはステートメントを無視します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、単一区画割り振りでの区画でジョブを再実行してください。ALLOC コマンドについては、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。

1T80I **xxx name CANCELLED DUE TO PREVIOUS COMPILE OR LINK ERRORS**

説明: xxx および name については、57 ページの表 2 を参照してください。この表には、問題に関連する追加情報があります。コンパイラーは、GO を指定したジョブ制御 EXEC ステートメントで呼び出されましたが、コンパイルの実行中、またはその後のリンク・ステップでエラーが検出されました。

システムの処置: ジョブは取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ソース・プログラムまたはリンケージ・エディター制御ステートメントを必要に応じて訂正してください。その上で、ジョブを再実行してください。

1T81I **RESET OF SHRLIMIT| LFAREA**

説明: SYSDEF MEMOBJ が、新しい MEMLIMIT を設定するために使用されました。MEMLIMIT が SHRLIMIT および LFAREA オプション (またはそのいずれか) なしで、単独で指定された場合、SHRLIMIT および LFAREA (またはそのいずれか) は 0 にリセットされます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 意図的なりセットであった場合、ありません。そうではない場合は、パラメーターを調べ、正しい値を適用してください。

プログラマーの応答: なし。

1U00t **PARTITION GETVIS SPACE EXHAUSTED**

説明: ジョブ制御が GETVIS スペースを必要としましたが、それを取得できませんでした。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前のステートメントを無視します。
 - より大きい仮想記憶を区画に割り振ってください。
 - より大きな区画でジョブを再実行する。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 仮想記憶の割り振りを検査してください。

1U1nD **INVALID STATEMENT - erroneous-operand**

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。現在処理中の STDOPT ステートメントの、表示されたオペランドにエラーがあります。

システムの処置: STDOPT ステートメントの処理は終了します。このステートメントの、すでに処理の終わったオペランドは受け入れられます。システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- まだシステムによって受け入れられていないが、処理に必要なオプションを正確に指定して、STDOPT ステートメントを入力する。
- END/ENTER を押して処理を続行する。

メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: システムが ASI JCL プロシージャーを処理している間にメッセージが出された場合には、今後システム・スタートアップ時にこのメッセージが出されないよう、このプロシージャーを訂正してください。

1U3nD INVALID RANGE - mnnn

説明: 現在処理中のコマンドまたはステートメントで、メッセージに表示されているフィールド (mnnn) が次のいずれかの状態です。

- 数字または 16 進数のタイプのデータを含んでいません。または
 - 必要な範囲内にありません。
- システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 以下のいずれかです。
- 正しいデータ・タイプを指定したコマンドを再入力する。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前のステートメントを無視して処理を続行します。

メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: システムが ASI JCL プロシーチャーを処理している間にメッセージが出された場合には、今後システム・スタートアップ時にこのメッセージが出されないよう、このプロシーチャーを訂正してください。

**1U40t PROGRAM SPECIFIED IN SIZE
PARAMETER NOT FOUND.**

説明: EXEC ステートメント (またはコマンド) の SIZE オペランドに指定されたフェーズ名が、定義されたどのサブライブラリーにもカタログされていません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード A の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。

タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- END/ENTER を押して処理を続行する。
- 正しいボリュームが取り付けられているかどうか、および EXEC ステートメント (またはコマンド) の SIZE オペランドにあるフェーズ名が正しいかどうかを調べる。必要ならば、適切なボリュームを取り付けるか、または EXEC ステートメント (またはコマンド) を再入力する。ただし、担当プログラマーの承認なしにシステム常駐ボリュームを取り替えないでください。
- CANCEL で応答し、ジョブを取り消す。アクセス可能として定義されたサブライブラリーに対して LISTDIR を実行し、この実行の出力を、要求時に使用できるようにしておく。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、指定したフェーズ名のタイプ・ミス調べ、正しいボリュームが取り付けられていたか確認してください。必要な訂正を行って、ジョブを再実行してください。

上記のようなエラーがない場合には、該当するサブライブラリーに対する最新の LIBDIR 実行の出力を調べ、プログラムがサブライブラリーの 1 つにカタログされているかどうかを調べてください。

サブライブラリーの検索チェーンの定義を訂正するか、プログラムのカタログを作成してください。ジョブを再実行してください。

1U5nt PROGRAM NOT FOUND

説明: メッセージ ID 内の n については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。アクセスのために定義されたどのサブライブラリーも、EXEC ステートメント (またはコマンド) で指定された名前を持つフェーズを含んでいません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

タイプ・コード A の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。

タイプ・コード A の場合 - 次のいずれかです。

- 正しいボリュームが取り付けられているかどうか、および EXEC ステートメント (またはコマンド) にあるフェーズ名が正しいかどうかを調べる。必要ならば、適切なボリュームを取り付けるか、または EXEC ステートメント (またはコマンド) を再入力する。ただし、担当プログラマーの承認なしにシステム常駐ボリュームを取り替えないでください。該当のプログラムの名前が LNKEDT の場合は、// OPTION で始まるすべてのステートメントを再入力しなければなりません。
 - CANCEL で応答し、ジョブを取り消す。該当のサブライブラリーに対して LISTDIR を実行し、この LISTDIR 実行の出力を、要求時に使用できるようにしておく。メッセージをプログラマーに報告してください。
 - END/ENTER を押して処理を続行する。
- プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、指定したフェーズ名のタイプ・ミス調べ、正しいボリュームが取り付けられていたか確認してください。必要な訂正を行って、ジョブを再実行してください。

上記のようなエラーがない場合は、LIBR SEARCH pgmname.PHASE LIB=* の出力を調べ、そのプログラムが 1 つまたは複数のサブライブラリーにカタログされているかどうかを調べてください。サブライブラリーの検索順序チェーンを訂正するか、またはプログラムのカタログを作成してください。ジョブを再実行してください。

1U6nt PHASE NAME MISSING

説明: メッセージ ID の中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。PGM キーワードを指定した EXEC コマンドが出されましたが、実行されるプログラムのフェーズ名が指定されていません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前の EXEC ステートメントを無視します。

- EXEC ステートメントを訂正し (つまり、適切なフェーズ名を PGM オペランドに指定する)、END/ENTER を押して処理を続行する。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、EXEC ステートメントを訂正してください。つまり、適切なフェーズ名を PGM オペランドに指定し、ジョブを再実行してください。

1U70A NO ACCESS AUTHORITY TO PROGRAM

説明: ユーザーはこのプログラムをロードする権限を持っていません。

システムの処置: ジョブは取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ID ステートメントが欠落しているものと思われます。それ以外の場合には、システム管理者に権限を問い合わせてください。

1U71I ID STATEMENT IGNORED FOR SYSTEM WITH SEC=NO

説明: セキュリティのないシステムでは、ID ステートメントは必要ではありません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブが常に、SEC=NO のシステムで実行される場合は、ジョブから // ID ステートメントを取り除いてください。

1U72I PHASE NAME *phase* NOT FOUND, INVALID OR DUPLICATE. EXIT IGNORED

説明: 以下のいずれかの理由により、JCL ユーザー出口ルーチンが無視されます。

- メッセージに表示されたフェーズが SVA-24 で見つからなかった
- テーブル \$JOBEXIT 内のフェーズ名が SVA-24 にないか、無効であるか、または 2 度指定されている
- 表示されたフェーズが MODE AMODE(24),RMODE(24) 以外の MODE ステートメントにリンク・エディットされた

システムの処置: システムは JCL ユーザー出口ルーチンを呼び出しません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: フェーズの MODE ステートメントを調べて、要求したフェーズを SVA-24 にロードしてください。

\$JOBEXIT 内のフェーズ名を訂正してください。

1U73D THE JCL USER EXIT ROUTINE/TABLE \$JOBEXxx IS INVALID OR NOT IN THE SVA

説明: ユーザーが、JCLEXIT コマンドで、無効かまたは SVA-24 にロードされていないルーチン名またはテーブル名を指定しました。

システムの処置: システムは SYSLOG 上の別の JOB 制御コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: 有効なテーブル名またはルーチン名を指定した JCLEXIT コマンドを入力するか、または他の JCL コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1U75D COMMAND IS NOT PROCESSED. ATTENTION ROUTINE IS ACTIVE.

説明: JCL が ATTENTION ルーチンにコマンドを渡そうとしましたが、正常に実行されませんでした。ATTENTION ルーチンは使用中だったので、コマンドを受け入れませんでした。

システムの処置: バックグラウンド区画は、SYSLOG の BG 区画に次の JCL/AR コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: ATTENTION ルーチンが使用中であった理由を調べてください。ATTENTION ルーチンが使用可能になったらただちに、JCL コマンドを BG 区画に再入力するか、または直接 ATTENTION コマンドとして再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1U76I PHASE NAME IDENTIFIER STATE

説明: オペランドのない JCLEXIT コマンドが JCL によって読み取られました。応答として、各 JCL 出口ルーチンの名前、ID、および状態を示す表が SYSLOG 上にリストされました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1U80t SETPFIX NOT SUCCESSFUL

説明: SETPFIX ステートメントが、前のメッセージに示されたいずれかの理由で失敗しました。

システムの処置: PFIX 限界は変更されません。

タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

タイプ・コード D の場合 - システムは次のコマンド/ステートメントを待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - ジョブが PFIX 限界の設定なしで実行できる場合は、END/ENTER を押す。これにより、SETPFIX ステートメントは無視され、処理が続行されます。
 - PFIX 域が使い尽くされているために SETPFIX が失敗した場合は、他のジョブが終了し、使用可能な PFIX 域が十分大きくなって、新規の SETPFIX 限界が受け入れられるようになるまで待ち (MAP REAL を使用してページ・フレームがいくつ使用できるかを検出する)、SETPFIX ステートメントを再サブミットします。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、次のいずれかを再実行してください。

- より小さい PFIX 限界を使う。
- 他のジョブが終了し、その PFIX 限界がリセットされた後。

1U81I SETPFIX LIMIT {BELOW|ABOVE} - error

説明: SETPFIX ステートメントは 16 MB より下 (BELOW) または 16 MB より上 (ABOVE) の PFIX 要求の限界を指定していますが、システムはこれを受け入れることができません。この理由は *error* に次のように示されます。

CONFLICT WITH ALLOC R

SETPFIX BELOW は、すでに実記憶が ALLOC R で割り振られた静的区画では許可されません。

LIMIT TOO HIGH

指定された値は、使用可能なページ・フレームの量を超えています。

システムの処置: PFIX 限界は変更されません。メッセージ 1U81I には別のメッセージ 1U81I またはメッセージ 1U80t が続きます。

オペレーターの応答: MAP REAL コマンドの出力 (特に出力行 *AVAILABLE FOR SETPFIX:*) を調べてください。VM で作業している場合、* CP QUERY VIRTUAL STORAGE コマンドの出力も調べてください。

プログラマーの応答: なし。

1U82I SETPFIX LIMIT(S) GREATER THAN VIRTUAL PARTITION SIZE

説明: 現在の SETPFIX ステートメントで区画に割り当てられる実記憶量は、区画の仮想サイズを超えています。実記憶は、すでに前の ALLOC R コマンドまたは SETPFIX ステートメントで割り当てられていることに注意してください。

システムの処置: PFIX 限界は変更されません。メッセージ 1U82I にはメッセージ 1U80T が続きます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1UV1t cuu NOT OF DEVICE TYPE FBAV

説明: VDISK コマンドは、ADD IPL コマンドによって装置タイプ FBAV で追加された *cuu* に対してのみ使用できます。

システムの処置:

タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

タイプ・コード I の場合 - なし。

タイプ・コード D の場合 - ADD コマンドによって装置タイプ FBAV で追加された *cuu* を使用して、VDISK コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1UV2t VALUE OF BLKS FOR VIRTUAL DISK CUU TOO SMALL

説明: VDISK コマンドが使用されましたが、BLKS の値が、内部で使用されるブロックの数 (2) と VTOC 用に使用されるブロックの数の合計よりも小さくなっています。VTOC オペランドに指定した値は、次の 8 の倍数に丸められることに注意してください。

システムの処置:

タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

タイプ・コード I の場合 - なし。

タイプ・コード D の場合 - BLKS オペランドに適切な値を指定して VDISK コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1UV3t VIRTUAL DISK cuu DOES NOT EXIST

説明: VDISK コマンドで BLKS 値 0 が指定されましたが、この *cuu* 用に定義された仮想ディスクはありません。

システムの処置:

タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

タイプ・コード I の場合 - なし。

タイプ・コード D の場合 - 正しい *cuu* の値を使用して VDISK コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1UV4t INVALID DEVICE STATUS FOR cuu

説明: 前のステートメントまたはコマンドで指定された物理装置が、DVCDN コマンドでダウン状態にセットされていない場合に、このメッセージが表示されます。

システムの処置:

タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

タイプ・コード I の場合 - なし。

タイプ・コード D の場合 - DVCDN コマンドを出してください。エラーの起きているステートメントまたはコマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

1UV5t DEFINING OF VIRTUAL DISK cuu FAILED, RC=nnnn

説明: 仮想ディスクに必要なリソースの割り振り中に障害が検出されました。障害の理由は、理由コード (RC) に示されません。nnnn は以下のようになります。

RC=0001 データ・スペースに使用できるストレージがありません。

システムの処置:

タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

• タイプ・コード I の場合 - なし。

• タイプ・コード D の場合 - RC=0001 の場合、以下のいずれかを行ってください。

- 定義された仮想記憶の量 (VSIZE 値) を増やすか、または使用している仮想記憶の量を減らします。仮想記憶が解放されるのは、例えば、他の仮想ディスクのサイズが

0 に設定された場合、データ・スペースが割り振り解除された場合、静的または動的区画が割り振り解除された場合などです。

- SYSDEF コマンドを使用して、データ・スペース用に定義された仮想記憶の量を増やしてください。

プログラマーの応答: なし。

1UV6t VIRTUAL DISK *cuu* ALREADY DEFINED

説明: VDISK コマンドに指定された *cuu* は、前の VDISK コマンドまたはステートメントの中ですでに定義されています。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前の VDISK コマンドまたはステートメントを無視します。
 - 仮想ディスク *cuu* のサイズを変更したい場合は、最初に BLKS=0 を指定した VDISK コマンドを入力し、さらに、適切なサイズを指定した VDISK コマンドを入力する。
 - メッセージに表示されたものとは異なる *cuu* を使用して、VDISK コマンドまたはステートメントを入力し直す。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。

プログラマーの応答: なし。

1UV7t *xxxx* ONLY ALLOWED IN BG OR AS ATTENTION COMMAND

説明: 前のコマンドまたはステートメント *xxxx* は、BG 区画以外の区画で入力されました。

システムの処置:

タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
 タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

タイプ・コード I の場合 - なし。
 タイプ・コード D の場合 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前のステートメントまたはコマンドを無視して処理を続行します。プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: システムが ASI JCL を処理しているときにメッセージが出された場合は、区画の再スタートアップ時に再びメッセージが出されないように、このプロシーチャーを訂正してください。

1UV8t DEVICE IN USE *cuu*

説明: VDISK コマンドが BLKS 値を 0 に指定して出されましたが、示された *cuu* を待っている入出力要求がまだ存在しています。

システムの処置:

タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

タイプ・コード I の場合 - なし。

タイプ・コード D の場合 - VDISK コマンドを再度出してください。メッセージが繰り返される場合には、*cuu* を取り消してください。

プログラマーの応答: なし。

1UV9D LABEL AREA IS ALREADY ON VIRTUAL DISK *cuu*

説明: オペランド USAGE=DLA を指定した VDISK コマンドが出されましたが、前の VDISK コマンドによって、すでにラベル域が仮想ディスク *cuu* に置かれています。USAGE オペランドを指定した VDISK コマンドは、ASI 時に一度だけしか指定することができません。2 度目に出そうとすると、このメッセージが表示されます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- END/ENTER を押す。これにより、システムは前の VDISK ステートメントを無視します。
- VDISK ステートメントを訂正し、END/ENTER を押して処理を続行する。

プログラマーの応答: なし。

1UVAt VALUE OF BLKS FOR VIRTUAL DISK CUU TOO BIG

説明: VDISK コマンドが使用されましたが、BLKS の値が以下の制限を超えています。

- 8,388,480: 仮想ディスクがメモリー・オブジェクトにおいて割り振られる場合
- 4,194,240: 仮想ディスクがデータ・スペースにおいて割り振られる場合

VDISK はまずメモリー・オブジェクトの割り振りを試みます。これが失敗した場合 (例えば、共有拡張域のスペース不足により失敗した場合)、VDISK はデータ・スペースの割り振りを試みます。

システムの処置:

タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
 タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - BLKS パラメーターの値が 8,388,480 よりも大きい場合は、BLKS パラメーターに妥当な値を指定して VDISK コマンドを再実行してください。
 - 2 GB から 4 GB までのサイズの仮想ディスクを使用する予定の場合 (すなわち、BLKS パラメーターの値が 4,194,240 から 8,388,480 までの場合) は、そのための拡張共有域が必要になります。QUERY MEMOBJ コマンドで、SHRLIMIT 設定を確認してください。必要であれば、SYSDEF MEMOBJ コマンドで SHRLIMIT 値を変更してください。VDISK コマンドを再実行します。

- 拡張共有域が定義されていない (SHRLIMIT が 0 である) 場合、BLKS パラメーターの最大値は 4,194,240 です。BLKS パラメーターに妥当な値を指定して VDISK コマンドを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

1Vxx=VSE/POWER メッセージ

1Vxx メッセージは以下の場所に出されます。

- 中央コンソールのみ: メッセージ 1V01 から 1V08、1V11、1V16、1V26、1V27、および 1V34。
- 中央コンソールまたはワークステーション (コマンドがどこで出されたかに応じて異なる): メッセージ 1V09 および 1V10。
- ワークステーションのみ: 1V12 から始まるその他のすべてのメッセージ。

1V01I NO SUBTASK AVAILABLE FOR RJE, SNA

説明: 任意の一時点でアクティブであることが許可される最大数のサブタスクがすでに開始されています。(このメッセージは、出されてはならないものです)

システムの処置: RJE,SNA の初期設定は終了します。

オペレーターの応答: RJE,SNA が使用できるようにサブタスクを解放して、PSTART コマンドを出し直してください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 使用可能なサブタスクの欠落に注意してください。

1V02I VTAM OPEN FAILURE RTNCD=xxx

説明: xxx は、ACB のエラー・フィールドに入れて通知される戻りコード (10 進数) です (VTAM Programming および VTAM Messages and Codes を参照してください。)

VSE/POWER アプリケーション・プログラム用の VTAM アクセス方式制御ブロック (ACB) をオープンできませんでした。

システムの処置: RJE,SNA の初期設定は終了します。

オペレーターの応答: このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: ACB のエラー・フィールドに通知された戻りコードによって異なります。戻りコードが「ACB はすでに別のセッション用にオープンされています」を示しているときは、同じアプリケーション ID が RJE/SNA サポートと PNET サポートの両方で使用されている可能性があります。この場合、アプリケーション ID (POWER マクロの SNA オペラントまたは PNODE マクロの APPLID オペラント) のいずれかを変更してください。

1V03I ERROR ON rplrequest RTNCD,FDB2=xx,yy SENSE=zzzzzzzz

説明: RJE,SNA の初期設定中に、次のいずれかが起きました。

1. FDB2 および SENSE コードの両方がすべてゼロであるときは、VTAM がどの区画においてもまだ開始されていません。
2. VTAM 要求 (rplrequest) を出した時点でエラーが検出されました。

システムの処置: RJE,SNA は終了します。これは、エラーの原因が特定の論理装置によるものでもなく、特定の入力処理装置または出力処理装置によるものでもないためです。

オペレーターの応答: 上記の説明に応じて、次のとおりです。

1. VTAM を初期設定して、RJE,SNA を再始動してください。
2. このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: VTAM から戻された 16 進数表記の戻りコード、フィードバック、およびセンス情報によって異なります。この情報の意味については、VTAM Programming または VTAM Messages and Codes を参照してください。RC/FDB2 について詳しくは、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻」の『RPL に基づくマクロ命令』を参照してください。センス・データについては、『センス・コード』を参照してください。

1V04I RJE,SNA STARTED, APPLID=power-macro-applid

システムの処置: VSE/POWER は、端末オペレーターが LOGON コマンドを入力してセッションを開始するのを待ちます。

オペレーターの応答: ログオンを行って VSE/POWER RJE,SNA とのセッションを開始することができます。

システム・プログラマーの応答: なし。

1V05I RJE,SNA TERMINATED, APPLID=power-macro-applid

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. エラー条件が見つかりました。エラーの性質は、先に表示されたメッセージ (1V01I、1V02I、または 1V03I) の中で説明されています。
2. 中央オペレーターが FORCE パラメーターを指定しないで VSE/POWER PEND コマンドを入力しました。
3. 中央オペレーターが VTAM の HALT コマンドを出したため、VSE/POWER RJE/SNA との接続が切断されました。または、中央オペレーターが PSTOP RJE,SNA コマンドを出しました。

システムの処置: RJE,SNA は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1V06I UNABLE TO LOGON luname RC=yy MACRO=nnnn

説明: SNA 論理装置のログオン時にエラーが発生しました。

その説明については、戻りコード (RC) を調べてください。以下のいずれかです。

- RC=01:** GETVIS が LOGON WACB に対して失敗しました。
- RC=03:** GETVIS が LOGON SUCB/LUCB に対して失敗しました。
- RC=05:** GETVIS が LRCB に対して失敗しました。
- RC=07:** VTAM がシャットダウン状態です。
- RC=10:** INQUIRE (VTAM 要求) のエラーです。
- RC=11:** REMID、PASSWORD、または LUNAME のエラーです。
- RC=12:** BIND データのエラーです。
- RC=17:** セッション限度 (SESSLIM) 値を超過しました。
- RC=20:** 同時にアクティブであることが許可されるワークステーションの数を超過しています。
- RC=40:** OPENDST のエラーです。
- RC=41:** SESSIONC SDT のエラーです。

「MACRO=」値の説明は、メッセージ 1V07I を参照してください。

システムの処置: SNA 論理装置のログオン要求は拒否されません。

オペレーターの応答: このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: このエラーの原因を調べてください。

1V07I ERROR ON rplrequest RTNCD,FDB2=xx,yy SENSE=zzzzzzzz ON luname MACRO=nnnn

説明: データ伝送時または VSE/POWER へのログオン時に、VSE/POWER が VTAM 要求 (rplrequest) を出そうとした時点で、エラーが検出されました。16 進数で表示される RPL の部分は、次のとおりです。

xx = RPLRTNCD
yy = RPLFDB2
zzzzzzzz = RPLSSEI, RPLSSMI, RPLESR1, RPLESR2

RJE,SNA ワークステーションによってメッセージに先立って出される最後の VTAM マクロは、nnnn によって示されます。これは次の値をとります。

nnnn	マクロ	モジュール
0001	INQUIRE	IPW\$\$LH
0002	CLSDST	IPW\$\$LH
0011	OPNDST	IPW\$\$LN
0012	SESSIONC	IPW\$\$LN
0013	CLSDST	IPW\$\$LN
0021	RECEIVE 1	IPW\$\$IB
0022	RECEIVE 2	IPW\$\$IB
0023	RECEIVE 3	IPW\$\$IB
0024	RESETR	IPW\$\$IB
0025	SEND	IPW\$\$IB
0031	SEND 1	IPW\$\$OB
0032	SEND 2	IPW\$\$OB
0033	SEND 3	IPW\$\$OB

nnnn	マクロ	モジュール
0034	SEND 4	IPW\$\$OB
0035	SEND 5	IPW\$\$OB
0036	RECEIVE 1	IPW\$\$OB
0037	RECEIVE 2	IPW\$\$OB
0038	RESETR	IPW\$\$OB
0041	SEND 1	IPW\$\$MP
0042	SEND 2	IPW\$\$MP
0043	RECEIVE	IPW\$\$MP
0044	RESETR 1	IPW\$\$MP
0045	RESETR 2	IPW\$\$MP
0000		IPW\$\$VE

システムの処置: 検出されたエラーのタイプに応じて、システムは次のいずれかを行います。

- RJE,SNA を終了します。
- メッセージに表示された論理装置とのセッションを終了します。
- 端末インバウンドまたはアウトバウンド処理装置を非活動化します。
- LOGON プロセッサを終了します。セッションは確立できません。

オペレーターの応答: このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: VTAM により戻された戻りコード、フィードバック、およびセンス情報によって異なります。

RC/FDB2 について詳しくは、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻」の『RPL に基づくマクロ命令』を参照してください。センス・データについては、『センス・コード』を参照してください。エラーの詳しい分析が必要であれば、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

1V08I luname BIND PARAMETERS INVALID

説明: LOGMODE パラメーター内の 'name' オペランドは VTAM 定義の LOGON モード・テーブル中の項目を指していますが、この項目は、VSE/POWER 用のプロトコルと矛盾する BIND パラメーターを指定しています。

このメッセージのあとに、BIND パラメーターを表示するメッセージ 1V34I が続きます。

システムの処置: この端末からの LOGON は受け入れられません。リモート・オペレーターの端末のコンソール印刷装置には、不定様式システム・サービス (USS) 定義のメッセージが出されます。

オペレーターの応答: このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: この端末に対応する LOGON モード・テーブル項目を訂正してください。

**1V09I REMOTE xxx LOGGED ON TO iiiiii ON
 luname, TIME=hh:mm:ss date**

説明: xxx で示されたりモート・オペレーターは、VSE/POWER RJE,SNA に正しくログオンしました。変数 iiiiii は、POWER マクロのアプリケーション ID (APPLID) で置き換えられます。

システムの処置: システムは、処理を開始できる状態にあります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1V10I RJE, SNA IS IN SHUTDOWN

説明:

1. 中央オペレーターが FORCE パラメーターなしの VSE/POWER PEND コマンド、または VTAM HALT コマンド (通常のクローズを引き起こします)、または PSTOP RJE,SNA,EJO コマンドを出しました。
2. または、先に出された PSTOP RJE,SNA,EJO が RJE,SNA 機能を終了する前に中央オペレーターが PSTART RJE,SNA コマンドを出しました。

システムの処置:

1. すべての端末セッションが完了したあと、RJE,SNA は終了します。
2. PSTART RJE,SNA コマンドは無視されます。RJE,SNA セッションの終了処理が続行されます。

オペレーターの応答:

1. なし。
2. メッセージ 1V05I によって RJE,SNA が終了したことが示されたときに、PSTART RJE,SNA コマンドを繰り返してください。PINQUIRE RJE,SNA コマンドを使用して、まだ活動状態の RJE,SNA セッションがあるかどうかを確認できます。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1V11I REMOTE xxx LOGGED OFF FROM iiiiii
 ON luname, TIME=hh:mm:ss date**

説明: 以下のいずれかです。

- xxx で示されたりモート・オペレーターが、luname で示された端末からログオフしました。メッセージ中の iiiiii は、POWER マクロの SNA = オペランドで定義されたアプリケーション ID (APPLID) で置き換えられます。
- 中央オペレーターが PSTOP RJE,SNA,... コマンドを出した。

システムの処置: VSE/POWER RJE,SNA はメッセージ・テキスト中の luname で示されている端末を切断します。1 の場合、メッセージ 1V12I がコンソール印刷装置に表示されます。2 の場合、メッセージ 1V12I がリモート・オペレーターのコンソール印刷装置に表示されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1V12I LOGOFF COMPLETED, TIME=hh:mm:ss date

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. リモート・オペレーターが条件付き LOGOFF コマンドまたは SIGNOFF コマンドのいずれかを出しました。中央オペレーターのコンソール印刷装置には、このメッセージの前に、メッセージ 1V11I が出されます。
2. 中央オペレーターが PSTOP RJE,SNA,luname,EJO コマンドまたは PSTOP RJE,SNA,EJO コマンドのいずれかを出しました。コンソール印刷装置には、このメッセージの前に、メッセージ 1V11I が出されます。
3. 中央オペレーターが FORCE パラメーターの指定のない PEND コマンドを出しました。

システムの処置: システムは他のタスクの処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1V13I LOGOFF FORCED, TIME=hh:mm:ss date

説明: VSE のシステム・エラーが発生したか、またはユーザー JOEXIT ルーチンが異常終了したためにセッションが終了したか、または中央オペレーターが以下のいずれかのコマンドを出しました。

- PSTOP RJE, SNA ('luname' パラメーターあり、またはなし)
- VARY INACT,I,ID=ncpname/luname
- HALT QUICK

システムの処置: 次のいずれかです。

原因 1: VSE/POWER は、'luname' で識別された端末とのセッションを終了します。

原因 2: VTAM は、セッションが終了したことを VSE/POWER に知らせます。

原因 3: VTAM は、VTAM が非活動化されることを VSE/POWER に知らせます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**1V14I SESSION IS IN SHUTDOWN,
 TIME=hh:mm:ss**

説明: 次のいずれかを行ってください。

1. 中央オペレーターが FORCE パラメーターのない VSE/POWER PEND コマンド、 PSTOP RJE,SNA,luname,EJO コマンド、または VTAM の HALT コマンドを出し、その結果、通常のクローズダウンが行われました。
2. リモート・オペレーターが条件付き LOGOFF コマンドまたは SIGNOFF コマンドを出しました。

システムの処置: 論理装置の処理がすべて完了した後、論理装置とのセッションが終了し、メッセージ 1V12I が表示されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1V15I NO STORAGE AVAILABLE FOR *task*
where 'task' can be LST, LST1, LST2,
LST3, or PUN.

説明: 端末オペレーターが開始したリストまたは穿孔タスク処理プログラムのためのストレージが足りません。

システムの処置: リストまたは穿孔処理プログラムは活動化されません。

オペレーターの応答: * .. START LST または * .. START PUN コマンドを入力して、リストまたは穿孔処理プログラムを再度活動化させてください。活動化が再び失敗した場合には、中央オペレーターおよびシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER の仮想記憶必要量を検査してください。区画 GETVIS 域内の作業域が小さすぎる場合があります。必要に応じて、ストレージの割り振り量を増やしてください。

1V16I NO STORAGE AVAILABLE FOR *task* FOR
luname, rrr

説明: メッセージに示されたリストまたは穿孔タスクのためのストレージが足りません。*rrr* は端末のリモート ID です。

システムの処置: リストまたは穿孔処理プログラムは活動化されません。

オペレーターの応答: このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER の仮想記憶必要量を検査してください。区画 GETVIS 域内の作業域が小さすぎる場合があります。必要に応じて、ストレージの割り振り量を増やしてください。

1V17A *task* SUSPENDED FOR FORMS MOUNT

説明: メッセージに示されたタスクは、次のいずれかの理由のため、一時的に停止します。

1. このメッセージの前に VSE/POWER メッセージ 1Q40A が出されて、指定のジョブの出力用に特定の用紙またはカード (メッセージ 1Q40A の ffff によって示される) を要求しています。
2. オペレーターが SETUP コマンドを入力したあと、指定された数だけのページが印刷されました。

システムの処置: 他の VSE/POWER タスクの処理が続行されます。

オペレーターの応答: 377x 端末で ATTN キーを押し、下記のいずれかのコマンドを入力してください。

- リストまたは穿孔書き込みタスクを再開させる場合は、
GO {LSTn|PUN}
- 印刷用紙の位置合わせを (さらに) 手動で行わなければならない場合は、
SETUP LSTn[,n]
- リストまたは穿孔書き込みタスクを終了させる場合は、
STOP {LSTn|PUN}

システム・プログラマーの応答: なし。

1V18A REPLY WITH RESTART ON
INTERVENTION REQUIRED *task*

説明: メッセージに示されたタスクが、次のいずれかに対する「要介入」条件を示しました。

コンソール印刷装置
IBM 3784 行印刷装置
カード穿孔装置

数値桁読み出しエラーが表示されましたが、端末オペレーターは、これに対して適切な応答をまだ行っていません。下記のうちの該当する資料を参照してください。

Operating Procedures Guide, IBM 3771 and 3773
Communication Terminals
Operating Procedures Guide, IBM 3774 and 3775
Communication Terminals
IBM 3776 Models 1 and 2 Communication Terminals
Operating Procedures Guide

システムの処置: 出力処理プログラムは延期されます。

オペレーターの応答: 377x 端末で ATTN キーを押してから、次のことを行ってください。

1. 印刷出力の場合: RESTART LST, n コマンドを出してください。n の望ましい値は、(一部のみでも) 印刷された最後のページのページ番号です。n オペランドを省略すると、出力は最初のページから再開します。
2. 穿孔出力の場合: RESTART PUN, n コマンドを出してください。n の望ましい値は、穿孔された最後のカードの番号です。n オペランドを省略すると、出力は最初のカードから再開します。

システム・プログラマーの応答: なし。

1V22I INVALID xxxxxx COMMAND

説明: 無効なコマンドが、コンソール・キーボードから、カード読取装置から、あるいはディスク装置から入力されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 正しい VSE/POWER コマンドを入力してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1V23I xxxxxxxx OUT OF SEQUENCE

説明: 無効な端末コマンドが入力されました。

xxxxxxx は次のいずれかです。

- START コマンドが入力され、前の START コマンドによってすでに開始されたタスクを開始しようとした。
- STOP コマンドが入力され、すでに非活動化されていたタスク、またはまだ活動化されていなかったタスクを停止させようとした。
- オペレーターへのプロンプトが出されていないのに、SETUP または GO コマンドが入力されました。
- RESTART コマンドが予期されましたが、入力されませんでした。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

1V24I *task* **TERMINATED, REASON=xxxx FOR**
luname

説明: メッセージに示されたタスクが、REASON=xxxx で示される理由のために終了しました。理由は、以下のいずれかです。

- 'task' = PUN または LSTn:

VSE/POWER から端末への要求に対して、否定応答が受け取られました。これは重大なエラーなので、VSE/POWER はタスクを停止させます。REASON=0000 の場合、タスクは以下のいずれかの理由によって停止されました。

- ユーザー OUTEXIT の異常終了
- ユーザー OUTEXIT による STOP 戻りコード
- 次のいずれかのコマンドが入力されました。
PSTOP RJE, SNA,...
* .. STOP LSTn
* .. STOP PUN

メッセージ 1V30I も出された場合には、出力タスクは VSE/POWER によって停止されました。

- 'task' = RDR または RXM:

ワークステーションが要求単位を送ったときに、エラーが見つかりました。このエラーのため、VSE/POWER はタスクを停止させました。REASON=0000 の場合、タスクは以下のいずれかの理由によって停止されました。

- 永続ディスク出力エラーのような VSE/POWER の内部的な理由がある。
- 中央オペレーターが PSTOP RJE,SNA,... コマンドを出した。
- VSE/POWER は文字コード化されたログオフを受け取ったが、タスクには未解決の RPL 要求はない。センス情報は提供されません。

- 'task' = CON1:

ワークステーションから送られた要求のタイプに関連するエラーが見つかりました。別の論理装置コンソール・タスクがまだアクティブであるときに、コンソール・メッセージを受け取りました。実行できるコンソール・タスクは 1 つしか許可されません。

システムの処置: 入力処理プログラム ('task' = RDR) または出力処理プログラム ('task' = LSTn または PUN) は停止します。データの保水性は、データを出力する場合にはジョブをキューイングし直すか、または処理された入力ジョブを部分的に廃棄することで保持されます。

オペレーターの応答: このメッセージがたびたび出される場合は、システム・プログラマーに連絡してください。(影響を受けた入力ジョブを廃棄して、再度読み取らなければなりません。影響を受けた出力ジョブは、再実行できるように、キューイングし直されます。)

システム・プログラマーの応答: この問題がたびたび起こる場合には、VTAM *Programming* を参照してください。さらにエラー分析を行う必要がある場合には、VTAM *Diagnosis* を参照してください。

1V25I **EOJ ADDED FOR** *jobname jobnumber*

説明: 読み取りタスクが開始されましたが、ファイルから読み取られた最新のレコードは、* \$\$ EOI ステートメントでも /& ジョブ区切りステートメントでもありませんでした。

システムの処置: 欠落しているジョブ区切りが、読み取られた VSE/POWER ジョブに追加され、そのジョブは保留状態にされます。

オペレーターの応答: そのジョブを保留状態から解くために、RELEASE コマンドを出して、ジョブを処理できる状態にしてください。そのジョブを読み取りキューから取り除く必要がある場合は、DELETE コマンドを出してください。プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: このメッセージが出されないようにするには、VSE/POWER によってスプールされるすべての SYSIN ファイルの最後に、/& ステートメント (JECL を使用しない場合) または * \$\$ EOI ステートメント (JECL を使用する場合) を挿入してください。

1V26I **INVALID REMOTE-ID, PASSWORD OR**
LUNAME, RC=yy

説明: SNA 論理装置のリモート端末オペレーターが、無効なリモート ID またはパスワードでログオンしようとしたか、あるいはこの論理装置では使用できないリモート ID でログオンしようとした。戻りコード yy は次のいずれかです。

30 リモート ID が無効

31 パスワードが無効

32 論理装置 (LUNAME) がこのリモート ID には無効

システムの処置: SNA 論理装置からのログオン要求は受け入れられません。

オペレーターの応答:

- 中央オペレーターの場合: メッセージが頻発する場合は、システム・プログラマーに連絡してください。
- リモート・オペレーターの場合: 再度ログオンを試みてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1V27I **REMIID=remid EXCEEDS SESSLIM**

説明: SNA 論理装置からログオン要求が試みられましたが、論理装置 (LU) の数が、このリモート ID の PRMT マクロ項目で指定された LU 数を超過しています。

システムの処置: SNA 論理装置からのログオン要求は拒否されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: PRMT 項目と SESSLIM パラメーターを、ワークステーション要求を満たせる値に変更して、VSE/POWER を生成し直すことを検討してください。

1V28I **JOB** *jobname jobnumber* **GETVIS FOR COCB**
FAILED

説明: GETVIS の誤りが生じたため、短縮テーブル制御ブロック (COCB) が生成されませんでした。

システムの処置: アウトバウンド処理が停止します。ジョブはキューに残ります。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- VSE/POWER 区画を停止させ、もっと大きな仮想記憶を割り振る。
- GETVIS 域内の SNA 作業域の使用度合いが減少したら、ジョブを再送する。

システム・プログラマーの応答: なし。

1V29I JOB *jobname jobnumber* GETVIS FOR COMPACTION TABLE FAILED

説明: 短縮テーブルを GETVIS 域に保管しようとしたが、失敗しました。

システムの処置: アウトバウンド処理が停止します。ジョブはキューに残ります。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- VSE/POWER 区画を停止させ、もっと大きな仮想記憶を割り振る。
- GETVIS 域内の SNA 作業域の使用度合いが減少したら、ジョブを再送する。
- ALTER コマンドを用いてジョブ特性を変更し、短縮せずにジョブを再送する。
- システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: VSE/POWER 区画の GETVIS 域を増やしてください。

1V30I JOB *jobname jobnumber* COMPACTION TABLE NOT FOUND

説明: * \$\$ LST JECL ステートメントまたは ALTER コマンドが短縮テーブルを指定しましたが、このテーブルはまだ PCPTAB マクロによって生成されていませんでした。または、デフォルト短縮名が PRMT マクロ内で指定されましたが、フェーズがライブラリー内にありませんでした。

システムの処置: アウトバウンド処理が停止します。ジョブはキューに残ります。

オペレーターの応答: このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: JECL ステートメントを、異なる短縮テーブルまたは短縮なしを指定するように変更して、ジョブを再サブミットしてください。

1V31I JOB *jobname jobnumber* NO SPACE AVAILABLE IN COMPACTION POOL

説明: 最大許容数のテーブルがロードされていて、現在使用中です。

システムの処置: アウトバウンド処理が停止します。ジョブはキューに残ります。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 短縮テーブルの使用度合いが減少したときに、ジョブを再送してください。
- 短縮なしでジョブを再送してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

1V32I JOB *jobname jobnumber* INVALID COMPACTION TABLE

説明: * \$\$ LST JECL ステートメントまたは ALTER コマンドがライブラリー内のフェーズを指定していますが、このフェーズは短縮テーブルではありません。

システムの処置: アウトバウンド処理が停止します。ジョブはキューに残ります。

オペレーターの応答: このメッセージをプログラマーに報告するか、あるいはジョブの短縮テーブル指定を変更し、ジョブを再送してください。

プログラマーの応答: JECL ステートメントを変更して、正しい短縮テーブルを指定するか、または短縮なしを指定してください。現在キューにあるジョブに対して新しい名前を使用するか、あるいは短縮なしを使用するかをオペレーターに連絡してください。

1V33I REMOTE *remid* OUTPUT FOR NONWRITER WORKSTATION

説明: 印刷出力または穿孔出力が SNA ワークステーションのリモート ID に経路指定されています。あるいは、BIND パラメーターの定義によればアウトバウンド出力が許されていないワークステーションに対して出力タスクが開始されました。

システムの処置: 出力は転送されず、キューに残ります。

オペレーターの応答: リスト/穿孔出力が許されている別の LOGMODE テーブル名を用いて、ログオンしてください。

プログラマーの応答: なし。

1V34I (*BIND* パラメーターの表示)

説明: 表示された BIND パラメーターは、次のいずれかの理由により無効です。

- 端末オペレーターが誤った LOGMODE テーブル指定を用いてログオンしようとした。
- 指定された LOGMODE テーブルが正しく生成されていません。

システムの処置: ログオン要求は拒否されます。

オペレーターの応答: LOGON コマンドに指定されている LOGMODE テーブルの名前を調べてください。誤っている場合は、正しく指定して LOGON をやり直してください。値が正しいときは、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 有効な LOGMODE テーブル名が指定されている場合には、LOGMODE テーブルにエラーがないかどうかを調べてください。

1Yxx= 一般 JCL/ アテンション・ルーチン・メッセージ

1Y01t **VALUE OFF LIMITS: xxxx**

説明: キーワード xxxx について指定された値が、システムで要求された限界内にありません。SYSDEF パラメーターの値については、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、訂正したステートメントを再サブミットしてください。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。
 - 訂正したステートメントを再サブミットする。
 - END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL コマンドまたはステートメントの場合、ジョブまたはプロシージャーを訂正して、以後このメッセージが出されないようにしてください。

1Y02I **INVALID CLASS**

説明: 無効なクラス・パラメーターが CLASS オペランドに指定されました。A、B、F を除く英字だけが有効です。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1Y05t **FOLLOWING PARAMETER(S) MISSING:**
xxxx

説明: ステートメント/コマンドに 1 つまたは複数の必須パラメーターが指定されていません。xxxx は、欠落しているパラメーターのキーワードを示します。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -

- メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、訂正したステートメントを再サブミットしてください。

- メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。

- タイプ・コード D の場合は、次のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントを再サブミットする。

- END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL コマンドまたはステートメントの場合、ジョブまたはプロシージャーを訂正して、以後このメッセージが出されないようにしてください。

1Y07t **ASI NOT ACTIVE: USAGE PARAMETER NOT ALLOWED**

説明: オペランド USAGE=DLA を指定した VDISK コマンドが出されましたが、これは、ASI (自動システム初期設定) 時にしか受け入れられません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。

- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。

- END/ENTER を押す。これにより、システムは前の VDISK ステートメントを無視します。

- VDISK ステートメントを訂正し、END/ENTER を押して処理を続行する。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、VDISK ステートメントを訂正するか除去して、ジョブを再実行してください。USAGE オペランドを指定した VDISK は、ASI 時に、BG 以外の区画がまだ開始されていないときにしか使用できないことに注意してください。

1Y08t **PARTITIONS STARTED: USAGE PARAMETER NOT ALLOWED ANY MORE**

説明: オペランド USAGE=DLA を指定した VDISK コマンドが ASI (自動化システム初期設定) 時に出されましたが、これは、BG 以外の区画が START コマンドによってすでに開始されているときには受け入れられません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前の VDISK ステートメントを無視します。
 - VDISK ステートメントを訂正し、END/ENTER を押し、処理を続行する。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、VDISK ステートメントを訂正するか除去して、ジョブを再実行してください。USAGE オペランドを指定した VDISK は、ASI 時に、BG 以外の区画がまだ開始されていないときにしか使用できないことに注意してください。

1Y09t FOLLOWING VOLUME(S) NOT IN LIBRARY: volid1[,volid2,...]

説明: 直前のコマンドまたはステートメントが、指定された IBM 3494 ライブラリー (何も定義されていない場合はデフォルト・ライブラリー) には存在しないテープ・ボリュームを指定しました。メッセージに表示される volume-id は 8 個までであることに注意してください。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合 - なし。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前のコマンドまたはステートメントを無視します。
 - コマンドまたはステートメントを訂正し、END/ENTER を押して処理を続行する。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。

メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合、コマンドまたはステートメントを訂正してジョブを再実行してください。

1Y0At FOLLOWING VOLUME(S) ON WRONG MEDIA: xxxxxx<.....>

説明: LIBSERV MOUNT が出されましたが、指定されたボリュームは、このコマンドで定義または選択されたテープ装置では処理できません。(3490 ボリュームを 3590 テープ装置に取り付けることはできませんし、その逆も同様です。)

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード D の場合 - 正しいボリュームを指定して LIBSERV MOUNT コマンドを再指定するか、CANCEL を出してジョブを取り消してください。

プログラマーの応答: LIBSERV MOUNT コマンドまたはステートメントに正しいボリューム ID を指定して、ジョブを訂正してください。

1Y1nt TOO MANY OPERANDS

説明: メッセージ ID の中の *n* の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。ステートメント/コマンドに、予期されるよりも多くのオペランドが指定されています。例えば、SYSDEF DSPACE ステートメント/コマンドに、ほかのオペランドと一緒に 0M の DSIZE が指定されています。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、ステートメント/コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合、訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL ステートメントまたはコマンドの場合は、今後この問題が発生しないように、ジョブまたはプロシージャを訂正してください。

1Y2nt INCORRECT DELIMITER

説明: メッセージ ID の中の *n* の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。等号で終わるべきパラメーターが等号で終わっていないか、または等号で終わるべきでないパラメーターが等号で終わっています。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、ステートメント/コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合、訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL ステートメントまたはコマンドの場合は、今後この問題が発生しないように、ジョブまたはプロシーチャーを訂正してください。

1Y3nt **KEYWORD xxxxxxxx SPECIFIED {TWICE|4 TIMES} OR NOT ALLOWED**

説明: メッセージ ID 中の *n* の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。前のコマンドやステートメントで 2 回 (または 4 回) 使用されたキーワードがあるか、あるいはエラーになっているキーワードは前のキーワード (例えば、...TEMP,PERM... や ...READ,WRITE... など) と一緒に指定できないキーワードです。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、ステートメント/コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合、訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL ステートメントまたはコマンドの場合は、今後この問題が発生しないように、ジョブまたはプロシーチャーを訂正してください。

1Y4nt **VALUE IS NOT NUMERIC**

説明: メッセージ ID 中の *n* の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。エラーのキー値は数値であるべきですが、0 から 9 の範囲外の数字が含まれています。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、ステートメント/コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合、訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL ステートメントまたはコマンドの場合は、今後この問題が発生しないように、ジョブまたはプロシーチャーを訂正してください。

1Y5nt **INVALID VALUE: xxxxxxxx**

説明: メッセージ ID 中の *n* の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。キー値 xxxxxxxx に、1 つまたは複数の以下のエラーがあります。

- 説明で指定されている値より大きい。
- 長すぎるか、短すぎる。
- 記述に指定されたように K または M で終わっていない。
- 無効な文字が含まれている。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、ステートメント/コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合、訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。

- メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
 - タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL ステートメントまたはコマンドの場合は、今後この問題が発生しないように、ジョブまたはプロシーチャーを訂正してください。

1Y6nt INVALID KEYWORD: xxxxxxxx

説明: メッセージ ID 中の *n* の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。キーワードがこのステートメント/コマンドで許可されていないか、または数値でないキー値が、記述で指定された長さよりも長くなっています。例えば、VALID=XX34567 などです。指定されたキーワードの長さが 8 文字を超える場合は、8 文字 xxxxxxxx に切り捨てられます。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、ステートメント/コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合、訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL ステートメントまたはコマンドの場合は、今後この問題が発生しないように、ジョブまたはプロシーチャーを訂正してください。

1Y7nt INVALID STATEMENT, OPERAND MISSING

説明: メッセージ ID 中の *n* の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。等号またはコンマの後にはオペランドが指定されるべきですが、指定されていません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、ステートメント/コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合、訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL ステートメントまたはコマンドの場合は、今後この問題が発生しないように、ジョブまたはプロシーチャーを訂正してください。

1Y8nt INVALID OR DUPLICATE SYSLOG-ID

説明: メッセージ ID 中の *n* の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。指定された SYSLOG-ID が、実行中のシステムで認識されないか、前のコマンドまたはステートメントで 2 回以上指定されています。ただし、LIBSERV コマンドがメッセージの原因である場合は、PART キーワードで指定された SYSLOG-ID の構文は正しい可能性があります。対応する区画がアクティブでなく、停止されてもいません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、ステートメント/コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合、訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。

1Y9nt • 1YBnt

- END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL ステートメントまたはコマンドの場合は、今後この問題が発生しないように、ジョブまたはプロシーチャーを訂正してください。

1Y9nt PARENTHESIS MISSING

説明: メッセージ ID 中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。直前のコマンドまたはステートメントには、左小括弧または右小括弧のあるべき位置に、それぞれの括弧がありません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前のコマンドまたはステートメントを無視します。
 - コマンドまたはステートメントを訂正し、END/ENTER を押して処理を続行する。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合、コマンドまたはステートメントを訂正してジョブを再実行してください。

1YAnt NOT ALLOWED AS {AR|JCL} COMMAND

説明: メッセージ ID 中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。直前のコマンドまたはステートメントは、アテンション・ルーチンから出されたものですが、ジョブ制御によって実行されたときにしか受け入れられない構文を含んでいます。あるいは、その逆のケースです。ただし、メッセージ NOT ALLOWED AS JCL COMMAND の原因となった JCL コマンドがアテンション・ルーチンに対して必ずしも構文上正しいとは限りません (逆も同様です)。コマンド LIBSERV MOUNT,VOL=V123,PART=BG,UNIT=SYS005 は、PART キーワードが原因で、ジョブ制御で受け入れられません。また、UNIT キーワード値が SYS005 であるため、アテンション・ルーチンで受け入れられません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合 - なし。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合
 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。

- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前のコマンドまたはステートメントを無視します。
 - コマンドまたはステートメントを訂正し、END/ENTER を押して処理を続行する。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合、コマンドまたはステートメントを訂正してジョブを再実行してください。

1YBnt DEVICE RESERVED FOR OTHER PARTITION

説明: メッセージ ID 中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。直前の LIBSERV MOUNT ステートメントまたはコマンドに指定されたテープ装置は、すでに取り付けられているか、または別の区画で割り当てられています。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合、ステートメントまたはコマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、以下のいずれかを行ってください。
 - 可能であれば別の cuu を取り付けてみる。
 - テープ装置が取り付けられていた区画からテープ装置を解放し、ステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - テープ装置が取り付けられていた区画から、取り付け要求が出された対象である区画に、テープ装置を渡す。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - テープ装置が取り付けられていた区画からテープ装置を解放し、ステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - テープ装置が取り付けられていた区画から、取り付け要求を出した区画に、テープ装置を渡す。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: なし。

1YCnt INVALID DEVICE TYPE

説明: メッセージ ID 中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。LIBSERV または SYSDEF または VTAPE のいずれかが無効な装置タイプの *cuu* を指定しました。

- LIBSERV コマンドは、装置タイプ・コード 3490E または TPA を指定した ADD ステートメントがシステムの IPL 手順 (\$IPLESA.PROC) に含まれているテープ装置に対してのみ使用することができます。
- SYSDEF SCSI コマンドでは、指定キーワード・パラメーターの名前に提案されているとおり、装置タイプ「FBA」および「FCP」に *cuu* が必要です。SCSI ディスクの初期インストールの間、FBA キーワードで指定する *cuu* を、既にシステムの入出力構成に定義されている装置番号にすることはできません。
- VTAPE コマンドは、装置タイプ・コード 3480、3490、または 3490E を指定した ADD ステートメントがシステムの IPL 手順 (\$IPLESA.PROC) に含まれているテープ装置に対してのみ使用することができます。

装置タイプ・コードについての表は、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、ステートメント/コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合、訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL ステートメントまたはコマンドの場合は、今後この問題が発生しないように、ジョブまたはプロシーチャーを訂正してください。

1YDnt DEVICE ASSIGNED BY ANOTHER SYSTEM

説明: メッセージ ID 中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。LIBSERV コマンドに、複数のシステム (ホスト、LPAR、または VM ゲスト) の間で共用されているテープ装置 *cuu* が指定されています。このテープ装置は、他のシス

テムによって (ASSIGN CCW で) すでに割り当てられていて、VSE に割り当てることができません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合、コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、以下のいずれかを行ってください。
 - 可能であれば別の *cuu* を取り付けてみる。
 - 他のシステムがその装置を (UNASSIGN CCW で) 切り離すまで待つ、それから LIBSERV コマンドを再び呼び出してください。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 可能であれば別の *cuu* を取り付けてみる。
 - 他のシステムがその装置を (UNASSIGN CCW で) 切り離すまで待つ、それから LIBSERV コマンドを再び呼び出してください。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: なし。

1YEnI PASS NOT POSSIBLE, explanation

説明: メッセージ ID 中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。テープ装置を指定した LIBSERV PASS 要求が出されましたが、次のような理由で失敗しました。

- テープ装置に関して使用できる取り付け情報がありませんでした。すなわち、先に LIBSERV MOUNT 要求が出されていなかったか、テープ装置がすでに RELEASE されています。
- テープ装置はすでに、区画によって割り当てられています。
- テープ装置に関連した一時取り付け情報しかありません (JC LIBSERV MOUNT コマンドの TEMP オペランド)。ただし、ユーザーは、永続的に MOUNT されているテープ装置だけは PASS することができます。

システムの処置: システムは PASS 要求を無視します。指定されたテープ装置は指定された区画に渡されません。

オペレーターの応答: テープ装置の状況情報を収集するために、JC LISTIO *cuu* コマンドまたは AR VOLUME *cuu* コマンドを呼び出すことができます。

プログラマーの応答: なし。

**1YFnI DEVICE IS NOT MOUNTED,
RELEASE/CANCEL IGNORED**

説明: メッセージ ID 中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。テープ装置を指定した RELEASE または CANCEL 要求が出されましたが、この装置はまだテープが取り付けられていません。

システムの処置: システムは RELEASE または CANCEL 要求を無視します。

オペレーターの応答: 訂正したコマンドを再サブミットすることができます。

プログラマーの応答: なし。

1YGnt VALUE NOT IN BETWEEN 1 AND xxxx

説明: メッセージ ID 中の n の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。直前のステートメントまたはコマンドが指定した値は、メッセージに示されている限界を超えています。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前のコマンドまたはステートメントを無視します。
 - コマンドまたはステートメントを訂正し、END/ENTER を押して処理を続行する。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。

メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合、コマンドまたはステートメントを訂正してジョブを再実行してください。

**1YH0I PARTITION CANCELLED DUE TO
LIBSERV CANCEL COMMAND**

説明: テープ装置を指定した CANCEL 要求が出され、対応する MOUNT 要求の完了を待っていた区画が取り消されました。

システムの処置: 区画は取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1YH1I MOUNT CANCELLED FOR UNIT *cuu*

説明: 区画が、テープ装置 *cuu* を指定した LIBSERV MOUNT 要求を出しました。区画がこの MOUNT 要求の完了を待っている間に、同じテープ装置を指定した LIBSERV CANCEL コマンドが AR によって出されました。

システムの処置: 区画は取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1YH2I *function* FINISHED FOR UNIT *cuu*

説明: テープ装置 *cuu* を指定した LIBSERV MOUNT または LIBSERV RELEASE 要求が出されて、その要求が正常に完了しました。 *function* は、LIBSERV コマンドに指定されたオペランド (MOUNT または RELEASE のどちらか) を表しています。

システムの処置: アテンション・ルーチンは、前の LIBSERV コマンドの処理を終了しました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1YH3t A MOUNT REQUEST IS ALREADY
PENDING FOR CUU: *cuu***

説明: テープ装置 *cuu* を指定した LIBSERV MOUNT または LIBSERV RELEASE 要求が出されましたが、同じ装置を指定した前の LIBSERV MOUNT 要求がまだ保留状態です。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、ステートメント/コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、以下のいずれかを行ってください。
 - 装置指定が間違っている場合は、訂正した LIBSERV ステートメント/コマンドを再サブミットしてください。
 - 保留状態の MOUNT 要求が完了するまで待ってください。
 - LIBSERV CANCEL コマンドをサブミットして、メッセージに示された装置 *cuu* を指定した保留状態の MOUNT 要求を取り消してください。その後で LIBSERV コマンドを再サブミットしてください。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 保留状態の MOUNT 要求が完了するまで待ってください。その後で LIBSERV コマンドを再サブミットしてください。
 - LIBSERV CANCEL コマンドをサブミットして、メッセージに示された装置 *cuu* を指定した保留状態の MOUNT 要求を取り消す。その後で LIBSERV コマンドを再サブミットしてください。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL ステートメントまたはコマンドの場合は、今後この問題が発生しないように、ジョブまたはプロシーチャーを訂正してください。

**1YH4I MOUNT FOR DEVICE *cuu* IS FINISHED,
CANCEL IGNORED**

説明: テープ装置 *cuu* を指定した LIBSERV CANCEL 要求が出されました。このテープ装置はすでに正常に MOUNT されています。

システムの処置: 前の MOUNT 要求が正常終了しているの
で、システムは CANCEL 要求を無視します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1YH5I CPU(S) COULD NOT BE STARTED RC=*rc*
REASON=*rs***

説明: START または STARTSBY オペランドを指定した
SYSDEF TD コマンド/ステートメントが出されましたが、失
敗しました。エラーの理由は、*rc* (戻りコード) と *rs* (理由コ
ード) の組み合わせ (16 進数) のいずれかで示されます。

rc=08、*rs*=01

z/VSE がマルチプロセッサ・システムで実行され
ていません。

rc=08、*rs*=02

追加の各 CPU に関連するテーブルを作成するの
に使用できるシステム GETVIS スペースがありません。

rc=08、*rs*=03

前の STOP 要求がまだ処理中のため、START 要求
は拒否されます。

rc=08、*rs*=04

フェーズ IJBTDsrv (マルチプロセッサ・サポ
ートを提供するために必要) が SVA にロードされていま
せん。

rc=08、*rs*=06

すでに最大数 (10 個) の CPU が定義されていま
す。

rc=08、*rs*=08

指定された CPU にエラーがあります。

rc=08、*rs*=09

必要な CPU の 1 つを開始できません。

rc=08、*rs*=0A

必要な CPU のすべてではありませんが、一部を開
始できません。

rc=08、*rs*=0B

内部エラー。

rc=08、*rs*=0D

内部エラー。

rc=08、*rs*=0E

内部エラー。

rc=08、*rs*=0F

SDAID プログラムが現在アクティブであるため、
START 要求が拒否されました。

rc=08、*rs*=15

指定した CPU がスタンバイ状態であるため、
START 要求が拒否されました。

rc=08、*rs*=16

指定した CPU がスタンバイ状態ではないため、
STARTSBY 要求が拒否されました。

rc=08、*rs*=17

前の STARTSBY または STOPSBY 要求がまだ処理
中のため、STARTSBY 要求は拒否されます。

システムの処置: 戻りコードと理由コードに応じて、次のとお
りです。

- *rc*=08 および *rs*=0A の場合、活動化できる CPU につい
ては START 要求は処理されます。
- これ以外の戻りコードと理由コードの組み合わせの場合は、
START または STARTSBY 要求は無視されます。

CPU カウンターがリセットされた可能性があります。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - *rc*=08 および *rs*=02 の場合は、GETVIS コマンドを呼び
出して、問題判別のために GETVIS 域を表示する。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前の
SYSDEF ステートメント/コマンドを無視します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。このメッセ
ージをシステム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: *rc*=08 および *rs*=02 の場合
は、IPL 手順の SVA コマンドにもっと大きな GETVIS パラ
メーターを指定して、より大きなシステム GETVIS 域を定義
してください。

rc=08 および *rs*=04 の場合は、フェーズ IJBTDsrv が誤って
システム・ライブラリー IJSYSRS.SYSLIB から除去されていな
いかどうかを検査してください。SET SDL コマンドを使用し
て、そのフェーズを SVA にロードしてください。

rc=08 で、*rs*=0B、0D、または 0E の場合は、IBM に援助を求
めてください。

**1YH6I CPU(S) COULD NOT BE
{STOPPED|QUIESCED|SET STANDBY}
RC=*rc* REASON=*rs***

説明: STOP、STOPQ、または STOPSBY オペランドを指定し
た SYSDEF TD コマンドが出されましたが、失敗しました。
エラーの理由は、*rc* (戻りコード) と *rs* (理由コード) の組み合
わせ (16 進数) のいずれかで示されます。

rc=08、*rs*=01

z/VSE がマルチプロセッサ・システムで実行され
ていません。

rc=08、*rs*=03

前の STOP、STOPQ、または STOPSBY 要求がまだ
処理中のため、STOP、STOPQ、または STOPSBY 要
求は拒否されます。

rc=08、*rs*=04

フェーズ IJBTDsrv (マルチプロセッサ・サポ
ートを提供するために必要) が SVA にロードされていま
せん。

rc=08、*rs*=05

1 つの CPU しかアクティブでないの
で、STOP、STOPQ、または STOPSBY 要求は無視され
ます。

rc=08、*rs*=08

指定された CPU にエラーがあります。

1YH7I • 1YH8t

rc=08, rs=0B

内部エラー。

rc=08, rs=0D

内部エラー。

rc=08, rs=0E

内部エラー。

rc=08, rs=10

IPL が実行された CPU を指定しているのに、STOP、STOPQ、または STOPSBY 要求は無視されます。

rc=08, rs=15

指定した CPU がスタンバイ状態であるため、STOP、STOPQ、または STOPSBY 要求が拒否されます。

rc=08, rs=17

前の STARTSBY または STOPSBY 要求がまだ処理中のため、STOPSBY 要求は拒否されます。

rc=08, rs=18

システムが z/VM で実行中のため、STOPSBY 要求は拒否されます。

システムの処置: STOP、STOPQ、または STOPSBY 要求は無視されます。

CPU カウンターがリセットされた可能性があります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: rc=08 および rs=04 の場合は、フェーズ IJBTDSRV が誤ってシステム・ライブラリー IJSYSRS.SYSLIB から除去されていないかどうかを検査してください。SET SDL コマンドを使用して、そのフェーズを SVA にロードしてください。

rc=08 で、rs=0B、0D、または 0E の場合は、IBM に援助を求めてください。

1YH7I **NUMBER OF CPU(S) - ACTIVE: i - QUIESCED: j - INACTIVE: k- STANDBY: l**

説明: START、STOP、STOPQ、または STOPSBY オペランドを指定した SYSDEF TD コマンドが出されました。

SYSDEF TD コマンドで指定された CPU は、

- 正常に始動されました (START オペランドの場合)。
- 正常に停止されました (STOP オペランドの場合)。
- 正常に静止されました (STOPQ オペランドの場合)。
- 始動のために正常にエンキューされました (STARTSBY オペランドの場合)。
- 停止のために正常にエンキューされ、スタンバイに設定されました (STOPSBY オペランドの場合)。

STARTSBY および STOPSBY オペランドの場合、指定の操作は指定の CPU のみに開始され、処理は非同期的に行われません。

数字 i、j、k および l は、SYSDEF TD コマンドが完了した時点で、アクティブ CPU、静止 CPU、非アクティブ CPU、およびスタンバイ CPU の数をそれぞれ表します。STARTSBY および STOPSBY オペランドの場合、これらの数字は操作開始直後の状態を表します。

システムの処置: CPU カウンターがリセットされた可能性があります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1YH8t **LBSERV ERROR, FUNCTION=function
RET.CODE=rc, REASON=reas**

説明: LBSERV マクロは、アプリケーション・プログラムから IBM 3494 テープ・ライブラリー・データ・サーバーに要求を出すためのプログラミング・インターフェースです。メッセージが出された原因は以下のいずれかです。

- LBSERV コマンドまたはステートメントが、function オペランド SQUERY、MOUNT、RELEASE、CANCEL、または EJECT を指定した LBSERV マクロを呼び出しましたが、その LBSERV マクロが失敗しました。
- ジョブ終了処理時に、ジョブ制御プログラムは、function オペランド RELEASE (取り付け完了状態) または CANCEL (取り付け保留状態) を指定した LBSERV マクロを使用して、区画の一時取り付け予約をすべて解放します。この LBSERV サービスが失敗しました。

戻りコードと理由コードの説明については、「z/VSE System Macros Reference」を参照してください。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、ステートメント/コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、以下のいずれかを行ってください。
 - LBSERV コマンドの 1 つまたは複数のオペランドが誤って指定されている場合は、訂正した LBSERV コマンドを再サブミットしてください。
 - 戻りコードおよび理由コードの説明を調べて、LBSERV の障害の原因となった条件を判別して解決してください。その後で LBSERV コマンドを再サブミットしてください。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - LBSERV コマンドの 1 つまたは複数のオペランドが誤って指定されている場合、訂正した LBSERV コマンドを再サブミットする。
 - 戻りコードおよび理由コードの説明を調べて、LBSERV の障害の原因となった条件を判別し、解決する。その後で LBSERV コマンドを再サブミットしてください。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: タイプミスがエラーの原因であれば、LBSERV コマンドまたはステートメントを訂正して、ジョブ

を再実行してください。そうでなければ、戻りコードおよび理由コードの説明を調べて、LBSERV の障害の原因を判別してください。

**1YH9I LBSERV COPYEX - FUNCTION
INCOMPATIBLE**

説明: このハードウェア、またはこのテープ・ライブラリー環境で、COPY EXPORT 機能はサポートされていません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1YK0t NO FREE UNIT AVAILABLE FOR
LIBRARY *libname***

説明: LIBSERV MOUNT 要求が出されましたが、定位置オペランド UNIT=*cuu* が省略されていました。システムはテープ・ライブラリー *libname* に関連する空きテープ・ドライブを探しましたが、見つかりませんでした。

注: オプションの LIB=*libname* オペランドも省略されていた場合は、システムは、デフォルト・テープ・ライブラリーに関連した空きテープ・ドライブを探しました。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、LIBSERV MOUNT 要求は無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、以下のいずれかを行ってください。
 - LIBSERV コマンドの 1 つまたは複数のオペランドが誤って指定されている場合は、訂正した LIBSERV コマンドを再サブミットしてください。
 - テープを処理している他のジョブが完了して、現在使用中のテープ・ドライブが空き状態になるまで待ってください。その後で LIBSERV MOUNT コマンドを再サブミットしてください。
 - これ以上必要としないテープ・ドライブに対して、LIBSERV RELEASE コマンドを出してください。その後で LIBSERV MOUNT コマンドを再サブミットしてください。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - LIBSERV ステートメント/コマンドの 1 つまたは複数のオペランドが誤って指定されている場合、訂正した LIBSERV を再サブミットする。

- テープを処理している他のジョブが完了して、現在使用中のテープ・ドライブが空き状態になるまで待つ。その後で LIBSERV MOUNT コマンドを再サブミットしてください。
 - これ以上必要としないテープ・ドライブに対して、LIBSERV RELEASE コマンドを出してください。その後で LIBSERV MOUNT コマンドを再サブミットしてください。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは LIBSERV MOUNT コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。
- プログラマーの応答: なし。

**1YK2I CPU ALREADY
{STOPPED|QUIESCED|SET STANDBY}**

説明: すでに非アクティブ、静止、またはスタンバイの状態にある CPU に対して、STOP、STOPQ、または STOPSBY オペランドを指定した SYSDEF TD コマンドが出されました。システムの処置: コマンドは無視されます。

CPU カウンターがリセットされた可能性があります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1YK3t ASI NOT ACTIVE:
{NTASKS|START|STARTSBY}
PARAMETER NOT ALLOWED**

説明: 以下のいずれかのステートメントが指定されました。

- START または STARTSBY オペランド付きの // SYSDEF TD
- NTASKS オペランド付きの // SYSDEF SYSTEM

このステートメントは、自動化システム初期設定 (ASI) 時、BG 区画のスタートアップ手順 (\$OJCL) でのみ受け入れられますが、ASI がもうアクティブではありません。

システムの処置: SYSDEF コマンドは無視されます。

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

CPU カウンターがリセットされている可能性があります (// SYSDEF TD の場合)。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前の SYSDEF ステートメントを無視します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、// SYSDEF ステートメントを除去し、ジョブを再実行してください。

1YK4t CPU WITH ADDRESS *cpuaddr* IS NOT DEFINED

説明: SYSDEF TD コマンドが出されましたが、*cpuaddr* で識別された CPU が存在していません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合
 - コンソールから入力された場合 (アテンション・ルーチン) - なし。
 - ジョブ・ストリームから出された場合 (ジョブ制御) - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合
 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

CPU カウンターがリセットされた可能性があります。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前の SYSDEF ステートメントを無視します。
 - SYSDEF ステートメントを訂正し、END/ENTER を押して処理を続行する。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、SYSDEF ステートメントを訂正するか除去して、ジョブを再実行してください。

1YK5t VOLUME STILL MOUNTED ON CUU: *cuu*

説明: テープ装置 *cuu* を指定した LIBSERV MOUNT 要求が出されましたが、この装置にはまだ別のボリュームが取り付けられています。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合、コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 -
 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、以下のいずれかを行ってください。
 - 装置指定が間違っている場合、訂正した LIBSERV コマンドを再サブミットする。
 - メッセージに示された装置 *cuu* を指定した MTC RUN コマンドをサブミットする。これにより、まだ取り付けられているボリュームの巻き戻しおよびアンロードが行われます。その後で LIBSERV コマンドを再サブミットしてください。
 - LIBSERV RELEASE コマンドをサブミットする。これにより、メッセージに示された装置 *cuu* を指定した前の MOUNT 要求が解放されます。その後で LIBSERV コマンドを再サブミットしてください。

- メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。

- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - メッセージに示された装置 *cuu* を指定した MTC RUN コマンドをサブミットする。これにより、まだ取り付けられているボリュームの巻き戻しおよびアンロードが行われます。その後で LIBSERV ステートメント/コマンドを再サブミットする。
 - LIBSERV RELEASE コマンドをサブミットする。これにより、メッセージに示された装置 *cuu* を指定した前の MOUNT 要求が解放されます。その後で LIBSERV ステートメント/コマンドを再サブミットする。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL ステートメントまたはコマンドの場合は、今後この問題が発生しないように、ジョブまたはプロシーチャーを訂正してください。

1YK6t CPU(S) ALREADY ACTIVE

説明: 単一 CPU またはすべての CPU を指定した SYSDEF TD,START コマンドが出されましたが、単一 CPU またはすべての CPU がすでにアクティブです。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合
 - コンソールから入力された場合 (アテンション・ルーチン) - なし。
 - ジョブ・ストリームから出された場合 (ジョブ制御) - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合
 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

CPU カウンターがリセットされた可能性があります。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前の SYSDEF ステートメントを無視します。
 - SYSDEF ステートメントを訂正し、END/ENTER を押して処理を続行する。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、SYSDEF ステートメントを訂正するか除去して、ジョブを再実行してください。

1YK7I PARTITION *part* IS NOT ACTIVE

説明: 静的区画または動的区画 *part* がアクティブではありません。静的区画 *part* の場合、その区画が割り振られていないか、START されていないか、STOP または UNBATCH されているかのいずれかです。動的区画 *part* の場合、その区画が割り振られていないか、VSE/POWER によって PSTART されていません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 有効な *part* オペランドを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

1YK8t NO ESDS FILE

説明: 仮想テープ・データ・ハンドラーは、VTAPE コマンドの FILE キーワードで指定されたファイルへのアクセスを試行しましたが、そのファイルが ESDS ファイルでなかったため失敗しました。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: VSAM ESDS ファイルの名前を指定してください。

1YK9t CUU *cuu* {ALREADY|NOT} ACTIVE AS VIRTUAL TAPE

説明: VTAPE コマンドで指定された装置 *cuu* はすでに仮想テープとしてアクティブであるか (アクション START の場合)、または仮想テープとしてアクティブではありません (アクション STOP および QUERY の場合)。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合
 - アクション START の場合: 装置がすでに別の区画に使用されていないことを確認してから、VTAPE STOP,UNIT=*cuu* コマンドを出し、*cuu* の仮想テープとしての動作を停止します。その後、失敗した VTAPE START コマンドを再発行するか (DVCDN *cuucuu* の後)、またはジョブを取り消して再実行します。

注意:

VTAPE が別の区画に使用されている場合、または古い VTAPE START 定義がまだアクティブである場合、END/ENTER を行うと予測不能な結果につながる場合があります。

- アクション STOP の場合: このメッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: VTAPE START および VTAPE STOP 要求のシーケンスが正しいことを確認してください。

1YLIH VOLUME MOUNTED: *volser*

説明: LIBSERV CMOUNT 要求が出され、指定されたソース・カテゴリの取り付けられたボリュームが *volser* によって返されました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1YL2I VOLUME FOUND IN LIB: *libname* SRCCAT: *sourcecat* STATUS: *status*

説明: LIBSERV AQUERY/SQUERY 要求が出され、照会されたボリューム情報が、ライブラリー名、ソース・カテゴリ、ボリューム状況として返されます。

ボリューム状況情報は、以下のいずれかです。

- 0000 - 特別な状態はない
- 8000 - アクセス不能
- 4000 - 取り付け完了
- 2000 - 取り付けのためにキューに入れられている
- 1000 - 取り付け中
- 0800 - 取り外しのためにキューに入れられている
- 0400 - 取り外し中
- 0200 - 排出のためにキューに入れられている
- 0100 - 排出中
- 0080 - 監査のためにキューに入れられている
- 0040 - 監査中
- 0020 - 誤って配置されている
- 0010 - ラベルが欠落しているか壊れている
- 0008 - 手動モードで使用されている
- 0004 - 手動で排出された
- 0002 - ボリュームが高速作動可能属性付きでカテゴリに割り当てられた

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1YL3I VOLUME: *volser* CATEGORY CHANGED TO: *targetcat*

説明: LIBSERV SETVCAT 要求が出され、示されたボリュームのカテゴリが、示されたターゲット・カテゴリに変更されました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1YL4t CATEGORY EMPTY OR ALL VOLUMES MOUNTED

説明: LIBSERV CMOUNT 要求が出され、指定されたソース・カテゴリが空であるか、そのボリュームがすべてマウント済みです。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - LIBSERV CMOUNT 要求に別のソース・カテゴリを使用するか、ボリューム・カテゴリを指定されたソース・カテゴリに (SETVCAT で) 変更して、LIBSERV CMOUNT を再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

**1YL5I DEVICE QUERY,VOLUME: *volser* SRCCAT:
sourcecat STATUS: *status***

説明: LIBSERV DQUERY 要求が出され、照会された装置情報があった場合は、*volser*、ソース・カテゴリー、および装置状況として返されます。

装置状況情報は、以下のいずれかです。

- 0000 - 取り付けられていて使用可能
- 8000 - 取り付けられていないか使用不可

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1YL6I LIBRARY QUERY,LIB: *libname* STATUS:
status CACHE USAGE: %**

説明: LIBSERV LQUERY 要求が出され、照会されたライブラリー情報があった場合は、ライブラリー名、ライブラリー状況、およびキャッシュ使用率として返されます。

ライブラリー状況情報は、以下のいずれかです。

- 0000 - 自動モード
- 0100 - 休止モード
- 0200 - 手動モード

TS7720 テープレス TS7700 Virtualization Engine のキャッシュ使用率が返されます (使用可能な場合)。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1YL7I COUNT QUERY,LIB: *libname* COUNT: *count*

説明: LIBSERV CQUERY 要求が出され、ライブラリー内 (SRCCAT が省略された場合) または指定されたソース・カテゴリー内のボリュームのライブラリー名とカウント数として、カウント情報が返されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1YL8I INVENTORY REQUEST SUCCESSFULLY
COMPLETED**

説明: LIBSERV IQUERY または MINVENT 要求が出され、要求が正常に完了しました。つまり、インベントリ・リスト・ファイルが作成されたか、インベントリーの照会要求または管理要求によって変更されました。インベントリ・ファイルについて詳しくは、「IBM z/VSE 管理」を参照してください。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1YLnT INVALID DATE SPECIFIED

説明: メッセージ ID 中の *n* の説明については、113 ページの『エラー・フィールド標識のフィールド・カウント』を参照してください。以下の少なくとも 1 つの理由で、指定された日付 *mm/dd/yyyy* (または STDOPT により指定された日付形式に応じて、*dd/mm/yyyy*) が正しくありません。

- *dd*、*mm*、または *yyyy* に非数値データが含まれている。
- スラッシュ (/) が省略されているか、正しい位置に指定されていない。
- *mm* = 00 または *mm* > 12。
- *dd* = 00 または *dd* が大きすぎる (*mm* により異なる)。
- *yyyy* が 19 または 20 で始まっていない。
- *dd* = 29、*mm* = 02 であるのに、*yyyy* がうるう年でない。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前のコマンドまたはステートメントを無視します。
 - 正しい日付形式を指定したコマンドまたはステートメントを再入力する。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。

プログラマーの応答: 誤った日付形式を含んでいるジョブまたはプロシージャーを訂正してください。

**1YM1t STACKING TAPE IS { NOT READY | NO
3592 | WRITE PROTECTED }**

説明: 前のコマンドで STACKTAPE *cuu* が指定されましたが、これは以下ようになっていました。

- 作動可能状態ではありませんでした。
- 3592 装置ではありませんでした。
- ユーザーが書き込みアクセスを要求しましたが書き込み保護されていました。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 3592 テープ装置を作動可能にして、コマンドを再発行してください。プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: STACKTAPE キーワードの値として有効な 3592 *cuu* を指定してください。

**1YM2t CONFLICTING PARAMETERS:
{STACKTAPE, LOC | STACKTAPE,
SCRATCH}**

説明: 矛盾するキーワードが VTAPE START コマンドで指定されています。

- STACKTAPE キーワードは LOC=TAPE と一緒の場合にのみ使用できます。

- SCRATCH アクセスはスタック・テープには使用できません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 矛盾しないパラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: 矛盾するパラメーターを VTAPE START で使用しないでください。

1YM3I TAPE DATA HANDLER INITIALIZATION IN PROGRESS

説明: VTAPE 処理ノードは、現在非アクティブな仮想テープ・データ・ハンドラーを初期化する必要があります。ジョブ制御によって POWER PRELEASE RDR,TAPESVR コマンドが実行依頼されます。

システムの処置: ジョブ制御は、メッセージ 1YM4I が表示されて仮想テープ・データ・ハンドラーがアクティブになるまで待ちます。仮想テープ・データ・ハンドラーが適切な時間の間にアクティブにならない場合は、メッセージ 1YM5t が表示されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1YM4I TAPE DATA HANDLER INITIALIZATION COMPLETED

説明: VTAPE 処理は、仮想テープ・データ・ハンドラーを正常に初期化しました。このメッセージに続いて 1YM3I が出されます。

システムの処置: 仮想テープ・データ・ハンドラー区画は、仮想テープ入出力要求を待っています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1YM5t TAPE DATA HANDLER INITIALIZATION FAILED

説明: このメッセージに続いて 1YM3I が出されます。以下のいずれかの理由で、仮想テープ・データ・ハンドラーの初期化に失敗しました。

- POWER ジョブ TAPESVR が RDR キューに含まれていない。
- POWER ジョブ TAPESVR を実行するために使用可能な静的または動的区画がない。
- ジョブ TAPESVR を実行する区画の PRTY が低すぎて、適切な時間の間に仮想テープ・データ・ハンドラーを初期化できない。
- プログラム \$VTMAIN の実行に失敗した。
- 所定の期間 (この期間は 10 秒、または VTAPE START ステートメントにおいて TIMEOUT パラメーターで指定された期間) 内に仮想テープ・データ・ハンドラー区画が操作可能にならなかった。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。

- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 上記の説明を参照して、該当する処理を実行します。
 - ジョブ TAPESVR を RDR キューにサブミットする。
 - PALTER ジョブのクラスを別の区画内で実行する。
 - PRTY ストリング内の区画の位置を改善する。
 - 区画のサイズがプログラム \$VTMAIN を実行するために十分であることを確認する。
 - ジョブ TAPESVR の LST 出力を検査して、問題の原因を探す。

このコンテキストにおける他のエラー・メッセージを VSE コンソールで調べます。

仮想テープ・データ・ハンドラー区画が稼働中の場合は、VTAPE コマンドを再発行します。

プログラマーの応答: スケルトン SKVTASTJ を変更して、POWER ジョブ TAPESVR を RDR キューに追加してください。

1YM6I TAPE DATA HANDLER ACCESSED SPECIFIED FILE SUCCESSFULLY

説明: VTAPE START コマンドが正常に完了し、指定されたテープ cuu がテープ・イメージ・ファイルに関連付けられました。

システムの処置: 次の JCL ステートメントまたはコマンドが処理されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1YM7t TAPE DATA HANDLER ENCOUNTERED CONNECTION ERROR

説明: 仮想テープ・データ・ハンドラーが、外部ホストへの TCP/IP 接続を確立しようとしたしましたが、次のいずれかの理由で失敗しました。

- TCP/IP 区画が VSE システム上でアクティブでない。
- 仮想テープ・サーバーが外部ホスト上でアクティブでない。
- 指定された IP アドレスを持つ外部ホストがない。
- 指定された IP アドレスを持つ外部ホストが応答しなかった。
- TCP/IP が異なるシステム ID で開始された。
- 誤りのある \$EDCTCPV.PHASE が使用された。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: テープ・イメージ・ファイルがある外部ホストの正しい IP アドレスを指定してください。

理由が「TCP/IP が異なるシステム ID で開始された」ことによる場合は、スタートアップ・ジョブに // OPTION

1YM8t • 1YN1t

SYSPARM='nn' (nn はシステム ID) を指定してください。スケルトン SKVTASTJ (ICCF ライブラリー 59) を使用すれば、このステートメントを追加できます。

理由が「誤りのある \$EDCTCPV.PHASE が使用された」ことによる場合は、アクティブな \$EDCTCPV.PHASE が TCP/IP for z/VSE 部分に指定されていることを確認してください。LIBDEF ステートメントのライブラリー検索順序を修正する必要があります。

1YM8t TDH VTAPE ERROR[: additional explanation]

説明: 仮想テープ・データ・ハンドラーは、VTAPE コマンドの FILE キーワードで指定されたファイルへのアクセスを試行しましたが、次のいずれかの理由で失敗しました。

- 指定されたファイルが VSAM カタログ内がない (LOC=VSAM の場合) か、外部ホストのファイル・システム上にない (LOC=ipaddress の場合)。
- 指定されたファイルが ESDS ファイルではなく、VRDS または SAM ESDS ファイル (LOC=VSAM の場合)。
- 指定されたファイルにシステム標準ラベル情報がない (LOC=VSAM の場合)。
- READ アクセスが指定された場合: 指定されたファイルが空。
- VSAM SHAREOPTIONS に応じて異なる: 指定されたファイルがすでに別の区画によってオープンされている。
- ファイル・オープンの失敗。
- LOC=TAPE の場合、additional explanation に、以下のいずれかの理由が示される可能性があります。
 - NO IBM STANDARD LABEL TAPE
 - NO STACKING TAPE
 - TAPE IS CORRUPTED
 - TAPE ALREADY INITIALIZED
 - FILE LIMIT REACHED
 - UNABLE TO OPEN DIRECTORY
 - UNABLE TO READ DIRECTORY
 - UNABLE TO WRITE DIRECTORY
 - FILE ALREADY EXISTS
 - FILE NOT IN DIRECTORY

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答:

- LOC=VSAM の場合:
 - VSAM ESDS ファイルの名前を指定してください。
 - ファイルのシステム標準ラベル情報を指定 (//OPTION STDLABEL=ADD) してください。
 - READ アクセスの場合、VSAM ESDS ファイルは空であってはなりません。
 - SCRATCH アクセスの場合、空ではない VSAM ESDS ファイルが REUSABLE として定義されていなければなりません。
 - メッセージ 4228I に示されている VSAM OPEN エラー・コードを参照してください。

- LOC=ipaddress の場合:

仮想テープ・サーバーによって出されたメッセージを調べてください。Start Server ウィンドウに、以下の項目を示すメッセージが表示されます。

- システムは、指定されたパスを見つけられなかった。
- システムは、指定されたファイルを見つけられなかった。
- ディスクに十分なスペースがない。
- ファイル名、ディレクトリー名、またはボリューム・ラベル構文が誤っている。
- アクセスが拒否された。

- LOC=TAPE の場合:

- additional explanation で示された問題を修正してください。

1YM9t TDH INTERNAL ERROR[: additional explanation]

説明: VTAPE コマンドの FILE キーワードで指定されたファイルへのアクセス試行中に、仮想テープ・データ・ハンドラーで内部エラーが発生しました。

LOC=TAPE の場合、additional explanation に、以下のいずれかの理由が示される可能性があります。

- ALLOCATION FAILED
- ASSIGN FAILED
- LABEL PROCESSING FAILED

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: CANCEL を入力してジョブを取り消す。プログラマーに問題を報告してください。

プログラマーの応答: LOC=TAPE および ASSIGN FAILED の場合: STACKTAPE cuu がどの区画においても割り当てられていないことを確認してください。

問題を IBM サポートに報告してください。

1YN0I BUFFERED DATA HAS BEEN LOST DUE TO EOVS DURING TERMINATE

説明: 最後の書き込みコマンドが正常に完了する前に、VTAPE STOP 処理中にボリューム終了状態に達しました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: VTAPE VSAM ファイルを拡張し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

1YN1t TAPE SIMULATOR ENCOUNTERED INTERNAL ERROR

説明: VTAPE コマンドの UNIT キーワードで指定された cuu の処理試行中に、仮想テープ・シミュレーターで内部エラーが発生しました。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: CANCEL を入力してジョブを取り消す。プログラマーに問題を報告してください。
プログラマーの応答: 問題を IBM サポートに報告してください。

1YN2t TAPE DATA HANDLER PARTITION CANCELLED OR ENDED ABNORMALLY

説明: VTAPE コマンドの処理中、ジョブ制御は、仮想テープ・データ・ハンドラー区画と通信する必要があります。仮想テープ・データ・ハンドラー区画が次のいずれかの理由で使用できなかったため、この通信に失敗しました。

- オペレーターが仮想テープ・データ・ハンドラー区画 (POWER ジョブ TAPESVR を実行する区画) を取り消した。
- 仮想テープ・データ・ハンドラー区画によって実行されたプログラム \$VTMAIN が異常終了した。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - VTAPE START の場合: ジョブを取り消してください。VTAPE STOP の場合: END/ENTER を押す。これにより、システムはこのコマンドを無視して処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

1YN3t SYSTEM LABELS IN UPDATE MODE, CANNOT START TAPE DATA HANDLER

説明: システム標準ラベル・グループが更新モードにあるため、VTAPE START 処理は、仮想テープ・データ・ハンドラー区画を開始するための POWER ジョブ TAPESVR の解放を拒否します。この更新モードは、BG 区画でアクティブになっている OPTION STDLABEL(=ADD) によって生じたものです。

ジョブ TAPESVR には LIBDEF ステートメントがあり、ここでは PRD1 および PRD2 のシステム標準情報が必要です。BG がシステム標準ラベルを更新しているかぎり、この LIBDEF ステートメントは完了しません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - BG がシステム標準ラベル情報の更新を完了するまで待つから、失敗した VTAPE START コマンドを出し直してください。失敗した VTAPE START が BG 区画によって出されたものである場合、以下を入力します。

```
// OPTION USRLABEL
```

さらに、失敗した VTAPE START を出し直してください。
プログラマーの応答: なし。

1YN4t CONCURRENT [READ/WRITE] ACCESS TO VIRTUAL TAPE FILE IS DENIED

説明: VTAPE START コマンドが、すでにオープンしている仮想テープ・ファイルに対してアクセスを要求しました。

LOC=TAPE の場合:

スタック・テープ (STACKTAPE=cuu によって識別される) に対するすべてのアクセス (読み取りと書き込みの両方) は厳格に逐次化されます。つまり、同じスタック・テープ cuu に対する 2 回目のアクセスはすべて拒否されます。

TAPE 以外の LOC の場合:

並行する READ/WRITE アクセスはファイルの破損を引き起こす場合があるため、拒否されます。仮想テープ・データ保真性を確実にするため、複数 READ または単一 WRITE のみ許可されています。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかの操作を行ってください。
 - ジョブを取り消します。
 - 問題になっている仮想テープ・ファイルを操作している、その他のジョブが完了するまで待ちます。その後、VTAPE START コマンドを出し直してください。

プログラマーの応答: なし。

1YN5t TAPE cuu IS ASSIGNED

説明: cuu が割り当てられているため、テープ装置 cuu への VTAPE コマンドは拒否されます。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - LISTIO cuu コマンドを出してテープ装置 cuu の所有者を見つけ、このテープ装置を割り当て解除してから、VTAPE コマンドを出し直してください。

プログラマーの応答: なし。

1YN6t NOT ENOUGH PFIxed GETVIS STORAGE TO ESTABLISH VIRTUAL TAPE

説明: 必要なバッファを割り振るために十分なストレージがないため、VTAPE START コマンドは拒否されます。仮想テープ cuu ごとに、VTAPE サポートは約 1 MB の PFIxed システム GETVIS 記憶域 (16 MB 境界の上または下に割り振ることができる) を必要とします。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - ジョブを取り消します。このメッセージとともに、MAP SVA および GETVIS SVA コマンドの出力をシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: MAP SVA および GETVIS SVA の出力を調べ、PFIXed またはシステム GETVIS ストレージが不足していないかどうか確認してください。GETVIS が不足している場合、IPL SVA コマンドの GETVIS オペランドを大きくすることができます。

実際の PFIxed ストレージ使用量が制限に近づいている場合、VM で作業しているのであれば、STORAGE ディレクトリー制御ステートメントで定義されている VSE ユーザーの仮想記憶サイズを大きくしてください。VSE ネイティブを実行しているのであれば、プロセッサの実記憶を大きくするか、仮想テープに対して並行して稼働しているアプリケーションの PFIxed ストレージ使用量を分析/調整してください。MAP SVA、MAP REAL、および GETVIS SVA,ALL の出力を調べてください。

1YN7t INVALID LOC VALUE

説明: 以下のいずれかの理由で無効であった LOC 値が前のコマンドで指定されました。

- ブランク、コンマ、コロンの等号などの無効文字が含まれていた。
- 無効な IPv4/IPv6 アドレスが含まれていた。
- TCP/IP 区画によって解決できなかった。つまり、ホスト名がローカルに定義されたものでも、TCP/IP 区画で使用できるドメイン・サーバーによって認識されるものでもなかった。
- テープ・データ・ハンドラー区画の始動ジョブが完了していないか、または正しくない。ライブラリー 59 のスケルトン SKVTASTJ を参照してください。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答:

- LOC キーワードに有効な値を指定してください。
- LIBDEF 検索チェーン内の適切なライブラリーがテープ・データ・ハンドラー区画の始動ジョブによって指定されるかどうかを確認してください。

1YN8t NO OR INVALID LABEL INFORMATION FOR filename

説明: 以前に発行された VTAPE START コマンドのラベル情報は、次のように分類する必要があります。

- VTAPE FILE オペランドに指定されたファイル名にラベル情報がない。
- filename に検出されたラベル情報が、非 VSAM ファイルに適用されている。
- テープ・イメージ・ファイルに関連付けられた VSAM カタログにラベル情報がない。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: VSAM テープ・イメージ・ファイルと、そのファイルが入っているカタログに (DLBL ステートメントを使用して) ラベル情報を指定してください。

1YN9t TAPE DATA HANDLER ENCOUNTERED ERROR, RC=rc, RS=rs

説明: 仮想テープ・データ・ハンドラーがデータと仮想テープを交換しようと試みましたが、以下のいずれかの理由で失敗しました。

RC=200,RS=403: VTAPE STOP が処理されているとき、リモート仮想テープ・サーバーでの VTAPE 出口が、afterClose 処理中にエラーを返しました。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: RC=200, RS=403: リモート仮想テープ・サーバー側のメッセージを確認してください。

1YO1I NO SYSTEM|PWRJOB PARAMETERS DEFINED

説明: QUERY SETPARM コマンドが出されましたが、指定されたパラメーター・プールが空です。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1YO2I NO SCSI DEVICES DEFINED

説明: QUERY SCSI コマンドが出されましたが、システムに定義されている SCSI 接続装置がありません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: QUERY SCSI コマンドを発行する前に、SYSDEF SCSI コマンドを使用して SCSI 接続装置を定義してください。

プログラマーの応答: なし。

1YO3I FBA= cuu IS {NOT A SCSI DEVICE|ALREADY A SCSI DEVICE, MULTIPATH ESTABLISHED}

説明: 以下のいずれかです。

- QUERY SCSI,cuu コマンドが出されましたが、示された cuu が SCSI 接続装置ではありません。
- SYSDEF SCSI,FBA=cuu,...,LUN=lun が出されましたが、示された cuu はすでに同じ lun の SCSI 接続装置です。

システムの処置: QUERY コマンドの場合、システムの処置は発生しません。SYSDEF コマンドの場合は、複数の接続が確立されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1Y04I FCP=cuu NOT OPERATIONAL

説明: SYSDEF SCSI コマンドが出されましたが、FCP キーワードに指定された *cuu* は作動していません。

システムの処置: 必要な制御ブロックはすべて割り当てられ、SCSI 接続は FCP サブチャネルが作動するようになるとすぐに使用可能になります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1Y05t NOT ENOUGH STORAGE FOR ALLOCATING CONTROL BLOCKS

説明: SYSDEF SCSI コマンドが出されましたが、必要な制御ブロックを割り当てるために使用できる、PFIX されたシステム GETVIS ストレージが十分にありません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - ジョブを取り消します。このメッセージとともに、MAP SVA および GETVIS SVA コマンドの出力をシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: MAP SVA および GETVIS SVA の出力を調べ、PFIXed またはシステム GETVIS ストレージが不足していないかどうか確認してください。GETVIS が不足している場合、IPL SVA コマンドの GETVIS オペランドを大きくすることができます。

実際の PFIXed ストレージ使用量が制限に近づいている場合、VM で作業しているのであれば、STORAGE ディレクトリー制御ステートメントで定義されている VSE ユーザーの仮想記憶サイズを大きくしてください。VSE ネイティブを実行しているのであれば、プロセッサの実記憶を大きくするか、SCSI サポートに対して並行して稼働しているアプリケーションの PFIXed ストレージ使用量を分析/調整してください。MAP SVA、MAP REAL、および GETVIS SVA,ALL の出力を調べてください。

1Y06t I/O ERROR ON FCP=cuu

説明: SYSDEF SCSI コマンドが出されましたが、接続を確立するために必要な入出力コマンドの 1 つが失敗したか、タイムアウトになりました。エラー・リカバリー・アクションが開始されました。前のメッセージ 0S40I で示された理由コードを調べてください。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -

- メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、コマンドは無視されます。

- メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。

- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - ジョブを取り消します。このメッセージを前の 0S40I メッセージと一緒に、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

1Y07t CONFIGURATION ERROR

説明: SYSDEF SCSI コマンドが出されましたが、指定された FCP と組み合わせて指定された WWPN が無効でした。前のメッセージ 0S40I で示された理由コードを調べてください。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - ジョブを取り消します。このメッセージを前の 0S40I メッセージと一緒に、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

1Y08t SPECIFIED PARAMETERS INCONSISTENT

説明: SYSDEF SCSI コマンドが出されましたが、指定された FBA と LUN の組み合わせが矛盾しているか、既存の SCSI 定義と競合しています。以下の競合が考えられます。

- 指定された FBA がすでに存在していて別の LUN に接続されている。
- 指定された LUN がすでに存在していて別の FBA に接続されている。
- 指定された LUN がすでに存在していて、同じ FCP を介して同じ FBA に接続されている。

QUERY SCSI コマンドを発行して、既存の SCSI 定義があるかどうかを確認してください。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。

- タイプ・コード D の場合 - ジョブを取り消します。このメッセージを QUERY SCSI の出力と一緒に、システム・プログラマーに連絡してください。
- プログラマーの応答: なし。

**1Y09t FBA=cuu IS A (REAL FBA
DEVICE|VIRTUAL DISK DEVICE)**

- 説明: SYSDEF SCSI コマンドが発行されましたが、指定された *cuu* は以下のいずれかです。
- 実際の FBA 装置 (例えば、CP DEFINE VFB-512 を介して定義された VM ストレージ内の仮想ディスク) としてすでにアクティブになっている。
 - 仮想ディスク装置 (例えば、ADD コマンドを使用して装置タイプ・コード FBAV で追加されたもの)。

詳しくは、VOLUME *cuu* の出力を参照してください。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 -
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - ジョブを取り消します。このメッセージを VOLUME コマンドの出力と一緒に、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**1Y1I1 FBA=cuu IS NOT OFFLINE OR I/O
REQUESTS ARE STILL ONGOING**

説明: SYSDEF SCSI,DELETE コマンドが出されましたが、示された *cuu* がまだ ONLINE であるか、まだキューに入っている入出力要求があります。

システムの処置: DELETE 要求は無視されます。

オペレーターの応答: VOLUME *cuu* コマンドを使用して、装置状況を調べてください。妥当な場合は OFFLINE *cuu* を発行して、SYSDEF SCSI,DELETE コマンドを再実行依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

**1Y2I1 FBA=cuu NO SCSI DEVICE FOUND WITH
A MATCHING DEFINITION**

説明: SYSDEF SCSI,DELETE コマンドが出されましたが、指定されたオペランド (FCP、WWPN、または LUN) が既存のパス定義と一致しません。

システムの処置: DELETE 要求は無視されます。

オペレーターの応答: QUERY SCSI,*cuu* コマンドを使用して、パス定義を調べてください。該当する場合は、SYSDEF SCSI,DELETE コマンドを訂正して再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

1Y3I1 NO VTAPE INFORMATION

説明: VTAPE QUERY コマンドが UNIT オペランドなしで出されました。現在、テープの *cuu* に関連付けられているテープ・イメージ・ファイルで、オープンしているものはありません。

システムの処置: 次の JCL ステートメントまたはコマンドが処理されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1Y4I1 INCONSISTENT VTAPE INFORMATION
FOR CUU *cuu***

説明: VTAPE QUERY コマンドが装置 *cuu* に対して出され、指定された *cuu* は、仮想テープ (VOLUME *cuu* で表示される装置タイプが VTAP-00) として登録されていますが、仮想テープ・データ・ハンドラー区画がアクティブになっていないか、*cuu* に対する VTAPE 関連情報がありません。仮想テープ・データ・ハンドラー区画が取り消されたか、異常終了したのものと思われます。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: VTAPE STOP コマンドを発行して、*cuu* をリセットしてください。

プログラマーの応答: なし。

**1Y5D1 VTAPE NOT ALLOWED DURING
INITIAL INSTALLATION**

説明: インストール・ディスクからの初期インストール時点では、仮想テープの設定に必要なシステム・リソースはまだ使用可能になっていません。このため、VTAPE START|QUERY 要求は拒否されます。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: CANCEL を入力してジョブを取り消す。

プログラマーの応答: 失敗したジョブから VTAPE コマンドを除去してください。

**1YQ1t NOT ENOUGH PFIXED GETVIS
STORAGE TO PROCESS xxxxxxxx
STATEMENT**

説明: 必要なバッファを割り振るために十分なストレージがないため、JCL コマンドまたはステートメントが拒否されました。例えば、KEKL を指定する場合、PFIX された約 512 バイトのシステム GETVIS ストレージが必要となります。これは、16 MB 境界より下の値で割り振られます。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - ジョブを取り消します。このメッセージとともに、MAP SVA および GETVIS SVA コマンドの出力をシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: MAP SVA および GETVIS SVA の出力を調べ、PFIXed またはシステム GETVIS ストレージが不足していないかどうか確認してください。GETVIS が不足している場合、IPL SVA コマンドの GETVIS オペランドを大きくすることができます。実際の PFIXed ストレージ使用量が制限に近づいている場合、VM で作業しているのであれば、STORAGE ディレクトリ制御ステートメントで定義されている z/VSE ユーザーの仮想記憶サイズを大きくしてください。z/VSE ネイティブを実行しているのであれば、プロセッサの実記憶を大きくするか、仮想テープに対して並行して稼働しているアプリケーションの PFIXed ストレージ使用量を分析/調整してください。MAP SVA、MAP REAL、および GETVIS SVA,ALL の出力を調べてください。

1YQ2t DEVICE cuu/SYSnmn NOT ENCRYPTION CAPABLE

説明: 暗号化に対応していない装置が指定されました。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 暗号化に対応している装置の cuu/SYSnmn を設定して、ステートメント/コマンドを再サブミットする。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 必要に応じて、フラグが付いた JCL ステートメントを訂正してください。

1YQ3t NO KEY ENCRYPTION KEY LABEL PREVIOUSLY ESTABLISHED

説明: KEKL ステートメントでオペランド CLEAR が指定されましたが、これまでに設定された鍵ラベルがありません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1YQ4t VALUE FOR KEYWORD xxxxxxxx TOO LONG

説明: キーワードの値 xxxxxxxx が、許容値より長くなっています。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
- END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 必要に応じて、不正な JCL ステートメント/コマンドを訂正してください。

1YQ5t CONFLICTING KEYWORDS xxxxxxxx AND yyyyyyyy

説明: キーワード xxxxxxxx および yyyyyyyy はステートメント/コマンドで同時には使用できません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 必要に応じて、不正な JCL ステートメント/コマンドを訂正してください。

1YQ6t DEVICE cuu/SYSnmn NOT ASSIGNED

説明: 割り当てられていない装置が指定されました。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。

- cuu/SYSnmn に ASSGN ステートメントを発行してからステートメント/コマンドを再サブミットする。
- 割り当てられている装置に cuu/SYSnmn を設定して、ステートメント/コマンドを再サブミットする。
- END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 必要に応じて、フラグが付いた JCL ステートメントを訂正してください。

**1YQ7t ENCRYPTION MODE NOT SET FOR
DEVICE cuu|SYSnmn**

説明: 暗号化モードが設定されていない装置 *cuu/SYSnmn* に対して、KEKL ステートメントが使用されました。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 暗号モードが設定されている装置の *cuu/SYSnmn* を設定してステートメント/ コマンドを再サブミットするか、暗号モードを設定してからステートメント/ コマンドを再サブミットする。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 必要に応じて、フラグが付いた JCL ステートメントを訂正してください。

1YR1D NTASKS ALREADY DEFINED

説明: SYSDEF SYSTEM,NTASKS=nnn,... はすでに発行されています。

システムの処置: SYSDEF コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: END/ENTER キーを押す。これにより、システムはステートメントを無視して処理を続行します。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL コマンドまたはステートメントの場合、ジョブまたはプロシージャを訂正して、以後このメッセージが出されないようにしてください。

**1YR3I SYSDEF SYSTEM,TASKS=... IGNORED,
NEW TASKS SUPPORT NOT ACTIVE**

説明: SYSDEF SYSTEM,TASKS=nnn,... が発行されましたが、新規タスク・サポートを活動化するための SYSDEF SYSTEM,NTASKS=... が、その前に指定されていませんでした。

システムの処置: SYSDEF コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージの原因が JCL コマンドまたはステートメントであれば、このメッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL コマンドまたはステートメントの場合、ジョブまたはプロシージャを訂正して、以後このメッセージが出されないようにしてください。

**1YR5I SYSDEF TD,START, STOP or STOPQ=...
NOT ALLOWED WHEN CPU
BALANCING {STOP|STOPQ} ACTIVE**

説明: CPU バランシングが活動化されているときに、CPU を静止 (STOPQ) することはできません。CPU 平衡化モード

STOP がアクティブであれば、CPU を開始、停止、または静止することはできません。

システムの処置: SYSDEF コマンドは無視されます。処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**1YR6t SYSDEF TD,INT... NOT ALLOWED WHEN
A CPU IS QUIESCED**

説明: CPU が静止しているとき、CPU 平衡化をアクティブにすることはできません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合 - なし。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合
 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前のコマンドまたはステートメントを無視します。
 - 静止されている CPU を停止または開始してから、コマンドまたはステートメントを再入力して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合、コマンドまたはステートメントを訂正してジョブを再実行してください。

**1YR7t REKEY FUNCTION NOT SUPPORTED BY
TAPE [cuu|SYSnmn]**

説明: *cuu* または *SYSnmn* を使用して REKEY オペランドがテープ装置に対して指定されましたが、この装置は REKEY 機能をサポートしていません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合 - なし。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合
 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合、訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットする。
- END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL ステートメントまたはコマンドの場合は、今後この問題が発生しないように、ジョブまたはプロシーチャーを訂正してください。

1YR8t TAPE [cuu|SYSnm] IS NOT ENCRYPTED, REKEYING NOT POSSIBLE

説明: *cuu* または *SYSnm* を使用して REKEY オペランドが磁気テープ装置に対して指定されましたが、この装置は暗号化されていません。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合 - なし。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合
 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットするか、新しいテープを取り付けます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。
- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。
 - 訂正したステートメントまたはコマンドを再サブミットするか、新しいテープを取り付けます。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL ステートメントまたはコマンドの場合は、今後この問題が発生しないように、ジョブまたはプロシーチャーを訂正してください。

1YR9t REKEYING UNSUCCESSFUL FOR TAPE [cuu|SYSnm], explanatory text

説明: KEKL コマンドまたはステートメントで、*cuu* または *SYSnm* を使用して REKEY オペランドが磁気テープ装置に対して指定されましたが、失敗しました。この理由は *explanatory text* によって示されます。

1. KEKL UNKNOWN TO EKM

KEKL コマンド/ステートメントに指定された鍵ラベルは、Key Manager (EKM) に認識されていません。

2. TAPE IS WRITE PROTECTED

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合

- メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合 - なし。
- メッセージがジョブ制御から出された場合 - ジョブは取り消されます。

- タイプ・コード D の場合

- システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合

- メッセージがアテンション・ルーチンから発行された場合は、修正したステートメント/コマンドを再実行依頼する。または、

1. この鍵ラベルを Key Manager に定義する。または
2. テープから書き込み保護を除去する。

- メッセージがジョブ制御から出された場合 - 応答は不要です。

- タイプ・コード D の場合、以下のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントまたはコマンドを再実行依頼する。または

1. この鍵ラベルを Key Manager に定義する。または
2. テープから書き込み保護を除去する。

- END/ENTER を押す。これにより、システムはステートメント/コマンドを無視して処理を続行します。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージの原因が JCL ステートメントまたはコマンドの場合は、今後この問題が発生しないように、ジョブまたはプロシーチャーを訂正してください。

1YS1I PARALLEL ACCESS VOLUME (PAV) {ALREADY} [ACTIVATED | QUIESCED | QUIESCING]

説明: SYSDEF SYSTEM コマンドが、PAV を活動化する PAV=START を指定するか、PAV を静止する PAV=STOP を指定して出されました。ALREADY は、START を使用したときに PAV が既に活動化されているか、STOP を使用したときに PAV が既に静止されている場合に含められます。STOP が使用されていて、PAV がまだ未解決の入出力要求を処理している場合に QUIESCING が表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1YS2t SYSDEF NOT PROCESSED: explanatory text

説明: SYSDEF SYSTEM コマンドが、PAV を活動化または静止する PAV オペランドを指定して出されましたが失敗しました。explanatory text (説明テキスト) に、失敗の原因が示されます。

1. \$IJBPAV.PHASE NOT IN SVA
2. GETVIS-24 NOT AVAILABLE
3. GETVIS-31 NOT AVAILABLE
4. 1024 DEVICES ADDED, NONE AVAILABLE FOR PAV
5. \$IJBPAV BUSY
6. PROBLEMS DURING SUBCHANNEL PROCESSING

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合 - なし。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合 - ジョブは取り消されます。
- タイプ・コード D の場合
 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 説明テキストに従って対処してください。

- 1 の場合、\$IJBPAV を SVA にロードします。必要な場合は、フェーズ \$IJBPAV を IJSYSRS.SYSLIB 内にカタログします。
- 2 および 3 の場合は、GETVIS 領域用のストレージを 24 ビットまたは 32 ビット・アドレス領域用に増やします。
- 4 の場合は、1 つ以上の装置の ADD ステートメントを除去してからシステムの再 IPL を実行します。
- 5 および 6 の場合は、SYSDEF ステートメントまたはコマンドを繰り返します。問題が引き続き発生する場合は、IBM 担当員に連絡してください。

必要であれば、システム・プログラマーに連絡してください。
プログラマーの応答: なし。

1YS3t NO DEVICES DEFINED FOR {VSE | PHYSICAL} ADDRESS: device address

説明: コマンド QUERY IO, CUU=cuu が出されましたが、指定されたアドレスに一致する装置が見つかりませんでした。

システムの処置:

- タイプ・コード I の場合
 - メッセージがアテンション・ルーチンから出された場合は、コマンドは無視されます。
 - メッセージがジョブ制御から出された場合は、ジョブが取り消されます。
 - タイプ・コード D の場合
 - システムはオペレーターの応答を待ちます。
- オペレーターの応答:
- タイプ・コード I の場合 - なし。
 - タイプ・コード D の場合 - 次のいずれかです。
 - END/ENTER を押す。これにより、システムは前のステートメントを無視します。
 - ステートメントを訂正し、END/ENTER を押して処理を続行する。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、ステートメントを訂正するか除去して、ジョブを再実行してください。

1YS4I HIGH PERFORMANCE FICON (ZHPF) {ACTIVATED | ALREADY ACTIVATED | COUNTERS RESET | NOT ACTIVATED | QUIESCED | ALREADY QUIESCED}

説明: 「ACTIVATED」または「ALREADY ACTIVATED」の場合、z/VSE は入出力装置のサポートに High Performance FICON (ZHPF) という機能を使用します。

「QUIESCED」、「ALREADY QUIESCED」、または「NOT

ACTIVATED」の場合、z/VSE は ZHPF 機能を使用しません。

「COUNTERS RESET」は、ZHPF 統計の内部カウンターがリセットされたことを意味します。

「COUNTERS RESET」は、ZHPF が以前に活動化されたことを示しています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

1YT0I JCL VTape PROCESSOR FAILURE - REASON CODE = xx

説明: 予期しない重大なエラーが JCL VTape 処理中に確認されました。詳細については、プレースホルダー xx に略述されている理由コードを検査してください。このメッセージは 2 次エラー条件を示している可能性があります。したがって、考えられる 1 次エラー条件または取り消しメッセージがないかどうか検査してください。

理由コード =xx は、次のいずれかです。

10, 11, 12

予期しない不整合、またはテープ・データ・ハンドラーから渡された間違ったパラメーター

20 QUERY_S: テープ・データ・ハンドラーからの予期しない RETURN CODE

30 QUERY_A: テープ・データ・ハンドラーからの予期しない RETURN CODE

40 テープ・データ・ハンドラーからの予期しない RETURN CODE

50 \$IJBTAPE からの予期しない RETURN CODE

システムの処置: システムにより、対応できない予期しないエラー状態と判断されました。

オペレーターの応答: IBM サポートにお問い合わせください。理由コード 10 から理由コード 40 については、テープ・データ・ハンドラーの SYSLST 出力も調べてください。

プログラマーの応答: IBM サポートにお問い合わせください。理由コード 10 から理由コード 40 については、テープ・データ・ハンドラーの SYSLST 出力も調べてください。

第 3 章 接頭部 2 の z/VSE メッセージ

21xx メッセージに関する一般的な説明

SYSLST 印刷装置上における、エラーのあるステートメントの形式

いくつかの 21xx メッセージが表示され、2 行目に、エラーのリンケージ・エディター入力ステートメントが現れます。これは、ステートメントのタイプに応じて、これらのステートメントがどのように形式設定されたかを示しています。

形式 1 - 次のようなタイプのリンケージ・エディター入力ステートメント:

```

END    RLD    TXT
ESD    SYM    REP
  
```

形式 2 - リンケージ・エディター制御ステートメント
(PHASE、MODE、INCLUDE、ENTRY、および ACTION):

SYSLST での形式設定:

	形式 1		形式 2	
	カード・イメージ	印刷位置	カード・イメージ	印刷位置
NON-ESD:	2-16	17-36 *	1-80	8-87
	17-52	38-117		
ESD:	17-64	38-111		
	73-80	8-15		

* 位置 20、27、および 32 (ステートメントの桁 5、9、10、13 および 14 に対応します) は、ブランクです。

注: リンケージ・エディターの入力がモジュールの場合は、次のようになります。

- ESD 入力は、最大 8 フィールドの情報を保持しています。最初の 3 フィールドだけが SYSLST に現れます。
- TXT 入力は、最大 34 フィールドの情報を保持しています。最初の 9 フィールドだけが SYSLST に現れます。このため、エラーのフィールドが SYSLST に現れないこともあります。

制御ステートメントの各フィールドおよび内容の詳細については、「z/VSE System Control Statements」(SC34-2679) を参照してください。

図 4. SYSLST 印刷装置上における、エラーのあるステートメントの形式

21xx= リンケージ・エディター・メッセージ

2100I INVALID INPUT CARD TYPE

エラーのあるステートメントの内容

説明: 入力ステートメントのタイプが無効です。文字位置 2 から 4 にある ID が、ESD、TXT、RLD、REP、または END ではありません。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていなければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。リンケージ・エディター入力ステートメントのタイプを SYSLST 上の出力と比較してください。無効な入力ステートメントを除去し、再コンパイル(再アセンブル)してください。無効な入力ステートメントが REP ステートメントの場合には、桁 2 から 4 の文字 REP を確認し、ジョブを再実行してください。

2101I INVALID OPERATION IN CONTROL STATEMENT
content of statement in error

説明: リンケージ・エディター制御ステートメントに指定された命令コードが、PHASE、INCLUDE、MODE、ENTRY、または ACTION ではありません。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていなければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要なリンケージ・エディター制御ステートメントを SYSLST の出力と比較してください。ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。考えられるエラーは次のとおりです。

- 命令コードのつづりの誤り。
- 命令コードが最初の桁で始まっている。
- 制御ステートメントの順番が間違っている。

2102I INVALID DECIMAL OR HEXADECIMAL FIELD

エラーのあるステートメントの内容

説明: 10 進数フィールドに 10 進数でない文字が、あるいは 16 進数フィールドに 16 進数でない文字があります。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていなければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要なリンケージ・エディター入力ステートメントを SYSLST の出力と比較してください。考えられるエラーは次のとおりです。

- REP ステートメントのアセンブル済みアドレス、ESD-ID 数、またはデータ・フィールドに、16 進数ではない文字があります。
- 16 進形式の使用時に、PHASE ステートメントの起点フィールドに 16 進数でない文字があります。
- 10 進形式の使用時に、PHASE ステートメントの起点フィールドに 10 進数でない文字があります。

エラーのあるステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

2110I INVALID OR MISSING DELIMITER エラーのあるステートメントの内容

説明: 制御ステートメントの区切り文字が、無効であるか欠落しています。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていなければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要なリンケージ・エディター制御ステートメントを SYSLST の出力と比較してください。考えられるエラーは次のとおりです。

- 途中でブランクがある。
- コンマが多すぎる、または欠落している。
- PHASE ステートメントで 16 進形式の使用時に、アポストロフィが欠落している。
- INCLUDE ステートメントに括弧が欠落している。

エラーのあるステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

2111I LENGTH OF AN OPERAND GREATER THAN EIGHT エラーのあるステートメントの内容

説明: 現在処理中の制御ステートメントで指定されたオペランドが、8 文字を超えています。

システムの処置: 無効なステートメントまたはステートメントの一部は無視されます。ACTION CANCEL が指定されていなければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要なリンケージ・エディター制御ステートメントを SYSLST の出力と比較してください。8 文字を超えるオペランドを訂正して、ジョブを再実行してください。

2112I OPERAND FIELD MISSING エラーのあるステートメントの内容

説明: メッセージの通りです。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていなければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要なリンケージ・エディター制御ステートメントを SYSLST の出力と比較してください。考えられるエラーは次のとおりです。

- 制御ステートメントで、必要なオペランドが誤って省略されていました。
- 制御ステートメントの最後のオペランドの後に、コンマが入っていました。

エラーのあるステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

2113I STATEMENT EXTENDS BEYOND LIMIT
 エラーのあるステートメントの内容

説明: 現在処理中のステートメントが 71 桁より長い、あるいは REP ステートメントの場合は、70 桁より長い (識別情報は除く)。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要な入力またはリンケージ・エディター制御ステートメントを SYSLST の出力と比較してください。エラーのあるステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

2114I SUBMODULAR NAMELIST TOO LONG
 エラーのあるステートメントの内容

説明: 現在処理中の INCLUDE ステートメントの制御セクションのリストに、5 つより多い名前が含まれています。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要なリンケージ・エディター制御ステートメントを SYSLST の出力と比較してください。エラーのあるステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

2116I CONTROL STATEMENT IN OBJECT
 MODULE エラーのあるステートメントの内容

説明: リンケージ・エディターは、モジュールの最初の ESD ステートメントと END ステートメントとの間に、制御ステートメントがあるのを見つけました。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のようなエラーがないかチェックしてください。

- 入力ジョブ・ストリームの、ステートメントの順番が間違っている
- オブジェクト・デックのセクションが欠落している (END ステートメントがない)

入力ジョブ・ストリームを訂正するか、プログラムを再コンパイル (再アセンブル) してください。あるいは必要な場合には、その両方を行ってください。ジョブを再実行してください。

2118I INVALID OPERAND IN MODE
 CONTROL STATEMENT エラーのあるステートメントの内容

説明: MODE 制御ステートメントに、無効なオペランドまたは区切り文字が見つかりました。

システムの処置: エラーのある MODE 制御ステートメントは、エラーのある点まで入力として受け入れられます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: MODE 制御ステートメントのエラーを訂正してください。

2119I INVALID PARAMETER IN PARM FIELD
 OF EXEC LNKEDT STATEMENT

説明: 無効なパラメーターが、EXEC LNKEDT ステートメントの PARM フィールドにあるのが見つかりました。

システムの処置: 処理が続行されますが、無効なパラメーターは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: EXEC LNKEDT ステートメントの PARM フィールド内の無効なパラメーターを訂正してください。

2120I DUPLICATE PHASE NAME エラーのあるステートメントの内容

説明: 少なくとも 2 つの PHASE ステートメントが、同一のフェーズ名を指定しています。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていないければ、NOAUTO オプションをアクティブにして処理が続行されます。

注: 複数フェーズ・プログラムのリンク・エディット中に、あるフェーズが「再配置不可」になると、後続のフェーズも「再配置不可」になります。次のいずれかが起きると、フェーズが「再配置不可」としてリンクされます。1) エラーが原因でメッセージ 2120I から 2125I までのいずれかが出された。2) 指定された (PHASE ステートメント内の) フェーズの起点が再配置不可である。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要な PHASE ステートメントを SYSLST の出力と比較してください。先行する PHASE ステートメントに同じ名前がないか、リンケージ・エディター・マップを検査し、必要に応じて後続のフェーズの名前を変更してください。

2121I PHASE NAME INVALID エラーのあるステートメントの内容

説明: 以下のいずれかです。

- フェーズ名に無効な文字が含まれています。(有効な文字は、A-Z、0-9、/、#、\$、および @ です。)
- フェーズ名が 'ALL'、'ROOT'、または 'S' です。

システムの処置: ACTION CANCEL が指定されていないれば、ジョブは取り消されます。指定されていないければ、無効なステートメントは無視され、処理が続行されます。エラーのあるス

テートメントが最初の PHASE ステートメントでない場合には、NOAUTO オプションを有効にして処理が続行されます。メッセージ 2120I の「システムの処置」の注も参照してください。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要な PHASE ステートメントを SYSLST の出力と比較してください。おそらく、拒否されたステートメントに指定したフェーズ名のつづりが誤っていると考えられます。エラーのあるステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

2122I **ORIGIN IN PHASE CARD NOT PREVIOUSLY DEFINED** エラーのあるステートメントの内容

説明: PHASE ステートメントの起点フィールドで指定された記号またはフェーズ名が定義されていません。

システムの処置: ACTION CANCEL が指定されていれば、ジョブは取り消されます。指定されていなければ、無効なステートメントは無視され、処理が続行されます。エラーのあるステートメントが最初の PHASE ステートメントでない場合には、NOAUTO オプションを有効にして処理が続行されます。メッセージ 2120I の「システムの処置」の注も参照してください。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要な PHASE ステートメントを SYSLST の出力と比較してください。おそらく、フェーズ起点指定でのキー入力エラーが原因だと考えられます。フェーズ起点が定義されていない場合には、ジョブ・ストリーム中のステートメントの配列順序が違ってないか調べてください (フェーズ起点は、システムが PHASE ステートメントを読み取る前に定義されていなければなりません)。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

2123I **PREVIOUS PHASE *phasename* WITHOUT VALID OBJECT CODE**

説明: 先に処理された、メッセージ中に示されたフェーズが、無効なオブジェクト・コードを含んでいるか、またはオブジェクト・コードを含んでいません。考えられる原因は次のとおりです。

- PHASE ステートメントが、関連する INCLUDE ステートメントの後にある。
- PHASE ステートメントが、関連するオブジェクト・デッキの後にある。
- オブジェクト・デッキが欠落しているか、不完全である。
- INCLUDE ステートメントがない。

TXT ステートメントが、すでに根フェーズに含まれている制御セクションに属していて、したがって他のフェーズには同じものがない場合は、欠落しているとみなされることがあります。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。ACTION CANCEL が指定されていなければ、NOAUTO オプションを有効にして処理が続行されます。メッセージ 2120I の「システムの処置」の注も参照してください。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要な PHASE 制御ステートメントを SYSLST の出力と比較してください。ジョブ・ストリームを訂正し、ジョブを再実行してください。

2124I **PHASE ORIGIN NEGATIVE** エラーのあるステートメントの内容

説明: PHASE ステートメントの起点フィールドに負の値を指定しています。原因としては、次に示すものが考えられます。

- 記号起点指定の値が小さすぎます。
- 指定された負の再配置因数が大きすぎるので、フェーズ起点がゼロより小さくなります。

システムの処置: ACTION CANCEL が指定されていれば、ジョブは取り消されます。指定されていなければ、無効なステートメントは無視され、処理が続行されます。エラーのあるステートメントが最初の PHASE ステートメントでない場合には、NOAUTO オプションを有効にして処理が続行されます。メッセージ 2120I の「システムの処置」の注も参照してください。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要な PHASE 制御ステートメントを SYSLST の出力と比較してください。

PHASE ステートメントの起点 (第 2) オペランドを訂正するか、あるいは記号起点のアドレスを変更してください。ジョブを再実行してください。

2125I **PHASE STATEMENT IN AUTOLINKED MODULE** エラーのあるステートメントの内容

説明: リンケージ・エディターが、自動リンク再配置可能モジュールにある PHASE ステートメントを見つけました。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。ACTION CANCEL が指定されていなければ、NOAUTO オプションを有効にして処理が続行されます。メッセージ 2120I の「システムの処置」の注も参照してください。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: PHASE ステートメントを除去して、モジュールを再カタログしてください。ジョブを再実行してください。

2132I **MORE THAN 5 LEVELS OF NESTED INCLUDES** エラーのあるステートメントの内容

説明: INCLUDE を 5 レベルより多くネストしようとした。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。ACTION CANCEL が指定されていなければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ネストされた INCLUDE が 5 レベル以下になるようにプログラムを再編成して、ジョブを再実行してください。

2133I NESTED SUBMODULAR INCLUDE エラーのあるステートメントの内容

説明: INCLUDE ステートメントを処理している時、リンケージ・エディターが、名前リスト・オペランドを持つ別の INCLUDE ステートメントを見つけました。リンケージ・エディターは、名前リスト・オペランドを含む、ネストされた INCLUDE を取り扱うことができません。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブ・ストリームを再編成し、名前リストを指定しているすべてのネストされた INCLUDE を排除してください。

2135I INVALID OPERAND IN ACTION STATEMENT エラーのあるステートメントの内容

説明: 処理中の ACTION ステートメントに無効なオペランドがあります。

システムの処置: ステートメントの無効なパラメーターは無視されます。ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要な ACTION ステートメントを SYSLST の出力と比較してください。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

2136I ACTION MAP INVALID IF SYSLST IS UNASSIGNED エラーのあるステートメントの内容

説明: ACTION MAP が指定されましたが、SYSLST が割り当てられていません。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。処理が続行される場合、オプション NOMAP が有効です。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SYSLST が割り当てられていることを確認した後、ジョブを再実行してください。SYSLST を割り当てることができない場合には、CANCEL オペランドを含んでいない ACTION ステートメントを用いてジョブを再実行してください。これにより、エラーを診断するために、ジョブを完了させます。

2139I DUPLICATE SECTION DEFINITION:
csectname **** SECTION IGNORED ****

説明: リンケージ・エディターが、現在処理中のフェーズに制御セクションが重複して指定されているを見つけました。このメッセージは警告として出されています。これは、必ずしもエラー状態であるとは限りません。

システムの処置: システムは重複したセクション定義を無視します。処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 重複した制御セクションをフェーズに含めてはならない場合には、ソース・コードの必要な訂正を行った上で、ジョブを再サブミットして、アセンブルおよびリンク・エディットを行ってください。

2140I INVALID ESD TYPE エラーのあるステートメントの内容

説明: 次のいずれかを行ってください。

- ESD タイプが以下のいずれでもありません。

X'00' = セクション定義

X'01' = ラベル定義

X'02' = 外部参照

X'04' = 専用コード

X'05' = 共通

X'06' = 疑似レジスター

X'0A' = 実行時外部参照

- 専用コード ESD ステートメントの名前フィールドがブランクではありません。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムを再コンパイルし、リンク・エディットした後、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

2141I DUPLICATE ESID NUMBER エラーのあるステートメントの内容

説明: リンケージ・エディターが、前に処理されたステートメントに含まれているものと同じ ESD-ID 番号を持つ ESD ステートメントを検出しました。おそらく、フェーズの最後のモジュールに END ステートメントがありません。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムを再コンパイルし、リンク・エディットした後、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

2143I DUPLICATE ENTRY POINT LABEL エラーのあるステートメントの内容

説明: 表示されたステートメントに指定された入り口点ラベルのうち、少なくとも 1 つが重複しています。INCLUDE ステートメントのセットの中で、EXEC LNKEDT ステートメントが欠落していると考えられます。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 入力を訂正して、重複した入り口点を取り除き、ジョブを再アセンブルしてリンク・エディットしてください。重複をすべて解消しなければ、このエラー・メッセージが再び出されます。

**2144I INVALID ESID NUMBER OR CONTROL
DICTIONARY OR LINKAGE TABLE
OVERFLOW** エラーのあるステートメントの
内容

説明: 十分なストレージが割り振られなかったために、ESD-ID の数が無効であるか、あるいは、ストレージが不足しているため、リンケージ・エディター制御域 (リンケージ・テーブルおよび制御辞書) が重複しています。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

CONTROL DICTIONARY OVERFLOW が起きた場合は、リンケージ・エディターはジョブを RC=16 で終了させます。上記以外のすべての場合は、ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 以下のいずれかを行ってください。

- より大きな区画でジョブを再実行する。
- リンク・エディットするフェーズの数を減らしてジョブを再実行する。
- EXEC ステートメントの SIZE オペランドにより大きな値を指定して、ジョブを再実行する。

必要ならば、MAP コマンド出力をオペレーターに準備してもらってください。

**2145I CSECT ORIGIN NOT ON DOUBLEWORD
BOUNDARY** エラーのあるステートメントの
内容

説明: 現在処理中の制御セクションの指定された起点は、ダブルワード境界上にありません。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: もとの指定を訂正し、プログラムを再コンパイル (再アセンブル) してください。

**2146I COMMON HAS SAME LABEL AS ENTRY
POINT** エラーのあるステートメントの内容

説明: 定義された COMMON 域のラベルが入り口点ラベルと同じです。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 影響を受けた COMMON 域または入り口点を名前変更し、プログラムを再コンパイル (再アセンブル) してリンク・エディットしてください。

**2147I ENTRY POINT LABEL NOT IN DEFINED
CSECT** エラーのあるステートメントの内容

説明: END ステートメントの入り口点ラベルが、定義された制御セクションに属していません。ESD ステートメントが欠落していると考えられます。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要なリンケージ・エディター入力ステートメントを SYSLST の出力と比較してください。プログラムを再コンパイル (再アセンブル) して、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

**2148I COMMON AREA areaname EXCEEDED
SIZE OF CONTROL SECTION WITH
IDENTICAL NAME**

説明: 指摘された COMMON 域が、同じ名前の制御セクションよりも大きいという事態が発生しました。

システムの処置: リンケージ・エディターは、指定された制御セクションの長さを使用します。ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 指摘された COMMON 域が、開始する制御セクションよりも大きくないことを確認してください。

**2149I THE DISPLACEMENT VALUE OF
PSEUDO REGISTER name IS TOO LARGE
FOR ITS Q-TYPE CONSTANT FIELD**

説明: 変位長または累積長の最大値は X'FFFFFFF'

(4,294,967,295 バイト) です。Q タイプの定数の長さが 3 または 2 バイトとして定義されている場合、最大の変位値はそれぞれ X'FFFFFFF' (16,777,215 バイト) または X'FFFFF' (65,535 バイト) となります。1 バイト長の Q タイプの定数は使用できません。

システムの処置: リンケージ・エディターは、Q タイプの定数フィールドをロードしません。ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: Q タイプの定数長が十分に長いことを確認するか、外部ダミー・セクションの数またはサイズ (あるいはその両方) を減らしてください。

**2150I ASSEMBLED ORIGIN LOWER THAN
START OF PHASE** エラーのあるステートメントの内容

説明: TXT または REP ステートメントのロード・アドレスがフェーズの起点より低くなっています。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: オブジェクト・コードを調べてください。必要ならばプログラムを訂正し、プログラムを再コンパイル (再アセンブル) してリンク・エディットしてください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

2151I INVALID DELIMITER エラーのあるステートメントの内容

説明: 現在処理中の REP ステートメントには、コンマまたはブラケット以外の区切り文字があります。考えられるエラーは、次のとおりです。

- データ・フィールド間のコンマが欠落している。
- データ・フィールド間の区切り文字として、コンマ以外の文字が使用されている。
- 最初のデータ・フィールドの前の区切り文字および最後のデータ・フィールドの後の区切り文字として、ブラケット以外の文字が使用されている。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要な REP ステートメントを SYSLST 上の出力と比較してください。必要な訂正を行って、ジョブを再実行してください。

2155I ESID NUMBER DOES NOT POINT TO CSECT エラーのあるステートメントの内容

説明: 現在処理中の ESD ステートメントの ESD-ID 番号は、定義された制御セクションに属していません。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要なリンケージ・エディター入力ステートメントを SYSLST 上の出力と比較してください。REP ステートメントにエラーがあれば、ESD-ID フィールドを訂正してください。他のステートメントにエラーがあれば、プログラムを再コンパイル (再アセンブル) してリンク・エディットしてください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

2156I INVALID FORMAT OF RLD CARD エラーのあるステートメントの内容

説明: メッセージの通りです。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要な RLD ステートメントを SYSLST 上の出力と比較してください。エラーを訂正してプログラムを再コンパイル (再アセンブル) し、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

2158I NO CSECT LENGTH SUPPLIED エラーのあるステートメントの内容

説明: END ステートメントが処理されていますが、関連する制御セクションの長さが指定されていません (例えば、終了カードより前にある最後の CSECT または唯一の CSECT の長さがゼロです)。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムをサブミットしてください。正しく実行されなければ、プログラムを再コンパイル (再アセンブル) してジョブを再実行してください。正しく実行された場合には、メッセージを無視してください。再コンパイルとリンク・エディットを行っても、この問題が修正されない場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

2160I SVA OPERAND IGNORED - PHASE NOT RELOCATABLE エラーのあるステートメントの内容

説明: 再配置可能ではないフェーズを指定した PHASE ステートメントで、SVA オペランドが指定されています。

システムの処置: リンケージ・エディターは、指定された SVA オペランドを無視します。ACTION CANCEL が指定されていないければ、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: このフェーズを SVA にロードしたい場合は、リンケージ・エディターが再配置可能フェーズを作成するようにするための必要な変更を行ってください。このフェーズが再配置不能である原因として考えられるものを次に示します。

- PHASE ステートメントで、起点として、絶対アドレスが指定されました。この指定を再配置可能アドレスに変更してください。
- PHASE ステートメントで、記号起点の指定として、再配置不可フェーズの入り口点の名前またはそのようなフェーズの CSECT の名前が使用されました。この指定を、再配置可能アドレスを表す名前置き換えてください。

2161I INVALID OPTION OPERAND IN PHASE STATEMENT エラーのあるステートメントの内容

説明: 現在処理中の PHASE ステートメントのオプションのオペランド (NOAUTO、SVA、および PBDY) の 1 つが無効です。考えられるエラーは、次のとおりです。

- オペランドのオプションのつづりが正しくありません。
- 2 つのオプションのオペランドの間のコンマが欠落しています。

システムの処置: 無効な PHASE ステートメントは無視されます。ACTION CANCEL が指定されていない場合は、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要な PHASE ステートメントを SYSLST の出力と比較してください。エラーのあるステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

2165I WARNING - RMODE=ANY ASSIGNED TO PHASE, BUT THE PHASE CONTAINS 2 AND/OR 3 BYTE RELOCATABLE ADDRESS CONSTANTS

説明: RMODE=ANY がフェーズに割り当てられていますが、フェーズは 2 バイトの再配置可能アドレス定数または 3 バイトの再配置可能アドレス定数 (あるいはその両方) を含んでいます。これは、フェーズが 16 MB 境界より上にロードされた場合、これらのアドレス定数には無効な値が含まれていることを意味します。これらのアドレス定数が処理中に使用されると、予測できない結果になる可能性があります。

システムの処置: ACTION CANCEL が指定されていない場合は、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 必要なら、以下のいずれかを行ってください。

- フェーズから 2 および 3 バイトの再配置アドレス定数を取り除く。
- フェーズに RMODE=24 を割り当てる。

2166I WARNING - AMODE=ANY/RMODE=24 ASSIGNED TO PHASE FROM ESD DATA, BUT AT LEAST ONE CSECT OF THE PHASE HAS AN AMODE=24

説明: AMODE=ANY/RMODE=24 の組み合わせが、フェーズの入り口点を含んでいる CSECT の ESD データからフェーズに割り当てられましたが、フェーズに含まれている少なくとも 1 つの CSECT の AMODE が 24 です。このため、プログラムの実行中に障害が起きる可能性があります。

システムの処置: ACTION CANCEL が指定されていない場合は、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 以下のいずれかを行ってください。

1. AMODE=ANY/RMODE=24 の指定が正しくない場合

- EXEC LNKEDT の PARM フィールドに、または ESD データからの MODE 指定をオーバーライドする MODE 制御ステートメントに、AMODE=24 を指定してください。

- ソース・プログラムを再コンパイル/再アセンブルして、入力点を含んでいる CSECT に対して AMODE=24 標識を持つオブジェクト・モジュールを入手してください。

2. このメッセージの抑止のみを行いたい場合

- EXEC LNKEDT ステートメントの PARM フィールドに MODE 情報を指定するか、または ESD データからの MODE 指定をオーバーライドする MODE ステートメントを用意してください。

- ソース・プログラムを再コンパイル/再アセンブルして、すべての CSECTS に対して AMODE=ANY 標識または AMODE=31 標識を持つオブジェクト・モジュールを入手してください。

2167I RMODE=ANY FROM ESD DATA IS NOT ACCEPTED FOR A NON-RELOCATABLE PHASE

説明: このリンク・エディット・ジョブ・ステップ内で検出された PHASE ステートメントでは、起点として絶対アドレスが指定されています。再配置不可フェーズの場合、フェーズ用の ESD データを通して指定された RMODE=ANY は受け入れられません。

システムの処置: (ACTION CANCEL が指定されていない場合は) 処理が続行されますが、フェーズには RMODE=24 が割り当てられます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかです。

- ソース・プログラムを再コンパイル/再アセンブルして、RMODE=ANY 標識を持たないオブジェクト・モジュールを入手する。
- PHASE ステートメントを変更する。

2168I RMODE=ANY IN MODE CONTROL STATEMENT IS NOT ACCEPTED FOR A NON-RELOCATABLE PHASE

説明: このリンク・エディット・ジョブ・ステップ内で検出された PHASE ステートメントでは、起点として絶対アドレスが指定されています。再配置不可フェーズの場合、フェーズ用の MODE 制御ステートメントで指定された RMODE=ANY は受け入れられません。

システムの処置: (ACTION CANCEL が指定されていない場合は) 処理が続行されますが、フェーズには RMODE=24 が割り当てられます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかです。

- MODE 制御ステートメントを除去するか、変更する。
 - PHASE ステートメントを変更する。
-

2169I RMODE=ANY IN PARM FIELD OF EXEC LNKEDT STATEMENT IS NOT ACCEPTED FOR A NON-RELOCATABLE PHASE

説明: このリンク・エディット・ジョブ・ステップ内で検出された PHASE ステートメントでは、起点として絶対アドレスが指定されています。再配置不可フェーズの場合、EXEC LNKEDT ステートメントの PARM フィールドに指定された RMODE=ANY は受け入れられません。

システムの処置: (ACTION CANCEL が指定されていなければ) 処理が実行されますが、フェーズには RMODE=24 が割り当てられます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかです。

- EXEC LNKEDT ステートメントの PARM フィールドの RMODE 指定を除去するか、変更する。
- PHASE ステートメントを変更する。

2170I ESID NUMBER NOT PREVIOUSLY PROCESSED エラーのあるステートメントの内容

説明: 現在処理中のステートメントの中の ESD-ID 番号は、前もって処理されていません。このエラーは、以前のエラーが原因で生じることがあります。考えられるエラーは、次のとおりです。

- REP ステートメント内の ESD-ID 番号が間違っている
- 入り口点ラベルの重複、無効な入力ステートメントなどのエラーが前にある。

システムの処置: 無効なステートメントは無視されます。

ACTION CANCEL が指定されていなければ、処理が実行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 335 ページの『21xx メッセージに関する一般的な説明』を参照してください。必要なリンクエディター入力ステートメントを SYSLST 上の出力と比較してください。REP ステートメントにエラーがある場合は、外部記号ディクショナリーから正しい ESD-ID 番号を判別し、REP ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。そうでない場合は、前のエラーに必要な訂正処置を行い、ジョブを再実行してください。

2171I DUPLICATE MODE CONTROL STATEMENT FOUND FOR CURRENT PHASE - IGNORED

説明: フェーズに対するリンク・エディットで複数の MODE 制御ステートメントが検出された場合は、そのフェーズの PHASE ステートメントの後にある最初の MODE 制御ステートメントだけが使用されます。

システムの処置: (ACTION CANCEL が指定されていなければ) 処理が実行されますが、この MODE 制御ステートメントは、リンクされたフェーズの AMODE/RMODE データのソースとして無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: フェーズに複数の MODE 制御ステートメントを入れてはならない場合には、不要な MODE 制御ステ

ートメントを除去し、リンク・エディットのためにジョブを再サブミットしてください。

2172I MODE CONTROL STATEMENT FOUND BEFORE FIRST VALID PHASE STATEMENT

説明: MODE 制御ステートメントはフェーズの PHASE ステートメントの後になければなりません。

システムの処置: (ACTION CANCEL が指定されていなければ) 処理が実行されますが、この MODE 制御ステートメントは、リンクされたフェーズの AMODE/RMODE データのソースとして無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかです。

- MODE 制御ステートメントをジョブから除去する。
- MODE 制御ステートメントをフェーズの PHASE ステートメントの後に置く。

2173I INVALID AMODE/RMODE COMBINATION FOUND IN PARAMETER LIST

説明: リンケージ・エディター呼び出しインターフェース用のパラメーター・リスト (制御ブロック INLCPARB) で、AMODE パラメーターと RMODE パラメーターの無効な組み合わせが検出されました。

システムの処置: (ACTION CANCEL が指定されていなければ) 処理が実行されますが、この呼び出しインターフェース・パラメーター・リスト (制御ブロック INLCPARB) は、リンクされたフェーズの AMODE/RMODE データのソースとして無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 呼び出しインターフェース・パラメーター・リスト INLCPARB 内の AMODE および RMODE の指定を訂正して、AMODE/RMODE の指定の組み合わせを有効なものにしてください。

2174I INVALID AMODE/RMODE COMBINATION FOUND IN ESD DATA FOR CSECT *csectname* エラーのあるステートメントの内容

説明: ESD データ中に AMODE=24 と RMODE=ANY の無効な組み合わせが見つかりました。

システムの処置: (ACTION CANCEL が指定されていなければ) 処理が実行されますが、制御セクションは AMODE が 24、RMODE が 24 として処理されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかです。

- ESD データを訂正して、有効な AMODE/RMODE の組み合わせを指定する。
- ソース・プログラムの AMODE/RMODE ステートメントを訂正して、ソース・プログラムを再コンパイル/再アセンブルし、間違った AMODE/RMODE 標識のないオブジェクト・モジュールを入手する。

**2175I INVALID AMODE/RMODE
COMBINATION FOUND IN PARM FIELD
OF EXEC LNKEDT STATEMENT**

説明: EXEC LNKEDT ステートメントの PARM フィールドに、AMODE パラメーターと RMODE パラメーターの無効な組み合わせが指定されています。

システムの処置: (ACTION CANCEL が指定されていなければ) 処理が実行されますが、この PARM フィールドは、リンクされたフェーズの AMODE/RMODE データのソースとして無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかです。

- PARM フィールドから AMODE および RMODE の指定を除去する。
- PARM フィールドを訂正し、AMODE/RMODE 指定の組み合わせを有効なものにする。

**2176I INVALID AMODE/RMODE
COMBINATION FOUND IN MODE
CONTROL STATEMENT エラーのあるステ
ートメントの内容**

説明: MODE 制御ステートメントに、AMODE パラメーターと RMODE パラメーターの無効な組み合わせが指定されています。

システムの処置: (ACTION CANCEL が指定されていなければ) 処理が実行されますが、この MODE 制御ステートメントは、リンクされたフェーズの AMODE/RMODE データのソースとして無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかです。

- MODE 制御ステートメントを除去する。
- MODE 制御ステートメントを訂正し、AMODE/RMODE の指定の組み合わせを有効なものにする。

**2177I RMODE=ANY FROM ESD DATA IS
INCOMPATIBLE WITH OVERLAY
PROGRAM STRUCTURE**

説明: このリンク・エディット・ジョブ・ステップ内で検出された PHASE ステートメントでは、起点として「記号」または 'ROOT' が指定されているか、または '*' が指定されています (しかし、それは最初のフェーズではありません)。ESD データからフェーズに割り当てられた RMODE=ANY は、この PHASE ステートメントの指定と矛盾します。

システムの処置: (ACTION CANCEL が指定されていなければ) 処理が実行されますが、このリンク・エディット・ジョブ・ステップのすべてのフェーズに RMODE 24 が割り当てられます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかです。

- ソース・プログラムを再コンパイル/再アセンブルして、RMODE=ANY 標識を持たないオブジェクト・モジュールを入手する。
- PHASE ステートメントを変更する。

**2178I RMODE=ANY IN MODE CONTROL
STATEMENT IS INCOMPATIBLE WITH
OVERLAY PROGRAM STRUCTURE**

説明: このリンク・エディット・ジョブ・ステップ内で検出された PHASE ステートメントでは、起点として「記号」または 'ROOT' が指定されているか、または '*' が指定されています (しかし、それは最初のフェーズではありません)。MODE 制御ステートメントで指定された RMODE=ANY は、この PHASE ステートメントの指定と矛盾します。

システムの処置: (ACTION CANCEL が指定されていなければ) 処理が実行されますが、MODE 制御ステートメントの RMODE 指定は無視され、このリンク・エディット・ジョブ・ステップのすべてのフェーズに RMODE 24 が割り当てられます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかです。

- MODE 制御ステートメントを除去するか、変更する。
- PHASE ステートメントを変更する。

**2179I RMODE=ANY IN PARM FIELD OF EXEC
LNKEDT STATEMENT IS
INCOMPATIBLE WITH OVERLAY
PROGRAM STRUCTURE**

説明: このリンク・エディット・ジョブ・ステップ内で検出された PHASE ステートメントでは、起点として「記号」または 'ROOT' が指定されているか、または '*' が指定されています (しかし、それは最初のフェーズではありません)。EXEC LNKEDT ステートメントの PARM フィールドで指定された RMODE=ANY は、この PHASE ステートメントの指定と矛盾します。

システムの処置: (ACTION CANCEL が指定されていなければ) 処理が実行されますが、EXEC LNKEDT ステートメントの PARM フィールドで指定された RMODE は無視され、このリンク・エディット・ジョブ・ステップのすべてのフェーズに RMODE 24 が割り当てられます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかです。

- EXEC LNKEDT ステートメントの PARM フィールドの RMODE 指定を除去するか、変更する。
- PHASE ステートメントを変更する。

2180I NO COMPILER OUTPUT ON SYSLNK

説明: EXEC ステートメントの GO オペランドによってリンク・エディターが暗黙に呼び出されましたが、SYSLNK ファイルにコンパイラ (またはアセンブラ) の出力がありません。考えられるエラーは、次のとおりです。

- 言語翻訳プログラムが LINK オプションなしで実行されました。
- EXEC ステートメントで指定されたプログラムが言語翻訳プログラムではありませんでした。

システムの処置: リンク・エディターはジョブを RC=16 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 言語翻訳プログラムの実行に LINK オプションを指定する。
- 言語翻訳プログラムを実行しない場合は、ジョブ・ストリームの EXEC ステートメントを訂正する。

問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

2181I LAST PHASE PROCESSED HAS NO VALID OBJECT CODE

説明: オブジェクト・モジュールの最終フェーズで、有効なストレージ割り当てが行われていません。考えられる理由は、次のとおりです。

- PHASE ステートメントの順序が正しくない。このステートメントは、関連する INCLUDE ステートメントまたはオブジェクト・デッキの、前ではなく後になければなりません。
- INCLUDE ステートメントが欠落しています。
- オブジェクト・デッキが完全に、または一部欠落しています。
- 1 つまたは複数の TXT ステートメントが欠落しています (TXT ステートメントが、すでに根フェーズに含まれている制御セクションに属しているため、他のフェーズでは同じ TXT ステートメントがないという理由から、TXT ステートメントが欠落しているとみなされることがあります)。
- コンパイル・ジョブが前のジョブ・ステップで失敗しました。
- SYSIPT が正確に指定されていません。
- 使用されるサブライブラリーの名前のつづりが、適用される LIBDEF ステートメントの SEARCH オペランドで誤っています。

システムの処置: リンケージ・エディターはジョブを RC=16 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: リンケージ・エディターへの入力进行检查し、上記のエラーがないか調べてください。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

2182I NO END CARD BEFORE ENTRY STATEMENT

説明: ENTRY ステートメントの前に END ステートメントがありません。考えられるエラーは、次のとおりです。

- オブジェクト・デッキの一部が欠落しています。
- ENTRY ステートメントの順番が間違っています。

システムの処置: リンケージ・エディターはジョブを RC=16 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ENTRY ステートメントの位置を訂正するか、あるいは該当するソース・コードを再コンパイル (再アセンブル) して、ジョブを再実行してください。

2183I ERROR LIMIT EXCEEDED

説明: エラーの合計数が、指定された限界を超えました。

システムの処置: リンケージ・エディターはジョブを RC=16 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: デフォルト限界は 256 です。ACTION ステートメントの ERRLMT オプションを使用すれば、1 から 9999 の間の任意の限界を設定できます。

2185I ERROR DURING LINK OF SYSTEM COMPONENT (DOLLAR PHASE)

説明: 名前が \$ で始まるフェーズをリンク・エディットしているときに、またはこのようなフェーズを含んでいるフェーズ構造をリンク・エディットしているときに、エラーが起こりました。

システムの処置: リンケージ・エディターはジョブを RC=16 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SYSLSST 上のエラー出力を調べてください。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。弊社提供のコードが含まれている場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

2186I TOO MANY PHASES, ONLY ONE IS ALLOWED IF OPTION LINK USED

説明: OPTION LINK が指定された 1 つのジョブで、2 つ以上のフェーズをリンクしようとしていました。

システムの処置: リンケージ・エディターはジョブを RC=16 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: OPTION CATAL を使用するか、リンクされるそれぞれのフェーズごとに別々のジョブを実行してください。

2187I PARTITION ALLOCATION TOO SMALL, NOT ALL CSECT NAMES CAN BE SORTED

説明: 区画に割り振られたスペースが小さすぎます。リンケージ・エディターは、現在処理中のフェーズの CSECT 名を分類するために必要なテーブルを作成することができません。

システムの処置: (ACTION CANCEL が指定されていなければ) 処理が継続されますが、1 つまたは複数の CSECT 名がリンク・マップから欠落します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: リンク・マップが必要な場合は、より大きな区画でジョブを再実行してください。

2188I TOO MANY RLD ITEMS, ONLY 65534 ITEMS ARE ALLOWED

説明: 65534 より多い RLD 項目を持つフェーズをリンクしようとしていました。

システムの処置: リンケージ・エディターはジョブを RC=16 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: リンケージ・エディターへの入力を検査し、エラーがないか調べるか、あるいはこのフェーズを 2 つまたはそれ以上に分割して、ジョブを再実行してください。

**2189I CURRENT PHASE TOO LARGE,
MAXIMUM PHASE SIZE IS: 16MB MINUS
PHASE ORIGIN**

説明: リンクされたフェーズの最大サイズは、16 MB から PHASE カードで指定された起点を引いた値です。例えば、起点として「S」が指定された場合や、起点として「*」が指定され、これが最初に処理された PHASE ステートメントである場合、この起点は、リンケージ・エディターが実行される区画の区画開始アドレスです。

システムの処置: リンケージ・エディターはジョブを RC=16 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかです。

- PHASE ステートメントの起点の指定を訂正する。
- 可能なら、より低位の区画開始アドレスを持つ区画でフェーズをリンクする。
- リンケージ・エディターへの入力を検査し、エラーがないかどうか調べる。

2190I PARTITION IS TOO SMALL

説明: リンケージ・エディターの処理に必要なストレージ・スペースが小さすぎます。考えられるエラーは、次のとおりです。

- EXEC ステートメントの SIZE に指定された値が小さすぎます。
- EXEC ステートメントで SIZE=AUTO が指定されています。
- REAL モードで実行している場合、固定できるページが少なすぎます。

システムの処置: リンケージ・エディターはジョブを RC=16 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 入力を訂正して、ジョブを再実行してください。必要なら、オペレーターに MAP コマンドの発行を依頼し、対応する出力を利用できるようにしてください。

2191I END OF FILE REACHED ON SYS001

説明: リンケージ・エディターは、SYS001 に割り当てられたディスク・エクステントに書き込もうとしましたが、そのエクステントの終わりに到達しました。

システムの処置: リンケージ・エディターはジョブを RC=16 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: より大きなエクステントを使用可能にして、ジョブを再実行してください。

2192I PHASE* INVALID FOR OPTION CATAL**

説明: OPTION CATAL が指定されましたが、PHASE ステートメントがありません。

システムの処置: リンケージ・エディターは、ダミーの PHASE ステートメント (フェーズの名前として PHASE*** を使用) を作成します。ジョブは RC=16 で終了します。フェーズ名 PHASE*** を持つプログラムはカタログが作成されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: PHASE ステートメントをオブジェクト・デックの先頭に挿入し、ジョブを再実行してください。

**2193I VIRTUAL IO AREA FULL FOR OPTION
LINK**

説明: システムの仮想入出力域が小さすぎるため、リンク処理中のフェーズを含めることができないか、または操作中にシステム GETVIS 域が使い果たされました。

システムの処置: リンケージ・エディターはジョブを RC=16 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかを行ってください。

- OPTION CATAL を指定してジョブを再実行する。
- より大きな仮想入出力域を定義した後でジョブを再実行する。

**2195I NO TARGET CATALOG SUBLIBRARY
SPECIFIED**

説明: OPTION CATAL の場合、リンケージ・エディターは、フェーズをカタログするために、LIBDEF ステートメント中の CATALOG=library.sublibrary 指定を必要とします。

システムの処置: リンケージ・エディターはジョブを RC=16 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: カタログするために必要なサブライブラリーを指定した LIBDEF ステートメントを用いて、ジョブを再実行してください。

**2197I READING PAST END OF FILE ON
SYSLNK**

説明: ソフトウェアのファイルの終わりの指示が検出されないのに、リンケージ・エディターが SYSLNK エクステントの終わりに達しました。

システムの処置: リンケージ・エディターはジョブを RC=16 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SYSLST 上の出力を調べてください。

SYSLNK が別のタスクによって同時に削除されたか、または上書きされたことがエラーの 1 つであることがあります。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

**2199I ERROR HAS OCCURRED DURING
 LINKAGE EDITING**

説明: このメッセージは、リンケージ・エディターがエラーを検出したことをオペレーターに知らせます。

システムの処置: システムは、以下のどちらかを、SYSLST に割り当てられた装置に書き込んだ後、処理を続行します。

- メッセージ 2100I から 2179I の 1 つ (ただし、メッセージ 2139I および 2171I は除く)
- 番号のないメッセージ: **** MODULE *modulename* NOT FOUND ****

該当するリンク・エディット実行は取り消された可能性があります。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: SYSLST 出力を検査し、上記の「システムの処置」で示された情報がないかどうか調べてください。

第 4 章 接頭部 3 の z/VSE メッセージ

3M15I EXECUTION CANNOT CONTINUE *xxxxx*
where *xxxxx* is one of the following:
**1. ACCESS TO SOURCE LIBRARY
FAILED**
2. INSUFFICIENT GETVIS SPACE
3. NO LINKAGE TO *phasename* POSSIBLE

説明:

1. 指定されたライブラリーへの初めてのアクセス中に、エラーが検出されました。
 2. 試行した操作は、十分な区画 GETVIS スペースがないために実行できません。
 3. 指定されたフェーズがシステム中にありませんでした。
- システムの処置: ジョブは取り消されます。

プログラマーの応答:

1. 必要なライブラリーの定義を訂正して、ジョブを再サブミットしてください。
2. SIZE コマンドをサブミットして、区画 GETVIS 域により多くのスペースを与えてください。
3. リンク・エディットを実行して、フェーズをシステムにカタログしてください。

3M17I INTERNAL LIBRARIAN ERROR *reason*
where *reason* is one of the following:
1. Blank
2. PROGRAM ERROR
3. INVALID DATA

説明: 現在実行中のライブラリアン機能が、プログラム状況のデータが正しくないために、実行できません。

システムの処置: システムはジョブを取り消して、ダンプを作成します。

オペレーターの応答: このメッセージと共に常に作成されるダンプを、問題判別のために保存しておいてください。既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

プログラマーの応答: このメッセージが発生したのが、圧縮やカタログのようなライブラリーの更新操作中であった場合は、ライブラリーはもはや使用不可となり、リストアが必要となります。このメッセージが発生したのが、ディレクトリー印刷出力やメンバー印刷出力のような読み取り操作中であった場合は、ライブラリーは影響を受けません。

第 5 章 接頭部 4 の z/VSE メッセージ

40xx= 再試行メッセージ

4000I RETRY

説明: システムは、入出力装置チェックが原因で失敗した穿孔操作を再試行しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージ 0P10T の説明を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

41xx= テープ処理メッセージ

4110D NO VOL1 LABEL FOUND TLBL=*volume-id* [*filename*] [SYSxxx=*cuu*] *last-tape-record-read*

説明: 標準ラベル出力が指定されましたが、指定のテープ・ボリュームにはボリューム・ラベルがありません。

- 処置パラメーターのない標準ラベル出力、または TLBL ステートメントに DISP=NEW が指定されました。
- 標準ラベル出力および DISP=OLD が、TLBL ステートメントに指定されました。

システムの処置: SYSLOG がキーボードに割り当てられていれば、システムはオペレーターの応答を待ち、その他の場合には、ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 次のいずれかの適切な処置をとってください。

- 誤ったテープ・ボリュームを取り付けてあれば、正しいものを取り付けて NEWTAP を入力し、システムの処理を続行させる。
- END/ENTER を押してジョブを取り消してください。メッセージをプログラマーに報告してください。
- 後処理パラメーターが TLBL ステートメントにないか、または DISP=NEW が指定されている場合には、ボリューム通し番号 (6 桁の英数字) を入力する。これにより、取り付けられているテープ・ボリュームに VOL1 ラベルが書き込まれます。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合、正しいテープ・ボリュームを取り付けてあるか確認してから、ジョブを再実行してください。

4111D NO VOL1 LABEL FOUND [*file-name*] SYSxxx=*cuu*]

説明: 標準ラベル入力が指定されましたが、取り付けられているテープ・ボリュームにはボリューム・ラベルがありません。

システムの処置: 以下の場合、システムはジョブを取り消します。

- システムのアクセス制御機能がアクティブである場合。
- SYSLOG がキーボードのない装置に割り当てられている場合。

それ以外の場合には、システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- メッセージに示された論理装置 (SYSXXX) が割り当てられている装置に正しいテープ・ボリュームを取り付けているかどうかを調べる。誤ったテープ・ボリュームを取り付けてあれば、正しいものを取り付けて NEWTAP を入力し、システムの処理を続行させる。
- END/ENTER を押してジョブを取り消してください。メッセージをプログラマーに報告してください。
- IGNORE を入力して処理を続行させる。ただし、アクセス制御機能が IPL SYS コマンド SEC=YES で活性化された場合、これは許可されません。アクセス制御機能が SEC=YES、NOTAPE でアクティブである場合には、IGNORE は受け入れられません。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、テープを作成したプログラムと実行に失敗したプログラムの両方が、ラベル付きテープを指定しているかどうか調べてください。必要に応じて訂正を行ってください。ジョブを再実行してください。このとき、正しいボリュームを取り付けていることを確認してください。

4112D VOL SERIAL NO. ERROR TLBL=*volume-id* [*filename*][SYSxxx=*cuu*] *volume-id*.

説明: テープのボリューム ID (メッセージ中の 2 番目) が、テープ・ラベル・ステートメントに指定されたファイル通し番号と一致していません。

システムの処置: SYSLOG が表示タイプのコンソール装置に割り当てられている場合は、システムはオペレーターの応答を待ちます。それ以外の場合には、システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 示された論理装置 (メッセージの SYSXXX) が割り当てられている装置に、正しいテープが取り付けられているかどうかを調べてください。間違ったボリュームが取り付けられていた場合は、正しいテープを取り付けて、NEWTAP を入力し、処理を続行させてください。それ以外の場合は、次のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消してください。メッセージをプログラマーに報告してください。
- IGNORE を入力して、取り付けられたボリュームで処理を続行させる。この場合、システムはテープ・ボリュームに保管されたボリューム ID をファイル通し番号として使用します。ただし、アクセス制御機能が IPL SYS コマンド SEC=YES で活動化された場合、これは許可されません。アクセス制御機能が SEC=YES、NOTAPE でアクティブである場合には、IGNORE は受け入れられます。
- BYPASS を入力して、拡張するためにオープンする必要がある、複数リール入力ファイルまたは複数リール出力ファイルの処理を続行させる。この場合は、ファイル通し番号は変更されません。ただし、アクセス制御機能が以下のいずれかの状況でアクティブである場合には、この処理は許可されません。
 1. テープが出力のためにオープンされている場合
 2. 入力処理時に、TLBL カードのファイル通し番号が最初のテープにない場合
 3. アクセス制御機能が、IPL SYS コマンド SEC=YES で活動化された場合

BYPASS は、アクセス制御機能が SEC=YES、NOTAPE でアクティブである場合に受け入れられます。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、最新の LSERV 出力を参照して、TLBL ステートメントのエラーを調べてください。必要に応じて訂正を行ってください。ジョブを再実行し、また正しいボリュームが取り付けられているかどうかを確かめてください。

4113t NO HDR1 LABEL FOUND [file-name][SYSxxx=cuu]

説明: 標準ラベル入力が指定されましたが、標準ヘッダー・ラベルが見つかりません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消してください。メッセージをプログラマーに報告してください。
- ラベルが必要ない場合、IGNORE を入力して処理を続行させる。ただし、アクセス制御機能が IPL SYS コマンド SEC=YES で活動化された場合、これは許可されません。アクセス制御機能が SEC=YES、NOTAPE でアクティブである場合には、IGNORE は受け入れられます。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、正しいテープ・ボリュームが取り付けられており、また正しく位置付けられていることを確認してください。テープを作成したプログラムを調べて、標準ラベルがテープに書き込まれていることを確認してください。必要な訂正を行って、ジョブを再実行してください。

4114D FILE SEQ. NO. ERROR TLBL=fileseqno [filename] [SYSxxx=cuu]

説明: HDR1 ラベル中のファイル順序番号が、TLBL=ステートメントで指定されているものと異なっています。テープが正しいファイルを過ぎた位置になっているか、または TLBL= で指定してある順序番号が誤っているかのいずれかです。

システムの処置: SYSLOG が表示タイプのコンソール装置に割り当てられている場合、システムはオペレーターの応答を待ちます。それ以外の場合には、システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 次のいずれかの適切な処置をとってください。

1. 正しいボリュームを取り付けてあるか、またそれが正しい位置になっているかを確認する。ボリュームまたはその位置を変更する場合は、RETRY または NEWTAP を入力して処理を続行させる (処理中のファイルが標準ラベル付きファイルであれば、システムは最初にテープを巻き戻します)。
2. END/ENTER を押してジョブを取り消してください。担当のプログラマーに問題を報告してください。
3. 標準ラベル付き入力または作業ファイルが指定された場合は、IGNORE を入力して処理を続行させる。システムは標準ラベル付き作業ファイルを、標準 HDR1 ラベルを書き込むことによって出力ファイルとして処理します。それ以外は、システムは順序番号を調べずにファイルを処理します。

プログラマーの応答: ファイルの位置付け指示が正しいかどうか、また、TLBL=ファイル順序番号と永続ラベルが両方正しいかどうか、確認してください。最新の LSERV 出力と指定を比較してみてください。必要な変更を行ってジョブを再実行してください。

4115D FILE SERIAL NO. ERROR TLBL=volume-id. [file-name][SYSxxx=cuu] file-serial-no.

説明: メッセージ中に表示されている、最後のヘッダー・ラベルのファイル通し番号が、TLBL ステートメント中に指定されている通し番号と一致しません。誤ったファイルまたはファイル・セットが取り付けられているか、または TLBL ステートメントで指定されている通し番号が誤っています。

システムの処置: SYSLOG が表示タイプのコンソール装置に割り当てられている場合、システムはオペレーターの応答を待ちます。それ以外の場合には、システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 正しいテープ・ボリュームが取り付けられているか確認してください。誤ったボリュームが取り付けられている場合、正しいテープを取り付けて、NEWTAP を入力し、システムの処理を続行させてください。それ以外の場合には、次のいずれかの操作を行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消してください。メッセージをプログラマーに報告してください。
- ラベルが必要ない場合、IGNORE を入力して、処理を続行させる。ただし、アクセス制御機能が IPL SYS コマンド SEC=YES で活動化された場合、これは許可されません。アクセス制御機能が SEC=YES、NOTAPE でアクティブである場合には、IGNORE は受け入れられます。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、TLBL ステートメントにエラーがないかどうかを調べてください。また、正しいテープ・ボリュームまたはボリューム・セットが取り付けられているかどうかを確認してください。指定を最新のLSERV 出力と比較する必要があるかもしれません。必要な訂正を行って、ジョブを再サブミットしてください。

4116D VOLUME SEQ. NO. ERROR

[file-name][SYSxxx=cuu] header-label-sequence-no.

説明: ボリューム・セット中の誤ったボリュームが取り付けられています。ヘッダー・ラベル中のボリューム通し番号 (メッセージに示されているもの) が、TLBL ステートメント中のボリューム通し番号と一致していません。

システムの処置: SYSLOG が表示タイプのコンソール装置に割り当てられている場合は、システムはオペレーターの応答を待ちます。それ以外の場合には、システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- 正しいボリュームが取り付けられているかを確認してください。ボリュームを間違えて取り付けられていたら、正しいボリュームを取り付けてください。その後、NEWTAP を入力して処理を続行させてください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合、正しいボリュームが取り付けられているかどうか確認してからジョブを再実行してください。永続定義ラベルが使用されていると、最新のLSERV 出力を調べた方がよいことがあります。

4117D NO TM FOUND ON READBACK

[file-name][SYSxxx=cuu] last-tape-record-read

説明: 逆方向読み取りが指定されましたが、最初のレコードとしてテープ・マークがありませんでした。IOCS はファイルを正しく位置付けることができません。

システムの処置: SYSLOG が表示タイプのコンソール装置に割り当てられている場合は、システムはオペレーターの応答を待ちます。それ以外の場合には、システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- IGNORE を入力して処理を続行させる。この場合、システムはそれ以降、テープ位置の確認を行わずにファイルを処理します。ただし、システム・スタートアップ時にシステムのアクセス制御機能が活動化された場合には、この応答は無効です。

プログラマーの応答: 出力 CLOSE と逆方向読み取り OPEN との間でテープ位置の変更を行わなかったかどうか確認してください。プログラムにこの CLOSE が入っていないければ、プログラムの出力処理ルーチンに入れてください。位置付け指示が誤っていれば、訂正してください。ジョブを再実行してください。

4118t FILE ID ERROR ON READBK

[file-name][SYSxxx=cuu] file-identifier

説明: 逆方向読み取りが指定されましたが、トレーラー・ラベル中のファイル ID (メッセージに示されている) が TLBL ステートメントの情報と一致していません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- ラベル情報が必要ない場合は、IGNORE を入力して処理を続行させる。ただし、アクセス制御機能が IPL SYS コマンド SEC=YES で活動化された場合、これは許可されません。アクセス制御機能が SEC=YES、NOTAPE でアクティブである場合には、IGNORE は受け入れられます。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、TLBL ステートメントのファイル ID にエラーがないかどうかを調べ、また逆方向読み取り OPEN が出される前に、テープが再位置付けされていないかを確認してください。正方向読み取りモードでのファイルの作成または処理が、CLOSE 中に巻き戻しを要求しなかったかどうか、また、失敗した OPEN ステートメントで正しいファイル名を指定しているかも調べてください。必要な訂正を行って、ジョブを再実行してください。

4119D FILE UNEXPIRED *[file-name][SYSxxx=cuu] header-label-read*

説明: スクラッチ・テープとして取り付けられたボリュームは、満了日に達していません。テープはまだアクティブです。システムの処置: SYSLOG が表示タイプのコンソール装置に割り当てられている場合は、システムはオペレーターの応答を待ちます。それ以外の場合には、システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- 新しいテープ・ボリュームを取り付けて、NEWTAP を入力し、処理を続けてください。
- IGNORE を入力して、現在取り付けられているテープ・ボリュームで処理を続行させてください。この場合、システムは既存のヘッダー・ラベルを書き換えます。ただし、アクセス制御機能が IPL SYS コマンド SEC=YES で活動化された場合、これは許可されません。アクセス制御機能が SEC=YES、NOTAPE でアクティブである場合には、IGNORE は受け入れられます。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、スクラッチ・テープとして取り付けられたテープ・ボリュームに、満了日に達していないファイルが入っていないことを確認してから、ジョブを再実行してください。

4120I TAPE POSITIONED WRONG
[file-name][SYSxxx=cuu]

説明: 入力ファイルが逆方向に読み取られるはずですが、

- テープがロード開始点の位置にあります。
- テープはロード開始点の位置になっていませんが、IOCS が、新しいファイル・ラベル・セットを作成するための、それ以前のトレーラー・ラベルを見つけられません。
- 処理中のファイルは、
 - 2 またはそれ以上のボリュームにスパンしている (マルチボリューム)。
 - 永続的に保管されたラベル情報によって定義されている。
 - 2 番目 (またはそれ以降) のボリュームにアクセスしようとしているが、このボリュームはファイルの終わりの位置にない。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答:

1. 正しいテープ・ボリュームが取り付けられているか確認してください。テープをファイルの終わりに位置付ける CNTRL マクロをプログラムで出しているか調べてください。
2. ジョブを再実行依頼してください。

4121A NO ALTERNATE DRIVE ASSIGNED
SYSxxx=cuu

説明: メッセージに示してある論理装置 (SYSPCH、SYSLST または SYSOUT) が割り当てられているテープ装置のリールの終わりに達しましたが、代替磁気テープが割り当てられていません。

システムの処置: システムはシステム・ファイルをクローズし、テープを巻き戻してアンロードしてから、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 新しいテープ・ボリュームを取り付けて、NEWTAP を入力し、処理を続けてください。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 該当するテープ・ボリュームを後に SYSIPT テープとして使用する予定だった場合には、ジョブを再実行してください。使用できるテープ上に完全な SYSIPT テープを作成するのに十分なスペースがあることを確認してください。

4122I EOV ENCOUNTERED SYSxxx=cuu

説明: テープ装置に割り当ててあるシステム・ファイル (SYSLST、SYSPCH、または SYSOUT) でボリュームの終わりに達しました。

システムの処置: システムはメッセージ 4121A を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4123t WRONG POSITION FOR READBACK
[file-name][SYSxxx=cuu] last-tape-record-read

説明: 逆方向読み取りが指定されましたが、2 番目のレコードとしてテープ・マークまたはラベルが見つかりませんでした。

IOCS は、正しくテープを位置付けることができません。この原因は次のいずれかです。

- テープが正しく割り当てられていません。
- 出力後、テープ・ファイルが正しくクローズされていません。
- ファイル逆方向読み取りのための DTFMT マクロに、誤った論理装置の指定があります。
- 出力機能が完了してから、テープが再位置付けされていません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- IGNORE を入力してファイルの処理を続行させる。この場合、システムはそれ以降、テープ位置の確認を行いません。ただし、アクセス制御機能が IPL SYS コマンド SEC=YES で活動化された場合、これは許可されません。アクセス制御機能が SEC=YES、NOTAPE でアクティブである場合には、IGNORE は受け入れられます。

プログラマーの応答: プログラムで正しい論理装置を指定しているか、またプログラムの出力処理ルーチンが CLOSE を出しているかを調べてください。プログラムの出力ルーチンの CLOSE の後で、またプログラムの入力ルーチンの逆方向読み取りのため OPEN の前に、その論理装置を参照していないかどうか調べてください。

4124I TOO MANY USER LABELS
[file-name][SYSxxx=cuu]

説明: メッセージに示されているファイルで、8 つより多くのユーザー・ヘッダー・ラベルを処理しようとした。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: LBRET2 が 7 回以内であることを確かめてください。LBRET1 は UHL8 ラベル (8 つより少ない場合には最後のユーザー・ラベル) の書き込みに使います。プログラムのラベル出口ルーチン (LABADDR=名前) を訂正し、ジョブを再実行してください。

4125D VOL1 LABEL FOUND *[file-name][SYSxxx=cuu] last-tape-record-read*

説明: 以下のいずれかです。

- ラベルなし出力ファイルが指定されましたが、ボリューム・ラベルがテープに見つかりました。
- ラベルなしテープ入力ファイルが指定されましたが、ボリューム・ラベルがテープに存在します。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 正しいテープが取り付けられているかどうかを調べてから、次のいずれかを行ってください。

- 影響を受ける区画で実行中のプログラムが、VSE/POWER のように連続して実行されるプログラムでない場合、END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

- 新しいテープを取り付け、NEWTAP を入力して処理を続行させてください。
- IGNORE を入力して処理を続行させる。この結果、ボリューム・ラベルおよびボリューム上の他のすべてのラベルは破棄されます。ただし、アクセス制御機能が IPL SYS コマンド SEC=YES で活動化された場合、これは許可されません。アクセス制御機能が SEC=YES、NOTAPE でアクティブである場合には、IGNORE は受け入れられます。

プログラマーの応答: 正しいテープがどうかを調べた後で、ジョブを再実行するよう指示してください。

4126I EOV ENCOUNTERED [file-name][SYSxxx=cuu]

説明: DTFMT にオペランドの HDRINFO=YES が指定されたので、EOV ルーチンが呼び出されるたびにこのメッセージが印刷されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4127A EOV WHILE WRITING EOF

説明: ファイルの終わり処理中に、テープのボリュームの終わりが検出されました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- システムの処理を続行させるときは、新しいテープ・ボリュームを取り付けて、NEWTAP を入力します。
- END/ENTER を押してジョブを取り消してください。

プログラマーの応答: なし。

4128I ACCESS TO FILE NOT ALLOWED [filename SYSxxx=cuu]

説明: アクセス制御機能はアクティブであり、ラベルなしテープ・ファイルがオープンしています。また、次のいずれかに当てはまります。

- DTFMT マクロで REWIND=NORWD を指定しました。
- 実際のテープはラベル付きテープでした。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: アクセス制御機能をアクティブにせずに、ジョブを再実行してください。

4130D EOF OR EOV INQUIRY [file-name][SYSxxx=cuu]

説明: 入力ファイルでテープ・マークが検出されましたが、システムはその条件が EOF か EOV かを判別することができません。

システムの処置: SYSLOG が表示タイプのコンソール装置に割り当てられている場合は、システムはオペレーターの応答を待ちます。それ以外の場合には、システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- テープ・マークがファイルの終わりとボリュームの終わりのどちらを指しているかが分かれば、それぞれ EOF または EOV を入力する。
- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、適切な応答の指示をオペレーターに与えてからジョブを再実行してください。

4131t BLOCK COUNT ERROR [file-name][SYSxxx=cuu] DTF=blockcount LBL=blockcount

説明: DTF テーブルに保管されているブロック数 (DTF=ブロック数) が、現在処理中の入力ファイルのトレーラー・ラベル中のブロック数 (LBL=ブロック数) と一致していません。

システムの処置: タイプ・コード D の場合 - SYSLOG が表示タイプのコンソール装置に割り当てられている場合、システムはオペレーターの応答を待ちます。タイプ・コード I の場合 - システムはメッセージ 4131I を出して処理を続行します。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- ブロック数が重要でなければ、IGNORE を入力して処理を続行させる。

プログラマーの応答: テープが DTFPH を使って作成された場合には、そのテープを作成したプログラムを調べて、ブロック数が正しく維持されているか確認してください。テープが DTFMT を使って作成された場合には、該当するファイルを作成した実行時とそのファイルを処理した実行時との間で、ファイルの DTF テーブルが変化していないかどうかを確認してください。また、システム・ログを検査し、入出力メッセージに対する BYPASS の応答がないか調べてください。もしあれば、エラーのあるレコードが入っているテープを再構成してジョブを再実行してください。タイプ・コード I の場合 - DTF ブロック数は 100 万のモジュールです。

4132D ERROR IN FILE ID [file-name][SYSxxx=cuu] file-identifier

説明: HDR1 ラベル中の 17 バイトのファイル ID (メッセージに示されている) が、TLBL ステートメントで指定されているものと一致していません。

システムの処置: SYSLOG が表示タイプのコンソール装置に割り当てられている場合は、システムはオペレーターの応答を待ちます。それ以外の場合には、システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 正しいテープ・ボリュームが取り付けられているか、または正しく位置付けられているかを調べてください。誤ったボリュームが取り付けられている場合、新しいテープを取り付けて、NEWTAP を入力し、処理を続けてください。それ以外の場合は、次のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- IGNORE を入力して、取り付けられたテープ・ボリュームで処理を続行させる。ただし、アクセス制御機能が IPL SYS コマンド SEC=YES で活動化された場合、これは許可

されません。アクセス制御機能が SEC=YES、NOTAPE でアクティブである場合には、IGNORE は受け入れられません。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、TLBL ステートメントで指定されている (または永続ラベル情報として保管されている) ファイル ID が正しいかどうか調べてください。また正しいテープが取り付けられているか、その位置付けの情報が正しいかも調べてください。ファイルの処理に永続ラベル情報が使用された場合には、最新の LSERV 出力を参照しなければなりません。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

4133D ERROR IN HDR LBL [*file-name*][SYSxxx=cuu]

説明: ヘッダー・ラベルの世代番号、バージョン番号、または作成日付のいずれかのフィールドで、エラーが検出されました。

システムの処置: SYSLOG が表示タイプのコンソール装置に割り当てられている場合は、システムはオペレーターの応答を待ちます。それ以外の場合には、システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- 新しいテープ・ボリュームを取り付けて、NEWTAP を入力し、処理を続けてください。
- テープ・ボリュームが正しい場合、IGNORE を入力して、取り付けられたテープ・ボリュームで処理を続ける。ただし、アクセス制御機能が IPL SYS コマンド SEC=YES で活動化された場合、これは許可されません。アクセス制御機能が SEC=YES、NOTAPE でアクティブである場合には、IGNORE は受け入れられます。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、正しいテープ・ボリュームが取り付けられているかどうかを調べてください。ファイル用の TLBL ステートメントの指定も調べてください。ジョブに永続ラベル情報が使用されている場合は、最新の LSERV 出力を調べてください。入力ファイルについて、ファイル作成日付、世代番号のバージョン番号が TLBL ステートメントで提供される値と一致するかどうかを調べてください。HDR1 ラベル情報を印刷するには、DTFMT マクロの HDRINFO=YES オペランドを使用します。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

4135D AUTOMATIC LOADER IN WRONG MODE [*filename*] SYSxxx=cuu

説明: 自動カートリッジ・ローダーの付いた装置で、EOV が発生しました。ただし、そのテープはまだ使用可能ですが、次のテープをロードするための REWIND UNLOAD が実行されませんでした。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: END/ENTER を押してジョブを取り消してください。IGNORE と入力して、同じ論理装置で続行させてください。実際のテープは REWIND UNLOADED 状態です。割り当てられていた論理装置がある場合、NEWTAP と入力

して、その割り当てられた代替論理装置で処理を続行させてください。

注: ACL がアクティブである場合は、メッセージ 0P08I INTERVENTION REQUIRED を無視してください。システムは処理を続行します。

プログラマーの応答: テープの続きの部分が使用可能であることを確認してください。

4140A NO ALTERNATE DRIVE ASSIGNED [*file-name*][SYSxxx=cuu]

説明: 入力または出力ファイルでボリュームの終わり条件になりましたが、代替装置が指定されていないか、または十分な代替装置が指定されていません。

システムの処置: SYSLOG が表示タイプのコンソール装置に割り当てられている場合、システムはオペレーターの応答を待ちます。それ以外の場合には、システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- 示された装置に新規のテープ・ボリュームを取り付けて、NEWTAP と入力し、処理を続行させる。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、代替テープ装置 (1 台または複数台) を使って、または十分なフリー・スペースのあるテープ・ボリュームを取り付けて、ジョブを再実行してください。

4141D FILE EXPIRED [*filename*] [SYSxxx = cuu] *last-label-read*

説明: オープンされている標準ラベル付き作業ファイル、または拡張のためにオープンされているデータ・ファイルの、満了日が過ぎています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 次のいずれかの適切な処置をとってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- 新しいテープ・ボリュームを取り付けて、NEWTAP を入力し、処理を続けてください。
- IGNORE を入力して、出力ファイルに対して行われるようなヘッダー・ラベル処理により、取り付けられているテープの処理を続行させる。ただし、アクセス制御機能が IPL SYS コマンド SEC=YES で活動化された場合、これは許可されません。アクセス制御機能が SEC=YES、NOTAPE でアクティブである場合には、IGNORE は受け入れられません。そうでない場合、IGNORE は無効な応答です。

BYPASS を入力して、入力ファイルに行われるようなヘッダー・ラベル処理により、取り付けられているテープの処理を続行させる。

プログラマーの応答: なし。

4151I HDR1 LABEL INFORMATION

[file-name][SYSxxx=cuu] last-label-read

説明: DTFMT マクロで HDRINFO=YES が指定されました。システムが表示するヘッダー・ラベルには、次のような情報が入っています。

ファイル ID
 ファイル通し番号
 ボリューム通し番号
 ファイル順序番号
 更新番号
 作成日と満了日

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4160I TAPE LIBRARY REQUEST NOT EXECUTABLE (SYSxxx=cuu) RETURN CODE = xxxx , REASON CODE= xxxx

説明: 内部 LBSERV マクロ・エラーが起きました。戻りコードと理由コードを検査して、問題の発生箇所を見つけてください。

理由コード:

< C'4000' RMS または LCDD がエラーを検出した
 > C'5000' および < C'6000' VGS または LCDD がエラーを検出した
 > C'6000' LBSERV マクロがエラーを検出した

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 戻りコードと理由コードを検査し、LBSERV マクロ呼び出しが間違っで設定されていないか調べてください。

4170A FILE PROTECTED TAPE

[file-name][SYSxxx=cuu]

説明: 指定されたチャンネルと装置アドレスにあるテープ装置を、出力ファイルの作成に使用しようとしたが、取り付けられているボリュームはファイル保護されています。

システムの処置: SYSLOG が表示タイプのコンソール装置に割り当てられている場合は、システムはオペレーターの応答を待ちます。それ以外の場合には、システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答:

1. 現在取り付けられているテープ・リールにファイル保護リングを付けて、そのリールをもう一度取り付けるか、または新しい保護されていないテープ・ボリュームを取り付けてください。

2. NEWTAP を入力して処理を続行させてください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、ジョブを再実行して、割り当てられているテープ装置にファイル保護リングのあるテープ・リールが取り付けられていることを確認してください。

4171D UNEXPIRED FILE SYSxxx=cuu file-identifier

説明: メッセージに表示されている ID をもつテープ・ファイルの HDR1 ラベルには、まだ満了日に達しない日付があります。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- 正しいテープ・ボリュームが取り付けられているか確認してください。間違えたボリュームが取り付けられている場合は、新しいテープ・ボリュームを取り付け、NEWTAP を入力して処理を続行させてください。
- IGNORE を入力して、現在取り付けられているテープ・ボリュームで処理を続行させてください。この場合、該当する HDR1 ラベルは 76 個の 2 進ゼロとテープ・マークからなる新しい HDR1 レコードによって置き換えられます。

プログラマーの応答: なし。

4172D INVALID LABEL SET SYSxxx=cuu

説明: 指定されたテープのラベルが、IBM 標準ラベルでもテープ・マークでもありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 正しいテープ・ボリュームが取り付けられていることを確認してから、次のいずれかを行ってください。

- 新しいテープを取り付け、NEWTAP を入力して処理を続行させてください。
- IGNORE を入力してください。この場合、システムは現在取り付けられているテープにテープ・マークを書き込んで処理を続行します (システムはそれ以上ラベルの検査を行いません)。

プログラマーの応答: なし。

4179I GETVIS FAILED RC=nnn [filename][SYSxxx = cuu]

説明: OPEN または CLOSE 機能の作業ストレージを得るために出された GETVIS マクロが、メッセージに表示されている戻りコード (RC=nnn) が示す理由で失敗しました。これらのコードの説明については、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかを行うことによって、より多くの GETVIS スペースを使用できるようにしてください。

- EXEC ステートメントでより小さい SIZE の値を指定する。
- この区画へのストレージの割り振りを大きくするか、またはより大きい区画を使用する。

ジョブを再実行してください。

4181I NO LABEL INFORMATION

[filename][SYSxxx = cuu] [volume-id]

説明: このメッセージは次の原因で出されます。すなわち、システムのラベル情報域に、メッセージに示されているファイルのラベル情報がありません。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

プログラマーの応答: 最新の LSERV 出力を使用して、システムのラベル情報域に永続的に保管されているラベル情報を調べてください。まだ永続的に保管されておらず、繰り返し使用するのに必要なラベル情報を渡してください。ラベル情報を永続的に保管する方法については、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

4183I INVALID LOGICAL UNIT
[file-name][SYSxxx=cuu]

説明: メッセージに示されている論理装置には、IGN (無視) または UA (割り当て解除) が指定されているか、あるいはテープ以外の装置が割り当てられています。論理装置の指定が IGN または UA の場合には装置アドレス (cuu) は表示されません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 論理装置の割り当てが正しいことを確認した後で、ジョブを再実行してください。

4184A DEVICE IS WRITE PROTECTED

説明: 装置が書き込み保護されているか、VOL1 ラベルとデータが含まれている WORM (書き込みは一度、読み取りは複数回可能) ボリュームが取り付けられています。

システムの処置: SYSLOG が表示タイプのコンソール装置に割り当てられている場合は、システムはオペレーターの応答を待ちます。割り当てられていない場合は、システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 正しいテープ・ボリュームが取り付けられているかどうか調べてください。テープ・ボリュームに問題がなければ、ボリュームから書き込み保護をはずして、

IGNORE と入力すれば、処理が続行されます。WORM ボリュームの場合は、ボリュームを取り外して、別のボリュームを取り付け、IGNORE と入力すれば、処理が続行されます。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、そのジョブを再実行し、その際書き込み保護されていないテープ・リールが、割り当てられたテープ装置に取り付けられていることを確認してください。

4185I INVALID FORMAT RECORD

説明: 無効な形式記述ステートメントが読み取られました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 形式記述ステートメントを検査し、エラーがないかどうか調べてください。必要な訂正を行って、ジョブを再サブミットしてください。

4186A TAPE UNIT NOT READY
[filename][SYSxxx=cuu] [volume-id]

説明: システムが、「作動不能」状態のテープ装置にセンス・コマンドを出しました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかの適切な処置をとってください。

1. テープ装置を「作動可能」状態にし、IGNORE と入力して処理を続行させる。
2. テープを別の装置に取り付け、ジョブを再実行する。
3. END/ENTER を押してジョブを取り消し、担当のプログラマーにメッセージを報告する。

プログラマーの応答: 取り消されたジョブについて、まず正しいテープ・ボリュームが取り付けられているか、またテープ装置が作動可能で割り当てられているかを確認してください。その上で、ジョブを再実行してください。

4190I LOGICAL UNIT NOT ASSIGNED TO A TAPE [filename] [SYSxxx=cuu]

説明: ASSGN ステートメントで指定されている論理装置が、テープ装置に割り当てられていません。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 論理装置の割り当てを、テープ装置に訂正してください。ジョブを再実行してください。

4191I TAPE FILE PROCESSING FAILURE RC=cc [filename] [SYSxxx=cuu]

説明: 理由コード cc が、次のようにエラーの原因を定義しています。

コード: 意味:

- | | |
|----|--|
| 4 | ファイルが OPEN されず、ASSGN IGN が指定されませんでした。 |
| 8 | プログラムは出力ファイルからの入力を要求しました。 |
| 12 | プログラムは入力ファイルからの出力を要求しました。 |
| 16 | ブロック・サイズが 64KB を超えています。 |
| 20 | ブロック・サイズが 64KB を超えています (SPN または VAR)。 |
| 24 | 論理レコード・サイズがブロック・サイズを超えています。 |
| 28 | 論理レコード・サイズが入出力域に残されているスペースを超えています。(RECFORM=VARIABLE/UNDEF) |
| 32 | GET 要求は作業ファイルには無効です。 |
| 36 | PUT 要求は作業ファイルには無効です。 |
| 40 | 出力ファイルで ERROPT ルーチンからの無効な戻りがありました。 |
| 44 | 出力ファイルでユーザー・エラー・ルーチンからの無効な戻りがありました。 |
| 48 | データ・ファイルへの無効な要求がありました (WRITE、RELSE、または TRUNC)。 |
| 52 | 無効な論理要求です。論理装置は "IGNORE" に指定されています。 |
| 56 | WLRERR ルーチンがアクティブです。 |
| 60 | ERROPT ルーチンがアクティブです。 |
| 64 | ODL 項目が見つかりません。 |
| 68 | 制御要求でレジスター 0 に無効な CCW コマンド・コードが入っています。 |
| 72 | オープンされていないファイルに論理要求が出されました。 |

- 76 抽出マクロからの内部エラーです。
- 80 PUT 要求のレコード長が RECFORM=VARIABLE と矛盾しています。
- 84 実際のブロックに、一貫性のないレコード長 (RECFORM=SPN および VAR) をもつレコードが入っています。
- 88 プログラムは、すでに別のタスクが使用中のファイルを要求しました。
- 92 作業域が入出力域の一部です。
- 100 EOF が検出されましたが、EOF ルーチンが指定されませんでした。
- 104 IOAREA2 が IOAREA1 にオーバーレイしています。
- 108 入出力または作業域が区画の外部にあります。
- 112 アクセス検査ルーチン \$I22TSEC からの無効な戻りコードです。
- 116 拡張がすでに存在している DTF に対してのオープン/クローズ要求です。DTF はオープンされません。
- 120 FSL/BSL が出力ファイルに使用されたか、または RECFORM がスパンされていません。
- 124 ファイルの終わりを超えての論理要求です。
- 128 スパン・レコードが 1 つのテープに収まりません。
- 132 HDR2 または DTF で正しくないバッファ・オフセットです。
- 136 テープ終了マークの後に書き込みが開始されていません。
- 140 読み戻しシミュレーションに必要な GETVIS スペースがありません。
- 144 EOF/EOV ラベルに 10 進数のブロック数がありません。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。問題判別のために次の 4 つのスナップ・ダンプが続きます。

- IOCS が呼び出されたときの、区画保管域の最初の 12 バイトと、それに続くレジスター 0 から 15。
- 実際のファイルの DTF。
- DTF 拡張。
- ITRA バッファ (活動化されている場合)。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 適切な訂正を行って、プログラムを再実行してください。問題判別には、システムにより作成されたスナップ・ダンプを使用してください。

4192I VOLUME ACCESS DENIED
[file-name][SYSxxx=cuu]

説明: 該当するボリュームには、アクセス保護された米国標準規格データが入っています。システムのインストール・システム出口ルーチン \$\$BOMTAC/\$IJJTSEC は、現在処理中のジョブによるこのボリュームへのアクセスを拒否しました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 担当のセキュリティー管理者にこのメッセージを報告してください。

4193I FILE ACCESS DENIED [file-name][SYSxxx=cuu]

説明: 該当するファイルには、アクセス保護された米国標準規格データが入っています。システムのインストール・システム出口ルーチン \$\$BOMTAC/\$IJJTSEC は、現在処理中のジョブによるこのファイルへのアクセスを拒否しました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 担当のセキュリティー管理者にこのメッセージを報告してください。

4195I phasename NOT IN SVA [filename][SYSxxx=cuu] [volume-id]

説明: フェーズ filename は、必須の OPEN、CLOSE、または論理モジュールですが、SVA 内にありません。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のシステム・スタートアップ時に、フェーズ filename を SVA にロードしてください。その上で、ジョブを再実行してください。

4196A WRITE IMPOSSIBLE AT THIS TAPE POSITION [filename:] [SYSxxx=cuu]

説明: 9346 テープ装置にテープ・ボリュームが取り付けられていますが、ボリューム上のこのテープ位置で既存のデータが検出されました。ロード開始点に位置しているとき以外は、9346 は既存のデータに上書きできません。このメッセージは、システムが HDR1 ラベル・レコードを既存のレコードの上を書く必要があるときや、システムが作業ファイルを作るためにテープ・マークを書く必要があるときに、拡張のために既存のファイルを開こうとすると、出されます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

1. CANCEL と入力するか、END/ENTER を押してジョブを取り消す。
2. 示された装置に新規のテープ・ボリュームを取り付けて、NEWTAP と入力し、処理を続行させる。

プログラマーの応答: 既存のファイルに重ねてファイルを作っていないか確かめてください。9346 テープ装置ではテープ・ファイルの拡張はできません。

4199I FILE TO EXTEND NOT FOUND

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- ファイル順序番号なしで // TLBL ステートメントに DISP=OLD が指定されましたが、指定されたファイル ID と同じ ID を持つファイルにテープが位置付けられていません。
- // TLBL ステートメントで DISP=OLD または DISP=MOD が指定されましたが、指定の順序番号に該当するファイルがボリューム・セットにありません。
- // TLBL ステートメントで DISP=OLD が指定されましたが、ファイルの拡張に必要な標準トレーラー・ラベル EOF1 が見つかりません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: // TLBL ステートメントを訂正し、正しいボリュームを取り付けた後、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

42xx/49xx= アクセス方式メッセージ

4nxx メッセージの概説

n と記載されたメッセージ ID の 2 番目の文字は、下記に示されているリストの 1 つになります。この文字は、示されたようにファイルまたは機能を指します。

- n = 2: 索引順次アクセス方式 (ISAM)
または VSE/VSAM -- 具体的に 42xx と表記されている場合
- n = 3: Sequential input disk OPEN
- n = 4: Sequential output disk OPEN
- n = 5: Sequential disk CLOSE
- n = 6: 直接アクセス入力ファイル
- n = 7: 直接アクセス出力ファイル
- n = 8: 共通 OPEN/CLOSE ルーチン
- n = 9: 順次ディスク作業ファイル

注: この項のメッセージの 2 桁目は一定していないため、メッセージは 3 桁目と 4 桁目に従って編成されています。

1. 一部のメッセージには、さらに 3 つの情報フィールドが後ろに続いています。以下に例を示します。

IJSYSCT SYSCAT = 135 11111

ここで、

IJSYSCT

= ファイル名

SYSCAT

= 論理装置

135 = cuu

11111

= ボリューム通し番号 (該当する場合)

ファイル名と cuu は、システムがそれらを使用できる場合のみ現れます。

2. 返答として CANCEL を受け入れるメッセージの中には、代わりに CANCELV または DSPLYV を応答として使用できるものもあります。

CANCELV

ジョブを終了するために CANCEL と入力する代わりに、オペレーターが CANCELV と入力すると、SYSLST が印刷装置であれば、SYSLST 上の VTOC ダンプを入手することができます (「z/VSE Diagnosis Tools」を参照してください)。

DSPLYV

適切な割り当てが行われている場合には、オペレーターは DSPLYV を入力して、VTOC を表示することができます。この応答はジョブを終了させずに、VTOC 表示要求の前に出されたのと同じメッセージを再び出させます (「z/VSE Diagnosis Tools」を参照)。

3. 通知タイプのメッセージが出された結果として、次の処置がとられます。
 - メッセージが VSAM (ACB) に代わって出された場合は、戻りコードが与えられ、処理が続行されます。

- メッセージが管理下の SAM に代わって出された場合は、そのタスクは取り消されます。
4. 処置または決定メッセージに対して CANCEL、CANCELV、または END/ENTER を応答すると、その結果として、タスクは取り消されます。

ジョブまたはタスクの取り消し: タイプ・コード A (処置) または D (決定) を持つ 4nxtt メッセージに対して、コンソールから取り消し要求を行うと、システムは影響を受けたタスクを取り消します。ユーザーがタイプ・コード I のメッセージを受け取った場合、システムは通常、影響を受けたタスクを取り消します。この結果、ジョブ全体が取り消されることがあります。タスクが VSE/POWER または VSE/VSAM タスクであれば、メッセージによってそのタスクが取り消されることはありません。ただし、これらのいずれの場合にも、メッセージ記述には、「ジョブが取り消されます」というシステムの処置が示されます。

ディスク・ラベル: ディスク・ラベルの形式について、およびそのラベルが付いたフィールドが DLBL ステートメントおよび EXTENT ステートメントで提供される情報とどのように関連しているかについては、「z/VSE System Macros Reference」を参照してください。

ラベルの説明: 各ディスク・ボリュームには VTOC があり、そこにはすべて VTOC 形式のラベルが含まれています。それぞれの形式ラベルは、ボリューム上の DASD ストレージのある区域を指し、その区域が現在なに使用されているかを示しています。形式 1 ラベルは、ボリューム上の 1 つから 3 つの物理域 (エクステンツ) を記述します。これが、各ファイル、VSAM データ・スペース、または UNIQUE VSAM ファイルを記述するために使用される最初の形式ラベルです。形式 2 ラベルは、索引順次編成されるファイルを記述します。形式 2 ラベルが使用されるときは常に、同じファイルを記述する形式 1 ラベルがあります。VSAM は、形式 2 ラベルを使用しません。形式 3 ラベルは、ボリューム上の 1 個から 13 個の物理域 (エクステンツ) を記述します。このラベルは、VSAM データ・スペースまたは UNIQUE VSAM ファイルが 4 個から 16 個の物理域 (エクステンツ) で構成される場合に使用されます。形式 3 ラベルは常に、形式 1 ラベルと関連付けられています。形式 4 ラベルは、VTOC を記述します。

図 5. 4nxtt メッセージの概説

4n00I (NO LABEL SPACE IN VTOC|NO RECORD FOUND)

[filename][SYSxxx=cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxtt メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。システムは、出力ファイルに新しいラベルを書き込むためのスペースを、ボリュームの VTOC 中で見つけることができませんでした。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージがディスク上の出力ファイルを表している場合、次のような処置をとることができます。

- 新しい出力ファイルの作成に別のボリュームを使用する。

- 該当するボリュームから別のボリュームにファイルをコピーする。ターゲット・ボリュームは、該当するボリュームより大きい VTOC 域をもつよう、正しく初期設定されていないければなりません。

前もって処置を計画するには、最新の LVTOC 出力を参照してください。修正処理を行ったあとで、ジョブを再実行してください。

4n01I (NO FORMAT 1 LABEL FOUND|NO RECORD FOUND)

[filename][SYSxxx=cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxtt メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。ディスク上のファイルでは、システム

は次のいずれかの状態になっています。

- キーの検索中、このファイルの形式 1 のラベルを見つけることができませんでした。
- ラベルの検索中、該当レコードなし条件が起きました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージがディスク上のファイルを表している場合、最新の LVTOC 出力を使用してそのファイルのラベルを調べてください。取り外し可能ディスクを使っているなら、正しいボリュームが取り付けにあったか確認してください。ファイルが壊れている場合は、満了日前のファイルに重なったエクステンが削除されていることがあります。この場合は、ファイルを再作成しなければなりません。

4n02I (NO FORMAT 2 LABEL FOUND|NO RECORD FOUND) [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。システムが次の動作中に、該当レコードなし条件が起きました。

- 形式 2 ラベルの検索中
- ISAM ファイルの独立オーバーフロー域で EOF レコードの検索中

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ファイルを再作成し、ジョブを再実行してください。問題が繰り返し発生するなら、別の装置でジョブを再実行するか、別のボリュームでファイルを再作成してからジョブを再実行してください。

注意:

ヘッドが破損している場合には、正しく作動している装置で壊れたボリュームを使用すると、損傷が他にも伝わる場合があります。

問題が解決しない場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

4n03I (NO FORMAT 3 LABEL FOUND|NO RECORD FOUND) [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。システムで、形式 3 ラベルの検索中に該当レコードなし条件が起きました。これはハードウェア・エラーであると考えられます。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 最新の LVTOC 出力で該当するボリュームを調べ、そのボリュームにファイルを再作成してから、ジョブを再実行してください。取り外し可能ボリュームを使用している場合は、別の装置の使用も検討してください。

注意:

ヘッドが破損している場合には、正しく作動している装置で壊れたボリュームを使用すると、損傷が他にも伝わる場合があります。

問題が解決しない場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

4n04I (NO FORMAT 4 LBL IN VTOC|NO RECORD FOUND) [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。ボリューム・ラベル中の VTOC ポインター・アドレスが形式 4 ラベルを指していないか、またはシステムが形式 4 ラベルを検索中に、該当レコードなし条件が発生しました。これは、おそらくハードウェア・エラーです。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 正しいボリュームが取り付けられているかを確認してください。正しくないボリュームで処理を行っていた場合には、ジョブを再実行してください。
- 別のディスク・ボリュームにファイルを作成してください - この処置は、ファイルが取り外し不能ボリュームにある場合に行います。
- そのボリューム上にファイルを再作成してください。このボリュームに対し、次にリストするような装置サポート機能を実行してください。
 1. INIT によるボリュームの初期設定。
 2. INSPECT による代替トラックの割り当てとトラック・レクラメーション。

バックアップ・テープからボリュームの最新バックアップをリストアップしてください。

- 可能であれば、別の装置にバックを取り付けてジョブを再実行するようオペレーターに指示してください。その結果、ジョブが正しく実行されれば、最初に使用していたドライブに故障があるものと考えられます。

注意:

ヘッドが破損している場合には、正しく作動している装置で壊れたボリュームを使用すると、損傷が他にも伝わる場合があります。

これで問題を解決できなければ、ROD コマンドを出し EREP を実行するようオペレーターに依頼してください。16 ページの図 1 を参照してください。必要に応じて、出力を使用できるようにしてください。既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

4n05I UNRECOVERABLE I/O ERROR

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。OPEN の処理中にリカバリー不能な入出力エラーが発生しました。これは、おそらくハードウェア・エラーです。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。問題が解決しない場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

4n06I (NO STANDARD VOL 1 LABEL IN RECORD FOUND) [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このメッセージが出される原因は、次のいずれかが考えられます。

- メッセージが CKD ディスクを表している場合 - VOL1 ラベルの検索中、システムはシリンダー 0、トラック 0、レコード位置 3 にそのようなレコードを見つけることができませんでした。
- メッセージが FBA ディスクを表している場合 - ブロック 1 のレコードが、必要な VOL1 ラベル ID で始まっていません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 正しいボリュームを取り付けてあるかを確認してください。正しくないボリュームで処理を行っていた場合には、ジョブを再実行してください。
- 別のディスク・ボリュームにファイルを作成してください - この処置は、ファイルが取り外し不能ボリュームにある場合に行います。
- そのボリューム上にファイルを再作成してください。このボリュームに対し、装置サポート機能の下記の機能を実行してください。
 1. INIT によるボリュームの初期設定。
 2. INSPECT による代替トラックの割り当てとトラック・レクラメーション。

バックアップ・テープからボリュームの最新バックアップをリストアしてください。

- 可能であれば、別の装置にバックを取り付けてジョブを再実行するようオペレーターに指示してください。その結果、ジョブが正しく実行されれば、最初に使用していたドライブに故障があるものと考えられます。

これで問題を解決できなければ、ROD コマンドを出し EREP を実行するようオペレーターに依頼してください。16 ページの図 1 を参照してください。プログラムの出力を必要に応じて使用できるよう留意し、既知問題データベースの検索を弊社に

依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

4n07I NO RECORD FOUND [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このメッセージが出される原因は、次のいずれかが考えられます。

- システムがシステムのラベル情報域でラベル情報レコードを検索中に該当レコードなし条件が発生しました。
- FBA DASD のブロック 1 に記憶されているデータが、標準 VOL1 ラベル ID で始まっていません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージが取り外し可能ボリュームの CKD ディスクを表している場合は、正しいボリュームが取り付けられているかを確認してください。正しければ、オペレーターが該当するボリュームを別の装置に取り付けた後で、ジョブを再実行してください。これには新しくシステム・スタートアップを行わなければならないことがあります。

メッセージが、取り外し不能ボリュームのディスク装置を表している場合には、ジョブを再実行してください。エラーが繰り返し発生するようであれば、装置サポート機能の INIT を実行し、バックアップ・テープからボリュームを再作成しなくてはならないことがあります。問題が解決しない場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

4n08t (NO UTL0 FILE MARK FOUND IN RECORD FOUND) [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。ユーザー・ヘッダー・ラベルまたはトレーラー・ラベルの検索中、あるいは最初のトレーラー・ラベルを書き込むためのアドレスを得ようとして UTL0 ファイル・マーク・キーを検索中、該当レコードなし条件が発生しました。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- CANCELV を入力し該当するボリュームの VTOC の印刷出力を得てからジョブを取り消すか、END/ENTER を押して VTOC 印刷出力なしにジョブを取り消してください。
- DSNPLYV を入力して該当するボリュームの VTOC の印刷出力を得てから、IGNORE を入力して処理を続行させてください。
- IGNORE を入力し、該当するボリュームの VTOC の印刷出力を出さずに処理を続行させてください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合、正しいボリュームが取り付けられているかを確認してください。正しければ、

該当するボリュームに対し LVTOC を実行して (または DSPLYV 出力を使用して)、そのユーティリティーの出力とプログラム中のラベル・ルーチンの予想される出力とを比較してください。必要に応じてプログラムを訂正し、ジョブを再実行してください。

4n09I NO RECORD FOUND [*filename*][SYSxxx = *cuu*][*volume-id*]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。VTOC でファイル・ラベルを検索中に、該当レコードなし条件が発生しました。これはハードウェア・エラーであると考えられます。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 正しいボリュームが取り付けられているかを確認してください。ジョブを再実行してください。エラーが繰り返し発生し、取り外し可能ボリュームを使用している場合には、該当するボリュームを別の装置に取り付けてからジョブを再実行してください。

注意:

ヘッドが破損している場合には、正しく作動している装置で壊れたボリュームを使用すると、損傷が他にも伝わる場合があります。

次の処置により、ボリュームを再作成する必要があることがあります。

1. このボリュームに次の装置サポート機能を実行してください。
 - a. INIT によるボリュームの初期設定。
 - b. INSPECT による代替トラックの割り当てとトラック・レクラメーション。
2. バックアップ・テープからボリュームの最新のバックアップをリストアしてください。

4210I LOAD FOR xxxxxxxx NOT SUCCESSFUL.
RC = *r*

説明: VSAM フェーズ (xxxxxxx で示されている) をロードすることができません。戻りコード (*r*) が理由を示しています。このコードは 10 進数で表示されます。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: システム管理者に連絡してください。

プログラマーの応答: GETVIS マクロからの戻りコードについては、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』を参照してください。

4211I (SAM|ISAM) mac1, VSAM mac2 RC = r
[EC = *e*]

説明:

- SAM ESDS の管理 SAM オープンでファイルのための ACB を作成しようとしたが、GENCB は RC (戻りコード) および EC (エラー・コード) に示されているように正しく行われませんでした。

- 問題プログラムが ISAM マクロ (*mac1*) を出し、ISAM インターフェース・プログラム (IIP) が、VSAM マクロ (*mac2*) を出しました。 *mac2* の実行が失敗したので VSAM はレジスター 15 に戻りコード (*r*) を、レジスター 0 にエラー・コード (*e*) を設定してエラーの原因を示しています。これらのコードは 10 進数で表示されます。

DTF で IOROUT = ADD の場合には、*mac1* の WRITE A が WRITE NEWKEY を示しています。DTF で IOROUT = LOAD の場合には、*mac1* の WRITE L が WRITE NEWKEY を示しています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 「IBM z/VSE メッセージおよびコード第 2 巻」の『VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』で戻りコードとエラー・コードを調べてください。管理 SAM オープンに対して、RC=4 と EC=8 が出された場合には、区画 GETVIS ストレージをさらに割り振ってください。戻りコードとエラー・コードのそれ以外の組み合わせが、管理 SAM によって出された場合には、IBM サポートに連絡してください。問題が再度起こる場合には、以下の使用できる項目を入手して援助を求めてください。

- システム・ヒストリー・ログ
- ジョブ・ストリーム
- 経過記録用紙 (ログ・シート)
- プリンター出力
- ファイルの LISTCAT 出力
- LSERV 出力

4212I ISAM mac1, VSAM mac2 RC = r EC= e

説明: 問題プログラムが ISAM マクロ (*mac1*) を出し、ISAM インターフェース・プログラム (IIP) が、VSAM マクロ (*mac2*) を出しました。 *mac2* の実行は失敗し、VSAM はレジスター 15 に戻りコード (*r*) を、RPL にエラー・コード (*e*) を設定して、エラーの原因を示しています。これらのコードは 10 進数で表示されます。DTF で IOROUT = ADD の場合には、*mac1* の WRITE A が WRITE NEWKEY を示しています。DTF で IOROUT = LOAD の場合には、*mac1* の WRITE L が WRITE NEWKEY を示しています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 「IBM z/VSE メッセージおよびコード第 2 巻」の『VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』を参照して、VSAM マクロの戻りコードとエラー・コードを調べてください。問題が再度起こる場合には、以下の使用できる項目を入手して援助を求めてください。

- システム・ヒストリー・ログ
 - ジョブ・ストリーム
 - 経過記録用紙 (ログ・シート)
 - プリンター出力
 - プログラム・リスト
-

**4213I ISAM mac1, VSAM mac2 RC = r
(SHOWCB FAILED RC = r2 [EC = e2])**

説明: 問題プログラムが ISAM マクロ (mac1) を出し、ISAM インターフェース・プログラム (IIP) が、VSAM マクロ (mac2) を出しました。mac2 の実行は失敗し、VSAM はレジスター 15 に戻りコード (r) を設定しました。IIP は、RPL からエラー・コードを取り出すために VSAM SHOWCB マクロを出しましたが、SHOWCB も失敗し、レジスター 15 に戻りコード (r2) が、レジスター 0 にエラー・コード (e2) が設定されました。これらは、10 進数で表示されます。DTF で IOROUT = ADD の場合には、mac1 の WRITE A が WRITE NEWKEY を示しています。DTF で IOROUT = LOAD の場合には、mac1 の WRITE L が WRITE NEWKEY を示しています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: VSAM マクロの戻りコードとエラー・コードを調べてください。

問題が再発する場合には、問題判別のために以下のものを使用することができます。

- システム・ヒストリー・ログ
- ジョブ・ストリーム
- 経過記録用紙 (ログ・シート)
- プリンター出力
- プログラム・リスト

4214I ISAM mac1, VSAM mac2 RC = r EC= e

説明: 問題プログラムが ISAM マクロ (mac1) を出し、ISAM インターフェース・プログラム (IIP) が、VSAM マクロ (mac2) を出しました。mac2 の実行は失敗し、VSAM はレジスター 15 に戻りコード (r) を、ACB にエラー・コード (e) を設定して、エラーの原因を示しています。これらのコードは 10 進数で表示されます。DTF で IOROUT = ADD の場合には、mac1 の WRITE A が WRITE NEWKEY を示しています。DTF で IOROUT = LOAD の場合には、mac1 の WRITE L が WRITE NEWKEY を示しています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: VSAM マクロの戻りコードとエラー・コードを調べてください。

問題が再発する場合には、問題判別のために以下のものを使用することができます。

- システム・ヒストリー・ログ
- ジョブ・ストリーム
- 経過記録用紙 (ログ・シート)
- プリンター出力
- プログラム・リスト

**4215I ISAM mac1, VSAM mac2 RC = r
(SHOWCB FAILED RC = r2 [EC = e2])**

説明: 問題プログラムが ISAM マクロ (mac1) を出し、ISAM インターフェース・プログラム (IIP) が、VSAM マクロ (mac2) を出しました。mac2 の実行は失敗し、VSAM はレジスター 15 に戻りコード (r) を設定しました。IIP は、ACB

からエラー・コードを取り出すために VSAM SHOWCB マクロを出しましたが、SHOWCB も失敗し、レジスター 15 に戻りコード (r2) が、レジスター 0 にエラー・コード (e2) が設定されました。これらは、10 進数で表示されます。DTF で IOROUT = ADD の場合には、mac1 の WRITE A が WRITE NEWKEY を示しています。DTF で IOROUT = LOAD の場合には、mac1 の WRITE L が WRITE NEWKEY を示しています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: VSAM マクロの戻りコードとエラー・コードを調べてください。

問題が再発する場合には、問題判別のために以下のものを使用することができます。

- システム・ヒストリー・ログ
- ジョブ・ストリーム
- 経過記録用紙 (ログ・シート)
- プリンター出力
- プログラム・リスト

**4221A ATTEMPT m Of n ENTER PASSWORD
FOR JOB jobname FILE file-id S JOB jobname
code**

説明: メッセージで示されている VSAM ファイルは、セキュリティ保護されており、パスワードは、ファイルがアクセスされる前にオペレーターが指定しなければなりません。1 から 8 文字のコードがファイルのファイル ID の代わりに現れることもあります。m はこの指定の回数で、n は正しいパスワードの許容指定回数です。VSAM カタログがセキュリティ保護されている場合には、VSAM ファイルがアクセスされる前、またはアクセス方式サービス・コマンドが処理される前に適切なパスワードがカタログに与えられなければなりません。

システムの処置: システムはファイルを処理するために、正しいパスワードをオペレーターが指定するのを待ちます。

オペレーターの応答: ファイルまたは VSAM カタログに必要なパスワードを入力してください。正しいパスワードを 2 回以上指定する必要もあります。許容指定回数は、ファイルの所有者またはファイルを作成したプログラマーによって決められます。正しいパスワードが分からない場合には、ジョブを取り消すか、END/ENTER (これによりジョブが取り消される) を押してください。

オペレーターが IMPORT、IMPORTRA、または RESTORE ジョブを取り消した場合には、ファイルの新しい版が定義される前に、古い、保護のなされていない版は (カタログが保護されていたとしても) 削除されます。正しいパスワードを指定して、ジョブを実行し直してください。

プログラマーの応答: オペレーターが IMPORT、IMPORTRA、または RESTORE ジョブを取り消した場合には、ファイルの新しい版 (バージョン) が定義される前に、古い、保護のなされていない版は (カタログが保護されていたとしても) 削除されます。正しいパスワードを指定して、ジョブを実行し直してください。

4222I *r, jobname, xxxx*

説明: VSAM カタログ管理処理中にエラーが検出されました。アクセス方式サービス戻りコード (*r*) で、エラーのタイプが示されます。このコードは 10 進数で表示されます。アクセス方式サービス・プログラムの戻りコードは、IDCAMS 戻りコードおよび理由コード にリストされています。処理中のジョブの名前 (*jobname*) と、エラーを検出した VSAM カタログ式プロシージャの名前の最後の 4 文字 (*xxxx*) がメッセージに示されます。

システムの処置: 説明中の指示を参照してください。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 説明中の指示を参照してください。

4223I *xxxx1, xxxx2, xxxx3, ...xxxxn*

説明: エラーが起きたときに使用していた VSAM カタログ管理プロシージャのグループが、使用順にリストされています。リストされた最後のプロシージャ (*xxxxn*) は、エラーを検出したモジュールです。プロシージャ名の最後の 4 文字がリストされています。

システムの処置: システムは、SYSLST にメッセージ IDC3007I または IDC3009I を印刷します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SYSLST に印刷されたメッセージを参照してください。

4224I *ec, cb, xxx, id*

説明: VSAM カタログの処理中に、VSAM レコード管理がエラーを見つけました。(レコード管理は、カタログ項目の読み取りおよびカタログ項目への書き込みに使用されます。) このメッセージは、メッセージ 4222I および 4223I の後で出されます。このメッセージの各フィールドの意味は次のとおりです。

ec = Le

論理エラー (*e* は VSAM レコード管理の 8 の戻りコードと関連するエラー・コードで、10 進数で表示されます。)

ec = Pe

物理的なエラー (*e* は VSAM レコード管理の戻りコード 12 と関連するエラー・コードで、10 進数で表示されます。)

エラー・コードの記述を参照してください。エラー・コードは、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻」の『VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』にリストされています。

cb エラーとなった入出力のタイプを示す制御バイト。

アドレス指定された PUT -- 00, 20

キー指定された PUT -- 19, 1B, 38, 3A, 3C

キー指定された ERASE -- 72

アドレス指定された GET -- 80, 88, A0, A8

キー指定された GET -- B2, BA

キー指定された GET (以上) -- BB

xxx マスター・カタログが処理された場合は、MCT。

xxx ユーザー・カタログが処理された場合は、ユーザー・カタログ装置のアドレス (CUU)。

id エラーが起きた時点で処理中であったカタログ論理レコードに対する ID。id の値はレコードのキー (EBCDIC)、またはレコードの相対制御インターバルの番号 (16 進数) のいずれかです。

システムの処置: 要求を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IBM サポートにお問い合わせください。VSAM カタログのリストアが必要になることもあります。アクセス方式サービスの PRINT コマンド (DUMP 形式) を、カタログの印刷で使用することもできます。

4225I **FILE *fileid* -- DATA SET NOT CLOSED OR PREVIOUS CLOSE FAILED**

説明: ファイルは、処理の最後で正しくクローズされませんでした。これは、(1) システムの故障、(2) CLOSE 中、または CLOSE マクロが出される前にエラーによりジョブ・ステップが中止した、(3) 処理プログラムが CLOSE マクロを出さなかった、あるいは (4) VSAM 自動クローズが正しく行われなかったことによるものです。ファイルの終わりまたはキーの範囲の終わりで追加されたレコードの上に、後続の新しいレコードを上書きすることができます。これは、新しいファイルの終わりまたはキーの範囲が、ファイルのカタログ項目に示されていないことによります。さらに、ジョブの終了時にはまだファイルに書き込まれていないバッファ内にあった新しい、または更新されたレコードが失われていることもあります。

システムの処置: OPEN 処理は完了し、ファイルは処理可能状態になります。X '04' の戻りコードがレジスター 15 にセットされ、X '74' のエラー・コードが ACB にセットされます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 前のジョブの実行中に、レコードの追加、削除、または更新が行われなかった場合には、ファイルは、データの安全性については問題なく、指定どおりに処理することができます。レコードの追加、削除、または更新が行われた場合には、該当するトランザクションが実際にレコードに記録されたかを判別してください。ファイルを削除したい場合には、アクセス方式サービスの DELETE コマンドを出してください。

4226I **AUTOMATIC CLOSE COULD NOT BE STARTED. FILE = (*ddname*|N/A) R = *dd***

説明: システムは指定されたファイルに対して、自動クローズ操作を開始することができません。メッセージ中の *dd* は、以下に示すような理由を示します。これにより、問題判別が容易になります。考えられる理由は、以下に示すように理由コード "R" で定義されます。

理由コード:

意味:

*R = 1: オープン ACB リストに入っているものと同じ ACB のアドレスが、区画外の位置を指しています。

*R = 2: クローズしようとした ACB が正しくありません。

R = 3: クローズしようとした ACB がオープンしません。

R = 4: クローズしようとした ACB がアクティブです。

- *R = 5:** アクセス方式ブロック・リストのアドレスが区画外の位置を指しているか、あるいは AMBL フィールドのいくつかが破壊されました。
- *R = 6:** VSAM プレースホルダー (目印) のアドレスが、区画外の位置を指しています。
- *R = 7:** VSAM プレースホルダーが正しくありません。
- R = 8:**
VSAM プレースホルダーがアクティブです。
- R = 9:**
区画の境界を得ることができませんでした。
- R = 10:**
オープン ACB リスト (OAL) または OAL へのポインターが正しくありません。
- R = 11:**
自動クローズ (IKQACLOS) の CDLOAD で障害が起きました。
- R = 12:**
自動クローズ作業域の GETVIS で障害が起きました。
- R = 13:**
区画境界に対する EXTRACT が正しく行われませんでした。

メッセージ 4226I の以下の理由コードは、SAM ESDS の管理 SAM アクセスに対して適用されます。
- R = 20:**
ACB は管理 SAM の自動クローズを示していますが、SAM 機能の VSE/VSAM スペース管理がシステムにありません。
- R = 21:**
CDLOAD は、管理 SAM の自動クローズ・フェーズ (IKQSMACL) に対して正しく行われませんでした。
- *R = 22:**
BPL は、非 CA 形式アクセスだけ許可しません。
- *R = 23:**
BPL に DTF ポインターがありません。
- *R = 24:**
DTF アドレスは区画外を指しています。
- *R = 25:**
DTF タイプは、管理 SAM ファイルでは正しくありません。
- R = 26:**
VSAM がオープンされていない DTF をクローズしようとした。
- *R = 27:**
プログラムが VSAM に管理されていない DTF をクローズしようとした。

以下のコードは VSAM カタログまたは CRA のクローズのみに適用されます。VSAM が常にカタログまたは CRA を暗黙的にオープンするため、FILE= は、これらのコードでは使用することができません。
- *R = 30:**
AMCBS ポインターが正しくありません。

- *R = 31:**
CAXWA ポインターまたは項目が正しくありません。
- R = 32:**
自動割り当て解除 (IKQVASMT) の CDLOAD で障害が起きました。
- R = 33:**
割り当て解除要求が失敗しました。

*これらの条件は、区画で実行中のレコードにより、制御ブロックの内容またはブロック・フィールドのいくつかの内容が偶発的に壊された場合に生じます。

システムの処置: メッセージに示されたファイルはクローズされません。システムは他のファイル、カタログ、および CRA の自動クローズを終了させようとしています。

オペレーターの応答: SYSLOG 出力を保管して、プログラマーが使用できるようにしてください。

プログラマーの応答: 示された条件の原因となった論理エラーが、プログラムにないかどうか調べてください。問題が繰り返し起こる場合は、IBM サポートに連絡してください。問題判別のために、以下のものを用意してください。

- システム・ヒストリー・ログ
- SYSLOG の出力
- ジョブ・ストリーム
- ソース・プログラム・リスト

4227I **AUTOMATIC CLOSE WAS NOT SUCCESSFUL. FILE = (ddname|N/A) CLOSE ERR CODE = X'nn'**

説明: CLOSE エラー・コードを参照してください。エラー・コードは、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻」の『VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』にリストされています。コードは 16 進数で表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。ほとんどの場合、ファイルはクローズされていません。

オペレーターの応答: SYSLOG 出力を保管して、プログラマーが使用できるようにしてください。

プログラマーの応答: ファイルに MACRF=OUT が指定されており、そのデータを再び使用する場合には、アクセス方式サービスの VERIFY コマンドを実行してください。ジョブを再サブミットする前に、プログラムを訂正して、障害の原因となった条件の再発を防いでください。

4228I **FILE filename macro ERROR X'nn' (mmn) CAT=dddddd (rr,mm,ss) (moduleid) (text)**

説明: 示されている VSAM 操作 (OPEN、CLOSE、または TCLOSE) 中に、ACB エラー・フラグが X 'NN' (括弧内は 10 進数) にセットされました。エラー・コードを参照してください。エラー・コードは、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻」の『VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』にリストされています。dddddd はオブジェクトを検索されているカタログのファイル名です。'..N/A..' というファイル名はどのカタログもアクティブでないことを意味しています。'..INT ..' は VSAM により内部的に作成されたファイル名

であることを示します。エラーがカタログ管理ルーチン内で検出された場合、

rr = カタログ管理戻りコード・リスト

mm = エラーを検出したカタログ管理モジュールの接尾語

ss = カタログ管理理由コード

詳しくは、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻」の『IDCAM5 戻りコードおよび理由コード』を参照してください。(moduleid) は、エラーを検出した VSAM OPEN/CLOSE モジュールの名前です。text は、問題判別のサービス技術者を援助するために付加的に作成されたテキストです。テキストが「内部 IKQOCMSG エラー」の場合、メッセージ・ルーチンは、矛盾のある情報を受け取りました。問題を IBM に報告してください。

システムの処置: レジスター 15 の戻りコードは、処理を続行するかどうかを示しています。

オペレーターの応答: SYSLOG 出力を保管して、プログラマーが使用できるようにしてください。

注: filename が ACB の DDNAME パラメーターに指定されていない場合、filename は ACB の内部名です。内部名が存在しない場合、filename はブランクです。SYSLSST 出力を参照して、さらに情報を見つけてください。

プログラマーの応答: エラー・コードに示された条件の原因となった論理エラーが、プログラムに存在していないか調べてください。これらのエラーを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

4n30t FMT1-DLBL UNEQUAL [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。

DLBL ステートメント中のファイル通し番号、作成日、または満了日が、該当するファイルの形式 1 ラベル中の、対応するフィールドと一致していません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- CANCELV を入力し、VTOC の印刷出力を入手してからジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- DSPLYV を入力して VTOC の印刷出力を入手する。その後、IGNORE を入力して処理を続行させる。

プログラマーの応答: DLBL ステートメント中の指定を調べてください。ジョブに永続ラベル情報を使用した場合は、最新の LSERV 出力を使ってください。正しいボリュームにアクセスしてファイルを探しているかを確認してください。ジョブを再実行してください。

4n31t VOLUME SEQUENCE ERROR

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このメッセージが出される原因は、次のいずれかが考えられます。

- 現在処理中のマルチボリューム順次ファイルのボリュームが、ファイルが作成されたときの順序と同じ順序で処理されていません。
- 1 つのボリューム・ファイル・エクステントに、異なった論理装置が指定されています。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- CANCELV を入力し、VTOC の印刷出力を入手してからジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- DSPLYV を入力して VTOC の印刷出力を入手する。その後、IGNORE を入力して処理を続行させる。

プログラマーの応答: EXTENT ステートメントが、指定されたエクステント順序番号の昇順でシステムに渡されているかを確認してください。また論理装置の指定が正しいのかも確認してください。入手できれば、CANCELV または DISPLYV 出力の順序番号フィールドを、最新の LSERV 中の順序番号フィールドと比較してください。必要に応じて訂正を行い、ジョブを再実行してください。

4233A EQUAL FILE-ID IN CATALOG

[filename]SYSxxx=cuu[volserno]

説明: SAM ESDS の管理 SAM アクセスには、未満了 VSAM カタログ項目として 44 バイトのファイル ID がすでに存在しています。以前、同じ ID を使用して別のジョブがファイルを作成し、完了前に取り消された可能性があります。メッセージ 4228I の後に、このメッセージが出されます。

システムの処置: SYSLOG がキーボードに割り当てられていれば、システムはオペレーターの応答を待ち、その他の場合には、ジョブを取り消します。

オペレーターの応答:

- CANCEL を入力するか、END/ENTER を押してジョブを取り消すか、または DELETE を入力して未満了ファイルをリセット (上書き) し、処理を続行させてください。これ以外の応答をすると、INVALID RESPONSE メッセージが出されます。
- 標準 (永続) ラベルが使用された場合には、LSERV を実行して、出力をプログラマーに渡してください。

プログラマーの応答: VSAM カタログの LISTCAT を入手して、未満了ファイルを削除できるかどうかを調べてください。未満了ファイルの削除、異なる VSAM カタログの指定、ファイル ID の変更のいずれかを行ってください。

4n33t EQUAL FILE ID IN (VTOC|CATALOG)

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このメッセージが出される原因は次のいずれかです。

- 44 バイトのファイル ID が、満了日前の形式 - 1 ラベルとしてすでに VTOC 中にあります。
- 別のジョブが同じ ID を持つファイルを作成しました。
- または、このジョブは、完了前に取り消されたこの前の実行でファイルを作成しました。

タイプ・コードが D、n=4、およびジョブが DUMPINIT の時にはこのメッセージは再実行中の場合のみ出され、通常インストール中は発生しません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- CANCELV を入力し、VTOC の印刷出力を入手してからジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- DSPLYV を入力して VTOC の印刷出力を入手する。その後、DELETE を入力して処理を続行させる。この応答はプログラマーから指示があった場合だけ用いてください。この応答を行うと同じファイル ID をもつ満了日前のファイルが削除されます。

プログラマーの応答: メッセージが VSAM 以外のファイルを表している場合、最新の LVTOC 出力 (または入手できれば CANCELV か DSPLYV の出力) で満了日前のファイルを削除してよいかどうかを調べてください。満了日前のファイルを削除するか、別のディスク・ボリュームを使用するか、または指定のファイル名を変更してください。ジョブを再実行してください。

4n34I CURRENT FILE LBL DELETED

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。出力ファイルまたは作業ファイルのエクステントが、現ファイルとオーバーラップしています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 最新の LVTOC 出力と、永続ラベル情報が使われている場合には最新の LSERV 出力を入手してください。エクステントが、現ファイルとオーバーラップしているファイルを見つけてください。現ファイルまたはそれとオーバーラップしているエクステントの指定を訂正してください。必要があれば、削除されたファイルを再作成してジョブを再実行してください。

4n35I DELETED WORKFILE LABEL

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。別の、以前にオープンされたファイルのエクステントが作業ファイルの限界とオーバーラップしており、作業ファイルを削除する応答が出されました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 最新の LVTOC 出力と、永続ラベル情報が使われている場合には最新の LSERV 出力を入手してください。エクステントが、現ファイルとオーバーラップしているファイルを見つけてください。必要に応じてエクステントの指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

4n36I NO MORE AVAIL/MATCH XTNT [filename]

[SYSxxx = cuu][volume-id]

[POINT-ID=X'ccccccrr']

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。メッセージ中では、c と r は次のように使われます。

cccccc = ファイル中の CI 番号 (0 に対する)
rr = CI 内のレコード番号 (1 に対する)

連続した OPEN 要求の結果、使用可能なエクステントを全部使ってしまったか、またはシステムが前の POINT マクロで得られたものに一致するエクステントを見つけないことができません。メッセージが VSAM 管理ファイルを表し、POINT - ID 変数が表示されていない場合は、次のいずれかの状態が起きています。

- 正しいクラスに、または該当するファイルを入れることのできるボリュームに、十分な VSAM データ・スペースがありません。
- ファイルのエクステントの最大数に達しました (再使用可能として定義されているファイルでは、最大数は 1 つのファイルにつき 123、1 つのボリュームにつき 16)。

POINT - ID 変数が表示されている場合は、そのアドレスが現在のファイルの割り振りの限界を超えています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ポイント ID がいない場合には、次のいずれかを行ってください。

- 適格ボリューム上にさらに VSAM データ・スペースを定義するか、適格ボリュームの数を増やすことによって、正しいクラスの VSAM データ・スペースが十分使用できるようにしてください。
- 1 次または 2 次 (あるいはその両方) の割り振りサイズを大きくして、2 次割り振りの必要性を少なくしてください。

ポイント ID がある場合には、POINTR または POINTW がファイルの現在の割り振りを超過して指定していないかを調べてください。

問題が再発する場合には、問題判別のために以下のものを使用することができます。

1. システム・ヒストリー・ログ
2. ジョブ・ストリーム
3. システム・ログ
4. システム・ダンプ
5. プログラム・リスト
6. LISTCAT 出力
7. LSERV 出力

4n37I CHAINING TO SYSTEM UNIT

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。プログラムは、DTFUDU マクロを介してシステム論理装置へのコマンド・チェーンを指示しています。システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージに示されているシステム論理装置を参照している DTFUDU マクロで、CMDCHN オペランドを 1 に変更してください。ジョブを再実行してください。

4n38t USER HDR LBL IS NOT STD.

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。現在処理中のユーザー・ヘッダー・ラベルの最初の 3 文字が UHL ではありません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- IGNORE を入力して処理を続行させる。

プログラマーの応答: プログラム中のユーザー・ヘッダー・ラベルを作成するルーチンを訂正してください。

4n39t USER TRL LBL IS NOT STD

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。現在処理中のユーザー後書きラベルの最初の 3 文字が UTL ではありません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- IGNORE を入力して処理を続行させる。

プログラマーの応答: プログラム中のユーザー後書きラベルを作成するルーチンを訂正してください。

4n40t EXTENT OVERLAPS ANOTHER

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。順次ファイルで指定されているエクステントが、同じファイルに指定されている別のエクステントとオーバーラップしています。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - END/ENTER を押して、ジョブの取り消しをシステムに指示してください。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: DLBL および EXTENT ステートメントがジョブ・ストリームに含まれている場合には、矛盾するエクステントの指定を見つけて、それを訂正してください。ジョブで永続ラベル情報が使われていた場合は、最新の LSERV 出力を調べて、矛盾するエクステント情報を見つけてください。新しいラベル情報 (DLBL および EXTENT ステートメント) を渡して、ジョブを再サブミットしてください。

4n41t EXTENT OVERLAPS ON VTOC

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。EXTENT ステートメントで指定されているエクステントが、VTOC エクステントとオーバーラップしています。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- CANCELV を入力する。これにより、システムは VTOC 表示を出し、ジョブを取り消します。この表示を必要に応じて使用できるようにしてから、担当のプログラマーにメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: 最新の LVTOC 出力リストで、ディスク上の VTOC の位置を調べてください。取り消されたジョブが、一時ラベル情報セットを使って処理された場合には、このメッセージの原因である EXTENT ステートメントを訂正してください。ジョブが永続ラベル情報を使って処理された場合には、最新の LSERV 出力で誤りのあるエクステント・ステートメントを見つけてください。

訂正したラベル情報 (DLBL および EXTENT ステートメント) を再度渡してジョブを再サブミットしてください。

4n42t **NO MATCHING EXTENT** *[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]*

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。指定されたエクステントが、ファイルのラベル内のエクステントと一致していません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- CANCELV を入力する。これにより、システムは VTOC 表示を出し、ジョブを取り消します。この表示を必要に応じて使用できるようにしてから、担当のプログラマーにメッセージを報告してください。
- DSPLYV を入力して VTOC の印刷出力を入手する。次に BYPASS を入力して、該当するエクステントの検査を行わず処置を続行させてください。

プログラマーの応答: 一時ラベル情報が使われていた場合には、EXTENT ステートメント中で指定されたエクステントを LVTOC 出力リストに示されたエクステントと比較してください。標準 (永続) ラベル情報が使われていた場合には、最新の LSERV 出力に示されたエクステントを LVTOC 出力リストに示されたものと比較してください。

4n43I **INV EXTENT HI/LO LIMITS**
[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。ISAM ADD または ISAM ADDRTR ファイルで、あるいは ISAM LOAD ファイルで、指定されたエクステントの下限がそのファイルのレベル内のエクステントに一致しません。ISAM RETRVE ファイルで、DTFIS 中で指定された装置が、ファイルがロードされる装置と一致していないか、または指定されたエクステントがファイルの形式 1 ラベルに限界の記録してあるエクステントと一致していません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 物理装置タイプを DTFIS で指定されている装置タイプと比較してください。それらが一致していなければ (例えば、一方が 3330 で、他方が 3340)、DTFIS を変更するか、ファイルを正しい装置上で再作成してください。

永続ラベル情報が使われていた場合には、LSERV 出力でエクステントの開始アドレスを見つけてください。一時ラベル情報が使われていた場合には、該当する EXTENT ステートメントでこのアドレスを調べてください。エクステントに関する情報を調べるには、最新の LVTOC か LSERV 出力リストまたはその両方を参照してください。必要な訂正を行って、ジョブを再実行してください。

4244A **OVERLAP ON UNEXPRD FILE**
[filename][SYSxxx = cuu][volserno]

説明: VSAM は以下に対してデータ・スペースを定義しようとしています。

- DEFINE スペース、カタログ、または固有のクラスターか代替索引
- 固有のクラスターまたは代替索引の IMPORT(RA)

EXTENT ステートメントで指定されたエクステント (ファイル名および SYSxxx で示されています) または DEFINE SPACE または DEFINE CATALOG の ORIGIN パラメーターが、装置 cuu およびボリューム volserno 上の、満了日に達しておらず、データ保護のなされていない非 VSAM ファイルのエクステント範囲 (VTOC ファイル項目) と重なり合っています。システムの処置: SYSLOG がキーボードに割り当てられていれば、システムはオペレーターの応答を待ち、その他の場合には、ジョブを取り消します。

オペレーターの応答:

1. CANCEL または CANCELV を入力するか、END/ENTER を押してジョブを取り消すか、あるいは DSPLYV を入力して VTOC 表示を入手してから、BYPASS を入力して該当するエクステントおよび該当するファイルの残りのエクステントの処理をバイパスしてください。ジョブが取り消されます。あるいは、DSPLYV を入力して VTOC 表示を入手してから、DELETE を入力して、重なり合っているファイルを削除してください。この処置は、指示された場合にのみ行うようにしてください。通常の操作状態のもとでは、SYSRES ラベル・ファイルは削除しないでください。また、多重プログラミング・システムでは、別の区画で必要となることがあるエクステントを削除しないでください。
2. DSPLYV を入手できなかった場合には、ボリュームに対して LVTOC システム・ユーティリティを実行してください。
3. ステップ 1 で DELETE を入力せず、ジョブで標準 (永続) ラベルを使用する場合は、LSERV を実行し、SYSLOG および SYSLST 出力すべてをプログラマーに渡してください。

プログラマーの応答: ORIGIN パラメーターで指定されたか、または EXTENT ステートメントで指定されたか、または VTOC 表示のファイル範囲をもつ LSERV 出力で指定されたエクステントの上限と下限を比較してください。エクステントが重なり合っている場合には、エラーのある EXTENT ステートメントを訂正し、重なり合いがなくなるようにしてください。満了日に達していないファイルが削除される場合には、このメッセージが表示された時点で DSPLYV を入力してから DELETE を入力するようオペレーターに指示してください。ジョブを再実行依頼してください。

4n44t **OVERLAP ON UNEXPRD FILE**
[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。

EXTENT ステートメントに指定されているエクステントが、メ

ッセージに示されているボリューム上の満了日前の非 VSAM 管理ファイルの少なくとも 1 つのエクステントとオーバーラップしています。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- CANCELV を入力して、VTOC リストを入手してからジョブが取り消されるようにする。メッセージをプログラマーに報告してください。
- DSPLYV を入力して VTOC リストを入手する。次に BYPASS を入力して、そのエクステント (または該当する VSAM メンバー) の処理がスキップされるようにする。
- ジョブを再実行依頼するときに、このメッセージが再び出された場合は、プログラマーの指示に従ってファイルを削除する。

プログラマーの応答: EXTENT ステートメントまたは最新の LSERV 出力 (いずれか該当する方) に指定されているエクステントの上限および下限を、VTOC に保管されているエクステントの限界と比較してください。これを調べるには、最新の LVTOC 出力か、CANCELV または DSPLYV 応答の出力を使ってください。エラーのある EXTENT ステートメントを訂正してジョブを再実行してください。あるいは、該当する満了日前のファイルを削除してもよい場合は、ジョブを再実行し、このメッセージが再び出されたら DELETE を入力するようオペレーターに指示してください。

注: ファイル ID が次のような場合は、オーバーラップしているファイルを削除してはなりません。

DANGER.EMU.DISK.DUMMY.AREA.***.NEVER.DELETE

この場合には、指定されたエクステントを訂正するのが適切な処置です。

4n45I TOO MANY EXTENTS [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このメッセージが出される原因は、次のいずれかが考えられます。

- 1 つの索引順次ファイルに 3 つを超えるエクステント・タイプが指定されている。
- IBM 提供プログラム用に複数のエクステントが入力された。
- DA ファイルで、ユーザー・ラベル付きボリュームに 15 より多くのエクステントが指定されたか、ユーザー・ラベルなしのボリュームに 16 より多くのエクステントが指定された。
- SD ファイルで、256 より多くのエクステントが指定されているか、または指定のエクステント順序番号が 255 を超えた。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかの該当する処置をとってから、ジョブを再実行してください。

- エクステント・タイプの指定を訂正してください。
- 連続エクステントをまとめて 1 つに定義して、エクステントの数を少なくしてください。

永続ラベル情報が使われていた場合は、最新の LSERV 出力を使用してエクステントの指定を確認してください。

4n46I DISCONT INDEX EXTENTS [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このメッセージが出される原因は次のいずれかです。

- マスターおよびシリンドー索引の限界が隣接していません。
- ファイルの DTFIS マクロがマスター索引を使用するよう指定していますが、マスター索引エクステントが用意されていません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ファイルのエクステントの指定を訂正してから、ジョブを再実行してください。最新の LSERV 出力を使って、現在のエクステントの限界を調べてください。

4n47t EXTENTS NOT ON SAME UNIT [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。指定されたエクステントが同じ論理装置を参照していないか、または同じ論理装置を指定していても異なったボリューム上にあります。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 必要な割り当てがすべて正しく行われているかどうか、正しいボリュームが取り付けられているかどうかを調べてください。以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- CANCELV を入力して、VTOC のリストを入手してからジョブが取り消されるようにする。メッセージをプログラマーに報告してください。
- DSPLYV を入力して VTOC のリストを入手する。次に、BYPASS を入力して処理を続行させる。

プログラマーの応答: エクステントの指定を調べて訂正してください。ジョブに永続ラベル情報が使われた場合には、最新の LSERV 出力を用いて調べてください。エクステントの指定を既存のエクステント限界に照らして検査するには、CANCELV または DSPLYV の出力を使用してください。

**4n48I SYSIN/SYSOUT UNSUPPORTED IN
DYNAMIC PARTITION**

[filename]SYSxxx=cuu|volser]

説明: 動的区画は、動的区画中で実行することができないジョブが始動される場合は取り消されます。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 静的区画でジョブを再始動してください。

4n49I DATA TRACK LIMIT INVALID

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このメッセージは、次のいずれかの状態のときに出されます。

- 該当する索引順次ファイルの基本区域が、
 - シリンダーの境界で始まっていません。または、
 - シリンダーの境界で終わっていません。
- ファイルの DTFIS マクロで IOROUT=ADDRTR が指定されていますが、ラベル情報ステートメント・セットはロード・ファイルを参照しています (DLBL ステートメントのラベル・タイプに ISC が指定されています)。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 索引順次ファイルの基本データ域のラベル情報がシリンダーの境界上で始まって終わっているかを確認してください。ジョブの処理に永続ラベル情報が使われた場合には、最新の LSERV 出力を用いて該当するファイルのエクステント情報を調べてください。エクステント情報を (DLBL および EXTENT ステートメント・セットを置き換えて) 訂正してから、ジョブを再実行してください。ISAM - LOAD ファイルでは、DTFIS マクロが IOROUT=ADDRTR を指定していないことを確認してください。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

4250I NO MORE AVAILABLE EXTENTS

[filename]SYSxxx = cuu|volserno]

説明: SAM ESDS の管理 SAM アクセスで、ユーザーが別のエクステントの割り振りを要求しましたが、結果は次のいずれかかとなっています。

- エクステントの最大数を獲得しました。(REUSABLE の場合、ボリューム当たり 16 エクステントで、どんな場合でも合計は 123 エクステント)
- 要求したクラスの VSAM データ・スペースが、ファイルのカタログ項目に入っているボリュームでは使用可能ではありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: 標準 (永続) ラベルが使用された場合には、LSERV を実行して、出力をプログラマーに渡してください。

プログラマーの応答: LISTCAT を入手して、ファイルに割り振られたエクステントの数を調べてください。ファイルを削除し再定義して、ディスク・スペースが十分に割り振られるようにしてください。ファイルが暗黙的に定義された場合には、フ

ァイルのラベル情報を検査し、ファイルの割り振りサイズを調べてください。ボリューム当たり 16 エクステントの限度を超えた場合、または VSAM データ・スペースがファイルのカタログ項目に入っているボリュームでは使用可能でない場合には、アクセス方式サービス ALTER ADDVOLUMES コマンドを使用して、ファイルの候補ボリュームのリストにさらにボリュームを加えることによって、必要なデータ・スペースを確保してください。

4n50t NO MORE AVAILABLE EXTENTS

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このメッセージが出される原因は、次のいずれかが考えられます。

- 使用できるエクステントはすべてオープンされたが、プログラムはさらにエクステントを要求している。
 - 順次ディスク・ファイルに OPEN が出されたが、このファイルは (1) 複数のエクステントをもっており、(2) 以前にオープンされましたがまだクローズされておらず、(3) オープンされたエクステントは一度に 1 つしかもたない。
- システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。
- オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。
- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
 - CANCELV を入力して、VTOC のリストを入手してからジョブが取り消されるようにする。メッセージをプログラマーに報告してください。
 - DSPLYV を入力して VTOC のリストを入手する。その後、新しいエクステントの限界を次の形式で入力する。

```
relative-track,number-of-tracks
relative-block,number-of-blocks
```

相対トラック (または相対ブロック) とトラック数 (ブロック数) には、プログラマーから指示された値を指定してください。

プログラマーの応答:

- 該当するファイルの EXTENT ステートメントをすべて調べ、スペースの不足が原因であればさらにエクステントが使用できるようにしてください。ジョブに永続ラベル情報が使われた場合には、LSERV 出力を用いてファイルが使用しているエクステントを調べてください。EXTENT ステートメント中のラベル情報を訂正してから、ジョブを再実行してください。出力ファイルでこのメッセージに対する応答として出すエクステント情報は、そのファイルを再び入力に使用するときにはシステムにとっても使用可能になっていなければなりません。

メッセージが VSAM 管理ファイルを表している場合、LISTCAT 出力を用いてファイルに割り振られているエクステントを調べてください。その後、次のいずれかの処置をとってください。

- ファイルを削除して再定義し、より多くのスペースを使用できるようにしてください。ジョブを再実行してください。
- ファイルが暗黙のうちに定義されたなら、割り振りの大きさを調べてください。1つのボリュームにつき16のエクステントの限界を超えていたり、使用可能なボリュームにもうデータ・スペースが残っていなかったりしたら、アクセス方式サービスの ALTER ADDVOLUMES コマンドを使用してそのファイルにさらにスペースを割り振ってください。

4n51I SYSUNITS NOT IN SEQUENCE

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。EXTENT ステートメント中のプログラマー論理装置の指定は、連続番号の昇順になっていなければなりません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: EXTENT ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

4n52I DISCONT TYPE 1 EXTENTS

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。マルチボリューム・ファイルの基本データ・エクステントが、シリンダーの境界で始まっておらず、また終わっていません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ファイルの基本データ域のラベル情報がシリンダーの境界で始まり、終わるよう、確認してください。ジョブの処理に永続ラベル情報が使われた場合には、最新の LSERV 出力を用いて該当するファイルのエクステント情報を調べてください。エクステント情報を (DLBL および EXTENT ステートメント・セットを置き換えて) 訂正してから、ジョブを再実行してください。

4253I VSAM CANNOT BE INITIALIZED, reason

説明: これは、メッセージ・テキストに表示されます。この場合、理由は以下のいずれかです。

仮想記憶が足りない

CDLOAD が失敗

このメッセージと共に、使用可能なストレージが不足している (エラー X '32 ', 10 進数の 50) ことを示すメッセージ 4228I が出されることもあります。

システムの処置: VSAM OPEN 処理は終了します。

オペレーターの応答: メッセージにストレージ不足や CDLOAD 障害が示される場合は、ALLOC ステートメントを使用して区画のサイズを大きくしてください。そうでない場合は、メッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: メッセージで、ストレージが不足しているか、または CDLOAD の失敗が示された場合には、オペレー

ターに区画のサイズを増やしてもらい、ジョブを再サブミットしてもらってください。

4n54I DSKXTN ENTRY TABLE FULL

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。システムには、ファイルに指定されたすべてのエクステントを処理するだけの十分なテーブル・スペースがありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 以下のいずれかです。

- エクステントの数を減らしてジョブを再実行してください。
- プログラムの DTFDA マクロ中の DSKXTNT=N により大きい値を指定して、プログラムを再アセンブルしてください。プログラムをリンクし、ジョブを再実行してください。

4n55t WRONG PACK, MOUNT volume-id.

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。誤ったディスク・ボリュームが取り付けられています。メッセージは必要なボリュームの ID を表示します。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード A の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード A の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- CANCELV を入力して、VTOC リストを入手してからジョブが取り消されるようにする。メッセージをプログラマーに報告してください。
- 現在マウントされているボリュームに開いているファイルが入っていないことが分かっている場合は、正しいボリュームをマウントして NEWPAC を入力し、システムに処理を続行させる。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、正しいボリュームが取り付けられていることを確認してからジョブを再実行してください。最新の LVTOC リスト (または入手できれば CANCELV 出力) を調べて、正しいボリューム取り付け指示を出しているか確認してください。

4n56t WRONG MODULE SIZE [filename][SYSxxx

= cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。IBM 3340 のマルチボリューム ISAM または DAM ファイルに、異なった型式の 3348 データ・モジュールが取り付けられています。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョ

ブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- CANCELV を入力して、VTOC リストを入手してからジョブが取り消されるようにする。メッセージをプログラマーに報告してください。
- 現在マウントされているボリュームに開いているファイルが入っていないことが分かっている場合は、正しいボリュームをマウントして NEWPAC を入力し、システムに処理を続行させる。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、ファイルにアクセスしているプログラムが正しいタイプのデータ・モジュールを使用できる状態になっていることを確認してからジョブを再実行してください。最新の LVTOC リスト (または入手できれば CANCELV 出力) を調べて、正しいボリューム取り付け指示を出しているか確認してください。

4258I NO EXTENT FOR OUTPUT FILE

[filename]SYSxxx = cuu|volserno]

説明: SAM ESDS - SAM アクセスで、順次出力ファイルまたは作業ファイルに、1 次割り振りが行われませんでした。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: 標準 (永続) ラベルが使用された場合には、LSERV を実行して、出力をプログラマーに渡してください。

プログラマーの応答: 適格ボリューム上に、より大きな VSAM データ・スペースを定義するか、あるいは適格ボリュームの数を増やすことによって、正しいクラスの十分な VSAM データ・スペースが使用可能となるかを確かめてください。

問題が再発する場合には、問題判別のために以下のものが必要となる場合があります。

1. システム・ヒストリー・ログ
2. ジョブ・ストリーム
3. システム・ログ
4. プリンター出力
5. LISTCAT 出力
6. LSERV 出力

4n58I NO EXTENT FOR OUTPUT FILE

[filename]SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。メッセージに示されているファイルはエクステントを必要としています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: すべての EXTENT ステートメントのオペランド (指定されたものも想定されたものも) が有効であるか調べてください。ジョブの処理に永続ラベル情報が使われた場合には、最新の LSERV 出力を用いてファイルの指定を確認してください。

4n59t INVALID EXTENT [filename]SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このメッセージが出される原因は、次のいずれかが考えられます。

- 任意のタイプのディスク装置の場合: 直接アクセスまたは順次ディスク・ファイルの処理中、指定された装置の有効な境界内にエクステントが収まっていません。
- CKD ディスク装置の場合:
 - 分割シリンダーでは、最初の相対トラック番号が、分割シリンダー (上位) トラック番号より高くなっています。
 - DTFDA マクロの DSKXTENT=N で指定された値が小さすぎます。
- FBA ディスク装置の場合:
 - 指定されたエクステントの大きさが、1 つの制御インターバルより小さくなっています。
 - 指定されたエクステントが、制御インターバルの境界で始まっていません。
 - FBA 装置に分割シリンダーが指定されました。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - メッセージに示されている装置のタイプに応じて、以下のいずれかを行ってください。

- メッセージがディスク上のファイルを表している場合は、次のいずれかの操作を行ってください。
 - END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
 - CANCELV を入力して、VTOC リストを入手してからジョブが取り消されるようにする。メッセージをプログラマーに報告してください。
 - DSPLYV を入力して VTOC のリストを入手する。その後、BYPASS を入力して、エクステントの検査を行わずに処理を続行させる。この結果、無効なエクステントは永久に無視されます。プログラムを新しい DLBL と EXTENT ステートメントを用いて実行すれば、エクステントの検査は再び行われるようになります。

プログラマーの応答: 次のいずれか、該当するもの。

- メッセージがディスク装置を表している場合は、該当するファイルの EXTENT ステートメント中の相対アドレスの指定を調べてください。これには最新の LVTOC (CANCELV または DSPLYV) 出力リストを用い、永続ラベル情報が使われた場合には、最新の LSERV 出力も用いてください。必要に応じてエクステント情報を訂正しジョブを再実行してください。

4n60I NO EXTENTS, ALL BYPASSED

[filename]SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このメッセージが出される原因は次のいずれかです。

- 前の実行時の BYPASS の応答によってエクステントが除去されているため、オープンされたエクステントがありません。
- FEOVD マクロが出されましたが、新しいボリュームに使用できるエクステントがありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 必要なエクステントを用意して、ジョブを再実行してください。

4261I INVALID DLBL FUNCTION

[filename][SYSxxx = cuu][volserno]

説明: ユーザーは、管理 SAM (DTF) オープンで VSAM DLBL を与えましたが、SAM 機能の VSE/VSAM スペース管理がインストールされていません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: 標準 (永続) ラベルが使用された場合には、LSERV を実行して、出力をプログラマーに渡してください。

プログラマーの応答: DLBL カードまたは標準 (永続) ラベルのファイル・タイプおよびファイル記述が正しいか調べてください。正しい DLBL 情報を指定した上で、ジョブの再サブミットをしてください。

4n61I INVALID DLBL FUNCTION

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このメッセージが出される原因は、次のいずれかが考えられます。

- ディスク・ラベルが DTF ファイル・タイプに一致しません (例えば、DLBL ステートメントで DA が指定されていますが、ファイルはプログラム中で DTFSD マクロによって定義されています)。
- FBA ファイルをオープンしようとしたが、ラベル情報域中のそのファイルのエクステントは CKD 用に変換されています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: DLBL ステートメント (または永続ラベル情報) のファイル・タイプとファイルの記述が正しいかどうか調べてください。DLBL ステートメントに正しい情報を指定して、ジョブを再実行してください。必要があれば、ラベル情報域中の該当するラベル情報を訂正してください。

4n62I NO PRIME DATA EXTENT

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。索引順次ファイルにタイプ 1 のエクステント (データ域、非分割シリンダー) がありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: タイプ 1 基本データ域エクステントを定義する EXTENT ステートメントを追加して、ジョブを再実行

してください。エクステントの指定を確認するには、最新の LSERV および LVTOC 出力リストを使用してください。

4n63I LOAD FILE NOT CLOSED

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このメッセージが出される原因は次のいずれかです。

- プログラムが ISAM ロード・ファイルを作成したときに、これをクローズしませんでした。
- 該当する ISAM ファイルの DLBL ステートメントが、ISC (作成) ではなく ISE (拡張、追加、検索) を指定していません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 必要があれば、CLOSE マクロを追加し、プログラムを再アセンブルして再リンクしてください。ロード・ファイルを (再) 作成するために ISC を DLBL ステートメントに指定して、ジョブを再実行してください。

4n64I INVALID HDR1 LABEL *[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]*

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。処理中のファイルの HDR1 ラベルが、次のいずれかの理由で無効です。

- 非基本交換が指定されました。
- バイパス標識が指定されました。
- マルチボリューム標識が、ブランク、文字 C、L のいずれでもありませんでした。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ファイルの HDR1 ラベルを訂正して、ジョブを再実行してください。

4n66t 1 TRACK USER LBL EXTENT

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。ユーザー標準ラベルの処理が指定されていますが、現在処理中のファイルの最初のエクステントには 1 つのトラックしかありません。ユーザー・ラベルを処理するためには、ファイルの最初のエクステントに少なくとも 2 つのトラックがなければなりません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- CANCELV を入力して、VTOC リストを入手してからジョブが取り消されるようにする。メッセージをプログラマーに報告してください。

- DSPLYV を入力して VTOC のリストを入手する。次に、BYPASS を入力する。これにより、システムは、エラーのあるエクステントの検査を行わずに処理を続行します。
- プログラマーの応答: エラーのあるエクステント指定を訂正してジョブを再実行してください。エクステント指定を検査するには、最新の LVTOC (CANCELV または DSPLYV) 出力リストを使用してください。

4n67I CVH PROCESS FAILURE RC=nnn [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。システム・ルーチンの共通 VTOC ハンドラー (CVH) がサービス要求を処理することができません。RC=nnn は理由コードで、主にエラー分離のためにシステムが提供するものです。このコードについては、633 ページの『共通 VTOC ハンドラー (CVH) 戻りコード』に簡単な説明があります。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージに RC=004 または RC=012 が表示されていたら、オペレーターに ROD コマンドを出すよう指示してください。EREP を実行してください。

DEV=(nnnn) ステートメントで SYSREC 装置を指定してください。16 ページの図 1 を参照してください。プログラムの出力を必要に応じて使用できるよう用意し、IBM 既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

表示されている戻りコードがユーザーのプログラミングのエラーを示していたら、必要に応じて訂正を行ってください。ジョブを再実行してください。

4n68t USER LBLs EXHAUST FIRST EXTENT [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。該当するファイルの最初のエクステントが、ユーザー・ラベルを処理するのに十分な大きさではありません。これらのラベルには、ファイルに使用される制御インターバル (CI) サイズに応じて、1 つ、2 つ、または 4 つの CI が必要です。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- CANCELV を入力して、VTOC リストを入手してからジョブが取り消されるようにする。メッセージをプログラマーに報告してください。
- DSPLYV を入力して VTOC のリストを入手する。次に BYPASS を入力する。これにより、システムはエラーのあるエクステントの検査を行わずに処理を続行します。

プログラマーの応答: エラーのあるエクステントを訂正し、ジョブを再実行してください。エクステント指定を検査するには、最新の VTOC リスト (LVTOC の出力または CANCELV/DSPLYV 応答の出力) を使用してください。

4n69I FILE IS OPEN FOR ADD [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。

トラック保護を指定した ADD または ADDRTR DTF をオープンしようとしています。形式 - 2 ラベルは、この機能のためにファイルがすでにオープンされていることを示しています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 失敗した OPEN が出されるときに、該当するファイルにロード拡張または別の追加タイプの DTF がすでにオープンされているかどうか調べてください。オープンされているなら、その DTF をクローズしてからでなければ、HOLD=YES を指定した ADD または ADDRTR DTF をオープンすることはできません。プログラムを訂正して、ジョブを再実行してください。

4n70I 1ST XTNT CD NOT INDX VOL [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。システムは指定の ISAM ファイルの索引が SYSxxx に割り当てられた装置上にあるものと予期しています。メッセージに表示されている SYS xxx はファイルの最初の EXTENT ステートメントで指定されており、このステートメントは索引の入っているエクステントを定義しなければなりません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 正しいボリュームを取り付けてあるかを確認してください。間違えたボリュームが取り付けてあれば、正しいボリュームを取り付けてジョブを再実行してください。エラーのあるファイルのエクステント情報を調べてください。ジョブの処理に永続ラベル情報が使われている場合は、最新の LSERV 出力を用いてファイルのエクステント情報を調べてください。エクステントの指定を確認するには、最新の LVTOC 出力を用いてください。EXTENT ステートメント (1 つまたは複数) に訂正を加えてから、ジョブを再実行してください。

4n71I EXTENT INFO NEEDED [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。追加または追加 - 検索操作で、索引順次ファイルにエクステント情報が与えられませんでした。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 必要に応じて EXTENT ステートメントを用意して、ジョブを再実行してください。エクステントの指定を確認するには、最新の LVTOC リストを用いてください。

4n72I MOD AND DTF INCOMPATIBLE

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このメッセージが出される原因は次のいずれかです。

- ISMOD マクロに CORDATA=YES がある状態でアセンブルされた ISAM モジュールが、DTFIS マクロに IOSIZE=nxxx がない状態でアセンブルされた DTF テーブルを処理するよう要求されました。
- IOSIZE=nxxx で指定された値が小さすぎて、少なくとも 1 つの基本データ・レコードを入れることができません。

メッセージ中に示されている論理装置は、シリンダー指標を表します。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: DTFIS マクロ中の IOSIZE の値を訂正するか、ISMOD マクロから CORDATA の指定を取り除いてください。必要に応じてプログラムを再アセンブルおよび再リンクし、ジョブを再実行してください。

4n73t LMOD NOT CURRENT LVL RC=nn

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。ファイルの DTF テーブル中の論理モジュール・アドレスが、割り当てられた装置または要求された機能をサポートしないモジュールを指しています。メッセージに表示される理由コード (RC=nn) は次のいずれかです。

- 01 = SVA 論理モジュールが最新のレベルにありません。
- 02 = プログラムにリンク・エディットされた論理モジュールが最新のレベルにありません。
- 03 = 論理モジュールが、IBM 提供モジュールではないか、または DOS/VS リリース 34 以前の IBM 提供モジュールです。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - プログラマーからの指示に従って、以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- IGNORE を入力して処理を続行させる。

プログラマーの応答: 論理モジュールを、最新のレベルの適切な IBM 論理モジュールで置き換えてください。ジョブを再実行してください。

4n74I BLKSIZE OPEN FAILURE RC=nnn

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。DTFXX マクロまたは DLBL ステートメント中に指定されている BLKSIZE の値が無効です。理由コード (RC=nnn) が問題の原因を詳しく示しています。このコードは次のいずれかです。

- 001 = 指定された値が、CKD 装置のトラック容量または FBA 装置の最大ブロック数 - 7 を超えています。
- 002 = DLBL ステートメントで指定された BLKSIZE の値が、DTFxx マクロで指定された BLKSIZE の値より大きく、ユーザーのプログラムには、より大きいバッファのための十分な GETVIS スペースがありません。
- 003 = DLBL ステートメントで指定された BLKSIZE の値が、作業ファイルまたは非ブロック化ファイル用です。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 必要に応じて訂正を行ってください。必要があればプログラムを再アセンブルおよび再リンクし、ジョブを再実行してください。

注: DTFxx マクロ中の BLKSIZE=nxxx (DLBL ステートメント中の指定) を変更してください。

4n75I BLKSZ NOT MULT OF RECSZ

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。ファイルの DLBL ステートメントで指定している BLKSIZE の値が、プログラムで使用されている RECSIZE の値の合計の整数倍 + 8 になっていません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: DLBL ステートメント中の BLKSIZE の指定を訂正するか、または、この指定を取り除いてください。ジョブを再実行してください。

4n76t VOLUME SERIAL NOT volume-id1

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id2]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。EXTENT ステートメントで指定されたボリューム ID volume-id1 が、割り当てられた取り外し不能ボリュームに保管されている ID volume-id2 と一致しません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。

- CANCELV を入力して、VTOC リストを入手してからジョブが取り消されるようにする。メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合、正しいテープ・ボリュームが取り付けられているかを確認してください。間違えたボリュームが取り付けられていれば、正しいボリュームをオンラインにしてからジョブを再実行してください。そうでない場合は、EXTENT ステートメントを訂正してジョブを再実行してください。エクステントの指定を確認するには、最新のLVTOC (CANCELV) 出力リストを用いてください。

4n77t EXTENT ENTRY ERROR -- RETRY

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。メッセージ 4N50D に対する応答としてコンソールから入力された 1 つまたは複数のエクステント・フィールドで、エラーが検出されました。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: メッセージ 4n50T に対する応答の説明を参照してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、メッセージ 4n50T に対する応答の説明を参照してください。

4n78I NO LOGIC MODULE RC=nn

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。該当するファイルの DTF テーブル中の論理モジュール・アドレスが 0 で、そのテーブルにリンクされた論理モジュールはありません。SVA 中の RPS 論理モジュールは使用できません。その理由は、メッセージに表示された理由コード (RC=nn) が示しています。

- 01 = 監視プログラムは RPS をサポートしていません。
- 02 = SVA 中のスペースが不足して、RPS 論理モジュールをロードできません。
- 03 = プログラムは実モードで実行中です。
- 04 = プログラムの EXEC ステートメントで SIZE オペランドが指定されていません。
- 05 = プログラムには GETVIS スペースが不足しているため、DTF テーブルの拡張を行えません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 以下のいずれかです。

- SVA 中の RPS サポートをプログラムで使用できない理由を (理由コードを見て) 調べてください。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。
- プログラムを新しい論理モジュールにリンク・エディットし、ジョブを再実行してください。

4279I GETVIS FAILED RC=nnn [filename]SYSxxx = cuu\volserno]

説明: SAM ESDS の管理 SAM アクセスで、オープン/クローズ機能の作業ストレージを得るために GETVIS が出されましたが、以下に示す RC (理由コード) 値 nnn によって示されるように、GETVIS は正しく行われませんでした。001 - DSA (動的ストレージ域) スペースが使用できませんでした。002 - DTF 拡張のスペースが使用できませんでした。003 - CI バッファのスペースが使用できませんでした。004 - 保管域のスペースが使用できませんでした。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: ジョブが正しい区画で実行されているかをチェックしてください。

問題が再発する場合には、問題判別のために以下のものを使用することができます。

1. システム・ヒストリー・ログ
2. MAP コマンド出力
3. ジョブ・ストリーム
4. システム・ログ

プログラマーの応答: SIZE パラメーターが EXEC ステートメントに指定されているか確かめて、EXEC ステートメントの SIZE パラメーターに指定されたサイズを小さくするか、あるいはジョブを実行する区画の区画割り振りを増やしてください。これによって、区画 GETVIS 域のサイズが大きくなります。

4n79I GETVIS FAILED RC=nnn [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。OPEN または CLOSE 機能の作業ストレージを得るために出された GETVIS マクロが、メッセージに表示されている戻りコード (RC=nnn) が示す理由で失敗しました。これらのコードについては、619 ページの『VSE 拡張機能戻りコード』での OPEN マクロまたは CLOSE マクロの説明を参照してください。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: より多くの GETVIS スペースを使用可能にしてから、ジョブを再実行してください。これには、次のいずれかの方法を用いてください。

- EXEC ステートメントの SIZE に指定する値を小さくしてください。
- 区画へのストレージの割り振りを拡大するか、別のより大きい区画を使用してください。

4n80I INVALID FILE TYPE [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このファイルの DTF テーブルに無効なタイプ・コードが入っています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムのソース・リストを検査し、問題のあるファイルに無効な指定がないかを調べてください。これらの指定には、明示的指定と想定された指定とがあります。ファイルの DTF テーブルが上書きされていないかどうか調べてください。必要な訂正を行って、ジョブを再実行してください。

4n81I NO LABEL INFORMATION

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このメッセージが出される原因は、次のいずれかが考えられます。

- システムのラベル情報域に、示されたファイルのラベル情報がありません。
- テープ・ファイルと同じファイル名のディスク・ラベル、またはディスク・ラベルと同じファイル名のテープ・ファイルがオープンされているのが見つかりました。(例: テープ・ファイル DLBL の代わりにディスク・ラベル TLBL、またはディスク・ラベル TLBL の代わりにテープ・ファイル DLBL)
- システム・ラベル域の並行更新により、現在、ラベル情報が使用できません。例えば、// OPTION STDLABEL (=ADD/DELETE) が /& で正しく終わっていない可能性があります。

システムの処置: システムはメッセージ 1A80 を出すか、またはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 最新の LSERV 出力を使用して、システムのラベル情報域に永続的に保管されているラベル情報を調べてください。まだ永続的に保管されておらず、繰り返し使用するのに必要なラベル情報を渡してください。ラベル情報を永続的に保管する方法については、「z/VSE Guide to System Functions」を参照してください。

4n82I ISAM NULL FILE [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。

説明: システムは (既存の) 空の ISAM ファイルをオープンしようとしていました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 既存の ISAM ファイルに OPEN を出す場合は、このファイルが少なくとも 1 つの基本データ・レコードを含んでいることを確認してください。

4283I INVALID LOGICAL UNIT [filename] SYSxxx = cuu |oolserno]

説明: SAM ESDS の管理 SAM アクセスで、DTFSD TYPEFLE=WORK を使用して IJSYSLN (SYSLNK) をオープンしようとしていました。IJSYSLN (SYSLNK) ファイルの作業ファイル・アクセスが正しくありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: LISTIO コマンドを出して、割り当てを検査してください。割り当てを訂正して、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: 記号装置が正しいか、さらに、正しい DTF タイプを使用しているかを調べてください。問題が再発する場合には、LISTIO 出力が正しく割り当てられているかを調べてください。問題判別のために、以下のものを用意してください。

1. システム・ヒストリー・ログ
2. プログラム・リスト
3. ジョブ・ストリーム
4. リンク・エディット・マップ

監視プログラム・アセンブリー・リストに、正しい装置タイプ指定があるかを調べてください。

4n83I INVALID LOGICAL UNIT [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。このメッセージが出される原因は、次のいずれかが考えられます。

- ASSGN ステートメントで指定された論理装置が、EXTENT ステートメントまたは DTFxx マクロで指定された装置 (いずれかが該当する方) と同じではない。
- 論理装置が割り当てられていない。
- 論理装置が IGN(IGNORE) を指定されている。
- DAM ファイルについて、エクステン트가オンラインでないか、または装置が作動可能状態でない。
- マルチボリューム・ファイルに、異なるタイプのボリュームが含まれている。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 下記の項目を調べて、必要な訂正を行ってください。

- システムのスタートアップ時に、該当する ASSGN ステートメントで指定された装置が、ADD ステートメントで定義されていることを確かめる。
- 論理装置の指定が、プログラムと ASSGN ステートメントで一致していることを調べる。
- マルチボリューム・ファイルに同一タイプのボリュームのみが含まれていることを確かめる。

ジョブを再実行してください。

4n84A DEVICE IS WRITE PROTECTED [filename][SYSxxx=cuu]

説明: 出力装置が書き込み保護されています。

システムの処置: SYSLOG が表示タイプのコンソール装置に割り当てられている場合は、システムはオペレーターの応答を待ちます。割り当てられていない場合は、システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 正しいテープ・ボリュームが取り付けられているかどうか調べてください。テープ・ボリュームに問題がなければ、リールから書き込み保護をはずして、IGNORE と入力すれば、処理が続行されます。

注: 複数ファイル・ボリュームについては、ボリュームの最初のファイルが消去される場合にのみ、上記の処置が有効になります。この処置が無効の場合は、CANCEL と入力するとシステムがジョブを取り消します。

以上の処置が失敗した場合は、ボリュームを別の装置に取り付けて、影響を受けた論理装置をその新しい装置に再割り当てしてください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、そのジョブを再実行し、その際書き込み保護されていないテープ・リールが、割り当てられたテープ装置に取り付けられていることを確認してください。

4n85I **SYSxxx AND SYSyyy ARE ASSIGNED TO THE SAME PHYSICAL UNIT**

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。同じ装置に 2 つの論理割り当てが行われました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージに表示された 2 つの論理装置が別々の装置に割り当てられることを確認してから、ジョブを再実行してください。

4n86t **TAPE UNIT NOT READY [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]**

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。テープ装置にセンス・コマンドが出されましたが、このテープ装置は作動不能の状態になっています。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - システムはジョブを取り消します。タイプ・コード A の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード A の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- END/ENTER を押してジョブを取り消す。メッセージをプログラマーに報告してください。
- テープ装置を作動可能な状態にし、IGNORE を入力して処理を続行させる。
- テープ・ボリュームを別の装置に取り付け、ジョブを再実行する。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合、ジョブを再実行し、その際、作動可能で割り当てられているテープ装置に正しいテープ・ボリュームが取り付けられていることを確認してください。

4n87I **SYS FILE EXTENT EXCEEDED**

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。システム出力ファイルへの書き込み中に、エクステントの上限を超えました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エクステントの指定は正しいかどうか、指定したエクステントにはファイル全体を入れる十分な大きさがあるかどうかを調べてください。必要な訂正を行って、ジョブを再サブミットしてください。エクステントの指定を確認するには、最新の LVTOC リストおよび該当する場合は最新の LSERV 出力を利用してください。

4288I **EOF ON SYSTEM FILE**

説明: SAM ESDS の管理 SAM アクセスの場合に、DTFCP INPUT ファイル・アクセスで次のエクステントが要求されましたが、エクステントがありません。(DTFCP INPUT ファイル・アクセスでは、EOFADDR に送る SEOF (ソフトウェアのファイルの終わり) が読み取られなければなりません。エクステントがないことにより、エラー条件となりました。)

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 入力ファイルを再作成し、ジョブを再サブミットしてください。問題が再発する場合には、問題のあるファイルの印刷出力を入手してください。問題判別のために、以下のものを用意してください。

1. システム・ヒストリー・ログ
2. システム・ログ
3. プリンター出力
4. ジョブ・ストリーム
5. ファイルを作成したプログラムのプログラム・リスト

4n88I **EOF ON SYSTEM INPUT FILE**

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: システムは、ディスクに割り当てられているシステム入力ファイルからの読み取り中に、ファイルの終わりまたはエクステントの終わりに達しました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 入力ファイルを再作成し、ジョブを再実行してください。

4n89I **WORKFILE NOT SUPPORTED FOR SYSFIL [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]**

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。OPEN が、ディスク装置に割り当てられている SAM ファイルに出されました。DTFxx マクロは TYPEFLE=WORK を指定し、システム・ファイルが DTFxx マクロまたは EXTENT ステートメントのいずれかで指定されました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかの変更をしてください。

- DTFxx マクロまたは EXTENT ステートメント中で指定されているシステム論理装置を、プログラマー論理装置にする。
- DTFxx マクロ中の TYPEFLE 指定を、INPUT または OUTPUT にする。

4n90I EXTENT AREA EXHAUSTED

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。エクステント域がシステムまたは動的 GETVIS スペースを取得できません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: より多くの GETVIS スペースを使用可能にしてから、ジョブを再実行してください。

4n91I WORKFILE NOT ON ONE VOLUME

(filename) SYSxxx = cuu

説明: 作業ファイルの入力タイプ OPEN が試行されましたが、そのファイルは複数のボリュームに入っています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: アクセスされるファイルが、単一のボリュームに入っていることを確認してください。

4292I NO CISIZE CATALOG ENTRY

[filename]SYSxxx = cuu|volserno]

説明: SAM ESDS の管理 SAM アクセスで、ユーザーが DTFSD によって、INPUT の NOCIFORMAT SAM ESDS を処理しようとした。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: DTFSD を使用してファイルを再作成するか、あるいは DTFPH を使用して、CI 形式のファイルを再作成して、DTF に CI サイズを指定してください。

4n92I NO CI SIZE IN (FORMAT 1 LABEL|CATALOG ENTRY)

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。メッセージに FORMAT 1 LABEL と表示された場合は、そのファイルの形式 1 ラベルに制御インターバル・サイズが見つからず、プログラムは DTFPH 以外の DTFxx マクロを使用してファイルを処理しようとしています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージに FORMAT 1 LABEL と表示された場合は、ファイルを再作成し、DTFxx マクロまたは DLBL ステートメント中で制御インターバル・サイズを指定してください。

4294I CISIZE INCORRECT [filename]SYSxxx = cuu|volserno]

説明: SAM ESDS の管理 SAM アクセスで、ユーザーが 0 より大きい 8 よりも小さい CISIZE を指定して、OUTPUT の DTFPH ファイルをオープンしようとした。(CIFORMAT DTFPH ファイルの場合、最大論理ブロック・サイズは CISIZE - 7 とみなされます。)

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: DTFPH に 7 よりも大きい CISIZE を指定してください。

4n94I CISIZE INCORRECT OR BLKSIZE TOO HIGH FOR FBA DEVICE

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。FBA ディスクに割り当てられている出力ファイルに対して OPEN が出されました - DTFSD マクロまたは DLBL ステートメントで制御インターバル・サイズが指定されました。このサイズが次のいずれかになってい

- 装置の FBA ブロック・サイズの倍数ではありません。
- 8 K より大きい場合、2 K の倍数ではありません。BLKSIZE で指定された値 + 7 を入れる十分な大きさがありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーのある CISIZE の指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

4n95I phasename NOT IN SVA [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。メッセージに示されたフェーズ名は、必要な OPEN または CLOSE フェーズ、あるいは論理モジュールで、SVA 中にありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のシステム・スタートアップ時に、示されたフェーズを SVA に必ずロードしてください。その上で、ジョブを再実行してください。

4n96I IMPROPER DTFSD SYSFIL OPEN

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。ディスク上の DTFSD システム・ファイル (SYSRDR, SYSIPT, SYSLST, SYSPCH) に OPEN が出され、DTFSD マクロで記述されたレコードは固定非ブロック化レコードではありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムを変更し、オープン中のファイルのレコードを固定非ブロック化レコードにするか、または指定する論理装置を SYSRDR, SYSIPT, SYSLST, SYSPCH 以外の装置にしてください。

42971 OV LAP EXPIRED SECRD FILE

[filename]SYSxxx = cuu\volserno]

説明: VSAM は以下に対してデータ・スペースを定義しようとしています。

- DEFINE スペース、カタログ、または固有のクラスターか代替索引
- 固有のクラスターまたは代替索引の IMPORT(RA)

定義されているデータ・スペースのエクステントの範囲は、満了となったデータ保護のなされているファイルのエクステントの範囲と重なり合っています。ファイル名がメッセージ・テキストに表示されている場合には、それが関連したエラーのある DLBL/EXTENT ステートメントに指定した重なり合っているエクステントを示します。ファイル名がメッセージ・テキストに示されていない場合には、DEFINE コマンドの ORIGIN パラメーターが、重なり合っているエクステントを示します。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: VTOC を表示してください (LVTOC ユーティリティ・プログラム)。ジョブで標準 (永続) ラベルを使用する場合には、LSERV プログラムを実行してください。SYSLOG および SYSLST 出力、および失敗したジョブをプログラマーに戻してください。

プログラマーの応答: VTOC リストを調べて、重なり合いが起きた個所を定めてください。重なり合いを取り除くためには、エラーの原因となった ORIGIN パラメーターまたは EXTENT ステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。重なり合いが、保管を必要としない、保護された非 VSAM ファイルで起こった場合には、保護されたファイルと同じファイル ID を使用して DTF をオープンし、オペレーターにメッセージ 4233A が出された時点で、DELETE で応答するよう伝えてください。重なり合いが VSAM スペースで起きた場合には、アクセス方式サービスの DELETE コマンドを使って、保管の必要がなければ VSAM スペースを削除してください。VTOC 項目 (VTOC と VTOC 以外の両方) は、VSAM ユーティリティ・プログラム IKQVDU を使って消去することができます。重なり合い条件を解消したあとでも問題が起こる場合には、以下のものを使用して問題判別を行うことができます。

1. システム・ヒストリー・ログ
2. VTOC 表示
3. 失敗したジョブ・ストリームおよび関連したリスト
4. 失敗した時点でのダンプ

4n971 OV LAP EXPIRED SECRD FILE

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。メッセージにファイル名が表示されている場合、それはエラーのある EXTENT ステートメントで定義された、オーバーラップしているエクステントを示しています。メッセージにファイル名が表示されていない場合は、DEFINE コマンド中の ORIGIN の指定が、オーバーラップしているエクステントを示します。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 最新の VTOC リストを調べて、どこでオーバーラップが起きているかを見つけてください。EXTENT ステートメントまたは ORIGIN の指定のいずれか該当する方を訂正し、ジョブを再実行してください。オーバーラップの起きているファイルが保管の必要のないファイルであれば、

1. 保護されているファイルと同じファイル ID を使って、DTFXX に OPEN を出してください。
2. システムが 4n33D メッセージを出したら、これに DELETE と応答するようオペレーターに指示してください。

42981 OV LAP UNEXPRD SECRD FILE

[filename]SYSxxx = cuu\volserno]

説明: VSAM は以下に対してデータ・スペースを定義しようとしています。

- DEFINE スペース、カタログ、または固有のクラスターか代替索引
- 固有のクラスターまたは代替索引の IMPORT(RA)

定義されているデータ・スペースのエクステントの範囲は、満了日に達していないデータ保護のなされているファイルのエクステントの範囲と重なり合っています。filename および SYSxxx は、EXTENT ステートメントを示します。cuu および volser は、ディスク装置およびボリューム通し番号を示します。

注: データと索引の両方のコンポーネント UNIQUE が指定され、かつ、同じボリュームにあるキーによるファイル (KSIDS または代替索引) の定義または指定を行っている場合には、このエラー・メッセージは、データと索引のエクステントが重なり合う場合に起こります。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: VTOC を表示してください (LVTOC ユーティリティ・プログラム)。ジョブで標準 (永続) ラベルを使用する場合には、LSERV プログラムを実行してください。SYSLOG および SYSLST 出力、および失敗したジョブをプログラマーに戻してください。

プログラマーの応答: UNIQUE を指定したキーによるファイルの DEFINE または IMPORT(RA) の場合には、データと索引のエクステントが重なり合っていないかを检查してください。重なり合っている場合には、エラーの原因となった ORIGIN パラメーターまたは EXTENT ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。DLBL および EXTENT 要件については、DEFINE CLUSTER コマンドの UNIQUE パラメーターを参照してください。VTOC リストを調べて、重なり合いが起きた個所を定めてください。重なり合いを除くためには、エラーの原因となった ORIGIN パラメーターまたは EXTENT ステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。重なり合いが、保管を必要としない、保護のなされた VSAM 以外のファイルで起きた場合には、保護のなされたファイルと同じファイル ID を使って DTF をオープンし、オペレーターにメッセージ 4233A が出された時点で、DELETE で応答するよう伝えてください。重なり合いが VSAM スペースで起きた場合には、アクセス方式サービスの DELETE コマンドを使って、保管の必要がなければ VSAM スペースを削除してください。VTOC 項目 (VTOC と VTOC

以外の両方) は、VSAM ユーティリティー・プログラム IKQVDU を使って消去することができます。重なり合い条件を解消したあとでもなお問題が起こる場合には、以下のものを使用して問題判別を行うことができます。

1. システム・ヒストリー・ログ
2. VTOC 表示
3. 失敗したジョブ・ストリームおよび関連したリスト
4. 失敗した時点でのダンプ

4n98I OVLAP UNEXPRD SECRD FILE

[filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。オープン中のファイルに定義されたエクステントが、満了日前のデータ保護ファイルの 1 つ以上のエクステントとオーバーラップしています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 最新の VTOC リストを調べて、どこでオーバーラップが起きているかを見つけてください。EXTENT ステートメントまたは ORIGIN の指定のいずれかが該当する方を訂正し、ジョブを再実行してください。オーバーラップの起きているファイルが保管の必要のないファイルであれば、

1. 保護されているファイルと同じファイル ID を使って、DTFXX に OPEN を出してください。
2. システムが 4n33D メッセージを出したら、これに DELETE と応答するようオペレーターに指示してください。

オーバーラップが VSAM 管理スペースで起きた場合は、そのスペースを保管する必要がなければ、アクセス方式サービスの DELETE コマンドを使ってスペースを削除してください。

このオーバーラップ条件の起きた原因が、固有キー・ファイルのための IMPORT (IMPORTRA) アクセス方式サービス・コマンドであれば、必要な DLBL または EXTENT の指定の UNIQUE パラメーターの説明を参照してください。

4n99D (DATA SECURED FILE|SECURED VOLUME) ACCESSED [filename][SYSxxx = cuu][volume-id]

説明: 360 ページの『4nxx メッセージの概説』を参照してください。メッセージ ID とシステムの処置に関するさらに詳しい説明があります。データ保護ファイルがオープンされようとしています。アクセス許可を付与するようにシステムがオペレーターに要求しています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: プログラマーの指示に従って、次のいずれかを行ってください。

- YES と入力してファイルのオープンとアクセスを許可してください。
- NO と入力するか END/ENTER を押して、ジョブを取り消してください。

プログラマーの応答: なし。

4Axx= VSE/VSAM メッセージ

4A37I FILE filename CATALOG ERROR DURING IMPLICIT (DEFINE|DELETE) - mmmm,aa,nnn [filename|SYSxxx = cuu|volserno]

説明: 暗黙の定義または暗黙の削除を行うためにカタログ管理が呼び出されたときに、ゼロ以外の戻りコードが返されました。mmm は 10 進数戻りコードの値、aa はエラーを検出したモジュールのモジュール ID、nnn は 10 進理由コードです。このメッセージは、メッセージ 4228I と共に表示されません。

システムの処置: エラー検出時に OPEN 処理が行われていた場合、オープン処理は終了します。エラー検出時に CLOSE 処理が行われていた場合、削除しても正常なクローズに支障をきたさないため、現行の ACB のクローズ処理は続行されます。

オペレーターの応答: SYSLOG 出力を保管して、プログラマーが使用できるようにしてください。

プログラマーの応答: カatalog管理戻りコードおよび理由コードを調べて、問題の原因となる論理エラーがないかどうかを判別してください。これらのコードは、IDCAMS 戻りコードおよび理由コードで説明されています。

4A40I DLBL EXPIRATION DATE OUTSIDE ACCEPTABLE RANGE FOR FILE filename

説明: SAM-ESDS の暗黙定義が失敗しました。ファイル filename の DLBL ステートメントに指定された満了日が無効であったためです。この日付が、99 年の可能な範囲を超えてい

ます。このメッセージのあとに、メッセージ 4228I が出されます。

システムの処置: 定義は失敗に終わります。

プログラマーの応答: DLBL ステートメントの日付パラメーターを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。有効な満了日は、現在の日付に等しいかそれより大きく、かつ 100 年以上も先の日付であってはなりません。

4A46I FUNCTION IN VSAM SPACE MGMT NOT SUPPORTED RC = nnn

説明: SAM ESDS の管理 SAM アクセスにおいて、DTF をオープンしようとしたが、失敗しました。その理由は、以下の RC (理由コード) 値 nnn によって示されます。

- 001 - スパン・レコードに対する DTFSD は、サポートされていません。
- 002 - ファイル名または論理装置がサポートされていません。
- 003 - ファイルは CI 形式であるのに、DTFPH はバージョン 3 の DTF ではありません。したがって、ユーザーのために CI サイズを保管しておく場所がありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

プログラマーの応答: ジョブが管理 SAM ファイルをアクセスするようになっているかどうか、機能が、SAM 機能のための VSE/VSAM スペース管理でサポートされているかどうかを確

認してください。必要に応じて訂正を行い、ジョブを再サブミットしてください。

4A57I REQUEST ERROR CODE X'*nm*' (*nmn*)

説明: SAM ESDS の管理 SAM アクセス中に、VSAM は、2 次割り振りまたはボリュームの取り付けを行えませんでした。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: SYSLOG 出力を保管して、プログラマーが使用できるようにしてください。

プログラマーの応答: 要求エラー・コードを参照してください。要求エラー・コードは、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻」の『VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』にリストされています。(エラー・コードを調べるとき、要求は終了したものと想定してください。すなわち、レジスター 15 に X '08' が入っているものとします。) メッセージが、仮想記憶が不十分であること、または CDLOAD 障害の発生を示している場合は、オペレーターが区画のサイズを増やした後、ジョブを再サブミットしてください。そうでない場合は、メッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

4A84A REQUIRE VOLUME *volserno* [*filename*]

説明: VSAM またはアクセス方式サービス・プログラムのジョブにおいて、*volserno* で識別されたボリュームをディスク装置に取り付けることが必要です。DLBL および EXTENT ステートメントがある場合は、*filename* が DLBL ステートメントを表しています。DLBL ステートメントがない場合は、メッセージ中に *filename* が現れません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

1. 必要なボリュームがすでに取り付けられているか、または取り外すことができない場合は、ディスク装置が「作動可能」であること、かつ「オンライン」であることを (ONLINE および DVCUP コマンドを使用して) 確かめてください。VOLUME コマンドを使用すると、装置の状況を照会することができます。
2. 要求されたボリュームをいずれかの装置に取り付けてください。そして、NEWPAC と応答して、処理を続行させてください。
3. ボリュームを取り付けることができない場合は、CANCEL と入力するか、または END/ENTER を押して、ジョブを取り消してください。SYSLOG および SYSLST 出力をプログラマーに戻してください。

プログラマーの応答: ジョブ・ストリームに、正しいボリューム通し番号 (*volserno*) を指定しているかどうかを確かめてください。ジョブをスケジュール変更してください。

4A87I AUTOMATIC CLOSE HAS BEEN STARTED

説明: タスク処理の終了時に、オープンしている VSAM ファイルが存在していることが検出されました。自動クローズがファイルをクローズしようとしています。

システムの処置: VSAM は、オープンしているファイルをクローズしようとしています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーザーのプログラムは、制御を戻す前にすべての VSAM ファイルを CLOSE しなければなりません。

4A88I AUTOMATIC CLOSE FOR *files* COMPLETED

説明: 自動クローズが、指定されたファイルをクローズしようとしてしました。クローズされたファイルの数が 4 より少ない場合は、*files* に、個々のファイル名が示されます。4 以上であれば、*files* は、クローズされたファイルの数を表します。*files* には、自動クローズが成功しなかった (メッセージ 4226I または 4227I で示される) ACB は含まれますが、更新セット内の ACB は含まれません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムが一部のファイルをクローズしなかったためにこのメッセージが出された場合は、*files* で示されたファイルをプログラムでクローズするようにしてください。

4A90I COMPRESSION MGMT ERROR DURING *service*

RETURN CODE= *rc*

REASON= *reason*

DSN= *cluster name*

説明: クラスタ *cluster name* への VSE/VSAM レコード管理アクセス中に、圧縮管理サービスが、示された *rc* コードと *reason* コードを返しました。COMPRESSION か EXPANSION *service* のいずれかで問題が発生しました。以下の表は、適切な機能に関連した戻りコードと理由コードを示しています。

表 3. 4A90I 戻りコードと理由コード:

戻りコード 0 に割り当てられた圧縮管理サービス理由コード:	
理由	説明
0	機能は正常に実行されました。

表 4. 4A90I 戻りコードと理由コード:

戻りコード 4 に割り当てられた圧縮管理サービス理由コード:	
理由	説明
2048	圧縮操作は正常に終了しました。圧縮管理サービスは、まだサンプリング・フェーズにあります。入力データ・セットは圧縮されていません。出力バッファーには入力バッファーのイメージ・コピーがありません。

表 4. 4A90I 戻りコードと理由コード (続き):

戻りコード 4 に割り当てられた圧縮管理サービス理由コード:	
2049	圧縮操作は正常に終了しました。辞書のトークンは判別され、 DICTIONARY_TOKEN_PTR によって指示されたストレージに戻されました。入力データ・セットは圧縮されていません。出力バッファには入力バッファのイメージ・コピーがあります。
2053	圧縮操作は正常に終了しました。出力バッファが圧縮操作中にいっぱいになりました。ただし、「圧縮済み」バイトの実際の数、処理した入力バイトの元の数より多くなっています。CM は CMPSC_TARGETLEN の数のバイトを入力バッファの最初から出力バッファへコピーしました。CMPSC_TARGETLEN は CMPSC_SOURCELEN によって減少しました。CMPSC_TARGETADDR は CMPSC_SOURCELEN によって増加しました。

表 5. 4A90I 戻りコードと理由コード:

戻りコード 8 に割り当てられた圧縮管理サービス理由コード:	
理由	説明
2050	圧縮操作は正常に終了しました。除去辞書トークンが作成され、 DICTIONARY_TOKEN_PTR によって指定されたフィールドに戻されました。呼び出し側は、問い合わせおよびサンプリングの統計が、これが圧縮候補にふさわしくないことを示しているため、 CMS_COMPRESS サービスの呼び出しを停止しなければなりません。出力バッファには入力バッファのイメージ・コピーがあります。

表 5. 4A90I 戻りコードと理由コード (続き):

戻りコード 8 に割り当てられた圧縮管理サービス理由コード:	
2051	圧縮操作は正常に終了しました。入力バッファの部分だけが圧縮されました。出力バッファは圧縮操作中にいっぱいになりましたが、入力バッファを使い果たしていません。呼び出し側は、入力バッファに残っているデータを圧縮するために、IKQCSCCM を再度呼び出すことができます。CMPSC_BITNUM をゼロに設定し CMPSC_TARGETLEN と CMPSC_TARGETADDR フィールドをリセットしてください。この他の理由として、十分な GETVIS がなかったことが考えられます。圧縮には少なくとも 4M が必要です。
2052	圧縮解除操作は正常に終了しました。ターゲットには圧縮解除したデータがあります。ただし、TARGET の実行スペースが足りないため、すべてのソース・データが圧縮解除されたわけではありません。
2081	このシステムでは、ハードウェア/ソフトウェア圧縮サービスが使用できません。この他の理由として、十分な GETVIS がなかったことが考えられます。圧縮には少なくとも 4M が必要です。
2085	圧縮管理サービスは、必要なリソースの終結処理を実行しようとしてしました。いくつかのリソースを解放できません。
2086	トレース・ファイル (SYSLST) の OPEN が失敗しました。
2087	SYSLOG の OPEN が失敗しました。

表 6. 4A90I 戻りコードと理由コード:

戻りコード 16 に割り当てられた圧縮管理サービス理由コード:	
理由	説明
2140	OPEN_TOKEN が無効です。トークンの順序番号が制御ブロックの順序番号と一致しませんでした。または CMSOP ブロックが CMSAS_CM_OP_CHAIN に見つかりませんでした。
2141	圧縮 (圧縮解除) を要求しましたが、必要なオペランドがありません。
2142	データの圧縮解除を要求しましたが、入力辞書のトークンがヌルです。

表 6. 4A90I 戻りコードと理由コード (続き):

戻りコード 16 に割り当てられた圧縮管理サービス理由コード:	
2145	入力辞書のトークンはデータ・セットが圧縮の候補から外されたことを示しています。
2146	圧縮 (圧縮解除) を要求しましたが、ターゲット (ソース) が 1 つの圧縮記号さえ入らない大きさです。
2147	この操作コードは定義されていません。
2149	CMS_OPEN_TOKEN は、データ・セットがすでにオープンされていることを示しています。
2150	CMS_OPEN_TOKEN は、データ・セットがオープンしていないことを示しています。

表 7. 4A90I 戻りコードと理由コード:

戻りコード 20 に割り当てられた圧縮管理サービス理由コード:	
理由	説明
2180	圧縮管理サービスは、その制御構造または辞書のためのストレージを獲得できないため、処理を続けることができません。
2181	圧縮管理サービスは、LZ ツリーののためのストレージを獲得することができないため、処理を続けることができません。
2182	圧縮管理サービスは、ハードウェア/ソフトウェア辞書のためのストレージを獲得することができないため、処理を続けることができません。
2183	圧縮管理サービスは、CMS_TEXT_BLK のためのストレージを獲得することができないため、処理を続けることができません。これには IKQCSCBD ルーチンが必要とする UDCT データ形式があります。

表 8. 4A90I 戻りコードと理由コード:

戻りコード 36 に割り当てられた圧縮管理サービス理由コード:	
理由	説明
4000	CM_OPEN 制御ブロックにある、目印が不正です。
4099	辞書に形式エラーがあります。ハードウェア/ソフトウェア圧縮サービスは適切に操作できません。

表 8. 4A90I 戻りコードと理由コード (続き):

戻りコード 36 に割り当てられた圧縮管理サービス理由コード:	
4100	辞書のトークンが無効です。辞書作成ブロックを CMS_CNTL ブロックで見つけることができません。すなわち、辞書のトークンにあるフラグはトークンが除去トークンであることを示していますが、DBB が NULL ではありません。
4101	圧縮管理サービスの内部論理エラー
4107	IKQCSCZL がゼロ以外の戻りコードを返しました。LZ ツリー初期設定中の障害です。
4108	IKQCSCBD がゼロ以外の戻りコードを返しました。テキスト・ブロックを LZ ツリーに挿入中の障害です。
4109	IKQCSCBD がゼロ以外の戻りコードを返しました。LZ ツリーをハードウェア圧縮形式に変換中の障害です。

4A91I **COMPRESSION CONTROL SERVICE**
FAILED, REASON=reason problem specific
information **DETECTION POINT=detection**
point

説明: VSE/VSAM 圧縮制御サービスが、CCDS 内のレコードを処理するために呼び出されました。レコードはそれぞれ 1 つの (圧縮された) クラスタを記述しています。操作は失敗しました。その理由は、下表の理由 で示されるとおりです。このメッセージで示される他の情報は問題判別に役立ち、弊社サービス担当員によって使用されます。

表 9. 4A91I 理由コード

理由	解説
1	圧縮制御データ・セット (CCDS) がカタログに定義されていません。プログラマーの応答: 圧縮制御データ・セットをカタログに定義してください。CCDS の定義方法については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」を参照してください。
2	クラスタのために要求された圧縮属性レコード (CAR) が存在しません。

表 9. 4A91I 理由コード (続き)

17	CCDS をオープンできません。圧縮制御データ・セットに対する OPEN 要求が、与えられている戻りコード (レジスター 15) とエラー・コードで失敗しました。プログラマーの応答: VSE/VSAM エラー・コードについては、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻」の『VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』を参照してください。
18	CCDS に対する VSE/VSAM レコード管理要求 (PUT や GET など) が、与えられている RPL フィードバック・コードで失敗しました。プログラマーの応答: VSE/VSAM エラー・コードについては、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻」の『VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』を参照してください。
19	要求された圧縮制御ブロックを識別している圧縮制御ブロックが無効です。プログラマーの応答: IBM 提供のプログラムでこの理由コードが返された場合、これはシステム問題が原因です。IBM サポートにお問い合わせください。
20	16 MB 未満のストレージへの GETVIS 要求が失敗しました。プログラマーの応答: ストレージを解放するか、区画レイアウトまたは SIZE パラメーターを変更して、16 MB 未満の GETVIS スペースをさらに提供してください。
21	ストレージへの GETVIS 要求 (LOCATION=ANY) が失敗しました。プログラマーの応答: ストレージを解放するか、区画レイアウト、または SIZE パラメーターを変更して、16 MB 未満または 16 MB を超える GETVIS スペースをさらに提供してください。
22	IJSYSUC、IJSYSCT、またはユーザー指定のラベルに、有効な DLBL ステートメントがないか、ラベル域の処理中にエラーが発生しました。プログラマーの応答: 参照されているファイル名の DLBL ステートメントが、存在するかどうか確認してください。

表 9. 4A91I 理由コード (続き)

23	圧縮制御データ・セットが、読み取り専用ディスクにあるカタログに定義されています。圧縮制御サービスには読み取り/書き込みアクセスが必要なので、これを行うことができません。プログラマーの応答: カタログに読み取り/書き込みアクセスを行って、失敗したジョブを再実行してください。
24	圧縮制御データ・セットに対する、DELETE CLUSTER コマンドは、圧縮制御データ・セットが空でなく、DELETE コマンドに FORCE オプションを指定しなかったために失敗しました。プログラマーの応答: <ul style="list-style-type: none"> DELETE CLUSTER コマンドを出して CCDS 内の項目を除去する。IDCAMS PRINT を使用して CCDS 内にある項目をリストすることができます。 たとえ空でなくとも、圧縮制御データ・セットを削除する DELETE CLUSTER の FORCE オプションを使用する。空でない圧縮制御データ・セットを削除することで、ターゲット・カタログにある圧縮されているクラスタのすべてがアクセス不能になります。
25	CCDS を CLOSE できません。圧縮制御データ・セットに対する CLOSE 要求は、戻りコード (レジスター 15 にある) とエラー・コードが与えられて失敗しました。プログラマーの応答: VSE/VSAM エラー・コードについては、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻」の『VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』を参照してください。
26	無効な圧縮属性レコード (CAB)。圧縮中のファイルの圧縮属性が矛盾しています。IDUMP が作成されます。プログラマーの応答: 失敗したジョブを再実行してください。問題が繰り返し起こる場合は、IBM サポートに連絡してください。
255	VSE/VSAM 圧縮制御サービス内部エラーが起きました。IDUMP が作成されます。プログラマーの応答: IBM サポートに連絡してください。

4A92I MISMATCH OF SPECIFIED AND REAL CATALOG FILE ID SPECIFIED
NAME=file_id1 BUT REAL NAME=file_id2

説明: このメッセージが出されるのは、次の 2 つの場合です。

1. VSE/VSAM マスター・カタログを識別するために DLBL IJSYSCT に指定された *file_id1* が正しくない場合。マスター・カタログの実名は、*file_id2* です。
2. ユーザー・カタログに対する DLBL ステートメントに指定された *file_id1* が正しくない場合。マスター・カタログには、特定のボリュームを指すユーザー・カタログ項目が含まれています。しかし、そのボリュームのユーザー・カタ

ログは、実際には異なるファイル ID *file_id2* をもっています。この状態が起こり得るのは、スクラッチされたボリュームに対してユーザー・カタログが定義された場合、または IDCAMS IMPORT CONNECT が、誤ったカタログ *file_id* を用いて行われた場合です。

システムの処置: オープンは失敗し、オープン・エラー・コード x'B4' が出されます。

プログラマーの応答: カatalogに対する *file_id* を訂正してください。マスター・カタログからユーザー・カタログ項目を除去する必要がある場合は、IDCAMs EXPORT DISCONNECT を使用してください。

4Cxx=SDAID メッセージ

4C01A SDAID ALREADY STOPPED

説明: オペレーターが ENDSO または STOPSD を出したため、SDAID が停止しました。さらに SDAID は、以下の説明行のうちのいくつかを出します。これらの行は必ずしも連続して出てくるとは限りません。これらの行は次のとおりです。

4C01A THE OPERATOR STOPPED SDAID BY
EXTERNAL INTERRUPT

4C01A AN EVENT WITH TERMINATE OPTION
OCCURRED

4C01A AN INTERNAL PROGRAM CHECK OCCURRED
IN SDAID

4C01A AN I/O ERROR OCCURRED ON SDAID
OUTPUT DEVICE

4C01A I/O ERROR CODE: 62xx.

4C01A ERROR RECOVERY ACTION CODE: yy.

4C01A DUMP SDAID AREA FROM *address* TO *address*

4C01A ENTER ENDSO COMMAND TO TERMINATE
SDAID FINALLY

入出力エラー・コード xx については、591 ページの『ストレージ・バイト 0 から 3 に入っているコード』セクションを参照してください。

エラー・リカバリーコード yy の説明は、SDAID 出力装置のプロダクト説明中のセンス・バイトについての解説を参照してください。

システムの処置: SDAID プログラムは停止状態のままです。オペレーターの応答: 2 番目またはそれ以降の 4C01A メッセージに指示があれば、その指示に従ってください。SDAID で次の指示行が出された場合には、STARTSD で SDAID を再始動しないでください。

4C01A ENTER ENDSO COMMAND ...

プログラマーの応答: なし。

4C02A ENTER COMMAND CONTINUATION

説明: コマンドを続けるために、前の行の最後の文字として負の符号 (-) が入力されました。

システムの処置: システムは、データの次の行がコンソールから入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: コマンドの続きを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4C03I NO HELP INFORMATION AVAILABLE

説明: システムはヘルプ情報 (HELP) の表示の要求を受け取りましたが、要求された種類のヘルプ情報はありません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4C04I SDAID SET-UP IN PROGRESS BY ANOTHER TASK

説明: SDAID セットアップ・コマンドが出されましたが、別のアテンション・タスクまたは区画が同じセットアップを実行中でした。同時の SDAID セットアップ・タスクは許可されません。

システムの処置: コマンドは拒否されます。

オペレーターの応答: 別のタスクがその SDAID セッションを完了してから、SDAID セットアップを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

4C05I PROCESSING OF 'command' COMMAND [SUCCESSFUL | FAILED]

説明: 最後に入力された SDAID コマンドの処理が完了しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: コマンドが失敗した場合は、それを訂正して再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4C06I 'command' COMMAND OUT OF SEQUENCE

説明: SDAID コマンドが間違った順序でサブミットされました。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。処理を続行します。

オペレーターの応答: エラーのあるコマンドおよび順序の誤りを調べ、必要なコマンドを正しい順序で再入力してください。SDAID の使用方法については、「z/VSE Diagnosis Tools」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

4C07I *function* **FOR phase-name FAILED**

説明: 示された機能が、SDAID による READY コマンドの処理中に失敗しました。障害を起こしたと考えられる機能と、対応する理由は、以下のとおりです。

機能 障害の理由

LOADDIR

指定されたフェーズ名の、ディレクトリーのロード要求が失敗しました。フェーズが、システム・ライブラリーに見つかりませんでした。

GETVIS

示されたフェーズまたはデータ域のための、システム GETVIS 域での仮想記憶の取得要求を満たすことができません。使用可能な仮想記憶が足りません。

FREEVIS

SDAID またはシステム・エラーのため、システム GETVIS 域から取得され、フェーズ名 (またはデータ) で占められた仮想記憶の解放要求を満たすことができません。

FREEREA

プロセッサ・ストレージの解放要求が、SDAID またはシステムのエラーのために満たされません。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。処理を続行します。

オペレーターの応答: 障害のある機能に応じて、次のいずれかを行います。

関数 推奨処置

LOADDIR

すべての SDAID フェーズがシステムにあることを確認して、トレース要求を再サブミットしてください。

GETVIS

次のシステム・スタートアップでシステム GETVIS スペースを増やしてください。トレース要求を再サブミットしてください。

FREEVIS

既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

FREEREA

既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

4C08D *SPECIFY prompting-keyword [+]*

説明: SDAID プログラムが制御情報を要求しています。システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 必要に応じて制御情報を入力するか、デフォルト値があり、それを受け入れることができる場合は、END/ENTER を押してください。メッセージの最後に正の符号 (+) がある場合は、ヘルプ情報があることを示しており、疑問符 (?) または HELP を入力するとシステムがそれを表示します。

プログラマーの応答: なし。

4C09I **THE SPECIFIED TAPE/PRINTER IS IN USE BY ANOTHER PARTITION**

説明: 別のアテンション・タスクまたは区画が、ユーザーの要求したテープ装置または印刷装置を使用しています。

システムの処置: コマンドは拒否されます。

オペレーターの応答: LISTIO コマンドを出して、テープ装置または印刷装置が現在割り当てられている区画を探することができますし、どの装置が解放されているかを判別することもできます。SDAID コマンドをコンソールから入力している場合は、別の OUTDEV コマンドを出して、別のテープ装置または印刷装置を選択してください。それ以外の場合は、SYSIN ファイルの内容を訂正して、SDAID セットアップ・ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

4C10I **SPECIFIED ADDRESS cuu IS INVALID FOR devicetype**

説明: 示されたアドレスは、示されたタイプの装置に属していません。次の理由が考えられます。

- 装置がシステム・スタートアップ時に (ADD コマンドによって) 定義されなかった。
- 指定されたテープ装置が、DVCDN コマンドによって無効にされた。

システムの処置: システムは OUTDEV コマンドを拒否します。処理を続行します。

オペレーターの応答: SDAID が使用する未使用のテープ・アドレスを見つけてください。コンソール入力コマンドの場合は、正しい OUTDEV コマンドを再発行してください。それ以外では、SDAID セットアップ・ジョブを訂正し、再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

4C11I **THE OUTDEV TAPE IS FILE PROTECTED**

説明: SDAID 出力装置として取り付けられたテープまたはカートリッジが、書き込み保護されています。テープにファイル保護リングがないか、またはカートリッジの書き込み禁止スイッチが「ON」の位置になっています。

システムの処置: コマンドは拒否されます。処理を続行します。

オペレーターの応答: テープ装置をアンロードして、テープまたはカートリッジを取り除いてください。以下のいずれかを実行してください。

- 元のテープまたはカートリッジから書き込み保護を取り除き、再度取り付けてください。
- テープまたはカートリッジを書き込み保護されていない別のものと取り換えてください。

コンソール入力コマンドの場合は、正しい OUTDEV コマンドを再発行してください。それ以外では、SDAID セットアップ・ジョブを訂正し、再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

4C12I BUFFER SIZE IS GREATER THAN 32K BYTES

説明: SDAID トレース情報がテープに書き込まれることになっていますが、バッファのブロック・サイズが 32K バイトを超えています。

システムの処置: システムは OUTDEV コマンドを取り消します。処理を続行します。

オペレーターの応答: バッファ・サイズを 3K から 32K にしてコマンドを再入力してください。K バイト単位の整数で指定しなければなりません。

プログラマーの応答: なし。

4C13I NO GETVIS SPACE AVAILABLE

説明: SDAID が、指定された出力装置に論理装置番号を割り当てるために ASSGN マクロを出しましたが、GETVIS エラーのため失敗しました。

システムの処置: OUTDEV ステートメントは拒否されました。

オペレーターの応答: アテンション・ルーチン内で SDAID を初期設定する場合は、システム GETVIS スペースを増やしてください。SDAID の初期設定時にプロシージャを使用する場合は、より多くの GETVIS ストレージを持つ区画でプロシージャを呼び出してください。

プログラマーの応答: なし。

4C14I THE BUFFER SIZE HAS BEEN REDUCED

説明: IPL 時に定義された SDAID ストレージが小さすぎて、指定された循環バッファ (非 VM モード) を割り当てられないか、システム GETVIS ストレージが十分な大きさではないので、指定された循環バッファ (VM モード) が割り当てられません。

システムの処置: SDAID は READY ステートメントを受け入れます。SDAID プログラムによってトレース・バッファのサイズが 3K まで縮小されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IPL SYS コマンドの SDSIZE パラメータを使用して、より大きな SDAID トレース域を指定してください。

4C15I NO FREE PROGRAMMER LOGICAL UNIT IS AVAILABLE

説明: システム生成 ASSIGN ステートメントが、利用可能なプログラマー論理装置がないために失敗に終わりました。

システムの処置: コマンドは拒否されます。

オペレーターの応答: ASSGN, UA コマンドを出してプログラマー論理装置を解放するか、あるいは未使用プログラマー論理装置のある区画から SDAID をセットアップしてみることができます。

プログラマーの応答: なし。

4C16I BUFFER OVERFLOW TRACE SPECIFIED BUT NO PRINTER OR TAPE AS OUTDEV

説明: バッファ・オーバーフロー・トレースが指定されましたが、印刷装置またはテープが出力装置として指定されていません。

システムの処置: 指定のトレースは無視されます。処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4C17I BUFFER SPECIFIED AS OUTPUT BUT NO PRINTER OR TAPE

説明: キーワード BUFFER が出力として指定されましたが、印刷装置またはテープが SDAID 出力装置として指定されていません。

システムの処置: バッファ出力要求は無視されます。処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4C18A END OF SDAID TRACE TAPE

説明: SDAID トレース・テープで、テープの終わり条件が発生しました。このメッセージは、VM 下で作動する VSE システムでのみ現れます。

システムの処置: SDAID プログラムはトレース・テープをアンロードし、外部割り込みを待ちます。

オペレーターの応答: 新しいテープを取り付けて、作動可能にした後、CP コマンド EXTERNAL を入力してください (外部割り込みのシミュレート)。トレースは続行されます。

CP コマンド EXTERNAL を入力したが、出力装置が作動不能状態にある場合、SDAID はこれ以上トレース・データを収集しません。VSE は通常の処理を続けます。最後に SDAID を終了するには、STOPSD および ENDSO コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4C19A INTERVENTION IS REQUIRED ON THE SDAID PRINTER | TAPE

説明: SDAID 出力装置 (印刷装置またはテープ) にはオペレーターのアテンションが必要です。このメッセージは、VM 下で作動する VSE システムでのみ現れます。

システムの処置: SDAID プログラムは、エラー・コードを低位のコア位置ゼロに移動して、ソフトウェア待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: SDAID 出力装置を作動状態にして、CP コマンド EXTERNAL を入力してください (外部割り込みのシミュレート)。トレースは続行されます。

CP コマンド EXTERNAL を入力したが、出力装置が作動不能状態にある場合、SDAID はこれ以上トレース・データを収集しません。VSE は通常の処理を続けます。最後に SDAID を終了するには、STOPSD および ENDSO コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4C20I I/O ERROR ON THE SDAID PRINTER I TAPE

説明: SADAID 印刷装置またはテープ装置にリカバリー不能な入出力エラーが発生しました。このメッセージは、VM 下で作動する VSE システムでのみ現れます。

システムの処置: SDAID は異常終了します。VSE システムは、トレース・データを収集しないで処理を続行します。

オペレーターの応答: 最後に SDAID を終了するには、STOPSD および ENDSO コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4C21I PARTITION DUMP NOT ALLOWED FOR AREA=ALL OR AREA=SUP

説明: オプション OUTPUT=(DUMP PARTITION) は、AREA=ALL または AREA=SUP を指定した TRACE ステートメントの場合は無効です。

システムの処置: TRACE ステートメントは拒否されます。

オペレーターの応答: 訂正した TRACE ステートメントを出し直してください。

プログラマーの応答: なし。

4C22I MONITORCALL CLASS xx IS IGNORED

説明: モニター呼び出しクラス xx は、MONITORCALL トレースで指定できません。

システムの処置: SDAID 初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4C23I PARTITION xx IS NOT SUPPORTED

説明: 区画 xx は、制御中の監視プログラムによってサポートされません。

システムの処置: 区画の指定は拒否されます。

オペレーターの応答: メッセージ 4C05I または 4C08D の「オペレーターの応答」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

4C24I THE OFFSET PARAMETER IS INVALID FOR AREA I STAREA=ALL

説明: OFFSET パラメーターは、区画またはフェーズ内の相対アドレスを指定するためにのみ使用してください。

AREA=ALL または STAREA=ALL を指定した場合は、OFFSET パラメーターを使用しないでください。

システムの処置: TRACE ステートメントは取り消されます。

オペレーターの応答: ADDRESS パラメーターを使用して、トレース範囲を指定してください。

プログラマーの応答: なし。

4C25I LEFT OFFSET VALUE IS OUTSIDE OF THE SUPERVISOR

説明: トレースの間隔の指定が正しくありません。指定 OFFSET=xxxxx:yyyyyy において、小さい方の値 xxxxxx が監視プログラム終了アドレスを超えています。

システムの処置: TRACE ステートメントは拒否されます。

オペレーターの応答: 監視プログラムの範囲外のアドレスをトレースする必要がある場合は、ADDRESS=xxxxx:yyyyyy の指定を使用してください。

プログラマーの応答: なし。

4C26I THE SDAID AREA IS TOO SMALL

説明: SDAID 実行フェーズが、次の理由によってロードできません。

- SDAID 域が小さすぎるか、利用可能でない (非 VM モード)。
- SDAID 域が別のプロダクト (非 VM モード) により使用されている。
- システム GETVIS 域が小さすぎる (VM モード)。

システムの処置: READY ステートメントは拒否されます。

オペレーターの応答: ENDSO を入力して、SDAID を終了してください。より大きな別の SDAID セッションの開始を試してください。

プログラマーの応答: IPL SYS コマンドの SDSIZE パラメーターを使用して、より大きな SDAID トレース域 (非 VM モード) を指定してください。

4C27I THE OUTDEV TAPE IS NOT ON LOAD POINT

説明: OUTDEV コマンドで指定された装置上のテープが、そのロード開始点に位置していません。このメッセージは単なる情報です。エラー・メッセージではありません。

システムの処置: SDAID は OUTDEV コマンドを受け入れません。

オペレーターの応答: プログラマーの応答と同じです。ただし、MTC ステートメントではなく MTC コマンドを使用してください。

プログラマーの応答: SDAID が出力を、取り付けてあるテープ上の 2 番目以降のファイルに書き込む場合は、処置は不要です。SDAID に出力を 1 番目のファイルに書き込ませる場合は、STARTSD コマンドを出してイベント・トレースを開始する前に、MTC REW ステートメントをサブミットしてください。

4C28I INTERACTIVE TRACE IS ACTIVE FOR PARTITION partition-id

説明: 対話式トレース・プログラムは、示されたユーザー区画でアクティブです。命令トレース、ブランチ・トレース、またはストレージ変更トレースを含んでいる SDAID セッションを指定した STARTSD ステートメントが入力されましたが、これらのトレース・タイプは、対話式トレース・プログラムと並行して実行できません。

システムの処置: STARTSD ステートメントは拒否されます。

オペレーターの応答: トレースされるユーザー・プログラムの

終了後に STARTSD を出し直すか、ENDSD ステートメントを使用して SDAID セッションを終了させてください。
プログラマーの応答: なし。

4C29I LOCK MACRO FAILED. RC=X'xxxxxxx'

説明: LOCK マクロ (SDAID プログラム対話式トレース・プログラムを同期化させるのに使用された) が失敗しました。RC=X'xxxxxxx' は LOCK マクロの戻りコードを 16 進表示で示します。
システムの処置: STARTSD コマンドは拒否されます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: IBM 既知問題データベースを調べてください。

4C30I AREA PARAMETER WITH PH= IS PREREQUISITE FOR DUMP WITH PH

説明: 特定のフェーズを含むストレージを、プログラム・イベントの発生時にダンプする予定ですが、AREA 定義に PH (フェーズ) キーワードが含まれていません。
システムの処置: TRACE コマンドは取り消されます。処理を続行します。
オペレーターの応答: PH (フェーズ) キーワードを AREA 定義に入れて、TRACE コマンドを再入力してください。
プログラマーの応答: なし。

4C31I LAST TRACE COMMAND NOT ENQUEUED

説明: 説明については、直後のメッセージ (4C32I または 4C33I) を参照してください。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

4C32I MAXIMUM NUMBER OF TRACE COMMANDS EXCEEDED

説明: メッセージの通りです。
システムの処置: 最後に入力された TRACE は取り消されます。処理を続行します。
オペレーターの応答: OUTDEV コマンドを入力し、この時点までに要求されたトレース機能を SDAID に実行させてください。現在の SDAID の実行が終了した後で、残っているトレース機能を行う別のセッションを設定してください。
プログラマーの応答: なし。

4C33I MAXIMUM NUMBER OF DUMP OUTPUT EXCEEDED

説明: 最後に入力された TRACE コマンドに、10 より多くのダンプ要求が含まれています。
システムの処置: TRACE コマンドは取り消されます。
オペレーターの応答: TRACE コマンドを再入力し、その際、ダンプ要求数が 10 を超えないようにしてください。
プログラマーの応答: なし。

4C34I LEFT ITEM IN PAIR IS GREATER THAN THE RIGHT ITEM

説明: アドレスの対では、コロンの左のアドレスは常に、右に指定されたアドレスの値よりも小さいかまたは等しくなければなりません。
システムの処置: SDAID はアドレス・ペア指定を拒否します。
オペレーターの応答: メッセージ 4C05I または 4C08D の「オペレーターの応答」を参照してください。
プログラマーの応答: なし。

4C35I ADDRESS SHOULD BE USED FOR THE STORAGE ALTER TRACE WITHIN A DATA SPACE

説明: パラメーター OFFSET、PHASE、または LTA の 1 つが、データ・スペース内にストレージ・インターバルを定義するために使用されました。パラメーター ADDRESS は、ストレージ範囲を定義するために使用してください。
システムの処置: エラーのあるステートメントは拒否されません。
オペレーターの応答: アドレス・パラメーターを指定して、コマンドを再度出してください。
プログラマーの応答: なし。

4C36I SDAID SETS OFF THE PSEUDO PAGE FAULT PORTION

説明: SDAID は、VM/SP 下の仮想マシンとして実行中のシステムで初期設定され、仮想マシンとしての動作のために、疑似ページ・フォルト処理サポートをオフにしています。VM/SP はページ・フォルトを処理しますが、仮想 VSE システムはこの処理を明示した指示を受け取っていません。
システムの処置: システムは処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。

注: SDAID の実行中は、疑似ページ・フォルト処理をオンにしないでください。
プログラマーの応答: なし。

4C37I SDAID SETS ON THE PSEUDO PAGE FAULT PORTION

説明: SDAID は、アクティブである間、VM/370 リンケージ機能の疑似ページ・フォルト・サポートをオフに設定しています。SDAID の終了時に、SDAID は疑似ページ・フォルト・サポートを再活性化します。
システムの処置: システムは処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

4C38I BUFFER SPECIFIED AS OUTPUT BUT NO BUFFER ALLOCATED

説明: READY コマンドが入力されました。1 つまたはそれ以上の TRACE コマンドで、出力の定義にキーワード BU (バッファ) が含まれています。しかし OUTDEV コマンドには BU (バッファ) の指定はありません。

システムの処置: SDAID は出力定義中の BU (バッファ) 指定を無視します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4C39I SPECIFIED OFFSET IS GREATER THAN PHASE LENGTH

説明: トレース項目の開始アドレスを指定する左オフセット (reladdr1) が、指定された SVA フェーズの長さより大きくなっています。OFFSET=reladdr1:reladdr2 を指定するときは、reladdr1 はフェーズの長さより小さくしなければなりません。システムの処置: SDAID は reladdr1 の値を拒否します。

オペレーターの応答: 次に与えられるメッセージの説明を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

4C40I *command text*

説明: このメッセージには、指定に応じてコンパイルされた SDAID、OUTDEV、TRACE、READY、または ENDS D コマンドの本文が示されます。コマンドは、メッセージ番号 4C40I と共に SYSLOG 上に表示されます。

システムの処置: SDAID はコマンドをコマンド・プロセッサに渡し、コマンドを処理し、コンソール上に応答を表示します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4C41I ENTER YOUR SDAID COMMAND

説明: SDAID プログラムは、SDAID コマンドを受け入れることができる状態になっています。

システムの処置: システムは入力待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかのコマンドを入力してください。

OUTDEV SDAID 出力装置を定義します。

TRACE 必要な TRACE を指定します。

READY (EOB) SDAID セットアップを完了します。

ENDSD|CANCEL SDAID セットアップを終了し、SDAID リソースを解放します。

プログラマーの応答: なし。

4C42I SDAID ALREADY INITIATED. SET-UP TERMINATED

説明: SDAID セッションがすでに処理されているときに、SDAID のセットアップが試行されました。前の READY コマンドは正しく処理されました。

システムの処置: 新規の SDAID セットアップ試行は終了します。

オペレーターの応答: 現行タスクの ENDS D コマンドをコンソールから入力した後で、新規の SDAID セットアップ・タスクを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

4C43I ENTER YOUR SDAID COMMAND AGAIN

説明: SDAID は前のエラーが原因で、前の TRACE または OUTDEV コマンドを受け入れませんでした。SDAID は現在、別のコマンドの再受け入れが可能です。

システムの処置: SDAID は入力を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかのコマンドを入力してください。

OUTDEV

SDAID 出力装置を定義します。

TRACE 必要な TRACE を指定します。

READY (EOB)

SDAID セットアップを完了します。

ENDSD|CANCEL

SDAID セットアップを終了し、SDAID リソースを解放します。

プログラマーの応答: なし。

4C44I ENTER ATTENTION COMMAND 'STARTSD' TO ACTIVATE SDAID

説明: SDAID セットアップ・プログラムが正常に終了し、実行を開始するためにアテンション・コマンド STARTSD を必要としています。

システムの処置: SDAID は STARTSD の入力を待ちます。

オペレーターの応答: STARTSD を入力して、SDAID 実行を開始してください。

プログラマーの応答: なし。

4C45I TRACE COMMAND IS MISSING

説明: SDAID セットアップ・ジョブは、正しい TRACE コマンドを少なくとも 1 つ含んでいなければなりません。

システムの処置: SDAID セットアップは終了します。

オペレーターの応答: エラーについてプログラマーに通知した後で、訂正されたジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: SDAID セットアップ・ジョブを訂正してください。

4C46I SDAID ALREADY IN USE. SET-UP TERMINATED

説明: 現行の SDAID ジョブに対して有効な STARTSD コマンドが実行されてから、SDAID セットアップ・コマンドが出されました。

システムの処置: 試行された SDAID セットアップは終了します。

オペレーターの応答: 現行タスクの ENDS D コマンドをコンソールから入力した後で、新規の SDAID セットアップ・タスクを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

4C47I ERROR DETECTED. SDAID SET-UP FAILED

説明: SDAID セットアップ中に、訂正不能なエラーが発生しました。実際のエラーは前のメッセージに記述されています。システムの処置: SDAID セットアップは終了します。

オペレーターの応答: プログラマーにエラーを通知し、訂正された SDAID ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: SDAID ステートメント・エラーを訂正してください。

4C48I TRACE PROGRAM 'x' IS ACTIVE

説明: トレース・プログラムまたはパフォーマンス測定プログラムがアクティブです。このプログラムは、プログラム・イベント記録 (PER) 機能を使用します。これは「システム通信」領域においては、文字 'x' で識別されました。このプログラムがアクティブである限り、ブランチ・トレース、命令トレース、またはストレージ変更トレースを指定して SDAID プログラムを開始することはできません。

システムの処置: STARTSD コマンドは拒否されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4C49I MULTIPROCESSING IS ACTIVE

説明: システムが、複数の CPU をアクティブにして実行されています。SDAID は、単一 CPU 環境でしか実行できません。

システムの処置: 試みられた SDAID 始動は終了します。

オペレーターの応答: SDAID を開始するときは、1 つの CPU 以外のすべての CPU を停止させてください。

プログラマーの応答: なし。

4C50I PHYSICAL PRINTER *cuu* IS ALSO A POWER SPOOLED PRINTER IN PARTITION *xx*

説明: 物理プリンター・アドレス *cuu* は、区画 *xx* の POWER スタートアップ・プロシージャの POWER スプール・プリンターとしても定義されています。

システムの処置: SDAID は続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4C51I SDAID COMMAND IS TOO LONG

説明: 最後の SDAID コマンドで、多すぎる継続行が入力されました。コマンドは、SDAID により処理されません。

システムの処置: SDAID はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コンソールから入力されたコマンドの場合は、訂正したコマンドを再入力してください。SYSIN ファイルからのコマンドの場合は、コマンド・ステートメントを訂正してセットアップ・ジョブを再サブミットしてください。エラーがなくて単にコマンドが長すぎる場合は、SDAID の直接モードを使用しなければなりません。

プログラマーの応答: なし。

4C52I INCORRECT DEVICE ADDRESS SPECIFIED FOR PRINTER|TAPE

説明: PRINTER=*cuu* または TAPE=*cuu* のいずれかで指定された装置アドレスが正しくありません。

システムの処置: SDAID セットアップは終了します。

オペレーターの応答: PRINTER= または TAPE= の値を訂正

して、プロシージャを呼び出してください。

プログラマーの応答: なし。

4C53I BOTH TAPE AND PRINTER SPECIFIED. TAPE IS USED.

説明: 印刷装置とテープの両方が指定されましたが、許可されるのは 1 つだけです。

システムの処置: SDAID はテープ指定を選択し、印刷装置を無視します。

オペレーターの応答: テープ指定を受け入れる場合は、処置は不要です。それ以外の場合は、印刷装置を指定し直して、プロシージャを再び呼び出してください。

プログラマーの応答: なし。

4C54I INCORRECT VALUE SPECIFIED FOR BUFFER. 10 IS ASSUMED.

説明: バッファ・サイズは、3 から 99 までの 1 桁または 2 桁の数値でなければなりません (ただし、テープの場合は、3 から 32 までの数値)。

システムの処置: SDAID は 10 の値を想定して処理を続行します。

オペレーターの応答: デフォルトの 10 を受け入れる場合は、処置は不要です。それ以外の場合は、バッファ値を指定し直し、プロシージャを再び呼び出してください。

プログラマーの応答: なし。

4C55I TRACE AREA SPECIFICATION IS MISSING. AREA=ALL IS ASSUMED

説明: BUFFOUT=PGMC|CANCEL または TERM=PGMC|CANCEL を指定した場合は、AREA= または JOBNAME= も指定して、どこでプログラム・チェックまたは取り消し条件がモニターされるかを指定しなければなりません。

システムの処置: SDAID は AREA=ALL を想定して処理を続行します。

オペレーターの応答: デフォルトを受け入れる場合は、処置は不要です。それ以外の場合は、BUFFOUT= または TERM= を再指定し、プロシージャを再び呼び出してください。

プログラマーの応答: なし。

4C56I INVALID DEFAULT SPECIFICATION

説明: カタログされた SDAID セットアップ・プロシージャがエラーです。デフォルト値が正しく指定されていません。デフォルト値を囲む右括弧が欠落しています。

システムの処置: SDAID はコマンドを拒否し、セットアップ・ジョブを終了します。

オペレーターの応答: プログラマーにエラーを連絡し、訂正されたセットアップ・プロシージャを再実行してください。

プログラマーの応答: SDAID セットアップ・プロシージャを訂正してください。

**4C57I INVALID OR INCOMPLETE SDAID
COMMAND**

説明: 次のいずれかが発生しました。

1. TRACE、OUTDEV、READY、CANCEL、または ENDSID の次が SDAID コマンドでした。
2. TRACE または OUTDEV コマンドが、パラメーターを指定せずに入力されました。

システムの処置: SDAID は不適正なコマンドを拒否します。
オペレーターの応答: コンソールから入力されるコマンドの場合は、訂正したステートメントを入力してください。それ以外の場合は、SYSIN ファイル・ステートメントを訂正して、SDAID ジョブを再サブミットしてください。
プログラマーの応答: なし。

**4C58I SPECIFIED ADDRESS *cuu* IS A
NON-SUPPORTED VIRTUAL TAPE**

説明: 示されているテープ *cuu* は仮想テープです。仮想テープは、SDAID によってサポートされていません。
システムの処置: SDAID セットアップは終了します。
オペレーターの応答: エラーについてプログラマーに通知した後で、訂正されたジョブを再実行してください。
プログラマーの応答: SDAID セットアップ・ジョブを訂正してください。

**4C59I GETVIS REQUEST FOR BUFFER SPACE
FAILED.**

説明: 少なくとも 4 KB のバッファを割り振るために必要なシステム GETVIS が不足しています。
システムの処置: SDAID セットアップは終了します。
オペレーターの応答: 十分なシステム GETVIS を使用できるときに、再試行してください。
プログラマーの応答: なし。

**4C60I BUFFOUT SPECIFICATION MISSING FOR
WRAP-AROUND BUFFER**

説明: BUFFOUT=CANCEL|PGMC|FULL|EXT ステートメントが定義されませんでした。

4Dxx=PARSER メッセージ**4D02I *name* IS AN INVALID COMMAND NAME.
EC=*code***

説明: 指定されたコマンドは、メッセージ中のエラー・コード (EC=コード) が示す理由によって無効です。このコードは次のいずれかです。

- CDNF** 不明のコマンドです。
- ENVI** コマンドが、そのコマンドが定義されていない環境で使用されました。
- IDER** コンポーネントによってセットされた環境 ID が許可されません。
- NCDT** コマンドにコマンド・テーブルがありません。システム・ライブラリーから削除された可能性があります。
- VINV** コマンドが 12 文字を超えているか、英字で始まっていません。

システムの処置: SDAID セットアップは続行され、内部 SDAID バッファにデータが収集されます。
オペレーターの応答: 循環バッファのみでトレース・データを収集する場合は、処置は不要です。あとで、ATTENTION DUMP コマンドを使用して、このデータをテープに書き込むことができます。
プログラマーの応答: なし。

**4C61I NO PRINTER AND NO TAPE DEVICE IS
SPECIFIED**

説明: OUTDEV ステートメントが、トレース・データのための出力装置を SDAID に指定しませんでした。
システムの処置: OUTDEV ステートメントは受け入れられ、トレース・データは内部バッファにのみ保持されます。
オペレーターの応答: 循環バッファのみでトレース・データを収集する場合は、処置は不要です。あとで、ATTENTION DUMP コマンドを使用して、このデータをテープに書き込むことができます。
プログラマーの応答: なし。

**4C62I BUFFER SIZE HAS BEEN ROUNDED TO
m BYTES.**

説明: 要求されたバッファ・サイズは、必ず 4 KB の倍数に丸められます。
システムの処置: システムは処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**4C63I THE PARAMETERS SCOPE AND VOLID
ARE MUTUALLY EXCLUSIVE**

説明: SDAID TRACE LOCK コマンドで、パラメーター **SCOPE=** と **Valid=** を一緒に使用することはできません。どちらか 1 つのみを指定できます。
システムの処置: システムはコマンドを拒否します。
オペレーターの応答: 訂正したコマンドを再入力してください。
プログラマーの応答: なし。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。
オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。
プログラマーの応答: なし。

**4D03I COMMAND CANCELED DUE TO USER
REQUEST**

説明: ユーザーが、2 つの疑問符を続けて入力することによって、コマンドを取り消しました。
システムの処置: システムは要求に応じてコマンドを取り消し、処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

4D04I QUESTION MARK IS INVALID IN PERMUTATION MODE

説明: このメッセージは、例えば、不要な疑問符を入力したり、疑問符を置く位置を間違えたりした場合に出されることがあります。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D05I MISSING QUOTE IN INPUT STRING

説明: このメッセージは、不要な引用符を入力したり、引用符を置く位置を間違えたりした場合に、あるいは入力域が短すぎるために入力行が途中で切り捨てられた場合に、出されることがあります。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D06I THE COMMAND ENTERED BEGINS WITH A COMMA

説明: このメッセージは、入力域が短すぎて入力行が切り捨てられた場合に出されることがあります。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D07I COMMAND LINE ENDS WITH A COMMA AND MORE INPUT IS EXPECTED

説明: このメッセージは、入力域が短すぎて入力行が切り捨てられた場合に、あるいは継続行が許可されるときにコマンド継続符号が欠落している場合に、出されることがあります。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D08I COMMAND ENDS WITH A COMMA PRECEDING A SEMICOLON

説明: コマンドに余分のコンマがあります。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D09I TWO COMMAS IN SUCCESSION

説明: このメッセージは、ENTER を押す前に入力を訂正していてエラーがあった (例えば、オペランドを削除して区切りのコンマは削除しなかった) 場合に出されることがあります。入

力域が短すぎて、入力行が途中で切り捨てられた場合にも出されることがあります。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D10I PARSER INTERNAL ERROR. EC=code

説明: 下記のいずれかです。表示されたエラー・コード (EC=code) に対応する説明が原因です。システムは、弊社担当者が問題を判別しやすいようにするために、このコードを発行します。出されるコードとその意味は次のとおりです。

ATCE コマンド・テーブル・エラー。 検査出口のルーティングが無効です。

ATRC システム・エラー。 検査出口ルーチンからの戻りコードが 0 から 12 の許容範囲内にありません。

CKAL インターフェース違反。 出口ルーチン・アドレス・リストのアドレスを CPCB に定義せずに、チェック出口が定義されました。

CPAT コマンド・テーブル・エラー。 CEP のルーティングが無効です。

CRCI コマンド・テーブル・エラー。 CEP 属性に無効な宛先コードが含まれています。

CTER コマンド・テーブル・エラー。 コマンド・テーブルの最初の構造項目が PLIST、KLIST、または TERM のどれでもありません。

CVTL CEP フェーズ名の検索中に起きたコマンド・テーブル・エラー。 長さフィールドに負の値が入っています。

DFDE コマンド・テーブル・エラー。 デフォルト SIF の長さが間違っています。

DFNS システム・エラー。 このノード・タイプにはデフォルト SIF はありません。

IATR コマンド・テーブル・エラー。 現行のパラメーターの属性指定が無効であるか、定義されていません。

INCO シーケンス・エラーの結果、矛盾したまたは不完全な制御セットアップを行いました。(コマンドを拒否した後、システムはプロンプト・モードに入ります。)

KACT コマンド・テーブル・エラー。 低レベル・ノードがありません。

KLEL コマンド・テーブル・エラー。 KLIST ノードの後に低レベル・ノードが定義されていません。

KOCT コマンド・テーブル・エラー。 KOR ノードの後に低レベル・ノードが定義されていません。 代替はありません。

KRCI コマンド・テーブル・エラー。 CHECK 属性に無効な宛先コードが含まれています。

KRCT コマンド・テーブル・エラー。 低レベル・ノードがありません。

KVTL コマンド・テーブル・エラー。 チェック出口フェーズ名の検索試行中に、値テーブルに負の値が含まれているのをシステムが検出しました。

KWCT コマンド・テーブル・エラー。 低レベル・ノードがありません。

PLEL コマンド・テーブル・エラー。 PLIST ノードの後に低レベル・ノードが定義されていません。

POCT	コマンド・テーブル・エラー。POR ノードの後に低レベル・ノードが定義されていません。
PRMT	インターフェース・エラー。I/O インターフェース・ルーチンのアドレスが CPCB 中にありません。(プロンプトは不可)
PRWO	コマンド・テーブル・エラー。SIF を保持するのに十分なスペースがありません。最大範囲の値が大きすぎるかまたはゼロです。
RAWO	PRWO と同様です。
SE01	システム・エラー。システムが無効なノード・タイプを検出しました。
SE02	コマンド・テーブル・エラー。ノード・タイプは SIF を生成しません。
SE03	SIT 域のオーバーフロー。
SE04	値テーブルのオーバーフロー。
STOV	スタックのオーバーフロー。この原因は次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • コマンド・テーブルのネスティング・レベルが、使用可能なスタック・スペースを超えています。 • コマンド・テーブル・ループ。 • システム・ループ。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

4D11I **PARAMETER LIST IS FOUND WHEN A SINGLE IDENTIFIER IS EXPECTED**

説明: 括弧で囲まれたパラメーター・リストは、オペランドの値として定義されましたが、オペランド値は括弧なしの単一値として指定する必要があります。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D12I **COLON IS MISSING. xxxxxxxxxx**

説明: 対を定義するコロンの欠落しています。正しい指定例は ADDRESS = 40000:41030 です。xxxxxxx は、システムが対の定義を予期した入力コマンド行の一部を示します。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D13I **PAIR OPERAND IS INCOMPLETE**

説明: ペア (一対) の定義が不完全です。正しい指定例は ADDRESS = 40000:41030 です。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D14I **ERROR IN A PAIR DEFINITION**

説明: ペア (一対) の定義が正しくありません。考えられる原因は次のとおりです。

1. エレメントの 1 つが、他のエレメントと同じ入力行にありません。入力域が短すぎて、入力行が途中で切り捨てられました。
2. コロン (:) または 2 番目のペア・エレメントがありません。

対の定義が分離されていません。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D15I **MANDATORY OPERAND MISSING OR MISPELLED**

説明: キーワード・オペランドのつづりが誤っているか、キーワード・オペランドが欠落しています。このメッセージは、入力域が短すぎるために入力行が途中で切り捨てられた場合にも出されることがあります。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D16I **EQUAL SIGN MISSING AFTER character-string**

説明: この文字列の後に等号がありません。このメッセージは、入力域が短すぎるために入力行が途中で切り捨てられた場合にも出されることがあります。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D17I **COMMAND END FOUND BEFORE MANDATORY OPERAND**

説明: 定位置オペランドのつづりが誤っているか、定位置オペランドが欠落しています。このメッセージは、入力域が短すぎるために入力行が途中で切り捨てられた場合にも出されることがあります。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D18I *keyword* **KEYWORD NOT FOLLOWED BY CORRECT PARAMETER**

説明: 示されたキーワードの後の定位置指定が欠落しています。このメッセージは、入力域が短すぎるために入力行が途中で切り捨てられた場合にも出されることがあります。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D19I *char-string* IS AN UNEXPECTED OPERAND IN INPUT

説明: メッセージに表示されている (必要に応じて 11 文字の長さに切り捨てられた) スtringが、オペランドとして入力中にありました。この原因は次のいずれかです。

- オペランドのつづりの誤り。
- オペランド・リストが括弧で閉じられていない。
- 現在処理されているコマンドに、許可されるよりも多くのオペランドが指定されていた。
- 入力域が短すぎるので、入力行が切り捨てられた。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D20I *char-string* IS NOT A VALID ALTERNATIVE

説明: メッセージに表示されている (必要に応じて 11 文字の長さに切り捨てられた) スtringが、オペランドとして入力中にありました。次のような原因が考えられます。

- オペランド・リストの最後に右括弧がない。
- 入力域が短すぎるので、入力行が切り捨てられた。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D21I RIGHT PARENTHESIS IS MISSING

説明: 右括弧または継続文字 (-) が欠落しているか、あるいは入力域が短すぎる場合に入力行が途中で切り捨てられました。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D22I *xxxx* MINIMUM REPETITION COUNT NOT REACHED

説明: 定位置オペランド・リストに含まれているエレメントが少なすぎるか、あるいは入力域が短すぎるために入力行が途中で切り捨てられました。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D23I *xxxx* EXCEEDS THE NUMBER OF LIST ELEMENTS ALLOWED

説明: 定位置オペランド・リストに含まれているエレメントが多すぎます。メッセージ中の *xxxx* は、多すぎる項目です。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D24I THE FOLLOWING PARAMETER IS INVALID: *char-string*

説明: メッセージに表示された文字Stringに構文エラーがあります。次のような原因が考えられます。

- MSHP の機構番号指定に右括弧が欠落しています。
- MSHP 制御ステートメントで構文エラーが検出された。MSHP ステートメントの正しい構文については、「z/VSE System Control Statements」の『MSHP 制御ステートメント作成の規則』を参照してください。
- 定義された代替のうち入力と一致するものがないか、あるいは指定された値が定義された範囲内または許容範囲内にありません。
- 定位置リスト・エレメントが正しくありません。
- 間違った定位置値が入力されました。

構文エラーは、入力域が短すぎる場合の入力行の切り捨てによって起きることもあります。

システムの処置: システムはコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4D25I MORE OPERANDS ENTERED THAN WERE PROMPTED FOR

説明: メッセージの通りです。

システムの処置: システムはプロンプト・メッセージを再び出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4Exx= テープ・エラー統計メッセージ

4E10I *volume-id. cuu* TR = *nnn* TW = *nnn* SIO = *nnnnn*

説明: 表示された ID とテープ装置のアドレスで識別されるテープ・ボリューム上で、一時読み取りエラーまたは一時書き込みエラーが、あらかじめ指定された回数だけ発生しました。このメッセージの変数は以下のとおりです。

TR = 一時読み取りエラーの数

TW = 一時書き込みエラーの数

SIO = ボリュームに出された入出力開始の数

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4Fxx= ハードコピー・ファイル検索メッセージ

4F02I HARD COPY FILE NOT OPEN

説明: IPL 後に JOB ステートメントが与えられなかったか、またはハードコピー・ファイルが存在しません。
 システムの処置: システムは最後の画面イメージからメッセージだけをダンプします。処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 次回のシステム・スタートアップ時には、IPL の直後にハードコピー・ファイルをオープン (または作成) するようにしてください。

4F03I INVALID EXTENTS IN HCFCB

説明: ハードコピー・ファイル・エクステン트가、間違えて定義されたか、上書きされました。
 システムの処置: システムは最後の画面イメージからメッセージだけをダンプします。処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、新規のハードコピー・ファイルを作成してください。

4F04I INVALID CURRENT DISK ADDRESS IN HCFCB

説明: システムの使用可能なハードコピー・ファイル・アドレスが、間違っているか、上書きされています。
 システムの処置: システムは最後の画面イメージからメッセージだけをダンプします。処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、新規のハードコピー・ファイルを作成してください。ハードコピー・ファイルのサービス・ルーチンに問題があるものと思われます。問題が解決しない場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

4F05I HARD COPY FILE DISK NOT (READY| OPERATIONAL)

説明: ハードコピー・ファイルが入っているディスクが取り付けられていないか、作動可能になっていません
 システムの処置: システムは、最後の画面イメージからメッセージだけをダンプします。処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 次回のシステム・スタートアップ時に、ハードコピー・ファイルが入っているディスク・ボリュームが取り付けられていること、そのボリュームの装置が作動可能であることを確認してください。

4F06I READ ERROR DURING FIRST READ FROM HARD COPY FILE

説明: ハードコピー・ファイルからの最初の読み取り中に、エラーが検出されました。
 システムの処置: システムは最後の画面イメージからメッセージだけをダンプします。処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: エラーが再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for

Solving Problems」を参照してください。

4F07I INTERNAL ERROR DURING POSITIONING OF MSGPTR

説明: ハードコピー・ファイルから読み取られる最初のメッセージを指すポインタをシステムが定めたときに、エラーが発生しました。
 システムの処置: システムは最後の画面イメージからメッセージだけをダンプします。処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: エラーが再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

4F08I UNDEFINED ERROR

説明: ハードコピー・ファイル入出力装置の TIO (テスト I/O) 中に、未定義のエラーが発生しました。
 システムの処置: システムは最後の画面イメージからメッセージだけをダンプします。処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: エラーが再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

4F09I ERROR DURING WRITE TO HARD COPY FILE

説明: システムが出力バッファの最後の内容をハードコピー・ファイルに書き込んでいた (WRITE HCFCB の OUTPUT) ときに、エラーが発生しました。
 システムの処置: システムはメッセージをダンプしますが、一部は失われます。システムは現行の画面イメージをダンプの最後に追加します。処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: エラーが再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

4F10I DIFFERENT MSG LGTH FOUND - CONSOLE MSG LGTH USED

説明: 内部に保管されているメッセージ長 (CRTSAV) が、コンソールのメッセージ長と一致しません。
 システムの処置: システムはコンソールのメッセージ長を使ってメッセージをダンプします。処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

4F11I READ ERROR DURING READ FROM HARD COPY FILE

説明: システムがハードコピー・ファイルからメッセージを読み取っているときに、エラーが発生しました。
 システムの処置: システムは、この時点までに読み取ったメッセージをダンプし、ダンプの最後に現在の画面イメージを追加します。処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: エラーが再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼することを検討してください。エ

ラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

4Gxx = DOSVSDMP、独立型ダンプ、IJBXDEBUG、および IJBXSDA メッセージ

4G01D SELECT ONE OF THE FOLLOWING FUNCTIONS: *function list*

説明: これは、DOSVSDMP によって表示される選択メニューの最初の行です。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 希望する機能を、その機能に対応する番号を入力して選択してください。選択できる機能については、「z/VSE Diagnosis Tools」を参照してください。
 - R を選択して、DOSVSDMP を終了させてください。
- プログラマーの応答: なし。

4G02D CREATE THE STAND-ALONE DUMP PROGRAM: *function-list*

説明: これは、メッセージ 4G01D で機能 1 (独立型ダンプ・プログラムの作成) が選択され、ディスク装置がダンプ装置として指定された場合に、DOSVSDMP によって表示される 2 番目の選択メニューです。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 1 を選択して、SYSRES として使用されないディスクに、ダンプ・プログラムを作成してください。
 - 2 を選択して、SYSRES として使用されるディスク上にダンプ・プログラムを作成してください。
 - R を選択して、DOSVSDMP を終了させてください。
- プログラマーの応答: なし。

4G03I DISK DOES NOT HAVE A VOL1 LABEL

説明: ダンプ・プログラム常駐として選択されたディスク装置は、正しく初期設定されていません。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: 正しく初期設定されたディスク・パックをダンプ・プログラム・ディスクとして使用し、DOSVSDMP を再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

4G04D SPECIFY ADDRESS OF DUMP DEVICE (CUU OR SYSNNN)

説明: DOSVSDMP は、ダンプ・テープまたはダンプ・ディスクの装置アドレスを要求しています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 物理装置アドレス (例: 280) を入力するか、またはプログラマー論理装置 (例: SYS005) を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4G05D SPECIFY ADDRESS OF SDAID TAPE (CUU OR SYSNNN)

説明: DOSVSDMP 機能「SDAID テープの印刷」が選択されました。DOSVSDMP は、使用するテープ・ドライブのアドレスを要求しています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 物理装置アドレス (例: 280) を入力するか、またはプログラマー論理装置 (例: SYS005) を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4G06I CLEARED STORAGE FOUND, NO DUMP TAKEN

説明: 独立型ダンプ・プログラムで、消去処置を伴う IPL が実行されました。または、システムの低位のコアが 0 でオーバーレイされています。ダンプ・データはダンプ・データ・セットに書き込まれません。

システムの処置: SYSRES で IPL した場合には、システムは処理を続行します。そうでない場合、システムはハードウェア・ウェイト状態に入ります。

オペレーターの応答: SYSRES で IPL した場合には、なし。それ以外の場合、システムで決められた手順に従って消去処置を伴う IPL を実行して通常のシステム操作を再開してください。

プログラマーの応答: なし。

4G07I END OF EXTENT ON STAND-ALONE DUMP DISK

説明: 要求されたすべてのデータがダンプされる前に、ディスク上の独立型ダンプ・データ・セットがいっぱいになりました。

システムの処置: SYSRES で IPL した場合には、システムは処理を続行します。そうでない場合、システムはハードウェア・ウェイト状態に入ります。

オペレーターの応答: SYSRES で IPL した場合には、なし。それ以外の場合、システムで決められた手順に従って消去処置を伴う IPL を実行して通常のシステム操作を再開してください。

プログラマーの応答: 独立型ダンプ・データ・セットに、より多くのディスク・スペースを割り振ってください。

4G08I DUMP DATA FILE NOT FORMATTED

説明: 独立型ダンプ・データ・セットの形式が正しくありません。ダンプ・データはダンプ・データ・セットに書き込まれません。

システムの処置: SYSRES で IPL した場合には、システムは

処理を続行します。 そうでない場合、システムはハードウェア・ウェイト状態に入ります。

オペレーターの応答: SYSRES で IPL した場合には、なし。それ以外の場合、システムで決められた手順に従って消去処置を伴う IPL を実行して通常のシステム操作を再開してください。

プログラマーの応答: DOSVSDMP ユーティリティを使用して、独立型ダンプ・データ・プログラムおよびデータ・セットを作成してください。

4G09I DUMP PROGRAM HAS BEEN CREATED

説明: DOSVSDMP メッセージは、要求された機能 (独立型ダンプ・プログラムの作成) が完了したことを示します。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4G10I STAND-ALONE DUMP COMPLETE

説明: 要求された独立型ダンプが完了しました。

システムの処置: SYSRES で IPL した場合には、システムは処理を続行します。 そうでない場合、システムはハードウェア・ウェイト状態に入ります。

オペレーターの応答: SYSRES で IPL した場合には、なし。それ以外の場合、システムで決められた手順に従って消去処置を伴う IPL を実行して通常のシステム操作を再開してください。

プログラマーの応答: なし。

4G11I SELECTED OPTION IS INVALID

説明: メッセージ 4G01D または 4G02D に対する応答が、選択可能なオプションのいずれとも対応していません。

システムの処置: DOSVSDMP は再びメッセージ 4G01D または 4G02D を出します。

オペレーターの応答: メッセージ 4G01D および 4G02D の説明を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

4G12I ERROR CREATING DUMP PROGRAM. RETRY DOSVSDMP CREATE WITH ANOTHER DUMP DEVICE

説明: 独立型ダンプ・テープまたはディスクの作成中に、エラーが発生しました。 前のメッセージに、エラーの理由が表示されます。独立型ダンプ・テープまたはディスクは、ダンプをとる必要があるときに IPL が正常に行われるよう、エラー・フリーで作成される必要があります。

システムの処置: DOSVSDMP は独立型ダンプ装置を作成せずに終了します。

オペレーターの応答: 独立型ダンプを作成しようとしている場合は、別のテープを取り付けて、DOSVSDMP を再実行してください。独立型ディスクを作成しようとしている場合は、ディスク・ラベルを調べるか、別のダンプ装置を選択します。正しく入力して DOSVSDMP を再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

4G13I INVALID DEVICE SPECIFICATION

説明: 前のメッセージ (4G04D または 4G05D) への応答が、有効な装置アドレスではありませんでした。 詳しくは、メッセージ 4G04D または 4G05D (該当する方) の説明を参照してください。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: DOSVSDMP を再実行して、正しい装置を指定してください。

プログラマーの応答: なし。

4G14I SDAID TAPE NOT FROM CURRENT VSE SYSTEM

説明: DOSVSDMP によって印刷された SDAID テープは、異なる開発レベル (異なるリリースまたはバージョン) の VSE システムで生成されたものです。 メッセージ 4G14I は警告メッセージです。

システムの処置: DOSVSDMP は、SDAID テープを印刷します。

オペレーターの応答: 可能であれば、SDAID テープを作成したのと同じ VSE システムで DOSVSDMP を実行してください。

プログラマーの応答: なし。

4G15I PROGRAMMER LOGICAL UNIT IS NOT ASSIGNED

説明: 前のメッセージ (4G04D または 4G05D) への応答で指定されたプログラマー論理装置は、実際の装置に割り当てられていません。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: プログラマー論理装置を正しく割り当てて、DOSVSDMP を再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

4G16I NO FREE PROGRAMMER LOGICAL UNIT AVAILABLE

説明: CUU 形式の装置アドレスが、前のメッセージ (4G04D または 4G05D) への応答として指定されました。空きプログラマー論理装置がこれ以上ないため、システムが生成した総称割り当て要求が失敗しました。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: プログラマー論理装置を解放して、DOSVSDMP を再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

4G17I PRINTOUT CANCELED BY OPERATOR

説明: DOSVSDMP がダンプの印刷出力を処理していたときに、オペレーターが CANCEL コマンドを出しました。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**4G18I FORMAT OF SDAID BUFFER IS
INCORRECT**

説明: SDAID トレース・テープで正しくないデータ・ブロックが見つかりました。誤ったテープが取り付けられていたか、または前の SDAID トレース実行中にエラーが起きたことが原因であると考えられます。

システムの処置: 処理は終了します。

オペレーターの応答: 誤ったテープが取り付けられていた場合は、正しいテープを取り付けて、プログラムを再実行してください。それ以外の場合は、テープを処理する前に SDAID トレース・プログラムを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

4G19I SYSLST IS NOT ASSIGNED

説明: DOSVSDMP が、独立型ダンプ・プログラムの作成以外の機能の実行を要求されました。有効な SYSLST 割り当てが必要です。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: SYSLST を正しく割り当ててから、DOSVSDMP を再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

**4G20I SDAID DEBLOCKING ROUTINES
CANNOT BE LOADED**

説明: DOSVSDMP が SDAID フェーズ IJSDDEB、IJSDPWB、または IJSDCVT のいずれか 1 つを指定した CDLOAD 要求を出しました。この CDLOAD 要求が失敗しました。GETVIS 域で使用可能なストレージが不十分である可能性があります。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: GETVIS スペースを増やして、DOSVSDMP を再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

4G21I PHASE aaaaaaaa NOT FOUND

説明: このメッセージでは、aaaaaaa は、IJSDDEB、IJSDPWB、IJSDCVT、IJSDNEM のいずれかを表します。情報/分析出口ルーチン IJBXSDA が、上記のフェーズの 1 つを指定したロード要求を出しました。この LOAD 要求が失敗しました。上記のフェーズがシステム・ライブラリー IJSYSRS から除去された可能性があります。

システムの処置: IJBXSDA は終了します。

オペレーターの応答: 欠落しているフェーズがカタログされた後、IJBXSDA を再実行してください。

プログラマーの応答: システム・ライブラリー IJSYSRS に上記の SDAID フェーズが入っているか確かめてください。

**4G22I SDAID BUFFER WAS FORMATTED
SUCCESSFULLY**

説明: 情報/分析出口ルーチン IJBXSDA が、独立型ダンプの中の SDAID バッファを形式化しました。トレース項目がダンプ・ライブラリー拡張メンバーに含まれています。それらは 'PRINT FORMAT' オプションで印刷されるか、または情報/分析プログラムの画面で対話モードで表示されます。

システムの処置: IJBXSDA は制御を情報/分析プログラムに戻します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4G23I WRONG TAPE REEL

説明: DOSVSDMP への入力として使用可能になったテープには、有効なダンプ・データが入っていません。DOSVSDMP が処理できる入力テープは、独立型ダンプが入っているテープ、1 つまたは複数のアテンション・ルーチン DUMP コマンドの出力が入っているテープ、または SDAID テープだけです。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: 正しいテープを取り付けた後で、DOSVSDMP を再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

**4G24I DUMP FILE DOES NOT CONTAIN
DUMP DATA**

説明: ダンプ・テープまたはディスクに無効なデータが入っています。正しくないテープまたはディスクが指定された可能性があります。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: DOSVSDMP を再実行し、その際、正しいテープまたはディスクが指定されたかを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

**4G25I DEVICE NOT AVAILABLE IN THE
SYSTEM**

説明: 指定された装置がシステムに定義されていません。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: 装置アドレスを正しく入力したことを確認してください。正しく入力した場合は、メッセージをプログラマーに報告してください。それ以外の場合は、正しい装置を使用して、DOSVSDMP を再実行してください。

プログラマーの応答: メッセージの報告を受けた場合は、適用される ASI IPL プロシージャーに、その装置を指定した ADD コマンドが含まれているかを確認してください。

4G26I WRONG DEVICE SPECIFIED

説明: メッセージ 4G04D (要求された装置: テープまたはディスク) またはメッセージ 4G05D (要求された装置: テープ) に対する応答で指定された装置のタイプが無効です。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: 装置アドレスを正しく入力したことを確認してください。正しく入力した場合は、メッセージをプログラマーに報告してください。それ以外の場合は、正しい装置を使用して、DOSVSDMP を再実行してください。

プログラマーの応答: メッセージの報告を受けた場合は、適用される ASI IPL プロシージャーに、その装置を指定した ADD コマンドが含まれているかを確認してください。

4G27I DUMP FILE CAPACITY IS *nnnnnnnn,nn* M BYTES

説明: このメッセージは、独立型ダンプ・ディスク上に作成されたダンプ・データ・ファイルの容量を示します。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 必要な独立型ダンプ・データがすべて入る容量であるかどうかを確かめてください。容量が不足しているときは、サイズを拡大し、DOSVSDMP ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

4G28I NO DUMP FILES FOUND

説明: テープまたはディスク・ダンプ・データ・セットにダンプ・ファイルが含まれていません。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: DOSVSDMP を再実行し、その際、正しいテープまたはディスクが指定されたかを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

4G29I SDAID FILE IS EMPTY

説明: 入力装置に取り付けられたテープには、SDAID トレース項目が入っていません。誤ったテープが取り付けられたものと思われる。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: 必要に応じて、正しいテープが入力装置に取り付けられていることを確認した後で、DOSVSDMP を再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

4G30D SPECIFY FILE NUMBER

説明: テープまたはディスクから印刷するために、DOSVSDMP はダンプ・ファイル番号を入力するようユーザーに指示しています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 印刷するファイルの番号を入力してください (最初のファイルは 1、2 番目のファイルは 2、以下同様)。
- END/ENTER を押して、最初のファイルを印刷してください。

ファイル番号が分からない場合は、DOSVSDMP SCAN 機能を使用してファイルの一覧を印刷してください。

プログラマーの応答: なし。

4G31I FILE NUMBER SPECIFIED INCORRECTLY

説明: メッセージ 4G30D に対する応答で指定されたファイル番号が、次のいずれかです。

- 無効 (0、または 5 桁以上の数値) です。
- 最後のファイル番号より大きい数値です。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: DOSVSDMP を再実行し、ファイル番号を正しく指定してください (メッセージ 4G30D を参照)。

プログラマーの応答: なし。

4G32I DEVICE ALREADY USED

説明: CUU 形式の装置アドレスが、前のメッセージ (4G04D または 4G05D) への応答として指定されました。装置が別の区画で所有されているため、システムが生成した総称割り当て要求が失敗しました。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: 空きテープ装置を使用して、DOSVSDMP を再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

4G33I PARAMETER ERROR

説明: 'PARM=' によって指定された DOSVSDMP パラメーターにエラーがあります。

システムの処置: DOSVSDMP は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

4G34I STAND-ALONE DUMP IN PROGRESS

ON TAPE *pcuu* | DISK *pcuu* | FCP *pcuu*

説明: 独立型ダンプ・プログラムが稼働中です。物理装置アドレスが表示されます。

システムの処置: システムは独立型ダンプを取得します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4G35I PROBLEM ENCOUNTERED DURING SA DUMP PROCESSING. REASON CODE

nnnn

説明: このメッセージには、独立型ダンプ・プログラムの終了の理由が示されています。ダンプは、イベントが発生した時点まで、ダンプ装置に正しく書き込まれました。*nnnn* の意味は以下のとおりです。

- 0001** SIO/SSCH の入出力エラー
- 0002** 装置が作動可能ではありません。
- 0004** チャンネル・エラー
- 0008** 永続入出力エラー
- 0010** エラー・リカバリー時の入出力エラー
- 0020** リカバリー不能なテープ・エラー
- 0040** コンソール入出力エラー
- 0080** SA ダンプ・ディスクのエクステント終了
- 0100** テープ IPL の入出力エラー
- 0400** IPL 時のプログラム・チェック
- 0800** 仮想記憶のダンプの作成時のプログラム・チェック
- 1000** 仮想記憶のダンプ時の IJBXDM10 でのプログラム・チェック
- 2000** IJBXDM7 のシフト時のプログラム・チェック
- 4000** IJBXDM8/IJBXDM9 でのプログラム・チェック

注: コードの累計が行われる可能性があります。例えば、理由コード 5000 は、理由コード 4000 と 1000 を組み合わせたものです。

システムの処置: システムはハードウェア・ウェイト状態に入ります。

オペレーターの応答: システムで決められた手順に従って消去処置を伴う IPL を実行することにより、通常のシステム操作を再開してください。
プログラマーの応答: なし。

**4G36I END OF VOLUME ON DUMP TAPE *cuu*.
MOUNT NEW TAPE OR RE-IPL VSE**

説明: ダンプ・テープでボリュームの終わりに達しました。
システムの処置: なし。
オペレーターの応答: 新規のテープを取り付けてから動作可能にし、独立型ダンプに処理を続行させるか、システムで決められた手順に従って消去処置を伴う IPL を実行して通常のシステム操作を再開してください。
プログラマーの応答: なし。

**4G37I ERROR ON DUMP TAPE *cuu*. MOUNT
NEW TAPE OR RE-IPL VSE**

説明: ダンプ・テープにエラーが発生しました。ファイルがすでに正しく書き込まれた後にエラーが起きたことが考えられるため、実際に取り付けられたテープには、完全なダンプ・データ・ファイルが入っている可能性があります。
システムの処置: なし。
オペレーターの応答: 新規のテープを取り付けてから動作可能にし、独立型ダンプに処理を続行させるか、システムで決められた手順に従って消去処置を伴う IPL を実行して通常のシステム操作を再開してください。
プログラマーの応答: なし。

**4G38I STAND-ALONE DUMP NOT TAKEN ON
CURRENT VSE SYSTEM**

説明: INFOANA によって形式化された独立型ダンプは、異なる開発レベルの VSE システムで生成されたものです。メッセージ 4G38I は警告メッセージです。
システムの処置: INFOANA は SDAID バッファを形式化して印刷します。
オペレーターの応答: 可能であれば、INFOANA を独立型ダンプを取ったのと同じ VSE システムで実行してください。
プログラマーの応答: なし。

4G40I VSE IPL IN PROGRESS

説明: IPL が SYSRES ディスクからの独立型ダンプ・プログラムで実行されました。ダンプが完了し、VSE SYSRES の IPL が進行中です。
システムの処置: システムは処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

4G44I PERMANENT ERROR ON DUMP DEVICE

説明: ダンプ装置にエラーが発生しました。ダンプは終了しますが、ダンプ・データ・セットには、部分データが入っている可能性があります。
システムの処置: システムはハードウェア・ウェイト状態に入ります。
オペレーターの応答: システムで決められた手順に従って消去

処置を伴う IPL を実行することにより、通常のシステム操作を再開してください。
プログラマーの応答: ダンプ装置エラーを訂正してください。

**4G45I START DUMPING OF PARTITION
partition-id | STORAGE AREA *supervisor* +
sva | *page -mgr real part* | *page-mgr addr*
space | *partition-id- memory object* | *shared*
memory object | *control blocks* | *hard copy file***

説明: SA ダンプで Partition *partition-id* | STORAGE AREA *supervisor* + *sva* | *page -mgr real part* | *page-mgr addr space* | *partition-id- memory object* | *shared memory object* | *control blocks* | *hard copy file* のダンプがとられ始めようとしています。
システムの処置: SA ダンプ処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**4G50I PROGRAM CHECK WHILE ACCESSING
SCSI DISK *cuu***

説明: ダンプ・プログラムがハードコピー・ファイルまたはページ・データ・セットからデータを取り出すために SCSI ディスク *cuu* に接続しようとしているときに、SCSI 装置ドライバでプログラム・チェックが発生しました。
システムの処置: ダンプ・プログラムは、SCSI 装置からデータを読み取らずに処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**4G51I ERROR CONNECTING TO SCSI DISK *cuu*
- RETURN CODE = X'*nnnnnnnn*', REASON
CODE = X'*mmmmmmmmmm*'**

説明: ダンプ・プログラムがハードコピー・ファイルまたはページ・データ・セットからデータを取り出すために SCSI ディスク *cuu* に接続しようとしているときに、エラーが検出されました。

戻りコード *nnnnnnnn* と理由コード *mmmmmmmmmm* がエラーについての詳細情報を示していて、メッセージ 0S40I で説明されています。

システムの処置: ダンプ・プログラムは、SCSI 装置 *cuu* からデータを読み取らずに処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**4G52I PERMANENT READ ERROR ON SCSI
DISK *cuu*
- RETURN CODE = X'*nnnnnnnn*', REASON
CODE = X'*mmmmmmmmmm*'**

説明: ダンプ・プログラムがハードコピー・ファイルまたはページ・データ・セットからデータを取り出すために SCSI ディスク *cuu* からの読み取りを行っているときに、入出力エラーが発生しました。

戻りコード *nnnnnnnn* と理由コード *mmmmmmmmmm* がエラー

についての詳細情報を示していて、メッセージ 0S46I で説明されています。

システムの処置: ダンプ・プログラムは、SCSI 装置 *cuu* からデータを読み取らずに処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4G55I EXCEEDED DISK LIMIT ON FCP *cuu1* (FBA *cuu2*)

説明: SADUMP が SCSI へのダンプ時に IPL FCP アダプター *cuu1* によってオープンできる SCSI ディスクへの接続の数は制限されています。FBA-SCSI ディスク *cuu2* のオープン時に、この制限を超えました。

システムの処置: SADUMP は続行されますが、ディスク *cuu2* 上の HCF / PDS ファイルにはアクセスしなくなります。

オペレーターの応答: 今後のシステム・ダンプに関しては、SADUMP のダンプ専用 IPL FCP アダプターを使用してください。詳細については、「IBM z/VSE 管理」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

4G70I DUMP TO BE PROCESSED WAS NOT PRODUCED BY VSE

説明: 情報/分析出口ルーチン IJBXSDA が呼び出され、別のオペレーティング・システムによって作成されたダンプ・ファイル进行分析しました。

システムの処置: IJBXSDA は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4G71I DUMP DOES NOT CONTAIN AN SDAID BUFFER

説明: 情報/分析出口ルーチン IJBXSDA が呼び出され、SDAID バッファを含まない独立型ダンプ・ファイルが分析されました。これはエラー状況ではありません。これは単にオペレーターに、独立型ダンプが取られたときに SDAID は作動していなかったことを知らせるだけです。

システムの処置: IJBXSDA は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4G72I NO DUMP DATA FOUND FOR SDAID BUFFER

説明: 情報/分析出口ルーチン IJBXSDA が、独立型ダンプ・ファイル进行分析するために呼び出されました。ダンプ・データが完全ではありません。独立型ダンプ・データが取られたとき、またはダンプ・ライブラリーにダンプをロードしているときに、データが失われた可能性があります。

システムの処置: IJBXSDA は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4G73I WRONG DUMP TYPE. IJBXSDA PROCESSES STAND ALONE DUMPS ONLY

説明: 情報/分析出口ルーチン IJBXSDA が、ダンプ・ファイル进行分析するために呼び出されましたが、ダンプ・ファイルは、VSE 独立型ダンプ・プログラムで作成されたものではありません。(ABEND ダンプまたはオペレーター・コマンド・ダンプ)

システムの処置: IJBXSDA は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4G74I GETVIS FOR SDAID BUFFER FAILED

説明: 情報/分析出口ルーチン IJBXSDA が、独立型ダンプ・ファイル进行分析するために呼び出されました。IJBXSDA は SDAID バッファ用の GETVIS スペースを要求し、また SDAID フェーズ IJSDDEB、IJSDPWB、および IJSDCVT をロードするように要求しました。

システムの処置: IJBXSDA は終了します。

オペレーターの応答: 情報/分析プログラムにより多くの GETVIS スペースを提供し、IJBXSDA を再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

4G75I FREEVIS FOR SDAID BUFFER FAILED

説明: 情報/分析出口ルーチン IJBXSDA は SDAID バッファの形式化を正常に終了しました。しかし、使用された GETVIS スペースが解放されていません。SDAID トレース記録を対話式に検査するか、または情報/分析プログラムの PRINT FORMAT オプションで検査することができます。

システムの処置: IJBXSDA は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

4G76I IJBXSDA CALL ERROR. REASON CODE: x

説明: 情報/分析出口ルーチン IJBXSDA が呼び出されましたが、呼び出し側プログラムで指定されたパラメーターが正しくありません。これは呼び出し側プログラムの内部エラーです。理由コードが、エラー状態をさらに詳しく説明しています。

RC=1: ダンプに症状レコードが含まれていません。

RC=2: 情報/分析はダンプ・アクセス・ルーチンを提供しません。

RC=3: 情報/分析は印刷ルーチンを提供しません。

RC=4: 情報/分析は症状レコード・アクセス・ルーチンを提供しません。

RC=5: 情報/分析は GETVIS/FREEVIS ルーチンを提供しません。

システムの処置: IJBXSDA は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

4G77I INFOANA PRINT ROUTINE FAILED.
RETURN CODE: xxx, REASON CODE: xxx

説明: 情報/分析出口ルーチン IJBXSDA によって呼び出された情報/分析印刷ルーチンが、ゼロ以外の戻りコードを返しました。エラーの考えられる理由は、ダンプ・ライブラリーがいっぱいであることです(戻りコード 8、理由コード 24)。戻りコードと理由コードの値は、情報/分析セクション(接頭部 BLN)に記載されています。

システムの処置: IJBXSDA は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4G79I INTERNAL ROUTINE IJBCSSA ISSUED
RETURN CODE='xx'X,REASON CODE='xx'

説明: 内部ルーチン IJBCSSA が、コンソール・バッファ・データを処理できません。ダンプが不完全であるか、ダンプに欠陥のある可能性があります。例えば、ダンプに SVA が含まれていません。

戻りコード

08 未解決の応答で埋めている間に、渡された出力域の終わりに達しました。すべての未解決応答が書き込まれたとは限りません。コンソール・ルーター・キューからのメッセージはまだ書き込まれていません。

16 メッセージのコンソール・ルーター・キューが空です。未解決の応答は、出力域(もしあれば)に書き込まれました。

32 IJBXCSDA (Infoana) サービス・ルーチンから、エラーを示す戻りコードが戻され、処理を続行できません。

xx このコードは、内部的な意味しかもちません。

システムの処置: IJBXCMSG は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 上記情報を使用して既知問題データベースを検索するように弊社に依頼してください。

4G80I IJBXDEBUG ANALYSIS OUTPUT ALREADY EXISTS FOR THIS DUMP. IJBXDEBUG TERMINATED

説明: LBD 項目 DBUGHDR がすでに存在します。これは、情報/分析出口ルーチン IJBXDEBUG がすでにこのダンプに対して実行されたことを意味します。

システムの処置: IJBXDEBUG は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4G82I DUMP ANALYSIS ROUTINE "IJBXDEBUG" COMPLETED SUCCESSFULLY

説明: 情報/分析出口ルーチン IJBXDEBUG が正常に完了しました。分析結果はダンプ・ライブラリー拡張メンバーに含まれています。情報/分析の 'PRINT FORMAT' 機能を使用して、

分析結果を印刷することができます。

システムの処置: IJBXDEBUG は制御を情報/分析に返します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4G83I IJBXDEBUG CALL ERROR. REASON CODE: x

説明: 情報/分析出口ルーチン IJBXDEBUG が呼び出されましたが、呼び出し側プログラムで指定されたパラメーターが正しくありません。これは呼び出し側プログラム(おそらく、情報/分析)の内部エラーです。理由コードが、エラー状態をさらに詳しく説明しています。

RC=1: ダンプに症状レコードが含まれていません。

RC=2: 情報/分析はダンプ・アクセス・ルーチンを提供しません。

RC=3: 情報/分析は症状レコード更新ルーチンを提供しません。

RC=4: 情報/分析は症状レコード・アクセス・ルーチンを提供しません。

システムの処置: IJBXDEBUG は終了します。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 必要に応じて、弊社に連絡してサポートを受けてください。

4G87I NONZERO RETURN CODE FROM INFO/ANALYSIS DUMP ACCESS.
RETURN CODE: xx. REASON CODE: xx

説明: 情報/分析出口ルーチン IJBXDEBUG によって呼び出されたダンプ・アクセス・ルーチンが、ゼロ以外の戻りコードを返しました。

システムの処置: IJBXDEBUG は終了します。戻りコードと理由コードの値は、情報/分析の資料に記載されています。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 情報/分析または IJBXDEBUG の内部エラーです。必要に応じて、弊社に連絡してサポートを受けてください。

4G88I NONZERO RETURN CODE FROM INFO/ANALYSIS SYMPTOM RECORD UPDATE. SECTION: x. RETURN CODE: xxx. REASON CODE: xxx

説明: 情報/分析出口ルーチン IJBXDEBUG によって呼び出された症状レコード更新ルーチンが、ゼロ以外の戻りコードを返しました。エラーの考えられる理由は、ダンプ・ライブラリーがいっぱいであることです(戻りコード 8、理由コード 24)。戻りコードと理由コードの値は、情報/分析セクション(接頭部 BLN)に記載されています。

システムの処置: IJBXDEBUG は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**4G89I IJBXDEBUG INTERNAL SYMPTOM
RECORD UPDATE ERROR. INVALID
SECTION NUMBER: x**

説明: 情報/分析出力ルーチン IJBXDEBUG で、3、4、5、6 以外の症状レコード・セクションを更新しようとした。

システムの処置: IJBXDEBUG は終了します。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: IJBXDEBUG の内部エラーです。必要に応じて、弊社に連絡してサポートを受けてください。

**4G90I INTERNAL ERROR IN IJBXDEBUG OR
DUMP FILE. MORE THAN 15 LBD'S
BUILT**

4Hxxx= 印刷装置入出力メッセージ

**4H01I INVALID ASA CONTROL CHARACTER cc
FILENAME=name SYSxxx=ciu**

説明: 印刷データに、無効な ASA 制御文字が含まれています。印刷装置 DTF は有効な ASA 制御文字を必要とします。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ASA 制御文字を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

**4H02I PRTOV USED BUT NO PRINTOV
SPECIFIED FILENAME=name SYSxxx=ciu**

説明: プログラムは PRTOV マクロを出しましたが、DTF は PRINTOV を指定していません。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: DTF を変更して PRINTOV=YES を指定するようにし、ジョブを再サブミットしてください。

**4H03I RECURSIVE OPEN IGNORED. RC=nnn
FILENAME=name SYSxxx=ciu**

説明: 印刷出力ファイルをオープンしようとしたが、それはすでにオープンされています。

RC = 001

実際の印刷出力ファイルは、DTFPR によって定義されています。

RC = 002

実際の印刷出力ファイルは、DTFCP または DTFDI によって定義されています。

システムの処置: OPEN は無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムをチェックし、2 つ目の OPEN を取り除いてください。

**4H04I PHASE phasename INTERNAL ERROR
RC=nn FILENAME=name SYSxxx=ciu**

説明: メッセージの中の phasename で示されたフェーズでエラーが起きました。戻りコード nn で、エラーのタイプが

説明: 情報/分析出力ルーチン IJBXDEBUG で、15 を超える LBD を作成しようとした。分析出力の中の通知メッセージには、この問題を引き起こしたダンプ・ファイルのエラーが示される場合があります。ダンプ・ファイルのエラーでないときは、IJBXDEBUG の内部エラーです。

システムの処置: IJBXDEBUG は終了します。

オペレーターの応答: プログラマーにこのメッセージを報告してください。

プログラマーの応答: これが IJBXDEBUG の内部エラーである場合は、弊社に連絡してサポートを受けてください。

さらに詳しく分かります。このコードは以下の 1 つです。

01 ユーザーのプログラムが、印刷装置が実行できない機能要求 (例えば、GET) を出しました (命令マクロによって)。

02 選択された装置が、現在使用中のファイル定義 (DTFxx) によってサポートされません。

03 EXTRACT (システム内部マクロ) が失敗しました。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 戻りコードに応じて、次のとおりです。

RC=01 命令マクロに間違ったファイル名が指定されていないか、プログラムをチェックしてください。

RC=02 DTFxx マクロの装置指定が間違っていないか、プログラムをチェックしてください。

RC=03 弊社に連絡し、要求に応じて以下のものを提供できるようにしておいてください。

- ジョブが取り消されたときに取られたダンプの出力。ジョブ・ストリームに // OPTION DUMP を入れてジョブを再実行する必要があるかもしれません。
- 該当するプログラムのソース・リスト。

**4H05I INVALID RECORD LENGTH
FILENAME=name SYSxxx=ciu**

説明: 指定されたレコード長によれば、負の文字数が印刷されることとなります。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: VARUND として定義されたレコード形式の場合は、レコード定義ワード (RDW) を訂正してください。UNDEF レコード形式の場合は、RECSIZE レジスターの内容を訂正してください。

**4H06I DTF INCORRECT RC=nn
FILENAME=filename SYSxxx=ciu**

説明: 印刷出力または装置独立出力ファイルをオープンしようとしたときに、システムは、

1. ファイルがすでにオープンされていることを検出しました。あるいは、
2. ファイル用のファイル制御 (DTF) ブロックを探し出すことができませんでした。

戻りコード (メッセージでは RC=nn と表示) が問題解決のために提供されます。このコードは以下の 1 つです。

- 01** 印刷出力ファイルの DTF が、すでに (記号) アドレス IJDPRT を指しています。
- 02** 印刷出力ファイルが前にオープンされていました。
- 03** 印刷出力ファイルが前にオープンされており、その DTF はすでに (記号) アドレス IJDPRT を指しています。
- 04** 装置独立ファイルがオープンされるときに、ファイルの DTF がすでに (記号) アドレス IJDPRT を指しています。
- 05** 印刷出力ファイルの DTF が DTF 拡張を指しています。
- 06** 印刷出力ファイルの DTF が、DTF 拡張、および (記号) アドレス IJDPRT を指しています。
- 07** 印刷出力ファイルが前にオープンされており、その DTF が DTF 拡張を指しています。
- 08** 印刷出力ファイルが前にオープンされており、その DTF は DTF 拡張および (記号) アドレス IJDPRT を指しています。
- 09** 装置独立ファイルがオープンされ、ファイルの DTF が DTF 拡張を指しています。

- 10** 装置独立ファイルがオープンされ、ファイルの DTF が DTF 拡張、および (記号) アドレス IJDPRT を指しています。

- 11** DTF 接頭部ポインターが DTF の開始点を指していません。

システムの処置: エラーのタイプによって異なります。

- 戻りコード 01 から 04 の場合は、処理は続行されます。
- それ以外の戻りコードの場合は、システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: プログラムを検査し、コーディング・エラーがないかどうか調べてください。必要に応じて訂正してください。戻りコードに応じて、次のとおりです。

- 01 から 0A のいずれか - ユーザーは、すでにオープンされているファイルに対して、または前のプログラム実行の終了時に正しくクローズされなかったファイルに対して、OPEN を出しました。
- 0B - ユーザーは、以前のプログラム・リリースのもとで作成された DTF をコピーすることによって、ファイルの DTF を作成しました。この方法をとる場合には、DTF 内の xxMOD ポインターが DTF の拡張を指していることを確認してください。

問題判別のためのダンプを入手するために、// OPTION PARTDUMP を使用してジョブを再実行してください。

4Ixxx= 対話式トレース・プログラム・メッセージ

4I011 TRACE STARTED FOR PROGRAM prog

説明: 示されたプログラムが、// EXEC ステートメントの TRACE パラメーターで呼び出されました。トレース・プログラムの初期設定は正常に完了しました。

システムの処置: システムは、トレースされたプログラムの最初の命令を表示します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4I021 TRACE INITIALIZATION FAILED

説明: プログラムが // EXEC ステートメントの TRACE パラメーターで呼び出されましたが、トレース・プログラムの初期設定が異常終了しました。先行しているメッセージを見てください。そこには、トレース・プログラムの初期設定が異常終了した理由が説明されています。

システムの処置: 呼び出されたプログラムは、対話式トレース・プログラムを使用せずに実行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4I031 SDAID IS ACTIVE

説明: SDAID トレースが実行中なので、対話式トレース・プログラムは開始できません。

システムの処置: 呼び出されたプログラムは、対話式トレース・プログラムを使用せずに実行されます。

オペレーターの応答: SDAID セッションが停止してから、トレースを再試行してください。

プログラマーの応答: なし。

4I04D ALTER COMMAND REJECTED

説明: トレースされたプログラムで ABEND 条件が発生しました。この状態では、トレース・プログラムは ALTER コマンドを受け入れません。

システムの処置: システムは対話式トレース・コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: DISPLAY コマンドを入力してエラー状態を分析するか、または GO コマンドを入力して終了処理を再開してください。

プログラマーの応答: なし。

4I05D ADDRESS OUTSIDE PARTITION. TRACE COMMAND REJECTED

説明: 命令トレース用の TRACE 定義コマンドが、ユーザー区画の外側にあるトレース範囲を定義しました。

システムの処置: TRACE コマンドは拒否されます。トレースされる区画は待ち状態のままになります。

オペレーターの応答: 対話式トレース・コマンドを訂正して、出し直してください。

プログラマーの応答: なし。

4I06D MAXIMUM NUMBER OF TRACES EXCEEDED. TRACE COMMAND REJECTED

説明: 出された TRACE 定義コマンドが多すぎます。使用で

きるコマンドの最大数を超過しています。

システムの処置: TRACE コマンドは拒否されます。トレースされる区画は待ち状態のままになります。

オペレーターの応答: QUERY コマンドと TRACE END コマンドを使用して、トレース・テーブル・スペースを解放してください。

プログラマーの応答: なし。

4107D ALL TRACES ENDED

説明: TRACE END コマンドが正常終了し、残っているトレース定義はありません。

システムの処置: トレースされる区画は待ち状態のままになります。

オペレーターの応答: 任意の対話式トレース・コマンド (例えば、GO コマンド) を出して、プログラム操作を再開してください。

プログラマーの応答: なし。

4108D INVALID NUMBER SPECIFIED. TRACE END COMMAND REJECTED

説明: TRACE END コマンドが出されましたが、指定されたトレース識別 (トレース番号) を持つトレースがアクティブではありません。

システムの処置: 間違った TRACE END ステートメントは拒否されます。トレースされる区画は待ち状態のままになります。

オペレーターの応答: QUERY コマンドを出してトレースのリストを表示し、正しいトレース識別を指定して TRACE END コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4109D SPECIFIED TRACE ENDED

説明: 対話式トレース・コマンド TRACE END が正常に実行されました。

システムの処置: トレースされる区画は待ち状態のままになります。

オペレーターの応答: 任意の対話式トレース・コマンド (例えば、GO コマンド) を出して、プログラム操作を再開してください。

プログラマーの応答: なし。

4110D NO TRACES ACTIVE

説明: 対話式トレース・コマンド QUERY が出されましたが、アクティブであるトレースはありません。

システムの処置: トレースされる区画は待ち状態のままになります。

オペレーターの応答: 任意の対話式トレース・コマンド (例えば、GO コマンド) を出して、プログラム操作を再開してください。

プログラマーの応答: なし。

4111I CDLOAD FOR *phase-name* FAILED. RC=X'xxxxxxxx'

説明: 示されたフェーズ (\$IJBTRAC または \$IJBSSINA) がシステム・ライブラリー IJSYSRS.SYSLIB に含まれていないか、または (トレースされるプログラムを実際に実行する場合) 実区画の GETVIS 域のサイズが小さすぎて、示されたフェーズをロードできません。RC=X'xxxxxxxx' は、CDLOAD マクロ

の戻りコードを 16 進表記で示します。

システムの処置: 呼び出されたプログラムは、対話式トレース・プログラムを使用せずに実行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: フェーズ \$IJBTRAC および \$IJBSSINA がシステム・ライブラリー IJSYSRS.SYSLIB に含まれていることを確認してください。

4112D INVALID ADDRESS. ALTER COMMAND REJECTED

説明: 以下のいずれかの理由で、ALTER コマンドが拒否されました。

- 指定された間隔が、ユーザー区画の外側の区域をアドレス指定している。
- 指定された間隔が、保管された PSW のマスク部分をアドレス指定している。
- 指定された間隔は、ページ境界を超過しており、隣接するページに異なる状況が含まれている。

システムの処置: ALTER コマンドは拒否されます。トレースされる区画は待ち状態のままになります。

オペレーターの応答: 対話式トレース・コマンドを訂正して、出し直してください。ALTER コマンドがページ境界を超過している場合は、それぞれのページのストレージの内容を変更するために ALTER コマンドを 2 つ出してください。

プログラマーの応答: なし。

4113I LOCK MACRO FAILED. RC=X'xxxxxxxx'

説明: LOCK マクロ (対話式トレース・プログラムを SDAID プログラムと同期するために使用される) が失敗しました。RC=X'xxxxxxxx' は LOCK マクロの戻りコードを 16 進表記で示します。

システムの処置: 呼び出されたプログラムは、対話式トレース・プログラムを使用せずに実行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IBM 既知問題データベースを調べてください。

4114D ENTER INTERACTIVE TRACE COMMAND

説明: これは間違ったトレース・コマンドに対して出される応答です。すでに直前のメッセージ行に、エラーの理由が記述されています。

システムの処置: システムは対話式トレース・コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: 直前のコマンドを訂正して、出し直してください。

プログラマーの応答: なし。

4115I GETVIS ERROR. [RC=X'xxxxxxxx']

説明: 区画 GETVIS スペースに対する GETVIS 要求が失敗しました。対話式トレースの実行中にエラーが発生しました。

戻りコード (表示された場合) は、GETVIS マクロの戻りコードを 16 進表記で示します。

システムの処置: 対話式トレース・プログラムは終了しまし

た。呼び出されたユーザー・プログラムはトレースなしで実行を続けます。

オペレーターの応答: 十分な GETVIS ストレージを持つ区画で、プログラムを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

4I16I INVALID SYSLST DEVICE TYPE

説明: OUTPUT=SYSLST を指定した GO コマンドが出されましたが、論理装置 SYSLST がまだ割り当てられていないか、またはテープ装置かディスク装置に割り当てられています。システムの処置: トレース・プログラムはバッチ・モードに切り換えられていません。トレースされる区画は待ち状態のままになります。

オペレーターの応答: 対話式トレースを続行するか、GO コマンドの前に TRACE END ALL コマンドを出して、トレースを終了してください。

プログラマーの応答: なし。

4I17t BRANCH ADDRESS IGNORED

説明: ブランチ・アドレスを指定した GO コマンドが出されましたが、トレースされたプログラムが ABEND 処理中であった (4I17I) か、または最後に実行された命令が SVC 命令であった (4I17D)。

システムの処置: トレース・プログラムはブランチ・アドレスを無視します。

オペレーターの応答: メッセージ 4I17I の場合: なし。メッセージ 4I17D (最後にトレースされた命令が SVC 命令であった) の場合は、次の GO コマンドでブランチ・アドレスを指定してください。

プログラマーの応答: なし。

4I18I DUMP/TRACE ERROR. REASON=n

説明: ダンプまたはトレース・ルーチンで内部エラーが発生しました。最も考えられる理由: 共用仮想記憶域内のダンプまたはトレース・フェーズがオーバーレイされた。

システムの処置: ダンプまたはトレース・ルーチンは即時に終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IBM 問題データベースで、既知問題を調べてください。メッセージ番号と表示された理由コードを報告してください。

4I19D ENTER DISPLAY OR GO COMMAND

説明: 対話式トレース・プログラムがアクティブです。トレースされたプログラムが異常終了しました。直前の終了メッセージに、取り消し条件が詳細に記述されています。

システムの処置: システムは対話式トレース・コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: DISPLAY コマンドを出して、プログラム ABEND の原因を分析するか、または (ブランチ・アドレスを指定せずに) GO コマンドを出して、終了処理を継続してください。

プログラマーの応答: なし。

4I20I TRACING TERMINATED

説明: 対話式トレース・プログラムがトレースを停止させました。トレースされたプログラムが正常終了または異常終了したか、あるいはオペレーターが TRACE END ALL コマンドを使用して明示的にトレースを終了させました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4I21D ENTER CONTINUATION LINE

説明: 直前のコマンド行の最後の文字として負符号が入力されました。対話式トレース・コマンドを新しい行に続けることができます。

システムの処置: システムはコマンドの続きを待ちます。

オペレーターの応答: 途中まで入力したトレース・コマンドの残りを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4I22I CONFLICTING OPERANDS

説明: トレース・コマンドの構文解析フェーズで、指定されたコマンドのオペランドの組み合わせが無効であることが検出されました。

システムの処置: システムはコマンド入力を拒否します。

オペレーターの応答: トレース・コマンドを訂正して、出し直してください。

プログラマーの応答: なし。

4I23I DUPLICATE OPERAND

説明: トレース構文解析プログラムが重複オペランドを検出しました。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 正しいコマンド指定により再試行してください。

プログラマーの応答: なし。

4I25I INVALID COMMAND NAME

説明: コマンドがサポートされていないため、トレース構文解析プログラムでは解釈できません。

システムの処置: 構文検査を打ち切ります。

オペレーターの応答: 正しいコマンド指定により再試行してください。

プログラマーの応答: なし。

4I26I MANDATORY OPERAND MISSING

説明: 必要なオペランドが指定されていません。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 正しいコマンド指定により再試行してください。

プログラマーの応答: なし。

41281 SYNTAX ERROR

説明: コマンド構文のエラーです。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 正しいコマンド指定により再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

41291 TRACE COMMAND PARSING FAILED.

reason

説明: プログラムが // EXEC ステートメントの TRACE パラメーターで呼び出されましたが、トレース・プログラムと構文解析プログラムのコンポーネントとの間の内部通信が異常終了しました。 *reason* は、構文解析が失敗した理由を説明しており、以下のいずれかです。

1. OUTPUT LIST AREA MISSING - フェーズ \$IJBNSINA が IJBTRACE 内の通信域にアクセスできません。
2. OUTPUT LIST OVERFLOW - IJBTRACE 内の通信域が小さすぎます。
3. PARSER TABLE ERROR - コマンド・テーブルまたはオペランド・テーブルが使用できません。
4. LOAD SPACE UNAVAILABLE - フェーズ \$IJBNSINA が予約済み区域にアクセスできません。
5. WORKSPACE TOO SMALL - \$IJBNSINA に使用する IJBTRACE 内の作業域が小さすぎます。

システムの処置: 呼び出されたプログラムは、対話式トレース・プログラムを使用せずに実行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IBM 既知問題データベースを調べてください。

41411 START ADDRESS GREATER END ADDRESS. TRACE COMMAND REJECTED

説明: 無効なトレース範囲を指定したトレース定義コマンドが入力されました。終了アドレスは、開始アドレスと同じかそれ以上にしてください。

システムの処置: システムは対話式トレース・コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: 訂正した対話式トレース・コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

41421 NUMBER OF TRACE RECORDS SKIPPED:

nnnnn

説明: 対話式トレース・プログラムが、いくつかのトレース・イベントをスキップしました。 *nnnnn* は、スキップされたイベントの数を 10 進数で示しています。トレースされるプログラムがシステム・コードを実行したり、重要なシステム・リソースをロックしている限り、対話式トレースは行えません。対話式トレースは、ユーザー区画に制御が移された後で、またはシステム・リソースが解放された後で、再開されました。表示されたトレース・イベントは、区画域内のユーザー・コードに制御が移された後で発生した最初のイベントです。

システムの処置: システムは対話式トレース・コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: 対話式トレース・コマンドを入力してください。上述の出力ルーチンは、バッチ・モードでトレース可能です。 OUTPUT=SYSLST を指定した GO コマンドを使用して、SYSLST でこれらのイベントをトレースすることができます。

プログラマーの応答: なし。

4143D INVALID GO ADDRESS

説明: GO コマンドに指定されたブランチ・アドレスは X'FFFFFF' より大きい値ですが、トレースされるプログラムは 24 ビット・モードです。

システムの処置: システムは対話式トレース・コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: 訂正した対話式トレース・コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4144I PROGRAM INTERRUPTION. CODE=X'xx'

説明: トレースされるプログラムでプログラム割り込みが発生しました。直前のメッセージに、失敗した命令が表示されます。値 CODE=X'xx' は、プログラム割り込みコードを 16 進表示で示しています。

システムの処置: システムは対話式トレース・コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: DISPLAY コマンドを出してプログラム例外の原因を分析するか、または GO コマンドを出して VSE プログラム・チェック処理ルーチンを再開してください。

プログラマーの応答: なし。

4145D TRACE RANGE IGNORED FOR ABEND TRACE

説明: ADDRESS パラメーターは、ABEND トレースには適用できません。

システムの処置: ABEND トレースが定義されました。トレース・プログラムは ADDRESS 指定を無視しました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4146I TRACE PROGRAM 'x' IS ACTIVE

説明: トレース・プログラムまたはパフォーマンス測定プログラムがアクティブです。このプログラムは、プログラム・イベント記録 (PER) 機能を使用します。これは「システム通信」領域においては、文字 'x' で識別されました。このプログラムがアクティブである限り、対話式トレース・プログラムを初期設定することはできません。

システムの処置: 呼び出されたプログラムは、対話式トレース・プログラムを使用せずに実行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4I47D ACCESS REGISTERS NOT AVAILABLE

説明: トレースされるプログラムは、アクセス・レジスターを使用しません。

システムの処置: システムは対話式トレース・コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: 対話式トレース・コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

4I48I USER CONSOLE IS NOT ACTIVE

説明: 対話式トレース・プログラムがメッセージをユーザー・コンソールへ送信しましたが、ユーザー・コンソールがアクティブではありません。

システムの処置: 対話式トレース・プログラムは終了しました。

4Jxxy=IJBCPYEX メッセージ (TS7700 COPY EXPORT 機能向けのユーティリティ)

4J01I COPY EXPORT Request: 'TAPE=<label>' will be taken in processing

説明: IJBCPYEX ユーティリティは、EXPORT LIST FILE VOLUME (ELFV) 操作の処理において、'TAPE=<label>' を使用します。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4J02I COPY EXPORT Request: create EXPORT LIST FILE VOLUME 'tape file-<number>'

説明: EXPORT LIST FILE VOLUME (ELFV) をテープ上に作成するよう指示する要求が、IJBCPYEX ユーティリティに渡されました。このメッセージは、処理時に使用される

'tape-file-<number>' の値を確認するメッセージです。テープ・ライブラリー環境が COPY EXPORT 操作において依存し、参照するよう予期している制御ファイルは、合計で 3 つあります。ELFV 作成サイクル全体が MSG 4J11I で確認されるまで、この通知は繰り返されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4J03I COPY EXPORT Request: successfully created EXPORT LIST FILE VOLUME 'tape file-<number>'

説明: この EXPORT LIST FILE VOLUME (ELFV) 作成ステージで確認された 'tape-file-<number>' は、テープ上に正常に作成されました。この参照は、テープ・ライブラリー環境が COPY EXPORT 操作において依存する制御ファイル 3 つに対し、進行標識の役割を果たします。ELFV 作成サイクル全体が MSG 4J11I で確認されるまで、この通知は繰り返されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: まだ完了していない場合、システムは、残りの ELFV 制御ファイルをテープ上に作成するために、これとは別の IJBCPYEX 呼び出しと適切な JCL PARM および SYSIPT 入力を待ちます。

プログラマーの応答: まだ完了していない場合、システムは、

た。呼び出されたユーザー・プログラムはトレースなしで実行を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4I49I END ADDRESS LOWER START ADDRESS. DISPLAY REJECTED

説明: 指定された終了アドレスは、指定された開始アドレスより小さい値です。表示コマンドは拒否されました。

システムの処置: システムは対話式トレース・コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: 対話式トレース・コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

残りの ELFV 制御ファイルをテープ上に作成するために、これとは別の IJBCPYEX 呼び出しと適切な JCL PARM および SYSIPT 入力を待ちます。

4J04E COPY EXPORT Request: failed to create EXPORT LIST FILE VOLUME 'tape file-<number>'

説明: EXPORT LIST FILE VOLUME (ELFV) 作成のコンテキストで参照されている 'tape file-number' を、テープに書き込むことができませんでした。前の ELFV 作成ステップが正常に完了した場合、このイベントには、テープが使用不可であることを示すメッセージ 4J12W が付随します。

システムの処置: ELFV 作成処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4J05I COPY EXPORT Request: READ STATUS from 'tape file-3'

説明: 処理された EXPORT LIST FILE VOLUME (ELFV) を読み取り、関連付けられたレポートを生成するよう指示する要求が、IJBCPYEX ユーティリティに渡されました。

システムの処置: IJBCPYEX ユーティリティは、COPY EXPORT 状況報告書を準備しています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

4J06E COPY EXPORT Request: failed to READ STATUS from 'tape file-3'

説明: EXPORT LIST FILE VOLUME (ELFV) を読み取るよう指示する要求が IJBCPYEX ユーティリティに渡されましたが、操作は失敗しました。

システムの処置: ELFV 読み取り要求を終了しました。

オペレーターの応答: COPY EXPORT 読み取り操作に有効なデータおよび形式が含まれる正しいテープが取り付けられていることを確認してください。

プログラマーの応答: SYSLSLST および SYSLOG で、追加の関連メッセージ (ELFV 読み取り失敗の考えられる原因を示す 4113t や EDC5041I など) を調べてください。また、COPY

EXPORT 読み取り操作に有効なデータおよび形式が含まれる正しいテープが取り付けられていることを確認してください。

4J07E COPY EXPORT Request: invalid operation request received from SYSIPT
'<operation_request>'

説明: IJBCPYEX ユーティリティに対する SYSIPT 要求が、COPY EXPORT の指定に一致しません。
システムの処置: IJBCPYEX ユーティリティ処理は終了します。
オペレーターの応答: 指定を修正し、ジョブを再サブミットしてください。
プログラマーの応答: EXPORT LIST FILE VOLUME (ELFV) 作成または読み取りのために、適切な SYSIPT データが指定されていることを確認してください。システム提供のスケルトン SKCOPYEX および SKCPEXRD (ICCF ライブラリー 59) で、サンプル入力を調べてください。

4J08E COPY EXPORT Request: unexpected program argument. Input is not a valid keyword '<keyword>' | value for keyword '<keyword>' '<value>'

説明: EXPORT LIST FILE VOLUME (ELFV) 作成プロセスが失敗しました。
システムの処置: IJBCPYEX ユーティリティ処理は終了します。
オペレーターの応答: 指定を修正し、ジョブを再サブミットしてください。
プログラマーの応答: すべての必須プログラム実引数が指定され、適切であることを確認してください。システム提供のスケルトン SKCOPYEX および SKCPEXRD (ICCF ライブラリー 59) で、サンプル入力を調べてください。

4J09E COPY EXPORT Request: 'no' | 'too many' program arguments received in PARM string

説明: (JCL PARM によって) 渡されたプログラム実引数ストリングが空であったか、または予期されているパラメーターの数を超過しました。EXPORT LIST FILE VOLUME (ELFV) 操作は失敗しました。
システムの処置: IJBCPYEX ユーティリティ処理は終了します。
オペレーターの応答: 指定を修正し、ジョブを再サブミットしてください。
プログラマーの応答: すべての必須プログラム実引数が指定され、適切であることを確認してください。システム提供のスケ

ルトン SKCOPYEX および SKCPEXRD (ICCF ライブラリー 59) で、サンプル入力を調べてください。

4J10E COPY EXPORT Request: mandatory program argument missing in PARM string
'TAPE=<label>' | 'ELFV=<value>'

説明: 目的の EXPORT LIST FILE VOLUME (ELFV) 操作要求を識別できるだけの十分な情報がありません。JCL PARM ストリング内の少なくとも 1 つの必須プログラム実引数が指定されていないか、または引数に誤りがあります。
システムの処置: ELFV 操作は失敗し、プログラム IJBCPYEX は終了します。
オペレーターの応答: 指定を修正し、ジョブを再サブミットしてください。
プログラマーの応答: すべての必須プログラム実引数が指定され、適切であることを確認してください。システム提供のスケルトン SKCOPYEX および SKCPEXRD (ICCF ライブラリー 59) で、サンプル入力を調べてください。

4J11I COPY EXPORT Request: successfully completed overall EXPORT LIST FILE VOLUME creation on 'TAPE=<label>'

説明: EXPORT LIST FILE VOLUME (ELFV) 作成に必要なすべてのステップが、参照されているテープ上で正常に完了しています。「ソース」テープ・ライブラリー・システムにおける COPY EXPORT 操作にこのテープを使用することができません。
システムの処置: なし。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

4J12W COPY EXPORT Request: the EXPORT LIST FILE VOLUME on 'TAPE=<label>' is inconsistent

説明: テープの一部のみの準備が行われたため、EXPORT LIST FILE VOLUME (ELFV) 作成プロセスが前のステップで異常終了したと考えられます。そのため、テープは COPY EXPORT 操作に使用できません。また、SYSLST ジョブ出力のメッセージ 4J04E で以前のイベントを調べてください。
システムの処置: COPY EXPORT 操作において、テープはエラー状態であると見なされます。
オペレーターの応答: 最初からやり直して、参照されているテープの ELFV 作成サイクル式をもう一度開始してください。
プログラマーの応答: 最初からやり直して、参照されているテープの ELFV 作成サイクル式をもう一度開始してください。

4Vxx=VTOC 表示/ダンプ・メッセージ

4V09I NO RECORD FOUND filename SYSxxx
説明: VTOC でファイル・ラベルを検索中に、該当レコードなし条件が発生しました。これは、おそらくハードウェア・エラーです。
システムの処置: ジョブは取り消されます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 正しいボリュームが取り付けられているかを確認してください。正しくないボリュームで処理を行っていた場合には、ジョブを再実行してください。
- 別のディスク・ボリュームにファイルを作成してください - この処置は、ファイルが取り外し不能ボリュームにある場合に行います。
- そのボリューム上にファイルを再作成してください。このボリュームに対し、装置サポート機能の下記の機能を実行してください。

1. INIT によるボリュームの初期設定。
2. INSPECT による代替トラックの割り当てとトラック・レクラメーション。

バックアップ・テープからボリュームの最新バックアップをリストアしてください。

- 可能であれば、別の装置にパックを取り付けてジョブを再実行するようオペレーターに指示してください。その結果、ジョブが正しく実行されれば、最初に使用していたドライブに故障があるものと考えられます。

注意:

ヘッド・クラッシュがある場合、正常なドライブにおいてエラー・ボリュームを使用するか、またはエラーとなったドライブにおいて正常なボリュームを使用すると、このエラーが伝搬する可能性があります。

問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

4V95A SYSLOG OR SYSLST

説明: VTOC リストを入手するために、メッセージに対する応答で DSPLYV が入力されました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- SYSLOG を入力して、VTOC リストをコンソールに表示させる。
- SYSLST を入力して、VTOC リストを、SYSLST に割り当てられた印刷装置で印刷させる。
- END/ENTER を押してジョブを取り消す。

プログラマーの応答: なし。

4V96A SYSLST NOT A PRINTER

説明: DSPLYV の応答で要求された VTOC リストを、SYSLST に割り当てられた印刷装置に出力しようとしています。しかし、SYSLST は印刷装置に割り当てられていません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- SYSLOG を入力して、VTOC リストをコンソールに表示させる。
- END/ENTER を押してジョブを取り消す。

プログラマーの応答: なし。

第 6 章 接頭部 8 のシステム・ユーティリティー・メッセージ

86xx= テープの初期設定メッセージ

8601A MORE PASSES NEEDED -- INTT

説明: INTT ステートメントの中で、CARD および REWIND オペランドが指定されていない場合には、プログラムは初期設定すべき別のテープ・ボリュウムがあるものと想定しています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 初期設定すべき別のテープがある場合には、END/ENTER を押してください。
- 初期設定の実行を終了させるためには、NO と応答して END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: なし。

8603I TAPE WILL BE FORMATTED

説明: このテープは、フォーマットしてから、書き込むようになっています。処理はテープのフォーマットに移ります。

システムの処置: 通知メッセージが表示されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8604D TAPES OF DIFFERENT TYPE ASSIGNED

説明: 処理を行うには、すべてのテープが同じ装置タイプでなければなりません。装置タイプが異なるごとに、別個のジョブを実行する必要があります。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8605A TAPE IS WRITE PROTECTED UNIT= *cuu*

説明: 初期設定用に割り当てられたテープが書き込み保護されています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 正しいテープ・ボリュウムが取り付けられているかどうか調べてください。テープ・ボリュウムに問題がなければ、リールから書き込み保護をはずして、IGNORE と入力すれば、処理は続行します。システムに処理を取り消させるには、CANCEL と入力してください。

8Cxx= トレーン・クリーニング・メッセージ

8C01A STOP THE PRINTER (SYS000) AND PRESS END-KEY

説明: このメッセージは、トレーン・クリーニング・プログラムの始めと終わりに出されます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: このメッセージがトレーン・クリーニング・プログラムの始めに出された場合は、次のようにしてください。

1. 印刷装置を停止させる。
2. END/ENTER を押して、システムが処理を続行するようにする。これよりあとに「要介入」条件が生じると、トレーン・クリーニング・プログラムの実行は停止します。このとき、印刷装置が作動不能である限り、コンソールはロックされません。

このメッセージが、コンソールから開始されたトレーン・クリーニング・プログラムの実行の終わりに出された場合は、印刷装置を停止させず、すぐに END/ENTER を押してください。プログラマーの応答: なし。

8C02I IN ORDER TO CLEAN THE PRINTER TRAIN REMOVE THE RIBBON AND REPLACE THE PAPER ON THE PRINTER WITH IBM CLEANING PAPER (PART NO: 451529)

説明: このメッセージは、メッセージ 8C01A が初めて出された後で出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答:

1. リボンを取り外してください。
2. 現在印刷装置にセットされている用紙を取り出し、かわりにメッセージの中に示されている用紙をセットしてください。
3. 印刷装置を作動可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

8C03I THE PRINTER TRAIN HAS BEEN CLEANED REPLACE THE RIBBON AND THE ORIGINAL PAPER

説明: このメッセージは、トレーンのクリーニングが実際に行われたあとで出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: トレーン・クリーニングの開始前に使用していたリボンと用紙を、再びセットしてください。

プログラマーの応答: なし。

8C04A INVALID RESPONSE

説明: メッセージ 8C01A に対する応答が、単に END/ENTER を押したただけではありませんでした。

システムの処置: システムは正しい応答を待ちます。

オペレーターの応答: END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: なし。

**8C05I SYS000 NOT ASSIGNED OR DEVICE
NOT SUPPORTED**

説明: SYS000 が割り当てられていないか、またはこのプログラムによりサポートされない装置に割り当てられています。プログラムによりサポートされる装置は、IBM 1403U、IBM 3203 (3 型を除くすべての型)、および IBM 5203U です。

システムの処置: トレーン・クリーニング・プログラムによる処理が停止します。

オペレーターの応答: トレーン・クリーニングの実行対象とする印刷装置に SYS000 を割り当て、実行を再始動してください。

プログラマーの応答: なし。

**8C06A SPECIFY CIL-NAME OF TRAIN IMAGE
PHASE OR PRESS END TO GET IPL UCB
LOADED**

説明: プログラムは、UCB を正しくリストアするために取り

付けられたトレーン (またはチェーン) の、バッファ・イメージの名前を知る必要があります。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 印刷装置の UCB にロードするバッファ・イメージ・フェーズの名前を入力するか、またはただ END/ENTER を押してください。名前を入力しなかった場合には、プログラムは、システム・スタートアップ時に IPL によりロードされたバッファ・イメージ・フェーズをロードします。

プログラマーの応答: なし。

**8C07I SPECIFIED PHASE NOT FOUND OR
INVALID**

説明: 指定されたフェーズがシステム・ライブラリーの中にないか、あるいは無効です (長さが不適正)。

システムの処置: システムはメッセージ 8C06A を出します。オペレーターの応答: メッセージ 8C06A の説明を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

8Fxx = 高速ディスク・コピーと VSE/ 高速データ・セット・コピー・メッセージ

8F01I PROCESSING STARTS

説明: 高速コピー・ユーティリティーが、ユーティリティー制御ステートメントおよび装置割り当ての検査を終えました。コピー操作を開始します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**8F02I END OF PROCESSING. {number
[TRACKS|BLOCKS][DUMPED|
COPIED| RESTORED]}|VOLUME
SNAPPED | NOCOPY RELATION
ESTABLISHED | DDSR COMPLETED}**

説明: 通常のジョブ終了のメッセージ。メッセージには処理されたデータの量が示されます。SNAPPED VOLUME の場合は、ボリューム全体がコピーされています。

このメッセージは、DDSR コマンドによって NOCOPY 関係が設定または除去されたことも示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**8F03I {SYSmnn|INPUT|OUTPUT} NOT
ASSIGNED TO [CKD|FBA|TAPE]**

説明: 要求された高速コピー機能には、与えられた論理装置 (または独立型操作のための INPUT または OUTPUT) が、指定されたタイプの装置へ割り当てられることが必要です。

システムの処置: ユーティリティー制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: 適正な ASSGN ステートメントを指定して、ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

8F04I FILE NOT FOUND

説明: コピー・プログラムは、ユーティリティー制御ステートメントの中に指定されている ID を持つファイルを入力メディア (ディスクまたはテープ) 上に見つけることができませんでした。

システムの処置: ユーティリティー制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 正しいボリュームが取り付けられているかどうかを確認し、取り付けられているボリュームが正しくない場合には、ジョブを再実行してください。正しいボリュームが取り付けられている場合には、ユーティリティー制御ステートメント、SYS004 の割り当て、またはダンプ・データ・セットのジョブ制御の指定 (リストアの場合) を調べてください。

注: 「ダンプ・データ・セット」とは、「高速コピー・バックアップ・データ・セット」のことです。

この検査を行うためには、SYS004 に割り当てられているディスクについての最新の LVTOC 出力を使用します。制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

8F05I VSAM DATA SPACE NOT SUPPORTED

説明: 指定されたファイル ID が、VSAM により管理されているデータ・スペースを示しています。高速コピー・ユーティリティーのファイルコピー機能では、VSAM 管理のデータ・スペースはサポートされません。

システムの処置: ユーティリティー制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 正しいボリュームが取り付けられている

かどうか確認してください。ボリュームが正しくない場合には、正しいボリュームを取り付けて、ジョブを再実行してください。正しいボリュームが取り付けられている場合には、ファイル ID 指定を訂正するか、あるいは、指定した VSAM データ・スペースのダンプもしくはコピーが必要ならば、ユーティリティのボリューム機能または VSE/VSAM で使用可能なバックアップ・サービスを用いてください。

8F06D ACCESSING DATA SECURED FILE(S)

説明: 要求されたユーティリティの操作に、1 つまたは複数の、データ保護ファイルのダンプまたはコピーが含まれています。この種のアクセスには、オペレーターの確認が必要です。システムの処置: システム (区画) は、オペレーターからの応答を待ち、その応答に従って対処します。

オペレーターの応答: 次のいずれかです。

- PROCEED を入力して、入力ボリューム上のデータ保護ファイルについて操作を続行させる。
 - CANCEL を入力して、システムにジョブを取り消させる。
- プログラマーの応答: なし。ただし、このメッセージが出たときにどのように応答するかを、あらかじめオペレーターに指示しておいてください。

8F07I INCORRECT OUTPUT DEVICE TYPE. INPUT IS *disktype*

説明: SYS005 に割り当てられているディスクの装置タイプと、入力ディスク (コピー操作の場合には SYS004 に割り当てられているディスクであり、リストア操作の場合には、ダンプ・データ・セット生成のための入力として使用されるもの) のタイプとの間に互換性がありません。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 指定および装置割り当てを検査し、必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

8F08I OUTPUT CAPACITY TOO SMALL

説明: 出力ディスクには、入力ディスクと同じだけの容量がありません。ボリューム・リストアの場合、これは、ダンプ・データ・セットを生成するための入力として使用されるディスクです。

注: 「ダンプ・データ・セット」とは、「高速コピー・バックアップ・データ・セット」のことです。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 十分な容量を持つ、正しいタイプのディスク装置に SYS003 を割り当て、ジョブを再実行してください。

8F09I EXTENT *lowerlimit-upperlimit* EXCEEDS OUTPUT CAPACITY

説明: このメッセージでは、上限と下限は、FBA ディスク装置の場合はブロック番号で示され、CKD ディスク装置の場合は *ccclh* (*ccc*=シリンダー番号、*lh*=トラック番号) の形で示されています。コピーまたはリストアするファイルのエクステン트가、SYS005 に割り当てられたディスク・ボリュームの容量を超えています。これは、例えば、高速コピー・ユーティリティを使用して、IBM 3390-M2 から IBM 3390-M1 にファイルをコピーするときに起きます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 十分な容量を持つ、正しいタイプのディスクを SYS005 に割り当て、ジョブを再実行してください。

8F10I DUMP DATA SET IS A *dumptype* DUMP

説明: リストア操作用に提供されるダンプ・データ・セットは、メッセージ中に示されているタイプのもの (VOLUME、FILE、または ALL のどれか) です。要求された操作を行うためには、ユーティリティは、別のタイプのダンプ・データ・セットが必要です。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

注: 「ダンプ・データ・セット」とは、「高速コピー・バックアップ・データ・セット」のことです。

プログラマーの応答: ユーティリティ制御ステートメントを訂正するか、またはダンプ・データ・セットの指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

8F11I MISMATCH IN DISK TYPE FOR FILE *filetype*

説明: このメッセージでは、ファイル・タイプ (*filetype*) は、ダンプ操作では UOUT で、リストア操作では UIN で示されています。ダンプ・データ・セットは CKD 装置に割り当てられており、この装置タイプはユーティリティ制御ステートメントの指定と一致していません。例えば、DUMP VOLUME TO 3380 と指定されているのに対し、UOUT は IBM 3375 に割り当てられています。

注: 「ダンプ・データ・セット」とは、「高速コピー・バックアップ・データ・セット」のことです。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーティリティ制御ステートメントか、またはダンプ・データ・セットの DLBL および EXTENT ステートメントで行った指定を訂正してください。

8F12I ERROR IN TLBL PARAMETER *n*

説明: TLBL ステートメントのオペランド *n* に、つづりの誤り、長さの誤り、または数字フィールドでの英字使用といったエラーがあります。オペランドを数える場合は、ファイル名を 1 として数えてください。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: 失敗したジョブがコンソールから開始されたものである場合には、そのジョブを新たに開始することができます。コピー・ユーティリティから TLBL 情報の入力を要求された場合には、必ず正しい情報を与えるようにしてください。

プログラマーの応答: エラーのある TLBL ステートメントを訂正してから、ジョブを再実行してください。

8F13I ERRONEOUS INPUT (x) FROM DUMP DATA SET (FILE UIN)

説明: x に、システムはこのメッセージの理由を示すコードを表示します。コードには次のようなものがあります。

- C** = その内容 (レコード ID) に誤りのあるレコードが検出されました。
- E** = ファイルの終わりが予期しないときに生じました。
- L** = 長さの正しくないレコード (レコード ID から見て) があります。
- M** = ダンプ・データ・セットが制御レコードで始まっていません。
- S** = 不適正な順序番号を持つレコードが検出されました。

CKD ダンプ・データ・セットの場合には、関連の DLBL または EXTENT ステートメントにエラーがある可能性があります。テープからのリストアの場合には、誤ったテープ・ボリュームが取り付けられているか、あるいは失敗したリストア操作の前に、他の出力がそのテープに書き込まれている可能性があります。

注: 「ダンプ・データ・セット」とは、「高速コピー・バックアップ・データ・セット」のことです。

システムの処置: ラベルなしのテープが使用されている場合には、プログラムはメッセージ 8X25D を出します。その他の場合には、ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、UIN ファイルについての割り当てを訂正するか、またはどのリストア・テープを使用するかをオペレーターに指示してから、ジョブを再実行してください。

8F14I TARGET DISK IS A [FCP|CHANNEL]- ATTACHED [SCSI|FBA] DEVICE. SYSRES AND VSAM DATA CANNOT BE USED

説明: ソース装置とターゲット装置の接続が異なります。システム・ライブラリー IJSYSR_x の SYSRES ディスクの場合、IPL レコードが、ターゲット・ディスクの接続に適合していません。ターゲット・ディスクは、IPL 可能になりません。ボリュームに VSAM データが含まれる場合、このデータは使用できません。

注: 「ダンプ・データ・セット」とは、「高速コピー・バックアップ・データ・セット」のことです。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: ターゲット・ディスクが SYSRES ディスクで IPL を実行する必要がある場合、IPL レコードがシステム・ライブラリーの予約済み領域にコピーされるようにしてください。これは、ターゲット・ディスクのシステム・ライブラリー IJSYSR_x の LIBRarian BACKUP/RESTORE によって設定可能です。アプリケーション・プログラムで VSAM データが使用されないようにしてください。

8F15I NOCOPY PARAMETER IGNORED . IT CANNOT BE USED WITH PARAMETER *parameter*

説明: NOCOPY パラメーターを EXCLUDE、NOVSAM、または NOEXPIRED と同時に指定することはできません。

システムの処置: NOCOPY パラメーターは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーティリティ制御ステートメントを訂正してください。

8F17I END OF DUMP DATA SET WHEN SEARCHING DATA

説明: 高速コピー・ユーティリティが、リストアするデータを探しているときに、ダンプ・データ・セット上に終了レコードを検出しました。これは、おそらく、テープ取り扱い上のエラーか、またはダンプ・データ・セットの割り当てのエラーです。

注: 「ダンプ・データ・セット」とは、「高速コピー・バックアップ・データ・セット」のことです。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: DLBL ならびに EXTENT ステートメントの中のダンプ・データ・セットに関する割り当て指定を訂正するか、またはどのテープをリストアするかをオペレーターに指示し、ジョブを再実行してください。

8F19I DUMP DATA SET IS FROM *disktype*

説明: ファイル UIN に割り当てられているダンプ・データ・セットは、SYS005 に現在割り当てられているタイプのディスクからデータをダンプして作成されたものではありません。このメッセージの *disktype* は、このダンプ・データ・セットを作成するためにデータが読み取られた装置のタイプを示します。

注: 「ダンプ・データ・セット」とは、「高速コピー・バックアップ・データ・セット」のことです。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ダンプ・データ・セットの割り当て、または出力ディスクについての ASSGN ステートメントを訂正してから、ジョブを再実行してください。

8F20D UNIT=cuu REQUEST TO DUMP OR COPY ALL DATA

説明: DUMP ALL もしくは COPY ALL 操作が要求されましたが、それにより機密データがダンプまたはコピーされるおそれがあります。このメッセージは、そのコピー操作に関するオペレーターの確認を求めています。

システムの処置: システム (区画) は、オペレーターからの応答を待ち、その応答に従って対処します。

オペレーターの応答: システム操作に関する部内での指示に応じて、次のいずれかを入力してください。

- CANCEL を入力して、システムにジョブを取り消させる。
- PROCEED を入力して、システムにコピー要求を続行させる。

プログラマーの応答: なし。

8F21D READ ERROR ON INPUT DISK, BLOCK number

説明: 高速コピー・プログラムが、SYS004 に割り当てられた装置から、メッセージに示されているブロックを読み取っているときに、リカバリー不能の入出力エラーが発生しました。

システムの処置: システム (区画) はオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。
- IGNORE を入力して、システムに現在のダンプ操作またはコピー操作を続行させる。入力ディスク・ボリュームの該当ブロックに入っているデータは、読み取られたとおりに出力装置に書き込まれます。

プログラマーの応答: なし。

8F22D WRITE ERROR ON OUTPUT DISK, BLOCK number

説明: 高速コピー・プログラムが、SYS005 に割り当てられている装置へ、メッセージの中に示されているブロックを書き込んでいるときに、リカバリー不能な入出力エラーが発生しました。

システムの処置: システム (区画) はオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。
- IGNORE を入力して、システムに現在のコピー操作またはリストア操作を続行させる。メッセージ・テキストに示されているブロックは未定義状態のままになります。

プログラマーの応答: なし。

8F23A ENTER NUMBER OF PRIMARY CYLS

説明: VTOC アクセス・エラーのために、ユーティリティはディスク上のシリンダーの数を判別できません。

システムの処置: システム (区画) はオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- 割り当てられているディスクがサブディスクである場合には、1 次シリンダーの数を指定してください。

- 指定されたディスクがサブディスクでない場合は、END/ENTER を押してください。

プログラマーの応答: なし。

8F24I UNIT=cuu INPUT=OUTPUT

説明: SYS004 および SYS005 は、メッセージの中の cuu に示されているものと同じ装置に割り当てられています。これは高速コピー・ユーティリティでは許されません。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 正しい ASSGN ステートメントを制御ステートメントのセットに入れて、ジョブを再実行してください。

8F25I NONSTANDARD R0 FOUND ON {INPUT|OUTPUT} DISK CYL nnn TRK mm

説明: ディスクが正しく初期設定されていないことを示す、標準外 R0 が見つかりました。高速コピー・プログラムは、このボリュームを入力としても出力としても使用することはできません。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 正しいボリュームを取り付けてあるかを確認してください。必要があれば、装置サポート機能プログラムの INIT 機能を実行して、問題のディスク・ボリュームを正しく初期設定してください。必要な場合、ジョブを再実行してください。

8F28I UNCORRECTABLE {READ|WRITE} ERROR ON {INPUT|OUTPUT} DISK [e] CYL nnn TRK mm

説明: 高速コピー・プログラムが入力ディスクからの読み取り、出力ディスクへの書き込み、または、出力ディスクからの VTOC の読み取りを行っている時にエラーが起きましたが、ディスク・エラー・リカバリー・プロシージャによって、このエラーからのリカバリーを行うことができませんでした。メッセージ・テキストの中の e は、読み取りエラーが起きた時に出力されるエラー・コードです。このコードは次のいずれかです。

- 1 = 最後に読み込まれたレコードのカウンタ・フィールドのレコード数が、トラック上のレコード数と一致しません。
- 2 = 読み込まれたレコード数が、予期されたものより多いか、または最初のレコードが R1 ではありません。
- 3 = 高速コピー・プログラムが R0 を予期しましたが、代わりに R1 を見つけました。
- 4 = 装置チェックが発生しました。
- 5 = R0 が見つかりませんでした。
- 6 = 予期しない装置例外です。
- 7 = レコードのカウンタ・フィールドのデータ長がゼロでなかったために装置例外が発生しました。
- 8 = カウンタ・フィールドのエラー。
- 9 = カウンタ・フィールドのキー長およびデータ長が、実際のキー長およびデータ長と一致しません。

A = プログラムが R0 を読み取っているときに、装置チェックが発生しました。

B = データ長がトラック容量を超えています。
システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 必要ならば、装置サポート機能プログラムの INSPECT を実行して、代替トラックを割り当ててください。アクセス不能のデータの再作成には、VSE および VM の DITTO を使用することを検討してください。ボリュームを初期設定し直し、そのあとでバックアップ・テープからボリュームの最新のバックアップをリストアしなければならない場合もあります。

8F30D ENTER FAST COPY CONTROL STATEMENT [CONTINUATION|OR END]

説明: これは、必要なユーティリティ制御ステートメントを入力するようにオペレーターに要求するプロンプト・メッセージです。

システムの処置: システム (区画) はオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 必要なユーティリティ制御ステートメントを入力してください (ステートメントが 80 文字を超える場合は、ハイフンを使用して、次の入力行に継続することを示してください)。
- 高速コピー・プログラムが継続行を促す場合、必要なユーティリティ制御ステートメントの継続行を入力してください。
- END と入力して、高速コピー・オンライン・プログラムを終了してください。
- CANCEL と入力して、高速コピー・プログラムによる処理を終了してください。

プログラマーの応答: なし。

8F31A MOUNT {FIRST|SECOND} FASTCOPY TAPE ON cuu, THEN REPLY GO

説明: 高速コピー・ユーティリティの独立型実行の場合には、IPL の行われたテープ装置が、ユーティリティの入力または出力装置として割り当てられます。ドライブ cuu に最初の、もしくは唯一のテープが割り当てられている場合、ユーティリティは FIRST (最初の) 高速コピー・テープを必要とします。ドライブ cuu に代替磁気テープが割り当てられていれば、ユーティリティは SECOND (2 番目の) 高速コピー・テープを必要とします。

システムの処置: システム (区画) はオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- 要求されたテープ・ボリュームを取り付けて、GO と入力してください。
- CANCEL と入力して、高速コピー・プログラムによる処理を終了してください。

プログラマーの応答: なし。

8F32I FAST COPY DISK VOLUME TAPE

説明: 高速ディスク・ボリューム・コピー・ユーティリティ (DOS/VS リリース 34 以前) で作成したテープが、リストア機能の入力として使用されています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8F33I {DUMPING|COPYING|RESTORING} RANGE address TO address [SHARED]

説明: ユーティリティ制御ステートメントの中で、LIST オペランドが指定されています。ユーティリティはこのメッセージを用いて、処理中のエクステントを SYSLST 装置にリストします。範囲の値 (address TO address) は、FBA 装置の場合はブロック番号で、また CKD 装置の場合は ccchh (シリンダー番号とトラック番号) の形で示されています。SHARED は、分割シリンダー・ファイルが処理されていることを示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8F34D DUMP DATA ON IPL TAPE? (YES/NO). DEFAULT IS NO.

説明: 高速コピーの実行時に、指定した装置アドレスが、IPL を行った装置アドレスと同じである場合に、このメッセージが出されます。高速コピー・ユーティリティの独立型実行の場合に、使用するテープの数を減らすため、高速コピー・ダンブ・データ・セットは、IPL が行われたテープから開始することができます。

LIBRARIAN BACKUP コマンドで

RESTORE=STANDALONE を指定し、NOREWIND オプションを指定した FASTCOPY を実行して、テープを作成します。
システムの処置: システム (区画) はオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- IPL テープから高速コピー・データを開始する場合は、YES と入力してください。
- 高速コピー・データが、磁気テープ・コントロール・ユニットに取り付けてあるテープ以外のテープにある場合は、NO と入力してください。

プログラマーの応答: なし。

8F35I LABEL ERROR e

説明: ソース・ディスクの VOL1 もしくは形式 4 のラベルが無効であるか、またはそれに矛盾があります。メッセージの中の e は、エラーに関するさらに詳しい情報を伝えるためのエラー・コードです。このコードは次のいずれかです。

- 1 = ディスクに有効な VOL1 ラベルがありません。
- 2 = VOL1 ラベルの VTOC アドレスが無効です。
- 3 = VTOC エクステントの最初のトラックに、形式 4 ラベルがありません。

システムの処置: 処理を続行します。ただし、コピー操作またはリストア操作後のターゲット・ディスクのラベルは無効な

ものとなります。高速コピー・プログラムは、ソース・ディスクに入っているデータを、そのままの形でターゲット・ディスクに書き込みます。このプログラムは、ターゲット・ディスクに適用できる代替トラック情報を、そのディスクの形式 4 のラベルに保管することができません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ソース・ディスク・ボリュームの最新のバックアップを、初期設定し直した同じボリューム、または別の初期設定済みのディスク・ボリューム上にリストアすることにより、データのリカバリーを行ってください。

ディスク・ボリュームの初期設定を行うためには、装置サポート機能プログラムの INIT 機能を使用してください。そのプログラムの INSPECT 機能を併用する必要がある場合もあります。

8F36I DUMP DATA SET IS INFILE DUMP AND OUTFILE PARAMETER NOT SPECIFIED

説明: INFILE の指定されたユーティリティ制御ステートメントを使用して、マルチボリューム・ファイルがダンプされました。リストア操作の場合に、OUTFILE の指定がされていません。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: リストア操作の場合には、ユーティリティ制御ステートメントを訂正してから、ジョブを再実行してください。

8F37I SPECIFIED FILE NOT FOUND ON DUMP DATA SET

説明: ボリューム・ダンプ・データ・セットに、指定されたファイルが含まれていません。

注: 「ダンプ・データ・セット」とは、「高速コピー・バックアップ・データ・セット」のことです。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーティリティ制御ステートメントの中の指定、およびダンプ・データ・セットについてのジョブ制御指定を検査し、必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

8F38I NO LOG UNIT SPECIFIED FOR {INPUT|OUTPUT} FILE

説明: 入力または出力ファイルについての EXTENT ステートメントの中で、プログラマー論理装置が指定されていません。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーティリティ制御ステートメントの中の、または該当ファイルについての EXTENT ステートメントの中の指定を検査してください。この種の検査には、最新の LVTOC 出力を用いると便利です。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

8F39I VSAM DATA SET MAY NOT BE PROCESSED VIA FCOPIY MULTI-VOLUME FILE FUNCTIONS

説明: 指定されたファイルは VSAM データ・スペースです。マルチボリューム・ファイル機能を用いて、VSAM のデータ・セットまたはデータ・スペースをダンプ、コピー、またはリストアすることはできません。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーティリティ制御ステートメントの中の指定、または該当ファイルについてのジョブ制御指定を検査し、必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

8F40I EXTENTS OF INPUT AND OUTPUT FILE NOT EQUAL

説明: ターゲット・ディスク上のファイルのエクステントの範囲とソース・ディスク上のその範囲とが一致していません。再編成が指定されていない場合には、両者の範囲が同じでなければなりません。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかを行ってから、ジョブを再実行してください。

- ユーティリティ制御ステートメントの中の、または入力ファイルと出力ファイルについての EXTENT ステートメントの中の指定を検査してください。この種の検査には、最新の LVTOC 出力を用いると便利です。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。
- ユーティリティ制御ステートメントの中で、REORGANIZE を指定してください (ファイルが、SAM ファイルまたは相対トラック・アドレッシングのある DAM ファイルである場合)。

8F41I FILETYPE OF INPUT AND OUTPUT FILE NOT EQUAL

説明: ターゲット・ディスク上のファイルのファイル・タイプが、ソース・ディスク上のファイルのファイル・タイプと同じではありません。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーティリティ制御ステートメントの中の指定、または入力ファイルもしくは出力ファイルについての DLBL ステートメントの中の指定を、検査してください。この種の検査には、最新の LVTOC 出力を用いると便利です。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

8F42I DLBL STATEMENT FOR INPUT (OR OUTPUT) FILE NOT SPECIFIED

説明: INFILE (または OUTFILE) が指定されましたが、関連するファイルの名前を指定する DLBL ステートメントがありません。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーティリティ制御ステートメント中の指定、関連ファイルについての DLBL ステートメント中の指定を、検査してください。この種の検査には、最新の LVTOC 出力を用いると便利です。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

8F43I OUTFILE PARAMETER NOT SPECIFIED BUT INFILE PARAMETER IS SPECIFIED

説明: コピー機能の場合に、INFILE だけが指定されていて OUTFILE が指定されていません。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーティリティ制御ステートメント中の指定を検査し、必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

8F44I CISIZE OF INPUT AND OUTPUT FILE NOT EQUAL

説明: 以下のいずれかです。

- ターゲット・ディスク上のファイルの CI サイズが、ソース・ディスク上のファイルの CI サイズと同じではありません。
- ターゲット・ディスク上のファイルは、CISIZE オペランドを省略した DTFPH を使用して、FBA ディスク上で作成されました。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーティリティ制御ステートメント中の、または該当ファイルについての DLBL ステートメント中の、指定を検査してください。この種の検査には、最新の LVTOC 出力を用いると便利です。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

8F45I OUTPUT FILE IS TOO SMALL

説明: ファイルの再編成が要求されましたが、出力ファイルに入力ファイルと同じだけの大きさがありません。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーティリティ制御ステートメント中の、または該当ファイルについての EXTENT ステートメント中の、指定を検査してください。この種の検査には、最新の LVTOC 出力を用いると便利です。必要に応じて訂正を行い、ジョブを再実行してください。

8F46I ISAM OUTPUT FILE IS NOT SPECIFIED IN DLBL STATEMENT AS LOAD CREATE FILE

説明: OUTFILE で指定された ISAM ファイルの DLBL ステートメントの中で、ファイルのタイプを示すコードが、ISC (ISAM 作成ファイル) ではありません。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーティリティ制御ステートメント中の指定、または該当ファイルについての DLBL ステートメント中の指定を、検査してください。この種の検査には、最新の LVTOC 出力を用いると便利です。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

8F47I ISAM INPUT FILE IS NOT SPECIFIED IN DLBL STATEMENT AS LOAD EXTEND FILE

説明: INFILE により指定されている ISAM ファイルの DLBL ステートメントの中で、ファイルのタイプを示すコードが、ISE (ISAM 拡張) ではありません。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーティリティ制御ステートメント中の指定、または該当ファイルについての DLBL ステートメント中の指定を、検査してください。必要に応じて訂正を加え、ジョブを再実行してください。

8F48I NV PARAMETER NOT SPECIFIED FOR PARTIAL VOLUME COPY

説明: 部分ボリューム・コピーが要求されましたが、NV 指定 (ソース・ディスクのボリューム ID と異なるボリューム ID をターゲット・ディスクに指定する) がありません。

システムの処置: プログラムはメッセージ 8F50D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、正しいボリュームが取り付けられているかを確認してください。取り付けられているボリュームが正しくない場合には、正しいボリュームがプログラムのために使用できる状態になっていることを確かめてから、ジョブを再実行してください。ユーティリティ制御ステートメント中の指定を検査し、必要に応じて訂正を行ってから、ジョブを再実行してください。

8F49I NEW VOLUME ID FOR TARGET DISK EQUAL TO VOLUME ID OF SOURCE DISK FOR PARTIAL VOLUME COPY

説明: ターゲット・ボリュームに対して指定されているボリューム ID が、ソース・ボリュームの ID と同じです。部分ボリューム・コピーの場合には、この両者のボリューム ID が違っていなければなりません。

システムの処置: プログラムはメッセージ 8F50D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、正しいボリュームが取り付けられているかどうかを確かめてください。取り付けられているボリュームが正しくない場合には、正しいボリュームの取り付けを確認してからジョブを再実行してください。または、必要に応じて指定を訂正してからジョブを再実行してください。

**8F50D ENTER NEW VOLUME ID NNNNNN OR
 CANCEL**

説明: メッセージ 8F48I またはメッセージ 8F49I がすでに出されています。

システムの処置: システム (区画) はオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- 正しいボリュームが取り付けられているかどうかを確認する。取り付けられているボリュームが正しくない場合には、正しいものと取り替えて、新しいボリューム ID を入力してください。これにより、システムは処理を続行します。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。

プログラマーの応答: なし。

**8F52I DA FILE WITHOUT RELATIVE
 ADDRESSING CANNOT BE RELOCATED**

説明: 直接アクセス・ファイルについて再編成が要求されました。このメッセージは、要求された機能の実行後は、データがアクセス不能になるかもしれないことを示しています。

システムの処置: システムはメッセージ 8F54D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8F53I ISAM FILE CANNOT BE RELOCATED

説明: ISAM ファイルについて再編成が要求されましたが、それは許可されません。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**8F54D ENTER PROCEED IF DA FILE HAS
 RELATIVE ADDRESSING; ELSE ENTER
 CANCEL**

説明: メッセージ 8F52I がすでに出されています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 直接アクセス・ファイルに相対トラック・アドレッシングがある場合は PROCEED と入力し、ない場合は CANCEL と入力してください。

プログラマーの応答: なし。

**8F55I DUMPED VOLUME = valid FOR MORE
 INFORMATION SEE MESSAGE 8F56I**

説明: これは、高速コピーによって表示される 2 つのメッセージの最初のもので、8F56I は、ダンプされたデータに関する詳細をユーザーに知らせます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージ 8F56I を参照してください。

**8F56I DATE = mm/dd/yy. DEVICE = type.
 CAPACITY = capacity.**

説明: これは 2 つのダンプ情報メッセージのうち 2 番目のものです。装置タイプが認識されなかった場合は、DEVICE = ***** です。これら 2 つのメッセージは、リストア時に出されるもので、ダンプされたデータに関する情報が入っています。ダンプされる装置が VM FBA MINIDASD であったときは、表示される装置容量の値は、次に低い (FBA ディスク内部) シリンダー境界に切り下げられます。表示されているおりの容量 (多くてもよいが、最初にダンプされたデータより少ない) をもつ MINIDASD にまでこのダンプをリストアするときは、メッセージ 8F08I を出して、ジョブが取り消される場合もあります。このような失敗を避けるために、容量の値は、表示されるブロック数に、内部シリンダーを表すブロック数を加えたものと等しく定義してください。内部シリンダー当たりのブロック数については、「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」内の FBA 装置の最大 CA 値を参照してください。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 表示されたダンプ情報を記録してください (メッセージ 8F55I によって表示されるボリューム ID も含めて)。

**8F59I LOGICAL UNIT SPECIFIED FOR
 INPUT/OUTPUT FILE MUST NOT BE
 SYSRES**

説明: SYSRES が入力または出力ファイルとして指定されました。

システムの処置: ユーティリティ制御ステートメントは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムがアクセスする装置に、正しいプログラマー論理装置を割り当てて、ジョブを再実行してください。

**8F60I MULTI-BUFFERING WILL RUN WITH *nn*
 BUFFERS**

説明: 実行中の高速コピー・ユーティリティが、使用可能なストレージ内の入出力バッファの割り振りを終えました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8F98I REORGANIZATION FOR A SYSTEM FILE

説明: 指示どおりにジョブを実行すると重要システム・ファイルの再編成が生じますが、これは通常、高速データ・セット・コピー・ユーティリティを用いて行うものではありません。システムの処置: プログラムはメッセージ 8F99D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8F99D ENTER PROCEED OR CANCEL

説明: 現ジョブの処理にシステム・ファイルの再編成が含まれていることを示すメッセージ 8F98I が出されました。通常、これはデータ・セット高速コピー・ユーティリティを用いて行うべきことではありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 正しいファイル ID が使用されているかを確認した上で、次のいずれかを入力してください。

- CANCEL: ファイル ID が正しくないか、または ID の確認ができず、したがってシステムにジョブを取り消させたい場合。このメッセージとメッセージ 8F98I が出たことをプログラマーに知らせてください。
- PROCEED: データ・セット高速コピー・ユーティリティに、該当システム・ファイルを再編成させる場合。

プログラマーの応答: なし。

8FA0I AFTER FASTCOPY PROCESS, RESTORE YOUR VSAM DATA FROM YOUR VSAM BACKUP

説明: ターゲットとソース・ディスクの容量が異なります。VSAM のデータが、FASTCOPY を使用してコピーまたはリストアされている場合、VSAM の整合性をとるために、ユーザーは VSAM データを VSAM バックアップからリストアしなければなりません。

システムの処置: FASTCOPY は処理を続行します。

ユーザーの処置: なし。

プログラマーの応答: なし。

8FA2I TRIED FLASHCOPY NOT AVAILABLE (RC=nn). PROCESSING WILL CONTINUE

説明: このメッセージは、FLASHCOPY のコピーに失敗したことを示します。FASTCOPY は必ず FLASHCOPY を最初に使用します。これが失敗すると、他のチャネル・プログラムの処理を続行します。RC の意味は次のとおりです。

- RC=04 - VOLID が無効です
- RC=08 - ボリュームが存在しません
- RC=12 - ソース/ターゲット・ボリュームの装置が無効です
- RC=20 - IXFP/SNAPSHOT は SVA で使用できません。例えば、独立型環境で FASTCOPY が実行されました
- RC=64 - IXFP/SNAPSHOT が装置でサポートされていません
- RC=XX - IXFP/SNAPSHOT が無効な戻りコードを返しました

システムの処置: 処理を続行します。EOJ 戻りコードは、このメッセージの影響は受けません。

ユーザーの処置: なし。

プログラマーの応答: なし。

8Mxx = ファイル・コピーおよびオブジェクト・モジュール保守メッセージ**8M11I OBJMAINT CANCELED DUE TO CONTROL STMT ERROR**

説明: 現在処理中の制御ステートメントが、必要な形式に従っていません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

8M12I NO CONTROL STMT PRESENT - LIST ASSUMED

説明: OBJMAINT は、最初の制御ステートメントを読み取る前に、ファイルの終わりを検出しました。

システムの処置: 処理を続行します。プログラムは、LIST 機能についてのデフォルトの制御設定値を使用して、SYS004 に割り当てられた装置にファイルをリストします。SYS005 への出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8M13I INPUT IS NOT A MULTIPLE OF 80 OR 81, OR IS GREATER THAN 6400 BYTES. 1ST 80 BYTES OF 1ST BLOCK FOLLOW
*This message is followed by 80-bytes-of-data***8M14I UNIDENTIFIED PARAMETER**

説明: 現在処理中の制御ステートメントの、キーワードまたは指定が無効です。

システムの処置: 制御ステートメントが ./ LIST の場合、処理が続行されます。そうでない場合、ジョブが取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正して、ジョブを再実行してください。

8M16I REP FUNCTION NOT ALLOWED WITH CARD INPUT

説明: ./ REP 制御ステートメントが読み取られましたが、SYS004 データはカード入力装置にあります。制御ステートメントと入力データの両方が同じ装置からの入力ですから、

OBJMAINT は REP ステートメントを挿入することができません。

システムの処置: OBJMAINT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーザー REP ステートメントを手操作で入力してください。

**8M171 SELECT TABLE FULL. JOB *jobname*
CANNOT BE PROCESSED**

説明: 選択機能の場合に、最大許容数である 120 を超えるジョブ名が処理依頼されました。

システムの処置: 示されているジョブは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: EXCLUDE 機能を用いるか、所要のジョブの選択を何回かの実行に分けて行うことを検討してください。処理されなかった最初のジョブおよびそれ以降を再サブミットしてください。

**8M181 EXCLUDE TABLE FULL. JOB *jobname*
CANNOT BE PROCESSED**

説明: EXCLUDE 機能の場合に、120 を超えるジョブ名が処理依頼されました。除外テーブルに入るジョブ名の最大数は 120 です。

システムの処置: このジョブ名は無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 選択機能を用いるか、所要のジョブの除外を何回かの実行に分けて行うことを検討してください。処理されなかった最初のジョブおよびそれ以降を再サブミットしてください。

8M191 USER EXIT *phasename* LOADED AT *address*

説明: ./ EXIT 制御ステートメントが処理され、フェーズが OBJMAINT のユーザー出口域に正常にロードされました。出口のロード・アドレスは、デバッグのために示されています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**8M211 SEQUENCE ERROR HAS OCCURRED
SCANNING FOR MOD - *modulename*
CSECT - *csectname***

説明: プログラムは、EXPAND または REP 機能で使用するオブジェクト・モジュールを見つけましたが、CATALR ステートメントが END ステートメントより前にありました。これは、SYS004 データ・セットにおけるシーケンス・エラーです。

システムの処置: REP または EXPAND 機能はリセットされ、次の制御ステートメントが読み取られます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 正しい入力データが SYS004 にあるかどうかを確認してください。

8M221 INVALID REP STMT FORMAT

説明: ユーザーの REP ステートメントの構文が正しくありません。OBJMAINT は、桁 5、6、および 13 がブランクであるかを調べます。この状態は、あとのリンケージ・エディターの実行でエラーを起こす原因となります。

システムの処置: SYS005 出力ファイルの先頭にファイルの終わり標識 (*) が書き込まれます。ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正して、ジョブを再実行してください。

8M231 STATEMENT OUT OF SEQUENCE

説明: REP 機能の実行中に、OBJMAINT は実行対象のオブジェクト・モジュールを見つけたので、SYSIPT から REP ステートメントを読み取ろうとしました。検出されたステートメントは、ユーザーの REP ステートメントでも、./ 制御ステートメントでもありません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SYSLST 出力を調べて、必要があれば、制御ステートメントの順序を訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

8M301 UNREP TABLE FULL - STMT IGNORED

説明: 現行の UNREP 制御ステートメントが、UNREP テーブルの容量 (50 項目) を超えました。

システムの処置: 制御ステートメントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 個々のオブジェクト・モジュールごとにと与えられているユーザー REP ステートメントをすべて取り除いて UNREP ステートメントを統合するか、あるいは

OBJMAINT を複数回実行することによって UNREP の要件を満たすように操作してみてください。メッセージが出たときに処理されていたジョブ (およびそれ以降のジョブ) から始めて、ジョブを再サブミットしてください。

**8M311 UNIDENTIFIED KEYWORD ON ./
CONTROL STMT**

説明: OBJMAINT が、現在処理中の制御ステートメント中に、無効なキーワードを見つけました。

システムの処置: 制御ステートメントが ./ LIST の場合、処理が続行されます。そうでない場合、ジョブが取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 必要に応じて、エラーのある制御ステートメントを訂正した上でジョブを再実行してください。

**8M321 DUPLICATE UNREP ENTRY - STMT
IGNORED**

説明: 同じオペランドを持つ UNREP 項目がすでに処理されています。

システムの処置: ステートメントは無視され、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 正しい処置が行われたかを確認してください。

8M33I NAME OR OPERAND LENGTH ERROR

説明: オペランドの長さが 8 文字を超えているか、あるいはオペランドの構文にエラーがあります。
 システムの処置: ジョブは取り消されます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: エラーを訂正して、ジョブを再実行してください。

8M34I SD AND LENGTH ARE REQUIRED OPERANDS FOR EXPAND

説明: 拡張機能を要求するときは、SD を指定し、長さを指定する必要がありますが、現在の制御ステートメントには、そのいずれかまたは両方が欠落しています。
 システムの処置: ジョブは取り消されます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: エラーのある制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

8M35I SELECT AND EXCLUDE ARE MUTUALLY EXCLUSIVE CONTROL STMTS - STMT IGNORED

説明: SELECT 制御ステートメントの処理後に EXCLUDE 制御ステートメントが検出されたか、または EXCLUDE 制御ステートメントの処理後に SELECT 制御ステートメントが検出されました。同一のステップの中で、この 2 つの制御ステートメントを組み合わせて使用することはできません。
 システムの処置: EXCLUDE または SELECT 制御ステートメントは無視され、処理が続行されます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 同一ステップ内にある EXCLUDE と SELECT の組み合わせを除去してください。必要な場合、ジョブを再実行してください。

8M39I ERROR * ERROR *** ERROR *** ERROR *** ERROR**

説明: このメッセージは他のエラー・メッセージに続いて出され、OBJMAINT によって検出された異常条件をユーザーに知らせます。
 システムの処置: このメッセージの前に SYSLST に書き込まれたメッセージの説明を読んでください。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 必要に応じてエラーを訂正し、必要な場合、ジョブを再実行してください。

8M41I SYS004 NOT ASSIGNED

説明: OBJMAINT への入力は常に論理装置 SYS004 から行われますが、SYS004 が割り当てられていません。
 システムの処置: ジョブは取り消されます。
 オペレーターの応答: SYS004 を割り当てて、ジョブを再実行してください。
 プログラマーの応答: なし。

8M42I SYS004 NOT A VALID DEVICE TYPE

説明: SYS004 が、OBJMAINT でサポートされていない装置に割り当てられています。有効な装置は、以下に示されたクラス、VSE 拡張機能がサポートするすべての入力装置です。
 カード

ディスク
 ディスケット
 磁気テープ

システムの処置: ジョブは取り消されます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 割り当てを訂正し、ジョブを再実行してください。

8M43I SYS004 IS A LABELED TAPE - VOL=volume-id.

説明: 入力はテープからであり、取り付けられているテープ・ボリュームには標識ラベルが付いています。ボリューム ID は単なる参考のために示されているだけです。
 システムの処置: OBJMAINT はラベルを通過して処理を続けます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

8M44I INPUT TAPE FILENAME IS filename

説明: テープ上の入力ファイルには、標準ラベルが付いています。ファイル名は単なる参考のために示されているだけです。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

8M45I SYS004 IS cuu - devicetype - BLKSIZE IS mmmn - RECSIZE IS nn

説明: このメッセージは入力ファイルの特性を記述しています。

メッセージの中のブロック・サイズおよびレコード・サイズの値は、10 進数で示されます。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

8M46D MULTI-VOLUME INPUT. IS THIS END-OF-FILE? YES OR NO

説明: マルチボリューム・テープ入力を指示する ./ ACTION 制御ステートメントがサブミットされ、ボリューム終わり条件またはファイルの終わり条件が生じました。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: ファイルの終わりの場合は YES、単なるボリュームの終わりの場合は NO と応答してください。

./ ACTION ステートメントの FILES=nnn オペランドを介して連結出力ファイルが要求された場合には、YES の応答は、その連結出力ファイルへの入力を終了すること、および OBJMAINT がテープ上のそれ以降のすべてのファイルを別個の出力ファイルとして処理すること (ただし FILES=nnn の値に達していない場合) を意味します。連結ファイル以外の場合は、YES の応答により、テープ上の次のファイルが処理されます。

NO と応答した場合には、OBJMAINT は最後のファイルが次

のボリュームに続いているものとみなし、代替磁気テープに切り替えます。

プログラマーの応答: なし。

8M51I SYS005 NOT ASSIGNED

説明: 出力は常に論理装置 SYS005 に出されますが、SYS005 が割り当てられていません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: SYS005 を割り当ててジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

8M52I SYS005 NOT A VALID DEVICE TYPE

説明: SYS005 が、OBJMAINT でサポートされていない装置に割り当てられています。有効な装置は、以下に示されたクラス、VSE 拡張機能がサポートするすべての出力装置です。

カード

ディスク

ディスクット

磁気テープ

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: SYS005 の割り当てを変更し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

8M55I SYS005 IS *cuu* - *devicetype* - **BLKSIZE IS** *nnnn* - **RECSIZE IS** *nn*

説明: このメッセージは、出力ファイルの特性を記述しています。メッセージの中のブロック・サイズおよびレコード・サイズの値は、10 進数で示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8M56I **BLKSIZE IS NOT A MULTIPLE OF 80.** **BLKSIZE SET TO** *X'nnnn'*

説明: ./ BLOCK 制御ステートメントが処理されましたが、与えられたブロック・サイズは 80 の整数倍になっていません。

システムの処置: メッセージ中の *X'nnnn'* の値に示されているように、ブロック・サイズは、指定された値より小さく、それに最も近い 80 の整数倍にセットされます。処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8M72I **ORIGINAL ESD**

説明: 現在処理中のモジュールに対して、EXPAND 機能が要求されました。更新の前に、該当の ESD ステートメントがここに示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8M73I **UPDATED ESD**

説明: 現在処理中のモジュールに対して、EXPAND 機能が要求されました。./ EXPAND 制御ステートメントによる変更が行われた後で、該当の ESD ステートメントがここに示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8M74I **EXPAND FUNCTION RESULTED IN** **TRUNCATION OF MODULE**

説明: 現在処理中のモジュールに対して、EXPAND 機能が要求されました。現行の長さの切り捨てが指示されました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: OBJMAINT はこの条件を処理します。しかし、モジュールの新しい長さを超えるアドレスを指定した TXT および RLD ステートメントがある場合は、リンケージ・エディター・メッセージが出されることがあるので、注意してください。モジュール出力を検査してください。

8M75I **ADDED TXT**

説明: 現在処理中のモジュールに対して、EXPAND 機能が要求されました。// EXPAND 制御ステートメントに INITIMG オペランドが指定されていました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8M76I **ADDED REP**

説明: 現在処理中のモジュールに対して、REP 機能が要求されました。ここに示すユーザー REP ステートメントがオブジェクト・モジュールに追加されました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8M78I **REP STMT DELETED**

説明: ここに示す REP ステートメントに対して、UNREP 制御ステートメントが渡されましたが、その REP ステートメントはオブジェクト・モジュールから除去されていました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8M80I **TOTAL STMTS IN JOB - *number***

説明: 入力ファイルに、VSE 拡張機能、OS/VS、もしくはシステム・ヒストリー保守ジョブが含まれています。各ジョブのステートメントの合計数が累算され、ジョブ境界ごとに表示されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**8M811 OBJMAINT STATISTICS SYS004=*number*,
SYS005=*number*, SYSLST=*number***

説明: このメッセージは、SYS004 から読み取られたレコードの数、SYS005 に書き込まれたレコードの数、および SYSLST に書き込まれた行数を示します。

このメッセージが SYSLST に書き込まれた場合には、ファイル全体または OBJMAINT ステップについての総数が表示されます。コンソールに書き込まれた場合には、それがステップの終わりであればファイル総数、ステップの終わりでなければ、OBJMAINT 実行区画に対する外部割り込み発生までのデータの累計を表します。値はいずれも 10 進数で示されます。

複数の入力ファイルが処理されている場合には、SYS004 のカウントは現在処理中のファイルの中のすべてのレコード数を表し、SYS005 と SYSLST のカウントはそのステップ全体について累算されたデータを表します。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**8M821 OBJMAINT USER EXIT DELETED=*number*,
ADDS=*number***

説明: ユーザー出口がアクティブであり、少なくとも 1 つのレコードが SYSLST に追加されるか、またはそこから削除されていれば、ステップの終了時にこのメッセージが SYSLST とコンソールに書き込まれます。また、オペレーターがその区画に対して外部割り込みを働きかけたときにも、このメッセージが出る場合があります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**8M831 THESE JOBS SELECTED BY SELECT
FUNCTION**

説明: SELECT 機能の要求により、ここに示す各ジョブが見つげだされ、SYS005 出力ファイルに収められました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**8M841 THESE JOBS EXCLUDED BY EXCLUDE
FUNCTION**

説明: EXCLUDE 機能の要求どおり、ここに示すジョブが見つげだされ、SYS005 出力ファイルから除去されました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8M851 THESE JOBS WERE NOT FOUND

説明: ここに示す各ジョブが EXCLUDE または SELECT ステートメントで指定されましたが、入力ファイル中に見当たりません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 正しい SYS004 入力ファイルが処理されたか、またはテープの位置付けが正しかったかを確認してください。

**8M861 THE FOLLOWING UNREP CONTROL
STMTS WERE NOT PROCESSED**

説明: ここに示す UNREP 制御ステートメントが与えられましたが、対応する REP ステートメントが入力ファイル中に見つかりませんでした。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 入力データおよび制御ステートメントを調べて、エラーの原因を判別してください。

**8M871 OBJMAINT CURRENT JOB NAME IS
*jobname***

説明: OBJMAINT への入力、VSE 拡張機能、OS/VS、もしくはシステム・ヒストリー保守ジョブにより構成されている場合に、各ジョブ名は検出されるつど保管され、オペレーターからの外部割り込みが生じたときに、ジョブ名がこのメッセージでコンソールに出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**8M881 LISTING OF SYS004 DATA SUPPRESSED
BY LIMIT**

説明: PARM=LIMIT の指定された ./ LIST 制御ステートメントが処理されましたが、最後の 10 個のデータ・ステートメントの中に制御型ステートメントがなかったため、入力ファイルのリスト作成が抑止されています。制御型ステートメントには次のようなものがあります。

1 桁目に / のあるステートメント

1 桁目が 12-2-9 穿孔 (X'02') であるステートメント

最初の 2 桁に ./ のあるステートメント

1 および 2 桁目に ++ のあるステートメント

CATALS, CATALP, CATALR、および UPDATE ステートメント

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**8M891 UNPRINTABLE STATEMENTS
SUPPRESSED**

説明: 入力ファイル中に、15 個以上の印刷不能文字を含んだステートメントがあるため、リストされません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。ただし、PARM=BINARY または PARM=80/80 を指定した ./ LIST 制御ステートメントを用いれば、印刷不能のステートメントを印刷することができます。印刷不能のステートメントの印刷が必要ならば、ジョブを再実行してください。

8M91I STMT NOT PROCESSED

説明: 以下のいずれかです。

1. ファイルの終わりに到達する前に OBJMAINT が終了しました。未処理のすべてのステートメントに、このメッセージが出ます。
2. REP もしくは EXPAND 機能が要求されましたが、OBJMAINT は指定されたオブジェクト・モジュールを入力ファイルの中で見つけることができませんでした。OBJMAINT は、以降すべての制御ステートメントに、このメッセージを出します。

8Vxx=VTOC 表示メッセージ**8V91I NO FORMAT 4 LABEL FOUND - JOB CANCELED**

説明: システムの VTOC ハンドラーが、アクセスされたボリュームの初期設定にエラーがあること、あるいはそれが全く初期設定されていないことを検出しました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 別のディスク・ボリュームを割り当てるか、または装置サポート機能プログラムの INIT 機能により問題のボリュームを初期設定した上で、ジョブを再実行してください。

問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

8V92I NO VOLUME 1 LABEL FOUND - JOB CANCELED

説明: システムの VTOC ハンドラーが、アクセスされたディスク・ボリュームに VOL1 ラベルが付いていないことを検出しました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 正しいディスク・ボリュームが取り付けられている (またはアクセス可能な状態にある) かを確認してください。正しいボリュームがオンラインの状態になれば、正しいボリュームを取り付けてジョブを再実行してください。正しいボリュームがオンラインの状態にある場合には、装置サポート機能プログラムの INIT 機能によりそのディスク・ボリュームを初期設定してから、ジョブを再実行してください。

問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

8V93I INVALID VTOC ADDR FOUND - JOB CANCELED

説明: システムの VTOC ハンドラーは、VTOC 読み取り要求の実行中ですが、VTOC エクステンションの範囲外のアドレスを渡されました。他の原因としては、VOL1 ラベル内の VTOC アドレスと、VTOC ハンドラーが使用しているアドレス (VTOC ハンドラーがシステムの監視プログラムから検索したアドレス) との不一致が考えられます。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 以下のいずれかです。

システムの処置: OBJMAINT による終了処理が続行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: リストを見てほかのエラー・メッセージがないか調べ、それに応じた訂正を行ってください。必要な場合、ジョブを再実行してください。

- 別のボリュームを割り当てて、ジョブを再実行してください。
- 装置サポート機能プログラムの INIT 機能を用いて、問題の生じたボリュームを初期設定し直してから、ジョブを再実行してください。

問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

8V95I NOT A VALID LABEL FORMAT

説明: 次のいずれかを行ってください。

- 形式 4 ラベルを処理したあとで、システムが次のいずれも検出することができませんでした。
 - 形式 1 から 3 までのラベル
 - 形式 5 または 6 のラベル
 - VTOC の空レコードを示す X'00'
- 形式 1 ラベルが、形式 2 または 3 以外のラベルを指しています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 該当ボリュームの最新のバックアップをリストアしてください。このエラー条件のために取り消されたジョブがあれば、それを再サブミットしてください。

8V96D SHOULD DATA SECURED FILES BE LISTED? REPLY YES OR NO

説明: データ保護ファイルを記述する形式 1 ラベルが、VTOC 表示ユーティリティ・プログラムによって読み込まれました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- セキュリティ管理者からの指示があった場合には、YES と応答してください。システムは、すべての保護ファイルを VTOC の中のその他の情報と共にリストします。
- セキュリティ管理者から何の指示もない場合には、NO と応答してください。システムは、非保護ファイルだけを VTOC の中のその他の情報と共にリストします。

プログラマーの応答: 現時点では、なし。このメッセージが最初に出されたときにオペレーターが NO と応答したが、プログラマーは保護ファイルのリストを必要としているという場合は、ユーティリティを再実行するときに YES と応答する

ことをオペレーターに指示するよう、セキュリティー管理者に依頼してください。

8V97I VTOC OPEN ERROR *nnn* - JOB CANCELED

説明: システムの VTOC ハンドラーによるオープン処理が失敗しました。表示されたコード (*nnn*) の説明については、633 ページの『共通 VTOC ハンドラー (CVH) 戻りコード』を参照してください。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 表示されたエラー・コードの説明に従って、該当する訂正処置を行ってください。

8V98I SORTED OUTPUT SUPPRESSED DUE TO INSUFFICIENT SORTING SPACE

説明: 区画が小さすぎるため、システムは分類に必要なテーブル・スペースを割り振ることができません。

システムの処置: 処理は続行されますが、分類された出力およびボリューム上のフリー・スペースのテーブルを入手することはできません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 分類された出力またはフリー・スペースのテーブルが必要な場合には、もっと大きい区画でジョブを再実行してください。

8Xxx= 共通ユーティリティー・メッセージ

8X01D INCORRECT REPLY, RETRY

説明: 前の表示メッセージに対するオペレーターの応答が無効です。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 許されている選択項目のいずれかを選択することにより、そのメッセージに対して正しく応答してください。応答し直す前にもう一度そのメッセージを表示させたい場合は、疑問符 (?) を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

8X02I CONTROL STATEMENT MISSING

説明: ユーティリティーが SYSIPT から制御ステートメントを読み取ろうとしましたが、ファイルの終わり条件を検出しました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 欠落している制御ステートメントを追加して、ジョブを再実行してください。

8X03I CONTINUATION LINE MISSING

説明: 制御ステートメント行に継続標識がありますが、それに続く制御ステートメント行がありません。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 欠落している継続行を、制御ステートメントのセットの中の正しい位置に挿入して、ジョブを再実行してください。

8V99I I/O ERROR READING THE VTOC - JOB CANCELED

説明: 入出力エラーのため、VTOC に保管されたラベルの読み取りが失敗しました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 装置サポート機能プログラムの

INSPECT 機能を用いて、問題のあるディスク・ボリュームを分析してください。アクセス不能になっているデータがある場合には、テープ上にある最新のバックアップをボリューム上にリストアすることにより、そのデータを再作成しなければなりません。データが再びアクセス可能になったら、ジョブを再実行してください。

8V9AI NUMBER OF EXTENTS EXCEEDS UTILITY LIMIT. FREE SPACE MAP SUPPRESSED

説明: エクステントの数が、ユーティリティーの限界の 999 を超えました。ボリュームの空きスペースはリストされています。コンソールに (および LVTOC リスト出力にも) 表示されます。

システムの処置: ユーティリティーは続行されます。

ユーザーの処置: なし。

プログラマーの応答: なし。

8X04I INVALID PARAMETER

説明: プログラムが制御ステートメント行を検査しているときに、有効な指定でも継続標識 (ハイフン) でもない文字ストリングが見つかりました。エラーが検出された位置は、ログに記録される制御ステートメントの下にアスタリスクを付けて示されます。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

8X05I DUPLICATE PARAMETER

説明: 検査中の制御ステートメントに、同じ有効キーワードが 2 回出てきました。エラーが検出された位置は、ログに記録される制御ステートメントの下にアスタリスクを付けて示されません。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

8X06I MANDATORY PARAMETER MISSING

説明: 検査中の制御ステートメントに、必須オペランド指定が欠落していました。エラーが検出された位置は、ログに記録される制御ステートメントの下にアスタリスクを付けて示されます。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

8X07I CONFLICTING PARAMETERS

説明: 制御ステートメントの検査中に、互いに矛盾する指定 (例えば相互に排他的な処置を要求する指定) をプログラムが見つめました。エラーが検出された位置は、ログが記録される制御ステートメントの下にアスタリスクを付けて示されます。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

8X08I SYNTAX ERROR IN CONTROL STATEMENT

説明: 検査中の制御ステートメントに、キーワードまたは指定のつづりの誤りなどのエラーがあります。エラーが検出された位置は、リストされた制御ステートメントの下にアスタリスクを付けて示されます。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

8X10I PARTITION TOO SMALL

説明: プログラムを実行するための区画が小さすぎるか、あるいはプログラムを呼び出す EXEC ステートメントの SIZE 値が小さすぎます。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SIZE にもっと大きい値を指定するか、もっと大きな区画を使用するか、どちらか適切もしくは可能と認められる処置を講じてから、ジョブを再実行してください。

8X11I JOB PROCESSING FAILURE (x)

説明: メッセージ中の x はエラー標識であり、これは次のいずれかです。

A = エクステンツ追加の失敗 - 前のジョブ・ステップで追加したエクステンツの数が多すぎたものと考えられます。

D = エクステンツ削除エラー。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: x=A の場合には、追加するエクステンツの数を減らして、ジョブを再実行してください。x = D の場合、または問題が解決されない場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

8X12I FIXING OF I/O STORAGE FAILED

説明: ユーティリティーがすべての入出力関連ストレージ域を固定できるだけの十分なプロセッサ・ストレージが区画に割り振られていませんでした。このため、入出力関連ストレージの固定は、オペレーティング・システムによって内部的に実行されます。

システムの処置: プログラムは処理を続けますが、その速度はおそらく通常より遅くなります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 現状での実行効率に不満な場合は、次回にユーティリティーを実行するときのために、十分なプロセッサ・ストレージを割り振るようにしてください。ジョブ制御ステートメント SETPFIX を使用すれば、PFIXing ページの保証限度を定義できます。

8X20A UNIT= cuu DEVICE NOT READY

説明: 示されたアドレスにある装置が作動可能ではありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- システムに処理を続けさせるためには、その装置を作動可能にし、END/ENTER を押してください。
- 装置を作動可能にできない場合は、CANCEL を入力してジョブを取り消す。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、それを再実行し必要な装置が作動可能になっていることを確認してください。

8X21I UNIT=cuu, MODVCE FAILED mm

説明: 示されている装置に対してプログラムから出された MODVCE が失敗しました。メッセージの中の nn はこのメッセージが出た原因を示すコードで、値は次のいずれかです。

12 = 装置が作動可能ではありません。

24 = 装置が操作可能ではありません。

その他のコードはプログラム・エラーを示します。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブを再実行し、プログラムで使用する装置が操作可能かつ作動可能であることを確認してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

8X22I UNIT=cuu DEVICE NOT OPERATIONAL

説明: メッセージの通りです。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブを再実行し、プログラムで使用する装置が操作可能かつ作動可能であることを確認してください。

8X25D WRONG TAPE ON cuu, REPLY NEWTAP OR CANCEL

説明: テープ装置 cuu に取り付けられているテープの内容が、処理プログラムの必要としているものではありません。間違ったテープを取り付けたものと思われます。

システムの処置: システム (区画) はオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

8X30I • 8X45D

- 示された装置に正しいテープ・ボリュームを取り付けて、NEWTAP と入力する。これにより、プログラムは処理を続けます。
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。プログラマーにこのメッセージを報告してください。
- プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、ジョブを再実行して、プログラムが使用する装置に正しいテープ・ボリュームが取り付けられていることを確認してください。

8X30I SY5xxx NOT ASSIGNED

説明: 処理中のユーティリティーは、上記の論理装置が割り当てられていることを必要としています。その論理装置が割り当てられていないか、または UA (未割り当て) が指定されています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 正確な割り当てを指定して、ジョブを再実行してください。

8X31I SYS000 NOT ASSIGNED TO FBA

説明: SYS000 の割り当てが、現在処理中のユーティリティーが予期した FBA 装置に対するものではありませんでした。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SYS000 の正しい割り当てを指定して、ジョブを再実行してください。

8X32I SY5xxx ASSIGNED IGNORE

説明: IGNORE に対する論理装置指定は、ユーティリティー・プログラムによってサポートされません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 指定を正しく行ってジョブを再実行してください。

8X33I {SY5xxx|cuu} NOT ASSIGNED TO A DAsD

説明: 示された論理装置が、ディスク以外の装置に割り当てられています。あるいは、装置アドレスが表示されている場合には、このアドレス装置がディスク・ドライブではありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 正確な割り当てを指定して、ジョブを再実行してください。

8X42D UNIT=cuu VOLID=volume-id. EQUAL FILE-ID IN VTOC file-id

説明: 表示されている 44 文字のファイル ID が、未満了ファイルまたはデータ保護ファイルの形式 1 ラベルの中にあります。このメッセージには、問題のあるボリューム ID とそのボリュームが取り付けられている装置のアドレスが示されています。

システムの処置: システム (プログラム) はオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。プログラマーにこのメッセージを報告してください。
- DELETE を入力して、同じファイル ID を持つ既存ファイルをシステムに削除させる。
- NEWNAME を入力して、最初に指定された名前の代わりにユーティリティーに使用させる新規の名前をシステムがプロンプト指示するようにする。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合、ジョブを再実行し、既存のものに一致しない新しいファイル ID を与えるか、またはこのメッセージが再発したら、応答として DELETE と入力するようにオペレーターに指示してください。

8X43A ENTER OTHER FILE-ID FOR NEW FILE

説明: オペレーターがメッセージ 8X42D に対して NEWNAME と応答しました。

システムの処置: システム (プログラム) はオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 競合する最初の ID の代わりに使用させる、有効なファイル ID を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

8X44I UNIT=cuu VOLID=volume-id. VTOC FULL

説明: 示されたディスク・ボリュームの VTOC には、作成するファイルのラベルを追加するためのスペースがありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ファイルの作成のために別のディスク・ボリュームを選択して、ジョブを再実行してください。

8X45D UNIT=cuu VOLID=volume-id OVERLAP ON UNEXPIRED FILE file-id

説明: 作成しようとしているファイルのエクステントが、未満了ファイルの 1 つまたは複数のエクステントに重なり合っている可能性があります。メッセージには、この問題の生じたボリュームと、重なり合いが生じる既存のファイルの ID が示されています。

システムの処置: システム (プログラム) はオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。
 - DELETE を入力して、メッセージ中に ID が示されているファイルをシステムに削除させる。
- プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、
- 作成されるファイルについて、重なり合いの生じない新たなエクステントを指定して、ジョブを再実行してください。あるいは、
 - ファイルを作成するために別のボリュームを用いて、再実行してください。

問題のボリュームに関する最新の LVTOC 出力に照らして、新しいエクステント定義を検査してください。

8X46t **UNIT=cuu VOLID=volume-id. OVERLAP ON SECURED FILE file-id**

説明: 示されたディスク・ボリュームに作成しようとしているファイルのエクステントが、上記のファイル ID を持つ保護ファイルの 1 つまたは複数のエクステントに重なり合う可能性があります。

システムの処置: タイプ・コード I の場合 - ジョブは取り消されます。タイプ・コード D の場合 - システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード I の場合 - なし。タイプ・コード D の場合 - 以下のいずれかを行ってください。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。プログラマーにこのメッセージを報告してください。
- DELETE を入力する。このためには、セキュリティ管理者からの指示が必要です。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、ファイル作成のために別のディスクを選択するか、または重なり合わないエクステントを指定してから、ジョブを再実行してください。

インストール先での内部規定にもよりますが、ジョブを再実行して再びこのメッセージが出たら、DELETE と応答することをオペレーターに指示するようセキュリティ管理者に依頼することもできます。ただし、DELETE を応答すると、システムは、メッセージ中に ID が示されているファイルを削除します。したがって、例えば、この ID により示されているのがエミュレートされたディスク・エクステントである場合、そのエミュレートされたエクステントに保管されているすべてのファイルが、この応答に基づいて削除されることになります。

8X47I **UNIT=cuu VOLID=volume-id. OVERLAP ON VTOC**

説明: 示されたディスク・ボリューム上で作成されるファイルのエクステントが、このボリュームの VTOC エクステントと重なり合う可能性があります。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかを行ってください。

- ファイルを作成するために、別のディスク・ボリュームを使用してジョブを再実行してください。
- 作成するファイルのために、別のエクステントを指定してジョブを再実行してください。エクステントの重複が生じていないことを確認するために、使用可能な最新の LVTOC 出力に照らして新しいエクステント指定を検査してください。
- 問題のディスク・ボリュームを、別のアドレスにある VTOC により再初期設定してください。これを行うには、装置サポート機能プログラムの INIT 機能を使用してください。

8X50I **UNIT=cuu VOLID=volume-id. request-type ERROR nnn**

説明: VTOC へのアクセス要求が失敗しました。メッセージには、影響を受けたボリュームと装置が示されます。戻りコード (nnn) は、発生したエラーのタイプを示します。コードのリ

ストおよび簡単な説明については、633 ページの『共通 VTOC ハンドラー (CVH) 戻りコード』を参照してください。要求タイプとしては、ユーティリティは次のいずれかを表示します。

```
OPEN VTOC
READ FMT1 LABEL
READ FMT3 LABEL
READ NEXT LABEL
READ BY ADDRESS
SCRATCH LABEL(S)
WRITE BY ADDRESS
WRITE ANYWHERE
```

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 表示されている戻りコードがリカバリー不能の入出力エラーを示している場合には、ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

8X51I **UNIT=cuu VOL1 LABEL NOT FOUND**

説明: 装置 cuu のボリュームに、有効なボリューム 1 ラベルがありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のうち、該当するものを実行してください。

- 正しいボリュームが取り付けられたかを確認し、ボリュームの内容を確認してください。
- ボリュームが正しくない場合には、正しいボリュームを取り付けてジョブを再実行してください。
- 正しいボリュームが取り付けられており、しかもその中に重要なデータが入っていない場合には、装置サポート機能プログラムの INIT 機能を実行してそのボリュームを初期設定してください。
- 続いて、ジョブを再実行してください。
- そのボリュームに重要なデータが入っている場合には、ボリュームの初期設定の前に VSE または VM に対する DITTO を用いて、できるだけ多くのデータをリカバリーさせるか、あるいは初期設定の後で最新のバックアップ (テープ上の) をリストアしてください。

8X52D **UNIT=cuu VOL1 LABEL NOT FOUND**

説明: 装置 cuu のボリュームに、有効なボリューム 1 ラベルがありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。
 - PROCEED を入力して、システムに処理を続行させる。この応答を入力する前に、データ破棄のリスクがないことを確認してください。処理が継続されると、これ以上の警告なしにボリューム全体が上書きされることがあります。
- プログラマーの応答: 次のうち、該当するものを実行してください。

- ジョブが取り消された場合は、正しいボリュームが取り付けられているかを確認してください。
- ボリュームが正しくない場合には、正しいボリュームを取り付けてジョブを再実行してください。
- 正しいボリュームが取り付けられており、しかもその中に重要なデータが入っていない場合には、装置サポート機能プログラムの INIT 機能を実行してそのボリュームを初期設定してください。
- 続いて、ジョブを再実行してください。
- そのボリュームに重要なデータが入っている場合には、ボリュームの初期設定の前に VSE または VM に対する DITTO を用いて、できるだけ多くのデータをリカバリーさせるか、あるいは初期設定の後で最新のバックアップ (テープ上の) をリストアしてください。

8X53I UNIT=cuu VOL1 I/O ERROR

説明: 入出力エラーが発生したため、示されたディスク・ドライブにあるボリュームを読み取ることができませんでした。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のうち、該当するものを実行してください。

- ボリュームの内容を確認してください。
- ボリュームに重要なデータが含まれていない場合は、装置サポート機能プログラムの INIT 機能を実行してボリュームを初期設定してください。
- 続いて、ジョブを再実行してください。
- そのボリュームに重要なデータが入っている場合には、ボリュームの初期設定の前に VSE または VM に対する DITTO を用いて、できるだけ多くのデータをリカバリーさせるか、あるいは初期設定の後で最新のバックアップ (テープ上の) をリストアしてください。

8X54D UNIT=cuu VOL1 I/O ERROR

説明: 入出力エラーが発生したため、示されたディスク・ドライブにあるボリュームを読み取ることができませんでした。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。
- PROCEED を入力して、システムに処理を続行させる。この応答を入力する前に、データ破棄のリスクがないことを確認してください。処理が継続されると、これ以上の警告なしにボリューム全体が上書きされることがあります。

プログラマーの応答: 次のうち、該当するものを実行してください。

- ジョブが取り消された場合は、ボリュームの内容を確認してください。
- ボリュームに重要なデータが含まれていない場合は、装置サポート機能プログラムの INIT 機能を実行してボリュームを初期設定してください。
- 続いて、ジョブを再実行してください。
- そのボリュームに重要なデータが入っている場合には、ボリュームの初期設定の前に VSE または VM に対する DITTO

を用いて、できるだけ多くのデータをリカバリーさせるか、あるいは初期設定の後で最新のバックアップ (テープ上の) をリストアしてください。

8X55I UNIT=cuu VOLID=volume-id. F4 LABEL NOT FOUND

説明: ボリューム上に有効な VTOC 形式 4 ラベルがありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ボリュームの内容を確認してください。ボリュームに重要なデータが含まれていない場合は、装置サポート機能プログラムの INIT 機能を実行してボリュームを初期設定してください。続いて、ジョブを再実行してください。そのボリュームに重要なデータが入っている場合には、ボリュームの初期設定の前に VSE または VM に対する DITTO を用いて、できるだけ多くのデータをリカバリーさせるか、あるいは初期設定の後で最新のバックアップ (テープ上の) をリストアしてください。

8X56D UNIT=cuu VOLID=volume-id. F4 LABEL NOT FOUND

説明: ボリューム上に有効な VTOC 形式 4 ラベルがありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。
- PROCEED を入力して、システムに処理を続行させる。この応答を入力する前に、データ破棄のリスクがないことを確認してください。処理が継続されると、これ以上の警告なしにボリューム全体が上書きされることがあります。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、ボリュームの内容を確認してください。ボリュームに重要なデータが含まれていない場合は、装置サポート機能プログラムの INIT 機能を実行してボリュームを初期設定してください。続いて、ジョブを再実行してください。そのボリュームに重要なデータが入っている場合には、ボリュームの初期設定の前に VSE または VM に対する DITTO を用いて、できるだけ多くのデータをリカバリーさせるか、あるいは初期設定の後で最新のバックアップ (テープ上の) をリストアしてください。

8X57I UNIT=cuu VOLID=volume-id. F4 LABEL I/O ERROR

説明: 示されたボリュームで、入出力エラーが発生したために VTOC 形式 4 ラベルを読み取ることができませんでした。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ボリュームの内容を確認してください。ボリュームに重要なデータが含まれていない場合は、装置サポート機能プログラムの INIT 機能を実行してボリュームを初期設定してください。続いて、ジョブを再実行してください。そのボリュームに重要なデータが入っている場合には、ボリュームの初期設定の前に VSE または VM に対する DITTO を用いて、できるだけ多くのデータをリカバリーさせるか、ある

いは初期設定の後で最新のバックアップ (テープ上の) をリストアしてください。

8X58D UNIT=cuu VOLID=volume-id. F4 LABEL I/O ERROR

説明: 示されたボリュームで、入出力エラーが発生したために VTOC 形式 4 ラベルを読み取ることができませんでした。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。
- PROCEED を入力して、システムに処理を続行させる。この応答を入力する前に、データ破棄のリスクがないことを確認してください。処理が継続されると、これ以上の警告なしにボリューム全体が上書きされることがあります。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、ボリュームの内容を確認してください。ボリュームに重要なデータが含まれていない場合は、装置サポート機能プログラムの INIT 機能を実行してボリュームを初期設定してください。続いて、ジョブを再実行してください。そのボリュームに重要なデータが入っている場合には、ボリュームの初期設定の前に VSE または VM に対する DITTO を用いて、できるだけ多くのデータをリカバリーさせるか、あるいは初期設定の後で最新のバックアップ (テープ上の) をリストアしてください。

8X59D UNIT=cuu VOLID=volume-id. ERRONEOUS VTOC

説明: 実行中のユーティリティーが、エクステントの重なり合いを調べるために VTOC ファイル・ラベル (形式 1、2、または 3) を読み込んでいるときに、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。
- PROCEED を入力して、システムに処理を続行させる。この応答は、問題のボリュームに重要なデータが入っていないことが確かな場合のみ入力してください。データの一部が上書きされることがあります。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、ボリュームの内容を確認してください。ボリュームに重要なデータが含まれていない場合は、装置サポート機能プログラムの INIT 機能を実行してボリュームを初期設定してください。続いて、ジョブを再実行してください。そのボリュームに重要なデータが入っている場合には、ボリュームの初期設定の前に VSE または VM に対する DITTO を用いて、できるだけ多くのデータをリカバリーさせるか、あるいは初期設定の後で最新のバックアップ (テープ上の) をリストアしてください。

8X60I OPEN VTOC ERROR nnn

説明: メッセージ中の nnn は、OPEN VTOC の要求の結果として渡される VTOC ハンドラー戻りコードです。このコードは発生したエラーの種類を示します。この戻りコードについては、633 ページの『共通 VTOC ハンドラー (CVH) 戻りコード』を参照してください。

システムの処置: ジョブは取り消されます。オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

8X61D UNIT=cuu VOLID=volume-id. SPECIFIED VOLID volume-id. INCORRECT

説明: 制御ステートメントに指定されたボリューム ID ラベルが、ボリューム上に保管されたものと同じではありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 正しいボリュームが取り付けられているかを確認してください。正しいボリュームが取り付けられていなければ、正しいボリュームを取り付けて NEWPAC に応答してください。正しいボリュームが取り付けられている場合、次のいずれかを行ってください。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。
- PROCEED を入力して、システムに処理を続行させる。この応答は、ディスクに保管されているデータが上書きされてもよい場合にのみ入力してください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、正しいボリュームが取り付けられているかどうかを確かめてください。正しいボリュームが取り付けられていなければ、プログラムが使用できる正しいボリュームを使用してジョブを再実行してください。

8X63D UNIT=cuu VOLID=volume-id VOLUME OWNED BY VSAM

説明: 上記のボリュームには、VSE/VSAM の制御下にあるスペースが含まれています。このスペースには、現行の有効なデータが保管されているかもしれませんが、いないかもしれません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 次のいずれかの応答をしてください。

- CANCEL を入力して、システムにジョブを取り消させる。プログラマーにこのメッセージを報告してください。
- PROCEED を入力して、システムに処理を続けさせる。これを行うと、問題のボリューム上の VSAM データが上書きされてしまうことがあるということを承知しておいてください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、正しいボリュームが取り付けられているかどうかを確かめてください。正しいボリュームが取り付けられていなければ、プログラムが使用できる正しいボリュームを使用してジョブを再実行してください。

8X64I UNIT=cuu VOLID=volume-id. VOLUME CONTAINS UNEXPIRED/PROTECTED FILES

説明: ボリューム上に、未満または保護対象 (あるいはその両方) のファイルが少なくとも 1 つはあります。

システムの処置: システムはメッセージ 8X65D を出します。オペレーターの応答: なし。プログラマーの応答: なし。

**8X65D UNIT=cuu VOLID=volume-id. REPLY
CANCEL SHOW OR PROCEED**

説明: システムは、今後の処理のための指示を要求していません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 応答として次のいずれかを入力してください。

- CANCEL を入力して、システムにジョブを取り消させる。プログラマーにこのメッセージを報告してください。
- SHOW を入力して、システムに該当のファイル ID を表示させる。システムは、該当する ID を、VTOC に保管されている順序で最高 10 個まで表示します。さらに別の該当するファイル ID (再び 10 個まで) を表示するためには、システムが再びメッセージ 8X65D を出したときに SHOW を再入力してください。
- PROCEED を入力して、システムに処理を続行させる。この応答を用いると、そのボリュームに保管されているすべてのファイル (まだ表示されていないものも含む) が削除されてしまうことがあります。この応答を入力するのは、それを指示された場合だけにしてください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合、正しいテープ・ボリュームが取り付けられているかを確認してください。正しくなければ、正しいボリュームを取り付けてジョブを再実行してください。

正しいボリュームが取り付けられている場合には、ボリュームの内容を検査してください。その中に重要なデータが入っていないければ、ジョブを再実行して、再びこのメッセージが出たら PROCEED と応答するようにオペレーターに指示してください (またはセキュリティ管理者に指示してもらってください)。ボリュームに重要なデータが入っている場合には、別のボリュームを使用してください。

**8X66D UNIT=cuu VOLID=volume-id. ALL
UNEXPIRED/PROTECTED FILES
DISPLAYED**

説明: オペレーターがメッセージ 8X65D に対して SHOW と応答し、プログラムは、上記のボリューム上にあるすべての該当ファイルのファイル ID を表示し終わりました。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- CANCEL を入力してジョブを取り消す。
- PROCEED を入力して、システムに処理を続行させる。これにより、ボリューム上の全ファイルが削除されてしまうことがあるため、この応答を入力するのは、それを指示された場合だけにしてください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合は、メッセージ 8X65D の場合と同じ応答が適用されます。

8X70I UNIT=cuu INCORRECT DISK TYPE

説明: 示されたアドレスにある装置が FBA ディスクではありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 指定が正しいかを確認し、ジョブを再実行してください。

**8X71D SPECIFY FBA VOLUME ID. REPLY
VOLUME ID.,
CANCEL OR PRESS ENTER**

説明: このメッセージはプログラム・プロンプトです。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 英数字 6 桁のボリューム ID を入力して、ユーティリティにその妥当性を検査させる。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。
- END/ENTER を押す (ユーティリティにボリューム ID を検査させる必要がない場合)。

プログラマーの応答: なし。

8X72I FBA VOLUME ID., SYNTAX ERROR

説明: メッセージ 8X71D へのオペレーターの応答が正しくありません。

システムの処置: システムはメッセージ 8X71D を再び出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

8X74I NO MORE PARTITION GETVIS SPACE

説明: プログラムが実行された区画に対して、ストレージが十分に割り振られていなかったか、または EXEC ステートメントの SIZE に指定された値が大きすぎます。

システムの処置: システムはジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SIZE にもっと小さい値を指定するか、あるいはより大きな区画で、ジョブを再実行してください。

**8X75D SYSxxx=cuu DISK SHARED BY SYSTEMS
REPLY: PROCEED OR CANCEL
(EOB MEANS CANCEL)**

説明: SYSxxx に割り当てられた装置 cuu が、共用可能として宣言されています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- CANCEL を入力して (または END/ENTER を押して)、システムにジョブを取り消させる。
- PROCEED を入力して、システムに処理を続行させる。

プログラマーの応答: なし。

**8X76I TLBL STMT FOR {OUTPUT|INPUT} TAPE
NOT FOUND**

説明: TLBL ステートメントが正しく入力されていません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: ジョブを再始動し、正しい TLBL ステートメントを再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

第 7 章 接頭部 A の ESERV メッセージ

A230I PERMANENT I/O ERROR ON SYS nnn

説明: 上記の論理装置が割り当てられている装置で、リカバリー不能の入出力エラーが起きました。これは、おそらくハードウェア・エラーです。

システムの処置: アセンブラーはメッセージ A236I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 別のディスク・ボリュームを使って (または、取り外し可能ボリュームを取り付けたディスク・ドライブを使用した場合は、同じボリュームを別のドライブに取り付けて)、ジョブを再実行してください。ただし、ヘッドに破損があった場合には、正常なドライブにまでこのエラーが波及することがありますので注意してください。

問題が再発するようであれば、オペレーターに依頼して、ROD コマンドを出し、EREP を実行し、必要に応じてそのプログラムの出力を保管しておくようにしてください。このメッセージを弊社に報告してください。

A231I INVALID DEVICE FOR SYS nnn

説明: 論理装置に割り当てられた装置が、ディスク装置ではありません。

システムの処置: アセンブラーはメッセージ A236I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 上記の作業ファイルに一時 ASSGN ステートメントを指定した場合は、ディスク装置を指定するようにそのステートメントを訂正した上で、ジョブを再実行してください。

ジョブが永続割り当てを使用していた場合は、示された論理装置に対する永続割り当てがディスク装置を指定するようにした後で、ジョブを再実行してください。

A232I SYS nnn NOT ASSIGNED

説明: 上記の論理装置は、割り当てられていないかまたは IGN になっています。アセンブラーでは、論理装置にディスク・ドライブを割り当てなければなりません。これは、論理装置が、作業ファイルを表すか、または OPTION ステートメントで指定されたオプションの結果として必要となるからです。IGN を割り当てることができるのは、SYSPCH および SYSLST だけです。

システムの処置: アセンブラーはメッセージ A236I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 示された論理装置の割り当てをサブミットするか、あるいはその装置の割り当てが不要になるように OPTION ステートメントを訂正してください。その上で、ジョブを再サブミットしてください。

A233I ASSEMBLER PARTITION TOO SMALL/DE-EDITOR PARTITION TOO SMALL

説明: アセンブラーに割り振ったバイト数が不十分です。ア

センブラーを 20K 未満 (DE-EDITOR の場合は 26K 未満) の所にロードしないでください。フォアグラウンド区画ではアセンブラーは常に、保管域の直後にロードされることに注意してください。

システムの処置: アセンブラーは終了します。リストは作成されません。

オペレーターの応答: ALLOC コマンドを使用して区画サイズを増やし、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: より大きな区画をジョブに指定して、ジョブを再実行してください。

A234I END OF EXTENT FOR SYS nnn

説明: 上記の論理装置に割り振られたディスク・エクステントが小さすぎます。アセンブラーの作業ファイルに対して、割り振ることができるエクステントは 1 つだけです。

システムの処置: アセンブラーはメッセージ A236I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブのジョブ制御ステートメントのセット中で、作業ファイルの DLBL および EXTENT ステートメントを指定している場合は、より大きなエクステントを指定して、ジョブを再実行してください。

永続保管されたラベル情報 (DLBL および EXTENT ステートメント) を用いた場合には、使用可能な最新の LSERV 出力をチェックして、作業ファイルとして使用されたエクステントのサイズを判別してください。作業ファイルの永続保管ラベル情報を定義し直すか、あるいは別の一時定義を用いて、ジョブを実行してください。

割り振られたエクステントのサイズを変更したくない場合は、プログラムを 2 つ以上のモジュールに分割して、各モジュールを別個にアセンブルしてください。

A235I WRONG RECORD LENGTH

説明: 読み込まれたばかりの作業ファイル・レコードに、0 未満あるいは 1050 を超える長さ標識が含まれています。アセンブラーのエラーと考えられます。

システムの処置: システムは関係する区画のダンプをとり、ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブに DLBL および EXTENT ステートメントを指定している場合には、作業ファイルに重なり合いが生じていないかを確認してください。指定されている別の作業ファイルを用いてジョブを再実行してください。

エラーが解決しない場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

A236I {ASSEMBLER CANNOT CONTINUE|DE-EDITOR CANNOT CONTINUE}

説明: このメッセージのほかに別の接頭部 A メッセージが出

A237I

されていない場合は、アセンブラーまたは編集解除、または作業ファイル SYS001...SYS003 の入出力処理における、論理上のエラーがあります。

システムの処置: ユーザーが受け取ったメッセージに応じて、アセンブラーまたは編集解除が終了します。

オペレーターの応答: 別のエラー・メッセージが先に出されている場合は、このメッセージを無視して、別のメッセージで示された処置を実行してください。このメッセージだけが出されている場合は、先行するジョブが終了したものとされます。

プログラマーの応答: 別のエラー・メッセージが先に出されている場合は、そのメッセージの説明に示された処置を実行してください。それ以外の場合は、弊社に連絡する前に、ジョブ・ストリーム、SYSLOG リスト、および SYSLST リストを保存しておいて、問題判別に利用できるようなしておいてください。

A237I ASSEMBLER PARTITION CROSSING 16MB LINE/DE-EDITOR PARTITION CROSSING 16MB LINE.

説明: アセンブラー/編集解除は、31 ビット・アドレッシングに適用されません。したがって、31 ビット・アドレッシング範囲に拡張される区画では実行できません。

システムの処置: そのプログラムは終了します。

オペレーターの応答: 16 MB 境界の下に完全に割り振られるように区画を再定義し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: 全体が 16 MB 境界の下に存在する区画をジョブのために指定し、そこでジョブを再実行してください。

第 8 章 AOM - 非同期オペレーター・メッセージ

AOM メッセージは、テープまたは DASD ハードウェア (特に、DASD 上のテープ・ライブラリーまたは FlashCopy 要求) によって報告される、オペレーター向けの追加メッセージとして表示されます。

コンポーネント名	AOM
メッセージ形式	AOMxxyy xx コンポーネント AP テープ・ライブラリーのオペレーター・メッセージ CR テープ・ライブラリーのコマンド・リジェクト DR 装置からの遅延応答 FI テープ・ライブラリーの機能非互換 IO 入出力エラー OS DASD スペース不足 UC 装置チェック US ユーザー WR 警告 yy メッセージ番号 n タイプ・コード: I 通知。なんらかの処置が必要です。

AOMAPxxl = テープ・ライブラリーのオペレーター・メッセージ

**AOMAP00I LIBRARY INFORMATION CUU=...,
LIB=.....CLUSTER=xx | COMPOSITE**

説明: これは、接続されているテープ・ライブラリーからの通知メッセージです。クラスター番号、またはメッセージの宛先である複合ライブラリーを示しています。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**AOMAP12I I/O STATION STATE CHANGE
STATE=.....**

説明: これは、テープ・ライブラリー入出力装置の状態変更に関する通知メッセージです。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**AOMAP10I CATEGORY STATE CHANGE for
CAT=.....**

説明: これは、テープ・ライブラリー・カテゴリーの状態変更に関する通知メッセージです。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**AOMAP13I OPERATIONAL STATE CHANGE:
''.....''**

説明: これは、テープ・ライブラリー操作の状態変更に関する通知メッセージです。

状態変更:

- LIBR. IN AUTOMATED STAT
- LIBR. IN PAUSED STATE
- LIBR. IN MANUAL STATE
- DEGRADED OPERAT. MODE
- SAVETY LOCK IS OPEN
- VISION SYSTEM NOT OPER.
- LIBRARY-MANGR. OFFLINE
- INTERVENTION REQUIRED
- LIBRARY-MANGR. CHECK1
- All STORAGE-CELLS FULL
- OUT OF CLEANER VOLUMES

AOMAP14I • AOMAP17I

- DUPL. RESOURCE DISABLED
- ENVIRONMENTAL ALERT
- MANAGED MANUAL MODE
- LIBR. SWITCHOVER ACTIVE
- VTS OUT OF STACKED VOLS.
- COPY OPERATIONS DISABLED
- VTS OPERATIONS DEGRADED
- IMMED COPY COMPL DEFERRD
- SERVICE PREPARATION
- FORCED PAUSE
- GRID LINKS DEGRADED
- HOST DISABLED COPY OPER
- LIMITED CACHE FREE SPACE
- OUT OF CACHE RESOURCES

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMAP14I VOLUME EXCEPTION, CODE=.... VOL=.....

説明: これは、テープ・ライブラリー・ボリューム例外に関する通知メッセージです。このメッセージは、他のメッセージとは関係なく出されます。

例外コード:

- X'01' 位置に誤りがあるボリュームが見つかりました。
位置に誤りがあるボリュームとして以前に報告されていたボリュームが見つかりました。インベントリーは、ボリュームの新しい位置を反映するように更新されています。
- X'02' ボリュームの位置に誤りがあります。
操作時に、ボリュームが見つかりませんでした。インベントリーが更新され、ボリュームの位置に誤りがあることが示されます。
- X'03' 重複する VOLSER が排出されました。
読み取り可能 VOLSER を持つボリュームが、予期しない位置に見つかりました。VOLSER はライブラリー・マネージャー・インベントリーにありましたが、このインベントリーによって指定された記憶セルの監査で、予期していたボリュームが存在することが分かりました。重複ボリュームは、コンビニエンス出力装置に置かれています。
- X'04' 重複する VOLSER が入力装置にあります。
読み取り可能 VOLSER を持つボリュームが、入力装置に見つかりました。VOLSER はライブラリー・マネージャー・インベントリーにありましたが、このインベントリーによって指定された記憶セルの監査で、予期していたボリュームが存在することが分かりました。重複ボリュームは入力装置に置かれたままになっています。
- X'05' 読み取り不能 VOLSER が入力装置に残っています。
挿入操作時に、外部ラベルを持たないボリュームが見つかったか、またはラベルがビジョン・システムによって読み取り不能でした。ボリュームは入力装置に置かれたままになっています。
- X'06' 予期しないボリュームが排出されました。
インベントリー以外の操作時に、ボリュームが記憶セルで、または予期しなかった他の位置で検出されまし

た。ボリュームが読み取り可能な外部 VOLSER ラベルを持っていて、インベントリーにない場合、またはボリュームが読み取り不能ラベルを持っている場合、このボリュームはコンビニエンス出力装置に移動されません。

- X'07' ボリュームはアクセス不能です。
ボリュームはアクセス不能になっています。インベントリーは、ボリュームがアクセス不能であることを反映するように更新されています。
- X'08' アクセス不能ボリュームがリストアされました。
アクセス不能として以前に報告されていたボリュームが、再びアクセス可能になっています。インベントリーは、ボリュームが現在アクセス不能ではないことを反映するように更新されています。
- X'09' クリーナー・ボリュームが排出されました。
クリーナー・ボリュームは、その最大使用カウントを超えたため、排出されています。
- X'0A' 損傷したカートリッジが排出されました。
取り付け要求の処理中、カートリッジは、損傷しているために、装置にロードできないことが分かりました。
- オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

AOMAP15I DEVICE AVAILABILITY CHANGE, STATE=.....

説明: これは、テープ・ライブラリーの状態変更に関する通知メッセージです。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMAP16I DEVICE CATEGORY CHANGE COMPLETE, CAT=.....

説明: これは、テープ・ライブラリー装置カテゴリーの変更に関する通知メッセージです。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMAP17I OPERATION COMPLETE for VOLID=..... RC =..

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する通知メッセージです。

戻りコード:

- 00 正常終了。
- 05
- スタック・ボリュームのスクラッチが必要であることを示す通知に対して、オペレーターは 60 分のうちに応答しませんでした。
 - 4 個より少ない物理ドライブが TS7700 で使用可能です。
- 06 エクスポートするボリュームが見つかりません。
- 20 / 23 コピー・エクスポートが取り消されました。
- 40 ハードウェア障害が原因で、コピー・エクスポートが終了しました。

4D コピー・エクスポート・リスト・ボリュームを処理できません。AOM メッセージで他のテキストを調べてください。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

AOMAP99I UNDETERMINED ERROR

説明: これは、以前にサブミットされ、正常に終了しなかったテープ・ライブラリー要求に関する通知メッセージです。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

AOMAP20I MOUNT COMPLETE VOLID=....., VISION=....., CAT=.....

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー MOUNT 要求に関する通知メッセージです。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

AOMAP21I DEMOUNT COMPLETE VOLID=....., VISION=....., CAT=.....

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー DEMOUNT 要求に関する通知メッセージです。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

AOMAP22I LIBRARY AUDIT COMPLETE

AOMCRxxI = テープ・ライブラリー関連のコマンド・リジェクト・メッセージ

AOMCR01I A RESERVED FIELD IN PLF-ORDER IS INVALID

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMCR11I INVALID SOURCE CATEGORY SPECIFIED

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: メッセージに従ってライブラリー・インターフェース・パラメーターを変更し、要求を再試行してください。

AOMCR12I INVALID TARGET CATEGORY FOR THIS REQUEST

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー AUDIT 要求に関する通知メッセージです。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

AOMAP23I LIBRARY EJECT COMPLETE

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー EJECT 要求に関する通知メッセージです。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

AOMAP27I VTS OPERATION COMPLETE

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する通知メッセージです。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

AOMAP2FI LIBRARY CAPABILITIES UPDATED, OUTBOARD MANAGEMENT ... SUPPORTED'

説明: これは、テープ・ライブラリー要求に関する、オペレーターへの通知メッセージです。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: メッセージに従ってライブラリー・インターフェース・パラメーターを変更し、要求を再試行してください。

AOMCR14I A VOLSER OF ALL BLANKS WAS SPECIFIED

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: メッセージに従ってライブラリー・インターフェース・パラメーターを変更し、要求を再試行してください。

AOMCR17I AN INVALID ATTRIBUTE WAS SPECIFIED

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答: なし。

AOMCR18I AN INVALID REQUEST-TYPE WAS SPECIFIED

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージに従ってライブラリー・インターフェース・パラメーターを変更し、要求を再試行してください。

AOMCR1EI SUPPLIED CATEGORY NUMBER IS INVALID

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMCR22I VOLSER CONTAINS ILLEGAL CHARACTERS

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージに従ってライブラリー・インターフェース・パラメーターを変更し、要求を再試行してください。

AOMCR27I INVALID MESSAGE-ID PARAMETER

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMCR2CI INVALID DEVICE CATEGORY

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMCR2DI ILLEGAL IDENTIFICATION TOKEN

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMCR2FI NULL-CATEGORY IS NOT ALLOWED

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMCR32I SPECIFIED VOLSER NOT MATCHING MOUNTED ONE

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージに従ってライブラリー・インターフェース・パラメーターを変更し、要求を再試行してください。

AOMCR34I CONSTRUCT NAME(S) CONTAIN ILLEGAL CHARACTERS

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージに従ってライブラリー・インターフェース・パラメーターを変更し、要求を再試行してください。

AOMCR3DI ILLEGAL RELEASE CATEGORY SPECIFIED

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージに従ってライブラリー・インターフェース・パラメーターを変更し、要求を再試行してください。

AOMCR3EI REQUESTED CATEGORY IS RESERVED

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージに従ってライブラリー・インターフェース・パラメーターを変更し、要求を再試行してください。

AOMCR3FI REQUESTED CATEGORY IS NOT RESERVED

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージに従ってライブラリー・インターフェース・パラメーターを変更し、要求を再試行してください。

AOMCR42I SPECIFIED VOLSER IS NOT MOUNTED

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージに従ってライブラリー・インターフェース・パラメーターを変更し、要求を再試行してください。

AOMCR4FI ILLEGAL CHARACTERS IN CATEGORY NAME FIELD

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージに従ってライブラリー・インターフェース・パラメーターを変更し、要求を再試行してください。

AOMDRxxI = テープ・ライブラリー・サポート - 遅延応答メッセージ**AOMDR00I UNKNOWN COMPLETION CODE**

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR01I FUNCTION COMPLETE, BUT VISION SYSTEM NOT OPERATIONAL

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR02I FUNCTION COMPLETE, BUT VOID NOT READABLE

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMCR63I SOURCE CATEGORY CONFLICT

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMCR64I MOUNT REJECTED DUE TO AUTO-MOUNT ACTIVE

説明: テープ・ライブラリー要求におけるコマンド・リジェクトが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージに従ってライブラリー・インターフェース・パラメーターを変更し、要求を再試行してください。

AOMDR03I FUNCTION COMPLETE, BUT CATEGORY NOT CHANGED

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR04I DEMOUNT COMPLETED BEFORE EXECUTION

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR05I FUNCTION COMPLETED WITH EXCEPTIONS

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR06I FUNCTION COMPLETED BUT NO VOLUMES FOUND TO EXPORT

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR07I FUNCTION COMPLETED BUT CONSTRUCT ASSIGNMENTS NOT CHANGED

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR08I FUNCTION COMPLETED BUT CONSTRUCT LIMITS EXCEEDED

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR20I FUNCTION CANCELED, PROGRAM REQUEST

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR21I FUNCTION CANCELED, ORDER SEQUENCE

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。進行中の要求が残っている可能性があります。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR22I FUNCTION CANCELED, MANUAL MODE

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取

り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR23I FUNCTION CANCELED BY LIBRARY OPERATOR

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR40I FUNCTION FAILED, HARDWARE FAILURE

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR41I FUNCTION FAILED, VISION SYSTEM NOT OPERATIONAL

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR42I FUNCTION FAILED, VOLID NOT READABLE

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されない場合、別のボリュームで試してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR43I FUNCTION FAILED, VOLUME INACCESSIBLE

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が

解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMDR44I FUNCTION FAILED, VOLUME MISPLACED

説明： これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答： なし。

AOMDR45I FUNCTION FAILED, CATEGORY EMPTY

説明： これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答： 指定したカテゴリにボリュームを移動してください。

プログラマーの応答： なし。

AOMDR47I FUNCTION FAILED, VOLUME MANUALLY EJECTED

説明： これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答： なし。

プログラマーの応答： なし。

AOMDR48I FUNCTION FAILED, VOLUME NOT IN INVENTORY

説明： これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答： なし。

プログラマーの応答： なし。

AOMDR49I FUNCTION FAILED, DEVICE NO LONGER AVAILABLE

説明： これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答： なし。

プログラマーの応答： なし。

AOMDR4AI FUNCTION FAILED, UNRECOVERABLE LOAD FAILURE

説明： これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答： なし。

AOMDR4BI FUNCTION FAILED, DAMAGED VOLUME EJECTED

説明： これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答： なし。

プログラマーの応答： なし。

AOMDR4CI FUNCTION FAILED, DEVICE NOT UNLOADED

説明： これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答： なし。

プログラマーの応答： なし。

AOMDR4DI EXPORT/IMPORT LIST VOLUME FAILURE

説明： これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答： なし。

プログラマーの応答： なし。

AOMDR4EI LOGICAL VOLUME MOUNT FAILURE

説明： これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答： なし。

**AOMDR4FI LOGICAL VOLUME MOUNT FAILURE
DUE TO INSUFFICIENT CACHE SPACE**

説明: これは、以前にサブミットされたテープ・ライブラリー要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取

り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: キャッシュ・スペースを解放し、コマンドを再試行してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMDRxxI = DASD (FlashCopy) 遅延応答メッセージ**AOMDR80I CUU=..., OPERATION COMPLETED
SUCCESSFULLY**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR81I CUU=..., OPERATION COMPLETED WITH
ERRORS**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR82I CUU=..., OPERATION FAILED DUE TO
LACK OF RESOURCES**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR83I CUU=..., OPERATION STILL PENDING

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMDR84I CUU=..., DEFECTIVE BATTERY

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR85I CUU=..., DESTAGING OF MODIFIED
DATA FAILED**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR86I CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
DUE TO PINNED DATA**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR87I CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
TARGET IS RESERVED**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR88I CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
DUE TO LACK OF RESOURCES**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。このエラーは、DASD によって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR89I CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
TARGET IS PPRC/XRC USED**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR8AI CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
DUE TO PINNED DATA**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR8BI CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
TOO MANY RELATIONS**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: 後でコマンドを再試行してください。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR8CI CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
TOO MANY TARGET RELATIONS**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: 後でコマンドを再試行してください。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR8DI CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
BECAUSE OF TRACK CONFLICTS**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR8EI CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
DEVICES NOT IN SAME LSS**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR0FI CUU=..., ESTABLISH FL-COPY REVERSE
FAILED**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR90I CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
DUE TO IMPROPER FC-STATE**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR91I CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
CONFLICTING MINI-DISK MODE**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR92I CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
CHANGE RECORDING IS ALREADY
ACTIVE**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR93I CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
TARGET IS A PTP REMOTE COPY**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR94I CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
TARGET IS A SPACE EFFICIENT
VOLUME**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR95I CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
SOURCE IS A SPACE EFFICIENT
VOLUME AND NO SPACE IN
REPOSITORY**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**AOMDR96I CUU=..., ESTABLISH FL-COPY FAILED,
RELEASE OF THE TARGET SPACE
FAILED**

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する遅延応答です。この要求において機能は、追加情報が出されて完了したか、または示されている理由によって取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMFIxxI = テープ・ライブラリー関連の機能非互換メッセージ

**AOMFI00I FUNCTION IS NOT SUPPORTED BY THE
SUBSYSTEM**

説明: テープ・ライブラリー要求における互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージに応じて、コマンドを再試行するか、または問題の原因を修正してください。要求した機能がハードウェアによってサポートされていない場合があります。

プログラマーの応答: なし。

**AOMFI01I LIBRARY NOT INSTALLED AND
ALLOWED**

説明: テープ・ライブラリー要求における互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージに応じて、コマンドを再試行するか、または問題の原因を修正してください。要求した機能がハードウェアによってサポートされていない場合があります。

プログラマーの応答: なし。

**AOMFI03I BULK INPUT/OUTPUT STATION NOT
CONFIGURED**

説明: テープ・ライブラリー要求における互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージに応じて、コマンドを再試行するか、または問題の原因を修正してください。要求した機能がハードウェアによってサポートされていない場合があります。

プログラマーの応答: なし。

**AOMFI05I VOLUME CLASS/TYPE NOT
COMPATIBLE WITH DEVICE**

説明: テープ・ライブラリー要求における互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージに応じて、コマンドを再試行するか、または問題の原因を修正してください。要求した機能がハードウェアによってサポートされていない場合があります。

プログラマーの応答: なし。

AOMFI06I LOGICAL VOLUME CAN'T BE EJECTED

説明: テープ・ライブラリー要求における互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージに応じて、コマンドを再試行するか、または問題の原因を修正してください。要求した機能がハードウェアによってサポートされていない場合があります。

プログラマーの応答: なし。

**AOMFI07I VOLSER IN PROCESS DOESN'T MATCH
CANCEL**

説明: テープ・ライブラリー要求における互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージに応じて、コマンドを再試行するか、または問題の原因を修正してください。要求した機能がハードウェアによってサポートされていない場合があります。

プログラマーの応答: なし。

**AOMFI08I EXPORT/IMPORT REQUIRES AT LEAST
FOUR DRIVES**

説明: テープ・ライブラリー要求における互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージに応じて、コマンドを再試行するか、または問題の原因を修正してください。要求した機能がハードウェアによってサポートされていない場合があります。

プログラマーの応答: なし。

AOMFI09I INTERNAL VTS/LIBRARY ERROR

説明: テープ・ライブラリー要求における互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージに応じて、コマンドを再試行するか、または問題の原因を修正してください。要求した機能がハードウェアによってサポートされていない場合があります。IBM 担当員に知らせてください。

プログラマーの応答: なし。

**AOMFI0DI SUBSYSTEM IS IN SERVICE
PREPARATION MODE**

説明: テープ・ライブラリー要求における互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージに応じて、コマンドを再試行するか、または問題の原因を修正してください。要求した機能がハードウェアによってサポートされていない場合があります。

プログラマーの応答: なし。

AOMFI0EI EJECT OPERATIONS ON VTS EXCEED MAXIMUM

説明: テープ・ライブラリー要求における互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージに応じて、コマンドを再試行するか、または問題の原因を修正してください。要求した機能がハードウェアによってサポートされていない場合があります。

プログラマーの応答: なし。

AOMFI0FI REQUEST IS ISSUED AGAINST A PTP VTS

説明: テープ・ライブラリー要求における互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージに応じて、コマンドを再試行するか、または問題の原因を修正してください。要求した機能がハードウェアによってサポートされていない場合があります。

プログラマーの応答: なし。

AOMFI11I FUNCTION REQUIRED RESOURCES NOT CONFIGURED

説明: テープ・ライブラリー要求における互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージに応じて、コマンドを再試行するか、または問題の原因を修正してください。要求した機能がハードウェアによってサポートされていない場合があります。

プログラマーの応答: なし。

AOMFI18I CONSTRUCT NAME DOESN'T EXIST OR MAXIMUM EXCEEDED

説明: テープ・ライブラリー要求における互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージに応じて、コマンドを再試行するか、または問題の原因を修正してください。要求した機能がハードウェアによってサポートされていない場合があります。

プログラマーの応答: なし。

AOMFI32I MORE THAN ONE VALID COPY OF THE EXPORT LIST FILE VOLUME SPECIFIED

説明: テープ・ライブラリー要求における互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージに応じて、コマンドを再試行するか、または問題の原因を修正してください。要求した機能がハードウェアによってサポートされていない場合があります。EXPORT リスト・ファイルの有効なコピーが、TS7700 構成に複数存在します。

プログラマーの応答: なし。

AOMFI33I A GLOBAL OPERATION IS CURRENTLY ONGOING

説明: テープ・ライブラリー要求における互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: エラー・メッセージに応じて、コマンドを再試行するか、または問題の原因を修正してください。要求した機能がハードウェアによってサポートされていない場合があります。

プログラマーの応答: なし。

AOMIOxxI = テープ・ライブラリー入出力コマンドの入出力関連エラー・メッセージ

AOMIO01I PROGRAMMING ERROR IN \$IJB AOM

説明: 入出力エラーのため、またはインベントリー照会要求に十分な GETVIS スペースまたはバッファ・スペースがないことが原因で、ジョブは取り消されました。

オペレーターの応答: IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMIO02I DEVICE NOT OPERATIONAL

説明: 装置が作動可能ではないことが原因で、内部要求が失敗しました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMIO03I I/O BUFFER SPACE PROBLEM

説明: 入出力エラーのため、またはインベントリー照会要求に十分な GETVIS スペースまたはバッファ・スペースがないことが原因で、ジョブは取り消されました。

オペレーターの応答: バッファ・スペースの問題であれば、使用可能な GETVIS スペースが十分あることを確認してください。そうではない場合は、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMIO04I COMMAND REJECT (REASON=.....)

説明: ハードウェアによるコマンド・リジェクトが原因で、入出力コマンドは取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMIO05I FUNCTION INCOMPATIBLE (REASON=.....)

説明: 互換性のない機能が原因で、ジョブは取り消されました。

オペレーターの応答: IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMIO06I UNEXPECTED ERROR FOR CUU=... (REASON=.....)

説明: 予期しないエラーが発生したため、テープ・ライブラリー要求は取り消されました。

オペレーターの応答: IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMOSxxI = DASD (FlashCopy) スペース不足メッセージ

AOMOS00I NO MESSAGE

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する DASD スペース不足警告メッセージです。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMOS01I POOL= ..., SPACE EFFICIENT TARGET REPOSITORY HAS REACHED A WARNING WATERMARK

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する DASD スペース不足警告メッセージです。

オペレーターの応答: なし。ジョブは処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

AOMOS02I POOL= ..., SPACE EFFICIENT TARGET REPOSITORY HAS BEEN EXHAUSTED

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する DASD スペース不足警告メッセージです。

オペレーターの応答: リポジトリ・プール内のスペースを解放し、ジョブが正常に処理を続行するようにしてください。

プログラマーの応答: なし。

AOMOS03I POOL=..., SPACE EFFICIENT EXTENT POOL HAS REACHED A WARNING WATERMARK

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する DASD スペース不足警告メッセージです。

オペレーターの応答: なし。ジョブは処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

AOMOS04I POOL=..., SPACE EFFICIENT EXTENT POOL HAS BEEN EXHAUSTED

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する DASD スペース不足警告メッセージです。

オペレーターの応答: リポジトリ・プール内のスペースを解放し、ジョブが正常に処理を続行するようにしてください。

プログラマーの応答: なし。

AOMOS05I POOL=..., SPACE EFFICIENT REPOSITORY PHYSICAL SPACE HAS BEEN RELIEVED

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する DASD スペース不足警告メッセージです。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMOS06I POOL=..., SPACE EFFICIENT EXTENT POOL PHYSICAL SPACE HAS BEEN RELIEVED

説明: これは、以前にサブミットされた FlashCopy 要求に関する DASD スペース不足警告メッセージです。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

AOMUCxxI = テープ・ライブラリー関連のエラー・コード - 装置チェック

AOMUC00I UNDETERMINED ERROR (REASON=....)

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答: なし。

AOMUC60I LIBRARY PATH CHECK

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答: なし。

AOMUC62I LIBRARY MANAGER PATH OFFLINE

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答: なし。

AOMUC63I LIBRARY MANAGER INCOMPATIBILITY (REASON=....)

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答: なし。

AOMUC64I LIBRARY VOLSER IN USE (REASON=....)

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答: なし。

AOMUC65I LIBRARY VOLUME RESERVED (REASON=.....)

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答: なし。

AOMUC66I VOLSER '.....' NOT IN '.....' LIBRARY REASON (....)

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答: なし。

AOMUC67I LIBRARY CATEGORY EMPTY (REASON=....)

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答: なし。

AOMUC68I LIBRARY ORDER SEQUENCE CHECK (REASON=....)

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答: なし。

AOMUC69I LIBRARY OUTPUT STATIONS FULL

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答: なし。

AOMUC6BI LIBRARY VOLUME MISPLACED

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答: なし。

AOMUC6CI LIBRARY MISPLACED VOLUME FOUND

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

AOMUC6DI • AOMUC79I

プログラマーの応答: なし。

AOMUC6DI LIBRARY DRIVE NOT UNLOADED

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMUC6EI LIBRARY INACCESSIBLE VOLUME RESTORED

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMUC70I LIBRARY MANAGER EQUIPMENT CHECK

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMUC71I LIBRARY EQUIPMENT CHECK

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMUC72I LIBRARY NOT CAPABLE - MANUAL MODE

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMUC73I LIBRARY INTERVENTION REQUIRED

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMUC74I LIBRARY INFORMATIONAL DATA (REASON=...)

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMUC75I LIBRARY VOLUME INACCESSIBLE (REASON=...)

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMUC76I LIBRARY ALL CELLS FULL

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMUC77I DUPLICATE VOLSER EJECTED FROM LIBRARY

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMUC78I DUPLICATE VOLSER FOUND IN INPUT STATION

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

AOMUC79I UNREADABLE OR INVALID VOLSER LEFT IN INPUT STATION

説明: テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。

オペレーターの応答: コマンドを再試行してください。問題が

解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC7AI READ LIBRARY STATISTICS

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC7BI LIBRARY VOLUME MANUALLY EJECTED

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC7CI LIBRARY OUT OF CLEANER VOLUMES

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC7DI LIBRARY VOLUME EXPORTED

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC7FI LIBRARY CATEGORY IN USE (REASON=...)

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC80I UNEXPECTED VOLUME EJECTED FROM LIBRARY

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC81I I/O STATION DOOR OPEN

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC82I LIBRARY MANAGER PROGRAM EXCEPTION

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC83I LIBRARY DRIVE EXCEPTION

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC84I LIBRARY DEVICE FAILURE, CALL FOR SERVICE

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC85I LIBRARY ENVIRONMENTAL ALERT (SMOKE DETECTED)

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC86I LIBRARY ALL CATEGORIES RESERVED

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。

は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC87I DUPLICATE VOLSER ADDITION ATTEMPTED

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC88I DAMAGED CARTRIDGE EJECTED

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC90I FILE CONTENTION NOTIFICATION

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC91I VALID VOLUME NOT ACCESSIBLE

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときの

エラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC92I COMMAND TIME LIMIT EXCEEDED

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC93I SCRIPT COMMAND ERROR

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUC94I FILE ACCESS DENIED

説明： テープ・ライブラリー・コマンドの実行を試みたときのエラーが原因で、ジョブは取り消されました。このエラーは、ライブラリー・マネージャーによって報告されます。
オペレーターの応答： コマンドを再試行してください。問題が解消されず、オペレーター介入によっても対応できない場合は、IBM 担当員に連絡してください。
プログラマーの応答： なし。

AOMUSxxI = テープ・ライブラリー LBSERV インターフェースのユーザー指定エラー

AOMUS01I UNSUPPORTED SOURCE CATEGORY NAME

説明： ソース・カテゴリ、ターゲット・カテゴリ、装置、またはライブラリーが正しく指定されていないか、存在しないことが原因で、ジョブは取り消されました。
オペレーターの応答： 正しいカテゴリ、装置、またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。
プログラマーの応答： 正しいカテゴリ、装置、またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答： 正しいカテゴリ、装置、またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

AOMUS03I INVALID SOURCE SCRATCH CATEGORY NAME

説明： ソース・カテゴリ、ターゲット・カテゴリ、装置、またはライブラリーが正しく指定されていないか、存在しないことが原因で、ジョブは取り消されました。
オペレーターの応答： 正しいカテゴリ、装置、またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。
プログラマーの応答： 正しいカテゴリ、装置、またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

AOMUS02I UNSUPPORTED TARGET CATEGORY NAME

説明： ソース・カテゴリ、ターゲット・カテゴリ、装置、またはライブラリーが正しく指定されていないか、存在しないことが原因で、ジョブは取り消されました。
オペレーターの応答： 正しいカテゴリ、装置、またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

AOMUS04I INVALID TARGET SCRATCH CATEGORY NAME

説明： ソース・カテゴリ、ターゲット・カテゴリ、装置、またはライブラリーが正しく指定されていないか、存在しない

ことが原因で、ジョブは取り消されました。

オペレーターの応答: 正しいカテゴリ、装置、またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: 正しいカテゴリ、装置、またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

AOMUS05I INVALID REQUEST/FUNCTION TYPE

説明: ソース・カテゴリ、ターゲット・カテゴリ、装置、またはライブラリーが正しく指定されていないか、存在しないことが原因で、ジョブは取り消されました。

オペレーターの応答: 正しいカテゴリ、装置、またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: 正しいカテゴリ、装置、またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

AOMUS06I LIBRARY/DEVICE MISMATCH

説明: ソース・カテゴリ、ターゲット・カテゴリ、装置、またはライブラリーが正しく指定されていないか、存在しないことが原因で、ジョブは取り消されました。

オペレーターの応答: 正しいカテゴリ、装置、またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: 正しいカテゴリ、装置、またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

AOMUS07I TAPE DEVICE IS NOT PART OF A LIBRARY

説明: 指定したテープ装置は、ライブラリーの一部ではありません。この装置に対して、ライブラリー入出力コマンドがサブミットされました。

オペレーターの応答: 正しい装置またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: 正しい装置またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

AOMUS08I DEVICE UNAVAILABLE

説明: 装置またはライブラリーが使用可能ではないことが原因で、ジョブは取り消されました。

オペレーターの応答: 正しい装置またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: 正しい装置またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

AOMUS09I INTERNAL PROCESSING ERROR

説明: ソース・カテゴリ、ターゲット・カテゴリ、装置、またはライブラリーが正しく指定されていないか、存在しないことが原因で、ジョブは取り消されました。

オペレーターの応答: 正しいカテゴリ、装置、またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: 正しいカテゴリ、装置、またはライブラリーを指定したことを確認し、ジョブを再実行してください。

AOMWRxxI = テープ・ライブラリー LBSERV インターフェースの警告メッセージ

AOMWR01I SOURCE CATEGORY IS NOT A VSE-OWNED CATEGORY

説明: これは、アクセス先のボリュームが VSE カテゴリに属していないことをユーザーに通知する、ユーザー警告メッセージです。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

第 9 章 接頭部 ARX の z/VSE 用 REXX メッセージ

REXX は、エラー番号 1 から 99 までを予約しています。REXX プログラムの処理中に構文エラーが発生すると、3 から 49 の範囲内のエラー番号が生成されます。これらのエラー番号は、REXX/VSE メッセージの ARX0003I から ARX0049I までに対応しています。(また、REXX エラー番号は、SIGNAL ON SYNTAX のトラップ時に言語処理プログラムが変数 RC に入れる値でもあります。)

言語処理プログラムに対する外部インターフェースは、言語処理プログラムが制御を取得する前、または制御が言語処理プログラムから離れた後、3 つのエラー・メッセージを生成します。したがって、SIGNAL ON SYNTAX はこれらのエラーをトラップできません。これらのエラー番号は次のとおりです。

- 3 (ARX0003I)
- 5 (ARX0005I) - 外部インターフェースは、ストレージに対する初期の要件が満たされない場合、このエラー・メッセージを生成します。
- 26 (ARX0026I) - 外部インターフェースは、終了時に戻される文字列が、有効な戻りコードを形成できるように変換されない場合、このエラー・メッセージを生成します。

同様に、SIGNAL ON HALT または CALL ON HALT のみがエラー 4 をトラップできます。

後続のエラー・メッセージは、REXX/VSE エラー番号の順番です。接頭部 ARX と先行ゼロを除去し、接尾部 I を除去することにより、対応する REXX エラー番号が分かります。例えば、REXX/VSE エラー・メッセージ ARX0004I は REXX エラー 4 です。

言語処理プログラムは、すべてのケースで (前述のように、外部インターフェースがメッセージを生成するときを除いて)、エラーを検出し、メッセージを出します。すべてのメッセージが REXX ユーザーに出されます。システム処置は、すべてのエラーの場合に、プログラム処理を停止することです。

コンポーネント名	ARX
プログラム生成メッセージ	REXX 処理
受取側および生成場所	ユーザーの場合: SYSLST リスト。オペレーターの場合: SYSLOG。
メッセージ形式	<p>ARX<i>xyyn</i></p> <p><i>xx</i> システム・モジュール接頭部 (10 進数)。 <i>yy</i> そのメッセージを出したプログラムを識別するメッセージ通し番号。 <i>n</i> タイプ・コード: E エラー。処理が終了することがあります。 I 通知。なんらかの処置が必要です。</p>

コメント	<p>メッセージ・テキスト内の強調表示された語は、環境によって情報が異なることを示しています。その情報は、システムがメッセージを生成するときのみ利用可能です。</p> <p>REXX メッセージ内の理由コードは 10 進数で表されます。</p>
------	--

**ARX0003I Error running *program_name*, line *nn*:
Program is unreadable**

説明: ディスクから REXX プログラムを読み取ることができませんでした。 ARXEXEC を呼び出して、あらかじめロードされている、エラーが発生したプログラムを実行したと考えられます。言語処理プログラムは、プログラム形式を読み取ることができませんでした。

ユーザーの処置: 渡しているプログラムの形式を検査するか、またはシステム・プログラマーに連絡してください。

**ARX0004I Error running *program_name*, line *nn*:
Program interrupted**

説明: REXX プログラムの実行をシステムが中断しました。通常、これは、要求時 (HI (変換処理の中断) 即時コマンド、HALT 出口、または ARXIC インターフェイスを使用した場合) に起こるか、あるいはエラーが原因で起こります。後のケースでは、プログラムが中断されたことを示すこのメッセージの前に、エラーについて説明するメッセージが出されます。

CALL ON HALT または SIGNAL ON HALT が状況をトラップしないかぎり、言語処理プログラムは、このメッセージが出されるとすぐに処理を停止させます。

ユーザーの処置: HI、HALT 出口、または ARXIC を使用していた場合、そのまま続行してください。エラーによって処理が停止した場合は、もう 1 つのエラー・メッセージを見て、問題を訂正してください。

ARX0005I Partition storage exhausted

説明: 言語処理プログラムは、プログラムの処理中に、続行のために必要なリソースを取得できませんでした。(例えば、その作業域、変数などのために必要なスペースを取得できませんでした) REXX プログラム、または ARXEXEC を呼び出したプログラムが、使用可能な GETVIS ストレージそれ自体をすでに使い果たしてしまったと思われる。または、実行可能な最大ストレージよりも大きいストレージに対する要求が出されたか、プログラムが正常に終了せず、ループしてしまったと思われる。

ユーザーの処置: プログラムが ARXEXEC を呼び出していた場合、プログラムがどのようにストレージを獲得し、解放するかを検査してください。またプログラムがループしているかどうかも検査してください。区画 GETVIS ストレージを大きくするか、さらに大きなストレージでプログラムを実行してください。問題が解決しない場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

**ARX0006I Error running *program_name*, line *nn*:
Unmatched "/*" or quote**

説明: コメントまたはリテラル・ストリングが開始されていますが、終了していません。言語処理プログラムが以下を検出したことがエラーの原因です。

- コメント終了の「*/」か、リテラル・ストリング終了の引用符を検出せずに、プログラム (または INTERPRET 命令の文字列) の終わりを検出した。
 - リテラル・ストリングの行の終わりを検出した。
- ユーザーの処置: 最後の部分を「*/」または引用符で閉じてください。プログラムの先頭に TRACE SCAN を挿入して再実行すると、その出力結果を見ることによって、エラーの原因がどこにあるのかが分かります。

ARX0007I Error running *program_name*, line *nn*: WHEN or OTHERWISE expected

説明: 言語処理プログラムは、SELECT 構成の中に少なくとも 1 つの WHEN 構成 (または OTHERWISE 文節) があることを前提としています。他の命令が見つかった場合、OTHERWISE の前に WHEN 構成がない場合、または WHEN 式がすべて誤っていて OTHERWISE が存在しない場合に、このメッセージが出されます。

WHEN に続く命令のリストの部分に DO または END 命令を忘れてしまうことが、このエラーの一般的な原因です。例えば、

正しくない指定 正しい指定

```
Select
When a=c then
  Say 'A equals C'
  exit
Otherwise nop
end

Select
When a=c then do
  Say 'A equals C'
  exit
end
Otherwise nop
end
```

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

**ARX0008I Error running *program_name*, line *nn*:
Unexpected THEN or ELSE**

説明: 言語処理プログラムが、対応する IF または WHEN 文節に一致しない THEN または ELSE を見つけました。複雑な IF...THEN...ELSE 構成の THEN 部分に END または DO...END が欠落していることが原因であり、このエラーはよく発生します。例えば、

正しくない指定 正しい指定

```
If a=c then do
  Say 'EQUALS'
  exit
else
  Say 'NOT EQUALS'

If a=c then do
  Say 'EQUALS'
  exit
end
else
  Say 'NOT EQUALS'
```

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

**ARX0009I Error running *program_name*, line *nn*:
Unexpected WHEN or OTHERWISE**

説明: 言語処理プログラムが、SELECT 構成の外に WHEN

または OTHERWISE を見つけました。END 命令を付けずに DO...END 構成で命令を囲んでしまったか、SIGNAL 命令 (SELECT が終わっていると実行されない) を使用してブランチさせようとしたと思われます。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0010I **Error running *program_name*, line *nn*:
Unexpected or unmatched END**

説明: 言語処理プログラムが、プログラム内で DO または SELECT よりも多い END を見つけたか、あるいは DO または SELECT に対応していない END を見つけました。

SIGNAL を利用してループの中に制御を移動しようとする 것도、原因として考えられます。この場合、前の DO が実行されていないために END は予期されていません。また SIGNAL は、現行ループを非活動化するもので、ループの中のある点から他の点へ制御を移動することはできないので注意してください。

THEN または ELSE サブキーワードのすぐ後に END を置くこと、または DO に続く *name* に一致しない *name* を END キーワードに指定することも、このメッセージの原因となります。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

TRACE SCAN を使用してプログラムの構成を表示すると、エラーの原因がどこにあるのがさらに明確に分かります。制御ループを閉じている各 END に制御変数の名前を入れると、この種のエラーを見つけやすくなります。

ARX0011I **Error running *program_name*, line *nn*:
Control stack full**

説明: プログラムが、制御構成 (DO...END、IF...THEN...ELSE など) のネスト・レベルの限界 250 を超えています。

これは、以下のようなループしている INTERPRET 命令が原因だと考えられます。

```
line='INTERPRET line'  
INTERPRET line
```

ネスト・レベルの限界を超えてしまい、言語処理プログラムがメッセージを出すまでこれらの行はループします。同様に、正常に終了しない再帰的サブルーチンも、このメッセージが出されるまでループすることがあります。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0012I **Error running *program_name*, line *nn*: Clause
too long**

説明: プログラムが、文節の内部または外部表記の長さの限界である 500 文字を超えています。

このメッセージの原因が明確に分からない場合、引用符が欠落しているために、複数の行が 1 つの長い文字列とみなされるとされます。この場合、文節トレースバックに含まれているデータの先頭 (出力の中では +++ のフラグが付いている) でエラーが発生したと思われます。

文節の内部表記はコメント、または文字列の外側にある複数ブランクを含みません。また、記号 (名前) または文字列は、内

部表記の中で 2 文字の長さを使用することに注意してください。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0013I **Error running *program_name*, line *nn*:
Invalid character in program**

説明: 言語処理プログラムが、リテラル (引用符の中) ストリングの外側に、ブランクでもなく、以下のいずれでもない文字を見つけました。

(英数字) A-Z a-z 0-9

(名前文字) ? ! . _ @ # \$ %

(特殊文字) & * () - + = ~ ¥ |
/ ' " ; : < , > %

また、DBCS 文字 X'41'-X'FE' も、その文字が X'0E' と X'0F' で囲まれ、ETMODE がオンになっている場合は有効です。記号にアクセント文字または他の言語固有の文字を使用する (REXX/VSE はこれを禁止しています) ことも、このエラーの 1 つの原因です。また、ETMODE がオンではない状態で DBCS 文字を使用することもエラーの原因となります。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0014I **Error running *program_name*, line *nn*:
Incomplete DO/SELECT/IF**

説明: 言語処理プログラムが、プログラムの最後 (または INTERPRET 命令のストリングの最後) に達しましたが、一致する END のない DO または SELECT、または THEN 文節が続いていない IF が見つかりました。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

TRACE SCAN を使用してプログラムの構成を表示すると、欠落している END または THEN がどこにあるべきかがさらに明確に分かります。制御ループを閉じている各 END に制御変数の名前を入れると、この種のエラーを見つけやすくなります。

ARX0015I **Error running *program_name*, line *nn*:
Invalid hexadecimal or binary string**

説明: 言語処理プログラムでは、16 進数ストリングに先行ブランク、または後書きブランクを使用することはできず、バイト境界にのみ組み込みブランクを使用することができます。0 から 9 までの数字、a から f までの文字、および A から F までの文字のみを使用できます。同様に、2 進数ストリングには、4 つの 2 進数のグループの境界にのみブランクを使用できます。数字 0 と 1 だけが許されています。

数字をタイプミスした可能性があります。例えば、数字 0 ではなく文字 o を入力した場合などです。あるいは、リテラル・ストリングが 16 進数または 2 進数の指定であると意図されていないときに、その文字列の後に 1 文字の記号 X または B (それぞれ、変数 X または B の名前) を置いた可能性があります。この場合、明示的な連結演算子 (||) を使用して、文字列を記号の値に連結してください。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0016I Error running program_name, line nn: Label not found

説明: SIGNAL 命令が処理されました (または、SIGNAL ON でトラップが設定されたイベントが生じました) が、言語処理プログラムは指定されたラベルを検出できませんでした。ラベルを組み込んでいないか、誤って入力したものと思われる。ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0017I Error running program_name, line nn: Unexpected PROCEDURE

説明: 言語処理プログラムが、不適切な位置で PROCEDURE 命令を検出しました。以下の原因が考えられます。

- どの内部ルーチンもアクティブでない。
- 言語処理プログラムが、内部ルーチン内で PROCEDURE 命令をすでに検出している。
- PROCEDURE 命令が、CALL または関数呼び出しの後に処理される最初の命令ではなかった。

考えられる原因は、CALL または関数呼び出しによる内部ルーチンの呼び出しではなく、内部ルーチンへの「ドロップスルー」です。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0018I Error running program_name, line nn: THEN expected

説明: IF または WHEN 文節の後には、常に THEN 文節がなければなりません。言語処理プログラムは、THEN 文節を検出する前に別の文節を検出しました。

ユーザーの処置: IF または WHEN 文節とそれに続く文節の間に、THEN 文節を挿入してください。

ARX0019I Error running program_name, line nn: String or symbol expected

説明: 言語処理プログラムは CALL または SIGNAL 命令にリテラル・ストリングまたは記号を予期していましたが、見つかりませんでした。リテラル・ストリングまたは記号を省略してしまったか、特殊文字 (括弧など) を挿入したと思われる。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0020I Error running program_name, line nn: Symbol expected

説明: 言語処理プログラムは、CALL ON、CALL OFF、END、ITERATE、LEAVE、NUMERIC、PARSE、SIGNAL ON、または SIGNAL OFF キーワードの後に記号が続くことを前提としています。また、DROP、UPPER、および PROCEDURE EXPOSE の後に記号または変数参照のリストが続くことを前提としています。必要な場所に記号がないか、または言語処理プログラムが他のトークンを検出しました。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0021I Error running program_name, line nn: Invalid data on end of clause

説明: SELECT または NOP などの文節にコメント以外のトークンが続いています。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0022I Error running program_name, line nn: Invalid character string

説明: リテラル・ストリングに無効な文字コードが含まれている場合、このエラーが発生します。いくつかの文字が「使用不可能」であるか、または何らかの方法で文字セットが拡張され、ある文字の組み合わせが許可されていないためだと考えられます。例えば、誤りの DBCS データを含んでいるリテラル・ストリングを、OPTIONS "ETMODE" が有効な状態でスキャンすると、このエラーになります。SO と SI のペアが一致していない (つまり SI のない SO) ストリング、または SO と SI の間に奇数バイトの文字があるストリングが、誤りの DBCS データとして考えられます。

ユーザーの処置: プログラム内の誤りの文字ストリングを訂正してください。

ARX0023I Error running program_name, line nn: Invalid SBCS/DBCS mixed string

説明: 文字列データ (式の結果など) に無効な文字コードが含まれている場合、このエラーが発生します。いくつかの文字が「使用不可能」であるか、または何らかの方法で文字セットが拡張され、ある文字の組み合わせが許可されていないためだと考えられます。

例えば、誤りの DBCS データを含んでいるストリングを、OPTIONS EXMODE が有効な状態でスキャンすると、このエラーが発生します。SO と SI のペアが一致していない (つまり SI のない SO) 文字列、または SO と SI の間に奇数バイトの文字がある文字列が、誤りの DBCS データとして考えられます。

ユーザーの処置: プログラム内の誤りの文字ストリングを訂正してください。

ARX0024I Error running program_name, line nn: Invalid TRACE request

説明: 以下の場合、言語処理プログラムはこのメッセージを出します。

- TRACE 命令に指定されているオプションが A、C、E、F、I、L、N、O、R、または S で始まっていない。
- 対話式トレースで、自然数ではない数字を入力した。
- 制御構成内で、または対話式デバッグの間に、TRACE SCAN を試みた。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0025I Error running program_name, line nn: Invalid sub-keyword found

説明: 言語処理プログラムは、命令内のその位置に特定のサブキーワードを予期していましたが、他のものが見つかりました。例えば、NUMERIC 命令では、2 番目のトークンはサブ

キーワード DIGITS、FORM、または FUZZ でなければなりません。他のものが NUMERIC キーワードに続いている場合、このメッセージが出ます。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

**ARX0026I Error running *program_name*, line *nn*:
Invalid whole number**

説明: 言語処理プログラムが、自然数にならない式、または限界 (999 999 999) を超える式を検出しました。以下のいずれかで検出されたと思われます。

- 分析テンプレートの位置パターン (変数定位置パターンを含む)
- power (**) 演算子の右部分
- DO 命令の EXPRR および EXPRF の値
- NUMERIC 命令で DIGITS または FUZZ に与えられている値
- TRACE 命令で *option* に使用されている数字

また、このエラーは以下の場合にも発生します。

- 値が許可されていない (例えば DO 命令での繰り返し回数が負数)。
- 整数の除算による商、または減算演算の結果が自然数になっていない。
- EXIT または RETURN から返された戻りコードが自然数でないか、または汎用レジスターに収容できない。(プログラムを関数またはサブルーチンとしてではなく、コマンドとして呼び出しているときに EXIT または RETURN を使用している。)

例えば、EXIT RC ではなく EXIT CR と入力するなど、記号の名前を誤って入力したので、変数の名前になっていないと思われる。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

**ARX0027I Error running *program_name*, line *nn*:
Invalid DO syntax**

説明: 言語処理プログラムが DO 命令で構文エラーを検出しました。BY、TO、FOR、WHILE、または UNTIL を 2 度使用したか、WHILE と UNTIL を使用したと思われます。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

**ARX0028I Error running *program_name*, line *nn*:
Invalid LEAVE or ITERATE**

説明: 言語処理プログラムが、不正な位置に LEAVE または ITERATE 命令を見つけました。

- ループがアクティブでない
- 命令に指定されている名前が、アクティブ・ループの制御変数に一致しない

内部ルーチン呼び出しおよび INTERPRET 命令は、DO ループを非アクティブにすることによって保護することに注意してください。そのため、例えば、サブルーチン内の LEAVE 命令は呼び出しルーチン内の DO ループに影響しません。

SIGNAL 命令を使用して制御をループ内で、またはループの中に移動させようとするのも、原因として考えられます。

SIGNAL 命令はすべてのアクティブ・ループを終了させるので、ITERATE または LEAVE 命令がこのメッセージの原因となります。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

**ARX0029I Error running *program_name*, line *nn*:
Environment name too long**

説明: 言語処理プログラムが、限界 (8 文字) を超える長さの環境名を ADDRESS 命令で検出しました。

ユーザーの処置: ADDRESS 命令に適切な環境名を指定してください。

**ARX0030I Error running *program_name*, line *nn*: Name
or string > 250 characters**

説明: 言語処理プログラムが、長さの限界を超える変数名またはラベル名、またはリテラル・ストリングを見つけました。置き換え後の名前の長さの限界は 250 文字です。リテラル・ストリングの長さの限界も 250 文字です。

このエラーの原因として考えられるのは、名前にピリオド (.) を使用しているために、予期しない置換が発生したことです。

リテラル・ストリングの最後に終了引用符を付けなかった (またはストリングの中に単一引用符を使用した) 場合、ストリングにいくつかの文節が含まれることがあるので、このエラーの原因となります。例えば、don't は、'don't' または "don't" という文字列を書いてください。

連結記号を使用して、さらに長い文字列を作成することができます。以下に例を示します。

```
a = 『...character string < 250 characters...』
b = 『...character string < 250 characters...』
c = a || b
```

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

**ARX0031I Error running *program_name*, line *nn*: Name
starts with number or "."**

説明: 言語処理プログラムが、数字またはピリオドで始まる名前の変数を見つけました。数値定数を再定義することもあるので、REXX ルールでは、数字またはピリオドで始まる名前の変数に値を割り振ることを許可していません。

ユーザーの処置: 変数を適切な名前に変更してください。変数名は英字で始めるのが好ましいのですが、その他の文字を使用することもできます。

**ARX0032I Error running *program_name*, line *nn*:
Invalid use of stem**

説明: プログラムが、ステムである記号の値を変更しようとしてしました。UPPER 命令で行われたものと思われます。この場合の処置は未定義なので、エラーになります。

ユーザーの処置: ステムの値を変更しないように、プログラムを変更してください。

ARX0033I Error running *program_name*, line *nn*:
Invalid expression result

説明: 言語処理プログラムが、特定の文脈で、誤った式の結果を検出しました。以下のいずれかの式で、結果が誤りであったと思われる。

- ADDRESS VALUE 式
- NUMERIC DIGITS 式
- NUMERIC FORM VALUE 式
- NUMERIC FUZZ 式
- OPTIONS 式
- SIGNAL VALUE 式
- TRACE VALUE 式

(FUZZ 式は DIGITS 式よりも小さくなければなりません。)
ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0034I Error running *program_name*, line *nn*:
Logical value not 0 or 1

説明: 言語処理プログラムが、IF、WHEN、DO WHILE、または DO UNTIL 句の中で、結果が 0 または 1 にならない式を見つけました。論理演算子 (、¥、|、&、または &&) が作用する値は、結果が必ず 0 または 1 にならないと見なされます。例えば、次の句は、

```
If result then exit rc
```

result が 0 または 1 以外の値であると、失敗に終わります。したがって、次のように句を書くことをお勧めします。

```
If result=0 then exit rc
```

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0035I Error running *program_name*, line *nn*:
Invalid expression

説明: 言語処理プログラムが式の中で文法エラーを見つけました。以下の原因が考えられます。

- 式を演算子で終わらせた。
- 間になにも入っていない状態で、2 つの演算子を式に指定した (例えば、answer a ++ 5)。
- 必要なときに式を指定しなかった。
- 必要なときに右括弧を指定しなかった。
- 引用符で囲まらずに、文字式に特殊文字 (演算子など) を使用した。以下に例を示します。

```
/* In this example * is mistaken for multiply */
ADDRESS POWER "PDISPLAY RDR," * "MYJOB"
/* This is correct: */
ADDRESS POWER "PDISPLAY RDR, * MYJOB"
```

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0036I Error running *program_name*, line *nn*:
Unmatched 『(』 in expression

説明: 式の中で右括弧と左括弧が正しく対になっていない場合に、このエラーが発生します。右括弧よりも多くの左括弧があります。コマンドの中で括弧を 1 つ使用するには、そのコマンドを引用符で囲んでください。例えば、FINIS の前に括弧を 1 つ入れるためには、以下のようにコマンドを引用符で囲む必要があります。

```
"EXECIO 10 DISKR MYLIB.MYSUB.MYFILE.TYPEA (FINIS"
```

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0037I Error running *program_name*, line *nn*:
Unexpected 『,』 or 『)』

説明: 言語処理プログラムが、ルーチン呼び出しの外側でコンマ (,) を見つけたか、または式の中で多すぎる右括弧を見つけました。引用符で囲まらずに文字式にコンマを使用した場合、このメッセージが出されます。例えば、

```
Say Enter A, B, or C
```

このような命令は以下のように書いてください。

```
Say 'Enter A, B, or C'
```

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0038I Error running *program_name*, line *nn*:
Invalid template or pattern

説明: 構文解析テンプレートで、言語処理プログラムが、許可されていない特殊文字 (例えば %) を見つけたか、可変トリガーの構文が正しくありません (左括弧の後に記号がありません)。このメッセージは、PARSE VALUE 命令で WITH サブキーワードを省略した場合にも出されます。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0039I Error running *program_name*, line *nn*:
Evaluation stack overflow

説明: 言語処理プログラムは、式が複雑すぎるためにそれを評価することができませんでした。ネストされた括弧、関数、などが多すぎます。

ユーザーの処置: 部分式を一時変数に割り当てることによって、式を簡略化してください。

ARX0040I Error running *program_name*, line *nn*:
Incorrect call to routine

説明: 言語処理プログラムが、ルーチンに対する誤った呼び出しを検出しました。考えられる原因は次のとおりです。

- 誤ったデータ (引数) を、組み込みルーチンまたは外部ルーチンに渡した。これが最も一般的な原因です。
- 組み込みルーチン、外部ルーチン、または内部ルーチンに渡した引数が多すぎる。
- 呼び出された外部ルーチンに、言語処理プログラムとの互換性がない。
- ルーチンが非ゼロの戻りコードを返した。(言語処理プログラムはこのメッセージを出し、戻りコードを返します。例えば、GETVIS ストレージが使い尽くされたことなどが原因です。)

ルーチンを呼び出そうとしていなかった場合に、記号または文字列の隣に (を記入した (スペースまたは演算子で分離する必要がある) と思われます。言語処理プログラムは、これを関数呼び出しであると認識します。例えば、TIME(4+5) は、TIME*(4+5) という文字列を書いてください。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0041I Error running program_name, line nn: Bad arithmetic conversion

説明: 言語処理プログラムが、算術式の中で、有効な数字ではない項、または -999 999 999 から +999 999 999 までの許可されている範囲の外の指数を含んでいる項を見つけました。

不適切な変数名を入力したか、または算術演算子を文字式に組み込み、その文字式を引用符で囲まなかったと思われる。例えば、以下のコマンドは * を含んでいるため、このコマンドを引用符で囲む必要があります。

```
"EXECIO * DISKR MYLIB.MYSUB.MYFILE.TYPEA"
```

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0042I Error running program_name, line nn: Arithmetic overflow/underflow

説明: 言語処理プログラムが、限界を超える指数 (999 999 999 より大きい、または -999 999 999 より小さい) を必要とする算術演算結果を検出しました。

式の計算 (数値を 0 で割ろうとした場合など) 中に、または DO ループ制御変数を処理しているときに、このエラーが発生することがあります。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0043I Error running program_name, line nn: Routine not found

説明: 言語処理プログラムが、ユーザーのプログラムの中で呼び出されたルーチンを検出できませんでした。式の中で関数が呼び出されたか、または CALL によってサブルーチンが呼び出されましたが、以下のいずれかが発生しました。

- 指定されたラベルがプログラムにない。
- 組み込み関数の名前ではない。
- 言語処理プログラムがそれを外部で見つけることができなかった。
- GETVIS ストレージが使い果たされた。

最も単純で、また最も一般的な原因は、名前を誤って入力したことです。ほかに、関数パッケージのいずれかが使用不可能であることも原因として考えられます。

ルーチンと呼び出そうとしていなかった場合に、記号または文字列の隣に (を記入した (スペースまたは演算子で分離する必要がある) と思われます。言語処理プログラムは、これを関数呼び出しであると認識します。例えば、3(4+5) は、3*(4+5) という文字列を書いてください。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0044I Error running program_name, line nn: Function did not return data

説明: 言語処理プログラムが、式の中にある外部ルーチンと呼び出しました。このルーチンは、エラーなしで終了したと思われるのですが、式で使用するためのデータを返しませんでした。

あるいは、REXX 関数として使用するようには意図されていないプログラムの名前を指定したと思われる。それをコマンドまたはサブルーチンとして呼び出してください。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0045I Error running program_name, line nn: No data specified on function RETURN

説明: REXX プログラムが関数として呼び出されましたが、データを渡さずに戻る (RETURN 命令によって) ようになっています。同様に、関数として呼び出された内部ルーチンは、式を指定している RETURN 命令で終了しなければなりません。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0046I Error running program_name, line nn: Invalid variable reference

説明: ARG、DROP、PARSE、PULL、または PROCEDURE 命令で、変数参照 (括弧で囲まれた名前によって示されており、使用されるべき値を持つ変数) の構文が正しくありません。変数名にすぐ続くはずの右括弧がありません。

ユーザーの処置: プログラムに必要な訂正を行ってください。

ARX0047I Error running program_name, line nn: Unexpected label

説明: INTERPRET 命令のために計算されている式、または対話式デバッグの間に入力された式で、誤って使用されているラベルが検出されました。

ユーザーの処置: これらの式の中ではラベルを使用しないでください。

ARX0048I Error running program_name, line nn: Failure in system service

説明: システム・サービス (ユーザー入力または出力、またはデータ・スタックの操作、など) が正しく作動しなかったため、言語処理プログラムはプログラムの処理を停止させました。

ユーザーの処置: 入力が正しいこと、プログラムが正しく動いていることを確認してください。システム・プログラマーに援助を依頼してください。

ARX0049I Error running program_name, line nn: Language processor failure

説明: 言語処理プログラムが、自己整合性検査の実行中に重大エラーを検出しました。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

ARX0100I +++ Interactive trace. TRACE OFF to end debug, ENTER to continue. +++

説明: これは通知メッセージです。対話式デバッグ機能がアクティブであることを示しています。対話式デバッグによって、REXX EXEC の実行を制御することができます (バッチ環境では、対話は現在の入力ストリームとプログラムの間で行われます)。

システムの処置: 言語処理プログラムは、トレースされたほとんどの命令の後で休止します。(入出力用のファイルを使用している場合、言語処理プログラムは休止せずに次の行を読みま

ARX0110I • ARX0157E

す)。入力に応じて、処理は休止ポイントから休止ポイントまで続行されます。

ユーザーの処置: ヌル (NULL) を入力すると、プログラムの処理およびトレースが続けられます。言語処理プログラムは、プログラム内の次の命令を実行し、次の休止ポイントで適切な処置を実行します。

トレースされたプログラム内の最後の命令を再実行するには、入力として等号 (=) を使用してください。REXX キーワード命令や REXX/VSE コマンドなど、その他の命令を使用することもできます。言語処理プログラムは、プログラム内の次の命令を処理する直前にその入力を処理します。

対話式トレースを終了するには、TRACE OFF を使用してください。この場合、プログラム処理は続行されますが、対話式トレースはもうアクティブではありません。

モジュール: ARXSYSET

宛先: REXX ユーザー

ARX0110I The REXX exec cannot be interpreted.

説明: プログラム処理の制御を言語処理プログラムが受け取る前にエラーが発生しました。考えられる原因は次のとおりです。

- プログラムがロードされていなかった
- ストレージを獲得できなかった
- REXX/VSE が正しく初期設定されていなかった

代替メッセージが表示される場合もあり、そのメッセージは、プログラムを処理できなかった特定の理由を示します。プログラムが実行されている言語処理プログラム環境の代替メッセージが表示されない場合、その環境ブロックが代替メッセージのメッセージ ID を持っています。

システムの処置: Program の処理は停止します。

ユーザーの処置: 後続メッセージの「ユーザーの応答」をチェックしてください。プログラムを再実行してみてください (その際、もう少し大きな区画を使用してください)。それでもエラーが発生する場合は、システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEEXEC

宛先: REXX ユーザー

ARX0111I The ARXEXEC pre-processing routine returned a nonzero return code.

説明: 解釈出口ルーチンが、非ゼロの戻りコードを返しました。

プログラムを処理するために ARXEXEC ルーチンが呼び出されるたびに、解釈出口ルーチンが呼び出されます。呼び出される出口の名前は、初期設定ルーチン ARXINIT (モジュール名テーブルにある) の呼び出しに指定されているもので、システム制御ブロックに保管されています。この出口は、ARXEEXEC に渡されたパラメーターを検査したり、パラメーターを変更したり、プログラム処理を終了させたりします。この出口ルーチンが処理を終了させるために非ゼロの戻りコードを返したため、このメッセージが出されました。

システムの処置: Program の処理は停止します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXSYSET

宛先: REXX ユーザー

ARX0112I The REXX exec cannot be loaded.

説明: プログラムをサブライブラリーから読み取って、言語処理プログラムが使用できる形式でストレージに置くことができませんでした。

ユーザーのロード・ルーチンを調べてください。そのロード・ルーチンが、非ゼロの戻りコードを返したと思われる。

システムの処置: Program の処理は停止します。

ユーザーの処置: プログラムが存在するかどうかを確認してください。プログラムが空であると考えられます。それが空でない場合は、もう一度、プログラムを実行してみてください。それでもエラーが発生する場合は、システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXSYSET

宛先: REXX ユーザー

ARX0155E The module ARXCMPM is not available.

説明: コンパイル済みの REXX プログラムを実行するために、REXX がコンパイラー・プログラミング・テーブル・モジュール ARXCMPM をロードしようとした。REXX 言語処理プログラムは、モジュール ARXCMPM を見つけることができませんでした。

システムの処置: 処理は終了します。

システム・プログラマーの応答: コンパイラー・プログラミング・テーブル・モジュール ARXCMPM がアクティブ PROC チェーンの中にあることを確認してください。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXENTRY

宛先: REXX ユーザー

ARX0156E The run time processor processor_name is not available.

説明: REXX がコンパイラー・ランタイム・プロセッサを初期設定しようとしたが、失敗しました。

システムの処置: Program の処理は停止します。

システム・プログラマーの応答: コンパイラー・ランタイム・プロセッサで初期設定ルーチンが失敗した原因を判別してください。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXENTRY

宛先: REXX ユーザー

ARX0157E Routine routine_name of the run time processor processor_name was not found.

説明: コンパイル済み REXX プログラム プログラムの処理中、コンパイラー・プログラミング・テーブル (ARXCMPM) で、ルーチン routine_name が必要であると指定されています。そのルーチンがロードできませんでした。

システムの処置: Program の処理は停止します。
 システム・プログラマーの応答: コンパイラー・インターフェース・ルーチン *routine_name* を使用できなかった理由を判別してください。
 ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。
 モジュール: ARXCLOAD
 宛先: REXX ユーザー

ARX0158E The run time processor *processor_name* could not be found.

説明: コンパイル済み REXX プログラム プログラムの処理中、REXX で、コンパイラー・ランタイム・プロセッサ *processor_name* は必須であると指定されています。しかし、そのランタイム・プロセッサがロードできませんでした。
 システムの処置: Program の処理は停止します。
 システム・プログラマーの応答: コンパイラー・ランタイム・プロセッサ *processor_name* が見つからなかった理由を判別してください。
 ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。
 モジュール: ARXCLOAD
 宛先: REXX ユーザー

ARX0159E The run time processor *processor_name* is not available.

説明: コンパイラー・プログラミング・テーブル・モジュール ARXCMPM で、REXX はコンパイラー・ランタイム・プロセッサ用の項目を見つけようとしたが、見つけることができませんでした。
 システムの処置: Program の処理は停止します。
 システム・プログラマーの応答: コンパイラー・ランタイム・プロセッサ *processor_name* を、コンパイラー・プログラミング・テーブル・モジュール ARXCMPM に追加してください。
 ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。
 モジュール: ARXENTRY
 宛先: REXX ユーザー

ARX0200I Invalid parameter(s).

説明: ホスト・コマンド環境テーブル・ルーチン (ARXSUBCM)、トレースおよび実行制御サービス・ルーチン (ARXIC)、入出力ルーチン (ARXINOUT) の呼び出しに、いくつかの誤ったパラメーターがあります。後者の場合、パラメーター 4 で無効なファイル名を使用しようとした可能性があります。有効なファイル名は、次のとおりです。

- SYSIPT
- SYSLST
- SYSXXX (XXX は数字)
- その他の 7 文字の名前

システムの処置: このルーチンは要求された機能を実行しません。
 ユーザーの処置: ルーチンに渡されたパラメーターを検査して、無効なものを訂正してください。

モジュール: ARXEIC ARXESUBC ARXIOGPT
 宛先: REXX ユーザー

ARX0205I A lock cannot be obtained.

説明: 環境終了ルーチン (ARXTERM) またはアドレス環境サービス・ルーチン (ARXSUBCM) によって要求されているロックを獲得できませんでした。
 システムの処置: このルーチンは要求された機能を実行しません。
 ユーザーの処置: もう一度試してみてください。それでもエラーが発生する場合は、システム・プログラマーに連絡してください。
 モジュール: ARXITERM
 宛先: REXX ユーザー

ARX0206I REXX/VSE initialization step has not been executed successfully

説明: REXX/VSE の初期設定は、通常、スタートアップ時に行われます。スタートアップ時にこのステップが省略されていたか、失敗しました。
 システムの処置: プログラムの処理は停止します。
 ユーザーの処置: REXX/VSE 初期設定ジョブ ARXINST の // EXEC ARXLINK ステップを実行してください。
 モジュール: ARXEEXEC
 宛先: REXX ユーザー

ARX0207I Storage cannot be obtained.

説明: EXEC 処理ルーチンまたはアドレス環境サービス・ルーチンが呼び出されましたが、ルーチンは必要としているストレージを獲得することができませんでした。
 ルーチン呼び出したプログラムが、使用可能な GETVIS ストレージの大部分をすでに使い果たしていたため、またはプログラムがループしていたため、このエラーが発生したと思われる。
 システムの処置: このルーチンは要求された機能を実行しません。
 ユーザーの処置: プログラムがどのようにストレージを獲得し解放するかと、またプログラムが正しく稼働しているかどうかを検査してください。GETVIS ストレージをさらに追加してください。システム・プログラマーに援助を依頼してください。
 モジュール: ARXEEXEC
 宛先: REXX ユーザー

ARX0209E The characters in the variable name passed to OUTTRAP are incorrect or the period at the end is missing.

説明: OUTTRAP 変数名が有効なシステム名ではありません。名前の終わりには、ピリオドがなければなりません。
 システムの処置: OUTTRAP 機能は終了し、エラー・メッセージを返します。
 ユーザーの処置: 最後にピリオドを付けて、OUTTRAP の変数名を訂正してください。
 モジュール: ARXFTRAP

宛先: REXX ユーザー

ARX0210E The first character in the variable name passed to OUTTRAP is invalid.

説明: OUTTRAP 機能が指定されましたが、OUTTRAP に使用されている変数名の最後の文字が正しくありません。
 システムの処置: 機能は終了し、構文エラーが発生します。
 SYNTAX トラップが有効化されていないければ、プログラムは終了します。
 ユーザーの処置: OUTTRAP の変数名を訂正してください。
 OUTTRAP の変数名は、REXX 言語の変数名と同じ規則に従っています。
 モジュール: ARXFTRAP
 宛先: REXX ユーザー

ARX0211E There is an invalid character in the variable name passed to OUTTRAP.

説明: OUTTRAP 機能が指定されましたが、OUTTRAP に使用されている変数名が正しくありません。
 システムの処置: 機能は終了し、構文エラーが発生します。
 SYNTAX トラップが有効化されていないければ、プログラムは終了します。
 ユーザーの処置: OUTTRAP の変数名を訂正してください。
 OUTTRAP の変数名は、REXX 言語の変数名と同じ規則に従っています。
 モジュール: ARXFTRAP
 宛先: REXX ユーザー

ARX0212E The variable name for OUTTRAP is missing or the length of the variable name is too long.

説明: OUTTRAP 機能が指定されましたが、ユーザーが変数名を指定しなかったか、または変数名が長すぎます。
 OUTTRAP には、適切な変数名が必要です。
 システムの処置: 機能は終了し、構文エラーが発生します。
 SYNTAX トラップが有効化されていないければ、プログラムは終了します。
 ユーザーの処置: 有効な変数名を指定して、OUTTRAP 機能を訂正してください。
 モジュール: ARXFTRAP
 宛先: REXX ユーザー

ARX0213E The length of the maximum count passed to OUTTRAP is too long to allow for concatenation to the variable name passed to OUTTRAP.

説明: OUTTRAP 機能が指定されましたが、最大カウント値に入っている数字が多すぎて、示されている変数名との連結はできません。結果として生じる変数は無効です。
 システムの処置: 機能は終了し、構文エラーが発生します。
 SYNTAX トラップが有効化されていないければ、プログラムは終了します。
 ユーザーの処置: より少ない数字を含む最大カウント値を指定するか、より少ない文字数の変数名を指定することによって、

OUTTRAP 機能を訂正してください。

モジュール: ARXFTRAP

宛先: REXX ユーザー

ARX0214E The maximum count number passed to OUTTRAP is invalid.

説明: OUTTRAP 機能で使用される最大カウント数が、無効な文字を含んでいました。
 システムの処置: 機能は終了し、構文エラーが発生します。
 SYNTAX トラップが有効化されていないければ、プログラムは終了します。
 ユーザーの処置: 最大カウントには、整数またはアスタリスク(*)を指定してください。
 モジュール: ARXFTRAP
 宛先: REXX ユーザー

ARX0215E The CONCAT operand is invalid.

説明: OUTTRAP 機能に使用されている連結オペランドが正しくありません。このオペランドは CONCAT か NOCONCAT のいずれかでなければなりません。デフォルトは CONCAT です。
 システムの処置: 機能は終了し、構文エラーが発生します。
 SYNTAX トラップが有効化されていないければ、プログラムは終了します。
 ユーザーの処置: OUTTRAP 機能のオペランドを訂正してください。
 モジュール: ARXFTRAP
 宛先: REXX ユーザー

ARX0217E Too many arguments were passed to OUTTRAP.

説明: OUTTRAP 機能が含んでいる引数が多すぎます。
 OUTTRAP は最大 3 つの引数、すなわち、変数名、最大カウント、および連結オペランド (CONCAT または NOCONCAT) しか許可していません。
 システムの処置: 機能は終了し、構文エラーが発生します。
 SYNTAX トラップが有効化されていないければ、プログラムは終了します。
 ユーザーの処置: OUTTRAP の引数を訂正してください。
 モジュール: ARXFTRAP
 宛先: REXX ユーザー

ARX0240I Invalid parameters to STORAGE function.

説明: 誤った値で STORAGE 機能が使用されています。アドレスを指定しなければなりません。また必要に応じて、長さもデータ値も指定することができます。アドレスを省略したか、指定したアドレスが大きすぎるか、または無効な長さ (例えば負の長さの値) を指定したと思われる。
 システムの処置: Program 処理を続行します。
 ユーザーの処置: STORAGE 機能を訂正し、正しいアドレス、または必要に応じて長さもデータ値を指定してください。
 モジュール: ARXFSTOR
 宛先: REXX ユーザー

ARX0260E Invalid parameter list passed to routine_name.

説明: 呼び出されたルーチン (メッセージ中の *routine_name*) に渡されたパラメーター・リストが正しくありません。

システムの処置: このルーチンは要求された機能を実行しません。

ユーザーの処置: ルーチンの呼び出しでのパラメーター・リストを検査してください。特に、パラメーターがすべて有効かどうか、また正しい数のパラメーターを指定しているかどうか、さらにパラメーター・リストの末尾を示すために最後のパラメーターで高位ビットがオン (1 に設定) になっているかどうかを検査してください。

モジュール: すべての外部 REXX (エントリー・ポイント) ルーチン

宛先: REXX ユーザー

ARX0289I SETLANG error; the argument is not valid.

説明: SETLANG 機能が無効な引数を受け取ったか、または指定したパラメーターが多すぎます。引数は、有効な 3 文字の言語コードでなければなりません。

システムの処置: この機能は終了します。

ユーザーの処置: 有効な言語コードを指定してください。

モジュール: ARXFLANG

ARX0300I The message module phase could not be loaded.

説明: REXX メッセージ発行ルーチンが、メッセージを含んでいるフェーズをロードしようとしたが、失敗しました。フェーズの名前はこのメッセージに表示されています。

システムの処置: このメッセージが出され、REXX はメッセージを米国英語で出すように試みます。

ユーザーの処置: 初期設定パラメーターで、または SETLANG 機能により、REXX に指定する言語は、システムにインストールされた言語を表す有効な 3 文字の言語コードである必要があります。システムにインストールされている言語を調べるには、システム・プログラマーに連絡してください。

モジュール: ARXEMSG

宛先: REXX ユーザー

ARX0301E The message msgid could not be found in the message table.

説明: メッセージ番号 *msgid* が、メッセージ・テーブルにありませんでした。

これは通常、ルーチンがメッセージ・フェーズでメッセージを見つけられないときのシステム・エラーです。ただし、インストール時に誤ってメッセージ・モジュールをインストールしたか、または誤って名前変更したことが考えられます。

システムの処置: 示されているメッセージ *msgid* は出されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXSYSET

宛先: REXX ユーザー

ARX0303E Too many parameters were passed for message msgid.

説明: メッセージ *msgid* でテキスト変換を行っているときに、エラーが発生しました。

これは通常、ルーチンがメッセージ・テキスト情報を変換できないときのシステム・エラーです。ただし、インストール時に誤ってメッセージ・フェーズをインストールしたか、または誤って名前変更したことが考えられます。

システムの処置: 示されているメッセージ *msgid* は出されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEMSG

宛先: REXX ユーザー

ARX0304E A parameter of invalid length was passed to message msgid.

説明: メッセージ *msgid* でテキスト変換を行っているときに、エラーが発生しました。

これは通常、システム・エラーです。ただし、インストール時に誤ってメッセージ・フェーズをインストールしたか、または誤って名前変更したことが考えられます。

システムの処置: 示されているメッセージ *msgid* は出されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEMSG

宛先: REXX ユーザー

ARX0305E The parameter(s) passed to message msgid were too large.

説明: メッセージ *msgid* でテキスト変換を行っているときに、エラーが発生しました。

これは通常、ルーチンがメッセージ・テキスト情報を変換できないときのシステム・エラーです。ただし、インストール時に誤ってメッセージ・フェーズをインストールしたか、または誤って名前変更したことが考えられます。

システムの処置: 示されているメッセージ *msgid* は出されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEMSG

宛先: REXX ユーザー

ARX0400E Unable to open file file_name. The REXX exec program_name could not be loaded.

説明: ロード・ルーチンが、示されているファイル *file_name* をオープンできませんでした。プログラムをロードすることができませんでした。

これは通常、システム・エラーです。ただし、示されているファイルがすでにオープンされているにもかかわらず、誤ったモード (例えば、入出力用オープン) でオープンされた場合、OPEN は失敗します。

ARX0401E • ARX0422E

システムの処置: プログラムはロードされていません。
ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0401E An unknown function request was passed to the REXX exec load routine.

説明: EXEC ロード・ルーチンが呼び出されましたが、呼び出しに指定されている機能はサポートされていません。

システムの処置: 機能は実行されません。

ユーザーの処置: EXEC ロード・ルーチンの呼び出しを訂正するか、システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0402E Invalid or missing parameters passed to exec load for a "LOAD", "STATUS", or "CLOSEDD" request.

説明: "LOAD"、"STATUS"、または "CLOSEDD" 機能のために EXEC ロード・ルーチンが呼び出されましたが、呼び出しに必要ないくつかのパラメーターが見つからないか、正しくありません。

システムの処置: 要求された機能は実行されません。

ユーザーの処置: EXEC ロード・ルーチンの呼び出しを訂正するか、システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0404E Invalid or missing EXECBLK parameter passed to the exec load routine.

説明: EXEC ロード・ルーチンが呼び出されましたが、この呼び出しに指定される EXEC ブロック (EXECBLK) パラメーターが欠落しているか、または正しくありません。

EXECBLK のアドレスが呼び出しに指定されていなかったか、EXECBLK の形式が正しくなかったか、または形式が正しくても要求されたフィールドがいくつか欠落していたために、このメッセージが出されます。EXEC ロード・ルーチンの呼び出しには EXECBLK のアドレスが必要です。EXECBLK には、EXECBLK の ID と長さが含まれていなければなりません。

システムの処置: 要求された機能は実行されません。

ユーザーの処置: 必要な訂正を行うか、システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0406E Unable to find REXX exec <procname> within active library chain.

説明: 'LOAD' 機能のために EXEC ロード・ルーチンが呼び出されましたが、示されている <procname> を持つ EXEC がアクティブ・ライブラリー PROC チェーン内で見つかりませんでした。

システムの処置: 示されている EXEC <procname> はロードされず、実行されません。RC は -3 に設定されます。

ユーザーの処置: REXX EXEC 内の <procname> のスペルを訂正するか、または LIBDEF PROC ステートメントの定義を訂正してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0410E Unable to delete the specified REXX exec. It cannot be found.

説明: プログラムを削除 (FREE) するために EXEC ロード・モジュールが呼び出されましたが、このタスクの下では現在、プログラムはロードされていません。

システムの処置: プログラムは削除できません。

ユーザーの処置: program の削除 (FREE) を試みる前に、「STATUS」機能で EXEC ロード・ルーチンを呼び出して、プログラムが現在ロードされているかどうかを判別するか、またはシステム・プログラマーにサポートを依頼してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0420E Unable to serialize during the REXX exec load function function.

説明: EXEC ロード・ルーチンは、示されている機能のためにルーチンが呼び出されたときに、システム・リソースを逐次化できませんでした。

システムの処置: 機能は実行されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0421E Unable to release serialization during the REXX exec load function function.

説明: EXEC ロード・ルーチンは、示されている機能のためにルーチンが呼び出されたときに、システム・リソースの逐次化を解放できませんでした。

システムの処置: 機能は実行されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0422E Unable to obtain storage during the REXX exec load function function.

説明: EXEC ロード・ルーチンは、示されている機能のためにルーチンが呼び出されたときに、ストレージを獲得できませんでした。

システムの処置: 機能は実行されません。

ユーザーの処置: さらに大きな GETVIS 域のある区画で再実行するか、システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0423E Invalid storage amount requested during the REXX exec load function function.

説明: EXEC ロード・ルーチンは、示されている機能のためにルーチンが呼び出されたときに、ストレージを獲得できませんでした。要求された量が無効です。これは内部システム・エラーです。

システムの処置: 機能は実行されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0424E Caller of exec load routine must serialize when requesting the function function.

説明: EXEC ロード・ルーチンの呼び出し側は、示されている機能のために EXEC ロード・ルーチンを呼び出すときには、必要なシステム・リソースを逐次化しなければなりません。

システムの処置: 機能は実行されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0430E The specified exec load file member cannot be closed. It is not owned by the current task.

説明: このプログラムまたはタスクは、示されている EXEC ロード・ファイルをクローズできません。高位のタスクがファイルを所有しており、ファイルを所有するタスクだけがファイルをクローズできます。

システムの処置: ファイルはクローズされていません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0431E The specified exec load file member cannot be closed. It was not opened as an exec load file.

説明: EXEC ロード・ルーチンは、示されているファイルをクローズできません。このファイルはこのルーチン用にオープンされていません。

システムの処置: ファイルはクローズされていません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0432E The specified exec load file member cannot be closed. It is not known to the current REXX environment.

説明: EXEC ロード・ルーチンは、指定された EXEC ロード・ファイルをクローズできません。このファイルは、現在の言語処理プログラム環境で定義されていません。

システムの処置: ファイルはクローズされていません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0435E An invalid record was found during exec load. This is an internal error.

説明: EXEC ロード処理中に、無効なレコードが見つかりました。システム・オーバーレイまたは重大な内部問題の結果が原因だと思われます。これは内部システム・エラーです。

システムの処置: ロード機能は終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0440E No I/O buffer is available for exec load from file file_name. This is an internal error.

説明: EXEC ロード中に、使用可能な内部入出力バッファがありません。システム・オーバーレイまたは重大な内部問題の結果が原因だと思われます。これは内部システム・エラーです。

システムの処置: ロード機能は終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXELOAD

宛先: REXX ユーザー

ARX0501E An unknown function request was passed to the REXX I/O routine. Function function is not supported.

説明: REXX 入出力ルーチンが、不明の機能のために呼び出されました。

システムの処置: 機能は実行されません。

ユーザーの処置: REXX 入出力ルーチンの呼び出しを訂正するか、またはシステム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0502E An attempt was made to 'READ' from file file_name, which is opened, but not for input. 'READ' is not allowed.

説明: プログラムが、示されているファイルからの読み取りを試みましたが、この機能は許可されていません。このファイルは入力用にオープンされていません。

システムの処置: READ 機能は実行されません。

ユーザーの処置: ファイルが現在 'WRITE' 用にオープンされている場合は、ファイルをクローズし、入力または更新用に再オープンするか、またはシステム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0503E An attempt was made to 'WRITE' to file *file_name*, which is opened, but not for output. 'WRITE' is not allowed.

説明: プログラムが、示されているファイルへの書き込みを試みましたが、この機能は許可されていません。このファイルは出力用にオープンされていません。

システムの処置: WRITE 機能は実行されません。

ユーザーの処置: ファイルが現在 'READ' 用にオープンされている場合は、ファイルをクローズし、出力または更新用に再オープンするか、またはシステム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0509E Invalid record format for file associated with *file_name*. RECFM must be fixed or variable.

説明: REXX ファイルが無効なレコード形式になっています。入出力は、非スパンの固定または可変レコード形式のファイルとの間でのみサポートされています。

システムの処置: 入出力は実行されません。

ユーザーの処置: 示されている入出力ファイルのレコード形式を検査して、適切なレコード形式であるかを確認するか、システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0520E Unable to serialize during the REXX I/O function, *function*.

説明: REXX 入出力ルーチンは、示されている機能のために呼び出されたときに、逐次化を行うことができませんでした。

システムの処置: 機能は実行されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0521E Unable to release serialization during the REXX I/O function, *function*.

説明: REXX 入出力ルーチンは、示されている機能のために呼び出されたときに、逐次化を解放することができませんでした。

システムの処置: 機能は実行されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0522E Unable to obtain storage during the REXX I/O function, *function*.

説明: REXX 入出力ルーチンは、示されている機能のために呼び出されたときに、ストレージを獲得することができませんでした。

システムの処置: 機能は実行されません。

ユーザーの処置: さらに大きな GETVIS 域のある区画でプログラムを実行するか、システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0523E Invalid storage amount requested during the REXX I/O function, *function*.

説明: REXX 入出力ルーチンは、示されている機能のために呼び出されたときに、ストレージを獲得することができませんでした。要求された量は無効です。これは内部エラーです。

システムの処置: 機能は実行されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0524E Caller of REXX I/O routine must serialize when requesting the *function* function.

説明: REXX 入出力ルーチンの呼び出し側は、示されている機能のために REXX 入出力ルーチンを呼び出すときには、逐次化を行わなければなりません。

システムの処置: 機能は実行されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0530E Unable to close file *file_name*. It is owned by a higher task.

説明: 当該プログラム/タスクは、指定の REXX 入出力ファイルをクローズできません。高位のタスクがファイルを所有しており、ファイルを所有するタスクだけがファイルをクローズできます。

システムの処置: ファイルはクローズされていません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0531E Unable to close file *file_name*. It was not opened by the REXX I/O routine.

説明: REXX 入出力ルーチンは、示されているファイルをクローズできません。このファイルは入出力用にオープンされていません。

システムの処置: ファイルはクローズされていません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT
宛先: REXX ユーザー

ARX0532E Unable to close file *file_name*. It is not open.

説明: REXX 入出力ルーチンは、示されているファイルをクローズできません。このファイルは、現在の REXX 環境で定義されていません。

システムの処置: ファイルはクローズされていません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0533E Unable to READ and/or WRITE from exec. The function request is not allowed.

説明: この現行プログラムは、ファイルからの READ、またはファイルへの WRITE を試みました。これらの機能の一方または両方が、現在の REXX 環境では program に対して許可されていません。この機能を行うことはできません。

システムの処置: 機能は実行されません。

ユーザーの処置: この環境では、プログラムから READ または WRITE (あるいはその両方) を実行しないでください。または、システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0535E The REXX I/O service was called to WRITE a record but an invalid record was provided.

説明: REXX 入出力 WRITE 要求の間に、無効なレコードが見つかりました。システム・オーバーレイまたは重大な内部問題の結果が原因だと思われます。WRITE 機能は終了します。

システムの処置: WRITE 機能は実行されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0536E Record cannot be updated. No record from file *file_name* has been read for update.

説明: 示されているファイルからのレコードを更新するために REXX 入出力ルーチンが呼び出されましたが、更新用に読み取られたレコードがないために、更新は許可されません。更新は、最後に読み取られたレコードの再書き込み (置換) だけを許可しています。WRITE 機能は終了します。

システムの処置: WRITE 機能は実行されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0540E No I/O buffer is available for input or output with file *file_name*

説明: REXX 入出力で、使用可能な内部入出力バッファがありません。これは、システム・オーバーレイまたは他の重大な内部問題の結果と考えられます。REXX 入出力機能は終了します。

システムの処置: 入出力は実行されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0541E Update failed. Number of record specified does not match number of last record read.

説明: 更新されるレコードの絶対番号が、最後に読み取られたレコードの番号と一致していません。更新は許可されません。

このエラーは、複数のタスクが同じファイルを同時に処理していることを示している可能性があります。別のタスクが、同じ制御ブロックを持つファイルを読み取っている場合、更新タスクが読み取る最後のレコードの番号は、更新タスクが予期したものと異なる番号になることがあります。

システムの処置: 更新は実行されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0542E Missing or incorrect record format for file *file_name*.

説明: ユーザーがレコード形式を指定しなかったか、または指定した形式が正しくありません。有効な値は、FIXUNB、FIXBLK、VARBLK、および VARUNB です。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: RECFORM の後に有効な値を指定するか、または ARXINOUT インターフェースの IOPTS 制御ブロックを検査してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0543E Missing or incorrect block size for file *file_name*.

説明: ブロック・サイズが欠落しているか、または正しくありません。ブロック・サイズの最大値は 32761 です。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: BLOCKSIZE *n* (*n* はブロック・サイズ) と指定してください。または、ARXINOUT インターフェースの IOPTS 制御ブロックを検査してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0544E Missing or incorrect record size for file *file_name*.

説明: レコード・サイズが欠落しているか、または正しくありません。正しいレコード・サイズは、ブロック・サイズ以下です。ブロック・サイズはレコード・サイズの倍数です。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: RECSIZE *n* (*n* はレコード・サイズ) と指定してください。または、ARXINOUT インターフェースの IOPTS 制御ブロックを検査してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0545E No IOPTS control block for file *file_name*.

説明: ARXINOUT が IOPTS 制御ブロックを渡しませんでした。言語処理プログラムは、ファイルのオープン方法を決定するためにこの制御ブロックを必要としています。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: ARXINOUT の呼び出しにパラメーター 9 を指定してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0546E The I/O function is not valid for *file_name*.

説明: この入出力機能は、このファイルには無効です。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: EXECIO コマンド上の入出力機能、または ARXINOUT インターフェース中の入出力機能を検査してください。EXECIO コマンド上の DISKW および ARXINOUT インターフェース中の OPENW、WRITE、または CLOSE 機能だけが、SYSLSY 用に許可されている入出力機能です。

EXECIO コマンド上の DISKR および ARXINOUT インターフェース中の OPENR、READ、または CLOSE 機能だけが、SYSIPT に有効な入出力機能です。

モジュール: ARXEXPRS ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0547E File *file_name* does not have record format STRING. Option BYTES is invalid.

説明: 示されているライブラリー・ファイルの論理レコード形式は「fixed」です。オプション BYTES はこのファイル・タイプには無効です。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: EXECIO コマンドのオプション BYTES を除去してください。その代わりに、パラメーター「linenum」を使用してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0548E File *file_name* has record format STRING. Option bytes is missing.

説明: 示されているライブラリー・ファイルの論理レコード形式は「string」です。このファイルを書き込み用または更新用にオープンするときは、オプション BYTES を使用しなければなりません。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: EXECIO コマンドにオプション BYTES を挿入してください。

モジュール: ARXIOGPT

宛先: REXX ユーザー

ARX0560E Invalid service request was passed to REXX I/O linkage assist routine. Service *service_name* is not supported.

説明: REXX 入出力リンケージ援助ルーチンが、サポートされていない機能のために呼び出されました。これは内部エラーです。

システムの処置: 機能は実行されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOLAR

宛先: REXX ユーザー

ARX0561E Error during READ or GET from file *file_name*. Record read exceeds the internal buffer size.

説明: READ または GET 要求の処理中に REXX 入出力リンケージ援助ルーチンによって読み取られたレコードは、大きすぎて、与えられているバッファーに入りません。ストレージがオーバーレイされたと思われます。これは内部エラーです。このエラーは、program をロードしようとしたとき、または REXX 入出力を実行しようとしたときに発生する可能性があります。

システムの処置: 入出力は実行されません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOLAR

宛先: REXX ユーザー

ARX0562E Abnormal completion of the *service_name* Data Management macro.

説明: 示されているデータ管理サービスを実行しようとしたときに、エラーが発生しました。サービスは異常終了しました。システムの処置: データ管理サービス *service_name* は完了しませんでした。

ユーザーの処置: エラーの原因となった条件を訂正するか、またはシステム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOLAR

宛先: REXX ユーザー

ARX0563E Unable to open file *file_name*.

説明: データ管理 OPEN マクロを使用して、示されているファイルをオープンしようとしたときに、エラーが発生しました。オープンの失敗の原因を説明する他のメッセージが、このメッセージと共に送られることもあります。

システムの処置: ファイルはオープンされていません。

ユーザーの処置: エラー条件を訂正するか、またはシステム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOLAR

宛先: REXX ユーザー

ARX0564E Unable to close file *file_name*.

説明: データ管理 CLOSE マクロを使用して、示されているファイルをクローズしようとしたときに、エラーが発生しました。クローズの失敗の原因を説明する他のメッセージが、このメッセージと共に送られることもあります。

システムの処置: ファイルはクローズされていません。

ユーザーの処置: エラー条件を訂正するか、またはシステム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXIOLAR

宛先: REXX ユーザー

ARX0565I *text1*, RC=(*rrrr,nnnn*) *moduleid text2*

説明: このメッセージは、z/VSE サービスの実行中に発生した問題についての情報を提供します。これは、サービス担当者が問題判別を行う際に役立ちます。*text1* は問題の原因となったサービスを示し、*rrrr* と *nnnn* はそれぞれ、REXX/VSE が使用した z/VSE サービスから返された戻りコードと理由コードです。z/VSE サービスがこの情報を提供しない場合、これらのコードは ???? になる可能性があります。*moduleid* は、問題を検出した REXX モジュールの ID です。*text2* は、問題をさらに詳しく説明する追加テキストです。すべてのメッセージに *rrrr*、*nnnn*、*moduleid*、および *text2* が表示されるわけではありません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: プログラムを検査し、問題の原因となったエラーがないかどうか調べるか、またはシステム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: メッセージに示されている *moduleid*

宛先: REXX ユーザー

ARX0566E Unable to perform I/O operation on file *file*. File is empty or contains no end-of-file mark.

説明: ファイルを入力用にオープンしようとしたのですが、このファイルにはファイルの終わりマークがありません。このファイルにデータが書き込まれていないと思われる。このファイルは入出力操作用に正常にオープンされませんでした。

システムの処置: Program 処理を続行します。

ユーザーの処置: ユーザーのプログラムが、データを含んでいないファイルから読み取ろうとした理由を調べてください。このファイルにデータが入っていない場合、データが入っていない理由を調べてください。

モジュール: ARXIOLAR

宛先: REXX ユーザー

ARX0570E Unable to obtain or free storage for console I/O.

説明: programにおいて、REXX 入力ストリームからの読み取りが要求されましたが、仮想ストレージが使用不可でした。

システムの処置: 入出力は実行されません。

ユーザーの処置: エラーの原因となった条件を訂正するか、またはシステム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXSYSCO

宛先: REXX ユーザー

ARX0572E Invalid function request.

説明: 無効な機能が入出力ルーチンに渡されました。

システムの処置: 入出力は実行されません。

ユーザーの処置: エラーの原因となった条件を訂正するか、またはシステム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXSYSCO

宛先: REXX ユーザー

ARX0601E EXECIO "lines" positional parameter is not valid. Specify * or a number.

説明: EXECIO の最初の定位置パラメーターは、EXECIO が処理する行数または * (すべての行を表す) でなければなりません。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: アスタリスク (*) または行数を指定してください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0602E EXECIO "lines" positional parameter is missing.

説明: EXECIO の最初の定位置パラメーターは、EXECIO が処理する行数または * (すべての行を表す) でなければなりません。このパラメーターは必須です。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: アスタリスク (*) または行数を指定してください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0603E EXECIO "operation" positional parameter is not valid. Specify DISKR, DISKRU, or DISKW.

説明: EXECIO コマンドの 2 番目の定位置パラメーターが無効です。このパラメーターは、実行される有効な操作のいずれかを指定しなければなりません。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: ファイルを読み取るには DISKR (入力) を、ファイルを更新するには DISKRU (更新) を、ファイルを書き込むには DISKW (出力) を指定してください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0604E EXECIO "operation" positional parameter is missing. Specify DISKR, DISKRU, or DISKW.

説明: EXECIO コマンドの 2 番目の定位置パラメーターが欠落しています。このパラメーターは、有効な「操作」ID (DISKR、DISKRU、または DISKW) でなければなりません。これは必須であり、実行される有効な操作のいずれかを指定しなければなりません。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: ファイルを読み取るには DISKR (入力) を、
ファイルを更新するには DISKRU (更新) を、ファイルを書き
込むには DISKW (出力) を指定してください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0605E EXECIO "filename" positional parameter is not valid.

説明: EXECIO コマンドの 3 番目の定位置パラメーターが、
有効なファイル名ではありません。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: 入出力が実行される 1 から 7 文字のファ
イル名または 34 文字のライブラリー名を指定してください。

SAM ファイルの場合、EXECIO を使用する前に、そのファ
イルをファイル名に関連付けてください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0606E EXECIO "filename" positional parameter is missing.

説明: EXECIO コマンドの 3 番目の定位置パラメーターであ
るファイル名が欠落しています。このパラメーターは必須で
す。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: 入出力が実行される 1 から 7 文字のファ
イル名または 34 文字のライブラリー名を指定してください。

SAM ファイルの場合、EXECIO を使用する前に、そのファ
イルをファイル名に関連付けてください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0607E EXECIO "linenum" positional parameter is not valid. Specify a number or nothing.

説明: EXECIO コマンドの 4 番目のパラメーター (指定する
場合) は、有効な番号でなければなりません。このパラメー
ターは、DISKR または DISKRU 操作で読み取りが開始されるレ
コードの番号を表します。DISKW の場合、このパラメーター
は無効です。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: *linenum* の値を指定するか、なにも指定しな
いください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0608E No EXECIO positional parameters were found. Three are required.

説明: EXECIO コマンドの定位置パラメーターが検出されませ
んでした。少なくとも 3 つ、定位置パラメーターを指定しな
ければなりません。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: 最初の定位置パラメーターとして、処理され
る行数を示す数値またはアスタリスク (*) を指定してくださ
い。2 番目の定位置パラメーターとして、DISKR、DISKRU、

または DISKW (操作) を指定してください。3 番目の定位置
パラメーターとして、入出力操作が行われるファイルの名前を
指定してください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0609E Too many EXECIO positional parameters found. The maximum is four.

説明: コマンドに、不明の定位置パラメーターが含まれていま
す。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: 指定できる定位置パラメーターは最大 4 つ
までです。それ以外の定位置パラメーターは除去してくださ
い。EXECIO のオプションを指定したい場合は、左括弧で区
切って定位置パラメーターの後に続けてください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0610E No STEM name was found after EXECIO STEM option.

説明: EXECIO の「STEM」オプションの後に STEM 変数名
がありません。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: "STEM" オプションの後に STEM 変数名を
指定してください。STEM 変数名の長さは 1 から 240 文字
です。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0611E EXECIO STEM option is specified more than once.

説明: EXECIO コマンドで EXECIO STEM オプションは一度
しか指定できません。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: STEM の指定が一度だけになるように
EXECIO コマンドを訂正してください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0612E EXECIO STEM name is not valid or is too long.

説明: 指定された EXECIO STEM 名が無効か、または長すぎ
ます。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: 有効な値は、1 から 240 文字の長さで、有
効な REXX 変数名でなければなりません。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0613E EXECIO FIFO or LIFO options are not allowed with STEM.

説明: EXECIO コマンドに FIFO (または LIFO) オプション
と STEM オプションが指定されていますが、LIFO、FIFO、
および STEM オプションは相互に排他的なオプションです。

システムの処置: EXECIO は終了します。
 ユーザーの処置: STEM オプションまたは FIFO (または LIFO) オプションのどちらかを除去してください。
 モジュール: ARXEXPRS
 宛先: REXX ユーザー

ARX0614E EXECIO FIFO or LIFO options are not allowed with DISKW.

説明: EXECIO コマンドに FIFO (または LIFO) オプションと DISKW 操作が指定されていますが、FIFO および LIFO を DISKW と共に使用することはできません。
 システムの処置: EXECIO は終了します。
 ユーザーの処置: FIFO および LIFO を DISKW と共に指定しないように EXECIO コマンドを訂正してください。
 モジュール: ARXEXPRS
 宛先: REXX ユーザー

ARX0615E EXECIO "linenum" parameter is not allowed with DISKW.

説明: EXECIO コマンドに *linenum* パラメーターと DISKW 操作が指定されていますが、*linenum* を DISKW と共に使用することはできません。
 システムの処置: EXECIO は終了します。
 ユーザーの処置: *linenum* を DISKW と共に指定しないように EXECIO コマンドを訂正してください。
 モジュール: ARXEXPRS
 宛先: REXX ユーザー

ARX0616E EXECIO SKIP option is not allowed with DISKW.

説明: EXECIO コマンドに SKIP オプションと DISKW 操作が指定されていますが、SKIP を DISKW と共に使用することはできません。
 システムの処置: EXECIO は終了します。
 ユーザーの処置: SKIP オプションを DISKW と共に指定しないように EXECIO コマンドを訂正してください。
 モジュール: ARXEXPRS
 宛先: REXX ユーザー

ARX0617E EXECIO error. Unrecognized or ambiguous keyword found.

説明: 不明な (または、あいまいな) EXECIO キーワード・オプションが EXECIO コマンドで見つかりました。それを処理することはできません。不明なオプションとは、有効なオプション (FIFO、LIFO、STEM、SKIP、FINIS、および OPEN) 以外のものです。あいまいなオプションとは、FI (FIFO なのか FINIS なのか分からない) のようなものです。
 システムの処置: EXECIO は終了します。
 ユーザーの処置: EXECIO キーワードを有効なオプションに変更してください。
 モジュール: ARXEXPRS
 宛先: REXX ユーザー

ARX0618E EXECIO error. No RECFORM value was found after EXECIO RECFORM option.

説明: RECFORM キーワードには値 (FIXUNB、FIXBLK、VARUNB、または VARBLK) が続いていなければなりません。が、欠落しています。
 システムの処置: EXECIO は終了します。
 ユーザーの処置: RECFORM の後に値を指定してください。
 モジュール: ARXEXPRS
 宛先: REXX ユーザー

ARX0619E EXECIO error. The RECSIZE value is not numeric.

説明: RECSIZE キーワードに続くパラメーター (*n*) は数値でなければなりません。が、*n* が数値ではありませんでした。
 システムの処置: EXECIO は終了します。
 ユーザーの処置: *n* に数値を指定してください。
 モジュール: ARXEXPRS
 宛先: REXX ユーザー

ARX0620E EXECIO error. No RECSIZE value was found after EXECIO RECSIZE option.

説明: RECSIZE キーワードにはレコード・サイズ (*n*) が続いていなければなりません。が、欠落しています。
 システムの処置: EXECIO は終了します。
 ユーザーの処置: RECSIZE の後にレコード・サイズ (*n*) を指定してください。
 モジュール: ARXEXPRS
 宛先: REXX ユーザー

ARX0621E EXECIO error. The BLKSIZE value is not numeric.

説明: BLKSIZE キーワードに続くパラメーター (*n*) は数値でなければなりません。が、*n* が数値ではありませんでした。
 システムの処置: EXECIO は終了します。
 ユーザーの処置: *n* に数値を指定してください。
 モジュール: ARXEXPRS
 宛先: REXX ユーザー

ARX0622E EXECIO error. No BLKSIZE value was found after EXECIO BLKSIZE option.

説明: BLKSIZE キーワードにはブロック・サイズ (*n*) が続いていなければなりません。が、欠落しています。
 システムの処置: EXECIO は終了します。
 ユーザーの処置: BLKSIZE キーワードの後にブロック・サイズ (*n*) を指定してください。
 モジュール: ARXEXPRS
 宛先: REXX ユーザー

ARX0623E EXECIO error. The BYTES value is not valid.

説明: BYTES キーワードに続くパラメーターは、ゼロより大きい数値でなければなりません。
 システムの処置: EXECIO は終了します。

ARX0624E • ARX0650E

ユーザーの処置: BYTES 値としてゼロより大きい数値を指定してください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0624E EXECIO error. No BYTES value was found after EXECIO BYTES option.

説明: BYTES キーワードの後には数値がなければなりません。が、欠落しています。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: BYTES の後に値を指定してください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0625E EXECIO error. The STRTBYTE value is not valid.

説明: STRTBYTE キーワードに続くパラメーターは、ゼロより大きい数値でなければなりません。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: STRTBYTE 値としてゼロより大きい数値を指定してください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0626E EXECIO error. No STRTBYTE value was found after EXECIO STRTBYTE option.

説明: STRTBYTE キーワードの後には数値がなければなりません。が、欠落しています。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: STRTBYTE の後に値を指定してください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0627E EXECIO BYTES option is only allowed for library members.

説明: 処理されるファイルがサブライブラリーのメンバーではありません。この場合、オプション BYTES は意味がなく、使用できません。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: EXECIO コマンドのオプション BYTES を除去してください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0628E EXECIO BYTES option is not allowed with "linenum" parameter.

説明: BYTES パラメーターは、論理レコード形式が「string」である (つまり、任意の長さのレコードが 1 つだけ存在する) ライブラリー・メンバーに対してのみ有効です。この場合、パラメーター「linenum」は意味がなく、使用できません。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: レコード形式が「fixed」であるライブラリー・メンバー用のオプション BYTES を削除するか、またはレコード形式が「string」であるライブラリー・メンバー用のパ

ラメーター「linenum」を削除してください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0629E EXECIO STRTBYTE option is only allowed together with DISKR(U) and BYTES.

説明: EXECIO コマンドに STRTBYTE オプションが指定されていますが、DISKR(R) または BYTES オプションが指定されていません。STRTBYTE は、DISKR(U) と BYTES がなければ無効です。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: オプション STRTBYTE、DISKR (または DISKRU)、および BYTES を指定するように EXECIO コマンドを訂正してください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0630E EXECIO BYTES option is only allowed together with "lines" value 0 or 1.

説明: BYTES パラメーターは、論理レコード形式が「string」である (つまり、任意の長さのレコードが 1 つだけ存在する) ライブラリー・メンバーに対してのみ有効です。したがって、パラメーター「lines」は、このメンバーをオープンまたはクローズするときは「0」でなければならず、このメンバーから読み取る (または、このメンバーに書き込む) ときは「1」でなければなりません。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: 「lines」の値が 0 または 1 になる

EXECIO コマンドを訂正してください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0631E EXECIO BYTES option is not allowed together with DATA option.

説明: EXECIO コマンドにオプション BYTES と DATA が指定されています。DATA は、論理レコード形式が「fixed」であるライブラリー・ファイルを書き込むときにのみ有効です。しかし、BYTES を指定すると、論理レコード形式が「string」であるライブラリー・ファイルを書き込むという意味になります。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: BYTES オプションを DATA と共に指定しないように EXECIO コマンドを訂正してください。

モジュール: ARXEXPRS

宛先: REXX ユーザー

ARX0650E EXECIO internal error. 問題を IBM に報告してください。

説明: EXECIO ルーチンは内部エラーを検出したので、すぐに処理を停止させました。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEXIO

宛先: REXX ユーザー

ARX0651E EXECIO error. STEM variable name is not valid.

説明: REXX 変数アクセス・ルーチン (ARXEXCOM) は、誤った REXX 変数名が EXECIO の「STEM」オプションと共に使用されていることを検出しました。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: EXECIO の「STEM」オプションの後に有効な REXX 変数名を指定してください。STEM 変数名の長さは 1 から 240 文字です。

モジュール: ARXEXIO

宛先: REXX ユーザー

ARX0652E EXECIO error while trying to fetch a REXX variable.

説明: EXECIO ルーチンからの変数取り出し操作の間に、REXX 変数アクセス・ルーチン (ARXEXCOM) でエラーが発生しました。変数の値を正常に取得できませんでした。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEXIO

宛先: REXX ユーザー

ARX0653E EXECIO error while trying to store a REXX variable.

説明: EXECIO ルーチンからの変数保管 (または設定) 操作の間に、REXX 変数アクセス・ルーチン (ARXEXCOM) でエラーが発生しました。変数の値は正常に設定されませんでした。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEXIO

宛先: REXX ユーザー

ARX0654E EXECIO error. An attempt was made to read or write to an unusable record.

説明: EXECIO 処理中にレコードの読み取りまたは書き込みを試みているとき、使用できないレコードが検出されました。これは内部エラーです。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEXIO

宛先: REXX ユーザー

ARX0660E EXECIO error. Unable to serialize.

説明: EXECIO ルーチンは逐次化を行うことができませんでした。EXECIO 処理は実行されません。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEXIO

宛先: REXX ユーザー

ARX0661E EXECIO error. Unable to release serialization.

説明: EXECIO ルーチンは逐次化を解放することができませんでした。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEXIO

宛先: REXX ユーザー

ARX0662E EXECIO error. Unable to obtain storage.

説明: EXECIO ルーチンはストレージを獲得することができませんでした。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: さらに大きな GETVIS 域のある区画でプログラムを実行するか、システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEXIO

宛先: REXX ユーザー

ARX0663E EXECIO error. Invalid storage amount requested.

説明: EXECIO ルーチンはストレージを獲得することができませんでした。要求されたストレージの量が無効です。これは内部エラーです。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEXIO

宛先: REXX ユーザー

ARX0670E EXECIO error while trying to GET or PUT a record.

説明: 入出力操作中に、REXX 入出力ルーチンが、エラーを示す戻りコードを EXECIO ルーチンに返しました。

エラー条件を詳細に説明する別のメッセージが (REXX 入出力ルーチンから) このメッセージと共に出されることがあります。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: エラーの原因となった条件を訂正するか、またはシステム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEXIO

宛先: REXX ユーザー

ARX0671E EXECIO error while trying to close a file.

説明: 'CLOSE' 要求の処理中に、REXX 入出力ルーチンが、エラーを示す戻りコードを EXECIO ルーチンに返しました。このプログラムは指定されたファイルをクローズできません。

エラー条件を詳細に説明する別のメッセージが (REXX 入出力ルーチンから) このメッセージと共に出されることがあります。

ARX0672E • ARX0691E

より高いレベルのタスクがオープンしたファイルをクローズしようとしたことが、このエラーの原因として考えられます。他のタスクでオープンされたファイルに FINIS オプション、または *linenum* 定位置パラメーターを指定したと思われる。FINIS または *linenum* を使用するときは、まだオープンされていないファイル、または現行タスク・レベルでオープンされたファイルしか指定することはできません。

注: FINIS と *linenum* の両方を指定すると、EXECIO は指定されたファイルをクローズしようと試みます。しかし、EXECIO は、現在実行中のプログラムのタスク・レベルと同じタスク・レベルでオープンされたファイルしかクローズすることができません。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEXIO

宛先: REXX ユーザー

ARX0672E EXECIO error while trying to get an element from the data stack.

説明: スタック・ルーチンが、データ・スタックまたはデフォルト入力ファイルからエレメントを取得しようとしていたときに、エラーを示す戻りコードを EXECIO ルーチンに返しました。

エラー条件を詳細に説明する別のメッセージが、このメッセージと共に送られることがあります。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: エラーの原因となった条件を訂正するか、またはシステム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEXIO

宛先: REXX ユーザー

ARX0673E EXECIO error while trying to put an element on the data stack.

説明: スタック・ルーチンが、データ・スタックにエレメントを追加しようとしていたときに、エラーを示す戻りコードを EXECIO ルーチンに返しました。

エラー条件を詳細に説明する別のメッセージ (スタック・ルーチンからの) が、このメッセージと共に送られることがあります。

システムの処置: EXECIO は終了します。

ユーザーの処置: エラーの原因となった条件を訂正するか、またはシステム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEXIO

宛先: REXX ユーザー

ARX0674E EXECIO is unable to open file *file_name* for DISKR or DISKRU. The file is already open, but not for input.

説明: EXECIO ルーチンは、示されているファイルを DISKR または DISKRU 用にオープンしようとしたが、このファイルは、DISKR または DISKRU とは互換性のないモードです。このファイルは、DISKW 用にオ

ープンされている可能性があります。

システムの処置: DISKR または DISKRU 用のオープンは実行されません。このファイルは、このオープン要求の前にオープンされていたモードでオープンされたままです。

ユーザーの処置: ファイルをまずクローズしてから、EXECIO オープン要求を再度出してください。

モジュール: ARXEXIO

宛先: REXX ユーザー

ARX0675E EXECIO is unable to open file *file_name* for DISKW. The file is already open, but not for output.

説明: EXECIO ルーチンは、示されているファイルを DISKW 用にオープンしようとしたが、このファイルは、DISKW とは互換性のないモードです。このファイルは、DISKR 用にオープンされている可能性があります。

システムの処置: DISKW 用のオープンは実行されません。

このファイルは、このオープン要求の前にオープンされていたモードでオープンされたままです。

ユーザーの処置: ファイルをまずクローズしてから、EXECIO オープン要求を再度出してください。

モジュール: ARXEXIO

宛先: REXX ユーザー

ARX0690E Internal Error Message is *message*.

説明: VSAM 入出力操作はエラーを返しました。*message* は、VSAM データ・セットがバッチ処理されている場合は EDC メッセージ、VSAM データ・セットが CICS 処理されている場合は \$IESCVBA から返されるエラーです。EDC メッセージは、「*LE/VSE Debugging Guide and Run-Time Messages*」内に記述されています。

システムの処置: VSAMIO は終了し、RC 8 を返します。

プログラマーの応答: REXX プログラム内の該当する VSAMIO コマンドを訂正してください。

モジュール: ARXVSAM

宛先: REXX ユーザー

ARX0691E VSAM Return Code *rc* and Error Code *ec* from macro *mac* for file *filename*.

説明: VSAM 入出力操作中にエラーが起きました。内部で使用されていた障害システム・マクロ *mac* の該当する VSAM 戻りコード *rc* および VSAM エラー・コード *ec* が示されません。

システムの処置: VSAMIO は終了し、RC 8 を返します。

プログラマーの応答: VSAM 戻りコードおよびエラー・コードは、「*IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻*」の VSE/VSAM トピックを参照してください。

モジュール: ARXVSAM

宛先: REXX ユーザー

ARX0692E At End Of File filename.

説明: 現在の処理位置は VSAM ファイル *filename* の終わりです。

システムの処置: VSAMIO は終了し、RC 8 を返します。

プログラマーの応答: VSAMIO オペランドの STARTREC または STARTKEY を使用して、処理位置を変更してください。

モジュール: ARXVSAM

宛先: REXX ユーザー

ARX0693E function_code invocation of CEEPIPI failed. Error Code is ec.

説明: LE の CEEPIPI 事前初期設定サービスは、コマンド VSAMIO をインプリメントするために使用されます。CEEPIPI の関数 INITSUB または CALLSUB の使用は、以下のいずれかのエラー・コードで失敗します。

- 8 CEEPIPL.PHASE が見つかりません。
- 9 CEEPIPI がアクティブ LE 環境から呼び出されました。
- 16 ストレージの問題です。
- 20 CEEPIPI ルーチンの呼び出しに失敗しました。
- 24 ロックの問題です。

システムの処置: VSAMIO は終了し、RC 8 を返します。

プログラマーの応答: 推奨される解決方法はエラー・コード *ec* によって異なります。

- 8 LIBDEF チェーンを調べてください。CEEPIPL.PHASE は通常、PRD2.SCEEBASE にあります。
- 9 これは内部エラーであるため、弊社に連絡してください。
- 16 より多くの GETVIS スペースを含む区画を使用してください。
- 20 これは内部エラーであるため、弊社に連絡してください。
- 24 後でもう一度やり直してください。

モジュール: ARXVSAM

宛先: REXX ユーザー

ARX0700I A REXX exec is executing under the REXX environment.

説明: REXX 言語処理プログラム環境を終了できません。これは、この環境で program が実行中であるためです。

システムの処置: REXX 言語処理プログラム環境は終了しません。

ユーザーの処置: すべてのプログラムが完了した後で、言語処理プログラム環境を終了させてください。

モジュール: ARXITERM

宛先: REXX ユーザー

ARX0701I The REXX environment has dependent environment(s).

説明: 当該 REXX 言語処理プログラム環境は、タスクの下で最初に初期設定された環境でしたが、タスクの下に残っている最後の REXX 環境ではありません。タスクで初期設定された

最初の REXX 環境は、そのタスクで最後に終了される REXX 環境でなければなりません。

システムの処置: REXX 言語処理プログラム環境は終了しません。

ユーザーの処置: タスクの下で確立された他のすべての REXX 環境が終了するのを待ってから、タスクの下で確立された最初の REXX 環境を終了してください。

モジュール: ARXITERM

宛先: REXX ユーザー

ARX0702I ARXTERM returned a nonzero return code.

説明: REXX 言語処理プログラム環境終了出口ルーチン (ARXTERM) が、非ゼロの戻りコードを返しました。

システムの処置: REXX 言語処理プログラム環境は終了しません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXITERM

宛先: REXX ユーザー

ARX0750I The address environment entry cannot be found, added, or deleted.

説明: ホスト・コマンド環境テーブル SUBCOMTB の項目を変更、追加、または削除するために、ARXSUBCM ルーチンが呼び出されました。しかし、このテーブルで項目を検出、追加、または削除することができませんでした。テーブル SUBCOMTB を更新する要求は実行されていません。

ARXSUBCM の呼び出しに指定したパラメーターが正しくないことが、このエラーの原因として最も考えられます。

システムの処置: テーブルは更新されていません。

ユーザーの処置: 機能 (追加、削除、更新、または照会)、アドレス、長さ、およびアドレス環境名パラメーターが、呼び出しに正しく指定されていることを確認するか、またはシステム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXESUBC

宛先: REXX ユーザー

ARX0751I The REXX immediate command cannot be performed.

説明: 無効な即時コマンドが ARXIC ルーチンに渡されたため、即時コマンド (HI、HT、RT、TS、TE) を実行できません。

システムの処置: 即時コマンドは実行されず、ARXIC ルーチンは終了します。

ユーザーの処置: ARXIC に渡された即時コマンドを検査するか、システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXEIC

宛先: REXX ユーザー

ARX0760E An error occurred while retrieving the result of a REXX function.

説明: REXX 計算ブロックを受け取ろうとしていたときに、結果獲得ルーチン (ARXRLT) がエラーを検出しました。以下の代替メッセージのいずれかがこのメッセージと共に送られ、エラーについてさらに詳しく説明します。

- ARX0761E
- ARX0762E
- ARX0763E

システムの処置: システムの処置は、エラーの内容によって異なります。詳細については、代替メッセージを参照してください。

ユーザーの処置: 結果獲得サービス・ルーチンを呼び出したアプリケーションの作成者に連絡してください。

モジュール: ARXERSLT

宛先: REXX ユーザー

ARX0761E A data area to hold the result was not supplied by the caller.

説明: 呼び出し側によって提供される計算ブロックのアドレス (そこに REXX 計算ブロックがコピーされる) を示すべきパラメーターが 0 です。

システムの処置: データの移動は起こりません。REXX 計算ブロックは、そのまま変更されません。エラー・コードが呼び出し側に渡されます。

ユーザーの処置: 結果全体を収容できるだけの、十分な計算ブロックのアドレスを指定して、結果獲得ルーチン (ARXRLT) をもう一度呼び出してください。または、結果獲得サービス・ルーチンを呼び出したアプリケーションの作成者に連絡してください。

モジュール: ARXERSLT

宛先: REXX ユーザー

ARX0762E The REXX evaluation block is not valid.

説明: システムによって与えられた REXX 計算ブロックで、エラーが検出されました。結果全体は、信頼できるものではないと考えられます。

システムの処置: データの移動は起こりません。REXX 計算ブロックは削除されます。エラー・コードが呼び出し側に渡されます。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに連絡してください。

モジュール: ARXERSLT

宛先: REXX ユーザー

ARX0763E The GETRLT parameter is not valid while an exec is running.

説明: プログラムの実行中に、GETRLT パラメーターを使用して結果獲得ルーチン (ARXRLT) を呼び出すことはできません。この操作は、現在の環境で実行されているすべてのプログラムが完了した後でのみ有効です。

現在の環境で実行されているすべてのプログラムが完了した後で、GETRLT パラメーターを使用して結果獲得ルーチンを呼び出すように、アプリケーションを訂正しなければなりません。

システムの処置: データの移動は起こりません。エラー・コードが呼び出し側に渡されます。

ユーザーの処置: 結果獲得サービス・ルーチンを呼び出したアプリケーションの作成者に連絡してください。

モジュール: ARXERSLT

宛先: REXX ユーザー

ARX0765E An error occurred while obtaining a new REXX evaluation block.

説明: 結果獲得ルーチン (ARXRLT) が、REXX 計算ブロックを新しいブロックで置き換えようとしていたときに、エラーを検出しました。以下の代替メッセージのいずれかがこのメッセージと共に送られ、エラーについてさらに詳しく説明します。

- ARX0766E
- ARX0767E
- ARX0768E

システムの処置: システムの処置は、エラーの内容によって異なります。詳細については、代替メッセージを参照してください。

ユーザーの処置: 結果獲得サービス・ルーチンを呼び出したアプリケーションの作成者に連絡してください。

モジュール: ARXERSLT

宛先: REXX ユーザー

ARX0766E The GETBLOCK parameter is not valid under the current operation.

説明: 外部関数またはサブルーチンからのみ、GETBLOCK パラメーターを使用して結果獲得ルーチン (ARXRLT) を呼び出すことができます。REXX プログラムがコマンドの場合、または現在の環境でプログラムが実行されていない場合は、このルーチンは呼び出せません。

外部関数またはサブルーチンから、GETBLOCK パラメーターを使用して結果獲得ルーチンを呼び出すように、アプリケーションを訂正しなければなりません。

システムの処置: 新しい計算ブロックは獲得されません。元の REXX 計算ブロックは、そのまま変更されません。エラー・コードが呼び出し側に渡されます。

ユーザーの処置: 結果獲得サービス・ルーチンを呼び出したアプリケーションの作成者に連絡してください。

モジュール: ARXERSLT

宛先: REXX ユーザー

ARX0767E There was insufficient storage available for the new REXX evaluation block.

説明: 結果獲得ルーチン (ARXRLT) は、新しい REXX 計算ブロックのために要求されたストレージを取得することができません。

システムの処置: 新しい計算ブロックは獲得されません。元の REXX 計算ブロックは、そのまま変更されません。エラー・コードが呼び出し側に渡されます。

ユーザーの処置: 新しい REXX 計算ブロックのために要求されたデータ域の長さを検査してください。または、結果獲得サービス・ルーチンを呼び出したアプリケーションの作成者に連絡してください。

モジュール: ARXERSLT
宛先: REXX ユーザー

ARX0768E The length specified for the new REXX evaluation block is not valid.

説明: 新しい REXX 計算ブロックのために要求されるデータ域の長さ (バイト数) を含んでいなければならないパラメーターが、負数か、または許容最大値を超えています。
システムの処置: 新しい計算ブロックは獲得されません。元の REXX 計算ブロックは、そのまま変更されません。エラー・コードが呼び出し側に渡されます。
ユーザーの処置: 新しい REXX 計算ブロックのために要求されたデータ域の長さを検査してください。または、結果獲得サービス・ルーチンを呼び出したアプリケーションの作成者に連絡してください。
モジュール: ARXERSLT
宛先: REXX ユーザー

ARX0770E An error occurred during a request for the REXX evaluation block.

説明: 結果獲得ルーチン (ARXRLT) が、どのタイプのサービスの実行も禁止するエラーを検出しました。代替メッセージ ARX0771E または ARX0772E がこのメッセージと共に送られ、エラーについてさらに詳しく説明します。
システムの処置: システムの処置は、エラーの内容によって異なります。詳細については、代替メッセージを参照してください。
ユーザーの処置: 結果獲得サービス・ルーチンを呼び出したアプリケーションの作成者に連絡してください。
モジュール: ARXERSLT
宛先: REXX ユーザー

ARX0771E Function is not a valid function for the get result routine.

説明: 結果獲得ルーチン (ARXRLT) が実行する機能を含んでいなければならないパラメーターが、許可されている値に一致しませんでした。
システムの処置: エラー・コードが呼び出し側に渡されます。
ユーザーの処置: 結果獲得ルーチンに渡されるパラメーター・リストの機能フィールドに入っている値を検査してください。または、結果獲得サービス・ルーチンを呼び出したアプリケーションの作成者に連絡してください。
モジュール: ARXERSLT
宛先: REXX ユーザー

ARX0772E The parameter list to ARXRLT is invalid.

説明: 結果獲得ルーチン (ARXRLT) に渡されるパラメーター・リストが無効です。
システムの処置: ARXRLT 処理は終了します。
ユーザーの処置: 結果獲得ルーチンに渡されるパラメーター・リストに入っている値を検査してください。または、結果獲得サービス・ルーチンを呼び出したアプリケーションの作成者に連絡してください。
モジュール: ARXERSLT

宛先: REXX ユーザー

ARX0798I The REXX environment cannot be terminated.

説明: REXX 言語処理プログラム環境を終了できません。次の理由が考えられます。

- リカバリーを行うことができない
- ストレージを獲得できない
- フェーズをロードできない
- 逐次化を行うことができない
- REXX プログラムがまだ実行中である。

システムの処置: REXX 言語処理プログラム環境は終了しません。
ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。
モジュール: ARXITERM
宛先: REXX ユーザー

ARX0801E Unable to serialize or release serialization when accessing the data stack.

説明: データ・スタック・ルーチンが、データ・スタックにアクセスしていたときに、逐次化を実行できなかったか、または逐次化を解放できませんでした。
システムの処置: データ・スタック処理は終了します。
ユーザーの処置: システム・プログラマーに連絡してください。
モジュール: ARXESTK
宛先: REXX ユーザー

ARX0802E Storage not available.

説明: スタック制御ブロックまたはエレメントのための動的ストレージが使用可能ではありませんでした。
システムの処置: データ・スタック処理は終了します。
ユーザーの処置: 区画の GETVIS 域を大きくするか、またはシステム・プログラマーに援助を依頼してください。
モジュール: ARXESTK
宛先: REXX ユーザー

ARX0803E Invalid stack function, function requested.

説明: データ・スタック・ルーチンの呼び出しに、サポートされていない機能要求が指定されました。
システムの処置: データ・スタック処理は終了します。
ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。
モジュール: ARXESTK
宛先: REXX ユーザー

ARX0804E Serialization control was not obtained prior to executing a data stack function.

説明: データ・スタックの呼び出しが、INIT または TERM 機能を要求しましたが、呼び出し側には逐次化制御がありませんでした。
システムの処置: データ・スタック処理は終了します。

ARX0805E • ARX0950E

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXESTK

宛先: REXX ユーザー

ARX0805E The stack that was associated with the active environment block at initialization no longer exists.

説明: このプログラムまたは機能が開始されたときに使用されていたデータ・スタックが、もう存在しません。複数の REXX 環境を設定し、それらを設定時とは逆の順序で終了しなかったことが原因だと考えられます。

システムの処置: データ・スタック処理は終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXESTK

宛先: REXX ユーザー

ARX0806E Either the stack marker counter was not correct or a stack function was requested before the stack was initialized.

説明: データ・スタックで内部制御ブロック・エラーが検出されたか、または、スタックが初期設定されていない REXX 環境を処理するために、スタック処理が呼び出されました。

システムの処置: データ・スタック処理は終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXESTK

宛先: REXX ユーザー

ARX0810E Table synchronization error for the current ADDRESS environment.

説明: アクティブ ADDRESS 環境の初期設定が完了していなかったため、現在のプログラムの中のホスト・コマンドを処理できませんでした。

システムの処置: ホスト・コマンド環境ルーチンは終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXSYSHO

宛先: REXX ユーザー

ARX0811E Accessing of exec variables was not complete after ADDRESS environment environment completed.

説明: 示されている ADDRESS 環境用のホスト・コマンドを呼び出しているときに、プログラム変数へのアクセスを同期しようとしていましたが、その間に問題が発生しました。

システムの処置: ホスト・コマンド環境ルーチンは終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXSYSHO

宛先: REXX ユーザー

ARX0812E Exec variables were being accessed while the exec was executing.

説明: 外部関数、サブルーチン、またはホスト・コマンドから戻るときに、プログラム変数へのアクセスを同期しようとしていましたが、その間に問題が発生しました。

システムの処置: ホスト・コマンド環境ルーチンまたは機能検索ルーチンは終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXSYSFU ARXSYSHO

宛先: REXX ユーザー

ARX0813E System error while attempting to load ADDRESS environment environment.

説明: ADDRESS 環境をロードできませんでした。入出力エラーが発生したか、または環境名が見つかりませんでした。

システムの処置: ホスト・コマンド環境ルーチンは終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXSYSHO

宛先: REXX ユーザー

ARX0814E Accessing of exec variables was not complete after external function/subroutine completed.

説明: 外部関数、サブルーチン、またはホスト・コマンドの呼び出し時または戻り時に、プログラム変数へのアクセスを同期しようとしていましたが、その間に問題が発生しました。

システムの処置: ホスト・コマンド環境ルーチンまたは機能検索ルーチンは終了します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに援助を依頼してください。

モジュール: ARXSYSFU

宛先: REXX ユーザー

ARX0950E RC=return_code,FDBK=feedback_code received from VSE/POWER command: command_syntax.

説明: VSE/POWER がコマンドを処理しようとしていたときに、エラーが発生しました。(command_syntax には、そのコマンドの最初の 50 文字だけが入れられます。)

システムの処置: コマンドは処理されていません。

ユーザーの処置: return_code および feedback_code からの情報を使用して、コマンドの構文を訂正してください。(return_code および feedback_code については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER アプリケーション・プログラミング」を参照してください。)

モジュール: ARXPOWER

宛先: REXX ユーザー

ARX0960E ERROR Running Function name, RC=nn

説明: 関数パッケージ ARXEFCO からの REXX 関数が失敗しました。 *name* は、失敗した REXX 関数の名前を示し、*nn* は、障害の理由を示します。RC の詳細については、「IBM VSE/ESA VSE 中央機能 VSE/REXX 解説書」で『REXX/VSE コンソール・オートメーション』のトピックのセクション『失敗した関数のエラー・コード』、または『REXX ソケット・アプリケーション・プログラム・インターフェース』のトピックのセクション『REXX ソケット・システム・メッセージ』を参照してください。

システムの処置: その関数は処理されません。

ユーザーの処置: エラー・コード RC の説明を調べ、それに従ってください。

モジュール: ARXEFCO

宛先: REXX ユーザー

ARX0970I JOB job_name job_number status
NODE=node_name DATE=mm/dd/yy
TIME=hh/mm/ss MAXRC=nnnn
LASTRC=nnnn ORG=nnnnn

説明: このメッセージは、ジョブが実行されたときの、または取り消されたときの、ジョブの状況についての情報を提供します。

status は EXECUTED か CANCELED のいずれかです。これは、サブミットされたジョブがサブミットされたこと、または取り消されたことを示します。*node_name* は、LOCAL であるか、あるいは、ジョブの実行または取り消しが行われた VSE ノードを示す 8 文字までの名前です。これは、VSE/POWER * \$\$ JOB ステートメントの DEST パラメーターから得られたものです。例えば DEST=(*,*userid*) の場合、名前は LOCAL です。DEST=(REXXVSE,*userid*) の場合、*node_name* は REXXVSE です。MAXRC の後に続く数値は、実行されたジョブの最大戻りコードです。LASTRC の後に続く数値は、実行されたジョブの最後のジョブ・ステップの戻りコードです。ORG の後に続く数値は、ジョブが DISP=I で生成されていれば元のジョブ番号、そうでなければブランクです。DISP=I は、このジョブを生成するジョブの POWER JCL ステートメント * \$\$ PUN で使用されるパラメーターです。

システムの処置: ジョブをメッセージで指示されているように実行するか、または取り消してください。

ユーザーの処置: なし。

モジュール: ARXWAIT

宛先: REXX ユーザー

ARX0980E THE PROGRAM CALLED BY ADDRESS
env IS NOT AUTHORIZED TO ISSUE:
service

説明: ADDRESS LINK または LINKPGM からユーザー・プログラムが呼び出されましたが、ユーザー・プログラムは、VSE サービスを出す権限がありませんでした。*env* は LINK か LINKPGM のいずれかで、*service* には 'SVC 14' のような名前が入ります (例えば EOJ マクロの場合)。

プログラムが、LINK/LINKPGM ホスト・コマンド環境によっ

て実行されるべきものであれば、テーブル ARXEOJTB に項目を追加してください。

システムの処置: REXX プログラムは終了します。

ユーザーの処置: ユーザー・プログラムが ADDRESS LINK または ADDRESS LINKPGM の使用のためにサポートされているかどうか、システム管理者に判別してもらってください。

モジュール: ARXSTAMP

宛先: REXX ユーザー

ARX0996I SYSTEM ACTIVITY MEASUREMENT,
ERROR CODE= nn

説明: REXX CPU モニターを実行中に、システム・アクティビティ測定トランザクションの問題が起きました。エラー・コード *nn* は、「IBM VSE/ESA VSE 中央機能 VSE/REXX 解説書」で説明されています。

システムの処置: システム・アクティビティの測定は開始されず、したがって、メッセージ ARX0998I は作成されません。ユーザーの処置: エラー・コードの説明を調べ、それに従ってください。エラー・コードで構文エラーが示された場合は、トランザクション IEXM の呼び出しを訂正してください。

モジュール: ARXITCPU

宛先: REXX ユーザー

ARX0997I REXX VECTOR TABLE NOT INITIALIZED

説明: REXX/VSE の初期設定は、通常、スタートアップ時に行われます。スタートアップ時にこのステップが省略されていたか、失敗しました。

システムの処置: システム・アクティビティの測定は停止します。したがって、メッセージ ARX0998I は作成されません。

ユーザーの処置: REXX 初期設定ジョブ ARXINST の // EXEC ARXLINK ステップを実行してください。

モジュール: ARXITCPU

宛先: REXX ユーザー

ARX0998I PID partid JOB jobname EXCEEDS LIMITS:
[ELAPSED= hh:mm:ss] [CPU TIME= [n.n].nn
] [%CPU= nn] [I/O= n.n] [IORATE= n.n
]

説明: REXX CPU モニターが実行中です。区画 *partid* で実行中のジョブ *jobname* に関して、関数 SYSDEF でセットされたいずれかの限界を超えたことが判明しました。

システムの処置: これは通知メッセージにすぎません。REXX CPU モニターはシステムのモニターを続けます。

ユーザーの処置: 適切な処置を定義することができます。この方法については、「IBM VSE/ESA VSE 中央機能 VSE/REXX 解説書」を参照してください。

モジュール: ARXITCPU

宛先: REXX ユーザー

接頭部 **ARX**

第 10 章 接頭部 ASMA の高水準アセンブラー・メッセージ

High Level Assembler for VSE は、次のタイプのメッセージを生成します。

- アセンブリー・エラー診断メッセージ
- アセンブリー異常終了メッセージ
- ASMAHL コマンド・エラー・メッセージ (CMS のみ)

次のセクションでは、アセンブラーにより出されるメッセージの形式と配置について説明します。 490 ページの『アセンブリー・エラー診断メッセージ』および 525 ページの『異常アセンブリー終了メッセージ』では、各メッセージをリストし、説明します。

メッセージ・コード形式

アセンブリー・エラー診断メッセージおよびアセンブリー異常終了メッセージのメッセージ・コード形式は次のとおりです。

ASMAmms

nnn 3 文字のメッセージ番号

s 重大度標識

重大度標識および対応する重大度コードは次のとおりです。

I - 通知

(重大度コード = 0)

このエラーは、プログラムの実行には影響を与えませんが、効率の悪いコーディングまたはその他の変更可能な条件を指します。アセンブラーは、プログラムの正確さに影響を与える条件は検出しませんでした。

N - 注意

(重大度コード = 2)

このタイプのメッセージは、訂正を要する可能性のある条件について、注意を喚起します。アセンブラーはプログラムの正確さに影響を与える条件は検出しませんでした。アセンブリーの出力が、期待するものではない場合があります。

W - 警告

(重大度コード = 4)

ステートメントで発生した条件は、構文的には正しいが、プログラムの実行時にエラーを起こす可能性があります。

E - エラー

(重大度コード = 8)

この条件は明確にエラーです。しかし、アセンブラーはエラーを訂正しようとしたか、またはエラーのステートメントを無視しました。プログラムは、おそらく、正常には実行されません。

S - 重大

(重大度コード = 12)

この条件は重大エラーです。アセンブラーがエラーのステートメントを無視したか、機械命令がゼロにアセンブルされました。プログラムが期待どおりアセンブルされ、実行されることはあり得ません。

C - クリティカル

(重大度コード = 16)

この条件はクリティカル・エラーです。プログラムが正常に実行されることはあり得ません。

U - リカバリー不能

(重大度コード = 20)

このエラー条件の程度は、アセンブラーが続行できないほどのものです。

ASMAHL コマンド・エラー・メッセージのメッセージ・コード形式は次のとおりです。

ASMACMS nnn E

ここで、

nnn 3 文字のメッセージ番号です。

E 単に、エラーを示すだけです。場合によっては、メッセージが出された後もアセンブリーが続行することがあります。

LANGUAGE アセンブラー・オプション: 特に指示がなければ、ASMAHL コマンド・エラー・メッセージのテキストは、インストール・システム・デフォルト・オプションの LANGUAGE オペランドで指定された言語で作成されます。

メッセージ記述

アセンブリー・エラー診断メッセージおよびアセンブリー異常終了メッセージの各メッセージ項目には、次のような 5 つのセクションがあります。

- メッセージ番号とテキスト
- メッセージの説明
- システムの処置
- プログラマーの応答
- 重大度コード

ASMAHL コマンド・エラー・メッセージの説明項目は、それぞれ、以下のうちの最大 5 つのセクションで構成されています。

- メッセージ番号とテキスト
- メッセージの説明
- 補足情報
- システムの処置
- プログラマーの応答

メッセージ番号とテキスト

メッセージ番号およびメッセージ・テキストの主要固定部分のみが、メッセージ記述に含まれます。実際のメッセージ・テキストが省略されている場合は、メッセージの説明の項で記述されています。未使用のメッセージ番号は、メッセージ番号順

序におけるギャップを表します。このセクションに含まれない番号 (例えば、ASMA222) に対しては、メッセージは定義されていません。

メッセージの説明

一部のメッセージは複数の説明が記述されています。それは、アセンブラの別々のセクションが同じメッセージを生成することがあるからです。アセンブラ終了メッセージは、同じ説明のものがいくつかあります。

補足情報

ASMAHL コマンド・エラー・メッセージについては、メッセージ・テキスト内の変数の内容を補足情報で説明します。

システムの処置

このセクションでは、アセンブラがエラーのあるステートメントをどのように処理するのかを説明します。次の処理が行われます。

- 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。
- アセンブラ命令は、通常、無視されます。アセンブラ命令は印刷されますが、アセンブリーには何の影響も与えません。しかし、多数のアセンブラ命令は部分的に処理されるか、またはデフォルト値で処理されます。命令によっては、エラーのオペランドに先行するオペランド、またはエラーのオペランド以外のすべてのオペランドが処理されます。例えば、DROP ステートメントの複数のオペランドの 1 つが、レジスター番号として評価できない記号である場合、そのオペランドのみが無視されます。正しく指定されたレジスターは、すべて、正しく処理されます。
- アセンブラ・ステートメントによっては、特にマクロ原型ステートメントと条件付きアセンブル・ステートメントの場合、エラーのオペランドまたは用語にはデフォルト値が与えられます。したがって、ステートメントは完全にアセンブルされますが、プログラムの実行時に誤った結果をもたらすことがあります。

ASMAHL コマンド・エラー・メッセージの場合、このセクションは、コマンドの戻りコードとエラー発生後のシステムの状況を述べます。

プログラマーの応答

エラーの多くは、特定または推定原因を持っています。そのような場合、「プログラマーの応答」セクションは、エラー修正のための特定のステップを提示します。しかし、ほとんどのメッセージは、推定原因が多すぎてリストしきれません (キー入力エラーやステートメントの間違った使用など)。このようなエラー・メッセージに対する「プログラマーの応答」セクションは、特定の指示を出しません。そのようなエラーのほとんどは、メッセージ・テキストと説明から原因が判明します。

重大度コード

重大度コードのレベルは、エラーがどの程度かを示します。重大度コードとその意味については、487 ページの『メッセージ・コード形式』で説明されています。

アセンブリーの終了を引き起こす ASMAHL コマンドで出されるメッセージは 20 より大きい戻りコードを返しますが、ASMAHL コマンド・エラー・メッセージに重大度コードは表示されません。

重大度コードは、アセンブラーがオペレーティング・システムに制御を戻すとき、アセンブラーが出す戻りコードを決めるために使用されます。IBM 提供のカタログ式プロシージャ (MVS 版) は、リンク・エディット・ステップと実行ステップで COND パラメーターを指定しています。COND パラメーターは、アセンブラーからの戻りコードが 8 より大きい場合、リンク・エディット・ステップおよび実行ステップの実行を抑制します。したがって、重大度コードが S のエラーが起こると、そのアセンブル済みプログラムにリンク・エディットまたは実行は行われません。メッセージ内の重大度コードが E またはそれ以下のエラーでは、アセンブル済みプログラムはリンク・エディットまたは実行を抑制されません。

アセンブリー・エラー診断メッセージ

High Level Assembler for VSE は、ほとんどのエラー・メッセージを、エラーのステートメントの直後に続くリストに印刷します。また、フラグ付きステートメントの合計数とそのステートメント番号を、アセンブラー・リストの「診断相互参照とアセンブラー要約」セクションにも印刷します。

以下の場合、エラーのステートメントの後にメッセージは出されません。

- ライブラリーから読み取られたマクロ定義の編集集中に、エラーが検出された場合。そのようなエラーに対するメッセージは、ソース・プログラムにおけるマクロ定義への最初の呼び出しの後に現れます。ただし、COPY ステートメントによりマクロ定義をソース・プログラムに組み込むことができます。その場合は、編集エラー・メッセージがエラーのステートメントに付加されます。
- エラーがアセンブラーの先読み機能により検出された場合。(属性参照のために、先読み処理はアセンブル中のステートメントの後のステートメントをスキャンします。)。これらのエラーに対するメッセージは、エラーが発生したステートメントの後に現れます。メッセージは、先読みが呼び出されたポイントにも現れます。
- マクロ生成または MHELP テスト時の条件付きアセンブリー・ステートメントでエラーが検出された場合。そのようなメッセージは、最後に生成されたステートメントまたは MHELP 出力ステートメントの後に続きます。

一般的なエラー診断メッセージは次のとおりです。

** ASMA057E Undefined operation code - xxxxx

エラーのステートメントの一部分のコピー (上記の xxxxx 部分) が多くのメッセージに挿入されます。通常、この部分は無効な文字または用語のところから始まり、しかし、エラーによっては、この部分が無効な文字または用語の後から始まる場合もあります。この部分に注釈フィールドの一部が入っている場合もあります。

診断メッセージが、マクロ定義により生成されたステートメントに続く場合は、次の項目がエラー・メッセージに追加される場合があります。

- エラーが発生したモデル・ステートメントの番号、またはマクロ名の最初の 5 文字。
- エラーに関連した SET 記号、パラメーター番号、または文字列値。

マクロ・パラメーターへの参照は、キーワードおよび定位置パラメーターの番号 (KPARM0001 など) と名前フィールドおよびシステム・パラメーターの名前によって行われます。標準のシステム・パラメーターは次のとおりです。

&SYSNDX	&SYSSTMT	&SYSIN_VOLUME	&SYSPUNCH_MEMBER
&SYSECT	&SYSCLOCK	&SYSLIB_DSN	&SYSPUNCH_VOLUME
&SYSLOC	&SYSNEST	&SYSLIB_MEMBER	&SYSLIN_DSN
&SYSTIME	&SYSSEQF	&SYSLIB_VOLUME	&SYSLIN_MEMBER
&SYSDATE	&SYSOPT_DBCS	&SYSPRINT_DSN	&SYSLIN_VOLUME
&SYSASM	&SYSOPT_OPTABLE	&SYSPRINT_MEMBER	&SYSADATA_DSN
&SYSVER	&SYSOPT_RENT	&SYSPRINT_VOLUME	&SYSADATA_MEMBER
&SYSDATC	&SYSOPT_XOBJECT	&SYSTEM_DSN	&SYSADATA_VOLUME
&SYSJOB	&SYSTEM_ID	&SYSTEM_MEMBER	&SYSPARM
&SYSSTEP	&SYSIN_DSN	&SYSTEM_VOLUME	&SYSM_SEV
&SYSSTYP	&SYSIN_MEMBER	&SYSPUNCH_DSN	&SYSM_HSEV

キーワード・パラメーターは、マクロ定義で定義された順序で、KPARM0001 から番号が付けられます。定位置パラメーターは、マクロ定義で定義された順序で、PPARM0001 から番号が付けられます。

ソース・プログラム内の条件付きアセンブル・ステートメントの後に診断メッセージが続く場合、エラー・メッセージには以下の項目が付加されます。

- 「オープン・コード」を意味する語「OPENC」
- エラーに関連した SET 記号または文字列値

単一ステートメント、またはステートメント内の単一エラーに対し、複数のメッセージが出される場合があります。なぜこのようなことが起こるかといえば、それぞれのステートメントが、通常、アセンブラの複数のレベル (例えば、用語レベル、式レベル、およびオペランド・レベル) または複数のフェーズにより評価されるからです。それぞれのレベルまたはフェーズでエラーが診断されます。したがって、ステートメントのすべてのエラーにフラグが付けられます。ときにより、重複したエラー・メッセージが出る場合があります。これは、エラー検出処理の通常の結果です。

不明のメッセージ

次のようなメッセージがリストに現れることがあります。

```
** ASMA000S Message not known - nnn
```

このメッセージの前のステートメントにはエラーが含まれていますが、そのエラーを検出したアセンブラ・ルーチンが、存在しないエラー・メッセージの番号 (*nnn*) をアセンブラのメッセージ生成ルーチンに発行しました。エラーを訂正できる場合には、このステートメントは正しくアセンブルされます。しかし、このメッセージは、アセンブラのエラー検出プロセスに誤りがあることを示しています。このアセンブリーの出力とソース・デックを保管し、問題を IBM 技術員に報告してください。

メッセージ

ASMA001E Operation code not allowed to be generated - xxxxxxxx

説明: 変数シンボル置換文字で、制限付き命令コードを作成することを試みました。制限付き命令コードは以下のとおりです。

ACTR	AGO	AGOB	AIF
AIFB	ANOP	AREAD	COPY
GBLA	GBLB	GBLC	ICTL
ISEQ	LCLA	LCLB	LCLC
MACRO	MEND	MEXIT	REPRO
SETA	SETAF	SETB	SETC
SETCF			

システムの処置: そのステートメントは無視されます。
 プログラマーの応答: 変数命令コードが必要な場合は、AIF を使用して、正しい、制限のないステートメントへブランチしてください。
 重大度: 8

ASMA002S Generated statement too long; statement truncated - xxxxxxxx

説明: マクロ定義で生成したステートメントが 1728 文字より長くなっています。
 システムの処置: ステートメントは切り捨てられ、最初から 1728 文字までが保存されます。
 プログラマーの応答: ステートメントを短くしてください。
 重大度: 12

ASMA003E Undeclared variable symbol; default=0, null, or type=U - xxxxxxxx

説明: ステートメントのオペランド・フィールドにある変数シンボルを、SET ステートメントの名前フィールド、LCL または GBL ステートメントのオペランド・フィールド、またはマクロ原型ステートメントで宣言 (定義) していません。
 システムの処置: 変数シンボルには、以下のようなデフォルト値が与えられます。

SETA = 0
 SETB = 0
 SETC = null (empty) string

変数のタイプ属性 (T') にはデフォルト値 U (未定義) が与えられます。
 プログラマーの応答: 変数をオペランドとして使用する前に、変数を宣言してください。
 重大度: 8

ASMA004E Duplicate SET symbol declaration; first is retained - xxxxxxxx

説明: SET 記号を 2 回以上宣言 (定義) しています。SET 記号は SET ステートメントの名前フィールド、LCL または GBL ステートメントのオペランド・フィールド、またはマクロ原型ステートメントで使用したときに宣言しています。
 システムの処置: SET 記号の最初の宣言の値が使用されます。
 プログラマーの応答: 誤っている宣言は除去してください。
 重大度: 8

ASMA005S No storage for macro call; continue with open code

説明: 内部マクロ呼び出しは、使用できる主ストレージがないため処理できません。
 システムの処置: アセンブリーは次のオープン・コード・ステートメントから続行されます。
 プログラマーの応答: マクロが再帰的かどうか検査し、もしそうであれば、終了が提供されているかどうかによって、必要であればマクロを訂正してください。マクロが正しければ、主ストレージをさらに割り振ってください。
 重大度: 12

ASMA006I Lookahead invoked

説明: これは、命令の記号参照を解決するために、アセンブリーが先読みモードに入ったことを表します。記号参照としては、次のようなものがあります。

- まだ定義されていない記号への属性参照 (D' および O' 以外)、または
- オープン・コードでの順方向 AGO または AIF

システムの処置: アセンブリーは続行されます。
 プログラマーの応答: なし。
 重大度: 0

ASMA007S Previously defined sequence symbol - xxxxxxxx

説明: 名前フィールドの順序記号を、前のステートメントの名前フィールドで使用しています。
 システムの処置: 順序記号の最初の定義が使用されます。この定義は無視されます。
 プログラマーの応答: 順序記号のどちらかを除去するか、変更してください。
 重大度: 12

ASMA008S Previously defined symbolic parameter - xxxxxxxx

説明: 2 つの異なるシンボル・パラメーターを定義するために記号 xxxxxxxx が使われました。
 システムの処置: パラメーター名 (変数シンボル) がマクロ定義内で使用された場合、それは、原型内のパラメーターの最初の定義を参照します。しかし、変数シンボルで定義された 2 番目のパラメーターが定位置パラメーターの場合、定位置オペランドの総数はさらに 1 つ増えます。2 番目のパラメーターは、&SYSLIST の使用によってのみ参照できます。
 プログラマーの応答: パラメーター名のいずれかを別の変数シンボルに変更してください。
 重大度: 12

ASMA009S System variable symbol illegally re-defined

説明: システム変数シンボルを、マクロ原型ステートメントの名前フィールドで使用しました。システム変数シンボルは以下のとおりです。

&SYSADATA_DSN	&SYSNDX
&SYSADATA_MEMBER	&SYSNEST
&SYSADATA_VOLUME	&SYSOPT_DBCS
&SYSASM	&SYSOPT_OPTABLE
&SYSCLOCK	&SYSOPT_RENT
&SYSDATC	&SYSOPT_XOBJECT
&SYSDATE	&SYSPARM
&SYSECT	&SYSPRINT_DSN
&SYSIN_DSN	&SYSPRINT_MEMBER
&SYSIN_MEMBER	&SYSPRINT_VOLUME
&SYSIN_VOLUME	&SYSPUNCH_DSN
&SYSJOB	&SYSPUNCH_MEMBER
&SYSLIB_DSN	&SYSPUNCH_VOLUME
&SYSLIB_MEMBER	&SYSSEQF
&SYSLIB_VOLUME	&SYSSTEP
&SYSLIN_DSN	&SYSSTMT
&SYSLIN_MEMBER	&SYSSTYP
&SYSLIN_VOLUME	&SYSTEM_ID
&SYSLIST	&SYSTEM_DSN
&SYSLOC	&SYSTEM_MEMBER
&SYSM_HSEV	&SYSTEM_VOLUME
&SYSM_SEV	&SYSTIME
&SYSMAC	&SYSVER

システムの処置: 名前パラメーターは無視されます。対応するマクロ命令の名前は生成されません。

プログラマーの応答: パラメーターを、システム変数シンボルではないものに変更してください。

重大度: 12

ASMA010E Invalid use of symbol qualifier - xxxxxxxx

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- 以下のもの以外の記号を修飾する記号修飾子を使用した。
 - 機械命令
 - S タイプ・アドレス定数の公称値
 - 従属 USING ステートメントのサポートされているアドレス・オペランド
- 再配置可能アドレスを表現する記号が必要な所で、絶対値を持つ記号を修飾する記号修飾子を使用した。
- ラベル付きの対応する USING ステートメントの範囲内がない記号を修飾する記号修飾子を使用した。
- 定義していない記号を修飾する記号修飾子を使用した。
- 誤った記号を修飾する記号修飾子を使用した。
- ピリオドを項の最後の文字として使用したが、ピリオドの前の記号が、ラベル付きの USING ステートメントの名前フィールドで定義されていない。

記号修飾子は、機械命令、S タイプ・アドレス定数の公称値、または従属 USING 命令の第 2 オペランド (基底アドレスをサポートする) で使用できるだけです。記号修飾子は、ラベル付きの対応する USING の範囲内の記号を修飾するために使用できるだけです。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。アセンブラー命令は無視されます。ステートメント中にさらに

エラーがある場合は、そのエラーを記述するメッセージが出されます。

プログラマーの応答: 記号修飾子の使い方を訂正するか、または後のメッセージに示されているエラーのステートメントを調べてください。

重大度: 8

ASMA011E Inconsistent global declarations; first is retained - xxxxxxxx

説明: グローバル SET 変数シンボルが、複数のマクロ定義、またはマクロ定義とソース・プログラムで定義されていますが、この 2 つの定義は、タイプまたは次元が矛盾しています。

システムの処置: 最初に検出された定義が保存されます。

プログラマーの応答: 新しい SET 記号を割り当てるか、または宣言が互換性を持つようにしてください。

重大度: 8

ASMA012S Undefined sequence symbol - xxxxxxxx; macro aborted

説明: オペランド・フィールドの順序記号が定義されていません。つまり、順序記号をモデル・ステートメントの名前フィールドで使用していません。

システムの処置: マクロ定義は終了します。

プログラマーの応答: 順序記号を定義するか、順序記号の参照を訂正してください。

重大度: 12

ASMA013S ACTR counter exceeded - xxxxxxxx

説明: 条件付きアセンブル・ループ・カウンタ (ACTR ステートメントで設定する) がゼロになりました。ACTR カウンタは、AIF または AGO ブランチが正常に処理されるたびに、1 ずつ減少します。このカウンタが、アセンブラーのマクロ編集機能フェーズが検出した多くのエラーのために、半減しました。

システムの処置: マクロ展開は停止します。ACTR ステートメントがソース・プログラムにある場合は、アセンブラーは停止します。

プログラマーの応答: AIF/AGO ループまたは別のタイプのエラーがないかどうか検査してください。(MHELP 機能を使用できます。この機能については、『High Level Assembler for MVS & VM & VSE Programmer's Guide』に説明があります。マクロ定義の論理を追うには、『Diagnosing Assembly Errors』のトピックと付録『MHELP Sample Macro Trace』を参照してください。) エラーがない場合は、ACTR 命令の初期カウントを増やしてください。

重大度: 12

ASMA014E Irreducible qualified expression

説明: 2 つ以上の修飾された記号を複合再配置式で使用したため、または異なる記号修飾子で修飾された 2 つ以上の記号を絶対式で組み合わせため、ステートメントを解明できません。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。

アセンブラー命令は無視されます。

プログラマーの応答: 絶対式を与えるか、またはエラーのある

修飾された記号を訂正してください。

重大度: 8

ASMA015W Literal bounds exceeded

説明: リテラルへの参照を含む式を解決して得られたアドレスが、そのリテラルの境界の外側です。これは、潜在的なエラーです。

システムの処置: 命令は書かれたとおりにアセンブルされません。

プログラマーの応答: 境界を超えないように式を変更してください。

重大度: 4

ASMA016W Literal used as a branch target

説明: ブランチ命令の宛先がリテラルです。これは、潜在的なエラーです。

システムの処置: 命令は書かれたとおりにアセンブルされません。

プログラマーの応答: 分岐宛先を正しく指定してください。

重大度: 4

ASMA017W Undefined keyword parameter; default to positional, including keyword - xxxxxxxx

説明: マクロ呼び出しのキーワード・パラメーターが、対応するマクロ原型ステートメントに定義されていません。

このメッセージは、等号を持つ有効な定位置パラメーターによっても生成されます。

システムの処置: キーワード (等号と値を含む) は定位置パラメーターとして使用されます。

プログラマーの応答: キーワードを原型ステートメントに定義するか、または有効な定位置パラメーターを括弧または単一引用符で囲んで、マクロ・コーディングを適切に調整してください。

重大度: 4

ASMA018S Duplicate keyword in macro call; last value is used - xxxxxxxx

説明: キーワード・オペランドが、マクロ呼び出しに 2 回以上使われています。

システムの処置: キーワードに最後に割り当てられた値が使用されます。

プログラマーの応答: キーワード・オペランドのいずれかを除去してください。

重大度: 12

ASMA019W Length of EQUated symbol xxxxxxxx undefined; default=1

説明: 等価にされた (EQUated) 記号に対して長さを指定しないで抽出された長さ属性の値が、デフォルト値 1 に設定されています。

システムの処置: 命令は書かれたとおりにアセンブルされません。

プログラマーの応答: 記号の長さ属性が定義されているかを確認してください。

重大度: 4

ASMA020E Illegal GBL or LCL statement - xxxxxxxx

説明: グローバル (GBL) またはローカル (LCL) 宣言ステートメントに、オペランドがありません。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: ステートメントを除去するか、オペランドを追加してください。

重大度: 8

ASMA021E Illegal SET statement - xxxxxxxx

説明: SETB ステートメントのオペランドが 0 または 1 でないか、SETB 式が括弧で囲まれています。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: オペランドを訂正するか、ステートメントを削除してください。

重大度: 8

ASMA022I START value rounded up to required boundary

説明: START 命令のオペランド・フィールドに指定された値が、必要な境界に切り上げられました。

システムの処置: アセンブリーは続行されます。

プログラマーの応答: メッセージが出されないようにするには、この値に、必要な境界を指定してください。

重大度: 0

ASMA023E Symbolic parameter too long - xxxxxxxx

説明: このステートメントのシンボル・パラメーターが長すぎます。最初の & 記号を含めて 63 文字を超えてはなりません。

システムの処置: シンボル・パラメーターと、このステートメントでシンボル・パラメーターの後に続くオペランドは無視されます。

プログラマーの応答: どのシンボル・パラメーターも、& 記号とその後に続く 1 から 62 文字の英数字 (先頭文字は英字) から成り立っていることを確認してください。

重大度: 8

ASMA024E Invalid variable symbol - xxxxxxxx

説明: 以下のいずれかのエラーが起きました。

- シンボル・パラメーターまたは SET 記号が、& 記号とその後続く 1 から 62 文字の英数字 (先頭文字は英字) ではない。
- SET 記号定義が、括弧で囲まれた有効な SET 記号式でない。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 有効な記号または式を与えてください。

重大度: 8

ASMA025S Invalid macro prototype operand - xxxxxxxx

説明: マクロ原型ステートメントのオペランド・フィールドの形式が正しくありません。例えば、2 つのパラメーターがコマンドで区切られていません。または、パラメーターに許可されていない文字があります。

システムの処置: 原型のオペランド・フィールドは無視されません。

プログラマーの応答: 有効なオペランド・フィールドを与えてください。

重大度: 12

ASMA026S Macro call operand too long; 255 leading characters deleted - xxxxxxxx

説明: マクロ命令のオペランドが 255 文字より長いです。

システムの処置: 先頭の 255 文字は削除されます。

プログラマーの応答: オペランドを 255 文字以内にするか、または 2 つ以上のオペランドに分割してください。

重大度: 12

ASMA027S Excessive number of operands

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- 32000 より多くの定位置オペランド、キーワード・オペランド、またはその両方が、マクロ原型ステートメントに明示的に定義された。
- 255 より多くのオペランドが DC、DS または DXD ステートメントにある。

システムの処置: 超過パラメーターは無視されます。

プログラマーの応答: DC、DS、または DXD ステートメントの場合は、2 つ以上のステートメントを使用してください。マクロ原型ステートメントの場合は、余分なオペランドを削除し、&SYSLIST を使用して定位置オペランドにアクセスするか、またはマクロ定義を再設計してください。

重大度: 12

ASMA028E Invalid displacement

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- 明示アドレスの変位フィールドが、範囲 0 から 4095 の絶対値ではない。
- S タイプ・アドレス定数の変位フィールドが、範囲 0 から 4095 の絶対値ではない。

システムの処置: ステートメントまたは定数はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 変位を訂正するか、またはこのステートメントの前に、最初の絶対オペランドがある正しい USING ステートメントを与えてください。

重大度: 8

ASMA029E Incorrect register specification - xxxxxxxx

説明: 値 xxxxxxxx が、次のいずれかの理由で無効です。

- xxxxxxxx が、0 から 15 の範囲内の絶対値でない。
- 偶数レジスターが必要な所で、奇数レジスターが使用されている。
- レジスターが必要なのに指定されていない。

システムの処置: 機械命令および S タイプ・アドレス定数の

場合、ステートメントまたは定数はゼロとしてアセンブルされます。USING および DROP ステートメントの場合、誤ったレジスター・オペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 有効なレジスターを指定してください。

重大度: 8

ASMA030E Invalid literal usage - xxxxxxxx

説明: リテラルを、アセンブラー命令、別のリテラル、またはそれが許可されていない機械命令のフィールドで使用しました。

システムの処置: リテラルを含んでいるアセンブラー命令は通常は無視され、命令の命令コードに関係する別のメッセージが出されます。機械命令はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 適用可能であれば、リテラルを DC ステートメントの名前で置き換えてください。

重大度: 8

ASMA031E Invalid immediate or mask field

説明: 機械命令の即値オペランドまたはマスク・オペランドの値が、それを表すためにはその命令で許される以上のビットを必要とするような値です。あるいは、即値オペランドの値が、SRP 命令では 9 を超えており、MC 命令では 15 を超えています。

算術関係の文脈で使用される即値フィールドは符号付きが許されますが、論理関係の文脈では許されません。例えば、

```
AHI r1,-30000   は有効ですが、
AHI r1,50000   は無効です。
```

```
TMH r1,50000   は有効ですが、
TMH r1,-30000 は無効です。
```

システムの処置: 命令はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 有効な即値オペランドを使用するか、DC ステートメントまたはリテラルに即値情報を指定し、ステートメントを非即値タイプに変更してください。

重大度: 8

ASMA032E Relocatable value found when absolute value required - xxxxxxxx

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- 絶対式が必要な所で再配置または複合再配置式を使用した。
- ストレージ・アドレスを決める式が必要な所で、アドレス定数のオペランドとして DSECT に基づいた式を使用した。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。DC、DS、または DXD ステートメントでは、エラーのオペランドとその後に続くオペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 絶対式または項を与えるか、またはアドレス定数の場合は、有効なストレージ・アドレス式を与えてください。

重大度: 8

ASMA033I Storage alignment for xxxxxxxx unfavorable

説明: このステートメントが参照したアドレスは、この命令の最適な境界に合わせられていません。例えば、ロード命令 (L) が参照したデータがハーフワード境界にある場合などです。

ASMA034W • ASMA040S

システムの処置: 命令は書かれたとおりにアセンブルされません。

プログラマーの応答: オペランドに誤りがあれば、オペランドを訂正してください。位置合わせを必要としない命令を使用しているか、または他の何らかの理由で位置合わせ検査を抑制したい場合は、NOALIGN アセンブラー・オプションまたは ACONTROL FLAG(NOALIGN) を指定することができます。ある特定のステートメントが正しい場合、以下に示すように、絶対変位および明示的な基底レジスターを使用してそのステートメントを書くことによって、このメッセージを抑制することができます。

```
L 1,SYM-BASE(,2)
```

重大度: 0

ASMA034W Operand operand beyond active USING range by xxxx bytes

説明: このステートメントのアドレスが、アクティブ USING ステートメントの範囲内にありません。

システムの処置: 命令はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: アクティブ USING の範囲を大きくしてください。

重大度: 8

ASMA035S Invalid delimiter - xxxxxxxx

説明:

- DC、DS、または DXD ステートメントで、区切り文字が必要であるのに欠落しているか、または不要な区切り文字があります。エラーは以下のいずれかであると思われる。
 - アドレス定数の引用符
 - 非アドレス定数の左括弧
 - 定数フィールドが引用符、左括弧、ブランク、またはコンマで始まっていない
 - DC の定数フィールドが空
 - アドレス定数の後に続くコンマまたは右括弧が欠落
 - S タイプ・アドレス定数のサブフィールド右括弧が欠落
 - 定数修飾子式の右括弧が欠落
- マクロ原型ステートメントのパラメーターの後に、有効な区切り文字 (コンマ、等号、またはブランク) がありません。
- DBCS オプションがオンで、変数シンボルの後にピリオドを入れずに SO があります。

システムの処置: エラーのオペランドまたはパラメーターと、その後に続くオペランドまたはパラメーターは無視されます。

プログラマーの応答: 有効な区切り文字を与えてください。

重大度: 12

ASMA036W Reentrant check failed

説明: 実行時にデータを制御セクションまたは共通域に保管する機械命令が検出されました。このメッセージは、再入可能検査がアセンブラー・オプション RENT によって、または RSECT 内で要求されたときだけ生成されます。

システムの処置: ステートメントは書かれたとおりにアセンブルされます。

プログラマーの応答: 再入可能コードが必要な場合は、命令を

訂正してください。必要な場合は、RSECT 命令で定義されていない制御セクションについては、アセンブラー・オプションとして NORENT を指定することにより、再入可能性検査を抑制することができます。RSECT 命令によって定義された制御セクションについては、再入可能性を抑制できません。

重大度: 4

ASMA037E Illegal self-defining value - xxxxxxxx

説明: 10 進数、2 進数 (B)、16 進数 (X)、または文字 (C) の自己定義項に、許可されていない文字があるか、または自己定義項が誤った形式です。

システムの処置: ソース・プログラムでは、エラーのオペランドとその後続くオペランドは無視されます。マクロ定義では、ステートメント全体が無視されます。

プログラマーの応答: 有効な自己定義項を与えてください。

重大度: 8

ASMA038S Operand value falls outside of current section/LOCTR

説明: ORG ステートメントが、その ORG を使用している制御セクションまたは LOCTR の外側の位置を指定しました。

ORG は、別のセクションまたは LOCTR への変更を強制できません。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: これが誤りなら、ORG ステートメントを変更してください。ORG ステートメントを処理する前に、CSECT、DSECT、COM、または LOCTR ステートメントを挿入して、ロケーション・カウンターを正しいセクションに設定してください。

重大度: 12

ASMA039S Location counter error

説明: ロケーション・カウンターの最大値を超えました。GOFF または DECK アセンブラー・オプションを指定すると、ロケーション・カウンターの最大値は X'FFFFFF' になります。

GOFF アセンブラー・オプションを指定すると、ロケーション・カウンターの最大値は X'FFFFFFFF' になります。システムの処置: アセンブリーは続行されますが、結果のコードはおそらく、正しく実行されません。

プログラマーの応答: 考えられる原因は、ORG ステートメントの値が大きいか、または START ステートメントの値が大きいためです。値を訂正するか、制御セクションを分けてください。

重大度: 12

ASMA040S Missing operand

説明: ステートメントはオペランドを必要としています。何も与えられていません。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。アセンブラー命令は無視されます。

プログラマーの応答: 欠落しているオペランドを与えてください。

重大度: 12

ASMA041E Term expected; text is unclassifiable - xxxxxxxx

説明: 以下のいずれかのエラーが起きました。

- 項が必要でしたが、検出された文字は、項 (文字、数字、=、+、-、*) で始まるものではない。
- 文字と引用符が、有効な項を成していない。文字が、L、C、G (DBCS オプション)、X、B ではない。

システムの処置: 別のメッセージがアセンブラー・ステートメントと共に表示されます。機械命令はゼロとしてアSEMBルされます。

プログラマーの応答: 欠落している句読点、自己定義項の誤っている文字、誤った属性要求、先頭にあるコンマ、または終わりにあるコンマがないかどうか検査してください。ここで受け入れられるのは長さ属性だけであることに注意してください。定義、位取り、タイプ、または整数の属性が必要な場合は、SETA ステートメントを使用し、その属性を必要とする所で変数シンボルを置き換えてください。

重大度: 8

ASMA042E Length attribute of symbol is unavailable; default=1

説明: このステートメントには、記号への長さ属性参照がありますが、記号の長さ属性が以下のいずれかの理由で使用できません。

- 記号が事前に定義されていない。
- 記号のタイプ属性が U である。

EQU 命令で定義された記号のタイプ属性は U ですが、この記号の長さへの参照を行っても、このメッセージは出されません。

- 先読み処理のため、長さを判別できない。記号を定義し、長さ属性を参照するステートメントが先読み処理を引き起こす場合は、先読み処理が完了するまで、その記号には長さ属性が割り当てられません。先読み処理が完了する前に、後続の条件付きアセンブラー・ステートメントで同じ長さ属性への参照を行うと、このメッセージが出されることがあります。

システムの処置: L' 属性はデフォルトにより 1 になります。プログラマーの応答: 記号が定義されていることを確認してください。エラーの原因が先読み処理であると思われる場合は、記号が参照される前に定義されるように、コードを再構成してください。

重大度: 8

ASMA043E Previously defined symbol - xxxxxxxx

説明: 名前フィールドにある記号、または EXTRN (または WXTRN) ステートメントのオペランド・フィールドにある記号は、前のステートメントで定義 (名前または EXTRN/WXTRN オペランドとして使用) されました。

システムの処置: このステートメントの名前または EXTRN/WXTRN オペランドは無視されます。EXTRN または WXTRN の後続のオペランドは処理されます。最初に出現した記号でその記号が定義されます。

プログラマーの応答: スペル・エラー (もしあれば) を訂正するか、記号を変更してください。

重大度: 8

ASMA044E Undefined symbol - xxxxxxxx

説明: オペランド・フィールドの記号が定義されていません。すなわち、その記号は、別のステートメントの名前フィールドで、EXTRN または WXTRN のオペランド・フィールドで、または前に処理された機械命令ステートメントのオペランドで (リテラルの場合) 使用されていません。

システムの処置: 機械命令またはアドレス定数はゼロとしてアSEMBルされます。DC、DS、DXD ステートメント、または、複写因数または長さ修飾子式では、エラーのオペランドとその後に続くオペランドは無視されます。EQU ステートメントでは、定義されていない記号の値としてゼロが割り当てられます。その他の命令は処理されません。

プログラマーの応答: 記号を定義するか、記号の参照を除去してください。

重大度: 8

ASMA045W Register or label not previously used - xxxxxxxx

説明: DROP ステートメントで指定されたレジスターまたはラベルは、USING ステートメントで前もって指定されていません。

システムの処置: この時点でアクティブでないレジスターまたはラベルは無視されます。

プログラマーの応答: 参照していないレジスターまたはラベルを、DROP ステートメントから除去してください。ブランクのオペランドを持つ DROP を指定することにより、すべてのアクティブ基底レジスターおよびラベルを一度に除去することができます。

重大度: 4

ASMA046E Bit 7 of CCW flag byte must be zero

説明: CCW、CCW0、または CCW1 ステートメントで指定されたチャネル・コマンド・ワードのフラグ・バイトのビット 7 が、ゼロではありません。

システムの処置: CCW、CCW0、または CCW1 はゼロとしてアSEMBルされます。

プログラマーの応答: 次回のアセンブラー時にこのメッセージを抑制するには、フラグ・バイトのビット 7 をゼロに設定してください。

重大度: 8

ASMA047E Severity code too large

説明: MNOTE ステートメントの重大度コード (最初のオペランド) が、* または 0 から 255 の符号なし 10 進数ではありません。

システムの処置: ステートメントは MNOTE 形式の代わりに標準形式で印刷されます。MNOTE には、このメッセージの重大度コードが与えられます。

プログラマーの応答: 重大度コードとして * または 255 以下の数値を選択するか、または、生成された重大度コードがないかどうか検査してください。

重大度: 8

ASMA048E ENTRY error - xxxxxxxx

説明: ENTRY ステートメントのオペランドで、以下のエラーのいずれかが検出されました。

- 記号の重複 (前の ENTRY)
- 記号が DSECT または COM セクションで定義された
- 記号が DXD ステートメントによって定義された
- 記号が定義されていない
- 記号が、絶対または複合再配置可能 EQU ステートメントによって定義された

システムの処置: この記号のための外部記号辞書の出力は抑制されます。

プログラマーの応答: ENTRY オペランドを正しく定義してください。

重大度: 8

ASMA049W Illegal range on ISEQ

説明: このメッセージが別のメッセージと一緒に表示された場合、これは助言です。このメッセージだけが表示された場合は、以下のエラーのいずれかを示しています。

- オペランドの値が 1 より小さいか 80 より大きい、または 2 番目のオペランド (右端の欄を探す) が最初のオペランド (左端の欄を探す) より小さい。
- オペランドが 2 つよりも多くまたは少なく与えられた、またはオペランドがヌル (空)。
- オペランドの式に定義されていない記号がある。
- オペランドの式が絶対式ではない。
- ステートメントが複雑すぎる。例えば、下方参照がある、または計算中の算術オーバーフローが起こる。
- ステートメントが循環定義されている。

システムの処置: 順序検査は停止します。

プログラマーの応答: 有効な ISEQ オペランドを与えてください。また、このステートメントの後に続くレコードが順番になっていることを確認してください。これらのレコードは、順序検査が行われていません。

重大度: 4

ASMA050E Illegal name field; name discarded - xxxxxxxx

説明: 以下のいずれかのエラーが起こりました。

- マクロ原型ステートメントの名前フィールドに、誤ったシンボル・パラメーター (変数シンボル) がある。
- マクロ定義の COPY ステートメントの名前フィールドに、ブランクまたは有効な順序記号以外の項目がある。

システムの処置: 誤った名前フィールドは無視されます。

プログラマーの応答: 誤った名前フィールドを訂正してください。

重大度: 8

ASMA051E Illegal statement outside a macro definition

説明: MEND、MEXIT、ASPACE、AEJECT、または AREAD ステートメントがマクロ定義の外側にあります。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: ステートメントを除去するか、マクロ定

義を使用する場合は、MACRO ステートメントを挿入してください。

重大度: 8

ASMA052S Record out of sequence - xxxxxxxx

説明: ISEQ アセンブラー命令の制御下の入力順序検査は、このステートメントが順不同であることを検出しました。ステートメントの順序番号がメッセージに表示されます。

システムの処置: ステートメントは正常にアセンブルされません。ただし、次のステートメントの順序番号は、このステートメントと比較して検査されます。

プログラマーの応答: 正しい順序でステートメントを配置してください。順序に割り込みたい場合、新しい ISEQ ステートメントと順序番号を配置してください。ISEQ はいつでも順序番号をリセットするので、ISEQ の後に続くレコードは順序検査されません。

重大度: 12

ASMA053W Blank sequence field - xxxxxxxx

説明: ISEQ アセンブラー・ステートメントが制御する入力順序検査は、ブランクの順序フィールドがあるステートメントを検出しました。最後に番号付けされたステートメントの順序番号がメッセージに表示されます。

システムの処置: ステートメントは正常にアセンブルされません。次のステートメントの順序番号は、順序フィールドがブランクではない最後のステートメントと比較して検査されます。

プログラマーの応答: 正しい順序番号をステートメントに付けるか、またはブランク・オペランドを指定した ISEQ ステートメントを使用することにより、ブランク・ステートメント以降の順序検査を停止させてください。

重大度: 4

ASMA054E Illegal continuation record

説明: 継続レコードを予期したときに、ステートメントが 11 レコード以上あるか、または入力終わりを検出しました。

システムの処置: すでに読み込まれているレコードはそのまま処理されます。ステートメントが 11 レコード以上ある場合は、次のレコードは新しいステートメントの始まりとして扱われます。

プログラマーの応答: 前者の場合は、ステートメントを 2 つ以上のステートメントに分けてください。後者の場合は、継続しているステートメントがライブラリー・メンバーの終わりに及んでいないことを確認してください。失われたレコードや不適切な継続文字がないかを検査してください。

重大度: 8

ASMA055S Recursive COPY

説明: ネストされた COPY ステートメント (別の COPY 内の COPY) が、高水準 COPY によってすでにコピーされているライブラリー・メンバーを、同じネストにコピーしようとしていました。

システムの処置: この COPY ステートメントは無視されません。

プログラマーの応答: これが誤りであれば、この COPY のオ

ペラントを訂正するか、同じライブラリー・メンバーが 2 つの異なるレベルで COPY ステートメントによってコピーされないようにするために、ネストを再配置してください。

重大度: 12

ASMA056W Absolute value found when relocatable value expected - xxxxxxxx

説明: ブランチ関連の命令内で、即値フィールドとして絶対式が使われています。ブランチ関連の命令の即値フィールドは、現在位置カウンターからの相対的な、ハーフワードの符号付き数値として使用されます。この値に対して絶対式を使用すると、結果は予測できません。

システムの処置: 命令は書かれたとおりにアセンブルされます。

プログラマーの応答: 再配置可能式を指定してください。

重大度: 4

ASMA057E Undefined operation code - xxxxxxxx

説明: 次のいずれかのエラーが起きました。

- このステートメントの命令コードが、有効な機械またはアセンブラー命令、またはマクロ名ではない。
- OPSYN ステートメントで、このオペランド記号が定義されていないかまたは不当である、またはオペランドがない場合は、名前フィールド記号が定義されていない。
- VSE 上では、High Level Assembler for VSE は、A のメンバー・タイプを持つ、または // OPTION SUBLIB=DF ステートメントを使用していれば、D のメンバー・タイプを持つライブラリー・マクロだけを読み取る。E または F のメンバー・タイプを持つ編集された (E デック) マクロは、LIBRARY 出口によってだけ読み取ることができる。

システムの処置: ステートメントは無視されます。OPSYN は、未定義オペランドについては、マクロ・ライブラリーを検索しないことに注意してください。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正してください。

定義されていないマクロ命令の場合は、マクロ・ライブラリー用に誤ったデータ・セットを指定している可能性があります。OPSYN の場合には、前の OPSYN またはマクロ定義が、命令コードを定義していない可能性があります。

示された命令コードが VSE 編集マクロ (E- デック) であれば、High Level Assembler for VSE は、そのコードを LIBRARY 出口を使用してだけ検出して読み取ることができません。「z/VSE Guide to System Functions」に記述されている VSE 提供の LIBRARY 出口を使用することをお勧めします。

重大度: 8

ASMA058E Invalid relative address - xxxxxxxx

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- 相対アドレスは奇数であるため、ハーフワードの数値として表すことができない。
- 相対アドレスと命令の再配置可能属性は同じだが、相対アドレスが制御セクション内にはない。

システムの処置: 命令はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: ハーフワード境界上にあり同じ制御セクション内にある有効な相対アドレスを指定してください。

重大度: 8

ASMA059C Illegal ICTL - xxxxxxxx

説明: ICTL ステートメントに以下のエラーのいずれかがあります。

- 命令コードが変数シンボル置換で作成された。
- アセンブリーの最初のステートメントでない。
- 1 つまたは 2 つ以上のオペランドの値が間違っている。
- オペランドが欠落している。

• オペランド・フィールドに許可されていない文字がある。

システムの処置: ICTL ステートメントは無視されます。アセンブリーは標準 ICTL の値を使用して続行されます。

プログラマーの応答: ICTL を訂正するか除去してください。

開始桁は 1-40 で、終止桁は 41-80 で少なくとも開始桁より 6 以上大きくなければなりません。継続桁は 2-40 でなければなりません。

重大度: 16

ASMA060S COPY code not found - xxxxxxxx

説明: (1) このメッセージが COPY ステートメントで出され、テキストがこのメッセージと共に印刷されなければ、以下のいずれかが起こっています。

- ライブラリー・メンバーが見つからない。
- 先読みフェーズは COPY ステートメントを前もって処理したが、ライブラリー・メンバーが見つからないか、コピーが再帰的か、オペランドに変数シンボルがある。COPY ステートメントがオープン・コードであれば、変数シンボルを使用できます。

(2) このメッセージが COPY ステートメントではない所で出され、このメッセージと共にライブラリー・メンバー名が印刷された場合は、アセンブラーの先読みフェーズは、名前が定義されていないかまたは変数シンボルがあるため、ライブラリー・メンバーを見つけられませんでした。

システムの処置: COPY ステートメントは無視されます。ライブラリー・メンバーはコピーされません。

プログラマーの応答: 正しいマクロ・ライブラリーが割り当てられていることを検査するか、ライブラリー・メンバー名のミススペルを検査してください。

COPY メンバーがどのマクロ・ライブラリーにも定義されておらず、AGO または AIF アセンブラー命令のために処理されない場合は、名前を付けたダミーの COPY メンバーをマクロ・ライブラリーに追加してください。

重大度: 12

ASMA061E Symbol not name of DSECT, DXD or external label

説明: Q タイプ・アドレス定数のオペランドが、記号、または DSECT または DXD ステートメントの名前、または外部レベルではありません。

システムの処置: 定数はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 有効なオペランドを与えてください。

重大度: 8

ASMA062E Illegal operand format - xxxxxxxx

説明: 次のいずれかのエラーが起きました。

- ADATA - 5 個を超えるオペランドが指定されたか、最初の 4 個のオペランドのいずれかに指定された式のいずれかの値が範囲 -2^{31} から $+2^{31}-1$ まででないか、または 5 番目のオペランドが有効な文字式ではない。
- ACONTROL - 指定されたオペランドの 1 つ以上が無効である。
- AINSERT - 第 1 オペランドが無効な文字列であるか、または第 2 オペランドが BACK でも FRONT でもない。
- AMODE - オペランドが 24、31、または ANY を指定していない。
- DROP または USING - オペランド・フィールドに 16 個を超えるレジスターが指定された。
- EXITCTL - 5 個を超えるオペランドが指定されたか、第 1 オペランドが無効な出口タイプであるか、第 2 オペランド以降に指定された式のいずれかの値が -2^{31} から $+2^{31}-1$ までの範囲にない。
- MNOTE - 重大度コード (第 1 オペランド) の構文が正しくないか、または引用符とコンマを含むオペランドの長さの合計が 1024 バイトを超えている。
- PRINT - オペランドが、誤りのある印刷オプションを指定している。
- PUSH または POP - オペランドが PRINT または USING ステートメントを指定していない。
- RMODE - オペランドが 24 または ANY を指定していない。
- TITLE - 100 バイトを超えて指定された。

システムの処置: DROP または USING ステートメントの最初の 16 個のレジスターが処理されます。エラーのオペランドとその後に続く PUSH、POP、または PRINT ステートメントのオペランドは無視されます。AMODE または RMODE 命令は無視され、名前フィールド (もしあれば) は相互参照リストに示されません。TITLE 命令のオペランドの最初の 100 バイトはタイトルとして使用されます。

プログラマーの応答: 有効なオペランド・フィールドを与えてください。

重大度: 8

ASMA063E No ending apostrophe - xxxxxxxx

説明: オペランドを終了する引用符が欠落しているか、マクロ原型ステートメントのキーワード・パラメーターの標準値が欠落しています。

システムの処置: エラーのオペランドまたは標準値は無視されます。エラーがマクロ定義モデル・ステートメントにあれば、ステートメント全体が無視されます。

プログラマーの応答: 欠落している引用符を与えてください。

重大度: 8

ASMA064S Floating point characteristic out of range

説明: 変換された浮動小数点定数が、プロセッサに大きすぎるか小さすぎます。許容される範囲は、約 5.4×10^{-79} から 7.2×10^{75} です。

システムの処置: 定数はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 指数部 (指数)、指数修飾子、位取り修飾

子、および仮数 (小数部) の妥当性を検査してください。浮動小数点定数が変換された後、丸められ、切り捨てられるのではないことを忘れないでください。

重大度: 12

ASMA065E Unknown type - xxxxxxxx

説明: 不明の定数タイプが、DC または DS ステートメント、またはリテラルで使用されました。あるいは、その定数タイプをサポートするのに必要なアセンブラー・オプションが指定されていません。

システムの処置: エラーのオペランドとその後に続くオペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 有効な定数、または必要なアセンブラー・オプションを指定してください。複写因数に、誤りのあるタイプ・コードまたは誤りのある構文がないかどうか検査してください。

重大度: 8

ASMA066W 2-byte relocatable address constant

説明: このステートメントには再配置可能 Y タイプ・アドレス定数、または 2 バイトの再配置可能 A タイプ・アドレス定数があります。アドレッシングが 64K (65,536) 以上のストレージ・アドレスを参照するために使用されていると、アドレッシング・エラーが起こります。

システムの処置: ステートメントは書かれたとおりにアセンブルされます。

プログラマーの応答: アドレス定数が 64K (65,536) より小さいストレージ・アドレスを参照するために使用していれば、2 バイトの再配置可能アドレス定数は有効です。アセンブラー・オプション RA2 を使用して、このメッセージを抑制することができます。

重大度: 4

ASMA067S Illegal duplication factor - xxxxxxxx

説明: 次のいずれかのエラーが起きました。

- リテラルの複写因数がゼロ。
- 定数の複写因数が最大の $2^{24}-1$ バイトより大きい。
- 定数の複写因数の式が正しくない。

システムの処置: DC、DS、または DXD ステートメントのエラーのオペランドとその後に続くオペランドは無視されます。リテラルを含んでいるステートメントはゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 有効な複写因数を与えてください。ゼロの複写因数が必要であれば、リテラルを DC ステートメントとして書いてください。

重大度: 12

ASMA068E Length error - xxxxxxxx

説明: 文字 Unicode 定数の長さ修飾子は、2 の倍数でなければなりません。

システムの処置: エラーのオペランドとその後に続くオペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 長さ修飾子を訂正してください。

重大度: 12

ASMA068S Length error - xxxxxxxx

説明: 次のいずれかのエラーが起きました。

- 定数の長さ修飾子に誤りがある。
- C、X、B、Z、または P タイプ定数が長すぎる。
- オペランドが $2^{24}-1$ バイトより大きい。
- 再配置可能アドレス定数の長さが不当。
- 機械命令の長さフィールドが正しくない、または許されている範囲外。

システムの処置:

- 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。
- 新規の浮動小数点定数はゼロとしてアセンブルされます。
- アドレス定数は切り捨てられます。
- その他の DC、DS または DXD ステートメントの場合、エラーのオペランドとその後のオペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 有効な長さを与えてください。

重大度: 12

ASMA069S Length of second operand must be less than length of first

説明: 第 2 オペランドの長さは、第 1 オペランドの長さより小さくなければなりません。さもないと、指定例外となります。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 第 2 オペランドの長さを、第 1 オペランドの長さより小さくしてください。

重大度: 12

ASMA070E Scale modifier error - xxxxxxxx

説明: 定数の位取り修飾子が不当に使用されているか、範囲外か、再配置可能か、または位取り修飾子式にエラーがあります。

システムの処置: 位取り修飾子が範囲外であれば、デフォルトによりゼロになります。そうでない場合、エラーのオペランドとその後に続くオペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 有効な位取り修飾子を与えてください。

重大度: 8

ASMA071E Exponent modifier error

説明: 定数に複数の内部指数があるか、指数修飾子が範囲外または再配置可能か、指数修飾子と内部指数の合計が範囲外です。

システムの処置: 定数に複数の内部指数があれば、エラーのオペランドとその後に続くオペランドは無視されます。そうでない場合、指数修飾子はデフォルトによりゼロになります。

プログラマーの応答: 指数修飾子または内部指数を変更してください。

重大度: 8

ASMA072E Data item too large

説明: Y タイプ・アドレス定数または H タイプ定数の値が $2^{15}-1$ より大きい、 -2^{15} より小さい。または、F タイプ定数の値が $2^{31}-1$ より大きい、 -2^{31} より小さい。

システムの処置: 定数は切り捨てられます。高位ビットは消失します。

プログラマーの応答: もっと小さい位取り修飾子、もっと長い定数、またはもっと小さい値を与えてください。

重大度: 8

ASMA073E Precision lost

説明: 浮動小数点数の修飾子が指数を切り捨てているか、または変換された定数から小数部をソフトアウトしています。

システムの処置: 定数は指数付きでアセンブルされますが、小数部はゼロになります。

プログラマーの応答: 修飾子を変更するか、またはもう少し長い定数タイプを使用してください。

重大度: 8

ASMA074E Illegal syntax in expression - xxxxxxxx

説明: 式に 2 つの項、連続する 2 つの演算があるか、または文字または区切り文字が間違っているか、欠落しています。

システムの処置: DC、DS、または DXD ステートメントでは、エラーのオペランドとその後に続くオペランドは無視されます。マクロ定義では、ステートメント全体が無視されます。機械命令はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 式のタイプ・エラー、項または文字の欠落または間違いを検査してください。

重大度: 8

ASMA075E Arithmetic overflow

説明: 式の間接値または最終値が範囲 -2^{31} から $2^{31}-1$ 内ではありません。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。

アセンブラー命令は無視されます。条件付きアセンブル式は結果としてゼロを使用します。

プログラマーの応答: 式を変更してください。

重大度: 8

ASMA076E Statement complexity exceeded

説明: このステートメントが複雑なため、アセンブラーの式計算作業域がオーバーフローしました。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。

アセンブラー命令は無視されます。

プログラマーの応答: 項の数、式のレベル、または複合再配置 EQU 名の参照を減らしてください。

重大度: 8

ASMA077E Circular definition

説明: 式の中の記号の値が、1 つまたは複数の EQU ステートメントにより、直接または間接に、その値そのもので決められています。以下の例では、

```
A EQU B
B EQU C
C EQU A
```

A が A を定義することになります。

システムの処置: EQU ステートメントの値はデフォルトにより、ロケーション・カウンターの現行値になります。循環で使用されている他のすべての EQU ステートメントは、これに基

ASMA078E • ASMA087S

づいてデフォルト値になります。

プログラマーの応答: 正しい定義を与えてください。

重大度: 8

ASMA078E Operand *op* expression complexly relocatable - *expr*

説明: 指定された式は複雑に再配置可能ですが、絶対または単純な再配置可能式が必要です。

システムの処置: 命令はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 式を訂正してください。

重大度: 8

ASMA079E Illegal PUSH-POP

説明: PUSH 命令より多い、POP アセンブラー命令を検出しました。

システムの処置: この POP 命令は無視されます。

プログラマーの応答: POP ステートメントを除去するか、別の PUSH ステートメントを追加してください。

重大度: 8

ASMA080E Statement is unresolvable

説明: 複合再配置式があるか、またはロケーション・カウンタが循環して定義されたため、ステートメントを解決できません。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 下方参照を解決するか、または複合再配置 EQU ステートメントを検査してください。

重大度: 8

ASMA081E Created SET symbol exceeds 63 characters - xxxxxxxx

説明: 変数シンボル置換文字が作成した SET 記号が 63 文字より長いです。(最初の文字として使用している & 記号も含まれます。)

システムの処置: 記号が SET、AIF、または AGO ステートメントのオペランド・フィールドにあれば、この値はゼロまたはヌルに設定され、タイプ属性は未定義 (U) に設定されます。記号が GBL または LCL ステートメントのオペランド・フィールド、または SET ステートメントの名前フィールドにあれば、マクロ処理は停止します。

プログラマーの応答: 記号を短くしてください。

重大度: 8

ASMA082E Created SET symbol is null - xxxxxxxx

説明: 変数シンボル置換文字で作成した SET 記号は、ヌル(空の文字列)です。

システムの処置: 記号が SET、AIF、または AGO ステートメントのオペランド・フィールドにあれば、この値はゼロまたはヌルに設定され、タイプ属性は未定義 (U) に設定されます。

記号が GBL または LCL ステートメントのオペランド・フィールド、または SET ステートメントの名前フィールドにあれば、マクロ処理は停止します。

プログラマーの応答: 有効な記号を与えてください。

重大度: 8

ASMA083E Created SET symbol is not a valid symbol - xxxxxxxx

説明: 変数シンボル置換文字または連結で作成した SET 記号が、& 記号とその後に続く 62 文字までの英数字 (先頭文字は英字) から成り立っていません。

システムの処置: 記号が SET、AIF、または AGO ステートメントのオペランド・フィールドにあれば、この値はゼロまたはヌルに設定され、タイプ属性は未定義 (U) に設定されます。記号が GBL または LCL ステートメントのオペランド・フィールド、または SET ステートメントの名前フィールドにあれば、マクロ処理は停止します。

プログラマーの応答: 有効な記号を与えてください。

重大度: 8

ASMA084S Generated name field exceeds 63 characters; discarded - xxxxxxxx

説明: 生成したステートメントの名前フィールドが 63 文字より長いです。

システムの処置: 名前フィールドは生成されません。ステートメントの残り部分は正常にアセンブルされます。

プログラマーの応答: 生成する名前を 63 文字またはそれ以下に短くしてください。

重大度: 12

ASMA085I Generated operand field is null - xxxxxxxx

説明: 生成したステートメントのオペランド・フィールドがヌル(空)です。

システムの処置: ステートメントは、オペランドが指定されていないものとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 空でないオペランド・フィールドを提供してください。オペランドのないステートメントをアセンブルしたい場合は、オペランドをブランクのままにするのではなく、コンマを使用してください。

重大度: 0

ASMA086S Missing MEND generated - xxxxxxxx

説明: ソース・プログラムに示されているマクロ定義、またはマクロ呼び出し (または COPY ステートメント) によってライブラリーから読み取られているマクロ定義が、そのマクロ定義を終了させるための MEND ステートメントが検出される前に、終了しました。

システムの処置: MEND ステートメントが生成されます。マクロ定義の読み取り済みの部分は処理されます。

プログラマーの応答: MEND ステートメントが省略されているならば、それを挿入してください。そうでなければ、ライブラリーにマクロ定義がすべて含まれているかを検査してください。

重大度: 12

ASMA087S Generated operation code is null - xxxxxxxx

説明: 生成されたステートメントの命令コードは、ヌル(ブランク)です。

システムの処置: 生成されたステートメントは印刷されますが、アセンブルされません。

プログラマーの応答: 有効な命令コードを与えてください。
重大度: 12

ASMA088E Unbalanced parentheses in macro call operand - xxxxxxxx

説明: マクロ呼び出しステートメントのオペランド (パラメーター) で左括弧が多いか、または右括弧が少なすぎます。
システムの処置: エラーのオペランドに対応するパラメーターには、ヌル (空) 値が与えられます。
プログラマーの応答: 左右の括弧の数を合わせてください。
重大度: 8

ASMA089E Arithmetic expression contains illegal delimiter or ends prematurely - xxxxxxxx

説明: 算術式に間違った文字があるか、または算術添え字の終わりになったが右括弧が足りません。
システムの処置: そのステートメントは無視されます。
プログラマーの応答: 有効な式を与えてください。
重大度: 8

ASMA090E Excess right parenthesis in macro call operand - xxxxxxxx

説明: 対応する左括弧がない右括弧を、マクロ命令のオペランドで検出しました。
システムの処置: 余分な右括弧は無視されます。マクロ展開が正しくないかもしれません。
プログラマーの応答: 正しい括弧を挿入してください。
重大度: 8

ASMA091E SETC or character relocatable operand over 255 characters; truncated to 255 characters - xxxxxxxx

説明: SETC ステートメントのオペランド、または AIF ステートメントの文字関係オペランドの値が、255 文字より長いのです。これはサブストリングの値を出す前に起きているかもしれません。
システムの処置: 先頭の 255 文字が使用されます。
プログラマーの応答: SETC 式の値またはオペランドの値を短くしてください。
重大度: 8

ASMA092E Substring expression 1 points past string end; default=null - xxxxxxxx

説明: SETC サブストリングの最初の算術式が、式の文字ストリングの終わりを越えたところを指しています。
システムの処置: サブストリングにはヌル値が与えられます。
プログラマーの応答: 有効な式を与えてください。
重大度: 8

ASMA093E Substring expression 1 less than 1; default=null - xxxxxxxx

説明: SETC サブストリングの最初の算術式が、1 より小さいです。つまり、式の文字ストリングの前を指しています。
システムの処置: サブストリング式はデフォルトによりヌルになります。
プログラマーの応答: 有効な式を与えてください。
重大度: 8

ASMA094I Substring goes past string end; default=remainder

説明: サブストリング表記の 2 番目の式が、文字列の終わりを越えた長さを指定しています。
システムの処置: サブストリング演算の結果は、文字ストリングの最後の文字で終わる文字列です。
プログラマーの応答: 長さを指定する算術式が文字列の終わりを越えた文字数を指定しないようにしてください。サブストリング表記の、最初または 2 番目の式のどちらかを変更してください。アセンブラー・オプション FLAG (NOSUBSTR) を使用して、このメッセージを抑制することができます。
重大度: 0

ASMA095W Substring expression 2 less than 0; default=null - xxxxxxxx

説明: SETC サブストリングの 2 番目の算術式が 0 以下です。
システムの処置: サブストリング文字式からの文字なし (ヌル・ストリング) が使用されます。
プログラマーの応答: 有効な式を与えてください。
重大度: 4

ASMA096E Unsubscripted SYSLIST; default=SYSLIST(1) - xxxxxxxx

説明: システム変数シンボル &SYSLIST に添え字がありません。&SYSLIST(n) はマクロ命令の n 番目の定位置パラメーターを指します。N'&SYSLIST には添え字を付ける必要はありません。
システムの処置: 添え字はデフォルトにより 1 になり、したがって、最初の定位置パラメーターを指します。
プログラマーの応答: 正しい添え字を与えてください。
重大度: 8

ASMA097E Invalid attribute reference to SETA or SETB symbol; default=U or 0 - xxxxxxxx

説明: 長さ (L')、位取り (S')、整数 (I')、または定義 (D') 属性が、SETA または SETB 記号を参照しています。
システムの処置: 属性は、デフォルト値 L'=0、S'=0、I'=0、および D'=0 に設定されます。
プログラマーの応答: 属性参照を変更するか除去してください。
重大度: 8

ASMA098E Attribute reference to invalid symbol; default=U or 0 - xxxxxxxx

説明: 属性が、間違っている記号、または値がヌルの記号を参照しようとした。 (有効な記号は、最初が英字で 1 から 63 文字までの英数字です)

システムの処置: タイプ (T') 属性の場合は、デフォルトにより U になります。他の属性の場合は、デフォルトにより 0 になります。

プログラマーの応答: 有効な記号を与えてください。

重大度: 8

ASMA099W Wrong type of constant for S or I attribute reference; default=0 - xxxxxxxx

説明: 整数 (I') または位取り (S') 属性が浮動小数点 (E、D、L)、10 進数 (P、Z)、固定小数点 (H、F) 以外のタイプを持つ記号を参照しています。

システムの処置: 整数または位取り属性はデフォルトによりゼロになります。

プログラマーの応答: 整数または位取り属性参照を除去するか、定数タイプを変更してください。

重大度: 4

ASMA100E Subscript less than 1; default to subscript=1 - xxxxxxxx

説明: SET ステートメントの名前フィールド、GBL または LCL ステートメントのオペランド・フィールド、または &SYSLIST ステートメントにある、添え字が付けられた SET 記号の添え字が、1 より小さいです。

システムの処置: 添え字はデフォルトにより 1 になります。

プログラマーの応答: 正しい添え字を与えてください。

重大度: 8

ASMA101E Subscript less than 1; default to value=0 or null - xxxxxxxx

説明: オペランド・フィールドにある SET 記号の添え字が 1 より小さいです。

システムの処置: 値はゼロまたはヌルに設定されます。

プログラマーの応答: 有効な添え字を与えてください。

重大度: 8

ASMA102E Arithmetic term is not self-defining term; default=0 - xxxxxxxx

説明: 算術項として使用した SETC 項または式は、有効な自己定義項ではありません。

システムの処置: SETC の項または式の値はゼロに設定されます。

プログラマーの応答: C'A'、X'1EC'、B'1101'、または 27 のような SETC の自己定義項を使用してください。C、X、または B と引用符は、SETC の値の一部でなければなりません。

重大度: 8

ASMA103E Multiplication overflow; default product=1 - xxxxxxxx

説明: マクロ定義ステートメントで乗算オーバーフローが起きました。

システムの処置: オーバーフローした点までの式の値は 1 に設定されます。計算が続けられます。

プログラマーの応答: 式を複数の演算に分けるか、括弧で項をグループ化して、オーバーフローを防いでください。

重大度: 8

ASMA104W Statement processing incomplete

説明: これは、前にフラグが立てられていたエラーがこのステートメントについて処理を中止したことを表します。

システムの処置: アセンブリーは続行されます。

プログラマーの応答: 前のエラーを訂正してください。

重大度: 4

ASMA105U Arithmetic expression too complex

説明: マクロ定義ステートメントの算術式が複雑すぎるため、内部作業域がオーバーフローしました。つまり、項またはレベル、またはその両方が多すぎます。

システムの処置: アセンブリーを停止します。

プログラマーの応答: 式を単純にするか、または複数の式に分けてください。

重大度: 20

ASMA106E Wrong target symbol type; value left unchanged - xxxxxxxx

説明: 名前フィールドの SET 記号はすでに宣言されていて、SETx 命令のタイプと異なるタイプです。例えば、算術用 (SETA) として前に宣言しておいた SET 記号を、SETC 命令のターゲットとして使用しようとした場合などです。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: SET ステートメント・タイプと一致する宣言をしてください。異なる SET 記号タイプに保管する場合は、まず、一致するタイプの SET 記号に保管して、別の SETx 命令を使用して、一致する SET 記号によって表現された値を、一致していない SET 記号に保管してください。

重大度: 8

ASMA107E Inconsistent dimension on target symbol; subscript ignored, or 1 used - xxxxxxxx

説明: 名前フィールドの SET 記号に次元 (添え字) が付いていますが、GBL または LCL ステートメントで次元付きとして宣言されていません。または、その逆です。

システムの処置: 宣言に応じて、添え字が無視されるか、または 1 の添え字が使用されます。

プログラマーの応答: 宣言と使用法とに矛盾がないようにしてください。SET ステートメントの名前フィールドで SET 記号を添え字付きで使用することにより、次元付きのローカル SET 記号を宣言できることに注意してください。

重大度: 8

ASMA108E Inconsistent dimension on SET symbol reference; default = 0, null, or type=U - xxxxxxxx

説明: オペランド・フィールドの SET 記号に次元 (添え字) が付いていますが、GBL または LCL ステートメントで次元付きとして宣言されていません。または、その逆です。

システムの処置: 添え字には値ゼロまたはヌルが使用されません。SET 記号のタイプ属性 (要求された場合) は U に設定されます。

プログラマーの応答: 宣言と使用法とに矛盾がないようにしてください。SET ステートメントの名前フィールドで SET 記号を添え字付きで使用することにより、次元付きの SET 記号を宣言することができます。

重大度: 8

ASMA109E Multiple SET operands for undimensioned SET symbol; gets last operand - xxxxxxxx

説明: 複数のオペランドが、次元 (添え字) 付きでない SET 記号に割り当てられました。

システムの処置: SET 記号には最後のオペランドの値が与えられます。

プログラマーの応答: SET 記号を次元付きで宣言するか、オペランドを 1 つだけ割り当ててください。

重大度: 8

ASMA110S Library macro first statement not 'MACRO' or comment

説明: ライブラリーから読み取られるマクロ定義において、コメント・ステートメント以外のステートメントが MACRO ステートメントの前にあります。

システムの処置: マクロ定義はライブラリーから読み取られません。対応するマクロ呼び出しは処理されません。

プログラマーの応答: ライブラリー・マクロ定義が、コメント・ステートメント (オプション) だけが前にある MACRO ステートメントで始まっていることを確認してください。

重大度: 12

ASMA111S Invalid AIF or SETB operand field - xxxxxxxx

説明: AIF または SETB ステートメントのオペランドが、左括弧で始まっていないか、またはそのオペランド全体が欠落しています。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 有効なオペランドを与えてください。

重大度: 12

ASMA112S Invalid sequence symbol - xxxxxxxx

説明: 次のいずれかのエラーが起きました。

- 順序記号が、最初がピリオドで、その後で 1 から 62 文字までの英数字 (先頭文字は英字) が続く記号ではない。
- 名前フィールドの順序記号が置換文字で作成された。
- AGO のオペランドがブランクか、AIF の順序記号がブランク。

システムの処置: 名前フィールドの順序記号は無視されます。

AIF または AGO ステートメントのオペランド・フィールドに順序記号があると、ステートメント全体が無視されます。

プログラマーの応答: 有効な順序記号を与えてください。

重大度: 12

ASMA113S Continue column blank

説明: GBL または LCL ステートメントの SET 記号宣言が、前のレコードの終了桁 (通常 71 桁目) にある & 記号で始まりましたが、このレコードの継続開始桁 (通常 16 桁目) はブランクです。

システムの処置: ステートメントの、このレコードとその後に続くレコードは無視されます。前のレコードで完全に表現されている SET 記号は、正常に処理されます。

プログラマーの応答: このレコードを継続表示桁から始めてください。

重大度: 12

ASMA114S Invalid COPY operand - xxxxxxxx

説明: COPY ステートメントのオペランドが、1 から 8 文字の英数字 (先頭文字は英字) の記号ではありません。

システムの処置: COPY ステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 有効なオペランドを与えてください。

オープン・コードでは、オペランドを、すでに定義されている SET 記号として指定することができます。

重大度: 12

ASMA115S COPY operand too long - xxxxxxxx

説明: COPY ステートメントのオペランド・フィールドにある記号が、8 文字より長いです。

システムの処置: COPY ステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 有効なオペランドを与えてください。

重大度: 12

ASMA116E Illegal SET symbol - xxxxxxxx

説明: GBL または LCL ステートメントのオペランド・フィールドにある SET 記号、または SET ステートメントの名前フィールドにある SET 記号が、& 記号とその後の 1 から 62

文字の英数字 (先頭文字は英字) から成り立っていません。

システムの処置: GBL または LCL ステートメントの場合、GBL または LCL ステートメント内の間違っている SET 記号およびその後続くすべての SET 記号は無視されます。SET ステートメントの場合、SET ステートメント全体が無視されます。

プログラマーの応答: SET 記号を与えてください。

重大度: 8

ASMA117E Illegal subscript - xxxxxxxx

説明: SET 記号の後の添え字に、左右が対になっていない括弧、または間違っている算術式があります。

システムの処置: このステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 左右が対になっている括弧、または有効な算術式を与えてください。

重大度: 8

ASMA118S Source macro ended by 'MEND' in COPY code

説明: マクロ定義内の COPY ステートメントによってコピーされているライブラリー・メンバーに、MEND ステートメントがあります。

システムの処置: MEND ステートメントは受け入れられ、マクロ定義は停止します。これ以上 COPY コードは読み取られません。COPY コードの終わりより前にあるステートメントは処理されます。

プログラマーの応答: COPY コードとして使用する各ライブラリー・メンバーに、MACRO と MEND ステートメントが対で存在することを確認してください。

重大度: 12

ASMA119S Too few MEND statements in COPY code

説明: COPY ステートメントによってコピーされたライブラリー・メンバーの中でマクロ定義が開始されましたが、MEND ステートメントが検出される前に、COPY コードが終了しました。

システムの処置: MEND ステートメントが生成され、マクロ定義は終了します。COPY コードの終わりより前にあるステートメントは処理されます。

プログラマーの応答: マクロ定義の一部が失われているかどうかを検査してください。また、COPY コードとして使用する各マクロ定義に、MACRO と MEND ステートメントの対があることも確認してください。

重大度: 12

ASMA120S EOD where continuation record expected

説明: 継続レコードが必要なときに、データの終わりが起こりました。

システムの処置: ステートメントの読み取られた部分はアセンブルされます。データの終わりが PRIMARY INPUT にあれば、アセンブリは停止します。ライブラリー・メンバーのコピー中であれば、アセンブリは COPY ステートメントの後のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: ソース・プログラムまたは COPY コードのステートメントが欠落していないかどうか調べてください。

重大度: 12

ASMA121S Insufficient storage for editor work area

説明: アセンブラのマクロ・エディター・モジュールが、作業域用の主ストレージを十分に取得することができません。

システムの処置: アセンブリを停止します。

プログラマーの応答: アセンブリを複数の部分に分けるか、またはマクロ・エディターの作業ストレージを増やしてください。

MVS または CMS 上では、これは、アセンブラの領域サイズを大きくすることにより、またはアセンブラ・データ・セットのブロック化因数またはブロック・サイズを小さくすることにより、またはその両方の組み合わせにより行うことができます。

VSE 上では、これは、JCL EXEC ステートメントの SIZE パラメーターで指定した値を減らすか、またはもっと大きな区画でアセンブリを実行することによって行うことができます。

重大度: 12

ASMA122S Illegal operation code format

説明: 命令コードの後にブランクがないか、命令コード全体が欠落しているか、または継続ソース・ステートメントの最初のレコードが欠落しています。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: ステートメントに有効な命令コードがあること、およびステートメントのすべてのレコードが存在することを確認してください。

重大度: 12

ASMA123S Variable symbol too long - xxxxxxxx

説明: SET 記号、シンボル・パラメーター、または順序記号において、& 記号またはピリオドの後に、62 文字を超える文字があります。

システムの処置: このステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: SET 記号または順序記号を短くしてください。

重大度: 12

ASMA124S Illegal use of parameter

説明: シンボル・パラメーターが、GBL または LCL ステートメントのオペランド・フィールドで、または SET ステートメントの名前フィールドで使用されました。つまり、変数シンボルが、シンボル・パラメーターと SET 記号の両方として使用されました。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 変数シンボルを、シンボル・パラメーターではないものに変更してください。

重大度: 12

ASMA125S Illegal macro name - macro uncallable - xxxxxxxx

説明: マクロ原型ステートメントの命令コードが有効な記号、すなわち最初が英字の、1 から 63 までの英数字、ではありません。

システムの処置: マクロ定義は編集されます。しかし、マクロ名が正しくないため、マクロを呼び出すことはできません。

プログラマーの応答: 有効なマクロ名を与えてください。

重大度: 12

ASMA126S Library macro name incorrect - xxxxxxxx

説明: ライブラリー・マクロ定義の原型ステートメントの命令コードが、マクロ命令の命令コード (呼び出し) と同じではありません。ライブラリー・マクロ定義は、そのメンバー名によって見つけられます。ただし、アセンブラはマクロ命令とマクロ原型を比較します。

システムの処置: マクロ定義は、原型ステートメントの命令コードをマクロ名として使用して編集されます。したがって、このマクロ命令によって定義を呼び出すことはできません。

プログラマーの応答: マクロ定義のメンバー名が、原型ステートメントの命令コードと同じであることを確認してください。確認するには、通常、ライブラリーからのマクロ定義のリスト、マクロ定義をリストする LIBMAC オプションの使用、またはメンバー名の COPY が必要です。

重大度: 12

ASMA127S Illegal use of ampersand

説明: 次のいずれかのエラーが起きました。

- すべての置換がすでに終わっているはずなのに、& 記号が見つかった。
- マクロ原型ステートメントにあるキーワード・パラメーターの標準値に、単独の & 記号があったか、または奇数個の & 記号が入っている文字列がある。
- 文字 (C) 定数に、ペアになっていない & 記号がある。

システムの処置: マクロ原型ステートメントの場合は、エラーの後のすべての情報が無視されます。その他のステートメントの場合は、処置は、エラーがどのフィールドで起こったかによって異なります。エラーが名前フィールドで起こった場合は、ステートメントは名前なしで処理されます。エラーが命令コード・フィールドで起こった場合は、ステートメントは無視されます。エラーがオペランド・フィールドで起こった場合は、デフォルトを示すために別のメッセージが出されます。ただし、エラーが C タイプ定数で起こった場合は、エラーのオペランドとその後に続くオペランドは無視されます。

プログラマーの応答: キーワード標準値または C タイプ定数の値で使用されている & 記号が対になっていることを確認してください。また、二重の & 記号でなければ、& 記号をステートメントに置換することも避けてください。

重大度: 12

ASMA128S Excess right parenthesis - xxxxxxxx

説明: 対になっていない右括弧を見つけました。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。アセンブラー命令は無視され、ステートメント・タイプに関連する別のメッセージが出されます。ただし、エラーがマクロ原型ステートメントのキーワードの標準値にあれば、エラーのオペランドとその後に続くオペランドだけが無視されます。

プログラマーの応答: すべての括弧が対になっていることを確認してください。

重大度: 12

ASMA129S Insufficient right parentheses - xxxxxxxx

説明: 対になっていない左括弧を見つけました。複数オペランド・ステートメントでは、各コマごとに括弧が対になっていなければなりません。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。アセンブラー命令は無視され、ステートメント・タイプに関連する別のメッセージが出されます。ただし、エラーがマクロ原型ステートメントのキーワードの標準値にあれば、エラーのオペランドとその後に続くオペランドだけが無視されます。

プログラマーの応答: すべての括弧が対になっていることを確認してください。

重大度: 12

ASMA130S Illegal attribute reference - xxxxxxxx

説明: 次のいずれかのエラーが起きました。

- I, L, S, または T 属性参照の後に続く記号が、有効な変数シンボル、通常記号、または前の機械命令で使用されたリテラルではない。
- K または N 属性参照の後に続く記号が有効な変数シンボルではない。
- D 属性参照の後に続く記号が、有効な変数シンボルまたは通常記号ではない。
- T 属性参照から引用符が欠落している。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 有効な属性参照を与えてください。

重大度: 12

ASMA131S Parenthesis nesting depth exceeds 255 - xxxxxxxx

説明: SETA 式に括弧のレベルが 256 以上あります。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 複数のステートメントを使用して SETA ステートメントを書き直し、式にある副次式を再グループ化してください。

重大度: 12

ASMA132S Invalid SETB expression - xxxxxxxx

説明: SETB ステートメントまたは AIF ステートメントのオペランド・フィールドにある SETB 式が、論理演算子によってつながっている、有効な文字関連式、算術関連式、および 1 つの SETB 記号から成り立っていません。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 有効な SETB 式を与えてください。

重大度: 12

ASMA133S Illegal substrng reference - xxxxxxxx

説明: SETC 式の後に続くサブストリング式が、コマで分けられて括弧で囲まれている 2 つの有効な SETA 式から成り立っていません。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 有効なサブストリング式を与えてください。サブストリング式の 2 番目の値を * にすることができます。

重大度: 12

ASMA134S Invalid relational operator - xxxxxxxx

説明: EQ, NE, LT, GT, LE, または GE 以外の文字が、SETB 式で関連演算子が予期された所で使用されました。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 有効な関連演算子を与えてください。

重大度: 12

ASMA135S Invalid logical operator - xxxxxxxx

説明: AND、OR、NOT、または XOR 以外の文字が、SETB 式で論理演算子が予期された所で使用されました。
システムの処置: そのステートメントは無視されます。
プログラマーの応答: 有効な論理演算子を与えてください。
重大度: 12

ASMA136S Illegal logical/relational operator

説明: 論理または関連演算子が予期された所で、有効な論理または関連演算子以外の文字が見つかりました。
システムの処置: そのステートメントは無視されます。
プログラマーの応答: 有効な論理または関連演算子を与えてください。
重大度: 12

ASMA137S Illegal SETC expression - xxxxxxxx

説明: SETC ステートメントのオペランド、または文字関係で使用した文字の値に誤りがあります。有効なタイプ属性 (T') 参照、または引用符で囲まれた有効な文字式でなければなりません。
システムの処置: そのステートメントは無視されます。
プログラマーの応答: 有効な式を与えてください。
重大度: 12

ASMA138W Non-empty PUSH xxxxxxx stack

説明: アセンブリーの終了時に、PUSH 命令の数が POP 命令の数を超えています。これは、潜在的なエラーです。
システムの処置: アセンブリーは続行されます。
プログラマーの応答: どの PUSH に対しても POP 命令を出すようにプログラムを変更してください。FLAG オプションの NOPUSH サブオプションを指定することにより、この警告を抑止することができます。
重大度: 4

ASMA139S EOD during REPRO processing

説明: REPRO ステートメントのすぐ後にデータの終わりがあります。このため、有効なレコードをパンチできません。この REPRO は、ソース入力の最後のレコードであるか、または COPY メンバーの最後のレコードです。
システムの処置: REPRO ステートメントは無視されます。
プログラマーの応答: REPRO を除去するか、またはパンチされるレコードが後に続くことを確認してください。
重大度: 12

ASMA140W END record missing

説明: END ステートメントを読み取る前に、ソース入力データ・セットでファイルの終わりが起こりました。以下のいずれかが起こりました。

- END ステートメントを省略したか、ミススペルです。
- END 命令コードが OPSYN または END と名付けられたマクロ定義によって変更されたか、削除された。アセンブラーの先読みフェーズは、END ステートメントとみなすものをマークします。OPSYN ステートメントまたはマクロ

定義が、END ステートメントを再定義すると、アセンブラーはオリジナルの END ステートメントを渡さないため、早すぎる入力の終わりが起こる可能性があります。
システムの処置: END ステートメントが生成されます。
END ステートメントは、ステートメント番号が割り当てられますが、印刷されません。リテラルが待っていれば、それらのリテラルは、END ステートメントの後で通常に処理されます。

プログラマーの応答: 失われたレコードがないかどうか検査してください。有効な END ステートメントを与えてください。別の記号を END として定義するために OPSYN を使用する場合は、OPSYN を、先読みフェーズに入る前の位置に置いてください。
重大度: 4

ASMA141E Bad character in operation code - xxxxxxxx

説明: 命令コードに、英数字ではない文字、つまり A から Z、0 から 9、\$, #、@、または _ 以外の文字があります。組み込みブランクは許されていません。
システムの処置: そのステートメントは無視されます。
プログラマーの応答: 有効な命令コードを与えてください。命令コードが変数シンボル置換によって作られていれば、置換をもたらししたステートメントを検査してください。
重大度: 8

ASMA142E Operation code not complete on first record

説明: 末尾ブランクを含む名前と命令コードの全体が、継続ステートメントの最初のレコード内 (通常は 72 桁目である継続開始桁の前まで) に含まれていません。
システムの処置: そのステートメントは無視されます。
プログラマーの応答: 名前、命令コード、またはその両方を短くするか、名前または命令コードを置換文字で作成するために、別々の SETC ステートメントを使用することによって、ステートメントを単純にしてください。
重大度: 8

ASMA143E Bad character in name field - xxxxxxxx

説明: 名前フィールドに、英数字ではない文字、つまり A から Z、0 から 9、\$, #、@、または _ 以外の文字があります。
システムの処置: 可能であれば、ステートメントは名前なしで処理されます。不可能であれば、ステートメントは無視されず。
プログラマーの応答: 有効な記号を名前フィールドに入れてください。
重大度: 8

ASMA144E Begin-to-continue columns not blank - xxxxxxxx

説明: 継続レコードの開始桁 (通常 1 桁目) と継続開始桁 (通常 16 桁目) の間の桁が、ブランクではありません。
システムの処置: 関係のない文字は無視されます。
プログラマーの応答: オペランドが間違った桁から開始してい

るかどうか、または前のレコードの継続文字が間違っているかどうかを検査してください。

重大度: 8

ASMA145E Operator, right parenthesis, or end-of-expression expected - xxxxxxxx

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- 項の後で、右括弧、演算子、コンマ、または式の終わりのブランクが必要など、英字、数字、等号、引用符、または未定義の文字がある。
 - アセンブラー命令の場合は、項の後に左括弧がある。
- システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。アセンブラー命令は無視され、命令コードに関連する別のメッセージが出されます。
- プログラマーの応答: 演算子の欠落またはミススペルがないかどうか検査してください。サブストリングは、このステートメントでは許されていません。

重大度: 8

ASMA146E Self-defining term too long or value too large - xxxxxxxx

説明: 自己定義項が 4 バイト (16 進数の場合は 8 桁、ビットの場合は 32 ビット、文字の場合は 4 文字) より長い、または 10 進数自己定義項の値が $2^{31}-1$ より大きいです。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。アセンブラー命令は無視されます。ただし、命令コードに関連する別のメッセージが出されます。

プログラマーの応答: 自己定義項のサイズを小さくするか、または DC ステートメントに指定してください。

重大度: 8

ASMA147E Symbol too long, or first character not a letter - xxxxxxxx

説明: 記号が文字または下線 (_) で始まっていないか、または 63 文字より長いです。

システムの処置: 記号が名前フィールドにあれば、ステートメントは名前なしで処理されます。記号がオペランド・フィールドにあれば、アセンブラー命令またはマクロ定義モデル・ステートメントは無視され、機械命令はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 有効な記号を与えてください。

重大度: 8

ASMA148E Self-defining term lacks ending quote or has bad character - xxxxxxxx

説明: 16 進数または 2 進数の自己定義項に、許可されていない文字があるか、最後の引用符が欠落しているか、または DBCS だけの自己定義項の、SO と SI の間に 2 バイト文字がありません。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。アセンブラー命令は無視され、命令コードに関連する別のメッセージが出されます。

プログラマーの応答: 間違っている項を訂正してください。

重大度: 8

ASMA149E Literal length exceeds 256 characters, including = sign - xxxxxxxx

説明: リテラルが 256 文字より長いです。

システムの処置: 命令はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: リテラルを短くするか、DC ステートメントに変更してください。

重大度: 8

ASMA150E Symbol has non-alphanumeric character or invalid delimiter - xxxxxxxx

説明: 記号の後に続く最初の文字が、有効な区切り文字 (正符号、負符号、アスタリスク、斜線、右または左括弧、コンマ、ブランク) ではありません。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。アセンブラー命令は無視され、命令コードに関連する別のメッセージが出されます。

プログラマーの応答: 記号に英数字以外の文字がないこと、および後に有効な区切り文字があることを確認してください。

重大度: 8

ASMA151E Literal expression modifiers must be absolute and predefined - xxxxxxxx

説明: リテラルの複写因数または長さ修飾子が、自己定義項ではないか、または、自己定義項もしくは前に定義した記号を使用する式ではありません。

システムの処置: ステートメントはゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 有効な自己定義項を与えるか、記号が前のステートメントの名前フィールドに示されていることを確認してください。

重大度: 8

ASMA152S External symbol too long or unacceptable character - xxxxxxxx

説明: 次のいずれかのエラーが起きました。

- 外部記号が 8 文字 (または、GOFF/XOBJECT オプションが有効なときは限界は 63 文字です) より長い、あるいは無効な文字が含まれている。外部記号は CSECT、START、DXD、AMODE、RMODE、または COM ステートメントの名前、または ENTRY、EXTRN、または WXTRN ステートメントのオペランド、Q タイプまたは V タイプ・アドレス定数である可能性があります。
- ENTRY、EXTRN、または WXTRN ステートメントのオペランド、または Q タイプまたは V タイプ・アドレス定数が、1 つの項ではなくて式になっているか、または不正な文字がある。
- CATTR ステートメントのクラス名が 16 文字より長い、または誤りの文字がある。

システムの処置: 記号は外部記号辞書には示されません。エラーが名前フィールドの場合は、ステートメントは名前なしで処理されます。エラーがオペランド・フィールドの場合は、不正なオペランドは無視され、可能であれば、その後に続くオペランドは処理されます。不正な定数はゼロとしてアセンブルされます。

ASMA153S • ASMA159S

プログラマーの応答: 短い名前を与えるか、または式を記号で置き換えてください。

重大度: 12

ASMA153S START statement illegal - CSECT already begun

説明: 制御セクションの始まりの後に、START ステートメントがあります。

システムの処置: ステートメントは CSECT ステートメントとして処理され、オペランドは無視されます。

プログラマーの応答: START が、制御セクションを開始するすべての機械命令、および EQU のようないくつかのアセンブラ命令より前にあることを確認してください。START ステートメントの前に EQU ステートメントが必要な場合は、EQU ステートメントをダミー・セクション (DSECT) に置いてください。

重大度: 12

ASMA154E Operand must be absolute, predefined symbols; set to zero - xxxxxxxx

説明: SETA, SETB, SETC, START, または MHELP ステートメントのオペランドが正しくありません。このステートメントに関連した別のメッセージも表示された場合、このメッセージは助言です。このメッセージだけが表示されていれば、以下のいずれかを示しています。

- START オペランドのロケーション・カウンター参照 (*)。
- 式が絶対項、事前定義記号、またはその両方から成り立っていない。
- ステートメントが複雑すぎる。例えば、下方参照が多すぎる、または計算中の算術オーバーフローが起こる。
- ステートメントが循環定義されている。
- 再配置可能項を乗算した、または除算した。

システムの処置: ステートメントのオペランドはゼロとみなされます。

プログラマーの応答: エラーがあれば、訂正してください。

再配置可能記号の対が、たとえ同じ CSECT または DSECT にあっても、異なる LOCTR にあれば、絶対値、または事前定義の値を必要とする所では有効ではありません。

重大度: 8

ASMA155S Previous use of symbol is not this section type

説明: CSECT, DSECT, COM, CATTR または LOCTR ステートメントの名前を、以前に、異なるタイプのステートメントで使用しました。例えば、CSECT の名前を、以前に CSECT 以外のステートメント (機械命令または LOCTR など) で使用しました。

システムの処置: この名前は無視され、ステートメントは名前なしで処理されます。

プログラマーの応答: ミススペルの名前を訂正するか、矛盾しない名前に変更してください。

重大度: 12

ASMA156S Only ordinary symbols, separated by commas, allowed

説明: ENTRY, EXTRN, または WXTRN ステートメントのオペランドに、最初が英字でかつ 1 から 8 文字までの英数字で成り立っている記号がないか、またはオペランドがコンマで区切られていません。

システムの処置: エラーのオペランドは無視されます。後続のオペランドがあれば、それは正常に処理されます。

プログラマーの応答: 正しい記号を与えるか、または欠落しているコンマを挿入してください。ENTRY ステートメントのオペランドとして式 (SYMBOL+4 のような) が必要な場合は、EQU ステートメントを使用して、別の記号を定義してください。

重大度: 12

ASMA157S Operand must be a simply-relocatable expression

説明: このステートメントに関連した別のメッセージも表示された場合、このメッセージは助言です。このメッセージだけが表示された場合は、ORG または END ステートメントのオペランドが、単純な再配置可能式ではなく、複雑すぎるか、または循環定義されています。また、このエラーは、END オペランド記号が CSECT にないことを示していることもあります。システムの処置: ORG ステートメントまたは END ステートメントのオペランドは無視されます。

プログラマーの応答: エラーがあれば、正しい式を与えてください。再配置可能記号の対を、ORG ステートメントで使用すると、たとえ同じ CSECT または DSECT にあっても異なる LOCTR にあれば、循環定義の原因になります。

重大度: 12

ASMA158E Operand expression is defective; set to *

説明: EQU ステートメントの最初のオペランドに欠陥があります。このステートメントに関連した別のメッセージも表示されていれば、このメッセージは助言です。このメッセージだけが表示された場合は、以下のエラーのいずれかが起こりました。

- ステートメントが複雑すぎる。例えば、下方参照が多すぎる、または計算中の算術オーバーフローが起こる。
- ステートメントが循環定義されている。
- ステートメントに乘算した、または除算した再配置可能項がある。

システムの処置: 名前フィールドの記号は、ロケーション・カウンターの現行値 (*) になります。ステートメントのオペランド 2 と 3 (存在する場合) は無視されます。

プログラマーの応答: エラーがあれば、ステートメントのオペランド 1 に正しい式を与えてください。

重大度: 8

ASMA159S Operand must be absolute, proper multiples of 2 or 4

説明: CNOP ステートメントのオペランドの組み合わせが、以下の有効な組み合わせの 1 つではありません。

0,4	2,4
0,8	2,8
4,8	6,8

システムの処置: ステートメントは無視されます。ただし、ロケーション・カウンターはハーフワード境界に調整されます。
プログラマーの応答: CNOP オペランドの有効な組み合わせを与えてください。

重大度: 12

ASMA160W Invalid BYTE function operand xxxxxxxx

説明: BYTE 組み込み関数のオペランドの値 xxxxxxxx が、予期された範囲 0 から 255 の外側です。

システムの処置: オペランドの値の下位 8 ビットが使用されます。

プログラマーの応答: 許容値を返す算術式を指定してください。

重大度: 4

ASMA161W Only one TITLE statement may have a name field

説明: 複数の TITLE ステートメントに名前フィールドがあります。この名前付き TITLE ステートメントは、アセンブリ中の最初の TITLE ステートメントである必要はありませんが、ほかに名前付き TITLE ステートメントがあってはなりません。

システムの処置: この TITLE ステートメントの名前は無視されます。デック識別に使用される名前は、最初に検出された名前付き TITLE ステートメントから取り出されます。

プログラマーの応答: 不要な名前を削除してください。

重大度: 4

ASMA162S PUNCH operand exceeds 80 columns; ignored

説明: PUNCH ステートメントは、80 文字より多くの文字をレコードにパンチしようとしていました。

システムの処置: ステートメントは無視されます。レコードはパンチされません。

プログラマーの応答: オペランドを 80 文字以内に短くするか、または複数の PUNCH ステートメントを使用してください。

重大度: 12

ASMA163W Operand not properly enclosed in quotes

説明: PUNCH または TITLE ステートメントのオペランドが引用符で始まっていないか、PUNCH、MNOTE、または TITLE ステートメントのオペランドが引用符で終わっていないか、または終了引用符の後に空白がありません。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 欠落している引用符を与えてください。データとしてパンチまたは印刷される引用符は、2 つの引用符で表すようにしてください。

重大度: 4

ASMA164W Operand is a null string - record not punched

説明: PUNCH ステートメントにおいて 2 つの単一引用符の間に文字がないか、またはデータとしてパンチされる単一引用符が 2 つの単一引用符で表されていません。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: オペランドを訂正してください。ブランクのレコードを「パンチする」場合は、PUNCH ステートメントのオペランドを、単一引用符で囲まれたブランクにしてください。

重大度: 4

ASMA165W Unexpected name field

説明: このステートメントの名前フィールドが、ブランクでなく、順序記号でもありません。名前フィールドが通常記号であってはなりません。

システムの処置: 名前は、ロケーション・カウンターの現行値 (*) になります。ただし、制御セクションが開始されていない場合は、名前はゼロになります。

プログラマーの応答: 名前フィールドを除去するか、順序記号にする名前が必要な場合は、名前の前にピリオドを付けてください。

重大度: 4

ASMA166S Sequence symbol too long - xxxxxxxx

説明: 順序記号の、ピリオドの後に 62 文字より多い文字があります。

システムの処置: 順序記号が名前フィールドにあれば、ステートメントは名前なしで処理されます。AIF または AGO ステートメントのオペランド・フィールドにあれば、ステートメント全体が無視されます。

プログラマーの応答: 順序記号を短くしてください。

重大度: 12

ASMA167E Required name missing

説明: このステートメントには名前が必要ですが、ありません。置換によって名前を作成しようとしているときにエラーが起きたため、または順序記号を名前として使用したため、名前フィールドがブランクになった可能性があります。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 有効な名前を与えるか、または有効な名前が置換文字によって作成されたことを確認してください。順序記号を必要とする場合は、この前に ANOP ステートメントを置いて、このステートメントで名前を記述してください。

重大度: 8

ASMA168C Undefined sequence symbol - xxxxxxxx

説明: マクロ定義外にある AIF または AGO ステートメントのオペランド・フィールドの順序記号が、定義されていません。つまり、関連するステートメントの名前フィールドで示されていません。

システムの処置: このステートメントは無視されます。アセンブリは次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 順序記号がミススペルであるか、または

ASMA169I • ASMA179S

欠落していれば、訂正してください。順序記号が前もって定義されていないとき、アセンブラは、定義について先を読みません。END ステートメントまたは OPSYN と同等のものを検出したときに、先読みは停止します。END を再定義する OPSYN ステートメントおよびマクロ定義は、可能な入力項目を先読みを組み込むことに注意してください。

重大度: 16

ASMA169I Implicit length of symbol *symbol* used for operand *n*

説明: SS 形式の機械命令のオペランド *n* から長さサブフィールドが省略され、*symbol* の長さは暗黙の長さにアセンブルされて命令のオブジェクト・コードに入れられました。

システムの処置: 命令がアセンブルされるとき暗黙の長さは次のとおりです。

- 暗黙アドレスの場合、その暗黙アドレスを表す式の中の最初の、または唯一の項の長さ属性です。
- 明示アドレスの場合、変位を表す式の中の最初の、または唯一の項の長さ属性です。

プログラマーの応答: 命令を検査して、命令コードおよびオペランドが正しくコード化されているかを確認してください。

FLAG オプションの NOIMPLEN サブオプションを指定することにより、この警告を抑制することができます。

重大度: 0

ASMA170S Interlude error-logging capacity exceeded

説明: アセンブラの INTERLUDE フェーズが検出したエラーを記録しておくために使用されるテーブルが、いっぱいです。これが理由でアセンブラの別のフェーズによるエラー検出が停止することはありません。

システムの処置: このステートメントの前または後にある別のステートメントに別のエラーがあっても (通常、INTERLUDE フェーズによって検出されます)、フラグは立てられません。ステートメント処理はエラーのタイプによって異なります。

プログラマーの応答: 示されたエラーを訂正し、アセンブリを再び実行して、別のエラー (もしあれば) を診断してください。

重大度: 12

ASMA171S Standard value too long

説明: マクロ原型ステートメントのキーワード・パラメータの標準 (デフォルト) 値が 255 文字を超えています。

システムの処置: エラーのパラメータとその後に続くパラメータは無視されます。

プログラマーの応答: 標準値を短くしてください。

重大度: 12

ASMA172E Negative duplication factor; default=1 - xxxxxxxx

説明: SETC ステートメントの複写因数が負です。

システムの処置: 複写因数にはデフォルト値 1 が与えられません。

プログラマーの応答: 正の複写因数を与えてください。

重大度: 8

ASMA173S Delimiter error, expected blank - xxxxxxxx

説明: ブランク (オペランドの終わり) が必要な所で、文字ストリング xxxxxxxx が見つかりました。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。ORG ステートメントは無視されます。EQU または END ステートメントの場合、間違っている区切り文字は無視され、オペランドは正常に処理されます。CNOP ステートメントの場合、ロケーション・カウンタはハーフワード境界に位置合わせされます。

プログラマーの応答: 間違っている区切り文字をブランクに置き換えてください。余分なオペランドまたは欠落している左括弧を見つけてください。

重大度: 12

ASMA174S Delimiter error, expected blank or comma - xxxxxxxx

説明: ブランクまたはコンマが必要な所で、文字ストリング xxxxxxxx が見つかりました。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。USING または DROP ステートメントの場合、間違っている区切り文字は無視され、オペランドは正常に処理されます。

プログラマーの応答: 間違っている区切り文字をブランクまたはコンマに置き換えてください。余分なオペランドまたは欠落している左括弧を見つけてください。

重大度: 12

ASMA175S Delimiter error, expected comma- xxxxxxxx

説明: コンマが必要な所で、文字ストリング xxxxxxxx が使用されました。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。CNOP ステートメントの場合、ロケーション・カウンタはハーフワード境界に位置合わせされます。

プログラマーの応答: 間違っている区切り文字をコンマに置き換えてください。それぞれの式の構文が正しいこと、および括弧が欠落していないことを確認してください。

重大度: 12

ASMA178S Delimiter error, expected comma or right parenthesis - xxxxxxxx

説明: 機械命令において、コンマまたは右括弧が必要な所で、文字ストリング xxxxxxxx が使用されました。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。プログラマーの応答: 間違っている区切り文字をコンマまたは右括弧に置き換えてください。欠落している基本フィールドを見つけてください。

重大度: 12

ASMA179S Delimiter error, expected right parenthesis - xxxxxxxx

説明: 機械命令において、右括弧が必要な所で、文字ストリング xxxxxxxx が使用されました。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。プログラマーの応答: 間違っている区切り文字を右括弧に置き換えてください。許可されていない場所で使用されている索引

フィールドを見つけてください。

重大度: 12

ASMA180S Operand must be absolute

説明: SPACE や CEJECT ステートメントのオペランド、あるいは CCW ステートメントの 1 番目、3 番目、または 4 番目のオペランドが絶対項ではありません。

システムの処置: SPACE または CEJECT ステートメントは無視されます。CCW ステートメントはゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 絶対オペランドを与えてください。対になっている再配置可能な項は LOCTR をスパンしますが、同じ制御セクションになければなりません。

重大度: 12

ASMA181S CCW operand value is outside allowable range

説明: CCW ステートメントの 1 つ以上のオペランドが、以下の限界内にありません。

- 第 1 オペランド - 0 から 255 まで
- 第 2 オペランド - 0 から 16 777 215 まで
(CCW, CCW0)、または 0 から 2 147 483 647 まで
(CCW1)
- 第 3 オペランド - 0 から 255 までの 8 の倍数
- 第 4 オペランド - 0 から 65 535 まで

システムの処置: CCW はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 有効なオペランドを与えてください。

重大度: 12

ASMA182E Operand 2 must be absolute, 0-65535; ignored

説明: このステートメントに関連した別のメッセージも表示された場合、このメッセージは助言です。このメッセージだけが表示された場合は、EQU ステートメントの 2 番目のオペランドに以下のいずれかのエラーがあります。

- 値が 0 から 65,535 までの範囲内にある絶対項、または式ではない。
- 前もって定義されていない記号がある。
- 循環して定義されている。
- 複雑すぎる。例えば、計算中に算術オーバーフローが起こります。
- 絶対値から引き出されている。

システムの処置: オペランド 2 は無視され、最初のオペランドの長さ属性が使用されます。3 番目のオペランドが存在する場合、それは正常に処理されます。

プログラマーの応答: エラーがあれば、訂正してください。

たとえ同じ CSECT にあっても、異なる LOCTR にある再配置可能記号の対は、絶対値および事前定義値が必要な所では無効です。

重大度: 8

ASMA183E Operand 3 must be absolute, 0-255; ignored

説明: このステートメントに関連した別のメッセージも表示された場合、このメッセージは助言です。このメッセージだけが表示された場合は、EQU ステートメントの 3 番目のオペランドに以下のいずれかのエラーがあります。

- 値が 0 から 255 までの範囲内にある絶対項、または式ではない。
- 前もって定義されていない記号がある。
- 循環して定義されている。
- 複雑すぎる。例えば、計算中に算術オーバーフローが起こります。

システムの処置: 3 番目のオペランドは無視され、EQU ステートメントのタイプ属性は U に設定されます。

プログラマーの応答: エラーがあれば、訂正してください。

同じ CSECT 内にあっても、異なる LOCTR で対になっている再配置可能な記号は、前もって定義されている絶対値が必要な所では無効であることに注意してください。

重大度: 8

ASMA184C COPY disaster

説明: 属性参照を先読みしているときに、アセンブラーはライブラリー・メンバーをコピー (COPY ステートメントを処理) しました。しかし、完全なテキストが分析されたときに、COPY 命令コードが OPSYN ステートメントによって変更され、または AREAD ステートメントによって読み込まれ、COPY は処理されませんでした。(先読みフェーズは OPSYN ステートメントを無視します。) このメッセージは COPY コードの最初のレコードの後に続きます。

システムの処置: ライブラリー・メンバーはアセンブルされず、ICTL ステートメントがある場合、その ICTL の形式が使用されます。

プログラマーの応答: COPY ステートメント、または COPY の意味を変更する OPSYN ステートメントを、アセンブリーの中で、先読みモードに入る前 (すなわち、「ASMA006I 先読みが呼び出される」前) の位置に移してください。

重大度: 16

ASMA185W Operand 2 is erroneous - xxxxxxxx

説明: 2 番目のオペランドが誤っているか、オペランドが 1 つあるべきところに 2 つあります。

システムの処置: 2 番目のオペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 2 番目のオペランドを除去または訂正してください。

重大度: 4

ASMA186E AMODE/RMODE already set for this ESD item

説明: 前の AMODE 命令がこの AMODE 命令と同じ名前フィールドを持っているか、または前の RMODE 命令がこの RMODE 命令と同じ名前フィールドを持っています。

システムの処置: エラーのある命令は無視されます。

プログラマーの応答: 矛盾する命令を除去するか、他の制御セクションの名前を指定してください。

重大度: 8

ASMA187E The name field is invalid - xxxxxxx

説明: AMODE または RMODE 命令の名前フィールドが、このアセンブリ内の有効な制御セクションを指していません。または、XATTR 命令の名前フィールドが有効な外部記号を指していません。

システムの処置: エラーのある命令は無視され、名前フィールドは相互参照リストに表示されません。

プログラマーの応答: AMODE または RMODE 命令の名前フィールドに、有効な制御セクションを指定してください。

XATTR 命令の名前フィールドに、有効な外部名を指定してください。

重大度: 8

ASMA188E Incompatible AMODE and RMODE attributes

説明: 前の AMODE 24 命令がこの RMODE ANY 命令と同じ名前フィールドを持っているか、または前の RMODE ANY 命令がこの AMODE 24 命令と同じ名前フィールドを持っています。

システムの処置: エラーのある命令は無視されます。

プログラマーの応答: AMODE 属性と RMODE 属性が矛盾しないように変更してください。AMODE 24 と RMODE ANY の組み合わせ以外はすべて有効です。

重大度: 8

ASMA189E OPSYN not permitted for REPRO

説明: OPSYN 命令の名前フィールドまたはオペランド・フィールドのいずれかに REPRO が指定されていますが、ソース・モジュール内で REPRO ステートメントがすでに検出されています。REPRO ステートメントが検出されると、OPSYN 命令を使用して REPRO 記号命令コードを再定義することはできません。

システムの処置: OPSYN 命令は無視されます。

プログラマーの応答: OPSYN 命令を除去するか、前に検出された REPRO ステートメントを除去してください。

重大度: 8

ASMA190E CATTR instruction invalid because no section started

説明: CATTR 命令の前に CSECT、START、または RSECT 命令がなければなりません。

システムの処置: CATTR 命令は無視されます。

プログラマーの応答: CATTR 命令を削除するか、またはその前に CSECT、START、または RSECT 命令を挿入してください。

重大度: 8

ASMA191W CATTR instruction operands ignored

説明: CATTR 命令にオペランドが指定されていますが、そこに指定されたクラス名は、以前の CATTR 命令のものと同じです。

システムの処置: アセンブラはそのオペランドを無視し、オペランドが指定されなかったものとして処理を続行します。

プログラマーの応答: このエラーは、次のようにして訂正することができます。

- CATTR 命令からエラーのオペランドを削除する。
- CATTR 命令のエラーのクラス名を変更する。
- エラーの CATTR 命令を削除する。

重大度: 4

ASMA192W Lost precision - underflow to zero

説明: 与えられた値は非ゼロであり、表すには小さすぎます。システムの処置: 定数は指数付きでアセンブルされ、小数部はゼロになります。

プログラマーの応答: より大きい値、またはより長い定数タイプを指定してください。

重大度: 4

ASMA193W Lost precision - underflow to denormal

説明: 与えられた値は非ゼロであり、正規形で表すには小さすぎますが、非正規形では表すことができます。

システムの処置: この定数は、非正規形でアセンブルされません。

プログラマーの応答: より大きい値、またはより長い定数タイプを指定してください。

重大度: 4

ASMA194W Nominal value too large - overflow to MAX

説明: 与えられた値が大きすぎて表すことができません。定数の丸めモードは、ゼロに向かって丸めることを示しています。値は、符号付きの表現可能な最大値として表されます。

システムの処置: この定数は、符号付き最大値としてアセンブルされます。

プログラマーの応答: より小さい値、またはより長い定数タイプを指定してください。

重大度: 4

ASMA195W Nominal value too large - overflow to INF

説明: 与えられた値が大きすぎて表すことができません。定数の丸めモードは、ゼロから遠くに丸めることを示しています。

値は、符号付きの無限大として表されます。

システムの処置: この定数は、符号付きの特殊値 INF としてアセンブルされます。

プログラマーの応答: より小さい値、またはより長い定数タイプを指定してください。

重大度: 4

ASMA196W Scaling modifier ignored for binary floating-point constant

説明: 2 進数浮動小数点定数の定義に位取り修飾子が含まれています。

システムの処置: 位取り修飾子は無視されます。

プログラマーの応答: 位取り修飾子を削除してください。

重大度: 4

ASMA198E Exponent modifier is not permitted for special value

説明: 浮動小数点特殊値に指数修飾子は許されません。
 システムの処置: 定数はゼロとしてアセンブルされます。
 プログラマーの応答: 指数修飾子を削除してください。
 重大度: 8

ASMA199E Rounding indicator invalid

説明: 浮動小数点定数の丸め標識が無効な値です。
 システムの処置: エラーのオペランドとその後に続くオペランドは無視されます。
 プログラマーの応答: 丸め標識を訂正してください。
 重大度: 8

ASMA201W SO or SI in continuation column - no continuation assumed

説明: High Level Assembler for VSE を DBCS オプションで呼び出すと、継続表示桁の 2 バイト区切り文字 SO と SI は継続標識ではなく、ブランクとして扱われます。
 システムの処置: 継続表示桁の SO や SI はブランクとしてアセンブルされるので、次の行は継続行として扱われません。
 プログラマーの応答: 継続が必要であれば、非ブランクの EBCDIC 文字を用いて継続を示すようにソース行を変更してください。継続が必要なければ、SO や SI に先行するすべての文字が、完全に有効なデータであるかどうか検査してください。
 重大度: 4

ASMA202W Shift-in not found at extended continuation; check data truncation - xxxxxxxx

説明: アセンブラーは、2 バイト・データがあるソース・ステートメントにはない、拡張継続表示文字を検出しました。拡張継続表示機能は、2 バイト・データの継続表示と、2 バイト・データに隣接する 1 バイト・データを使用可能にするために提供されています。拡張継続表示文字をその他の所で使用すると、アセンブラーはこのメッセージを出します。この状態はコーディング・エラーが原因で起こることがあり、アセンブラーは、データを意図しない拡張継続表示文字として扱います。
 システムの処置: 拡張継続表示文字は、オペランドの一部としてアセンブルされません。
 プログラマーの応答: 意図しない切り捨てが発生してしまった場合は、継続表示文字を変更してください。
 重大度: 4

ASMA203E Unbalanced double-byte delimiters - xxxxxxxx

説明: 対になっていない SO と SI が見つかりました。切り捨てられた、またはネストされた 2 バイト・データの結果であると思われる。有効な 2 バイト・データは、C タイプの DC、DS、および DXD ステートメントとリテラル用に指定されている明示的な長さの中に収まるように切り捨てられるので、このエラーは発生しません。この条件は、エラー ASMA208E の原因となります。

システムの処置: エラーのオペランドとその後に続くオペランドは無視されます。
 プログラマーの応答: 不正な 2 バイト・データを訂正してください。
 重大度: 8

ASMA204E Invalid double-byte data - xxxxxxxx

説明: SO と SI の間のデータは、すべて有効な 2 バイト文字でなければなりません。有効な 2 バイト文字は、2 バイトのブランク (X'4040') として定義されているか、または両方のバイトが X'41' から X'FE' までのバイトである 2 つのバイトとして定義されています。

このエラーは、マクロ命令のオペランドには適用されていません。

システムの処置: エラーのオペランドとその後に続くオペランドは無視されます。
 プログラマーの応答: 不正な 2 バイト・データを訂正してください。
 重大度: 8

ASMA205E Extended continuation end column must not extend into continue column

説明: 拡張継続表示文字が、継続開始桁にあります。
 システムの処置: 拡張継続表示文字は無視されます。後続するレコードは誤りのあるものとして扱われることがあります。拡張継続表示文字は、ソース・ステートメントの一部として扱われます。
 プログラマーの応答: 拡張継続のデータが、有効な入力であるときとみなされるべき場合は、データを有効なものとして識別し、次のレコードに継続するために、他の非ブランク文字を継続表示桁に使用しなければなりません。データが定数の一部でない場合は、拡張継続の文字を除去し、正しいデータを継続レコードに追加して、拡張継続が必要なポイントまでの長さにご確認ください。NODBCS オプションでアセンブルされているコードを、DBCS オプションでアセンブルされるコードに変換しているときに、このメッセージが出されることがあります。
 重大度: 8

ASMA206E G-type constant must not contain single-byte data - xxxxxxxx

説明: 置換が起こった後の G タイプ定数、または自己定義項は、SO と SI によって正しく区切られた、完全な 2 バイト文字データでなければなりません。SO または SI がそれぞれ最初と最後以外の任意のバイト位置にあると、(除去した余分な SI/SO のペアを除いて) このエラーが報告されます。
 システムの処置: エラーのオペランドとその後に続くオペランドは無視されます。
 プログラマーの応答: 1 バイト文字データをオペランドから除去するか、または定数を C タイプに変更してください。
 重大度: 8

ASMA207E Length of G-type constant must be a multiple of 2 - xxxxxxxx

説明: G タイプ定数は、2 バイト文字データでなければなりません。2 の倍数でない長さ修飾子でアセンブルすると、正しくない 2 バイト文字データが作成されます。

システムの処置: エラーのオペランドとその後に続くオペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 長さ修飾子を訂正するか、または定数を C タイプに変更してください。

重大度: 8

ASMA208E Truncation into double-byte data is not permitted - xxxxxxxx

説明: DS、DC または DXD ステートメントにある C タイプ定数の明示的長さ、またはリテラルが原因で、公称値が 2 バイト文字データ内で切り捨てられてはなりません。

システムの処置: エラーのオペランドとその後に続くオペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 長さ修飾子を訂正するか、または切り捨てられないように 2 バイト文字データを変更してください。

重大度: 8

ASMA209E Symbol not name of class, DXD or DSECT

説明: J タイプ・アドレス定数のオペランドが、クラス、DXD、または DSECT の名前ではありません。

システムの処置: 定数はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 有効なオペランドを与えてください。

重大度: 8

ASMA210E Illegal register usage

説明: この機械命令のレジスター・オペランドは固有でなければなりません。

システムの処置: 機械命令はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 指定するオペランドが固有となるよう命令を訂正してください。

重大度: 8

ASMA211E Unicode conversion table not available.

説明: CODEPAGE オプションに指定されたコード・ページ・モジュールの中で、UNICODE 変換テーブルのアドレスがゼロです。

システムの処置: 定数は変換されません。

プログラマーの応答: 「*High Level Assembler for MVS & VM & VSE Programmer's Guide*」の付録『How to Generate a Unicode Translation Table』に記載されている指示に従って、コード・ページ・モジュールを生成するようにしてください。

重大度: 12

ASMA212W Branch address alignment for xxxxxxxx unfavorable

説明: 当該ステートメントで参照されているブランチ・アドレスは、当該命令に必要な境界に合わせて調整されていない可能性があります。例えば、ブランチおよび保管の命令 (BAS)

で参照されたターゲットがハーフワード境界上で調整されていない可能性があります。

システムの処置: 命令は書かれたとおりにアセンブルされません。

プログラマーの応答: オペランドに誤りがあれば、オペランドを訂正してください。このメッセージを抑制するには、FLAG(NOALIGN) アセンブラー・オプションを使用してください。

重大度: 4

ASMA213W Storage alignment for xxxxxxxx unfavorable

説明: 当該ステートメントで参照されているアドレスは、当該命令に必要な境界に合わせて調整されていない可能性があります。例えば、比較およびスワップの命令 (CS) で参照されたデータがフルワード境界上で調整されていない可能性があります。

システムの処置: 命令は書かれたとおりにアセンブルされません。

プログラマーの応答: オペランドに誤りがあれば、オペランドを訂正してください。このメッセージを抑制するには、FLAG(NOALIGN) アセンブラー・オプションを使用してください。

重大度: 4

ASMA223E 相対即値オペランドのターゲットが範囲内にありません - xxxxxxxx

説明: 相対即値オペランドで指し示されているアドレスが、符号付き相対即値オペランドの範囲を超えています。

システムの処置: 命令はゼロとしてアセンブルされます。Addr1 / Addr2 の値には相応のターゲット・アドレスが含まれます。

プログラマーの応答: 符号付き相対即値オペランドのターゲットへのオフセット (ハーフワード) を相対即値オペランドのビット数に含めることができることを確認してください。

重大度: 8

ASMA253C Too many errors

説明: エラーを記録しているアセンブラー作業域がいっぱいになったため、このステートメントのエラー・メッセージをこれ以上出すことはできません。

システムの処置: このステートメントのエラーがさらに検出された場合は、メッセージ、注釈テキスト、またはその両方が廃棄されます。

プログラマーの応答: 示されているエラーを訂正して、アセンブリーを再実行してください。このステートメントでさらにエラーがあれば、次回のアセンブリーで検出されます。

重大度: 16

ASMA254I * MNOTE *****

説明: このメッセージに付け加えられた MNOTE ステートメントのテキストが、プログラム、マクロ定義、またはプログラムにコピーされたライブラリー・メンバーによって生成されました。MNOTE ステートメントは、エラーまたは通知メッセージを生成するためにアセンブラーに信号を送る、ソース・プ

ログラムまたはマクロ定義を使用可能にします。

システムの処置: なし。

プログラマーの応答: MNOTE の理由を調べてください。プログラムを実行したときに、MNOTE によってフラグを立てられたエラーは、プログラムが失敗する原因となることがあります。

重大度: MNOTE は、MNOTE ステートメントの作成者によって 0 から 255 の重大度コードが割り当てられています。

ASMA300W USING overridden by a prior active USING on statement number *nnnnnn*

説明: USING 命令は、ステートメント番号 *nnnnnn* にある、前の USING 命令と同じ基底アドレスを指定し、指定された基底レジスターは、前に指定された基底レジスターより小さい番号が付けられました。

システムの処置: アセンブラーは、USING の範囲内にある記号アドレスのアドレス解決のために、大きい番号が付けられた基底レジスターを使用します。

プログラマーの応答: USING ステートメントを検査して、基底アドレスと基底レジスターの指定が正しいこと、および前の基底レジスターに必要な DROP ステートメントを省略していないことを確かめてください。USING オプションの WARN サブオプションに指定された値を 1 減らすことで、このメッセージを抑制することができます。

重大度: 4

ASMA301W Prior active USING on statement number *nnnnnn* overridden by this USING

説明: USING 命令は、ステートメント番号 *nnnnnn* にある前の USING 命令と同じ基底アドレスを指定し、指定された基底レジスターは、前の基底レジスターより大きい番号が付けられました。

システムの処置: アセンブラーは、USING の範囲内にある記号アドレスのアドレス解決のために、大きい番号が付けられた基底レジスターを使用します。

プログラマーの応答: USING ステートメントを検査して、基底アドレスと基底レジスターの指定が正しいこと、および前の基底レジスターに必要な DROP ステートメントを省略していないことを確かめてください。USING オプションの WARN サブオプションに指定された値を 1 減らすことで、このメッセージを抑制することができます。

重大度: 4

ASMA302W USING specifies register 0 with a non-zero absolute or relocatable base address

説明: レジスター 0 を基底レジスターとして使用すると、アセンブラーはゼロのアドレスを含んでいると想定します。このため、基底アドレスに指定された値に関係なく、変位は基底 0 から計算されます。

システムの処置: アセンブラーは、指定された基底アドレスは絶対または再配置可能なゼロであるものとして変位を計算します。

プログラマーの応答: USING ステートメントを検査して、正しい基底アドレスと基底レジスターを指定したことを確認してください。USING オプションの WARN サブオプションに

指定された値を 2 減らすことで、このメッセージを抑制することができます。

重大度: 4

ASMA303W Multiple address resolutions may result from this USING and the USING on statement number *nnnnnn*

説明: USING 命令が、ステートメント番号 *nnnnnn* の前の USING 命令の範囲内にある基底アドレスを指定しています。重なり合っている範囲内の暗黙アドレスを解決する場合、アセンブラーは複数の基底レジスターを使用する可能性があります。

システムの処置: アセンブラーは、変位が小さくなる方の基底アドレスから変位を計算し、重なり合う範囲内のアドレスをアセンブルする場合には、対応する基底レジスターを使用しません。

プログラマーの応答: USING 命令を検査して、USING の有効範囲が重なってしまっていないか、必要な DROP ステートメントを除外していないかを調べてください。USING オプションの WARN サブオプションに指定された値を 4 減らすことで、このメッセージを抑制することができます。

重大度: 4

ASMA304W Displacement exceeds LIMIT value specified

説明: このステートメントが参照するアドレスに、USING (LIMIT (XXX)) オプションに指定された変位限界を超えた有効な変位があります。

システムの処置: 命令は正常にアセンブルされます。

プログラマーの応答: ユーザーの要求により、このエラー診断メッセージが出されます。USING オプションの WARN サブオプションに指定された値を 8 減らせば、このメッセージを抑制できます。

重大度: 4

ASMA305E Operand 1 does not refer to location within reference control section

説明: 依存 USING ステートメントの最初のオペランドは、DSECT、DXD または COM 命令で定義された参照制御セクション内のロケーションを参照していません。

システムの処置: USING ステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: USING ステートメントを変更して、参照制御セクション内のロケーションを指定してください。

重大度: 8

ASMA306W USING range overlaps implicit USING 0,0

説明: USING 範囲がアセンブラーの暗黙の USING 0,0 と重なり合っています。この暗黙の USING は、0 から 4095 の範囲にある絶対暗黙アドレスを変換するために使用されます。この USING の結果、アセンブラーは、期待されたオブジェクト・コードを生成しない可能性があります。

システムの処置: アセンブラーは続行されます。

プログラマーの応答: USING 命令を訂正してください。

重大度: 4

ASMA307E No active USING for operand *n*

説明: アクティブ USING がないセクションに、このオペランドがあります。

システムの処置: 命令はゼロとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: USING 命令を指定してください。

重大度: 8

ASMA308E Repeated register *reg* nullifies prior USING range

説明: 反復レジスターは、同じ USING 命令でそのレジスターを前に使ったときに指定された範囲を無効にします。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: USING 命令を訂正してください。

重大度: 8

ASMA309W Operand *xxxxxxx* resolved to a displacement with no base register

説明: 機械命令で指定されたオペランドが、基底と変位が期待されているときに、基底のないアドレスに解決されました。これはプログラマーが意図したものかもしれませんが、通常は、エラーです。

システムの処置: 命令のオブジェクト・コードには、基底レジスター・ゼロがアセンブルされて入れられます。

プログラマーの応答: 命令を検査して、命令コードおよびオペランドが正しくコード化されているかを確認してください。ページ・ゼロを参照したい場合、ゼロ基底レジスターを含む該当の DSECT の USING を指定してください。FLAG オプションの NOPAGE0 サブオプションを指定することにより、この警告を抑制することができます。

重大度: 4

ASMA310W Name already used in prior ALIAS - *xxxxxxx*

説明: ALIAS ステートメントに指定された名前は、すでに前の ALIAS ステートメントで使用されています。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 1 つの ALIAS ステートメントでだけ名前が使用されるように、プログラムを変更してください。

重大度: 4

ASMA311E Illegal ALIAS string

説明: 以下のいずれかの理由で、ALIAS スtringが不当です。

- 文字列がヌルである。
- 文字列が C"cccccccc" または X'hhhhhhhh' の形式ではない。
- 文字列は X'hhhhhhhh' の形式だが、16 進数字が奇数個が指定されている。
- 文字列に、有効な範囲 X'42' から X'FE' 以外の文字が含まれている。
- この文字列を前の CSECT、DSECT、COM、または LOCTR 命令の名前項目で使用した。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 文字列が要求された構文に適合するよう

に、プログラムを変更してください。

重大度: 8

ASMA312E ALIAS name is not declared as an external symbol - *xxxxxxx*

説明: ALIAS ステートメントで指定した名前が、EXTRN、CSECT などをとおして、明示的に、あるいは V タイプ定数をとおして暗黙的に、外部記号として定義されていません。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 名前が外部記号であると宣言されるように、プログラムを変更してください。

重大度: 8

ASMA313E The end value specified in the USING is less than or equal to the base value

説明: 指定された終わり値が基底値と等しいか、それより小さい値です。その結果、範囲がゼロまたは負になります。

システムの処置: 終わり値は無視され、デフォルトの範囲値が使用されます。

プログラマーの応答: USING ステートメントを変更して、基底値より大きい終わり値を指定してください。

重大度: 8

ASMA314E The base and end values have differing relocation attributes

説明: 基底値と終わり値の再配置属性が異なります。すなわち、基底値と終わり値が異なるセクションで定義されています。

システムの処置: 終わり値は無視され、デフォルトの範囲値が使用されます。

プログラマーの応答: USING ステートメントを変更して、基底値と同じセクションになるように終わり値を指定してください。

重大度: 8

ASMA323W Symbol *xxxxxxx* has incompatible type with *yyyyyyyy* register field

説明: マシン命令のレジスター・フィールドに対して絶対値を指定するためにシンボルが使用されましたが、そのシンボルに割り当てられているアセンブラー・タイプが、その命令に対して予期されたレジスター・タイプと一致しません。

システムの処置: レジスター値が使用され、オブジェクト・コードが生成されます。このメッセージはコードの実行に影響しません。

プログラマーの応答: 正しいアセンブラー・タイプのシンボルを使用してください。そのシンボルが EQU アセンブラー命令を使用して定義されたものである場合、アセンブラー・タイプは 5 番目のオペランドを使用してシンボルに割り当てられません。このメッセージは、TYPECHECK(NOREGISTER) アセンブラー・オプションを使用して抑止できます。

重大度: 4

ASMA324I Symbol xxxxxxx may have incompatible type with yyyyyyyy register field

説明: マシン命令のレジスター・フィールドに対して絶対値を指定するためにシンボルが使用されましたが、そのシンボルに割り当てられているアセンブラー・タイプが、その命令に対して予期されたレジスター・タイプと一致していない可能性があります。アセンブラーは特定アセンブラー・タイプのシンボルの定義を現行ソース・コード断片内で検出すると、このメッセージを使用して、そのアセンブラー・タイプがマシン命令上で明らかに不整合に使用されている箇所を強調表示します。

システムの処置: レジスター値が使用され、オブジェクト・コードが生成されます。このメッセージはコードの実行に影響しません。

プログラマーの応答: 正しいアセンブラー・タイプのシンボルを使用してください。そのシンボルが EQU アセンブラー命令を使用して定義されたものである場合、アセンブラー・タイプは 5 番目のオペランドを使用してシンボルに割り当てられます。このメッセージは、TYPECHECK(NOREGISTER) アセンブラー・オプションを使用して抑止できます。

重大度: 0

ASMA400W Error in invocation parameter - xxxxxxx

説明: パラメーター xxxxxxx は、認識されていないアセンブラー・オプションであるか、または正しく指定されていません。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブリーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、誤って指定されたオプションのインストール・システム・デフォルト値が使用され、アセンブリーは続行されます。

プログラマーの応答: パラメーター・エラーを訂正し、アセンブリーをサブミットし直してください。

重大度: 4

ASMA401N Fixed option cannot be overridden by invocation parameter - xxxxxxx

説明: パラメーター xxxxxxx を、ASMAOPT ファイルに、または呼び出しパラメーターとして指定することができません。これは、このパラメーターでオーバーライドしようとしたオプションが、High Level Assembler for VSE のインストール時に固定されていたためです。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブリーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、誤って指定されたオプションのインストール・システム・デフォルト値が使用され、アセンブリーは続行されます。

プログラマーの応答: パラメーター・エラーを訂正し、アセンブリーをサブミットし直してください。

重大度: 2

ASMA402W Invalid print line length xxxxxx returned by LISTING exit; exit processing bypassed

説明: OPEN 要求で呼び出された LISTING 出口が指定する印刷行の長さが、121 から 255 (MVS および CMS) または 121 から 133 (VSE) の範囲外か、またはリスト・ファイルが割り当てられた装置には許されない長さです。

システムの処置: アセンブラーは、リスト・レコードを処理するときには出口をバイパスして、アセンブリー・リストを標準リスト・ファイルに書き込みます。印刷行の長さはアセンブラーが決めます。

プログラマーの応答: LISTING 出口のエラーを訂正してください。

重大度: 4

ASMA403W WORK file blocksize has been set to xxxxxx

説明: 作業ファイルに使用されるジョブ制御言語に指定されたブロック・サイズは、許可されません。有効な範囲は 2008 バイトから 32760 バイトまでの間か、または作業ファイルが置かれている装置の最大トラック容量の範囲で、いずれにせよ、もっと小さいものです。

システムの処置: 作業ファイルのブロック・サイズは、指定された値に設定されました。

プログラマーの応答: 作業ファイルに有効なブロック・サイズを指定してください。

重大度: 4

ASMA404W Invalid term line length xxxxxx returned by TERM exit; exit processing bypassed

説明: OPEN 要求で呼び出された TERM 出口が指定する行の長さがゼロであったか、または 255 (MVS および CMS) または 125 (VSE) より大きいか、または端末ファイルが割り当てられた装置には許されない長さです。

システムの処置: アセンブラーは、端末レコードを処理するときには出口をバイパスして、端末レコードを標準端末ファイルに書き込みます。行の長さはアセンブラーが決めます。

プログラマーの応答: TERM 出口のエラーを訂正してください。

重大度: 4

ASMA409I Unable to load ASMAINFO

説明: アセンブラーは INFO オプション・モジュール ASMAINFO をロードしようとしたましたが、ロードは失敗しました。

システムの処置: アセンブリーは、要求された INFO をリストしないで続行されます。

プログラマーの応答: ASMAINFO がアセンブラーによってアクセス可能なライブラリーにあるかどうか検査してください。

重大度: 0

ASMA410W WORK file not defined to the assembler

説明: アセンブラー作業ファイル用の JCL ステートメントがアセンブリー・ジョブ・ステップ用のジョブ制御言語で提供されていません。

- アセンブラーを MVS 上で実行している場合、作業ファイル用の DD ステートメントが欠落しているか、または TSO ALLOCATE コマンドが出されていません。
- アセンブラーを CMS 上で実行している場合、作業ファイル用の FILEDEF コマンドが出されていません。
- アセンブラーを VSE 上で実行している場合、アセンブラー作業ファイル IJSYS03 用の DLBL ステートメントがアセンブリー JCL の中にありません。

システムの処置: アセンブラーは作業ファイルを使用せずに、仮想記憶でのアセンブリーを完了しようとします。ただし、アセンブリーが完了するために十分な仮想記憶がない場合、他のメッセージが出され、アセンブリーは異常終了します。

プログラマーの応答: MVS では、作業ファイル用の有効な JCL を指定してください。インストール・システムで作業ファイル用のデフォルト DD 名を変更していないかを確認し、正しい DD 名を使用していることを確認してください。

CMS では、作業ファイル用の FILEDEF コマンドを与えてください。

VSE では、作業ファイル用の DLBL ステートメントを与えてください。作業ファイルの定義について詳しくは、表 'Assembler file characteristics' を参照してください。この表は、「High Level Assembler for MVS & VM & VSE Programmer's Guide」のトピック『Assembling Your Program on VSE』にあります。

重大度: 4

ASMA411W WORK file is not on DASD

説明: 作業ファイルの JCL ステートメントが、作業ファイルが DASD に存在しないことを示しています。

システムの処置: アセンブラーは作業ファイルを使用せずに、ストレージでのアセンブリーを完了しようとします。ただし、アセンブリーが完了するために十分な仮想記憶がない場合、他のメッセージが出され、アセンブリーは異常終了します。

プログラマーの応答: 作業ファイル (MVS および CMS では SYSUT1、VSE では IJSYS03) を DASD に割り当てて、作業ファイル用に正しい JCL を指定してください。MVS と CMS では、インストール・システムで作業ファイル用のデフォルト DD 名を変更していないかを確認し、正しい DD 名を使用していることを確認してください。VSE での作業ファイルの定義について詳しくは、表 'Assembler file characteristics' を参照してください。この表は、「High Level Assembler for MVS & VM & VSE Programmer's Guide」のトピック『Assembling Your Program on VSE』にあります。

重大度: 4

ASMA412W Unable to open WORK file

説明: アセンブラー作業ファイルをオープンしようとしているときにアセンブラーがエラーを検出しました。

システムの処置: アセンブラーは作業ファイルを使用せずに、ストレージでのアセンブリーを完了しようとします。ただし、

アセンブリーが完了するために十分な仮想記憶がない場合、他のメッセージが出され、アセンブリーは異常終了します。

プログラマーの応答: 作業ファイルの JCL を検査してください。また作業ファイルが DASD に割り当てられているかどうか、および DASD ボリュームが書き込み保護されていないかどうか確認してください。

重大度: 4

ASMA413C Unable to open INPUT file

説明: アセンブラー入力ファイルをオープンしようとしているときに、アセンブラーがエラーを検出しました。これは、通常、ジョブ制御言語エラーが原因です。

システムの処置: アセンブリーは停止し、リストは作成されません。

プログラマーの応答: 入力ファイルの JCL を検査してください。

重大度: 16

ASMA414C Unable to open LISTING file

説明: アセンブラー・リスト・ファイルをオープンしようとしているときに、アセンブラーがエラーを検出しました。これは、通常、ジョブ制御言語エラーが原因です。

システムの処置: アセンブリーは停止し、リストは作成されません。

プログラマーの応答: リスト・ファイルの JCL を検査してください。

重大度: 16

ASMA415N Unable to open TERM file

説明: アセンブラー端末出力ファイルをオープンしようとしているときに、アセンブラーがエラーを検出しました。これは、通常、ジョブ制御言語エラーが原因です。

システムの処置: アセンブリーは続行されますが、端末ファイルは作成されません。

プログラマーの応答: 端末出力ファイルの JCL を検査してください。

重大度: 2

ASMA416C Unable to open DECK file

説明: アセンブラー・デック出力ファイルをオープンしようとしているときに、アセンブラーがエラーを検出しました。これは、通常、ジョブ制御言語エラーが原因です。

システムの処置: アセンブリーは停止し、リストは作成されません。

プログラマーの応答: デック出力ファイルの JCL を検査してください。

重大度: 16

ASMA417C Unable to open OBJECT file

説明: アセンブラー・オブジェクト出力ファイルをオープンしようとしているときに、アセンブラーがエラーを検出しました。これは、通常、ジョブ制御言語エラーが原因です。

システムの処置: アセンブリーは停止し、リストは作成されません。

プログラマーの応答: オブジェクト出力ファイルの JCL 検査をしてください。

重大度: 16

ASMA418C Unable to open ADATA file

説明: 関連データ・ファイルを開こうとしているときに、アセンブラーがエラーを検出しました。これは、通常、ジョブ制御言語エラーが原因です。

システムの処置: アセンブラーは停止し、リストは作成されません。

プログラマーの応答: SYSADATA DD 名 (MVS および CMS) 用または SYSADAT ファイル (VSE) 用の JCL を検査してください。

重大度: 16

ASMA419C Unable to open TRACE file

説明: アセンブラーは、内部トレース・ファイルを開こうとしたときに、エラーを検出しました。これは、通常、ジョブ制御言語エラーが原因です。

システムの処置: アセンブラーは停止し、リストは作成されません。

プログラマーの応答: SYSTRACE DD 名 (MVS および CMS) 用または SYSTRAC ファイル (VSE) 用の JCL を検査してください。

重大度: 16

ASMA420N Error in a *PROCESS statement parameter - xxxxxxxx

説明: パラメーター xxxxxxxx は、認識されていないアセンブラー・オプションであるか、または正しく指定されていません。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブラーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、誤って指定されたオプションのインストール・システム・デフォルト値または呼び出しパラメーター値が使用され、アセンブラーは続行されます。

プログラマーの応答: パラメーター・エラーを訂正し、アセンブラーをサブミットし直してください。

重大度: 2

ASMA421N Fixed option cannot be overridden by *PROCESS statement parameter - xxxxxxxx

説明: 無効にしようとしたオプションは、High Level Assembler for VSE がインストールされたときの固定オプションであったために、パラメーター xxxxxxxx を *PROCESS ステートメント・パラメーターとして指定することはできません。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブラーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、誤って指定されたオプションのインストール・システム・デフォルト値が使用され、アセンブラーは続行されます。

プログラマーの応答: *PROCESS ステートメントからオプション

ンを除去して、アセンブラーをサブミットし直してください。

重大度: 2

ASMA422N Option xxxxxxxx is not valid in a *PROCESS statement

説明: 以下のオプションは *PROCESS ステートメントに指定することができません。

ADATA NOADATA	OBJECT NOOBJECT
ASA NOASA	OPTABLE
DECK NODECK	SIZE
EXIT NOEXIT	SYSPPARM
GOFF NOGOFF	TERM NOTERM
LANGUAGE	TRANSLATE NOTRANSLATE
LINECOUNT	XOBJECT NOXOBJECT
LIST NOLIST	

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブラーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、誤って指定されたオプションのインストール・システム・デフォルト値または呼び出しパラメーター値が使用され、アセンブラーは続行されます。

プログラマーの応答: *PROCESS ステートメントからオプションを除去して、アセンブラーをサブミットし直してください。

重大度: 2

ASMA423N Option yyyyyyyyy in a *PROCESS OVERRIDE statement conflicts with an invocation or default option. Option is not permitted on *PROCESS statement and has been ignored.

説明: *PROCESS OVERRIDE ステートメントに指定されたオプション yyyyyyyyy が、呼び出しオプションまたはデフォルト・オプションと矛盾しています。*PROCESS ステートメントのオプションは許可されず、無視されました。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブラーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、アセンブラーは、呼び出しオプションまたはデフォルト・オプションを使用して続行されます。

プログラマーの応答: *PROCESS OVERRIDE ステートメントを訂正し、アセンブラーを再サブミットしてください。

重大度: 2

ASMA425N Option conflict in invocation parameters. yyyyyyyyy overrides an earlier setting.

説明: ASMAOPT ファイルまたは呼び出しパラメーターのいずれかで、呼び出しパラメーターとして指定されたオプション yyyyyyyyy が、同じ ASMAOPT ファイルまたは呼び出しパラメーターにおける以前のオプション設定をオーバーライドします。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブラーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、アセンブラーは、指定された最後の矛盾するオプションを使用して続行されます。

プログラマーの応答: ASMAOPT ファイルまたは呼び出しパ

ASMA426N • ASMA434N

ラメーターを訂正し、アセンブリーを再サブミットしてください。

重大度: 2

ASMA426N Option conflict in *PROCESS statements.

yyyyyyyy overrides an earlier setting.

説明: *PROCESS ステートメントに指定されている *yyyyyyyy* は、同じステートメントで前に指定されている、または前の *PROCESS ステートメントに指定されている前のオプション設定を無効にします。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブリーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、アセンブリーは、検出された最後の矛盾するオプションを使用して続行されます。

プログラマーの応答: *PROCESS ステートメント・エラーを訂正して、アセンブリーをサブミットし直してください。

重大度: 2

ASMA427N Invocation parameter option xxxxxxxx ignored. This option is not valid under VSE.

説明: 呼び出しパラメーターに指定されているオプション xxxxxxxx は VSE オペレーティング・システム環境では無効です。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブリーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、アセンブリーは続行されますが、このオプションは無視されます。

プログラマーの応答: 呼び出しパラメーターからオプションを除去し、アセンブリーをサブミットし直してください。

重大度: 2

ASMA428N *PROCESS statement option xxxxxxxx ignored. This option is not valid under VSE.

説明: *PROCESS ステートメントに指定されているオプション xxxxxxxx は、VSE オペレーティング・システム環境では無効です。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブリーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、アセンブリーは続行されますが、このオプションは無視されます。

プログラマーの応答: *PROCESS ステートメントからオプションを除去して、アセンブリーをサブミットし直してください。

重大度: 2

ASMA429W SYSPRINT LRECL should be at least 133 when GOFF/XOBJECT option is specified

説明: GOFF または XOBJECT アセンブラー・オプションが指定されましたが、リスト・ファイル SYSPRINT の論理レコード長が 133 より小さな値です。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブリーは停止します。オプション NOPESTOP が

指定されている場合、アセンブリーは続行されますが、ソースおよびオブジェクトのセクションの行は切り捨てられます。プログラマーの応答: SYSPRINT 用には少なくとも 133 のレコード長を指定してください。

重大度: 4

ASMA430W Continuation statement does not start in continue column.

説明: 継続レコードのオペランドがコンマで終わっていて、継続ステートメントがありますが、継続開始桁がブランクです。継続開始桁は ICTL 命令で再定義しなければ、16 桁目です。システムの処置: このステートメントの残りの継続行はすべて無視されます。

プログラマーの応答: 継続を正しくコーディングしているかどうか確認してください。

重大度: 4

ASMA431W Continuation statement may be in error - continuation indicator column is blank.

説明: 1 つ以上のオペランドのリストがコンマで終わっていますが、継続表示桁はブランクです。継続表示桁は ICTL 命令で再定義しなければ 72 桁目です。

システムの処置: 次のステートメントは、標準アセンブラー・ソース・ステートメントとしてアセンブルされます。

プログラマーの応答: 継続を正しくコーディングしているかどうか確認してください。

重大度: 4

ASMA432W Continuation statement may be in error - comma omitted from continued statement.

説明: 継続レコードは、継続開始桁 (通常 16 桁目) から始まりますが、前のレコードのオペランドに続くコンマがありません。

システムの処置: このステートメントの残りの継続行はすべて無視されます。

プログラマーの応答: 継続を正しくコーディングしているかどうか確認してください。

重大度: 4

ASMA433W Statement not continued - continuation statement may be in error

説明: 継続するレコードがいっぱいになっていますが、継続行は継続開始桁 (通常 16 桁目) から始まっていません。

システムの処置: このステートメントの残りの継続行はすべて無視されます。

プログラマーの応答: 継続を正しくコーディングしているかどうか確認してください。

重大度: 4

ASMA434N GOFF/XOBJECT option specified, option LIST(133) will be used

説明: GOFF または XOBJECT オプションが指定され、LIST サブオプションは 121 です。

システムの処置: アセンブラーは LIST サブオプションを 133

に指定します。オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブラーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、アセンブラーは続行されます。

プログラマーの応答: この警告メッセージが出されないようにするには、XOBJECT と LIST(133) を指定してアセンブラーを再実行してください。

重大度: 2

ASMA435I Record *n* in xxxxxxx on volume: vvvvvv

説明: ボリューム通し番号 vvvvvv にあるデータ・セット xxxxxxx のレコード番号 *n* にエラーがあります。このボリューム通し番号は使用できないかもしれません。

AININSERT 命令の場合:

n AININSERT 内部バッファ内のステートメントの番号。
この番号は検索時点でのバッファ内のステートメントの相対ステートメント番号を表していないかもしれませんが、相対検索番号は表しています。それは、バッファからステートメントを検索した後、バッファにレコードを挿入することが可能だからです。

xxxxxxx

ステートメントが AININSERT 命令から生じたものであることを示す定数 AININSERT BUFFER。

vvvvvv

ヌルです。

システムの処置: このメッセージのすぐ前に出されるエラー・メッセージの「システムの処置」を参照してください。

プログラマーの応答: このメッセージのすぐ前に出されるエラー・メッセージの「プログラマーの応答」を参照してください。

重大度: 0

ASMA436N Attempt to override invocation parameter in a *PROCESS statement. Option yyyyyyyy ignored.

説明: *PROCESS ステートメントに指定されたオプション yyyyyyyy が、ASMAOPT ファイルまたは呼び出しパラメーターのいずれかに指定されたオプションと矛盾しています。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブラーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、アセンブラーは、ASMAOPT ファイルまたは呼び出しパラメーターに指定されたオプションを使用して続行されます。

プログラマーの応答: *PROCESS ステートメントを訂正し、アセンブラーを再サブミットしてください。

重大度: 2

ASMA437N Attempt to override invocation parameter in a *PROCESS statement. Suboption yyyyyyyy of xxxxxxx option ignored.

説明: *PROCESS ステートメントに指定されたオプション xxxxxxx のサブオプション yyyyyyyy が、ASMAOPT ファイルまたは呼び出しパラメーターに指定されたサブオプションと矛盾しています。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場

合、アセンブラーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、アセンブラーは、*PROCESS OVERRIDE ステートメントに指定されたサブオプションを使用して続行されます。

プログラマーの応答: *PROCESS ステートメントを訂正し、アセンブラーを再サブミットしてください。

重大度: 2

ASMA438N Attempt to override ASMAOPT parameter. Option yyyyyyyy ignored

説明: 呼び出しパラメーターとして指定されたオプション yyyyyyyy は、ASMAOPT ファイル (CMS または MVS) またはライブラリアン・メンバー (VSE) に指定されたオプションをオーバーライドします。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブラーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、アセンブラーは、ASMAOPT ファイル (MVS および CMS) またはライブラリアン・メンバー (VSE) に指定されたオプションを使用して続行されます。

プログラマーの応答: 呼び出しパラメーターからオプションを除去し、アセンブラーを再サブミットしてください。

重大度: 2

ASMA439N Attempt to override ASMAOPT parameter. Suboption yyyyyyyy of option xxxxxxx ignored

説明: 呼び出しパラメーターとして指定されたオプション yyyyyyyy のサブオプション xxxxxxx は、ASMAOPT ファイル (MVS および CMS) またはライブラリアン・メンバー (VSE) に指定されたサブオプションをオーバーライドします。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブラーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、アセンブラーは、ASMAOPT ファイル (MVS および CMS) またはライブラリアン・メンバー (VSE) に指定されたサブオプションを使用して続行されます。

プログラマーの応答: 呼び出しパラメーターからサブオプションを除去し、アセンブラーを再サブミットしてください。

重大度: 2

ASMA440N Attempt to override OVERRIDE parameter in *PROCESS statement. Option yyyyyyyy ignored.

説明: *PROCESS ステートメントに指定されたオプション yyyyyyyy が、前の *PROCESS OVERRIDE ステートメントに指定されたオプションと矛盾しています。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブラーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、アセンブラーは、*PROCESS OVERRIDE ステートメントに指定されたオプションを使用して続行されます。

プログラマーの応答: *PROCESS ステートメントを訂正し、アセンブラーを再サブミットしてください。

重大度: 2

ASMA441N **Attempt to override OVERRIDE parameter in a *PROCESS statement. Suboption yyyyyyyy ignored. yyyyyyyy of xxxxxxxx ignored.**

説明: *PROCESS ステートメントに指定されたオプション xxxxxxxx のサブオプション yyyyyyyy が、前の *PR OVERRIDE ステートメントに指定されたサブオプションと矛盾しています。

システムの処置: オプション PESTOP が指定されている場合、アセンブラーは停止します。オプション NOPESTOP が指定されている場合、アセンブラーは、*PROCESS OVERRIDE ステートメントに指定されたサブオプションを使用して続行されます。

プログラマーの応答: *PROCESS ステートメントを訂正し、アセンブラーを再サブミットしてください。

重大度: 2

ASMA442N **ASMAOPT internal buffer full - some options ignored.**

説明: ASMAOPT ファイルによって提供されるオプション・リストの長さ (アセンブラーによって挿入される区切りコマも長さに含まれる) が、32766 バイトを超えています。

システムの処置: このメッセージが生成される原因となったレコード、およびその後のレコードは、無視されます。

プログラマーの応答: ASMAOPT ファイルによって提供されるオプション・リストの長さを縮小してください。

重大度: 2

ASMA500W **Requested alignment exceeds section alignment.**

説明: セクション配置は、命令で要求された配置よりも低い位置で行われるため、実際の配置は受け入れられない可能性があります。

システムの処置: 要求された配置は無視されます。

プログラマーの応答: 要求された配置がセクションの配置と同じ位置かそれよりも低い位置になるように変更するか、またはプログラムのリンクおよびロード時に希望の配置が行われるようにしてください。

重大度: 4

ASMA700I *exit-type: exit supplied text*

説明: *exit-type* 出口用のユーザー提供出口が、*exit supplied text* を持つこのメッセージを出すようにアセンブラーに要求しました。

システムの処置: なし。

プログラマーの応答: このメッセージの原因と適切な応答については、ユーザー出口の資料を参照してください。

重大度: 0

ASMA701W *exit-type: exit supplied text*

説明: *exit-type* 出口用のユーザー提供出口が、*exit supplied text* を持つこのメッセージを出すようにアセンブラーに要求しました。

システムの処置: なし。

プログラマーの応答: このメッセージの原因と適切な応答については、ユーザー出口の資料を参照してください。

重大度: 4

ASMA702E *exit-type: exit supplied text*

説明: *exit-type* 出口用のユーザー提供出口が、*exit supplied text* を持つこのメッセージを出すようにアセンブラーに要求しました。

システムの処置: なし。

プログラマーの応答: このメッセージの原因と適切な応答については、ユーザー出口の資料を参照してください。

重大度: 8

ASMA703S *exit-type: exit supplied text*

説明: *exit-type* 出口用のユーザー提供出口が、*exit supplied text* を持つこのメッセージを出すようにアセンブラーに要求しました。

システムの処置: なし。

プログラマーの応答: このメッセージの原因と適切な応答については、ユーザー出口の資料を参照してください。

重大度: 12

ASMA704C *exit-type: exit supplied text*

説明: *exit-type* 出口用のユーザー提供出口が、*exit supplied text* を持つこのメッセージを出すようにアセンブラーに要求しました。

システムの処置: なし。

プログラマーの応答: このメッセージの原因と適切な応答については、インストールの資料を参照してください。

重大度: 16

ASMA710I *function-name: function-supplied text*

説明: ユーザー提供の機能 *function-name* が、*function-supplied text* を持つこのメッセージを出すようにアセンブラーに要求しました。

システムの処置: なし。

プログラマーの応答: このメッセージの原因と適切な応答については、外部機能の資料を参照してください。

重大度: 0

ASMA711W *function-name: function-supplied text*

説明: ユーザー提供の機能 *function-name* が、*function-supplied text* を持つこのメッセージを出すようにアセンブラーに要求しました。

システムの処置: なし。

プログラマーの応答: このメッセージの原因と適切な応答については、外部機能の資料を参照してください。

重大度: 4

ASMA712E *function-name: function-supplied text*
 説明: ユーザー提供の機能 *function-name* が、*function-supplied text* を持つこのメッセージを出すようにアセンブラーに要求しました。
 システムの処置: なし。
 プログラマーの応答: このメッセージの原因と適切な応答については、外部機能の資料を参照してください。
 重大度: 8

ASMA713S *function-name: function-supplied text*
 説明: ユーザー提供の機能 *function-name* が、*function-supplied text* を持つこのメッセージを出すようにアセンブラーに要求しました。

システムの処置: なし。
 プログラマーの応答: このメッセージの原因と適切な応答については、外部機能の資料を参照してください。
 重大度: 12

ASMA714C *function-name: function-supplied text*
 説明: ユーザー提供の機能 *function-name* が、*function-supplied text* を持つこのメッセージを出すようにアセンブラーに要求しました。
 システムの処置: なし。
 プログラマーの応答: このメッセージの原因と適切な応答については、外部機能の資料を参照してください。
 重大度: 16

異常アセンブリ終了メッセージ

アセンブリが完了できないときは常に、High Level Assembler for VSE はメッセージを提供し、場合によっては、診断情報のために特別の定様式ダンプを提供します。これは、アセンブラーの誤動作またはプログラマーのエラーを示す場合があります。エラーを起こしたステートメントが識別され、可能な場合には、エラーのポイントまでアセンブリ・リストが印刷されます。このトピックにおけるメッセージは、エラーを訂正し、プログラムを再アセンブルするか、またはエラーがアセンブラーの誤動作であることを判別するのに十分な情報を提供します。

ASMA930U **LOAD OF ASMA93 PHASE FAILED; INSUFFICIENT GETVIS STORAGE OR PHASE NOT FOUND**
 説明: アセンブラーはフェーズ ASMA93 をロードしようと試みましたが、ロードを完了するために使用できる GETVIS ストレージが不十分であったか、フェーズを見つけないことができなかったために、ロードは失敗しました。

注: このメッセージは大文字の英語でのみ表示されます。
 システムの処置: アセンブリは停止し、リストは作成されません。
 プログラマーの応答: LIBDEF チェーンを検査して、High Level Assembler for VSE があるサブライブラリーが、正しく連結されているかどうかを確認してください。正しく連結されていれば、区画のサイズを大きくしなければなりません。
 重大度: 20

ASMA931U **Unable to load specified operation code table - xxxxxxxx**
 説明: アセンブラーは指定された命令コード・テーブルをロードしようと試みましたが、ロードは失敗しました。
 システムの処置: アセンブリは停止し、リストは作成されません。
 プログラマーの応答: 指定された命令コード・テーブルが、アセンブラーによってアクセス可能なライブラリーにあるかどうか検査してください。
 重大度: 20

ASMA932U **Unable to load specified EXIT module - xxxxxxxx**

説明: アセンブラーは指定された出口モジュールをロードしようと試みましたが、ロードは失敗しました。
 システムの処置: アセンブリは停止し、リストは作成されません。
 プログラマーの応答: 指定された出口モジュールが、アセンブラーによってアクセス可能なライブラリーにあるかどうか検査してください。
 重大度: 20

ASMA933U **UNABLE TO LOAD SPECIFIED MESSAGES MODULE - xxxxxxxx**
 説明: アセンブラーは指定されたメッセージ・モジュールをロードしようと試みましたが、ロードは失敗しました。メッセージ・モジュールの名前は LANGUAGE オプションに指定されている値から決定されます。

注: このメッセージは大文字の英語でのみ表示されます。
 システムの処置: アセンブリは停止し、リストは作成されません。
 プログラマーの応答: LANGUAGE オプションを使用して適切なメッセージ・モジュールを正しく指定しているかどうか、また指定されたメッセージ・モジュールがアセンブラーによってアクセス可能なライブラリーにあるかどうか検査してください。
 重大度: 20

ASMA934U **UNABLE TO LOAD DEFAULT OPTIONS MODULE - xxxxxxxx**
 説明: アセンブラーは、示されたデフォルト・オプション・モ

ジュールをロードしようとしたますが、ロードは失敗しました。

注: このメッセージは大文字の英語でのみ表示されます。

システムの処置: アセンブリーは停止し、リストは作成されません。

プログラマーの応答: デフォルト・オプション・モジュールがアセンブラーによってアクセス可能なライブラリーにあるかどうか検査してください。

重大度: 20

ASMA935U One or more required files not available

説明: 要求されたファイルをオープンしようとしているときに、アセンブラーがエラーを検出しました。

システムの処置: このメッセージが出される前に、どのファイルがオープンできなかったかを記述する 1 つまたは複数の関連メッセージが出されます。このメッセージが出されると、アセンブリーは停止します。

プログラマーの応答: 関連メッセージを参照してください。

重大度: 20

ASMA936U Assembly terminated due to errors in invocation parameters

説明: アセンブラーが呼び出されたときに指定された 1 つまたは複数のパラメーターで、アセンブラーがエラーを検出しました。PESTOP アセンブラー・オプションのインストール・システム・デフォルト値は YES です。

システムの処置: このメッセージが出される前に、どのパラメーターでエラーが発生したのかを記述する 1 つまたは複数の関連メッセージが出されます。このメッセージが出されると、アセンブリーは停止します。

プログラマーの応答: 関連メッセージを参照してください。

適切な呼び出しパラメーターでアセンブラーを呼び出してください。固定されたインストール・システム・デフォルト値を上書きすることはできません。

重大度: 20

ASMA937U Unable to load specified translation table - xxxxxxxx

説明: アセンブラーは変換テーブル XXXXXXXXX をロードしようとしたますが、ロードは失敗しました。変換テーブルの名前は TRANSLATE オプションに指定されている値から決定されます。

システムの処置: アセンブリーは停止し、リストは作成されません。

プログラマーの応答: TRANSLATE オプションを使用して、変換テーブル・モジュールを正しく指定しているかどうか、またモジュールがアセンブラーによってアクセス可能なライブラリーにあるかどうかを確認してください。

重大度: 20

ASMA938U Module xxxxxxxx is not a valid translation table

説明: TRANSLATE オプションに指定されている変換テーブルは無効です。

システムの処置: アセンブリーを停止します。

プログラマーの応答: 「High Level Assembler for MVS & VM & VSE Programmer's Guide」のトピック『How to Generate a Translation Table』に記載されている指示に従って変換テーブルを生成してください。

重大度: 20

ASMA939U Unable to load external function module - xxxxxxxx

説明: アセンブラーは外部関数モジュール XXXXXXXXX をロードしようとしたますが、ロードは失敗しました。

システムの処置: アセンブリーは停止し、リストは作成されません。

プログラマーの応答: 指定されたモジュールが、アセンブラーによってアクセス可能なライブラリーにあることを、および外部関数名が SETAF または SETCF ステートメントに記述されていることを、確認してください。

重大度: 20

ASMA940U exit-type exit has requested termination during operation processing; exit error text: < none | error text >

説明: *exit-type* 用のユーザー提供出口が、OPERATION 要求の処理中に失敗しました。この失敗の判別について援助するために、出口は ERROR TEXT を提供することもあります。

システムの処置: アセンブリーを停止します。

プログラマーの応答: 指定されている出口プログラムを検査して、失敗の原因を調べてください。

重大度: 20

ASMA941U external function name has requested termination during processing.

説明: ユーザー提供外部関数 EXTERNAL FUNCTION NAME が処理中に失敗しました。

システムの処置: アセンブリーを停止します。

プログラマーの応答: 指定されている外部機能プログラムを検査して、失敗の原因を調べてください。

重大度: 20

ASMA942U xxxxxxxx IS NOT IN THE REQUIRED FORMAT

説明: デフォルト・オプション・モジュール ASMADOPT または命令コード・テーブル・モジュールが必要な形式になっていません。

注: ユーザーが別の言語を指定しても、このメッセージは大文字の英語で生成されるかもしれません。

システムの処置: アセンブリーは終了します。

プログラマーの応答: ASMADOPT または ASMAOxxx モジュールの適切なバージョンを使用できるかどうか確認してくだ

さい。 High Level Assembler for VSE で提供される ASMAOPT マクロを使用して、デフォルト・オプション・モジュールを再アセンブルする必要があるかもしれません。
重大度: 20

ASMA943U Unable to find listing header nnn

説明: アセンブラーは、アセンブラー・リストで見出し行を作成しようと試みましたが、見出しを見つけることができませんでした。アセンブラー・ロード・モジュールが壊れている場合、このエラーが発生することがあります。
システムの処置: アセンブリーは異常終了します。
プログラマーの応答: プログラムを再アセンブルすると、正しくアセンブルされます。プログラムがエラーなしで再アセンブルされない場合は、アセンブリーからの出力と入力ソースを保存し、弊社にサポートを依頼してください。
重大度: 20

**ASMA944U LOAD OF ASMA93 MODULE FAILED;
INSUFFICIENT MAIN STORAGE OR
MODULE NOT FOUND**

説明: アセンブラーはモジュール ASMA93 をロードしようとしたのですが、ロードを完了するために使用できる主ストレージが不十分であったか、モジュールが見つからなかったために、ロードは失敗しました。

注: このメッセージは大文字の英語でのみ表示されます。
システムの処置: アセンブリーは停止し、リストは作成されません。

プログラマーの応答: MVS では、正しい High Level Assembler for VSE ロード・ライブラリーが標準のロード・モジュール検索順序で使用可能かを確認してください。それが正しければ、領域サイズを大きくすることを検討してください。

CMS では、High Level Assembler for VSE モジュールが入った正しいミニディスクがアクセスされているかを確認してください。それが正しければ、仮想マシン・ストレージ・サイズを大きくすることを検討してください。

重大度: 20

ASMA945U Unable to load code page xxxxxxxx

説明: アセンブラーが、xxxxxxx という名前のコード・ページ・モジュールをロードしようとしたのですが、ロードが失敗しました。モジュールの名前は、CODEPAGE オプションで指定された値から判別されます。
システムの処置: アセンブリーを停止します。
プログラマーの応答: CODEPAGE オプションを使用してコード・ページ・モジュールを正しく指定しているかどうか、またそのモジュールがアセンブラーによってアクセス可能なライブラリーにあるかどうか検査してください。
重大度: 20

ASMA946U Module ASMAxxxx is not a valid code page module.

説明: CODEPAGE オプションで指定されたコード・ページ・モジュールが無効です。

システムの処置: アセンブリーを停止します。

プログラマーの応答: 「High Level Assembler for MVS & VM & VSE Programmer's Guide」の付録『How to Generate a Unicode Translation Table』に記載されている指示に従って、コード・ページ・モジュールを生成するようにしてください。
重大度: 20

ASMA950U End of statement flag was expected in Macro Edited Text, but was not found - MACRO EDITOR is suspect

ASMA951U The MACRO GENERATOR has encountered untranslatable Macro Edited Text

ASMA952U Bad SET symbol name field or LCL/GBL operand - check the Macro Edited Text

ASMA953U Bad subscript on SET symbol - check the Macro Edited Text

ASMA954U Character expression followed by bad subscripts - check the Macro Edited Text

ASMA955U A right parenthesis with no matching left parenthesis was found in an expression - check the Macro Edited Text or the expression analysis work area

ASMA956U Multiple subscripts or bad SET symbol terminator - check the Macro Edited Text

ASMA957U Bad terminator on created SET symbol - check the Macro Edited Text

ASMA958U Bad terminator on parameter - check the Macro Edited Text

ASMA959U Unexpected end of data on WORK file - internal storage management suspect

ASMA960U A bad internal file number has been passed to the xxxxxxxx internal storage management routine

ASMA961U An invalid storage request has been made, or the free storage chain pointers have been destroyed

ASMA962U A zero block address or bad block number has been passed to an internal storage management routine

ASMA963U Invalid pointer at entry to utility routine

ASMA964U Macro Edited Text Flag is not ICTL

説明: ASMA950U から ASMA964U までのいずれかのエラーのために、アセンブリーが停止しました。これは通常、アセンブリーそれ自身のエラーが原因で発生します。ただし、ある条件下では、アセンブリーは正常に再実行されます。

システムの処置: アセンブリーは停止し、形式設定された異常終了ダンプが作成されます。どこでエラーが発生したかによって、失敗したステートメントまでのアセンブリー・リストが作成されることもあります。ダンプは、通常、異常終了時に処理されていたステートメントを示します。また、アセンブリー・レジスターと作業域の内容、および IBM サポート担当員が使用するためのその他の状況情報が含まれることもあります。

プログラマーの応答: 異常終了が発生した時点で処理されていたステートメントを検査してください。そのエラーを訂正する場合、例えば、そのステートメントが長い複雑な場合は、書き直してください。プログラムを再アセンブルすると、正しくアセンブルされます。ただし、プログラムが正しくアセンブルされたとしても、アセンブリーに問題があることがあります。異常終了ダンプ、アセンブリー・リスト (作成された場合)、およびソース・プログラムを保存して、弊社にサポートを依頼してください。

重大度: 20

ASMA966U Insufficient partition GETVIS storage to load xxxxxxxx; increase the partition GETVIS size

説明: アセンブリーは指定されたフェーズをロードしようとしたが、そのフェーズに使用できる GETVIS ストレージが不十分でした。

システムの処置: アセンブリーは停止し、リストは作成されません。

プログラマーの応答: 区画に割り振られる GETVIS ストレージを大きくしてください。

重大度: 20

ASMA967U Insufficient partition GETVIS storage for assembly initialization; increase the partition GETVIS size

説明: アセンブリーは、ストレージの初期設定ブロックを獲得しようとしたが、使用可能な GETVIS ストレージが不十分でした。

システムの処置: アセンブリーは停止し、リストは作成されません。

プログラマーの応答: 区画に割り振られる GETVIS ストレージを大きくしてください。

重大度: 20

ASMA970U Statement complexity exceeded, break the statement into segments, and rerun the assembly

説明: アセンブリーのマクロ生成フェーズによって処理されるステートメントが複雑すぎます。アセンブリーの計算作業域でオーバーフローが生じました。この原因は通常、アセンブリーの誤動作ではありません。ステートメントを訂正すれば、プログラムは正しくアセンブルされます。

システムの処置: メッセージの後に、特殊異常終了ダンプ (High Level Assembler for VSEの割り込みおよび診断ダンプ) が表示されます。異常終了の原因となったステートメントは、SETA、SETB、SETC、AGO、または AIF です。ダンプは、終了の原因となったステートメントは示しませんが、マクロ内で生成された最後のステートメントを示すことがあります。また、ダンプには、アセンブリー・レジスターと作業域の内容が含まれるほか、貴社/弊社のアセンブリー保守プログラマーが終了の原因を判別するために使用する他の状況情報も含まれることもあります。ただし、これはエラーが続かないかぎり、必要ありません。この情報はアセンブリー・エラーの診断および訂正に役立ちます。

プログラマーの応答: 終了の原因となったステートメントを検査してください。ステートメントを書き直すか、複数のステートメントに分けてください。プログラムを再アセンブルすると、アセンブルは正常に行われるはずですが、エラーが続く場合、アセンブリーの誤動作が原因かもしれません。異常終了ダンプ、アセンブリー・リスト (作成された場合)、および入力ソースを保存して、弊社にサポートを依頼してください。

重大度: 20

ASMA971U Insufficient storage available for Macro Editor work area

ASMA972U Virtual storage exhausted; increase the SIZE option

説明: SIZE オプションに指定されている、アセンブリー・バッファ領域、テーブル、および作業域に割り振られた動的ストレージ域のサイズが、アセンブリーを完了するためには十分ではありません。

システムの処置: メッセージの後に、特殊異常終了ダンプ (High Level Assembler for VSEの割り込みおよび診断ダンプ) が表示されます。ダンプは、通常、続行するには動的ストレージが足りないということをアセンブリーが判断したときに処理されていたステートメントを示します。また、エラーがどこで発生したかによって、処理されていたステートメントまでのアセンブリー・リストが作成されることもあります。レジスターと作業域の内容など、ダンプ内のその他の情報は必要ありません。

プログラマーの応答: SIZE オプションに指定されている値を大きくするか、アセンブリーを複数のアセンブリーに分割してください。記号テーブルがオーバーフローした原因になったと

思われる、オープン・コードの条件付きアセンブリ言語ルーブを検査してください。

重大度: 20

ASMA973U WORK file maximum block count exceeded

説明: SYSUT1 (MVS および CMS) または IJSYS03 (VSE) の最大ブロック・カウント 65,535 を超えました。

システムの処置: アセンブリは停止し、リストは作成されません。

プログラマーの応答: 作業ファイルのブロック・サイズを大きくするか、アセンブリを複数の小さなアセンブリに分割してください。

重大度: 20

ASMA974U Insufficient storage available to satisfy the SIZE option

説明: アセンブラーは、SIZE オプションに指定されている量のストレージを獲得しようとしたが、領域 (MVS)、仮想マシン (CMS)、または区画 GETVIS (VSE) に使用可能な十分なストレージがありませんでした。

システムの処置: アセンブリは停止し、リストは作成されません。

プログラマーの応答: 領域サイズ (MVS)、仮想マシン・サイズ (CMS)、または区画 GETVIS サイズ (VSE) サイズを大きくするか、SIZE オプションで要求したサイズを小さくしてください。

重大度: 20

ASMA975U SIZE option specifies insufficient storage for assembly

説明: SIZE オプションは MAX-*nnn*K または MAX-*nn*M と指定されましたが、この数式による、アセンブラーに使用可能なストレージの量は、アセンブリが実行するには十分ではありません。アセンブラーは、処理を行うために、領域 (MVS)、仮想マシン (CMS)、または区画 GETVIS (VSE) の作業ストレージに最小 200K バイトまたは作業ファイル・ブロック・サイズの 10 倍に 20K バイトを加えた容量が必要です。

システムの処置: アセンブリは停止し、リストは作成されません。

プログラマーの応答: 領域サイズ (MVS)、仮想マシン・サイズ (CMS)、または区画 GETVIS サイズ (VSE) サイズを大きくするか、区画 GETVIS サイズを大きくするか、SIZE オプションの MAX-*nnn*K または MAX-*nn*M 形式で確保されるストレージの量を小さくしてください。

重大度: 20

ASMA976U Statement too complex for expression analysis

説明: ステートメントが複雑すぎて、アセンブラーの式分析ルーチンで分析することができません。分析作業域でオーバーフローが発生しました。分析作業域のサイズが、作業ファイルのブロック・サイズと同じです。この場合は通常、アセンブラーに問題があるとは考えられません。ステートメントを書き直して簡略化すると、プログラムは正常に再アセンブルされます。

システムの処置: アセンブリは停止し、形式設定された異常終了ダンプが作成されます。ダンプは、通常、異常終了が発生した時点で処理されていたステートメントを示します。また、ダンプには、アセンブラー・レジスターと作業域の内容、および問題が再発する場合に IBM サポート担当員に必要なかもしれないその他の状況情報が含まれます。

プログラマーの応答: 異常終了が発生した時点で処理されていたステートメントを検査してください。ステートメントを書き直すか、複数のステートメントに分けてください。あるいは、作業ファイルのブロック・サイズを大きくしてください。プログラムを再アセンブルすると、アセンブルは正常に行われるはずですが、それでも問題が発生する場合は、アセンブラーに問題があるかもしれません。異常終了ダンプ、アセンブリ・リスト (作成された場合)、および入力ソースを保存して、弊社にサポートを依頼してください。

重大度: 20

ASMA990U Location Counter does not match symbol table value

説明: 記号テーブルとロケーション・カウンターとの間で相違が検出されました。アセンブリは終了し、特殊異常終了ダンプ (「High Level Assembler for VSE 割り込みおよび診断ダンプ」) がとられます。リストは完了しません。

システムの処置: 「High Level Assembler for VSE 割り込みおよび診断ダンプ」は、ロケーション・カウンターと記号テーブルの間の相違が検出されたときに印刷されていたステートメントを表示します。

プログラマーの応答: NOALIGN を使用してプログラムを再アセンブルしてください。位置合わせが必要であれば、CNOP や DS を使用して位置合わせを強制してください。

重大度: 20

ASMA998U The assembler could not resume reading a LIBRARY member because it could not FIND the member again

説明: すでに読み取られている COPY メンバーをアセンブラーが見つけれなかったため、アセンブリは終了しました。これは通常、アセンブラーそれ自身のエラー、またはオペレーティング・システムの入出力エラーによって発生します。ただし、ある条件下では、アセンブリは正常に再実行されます。

システムの処置: メッセージの後に、特殊異常終了ダンプ (High Level Assembler for VSE の割り込みおよび診断ダンプ) が表示されます。このダンプは、通常、終了の原因となったステートメントを示します。また、ダンプには、アセンブラー・レジスターと作業域の内容が含まれるほか、貴社/弊社のアセンブラー保守プログラマーが終了の原因を判別するために使用する他の状況情報も含まれることもあります。

プログラマーの応答: プログラムを再アセンブルすると、正しくアセンブルされます。プログラムがエラーなしで再アセンブルされない場合は、異常終了ダンプ、アセンブリ・リスト (作成された場合)、および入力ソースを保存して、弊社にサポートを依頼してください。

重大度: 20

ASMA999U Assembly terminated - SYNAD Exit taken - Permanent I/O error on xxxxxx data set

説明: メッセージに示されたデータ・セットに永続入出力エラーがあるため、アセンブリーは停止しました。これは、通常、マシン・エラーか、オペレーティング・システム・エラーが原因です。通常、アセンブリーは正常に再実行できます。このメッセージはコンソール出力装置にも表示されます。

システムの処置: メッセージの後に、特殊異常終了ダンプ (High Level Assembler for VSEの割り込みおよび診断ダンプ) が表示されます。どこでエラーが発生したかによって、エラーのステートメントまでのアセンブリー・リストが作成されることもあります。このダンプは、通常、終了の原因となったステートメントを示します。また、ダンプには、アセンブラー・レジスターと作業域の内容が含まれるほか、貴社/弊社のアセンブラー保守プログラマーが終了の原因を判別するために使用する他の状況情報も含まれることもあります。

プログラマーの応答: この入出力エラーが SYSIN または SYSLIB 上のものである場合、入力データ・セットまたはライブラリー・データ・セットの連結が正しくない可能性があります。すべての入力またはライブラリー・データ・セットが同じ装置クラス (すべて DASD またはすべてテープ) であることを確認してください。また、DSORG、RECFM、LRECL、BLKSIZE などのファイル属性が正しく指定されていることも検査してください。

この入出力エラーが SYSUT1 上のものである場合、SYSUT1 が単一ボリュームに割り振られていることを確認してください。アセンブラーは、マルチボリューム作業ファイルをサポートしません。

プログラムを再アセンブルすると、正しくアセンブルされます。プログラムがエラーなしで再アセンブルされない場合は、異常終了ダンプ、アセンブリー・リスト (作成された場合)、および入力ソースを保存して、弊社にサポートを依頼してください。また、プログラムが正しくアセンブルされた場合、正しいアセンブリーのリストと入力ソースのコピーを提出してください。

重大度: 20

第 11 章 接頭部 BLN の情報分析メッセージ

BLN メッセージには、以下の戻りコードと理由コードが示されることがあります。

戻りコード:

説明:

- 0 操作が正常に完了しました。
- 4 問題が発生しましたが、操作は完了しました。
- 8 操作は完了しましたが、主要機能が省かれました。
- 12 操作が完了しませんでした。
- 16 重大エラーが発生し、入力データ・ストリームが廃棄されました。

理由コード:

説明:

- 900 - 999
症状レコード・アクセス
- 1000 - 1999
機能選択およびバッチ制御ステートメント
- 2000 - 2999
ダンプ管理
- 3000 - 3999
ダンプ・ロード
- 4000 - 4999
ダンプ除去
- 5000 - 5999
ダンプ表示
- 7000 - 7499
分析要約
- 7500 - 7999
分析ルーチン
- 9000 - 9999
一般機能

場合によっては、メッセージの説明で、メッセージに示された戻りコードと理由コードについてさらに詳しい情報を記述しています。

BLNxxxx= 情報分析メッセージ

BLN0920I SYMPTOM RECORD ACCESS CONTROL BLOCK ERROR

説明: 症状レコード・アクセス要求の処理中に、情報/分析がエラーを検出しました。

システムの処置: 行モードでは、機能が終了します。情報/分析は選択レベルに戻り、メッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は後続の制御ステートメントを読み取り、それをフラッシュして読取装置を空にし、ジョブを取り消します。フラッ

シュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。行モードでは、セッションを続けてみてください。メッセージが再度出された場合は、セッションを終了させてください。

プログラマーの応答: 行う処置は、エラー発生時に症状レコード・アクセスにアクセスしていたプログラムに応じて異なります。分析ルーチンが実行されていた場合は、症状レコード・アクセスへの呼び出しを見つけて、インターフェース・エラーを訂正してください。分析ルーチンが実行されていなかった場合

は、プログラミング・サポートを弊社に依頼してください。

**BLN0921I INSUFFICIENT STORAGE FOR
SYMPTOM RECORD**

説明: 情報/分析のストレージ・スペースが、ダンプの症状レコードに対して小さすぎます。

システムの処置: 行モードでは、機能が終了します。情報/分析は選択レベルに戻り、メッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は後続の制御ステートメントを読み取り、それをフラッシュして読取装置を空にし、ジョブを取り消します。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、情報/分析に割り振られたストレージ・スペースを大きくするように依頼してください。行モードでは、セッションを続けてみてください。メッセージが再度出された場合は、セッションを終了させてください。

プログラマーの応答: 情報/分析に割り振られたストレージを大きくしてください。

BLN0923I FORMAT ERROR IN SYMPTOM RECORD

説明: ダンプ症状レコードのアクセス中に、情報/分析は、セクション 6 に形式エラーを見つけました。後続のメッセージに、エラーの特定タイプおよびエラーの位置が示されます。

システムの処置: 処理を続行します。ただし、形式エラーを含んでいるデータは、ダンプの表示中に要求されることがある制御ブロック表示または印刷出力から取り除かれます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。

プログラマーの応答: ダンプのセクション 6 レコードを生成したコンポーネントを識別して、所有者に知らせてください。コンポーネントを判別できない場合、またはセクション 6 レコードを生成したのが IBM コンポーネントであると判断した場合は、プログラミング・サポートを弊社に依頼してください。

**BLN0926I ERROR IN PARAMETER LIST FOR
SYMPTOM RECORD ACCESS**

説明: ダンプ症状レコードのアクセス中に、アクセス・ルーチンに渡されたパラメーター・リストにエラーがありました。

システムの処置: 症状データの要求は完了しません。情報/分析は機能レベルにとどまったまま、次の入力を待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。

プログラマーの応答: データを生成したコンポーネントを識別して、所有者 (例えば、IBM プログラム・サポートまたは分析ルーチンの所有者) に連絡してください。

**BLN0927I INVALID DUMP NAME PASSED TO
SYMPTOM RECORD ACCESS**

説明: ダンプ症状レコードのアクセス中に、アクセス・ルーチンに渡したパラメーター・リスト内のダンプ名フィールドにエラーがありました。症状データの要求は完了しません。

システムの処置: 症状データの要求は完了しません。情報/分析は機能レベルにとどまったまま、次の入力を待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。

プログラマーの応答: データを生成したコンポーネントを識別

して、所有者 (例えば、IBM プログラム・サポートまたは分析ルーチンの所有者) に連絡してください。

**BLN0928I ERROR READING SYMPTOM RECORD,
REASON CODE = code**

説明: 外部ストレージ・デバイスからダンプの症状レコードを読み取っていたときに、症状レコード・アクセス・ルーチンがエラーを検出しました。理由コードは、メッセージ BLN9002I にあります。

システムの処置: 行モードでは、機能が終了します。情報/分析は選択レベルに戻り、メッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は、後続の制御ステートメントをすべて読み取り、それをフラッシュして読取装置を空にし、ジョブを取り消します。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。

プログラマーの応答: プログラミング・サポートを弊社に依頼してください。

BLN0929I ERROR AT RECORD record, OFFSET offset

説明: ダンプ症状レコードのアクセス中に、症状レコード・アクセスが、示されたレコード番号とオフセットの位置で形式エラーを検出しました。特定タイプの形式エラーについては、前のメッセージを参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。ただし、制御ブロックの形式設定中に、形式エラーを含んでいるデータは取り除かれます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。セッションを続けてみてください。

プログラマーの応答: ダンプのセクション 6 レコードを生成したコンポーネントを識別して、所有者に知らせてください。コンポーネントを判別できない場合、または IBM コンポーネントによってセクション 6 レコードが生成された場合は、プログラミング・サポートを弊社に依頼してください。

**BLN0930I INVALID COMBINATION OF
EXTENSIONS IN LBD**

説明: ダンプ症状レコードのセクション 6 拡張を処理していたときに、情報/分析が、無効な形式の位置決めブロック記述子 (LBD) を検出しました。

システムの処置: 処理を続行します。ただし、形式エラーを含んでいるデータは制御ブロック表示または印刷出力から取り除かれます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。処理を続けてみてください。

プログラマーの応答: ダンプ中のセクション 6 レコードを生成したコンポーネントを識別して、IBM プログラム・サポートまたは分析ルーチンの所有者に連絡してください。

**BLN0931I INVALID EXTENSION FOR BLNSYMP
LBD**

説明: BLNSYMP は、ダンプ症状レコードのセクション 6 にある LBD の予約名です。これを用いて、症状レコードの改訂バージョンを識別します。この LBD の形式には制約があり

ますが、LBD に、その制約と互換性のない形式が入っていることが検出されました。

システムの処置: 処理を続行します。ただし、形式エラーを含んでいるデータは制御ブロック表示または印刷出力から取り除かれます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。処理を続けてみてください。

プログラマーの応答: ダンプ中のセクション 6 レコードを生成したコンポーネントを識別して、IBM プログラム・サポートまたは分析ルーチンの所有者に連絡してください。

BLN0932I ERROR IN LBD LENGTH FIELD

説明: ダンプ症状レコードのセクション 6 にある LBD または LBD 拡張 (あるいはその両方) に、正しくない長さフィールドが入っています。

システムの処置: 処理を続行します。ただし、形式エラーを含んでいるデータは制御ブロック表示または印刷出力から取り除かれます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。処理を続けてみてください。

プログラマーの応答: ダンプ中のセクション 6 レコードを生成したコンポーネントを識別して、IBM プログラム・サポートまたは分析ルーチンの所有者に連絡してください。

BLN0933I INVALID ADDRESS FIELD IN LBD

説明: ダンプ症状レコードのアクセス中に、情報/分析は、16 進数データを識別する拡張付きの制御ブロック・ロケータ (LBD) を検出しました。この LBD は、制御ブロック・アドレスがゼロの場合にだけ有効ですが、非ゼロのアドレスが検出されました。

システムの処置: 処理を続行します。ただし、形式エラーを含んでいるデータは制御ブロック形式設定から取り除かれます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。処理を続けてみてください。

プログラマーの応答: ダンプ中のセクション 6 レコードを生成したコンポーネントを識別して、IBM プログラム・サポートまたは分析ルーチンの所有者に連絡してください。

BLN0934I INVALID EXTENSION ID FIELD IN LBD

説明: ダンプ症状レコードをアクセス中に、情報/分析は、エラーのある制御ブロック・ロケータ (LBD) を検出しました。LBD に指定された長さに応じて拡張が要求されましたが、見つかりません。拡張 ID にエラーがあるか、あるいは LBD に長さエラーがあります。

システムの処置: 処理を続行します。ただし、形式エラーを含んでいるデータは制御ブロック形式設定から取り除かれます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。

プログラマーの応答: ダンプ中のセクション 6 レコードを生成したコンポーネントを識別して、IBM プログラム・サポートまたは分析ルーチンの所有者に連絡してください。

BLN1003I DUMP NAME EXCEEDS 44 CHARACTER LIMIT

説明: DUMP NAME 制御ステートメントに、45 文字以上の名前を指定しました。

システムの処置: 情報/分析は無効な制御ステートメントを無視します。行モードでは、情報/分析は、メッセージ

BLN1005D を出して別の制御ステートメントを要求します。

読取装置モードでは、情報/分析は後続の制御ステートメントを読み取り、それをフラッシュして読取装置を空にし、ジョブを取り消します。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出されます。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D

に応じて制御ステートメントを訂正し、入力し直してください。

読取装置モードでは、ダンプ名を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

BLN1004I CONTROL STATEMENT FLUSHED

説明: 前のメッセージに記述されているエラーが発生しました。

このエラーにより、情報/分析は現行機能を終了させたか、あるいはセッションを取り消しました。情報/分析は、フラッシュされたそれぞれの制御ステートメントごとに、このメッセージを出します。

システムの処置: 情報/分析は、制御ステートメントを読み取り、それをフラッシュします。処理は、次の制御ステートメントから続行されます。

オペレーターの応答: 機能を実行するには、ジョブを訂正し、再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

BLN1005D ENTER CONTROL STATEMENT FOR func

説明: 情報/分析が行モードになっており、func 機能に対する制御ステートメントを受け入れる準備が整っています。func の値は、SELECT LEVEL、DUMP MANAGEMENT、DUMP SYMPTOMS、DUMP VIEWING、DUMP ONLOAD、および DUMP OFFLOAD です。

システムの処置: 情報/分析は制御ステートメントを待ちます。

オペレーターの応答: 制御ステートメントを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

BLN1006I I/O ERROR ON READER

説明: 入力装置でリカバリー不能な入出力エラーが起きました。同時に出力されるシステムまたは情報/分析メッセージがエラーを示します。

システムの処置: 情報/分析はセッションを取り消します。

オペレーターの応答: 同時に出力されるシステムまたは情報/分析メッセージを参照してエラーの原因を調べて、訂正処置をとってください。エラーを修正して、ジョブを再実行依頼してください。必要であれば、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 同時に出力されるシステムまたは情報/分析メッセージを参照してエラーの原因を調べて、訂正処置をとってください。

**BLN1007I FUNCTION NOT SELECTED, ACTIVE
DUMP NAME REQUIRED**

説明: ダンプ管理以外の機能が選択されましたが、この選択の前にダンプ名が入力されていません。選択された機能はダンプ名を必要とします。

システムの処置: 行モードでは、情報/分析は選択レベルにとどまったまま、メッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は後続の制御ステートメントをフラッシュして読取装置を空にし、ジョブを取り消します。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出されます。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として DUMP NAME 制御ステートメントを入力し、機能に必要な SELECT ステートメントを入力し直してください。読取装置モードでは、ジョブを再サブミットし、DUMP NAME 制御ステートメントを組み込んでください。

プログラマーの応答: なし。

BLN1008I INFORMATION/ANALYSIS READY

説明: 情報/分析が初期設定され、制御ステートメントを処理する準備が整っています。

システムの処置: 行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して最初の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は続行され、ジョブ・ストリーム内の最初の制御ステートメントを読み取ります。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として制御ステートメントを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

**BLN1013I IMPROPER OPERATING ENVIRONMENT
FOR INFORMATION/ANALYSIS**

説明: 情報/分析を実行しようとしたましたが、操作環境が正しくありません。

システムの処置: 情報/分析を初期設定することができません。セッションは取り消されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 操作環境が情報/分析にとって適切であるかどうかを確認してください。

BLN2006I DUMP MANAGEMENT FILE FULL

説明: 情報/分析は、ダンプ管理ファイルに新しいダンプ名を追加しようとしたましたが、ファイルのスペースが不足しています。

システムの処置: 行モードでは、機能が終了します。情報/分析は選択レベルに戻り、メッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は後続の制御ステートメントをフラッシュして読取装置を空にし、ジョブを取り消します。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出されます。

オペレーターの応答: ダンプ管理機能を使用して、もはや必要でなくなったダンプ名をダンプ管理ファイルから削除してください。スペースがなお必要な場合には、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: ダンプ管理ファイルにスペースを追加して、割り振りし直してください。情報/分析UTILITY 制御ス

テートメントを使用して、そのファイルを初期設定し直してください。

**BLN2007I DUMP MANAGEMENT FILE STATUS:
MAXREC = maxrec IN USE = userec**

説明: このメッセージは、ダンプ管理ファイルで使用できるレコードが 10 以下であることを警告しています。それぞれのダンプごとに 1 レコードが必要です。残りのレコードの正確な数は、ファイルに収容できるレコードの最大数 (maxrec) から、現在使用しているレコードの数 (userec) を引いた値です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: ダンプ管理ファイルがいっぱいになる前に、ダンプ管理の削除機能を使用して、もはや必要でなくなったダンプの名前をそのファイルから削除してください。さらにスペースが必要な場合には、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: ダンプ管理ファイルにスペースを追加して、割り振りし直してください。UTILITY ステートメントを使用して、そのファイルを初期設定し直してください。

**BLN2008I DUMP MANAGEMENT FILE
ALLOCATION ERROR**

説明: ダンプ管理ディスク・ファイルを割り振っていたときに、障害が発生しました。このメッセージの次にメッセージ BLX03103I が出されます。

システムの処置: 情報/分析は処理を続行しますが、ダンプ管理ファイルが割り振られていないので、そのファイルを必要とする後続のステップは失敗します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ダンプ管理ファイル (BLNDMF) 用の ASSIGN、DLBL、および EXTENT ステートメントが正しいかどうかを確認してください。

BLN2009I DUMP dumpid NOT DELETED

説明: 削除要求が出されましたが、ダンプを削除することができません。同時に出力されるメッセージに、このエラーの原因が示されます。

システムの処置: ダンプは削除されません。行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は続行され、ジョブ・ストリーム内の次の制御ステートメントを読み取ります。

オペレーターの応答: このエラーの原因については、同時に出力されるメッセージを参照してください。必要であれば、システム・プログラマーに連絡してください。行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として制御ステートメントを入力し、セッションを続行するかまたは終了させてください。

プログラマーの応答: 同時に出力されるシステムまたは情報/分析メッセージを参照してエラーの原因を調べて、訂正処置をとってください。

**BLN2013I DUMP MANAGEMENT FILE ERROR,
REASON CODE = code**

説明: 情報/分析がダンプ管理ファイルを読み取っていたときに、エラーが起きました。同時に出力される別のメッセージが、エラーについての情報を提供します。理由コードはエラーのタイプを示しており、次のとおりです。

2004 - ファイルのオープン時のエラー

2008 - ファイルを処理するためのストレージを取得できない

2012 - ファイルのクローズ時のエラー

2016 - ファイルへの書き込み時のエラー

2020 - ファイルの読み取り時のエラー

2024 - ファイル中の無効なデータ・レコード

2028 - ファイル中の無効な制御レコード

システムの処置: 行モードでは、情報/分析は機能を終了させて選択レベルに戻り、メッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は後続の制御ステートメントをすべて読み取って読取装置を空にし、ジョブを取り消します。読み取られたステートメントごとにメッセージ BLN1004I が出力されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。行モードでは、このメッセージが再度出されなければ、セッションを続行してもかまいません。

プログラマーの応答: 前のシステムまたは情報/分析エラー・メッセージを参照してエラーの原因を調べて、訂正処置をとってください。

ダンプ管理ファイルの更新中に、直前の情報/分析セッションが取り消されたものと思われます。この問題を解決するには、ダンプ・ファイルをスクラッチしてから、ダンプ管理 UTILITY コマンドを用いてこのファイルを再作成してください。

BLN2014I NEW DUMP MANAGEMENT FILE TOO SMALL

説明: 現在のダンプ管理ファイルを新しいファイルにコピーするために、UTILITY 制御ステートメントが入力されました。新しいファイルは、現在のファイルを入れるには大きさが十分ではありません。

システムの処置: ダンプ管理ファイルはコピーされません。現在のファイルはそのままの状態です。情報/分析は後続の制御ステートメントを読み取り、それをフラッシュして読取装置を空にし、ジョブを取り消します。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出力されます。オペレーターの応答: ダンプ管理ファイルにスペースを追加して、割り振りし直してください。UTILITY 制御ステートメントを使用して、このファイルを初期設定し直してください。

プログラマーの応答: なし。

BLN2017I DUMP MANAGEMENT FILE IS EMPTY

説明: 印刷または削除要求が出されましたが、ダンプ管理ファイルは空です。削除または印刷するデータが存在しません。

システムの処置: 情報/分析は、印刷または削除の制御ステートメントを無視します。行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は続行され、ジョブ・ストリーム内の次の制御ステートメントを読み取ります。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として制御ステートメントを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

BLN2019I CURRENT DATE/TIME USED

説明: ダンプに症状レコードがないか、あるいは独立型ダンプの場合、症状レコードに日時スタンプが入っていません。したがって、現在の日付と時刻が、ダンプ管理ファイル内のダンプの日時スタンプとして指定されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BLN2020I DUMP MANAGEMENT FILE INITIALIZED

説明: ダンプ管理ファイルは UTILITY ステートメントによって、正常に初期設定されました。

システムの処置: 行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は続行され、ジョブ・ストリーム内の次の制御ステートメントを読み取ります。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として制御ステートメントを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

BLN3002I ONLOAD FAILED, REASON CODE = code

説明: 情報/分析がダンプをロードしているときに、エラーが起きました。理由コードはエラーのタイプを示しており、次のとおりです。

3008 - ダンプ・タイプを識別できません。

3012 - ダンプをストレージに書き込み中のエラーです。
(ライブラリーがいっぱいであるか、またはサブライブラリーが存在しない可能性があります。)

3016 - ダンプ・テープの読み取り中のエラーです。

3018 - ディスク・ダンプ・ファイルの読み取り中のエラーです。

3020 - テープ・ファイルのオープン中のエラーです。

3021 - ディスク・ダンプ・ファイルのオープン中のエラーです。

3022 - ダンプ・テープのクローズです。

3023 - ディスク・ダンプ・ファイルのクローズ中のエラーです。

3024 - テープ・ドライブの割り振り中のエラーです。

3026 - ディスク・ドライブの割り振り中のエラーです。

3028 - 書き込みバッファ用ストレージを割り振ることができません。

3032 - ダンプ管理機能ファイルの読み取り中のエラーです。

3036 - ダンプ管理機能ファイルの書き込み中のエラーです。

3040 - ダンプ名がダンプ管理機能ファイルがありません。

3044 - ボリューム ID が使用できません。

3048 - ダンプがすでにシステムに存在します。

3052 - 複数ダンプのロードは許可されていません。

3060 - マルチファイル・テープからロードされようとしていたダンプは、オペレーターが要求したダンプではありませんでした。

システムの処置: ダンプはロードされません。行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステ

BLN4001I • BLN4005I

ートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は後続の制御ステートメントを無視し、セッションを取り消します。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出力されます。

オペレーターの応答: 理由コードが 3044 のときは、ボリューム ID を訂正してから、要求を再試行するか、またはジョブを再サブミットしてください。理由コードが 3048 のときは、ダンプ名を訂正してから、要求を再試行するか、またはジョブを再サブミットしてください。行モードでロードを停止させるには、メッセージ BLN1005D への応答として制御ステートメントを入力してください。読取装置モードの場合は、エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。他のすべての理由コードについては、エラーの原因を示すメッセージを参照してください。これらのメッセージとコードおよびその他のシステム出力を記録し、それらをシステム・プログラマーに渡してください。

プログラマーの応答: 理由コード 3008 の場合は、ロード用に正しいテープが取り付けられていたことを確認してください。テープの最初のレコードが、ダンプを作成したシステム・タイプを識別します。他のすべての理由コードの場合は、エラーの理由を示すメッセージを参照してください。メッセージに応じた訂正処置をとってください。

BLN4001I INVALID VOLUME ID ENTERED

説明: 6 文字の長さでないボリューム ID が入力されました。システムの処置: 要求は処理されません。行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は後続の制御ステートメントを読み取ってフラッシュし、セッションを取り消します。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出力されます。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として VOLID 制御ステートメントを訂正し、入力し直してください。読取装置モードでは、VOLID 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

BLN4002I LOGICAL UNIT NUMBER MISSING OR INVALID

説明: VOLID ステートメント上の論理装置番号が欠落しているか、または無効です。ディスク上のダンプ・データ・セット用の VOLID ステートメントの形式は VOLID DISK SYS nmm です。DISK が VOLID ステートメントの 2 番目のパラメーターとして指定されている場合は、SYS nmm パラメーターが必要であり、ディスク・ドライブに割り当てる必要があります。システムの処置: 要求は処理されません。行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は後続の制御ステートメントを読み取ってフラッシュし、セッションを取り消します。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出力されます。

オペレーターの応答: 正しい VOLID ステートメントを与えてください。指定された論理装置 SYS nmm が、ダンプ・データ・セットを含んでいるディスク装置に割り当てられていることを確かめてください。(//ASSGN SYS nmm , cuu)

プログラマーの応答: なし。

BLN4003I BYPASS NOT ALLOWED

説明: ダンプ・オフロードのために回避オプションが要求されました。しかし、ダンプの正確なコピーがテープに存在しないため、オフロードを回避することはできません。これは、コピーがないか、またはダンプがオフロードされたあとに分析ルーチンによってダンプが変更されたためです。

システムの処置: 情報/分析はダンプをオフロードしません。行モードでは、情報/分析は選択レベルに戻り、メッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は次の RETURN ステートメントまでの後続の制御ステートメントを読み取ってフラッシュします。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出力されます。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として制御ステートメントを入力してください。ダンプをオフロードするには、どの場合も DUMP OFFLOAD を再選択して、回避は指定しないでください。読取装置モードでダンプをオフロードするには、BYPASS ステートメントを除去して、ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

BLN4004I DUMP *dumpid* OFFLOADED AND ERASED, BUT NOT ERASED

説明: 示されているダンプが正常にオフロードされました。メッセージに示されたように、ダンプは、システムから消去されたか、あるいは消去されなかったかのいずれかです。

システムの処置: 行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は続行され、ジョブ・ストリーム内の次の制御ステートメントを読み取ります。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として制御ステートメントを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

BLN4005I OFFLOAD FAILED, REASON CODE = *code*

説明: 情報/分析がダンプをオフロードしている間に、エラーが発生しました。理由コードはエラーのタイプを示しており、次のとおりです。

4004 - オンライン・ストレージからダンプを削除中のエラーです。
4008 - ダンプ管理ファイルへ VOLID を追加中のエラーです。

4012 - テープにダンプを書き込み中のエラーです。
4016 - VOLID 用にストレージ・バッファを割り振ることができません。
4020 - VOLID がダンプ管理ファイルの中ではありません。
4024 - ダンプ用の項目がダンプ管理ファイルの中ではありません。

4028 - ダンプ管理ファイルの読み取り中のエラーです。
4030 - 回避オフロードは許されず、テープにコピーされません。
4032 - 回避オフロードは許されず、ダンプは変更されました。
4036 - ダンプがオンライン・ストレージの中ではありません。

- 4040 - テープ・ファイルの割り振り中のエラーです。
 4044 - ダンプ・テープ・ファイルのオープン中のエラーです。
 4048 - ダンプ・テープ・ファイルのクローズ中のエラーです。
 4052 - ダンプ・テープ・ファイルの割り振り解除中のエラーです。

システムの処置: ダンプはオフロードされません。行モードでは、情報/分析は選択レベルに戻り、メッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は続行され、ジョブ・ストリーム内の次の制御ステートメントを読み取ります。

オペレーターの応答: 理由コードが 4020 の場合は、ボリューム ID を入力してオフロードの要求を再試行してください。他のコードの場合は、システム・プログラマーに連絡して、このセッションからの出力を提示してください。行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として制御ステートメントを入力してください。

プログラマーの応答: 処置は理由コードに応じて異なります。以下の処置をお勧めします。理由コードが 4004、4008、4012、および 4024 の場合は、同時に出力される情報/分析またはシステム・エラー・メッセージに基づいて訂正処置をとってください。理由コードが 4016 の場合は、情報/分析が使用できるストレージを増やしてください。理由コードが 4028 の場合は、ダンプがシステムに存在しません。情報/分析を実行中のシステムによって提供されるユーティリティを使用して、ダンプ・ライブラリーにダンプ・ファイルがあるかどうか検査してください。ダンプが見つければ、IBM プログラム・サポートに通知してください。ダンプが見つからないときは、以前に使用した情報/分析または他のシステム・ユーティリティによって削除された可能性があります。

BLN4006I 'BYPASS YES' AND 'ERASE NO' ARE MUTUALLY EXCLUSIVE

説明: ダンプ・オフロードについて、BYPASS と ERASE NO オプションを同時に指定しましたが、これらを同時に指定することはできません。

システムの処置: 情報/分析はダンプをオフロードしません。行モードでは、情報/分析はダンプ・オフロードを終了させ、選択レベルに戻り、メッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は後続の制御ステートメントを読み取ってフラッシュします。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出されます。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として制御ステートメントを入力してください。行モードでダンプをオフロードするには、ダンプ・オフロードを選択し直した上で、正しいオプションを指定してください。読取装置モードでダンプをオフロードするには、制御ステートメントを訂正した上で、ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

BLN4007I VOLUME ID REQUIRED

説明: ボリューム ID が指定されていません。ダンプを初めてオフロードまたはロードする場合は、ボリューム ID を指定しなければなりません。

システムの処置: 情報/分析はダンプをオフロードまたはロー

ドしません。行モードでは、情報/分析は選択レベルに戻り、メッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は後続の制御ステートメントを読み取ってフラッシュします。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出されます。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として制御ステートメントを入力してください。行モードでダンプをオフロードまたはロードするには、機能を選択し直した上で、ボリューム ID を指定してください。読取装置モードでダンプをオフロードまたはロードするには、VOLID ステートメントを組み込んでジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

BLN4010I DUMP dumpid ERASED, OFFLOAD BYPASSED

説明: このメッセージは、オフロード操作中に、テープへのダンプのコピーのオフロードが無視されたこと、ダンプが消去されたこと、およびダンプ用の項目がダンプ管理ファイルから除去されたことを示すものです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: セッションを続けてください。

プログラマーの応答: なし。

BLN5011I INVALID FORM OF PRINT COMMAND

説明: 以前に読み取られた PRINT 制御ステートメントに構文エラーがあります。コマンドに構文エラーがあります。

システムの処置: 制御ステートメントはフラッシュされます。行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は後続のステートメントを読み取り、それをフラッシュして読取装置を空にし、セッションを取り消します。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出されます。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として訂正済み制御ステートメントを入力してください。読取装置モードでは、ステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

BLN5014I DATA FROM addrx TO addrz NOT AVAILABLE OR ALL ZEROS

説明: このアドレス範囲内のデータは、要求されたとおりには表示または印刷されません。

システムの処置: システムは、最初から挿入アドレスまでのデータを表示または印刷します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BLN5015I DATA FROM *addrx* TO *addy* ALL ZEROS, NOT AVAILABLE, OR AS SHOWN

説明: このアドレス範囲内のデータは表示されているか、すべてゼロであるか、またはメモリー・オブジェクトとして定義されていません。

システムの処置: システムは、最初から挿入アドレスまでのデータを表示または印刷します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BLN5022I FROM-ADDR GREATER THAN TO-ADDR

説明: PRINT 制御ステートメントで、データの範囲の始まりが終わりより大きくなっています。

システムの処置: 制御ステートメントはフラッシュされます。行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は後続のステートメントを読み取り、それをフラッシュして読取装置を空にし、セッションを取り消します。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出されます。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として訂正済み制御ステートメントを入力してください。読取装置モードでは、ステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

BLN5030I DATA NOT FOUND

説明: 関連データが見つかりませんでした。

システムの処置: システムは、要求された機能を終了します。このような結果になったのは、ダンプ・メンバーが破棄されたことや、ダンプ・ライブラリーに問題があることが考えられます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IBM プログラム・サポートに連絡してください。

BLN7010I CONTROL BLOCK LOCATORS UNAVAILABLE

説明: 症状レコードのセクション 6 に、位置決めブロック記述子 (LBD) がまったく入っていません。したがって、ダンプ内の制御ブロックのアドレスは、情報/分析にとって不明のものです。

システムの処置: 情報/分析は形式設定済みデータを提供しません。行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は次の制御ステートメントから処理を続行します。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として制御ステートメントを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

BLN7013I ERROR IN SYMPTOM RECORD FOR *block*, REASON CODE = *code*

説明: ダンプ印刷操作中に、情報/分析が、ダンプを作成したコンポーネントによって不適切に構成された位置決めブロック記述子 (LBD) を検出しました。理由コード *code* はエラーの原因を示しており、次のとおりです。

- 7401 - 配列中のエレメントの数が不明
- 7402 - 配列出口タイプ = B、チェーン出口は存在しない
- 7403 - 配列出口タイプ・フィールドが無効
- 7411 - 終了条件フィールドが無効
- 7412 - 終了条件長さフィールドが無効
- 7413 - チェーン出口タイプ・フィールドが無効
- 7414 - チェーン出口アドレス・リスト・ポインターが無効
- 7421 - 16 進出口の長さが無効
- 7431 - テキスト出口の長さが無効
- 7441 - キー・フィールドの長さがゼロ
- 7442 - キー・フィールドの形式フィールドが無効
- 7443 - キー・フィールドのタイプ・フィールドが無効
- 7451 - 形式記述の項目の数がゼロ
- 7451 - リンケージ記述の項目の数がゼロ
- 7452 - 形式記述の長さエラー
- 7452 - リンケージ記述の長さエラー

システムの処置: 処理は続行されますが、対応するデータはダンプ表示から取り除かれます。

オペレーターの応答: セッションを続けてください。システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。

プログラマーの応答: 項目を作成したダンプ・コンポーネントまたは分析ルーチンを判別してください。このセッションの出力を所有者 (例えば、IBM プログラム・サポートまたは分析ルーチンの所有者など) に提示してください。

BLN7515I ANALYSIS ROUTINE *name* NOT FOUND IN FILE

説明: 要求された分析ルーチン *name* が、外部ルーチン・ファイルで見つかりません。

システムの処置: 分析ルーチンの実行の要求は処理されません。行モードでは、情報/分析は機能レベルにとどまったまま、メッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は後続の制御ステートメントを読み取ってフラッシュします。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出されます。

オペレーターの応答: 入力したルーチン名が正しい場合は、システム・プログラマーに連絡し、そのルーチンをファイルに追加するように依頼してください。ルーチン名を正しく入力しなかった場合は、行モードでは、正しいルーチン名で応答してください。読取装置モードでは、名前を訂正した上で、ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: 要求された場合には、ルーチンを外部ルーチン・ファイルに追加してください。

**BLN7516I LOAD FAILED FOR ROUTINE *name*,
REASON CODE = 7582**

説明: 情報/分析は、示されている分析ルーチンの選択の処理中に、エラーを検出しました。このメッセージの場合、理由コードは常に 7582 です。

システムの処置: 情報/分析は機能を終了させます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。

プログラマーの応答: 次のいずれかでないか調べてください。

1. 十分なメモリーが割り当てられていなかった。
2. フェーズが存在しない。
3. BLNEXTRN ファイルがない。
4. ユーザーのフェーズ用の LIBDEF ステートメントがない。

使用できるメモリーが十分にあり、フェーズが存在し、LIBDEF ステートメントが正しいことを確認してください。

**BLN7518I SYMPTOM RECORD UPDATES NOT
SAVED IN DUMP**

説明: 分析ルーチンは、情報/分析が分析ルーチンに渡したダンプ症状レコードのコピーを更新しました。しかし、システム・コピーは更新されませんでした。分析ルーチンが処理を完了した時点で、更新済みのコピーが消去され、変更が失われました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 分析ルーチンの結果を症状レコードに入れたい場合は、この問題についてシステム・プログラマーに問い合わせてください。

プログラマーの応答: 情報/分析によって提供される呼び出し分析症状レコード更新 (call analysis symptom record update) 出口を使用するために、分析ルーチンを更新してください。

**BLN7520I VALID ROUTINE NAME REQUIRED FOR
CALL STATEMENT**

説明: CALL 制御ステートメントが入力されましたが、ルーチン名が欠落しているか、または 8 文字より長くなっています。システムの処置: 制御ステートメントはフラッシュされます。行モードでは、次の制御ステートメントを要求するメッセージ BLN1005D が出されます。読取装置モードでは、すべての制御ステートメントがフラッシュされ、セッションは取り消されます。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出されます。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として訂正済みの CALL 制御ステートメントを入力してください。読取装置モードでは、CALL 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

**BLN7521I OUTPUT ROUTED TO ALTERNATE
DEVICE**

説明: 出力は、標準印刷装置以外の装置に向けられました。システムの処置: 情報/分析は機能レベルにとどまったまま、次の入力を待ちます。

オペレーターの応答: 検討するために印刷出力を入手してください。

プログラマーの応答: なし。

**BLN7540I ANALYSIS ROUTINES LIST NOT
AVAILABLE**

説明: 名前ファイルの分析ルーチン・リストが使用できないか、存在しないか、またはレコードが正しい形式ではありませんでした (例えば、「ANEXIT」で始まっていません)。正しいレコード形式については、「z/VSE *Diagnosis Tools*」を参照してください。

システムの処置: 情報/分析は機能レベルにとどまったまま、次の入力を待ちます。

オペレーターの応答: 分析ルーチン・パネルを終了させ、別の選択を行ってください。

プログラマーの応答: なし。

BLN9001I STORAGE ALLOCATION FAILED

説明: ストレージ・スペースが小さすぎて、選択された機能の実行または情報/分析の初期設定を行うことができません。

システムの処置: このメッセージが、いずれかのモードでの初期設定中に現れる場合には、セッションは取り消されます。行モードでは、機能が選択されている場合、その機能は終了し、情報/分析は選択レベルに戻ります。行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。後続の機能が使用不能なストレージを必要とする場合には、このメッセージが再度現れます。読取装置モードでは、情報/分析は後続のすべての制御ステートメントを読み取り、それをフラッシュして読取装置を空にし、セッションを取り消します。フラッシュされたそれぞれのステートメントごとに、メッセージ BLN1004I が出されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡し、情報/分析に割り振られたストレージ・スペースを大きくするように依頼してください。行モードでは、情報/分析がまだアクティブであれば、セッションを続行して試みるすることができます。同じ機能に要求を出すと、同じエラーが起こることがあります。メッセージが再度出された場合は、セッションを終了させてください。

プログラマーの応答: 情報/分析に割り振られたストレージを大きくしてください。

**BLN9002I ERROR IN EXTERNAL ROUTINE,
RETURN CODE = *retcode*, REASON CODE
= *code***

説明: 外部ルーチンの実行中にエラーが発生しましたが、そのルーチンはエラー・メッセージを出しませんでした。理由コードがこのメッセージの原因を定義します。このコードを無視することもできます。可能性のある理由コードを以下に示します。

- | | |
|-----|-------------|
| 004 | 無効なモード要求 |
| 008 | 無効な qual 要求 |
| 012 | 無効な基本要素 |
| 016 | 要求タイプが無効 |
| 024 | 部分データが戻された |
| 028 | データが見つからない |

BLN9003I • BLN9006I

- 100 ダンプ・レコードが無効
- 104 ストレージが使用できない
- 109 切り捨てが発生
- 110 メンバー超過
- 112 メンバーが見つからない
- 116 切り捨てが発生
- 120 メンバー超過
- 124 ストレージ入手エラー
- 128 ダンプ名が無効
- 130 サブライブラリーがない
- 134 ライブラリーがいっぱいになっている
- 138 ライブラリー接続エラー
- 140 長さが無効
- 144 ストレージの解放エラー
- 148 長さが無効
- 150 初期設定エラー
- 700 から 799
ストレージ入手エラー
- 800 から 899
ストレージの解放エラー
- 928 ダンプ・アクセスのエラー
- 7581 ARCB を BLX から削除できない
- 9501 BLX 割り振り - 装置が無効
- 9502 BLX 割り振り - 抽出マクロ・エラー
- 9503 BLX 割り振り - 装置がサポートされない
- 9504 BLX 割り振り - RECFM がサポートされない
- 9505 BLX 割り振り - ブロック化レコードがサポートされない
- 9506 BLX 割り振り - アクセス・モードがサポートされない
- 9507 BLX 割り振り - DLBL ステートメントがサポートされない
- 9508 BLX 割り振り - VTOC オープンがサポートされない
- 9509 BLX 割り振り - VTOC クローズがサポートされない
- 9510 BLX 割り振り - エクステント VOLSER が無効
- 9511 BLX 割り振り - エクステント論理装置が無効
- 9512 BLX 割り振り - DD 名が見つからない
- 9519 BLX 解放エラー
- 9521 BLX オープン - 永続オープン・エラー
- 9522 BLX オープン - 無効な FSEQ キーワード
- 9523 BLX オープン - データ・セットがすでにオープン
- 9531 BLX クローズ - 永続クローズ・エラー
- 9532 BLX クローズ - エクステントの終わり
- 9541 BLX 読み取り - 更新は許可されない
- 9542 BLX 読み取り - 間違ったアクセス・タイプ
- 9543 BLX 読み取り - バッファの長さが短すぎる
- 9544 BLX 読み取り - 無効な相対レコード番号
- 9545 BLX 読み取り - VSAM 位置決めエラー
- 9546 BLX 読み取り - 無効なレコード長
- 9547 BLX 読み取り - 無効なキー長
- 9548 BLX 読み取り - VSAM MODCB verb がエラー
- 9549 BLX 読み取り - 未定義の要求
- 9591 不明のエラー条件

システムの処置: 行モードでは、情報/分析はメッセージ

BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。
読取装置モードでは、情報/分析は処理を続行し、次の制御ステートメントを読み取ります。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。行モードでは、戻りコードの重大度に応じて、セッションの続行とセッションの終了のいずれかを選択することができます。

プログラマーの応答: メッセージが出される前に行われた最後の操作を調べて、どの外部ルーチンがエラーの原因になったかを判別してください。「ダンプ表示」中にルーチンが呼び出された場合は、そのルーチンにエラーがあります。セッションで「ダンプ管理」を最初に選択した後、またはセッションの選択レベルで最初にダンプを指定しているときに、ルーチンが呼び出された場合は、BLNUSDDM がエラーの原因です。それ以外のほとんどの場合、システム・ダンプ・アクセス・ルーチン、症状レコード、その拡張のいずれかがエラーの原因です。プログラム・サポートのために所有者に連絡してください。

BLN9003I EXTERNAL ROUTINE MESSAGE

説明: このメッセージには、外部ルーチンが出したメッセージが示されています。この外部ルーチンのメッセージには ID が示されることがあります。

システムの処置: 行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。
読取装置モードでは、情報/分析は続行され、ジョブ・ストリーム内の次の制御ステートメントを読み取ります。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージに応じて、セッションを続行するかまたは終了させることができます。これ以降に、エラーのある機能に対して要求を出すと、別のエラーが発生することがあります。外部メッセージが障害または別の異常な問題を示している場合は、このセッションの出力を保管して、プログラミング・サポートを依頼してください。

プログラマーの応答: 外部ルーチン・メッセージには、エラーの原因および行う必要のある訂正処置が示されるはずですが、

BLN9004I control statement NOT RECOGNIZED

説明: 示された制御ステートメントは、現行の機能に適用されないか、またはスペルか構文のエラーがあるか、または前提条件の機能(ダンプ選択など)が実行されなかったため実行できません。

システムの処置: 制御ステートメントは「NO-OPERATION」として実行されます。行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。
読取装置モードでは、情報/分析は後続のステートメントを読み取り、それを廃棄して読取装置を空にし、セッションを取り消します。廃棄されたステートメントごとにメッセージ BLN1004I が出されます。

オペレーターの応答: 行モードでは、制御ステートメントを訂正して再入力してください。読取装置モードでは、制御ステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

BLN9006I NO SYMPTOM RECORD AVAILABLE

説明: 情報/分析は、現在のダンプの症状レコードから情報を取得しようとしたが、症状レコードが存在しません。

システムの処置: 行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。

読取装置モードでは、情報/分析は続行され、ジョブ・ストリーム内の次の制御ステートメントを読み取ります。
オペレーターの応答: セッションを続けることができます。
システム・プログラマーに、このセッションの出力を提示してください。

プログラマーの応答: ダンプが、ダンプにアクセスしているシステムで作成されたのか、それとも外部で作成されたのかを判別してください。ダンプを作成したシステムが症状レコード・アーキテクチャーをサポートしている場合は、プログラム・サポートを弊社に依頼してください。

BLN9007I INTERNAL ERROR, REASON CODE = *code*

説明: 情報/分析内で論理エラーが発生しました。理由コードはエラーの原因を示しており、次のとおりです。

- 1101 - ダンプ管理制御ブロックが見つからない
- 1102 - ダンプ表示制御ブロックが見つからない
- 1103 - ダンプ症状制御ブロックが見つからない
- 6000 - 要求されたダンプ症状副次機能またはタスクが不明である
- 6004 - ダンプ症状制御ブロックに損傷があると思われる

システムの処置: システム・ダンプが取られ、情報/分析セッションが取り消されます。

オペレーターの応答: プログラミング・サポートを弊社に依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

BLN9008I ERROR IN MODULE *mod*, BLX RETURN CODE = *retcode*

説明: 情報/分析によって使用された BLX サービスのモジュール *mod* で論理エラーが発生したか、または BLX サービスが情報/分析によって間違っ使用されました。

システムの処置: 情報/分析は機能を終了させます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。

プログラマーの応答: プログラミング・サポートを弊社に依頼してください。

BLN9010I END OF DUMP

説明: 制御ステートメントが入力され、それにより、情報/分析はダンプの終わりに達しました。

システムの処置: 処理を続行します。行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は続行され、ジョブ・ストリーム内の次の制御ステートメントを読み取ります。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として制御ステートメントを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

BLN9012I PRINT FUNCTION COMPLETED

説明: 要求された印刷機能が完了しました。

システムの処置: 行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は続行され、ジョブ・ストリーム内の次の制御ステートメントを読み取ります。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として制御ステートメントを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

BLN9016I OPERANDS REQUIRED FOR THIS CONTROL STATEMENT

説明: 関連オペランドの指定のない制御ステートメントが入力されました。

システムの処置: 行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は続行され、次の制御ステートメントを読み取ります。

オペレーターの応答: 行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として制御ステートメントを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

BLN9018I DUMP *dumpid* action

説明: *dumpid* で定義されたダンプに対して、示された処置が行われました。処置は次のとおりです。

- SELECTED - 処理のために選択された
- ADDED - ダンプ管理ファイルに追加された
- DELETED - システムから削除された
- ONLOADED - システムにロードされた

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BLN9019I DUMP *dumpid* NOT IN SYSTEM

説明: 現行のダンプがダンプ管理ファイル内で識別されていませんが、システムにはありません。

システムの処置: 情報/分析は現行の機能を終了させます。行モードでは、情報/分析は選択レベルに戻り、メッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は次の RETURN ステートメントまでの後続の制御ステートメントを読み取り、それをフラッシュします。

オペレーターの応答: 選択したダンプを処理する前に、それをロードする必要があります。行モードでは、メッセージ BLN1005D への応答として制御ステートメントを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

BLN9020I LOCATOR NOT FOUND

説明: 要求されたロケーターがダンプ内で検出されませんでした。

システムの処置: 情報/分析は機能レベルにとどまったまま、次の入力を待ちます。

オペレーターの応答: 別のロケーターを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

BLN9021I DATA IN LOCATOR NOT AVAILABLE

説明: 無効なアドレス・フィールド、修飾フィールド、またはモード・フィールドのある制御ブロック・ロケータ (LBD) が検出されました。

システムの処置: 形式設定は行われません。情報/分析は機能レベルにとどまったまま、次の入力を待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、このセッションの出力を提示してください。

プログラマーの応答: ダンプ中のセクション 6 レコードを生成したコンポーネントを識別して、所有者 (例えば、分析ルーチンの所有者である IBM プログラム・サポート) に連絡してください。

BLN9022I PRINT ERROR

説明: PRINT 制御ステートメントの実行中に、エラーが発生しました。

システムの処置: 情報/分析は機能レベルにとどまったまま、次の入力を待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに、このセッションからの出力を報告してください。

オペレーターの応答: 印刷が失敗した原因について、コンピューター室のオペレーターおよび管理者と一緒に検査してください。情報/分析内にスプーリング出力に使用できるスペースがあるかどうか検査してください。

プログラマーの応答: なし。

BLN9024I PRINTER FILE ALLOCATION ERROR

説明: 印刷装置ファイルの割り振りが失敗しました。このメッセージの次に BLX03103I が出されます。

システムの処置: 印刷装置ファイルは割り振られません。情報/分析は処理を続行しますが、印刷装置ファイルを使用するステップは失敗します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SYSLST 装置が割り当てられていたかを確認してください。

BLN9030I I/O ERROR FOR REQUEST TYPE *type* ON FILE *filename* REASON CODE = *code*

説明: ファイル割り振りを要求しているときにエラーが発生しました。エラーのタイプ、エラーが発生したファイル、および理由コードがメッセージに表示されます。

システムの処置: 情報/分析は機能レベルにとどまったまま、次の入力を待ちます。

オペレーターの応答: 別の選択をする必要があります。

プログラマーの応答: 割り振るファイルの状況を検査して、エラーの原因となる条件を訂正してください。

BLN9031I LIBRARIAN ERROR OCCURRED, RETURN CODE = *retcode*, REASON CODE = *code*

説明: ライブラリアン・サービスの実行中にエラーが検出されました。このサービスは、失敗の理由を示すメッセージを出しませんでした。

システムの処置: 情報/分析は機能レベルにとどまったまま、次の入力を待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに、このセッションからの出力を報告してください。

プログラマーの応答: IBM サポートに連絡して、このメッセージで表示されるフィードバック・コードを報告してください。

BLN9032I DUMP *dumpid* ALREADY IN SYSTEM

説明: 現行のダンプがダンプ管理ファイル内で識別されており、これはすでにシステムにあります。

システムの処置: 情報/分析は機能レベルにとどまったまま、次の入力を待ちます。

オペレーターの応答: 要求された機能を再度選択する前に、ダンプがシステムにあってはなりません。

プログラマーの応答: なし。

BLN9042I INFO/ANALYSIS ABNORMAL TERMINATION DUMP IN PROGRESS

説明: プログラム・チェックまたは別の異常終了 (ABEND) が発生しました。

システムの処置: システムはダンプを実行し、処理中の操作を終了させます。

オペレーターの応答: このメッセージおよびエラー発生時に処理中であったジョブを記録しておいてください。それらの情報とダンプ・リストを担当プログラマーに渡してください。

プログラマーの応答: ダンプ・リストをシステム・プログラマーと一緒に調べてエラーを見つけ、訂正してください。

BLN9043I PARTITION GETVIS AREA MAY NOT BE SUFFICIENT

説明: 情報/分析には少なくとも 600KB の区画 GETVIS 域が必要です。

システムの処置: 情報/分析は処理を続行しますが、区画 GETVIS 域のサイズが不足しているため、終了する可能性があります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: より大きい区画サイズを割り振るか、EXEC ステートメントの SIZE オペランドを変更するか、またはその両方を行ってください。

BLN9044I SYSLST AND SYSIPT MUST BE ASSIGNED TO A UNIT RECORD DEVICE

説明: SYSLST または SYSIPT (あるいはその両方) がディスクまたはテープに割り当てられています。この割り当てでは、情報/分析を実行することはできません。

システムの処置: 情報/分析は終了します。

オペレーターの応答: LISTIO コマンド (JCL) を使用して割り当てを調べて、それらをユニット・レコード装置に変更してください。

プログラマーの応答: なし。

BLN9050I INVALID DUMP NAME

説明: 無効なダンプ名が情報分析によって検出されました。

システムの処置: 行モードでは、情報/分析はメッセージ BLN1005D を出して次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は処理を続行し、次の制御ステートメントを読み取ります。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。行モードでは、セッションの続行とセッションの終了のいずれかを選択することができます。

プログラマーの応答: メッセージが出される前に行われた最後の操作を調べて、どの外部ルーチンがエラーの原因になったかを判別してください。「ダンプ表示」中にルーチンが呼び出された場合は、そのルーチンにエラーがあります。セッションで「ダンプ管理」を最初に選択した後、またはセッションの選択レベルで最初にダンプを指定しているときに、ルーチンが呼び出された場合は、BLNUSDDM がエラーの原因です。それ以外のほとんどの場合、システム・ダンプ・アクセス・ルーチン、症状レコード、その拡張のいずれかがエラーの原因です。プログラム・サポートのために所有者に連絡してください。

BLN9051I DUMP LIBRARY IS FULL

説明: ONLOAD 機能の実行中に、ダンプ・ライブラリーがいっぱいになりました。ダンプをロードできません。

システムの処置: 行モードでは、情報/分析はメッセージ BNL1005D を出して、次の制御ステートメントを要求します。読取装置モードでは、情報/分析は処理を続行し、次の制御ステートメントを読み取ります。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。行モードでは、セッションの続行とセッションの終了のいずれかを選択することができます。

プログラマーの応答: ダンプ・ライブラリーを増やすか、または不要なダンプをライブラリーから削除してください。

接頭部 **BLN**

第 12 章 接頭部 BLX の情報分析メッセージ

BLX コンポーネントは、すべての情報/分析 (Info/Analysis) 入出力操作のマクロを提供します。以下のセクションでは、BLX が出すメッセージおよび ABEND 完了コードについて説明します。

メッセージに現れる頭字語 DAS は、BLX のデータ・アクセス・サービス機能のことです。「アプリケーション」は、BLX で実行されるプログラムのことです。対話環境では、これらのメッセージは画面に表示されますが、その画面はクリアされます。画面をリストアするには、3 つのアスタリスクが現れるのを待ってから、ENTER キーを押してください。

BLXxxxxx= 情報分析メッセージ

BLX03101I ERROR FREEING *dsn*

説明: アプリケーション・セッションの正常終了段階、またはアプリケーション・サブタスクの異常終了段階で、終了しようとしたとき、またはデータ・セット *dsn* を解放しようとしたときに、エラーが発生しました。後続のメッセージに、エラーに関する特定の情報が示されます。

システムの処置: 処理は続行され、論理名チェーン上で表された追加のデータ・セットはクローズされて解放されます。

オペレーターの応答: 後続のメッセージに適切に応答してください。

プログラマーの応答: なし。

BLX03102I ERROR CLOSING *dsn*

説明: アプリケーション・セッションの正常終了段階、またはアプリケーション・サブタスクの異常終了段階で、データ・セット *dsn* をクローズしようとしたときに、エラーが発生しました。後続のメッセージにエラーの詳細が示されます。

システムの処置: 処理は続行され、論理名チェーン上で表された追加のデータ・セットはクローズされて解放されます。

オペレーターの応答: 後続のメッセージに適切に応答してください。

プログラマーの応答: なし。

BLX03103I ALLOCATION ERROR. OPCODE=*opr*, LNAME=*lnm*, FILE NAME=*fnm*, DAS RETCODE=*rc*, DAS REASON CODE=*xxx*, SUB RETCODE=*src*, SUB REASON CODE=*yyy*, MODEL=*modelname*, DSN=*dsn*

説明: 論理名 *lnm* およびファイル名 *fnm* を持つデータ・セットの割り振りが、DAS 戻りコード *rc* および DAS 理由コード *xxx* で終了しました。割り当て機能サブルーチンが、戻りコード *src* および理由コード *yyy* で終了したと思われる。使用された割り振りモデル名は *modelname*、割り振りの命令コードは *opr*、データ・セット名は *dsn* です。

割り振りの命令コードは次のとおりです。

- 01 - データ・セット名による割り振り。
- 02 - ファイル名による割り振り。

割り振りの戻りコードは次のとおりです。

- 0 - データ・セットが割り振られました。
- 8 - データ・セットが割り振られませんでした。

割り振りの理由コードは次のとおりです。

- X'00040000' - VSE ファイル名が有効な論理装置名ではありません。

- X'00080000' - VSE 抽出マクロ・エラーです。

(下記の SUB RETCODE も参照)

- X'000C0000' - 装置がサポートされていません。
- X'00100000' - レコード形式がサポートされていません。
- X'00140000' - ブロック化レコードがサポートされていません。
- X'00180000' - アクセス・モードがサポートされていません。
- X'001C0000' - VSE DLBL ステートメントが見つかりません。
- X'00200000' - VSE CVH OPEN VTOC 機能エラーです。
- X'00240000' - VSE CVH CLOSE VTOC 機能エラーです。
- X'00280000' - VSE エクステントのボリューム通し番号が VTOC ボリューム通し番号と一致していません。
- X'002C0000' - VSE エクステントの論理装置が正しくありません。
- X'04380000' - DDNAME が見つかりません。

理由コードが X'00080000' の場合:

SUB RETCODE: X'0C' - 論理装置が割り当てられていません。

X'10' - 抽出パラメーター・リストの内部エラーです。

モデル名は、割り振り中にデータ・アクセス・サービス制御ブロックにコピーされた「アプリケーションおよび環境依存割り振りモデル・モジュール」の中のデフォルト割り振りパラメーター・ブロックの名前です。

システムの処置: データ・アクセス・サービス要求は終了します。

オペレーターの応答: このメッセージの理由コードで示される処置をとってください。

プログラマーの応答: なし。

**BLX03104I LINESIZE VALUE REDUCED TO
DCBLRECL-4.**

説明: BLXPRINT が印刷データ・セットにアクセスしたときに、BLXPRDEF マクロで指定された (または、デフォルトにより想定された) LINESIZE 値が大きすぎて印刷サービスを実行できないことが判明しました。この条件は、論理レコード長がデータ・セット・ラベルによって、または事前割り振りデータ・セットの割り振りパラメーターによって提供された場合のみ発生する可能性があります。

システムの処置: 行の長さを短くして処理が続行されます。

オペレーターの応答: 短くされた行のサイズに問題がある場合は、原因を調べて、非互換性を訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

**BLX03105I INVALID BLXPRDEF PARAMETER.
KEY=xxx, VALUE=yyy.**

説明: BLXPRDEF サービス・マクロの実行中に、情報/分析は、キー xxx に与えられた値 yyy にエラーを見つけました。システムの処置: すべてのキーワード値が妥当性検査されるまで処理は続行され、戻りコード 8 でマクロの呼び出し側に戻ります。

オペレーターの応答: 示されたキーワードの値を訂正し、機能を再試行してください。

プログラマーの応答: なし。

**BLX03106I INVALID PRINT FILE DCB
PARAMETERS.**

説明: 情報/分析は、事前割り振り印刷データ・セットに対して BLXPRINT 機能を実行しようとしたましたが、正しくない DCB 特性を検出しました。

システムの処置: BLXPRINT 処理は終了し、事前割り振りデータ・セットはクローズ状態のままです。

オペレーターの応答: DCB 特性を訂正し、機能を再試行してください。

プログラマーの応答: なし。

BLX03107I UNABLE TO ACCESS THE PRINT FILE.

説明: BLXPRINT の実行中に、情報/分析は、事前割り振り印刷データ・セットに対して割り振り、接続、またはオープンの実行しようとしていたときに、割り振りエラー、接続エラー、またはオープン・エラーを検出しました。

システムの処置: BLXPRINT 処理は終了します。事前割り振りデータ・セットはクローズ状態のままです。BLXPRINT によって割り振られたデータ・セットは割り振り解除されます。オペレーターの応答: 後続のメッセージに適切に応答してください。

**BLX03108I PRINT TEXT LINE LENGTH TOO
SHORT. LINE SKIPPED.**

説明: BLXPRINT マクロの実行中に、情報/分析は、5 バイトよりも短いテキスト・レコードを検出しました。

システムの処置: BLXPRINT 処理は終了し、データは印刷データ・セットに書き込まれません。このデータ・セットの処理は続行可能です。

オペレーターの応答: レコードが短くなっている原因を訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

**BLX03109I PRINT TEXT LINE LENGTH TOO LONG.
LINE TRUNCATED.**

説明: BLXPRINT マクロの実行中に、情報/分析は、65,531 バイトよりも長いテキスト・レコードを検出しました。

システムの処置: BLXPRINT 処理は終了しますが、データは 65,531 バイトに切り捨てられ、データ・セットに書き込まれません。データ・セットの処理は続行可能です。

オペレーターの応答: レコードが長くなっている原因を訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

BLX03110I PRINT FILE NO LONGER AVAILABLE.

説明: BLXPRINT マクロの実行中に永続書き込みエラーが発生しました。後続のメッセージにエラーの詳細が示されます。

システムの処置: このデータ・セットの処理は終了します。

オペレーターの応答: エラーの原因を判別し、それを訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

**BLX03111I MAXIMUM LINES EXCEEDED. PRINT
TERMINATED.**

説明: BLXPRINT マクロの実行中に、情報/分析は、書き込まれる行数が BLXPRDEF マクロの MAXLINES で指定された行数を超えていることを検出しました。

システムの処置: このデータ・セットの処理は終了します。

オペレーターの応答: MAXLINES の値を訂正するか、または印刷データを修正してください。

プログラマーの応答: なし。

**BLX03116I NON-VSAM DATA ACCESS ERROR.
DDNAME = ddn OPCODE = xxx DAS
RETCODE = xxx DAS REASON CODE =
xxx ABEND CODE = xxx ABEND
REASON CODE = xxx DSN = dsn**

説明: opr キーで示された機能を dsn キーと ddname キーで示されたデータ・セットまたはファイルに対して実行していたときに、論理または物理入出力エラーがデータ・アクセス・サービス (DAS) によって検出されました。DAS は、DAS RETCODE キーと DAS REASON CODE キーで示された戻りコードと理由コードを出しました。ABEND CODE キーが非ゼロの場合は、オペレーティング・システム異常終了が発生し、それがオペレーティング・システム・アクセス方式または DAS により代行受信され、DAS エラー戻りコードが出されま

した。システム異常終了コードと異常終了理由コード (汎用レジスター 15 の値) は、ABEND CODE キーと ABEND REASON CODE キーで示されています。OPEN 操作の DAS 戻りコードは次のとおりです。

- 0 - オープンが正常に終了した。
- 4 - 共有データ・セットのオープンが失敗した。別のユーザーが現在このデータ・セットを更新用に使用しているため、ユーザーがアテンション割り込みを出してデータ・セット使用待ちを終了したからです。
- 8 - オープンが失敗した。
- 12 - オープンが失敗し、内部 BLX 制御ブロックが損傷された。

OPEN 戻りコードは DAS エラー理由コード (xxx) も提供します。DAS エラー理由コードは次のとおりです。

- X'00000000' - 永続オープン・エラー。
- X'00000004' - ファイル・シーケンス (FSEQ) キーワード値が無効。
- X'00080004' - データ・セットはすでにオープンされている。

CLOSE 操作の DAS 戻りコードは次のとおりです。

- 0 - クローズが正常に終了した。
- 4 - クローズが失敗した。

CLOSE エラーの理由コードは次のとおりです。

- X'00000000' - 永続クローズ・エラー。
- X'00040004' - 出力用にオープンされたデータ・セットのエクステント終了エラー。

DAS 戻りコード (OPEN 操作と CLOSE 操作を除く) は次のとおりです。

- 0 - 正常終了。
- 4 - 無効な要求。
- 8 - GET 要求で、ファイルの終わりまたはレコード終わりが検出されなかった。
- 12 - 永続入出力エラー。

OPEN 操作と CLOSE 操作の場合を除き、DAS 戻りコード 4 は DAS 理由コード (xxx) も使用します。DAS 理由コードは次のとおりです。

- X'01000000' - 要求が無効。更新用 GET は許可されない。
- X'02000000' - キー順アクセスまたは相対レコード・アクセスに不適格である。または、アクセス・タイプが誤っている。
- X'03000000' - 与えられたバッファ長が短すぎる。
- X'08000000' - レコード長が無効。
- X'0A000000' - 非 VSAM コマンドが無効。

戻りコード 8 の場合、理由コードは識別されません。ゼロが戻されます。戻りコード 12 の場合 (OPEN 操作と CLOSE 操作を除く) の理由コードは、次のとおりです。

- X'00000000' - 永続データ・エラー。
- X'00040000' - エクステント終了エラー (さらに使用できるエクステントはない)。

システムの処置: 要求されたデータ・アクセス・サービス要求は実行されませんでした。アプリケーション・プログラムが MVS で実行され、データ・アクセス・サービス戻りコードが X'0C' のときは、メッセージ BLX03115I がこのメッセージに

続いて出されます。そのメッセージにエラーの詳細が示されます。アプリケーション・プログラムが実行され、データ・アクセス・サービス戻りコードが X'0C' のときは、DAS 理由コードの右端 4 桁の 16 進数に、失敗した入出力要求のチャンネル状況ワードのビット 32 から 47 が含まれています。これらのビットの意味は、「IBM System 370 Principles of Operation」で説明されています。

オペレーターの応答: 後続のメッセージに適切に応答してください。

プログラマーの応答: なし。

BLX03117I AN ERROR OCCURRED WHILE READING A CONTROL RECORD

説明: 「疑似オープン」または「疑似クローズ」処理の一部として、競合度の高いキー順 VSAM データ・セットから制御レコードを読み取ろうとしました。VSAM GET 要求は非ゼロの戻りコードを生成しました。

システムの処置: 失敗がデータ・セットのオープン直後に起こった場合、あるいは「疑似クローズ」時に起こった場合、アプリケーション・プログラムは ABEND を出します。その他の場合、データ・セットはクローズされて再オープンされ、「疑似オープン」処理が再試行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。十分な診断情報が収集されたならば、直ちにアプリケーション・プログラムを再開してください。

プログラマーの応答: 可能であれば、失敗の原因を調べて、それを取り除いてください。

BLX03118I THE CONTROL RECORD IN CLUSTER dsn IS NOT nnn BYTES LONG

説明: 「疑似オープン」または「疑似クローズ」処理の一部として、競合度の高いキー順 VSAM データ・セットから制御レコードが読み取られました。この制御レコードの長さが正しくありません。制御レコードは、キー・フィールドよりも 37 バイト長くなければなりません。データ・セットの名前および制御レコードの必要な長さは、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 失敗がデータ・セットのオープン直後に起こった場合、あるいは「疑似クローズ」時に起こった場合、アプリケーション・プログラムは ABEND を出します。その他の場合、データ・セットはクローズされて再オープンされ、「疑似オープン」処理が再試行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 可能であれば、失敗の原因を調べて、それを取り除いてください。

BLX03119I THE CONTROL RECORD IS MISSING FROM CLUSTER dsn

説明: 「疑似オープン」または「疑似クローズ」処理の一部として、競合度の高い VSAM データ・セット (クラスター名で示されたもの) から相対バイト・アドレス 0 (RBA 0) のレコードが読み取られました。このレコードのキー・フィールドに 2 進ゼロが入っていないか、あるいはレコード ID フィールドが無効です。これは、このレコードが制御レコードではないこ

とを示しています。したがって、このデータ・セットには制御レコードがありません。

システムの処置: 失敗がデータ・セットのオープン直後に起こった場合、あるいは「疑似クローズ」時に起こった場合、アプリケーション・プログラムは ABEND を出します。その他の場合、データ・セットはクローズされて再オープンされ、「疑似オープン」処理が再試行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 可能であれば、失敗の原因を調べて、それを取り除いてください。おそらく、データ・セットが定義されたばかりであり、制御レコードをデータ・セットに追加するためのユーティリティー BLGUT2 が実行されていないと考えられます。

BLX03120I A CONTROL RECORD IN CLUSTER *dsn* WAS UPDATED WHILE THE CLUSTER WAS LOCKED

説明: 「疑似クローズ」処理の一部として、競合度の高いキー順データ・セットから制御レコードが読み取られ、データが「疑似オープン」時に保管されたデータと比較されました。比較は失敗し、データ・セットの「疑似オープン」時に制御レコードが別のユーザーによって更新されたことが示されました。これは予期しないエラーです。競合度の高いデータ・セットを出力処理用に「疑似オープン」したユーザーだけが、そのデータ・セットを更新することができます。また、一度に 1 人のユーザーだけがデータ・セットを出力用に「疑似オープン」することができます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは ABEND を出します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。十分な診断情報が収集されたならば、直ちにアプリケーション・プログラムを再開してください。ただし、データ・セットが破壊されている場合もあります。このエラーの結果としてデータ・セットが後になって破壊される可能性もあります。

プログラマーの応答: どのプログラムが制御レコードを更新したかを調べてください。アプリケーションがアクティブである間、競合度の高いデータ・セットに対してプログラムを実行してはなりません。おそらく、アプリケーション以外のプログラムが制御レコードを偶発的に更新したものと考えられます。制御レコードは、2 進ゼロのキーを持っており、データ・アクセス・サービスによってのみ参照され、更新されるものです。

BLX03121I AN ERROR OCCURRED WHILE UPDATING A CONTROL RECORD

説明: 「疑似オープン」または「疑似クローズ」処理の一部として、競合度の高いキー順 VSAM データ・セット内の制御レコードを更新しようとして、VSAM PUT 要求は非ゼロの戻りコードを生成しました。

システムの処置: 失敗がデータ・セットのオープン直後に起こった場合、あるいは「疑似クローズ」時に起こった場合、アプリケーション・プログラムは ABEND を出します。その他の場合、データ・セットはクローズされて再オープンされ、「疑似オープン」処理が再試行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してくだ

さい。十分な診断情報が収集されたならば、直ちにアプリケーション・プログラムを再開してください。

プログラマーの応答: 可能であれば、失敗の原因を調べて、それを取り除いてください。

BLX03122I AN ERROR HAS BEEN DETECTED IN THE VSAM CONTROL FOR CLUSTER *dsn*

説明: 「疑似オープン」処理の一部として、VSAM 索引バッファを無効にしようとして、VSAM 制御ブロック・チェーンの走査中にエラーが検出されました。制御ブロック・チェーンに関連した VSAM クラスタの名前は、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは ABEND を出します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 可能であれば、失敗の原因を調べて、それを取り除いてください。おそらく、VSAM の新しいリリースが、アプリケーションを実行中のシステムにインストールされたばかりであり、アプリケーションが VSAM の新しいリリース用のサポートで更新されていないと考えられます。一時的な対策として、VSAM 索引バッファ無効化機能の実行を抑止することもできます。ただし、この機能の実行を抑止すると性能が低下します。

BLX03123I CONTROL RECORD CONTENTS IN CLUSTER *dsn* ARE INCORRECT AND WILL BE UPDATED

説明: 「疑似オープン」処理の一部として、競合度の高いキー順データ・セットのオープン直後に、そのデータ・セットから制御レコードが読み取られ、制御レコード内のデータが VSAM 制御ブロックのデータと比較されました。比較は失敗し、制御レコードが VSAM カタログと一致しないことが示されました。これは予期しないエラーです。検査中のそれぞれのフィールドは、VSAM カタログと一致しなければなりません。制御レコードが読み取られたデータ・セットの名前は、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: アプリケーションは制御レコードを更新し、実行を続けます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: おそらく、データ・セットが再編成、コピー、またはリストアされたばかりであり、制御レコードが更新されていないと考えられます。アプリケーションが非アクティブになり、DISP=OLD を割り振ることができるようになれば、制御レコード更新ユーティリティーまたはツールを使用して、制御レコードを更新してください。この更新は、すべてのユーザーが正常に実行されていると思われる場合でも、制御レコード内にまだあるかもしれないエラーを訂正するために行う必要があります。

BLX03124I RETRY BEING ATTEMPTED

説明: 「疑似オープン」処理中に障害が発生しました。このメッセージの前に、メッセージ BLX03117I、BLX03118I、BLX03119I、または BLX03121I が出されます。
 システムの処置: アプリケーションはデータ・セットをクローズしてから再オープンし、「疑似オープン」処理を再試行することによって、障害からリカバリーしようとしています。
 オペレーターの応答: なし。

**BLX03125I MOUNT VOLUME xxxxxx ON UNIT cuu
AND PRESS ENTER**

説明: ONLOAD または OFFLOAD ジョブがテープ・ボリュームを要求しています。
 システムの処置: システムは待ち状態に入り、オペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 要求されたテープを取り付けて作動可能にし、ENTER を押してください。
 プログラマーの応答: なし。

BLX03126I UNIT pccu UNASSIGNED BY SYSTEM

説明: リストされている装置は割り当てられていません。
 システムの処置: 処理が続行され、ダンプが完了します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

**BLX03127I PARTITION GETVIS STORAGE IS
EXHAUSTED**

説明: 情報/分析が要求された機能进行处理するために必要な区画 GETVIS ストレージが不足しています。
 システムの処置: 要求された機能は処理されません。さらに、情報/分析が終了することもあります。
 オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。
 プログラマーの応答: より大きい区画サイズを割り振るか、EXEC ステートメントの SIZE オペランドを変更するか、またはその両方を行ってください。

BLX 異常終了完了コード**323 (10 進数 803)**

説明: メッセージ構築または経路指定エラー。

理由コード:

意味:

08 から 16

- アプリケーション出力ルーティング・プロセッサからの戻りコード。
- 20 メッセージ CSECT 検索エラー。コンポーネント・テーブル項目がありません。
- 24 メッセージ CSECT 検索エラー。コンポーネント・テーブル項目がゼロです。
- 28 メッセージ CSECT 検索エラー。サブコンポーネント・テーブル項目がありません。
- 32 メッセージ CSECT 検索エラー。サブコンポーネント・テーブル項目がゼロです。
- 36 メッセージ CSECT 検索エラー。副々構成要素テーブル項目がありません。
- 40 メッセージ CSECT 検索エラー。副々構成要素テーブル項目がゼロです。
- 44 メッセージ・セグメントが原因で、メッセージが最大長を超えています。
- 48 メッセージ挿入が原因で、メッセージが最大長を超えています。
- 52 メッセージ・スケルトンが、与えられた挿入より多くの挿入を必要としています。
- 56 呼び出し側が、必要数より多いメッセージ挿入を提供しました。
- 60 出力メッセージ用のストレージを獲得している間に GETMAIN が失敗しました。
- 64 挿入するためには 10 進数に変換する必要がありましたが、挿入の長さは 4 バイトを超えていました。
- 68 挿入するためには 16 進数に変換する必要がありましたが、挿入の長さは 64 バイトを超えていました。

324 (10 進数 804)

説明: 明示的ストレージ獲得要求エラー。

理由コード:

意味:

- 04 仮想記憶が割り振られていません。無条件要求のみ行われます。
- 08 予約済みのストレージ ID が使用されました。
- 12 無効なストレージ ID が使用されました。
- 16 要求されたストレージのサイズが大きすぎます。
- 20 ゼロまたは負の値のストレージ・サイズが指定されました。
- 28 内部論理エラー。入力ヘッダーに、獲得要求機能コードおよび解放要求機能コードが指定されていません。インターフェースの構成中にマクロ・エラーが発生した可能性があります。
- 40 記憶セルを獲得できません。
- 44 FCQE (自由セル・キュー・エレメント) が無効と判断されました。
- 48 内部論理エラー。記憶セルのフリー・スペースが負の値またはゼロであると判断されました。
- 52 バックレベル・マクロが使用されました。
- 804 仮想記憶が割り振られていません。

325 (10 進数 805)

説明: 明示的ストレージ解放要求エラー。

理由コード:

意味:

- 04 解放される区域は明示ストレージ・エクステンツ・ブロックではありません。
- 08 予約済みのストレージ ID が使用されました。
- 12 無効なストレージ ID が使用されました。
- 16 指定されたストレージのサイズが大きすぎます。
- 20 ゼロまたは負の値のストレージ・サイズが指定されました。
- 32 解放されるストレージ域を含んでいる SCQE が見つかりません。
- 36 CQE (セル・キュー・エレメント) が無効と判断されました。
- 48 内部論理エラー。記憶セルのフリー・スペースが負の値またはゼロであると判断されました。
- 52 バックレベル・マクロが使用されました。
- 100 解放すべき区域はすでに解放されています。
- 805 仮想記憶が解放されていません。

328 (10 進数 808)

説明: ロード・モジュール (フェーズ) ロード要求のエラー。

理由コード:

意味:

- 04 使用可能な仮想記憶が不足しています。
- 08 フェーズが見つかりません。
- 12 システムの SVC ロードの障害。
- 24 内部論理エラー。無効な入力マクロ・リストが構成されました。インターフェース構成中に潜在マクロ・エラーがありました。

28 この要求のためにロードされたロード・モジュール用の内容ディレクトリー項目またはリンク・パック・ディレクトリー項目が検出されませんでした。

説明: ロード・モジュール (フェーズ) 削除要求のエラー。

理由コード:

意味:

- 04 フェーズ・ロード用に使用できる仮想記憶がありません。
- 08 フェーズ LLE ブロックがありません。
- 12 フェーズ・ストレージ、CDE、または LLE 制御ブロックの解放中の障害。
- 24 内部論理エラー。無効な入力マクロ・パラメーター・リストが構成されました。インターフェース構成中に潜在マクロ・エラーがありました。

説明: 日付または時刻要求のエラー。

理由コード:

意味:

- 04 時刻に関して無効な応答域。
- 00 時刻に関して無効な応答域長。
- 12 日付に関して無効な応答域。
- 16 日付に関して無効な応答域長。
- 20 不明な要求タイプ。
- 32 バックレベル・マクロが使用されました。

32D (10 進数 813)

説明: BLXABEND マクロの実行中にエラーが検出されました。呼び出し側異常終了コードおよびエラー理由コードが、まだ異常終了パラメーター・リストにあります。

理由コード:

意味:

- 00 呼び出し側が与えた異常終了コードが 4095 を超えています。
- 04 バックレベル・マクロが使用されました。

32D (10 進数 821)

説明: チェーン管理エラーが検出されました。

理由コード:

意味:

- 04 無効な制御ブロック・チェーン ID。
- 08 要求の追加または置き換えに関して無効な制御ブロック・ポインター。
- 12 無効な制御ブロック・チェーン操作機能要求コード。

348 (10 進数 840)

説明: 制御ブロック抽出エラー。

理由コード:

意味:

- 04 ユーザー ID 抽出に関して無効な応答域。
- 08 ユーザー ID 抽出に関して無効な応答域長。
- 12 環境 ID 抽出に関して無効な応答域。

- 16 環境 ID 抽出に関して無効な応答域長。
- 20 不明なデータ・セット抽出要求。
- 24 不明な抽出要求タイプ。
- 28 データ・セット名抽出要求に関して無効な応答域長。
- 32 無効な論理名の長さが指定されました。
- 36 データ・セット抽出に関して無効な応答域。
- 40 データ・セット特性抽出に関して無効な応答域長。
- 44 データ・セット・エラー理由抽出に関して無効な応答域長。
- 48 データ・セット・メッセージ・アンカー抽出要求に関して無効な応答域長。
- 52 DMCBSTAT フィールドでは、データ・セット状況を OLD、MOD、NEW、または SHR として指定してはなりません。
- 56 バックレベル・マクロが使用されました。

34F (10 進数 847)

説明: インターバル・タイマー設定エラー。

理由コード:

意味:

- 04 時間間隔が無効。

350 (10 進数 848)

説明: デキュー・エラー。

理由コード:

意味:

- 04 無効な論理名が指定されました - おそらくデータ・セットが割り振られていません。
- 08 無効な論理名の長さ。
- 20 リソースが待機状態にありませんでした。
- 24 不明な要求タイプ。
- 32 バックレベル・マクロが使用されました。

352 (10 進数 850)

説明: 印刷サービス機能により内部エラーが検出されました。

理由コード:

意味:

- 04 無効なパラメーター・リスト長の値。
- 08 無効な要求タイプ (opn) コード。
- 12 印刷サービス制御ブロック (PRTCB) がないか、または無効。
- 16 デフォルトの印刷サービス制御ブロック (PRTCB) の構築中のエラー。マクロ BLXPRDEF がモジュール BLXSPRT2 により内部的に出されました。
- 20 パラメーター・リスト名が PRTCB リスト名のいずれとも一致していません。
- 24 無効な BLXPRINT マクロ・データ・タイプ機能コード。
- 28 クローズ時に割り振られなかった印刷データ・セット。
- 32 印刷データ・セットに関して、クローズ・タスクとオープン・タスクが一致していません。
- 36 BLXEXTRT の呼び出しにより非ゼロ戻りコードが戻されました。

353 (10 進数 851)

説明: SNAP 機能により内部エラーが検出されました。

理由コード:

意味:

- 04 無効な操作パラメーター。
- 08 SNAP 印刷ファイル接続エラー。
- 12 SNAP 印刷ファイル・オープン・エラー。
- 16 矛盾している DCB 文字。
- 20 SNAPDUMP 制御ブロックがないか、または無効。
- 24 クローズ後の SNAPDUMP のアクセス。
- 28 無効なパラメーター・リスト LNAME の長さ。
- 32 パラメーター・リスト LNAME が SNAPDUMP 制御ブロック LNAME と一致していません。
- 36 無効なパラメーター・リスト FNAME の長さ。
- 40 無効なパラメーター・リスト FNAME。
- 44 印刷用のデータ・アクセス・サービス LNAME がありません。
- 48 クローズ・タスクとオープン・タスクが等しくありません。
- 52 無効な ID またはフィールド・パラメーター・リスト。
- 56 有効なダンプ要求項目がありません。

358 (10 進数 856)

説明: 待機 (ENQ) エラー。

理由コード:

意味:

- 04 無効な論理名が指定されました - おそらくデータ・セットが割り振られていません。
- 08 無効な論理名の長さ。
- 20 リソースはすでに待機状態になっています。
- 24 不明な要求タイプ。
- 32 バックレベル・マクロが使用されました。

35C (10 進数 860)

説明: BLXESTAE 追加または取り消し要求エラー。

理由コード:

意味:

- 04 BLX モジュールが追加したアプリケーション出口ルーチンを削除する要求が、非 BLX モジュールから出されました。
- 16 削除されるべきアプリケーション出口ルーチン用 STIXIT 制御ブロックを、見つけることができませんでした。
- 24 アクティブ・タスク・ブロック (ATB) アドレスが無効です。
- 28 提供されている BLXESTAE 機能コードが無効です。

378 (10 進数 888)

説明: ベクトル・テーブル操作エラー。

理由コード:

意味:

- 04 不明な要求。
- 08 無効な BLX 関数行列コードの追加、削除、または置き換え要求。
- 12 無効な関数行列コード。
- 16 無効なベクトル・テーブル。
- 20 アンカー制御ブロック名が、要求されている参照の有効範囲内で不明です。
- 24 STIB (サービス・テーブル・インターフェース・ブロック) にある関数行列コードが、サポートされる最大数にすでに達しています。
- 28 現在、関数行列コード使用中。
- 32 関数行列コード未使用。
- 36 アンカー制御ブロック使用計数変更不能。
- 40 変更 (削除または置き換え) 要求用の STIB が存在していません。
- 44 ベクトル・テーブル・ポインターと変更 (削除または置き換え) 要求が一致していません。
- 48 アンカー制御ブロック・ポインター (与えられたアンカー制御ブロック名により獲得したもの) が、変更 (置き換えまたは削除) 要求に関して一致していません。
- 52 内部論理エラー : マスター STIB が存在していません。
- 56 内部論理エラー : STIB スロット・マスク内で STIB スロットがありません。
- 60 内部論理エラー : 置き換え要求中に STIB スロットの値が変更されました。
- 64 内部論理エラー : 入力パラメーター・リストの構成が無効であると思われます。 インターフェース構成中に潜在マクロ・エラーがありました。
- 68 置き換えに関して新旧の FMC が一致していません。
- 72 バックレベル・マクロが使用されました。
- 76 ADD または DELETE 要求に関して無効なアンカー名の長さ。
- 80 REPLACE 要求に関して無効なアンカー名の長さ。

379 (10 進数 889)

説明: アンカー操作エラー。

理由コード:

意味:

- 04 減分要求により、アンカー制御使用計数が負の数になりました。
- 08 変更 (削除または置き換え) 要求に関して、アンカー・ポインターが、ANC (アンカー制御ブロック) に含まれているアンカー・ポインターと一致していません。
- 12 無効な検索要求。
- 16 無効な削除要求。
- 20 無効な置き換え要求。
- 24 内部論理エラー : 入力パラメーター・リストの構成が無効です。 インターフェース構成中に潜在マクロ・エラーがありました。
- 32 増分要求が BLX サービス・ルーチンから出されませんでした。
- 36 減分要求が BLX サービス・ルーチンから出されませんでした。
- 40 バックレベル・マクロが使用されました。
- 44 無効なアンカー制御ブロック名の長さ。

48 REPLACE 要求に関して無効なアンカー制御ブロック名の長さ。

37A (10 進数 890)

説明: サービス・ルーターがエラーを検出しました。

理由コード:

意味:

- 04 不適切な機能行列コード。
- 08 STIB (サービス・テーブル・インターフェース・ブロック) 機能行列コード・フィールドがゼロです。機能の集合が定義されていません。
- 12 ベクトル・テーブル機能コード項目にゼロが含まれています。要求された機能は使用できません。
- 16 不適切な機能コード。
- 20 ゼロであるベクトル・テーブル・ポインター。
- 24 STIB がありません。
- 28 保管域の ATB (アクティブ・タスク・ブロック) ポインターがゼロです。
- 32 ATB ポインターが ATB を指していません。

37D (10 進数 893)

説明: BLX サービス終了エラー。

理由コード:

意味:

- 04 データ・セットは別のタスクに対して割り振られ、オープンされたままの状態です。
- 08 データ・セット操作をクローズし解放する際に、エラーが起きました。
- 12 マスター BLX タスクのサブタスクから、BLX サービスを終了する呼び出しがありました。
- 16 BLXCDAS0 用にストレージを解放することはできません。
- 20 BLXSSERV 用にストレージを解放することはできません。
- 24 STIB 用にストレージを解放することはできません。
- 28 MCB 用にストレージを解放することはできません。
- 32 ATB 用にストレージを解放することはできません。
- 36 BLXLOAD によりロードされたフェーズを含む区域を解放することはできません。
- 40 CDE を含む区域を解放することはできません。
- 44 LLE を含む区域を解放することはできません。
- 48 ユーザー・ストレージ ID に関して記憶セルを解放することはできません。
- 52 BLX システム・ストレージ ID に関して記憶セルを解放することはできません。
- 56 GETVIS エラー。
- 60 ディレクトリー検出エラー。
- 64 BLXSTERM のロード失敗。
- 68 FREEVIS エラー。
- 72 アプリケーションはサブタスクをタスク消去しませんでした。

37F (10 進数 895)

説明: メッセージ・テキスト分割内部機能 (BLXSPLIT) がエラーを検出しました。

理由コード:

意味:

- 04 メッセージ長が 1 未満です。
- 08 行の最大長が 1 未満です。
- 12 文字ストリング数が 1 未満です。
- 16 テキスト・ポインターが無効です。

380 (10 進数 896)

説明: BLX サービス初期設定エラー。

理由コード:

意味:

- 08 GETVIS 障害。
- 12 FREEVIS 障害。
- 16 ディレクトリー検出エラー。
- 20 BLXSSERV のロード失敗。
- 24 MCB (マスター制御ブロック) に対してアンカー制御ブロックを追加できません。
- 28 使用中の削除不能 MCB に対してアンカー制御ブロックを追加できません。
- 32 ATB (アクティブ・タスク・ブロック) に対してアンカー制御ブロックを追加できません。
- 36 使用中の削除不能 ATB に対してアンカー制御ブロックを設定できません。
- 40 DAS の初期設定が失敗しました。
- 44 呼び出し側に指定された無効なシステム ID。
- 48 呼び出し側に指定された無効な副環境 ID。
- 52 副環境大制御ブロックが呼び出し側に指定されませんでした。
- 56 呼び出し側に指定された無効なユーザー ID 長。
- 60 GETVIS 障害。
- 64 ディレクトリー検出エラー。
- 68 DAS モジュールのロード失敗。
- 72 GETVIS エラー。
- 76 BLXSINIT 用のディレクトリー項目取得エラー。
- 80 BLXSINIT のロード・エラー。
- 84 FREEVIS エラー。

381 (10 進数 897)

説明: ロックワード制御エラー。

理由コード:

意味:

- 04 ロックワードはすでに初期設定用にロックまたはアンロックされています。
- 08 ロックワードが解放要求用にロックされていません。
- 12 ロックワードが損傷しています。

382 (10 進数 898)

説明: 自動ストレージ・エラー。

理由コード:

意味:

- 04 自動ストレージ・ブロックを獲得できません。
- 08 自動ストレージ・ブロックを解放できません。

383 (10 進数 899)

説明: データ・アクセス・サービス・エラー。

理由コード:

意味:

- 04 パラメーター・リスト内の無効な論理名の長さ。
- 08 条件付き割り振りに対して無効な DMCB ID または DMCB (データ・アクセス・サービス制御ブロック) ポインター。
- 12 無効なパラメーター・リスト・ファイル項目。
- 16 無効なチェーン ID。
- 20 無効なチェーン・アンカー・ポインター。
- 24 無効なチェーン要求コード。
- 28 パラメーター・リスト・ファイル名が、条件付き割り振りの候補として割り振られた DD 名と一致していません。
- 32 論理名チェーン追加要求からのエラー。
- 36 DAS ベクトル・テーブル追加要求からのエラー。
- 40 MODELS モジュール内の無効なモデル・ブロック ID。
- 44 無効なパラメーター・リスト・モデル名の長さ。
- 48 パラメーター・リスト・モデル名が MODELS モジュール内にありませんでした。
- 52 無効な割り振りモデル指定変更パラメーター・キー・コード。
- 56 無効な割り振りモデル指定変更キー名パラメーター値。
- 60 無効な割り振りモデル指定変更パラメーター長。
- 64 割り振り指定変更パラメーターが最大個数 32 を超えています。
- 68 割り振りパラメーター・テキスト装置スペース (1024 バイト) が限度を超えています。
- 72 無効な割り振りモデル・テキスト装置キー・コード。
- 76 DYNALLOC エラー分析が失敗しました。
- 80 論理名が論理名チェーンにありませんでした。
- 84 無効なデータ・アクセス・サービス解放指定変更パラメーター・キー・コード。
- 88 無効なデータ・アクセス・サービス解放指定変更間接変位パラメーター値。
- 92 無効なデータ・アクセス・サービス機能要求コード。
- 100 レコード形式が定義されていないか、またはサポートされていません。
- 104 ラベル・タイプが定義されていないか、またはサポートされていません。
- 108 VSAMFAIL エラー分析が失敗しました。
- 112 IKJEFF02 TSO メッセージ構築が失敗しました。
- 116 VSAM SHOWCB 要求エラー。
- 120 DAS エラーにより VSAM 論理エラーが起きました。
- 125 クローズ要求が失敗しました。
- 128 制御レコード読み取りが、オープン直後またはクローズ前に失敗しました。
- 132 制御レコード更新が、オープン直後またはクローズ前に失敗しました。
- 136 検査要求がオープン直後に失敗しました。

- 140 終了要求が BLXCVSCL 内で失敗しました。
- 144 RPL GENCB 要求が失敗しました。
- 148 RPL MODCB 要求が失敗しました。
- 152 SHOWCB 要求が失敗しました。
- 164 制御レコードに対する POINT が失敗しました。
- 168 バッファは、(ACB により定義される) 現行 VSAM 環境内では無効にできません。
- 172 エラーが VSAM 制御ブロック・チェーン内で検出されました。
- 176 アプリケーション・プログラムが、読取専用処理用にオープンした後でデータ・セットを更新しました。この操作により他のアプリケーションの読み取り保全性問題が生じる可能性があります。
- 180 疑似オープン、疑似クローズ、またはシャットダウンを要求するタスクが、最初に疑似オープンを要求したタスクと異なっています。
- 184 出力用のオープンが、読取専用として割り振られたデータ・セットに要求されました。
- 188 オープンされていないか、出力用にはオープンされていないデータ・セットに、アクセスが要求されました。
- 192 ゼロに等しいキーの PUT が、高競合 VSAM キー順データ・セットに要求されました。
- 196 VSE ラベル・マクロ形式機能からのエラー戻りコード。
- 200 無効なモジュール入り口点。
- 204 BLXDDEQ0 が、非ゼロ・システム DEQ 戻りコードを渡しました。
- 208 非 VSAM データ・セットに関して、無効な DAS 機能。
- 212 無効な RPL ハンドル (RPL 制御ブロックを指さない)。
- 216 無効な RPL ハンドル (非アクティブ RPL 制御ブロックを指す)。

3E8 (10 進数 1000)

説明: SDB チェーン形式エラー。

理由コード:

意味:

- 04 SDB の長さが、SDB の累算の長さとは一致していません。
- 08 パネル名が英数字ではありません。
- 12 パネル・タイプ・フラグが設定されていません。
- 16 SDEXREFI 予約済みフラグがゼロではありません。
- 20 関連ワードの長さが、SDIDS のキーを超えています。
- 24 関連接頭部ワードにスラッシュがありません。
- 28 コード化された関連ワードが、SDE 内の先頭の SDEXRFI ではありません。
- 32 コード化された関連ワードがありましたが、SDEZWRDE フラグがオンに設定されていません。
- 36 SDE の長さが、変数セクションの累積の長さとは一致していません。レジスタ 4 は予測される SDE の末尾を指します。

第 13 章 接頭部 BSS の共通セキュリティー機能メッセージ

接頭部 BSS のメッセージは共通セキュリティー機能によって出されます。

BSS0xxx	システム許可機能 (SAF) の初期設定時に出されます。
BSS1xxx	
BSS3xxx	共通初期設定ルーチン BSSINIT によって出されます。

BSS001D ICHSFI00 NOT LOADED. REPLY U TO CONTINUE WITHOUT SAF

説明: GETVIS または LOAD 要求が失敗したので、システム許可機能 (SAF) 初期設定フェーズ ICHSFI00 がロードできませんでした。SAF は使用できません。セキュリティー管理プログラムは始動できません。

システムの処置: オペレーターが応答するまで、システム初期設定は停止します。

オペレーターの応答: SAF なしで初期設定を続行させるには、U と応答してください。そうしない場合、問題を訂正してシステムを再 IPL し、SAF が組み込まれるようにしてください。

プログラマーの応答: なし。

BSS101E SAF IS NOT ACTIVE

説明: システム許可機能 (SAF) は前の問題が原因で使用できません。セキュリティー管理プログラムは始動できません。システムの処置: SAF エラー出口がメッセージ BSS106D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BSS102I UNABLE TO OBTAIN STORAGE FOR SAF INITIALIZATION

説明: SAF の必要なパーツ用に使用できる十分な SVA スペースがありません。

システムの処置: SAF エラー出口がメッセージ BSS101E を出します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: SVA ストレージを大きくしてください。

BSS103I UNABLE TO LOCATE SAF ROUTER (ICHSFR00) IN SVA

説明: SVA の中でシステム許可機能 (SAF) ルーター・フェーズ ICHSFR00 が見つからなかったため、IJSYSRS.SYSLIB からロードできませんでした。SAF は使用できません。セキュリティー管理プログラムは始動できません。

システムの処置: SAF エラー出口がメッセージ BSS101E を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BSS104I SYSTEM ERROR DURING SAF INITIALIZATION

説明: システム許可機能 (SAF) の初期設定時、プログラム・チェックが起きました。SAF エラー出口が起動されました。

システムの処置: SAF エラー出口がメッセージ BSS101E を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BSS105I ACTIVE SAF EXIT: ICHRTX00

説明: システム許可機能 (SAF) インストール・システム出口 (モジュール ICHRTX00) は使用中です。

システムの処置: システム初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BSS106D RE-IPL OR REPLY U TO CONTINUE WITHOUT SAF

説明: システム許可機能 (SAF) エラー出口は BSS101E の後でこのメッセージを出します。オペレーターは、SAF なしで処理を続行させるか、または再 IPL するかを決めなければなりません。

システムの処置: オペレーターが応答するまで、システム初期設定は停止します。

オペレーターの応答: SAF なしで初期設定を続行させるには、U と応答してください。そうしない場合、問題を訂正してシステムを再 IPL し、SAF が組み込まれるようにしてください。

プログラマーの応答: なし。

BSS108I ACTIVE SAF EXIT: IRRSXT00

説明: システム許可機能 (SAF) インストール・システム出口 (モジュール IRRSXT00) は使用中です。

システムの処置: システム初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BSS109I UNABLE TO LOCATE SAF ROUTER IRRSFR10 IN SVA

説明: SVA の中でシステム許可機能 (SAF) ルーター・フェーズ IRRSFR10 が見つからなかったため、IJSYSRS.SYSLIB からロードできませんでした。SAF は使用できません。セキュリ

ティー・マネージャーを始動できません。
 システムの処置: SAF エラー出口がメッセージ BSS101E を出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

BSS110I UNABLE TO OBTAIN STORAGE FOR SECURITY INITIALIZATION

説明: システム許可機能 (SAF) は、セキュリティ・パーツをロードするために、SVA 内のストレージを求める GETVIS マクロを出しました。その GETVIS が失敗しました。
 システムの処置: SAF はメッセージ BSS111I または BSS112I を出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

BSS111I NO SVC-APPENDAGE ROUTINE LOADED. SEC=NO ASSUMED

説明: IPL 時、SYS SEC=YES が指定されましたが、セキュリティ SVC 付加ルーチン DTSECSVC がロードできませんでした。
 システムの処置: SYS SEC=NO が指定されたものとみなされます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

BSS112I NO SECURITY CLEANUP ROUTINE LOADED

説明: 終結処理ルーチン BSSCLEAN がロードできませんでした。
 プログラマーの応答: このメッセージが BSS110I の後に出された場合、十分なシステム GETVIS ストレージがあることを確認してください。そうでない場合、フェーズ BSSCLEAN が IJSYRS.SYSLIB 内にあることを確認してください。

BSS113I UNABLE TO LOCATE BSM ROUTER BSSRFR10 IN SVA

説明: 基本セキュリティ・マネージャー・ルーター・フェーズ BSSRFR10 をロードできませんでした。
 システムの処置: システムは処理を続行します。クライアント証明書 (SSL 対応 CICS CWS およびクライアント認証によって使用) は、割り当てられたユーザー ID を取得できません。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: アクセス制御機能に必要なすべてのセキュリティ・フェーズをシステム・ライブラリーにカタログを作成してあるかを確認してください。

BSS301I WRONG PARTITION USED FOR SECURITY MANAGER INITIALIZATION

説明: セキュリティ管理プログラムの初期設定を開始するために、BGINIT の外側でセキュリティ初期設定ルーチン BSSINIT が使用されました。
 システムの処置: BSSINIT はメッセージ BSS313D を出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 他の区画を開始する前、最初に、\$0JCL (BGINIT) からセキュリティ初期設定ルーチン BSSINIT が呼び出されたことを確認してください。不在ノードでは、OCCF

区画が前に始動済みであることが受け入れられました。

BSS302I OTHER PARTITIONS ARE ACTIVE BEFORE SECURITY IS INITIALIZED

説明: 他の区画がアクティブになる前に BSSINIT によるセキュリティ初期設定を行わなければなりません。
 システムの処置: BSSINIT はメッセージ BSS313D を出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 他の区画を開始する前、最初に、\$0JCL (BGINIT) からセキュリティ初期設定ルーチン BSSINIT が呼び出されたことを確認してください。不在ノードでは、OCCF 区画が並行してアクティブであることは容認されます。

BSS303I INITIALIZATION OF EXTERNAL SECURITY MANAGER FAILED

説明: 外部セキュリティ管理プログラム (ESM) の初期設定が失敗しました。詳しくは、前のメッセージを参照してください。
 システムの処置: BSSINIT はメッセージ BSS313D を出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

BSS304I RC rc FROM SECURITY MANAGER INITIALIZATION

説明: 初期設定ルーチン BSSINIT は、セキュリティ管理プログラム提供の初期設定ルーチンを呼び出し、戻りコード *rc* を受け取りました。
 システムの処置: BSSINIT はメッセージ BSS313D を出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: この戻りコードについては、使用しているセキュリティ・マネージャーの資料を参照してください。

BSS305D SERVER NOT RESPONDING. REPLY R TO RETRY OR C TO CANCEL WAIT

説明: 初期設定ルーチン BSSINIT は、セキュリティ・サーバー区画からの応答を一定時間待った後でこのメッセージを出しました。オペレーターは、セキュリティ・サーバーなしで処理を続行させるか、サーバーを再び待つか、または再 IPL するかを決めなければなりません。

次の理由が考えられます。

- サーバー区画用に ESM 提供のもの以外のプロシージャーが使われた。
- フェーズ BSSINIT または ESM サーバー・フェーズ (またはその両方) の開始がサーバー区画のプロシージャー内にない。
- ESM サーバー・フェーズが IBM 提供のインターフェースに合致しない。

C と応答し、SYS SEC=YES が指定されていると、VSE ファイル、ライブラリー、サブライブラリー、およびメンバーのスタートアップ保護が続行されます。DTSECTAB からのユーザー ID だけが使用可能かもしれません。
 システムの処置: オペレーターが応答するまで、システム初期設定は停止します。

オペレーターの応答: サーバーを待ち続けるならば、R と応答し、サーバーなしで続行するならば、C と応答してください。

注: サーバーなしで続行させると、それ以降にエラーが発生するかもしれません。失敗したセキュリティで問題の解決が不可能ならば、SYS SEC=RECOVER を指定した再 IPL が必要かもしれません。問題が修正されたら、SYS SEC=RECOVER を指定しない再 IPL を行って、リカバリー・モードを終了させる必要があります。

プログラマーの応答: なし。

BSS306I SVC-APPENDAGE ROUTINE NOT SWITCHED FOR ESM

説明: BSSINIT はセキュリティ SVC 付加ルーチン DTSECESM を確認できませんでした。詳しくは、前のメッセージを参照してください。

システムの処置: BSSINIT はメッセージ BSS313D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BSS307I PARTITION STATUS (r15 / r1)

説明: セキュリティ初期設定ルーチン BSSINIT が、セキュリティ・サーバー用に指定された区画の状況を検査しました。内部サービス GETFLD FIELD=PSTAT から、レジスター 15 (r15) またはレジスター 1 (r1) 内に、予期しない状況が戻されました。その区画が割り振られていなかったものと思われる。

システムの処置: システムはメッセージ BSS311I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 指定された区画が割り振られていることを確認してください。問題が解決されない場合は、システム・エラーがあると思われます。既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

BSS308I GET PIK FAILED.

説明: 基本セキュリティ・マネージャー初期設定ルーチンは、指定されたサーバー区画の区画識別キー (PIK) を取得できませんでした。

システムの処置: システムはメッセージ BSS311I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: おそらくシステム・エラーと思われる。既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

BSS309I PHASE *name* NOT LOADED

説明: BSSINIT はフェーズ *name* をロードできませんでした。

システムの処置: BSSINIT はメッセージ BSS310I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BSS310I THE FUNCTION *fn* FAILED WITH RETURN CODE *rc*

説明: BSSINIT によって呼び出された機能 *fn* が失敗して、戻りコード *rc* が戻されました。

システムの処置: BSSINIT はメッセージ BSS313D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 戻りコードの意味を分析してください。

BSS311I SERVER PARTITION *fn* CANNOT BE STARTED

説明: 区画 *fn* が、サーバー区画として指定されました。重大エラーのために、この区画を開始することができませんでした (前のメッセージを参照してください)。

システムの処置: システムはメッセージ BSS313D を出します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: SYS SERVPART= で指定された区画が正しいことを確認してください。

BSS312I INITIALIZATION OF BSM WITH SERVER PARTITION FAILED

説明: 基本セキュリティ・マネージャー (BSM) の初期設定が失敗しました。

システムの処置: BSSINIT はメッセージ BSS313D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BSS313D RE-IPL OR REPLY U TO CONTINUE WITHOUT SECURITY MANAGER

説明: 共通セキュリティ初期設定ルーチンは、エラー発生後に、このメッセージを出します。オペレーターは、セキュリティ管理プログラムなしで処理を続行させるか、または再 IPL するかを決めなければなりません。

U と応答し、SYS SEC=YES が指定されていると、VSE ファイル、ライブラリー、サブライブラリー、およびメンバーのスタートアップ保護が続行されます。DTSECTAB からのユーザー ID だけが使用可能かもしれません。

システムの処置: オペレーターが応答するまで、セキュリティ初期設定は停止します。

オペレーターの応答: セキュリティ管理プログラムなしで初期設定を続行させるには、U と応答してください。そうしない場合、問題を訂正してシステムを再 IPL し、セキュリティ管理プログラムが組み込まれるようにしてください。

注: 正常に初期設定されたセキュリティ・マネージャーなしで初期設定を続行させると、それ以降にエラーが発生する可能性があります。失敗したセキュリティで問題の解決が不可能ならば、SYS SEC=RECOVER を指定した再 IPL が必要かもしれません。問題が修正されたら、SYS SEC=RECOVER を指定しない再 IPL を行って、リカバリー・モードを終了させる必要があります。

プログラマーの応答: なし。

第 14 章 接頭部 BSSD の BSSDCERT メッセージ

接頭部 BSSD のメッセージは、BSSDCERT プログラムによって出されます。BSSDCERT は、呼び出し可能サービス `initACEE` とともに SSL クライアント認証で使用され、証明書のために定義されたユーザー ID を取得します。BSSDCERT の目的とは、クライアント証明書および割り当てられているユーザー ID のリスト (マッピング・リスト) を管理することです。

BSSD01I TABLE OF DIGITAL CERTIFICATES ACTIVATED

説明: デジタル証明書および割り当てられているユーザー ID の表が、ストレージにロードされています。クライアント認証のために使用することができます。
システムの処置: システムは処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

BSSD02I DC SERVICE FAILED AT COMMAND *cmd*

説明: デジタル証明書サービスは、コマンド *cmd* を処理できませんでした。
障害の原因について詳しくは、前に出されているメッセージを参照してください。
システムの処置: サービス・プログラムの処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD03I THE FUNCTION *fn* FAILED WITH RETURN CODE *rc*

説明: BSSDCERT によって呼び出された機能 *fn* が失敗して、戻りコード *rc* が戻されました。
システムの処置: BSSDCERT は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 戻りコードの意味を調べ、問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD04I BSSDCERT CALLED WITH WRONG PARM= SPECIFICATION

説明: PARM= の指定なしで BSSDCERT が呼び出されたか、データなしで PARM= が指定されました。
システムの処置: BSSDCERT は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD05I UNKNOWN COMMAND *cmd*

説明: *cmd* は有効な BSSDCERT コマンドではありません。
システムの処置: BSSDCERT は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD06I INVALID COMMAND *cmd* RC = *rc*.

説明: BSSDCERT コマンド *cmd* が無効です。理由は、*rc* によって示されています。

RC 意味

- 1 最初のパラメーター (コマンド名) が 3 文字を超えています。
- 2 2 番目のパラメーター (最初のコマンド・パラメーター) が 8 文字を超えています。
- 3 3 番目のパラメーター (2 番目のコマンド・パラメーター) が 8 文字を超えています。
- 4 4 番目のパラメーター (3 番目のコマンド・パラメーター) が 7 文字を超えています。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD07I REQUIRED PARAMETER MISSING OR INVALID

説明: コマンドが BSSDCERT で指定されましたが、必要なパラメーターがすべて与えられていません。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD10I ERROR PROCESSING MEMBER

library.sublibrary.member.type

説明: BSSDCERT で指定されたコマンドが、VSE ライブラリー・メンバーを使用できませんでした。理由は、後に続くメッセージで説明されています。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD11I OPEN FAILED. MEMBER DOES NOT EXIST

説明: BSSDCERT が、存在しない VSE ライブラリー・メンバーをオープンしようと試みました。メンバー名については、メッセージ BSSD10I を参照してください。

注: 前に ADD コマンドを出していない場合、ACT または LST コマンドは、このメッセージで失敗します。最初の ADD コマンドが、VSE ライブラリー・メンバーをマッピング・リスト用に割り振ります。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD12I OPEN FAILED. SUBLIBRARY DOES NOT EXIST

説明: BSSDCERT が VSE ライブラリー・メンバーをオープンしようと試みましたが、要求されたサブライブラリーは存在しません。サブライブラリー名については、メッセージ BSSD10I を参照してください。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD13I OPEN FAILED. LIBRARY DOES NOT EXIST

説明: BSSDCERT が VSE ライブラリー・メンバーをオープンしようと試みましたが、要求されたライブラリーは存在しません。ライブラリー名については、メッセージ BSSD10I を参照してください。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD14I LIBRM OPEN FAILED WITH RC = rc REASON = rs

説明: BSSDCERT が VSE ライブラリー・メンバーをオープンしようと試みましたが、予期しない戻りコード *rc* を理由コード *rs* とともに LIBRM マクロ呼び出しから受け取りました。メンバー名については、メッセージ BSSD10I を参照してください。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードの意味については、システム・マクロ解説書を参照してください。問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD15I LIBRM GET FAILED WITH RC = rc REASON = rs

説明: BSSDCERT が VSE ライブラリー・メンバーからデータを読み取ろうと試みましたが、予期しない戻りコード *rc* を理由コード *rs* とともに LIBRM マクロ GET 呼び出しから受け取りました。メンバー名については、メッセージ BSSD10I を参照してください。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードの意味について

は、システム・マクロ解説書を参照してください。問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD16I MEMBER DOES NOT CONTAIN A MAPPING LIST

説明: BSSDCERT が与えられたマッピング・メンバーからデータを読み取りましたが、そのデータはマッピング・リストではありません。メンバー名については、メッセージ BSSD10I を参照してください。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD17I BAD IO REQUEST CODE: iorc

説明: BSSDCERT が、内部入出力サービス要求でエラーを受け取りました。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: プログラムを再実行してください。それでも失敗する場合、誤った入出力要求コード *iorc* を記録し、IBM に援助を依頼してください。

BSSD18I SSL SERVICE FAILED: service RC = rc

説明: BSSDCERT は SSL 証明書を処理するためにサービス *service* を使用しましたが、予期しない戻りコード *rc* を受け取りました。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードの意味については、「SSL for VSE User's Guide」を参照してください。問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD19I LIBRM PUT FAILED. LIBRARY IS FULL

説明: BSSDCERT は、メンバーを VSE ライブラリーに書き込むことができませんでした。このライブラリーには、十分なスペースがありません。ライブラリー名については、メッセージ BSSD10I を参照してください。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD20I LIBRM PUT FAILED WITH RC = rc REASON = rs

説明: BSSDCERT が VSE ライブラリー・メンバーにデータを書き込もうと試みましたが、予期しない戻りコード *rc* を理由コード *rs* とともに LIBRM マクロ PUT 呼び出しから受け取りました。メンバー名については、メッセージ BSSD10I を参照してください。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードの意味については、システム・マクロ解説書を参照してください。問題を訂正

し、プログラムを再実行してください。

**BSSD21I RECORD FORMAT OR RECORD
LENGTH INVALID ON INPUT MEMBER**

説明: BSSDCERT は、証明書を追加することができませんでした。ベース 64 フォーマットの証明書が入っていないか、または 63 以下のレコード長になっています。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

**BSSD22I ACCESS CONTROL FAILED. MEMBER
NOT OPENED**

説明: BSSDCERT が、必要なメンバーへのアクセスを許可されていないユーザー ID で使用されています。メンバー名については、メッセージ BSSD10I を参照してください。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: セキュリティ定義を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD23I INVALID CERTIFICATE

説明: BSSDCERT は、証明書を追加することができませんでした。原因については、後続くメッセージを参照してください。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

**BSSD24I SERIAL NUMBER AND ISSUER'S NAME
TOO LONG**

説明: BSSDCERT は、証明書を追加することができませんでした。シリアル番号と発行者の名前を加えた長さが 245 を超えています。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD25I MAPPING MEMBER IS EMPTY

説明: BSSDCERT は、証明書マッピング・リストのエントリを変更または削除できませんでした。マッピング・メンバーが存在しないか、空です。メンバー名については、メッセージ BSSD10I を参照してください。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD26I ENTRY entry NOT FOUND

説明: BSSDCERT は、証明書マッピング・リストのエントリを削除または変更できませんでした。エントリ *entry* がマッピング・リストに見つかりませんでした。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BSSD27I MEMBER NAME ALREADY DEFINED

説明: その証明書メンバー名のエントリがすでに存在するため、BSSDCERT は新しい証明書エントリを証明書マッピング・リストに追加できませんでした。

システムの処置: BSSDCERT は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

第 15 章 接頭部 BSST のユーザー認証 - TCP/IP 用のアクセス制御

接頭部 BSST のメッセージは、TCP/IP の VSE 提供セキュリティー出口ルーチンによって出されます。この出口ルーチンは、BSM (基本セキュリティー・マネージャー) の一部ではなく、スタートアップ時に常に使用される共通セキュリティー機能に属していません。この出口ルーチンは、TCP/IP セキュリティー出口インターフェースに基づいています。この出口ルーチンの目的は、BSM サインオン・セキュリティーと VSE ファイル/ライブラリー保護を活用することです。さらに、POWER スプール・ファイルの基本保護も提供します。ユーザーは TCP/IP のコマンドを使用して、この出口ルーチンを活動化および停止することができます。

BSST01E NOT ENOUGH DYNAMIC STORAGE AVAILABLE. SECURITY EXIT TERMINATES

説明: TCP/IP セキュリティー出口が、動変数用のストレージを割り振ることができませんでした。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP は処理を続けることができます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 区画サイズを増やしてください。

BSST02E TCP/IP SECURITY EXIT DOES NOT SUPPORT THIS VSE RELEASE

説明: TCP/IP セキュリティー出口が、サポートされない VSE リリースで開始されました。この出口は VSE/ESA 2.4.0 以降だけをサポートします。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP は処理を続けることができます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 別のセキュリティー出口 (TCP/IP サンプル出口) を使用するか、または VSE を VSE/ESA 2.4 以降にアップグレードしてください。

BSST03E SERVICE *service* FAILED WITH RC = *rc*

説明: サービス *service* が戻りコード *rc* で失敗しました。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP は処理を続けることができます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: このサービスに関する戻りコードの意味については、VSE 資料を参照してください。

BSST04E ERROR IN PARAMETER *position* SPECIFIED AT DATA=

説明: TCP/IP コマンド DEFINED

SECURITY,DRIVER=BSSTISX,DATA=... が指定されました。

DATA= によって、定位置パラメーターのリストがセキュリテ

ィー出口に渡されました。位置 *position* にあるパラメーターにエラーがあります。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP は処理を続けることができます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: この TCP/IP セキュリティー出口に関する資料を参照してください。

BSST05I PARTS OF THE SECURITY EXIT ARE MISSING. ALL ACCESS REQUESTS WILL BE REJECTED

説明: フェーズ BSSTIX が欠落しているか、または VSE 制御ブロックがオーバーレイされています。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP は処理を続けることができます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: BSSTIX.PHASE が使用可能かどうかを確認してください。

BSST06I SECURITY EXIT USES THE LIST OF EXCEPTIONS

説明: TCP/IP for z/VSE はセキュリティー出口 BSSTISX を使用しています。この出口は例外リスト BSSTIXE を検出し、そのリストに指定されているセキュリティー・チェックをスキップします。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

BSST10E THE FUNCTION *function* FAILED WITH RC = *rc*

説明: TCP/IP セキュリティー出口を開始するために使用された機能が失敗しました。理由は戻りコードによって示されています。

システムの処置: これは、2 行から成るメッセージの最初の行です。システム処置については、メッセージ BSST10E の 2 行目を参照してください。

BSST10E • BSST27E

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: この機能に関する戻りコードの意味については、VSE 資料を参照してください。

BSST10E PHASE *phase* NOT LOADED

説明: これは、メッセージ BSST10E の 2 行目です。機能が失敗した (1 行目を参照) 結果として、フェーズ *phase* がロードされませんでした。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP は処理を続けることができます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: メッセージの 1 行目を参照してください。

BSST20I INVALID USER ID *user-id* IP ADDRESS = *ip-address*

説明: IP アドレス *ip-address* からログオンが試みられましたが、ユーザー ID がセキュリティー・マネージャーに定義されていません。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP はセキュリティー違反を示し、ログオン要求を拒否します。

オペレーターの応答: このメッセージが頻繁に出される場合は、セキュリティー管理者に知らせてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

BSST21I INVALID PASSWORD FOR USER *user-id* IP ADDRESS = *ip-address*

説明: IP アドレス *ip-address* からログオンが試みられました。ユーザー ID は *user-id* です。提供されたパスワードが無効でした。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP はセキュリティー違反を示し、ログオン要求を拒否します。

オペレーターの応答: このメッセージが頻繁に出される場合は、セキュリティー管理者に知らせてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

BSST22I PASSWORD EXPIRED FOR USER *user-id* IP ADDRESS = *ip-address*

説明: IP アドレス *ip-address* からログオンが試みられました。ユーザー ID は *user-id* です。提供されたパスワードの有効期限が切れていました。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP はセキュリティー違反を示し、ログオン要求を拒否します。

オペレーターの応答: このメッセージが頻繁に出される場合は、セキュリティー管理者に知らせてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

BSST23I USER ID *user-id* REVOKED IP ADDRESS = *ip-address*

説明: IP アドレス *ip-address* からログオンが試みられました。ユーザー ID は *user-id* です。このユーザー ID は取り消されています。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了

します。TCP/IP はセキュリティー違反を示し、ログオン要求を拒否します。

オペレーターの応答: このメッセージが頻繁に出される場合は、セキュリティー管理者に知らせてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

BSST24I ACCESS DENIED DUE TO UNSUPPORTED REQUEST. TYPE = *sxtype* FTYPE = *sxfstype*

説明: TCP/IP が受け取った要求は、セキュリティー出口ではサポートされていません。sxtype と sxfstype の値は 16 進数です。

詳細については、TCP/IP 資料の SXBLOK.A を参照してください。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP はセキュリティー違反を示し、クライアントからの要求を拒否します。

オペレーターの応答: このメッセージが頻繁に出される場合は、セキュリティー管理者に知らせてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

BSST25I ACCESS DENIED DUE TO SPECIFIED OPTIONS

説明: TCP/IP セキュリティー出口は、DEFINE SECURITY, DRIVER=BSSTISX, DATA=options に指定されたオプションに従って、アクセス要求を否定しました。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP は処理を続けることができます。

オペレーターの応答: このメッセージが頻繁に出される場合は、セキュリティー管理者に知らせてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

BSST26E FUNCTION *function* FAILED WITH R15 = *r15* [RC = *rc*] [RS = *rs*]

説明: 内部で使用される機能 *function* の処理が失敗し、レジスター 15 に *r15* が戻されました。この機能が追加の戻りコードおよび理由コードを提供する場合は、メッセージにそれぞれ、*rc* および *rs* として組み込まれます。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP は処理を続けることができます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: この機能に関する戻りコードの意味については、VSE 資料を参照してください。

BSST27E RACROUTE *request* RETURNS *saf-rc* / *sm-rc* / *sm-rs*

説明: セキュリティー出口が RACROUTE 要求 *request* を出し、予期しない戻りコードを受け取りました。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP はセキュリティー違反を示し、その要求を拒否します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードの意味については、インストールされているセキュリティー・マネージャーに関する資料を参照してください。

BSST30I **USER** *user-id* **IP ADDRESS** = *ip-address*
 [*resource-name*] [**CL**(*class-name*)]
 [**VOL**(*volume-serial-number*)] [**ACCESS**
 INTENT(*intent*)]

説明: このメッセージは、セキュリティー出口がクライアントから行われた無許可の要求 (違反) を検出したときに出力されます。メッセージ BSST30I の 1 行目に示されたユーザーは、その下で無許可の要求が行われた実行ユーザー ID です。*ip-address* は、クライアントの IP アドレスを表します。

このメッセージの詳細については、どんな要求が行われたかを示すメッセージ行をチェックしてください。これは通常、2 行目か 3 行目に示されます。例えば、INSUFFICIENT ACCESS AUTHORITY といった内容です。メッセージ BSST30I の後に続く説明の中から、このメッセージ行を探し出し、このメッセージ行に示されている説明を読んでください。

システムの処置: 後続のメッセージ BSST30I で異なる説明がなされていない限り、セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP はセキュリティー違反を示し、その要求を拒否します。

オペレーターの応答: このメッセージが頻繁に出される場合は、セキュリティー管理者に知らせてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

BSST30I **INSUFFICIENT ACCESS AUTHORITY**

説明: このエラーは、セキュリティー出口が保護リソースへの無許可のアクセスを検出したときに発生します。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP はセキュリティー違反を示し、クライアントからの要求を拒否します。

オペレーターの応答: このメッセージが頻繁に出される場合は、セキュリティー管理者に知らせてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

BSST30I **RESOURCE NOT PROTECTED - ACCESS ALLOWED**

説明: このエラーは、セキュリティー出口がリソースへの無許可のアクセスを検出したが、そのリソースが保護されていない場合に発生します。

システムの処置: セキュリティー出口は、要求されたアクセスを許可し、ゼロの戻りコードで終了します。

BSST30I **RESOURCE NOT FOUND - ACCESS DENIED**

説明: セキュリティー出口が、指定されたリソースを見つけられず、アクセス権を評価できなかったときに、このエラーが発生します。

システムの処置: セキュリティー出口は戻りコード 4 で終了します。TCP/IP はセキュリティー違反を示し、クライアントからの要求を拒否します。

オペレーターの応答: このメッセージが頻繁に出される場合は、セキュリティー管理者に知らせてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

第 16 章 接頭部 BST の基本セキュリティー・マネージャー・メッセージ

接頭部 BST のメッセージは、基本セキュリティー・マネージャーの以下のセクションによって出されます。

BST0xxx	BSM 初期設定
BST1xxx	BSM 共通部分
BST2xxx	BSM セキュリティー・サーバー
BST3xxx	
BST7xxx	BSM サーバー・サービス
BST8xxx	BSM 制御ファイルの初期設定
BST9xxx	BSM 管理

BST001I BASIC SECURITY MANAGER INITIALIZED

説明: 基本セキュリティー・マネージャー初期設定が正常に完了しました。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST002I BASIC SECURITY INITIALIZATION FAILED

説明: 基本セキュリティー・マネージャーを初期設定できませんでした。

システムの処置: システムは BSM 初期設定ルーチンの呼び出し元に戻ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST003I PHASE *name* NOT LOADED

説明: 基本セキュリティー・マネージャー初期設定で、フェーズ *name* をロードできませんでした。

システムの処置: BSM 初期設定は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST004I THE FUNCTION *fn* FAILED WITH RETURN CODE *rc*

説明: 基本セキュリティー・マネージャー初期設定で起動された機能 *fn* が失敗して、戻りコード *rc* が戻されました。

システムの処置: BSM 初期設定は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 戻りコードの意味を分析してください。

BST005I RCVT NOT BUILD

説明: 基本セキュリティー・マネージャー初期設定ルーチンは

RACF 通信ベクトル・テーブル (RCVT) を作成できませんでした。

システムの処置: BSM 初期設定は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST006I GET PIK FAILED

説明: 基本セキュリティー・マネージャー初期設定ルーチンは、指定されたサーバー区画の区画識別キー (PIK) を取得できませんでした。

システムの処置: システムはメッセージ BST010I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: おそらくシステム・エラーと思われる

す。既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

BST007I SERVER PHASE NOT FOUND. SERVER PARTITION NOT STARTED

説明: 基本セキュリティー・マネージャー初期設定ルーチンはサーバー・ルーチン BSTPSTS を検出できませんでした。

システムの処置: システムはサーバー区画を開始しません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST008D SERVER NOT RESPONDING. REPLY R TO RETRY OR C TO CANCEL WAIT

説明: 基本セキュリティー・マネージャー (BSM) 初期設定ルーチンは、サーバー区画からの応答を一定時間待った後でこのメッセージを出します。オペレーターは、サーバーおよび BSM なしで処理を続行させるか、サーバーを再び待つか、または再 IPL するかを決めなければなりません。

次の理由が考えられます。

- サーバー区画用に IBM 提供のもの以外のプロシージャーが使われた。

- フェーズ BSSINIT または BSTPSTS (あるいはその両方) の開始がサーバーのプロシージャー内でない。
- セキュリティー・サーバー区画からの応答が未解決になっている。

C と応答し、SYS SEC=YES が指定されていると、VSE ファイル、ライブラリー、サブライブラリー、およびメンバーのスタートアップ保護が続行されます。DTSECTAB からのユーザー ID だけが使用可能かもしれません。

システムの処置: オペレーターが応答するまで、システム初期設定は停止します。

オペレーターの応答: サーバーを待ち続けるならば、R と応答し、サーバーおよび BSM なしで続行させるならば、C と応答してください。

注: 正常に初期設定されたセキュリティー・マネージャーなしで初期設定を続行させると、それ以降にエラーが発生する可能性があります。失敗したセキュリティーで問題の解決が不可能ならば、SYS SEC=RECOVER を指定した再 IPL が必要かもしれません。問題が修正されたら、SYS SEC=RECOVER を指定しない再 IPL を行って、リカバリー・モードを終了させる必要があります。

プログラマーの応答: なし。

BST009I PARTITION STATUS (r15 / r1)

説明: セキュリティー初期設定ルーチン BSSINIT が、セキュリティー・サーバー用に指定された区画の状況を検査しました。内部サービス GETFLD FIELD=PSTAT から、レジスター 15 (r15) またはレジスター 1 (r1) 内に、予期しない状況が戻されました。その区画が割り振られていなかったものと思われれます。

システムの処置: システムはメッセージ BST010I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 指定された区画が割り振られていることを確認してください。問題が解決されない場合は、システム・エラーがあると思われます。既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

BST010I SERVER PARTITION *fn* CANNOT BE STARTED

説明: 区画 *fn* が、サーバー区画として指定されました。重大エラーのために、この区画を開始することができませんでした (前のメッセージを参照してください)。

システムの処置: システムはメッセージ BSS313D を出します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: SYS SERVPART= で指定された区画が正しいことを確認してください。

BST011I BSM INSTALLATION EXIT *name* IS ACTIVE

説明: カスタマーによって、基本セキュリティー・マネージャー (BSM) のインストール・システム出口が指定されています。フェーズの名前は *name* です。BSM はこのフェーズをロード済みで、以降の要求のために使用します。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: SYS SERVPART= で指定された区画が正しいことを確認してください。

BST012E CANNOT CDLOAD PHASE CLSVXPCC IN MODULE CLSBXPCC

説明: このメッセージは、CDLOAD がモジュール CLSBXPCC で失敗したときに出されます。多くの場合、区画 GETVIS が不十分であることが原因と考えられます。

システムの処置: 処理は終了します。

オペレーターの応答: GETVIS 問題を訂正してください。

プログラマーの応答: システム管理者に報告してください。

BST100E *abend-code* ABEND DURING *request* {PROCESSING | PARAMETER VALIDATION}

説明: 示された要求の基本セキュリティー・マネージャー (BSM) 処理中に、障害が発生しました。

システムの処置: BSM の処理は終了します。

オペレーターの応答: このメッセージの正確なテキストをシステム・プログラマーまたはセキュリティー管理者 (あるいはその両方) に報告してください。

プログラマーの応答: 異常終了の原因を判別してみてください。メッセージおよびコードに記載されている異常終了の説明に、補足情報があります。RACROUTE 要求の発行元がユーザー・ルーチン (インストール・システム出口など) の場合、パラメーター・リストを訂正してください。発行元が IBM ルーチンの場合、異常終了の問題を IBM に報告してください。

BST120I {USER(*userid*) [GROUP(*group-name*)] [NAME(*user-name*)] | JOB(*jobname*)] [RESOURCE(*resource-name*)] [CL(*class-name*)] [VOL(*volume-serial-number*)] [FROM *profile-name*][G)] [ACCESS INTENT(*intent*)] [ACCESS ALLOWED(*allowed*)]

説明: このメッセージは、基本セキュリティー・マネージャー (BSM) が無許可のユーザー要求 (違反) を検出したときに出されます。

メッセージ **BST120I** に関する注:

メッセージ **BST120I** の最初の行は、許可に問題があるユーザーを識別します。アクセス権限がアクセス・リストのグループ項目から取得される場合は、最初の行にはグループ名も示されています。

メッセージが、ユーザー、グループ、および名前ではなく、ジョブを示している場合、BSM がユーザー名情報を含むユーザー制御ブロック (ACEE) を見つけられなかったことを示しています。これは、ジョブにユーザー ID が割り当てられていないと発生することがあります。

メッセージの他の行は、このユーザーが出そうとしていた要求の内容と失敗の理由を示します。

以下を例にすると、

```
BST120I USER(HUGO ) GROUP(GROUP01 ) NAME(HUGO SMITH )
BST120I HHXY CL(TCICSTRN)
BST120I INSUFFICIENT ACCESS AUTHORITY
BST120I FROM HHXY
BST120I ACCESS INTENT(READ ) ACCESS ALLOWED(NONE )
```

このメッセージは次のように解釈できます。

ユーザー ID が HUGO であり、グループ GROUP01 のメンバーであるユーザー、Hugo Smith がリソース HHXY に対して持っているアクセス権限が不十分です。このリソースはクラス TCICSTRN に属します。このリソースを保護する BSM プロファイルは HHXY であり、それは総称プロファイルではありません。HUGO は READ アクセスを試行しました。グループ GROUP01 は、アクセス権限 NONE を持つリソース HHXY のアクセス・リストで定義されていたため、BSM が許可するアクセスは NONE でした。

システムの処置: メッセージに INSUFFICIENT ACCESS AUTHORITY という句が表示された場合、BSM は要求を実行できません。RESOURCE NOT PROTECTED という句の場合、BSM は要求の実行を許可しますが、この要求を出したりリソース・マネージャーは異なる決定を行うかもしれません。

オペレーターの応答: メッセージの 2 行目と 3 行目を調べてください。これらの行に要求の内容と失敗の理由が示されます。例えば、3 行目は INSUFFICIENT ACCESS

AUTHORITY と表示されたりします。メッセージ BST120I のテキストおよび説明をすべて調べてください。インストールのために確立したセキュリティーの手順に従ってください。そのような手順が確立されていない場合は、このメッセージの完全なテキストをセキュリティー管理者に報告してください。

プログラマーの応答: なし。

BST120I INSUFFICIENT ACCESS AUTHORITY

説明: このエラーは、BSM が BSM 保護リソースへの無許可のアクセスを検出したときに発生します。

システムの処置: BSM は、要求されたアクセスを否定します。

BST120I RESOURCE NOT PROTECTED

説明: このエラーは、BSM がリソースへの無許可のアクセスを検出したが、そのリソースが保護されていない場合に発生します。

システムの処置: BSM は、要求されたアクセスを許可します。

BST130E XPCC IDENTIFY FAILED WITH RC = rc

説明: アプリケーションは、FB で実行されているセキュリティー・サーバーに対して自分自身を識別することができませんでした。基本セキュリティー・マネージャーが XPCC IDENTIFY を出しましたが、これが失敗し、内部戻りコード rc が戻されました。

戻される可能性のある戻りコードについては、以下のリストを参照してください。

RC	解説
0	OK
2	応答が必要
3	タイムアウトになった
4	パートナーがデータを除去した
5	パートナーがデータをクリアした
6	接続が解放される
7	メインタスクが終了した
8	無効なタスク
9	無効な入力アドレス
10	無効な入力長
11	無効な XPCC 制御ブロック
12	無効な要求順序

システムの処置: 基本セキュリティー・マネージャーへの示された要求は失敗しました。要求の処理は終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答:

1. システムの負荷を検査してください。CPU を消費するプログラムを終了させるか、またはサーバー区画の優先順位を大きくしてください。
2. メッセージ BST131E が再び出されたら、IPL を実行してください。

BST131E XPCC CONNECT TO SERVER FAILED WITH RC = rc

説明: アプリケーションは、FB で実行されているセキュリティー・サーバーに XPCC を介して接続することができませんでした。基本セキュリティー・マネージャーがサーバー区画に XPCC CONNECT を出しましたが、これが内部戻りコード rc で失敗しました。

返される可能性のある戻りコードについては、メッセージ『BST130E』を参照してください。

システムの処置: 基本セキュリティー・マネージャーへの示された要求は失敗しました。要求の処理は終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答:

1. システムの負荷を検査してください。CPU を消費するプログラムを終了させるか、またはサーバー区画の優先順位を大きくしてください。
2. メッセージ BST131E が再び出されたら、IPL を実行してください。

BST132E XPCC SEND TO SERVER FAILED WITH RC = rc

説明: アプリケーションは、FB で実行されているセキュリティー・サーバーに XPCC を介してデータを送信することができませんでした。基本セキュリティー・マネージャーがサーバー区画に XPCC SENDR を出しましたが、これが内部戻りコード rc で失敗しました。

返される可能性のある戻りコードについては、メッセージ 573 ページの『BST130E』を参照してください。

システムの処置: 基本セキュリティー・マネージャーへの示された要求は失敗しました。要求の処理は終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答:

1. システムの負荷を検査してください。CPU を消費するプログラムを終了させるか、またはサーバー区画の優先順位を大きくしてください。
2. メッセージ BST131E が再び出されたら、IPL を実行してください。

BST190I *** Basic Security Manager STARTED ***** Request=request**

説明: これは、基本セキュリティー・マネージャー (BSM) からのトレース情報です。RACROUTE 要求 request を処理するために BSM が開始されたことが示されます。RACROUTE 要求について詳しくは、「OS/390 Security Server 外部セキュリティー・インターフェース (RACROUTE) マクロ解説書」(GC88-6547) を参照してください。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST191I *** Basic Security Manager ENDED ***** Return Codes = SAF RC / RACF (BSM) RC / reason code**

説明: これは、基本セキュリティー・マネージャー (BSM) からのトレース情報です。BSM からの処理済み RACROUTE 要求の戻りコードが示されます。このメッセージは、先行するメッセージ BST190I に関係します。RACROUTE 要求について詳しくは、「OS/390 Security Server 外部セキュリティー・インターフェース (RACROUTE) マクロ解説書」(GC88-6547) を参照してください。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST201E COULD NOT CREATE STACK. EXITING.

説明: 選択されたサーバー区画で実行されているセキュリティー・サーバーで内部エラーが発生しました。スタック・ストレージを割り振ることができませんでした。

システムの処置: サーバーのスタートアップは終了します。

オペレーターの応答: GETVIS の中の選択されたサーバー区画を検査してください。

プログラマーの応答: なし。

BST202E XPCC IDENTIFY FAILED. EXITING.

説明: 選択されたサーバー区画で実行されているセキュリティー・サーバーで内部エラーが発生しました。サーバーは、XPCC サービス IDENTIFY を使って、他のアプリケーションに対して自分自身を識別することができませんでした。

システムの処置: サーバーは終了します。

オペレーターの応答: この機能不良に関する情報を保管しておいてください。IBM にお問い合わせください。

プログラマーの応答: なし。

BST203E XPCC CONNECT FAILED. RC =..

説明: 選択されたサーバー区画で実行されているセキュリティー・サーバーで内部エラーが発生しました。XPCC 接続 ECB が通知されましたが、要求を完了することは不可能でした。RC は XPCC の戻りコードを示します。

返される可能性のある戻りコードについては、メッセージ 573 ページの『BST130E』を参照してください。

システムの処置: サーバーは終了します。

オペレーターの応答: XPCC の戻りコードを検査してください。

プログラマーの応答: なし。

BST204E XPCC CONNECT TO CLIENT(S) FAILED. EXITING.

説明: 選択されたサーバー区画で実行されているセキュリティー・サーバーで内部エラーが発生しました。サーバーは、XPCC サービス CONNECT ANY を使って、他のアプリケーションに接続することができませんでした。

システムの処置: サーバーは終了します。

オペレーターの応答: この機能不良に関する情報を保管しておいてください。IBM にお問い合わせください。

プログラマーの応答: なし。

BST205E XPCC REPLY FAILED. PARTNER BUFFER TOO SMALL. CONT...

説明: 選択されたサーバー区画で実行されているセキュリティー・サーバーでエラーが発生しました。アプリケーションが STS にセキュリティー要求を送りましたが、用意されている応答バッファが小さすぎました。

システムの処置: 関連の要求は完了しません。処理を続行します。

オペレーターの応答: この機能不良に関するコンソール情報を保管しておいてください。IBM にお問い合わせください。

プログラマーの応答: なし。

BST206E XPCC REPLY FAILED. CONTINUING.

説明: 選択されたサーバー区画で実行されているセキュリティー・サーバーでエラーが発生しました。 サービス XPCC SENDR が失敗しました。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: この機能不良に関するコンソール情報を保管しておいてください。 IBM お問い合わせください。

プログラマーの応答: なし。

BST207E XPCC RECEIVE FAILED. BUFFER TOO SMALL. CONTINUING.

説明: 選択されたサーバー区画で実行されているセキュリティー・サーバーでエラーが発生しました。 サーバーで提供されている受信バッファが小さすぎるので、サービス XPCC RECEIVE が失敗しました。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: この機能不良に関するコンソール情報を保管しておいてください。 IBM お問い合わせください。

プログラマーの応答: なし。

BST208E ERROR IN ROUTINE XPCCCHECK. RC =..

.....

説明: 選択されたサーバー区画で実行されているセキュリティー・サーバーでエラーが発生しました。 サービス XPCCCheck が戻りコード rc で失敗しました。これは、XPCC の戻りコードです。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: この機能不良に関する情報を保管しておいてください。 IBM お問い合わせください。

プログラマーの応答: なし。

BST209I UNKNOWN REQUEST IGNORED.

説明: 選択されたサーバー区画で実行されているセキュリティー・サーバーでエラーが発生しました。 サーバーに無効な要求が出されました。

システムの処置: 要求は無視されます。 システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST210E THE DB SUBTASK HAS TERMINATED UNEXPECTEDLY.

説明: 選択されたサーバー区画で実行されているセキュリティー・サーバーで内部エラーが発生しました。 データベース関連のセキュリティー要求を処理する DB サブタスクが予期に反して終了しました。

オペレーターの応答: DB サブタスクと一緒にサーバー自身も停止していなければ、STOP コマンドを使ってサーバーを停止させてください。

その後、サーバーを再始動してください。 サーバーを再始動するための 3 つの方法を以下の表に示します。

SECSERV プロシージャにまだ制御権がある場合は、次のメッセージがコンソールに示されます。

```
// PAUSE TO RESTART THE SECURITY SERVER
ENTER '// EXEC PROC=RESTASEC
```

次のコマンドを使用して、

```
// EXEC PROC=RESTASEC
```

サーバーを再始動してください。

SECSERV プロシージャが実行中でない場合は、システムが IPL された方法に応じて、次の 2 つの方法でサーバーを再始動することができます。

- システムが SEC=NO で IPL されていた場合には、次のコマンドでサーバーを再始動してください。

```
// EXEC PROC=$BJCL
```

- システムが SEC=YES が IPL されていた場合には、システムを再 IPL しなければなりません。

	SECSERV プロシージャに制御権がある (メッセージ // PAUSE TO RESTART THE SECURITY SERVER... が出される)	SECSERV プロシージャが実行中でない (メッセージは出されない)
システムが SEC=NO で IPL された場合	以下を使用してジョブを再始動する // EXEC PROC=RESTASEC	以下を使用してジョブを再始動する // EXEC PROC=\$BJCL
システムが SEC=YES で IPL された場合	以下を使用してジョブを再始動する // EXEC PROC=RESTASEC	システムを再 IPL してください。

プログラマーの応答: なし。

BST211I RESET COMMAND ACCEPTED.

説明: RESET コマンドがコンソールから入力され、受け入れられました。

システムの処置: サーバーは初期状態にリセットされます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST212I STOP COMMAND ACCEPTED.

説明: STOP コマンドがコンソールから入力され、受け入れられました。

システムの処置: サーバーは終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST213I LOGTIME SET TO MINUTES.

説明: ログ時間が変更されました。
 システムの処置: サーバーは指定された時間内に内部キャッシュを更新します。 II 制御ファイルの UXLOGENTRY レコードに、セキュリティ・サーバーによって変更 (または追加) されたレコードへのキーのリストが入っています。 II 制御ファイルはシステム間で共用できるので、UXLOGENTRY レコードを使って、各サーバーで使用可能な II ファイルに変更を加えることができます。次に、ログ・リストの項目を使って、更新された II レコードを取り出し、それをサーバーのキャッシュに書き込みます。デフォルトの時間間隔は 5 分です。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

BST218W INVALID COMMAND ENTERED.

説明: 無効な STS コマンドがコンソールから入力されました。
 システムの処置: コマンドは無視されます。システムは処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

BST219E SERVER MAINTASK TERMINATED UNEXPECTEDLY.

説明: STS サーバー・メインタスクが予期に反して終了しました。
 システムの処置: STS サーバーは終了しました。
 オペレーターの応答: サーバーを再始動してください。再始動の可能性については、メッセージ 575 ページの『BST210E』を参照してください。
 プログラマーの応答: なし。

BST220I POSSIBLE VALUES FOR LOGTIME ARE 1...9 MINUTES

説明: このメッセージは、LOGTIME 時間間隔を無効な値に設定しようとしたときに STS によって出されます。
 システムの処置: LOGTIME はデフォルト値の 5 分に設定されます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

BST221I POSSIBLE SECURITY SERVER COMMANDS ARE:

説明: このメッセージは、無効なコマンドが入力されたときか、またはユーザーが HELP コマンドを出すことにより構文ヘルプを要求したときに出力されます。HELP コマンドは以下のいずれかの方法で使用することができます (xx は、選択されたサーバー区画を示します)。

MSG xx,DATA=?

MSG xx,DATA=HELP

MSG xx,DATA=

システムの処置: このメッセージの後に、使用できるサーバー・コマンドのリストを示す行が続きます。

オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

BST223I CURRENT STATUS OF THE SECURITY TRANSACTION SERVER:

説明: このメッセージは、ユーザーが STATUS コマンドを入力したときに出力されます。'HELP' または '?' と入力すると、STATUS コマンドの入力方法に関する情報が得られます。
 システムの処置: このメッセージの後に、サーバーの内部状態に関する情報を示す行が続きます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

BST224I GOT RESET REQUEST VIA XPCC. RESETTING SERVER.

説明: このメッセージは、サーバーが別のアプリケーションから XPCC を介して RESET 要求を受けたときに出力されます。このメッセージは、この事実をシステム・コンソールに表示することだけを目的としています。
 システムの処置: サーバーは RESET 要求を実行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

BST225W GOT STOP REQUEST VIA XPCC. STOPPING SERVER.

説明: このメッセージは、サーバーが別のアプリケーションから XPCC を介して STOP 要求を受けたときに出力されます。このメッセージは、この事実をシステム・コンソールに表示することだけを目的としています。
 システムの処置: サーバーは STOP 要求を実行します。すなわち、サーバーは停止します。
 オペレーターの応答: サーバーを再始動してください。再始動の可能性については、メッセージ 575 ページの『BST210E』を参照してください。
 プログラマーの応答: なし。

BST226W DO YOU REALLY WANT TO STOP THE SECURITY SERVER? (Y/N)

説明: このメッセージは、サーバーがコンソールから STOP 要求を受けたときに出力されます。サーバーを停止させるには、「Y」と応答してください。処理を再開するには、それ以外の任意の指定をしてください。
 システムの処置: 「Y」と応答すると、サーバーは終了します。それ以外の場合には、システムは処理を続行します。
 オペレーターの応答: 停止させるには「Y」と応答し、続行させるには、それ以外を入力してください。
 プログラマーの応答: なし。

BST227I II CONTROL FILE OPENED SUCCESSFULLY.

説明: セキュリティ・サーバー・コマンド OPENCNTL によって、II 制御ファイルを正常にオープンすることができました。
 システム・プログラマーの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST228I II CONTROL FILE ALREADY OPEN.

説明: ファイルがすでにオープンしているので、セキュリティ・サーバー・コマンド OPENCNTL による II 制御ファイルのオープンの試みは失敗しました。

システム・プログラマーの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**BST229W THE SECURITY SERVER HAS
ALLOCATED nnnn REQUEST BLOCKS.**

説明: これは、セキュリティ・サーバーによって出される警告メッセージです。サーバーは、セキュリティ要求を保持するために nnnn 個のストレージ・ブロックを割り振りました。この値は、一定の限界を超えています。

このメッセージは、セキュリティ・サーバーに関連した問題の可能性をシステム・プログラマーに通知することを目的としています。問題は、次の場合に起きることがあります。

- サーバーに達したすべての要求を即時に処理できない場合。
- 要求側のクライアントに応答を送り返せない場合 (クライアントが切斷しない限り、サーバーは要求を保持します)。この場合、サーバーは、新しい要求ごとに新しいストレージを割り振らなければなりません。

サーバーは、処理済み要求のストレージを再利用します。したがって、割り振り済みストレージをサーバーが再利用できるならば、割り振られた要求ブロックの数は増えません。

システム・プログラマーの応答: セキュリティ・サーバーの STATUS コマンドを入力して、サーバーの現在の状態に関する情報を取得してください。例えば、1 つの要求ブロックのサイズに関する情報を取得すると、割り振り済みストレージ全体を計算することができます。

サーバーで現在割り振られているストレージが大きすぎると思われる場合、システムの負荷を減らしてください。

サーバー RESET コマンドを使用して、空き (再使用可能) ストレージ・ブロックの数を減らすことができます。空き要求ブロックの数を知らするためには、STATUS コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

**BST231I SERVER ACCEPTED CANCEL. CLEANING
UP AND EXITING.**

説明: セキュリティ・サーバー区画が取り消されました。サーバーは何らかの終結処理を行い、処理を終了させます。

システム・プログラマーの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST233I CONTROL FILE CLOSED SUCCESSFULLY.

説明: このメッセージは、コマンド CLOSECNTL に対する応答として発行されます。VSE.CONTROL.FILE は正常にクローズされました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST234I SERVER FREED nnnn REQUEST BLOCKS

説明: サーバーは RESET コマンドを実行しました。セキュリティ要求用の割り振り済みストレージ・ブロックの数が減らされました。これは、最初に割り振られたブロックの数と、現在割り振られているブロックの数の間でブロック数のバランスを取るために行われます。

割り振られたストレージ・ブロックの新しい数を表示するには、STATUS コマンドを使用してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST235I CONTROL FILE ALREADY CLOSED.

説明: このメッセージは、コマンド CLOSECNTL に対する応答として発行されます。VSE.CONTROL.FILE はすでにクローズされました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**BST236I CONTROL FILE COULD NOT BE
CLOSED.**

説明: このメッセージは、コマンド CLOSECNTL に対する応答として発行されます。VSE.CONTROL.FILE をクローズできませんでした。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**BST299I INTERNAL ERROR IN BSTPSTSM:
INVALID MESSAGE ID GIVEN.**

説明: アプリケーションが、モジュール BSTPSTSM から、メッセージ番号が不明のメッセージを出そうとしました。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**BST300E THE II CONTROL FILE COULD NOT BE
OPENED.**

説明: サーバー・スタートアップ時に II 制御ファイルをオープンできませんでした。

システムの処置: システムは処理を続行しますが、これ以降のデータベース要求に失敗する可能性があります。

オペレーターの応答: OPENCNTL コマンドを使って、ファイルをオープンすることができます。

プログラマーの応答: なし。

BST302E VSAM GET FAILED.

説明: 要求された VSAM レコードを II 制御ファイルから取り出すことができませんでした。レコード・ファイルはおそらく存在していますが、VSAM GET が失敗しました。
 システムの処置: システムは処理を続行します。
 オペレーターの応答: II 制御ファイルが正しいかを確認してください。
 プログラマーの応答: なし。

BST303E VSAM PUT FAILED.

説明: 要求された VSAM レコードを II 制御ファイルに書き込むことができませんでした。レコード・ファイルはおそらく存在していますが、VSAM PUT が失敗しました。
 システムの処置: システムは処理を続行します。
 オペレーターの応答: II 制御ファイルが正しいかを確認してください。
 プログラマーの応答: なし。

BST304E VSAM UPDATE FAILED.

説明: II 制御ファイル内の関連の VSAM レコードを更新することができませんでした。レコード・ファイルはおそらく存在していますが、VSAM UPDATE が失敗しました。
 システムの処置: システムは処理を続行します。
 オペレーターの応答: II 制御ファイルが正しいかを確認してください。
 プログラマーの応答: なし。

BST305E CACHE PUT FAILURE. RC =..

説明: 内部サービス CACHEput が rc=xxxx で失敗しました。
 システムの処置: システムは処理を続行します。
 オペレーターの応答: この機能不良に関する情報を保管しておいてください。問題が解決しない場合は、弊社に連絡してください。
 プログラマーの応答: なし。

BST306I REQUEST IGNORED. II CONTROL FILE NOT OPEN.

説明: II 制御ファイルがオープンされていないので、関連のデータベース・サービス要求は無視されました。
 システムの処置: システムは処理を続行します。
 オペレーターの応答: OPENCNTL コマンドを使って、ファイルをオープンすることができます。
 プログラマーの応答: なし。

BST308E CACHE INITIALIZATION FAILURE. RC=xxxx

説明: 内部サービス CACHEinit が戻りコード xxxx で失敗しました。
 RC = 38: このエラーは、十分な DSPACE ストレージがないときに発生することがあります。DSPACE サイズは、QUERY DSPACE で調べることができます。このサイズは SYSDEF DSPACE... で変更できます。

システムの処置: システムは処理を続行します。
 オペレーターの応答: RC = 38 の場合、DSPACE 定義を訂正してください。問題が解決しない場合、障害についての情報を記録し、IBM に連絡してください。
 プログラマーの応答: なし。

BST309I DATABASE CACHING ENDED.

説明: データベース・キャッシングを停止させる要求が受信されて、受け入れられました。
 システムの処置: データベース・キャッシングは停止します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

BST310I DATABASE CACHING STARTED.

説明: データベース・キャッシングを開始させる要求が受信されて、受け入れられました。
 システムの処置: データベース・キャッシングが開始されます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

BST311I OPEN FOR BSM CONTROL FILE FAILED, INVALID FILE.

説明: サーバーのスタートアップ時に、BSM ファイルがオープンされ、無効内容が追加されました。GET は、制御レコードを見つけることができませんでした。誤ったファイルがオープンされたか、ファイルが初期設定されていません。
 システムの処置: サーバーのスタートアップは終了します。
 オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。
 プログラマーの応答: 正しいファイルが BSTCNTL に割り当てられていることを確認してください。新たに割り振られた BSM 制御ファイルを使用する場合は、この制御ファイルがプログラム BSTVINIT で初期設定されていることを確認してください。BSM 制御ファイルを初期設定するには、リカバリー・モードでシステムを IPL してください (SYS SEC=RECOVER)。

BST312I INTERNAL ERROR. function FAILED WITH RC = rc, rs

説明: セキュリティー・サーバーの処理時に、内部で呼び出された機能が、戻りコード rc で失敗しました。rs は理由コードを示します (失敗した機能から理由コードが戻される場合)。
 システムの処置: リカバリーが可能な場合は、以下の応答メッセージが出されます。不可能な場合は、サーバーは終了します。
 オペレーターの応答: 追加の BST メッセージを調べて、システム・プログラマーに連絡してください。
 プログラマーの応答: BST メッセージの未解決の応答を調べて、これらのメッセージのメッセージ記述を確認してください。通常、失敗する機能は VSE システム・マクロです。失敗の理由の詳細については、「z/VSE System Macros Reference」を参照してください。失敗した機能がシステム・マクロではないときは、予期しない内部エラーが発生しました。この場合、

IBM サポートに連絡して、このメッセージを報告してください。

**BST313W DSPSERV FAILED WITH R15=08,
R0=X'xx0005xx', RETRY? (Y/N)**

説明: 定義済みのインストール基準が原因で、セキュリティー・サーバーのスタートアップ時に、要求 DSPSERV CREATE がデータ・スペースを作成できませんでした。マクロ DSPSERV CREATE に関する詳細は、*z/VSE System Macros Reference*を参照してください。

システムの処置: サーバーのスタートアップは応答を待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: インストールの基準は、SYSDEF DSPSPACE... で定義され、QUERY DSPSPACE を使えば照会することができます (「*z/VSE System Control Statements*」を参照)。

DSPACE 値を変更した後は、Y と応答して再試行してください。変更していない場合は、N を入力して、セキュリティー・サーバーのスタートアップを終了してください。

BSM では、要求サイズのデータ・スペースを 2 つ使用します。新規の DSPACE 値を指定する場合、このことを念頭に入れておく必要があります。要求されたデータ・スペース・サイズは、このメッセージの前の BST318I に示されています。

この要求データ・スペースのサイズにはシステムにある他のデータ・スペースのサイズが含まれません。すべてのデータ・スペースに対応する十分な大きさの DSPACE 値を指定する必要があります。

BST314I CURRENT DATA SPACE SIZE IS n K

説明: このメッセージは、BSM 制御ファイル情報の現在のデータ・スペースのサイズを示しています。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**BST315W DATA SPACE TOO SMALL FOR BSM.
ENTER NEW SIZE IN KILOBYTES.**

説明: セキュリティー・サーバーのスタートアップ時に、システムは、定義されたデータ・スペースが少なすぎて、BSM 制御ファイルからすべての情報を取得できないことを検出しました。

システムの処置: サーバーのスタートアップは応答を待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: データ・スペース用に、より大きなサイズを新たにキロバイト単位で入力してください。現在のデータ・スペースのサイズを取得するには、このメッセージの前のメッセージ BST314I を調べてください。

**BST316W WRONG SIZE VALUE, REENTER.
(nnnnnnn)**

説明: メッセージ BST315W の応答として指定した新しいサイズが無効です。値にゼロまたは非数値文字が含まれています。システムの処置: サーバーのスタートアップは応答を待ちます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: 新しいサイズ値に、7 桁までの数字を入力してください。

BST317I RACLIST FAILED, reason.

説明: データ・スペースの内容を最新表示するために、RACROUTE LIST 要求が出されました。最新表示が失敗しました。BSM 制御ファイルに対する変更は無効です。以下の理由が考えられます。

- NO BSM DATA SPACE - データ・スペースがありません。
- BSM DATA SPACE SIZE TOO SMALL - データ・スペースが小さすぎて、最新表示するデータを保持できません。
- BSM DATA SPACE ALREADY LOCKED - データ・スペースが別のタスクによってロックされているため、この最新表示処理のためにロックできません。

システムの処置: BSM は要求を失敗します。この要求を出しているリソース・マネージャーが、続行方法を決定します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: データ・スペースのサイズが小さすぎる場合は、BSTADMIN コマンド PERFORM DATASPACE SIZE を使用して、次の IPL で活動状態になる新しいデータ・スペースのサイズを定義します。現行のデータ・スペース値は、BSTADMIN コマンド STATUS でリスト可能です。また、メッセージ BST315W の応答である次の IPL 中に、新たにデータ・スペースのサイズを指定することもできます。

DATA SPACE ALREADY LOCKED が問題になっていた場合は、最新表示の並行処理を開始していないこと、最新表示が異常終了していないことを確認してください。また、IPL はロックをクリアします。

BST318I REQUESTED DATA SPACE SIZE IS n K

説明: このメッセージは、BSM 制御ファイル情報に対する新規のデータ・スペースの要求サイズを示しています。OK が表示された場合、システム・デフォルト・サイズが使用されます。コマンド QUERY DSPSPACE を使用すれば、デフォルト・サイズを表示できます。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**BST319I BSM CONTROL FILE CLOSED
SUCCESSFULLY.**

説明: BSM 制御ファイルを閉じる要求が受信されて、受け入れられました。

システムの処置: BSM 制御ファイルはクローズされます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST320I BSM CONTROL FILE ALREADY CLOSED.

説明: BSM 制御ファイルを閉じる要求が受信されましたが、ファイルがオープンしていなかったため無視されました。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST321I BSM CONTROL FILE OPENED SUCCESSFULLY.

説明: BSM 制御ファイルをオープンする要求が受信されて、受け入れられました。

システムの処置: BSM 制御ファイルがオープンされます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST322I BSM CONTROL FILE ALREADY OPENED.

説明: BSM 制御ファイルをオープンする要求が受信されましたが、ファイルがすでにオープンしていたため無視されました。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST323I DATABASE CACHE NOT AVAILABLE, REQUEST IGNORED.

説明: データベース・キャッシングを開始または停止させる要求を受信しました。使用可能なデータベース・キャッシュがありません。この要求は無視されました。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST324I UNKNOWN RESOURCE CLASS IN BSTCNTL. CLASS NUMBER cn

説明: BSM 制御ファイルには、z/VSE システムのクラス・テーブルにはないリソース・クラスが記載されています。これは、BSM 制御ファイルが z/VSE システムより新しいレベルにある場合に起こる可能性があります。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: z/VSE システムのレベルと BSM 制御ファイルのレベルが同じであることを確認してください。

BST700I BSTSAVER CALLED, BUT PARM=MEMBER-SPECIFICATION MISSING

説明: BSTSAVER が呼び出されましたが、PARM が指定されなかったか、メンバー指定をせずに指定されました。メンバー指定は、BSTSAVER ルーチンに生成された BSTADMIN コマンドを保管する場所を指示するために必要になります。

システムの処置: BSTSAVER は終了します。

オペレーターの応答: EXEC

BSTSAVER,PARM=library.sublibrary.member-name.member-type の形式で PARM=member を指定した上で、BSTSAVER を再度呼び出してください。

プログラマーの応答: なし。

BST701I INVALID PARAMETER parameter RC = rc

説明: PARM=parameter で設定されたメンバー指定が無効です。戻りコード rc によって、以下のように詳細が示されます。

1. ライブラリー名がないか、長すぎる。
2. サブライブラリー名がないか、長すぎる。
3. メンバー名がないか、長すぎる。
4. メンバー・タイプがないか、長すぎる。

システムの処置: BSTSAVER は終了します。

オペレーターの応答: EXEC

BSTSAVER,PARM=library.sublibrary.member-name.member-type の形式で PARM=member を指定した上で、BSTSAVER を再度呼び出してください。

プログラマーの応答: なし。

BST702I OPEN FOR BSM CONTROL FILE FAILED, INVALID FILE.

説明: ファイル BSTCNTL が、有効な BSM 制御ファイルになっていません。

システムの処置: BSTSAVER は終了します。

オペレーターの応答: BSTCNTL の DLBL 定義を確認してください。BSTCNTL が VSE.BSTCNTL.FILE のファイル名になるようにしてください。

プログラマーの応答: なし。

BST703I INTERNAL ERROR. function FAILED WITH RC = rc

説明: BSTSAVER の処理時に、内部で呼び出された機能が、戻りコード rc で失敗しました。

システムの処置: BSTSAVER は終了します。

オペレーターの応答: 追加の BST メッセージを調べて、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 通常、失敗する機能は VSE システム・マクロです。失敗の理由の詳細については、「システム・マクロ解説書」を参照してください。失敗した機能がシステム・マクロではないときは、予期しない内部エラーが発生しました。この場合、IBM サポートに連絡して、このメッセージを報告してください。

BST704I LEVEL MISMATCH WITH BSM CONTROL FILE. USE CURRENT BSTSAVER

説明: BSTSAVER の処理中に、BSTSAVER プログラムより新しいレベルのレコードが検出されました。

システムの処置: BSTSAVER は終了します。

オペレーターの応答: 最新バージョンの BSTSAVER を探して、それを使用するようにしてください。

プログラマーの応答: なし。

BST705I ERROR PROCESSING MEMBER member

説明: このメンバーの処理中にエラーが発生しました。
 システムの処置: BSTSAVER は終了します。
 オペレーターの応答: この後の BST メッセージを確認してください。そのメッセージにエラーの詳細が記載されています。
 プログラマーの応答: なし。

BST706I OPEN FOR NEW MEMBER FAILED. MEMBER ALREADY EXISTS

説明: BSTSAVER は、既存のメンバーの上書きは行いません。この前のメッセージ BST705I に記載されている指定のメンバーは、すでに存在しています。
 システムの処置: BSTSAVER は終了します。
 オペレーターの応答: 既に存在しているもの以外のメンバー名を指定して、再度 BSTSAVER を呼び出してください。
 プログラマーの応答: なし。

BST707I OPEN FAILED. SUBLIBRARY DOES NOT EXIST

説明: BSTSAVER は、この前のメッセージ BST705I に記載されている指定のサブライブラリーが存在しないため、新規のメンバーを作成できません。
 システムの処置: BSTSAVER は終了します。
 オペレーターの応答: 正しいサブライブラリーを指定して、再度 BSTSAVER を呼び出してください。
 プログラマーの応答: なし。

BST708I OPEN FAILED. LIBRARY DOES NOT EXIST

説明: BSTSAVER は、この前のメッセージ BST705I に記載されている指定のライブラリーが存在しないため、新規のメンバーを作成できません。
 システムの処置: BSTSAVER は終了します。
 オペレーターの応答: 正しいライブラリーを指定して、再度 BSTSAVER を呼び出してください。
 プログラマーの応答: なし。

BST709I LIBRM func FAILED WITH RC = rc REASON = rs

説明: この前のメッセージ BST705I に記載されている新規のメンバーの処理が、LIBRM 機能 *func* の使用時に障害を起こしました。
 システムの処置: BSTSAVER は終了します。
 オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。
 プログラマーの応答: 障害を起こしている機能は、VSE LIBRM マクロです。失敗の理由の詳細については、「*z/VSE System Macros Reference*」を参照してください。

BST710I ACCESS CONTROL FAILED. MEMBER NOT CREATED

説明: BSTSAVER のユーザーには、この前のメッセージ BST705I に記載されている名前で作成する権限がありません。
 システムの処置: BSTSAVER は終了します。
 オペレーターの応答: セキュリティー管理者に連絡して、適切な権限を取得するようにしてください。
 プログラマーの応答: なし。

BST711I LIBRARY FULL. NEW MEMBER DATA INCOMPLETE

説明: この前のメッセージ BST705I に示されている名前のライブラリーは満杯になりました。BSTSAVER は、新メンバーへのデータの書き込みを停止しました。
 システムの処置: BSTSAVER は終了します。
 オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。
 プログラマーの応答: ライブラリーのサイズを増やすか、十分なスペースのあるライブラリーを使用するようにしてください。

BST712I INVALID RECORD SKIPPED: key

説明: 先頭が *key* のレコードのキーが無効です。このレコードからは BSTADMIN コマンドは作成されません。
 システムの処置: BSTSAVER は続行されます。
 オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。
 プログラマーの応答: VSAM Print を使用して先頭が *key* のレコードをすべて印刷し、IBM サポートに連絡してこのメッセージのことを報告してください。

BST713I INVALID DATA SKIPPED: key

説明: 先頭が *key* というキーのレコードに無効なデータが含まれています。BSTADMIN コマンドでは、この誤ったデータは取り込まれません。
 システムの処置: BSTSAVER は続行されます。
 オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。
 プログラマーの応答: VSAM Print を使用して先頭が *key* のレコードをすべて印刷し、IBM サポートに連絡してこのメッセージのことを報告してください。

BST800I BSM CONTROL FILE SUCCESSFULLY INITIALIZED

説明: この情報メッセージは、BSM 制御ファイルが正常に初期設定されたことの確認として表示されます。
 システムの処置: システムは処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

BST801I THE FUNCTION *function* FAILED WITH RC *rc*

説明: BSM VSAM 制御ファイルを初期設定するために使用された機能が失敗しました。理由は戻りコードによって示されています。

システムの処置: プログラム BSTVINIT は、メッセージ

BST802I を出して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: この機能に関する戻りコードの意味については、VSE 資料を参照してください。

BST802I BSM CONTROL FILE INITIALIZATION TERMINATES WITH ERRORS

説明: BSTVINIT は、BSM VSAM 制御ファイルを初期設定できませんでした。詳細については、メッセージ BST801I を参照してください。

システムの処置: BSTVINIT は終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 問題を訂正し、プログラムを再実行してください。

BST901A ENTER COMMAND OR END

説明: BSM 管理ルーチンが SYSLOG から実行されます。

システムの処置: 次のコマンドまたは終了要求を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST902A CONTINUE

説明: 継続記号を伴うコマンドが、SYSLOG から入力されました。

システムの処置: 次の入力行を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST903I END OF INPUT BEFORE END OF COMMAND CONTINUATION

説明: SYSIPT 入力の場合のみ: ファイルの終わりに達したのに、最後の入力行に継続記号が指定されています。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブの受け渡しをし直してください。

BST904I RETURN CODE OF *function* IS *return-code*

説明: このメッセージは、各コマンドの実行後または構文エラーの後に outputs。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST905I INTERNAL ERROR. *function* FAILED WITH RC = *rc*, *rs*

説明: 内部で呼び出された機能が、戻りコード *rc* で失敗しました。失敗した機能で提供される場合、*rs* は理由コードを示します。

システムの処置: BSTADMIN は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 通常、失敗する機能は VSE システム・マクロです。失敗の理由の詳細については、「z/VSE System Macros Reference」を参照してください。失敗した機能がシステム・マクロではないときは、予期しない内部エラーが発生しました。この場合、IBM サポートに連絡して、このメッセージを報告してください。

BST906I THE REQUIRED BASIC SECURITY MANAGER (BSM) IS NOT ACTIVE

説明: BSTADMIN コマンドの大部分で、BSM が活動状態ではなければなりません。BSM が活動状態ではなく、指定されたコマンドは失敗しました。

システムの処置: BSTADMIN は終了します。システムがリカバリー・モードで IPL された場合 (SYS SEC=RECOVER) は、BSTADMIN によって構文エラーとして処理されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST907I INVALID INPUT PARAMETER

説明: BSTADMIN を呼び出したときに使用した入力パラメーターが無効です (例えば、PARM=...).

システムの処置: BSTADMIN は終了します。

オペレーターの応答: 正しいプログラム仕様を用いて再試行してください。

プログラマーの応答: なし。

BST908I COMMAND LOGGING FAILED. *reason*

説明: BSM は、BSTADMIN コマンドをログに記録しようとして失敗しました。*reason* に失敗原因が示されています。これには、次の理由があります。

- NOT ENOUGH STORAGE AVAILABE
- 関数が *rc* を戻した

システムの処置: コマンドは実行されます。

オペレーターの応答: システム管理者またはプログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: ストレージの問題である場合は、BSTADMIN による区画内の GETVIS ストレージが十分であることを確認してください。DMF を使用していないときに DFHEWTM 関数からエラーを受け取った場合は、無視してください。それ以外の場合は、「CICS Transaction Server カスタマイズ・ガイド」を参照してください。上記の問題でない場合は、システム・エラーであると思われます。既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。

BST910I INVALID COMMAND NAME

説明: 無効な BSTADMIN コマンドが入力されました。
 システムの処置: 構文検査を打ち切ります。
 オペレーターの応答: 正しいコマンド名を用いて再試行してください。
 プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブの受け渡しをし直してください。

BST911I INVALID SYNTAX

説明: コマンド構文のエラーです。
 システムの処置: エラーのあるコマンドを 19 バイトまで表示します。このコマンドは実行されません。
 オペレーターの応答: 正しいコマンド指定により再試行してください。
 プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブの受け渡しをし直してください。

BST912I MANDATORY OPERAND MISSING

説明: 必要なオペランドが指定されていません。
 システムの処置: コマンドは実行されません。
 オペレーターの応答: 正しいコマンド指定により再試行してください。
 プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブの受け渡しをし直してください。

BST913I THE CLASS IS NOT DEFINED TO BSM

説明: 指定されたリソース・クラスが BSM に定義されておらず、BSM によって処理できません。
 システムの処置: コマンドは実行されません。
 オペレーターの応答: 正しいリソース・クラス名を用いて再試行してください。
 プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブの受け渡しをし直してください。

**BST914I THE CLASS CANNOT BE
ADMINISTRATED WITH BSTADMIN**

説明: 指定されたリソース・クラスが BSM に定義されていますが、BSTADMIN によって管理できません (例えば、クラス USER、DATASET、VSELIB、VSESLIB、または VSEMEM)。
 システムの処置: コマンドは実行されません。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: BSTADMIN の代わりに、管理サービスに関連するクラスを使用してください。

**BST915I THE SPECIFIED DATA SPACE SIZE
EXCEEDS THE 2GB LIMIT**

説明: 指定された SIZE 値が VSE システムの制限を超えています。
 システムの処置: コマンドは実行されません。
 オペレーターの応答: 正しいサイズ指定を用いて再試行してください。
 プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブの受け渡しをし直してください。

**BST916I USERID REQUIRED, COMMAND
IGNORED**

説明: BSM オプション CMDUSERID で指定されているように、他のいずれかの BSTADMIN コマンドを実行するには、その前にユーザー ID が必要です。このコマンドは、そのためのコマンドである USERID ではありません。したがって、このコマンドは無視されます。
 システムの処置: 構文検査を打ち切ります。
 オペレーターの応答: 有効なユーザー ID およびパスワードを指定して USERID コマンドを入力してください。その後、このコマンドを再試行してください。
 プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブの受け渡しをし直してください。

**BST917I CLASS GROUP CANNOT BE
DEACTIVATED, REQUEST IGNORED**

説明: リソース・クラス GROUP は、ユーザーのグループを表します。このクラスは、永続的に使用されるため非活動化できません。したがって、この要求は無視されます。
 システムの処置: 構文検査を打ち切ります。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブの受け渡しをし直してください。

**BST918I THIS COMMAND CANNOT BE USED
FOR GROUPS**

説明: 指定された BSTADMIN コマンドを GROUP 項目の変更および表示のために使用することはできません。グループを処理するために次のコマンドが使用可能です。
 ADDGROUP、CHNGROUP、DELGROUP、および LISTG
 システムの処置: コマンドは実行されません。
 オペレーターの応答: 正しいコマンド指定により再試行してください。
 プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブの受け渡しをし直してください。

**BST920I OPEN FOR BSM CONTROL FILE FAILED,
INVALID FILE.**

説明: BSM 制御ファイルがオープンされ、無効内容が追加されました。誤ったファイルがオープンされたか、ファイルが初期設定されていません。
 システムの処置: コマンドは実行されません。
 オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。
 プログラマーの応答: 正しいファイルが BSTCNTL に割り当てられていることを確認してください。新たに割り振られた BSM 制御ファイルを使用する場合は、この制御ファイルがプログラム BSTVINIT で初期設定されていることを確認してください。BSM 制御ファイルを初期設定するには、リカバリ・モードでシステムを IPL してください (SYS SEC=RECOVER)。

BST921I COMMAND FAILED, DUPLICATE ENTRY

説明: 指定された項目が既に BSM に定義されています。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BST922I COMMAND FAILED, NO SUCH ENTRY

説明: BSM 制御ファイルに、コマンドでの指定に一致する項目がありません。

システムの処置: コマンドを終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**BST923I *id* NOT ON ACCESS LIST, DELETE
 IGNORED**

説明: 指定されたグループ ID またはユーザー ID が、このリソースのアクセス・リストで見つかりませんでした。

システムの処置: コマンドを終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**BST924I MAXIMUM ENTRY SIZE EXCEEDED,
 ENTRY NOT ALTERED**

説明: この ID をアクセス・リストに追加すると、このリソース項目のレコード長が、BSM に定義された最大長を超えます。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: このリソースのアクセス・リスト項目の数を削減してください。例えば、ユーザー ID のグループを作成して、1 つのユーザー ID を追加するのではなく、このグループをアクセス・リストに追加してください。

**BST925I WARNING, SPECIFIED SIZE IS LESS
 THAN THE LAST SIZE USED**

説明: 指定されたサイズ値が、最後に IPL を行う前に使用したデータ・スペースのサイズより小さくなっています。

システムの処置: コマンドは実行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 新しいサイズのデータ・スペースが、BSM 制御ファイルの内容と関連する索引情報を保持できることを確認してください。詳細については、STATUS コマンドを使用してください。

BST926I DATA SPACE UPDATE FAILED, *reason*

説明: 要求されたデータ・スペースの最新表示が失敗しました。BSM 制御ファイルに対する変更は無効です。以下の理由が考えられます。

- NOT ENOUGH SPACE - 現行のデータ・スペースが小さすぎて、最新表示するデータを保持できません。
- LOCKED BY ANOTHER UPDATE - データ・スペースが既に別の更新タスクによってロックされているため、この最新表示処理のためにロックできません。

- NO DATA SPACE FOUND - データ・スペースがありません。

システムの処置: コマンドを終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: データ・スペースのサイズが小さすぎる場合は、BSTADMIN コマンド PERFORM DATASPACE SIZE を使用して、次の IPL で活動状態になる新しいデータ・スペースのサイズを定義します。現行のデータ・スペース値は、BSTADMIN コマンド STATUS でリスト可能です。また、メッセージ BST315W の応答である次の IPL 中に、新たにデータ・スペースのサイズを指定することもできます。DATA SPACE ALREADY LOCKED が問題になっていた場合は、最新表示の並行処理を開始していないこと、最新表示が異常終了していないことを確認してください。また、IPL はこのロックをクリアします。

**BST927I CONNECT FAILED, GROUP *group* IS NOT
 DEFINED TO BSM**

説明: このグループは BSM に定義されていないため、このグループにユーザー ID を接続することはできません。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: コマンド ADDGROUP を使用して、グループ、*group* を BSM に定義してから、再度 CONNECT コマンドを実行してください。

**BST928I COMMAND USERID NOT APPLICABLE,
 COMMAND IGNORED**

説明: BSM オプション CMDUSERID がオフに設定されているか、バッチ・セキュリティがアクティブである (IPL 時に SYS SEC=YES が指定された) ため、USERID コマンドは適用されません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: コマンド入力を訂正してから、このジョブを再度実行してください。

**BST929I USER NOT AUTHORIZED TO ISSUE
 BSTADMIN COMMANDS**

説明: 指定されたユーザーは管理者 (タイプ 1 ユーザー) でも監査員でもありません。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: システム管理者またはプログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 権限を訂正してください。詳細については、「IBM z/VSE 管理」を参照してください。

**BST930I A USER ID WITH THIS GROUP NAME
 EXISTS**

説明: BSM では、許可が競合しないように、既存ユーザー ID の名前を持つ新規グループを定義できません。

システムの処置: BSM は ADDGROUP 要求を拒否します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 別のグループ名を使用するか、または可

能であれば当該ユーザー ID を削除してください。

**BST931I USER NOT AUTHORIZED TO ISSUE
 command**

説明: 発行されたコマンドには特殊な許可が必要です。その許可は、コマンドに応じて、管理者許可の場合もあれば監査員許可の場合もあります。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: システム管理者またはプログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 権限を訂正してください。詳細については、「IBM z/VSE 管理」を参照してください。

**BST932I USER NOT AUTHORIZED TO SPECIFY
 keyword, KEYWORD IGNORED**

説明: メッセージに示されたキーワードには特殊な許可が必要です。その許可は、キーワードに応じて、管理者許可の場合もあれば監査員許可の場合もあります。

システムの処置: このキーワードは無視され、コマンドは残りのキーワードとともに処理されます。他にキーワードがない場合、コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: システム管理者またはプログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 権限を訂正してください。詳細については、「IBM z/VSE 管理」を参照してください。

**BST933I AUTHORIZATION FAILED TO ISSUE
 BSTADMIN COMMANDS**

説明: 現行ユーザーには、BSTADMIN コマンドを発行する許可がありません。バッチ・セキュリティがアクティブになっている環境 (IPL 時に SYS SEC=YES) では、管理者 (タイプ 1 ユーザー) および監査員のみが BSTADMIN コマンドの発行を許可されます。

システムの処置: BSTADMIN は終了します。

オペレーターの応答: システム管理者またはプログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 権限を訂正してください。詳細については、「IBM z/VSE 管理」を参照してください。

**BSTL01I SMF LOGGING INITIALIZED FOR
 DTSECTAB RESOURCES**

説明: ロガー・モジュールは初期化を完了していて、DTSECTAB に定義されているリソースへのアクセスを試すために SMF ログ・レコードを作成できる状態にあります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BSTL02I DMF IS ACTIVE FOR LOGGING

説明: ロガー・モジュールは DMF が SMF レコードを収集できる状態にあることを検出しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

BSTL03E DMF IS INACTIVE FOR LOGGING

説明: ロガー・モジュールは DMF がアクティブから非アクティブに変更されていることを検出しました。SMF ログ・レコードは DMF に収集されなくなりました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: DMF メッセージを調べて、DMF が非アクティブである理由を見つけてください。計画外のイベントの場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: DMF に関する詳細が必要な場合は、「CICS Transaction Server for VSE/ESA 操作およびユーティリティーの手引き」(SD88-7176) を参照してください。

**BSTL04I LOGGING RECORDS LOST DUE TO
 DMF OR DATA SPACE PROBLEMS**

説明: DMF またはデータ・スペースの問題のため、ロガー・モジュールの SMF ログ・レコードを収集できませんでした。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題の理由については、このメッセージの前後にあるメッセージを調べてください。システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: この問題を修正するには、データ・スペース・ストレージおよび DMF 状況を調べてください。

第 17 章 VSE 拡張機能コードおよび SVC エラー

VSE 拡張機能待ちコード

このシステムは、待ち条件の理由を次のいずれかの方法で示します。

1. 現行 (待ち) PSW のアドレス部に特定のコードを設定します。この値を表示するにはハードウェアの変更/表示機能を使用してください。
2. プロセッサ・ストレージのバイト 0 から 3 に特定の待ちコードを設定します。コンソール・メッセージが表示されることもあります。
3. ストレージ・バイト 0 から 3 に PSW 待ちコードおよびエラー・コード/装置アドレスの組み合わせを設定します。SDAID 機能がこのコードの組み合わせを設定します。

ハードウェア・ウェイト条件の場合、唯一のリカバリー方法は、システムをスタートアップし直すことです。待ちコードが、システムをスタートアップし直す必要のない条件を示している場合は、推奨処置に適切な指示が示されています。

特定のハード待ち状態が再発する場合は、既知問題データベースの検索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

待ち条件が発生しているのにシステムがメッセージを表示しない場合は、まず現 PSW のアドレス部にコードが設定されているか調べてください。この領域に有効な待ちコードがない場合、プロセッサ・ストレージのバイト 0 から 3 を調べてください。このトピックには、両方のタイプの待ちコードがリストされています。

待ちコードのリストの中で、*xx* で示される値は変数であるか、またはコードの分析にとって重要ではないものかのいずれかです。コードはすべて 16 進数で表記されます。

現 PSW のアドレス部にある待ちコード

ある種のプログラムは、待ち条件の理由を示すコードを現 PSW のアドレス部 (ビット 40 から 63 すなわち右端 3 バイト) に設定します。プロセッサの変更/表示機能を用いてこれらの値を表示することができます。この機能の使用法は、プロセッサの「*Operating Procedures*」で説明されています。

注:

1. PSW のアドレス部に 00001000 がある場合、ハードウェア・ウェイト条件であることを示しています。ハードウェア・ウェイト・コードは低コア・ストレージのバイト 0 から 3 にあります。ダンプでは、このコードは SYSCOM +4 の中にあります。
2. PSW のアドレス部に 00001000 がある場合、IPL (BOOTSTRAP) 時のハードウェア・ウェイトであることを示しています。ハードウェア・ウェイト・コードは低コア・ストレージのバイト 0 からの位置にあります。
3. PSW のアドレス部に 00000FFF がある場合、Signal Quiesce 処理のためハードウェア・ウェイトであることを示しています。

独立型ダンプ・プログラムが設定するコード

独立型ダンプ・プログラムが待ち状態に入るのは、実行が正常に完了した後か、またはエラーからリカバリーできないときです。独立型ダンプ・プログラムは必ず、「正常終了」のメッセージを出します。ただし、このプログラムを開始したコンソール装置とこのプログラムを作成したコンソール装置が異なっている場合は別です。その場合は、独立型ダンプ・プログラムはメッセージを出さずに待ち状態に入ります。

SCSI ディスクに対する独立型ダンプの場合: ダンプ・プログラムはハード待ち状態に移行する前に 36 バイトのエラー情報およびデバッグ情報をプロセッサ・ストレージ・ロケーション 0 に格納します。

独立型ダンプ・プログラムが設定する値は次のとおりです。

CE 00 00

独立型ダンプ要求が正常終了した。

CE 00 01

SSCH 操作がダンプ出力装置に対して出された後、入出力エラーが発生した。

CE 00 02

ダンプ出力装置が操作可能でない。SCSI ディスクに対する独立型ダンプの場合は、これも IPL 時のエラーを示している可能性があります。その場合、独立型ダンプ・プログラムは 36 バイトのエラー関連情報をプロセッサ・ストレージ・ロケーション 0 に格納します。

CE 00 04

ダンプ出力装置でチャンネル・エラーが発生した。

CE 00 08

ダンプ出力装置で永続入出力エラーが発生した。元のエラーが再試行され、リカバリー不能と判明した。このコードが発生したときは、独立型ダンプ・プログラムは 24 バイトのセンス情報をプロセッサ・ストレージ・ロケーション 0 に保管します。

CE 00 10

エラー・リカバリー処理中に入出力エラーが発生した。これは、エラー・リカバリーが実行されているエラーとは別のエラーを示します。このコードが発生したときは、独立型ダンプ・プログラムは 24 バイトのセンス情報をプロセッサ・ストレージ・ロケーション 0 に保管します。

CE 00 20

リカバリー不能なテープ・エラー。

CE 00 40

独立型ダンプ・プログラムの処理中にコンソール入出力エラーが発生した。

CE 00 80

独立型ダンプ・ディスクのエクステンツ終了。

CE 01 00

テープ IPL 中に入出力エラーが発生した。

CE 04 00

ダンプ・プログラム (DMPROG) の IPL 中にプログラム・チェックが発生した。

CE 08 00

仮想記憶のダンプの準備中にプログラム・チェックが発生した。

CE 10 00

IJBXDM10 の仮想記憶をダンプしていたときに、プログラム・チェックが発生した。

CE 20 00

ダンプ・プログラム (DMPROG) をストレージ限界までシフトしていたときに、プログラム・チェックが発生した。

CE 40 00

VSE 制御ブロックまたは HC メッセージ症状レコード・セクション 6 (モジュール IJBXDM8 または 9) を作成していたときに、プログラム・チェックが発生した。

IPL (BOOTSTRAP) 時に設定されるコード (バイト 0 からの位置)

PSW のアドレス部に 00001000 がある場合、ハードウェア・ウェイト条件であることを示しています。この障害の表示は、低コア・ストレージのバイト 0 からの位置にあります。このハードウェア・ウェイトの原因となる可能性がある条件は次のとおりです。

C1 E2

ストレージ消去でのマシン・チェック。

07 E6 cc uu

IPL 入出力エラー。 次のコードになります。

cc uu = device number

考えられるエラーは、次のとおりです。

- **SYSRES** の入出力エラー。 別の (バックアップ) システム常駐ボリュームを使用して、システムをスタートアップしてください。
重要: ディスク・スワップ・メソッドを使用して、欠陥のあるボリュームまたはドライブがあるかどうかを調べる場合、ヘッド・クラッシュが発生しなかったことを確認してください。ヘッド・クラッシュが原因の損傷は、別のドライブまたは別のボリュームに伝搬する可能性があります。
- 独立型テープの入出力エラー。 テープが読み取り可能でないか、テープに誤りのデータがあります。別の磁気テープ・ドライブまたは別の独立型テープを使用して、システム・スタートアップしてください。
- システム・コンソールの入出力エラー。 操作可能なコンソールのキーボードの ENTER を押すか、別のコンソールをシステム・コンソール (例えば、統合コンソール) として使用して、再 IPL してください。
- 通信装置の入出力エラー。 ユーザーが対話式 IPL を使用していて、システムが通常 IPL 待ちポイントに達した後にこのコードを表示した場合は、IPL 手順に従ってください。
- 示された装置のハング条件または使用中条件が存在する。 再試行後もこのエラーが発生する場合は、IPL コマンドからこの装置を DELETE するか、またはこの装置をオフラインにしてください。
- IOCDs の定義が誤っている可能性がある。 入出力構成の定義を注意深く検査してください。

07 E6 C3 E2

コンソール・ルーター・エラー 'CS'。

VSE 拡張機能待ちコード

- 最初に、別のコンソールをシステム・コンソールとして使用して、IPL を再試行してください。エラーが再発すれば、それはシステム・エラーです。IBM に連絡してください。

07 E6 C9 C3

統合コンソール・エラー 'IC'。

- これはハードウェアの誤動作によるものと思われます。IPL を再試行してください。エラーが再発すれば、別のコンソールをシステム・コンソールとして使用して、IPL を再試行してください。

cc 00 0F D0

IPL 時のエラー。IPL は終了しました。'cc' は、監視プログラム取り消しコードです。

F0 C9 F0 F0 C1

ストレージが小さすぎます。詳細についてはメッセージ 0I00A を参照してください。

F0 C9 F0 F1 C1

誤った SYSRES フォーマット。詳細についてはメッセージ 0I01A を参照してください。

F0 C9 F0 F6 C1

不明の SYSRES 装置タイプ。詳細についてはメッセージ 0I06A を参照してください。

F0 C9 F0 F7 C1

フェーズ \$\$A\$IPLR が見つかりません。詳細についてはメッセージ 0I07A を参照してください。

F0 C9 F1 F4 C1

サービス呼び出しからの予期しない戻り。詳細についてはメッセージ 0I14A を参照してください。

F0 C9 F6 F8 C1 F0 F2

サポートされていないハードウェア。詳細についてはメッセージ 0I68A、RC=2 を参照してください。

F0 C9 F5 F4 C1

フェーズが見つかりません。フェーズ名が付加されました。詳細は、メッセージ 0I54A を参照してください。

F0 D1 F1 F7 C1

IOCD5 に多すぎる装置が定義されています。詳細は、メッセージ 0J17A を参照してください。

F0 D1 F5 F0 C1

サポートされない SYSLOG 装置。詳細は、メッセージ 0J50A を参照してください。

システム操作時に設定されるコード

このコードは、待ち PSW のバイト 4 から 7 にも設定されます。このコードは SDAID 機能またはシステム自体から出されます。

00 EE EE

現 PSW (バイト 0、ビット 7 オフ) において外部割り込み禁止となった場合、システム・オペレーターのコンソールには永続エラーが現れる。このエラーにはシステム・オペレーターの介入が必要。

装置を作動可能にし、PSW 再始動キーを押して処理を継続してください。

外部割り込み可能の場合、SDAID は HALT オプションが指定されたイベントをトレースしていて、そのイベントが発生しました。次の 2 つのいずれかの方法で対処できます。

1. 外部割り込みキーを押すことにより、処理を続行する。処理はイベントが再発するまで続行されます。
2. ストレージ・ロケーション 00 に X'FF' を入力することにより HALT オプションを取り消し、外部割り込みキーを押します。トレースは停止せずに続行されます。

00 F0 00

ソフトウェアが電源をオフにするのをシステムが待つ。この待ちコードは電源オフの前に瞬間的にしか現れません。したがって、通常、このコードは表示できません。

EE EE EE

SDAID 出力中に「要介入」条件が発生。プロセッサ・ストレージのバイト 0 と 1 にエラー・コードの詳細があります。バイト 2 とバイト 3 には SDAID 出力装置のアドレスがあります。エラーの SDAID コードについては後続のセクションで説明します。

装置を作動可能にし、外部割り込みキーを押してトレース操作を続行してください。出力装置を作動可能にしないで外部割り込みキーを押すと、SDAID はデータ収集トレースを停止させます。次の STOPSD ステートメントで、SDAID はエラー・メッセージを出します。最終 ENDSO ステートメントは、SDAID に割り振られたすべてのリソースを解放します。

ストレージ・バイト 0 から 3 に入っているコード

待ち条件では、取り消しコード、待ちコード、または SDAID エラー/アドレス・コードのいずれかがプロセッサ・ストレージの低位 4 バイト (0 から 3) に設定されます。IPL 時にハードウェア・ウェイトが発生した場合は、バイト 0 に取り消しコードが入っていることがあります。その場合、バイト 0 から 3 には、595 ページの『VSE 拡張機能取り消しコード』で説明されている形式のデータが含まれています。他のすべてのエラーおよびバイト 0 から 3 に入っている待ちコードを以下に示します。

00 00 00 00

イベント発生時に SDAID の停止。外部割り込みキーを押して、システムの処理を続行させてください。

00 00 0C CC

リカバリー不能のコンソール表示エラーが発生 (注 1 (594 ページ) も参照)。

00 00 0F E4

システムが、フェーズ \$\$RAST14 と \$\$RAST15 の一方または両方を必要としているが、それを検出できない。これらのフェーズはライブラリーにカタログされるものです。このエラーの結果として失敗したプログラムはすべて再実行する必要があります。

00 00 0F EB

Signal Quiesce (Signal Shutdown) 処理が正常に完了しました (注 1 (594 ページ) も参照)。

00 00 0F EC

予期しないシステム・タスクの取り消し (注 1 (594 ページ) も参照)。

VSE 拡張機能待ちコード

00 00 0F ED

システム・エラー (注 1 (594 ページ) も参照)。次のいずれかです。

- 矛盾する監視プログラム制御ブロック (例えば、ストレージの低位アドレス範囲内の TCB ポインタと現行 TIB) が一致しない。
- 制御を受け取る機能 (またはルーチン) がシステム内がない (例えば、VTAM ルーチンが制御を受け取ることになっているが、VTAM が始動されておらず、実行中でない場合)。

00 00 0F F1

システムのページ・マネージャーがシステム・エラーを検出 (注 1 (594 ページ) も参照)。

00 00 0F F4

一時フェーズ \$\$Axxxxx の検出失敗 (注 1 (594 ページ) も参照)。フェーズ名が監視プログラムの制御ブロック ERBLOC に記録されます。

00 00 0F F5

TFIX カウントが最大値を超えているか、または負の値となった (注 1 (594 ページ) も参照)。

00 00 0F F6

SLD 更新中の入出力エラー。

00 00 0F F7

BTAM-ES 付加入出力要求用に使用可能なコピー・ブロックがない (注 1 (594 ページ) も参照)。

00 00 0F F8

CRT (コンソール表示装置) フェーズがカタログされていない (注 1 (594 ページ) も参照)。

00 00 0F F9

ページ入出力中にエラーが発生した (注 1 (594 ページ) も参照)。

00 00 0F FA

システムがアドレス変換指定例外を検出した (注 1 (594 ページ) も参照)。

00 00 0F FB

ID である RID が X'00' に設定されている監視プログラム・ルーチンでページ・フォルトが発生した (注 1 (594 ページ) も参照)。

00 00 0F FE

システム・ライブラリーからの取り出し中に入出力エラーが発生した (注 1 (594 ページ) も参照)。

00 00 0F FF

特権コード内でプログラム・チェックが発生した (注 1 (594 ページ) も参照)。プログラムの旧 PSW を調べて、このプログラム・チェックの原因となった命令を見つけてください。

nm Cn cc uu

このコードでは、次のとおりです。

nm = 08 から 60 の値。メッセージ ID である 0Pxxx の xx を表す。一連の 0xxxx メッセージのうちの対応するメッセージの説明を参照してください。

Cn = C1 または C4。

cc = チャンネル番号。

uu = 装置番号。

プログラムを訂正した後、割り込みキーを押して処理を継続してください。

62 C1 aa aa

(SDAID エラー・コード) 出力テープのテープの終わり条件。値 *aa aa* は SDAID 出力装置アドレスです。新しいテープを取り付け、装置を作動可能にして、外部割り込みキーを押してください。

62 C5 aa aa

(SDAID エラー・コード。取るべき処置については、590 ページの『システム操作時に設定されるコード』を参照) 要介入 (装置が作動不能)。値 *aa aa* は SDAID 出力装置アドレスです。

62 E2 aa aa

(SDAID エラー・コード) 仮想記憶のバイト 4 のエラー・リカバリー処置コードを調べてください。装置付属のハードウェア解説書の指示に従って、装置リカバリー処理を実行してください。その後、外部割り込みキーを押してください。

C1 00 nn xx

nn の説明については、注 2 (594 ページ) を参照。

リカバリー不能のマシン・チェックが発生した。IPL (または、システム・スタートアップの IPL 部分) 時に発生した場合、バイト 1 は X'E2' に設定されます。バイト 2 と 3 の内容は無関係です。システム・スタートアップを行ってください。

C2 00 AA xx

FETCH 中にリカバリー不能のチャンネル・チェックが発生した。システム・スタートアップを行ってください。

C3 00 nn xx

nn の説明については、注 2 (594 ページ) を参照。

ページング用のチャンネルでリカバリー不能のチャンネル・チェックが発生した。システム・スタートアップを行ってください。

C5 00 nn xx

nn の説明については、注 2 (594 ページ) を参照。

ECSW が保管されていない。これは、おそらくハードウェア・エラーです。システム・スタートアップを行ってください。

C7 00 nn xx

nn の説明については、注 2 (594 ページ) を参照。

チャンネル・アドレスが無効です。システム・スタートアップを行ってください。

C8 00 nn xx

nn の説明については、注 2 (594 ページ) を参照。チャンネル障害。システムが RMS メッセージを SYSLOG 装置に書き込もうとした。システム・スタートアップを行ってください。

F0 C4 F3 F8

SYSLOG 装置 (オペレーター・コンソールの表示装置) が作動不能である。装置を作動可能にしてください。

F0 C9 F0 F0

プロセッサ・ストレージが小さいため IPL ブートストラップ・ルーチン (監視プログラム・ロード用) を保持できない。推奨処置については、メッセージ 0I00A の説明を参照してください。

F0 C9 F0 F2

IPL ルーチンが、要求された監視プログラムを検出できなかった。メッセ

ージ 0I03D の場合に行うのと同様の方法でデータを渡すことにより、システム・スタートアップをサブミットしてください。

F0 C9 F0 F6

次のいずれかを行ってください。

- システム常駐装置の装置タイプを識別できない。
- ボリューム上のボリューム・ラベル (VOL1) またはフォーマット 4 ラベルに無効な情報がある。
- ボリュームの初期化が正しくなかったか、または行われなかった。

正しいボリュームが取り付けられているか調べてください。システム・スタートアップを繰り返してください。

F0 C9 F0 F7

IPL フェーズが検出されない。正しいディスク・ボリュームが取り付けられていることを確認してください。正しいボリュームが取り付けられている場合、プログラマーに待ちコードを報告し、その指示に従ってください。

F0 C9 F0 F8

このコードは監視プログラム・メッセージ 0I08A と共に出され、マイクロプログラム・ロード・エラーを示す。マイクロプログラムを再ロードし、仮想記憶サイズが実際のプロセッサ・ストレージ・サイズより大きくなるよう指定してください。

- システム常駐装置の装置タイプを識別できない。
- ボリューム上のボリューム・ラベル (VOL1) またはフォーマット 4 ラベルに無効な情報がある。
- ボリュームの初期化が正しくなかったか、または行われなかった。

正しいボリュームが取り付けられているか調べてください。システム・スタートアップを繰り返してください。

F0 C9 F1 F4

このコードはメッセージ 0I14A と共に出され、サービス呼び出しの例外条件を示す。IPL 済みプロセッサのハードウェア処理モードを検査するためのサービス呼び出し READ SCP 命令 (例えば、'Processor Resource / System Manager PR/SM') が、以下の理由で失敗した。

- 「演算例外」(X'0001) 以外のプログラム・チェック割り込みコード。
- SCLP が操作可能でない。
- 「正常完了」(X'0010) 以外の READ SCP 応答コード。

推奨処置については、メッセージ 0I14A を参照してください。

xx 00 0F D0

これは取り消しコード形式です。取り消しコードの定義に関する後続のセクションを参照してください。値 xx は取り消しコードです。

注:

1. 待ちコードはシステム連絡領域のバイト 4 から 7 にも設定されます。
2. バイト 2 には、以下の 16 進値のいずれかが入っています。

C1 = SYSREC 記録失敗。
C9 = SYSREC 記録未完了。
E2 = SYSREC 記録完了 - EREP を実行する
(IPL 時にハードウェア・ウェイトが発生した場合は、
システムはこのバイトを設定しません。)

このハードウェア・ウェイトが発生した場合、システムの RMS ルーチンは、通常、待ち PSW のアドレス部を X'00EEEEEE' に設定します。

問題が繰り返される場合は、ご使用のコンピューター・システムのプロセッサに関する操作情報の説明に従ってログ分析表示を実行します。編集プログラムの出力を問題判別用に保管してください。

3. VSE 独立型ダンプ・プログラムの場合、ハードウェア・ウェイト・コードの各種の組み合わせがあります。CE 00 50 は CE 00 10 と CE 00 40 の組み合わせです。

SDAID 装置エラー・コード

以下に、メッセージ 4C01A に示されるエラー・コードを説明します。これらのエラー・コードは SDAID 出力装置のハードウェア障害を記述します。

- 62 C1 出力テープのテープの終わり条件。
- 62 C2 装置が操作可能ではない。
- 62 C3 監視プログラムによる装置使用中。
- 62 C4 コントロール・ユニット使用中。
- 62 C5 要介入。装置が作動不能。
- 62 C6 チャンネル・エラー。
- 62 C7 バスアウト・チェック。
- 62 C8 UCS パリティー | データ変換機構チェック。
- 62 C9 未判別エラー。
- 62 D2
 コマンド・リジェクト。
- 62 D4
 無効な入出力機能の要求。
- 62 D6
 使用可能な印刷バッファがない。
- 62 D7
 書き込み再試行回数が最大数を越えた。
- 62 D8
 最大時間を超過。
- 62 D9
 コマンド列が異常。
- 62 E2 エラー・リカバリー・アクション・コードが使用可能。
 エラーの説明については、メッセージ 4C01A のエラー・リカバリー・アクション・コードを参照してください。

VSE 拡張機能取り消しコード

ハードウェア・ウェイトでは、以下の 4 バイト取り消しコード形式がプロセッサ・ストレージのバイト 0 から 3 に設定されます。

バイト 0	バイト 1	バイト 2	バイト 3
-----	-----	-----	-----
code	00	0F	D0

このセクションでは、コードを 16 進順に説明し、この情報単位で説明しているメッセージを示します。コードに対して取るべき処置については、関連メッセージの説明を参照してください。

VSE 拡張機能取り消しコード

取り消し

コード	関連メッセージ	取り消しの理由
00	-	デフォルト・コード。他のどのコードも当てはまらない場合に、システムによって出されます。
08	0V16	VSE/POWER からの CANCEL 要求。
09	0V15	LIOCS からの CANCEL 要求。
0A	0S21	システムのアクセス制御テーブルにエラーがあります。または、アクセス制御操作中に処理エラーが発生しました。
0B	0S20	アクセス制御違反。
0C	0S19	VSE/ICCF の対話区画に障害があります。
0D	0V13	サブシステムまたは付加ルーチンでプログラム・チェックが発生しました。
0E	0V14	サブシステムまたは付加ルーチンでページ・フォルトが発生しました。
0F	0P80	FBA システム・ディスク・ファイルに対するディスク・アドレスが無効です。
10	-	通常 EOJ。
11	0V07	サポートされない装置に対するチャンネル・プログラム変換がありません。
12	0V06	チャンネル・プログラム変換用のバッファ・スペースが不足しています。
13	0S18I	チャンネル・プログラムにエラーがあります。
14	0V04	ページ・プールが小さすぎます。
15	0V02	使用不可の、監視プログラム以外のプログラムでページ・フォルトが発生しました。
17	0S02	メインタスクが、生成済みサブタスクを指定した CANCEL を出しました。
18	-	メインタスクが、生成済みサブタスクを指定した DUMP を出しました。
19	0P74	オペレーターが入出力エラーに対して "cancel" と応答しました。
1A	0P73	入出力エラーが発生しました。
1B	0P82	チャンネル障害が発生しました。
1C	0S14	別のタスクで CANCEL ALL マクロが出されました。
1D	0S12	サブタスクがまだ存在するときにメインタスクが終了しました。
1E	0S13	ロック・ファイル入出力エラーが発生しました。
1F	0P81	処理装置で障害が発生しました。
20	0S03	プログラム・チェックが発生しました。
21	0S04	無効な SVC が出されました。
22	0S05	アクセス可能なライブラリーでフェーズが見つかりません。
23	0S02	CANCEL マクロが出されました。
24	0S01	オペレーターの要求によりプログラムが取り消されました。
25	0P77	システムが無効なアドレス (該当区画の外側) を検出しました。
26	0P71	SYSxxx が割り当てられていません (未割り当て LUB コード)。
27	0P70	論理装置が未定義です。
28	0S35	LTA または区画に対してフェーズが長すぎます。
29	0P92	ライブラリー構造が無効。
2A	0V10	ページ入出力中に入出力エラーが発生しました。
2B	0P84	ライブラリーからの取り出し中に入出力エラーが発生しました。
2C	0V09	ページ・フォルト付加ルーチンが無効なパラメーターを監視プログラムに渡しました。
2D	0P88	ストレージ・ブロック障害のため、該当プログラムを実行 (または再始動) できません。
2E	0S16	処理されるリソース要求が無効です (デッドロック状態が考えられます)。
2F	0V03	1 ページに対して許される最大数 (32, 767) を超えた PFI 要求が出されました。
30	0P72	該当プログラムが読み取り要求を SYSRDR/SYSIPT 装置上の /& を通り過ぎて出しました。
32	0P76	システムが無効な DASD アドレスを検出しました。
33	0P79	ディスク・アクセスの長シークがありません。
34	0P93	GETVIS を使い果たしました。
35	0P85	ジョブ制御オープン障害が発生しました。
36	0V08	入出力付加ルーチンでページ・フォルトが発生しました。
38	0V11	ユーザー作成ルーチンによって変換された CCW 中のエラーです。
39	0V12	SYSLOG 装置に対する CCW チェーンが無効です。

取り消し コード	関連メッセージ	取り消しの理由
3A	0V17	スプール要求の順序が正しくありません。
3B	0V18	VSE/OCCF からの CANCEL 要求。
3C	0V19	VSE/OCCF からの CANCEL 要求。
3D	0P95	PFI 要求が失敗。
40	0V95	VTAM によるタスクの終了。
41	0V96	VTAM 条件が無効です。
42	0P86	DASD ファイル保護例外。失敗したプログラムがエクステント限界を超えた位置にアクセスしようとしていました。
43	0P94	当該プログラムを動的区画で実行することはできません。
44	0S22	セキュリティー・マネージャーのエラー。
45	0S17	実行モード違反。
46	0S15	データ・スペース・サービスの使用中のエラー。
47	0S11	タスクが異常終了しました。
48	0S27	OS/390 [®] モードで実行中のプログラムに関して OS/390 取り消し条件が発生しました。これは上記のすべての異常終了コードの場合に発生する VSE 取り消しコードです。
49	0S28	OS/390 モードで実行中のプログラムが ABEND マクロを出しました。
4A	0S37	x メモリー・モードで実行中のプログラムが、そのサービス提供プログラムが終了したため、取り消されました。
4B	0P97I	暗号鍵が矛盾しています。
FF	-	ジョブ制御中にジョブが取り消されました。
xx	0P78	認識されない取り消しコード。

OS/390 API 異常終了コード

異常終了 コード	理由コード	副理由コード	説明
01D			DSPSERV マクロ処理で環境エラー以外のエラーが検出されました。
052			プログラムが誤って仮想記憶間サービスのプログラム呼び出しを発行しました。レジスター 15 には、xxyy の形式で 16 進数の理由コードが含まれています。x は、発行されたマクロを識別するものです。yy は、エラーを識別するものです。
	01yy		プログラムが LXRES マクロを出しました。
	0101		パラメーター・リスト内の予約フィールドがゼロではありません。レジスター 5 にパラメーター・リストの最初のワードが入っています。
	0102		パラメーター・リスト内のフォーマット番号フィールドが無効です。レジスター 5 にパラメーター・リストの最初のワードが入っています。
	0103		リンケージ・インデックス (LX) リスト内の要求カウントが無効です。レジスター 5 に要求カウントが入っています。
	02yy		プログラムが LXFRE マクロを出しました。
	0201		パラメーター・リスト内の予約フィールドがゼロではありません。レジスター 5 にパラメーター・リストの最初のワードが入っています。
	0202		パラメーター・リスト内のフォーマット番号フィールドが無効です。レジスター 5 にパラメーター・リストの最初のワードが入っています。
	0203		リンケージ・インデックス (LX) リスト内の要求カウントが無効です。レジスター 5 にパラメーター・リストの最初のワードが入っています。
	0211		リンケージ・インデックス (LX) が正しくありません。レジスター 5 に正しくない LX が入っています。

OS/390 API 異常終了コード

異常終了コード	理由コード	副理由コード	説明
	0212		リンケージ・インデックス (LX) が現行区画によって所有されていません。レジスター 5 に正しくない LX が入っています。
	0213		リンケージ・インデックス (LX) は、システム (LX) なので、正しくありません。レジスター 5 にリンケージ・インデックスが入っています。
	0214		リンケージ・インデックス (LX) に 1 つまたはそれ以上のテーブルが接続されていますが、LXFRE マクロが FORCE=YES を指定しませんでした。
	0215		リンケージ・インデックス (LX) が LX リスト内に 2 回以上現れました。
	03yy		プログラムが ETCRE マクロを出しました。レジスター 2 に、エラーが検出された項目のインデックスが入っています。
	0301		ENTRIES パラメーターに指定されたエントリー・テーブル記述 (ETD) のヘッダーに入っている予約フィールドがゼロではありません。
	0302		エントリー・テーブル記述 (ETD) 内のフォーマット番号フィールドが正しくありません。
	0303		ETDNUM フィールド内の要求カウントが無効です。
	0304		呼び出し元が非ゼロの値をレジスター 1 に入れて渡しました。
	0311		エントリー・テーブル記述 (ETD) 内の 20 バイトの記述エレメントの 1 つで予約フィールドがゼロでないか、または 24 ビット・アドレスの高位バイトがゼロではありません。レジスター 2 に、記述エレメントに関連したエントリー・インデックスが入っています。
	0312		20 バイトの記述エレメントの 1 つの中で識別されたプログラムを検出できませんでした。レジスター 2 に、記述エレメントに関連したエントリー・インデックスが入っています。
	0313		エントリー・インデックスが昇順になっていません。レジスター 2 に、昇順になっていないエントリー・インデックスが入っています。
	0315		エントリー・テーブル記述 (ETD) の拡張部分にある予約フィールドが非ゼロです。
	0316		基本 PC が指定されたか、またはスタッキング・プログラム呼び出し (PC) の場合にだけ有効なオプションが基本 PC に対して指定されました。基本 PC がサポートされていません。
	0317		正しくない組み合わせの ETDPKMC と ETDPKC が指定されました。ETDEF マクロでの指定が次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • PKM=REPLACE が指定されたが、EK がない。 • EK 値が、EKM リストに指定されたキーの 1 つでない。
	0318		拡張許可インデックス (EAX) が、有効な許可インデックス (AX) の範囲内にありません。
	0319		指定された拡張許可インデックス (EAX) がホーム・アドレス・スペースによって予約されていませんでした。
	0320		関連リカバリー・ルーチン (ARR) の名前を検出できませんでした。
	0321		エントリー・テーブル記述子 (ETD) が、関連リカバリー・ルーチン (ARR) の実行中は CANCEL/DETACH 処理を据え置くことを要求しました。ルーチンが監視プログラム状態またはキー 0 で実行されていない可能性があるため、据え置きはできません。
	0322		エントリー・テーブル記述子 (ETD) が、ARR の実行中は CANCEL/DETACH 処理または非同期出口を据え置くことを要求しましたが、ARR が指定されませんでした。
	0323		エントリー・テーブル記述 (ETD) に指定されているインデックスが、許容最大インデックスより大きくなっています。レジスター 2 にインデックスが入っています。
	04yy		プログラムが ETDES マクロを出しました。
	0401		パラメーター・リスト内の予約済み入力フィールドがゼロではありません。

異常終了 コード	理由コード	副理由コード	説明
	0402		パラメーター・リスト内のフォーマット番号フィールドが無効です。
	0411		指定されたトークンが無効です。
	0412		プログラムがシステム・エントリー・テーブル用のトークンを指定しましたが、PURGE=YES を指定しませんでした。
	0413		指定されたトークンは、現行区画が所有していないエントリー・テーブル用のものです。
	0414		プログラムが使用中のエントリー・テーブル用のトークンを指定しましたが、PURGE=YES を指定しませんでした。
	05yy		プログラムが ETCON マクロを出しました。
	0501		予約入力フィールドがゼロではありません。
	0502		フォーマット番号フィールドが無効です。
	0503		トークン・リスト・カウントまたはリンケージ・インデックス (LX) リスト・カウントが無効です。
	0511		トークン・リスト・カウントとリンケージ・インデックス (LX) リスト・カウントが等しくありません。
	0512		指定されたリンケージ・インデックス (LX) はすでに使用中です。レジスター 2 に正しくない LX が入っています。
	0513		指定されたリンケージ・インデックス (LX) は予約されていません。レジスター 2 に正しくない LX が入っています。
	0514		指定されたトークンが正しくありません。
	0515		指定されたトークンは、区画のリンケージ・テーブルにすでに接続されているエントリー・テーブル用のものです。レジスター 2 に正しくないトークンが入っています。
	0516		指定されたトークンは、接続が許可されていないエントリー・テーブル用のものです。レジスター 2 に正しくないトークンが入っています。
	0517		エントリー・テーブルおよび対応するリンケージ・インデックスが、同じ区画によって所有されていません。レジスター 2 に LX が入っています。
	0519		トークンがトークン・リスト内に 2 回以上現れました。レジスター 2 にトークンが入っています。
	051A		リンケージ・インデックス (LX) が LX リスト内に 2 回以上現れました。
	06yy		プログラムが ETDIS マクロを出しました。
	0603		トークン・カウントが無効です。レジスター 2 に正しくないカウントが入っています。
	0604		呼び出し元が非ゼロの値をレジスター 1 に入れて渡しました。レジスター 2 に値が入っています。
	0611		指定されたトークンが正しくありません。レジスター 2 にトークンが入っています。
	0612		指定されたトークンはシステム・エントリー・テーブル用のものです。レジスター 2 にトークンが入っています。
	0613		指定されたトークンは、接続されていないエントリー・テーブル用のものです。レジスター 2 にトークンが入っています。
	0614		トークンがトークン・リスト内に 2 回以上現れました。レジスター 2 にトークンが入っています。
	0615		LXFRE マクロが正しくないアドレス・スペース ID (ASID) を ETDIS マクロに渡しました。レジスター 2 に正しくない ASID が入っています。
053			プログラムが誤って仮想記憶間サービス・プログラム呼び出しを出しました。
	01yy		レジスター 15 に xyyy の形式で 16 進数理由コードが入っています。ここで、x は出されたマクロを示し、yy はエラーを示します。 プログラムが LXRES マクロを出しました。

OS/390 API 異常終了コード

異常終了コード	理由コード	副理由コード	説明
	0111		システムがサポートする LX の最大数 (32) を超えることになるので、システムは 1 つまたはそれ以上のリンケージ・インデックス (LX) を予約することができませんでした。レジスター 5 に、現在予約されていない LX の数が入っています。
	0112		プログラムは、システム・リンケージ・インデックス (LX) の最大数 (0) より多いシステム・リンケージ・インデックス (LX) を予約しようとして失敗しました。
	0199		仮想記憶間制御ブロックの先頭にある頭字語が正しくありません。レジスター 5 に、予期される頭字語が入っています。
	02yy		プログラムが LXFRE マクロを出しました。
	0205		システムは、システム GETVIS 域内に、新規のキュー強制切断ブロック (FDQB) 用のストレージを要求しました。要求は失敗しました。レジスター 5 に、この要求からの戻りコードが入っています。
	0209		システムは、システム GETVIS 域内のキュー強制切断ブロック (FDQB) の解放を要求しました。要求は失敗しました。レジスター 5 に、この要求からの戻りコードが入っています。
	0211		システムは、FORCE 要求を処理するために、キュー強制切断 (FDQ) を作成中でした。エントリー・テーブル情報ブロック (ETIB) チェーンを検索中に、同じアドレス・スペース ID (ASID) またはリンケージ・インデックス (LX) 値をもつ接続記述 (ETIXCD) が 2 つ以上検出されました。
	0299		x モード制御ブロックの先頭にある頭字語が正しくありません。レジスター 5 に、予期される頭字語が入っています。
	03yy		プログラムが ETCRE マクロを出しました。
	0301		システムは、システム GETVIS ストレージ内に動的作業域用のストレージを要求しましたが、この要求が失敗しました。レジスター 2 に、この要求からの戻りコードが入っています。
	0302		システムは、システム GETVIS ストレージ内にストレージを要求しましたが、この要求が失敗しました。レジスター 2 に、この要求からの戻りコードが入っています。
	04yy		プログラムが ETDES マクロを出しました。
	0406		システムは、システム GETVIS 域内のストレージの解放を要求しましたが、この要求が失敗しました。レジスター 2 に、この要求からの戻りコードが入っています。
	0499		x メモリー制御ブロックの先頭にある頭字語が正しくありません。レジスター 2 に、予期される頭字語が入っています。
	05yy		プログラムが ETCON マクロを出しました。
	0503		システムは、システム GETVIS 域内に、PFIX されたストレージを要求しました。要求は失敗しました。レジスター 2 に、この要求からの戻りコードが入っています。
	0599		仮想記憶間制御ブロックの先頭にある頭字語が正しくありません。レジスター 2 に、予期される頭字語が入っています。
	06yy		プログラムが ETDIS マクロを出しました。
	0609		システムは、システム GETVIS 域内のストレージの解放を要求しました。要求は失敗しました。レジスター 2 に、この要求からの戻りコードが入っています。
	0699		仮想記憶間制御ブロックの先頭にある頭字語が正しくありません。レジスター 2 に、予期される頭字語が入っています。
07D			SETFRR 処理で、機能リカバリー・ルーチン (FRR) を FRR リカバリー・スタックの 1 つに追加または削除していたときに、障害が検出されました。理由コードは次のとおりです。

異常終了コード	理由コード	副理由コード	説明
	0000		<p>使用可能なすべてのスロットがいっぱいになったため、FRR リカバリー・スタックはこれ以上 FRR を保持できませんでした。この異常終了は、おそらく、SETFRR を次のように不正に出したインストール・システム提供のプログラムによって引き起こされたものと考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FRR を削除しないで追加しようとしている。 • SETFRR マクロを含んでいるループ。 • 追加しようとする FRR が多すぎる。システムは、インストール先は 2 つの FRR を追加できることだけを保証しています。
	0004		<p>SETFRR DELETE の呼び出し元が、SETFRR DELETE が出されたときに FRR を保持しているための正当な状態にありませんでした。FRR が確立された時点から、それが削除される時点まで、以下のうちの少なくとも 1 つが該当しなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ロックがかけられている • タスクが「使用不可」で実行されている • EUT=YES が指定された FRR がある
0Cn			<p>n = 1 - F プログラム割り込み例外が発生しましたが、このタイプの割り込みを処理するように定義された ESPIE ルーチンはありません。最後の数字は、位置 X'8F' にあるハードウェア割り込みコードに等しい 16 進数です。ただし、0C4 は例外で、記憶保護例外とセグメント変換例外を表します。</p>
0C1	1		演算例外
0C2	2		特権命令例外
0C3	3		実行例外
0C4	4		記憶保護例外。実行中のプログラムがアクセスしようとしているストレージ域のキーが、プログラムの PSW キーと異なっています。
	10		<p>セグメント変換例外。プログラムがアクセス不能なストレージを参照しようとしてしましました。理由は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プログラムが参照したストレージは取得されていなかった。 • プログラムが参照したストレージはプログラムのアドレス・スペースに属していない。
0C5	5		アドレッシング例外
0C6	6		指定例外
0C7	7		データ例外。データ例外は、STIMER または STIMERM パラメーター DINTVL、GMT、TOD、または LT がゾーン形式で指定されていない場合に発生することがあります。
0C8	8		固定小数点オーバーフロー例外
0C9	9		固定小数点除算例外
0CA	A		10 進オーバーフロー例外
0CB	B		10 進除算例外
0CC	C		指数オーバーフロー例外
0CD	D		指数アンダーフロー例外
0CE	E		有効数字例外
0CF	F		浮動小数点除算例外

OS/390 API 異常終了コード

異常終了 コード	理由コード	副理由コード	説明
0D5			<p>プログラムが、仮想記憶間アクセスのためのプログラム呼び出し (PC) 命令を出しました。以下のいずれかが起こっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アドレス・スペース第 1 テーブル・インデックス (AFX) 変換例外 (プログラム割り込みコード X'20') が発生しました。アドレス・スペース第 1 テーブル (AFT) 内の、アドレス・スペース ID (ASID) に対応する値が無効です。そのようなアドレス・スペースは存在しません。 • アドレス・スペース第 2 テーブル・インデックス (ASX) 変換例外 (プログラム割り込みコード X'21') が発生しました。アドレス・スペース第 2 テーブル (AST) 内の、アドレス・スペース ID (ASID) に対応する値が無効です。そのようなアドレス・スペースは存在しません。
0D6			<p>プログラムが出したプログラム呼び出し (PC) 命令に、正しくない PC 番号が指定されています。レジスター 15 に入っている 16 進数の理由コードが、次のようにエラーを説明します。</p>
	00		PC 命令に指定された PC 番号が未定義です。
	22		リンケージ・インデックス (LX) 変換例外が起きました。プログラム割り込みコードは X'22' です。
	23		エントリー・テーブル (EX) 変換例外が起きました。プログラム割り込みコードは X'23' です。
0D8			<p>スペース切り替え例外が起きました。プログラムがプログラム呼び出し (PC) 命令を出したが、仮想記憶間サーバー区画が終了しました。ターゲット・アドレス・スペースが、PC または PT 命令を出したプログラムのホーム・アドレス・スペースではありません。プログラム割り込みコードは X'1C' です。</p>
0F2			<p>システムが入出力割り込みを処理していたときにエラーが発生しました。入出力リカバリー・ルーチンが失敗しました。</p>
101			<p>WAIT マクロの処理中に、システムは、問題プログラムがイベント制御ブロック (ECB) 数より多いイベントを指定したことを検出しました。</p>
102			<p>POST マクロの処理中に、システムは、イベント制御ブロック (ECB) の誤ったアドレスを検出しました。レジスター 15 に入っている 16 進数の理由コードが、次のようにエラーを説明します。</p>
	000B		問題プログラムが誤った ECB アドレスを渡しました。
104 10A			GETMAIN または STORAGE マクロの処理中にエラーが起きました。
178			
	0004	08	<p>システム GETVIS 域 (SQA) サブプール内のスペースに対する要求をバックアップするために使用できる実記憶が十分にありません。GETVIS '20'X: SVA サブプール用の PFIIX が失敗しました。</p>
	000C	08	<p>動的スペース GETVIS 域 (LSQA) サブプール内のスペースに対する要求をバックアップするために使用できる実記憶が十分にありません。GETVIS '20'X: SPACE サブプール用の PFIIX が失敗しました。</p>
106			<p>LOAD マクロの処理中にエラーが発生しました。</p>
			<p>制御プログラムが、要求されたプログラムを仮想記憶に取り込もうとしたときに、エラーを検出しました。レジスター 15 に入っている理由コードがエラーを説明します。場合によっては、レジスター 0 にエラーの詳細が入っていることがあります。</p>
	000B		プログラム取り出し処理中にエラーが起きました。
	000C		<p>フェーズ・ブロックまたは制御ブロック用のストレージを取得できるだけの十分なストレージがありません。レジスター 0 に、次のような詳細が入っています。</p>
		04	制御ブロック用のストレージがありません。

異常終了 コード	理由コード	副理由コード	説明
		14	フェーズ用のストレージがありません。
		18	ストレージを固定することができません。
	000D		制御プログラムがフェーズ内に正しくないレコード・タイプを見つけました。
	000E		制御プログラムがフェーズ内に正しくないアドレスを見つけました。 レジスタ 0 に、次のような詳細が入っています。
		20	RBA 変換エラー。
		24	ブロックがフェーズの外側にあります。
		28	アドレス定数位置が正しくありません。
	000F		訂正不能な入出力エラーが起きたか、またはフェーズ内のエラーが原因でチャネル・プログラムが失敗しました。 レジスタ 0 に、次のような詳細が入っています。
		40	ライブラリーの入出力エラー。
		48	シーク・アドレスがエクステント外。
	0010		制御プログラムがフェーズ内に再配置エラーを検出しました。
	0028		プログラム取り出し処理中に内部エラーが起きました。
10B			プログラムが出した TIME マクロに誤った入力パラメーターが指定されていました。
122			オペレーターが区画を取り消して、ダンプを要求しました。
12E			プログラムが出した TTIMER マクロに誤ったパラメーターが指定されていました。
12F			プログラムが出した STIMER マクロに誤ったパラメーターが指定されました。 レジスタ 15 に入っている理由コードが次のようにエラーを説明します。
	0000		システムは、STIMER 要求のパラメーターに指定されたデータ域を検出できませんでした。
	0004		TASK タイプの STIMER 要求にグリニッジ標準時 (GMT) または現地時間 (LT または TOD) パラメーターが指定されていました。
	000C		グリニッジ標準時 (GMT) または現地時間 (LT または TOD) パラメーターが 24:00:00.00 より大きい値でした。
	0010		STIMER サービス・ルーチンが、STIMER マクロのユーザー指定のパラメーターを含んでいるストレージにアクセスできません。
	0014		STIMER サービス・ルーチンが受け取った STIMER マクロに無効なパラメーターがありました。
	0028		要求された時間間隔が大きすぎました。 次の状態のいずれかが起きました。 TASK タイプの要求の場合、要求された MICVL 時間間隔が X'7FFFFFFFFFFFFFFF' より大きかったです。 REAL/WAIT タイプの要求の場合、要求された時間間隔 (BINTVL、DINTVL、MICVL、または TUINTVL) を現在の刻時機構の内容に追加すると、X'FFFFFFFFFFFFFFF' (2042 年 9 月 17 日に満了する値) を超えることとなります。 BINTVL に X'7FFFFFFF' より大きい値が指定されました。
130			DEQ マクロの処理中に、システムがエラーを検出しました。 DEQ マクロ命令が指定したリソースは、同じタスクで、前に ENQ マクロ命令によって指定されていません。 つまり、プログラムは、まだ要求されていないリソースを解放しようとしていました。 DEQ マクロ命令が RET=HAVE オペランドを指定していません。

OS/390 API 異常終了コード

異常終了コード	理由コード	副理由コード	説明
138			ENQ マクロの処理中に、システムがエラーを検出しました。以下のうちいずれかが当てはまります。 1. リソース・リストに対して 1 つの ENQ マクロ命令が出されました。リスト内に同じリソースが 2 回以上現れました。 2. リソースを解放するための DEQ マクロ命令を間に入れないで、同じタスク内の同じリソースに対して ENQ マクロ命令が 2 回出されました。2 番目の ENQ マクロ命令が RET オペランドに TEST、USE、または HAVE を指定していません。
13E			サブタスクを作成したタスクが、サブタスクが終了する前に、STAE=NO を指定した DETACH マクロをサブタスクに対して出しました。 これは、ユーザーの意図に応じて、エラーの場合とそうでない場合があります。したがって、システムは、DETACH マクロを出したタスクを異常終了させることはありません。
201			WAIT マクロの処理中に、システムは次のことを検出しました。 • マクロ展開に、イベント制御ブロック (ECB) の誤ったアドレスが含まれている。 • WAIT マクロを出したプログラムは、ECB を含んでいるストレージと同じストレージ保護キーで実行されていない。
206			LOAD または DELETE マクロの処理中にエラーが起きました。レジスタ 15 に入っている理由コードが次のようにエラーを説明します。
	0004		矛盾するオプションまたはサポートされないオプションを指定した LOAD マクロが出されました。
	0008		無許可プログラムが、グローバル機能へのロード (GLOBAL キーワード) を含む LOAD マクロを実行しようとした。
	000C		無許可プログラムが、明示ロード・オプション (ADDR キーワード) を含む LOAD マクロを実行しようとした。
	0018		ADDR キーワードを指定した LOAD マクロが出されましたが、ADDR キーワードの値 (アドレス) がダブルワード境界でないか、または無効です。
	0020		このマクロのマクロ・レベルにはこのシステムとの互換性がありません。
	0024		このマクロを出したプログラムは AR モードですが、パラメーター・リスト・アドレスにゼロのアクセス・リスト・エントリー・テーブル (ALET) がありません。AR モードの呼び出し元は、パラメーター・リスト・アドレスをゼロの ALET で修飾しなければなりません。
	0028		EP (項目名) キーワード・パラメーターまたは DE (リスト項目アドレス) キーワード・パラメーターにゼロの ALET がありません。
	002C		データ制御ブロック (DCB) アドレス・キーワード・パラメーターにゼロの ALET がありません。
	00C0		パラメーターがアドレス指定不能、または間違っただストレージ保護キーが付いています。
	00C4		データ制御ブロック (DCB) アドレス (DE) キーワード・パラメーターで渡されたディレクトリー項目がアドレス指定不能、または間違っただストレージ保護キーが付いています。
	00C8		データ制御ブロック (DCB) がアドレス指定不能、または間違っただストレージ保護キーが付いています。
	00CC		ディレクトリー項目が無効です。
222			オペレーターがダンプを要求しないで区画を取り消しました。

異常終了 コード	理由コード	副理由コード	説明
22C			CHAP マクロの処理中、システムが、第 2 オペランドで指定されたフルワードのアドレスが正しくないことを検出しました。このフルワードには、優先順位の変更が可能なサブタスクの TCB のアドレスが入っています。 このアドレスは以下の理由で正しくありません。 <ul style="list-style-type: none"> フルワード境界上でない。 アドレス指定された仮想記憶が割り振られていない。 このフルワードのストレージ保護キーが CHAP マクロの発行元のストレージ保護キーと一致しない。
23E	0008		DETACH マクロの処理中、システムが入力パラメーターにエラーを検出しました。レジスター 15 に入っている 16 進数の理由コードが、次のようにエラーを説明します。 入力パラメーター・リストに指定されたタスク制御ブロック (TCB) が呼び出し元の TCB のサブタスクではありません。
282	010		RACROUTE REQUEST=AUTH の処理中にエラーが起きました。 呼び出し元に権限がありません。
	014		無効な ATTR= オプションが指定されました。
	018		ボリューム通し番号が必要ですが、指定されませんでした。
	020		リソース名が指定されませんでした。
	024		クラス名が指定されませんでした。
	04C		ENTITYX キーワードについて、エンティティー名の長さとおバッファの長さの両方がゼロです。
	050		バッファの長さとして入力された長さが無効です。 <ul style="list-style-type: none"> ゼロより小さい 255 より大きい
	054		エンティティー名の長さとして入力された長さが無効です。 <ul style="list-style-type: none"> ゼロより小さい CLASS=DATASET の場合、44 より大きい。またはそのクラスの最大長より大きい。
	05C		エンティティー名に空白が含まれています。ENTITYX キーワードが指定されていて、エンティティー名の長さが与えられている場合に、名前の先頭、中間、または末尾に空白があります。
	064		ACEE が無効です。
283	0004		RACROUTE REQUEST=VERIFY 処理中にエラーが起きました。 パラメーター・リストの長さが無効です。
2C5			この異常終了コードは、VSE 固有のエラー状態のために予約されています。VSE 取り消しコードは、X'01000000' から X'FFFFFFF' までの理由コードによって示されます。
	0310		GETMAIN、FREEMAIN、または STORAGE マクロの処理中に内部エラーが起きました。無効な SVC 番号が検出されました。
	0311		GETMAIN または STORAGE マクロの処理中にエラーが起きました。OWNER が指定されています。このパラメーターは VSE では許されていません。
	0312		GETMAIN または STORAGE マクロの処理中にエラーが起きました。EXPLICIT が指定されています。このパラメーターは VSE では許されていません。
	0313		GETMAIN または STORAGE マクロの処理中にエラーが起きました。指定された ALET がゼロではありません。

OS/390 API 異常終了コード

異常終了コード	理由コード	副理由コード	説明
0314			GETMAIN または STORAGE マクロの処理中にエラーが起きました。TCBADDR が指定されています。これは、エミュレーション・モードで実行される区画内で許されるだけです。
0315			GETMAIN または STORAGE マクロの処理中にエラーが起きました。指定された TCBADDR が現行アドレス・スペースの OS/390 TCB を指していません。
0316			GETMAIN、FREEMAIN、または STORAGE マクロの処理中に内部エラーが起きました。不明の戻りコードが検出されました。
0400			現行 SRB が作成されたときにアクティブであったリンケージ・スタック項目に PR 命令が実行されました。CICS-SVC から RETURN が欠落している可能性があります。
0401			FRR ルーチンが確立されている間は、SVC は許可されません。
0403			FRR ルーチンによって SETFRR マクロが出されました。FRR のネストはサポートされません。
0404			要求された SETFRR 機能は VSE ではサポートされません。
0406			タスク終了または終結処理中に SETFRR マクロが出されました。
0407			CICS SVC から「戻る」ことが要求されましたが、FRR スタックが空ではありません。
0408			SETFRR マクロが EUT=YES を指定しないで出されました。プログラムは入出力割り込みおよび外部割り込みに関して割り込み禁止でなく、ロックも保持していないため、要求は拒否されます。
0409			RID 8 で実行されていないプログラムから SETFRR マクロが出されました。
040A			基本 ASC モードで実行されていないプログラムから SETFRR マクロが出されました。
040B			要求された SETFRR 機能は、呼び出し側プログラムが AR モードのときだけに有効です。
0410			ESPIE、STIMER、または STIMERM マクロ処理中の内部エラー。システム制御ブロックを作成するために使用できるシステム GETVIS がありません。システム GETVIS からの戻りコードがレジスタ 15 に入れられて呼び出し元に渡されます。
0411			内部 GETMAIN が失敗したために発生した、ESPIE、STIMER、または STIMERM マクロ処理中の内部エラー。サブプール 241 に使用可能なスペースがありません。
0412			AB タイプの出口ルーチンによって ESPIE マクロが出されました。
0413			PC 出口が定義されているプログラムが ESPIE マクロを出しました。
0414			以下の出口ルーチンの 1 つから ESPIE マクロが出されました。 <ul style="list-style-type: none"> • ESPIE 出口 • ETXR 出口 • IT 出口 • OC 出口 • PC 出口 • POST 出口
0415			取引先出口ルーチンによって ESPIE マクロが出されました。
0416			終了プログラムまたは終結処理ルーチンの処理中に ESPIE マクロが出されました。
0417			以前に ESPIE 出口を定義していないプログラムが ESPIE RESET マクロを出しました。
041A			プログラムが ESPIE SET を出しましたが、パラメーター・リストに非ゼロのマスク・ビット 17 から 31 が指定されています。

異常終了 コード	理由コード	副理由コード	説明
041D			レジスター・アクセス・モードで実行中に、プログラムが ATTACHX、CHAP、DETACH、ESPIE、POST、STIMER、STIMERM、TIME、TTIMER、または WAIT マクロを出しました。
041E			プログラムが TIME マクロを出しましたが、パラメーター・リストが 1 次アドレス・スペースにありません。
0421			ATTACHX、CHAP、DETACH、ESPIE、POST、STIMER、STIMERM、TIME、または WAIT マクロの呼び出し元が、入出力割り込みおよび外部割り込みに関して割り込み可能ではありません。
0422			プログラムが ATTACHX、CHAP、DETACH、POST、または WAIT マクロを出しましたが、無効なパラメーター・リスト・アドレスを指定しました。
0423			POST マクロが指定されましたが、サポートされないキーワードがありました。
0424			プログラムが ATTACHX マクロを出しましたが、無効な項目名を指定しました。この項目名をロードのために見つけることができません。
0425			プログラムが ATTACHX マクロを出しましたが、無効な ETXR アドレスを指定しました。
0426			プログラムが ATTACHX マクロを出しましたが、誤った DPMOD 指定がありました。
0427			ATTACHX マクロの DISP、JSTCB、または SVAREA の指定はサポートされません。
0428			プログラムが SM=SUP を指定して ATTACHX マクロを出しましたが、このプログラムは監視プログラム状態またはキー 0 の状態ではありません。
0429			プログラムが KEY=ZERO を指定して ATTACHX マクロを出しましたが、このプログラムは監視プログラム状態またはキー 0 の状態ではありません。
042A			プログラムが RSAPF オペランドを指定して ATTACHX マクロを出しましたが、このプログラムにはその権限がありません。(サブシステムまたは取引先出口でない。監視プログラム状態またはキー・ゼロの状態でない。)
042C			プログラムが CHAP マクロを出しましたが、9 より大きい優先順位を指定しました。
042D			プログラムが DETACH マクロを出しましたが、指定された OS/390 TCB がフルワード境界上にありません。
042E			プログラムが OS/390 TCB を指定した DETACH マクロを出しましたが、対応する VSE TCB へのポインターが 0 でした。
042F			POST 出口の作成または削除中、または POST マクロの処理中に内部エラーが起きました。
		00	POX テーブル・ヘッダーが欠落しているため、FIND 機能が失敗しました。
		01	POX テーブル・ヘッダーが欠落しているため、ADD 機能が失敗しました。
		02	POX テーブル・ヘッダーが欠落しているため、DELETE 機能が失敗しました。
		03	POX テーブル項目が欠落しているため、FIND 機能が失敗しました。
0430			POST 出口の作成または削除中、または POST マクロの処理中に内部エラーが起きました。ADD、FIND、または DELETE 以外の POX 機能が呼び出されました。
0431			POST 出口の作成または削除中、または POST マクロの処理中に内部エラーが起きました。GETVIS または FREEVIS の失敗のため、POX テーブルを初期設定できませんでした。
0437			POST 出口の作成または削除中、または POST マクロの処理中に内部エラーが起きました。
		00	IJBfmtbl FIND 機能が失敗しました。

OS/390 API 異常終了コード

異常終了 コード	理由コード	副理由コード	説明
		01	IJBFMTBL ADD 機能が失敗しました。
		02	IJBFMTBL DELETE 機能が失敗しました。
04F0			プログラムが SETRP マクロを出しましたが、サポートされないオペランド RETRY=ERROR が指定されました。
04FE			非ゼロの PSW キーを持つプログラムから SETFRR サービス、POST 出口、または ETXR 出口が要求されました。
04FF			監視プログラム状態で実行されていないプログラムから SETFRR サービス、POST 出口、または ETXR 出口が要求されました。
0500			出口ルーチンの中で STIMER WAIT または STIMERM WAIT=YES マクロが出されましたが、プログラムがすでに STIMER WAIT または STIMERM WAIT=YES マクロを出していました。
0501			タイマー出口ルーチンによって STIMER WAIT または STIMERM WAIT=YES マクロが出されました。
0502			プログラムが、LTA を所有しているときに、STIMER WAIT または STIMERM WAIT=YES マクロを出しました。
0503			AB タイプの出口ルーチンによって STIMER、STIMERM、または TTIMER マクロが出されました。
0505			VTAM 付加ルーチンによって STIMER WAIT または STIMERM WAIT=YES マクロが出されました。
0506			OC 出口ルーチンによって STIMER WAIT または STIMERM WAIT=YES マクロが出されました。
0507			ESPIE または PC 出口ルーチンによって STIMER WAIT または STIMERM WAIT=YES マクロが出されました。
0508			取引先出口ルーチンによって STIMER、STIMERM、または TTIMER マクロが出されました。
0509			POST 出口ルーチンによって STIMER、STIMERM、または TTIMER マクロが出されました。
050A			ETXR 出口ルーチンによって STIMER、STIMERM、または TTIMER マクロが出されました。
053F			TIME マクロの TU オペランドはサポートされません。
0540			仮想記憶間サービスのパラメーター・リストが無効でした。
0590			IARV64: 再入可能ストレージの Sgetvis が失敗しました。
0591			IARV64: PC 番号が無効です。
0592			IARV64 が、システム・タスクまたはアテンション・ルーチンによって要求されました。ユーザー・タスクのみ許可されています。
0593			IARV64: ICCF 区画はサポートされていません。
0594			IARV64: 単一区画割り振りが必要です。
0595			IARV64: EXEC, REAL はサポートされていません。
0596			IARV64: 呼び出し元は、入出力および外部割り込みに対応している必要があります。
0597			IARV64: 呼び出し元が AR モードになっていて、パラメーター・リストが 1 次スペースにありません。
0598			IARV64: パラメーター・リストまたは範囲リストは、31 ビット・ストレージになければなりません。
0599			IARV64 オプションは、z/VSE によってサポートされていません。
059B			IARV64: PAGEFIX または PAGEUNFIX 要求が出されましたが、専用メモリー・オブジェクトが区画で割り振られていません。
601000			RACROUTE 要求の処理中、GETVIS が動的ストレージ域のスタックの割り振りに失敗しました。
612000			RACROUTE REQUEST=VERIFY 処理中にエラーが起きました。ACEE がアンカーされていません。MODFLD FIELD=ACEPTR が失敗しました。

異常終了コード	理由コード	副理由コード	説明
613000			RACROUTE REQUEST=EXTRACT 処理中にエラーが起きました。呼び出し元に権限がありません。
614xxx			RACROUTE REQUEST=AUTH の処理中にエラーが起きました。内部 GETVIS が失敗して、戻りコード xxx が戻されました。
614FFF			RACROUTE REQUEST=AUTH の処理中にエラーが起きました。内部 GETVIS が失敗して、予期しない戻りコードが戻されました。
cc000000			cc は「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻」で説明されている VSE 取り消しコードです。
200000nn			プログラム・チェックが発生しました。X'nn' はプログラム割り込みコードです。
210000nn			プログラムが VSE SVC X'nn' を出しました。VSE SVC X'nn' が無効であるか、または SVC で渡されたパラメーターが無効であるか、矛盾しています。
210083mm			プログラムが OS/390 SVC X'mm' を出しました。OS/390 SVC X'mm' は VSE ではサポートされません。
210084mm			プログラムが OS/390 SVC X'mm' を出しました。OS/390 SVC X'mm' がサポートされていないか、または OS/390 SVC を要求したプログラムがエミュレーション・モードで実行されていませんでした。
45E00000			ホーム・スペース・モードまたは 2 次 ASC モードが使用されていますが、VSE でサポートされないため、BAKR を出したプログラムの実行モードが無効です。
45Fpppppp			ホーム・スペース・モードまたは 2 次 ASC モードが使用されていますが、VSE でサポートされないため、プログラム呼び出し X'0pppppp' を出したプログラムの実行モードが無効です。
450000nn			以下のいずれかの理由で、VSE SVC X'nn' を出したプログラムの実行モードが無効です。 <ul style="list-style-type: none"> ・ アドレッシング・モードがこのサービスでは正しくない。 ・ 指定されたパラメーターの常駐モードが正しくないか、またはこの SVC を出したプログラムのアドレッシング・モードと矛盾している。 ・ レジスター・アクセス・モードが使用されているが、このサービスでは許されない。 ・ ホーム・スペース・モードまたは 2 次 ASC モードが使用されているが、VSE でサポートされない。
450083mm			以下のいずれかの理由で、OS/390 SVC X'mm' を出したプログラムの実行モードが無効です。 <ul style="list-style-type: none"> ・ アドレッシング・モードがこのサービスでは正しくない。 ・ 指定されたパラメーターの常駐モードが正しくないか、またはこの SVC を出したプログラムのアドレッシング・モードと矛盾している。 ・ レジスター・アクセス・モードが使用されているが、このサービスでは許されない。 ・ ホーム・スペース・モードまたは 2 次 ASC モードが使用されているが、VSE でサポートされない。

OS/390 API 異常終了コード

異常終了 コード	理由コード	副理由コード	説明
450084mm			以下のいずれかの理由で、エミュレーション・モードで実行中の、OS/390 SVC X'mm' を出したプログラムの実行モードが無効です。 <ul style="list-style-type: none"> • アドレッシング・モードがこのサービスでは正しくない。 • 指定されたパラメーターの常駐モードが正しくないか、またはこの SVC を出したプログラムのアドレッシング・モードと矛盾している。 • レジスター・アクセス・モードが使用されているが、このサービスでは許されない。 • ホーム・スペース・モードまたは 2 次 ASC モードが使用されているが、VSE でサポートされない。
46xxxxxx			データ・スペース・サービスが理由コード xxxxxx で取り消されました。「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻」のメッセージ 0S15I で説明されています。
470100xx			独立型の FETCH が理由コード xx で取り消されました。FETCH の理由コード xx は、「z/VSE System Macros Reference」で説明されています。
47020002			AB 出口ルーチンによって PR 命令が出されましたが、対応する PC/BAKR がありません。
47020003			PC 命令に指定された PC 番号はサポートされていません。
47020004			プログラムが STXIT AB マクロを出しましたが、リンケージ・スタックが空ではありませんでした。
47020006			STXIT AB/IT/OC/PC マクロ処理中の内部エラー。システム制御ブロックを作成するために使用できるシステム GETVIS がありません。システム GETVIS からの戻りコードがレジスター 15 に入れられて呼び出し元に渡されます。
47020008			AB タイプの出口ルーチンによって STXIT AB マクロが出されました。
4702000A			プログラムが STXIT PC マクロを出しましたが、ESPIE 出口が定義されていません。
4702000B			PC タイプの出口ルーチンによって STXIT AB マクロが出されました。
4702000C			OC タイプの出口ルーチンによって STXIT AB マクロが出されました。
4702000D			IT タイプの出口ルーチンによって STXIT AB マクロが出されました。
4702000E			POST 出口または ETXR 出口ルーチンによって STXIT AB マクロが出されました。
47020010			BAKR または PC サービスの処理中にエラーが起きました。リンケージ・スタックを作成または拡張するために使用できるシステム GETVIS ストレージがありません。
47020011			BAKR または PC サービスの処理中にエラーが起きました。リカバリー・リンケージ・スタックを作成または拡張するために使用できるシステム GETVIS ストレージがありません。
47020012			BAKR または PC サービスの処理中にエラーが起きました。リンケージ・スタックがいっぱいになりました。
47020013			BAKR または PC サービスの処理中にエラーが起きました。リカバリー・リンケージ・スタックがいっぱいになりました。
47020014			DUAL を作成するために使用できるシステム GETVIS ストレージがありません。
47020020			要求されたサービス (SVC または PC) は仮想記憶間環境ではサポートされません。
47020030			取引先出口ルーチンによって ESTAEX マクロが出されました。
47020031			プログラムが ESTAEX マクロを出しましたが、早期 AB 出口 (STXIT AB,OPTION=EARLY) が定義されていました。
47020032			終了プログラムまたは終結処理ルーチンの処理中に ESTAEX マクロが出されました。

異常終了 コード	理由コード	副理由コード	説明
			47020033 プログラムが STXIT AB マクロを出しましたが、ESTAEX 出口が定義されていません。
			47020035 TOKEN パラメーターを指定した ESTAEX マクロを出したプログラムに権限がありませんでした。(サブシステムまたは取引先出口でない。監視プログラム状態でない。または PKM がキー・ゼロを許可していない。)
			47020036 プログラムが ETXR 出口ルーチン内で ESTAEX マクロを出しました。
			47020037 プログラムが POST 出口ルーチン内で ESTAEX マクロを出しました。
			47020038 プログラムが ESTAEX マクロを出しましたが、パラメーター・リスト・アドレスが誤っています。
			47020040 これは内部システム・エラーです。SVC 79 が無効な機能コードで呼び出されました。
			47020041 これは内部システム・エラーです。SVC 79 が機能コード 0 で呼び出されましたが、アクティブな ESTAEX タイプ出口がありません。
			47020050 これは内部システム・エラーです。EXIT AB (SVC 95) が出されましたが、POST 出口または ETXR 出口がアクティブでした。
			47020051 プログラムが EXIT IT、EXIT OC、または EXIT PC マクロを出しましたが、現行 RB は、IT、OC、または PC 出口ルーチンを活動化したときの RB ではありません。
			47030002 取引先出口がセキュリティ違反のために取り消されました。
			47030003 ESTAEX タイプの出口がアクティブであったため、2 番目の取引先出口呼び出しは拒否されました。
			47040001 プログラムが仮想記憶間サービスを要求しましたが、実行環境が無効でした。
			FFFFFFF 移植された OS/390 サービスの処理中に内部エラーが起きました。
		00	フェーズ \$IJBFBMD が未定義の機能コードを使って呼び出されました。そのコードは、マクロ機能コードでもなく、POST 出口機能コードでもなく、初期設定または終結処理呼び出しでもありませんでした。
301			WAIT マクロの処理中、システムは、イベント制御ブロック (ECB) 内で待機フラグがすでにオンであることを検出しました。このフラグのオンは、以前の WAIT マクロが ECB の通知をすでに待っていることを表します。
305 30A 378			FREEMAIN または STORAGE マクロの処理中にエラーが起きました。
		04	0008 システム GETVIS 域 (SQA) のストレージが、指定されたサブプールにありません。FREEVIS '10'X: ストレージがサブプールにありません。
		04	0010 動的スペース GETVIS 域 (LSQA) ストレージが、指定されたサブプールにありません。FREEVIS '10'X: ストレージがサブプールにありません。
		04	0014 区画 GETVIS 域 (PVT) ストレージが、指定されたサブプールにありません。FREEVIS '04'x、'10'X: 実区画 GETVIS 域のサイズ = 0K、またはストレージがサブプールにありません。
		04	0018 システムが専用区域サブプールを検出できませんでした。FREEVIS '1C'X: サブプールが存在しません (タスクによって所有されていないか、または割り振られていません)。
			001C ユーザーが仮想アドレス 0 にあるストレージの解放を要求しました。これは、ユーザーが、サブプール全体を指定したつもりが、誤ってアドレス 0 の非ゼロの長さを指定した場合に起こります。サブプールの FREEMAIN または STORAGE RELEASE では長さゼロを指定しなければなりません。また、指定されたアドレスが間違っているかもしれません。
306			LOAD マクロの処理中にエラーが起きました。レジスター 15 に入っている理由コードが次のようにエラーを説明します。

OS/390 API 異常終了コード

異常終了 コード	理由コード	副理由コード	説明
	0004		LOAD マクロが、「グローバルへのロード」オプションによって、許可プログラム機能 (APF) が許可されていないライブラリーにあるフェーズを要求しました。
	0008		LOAD マクロが、「グローバルへのロード」オプションによって、SVA 適格でないフェーズを要求しました。
	000C		許可プログラムが、LOAD マクロによって、APF 許可ライブラリー内にないフェーズを要求しました。
	0010		LOAD マクロが、GLOBAL=(YES,F) キーワードを使って、ページ位置合わせが必要なフェーズを要求しました。
	0024		許可サービスが LOAD マクロを使用してフェーズのコピーにアクセスしようとしたが、このコピーは SVA 適格でなく、許可呼び出し元によって許可ライブラリーからロードされたものです。フェーズの別のコピーを検出できませんでした。
32E			プログラムが STIMERM サービス・ルーチンを出したときに、エラーが起きました。レジスター 15 に 16 進数の理由コードが入っています。
	010C		STIMERM SET マクロのグリニッジ標準時 (GMT)、時刻 (TOD)、または現地時間 (LT) パラメーターが 24 時間より大きい値を指定していました。
	0110		TIMER サービス・ルーチンが誤った STIMERM または STIMERM SET マクロ・パラメーターを受信しました。
	011C		STIMERM SET マクロの並行要求の限界を超えました。
	0120		タイマー・サービス・ルーチンが、STIMERM SET マクロのパラメーターを含んでいるストレージにアクセスすることができません。
	0128		要求された時間間隔が大きすぎました。次の状態の 1 つが発生しました。つまり、指定された時間間隔 (BINTVL、DINTVL、MICVL、または TUINTVL) を現在の刻時機構の内容に追加すると、X'FFFFFFFFFFFFFFF' (2042 年 9 月 17 日に満了する値) を超えることとなります。BINTVL に X'7FFFFFFFF' より大きい値が指定されました。
	0210		STIMERM TEST マクロに正しくないパラメーターが指定されました。
	0220		タイマー・サービス・ルーチンが、STIMERM TEST マクロのパラメーターを含んでいるストレージにアクセスすることができません。
	0224		STIMERM TEST マクロに正しくない STIMERM ID 番号があります。この番号が 0 であったか、またはシステムによって割り当てられた最大 ID より大きい値でした。
	0310		STIMERM CANCEL マクロに正しくないパラメーターが指定されました。
	0320		タイマー・サービス・ルーチンが、STIMERM CANCEL マクロのパラメーターを含んでいるストレージにアクセスすることができません。
	0324		STIMERM CANCEL マクロに正しくない STIMERM ID 番号があります。この番号が 0 であったか、またはシステムによって割り当てられた最大 ID より大きい値でした。
33E			STAE=YES オペランドを指定した DETACH マクロの処理中に、システムは、指定されたサブタスクが処理を完了していないことを検出しました。
			これは、プログラマーの意図に応じて、エラーの場合とそうでない場合があります。サブタスクが、消去される前に処理を完了していなければならない場合、サブタスクを作成する ATTACHX マクロの ECB または ETXR パラメーターを使って処理を同期してください。
40A	478		FREEMAIN または STORAGE マクロの処理中にエラーが起きました。

異常終了コード	理由コード	副理由コード	説明
	0004		呼び出し元は、解放できないサブプールを解放しようとしてしました。サブプール FREEMAIN または RELEASE に適格と定義されているサブプールだけが、サブプール全体として解放することができます。他のすべてのサブプール・ストレージは、その区域を明示的に記述する個別の要求によって解放しなければなりません。
42A	0008		問題プログラムがサブプール・ゼロを解放しようとしてしました。ジョブ・ステップが終了したとき、制御プログラムがサブプール・ゼロを解放します。ATTACHX マクロの処理中に、システムは、ECB パラメーターが、サブタスクが異常終了したときに通知するイベント制御ブロック (ECB) に正しくないアドレスを指定していることを検出しました。このアドレスは以下の理由で正しくありません。 <ul style="list-style-type: none"> フルワード境界上でない。 アドレス指定された仮想記憶が割り振られていない、またはこのフルワードのストレージ保護キーが ATTACHX 発行元のストレージ保護キーと一致しない。
430			DEQ マクロの処理中に、システムがエラーを検出しました。マクロ命令から作成されたパラメーター・リストが正しくありません。
438			ENQ マクロの処理中に、システムがエラーを検出しました。マクロ命令から作成されたパラメーター・リストが正しくありません。
46D			プログラムが誤って ESPIE マクロを発行しました。レジスター 15 に含まれる 16 進数の理由コードから、このエラーを次のように判別できます。
	0004		ESPIE マクロに SET、RESET、または TEST 以外のオプションが指定されていました。
	0008		ESPIE SET または ESPIE TEST マクロが、パラメーター・リストを指し示すアドレスを渡しました。パラメーター・リストの内容が以下のいずれかの理由で無効です。 <ul style="list-style-type: none"> パラメーター・リストがフルワード境界に位置合わせされていない。 パラメーター・リストが、GETMAIN マクロによって取得されたのではないストレージ内にある。 パラメーター・リストが、ESPIE マクロの発行元から保護されているストレージ内にある。
	000C		ESPIE SET マクロが渡したパラメーター・リストに、以下のいずれかの理由で無効な出口ルーチン・アドレスが含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> アドレスの高位ビットまたは下位ビットが 0 でない。 ESPIE を出したプログラムが 24 ビット・アドレッシング・モードの場合、高位バイトがゼロでない。
	0010		ESPIE RESET マクロが、他のプログラムによって作成された ESPIE を削除しようとしてしました。
	0014		ESPIE RESET マクロが誤った TOKEN パラメーターを渡しました。TOKEN は、以下のいずれかの理由で誤りです。 <ul style="list-style-type: none"> TOKEN 自体が無効。 TOKEN が表す出口が削除されている。
	0018		ESPIE マクロを出したプログラムが以下のいずれかの理由で無効なモードです。 <ul style="list-style-type: none"> プログラムが監視プログラム状態である。 ESPIE マクロを出したプログラムのプログラム状況ワード (PSW) のストレージ保護キーがタスク制御ブロック (TCB) のキーと一致しない。
504 505			FREEMAIN、GETMAIN、または STORAGE マクロの処理中にエラーが起きました。

OS/390 API 異常終了コード

異常終了コード	理由コード	副理由コード	説明
604 605	0004		長さリスト、アドレス・リスト、パラメーター・リストの少なくとも 1 つが他とオーバーラップしています。例えば、長さリストがアドレス・リストとオーバーラップしています。
	0000		ターゲット・アドレス・スペース制御ブロック (ASCB) が正しくありません。
			FREEMAIN、GETMAIN、または STORAGE マクロの処理中にエラーが起きました。
	0004		パラメーター・リストがワード境界上にありません。
	0008		パラメーター・リストが保護ストレージにあります。
	000C		長さリストがワード境界上にありません。
	0010		長さリストが保護ストレージにあります。
	0014		アドレス・リストがワード境界上にありません。
	0018		アドレス・リストが保護ストレージにあります。
	001C		パラメーター・リスト要求フラグが無効です。
683	0000		RACROUTE REQUEST=VERIFY 処理中にエラーが起きました。呼び出し元に権限がありません。
684	0000		RACROUTE REQUEST=LIST 処理中にエラーが起きました。呼び出し元に権限がありません。
702			POST マクロの処理中、システムが正しくない入力データまたは無許可の POST 出口ルーチン要求を検出しました。レジスター 15 に入っている 16 進数の理由コードが、次のようにエラーを説明します。
	0000		機能要求が正しくありません。
	0008		拡張イベント制御ブロック (ECB) を通知しようとしたときに、ECB 拡張部分の記述ワードに誤ったデータが入っていました。
	0014		拡張 ECB を通知しようとしたときに、ECB アドレスまたは ECB 拡張アドレスが誤っていました。
804 805			FREEMAIN、GETMAIN、または STORAGE マクロの処理中にエラーが起きました。
80A 878	0004	04	要求を満たすために使用できるシステム GETVIS 域 (SQA) のストレージが十分にありません。GETVIS '0C'X: GETVIS 域が使い果たされた、または存在しない (新規) サブプールに対して長さ=0、またはサブプールが満杯、または長さが GETVIS 域を超過している (GETVIS/GETMAIN I/F のみ)。
	000C	04	要求を満たすために使用できる動的スペース GETVIS 域 (LSQA) のストレージが十分にありません。GETVIS '0C'X: GETVIS 域が使い果たされた、または存在しない (新規) サブプールに対して長さ=0、またはサブプールが満杯、または長さが GETVIS 域を超過している (GETVIS/GETMAIN I/F のみ)。
	0010	04	要求を満たすために使用できる区画 GETVIS 域 (PVT) のストレージが十分にありません。GETVIS '04'X、'0C'X: 実区画 GETVIS 域のサイズ = 0K、または GETVIS 域が使い果たされた、または存在しない (新規) サブプールに対して長さ=0、またはサブプールが満杯、または長さが GETVIS 域を超過している (GETVIS/GETMAIN I/F のみ)。
	0014		GETMAIN に負のストレージ・サイズが指定されました。GETVIS '08'X: 負の長さです。
	0018		FREEMAIN または STORAGE マクロで負のストレージ・サイズが指定されました。FREEVIS '08'X: 負の長さが指定されました。
	001C	04	内部要求の要求処理時に、使用できる動的スペース GETVIS 域 (LSQA) のストレージが十分にありませんでした。GETVIS '1C'X: 内部要求で必要なストレージが使い果たされました。

異常終了コード	理由コード	副理由コード	説明
806			EP (項目名) または EPLOC (項目名アドレス) オペランドを指定した BLDL または LOAD マクロの処理中に、制御プログラムがエラーを検出しました。レジスター 15 に入っている理由コードが次のようにエラーを説明します。
	0004		システムは、示されたライブラリー/サブライブラリーの中で、入り口点が EP または EPLOC オペランドの値であるフェーズを検出できませんでした。
	0008		ディレクトリー検索ルーチンが、EP または EPLOC オペランドに指定された入り口点を持つプログラムが入っているライブラリーのディレクトリーを検索しようとしたのですが、リカバリー不能な入出力エラーが発生しました。
	000C		制御プログラムが、ライブラリーの中で、EP または EPLOC オペランドが指定するプログラムを検索しようとしたのですが、ライブラリーのデータ制御ブロック (DCB) がオープンされていないことを検出しました。すなわち、指定されたチェーン ID がタスク関連のライブラリアン制御ブロックの中で検出されませんでした。
	0010		プログラムが ADDR または ADRNAPF パラメーターを指定した LOAD マクロを出しましたが、DCB パラメーターがありません。明示的なロードの場合、システムは、LOAD で指定されたフェーズを、DCB パラメーターで指定されたライブラリーの中でのみ検索するので、プログラムは LOAD マクロに DCB パラメーターを指定しなければなりません。
	001C		LOAD マクロの一部として組み込まれたデータ制御ブロック (DCB) が誤っています。
	002C		内部エラー。
838			ENQ マクロ命令の処理中、必要な制御ブロックを取得するための十分なスペースがないため、システムは要求を拒否しました。
905 90A			FREEMAIN または STORAGE マクロの処理中にエラーが起きました。
978	0004		FREEMAIN または STORAGE マクロが解放しようとした仮想記憶が割り振り単位境界上にありません。FREEVIS '0C'X: 区域アドレスが割り振り単位の倍数ではありません。
906			LOAD マクロの処理中にエラーが検出されました。レジスター 15 に入っている理由コードが次のようにエラーを説明します。
	0004		LLE (ロード・リスト・エレメント) の責任カウント (フェーズに関するロード要求の数を示します) が許容最大数 32767 より大きい値です。
	0008		アンカー・テーブル使用カウント (フェーズに関するロード要求の数を示します) が許容最大数 32767 より大きい値です。
930			ジョブが出した DEQ マクロ命令に TCB オペランドが指定されていました。しかし、その TCB オペランドは終了中のタスクを指定していました。
9C7			トークン (VERIFY、VERIFYX、TOKENBLD、TOKENMAP、または TOKENXTR) を扱う RACROUTE 機能は、誤ったトークンが検出されると、異常終了コード X'9C7' を出します。異常終了コード X'9C7' と一緒に以下の理由コードが出されます。
	0001		STOKEN 域が小さすぎる。
	0002		TOKNIN 域が小さすぎる。
	0004		TOKNIN キーワードが欠落している。
	0008		TOKNOUT キーワードが欠落している。
	000C		TOKNOUT 域が小さすぎる。
	0010		バージョン =0。
	0014		USERID の長さが 8 より大きい。
	0018		PASSWORD の長さが 8 より大きい。

OS/390 API 異常終了コード

異常終了 コード	理由コード	副理由コード	説明
	001C		GROUP の長さが 8 より大きい。
	0020		NEWPASS の長さが 8 より大きい。
	0024		EXENODE の長さが 8 より大きい。
	0028		SUSERID の長さが 8 より大きい。
	002C		SNODE の長さが 8 より大きい。
	0030		SGROUP の長さが 8 より大きい。
	0034		TOKNOUT バージョンがこのリリースでは不明。
A05 A0A A78			FREEMAIN または STORAGE マクロの処理中にエラーが起きました。
	0004	04	解放されるシステム GETVIS 域 (SQA) のストレージがフリー・ストレージとオーバーラップしています。FREEVIS '0C'X: アドレスが GETVIS 域の外。
	000C	04	解放される動的スペース GETVIS 域 (LSQA) のストレージがフリー・ストレージとオーバーラップしています。FREEVIS '0C'X: アドレスが GETVIS 域の外。
AC7	0010	04	解放される区画 GETVIS 域 (PVT) のストレージがフリー・ストレージとオーバーラップしています。FREEVIS '0C'X: アドレスが GETVIS 域の外。STIMER または STIMERM 要求の処理中に内部システム・エラーが起きました。無効な TIQE が検出されました。
B04 B05 B0A B78			FREEMAIN または STORAGE マクロの処理中にエラーが起きました。
	0004		マクロが未定義のサブプール内にあるストレージを取得または解放しようとしてしました。
	0008		このマクロを出したプログラムは、システム・サブプール内のストレージの取得または解放を許可されていません。GETMAIN、FREEMAIN、または STORAGE を使用するユーザーは、監視プログラム状態であるか、キー 0 をもっているか、または許可されていなければなりません (CICS サブシステムまたは取引先コードがアクティブ)。
	0010		LOC パラメーターが無効です。16 MB より下にある取り出し保護された動的スペース GETVIS 域 (LSQA) サブプールを要求されました。取り出し保護された動的スペース GETVIS 域 (LSQA) サブプールは 16 メガバイトより上でのみサポートされます。
	0020		呼び出し元が、GETMAIN または FREEMAIN マクロ・オペランドを使って、使用不可の参照ストレージを取得または解放しようとしてしました。これは、16 MB より下のストレージに対する要求だけを満足させます。使用不可の参照サブプールは 16 MB より下には置かれません。
	0028		監視プログラム状態でなく、キー 0 をもたない呼び出し元が STORAGE マクロの ALET パラメーターを指定しました。
D06			プログラムが出した LOAD マクロに、矛盾する GLOBAL パラメーターが指定されていました。同じジョブ・ステップ・タスク構造内で、タスク制御ブロック (TCB) はすでに、GLOBAL パラメーターに異なる変数を指定して要求されたフェーズをロードしていました。
DC2			IARV64 要求が失敗しました。無効な要求に対して DC2 異常終了が出されます。これは、正常に処理できない有効な要求に対して出される場合もあります。
	0004		指定された仮想アドレスが無効です。
	0013		呼び出し元は AMODE 24 です。
	0015		最大数のセグメントが取得されました (区画内の GETSHARED の SHRLIMIT、および GETSTOR の MEMLIMIT-SHRLIMIT)。COND=YES です。

異常終了 コード	理由コード	副理由コード	説明
0016			MEMLIMIT または SHRLIMIT を超えています。COND=YES です。
0017			要求 COND=YES を満たすためには、フリー・スペースが不足しています。
		00000003	制御情報のための仮想記憶が見つかりません (要求が VSIZE を超えています)。
		00000004	MOMB 制御ブロックのための仮想記憶が見つかりません (要求が VSIZE を超えています)。
		00000005	連続するメモリー・オブジェクト・ストレージが見つかりません。
		00000006	仮想記憶が見つかりません (要求が VSIZE を超えています)。
		000Axxxx	プロセッサ・ストレージが見つかりません。PAGEFIX 要求が LFAREA を超えているか、または十分なプロセッサ・ストレージがシステムに残っていません。xxxx は、監視プログラムによって渡された戻りコードです。
0018			要求を管理するための制御ブロック用ストレージを取得できませんでした。COND=YES です。
		0007xxxx	Sgetvis サービスが失敗しました。
		0001xxxx	xxxx には、Sgetvis の戻りコードが入ります。
		0001xxxx	ページ・マネージャー・サービスが失敗しました。xxxx には、ページ・マネージャーの戻りコードが入ります。
0019			呼び出し元は、要求の実行を許可されている必要があります。
0021			MEMLIMIT または SHRLIMIT の指定が無効です。COND=YES です。
		000B	REQUEST=GETSHARED および SHRLIMIT=0 です。
		000C	REQUEST=GETSTOR および MEMLIMIT-SHRLIMIT=0 です。
0030			パラメーター・リストにアクセスできません。
0031			範囲リストにアクセスできません。
0032			IARV64 バージョンはサポートされていません (PLISTVER)。
0033			範囲リストを指定する必要があります。LIST には、有効な V64LISTPTR を指定する必要があります。
0034			ALET が無効です。ALET 0 のみ許可されています。
0036			無許可呼び出し元が、CONTROL=AUTH または DETACHFIXED=YES または PAGEFRAMESIZE=MAX を指定しました。
0037			指定されたキーが、呼び出し元に対して無効です。
0038			許可呼び出し元では、ユーザー・トークンのビット 0 から 31 はゼロです。
0039			無許可呼び出し元では、ユーザー・トークンのビット 0 から 31 はゼロでなければなりません。
003A			MATCH=USERTOKEN が指定されましたが、ユーザー・トークンが指定されていないか、または GETSHARED サービスに USERTKN が指定されていません。
003B			指定されたユーザー・トークン用のメモリー・オブジェクトが見つかりませんでした。切り離し処理中にエラーが発生する場合、そのエラーは COND の指定によるものです。
003D			指定されたユーザー・トークンが、指定されたアドレスのメモリー・オブジェクトに一致しません。
003E			ユーザー・トークンが指定されましたが、指定されたアドレスは、ユーザー・トークンなしで作成されたメモリー・オブジェクト用のアドレスです。
003F			要求されたメモリー・オブジェクトが見つかりませんでした。例: SHRMEMOBJ、PAGEFIX、PAGEUNFIX、DETACH。
0040			SHAREMEMOBJ が、既に DETACH AFFINITY=SYSTEM が実行されたメモリー・オブジェクトに対して要求されました。
0043			呼び出し元に、指定された (CONTROL=AUTH で作成された) メモリー・オブジェクトに対する許可が必要です。
0044			CONTROL=AUTH 属性を持つメモリー・オブジェクトが作成されませんでした。この要求に必要です (PAGEFIX、PAGEUNFIX)。

異常終了コード	理由コード	副理由コード	説明
0045			単一メモリー・オブジェクトの中に含まれない範囲が指定された (PAGEFIX、PAGEUNFIX) か、または NUMPAGES < 1 です。
0047			先頭がページ境界ではない範囲が指定されました (PAGEFIX、PAGEUNFIX)。
004F			IARV64 要求はサポートされていません。
0050			現在固定されていないページに対して固定を解除する要求が出されました。COND の指定により発生するエラーです。
0051			指定された開始アドレスはセグメント境界ではありません。
0055			重複するユーザー・トークンが、アドレス・スペースに指定されているメモリー・オブジェクトに既に存在します (SHRMEMOBJ)。
0056			Detach Match=Single, Affinity=System が、既に Detach Affinity=System が実行されたメモリー・オブジェクトに対して行われました。
0059			0 セグメントに対する要求は無効です。
00EF			入出力が行われているため、専用メモリー・オブジェクトを切り離せませんでした (PMO に TFIxed ページが含まれます)。エラーは COND の指定によってさまざまです。
00F0			パラメーターが無効です (NUMRANGE)。
00F6			パラメーターが無効です (ユーザー・トークンが指定されませんでした)。REQUEST=SHRMEMOBJ であり、ユーザー・トークンが指定されませんでした。共用メモリー・オブジェクトが REQUEST=DETACH であり、ユーザー・トークンが指定されませんでした。
00F7			無効なパラメーター (CONTROL または DETACHFIXED) が GETSHARED または SHRMEMOBJ に指定されました。
00FA			メモリー・オブジェクトに固定ページが含まれています (固定ページが含まれているメモリー・オブジェクトに対する切り離し要求が、DETACHFIXED=NO で指定されました)。

フィールド SVUABINF に入れて AB 出口に渡されるエラー情報 (マクロ MAPSAVAR を参照)

このセクションでは、特別取り消し条件で AB 出口ルーチンに渡される追加情報について説明します。

取り消しコード
渡される情報

0B

4 バイト
情報の長さ
変数 次のいずれかです。

volume-id.file-id
volume-id.file-id.
libraryname
libraryname.sublibraryname
libraryname.sublibraryname.
membername

46

- 4 バイト
情報の長さ
- 2 バイト
理由コード
- 8 バイト
データ・スペース名またはブランク
- 1 バイト
フラグ・バイト。次のいずれかです。
 - 80 - ALESERV によって出された
 - 40 - DSPSERV によって出された

VSE 拡張機能戻りコード

このセクションでは、この情報単位のメッセージで参照されているシステム機能の 16 進戻りコードをリストします。

システム機能戻りコード

ALLOCATE

- 04 VMESA モードと VM モードでは、少なくとも 1 つの区画の実サイズが、新規仮想サイズに対して大きすぎるため、ゼロに設定された。どのモードでも、このコードは、割り振りは正常終了したが、プログラム領域が最小 GETVIS 領域に合わせて削減されたことを意味することがある。
- 08 割り振りが拒否された。要求された (丸められた) 割り振りが、対応する割り振りプールを超過している (実割り振り用の RSIZE または仮想割り振り用の PASIZE/SPSIZE/VSIZE を大きくしてください)。
- 0C 割り振りが拒否された。少なくとも 1 つの指定された (丸められた) 仮想区画割り振り値が、最小値 128 K を下回っている (すべてのモード)。
- 10 すべてのモードで、割り振りが拒否された。370 モードと ESA モードの場合、少なくとも 1 つの区画が実割り振りを持つが、仮想割り振りを持たないことになる。
- 14 割り振りが拒否された。関連区画の少なくとも 1 つがアクティブまたは停止状態であるため、新規仮想割り振りに旧仮想境界が含まれなくなるか、または現行区画の下位仮想境界を上方に移動しなければならない (すべてのモード)。
- 18 割り振りが、別のアクティブまたは停止状態の区画に影響を与えることになるため、停止された。370 モードと ESA モードでは、新規実割り振りが旧実境界を含まないことになる。VMESA モードと VM モードでは、新規割り振りが旧実サイズを削減することになる。
- 1C 仮想割り振りが拒否された。指定された区画の少なくとも 1 つが、すでに別の仮想スペースで割り振られている (370 モードと ESA モード)。
- 20 仮想割り振りが拒否された。ページ・マネージャー・テーブルを割り振るために使用できるシステム GETVIS スペースまたは仮想記憶が不足している。
- 24 実割り振りが拒否された。指定された区画の少なくとも 1 つに関して、PFIX 限界 (BELOW) が設定されている (すべてのモード)。

- 28 仮想割り振りが拒否された。指定された区画の少なくとも 1 つに関して、16 MB より下に最小 GETVIS 領域 (48KB) を保存できない (すべてのモード)。
- 2C 仮想割り振りが拒否された。デフォルトのスペース ID を使用して割り振られた区画の初期割り振り値を増やそうとした。
- 30 仮想割り振りが拒否された。デフォルトを使用して区画を再割り振りしようとしたが、スペースは、スペース ID が明示的に指定されて作成された。または、その逆。
- 34 割り振りが拒否された。ページ・マネージャー・テーブルを割り振るために使用できる実記憶が不足している。
- 38 実区画のサイズが対応する仮想区画のサイズを超えている。

ASSIGN

- 04 空き LUB が見つからない。
- 08 指定された装置アドレス (*cuu*) がシステムに定義されていない。
- 0C 指定されたアドレス (*cuu*) の装置がディスクでない。
- 10 指定されたアドレス (*cuu*) の装置が故障。
- 18 システムが空きテープ装置を検出できなかった。
- 1C 指定された論理装置番号が無効。
- 20 指定された装置は予約済み (RESERVE フラグが設定されている)。
- 24 システム機能から渡されたパラメーター・リストが無効。
- 28 使用可能な GETVIS スペースがない。
- 2C 割り当て解除する装置が割り当てられていない。
- 30 指定されたアドレス (*cuu*) の装置は別の区画で割り当てられている。
- 34 割り当て要求が既存の入出力割り当てと対立する。

CDLOAD

- 04 (実) 区画の GETVIS のサイズは OK。
- 08 指定された長さが GETVIS 領域を超えている。
- 0C GETVIS 領域で使用可能なストレージが不足。
- 10 区画の CDLOAD ディレクトリー (アンカー・テーブルともいう) がいっばいで、新しいアンカー・テーブルを割り振るために使用可能なスペース (システム GETVIS 領域) がない。
- 14 フェーズがサブライブラリーに存在しない (この戻りコードは RETPNF=YES でのみ発生する)。
- 18 ロード要求が拒否された。要求されたフェーズは移動モード・タイプです。

CLOSE

OPEN システム機能の戻りコードを参照してください。

CONDJC

- 04 要求された情報が使用不可。
- 08 パラメーター・フィールドが無効なため、要求された機能は実行されなかった。
- 0C GETVIS スペースが使用不可。機能は実行されなかった。

CPCOM

- 01 監視プログラムが MODE=VM で生成されなかったか、または VMESA が VM で実行中でなかった。
- 02 無効なパラメーターがある。

VM がメッセージを出したかどうか調べてください。このメッセージは、エラーの原因をトレースするのに役立ちます。

注: 上記以外の戻りコードが出されることもあります。VM がエラーを検出した場合、戻りコードは、エラーを記述するメッセージの中で表されている数値です。その場合は、「VM システム・メッセージおよびコード」を参照してください。

DSPSERV

- 00 正常終了
- 08 理由コード - 12xx: システムがデータ・スペース用に生成した名前のセットが一時的に使い果たされている。
- 0C リソースの不足が原因で、システムは現在追加のデータ・スペースを作成できない。
- 0C 理由コード - 0600: 使用可能なシステム GETVIS ストレージがない (ページ・マネージャー)。
- 0C 理由コード - 0601: 使用可能な仮想記憶がない (ページ・マネージャー)。
- 0C 理由コード - 0602: 使用可能な実記憶がない (ページ・マネージャー)。

EXTENT

- 04 指定された論理装置が割り当てられていないか、またはサポートされていない。
- 08 システムが、一致するエクステントを検出できない (削除要求または検査要求)。
- 0C これ以上のエクステント領域は使用不可 (追加要求)。
- 10 システム機能から渡されたパラメーター・リストが無効。

EXTRACT

- 04 指定された区画または SID はシステムでサポートされていない。
- 08 指定された論理装置は、関連区画に対する論理装置サポートの範囲を超えている。
- 0C 関連 LUB が割り当てられていない (領域バイト 0 = X'FF') か、または IGN に割り当てられている (領域バイト 0 = X'FE')。
- 10 以下のいずれかです。
 - 指定された長さが最小値より小さいか、または負の値である。
 - 指定された変位 (DISP) が PUB または PUB2 項目の長さを超えている。

FREEVIS

以下の戻りコードのいずれが生じた場合でも、FREEVIS 要求はシステムによって処理されません。

- 04 区画の GETVIS 領域のサイズは OK。
- 08 指定された長さが負の値。
- 0C 指定されたアドレスが SVA または区画の GETVIS 領域にない、またはアドレスが次のものの整数倍ではない。

- GETVIS 領域が区画の一部の場合、128 バイト。
 - GETVIS 領域が SVA または動的スペース GETVIS 領域の一部の場合、16 バイト。
- 10 指定された解放されるストレージ・ブロック (ADDRESS + LENGTH) が GETVIS 領域を超えた、またはサブプールにない。
- 14 FREEVIS オプションが無効。
- 18 サブプール ID フィールドが無効。
- 1C 指定されたサブプールが存在しない。
- 24 無効なサブプール・インデックスが SPID オペランドに指定された。サブプールが、GETVIS オペランド SPCNTRL=YES を指定して作成された (GETVIS マクロと比較)。
- 28 PFIIX 要求が保留されている領域またはサブプールの FREEVIS は許可されていない。

GETVCE

- 04 正常終了。しかし、有効でないデータがある (AVRFLAG で説明)。
- 08 次のいずれかを行ってください。
- 指定されたボリュームが取り付けられていない。
 - 指定された論理装置が割り当てられていない。
 - 指定された装置がシステムで定義されていない。
 - ファイル割り当てが欠落している可能性がある。
- 0C 指定された論理装置は IGNORE として割り当てられている。
- 10 与えられた装置が操作可能でない。
- 14 渡されたパラメーター・リストが無効。例えば、論理装置番号が大きすぎる。
- 18 与えられた論理装置または装置が DASD でない。
- 1C 与えられた装置が作動不能。
- 24 REQUEST=TRKBAL または TRKCAP だけに適用。入力の長さが、指定されたキーとデータ長のレコードに適合しない。MAXSIZE が指定され、少なくとも 1 バイトのデータを書き込むことができた。レジスター 0 はトラックの残り部分に適合するデータ・バイトの最大数を戻します。

GETVIS

- 04 区画の GETVIS 領域のサイズは OK。
- 08 指定された長さが負の値、または GETVIS 領域を超えている。
- 0C GETVIS 領域ではこれ以上の仮想記憶は使用不可である。または、存在しないサブプールまたはフリー・スペースがないサブプールに長さゼロの GETVIS 要求が指定された。
- 10 最大数のサブプールを使い果たした。
- 14 無効な GETVIS オプションが指定された。
- 18 無効なサブプール ID が渡された。
- 20 SVA サブプールの PFIIX 要求が失敗した。
- 24 無効なサブプール・インデックスが指定され、(a) 要求が SPCNTRL=YES で実行された、または (b) 指定されたサブプール名は、SPCNTRL=YES で作成された既存のサブプールの名前である、または (a) と (b) の両方。(提供されたサブプール以外のサブプールを指している場合、サブプール・インデックスは無効です。これには既存のサブプールのゼロのサブプール・インデックスが含まれます)。

- 28 指定されたサブプールへのアクセスは、PREFIX 要求が保留されている限り許可されません。

IDUMP

- 04 ダンプ・ライブラリーがいったいか、またはダンプ・ライブラリーが定義されていない。
- 08 ライブラリー・エラー (入出力エラーまたは OPEN/CLOSE エラー)。
- 0C GETVIS エラー。

LABEL (GETLBL 要求、理由コード 01)

- 04 指定されたラベルは存在しない。
- 08 使用可能なバッファが、検索されるラベル情報レコードの長さより短い。レコードの一部がバッファに転送されました。転送されたバイトの数は LPL の 2 バイト・フィールド LPLLEN に示されます。
- 14 システム機能のパラメーター・リスト (LPL) の内容が無効。
- 1C 使用可能な GETVIS スペースがない。
- 2C ラベル域が定義されていない。VDISK...USAGE=DLA ステートメントが BG スタートアップ・プロシージャにありません。

LABEL (GETNXL 要求、理由コード 02)

- 04 ファイルの追加ラベル情報は存在しない。
- 08 使用可能なバッファが、検索されるラベル情報レコードの長さより短い。レコードの一部がバッファに転送されました。
- 0C この機能の前に、同じファイルを指定した、同一タスクからの GETLBL または GETNXL 要求がない。
- 14 システム機能のパラメーター・リスト (LPL) の内容が無効。
- 2C ラベル域が定義されていない。VDISK...USAGE=DLA ステートメントが BG スタートアップ・プロシージャにありません。

LABEL (REPLBL 要求、理由コード 03)

- 0C 置換レコードが、検索されたラベル情報レコード用でない。または、置換レコードが、変更不可のフィールドを変更しようとした。
- 14 システム機能のパラメーター・リスト (LPL) の内容が無効。
- 2C ラベル域が定義されていない。VDISK...USAGE=DLA ステートメントが BG スタートアップ・プロシージャにありません。

LABEL (ADDLBL 要求、理由コード 04)

- 0C ADDLBL 機能要求の前に、同じラベル情報サブエリアを指定した CLRGRPL 機能要求または別の ADDLBL 機能要求がない。
- 0E LABEL マクロが、ラベル情報を追加するのに必要なバイトが現行トラックに残っているかどうかを判別するために GETVCE マクロを呼び出した。GETVCE 戻りコードが 0 でなく 36 でもなかった。
- 14 システム機能のパラメーター・リスト (LPL) の内容が無効。
- 18 ラベル情報域には使用可能なスペースがない。
- 2C ラベル域が定義されていない。VDISK...USAGE=DLA ステートメントが BG スタートアップ・プロシージャにありません。

LABEL (ADDNXL 要求、理由コード 05)

- 0C 要求側の区画において、この機能要求の前に、同じファイル名を指定した ADDLBL または ADDNXL 要求がない。
- 0E LABEL マクロが、ラベル情報を追加するのに必要なバイトが現行トラックに残っているかどうかを判別するために GETVCE マクロを呼び出した。GETVCE 戻りコードが 0 でなく 36 でもなかった。
- 14 システム機能のパラメーター・リスト (LPL) の内容が無効。
- 18 ラベル情報域には使用可能なスペースがない。
- 2C ラベル域が定義されていない。VDISK...USAGE=DLA ステートメントが BG スタートアップ・プロシージャーにありません。

LABEL (CLRGRPL 要求、理由コード 06)

- 14 システム機能のパラメーター・リスト (LPL) の内容が無効。
- 2C ラベル域が定義されていない。VDISK...USAGE=DLA ステートメントが BG スタートアップ・プロシージャーにありません。

LABEL (ENDLBL 要求、理由コード 07)

- 0D ASSIGN マクロがラベル処理中に呼び出され、0 以外の戻りコードで終了した。
- 2C ラベル域が定義されていない。VDISK...USAGE=DLA ステートメントが BG スタートアップ・プロシージャーにありません。

LABEL (LOCGRPL 要求、理由コード 08)

- 04 指定されたラベル情報サブエリアが空である。
- 14 システム機能のパラメーター・リスト (LPL) の内容が無効。
- 20 更新が進行中、ラベル情報サブエリアはアクセス不可。
- 2C ラベル域が定義されていない。VDISK...USAGE=DLA ステートメントが BG スタートアップ・プロシージャーにありません。

LABEL (GETNXGL 要求、理由コード 09)

- 04 適用可能なラベル情報サブエリアがいっぱい。
- 08 使用可能なバッファが、検索されるラベル情報レコードの長さより短い。レコードの一部がバッファに転送されました。
- 0C この機能要求の前に、同じラベル情報サブエリアを指定した LOCGRPL 要求または別の GETNXGL 要求がない。
- 14 システム機能のパラメーター・リスト (LPL) の内容が無効。
- 20 更新が進行中、ラベル情報サブエリアはアクセス不可。
- 2C ラベル域が定義されていない。VDISK...USAGE=DLA ステートメントが BG スタートアップ・プロシージャーにありません。

LABEL (MODGRPL 要求、理由コード 10)

- 0C この機能の前に ENDLBL 要求がない。
- 14 システム機能のパラメーター・リスト (LPL) の内容が無効。
- 2C ラベル域が定義されていない。VDISK...USAGE=DLA ステートメントが BG スタートアップ・プロシージャーにありません。

LABEL (DELBL 要求、理由コード 13)

- 04 指定されたラベル情報サブエリアが空である。

- 14 以下のいずれかの理由で、システム機能のパラメーター・リスト (LPL) の内容が無効。
- LPLSTORE で許可されるのは LPLTEMP、LPLPERM、または LPLFREE のみ
 - ユーザー提供バッファ内ですべて許可されるテーブル・エントリは 32 個のみ
 - ユーザー提供テーブルはバイト X'FF' で終了しなくてはならない
 - テーブルに重複したファイル名を含むことはできない
- 18 ラベル情報域には使用可能なスペースがない。
- 1C ラベル情報レコードを一時的に保管するために使用可能な GETVIS スペース (区画 GETVIS とシステム GETVIS のいずれも) がない。
- 2C ラベル域が定義されていない。VDISK...USAGE=DLA ステートメントが BG スタートアップ・プロシージャにありません。

LBSERV

理由コードに応じて、次のとおりです。

< C'4000'

RMS により検出されたエラー (「*DFSMS/VM Removable Media Services User's Guide and Reference*」、SC35-0141 を参照)。

> C'5000' および

< C'6000'

VGS により検出されたエラー (「*z/VSE System Macros Reference*」を参照)。

> C'6000'

LBSERV マクロにより検出されたエラー (「*z/VSE System Macros Reference*」を参照)。

戻りコードと理由コードの説明、および LBSERV マクロの詳細については、「*z/VSE System Macros Reference*」を参照してください。

LFCB

- 04 印刷装置の場合、行数/インチは FC によって制御される。マクロに指定された LPI オペランドが FCB イメージ内の行/インチ設定値に合わない。
- 08 指定された論理装置に対して使用可能な LUB がない。
- 0C 指定された論理装置が割り当てられていないか、IGN (無視) として割り当てられている。または、現在割り当て解除されている。
- 10 指定された論理装置が FCB のない装置に割り当てられた。
- 14 指定された論理装置に割り当てられた印刷装置が故障。
- 18 指定された FCB イメージ・フェーズが検出されなかった。
- 1C 指定された論理装置に割り当てられた印刷装置の指定された FCB イメージ・フェーズが、無効か、誤りの長さか、誤りの索引バイトか、FCB データが範囲外か、あるいはチャンネル 1 が欠落している。

LOCK

以下の戻りコードのいずれが生じた場合でも、要求されたリソースは要求側に対してロックされません。

- 04 リソースはすでに、同時アクセスができない状態にロックされている。
- 08 ロック・テーブルがいっぱい。
- 0C 要求が、同一タスクまたは別のタスクからの前の要求と矛盾する。

- 10 要求は、システム内のデッドロック状態を引き起こすことになる (システム間のデッドロックは影響を受けない)。
- 14 DTL フォーマット・エラーが存在する。
- 18 発行タスクが、すでに専有しているリソースをロックしようとした。
- 1C 要求によりロック・ファイル・オーバーフロー条件となった。
- 20 ロック要求がディスク上の共用ファイルに対して出されたが、そのファイルを持つボリュームはオンライン状態でない。
- 24 ロック・ファイルでリカバリー不能の入出力エラーが発生した。 ロック・ファイルを再定義してシステムを始動し直す必要があります。 これはすべての共用システムで行わなければならないなくなります。

MCSOPER

- 00 00 正常終了。
- 04 00 指定名のコンソールはすでにアクティブ (ACTIVATE) であるか、またはアクティブでない (DEACTIVATE)。
- 16 00 入力無効: パラメーター・リストまたは入力パラメーターのアドレスが無効です。
- 16 02 入力無効: 指定されたコンソールはこのタスク (DEACTIVATE) によって非アクティブになりました。
- 16 04 入力無効: 要求された機能は無効です (ACTIVATE、DEACTIVATE のいずれでもない)。
- 16 08 入力無効: 指定された名前に無効文字が含まれているか、事前定義値または有効な z/VSE ユーザー ID のいずれにもなっていません (ACTIVATE)。
- 16 16 入力無効: 指定された MSGDLVRY オプションが無効です (ACTIVATE)。
- 16 24 入力無効: 指定された権限レベル (OPERPARM 域) が無効です。
- 16 32 入力無効: 指定されたメッセージ・レベル (OPERPARM 域) が無効です。
- 16 44 入力無効: パラメーター・リスト内のマクロ頭字語またはバージョン標識が無効です。
- 20 00 サービス・ルーチンの障害。
- 24 00 呼び出し元が、監視プログラム状態、1 次 ASC モード、または 31 ビット・アドレッシング・モードになっていない。

MCSOPMSG

- 00 00 正常終了。REQUEST=GETMSG の場合、理由コード 00 は、また、このコンソールに対して現在キューに入れられたメッセージまたは DOM がこれ以上ないことを示しています。
- 00 01 REQUEST=GETMSG が正常に完了し、このコンソールに 1 つ以上のメッセージがキューに入れられている。
- 00 02 REQUEST=GETMSG が正常に完了し、このコンソールに 1 つ以上の DOM がキューに入れられている。
- 00 03 REQUEST=GETMSG が正常に完了し、このコンソールに 1 つ以上のメッセージと 1 つ以上の DOM がキューに入れられている。
- 04 00 コンソールは中断状態ではなかった (REQUEST=RESUME の場合のみ)。
- 08 00 指定された REQUEST=GETMSG 検索条件 (検索条件がある場合) に合うメッセージがなく、このコンソールに対して現在キューに入れられているメッセージおよび DOM がこれ以上ない。

- 08 01 指定された REQUEST=GETMSG 検索条件に合うメッセージがないが、このコンソールに対してキューに入れられているメッセージが他に 1 つ以上ある。
- 08 02 指定された REQUEST=GETMSG 検索条件に合うメッセージがないが、このコンソールに対してキューに入れられている DOM が他に 1 つ以上ある。
- 08 03 指定された REQUEST=GETMSG 検索条件に合うメッセージがないが、このコンソールに対してキューに入れられているメッセージと DOM がそれぞれ 1 つ以上ある。
- 12 00 コンソールが中断状態になっている (REQUEST=GETMSG の場合のみ)。REQUEST=RESUME を発行しないと、このコンソールに対してメッセージを再度検索することはできません。
- 16 00 入力無効: 要求された機能は無効です (GETMSG、RESUME のいずれでもない)。
- 16 01 コンソール ID 無効: コンソールがアクティブになっていません。
- 16 02 コンソール ID 無効: コンソールがこのタスクでアクティブになりませんでした。
- 20 00 パラメーター・リストまたは入力パラメーターのアドレスが無効。
- 20 01 パラメーター・リストに含まれているマクロ頭字語またはバージョン標識に誤りがある。
- 20 04 コンソールが MSGDLVRY=NONE、または MSGDLVRY=FIFO を指定してアクティブ化されたが、CMDRESP=YES が指定された。
- 20 05 呼び出し元が、監視プログラム状態、1 次 ASC モード、または 31 ビット・アドレッシング・モードになっていない。
- 24 00 サービス・ルーチンの障害。

MGCRE

00 00

処理が正常完了し、入力が受け入れられた。

- 00 01 入力が受け入れられたが、ジョブ制御 // ID ステートメントにパスワードが含まれている可能性があるなど、機密性があると認識された。入力テキストは、オーバーレイ '(PARAMETERS SUPPRESSED)' でログに記録され、一部変更されたテキストが CSA に返されて、コンソールが元の入力テキストではなく、この変更されたテキストをエコーできるようになります。
- 04 00 指定名のコンソールはすでにアクティブになっている。
- 08 01 同じコンソールから同じコマンド・プロセッサに対して出した前のコマンドが完了していないため、コマンドが拒否された。
- 08 02 応答 ID 無効。指定された応答 ID に対応するメッセージが保留されていないか、または、保留メッセージに回答する権限がコンソールにない。
- 08 03 指定されたコマンドの権限がコンソールにない。
- 08 04 アテンション・コマンド・プロセッサがアクティブでない。
- 08 05 再表示コマンド・プロセッサがアクティブでない。
- 08 06 システム・コンソールからの入力は、REMOTE 操作モード (OPERATOR コマンドとの関係あり) により禁止されている。
- 08 07 別のユーザーの再表示モードがすでにアクティブになっている。コンソールがこの状態になる可能性があるのは、コンソールが、UTOKEN パラメーターによって複数のユーザーの代理として作動している場合に限られます。
- 08 08 入力が出口ルーチンから拒否された。

VSE 拡張機能戻りコード

- 08 09 再表示モードがアクティブになっていないため、REDISPLAY C または E が拒否された。
- 08 10 REDISPLAY コマンドが、24 ビット・システム GETVIS ストレージ不足のため、拒否された。
- 08 11 ユーザー・コンソールでコマンドが発行されたが、このコンソールはまだ再表示モード、説明モード、またはヘルプ・モードだった。
- 08 16 指定されたコンソールが中断状態だったため、コマンドが受け入れられなかった。
- 08 17 指定されたコマンド (REDISPLAY、EXPLAIN など) は、非アクティブなコンソールに対してはサポートされていない (CONSNAME が指定されている場合にのみ可能)。
- 08 18 非アクティブなコンソールに対して入力を処理するダミー・コンソールがない (CONSNAME が指定されている場合にのみ該当)。
- 12 00 入力テキストがすべてブランクになっている。
- 12 01 入力長が 0 になっているか、126 (EXPLAIN 以外) を超えている、または EXPLAIN 要求に対して 0 および 12 と異なっている。
- 12 02 入力の先頭が数値になっているが、応答 ID として解釈される 1 から 4 文字の数値の先行トークンがない。
- 16 01 コンソール ID 無効: コンソールがアクティブになっていません。
- 16 02 コンソール ID 無効: コンソールがこのタスクでアクティブになりませんでした。
- 16 08 コンソール名無効: 名前が 4 文字未満であるか、無効文字が含まれる。
- 20 00 サービス・ルーチンの障害。

MODCTB

- 04 指定された PIK は、現在ロード中の監視プログラムに対して無効。
- 08 SEL オペランド内に指定された論理装置が、要求区画に対する論理装置サポートの範囲を超えている。または SEP オペランド内に指定された装置アドレスがシステムに対して定義されていない。
- 0C SEL オペランド内に指定された論理装置が割り当てられていないか、IGN (無視) として割り当てられている。
- 10 以下のいずれかです。
 - LEN オペランドに、長さゼロが (ユーザー域に対して) 指定された。
 - オペランド LEN または DISP (あるいはその両方) に指定された値が、関連装置に対する PUB2 項目の長さを超えた。

MODCTB (LIBSERV 処理で呼び出されたとき)

- 04 指定された CUU に対して使用可能な VOLID がない。
- 08 指定されたアクセス・タイプが R でも W でもない。
- 0C GETVIS 区域が使用可能でない。
- 10 ユーザー域の長さが誤り。
- 14 指定された CUU が定義されていない。
- 18 指定された CUU が、この要求に無効な装置タイプを持っている。
- 1C 装置が、要求側の区画に対して「取り付けられた」状態でない。

MODVCE

- 04 指定された論理装置が割り当てられていない。

- 08 指定された装置アドレスがシステムに対して定義されていない。または、このアドレスの装置は磁気ディスク装置ではない。
- 0C 指定された装置は作動不能である。
- 10 システムが VOL1 ラベルを検出できなかった。または、このラベルが無効。
- 14 指定された装置で別のリカバリー不能な入出力エラーが発生した。
- 18 指定された装置は操作可能でない。

MSAT

- 04 次のいずれかを行ってください。
 - 装置への割り当てが見つからない (ID=CKU 機能)。
 - すべての装置が障害状況か、または、すべての論理装置が現行割り当てと同じ物理装置に割り当てられている (ID=NXT 機能)。
 - 永続割り当てが格納されていない (ID=RSU 機能)。
- 08 スペースが足りず、要求された機能を完了できない。 ID=ALT、ID=ALP、および ID=PER 機能に適用。
- 0C 以下のいずれかです。
 - 代替割り当ての状況と現行割り当ての状況とに互換性がない。 ID=ALT および ID=ALP 機能に適用。
 - 永続割り当てがすでに保管されている。 ID=PER 機能のみに適用。
 - 装置はすでにスプールされている (ID=PST)。または、スプールされていない (ID=PSP)。
 - 装置は、指定された区画で使用中でない (ID=DVR)。
- 10 指定された論理装置は、要求側の区画に対する論理装置サポートの範囲を超えている。
- 14 指定された物理装置はシステム内でサポートされていない。または (ID=PST または PSP) ユニット・レコード装置でない。
- 18 指定された区画はシステムによってサポートされていない。
- 1C 要求された機能はサポートされていない。
- 20 使用可能なユーザー域が小さすぎる。
- 24 指定された装置はすでに別の区画に所有されているか、予約されている (ID=ALT/ALT/NPM/NTM/DVU)。
- 28 指定された装置に障害 (ID=ALP/ALT/NPM/NTM/DVU)。

NPGR

- 00 指定された区画プログラマー LUB 値が受け入れられた。
- 08 NPGR コマンドが拒否された。

すべての区画プログラマー LUB の合計が、監視プログラム生成の NPGR 値より大きい。
- 0C NPGR コマンドが拒否された。

指定された NPGR 値の少なくとも 1 つが、最小値 10 より小さいか、最大値 255 より大きい。
- 10 NPGR コマンドが拒否された。

指定された区画の少なくとも 1 つがすでに開始されていた (現在おそらく非バッチ)。
- 14 NPGR コマンドが拒否された。

VSE 拡張機能戻りコード

BG 用 NPGR が指定されたが、別の区画がすでに開始されていた (現在おそらく非バッチ)。

18 NPGR コマンドが拒否された。

BG LUB の再割り振りが、割り当てられた最大の BG LUB より小さい。

1C NPGR コマンドが拒否された。

サポートされていない区画が指定された。

OPEN

01 要求された動的ストレージ域 (DSA) のスペースは使用不可。

02 要求された DTF 拡張のスペースは使用不可。

03 CI バッファ・スペースは使用不可。

04 保管域のスペースは使用不可。

05 記号ラベル・アクセス (SLA) ルーチンのロード用のスペースは使用不可。

06 システムの共通 VTOC ハンドラー用制御ブロックのスペースは使用不可。

07 DLBL/TLBL 入力域 READIN のスペースは使用不可。

08 エクステン・リスト・テーブル (DTFPH MOUNTED=ALL で定義された FBA 上のファイル OPEN 処理に必要な) のスペースは使用不可。

09 要求された作業域のスペースが使用不可。

0A ユーザー・ラベル処理用の CI バッファ・スペースは使用不可。

0B PRODEXIT 区域の必須スペースが、区画 GETVIS で利用不能。

0C 次のいずれかを行ってください。

- GETVIS 領域においてこれ以上のスペースは使用不可。
- 要求サイズの連続スペースは使用不可。
- 指定された長さは負の値。

PARMMAC

言語処理プログラムからの戻りコード:

04 機能コードが無効。

08 システム機能パラメーターが無効。

0C 必須パラメーターが指定されていない。生成が抑止された。

1C 定義されているシンボル・パラメーターが多すぎる。それらを保管するために最大値 20KB の GETVIS ストレージが使用された。このメッセージは、同じパラメーターに使用されている異なる長さの値が多い場合にも出されます。

サービス機能からの戻りコード:

00 要求が正常に終了した。

08 LENFLD 中の長さが無効。

0C バッファ・パラメーターに対するポインターが無効。

10 GETVAL 要求中にパラメーター未定義。

14 SETPDF 要求が 2 度発生。

18 SETPDF 要求が 2 番目の GETREC 後に生じた。

1C ジョブ内で定義されているシンボル・パラメーターが多すぎる。それらを保管するために最大値 20KB の GETVIS ストレージが使用された。

20 システム GETVIS スペース使用不可。

2C 区画 GETVIS スペース使用不可。

40 機能に対する要求が無効。

PROCMAC

言語処理プログラムからの戻りコード:

- 04 機能コードが無効。
- 08 システム機能パラメーターが無効。
- 12 必須パラメーターが指定されていない。生成が抑止された。

サービス機能からの戻りコード:

- 00 要求が正常に終了した。
- 04 プロシージャーが見つからない。
- 08 EOPREQ がレベル 0 で与えられた。
- 0C GETREC がレベル 0 で与えられた。
- 10 ACCESS がネスト・レベル 15 を超えている。
- 14 ネスト・スタックに重複プロシージャー名がある。
- 18 要求がメンバー外。
- 1C バッファ管理用ポインターが無効。
- 20 システム GETVIS スペース使用不可。
- 24 ライブラリアン・エラー (システム GETVIS スペースが不十分、セキュリティ違反、または、他の不整合)。
- 28 DATA = YES/NO オプションに関係するネストされたスタックが対立。
- 2C 区画 GETVIS スペース使用不可。
- 30 LABEL 要求エラー。
- 34 区画 FREEVIS 障害。
- 40 無効な機能が要求された。

REALAD

- 00 要求仮想アドレスは PFIIX ページにない。

SETLIMIT (サイズ処理により呼び出された)

以下の戻りコードのいずれが生じた場合でも、システムは新規の限界 (SIZE 用) を保管しません。

- 08 区画内のプログラムが現在動的ストレージを使用している。
- 0C SIZE に指定された値が最小区画 GETVIS 領域 (48KB) を残していない。
- 10 SIZE 値が区画の割り振り値を超えている。
- 14 SIZE 値に指定されたプログラム域のサイズは最小許容値よりも小さい。
- 18 区画サイズの永久変更は静的区画に対してだけ許可されている。
- 1C SIZE に指定された値が、16 MB 以下に、最小区画 GETVIS 領域 48KB を残していない。

SETLIMIT (SETPFIIX により呼び出された)

以下の戻りコードのいずれが生じた場合でも、システムは新規の PFIIX 限界を保管しません。

- 08 要求は、現在アクティブである区画に対して与えられたのではない。
- 0C 詳細なエラー情報が JCL によって渡された。
- 10 PFIIX BELOW および PFIIX ABOVE 限界の総計が仮想区画のサイズを超えている。

SLOAD

- 04 フェーズがない (取り消し出口ルーチン X'22')。

VSE 拡張機能戻りコード

- 08 FETCH 入出力エラー (取り消し出口ルーチン X'28')。
- 0C ライブラリー構造が無効 (取り消し出口ルーチン X'29')。
- 10 アドレスが無効 (取り消し出口ルーチン X'25')。
- 14 セキュリティー違反 (取り消し出口ルーチン X'08')。
- 1C 区画 LTA が小さすぎる。
- 24 RMODE 違反が原因でフェーズがロードされていない。

SUBSID (INQUIRY 要求)

- 04 要求された情報が戻された。ただし、同じサブシステムが現在別の区画内でも実行されている。レジスター 0 の高位 2 バイトに、その区画の PIK が入っています。
- 08 要求された情報を入れておくための領域が短すぎる。その結果、戻された情報が切り捨てられた。レジスター 0 の低位 2 バイトに、この情報の全長が入っています。
- 0C 戻りコード 04 と 08 の組み合わせ。
- 10 指定されたサブシステムはシステム上にない。
- 14 要求された照会機能は使用不可。バックレベル監視プログラムがシステム・スタートアップ中にロードされたことが原因。

SUBSID (NOTIFY 要求)

以下の戻りコードのいずれが生じた場合でも、監視プログラムは指定されたサブシステム情報を拒否します。

- 04 指定されたサブシステム名は、すでに要求区画用に格納されている。
- 08 サブシステム情報の可変部が長すぎる。
- 0C システムのサブシステム・リストがいっぱい。
- 10 要求区画に対して、指定したサブシステムが多すぎる。

SUBSID (REMOVE 要求)

- 04 指定された名前では、要求区画に対してサブシステム情報は格納されていない。

SYSDEF

- 1C PFIX ストレージ域のための GETVIS 要求が失敗。

UNLOCK

- 04 指定されたリソースは要求タスクに対してロックされていなかった。
- 08 DTL フォーマット・エラーが存在する。

VALID

CHECK=READ に対する戻りコード:

- 04 ストレージ域は取り出し保護されている。
- 08 アドレスが無効。

CHECK=UPD に対する戻りコード:

- 04 キーが不一致。
- 08 アドレスが無効。

VIO

- 04 要求ブロックは領域外。

- 08 リカバリー不能エラー。
- 0C 不整合状態。

VSAMLK

- 04 戻り情報に対して使用可能な領域が小さすぎる。
- 08 必要 GETVIS 要求に障害。
- 0C システム・ルーチンからゼロ以外の戻り。
- 10 長さ指定または変位指定が無効。

XECBTAB (CHECK 要求)

- 04 指定された XECB 名は XECB テーブルに格納されていない。レジスター 1 と 14 にゼロが設定されています。

XECBTAB (DEFINE 要求)

- 04 指定された XECB の項目がすでに XECB テーブルに存在する。
- 08 XECB テーブルがいっぱい。

XECBTAB (DELETE 要求)

- 04 指定された XECB 項目は XECB テーブルにない。
- 08 要求タスクは指定された XECB を所有していない。

XECBTAB (RESET 要求)

- 04 指定された XECB 項目は XECB テーブルにない。
- 08 要求タスクは指定された XECB を所有していない。

XPOST

- 04 指定された XECB は XECB テーブルにない。
- 0D および 0E

要求タスクは XPOST システム機能を出す権限がない。戻りコードは実際には 0C と、アクセスされたテーブル項目内に格納された XPOST システム機能アクセス・コードとの組み合わせです。

XWAIT

- 04 指定された XECB は XECB テーブルにない。
- 08 指定された XECB を使用して他タスクと通信することは不可能。他タスクが TYPE=DELETALL で XECBTAB システム機能を出しました。
- 0D 要求タスクは XWAIT システム機能を出す権限がない。戻りコードは実際には 0C と、アクセスされたテーブル項目内に格納された XPOST システム機能アクセス・コードとの組み合わせです。

共通 VTOC ハンドラー (CVH) 戻りコード

VTOC ハンドラー機能は、終了後に操作の状況を示すために、完了コードまたは戻りコードをレジスター 15 に設定します。コードは主にシステム・ルーチンによるエラー診断用です。

下の表は、コードとその意味を機能ごとに示しています。要求された機能が正常に終了すると、ゼロの戻りコードがレジスター 15 に設定されます。ゼロ以外の戻りコードが示す条件は表に示されているとおりです。コードは 10 進表記です。

VSE 拡張機能戻りコード

コード*	コードを戻す機能						コードの原因である条件
	Open	Rd	Wr	COV	Scr	Ren	
004		X					VOL1 ラベルの読み取り中に入出力エラー (作動不能、または DASD でない) が発生した (注 1 (635 ページ) を参照)。
008	X						指定されたボリュームが取り付けられていない。または、指定された論理装置が割り当てられていない。
012		X	X	X	X	X	VTOC の読み取り中に入出力エラーが発生した (注 1 (635 ページ) を参照)。
016			X	X			指定されたボリューム上のファイル名が重複している。
020			X				VTOC がいっぱい。
028			X	X			未満了ファイル上でオーバーラップ。
032			X	X			保護されている未満了ファイル上でオーバーラップ。
036			X	X			VTOC 上でオーバーラップ。
044					X	X	フォーマット 1 または次ラベルがない。
048		X	X	X	X		読み取りまたは書き込みアドレスが無効 (注 2 (635 ページ) を参照)。
056			X	X			保護されている未満了ファイル上でオーバーラップ。
064	X	X	X	X	X	X	GETVIS が失敗した。
068					X	X	アクセス制御違反 (注 3 (635 ページ) を参照)。
076			X	X	X	X	VTOC 共用オプションが無効。
080				X	X		提供されたラベル情報によりエクステントのオーバーラップ、または同一ボリューム上での ID の重複が生じる。
084	X						ユーザー提供の作業域が小さすぎる。
088		X	X	X	X	X	フォーマット 4 ラベルがない。
092	X	X					VOL1 ラベルがない。
096	X						SVA EXTENT エクステント処理の失敗 (注 4 (635 ページ) を参照)。
100		X	X	X	X	X	データ・チェック入出力エラー (注 5 (635 ページ) を参照)。
104	X						共通 VTOC ハンドラーのフェーズのロードが失敗。
108			X	X			ラベルはフォーマット 1 でもフォーマット 3 でもない (注 6 (635 ページ) を参照)。
112	X						ロック・テーブルがいっぱい。
116	X						ロック要求がデッドロックとなる。
120	X						ロック要求が矛盾する。
124	X						LOCK/UNLOCK DTL フォーマット・エラーが存在する。
128	X						制御を持つタスクが、すでに所有しているリソースに対してロック要求を出した。
132	X						ロック・ファイルがいっぱい。
136	X						ロック要求が、オンラインでないボリュームに対して出された。
140	X						リカバリー不能のロック・ファイル入出力エラーが発生した。

凡例: Rd = 読み取り
 Wr = 書き込み
 COV = エクステントの overlapping extents
 Scr = スクラッチ
 Ren = 名前変更
 * = 10 進表記

注:

1. IRIOERR=YES がオープン処理用に指定された (CVH マクロ OVTOC 内に) 場合、これはデータ・チェック以外のリカバリー不能の入出力エラーを含みます。
2. アドレスによる読み取り/書き込み、または次の読み取りが要求されましたが、入出力域の中に提供されたアドレスは VTOC の境界の外です。このコードは、次の要求でも発生する可能性があります。
 - 適切な場所への書き込み
 - オーバーラップの有無の検査
 - スクラッチ

これらは、VTOC 内のフォーマット 1 かフォーマット 3 ラベル・チェーンのいずれかに正しくないチェーン・ポインターがある場合に適用されます。
3. データ保護されたファイルに対してスクラッチまたは名前変更が要求された場合、および、PRTBYP=NO が (CVH マクロ PVTOC 内に) 指定された (または、デフォルトにより想定された) 場合に発生します。
4. 理由コードはレジスター 0 に戻されます。これは、要求オープン機能を実行するために EXTENT マクロが出された場合、CVH が受信する戻りコードです。
5. データ・チェックはリカバリー不能の入出力エラーなので、このコードは、オープン要求のために IRIOERR=YES を (CVH マクロ OVTOC 内に) 指定した場合に限り発生する可能性があります。
6. COV はフォーマット 1 とフォーマット 3 ラベルのみをサポートします。このエラーは COVBYP=ON オプションを (CVH マクロ PVTOC 内に) 指定した場合を除いて、全スロット書き込み要求の際にも検出されます。

アクセス制御戻りコード

- 02 区画域に GETVIS スペースが足りないのでフェーズ DTSLOGON をロードできません。SIZE= パラメーターで指定された値を小さくするか、ジョブが実行される区画に割り振られたスペースを増やさなければなりません。
- 10 アクセス制御ルーチン、フェーズ DTSLOGON がカタログされていません。システム・サブライブラリーにフェーズをカタログしなければなりません。
- 20
- アクセス制御テーブル DTSECTAB はロード不可能です。DTSECTAB テーブルをシステム・サブライブラリーに「SVA 適格」としてアセンブルし、リンク・エディットしなければなりません。そうすると、次の // ID ステートメントは新しいテーブルに自動的にアクセスします。

注: このエラーはテーブルがシステム・サブライブラリーから誤って削除された場合にのみ発生します。VSE/AF の下での、またはアクセス制御がない他の監視プログラムの下でのアセンブリ/リンク・エディットが必要です。処理を続行するためにはアクセス制御システムを再 IPL しなければなりません。

- ログオン要求の場合、ユーザー ID は DTSECTAB に入っておらず、RC=20 の意味は、RACROUTE 要求が非ゼロの戻りコードで完了したことを表し、戻りコードの意味が、無効なユーザー ID またはパスワードのときと異なります。さらに詳しい問題判別が必要な場合は、IBM サポートに連絡してください。

OS/390 API 戻りコード

マクロ	戻りコード	理由コード	解説
ALESERV EXTRACTH	60		システム・エラー。 要求は完了しませんでした。
ALESERV DELETE	08		呼び出し元が、ALET によって指定されたアドレス・スペースに対して EAX 許可されていません。 その項目は削除されません。
	64		PSW キー /= 0 を持つ問題プログラム状態の呼び出し側が、CHKEAX=NO を使用して項目を削除しようとした。
ATTACHX	08		環境エラー。 制御ブロックのために使用できるストレージが不足しています。 処理は完了しません。
BLDL	04	00	フェーズが見つかりません。 PDS2TTR フィールドの R 値が X'00' にセットされます。
		04	NOP が要求されました。
	08	00	ディレクトリー探索時の永続入出力エラー。
		1C	BLDL 項目の長さが無効。
		20	ライブラリー構造が無効。
		24	パラメーター・リストが要求側のアドレス限界を超えています。
		28	DCB が要求側のアドレス限界を超えています。
		2C	内部エラー。
DELETE	04		要求されたフェーズがストレージになかったか、削除許可を与えられていない呼び出し側がシステム GETVIS 域 (CSA) のフェーズを削除しようとした。
DEQ	04		タスクのためにリソースが要求されましたが、そのリソースの制御権がタスクに割り当てられていません。 タスクは待ち続けます。(割り込みのために制御権を受け取った出口ルーチンがタスクに代わって DEQ マクロを出した場合に、この戻りコードが生じることがあります。)
	08		リソースの制御がアクティブ・タスクによって要求されていないか、または当該リソースはすでに解放されています。
ENQ	04		当該リソースはすぐに使用できるものではありません。
	08		同じリソースの制御権を求める要求が、すでに同じタスクで行われています。 そのタスクはリソースの制御権を持っています。
	14		同じリソースの制御権を求める要求が、すでに同じタスクで行われています。 そのタスクはリソースの制御権を持っています。
	18		環境エラー。 並行リソース要求の数が限界に達しました。 前の ENQ 要求によってタスクがリソースの制御を獲得していない限り、タスクはリソースの制御権を持っていません。
ESPIE	08		どの ESPIE も活動状態ではありません。 4 ワードのパラメーター・リストに関連情報が含まれていません。
ESTAEX	04	00	プログラム・エラー。 ESTAEX OV が指定されましたが、ESTAEX CT が実行されました。 有効な ESTAEX リカバリー・ルーチンが存在しません。
		04	プログラム・エラー。 ESTAEX OV が指定されましたが、ESTAEX CT が実行されました。最後の ESTAE タイプのリカバリー・ルーチンがユーザーの RB によって所有されていませんでした。

マクロ	戻りコード	理由コード	解説
		08	プログラム・エラー。 ESTAEX OV が指定されましたが、ESTAEX CT が実行されました。最後の ESTAE タイプのリカバリー・ルーチンが現行の連係スタック・レベルで作成されていませんでした。
		0C	プログラム・エラー。 ESTAEX OV が指定されましたが、ESTAEX CT が実行されました。最後のリカバリー・ルーチンが ESTAEX リカバリー・ルーチンではありませんでした。
	08		プログラム・エラー。 ESTAEX 要求が無効でした。
	0C		プログラム・エラー。 ゼロのリカバリー・ルーチン・アドレスが指定され、次のいずれかの条件が検出されました。 <ul style="list-style-type: none"> • この TCB のためのリカバリー・ルーチンがありません。 • 最新のリカバリー・ルーチンが呼び出し側によって所有されていません。 • 最新のリカバリー・ルーチンが ESTAEX リカバリー・ルーチンではありません。 • ESTAEX が TOKEN パラメーターで作成されており、非活性化要求で、次のいずれかの状態にあります。 <ul style="list-style-type: none"> – トークンが指定されていません。または – トークンが一致しません。
	10		システム・エラー。 要求の処理中に、予期しないエラーが検出されました。
	14		環境エラー。 ESTAEX がシステム・データ域のためのストレージを獲得できませんでした。
	18		プログラム・エラー。 ESTAEX OV が要求されましたが、次のいずれかが起こりました。 <ul style="list-style-type: none"> • TOKEN パラメーターが指定されませんでした。 ESTAEX リカバリー・ルーチンが TOKEN パラメーターによって作成されました。(TOKEN パラメーターは、PSW キー 0 を持つ監視プログラム状態のプログラム、または APF 許可されたプログラムでのみ使用できます。) • TOKEN パラメーターが指定されましたが、ESTAE タイプのリカバリー・ルーチンが現行 RB によって所有されていません。 • TOKEN パラメーターが指定されませんでした。 ESTAEX リカバリー・ルーチンが TOKEN パラメーターによって作成されました。
	1C		プログラム・エラー。 ESTAEX は入力パラメーター・リストにアクセスできませんでした。
	24		プログラム・エラー。 ゼロのリカバリー・ルーチン・アドレスが指定されましたが、現行連係スタック・レベルに関して活動状態の ESTAEX リカバリー・ルーチンがなかったので拒否されました。
	28		プログラム・エラー。 呼び出し側が使用禁止にされていました。
	2C		プログラム・エラー。 呼び出し側がロックされていました。
	30		プログラム・エラー。 呼び出し側は現行 FRR スタック上に FRR を持っていました。

マクロ	戻りコード	理由コード	解説
ETDES	04		指定された項目テーブルは破棄されました。リンケージ・インデックスへの接続がありましたが、PURGE=YES が指定されたため、その項目テーブルは切り離されました。
FREEMAIN	04		プログラム・エラー。 要求されたすべての仮想記憶が解放されたわけではありません。 理由は、次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> 解放するストレージ域のアドレスが正しくありません。 指定されたサブプールが、解放するストレージのサブプールと一致していません。 指定されたキーが、解放するストレージのキーと一致していません。
	08		プログラム・エラー。 解放するストレージの一部が固定されていたために、仮想記憶が解放されませんでした。 理由は、次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> 誤ったストレージ・アドレスを FREEMAIN マクロに渡しました。 固定されたストレージを解放しようとした。
GETMAIN	04		環境エラーまたはシステム・エラー。 利用できるストレージが十分でないため、仮想記憶を獲得できませんでした。
	08		システム・エラー。 システムがストレージを PFIX できないため、仮想記憶を獲得できませんでした。
LXFRE	04		指定されたリンケージ・インデックスが解放されました。項目テーブルは接続されていましたが、FORCE が指定されたため、正常に実行されました。
	08		指定されたリンケージ・インデックスの一部が解放されました。項目テーブルは接続されていましたが、FORCE が指定されましたが、必要な切断が 1 つ以上失敗しました。この状況では、LXFRE を出したユーザーが処置を取る必要はありません。
STORAGE OBTAIN	04		環境エラーまたはシステム・エラー。 利用できるストレージが十分でないため、仮想記憶を獲得できませんでした。
	08		システム・エラー。 システムがストレージを PFIX できないため、仮想記憶を獲得できませんでした。
STORAGE RELEASE	04		プログラム・エラー。 要求されたすべての仮想記憶が解放されたわけではありません。 理由は、次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> 解放するストレージ域のアドレスが正しくありません。 指定されたサブプールが、解放するストレージのサブプールと一致していません。 指定されたキーが、解放するストレージのキーと一致していません。
	08		プログラム・エラー。 解放するストレージの一部が固定されていたために、仮想記憶が解放されませんでした。 理由は、次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> 誤ったストレージ・アドレスを STORAGE マクロに渡しました。 固定されたストレージを解放しようとした。
TIME	04		プログラミング・エラー。 TOD クロックが初期設定されていません。
	08		環境エラー。 TOD クロックが使用可能ではありません。
	0C		システム・エラー。 予期しないエラー。

マクロ	戻りコード	理由コード	解説
	10		プログラミング・エラー。パラメーター・リストがアドレス可能ストレージ内にありません。

基本セキュリティー・マネージャー (BSM) 戻りコード

この節では、z/VSE 基本セキュリティー・マネージャー (BSM) によって出される RACROUTE 戻りコードのみを示します。外部セキュリティー・マネージャーを使用されている場合は、それに関する資料を参照してください。

注: 戻りコードと理由コードはすべて 16 進数で示されています。

RACROUTE REQUEST=AUDIT

SAF-RC

SAF 戻りコードの意味

04 要求された機能を実行できませんでした。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

00 セキュリティーの決定を行うことができませんでした。

REAS.-C

理由コードの意味

00 その要求、リソース、サブシステムの組み合わせは、BSM ではサポートされていません。

RACROUTE REQUEST=AUTH

SAF-RC

SAF 戻りコードの意味

00 要求が正常に完了しました。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

00 そのユーザーは、保護リソースの使用を獲得することを BSM によって許可されています。

REAS.-C

理由コードの意味

00 正常完了。

04 要求された機能を実行できませんでした。BSM による決定は行われません。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

00 セキュリティーの決定を行うことができませんでした。

REAS.-C

理由コードの意味

00 以下のいずれかが起こりました。

- BSM はインストールされません。
- クラスが BSM によってサポートされていないか、クラス・テーブルが欠落しています。
- 要求リソースの組み合わせが BSM ではサポートされていません。

- 04** 指定されたリソースは保護されていません。以下のいずれかが起こりました。
- リソースを保護するプロファイルがありません。
 - 指定されたクラスが活動状態ではありません。
 - 指定されたクラスでは、LIST 要求を活動状態にする必要がありますが、活動状態になっていません。

EB LABEL マクロからの予期しない戻りコード。

REAS.-C

理由コードの意味

xx LABEL 戻りコード。

EC SECHECK マクロからの予期しない戻りコード。

REAS.-C

理由コードの意味

xx SECHECK 戻りコード。

EE 許可検査中の処理エラー。

REAS.-C

理由コードの意味

xx '20'x - '2F'x は、トランザクション検査プログラムからの戻りコードです。

08 要求された機能が失敗しました。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

08 そのユーザーは、指定された保護リソースの使用を獲得することを BSM によって許可されていません。

64 この RACROUTE マクロの実行形式に、RELEASE キーワードの CHECK サブパラメーターが指定されたことを示します。しかし、このマクロのリスト形式に、同じ RELEASE パラメーターがありません。マクロ処理は終了します。

RACROUTE REQUEST=DEFINE

SAF-RC

SAF 戻りコードの意味

04 要求された機能を実行できませんでした。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

00 セキュリティーの決定を行うことができませんでした。

REAS.-C

理由コードの意味

00 その要求、リソース、サブシステムの組み合わせは、BSM ではサポートされていません。

RACROUTE REQUEST=DIRAUTH**SAF-RC**

SAF 戻りコードの意味

04 要求された機能を実行できませんでした。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

00 セキュリティーの決定を行うことができませんでした。

REAS.-C

理由コードの意味

00 その要求、リソース、サブシステムの組み合わせは、BSM
ではサポートされていません。**RACROUTE REQUEST=EXTRACT****SAF-RC**

SAF 戻りコードの意味

00 要求が正常に完了しました。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

00 抽出が正常に完了しました。

REAS.-C

理由コードの意味

00 サポートされていない DERIVE 要求の場合のみ有効。

04 要求された機能を実行できませんでした。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

00 セキュリティーの決定を行うことができませんでした。

REAS.-C

理由コードの意味

00 BSM ルーターはロードされません。その要求、リソ
ース、サブシステムの組み合わせは、BSM ではサポートされ
ていません。

08 プロファイルが見つかりません。

REAS.-C

理由コードの意味

00 プロファイルが見つかりません。

08 セグメントが見つかりません。

0C BSM または BSM サーバーが活動状態ではありません。

14 TYPE=EXTRACT の USER クラス・データの場合は、ENTITYX
が指定されておらず、ACEE が存在しないか、定義されたユーザ
ーの ACEE ではありませんでした。**REAS.-C**

理由コードの意味

00 ACEE が存在していません。

08 要求された機能が失敗しました。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

- 18 パラメーター・リスト・エラーが検出されました。

REAS.-C

理由コードの意味

- 08 指定されたタイプが無効。
0C フィールドの数が無効。
10 指定されたクラス名が無効。
14 パラメーター・リスト内のバージョンが無効。
1C パラメーターの長さが無効。
48 ENTITYX キーワードで指定された項目名の長さが無効。
• 指定された長さがゼロより小さい。
• CLASS=USER の場合に、指定された長さが 8 より大きい。
4C ENTITYX キーワードで指定されたバッファ長が無効。
• ゼロより小さい。
• 255 より大きい。
• ゼロではないが、項目名の長さより小さい。
50 項目名に空白が含まれています。
• ENTITYX キーワードが指定され、項目名の長さが与えられた場合、名前は、先頭、中央、または最後に空白を持っています。
- 64 この RACROUTE マクロの実行形式に、RELEASE キーワードの CHECK サブパラメーターが指定されたことを示します。しかし、このマクロのリスト形式に、同じ RELEASE パラメーターがありません。また、リスト形式と実行形式に指定された TYPE パラメーターが同じ TYPE ではない可能性があることも示します。マクロ処理は終了します。

RACROUTE REQUEST=FASTAUTH

SAF-RC

SAF 戻りコードの意味

- 00 要求が正常に完了しました。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

- 00 そのユーザーは、保護リソースの使用を獲得することを BSM によって許可されています。

REAS.-C

理由コードの意味

- 00 正常完了。
04 要求された機能を実行できませんでした。BSM による決定は行われません。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

- 00 セキュリティーの決定を行うことができませんでした。

REAS.-C

理由コードの意味

- 00 BSM が活動状態でないか、要求、リソースの組み合わせが BSM ではサポートされていません。
 - 04 指定されたリソース名またはクラス名が BSM に定義されていないか、またはクラスが RACLIST されていません。
 - EE 処理エラー。
- REAS.-C**
理由コードの意味
- 15 与えられたトランザクション名が無効。
 - 16 提供された ACEE が無効。
 - 17 ACEE BSM 拡張がありません。
 - 18 DTSECTXN にアクセス・クラスが指定されていません。
- 08 要求された機能が失敗しました。
- BSM-RC**
BSM 戻りコードの意味
- 08 そのユーザーは、指定された保護リソースの使用を獲得することを BSM によって許可されていません。
 - 64 この RACROUTE マクロの実行形式に、RELEASE キーワードの CHECK サブパラメーターが指定されたことを示します。しかし、このマクロのリスト形式に、同じ RELEASE パラメーターがありません。マクロ処理は終了します。

RACROUTE REQUEST=LIST

SAF-RC

- 00 SAF 戻りコードの意味
要求が正常に完了しました。

BSM-RC

- 00 BSM 戻りコードの意味
機能が正常に完了しました。

REAS.-C

- 理由コードの意味
- 00 削除要求が正しく行われました。作成要求が正しく行われ、プロファイルがリストされました。
- 04 要求された機能を実行できませんでした。

BSM-RC

- 00 BSM 戻りコードの意味
セキュリティの決定を行うことができませんでした。

REAS.-C

- 理由コードの意味
- 00 BSM ルーターはロードされません。要求されたリソースの組み合わせが BSM ではサポートされていません。
- 08 指定されたクラスは BSM に定義されていません。
- 08 要求された機能が失敗しました。

BSM-RC

- 00 BSM 戻りコードの意味
RACROUTE REQUEST=LIST 処理中にエラーが検出されました。

REAS.-C

理由コードの意味

- 0010 クラス・テーブルはロードされません。
 - 0020 サーバー要求が失敗しました。
 - 10xx xx = VSE LOAD エラー戻りコード。
 - 20xx xx = VSE GETVIS エラー戻りコード。
- 18 パラメーター・リスト・エラー。

REAS.-C

理由コードの意味

- 10 要求タイプが無効 (DEFINE または DELETE でない)。
- 64 この RACROUTE マクロの実行形式に、RELEASE キーワードの CHECK サブパラメーターが指定されたことを示します。しかし、このマクロのリスト形式に、同じ RELEASE パラメーターがありません。マクロ処理は終了します。

RACROUTE REQUEST=SIGNON

SAF-RC

SAF 戻りコードの意味

- 04 要求された機能を完了できませんでした。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

- 00 BSM は、RACROUTE REQUEST=SIGNON 要求を処理できませんでした。

REAS.-C

理由コードの意味

- 00 以下のいずれかが起こりました。
 - BSM はインストールされません。
 - BSM はこの要求をサポートしていません。

RACROUTE REQUEST=STAT

SAF-RC

SAF 戻りコードの意味

- 00 要求された機能が正常に完了しました。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

- 00 BSM が活動状態であり、CLASS= が指定されていた場合は、クラスが活動状態です。
- 04 要求された機能を実行できませんでした。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

- 00 セキュリティーの決定を行うことができませんでした。

REAS.-C

理由コードの意味

- 00 その要求、リソース、サブシステムの組み合わせは、BSM ではサポートされていません。

- 04 BSM は活動状態ですが、クラスが非活動状態です。
- 08 BSM は活動状態ですが、クラスが BSM に定義されていません。

REAS.-C

理由コードの意味

- 00 クラスがクラス・テーブルに定義されていません。
 - 30 クラス・テーブルが欠落しています。
- 64 この RACROUTE マクロの実行形式に、RELEASE キーワードの CHECK サブパラメーターが指定されたことを示します。しかし、このマクロのリスト形式に、同じ RELEASE パラメーターがありません。マクロ処理は終了します。

RACROUTE REQUEST=TOKENBLD**SAF-RC**

SAF 戻りコードの意味

- 00 要求が正常に完了しました。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

- 08 要求が正常に完了しました。

REAS.-C

理由コードの意味

- 10 指定された TOKNOUT 区域が予期したよりも大きなものでした。戻り時、トークン長フィールドには予期した長さが入れられます。
 - 14 指定された STOKEN 区域が予期したよりも大きなものでした。
 - 20 指定された TOKNIN 区域が予期したよりも大きなものでした。
- 08 要求された機能が失敗しました。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

- 00 機能を開始する前にエラーが発生しました。

REAS.-C

理由コードの意味

- 00 リカバリー環境を確立できませんでした。

RACROUTE REQUEST=TOKENMAP**SAF-RC**

SAF 戻りコードの意味

- 00 要求が正常に完了しました。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

- 00 理由は、以下の 16 進理由コードで示されます。

REAS.-C

理由コードの意味

BSM 戻りコード

- 00 要求は正しく行われました。
 - 04 TOKEN は変換されませんでした。すでに要求された形式にあります。
 - 0C TOKNOUT 区域が大きすぎます。トークンは正常に抽出されました。
- 04 要求が正常に完了しませんでした。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

- 00 理由は、以下の 16 進理由コードで示されます。

REAS.-C

理由コードの意味

- 00 非 VSE 環境で XMREQ=YES が指定されました。

RACROUTE REQUEST=TOKENXTR

SAF-RC

SAF 戻りコードの意味

- 00 要求が正常に完了しました。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

- 00 理由は、以下の 16 進理由コードで示されます。

REAS.-C

理由コードの意味

- 00 要求は正しく行われました。
 - 04 与えられた ACEE が無効 (下位レベル)。情報を抽出できない場合は、デフォルトの情報が使用されます。
 - 08 利用できる ACEE がありません。情報を抽出できない場合は、デフォルトの情報が使用されます。
 - 0C TOKNOUT 区域の長さが大きすぎます。
- 04 要求が正常に完了しませんでした。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

- 00 理由は、以下の 16 進理由コードで示されます。

REAS.-C

理由コードの意味

- 00 非 VSE 環境で XMREQ=YES が指定されました。

RACROUTE REQUEST=VERIFY

SAF-RC

SAF 戻りコードの意味

- 00 要求が正常に完了しました。

BSM-RC

BSM 戻りコードの意味

- 00 正常完了を示します。
- 04 トークン検査情報。

REAS.-C

理由コードの意味

- 0C TOKNIN が指定されたが、その長さが大きすぎることを示します。
 - 10 STOKEN が指定されたが、その長さが大きすぎることを示します。
- 04 要求された機能を実行できませんでした。

BSM-RC**BSM** 戻りコードの意味

- 00 ENVIR=VERIFY が、SAF インストール・システム出口処理なしに指定されました。
- 04 ユーザー・プロファイルが BSM に定義されていません。

REAS.-C

理由コードの意味

- 04 VSE: サポートされない 対話式インターフェース ユーザー・レコード・バージョン。
 - 20 BSM または BSM サーバーが活動状態ではありません。
- 08 要求された機能が失敗しました。

BSM-RC**BSM** 戻りコードの意味

- 08 パスワードが許可されていません。
 - 0C パスワードの有効期限が切れています。
 - 10 新規パスワードが無効です。
 - 1C ユーザーのアクセスが取り消されました。
 - 28 OIDCARD パラメーターが必要ですが、指定されていません。
 - 2C OIDCARD パラメーターは、指定されたユーザーには無効です。
 - 34 ユーザーがアプリケーションを使用する権限がない
 - 44 デフォルトのトークンが入力トークンとして使用されます。
- 64 この RACROUTE マクロの実行形式に、RELEASE キーワードの CHECK サブパラメーターが指定されたことを示します。しかし、このマクロのリスト形式に、同じ RELEASE パラメーターがありません。マクロ処理は終了します。

RACROUTE REQUEST=VERIFYX**SAF-RC****SAF** 戻りコードの意味

- 00 要求が正常に完了しました。

BSM-RC**BSM** 戻りコードの意味

- 3C 要求は正常に完了しましたが、SAF で VERIFYX 条件が起きました。

REAS.-C

理由コードの意味

- 20 指定された TOKNOUT 区域が大きすぎました。戻り時、長さフィールドには使用された長さが入れられます。
- 24 指定された STOKEN 区域が大きすぎました。

BSM 戻りコード

- 04 30 指定された TOKNIN 区域が大きすぎました。
要求された機能を実行できませんでした。
- BSM-RC**
BSM 戻りコードの意味
- 00 セキュリティーの決定を行うことができませんでした。
- REAS.-C**
理由コードの意味
- 00 BSM はロードされませんでした。出口処理を正しく行うことはできません。
- 20 BSM が活動状態ではありません。
- 3C BSM はインストールされません。
- 08 要求された機能が失敗しました。
- BSM-RC**
BSM 戻りコードの意味
- 00 デフォルトの ACEE またはトークン・ビルド・エラー。
- REAS.-C**
理由コードの意味
- 00 SAF がリカバリー環境を設定できませんでした。
- 04 ユーザー・プロファイルが BSM に定義されていません。
- 08 パスワードが許可されていません。
- 0C パスワードの有効期限が切れています。
- 10 新規パスワードが無効です。
- 1C ユーザーのアクセスが取り消されました。
- 28 OIDCARD パラメーターが必要ですが、指定されていません。
- 2C OIDCARD パラメーターは、指定されたユーザーには無効です。
- 3C SAF で VERIFYX エラーが発生しました。
- REAS.-C**
理由コードの意味
- 04 旧パスワードが必要です。
- 08 ユーザー ID が必要です。
- 0C 伝搬検査を完了できません。リカバリー環境を設定できませんでした。
- 44 デフォルトのトークンが入力トークンとして使用されます。
- 64 この RACROUTE マクロの実行形式に、RELEASE キーワードの CHECK サブパラメーターが指定されたことを示します。しかし、このマクロのリスト形式に、同じ RELEASE パラメーターがありません。マクロ処理は終了します。

SVC エラー

この付録は、メッセージ OS04I により示される無効 SVC 条件の場合に、発生する可能性のあるエラーを SVC の昇順にリストしたものです。リストの中の SVC コードは 16 進表記です。

全コード

ユーザー作成の MICR 装置用スタッカー選択ルーチンでは、システムは SVC 28 (EXITMR マクロ) のみ受け入れる。

- 00 次のようなエラーにより、メッセージが出る。
- レジスター 1 が指す位置のストレージに CCB または IORB がない。
 - 関連 CCB または IORB (またはブロックの拡張) が上書きされた。
 - 該当する CCW (または CCW チェーン) が無効です。
 - レジスター 1 保管域フィールドが上書きされた。
- 02 LIOCS ルーチンが関与する場合: マクロが正しくない順序で呼び出された。SVC 8 が SVC 2 に続いて発生したが、その間に一時域を解放する SVC 9 がなかった。
- LIOCS ルーチンが関与しない場合: ユーザー作成プログラムに論理一時域用の一時出口ルーチン (SVC 8) が含まれている。この出口ルーチンで、一時域を解放するために SVC 9 を出す前に SVC 2 を出して、他の一時ルーチン呼び出ししている。例えば、LVTOC 実行中に、出力ディスクを定義する EXTENT ステートメント内のエクステントの指定が小さすぎる場合、このエラーが発生する。
- 現行タスクが LTA を所有しているときに、SVC 2 がベンダー出口から発行されたが、これは許可されない。
- 08 SVC が論理一時域のルーチンから出されなかった。
- 09 SVC が論理一時域を所有していないタスクによって出された。
- 0B SVC が論理一時域のルーチンによって出されなかった。
- 10 SVC が出口ルーチン内で出された。
- 11 SVC が PC 出口ルーチンの外側で出された。
- 12 SVC が出口ルーチン内で出された。
- 13 SVC が IT 出口ルーチンの外側で出された。
- 14 SVC が出口ルーチン内で出された。
- 15 SVC が OC 出口ルーチンの外側で出された。
- 16 区画キー設定が獲得機能または使用不可機能 (あるいはその両方) と一緒に要求された。
- 21 システムが電源オフまたは他の要求タイプを無効な要求側またはサブシステムから受信した。
- 23 以下のいずれかです。
- 16 を超える HOLD が同一のトラックまたは同一のブロック範囲に対して出された。
 - トラック保護テーブルの項目数を超える HOLD が同一のタスクに対して出された。
- 24 FREE が非 DASD 装置に対して、または以前に HOLD されていないトラックに対して出された。
- 25 SVC が出口ルーチン内で出された。
- 27 DETACH エラー。例えば、
- メインタスクが SAVE= の指定のない DETACH マクロを出した。
 - DETACH マクロが出されたが、監視プログラムに渡される保管域には、無効なサブタスク ID が保管されている。
- 28 SAVE= の指定のある POST マクロが出されたが、指定された保管域に保管されている ID は、呼び出し側の区画のタスクを識別しない。
- 29 DEQ マクロが、指定のリソースをエンキュー (ENQ マクロによる) しなかったタスクによって出された。
- 2A 次のいずれかを行ってください。
- ECB のないサブタスクが ENQ マクロを出した。

- サブタスクが、別の終了したタスクによってエンキューされたリソースに対して ENQ マクロを出した (このリソースはそのタスクの終了前にデキューされなかった)。
 - タスクが同一リソースに対して 2 つの ENQ マクロを出し、その間で DEQ マクロを出さなかった。
- 31 VTAM がアクティブでないか、または、まだ初期設定されていない。
- 32 LIOCS エラー。例えば、
- ファイルのエクステント上限を超えてファイルにアクセスしようとした。
 - 命令マクロ (例えば、WRITE または PUT) がファイルに対して出されたが、要求されたアクセス・サービスはそのファイルに対して使用可能でない。
 - 印刷装置に無効な ASA 制御文字が使用された。
 - 1287 文書の処理中に、ファイルに対して RECFORM=UNDEF が指定されているときに、誤長レコード指示が発生した。
 - 1287 プログラムに、SLI フラグがオフに設定されている CCW が誤って含まれていた。
 - 多機能カード・マシンまたは 3525 カード穿孔装置で関連ファイルを使用するプログラムで、マクロ・シーケンス・エラーが発生した (読み取り/穿孔の関連ファイルが使用される場合は、GET-PUT シーケンスが維持される必要がある)。
 - 3886 の場合:
 - 最小より短い、または最大より長い書式レコードが SETDEV マクロによってロードされた。
 - DTFDR マクロに指定された書式レコードの長さが、SETDEV マクロによってロードされようとしている書式レコードの長さより短い。
 - 事前にオープンされていないファイルの書式レコードをロードしようとした (SETDEV によって)。
 - WAITF マクロに複数のファイル名が指定された。
 - FBA ディスク上のファイルの場合に、OPEN ルーチンが事前割り振りの作業域を超えているため、スペースが足りずメッセージを出せない。
 - CI 形式のアクセス方式に適用 :
 - ファイル用のユーザー作成エラー出口ルーチンの処理中に、ERET 以外の命令マクロが同じファイルに対して出された。
 - VSE/VSAM の OPEN または CLOSE ルーチンが、サポートされていないメッセージを出そうとした。
 - VSE/VSAM の OPEN または CLOSE ルーチンに、使用可能な動的保管域スペースが十分でない。
 - FEOD または OPEN の直後に PUT が入力ファイルに対して出された。
 - 誤長レコード・ユーザー・エラー出口から ERET RETRY が出された。
 - 可変出力ファイルの場合に、BLKSIZE=value に指定された値より長い論理レコードに対して PUT が出された。
 - PWRITE=YES が指定され、プログラムが POINT を出した。
 - DTFSD システム・ファイルの場合に、ユーザー・エラー出口から ERET RETRY が出された。

- DTFSD 作業ファイルの場合に、CI 内の 255 番目の論理ブロックを超えた論理ブロックにあるレコードに対して NOTE が出された (これは、アクセスされているファイルが DTFSD TYPEFLE=WORK 以外の指定により作成または変更された場合にのみ発生します)。
 - ユーザー作成プログラムが OPEN 処理後に DTF ブロックを変更し、その結果、アクセス方式に対して不適切なファイル記述が生じた。
 - オブジェクト・プログラムの中で誤長レコードが検出された。または、オープンされていないファイルに対して入出力要求が出された。
 - DTFSD 作業ファイルの場合に、無効な検索指数を指定した POINTR または POINTW が出された。
- 35** VTAM がアクティブでないか、または、まだ初期設定されていない。
- 38** SUPVR マクロ内に VM=YES を指定せずに監視プログラムを生成した。
- 39** 負の値の領域長 (レジスター 0 内) が監視プログラムに渡された。
- 50** 誤った時間値がレジスター 1 に入れられた。
- 51** この区画に対してタスク・タイマーが定義されていない。または、SVC 50 で渡されたパラメーターが無効である。
- 5F** SVC が EXIT AB ルーチンの外側で出された。
- 60** SVC が EXIT TT ルーチンの外側で出された。または、SVC 50 で渡されたパラメーターが無効である。
- 61** SVC が出口ルーチン内で出された。または、タスク・タイマーがこの区画に対して定義されていない。
- 62** 次のいずれかを行ってください。
- ID パラメーターの指定が無効です。
 - PIK が要求されたが、要求側プログラムは 0 以外のストレージ保護キーで実行される。
 - SEP が要求されたが、要求側プログラムは 0 以外のストレージ保護キーで実行される。
- 67** SVC が非 FBA 装置またはプログラマー論理装置に対して出された。
- 6E** LOCK または UNLOCK 要求が出されたが、エラーが発生した (例えば、DTL ブロックが無効であることが判明した。上書きされた可能性がある)。
- 71** 区画間通信制御要求が出されたが、次のようなエラーが発生した。
- 無効なサブシステム名が使用された。
 - 要求側は指定されたサブシステム名の使用を許可されていない。
 - 要求側ユーザー作成プログラムが CONNECT ANY を指定した。
- 8D** ユーザー間通信機能 (IUCV) 要求が出されたが、次のようなエラーが発生した。
- 要求側が VTAM 通信ネットワーク・アプリケーション (VCNA) プログラムでない。
 - 要求側がメインタスクでない。
 - 仮想 VSE システムとの VM/SP インターフェースが VM システムに存在しない。
 - 仮想 VSE システム用の IPL の実行時に、IUCV QUERY が失敗した。

SVC エラー

第 18 章 z/VSE 対話式インターフェースのコード

エラー発生時に、対話式インターフェースのコードがユーザーの表示装置に出されることがあります。経験を積んだシステム・ユーザーの場合、示された問題によっては、自分で解決できることがあります。しかし、多くの場合、IBM サポートに連絡をとる必要があります。対話式インターフェースは、異常終了コードまたはエラー・コードを出します。

異常終了コード

異常終了コードは、ダイアログ・マネージャーの異常終了の原因を示すためにユーザーの画面に表示されます (AT04 を除く)。

この種のエラーが発生すると、システムは VSE/ICCF ダンプ・モードに入ります。ユーザーは、VSE/ICCF ダンプ・コマンドを使用して、エラーの診断に必要な重要な領域を表示することができます。関連 DTRLxxxx エラー・ログ・レコード (xxxx は VSE/ICCF ユーザー ID) を表示するには、次のように入力してください。

DIN GPRA F34 +80

エラー・ログ・レコードが検出されない場合は、次のように入力してください。

DIN GPRA F8 +80

DTRDDMIO(DIWA) の 1K の作業域のアドレスを表示するには、次のように入力してください。

DIN GPRA D88

その他のコマンドについては、以下のコードの説明の中で示されています。

コード 説明

AT01 FCB 用の初期 GETVIS が失敗した。

AT02 初期 PCB 用の GETVIS が失敗した。

AT03 ルート・フェーズ (ロードされる最初のフェーズ) が、割り振られた問題プログラム・ストレージ域に対して大きすぎる。

AT04 エラー・メッセージ用の入出力域を作成するためのストレージが不足している。このエラーにより、システム・ダンプが強制的に取られます (汎用レジスター 15 に 16 進表記の 'AT04' が入っています)。

AT05 呼び出されたフェーズ (ロードされるフェーズ) が、割り振られた問題プログラム・ストレージ域に対して大きすぎる。

DM01

要求サービスが INITIAL でなく、かつ UCA が存在しない。

DM02

エラーをログに記録しようとしていたときにエラーが発生した。この問題は、通常、以下の場合に発生します。

- ICCF ライブラリーまたはディレクトリーがいっぱいである。または
- 対話区画に十分な GETVIS 領域がない。

DM03

システム・メッセージ・ファイル (DTR\$MSG) を使用しようとしていたときにエラーが発生した。

DM04

リカバリー不能エラーが発生した。

ダンプ・コマンド **DIN GPRA F34 +80** を使用して、エラー・ログ・レコード **DTRLxxxx** を表示し、分析してください。

DM05

必須のダイアログ・マネージャー制御ブロックのために使用できるフリー・ストレージがない。

DM06

リカバリー不能な論理エラーが発生した。

DM07

予約済み

DM08

ライブラリー・ディレクトリーまたはファイルがいっぱいという条件が発生した。 ダンプ・コマンド **DIN GPRA F34 +80** を使用して、エラー・ログ・レコード **DTRLxxxx** を表示し、分析してください。 エラー・コード **IO10** または **IO11** が見つかるはずですが、それらの意味は次のとおりです。

IO10: ディレクトリーがいっぱい。

IO11: ファイルがいっぱい。

DM09

VSE/ICCF の下でモジュール **DTRDDMIO** によって出された。 **IO_{nn}** エラー・コードをログに記録しようとしていたときに、**DTSCLPRC** から不当な戻りコードを受信した。

DM10

VSE/ICCF の下でモジュール **DTRDDMIO** または **DTRDDMSW** によって出された。 論理エラーが発生した。 ダンプ・コマンド **DIN GPRA F34 +80** を使用して、エラー・ログ・レコード **DTRLxxxx** を表示してください。

エラー・ログ・レコードのフィールド **UCAERCL** に保管されている 3 バイト (位置 37 から 39) に、デバッグ情報 (モジュール内のオフセット) が入っています。これを保管してください。

DM11

VSE/ICCF の下でモジュール **DTRDDMIO** によって出された。 ダイアログ・マネージャーに必要な VSE/ICCF ライブラリー・メンバーの「更新中」(**UPIP**) ビットがオンである。

ダンプ・コマンド **DIN GPRD 0 50 (50...90)** を使用して、前の VSE/ICCF 要求 (影響を受けた VSE/ICCF ライブラリー・メンバー名を含む) を表示してください。

次に、ICCF コマンド・モードでコマンド **/PROTECT membername UPIP** を出し、タスクを繰り返してください。

エラー・コード

エラー・コードは、以下のメッセージのいずれかによって、画面に表示されます。

- ABEND. REFER TO ERROR LOG ENTRY.
- THE PROGRAM YOU WERE USING ENDED ABNORMALLY. PRESS PF1 FOR MORE INFORMATION.

同時に、エラーが VSE/ICCF 1 次ライブラリーのメンバー **DTRLxxxx** (xxxx は VSE/ICCF ユーザー ID) に記録されます。DTRLxxxx には次のような情報が入っています。

```
ABEND. REFER TO ERROR LOG ENTRY.
TEDIT  ADM$HDWT 0747 TEDIT  TB03
      TB03 -AN INVALID DESCRIPTOR ROW WAS READ
           WHILE PREPARING A TABLE FOR PROCESSING.
MEMBER DTRMSG OF LIBRARY 2 SHOWS
      THE FORMAT OF THE ABOVE RECORD.
```

意味は次のとおりです。

- 最初の行は、画面に表示されているメッセージです。
- 2 番目の行は、エラー (エラー・コード TB03) を示し、その後にエラー記述があります。
- 最後の行は、エラー・ログ・レコードの内容がある場所を示します。この例では、VSE/ICCF ライブラリー 2 のメンバー DTRMSG に入っています。

表 10 は、メンバー DTRMSG として保管されているエラー・ログ・レコードのレイアウトを示しています。このレイアウトを使用してエラー・ログ・レコードを分析してください。

表 10. エラー・ログ・レコードの形式

フィールドの説明	レコード位置	フィールド名
現行サービスの名前	1 から 8	UCASERV
呼び出し側機能の名前	10 から 17	UCAFUNCT
呼び出し側機能の行番号	18 から 21	UCAERLNO
エラーを検出したルーチンの名前。	23 から 30	UCAERRTN
ダイアログ・マネージャーで固有のエラー・コード。	32 から 35	UCAERCD
現在の表示パネル行番号、またはモジュール内の 16 進オフセット。	37 から 39	UCAERCL
現在の表示パネル列番号。	40 から 41	UCAERCC
メッセージに関連した情報。例えば、変数値、変数名、メッセージ識別	43 から 50	UCAERVV
エラーのある現行ファイル・レコード番号。	51 から 54	UCAERCR
対話式サブシステムのエラー・コード。	56 から 59	UCAERSYS
エラーのあるファイルのファイル名	61 から 68	UCAERFN
エラーのあるファイルのファイル・タイプ	70 から 77	UCAERFT
ファイル・モード	79 から 80	UCAERFM

コード 説明

- CL01 再帰呼び出し。プログラムが自分自身を呼び出そうとした。
- CL02 呼び出し先プログラムが検出されなかった。
- DP01 表示サービスの呼び出しが無効。
- DP02 パネル表示要求が行われたが、パネル・ファイル (または、パネル・ファイル内の有効なヘッダー・レコード) を検出できなかった。エラーのあるパネル・ファイルの名前がフィールド UCAERFN に入っています。
- DP03 出力構築中に、無効なパネル・ファイル形式が検出された。画面用に構築されている行と列はフィールド UCAERCL と UCAERCC に入っています。フィールド UCAERCR は現行レコード番号を指します。
- DP04 変数を機能ルーチンからパネルに置換していたときのエラー。エラーのある変数値はフィールド UCAERVV に入っています。
- DP05 MOREINFO 同義語のために同義語テーブルを処理していたときのエラー。
- DP06 パネルをデコードしていたときのエラー。
- DP07 パネルを分析していたときのエラー。
- FO01 説明パネルの現行ページのページ番号が数値でない。
- FO02 説明パネルの最終ページのページ番号が数値でない。
- FO03 方向レコードを読み取ろうとしていたときに、パネル・ファイルでファイルの終わりが検出された。
- FO04 方向レコード不在条件の後、現行レコード・ポインターをリセットしようとしていたときに、パネル・ファイルでファイルの終わりが検出された。
- FO05 完全なパネルが構築される前に、パネル・ファイルでファイルの終わりが検出された。
- FO06 作成された出力行が、画面に表示するには長すぎる。
- FO07 説明レコードの検索後、現行レコード・ポインターをリセットしようとしていたときに、パネル・ファイルでファイルの終わりが検出された。
- FO08 メニュー選択項目の最大数 (16) を超えた。
- FO09 ライト・ペン検出可能フィールドのフィールド構造が無効。
- FO10 構文違反。高輝度フィールドの先頭文字がブランクである。
- FO11 テキスト・フィールド内の変数名が 8 文字を超えている。
- FO12 構文違反。属性バイトが無効。
- FO13 単一パネル上のデータ入力フィールドの最大数 (80) を超えた。
- FO14 予約済み。
- FO15 非 EXEC2 変数の長さ指定が数値でないか、1 より小さいか、または 8 より大きい。
- FO16 データ入力フィールド内の変数名が 8 文字を超えている。
- FO17 無効な区切り文字が検出された。
- FO18 単一非トークン化データ入力パネル上の UENTRY フィールドの最大数 (16) を超えた。
- FO19 予約済み。
- FO20 シフトアウト文字の後にシフトイン文字がない。
- FO21 シフトアウト文字とシフトイン文字 (2 バイト文字ストリングを囲む) の間にあるバイトの数が奇数である。
- FO22 示された位置で、有効な DBCS 範囲内でない 2 バイト文字が検出された。
- FO23 示された位置にあるシフトイン文字の前に、対応するシフトアウト文字がない。
- FO24 各国語開始区切り文字の後に終了区切り文字がない。
- FO25 各国語文字ストリングに無効文字がある。

- FO26** 各国語開始区切り文字の後で、終了区切り文字が検出されずに、次の開始区切り文字が検出された。
- FO27** 示された位置にある各国語終了区切り文字の前に、開始区切り文字がない。
- FO28** シフトアウト/シフトイン文字を含んでいるパネルを表示できない。使用中の表示装置のタイプは 2 バイト文字混合フィールドをサポートしていない。
- FT01** 予約済み。
- FT02** 出力作業ファイルが SKEDIT で初期化されていない。
- FT03** SKINCL または)IM ステートメントによって指定されたファイルが存在しない。
- FT04**)ENDSEL が検出されたが、対応する)SEL がない。
- FT05** 生成された出力レコードが長すぎる。
- FT06** 無効な制御ワードを指定した制御ステートメントが検出された。
- FT07** 無効なパラメーターを指定した制御ステートメントが検出された。
- FT08** 無効な変数名が検出された。
- FT09** 3 を超える)IM レベルが検出された。
- FT10** 8 を超える)SEL レベルが検出された。
- FT11** 桁 72 に ? がある入力レコードの後で入力ファイルの終わりが検出された。すなわち、継続レコードが欠落している。
- FT12** 条件付き置換ストリングで構文エラーが検出された。
- FT13** 正しくないパラメーター・リストがファイル調整サービス・ルーチンに渡された。
- FT14** 入力ファイル開始時に存在した)SEL ブロックとは異なる)SEL ブロックで入力ファイルが終了した。
- FT15** 入力ファイル開始時に存在した)DOT ブロックとは異なる)DOT ブロックで入力ファイルが終了した。
- FT16** 対応する)SEL が現れた入力ファイルとは異なる入力ファイルで)ENDSEL が検出された。
- FT17** 対応する)SEL が現れた)DOT ブロックとは異なる)DOT ブロックで)ENDSEL が検出された。
- FT18** 4 を超える)DOT レベルが検出された。
- FT19**)ENDDOT が検出されたが、対応する)DOT がない。
- FT20** 対応する)DOT が現れた)IM ファイルとは異なる)IM ファイルで)ENDDOT が検出された。
- FT21** 対応する)DOT が現れた)SEL ブロックとは異なる)SEL ブロックで)ENDDOT が検出された。
- FT22**)DOT ステートメントに指定されたテーブルが存在しない。
- FT23** 無効な関係演算子が)SEL ステートメント中に検出された。
- FT24** 無効なブール演算子が)SEL ステートメント中に検出された。
- FT25** 無効なオペランドが)SET または)VASSGN ステートメント中に検出された。
- FT26**)DOT ステートメントによりテーブルを再帰的に処理しようとした。
- GV01** 変数が機能ルーチン内で検出されなかった。
- IC01** モジュール DTRDDMSW で、内部 VSE/ICCF ライブラリー切り替え要求に対する VSE/ICCF 応答が予期しないものであったか、または欠落していた。

- フィールド UCAERCL に保管されている 3 バイト (位置 37 から 39) に、デバッグ情報 (DTRDDMSW 内のオフセット) が入っています。これを保管してください。
- IC02** モジュール DTRDDMSW で、内部 /CONNECT OFF 要求に対する ICCF 応答が予期しないものであったか、または欠落していた。
- フィールド UCAERCL に保管されている 3 バイト (位置 37 から 39) に、デバッグ情報 (DTRDDMSW 内のオフセット) が入っています。これを保管してください。
- IC03** モジュール DTRDDMSW で、内部 /SHOW USER 要求に対する VSE/ICCF 応答が予期しないものであったか、または欠落していた。
- フィールド UCAERCL に保管されている 3 バイト (位置 37 から 39) に、デバッグ情報 (DTRDDMSW 内のオフセット) が入っています。これを保管してください。
- IO01** VSE/ICCF の場合:
- DTRDDMIO 内の論理エラー。フィールド UCAERCL に、DTRDDMIO 内での 16 進数の変位が入っています。
- IO02** VSE/ICCF の場合:
- ファイルが存在しないか、オープンされていない。これはダイアログ論理エラーです。
- IO03** ファイルが入力用にオープンされていない (書き込み後の読み取り)。
- IO04** ファイル名が無効。
- IO05** サポートされない直接読み取り/書き込み。
- IO06** ファイルが出力用にオープンされていない (読み取り後の書き込み、または共通オープン)。
- IO07** 圧縮ファイル形式が無効。
- IO08** GETVIS が失敗した。
- IO09** FREEVIS が失敗した。
- IO10** ディレクトリーがいっぱい。このエラーは、エラー・ログの書き込み中に発生すると、DM08 ダイアログ・マネージャーの異常終了を引き起こします。
- IO11** ファイルがいっぱい。このエラーは、DM08 ダイアログ・マネージャーの異常終了を引き起こします。
- IO12** 処理開始時に存在しなかったファイルが、現在、存在する。これは、おそらく、サブライブラリーを並行して更新する複数のユーザーがいることが原因です。これは許されていません。
- IO13** オープン・ファイルがディレクトリー項目を持っていない。これは、おそらく、サブライブラリーを並行して更新する複数のユーザーがいることが原因です。これは許されていません。
- IO14** VSE/ICCF 「更新中」(UPIP) ビットがオンである。
- IO15** セキュリティ違反。
- IO16** DTSLMACC GETVIS が失敗した。
- IO17** 重複オープン (同じファイルが 2 回オープンされた)。
- IO18** コマンド /SET COMLIB OFF が失敗した。
- IO19** コマンド /CONNECT ...が失敗した。
- IO20** DTSLPRC からの不当な戻りコード。このエラーは、エラー・ログ・バ

ツファァーに IOnn 項目がすでに入っている場合は、DM09 ダイアログ・マネージャーの異常終了を引き起こします。これにより、再帰的エラー・ロギングが防止されます。

LE01 呼び出しシーケンスが無効。

MG01

SETMSG ルーチンに対する呼び出しシーケンスが無効。

MG02

メッセージ・ファイルが存在しない。

MG03

メッセージ・レコードが存在しない。

MG04

完了したメッセージ・テキストが 70 文字を超えている。メッセージ・テキスト内のアンパーサンド (&) の数より多いパラメーターが渡されたことが原因である可能性もあります。

MG05

メッセージ・レコードの読み取りが無効です。

MG06

SETMSG ルーチン内のリカバリー不能な論理エラー。

MG07

メッセージ終結標識が欠落していることが DTRSETMG によって検出された。

MG08

順序の正しくないシフトイン文字がメッセージ・テキスト内で検出された。

MG09

順序の正しくないシフトアウト文字がメッセージ・テキスト内で検出された。

MG10

メッセージ・テキスト内でシフトイン文字が欠落している。

MN01

SETMENU サービスに対する呼び出しシーケンスが無効。

OP01

オプション・ファイルの処理中にエラーが検出された。エラーのあるレコード番号はフィールド UCAERCR に入っています。ダイアログ・マネージャーは終了します。

OP02

テスト・オプション用の入力ファイルが検出されなかった。ダイアログ・マネージャーは終了します。

OP03

初期パネル・ファイルの読み取り中にエラーが検出されたか、ファイルが見つからない。ダイアログ・マネージャーは終了します。

OP04

DTR\$DTBL または DTR\$OPT ファイルが検出されなかった。ダイアログ・マネージャーは終了します。

OP05

変数が DTR\$DTBL 内で検出されなかった。このエラーは必ず、ダイアログ・マネージャーの異常終了を引き起こします。

以下の変数を DTR\$DTBL 同義語テーブル内に定義する必要があります。

@YES、@NO、@END、@OPSYS、および @RELIPF。

DTR\$DTBL はメンバー DTR\$OPT から指されます。これらの変数を事前定義しておかないと、ダイアログを実行できません。通常、このエラー・コードが発生したときは、DTR\$DTBL はバックレベル・バージョンを表しています。

- したがって、DTR\$DTBL と DTR\$OPT を 1 次ライブラリーから削除してください (または手動で更新してください)。
- PF01 SETPF サービスに渡されたパラメーター・リストが短すぎる。
 - PF02 パネル・タイプが SETPF サービスによってサポートされない。
 - PF03 SETPF サービス用の変数が変数プール内で検出されなかった。
 - PF04 SETPF サービス用の変数を変数プール内に設定できない。
 - PF05 PF キーが SETPF サービスによってサポートされない。
 - PF06 同義語テーブル検索指数が同義語テーブル内で検出されなかった。
 - SC01 コンソールが利用不能か、または切断されている (初期状態)。
 - SC02 コンソールがもう使用可能でない。
 - SC03 COPY 機能エラー。
 - SC10 入力バッファ長が無効。
 - SC11 GETVIS/FREEVIS 要求が失敗した。
 - SM01 サービス・マネージャーの呼び出しが無効。パラメーターの数が最大数 18 を超えた。
 - SM02 要求されたサービスは、有効なダイアログ・マネージャー・サービスでない。無効なサービスはフィールド UCASERV に記録されています。
 - SP01 特殊変数が同義語テーブル内で検出されなかった。この変数はフィールド UCAERVV に記録されています。ダイアログ・マネージャーは終了します。
 - ST01 仮想記憶不足。対話区画が、処理中のテーブルに対して十分な大きさでない。対話区画を大きくしてください。
 - ST02 仮想記憶の解放中のエラー。
 - SV01 変数を設定できない。このエラーは、アセンブラの実行中に、変数オーバーフロー域がいっぱいの場合に発生します。
 - SV02 変数名が予約名である。これを設定することはできません。
 - TB01 20 のテーブルがすでに処理されている。別のテーブルを処理するためのスペースがない。
 - TB02 無効なテーブル名がパラメーターとしてテーブル処理サービス・ルーチンに渡された。
 - TB03 テーブルを処理のために準備していたときに、無効な記述子行が読み取られた。
 - TB04 テーブルを処理のために準備していたときに、無効なデータ行が読み取られた。
 - TB05 テーブルを処理のために準備していたときに、無効な変数名が検出された。
 - TB06 テーブルが存在しない。
 - TB07 指定されたテーブルは TEDIT サービスを出さなかった。
 - TB08 正しくないパラメーター・リストがテーブル処理サービス・ルーチンに渡された。
 - TB09 予約済み。
 - TB10 無効な記述子の値が TCREATE サービスに対して指定された。
 - TB11 無効なスキップ・パラメーターが TSKIP サービスに対して指定された。
 - XX01 算術ステートメントのオペランドが無効。
 - XX02 算術演算の結果が無効。
 - XX03 SUBSTR 要求における長さまたは索引が無効。
 - XX04 変数を検出できなかった。
 - XX05 モジュール DTSCLPRC のロード中のエラー。
 - XX06 ROUND に対する値が無効。

- XX07** 丸め後の値が大きすぎる。
- XX08** 添え字変数が無効であるか、または配列次元を超えている。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料は、IBM から他の言語でも提供されている可能性があります。ただし、これを入力するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive, MD-NC119
Armonk, NY 10504-1785
US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向性および指針に関する記述は、予告なく変更または撤回される場合があります。これらは目標および目的を提示するものにすぎません。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、名前や住所が類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

プログラミング・インターフェース情報

本書には、プログラムを作成するユーザーが z/VSE のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用される条件

IBM Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

アクセシビリティ

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーがソフトウェア・プロダクトを快適に使用できるようにサポートします。 z/VSE のアクセシビリティの主要機能により、ユーザーは以下のことができるようになります。

- 画面読み上げ機能および画面拡大機能などの支援機能の使用
- キーボードのみを使用して、特定の機能または画面を使用したのと同等の機能を実行
- 色、コントラスト、フォント・サイズなど表示属性のカスタマイズ

支援機能の使用

画面読み上げ機能などの支援機能は、z/VSE のユーザー・インターフェースを使用して機能します。 この支援機能を使用して z/VSE インターフェースにアクセスする場合、その特定情報については支援機能の資料を参照してください。

資料の形式

本製品の資料は、Adobe Portable Document Format (PDF) で提供され、アクセシビリティ標準に準拠しています。 PDF ファイルの使用に問題があり、Web ベース形式の資料を必要とする場合は、s390id@de.ibm.com 宛てに E メールを送信するか、または下記の宛先まで書面でご請求ください。

IBM Deutschland Research & Development GmbH
Department 3282
Schoenaicher Strasse 220
D-71032 Boeblingen
Federal Republic of Germany

この請求には必ず、資料番号および表題を付記してください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。



プログラム番号: 5686-VS6

Printed in Japan

SC43-2940-01



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21